ENCYCLOPAEDIA JUPITER



世界文化大百科事典

ENCYCLOPAEDIA JUPITER

11

ラファ—ワンリ
索引



世界文化社



世界文化大百科事典
《ジュピター》

11

全11巻セット現金価格(定価)78,000円

発行所	株式会社世界文化社 東京都千代田区九段北4-2-29 Tel(262)5111(代表) 〒102
発行者	鈴 木 勤
編 集	株式会社世界文化社 株式会社 日本アートセンター
印 刷	株式会社東京印書館
製 本	中央精版印刷株式会社
製 函	文京紙器株式会社
用 紙	神崎製紙株式会社 王子製紙株式会社 駿河製紙株式会社
表 紙	ダイニック株式会社

Printed in Japan 8211

凡　　例

この《世界文化大百科事典　ジュピター》は，現代生活のあらゆる分野にわたって必要な項目約70,000を収録した。そして，項目の解説は，その記述内容が的確・敏速に把握できるよう，つとめて簡明・平易なものとしたが，各分野の基本的事項や現代社会における重要問題については特に約300の〈特別大項目〉を設け，一般項目との関連を保ちながら歴史的・体系的に解説し，総括的な理解が得られるようにしてある。また，カラー版による写真・図版約16,000点を全ページにわたって掲載し，内容の端的な理解に役だつようにした。

項目の見出し

1　各ページに収録されている項目を，そのページの上方欄外に示してある。偶数ページには最初の項目，奇数ページには最後の項目の，それぞれ第4音節めまでをかたかなで示した。ただし，促音〈っ〉・拗音〈ゃ〉〈ゅ〉〈ょ〉などの小字および濁音・半濁音は正音で示し，長音〈ー〉は除いた。

東　　京──→**トウキヨ**
ヨーロッパ──→**ヨロツハ**

2　項目の見出しは，〈かな見出し〉と〈本見出し〉とを示した。

かな見出し　　本見出し
げんじものがたり　【源氏物語】
エヌエイチケー　［NHK］
インキ　［ink］

1）国語読みおよびそれに準ずるものは，現代かなづかいによってひらがなの太字で示した。ただし，現代かなづかいの理解のうえで困難が予想される一部のものについては，〈見よ項目〉を立てて検索の便を図った。

ぬまず　【沼津**】**　⇨ぬまづ

2）外国語・外来語はかたかなの太字で示した。長音は〈ー〉で示し，〈ヴァ〉〈ヴィ〉〈ヴ〉〈ヴェ〉〈ヴォ〉〈ヂ〉〈ヅ〉は用いない。

ベートーベン　（ベートーヴェンとはしない）
ベネチア　（ヴェネチアとはしない）

ただし，外来語の意識が薄れて国語化されたものはひらがなで示した。

らしゃ　【羅紗**】**
らっぱ　【喇叭**】**

3）地名で，日本の行政区画および外国の国名・地域名，山・川・湖・砂漠などの名称のかな見出しは，検索の便を図って関連する項目を近くに集めるために固有名詞部分のみを示した。

おおさか　【大阪(府)**】**
おおさか　【大阪(市)**】**
ミシシッピ(州)
ミシシッピ(川)

4）中国・朝鮮の地名・人名は，原則として日本で慣用されている国語読みで示し，現地読みを本見出しのあとに併記した。

かほくしょう　【河北省**】**　ホーペイ省
ふざん　【釜山**】**　プサン
もうたくとう　【毛沢東**】**　マオツォートン

ただし，国内で現地読みが慣用されているものおよび国際慣用読みのものはそれに従った。

シャンハイ　【上海**】**
ペキン　【北京**】**
メイランファン　【梅蘭芳**】**

5）本見出しでは，かな見出しのひらがなの部分を代表的な漢字または漢字かな混じりで示し，外国語・外来語は原語のつづりを示した。

いれずみ　【入れ墨**】**　刺青・文身とも書く。
ウイスキー　［whisky］

ただし，原語のつづりでイタリック体は，植物を属名として取り上げた場合を示す。

アロエ　［*Aloe*］

項目の配列

1　かな見出しの五十音順に配列し，清音➔濁音➔半濁音の順とした。

{ **しんくう　【**真空**】**
{ **しんぐう　【**新宮(市)**】**
{ **じんぐう　【**神宮**】**

{ **はい　【**肺**】**
{ **ばい　【**蛽**】**
{ **パイ**　［pie］

2　促音・拗音などの小字は直音より前に配列した。

{ **じゅう　【**銃**】**
{ **じゆう　【**自由**】**

3　長音の〈ー〉は音順から除外したが，同格の場合は長音のあるほうをあとにした。

{ **あへん**　【阿片】
　アーヘン　［Aachen］

4　同音のものは次の順とした。

a）見よ項目➔解説のある項目

{ **あか**　【赤】　⇨色
　あか　【垢】

b）普通名詞➔固有名詞

{ **じゅんし**　【殉死】
　じゅんし　【荀子】

c）固有名詞では地名➔人名

d）町名などで同音の場合は北から南への順

e）人名などで同音の場合は生年の早い順

特別大項目

〈特別大項目〉はページを改め，各ページの上下にけい線を入れて一般項目と区別した。したがって，五十音順による項目配列の当該の位置には，その特別大項目のあるページ数を示した。

大項目の例

うちゅう

宇　　宙

すべての天体とそれを含む全空間，いいかえれば物質・エネルギーが存在する……

用字用語

1　かなづかいは，歴史的かなづかいで示す必要のある場合を除き，すべて現代かなづかいを用いた。

2　送りがなは，原則として《送りがなのつけ方》(1959年内閣告示)によった。

3　漢字は，原則として《当用漢字音訓表》の範囲で用いた。ただし，固有名詞・歴史的用語・術語などは当用漢字以外のものも用い，（　）の中にその読み方をひらがなで示した。

4　生物の科名・種名および岩石・鉱物・元素・化合物などのうち，教科書・専門書でかたかなの表記が慣用になっているものは，それにならった。ただし，生活語として成語化されている語はかたかなの表記を用いない。

5　年代は，原則として西暦で示した。ただし，国内に関する記述の場合は，その項目の初出の箇所に年号を併記した。

6　外国地名の表記は，原則として文部省編《地名の呼び方と書き方》によった。人名も地名に準じた。

7　外国語・外来語の表記については，〈項目の見出し〉に準じた。

人口統計の数値

1　日本の都道府県市町村の人口は，自治省行政局編《昭和55年版住民基本台帳に基づく全国人口世帯数表》によった。ただし，10,000以上の場合は100の位で，10,000以下の場合は10の位で四捨五入した。

2　都道府県市の産業三大別人口比(農林水産業などの第1次産業，鉱業・建設業・製造業などの第2次産業，商業・金融業・運輸業・サービス業などの第3次産業の人口の割合)は，総理府統計局編《昭和45年国勢調査報告》によった。

3　外国およびその地域・主要都市の人口は，主として国際連合編《人口統計年鑑1972年版》によったが，他の資料によって補ったところも多い。

地　　図

1　日本の都道府県と8地方，世界の独立国と6大州には多色刷り地図を設け，また日本の大都市や国立公園などには観光の便などを図って考案した地図が設けてある。

2　地図の記号は一般の地図記号に準じているが，都市記号の人口による段階は各図に凡例がつけてある。

3　都道府県と独立国の地図の地貌表現は，等高線段彩で示した。しかし，全貌をとらえやすくするために等高線示度を図によって変えてあり，その数値は各図中の等高線上に記入してある。

4　地図中の地名の表記は，本文の地名表記の基準に従っ

た。

符号・記号

解説文中に用いた，おもな符号・記号は次のとおりである。

⇨　指示した項目にこの項目の解説があることを示す。

かんさいべん　【関西弁】 ⇨方言
しょせき　【書籍】 ⇨図書
サイン ⇨正弦
ジンフイズ ⇨カクテル

→ ➔　解説文中または末尾につけて，参照・関連項目を示す。

抽象主義(→アブストラクト-アート)は，
従来の漢方(→東洋医学)を背景としたもの
あいいろ　【藍色】 ……(解説)……。➔色

*　解説文中の用語の右肩につけて，その語が項目として別に立てられていることを示す。

あんざんがん　【安山岩】 中性の火山岩*。
いほうじん　【異邦人】 カミュ*の小説。

〔 〕〈 〉解説文中に中見出し・小見出しを施し，解説内容の整理を図ったことを示す。

アイヌの場合
〔名称・歴史〕
〔生活〕
〔衣食〕
〔住居〕
〔風俗習慣〕
〔音楽〕
貨幣の場合
〔種類〕
〔制度〕
〔歴史〕〈西洋〉〈中国〉〈日本〉

〈 〉　引用文または強調する語であることを示す。

日本国憲法第9条に〈日本国民は，正義と ……
戦没者の塔や〈ひめゆりの塔〉などがあり， ……

《 》　書名・曲名・題名を示す。

《日本書紀》
《カルメン》

( )　語句の言い替え・補足説明や，年号の併記などを示す。

病変米(黄変米)
燃料ガス(都市ガス)
慶長年間(1596～1614)
1872年(明治5)

( )　読みがなであることを示す。

石川啄木(たくぼく)
伊豆(いず)半島
香港(ホンコン)

科学記号・略符号

本事典では，次の範囲で単位記号・略符号を用いた。ただし，必要に応じてこれら以外のものも用いた。

mμ	ミリミクロン	cal	カロリー
μ	ミクロン	Cal	大カロリー(栄養学で)
mm	ミリメートル	℃	セ氏温度
cm	センチメートル	°K	絶対温度
m	メートル	A	アンペア
km	キロメートル	V	ボルト
cm^2	平方センチメートル	W	ワット
m^2	平方メートル	kW	キロワット
km^2	平方キロメートル	kWh	キロワット時
cm^3	立方センチメートル	km/秒(分，時)	速さ
m^3	立方メートル	%	パーセント
cc	1/1000リットル	‰	パーミル
ml	ミリリットル	ppm	ピーピーエム
l	リットル	mmHg	水銀柱ミリメートル
g	グラム	pH	ピーエイチ
kg	キログラム	° ′ ″	度・分・秒(角度・緯度・経度)
t	トン		

装丁　田中一光

特別大項目目次　第11巻

ら ふぁ

ラ-ファイエット ［Marquis de La Fayette］（1757～1834） フランスの軍人・政治家。名門の貴族の出。16歳で将校となり，19歳でアメリカ独立戦争に参加し，ワシントンと協力，戦功をたてて独立軍の陸軍少将に任命された。1789年貴族身分として三部会に選出され，自由主義貴族として活躍，国民衛兵の司令官となり，さらに国民議会で〈人権宣言〉を起草した。その後フイヤン派を結成して立憲王政を主張し，ジャコバン派と対立した。八月十日事件後，王の救助を企図したが果たさず，オーストリア軍に投降した。ブリュメール十八日*以後帰国し，帝政時代を経て，王政復古期に自由主義政党を率いて活動，七月革命*には国民衛兵司令官となり，ルイ-フィリップ*の立憲王政成立に貢献した。〔喜多迅鷹〕

ラ-ファイエットふじん ［ラ-ファイエット夫人］（1634～1693） フランスの女流作家。本名マリ-マドレーヌ-ラ-ファイエット。小貴族の家に生まれ，ラ-ファイエット伯爵に嫁した。早くから才女として知られ，社交界で人気を博し，みずからサロンを主宰，セビニェ夫人・ラ-ロシュフコー*などの文人と親交を結んだ。代表作《クレーブの奥方*》は，当時の遊戯的恋愛小説を脱し，人間の魂の真実の探究へと心理小説の道を開いた傑作。ほかに《タンド伯爵夫人》などがある。〔小松英輔〕

ラファエルぜんぱ ［ラファエル前派］ 19世紀の中ごろ，イギリスに興った美術革新運動の一集団。1848年に当時の空疎なアカデミズムに反逆するミレース（1829～1896），ロセッティ*，ハント（1827～1910）ら7人の青年作家によって結成され，自然の綿密な研究と健全な技術の習得を共通の目標としつつ，〈ラファエロ*以前〉のイタリア画家のような醇朴敬虔（じゅんぼくけいけん）な表現に復帰することを主張した。そして，この一派の周辺には，ブラウン（1821～1891）やバーン-ジョーンズ*・モリス*・ラスキン*らの多彩な共鳴者を集めたが，実際には装飾的で華美な細密描写と，浪漫性を強調する文学的作品が生まれるばかりで，集団活動としてもきわめて短期間で終わった。しかし，この派の運動が沈滞したイギリス画壇に大きな刺激を与え，その後の発展に貢献したことや，ここからモリスらの独特な工芸運動が興ったことなどは見落とせない。〔富山秀男〕

ラファエロ ［Raffaello Sanzio］（1483～1520） イタリアの画家・建築家。父によって初期の美術的教育を受け，父の死後はペルジーノのアトリエで働いた。彼はきわめて早熟な才能を発揮し，10代から驚異的な完成度の高い作品を次々に発表した。フィレンツェにおもむいて，レオナルド-ダ-ビンチとミケランジェロの作風を徹底的に研究し，それらを巧みに自己の画風にとり入れて，前二者とともにルネサンスを代表する大画家としての地歩を築いた。天才的な素描力をもち，色彩の情緒的な表現力を知りぬき，冷徹な人間観察者であった彼は，当時最ももてはやされた画家であり，ためにジュリオ-ロマーノなどとの共作が多くなり，後年の作品には完成度の低いものもみられる。サン-ピエトロ大聖堂の建築主任をも兼ねたが，37歳で夭折（ようせつ）した。代表作には《アテネの学堂》《シストの聖母》などがある。〔吉田玲子〕

ラファルグ ［Paul Lafargue］（1842～1911） フランスの社会主義者。プルードンの影響下で社会主義運動にはいり，のちロンドンに渡ってマルクスと知り合い，彼の次女ラウラと結婚した。パリ-コンミューンに活躍し，その失敗のため一時スペインに亡命したが，1881年にはフランス労働党を創設した。下院議員もつとめ，マルクス・エンゲルスの著書のフランス語訳に努めたが，夫人とともに自殺。著書《所有権，その起源と発展》などがある。〔仲村計美〕

ラブアン（島） ［Labuan］ 東南アジア，ボルネオ島の北西方，ブルネイ湾の入り口にある島。マレーシア領。面積約90km²。人口約9,000。高温多雨で，米・ゴム・サゴヤシ・コプラ・果実を産する。1846年イギリスがブルネイの土侯から買収した。



ラファエロ《システィンのマドンナ》1516ごろ ドレスデン美術館蔵



ラブカ

ラフォルグ ［Jules Laforgue］（1860～1887） フランスの詩人。純真な感性ととぎすまされた知性で近代の憂愁を歌った，象徴派の特異な存在であった。詩集に《なげきぶし》《最期の詩》などがあり，特に後者は自由律を採用して近代詩の先駆となった。また散文《伝説寓話（ぐうわ）集》中の《ハムレット》は，近代のハムレットたる作者による巧妙なパロディとして著名。

ラ-フォレット ［Robert Marion La Follette］（1855～1925） アメリカの進歩的政治家。ウィスコンシン州の生まれ。苦学して弁護士となり，1885年共和党上院議員となり，1901～1905年ウィスコンシン州知事として鉄道課税・予備選挙・労働災害補償など〈ウィスコンシン-アイディア〉なる進歩的諸立法を制定，革新主義の一翼をになった。1906年から連邦上院議員として党内革新派を指導したが，党幹部との意見の差は大きく，1911年革新共和連盟を結成，しかし病で革新党候補をT.ルーズベルトに譲った。第1次世界大戦への参加，国際連盟への加入には反対し，1924年選挙には革新党を結成，水力発電，鉄道の公有，資源の公共管理などを公約して出馬したが敗れた。〔折井一彦〕

ラ-フォンテーヌ ［Jean de La Fontaine］（1621～1695） フランスの詩人。モリエール*・ボワロー*・ラシーヌ*とともに，17世紀の古典主義全盛期を代表する。北フランスに生まれ，故郷で官吏生活を送っていたが1658年にパリに出，大蔵卿（おおくらきょう）フーケ・オルレアン大公妃・ラ-サブリエール夫人らの庇護（ひご）のもとに文学に専念。韻文の《コント集》ののち，《寓話詩*（ぐうわし）》第1集で文名を高めた。さらに《寓話詩》第2・第3集を書き続け，約30年にわたって書きあげたこの240編に及ぶ寓話詩によって，普遍的な人間像を描出，古典主義詩人の第一人者となった。〔小松英輔〕

らぶか ［羅鱶］ 軟骨魚類・ラブカ科。体長2mに達する海産魚。体は細長く暗かっ色で，頭部は縦扁（じゅうへん）し，尾部は側扁する。口が体下面にある普通のサメ類とは異なり，頭の前端にある。外鰓孔（がいさいこう）は6対あり，鰓弁の一部が鰓孔外に現われる。相模（さがみ）湾およびその近海，ノルウェー沖からアフリカ西北部，カリフォルニア沖の深海に分布する。卵胎生で，晩春から初夏の生殖期に，まれにはえなわにかかることがある。

ラプソディー ［rhapsody］ 狂詩曲と訳される。この語は，古代ギリシアでホメロスの叙事詩を語る人々に由来するが，音楽用語としては，18世紀末から，声楽・器楽の双方で，ソナタや組曲のような明確な形をもっていない楽曲に用いられた。ゲーテ

の《冬のハルツ紀行》を歌とピアノの曲にしたライヒャルトもこの名でよんでいる。19世紀以降，民族的な要素と名人芸が加わって，リストのピアノ独奏曲《ハンガリー狂詩曲》が生まれ，管弦楽用の作品はエネスコ・ラベル・ガーシュインらにある。〔徳丸吉彦〕

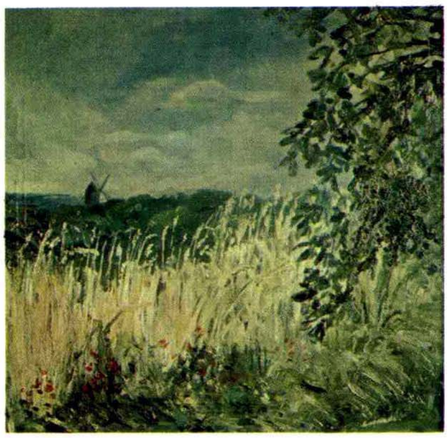
ラフタ [LAFTA] ⇨ラテンアメリカ自由貿易連合

ラフマニノフ [Sergei Vasil'evich Rakhmaninov] (1873～1943) ロシアの作曲家・ピアニスト。ノブゴロド県の地主の家に生まれる。ペテルブルグ音楽院，次いでモスクワ音楽院に入学し，1891年にピアノ科，翌年に作曲科を卒業。ピアノ協奏曲第2番(1901)によって作曲家としての地位を確立するとともに，演奏家としてはロシアだけではなくヨーロッパ各地，さらにアメリカでも名声を博した。1917年には十月革命をのがれてパリに亡命し，その後アメリカに永住した。彼はそのリリシズムと旋律性とによって，いわゆるモスクワ派，特にチャイコフスキーの伝統を受け継ぎ，20世紀におけるロマン派的作曲家となっている。また当時，最も卓越したピアニストのひとりであり，そのビルトゥオーゾ的側面は，彼の作品にも反映している。作品としては，交響曲3曲，ピアノ協奏曲4曲，《パガニーニの主題による狂詩曲》，交響詩《死の島》，ピアノ曲・歌曲など多数がある。〔寺田兼文〕

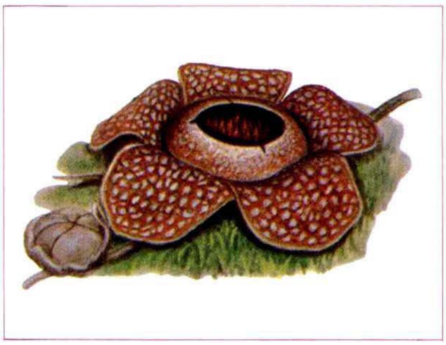
ラプラス [Pierre Simon Laplace] (1749～1827) フランスの数学者・天文学者。ノルマンジーの貧農の家に生まれた。幼時より異常な才能を発揮し，ダランベールに認められてパリに出，1771年陸軍士官学校教授となる。のちエコール-ノルマル・エコール-ポリテクニク教授を歴任。ナポレオン1世時代は内相となり，王制復帰後侯爵となった。解析学に長じ，遊星運動・潮汐(ちょうせき)運動など天体の運行の諸研究にこれを導入，天体力学に一段階を画した。また〈カント-ラプラスの星雲説〉を展開して太陽系の生成を考察した。その著書《天体力学》(1799)は天体力学の古典として知られる。数学では確率論・微分方程式を研究する一方ガウスに先んじて誤差法則を樹立し，確率論の応用を試みた。また測地学などの業績もある。〔下平和夫〕

ラプラタ [La Plata] アルゼンチン東部，ラプラタ川河口にある港市。人口50万6,000(1970)。河川・外洋両航路の連絡点であるとともに，後背地の農畜産物の輸出港でもある。アンデス山麓(さんろく)の油田から運ばれた原油の精製を行なうほか，農畜産加工も盛ん。1882年に建設され，1884年創立の大学や天文台・博物館などがある。

ラプラタ(川) [La Plata] 南アメリカ南部，アルゼンチンとウルグアイの国境をなす川。パラナ川とウルグアイ川が合流して，ラプラタ川となる。約350kmの長さをもつが，川幅は河口で200kmをこえる。水深は，上流から流れてくる泥(どろ)のために一般に浅く，河口でも20m前後である。沿岸には，両国の首都で港市のモンテビデオとブエノスアイレスがある。



ラプラード《麦畑》パリ市立近代美術館蔵



ラフレシア　ラフレシア-アーノルディ

ラプラード [Pierre Laprade] (1875～1932) フランスの画家・版画家。ボナール・ビヤールらとともに，身近な生活のようすを情愛をこめて描くいわゆる〈アンティミスト〉のひとり。イタリアにしばしば旅行し，数多くの水彩画を制作。ありふれた日常生活の光景を淡い色調で詩情をもって描き出した。

ラブラドル(半島) [Labrador] カナダ東部にある半島。東は大西洋，北はハドソン海峡を隔ててバフィン島に対し，西はハドソン湾に臨む。面積約130万km²。カナダ楯状地*(たてじょうち)の安定陸塊の一部で，中央部は波状のラブラドル高原をなし，片麻岩など古い岩石が広く分布している。洪積(こうせき)世には大氷河におおわれ，その侵食作用でできた湖沼・沼沢地が多く，東部海岸にはフィヨルド*が発達している。寒冷な気候から，一帯にはツンドラと原生針葉樹林が広がっている。主産業は漁業と毛皮獣狩猟など。半島はケベック州とニューファンドランド州に分属している。〔長津一郎〕

ラブラドル(海流) [Labrador] 北大西洋北西部，グリーンランドとバフィン島にはさまれたバフィン湾に発し，南流してニューファンドランド島沖で，北上するメキシコ湾流(暖流)と交会し，その下に潜流する寒流。ニューファンドランド島付近ではタラを中心とする世界の大漁場をなすが，春から初夏にかけては北から氷山を運び，また海霧を発生させ，ヨーロッパ・アメリカ航路の船や漁船の難所になっている。

ラ-ブリュイエール [Jean de La Bruyère] (1645～1696) フランスのモラリスト・著述家。収税官・弁護士などを経て，大コンデ公の孫ブルボン公の教育係となり，宮廷に出入りして大貴族たちの生活をつぶさに観察。その成果が主著《人さまざま》であり，生き生きとした人物描写や社会批判と的確な文体のゆえに好評を博した。

ラブレー [François Rabelais] (1494ごろ～1553ごろ) フランスの小説家。弁護士の家に生まれ，はじめ修道士になったが，哲学・神学・法律・医学を学んだのち，リヨンの市立病院づきの医師となった。エラスムス*・ビュデ*を継ぐユマニスト(人文主義者)であり，《パンタグリュエル物語*》《ガルガンチュア物語*》の二大連作によって，モンテーニュ*とともに16世紀フランス-ルネサンスを代表する文学者となった。はじめ変名で書き始めたこの二大傑作は，その反社会性によって教会から追及を受けることもあったが，滑稽(こっけい)物語の中に当時の社会と制度のゆがみや腐敗を鋭く批判し，人間の自由と善意を力強く肯定して，その後のフランス文学に多大な影響を及ぼした。〔泉　邦寿〕

ラフレシア [*Raffresia*] 双子葉植物・ラフレシア科。ヤッコソウ*に近いもので，世界に約60種あるが，特に有名なのはマレー群島に分布するラフレシア-アーノルディで，ふつうラフレシアといえばこれをさす。葉はなく，他の植物の根や茎に寄生する。雌雄異株で，花の直径が1～1.2mと花の中では最も大きく，肉厚の花弁は4～5枚あり，赤かっ色の突起がある。花は腐肉のような悪臭がある。1818年イギリスのアーノルドによってスマトラ島で発見され，島の知事であったラッフルスによって記録された。

ラーベ [Wilhelm Raabe] (1831～1910) ドイツの小説家。人道的・民主的人がらと写実的描写力・ユーモアに恵まれ，1856年発表の《雀(すずめ)小路年代記》によって認められた。観念的ブルジョア意識と資本主義社会の矛盾を問題とし，その活路としてのユーモアを描いて成功。佳作《森の人びと》がそれで，その他《飢餓牧師》《黒いガレー船》などが著名。

ラベソン-モリアン [Jean Gaspard Félix Lacher Ravaisson-Mollien] (1813～1900) フランスの哲学者。唯心論的実在論の創始者で，メーヌ-ド-ビラン*の流れをくむ。ミュンヘンで自然と精神の緊密な結合をテーマとするシェリングの講義を聞

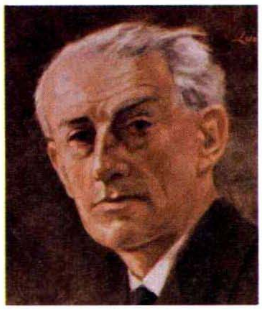
き示唆を受けた。有名な《習慣論》は，習慣というありふれた事実のうちに精神と物質の連続をとらえようとしたもので，そこに見いだされる自然は盲目的・機械的ではなく，自由と結合している自然である。〔飯塚勝久〕

ラベル ［Maurice Joseph Ravel］（1875～1937） フランスの作曲家。技師の父とバスク地方出身の母の間に，スペイン国境近くのピレネーに生まれたが，生後3か月でパリに移った。音楽愛好家であった父は，はじめから子どもを音楽家にしようと思い，7歳でピアノを，12歳で作曲を学ばせた。1889年14歳でパリ音楽院に入学し，ピアノをベリオに，作曲をジョルダジュとフォーレに師事し，本格的な音楽家の道を歩みはじめた。このパリ音楽院の伝統的な教育法は，ラベルに決定的な影響を与え，彼は生涯(しょうがい)きわめて伝統的で古典主義的な音楽の世界を追求することになる。音楽院に在学中から彼の名はしだいに楽壇に知られるようになったが，しかしアカデミックな音楽院の長老たちからはなかなか認められず，ローマ大賞コンクールに何度も応募したが，大賞を獲得するまでにはいかなかった。しかし彼は，サティ*・ドビュッシー*やロシアの〈五人組*〉から多大な影響を受けながら，独自の作風を樹立していった。そして，おもにスペインを題材にした諸作品，すなわち《ハバネラ》(1895)，《逝(ゆ)ける王女のためのパバーヌ》(1899)，《スペインの時》(1907)で決定的な成功を収めた。以後アメリカやヨーロッパ各地に演奏旅行をしながら作曲活動を続け，生来のラテン的古典主義的資質に基づいた傑作，《鏡》(1905)，《マ-メール-ロワ》(1908)，《ダフニスとクロエ》(1912)，ムソルグスキーのピアノ曲を編曲した《展覧会の絵》(1922)などを発表した。〔船山　隆〕

ラベンダー ［lavender］ 双子葉植物・シソ科。ラワンデルともいう。南ヨーロッパ原産の常緑低木で，高さ1～2m。葉は長さ2～3mの線形で，縁は内側に巻く。若葉には星状毛がある。花は濃青色の唇形(しんけい)花で，茎の先に穂状花序につく。全体に芳香があり，香料植物として栽培される。花穂を水蒸気蒸留して得られる精油をラベンダー油といい，よいかおりがあるので化粧品・高級せっけん・ローション・オーデコロンなどの香料として用いられる。

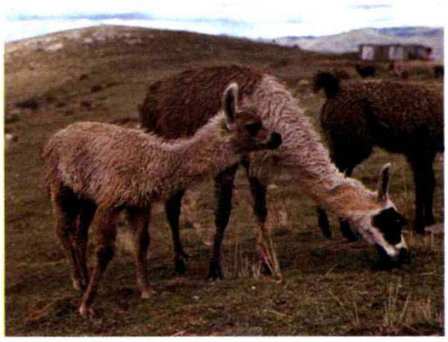
ラベンナ ［Ravenna］ イタリア北東部，ボローニャの東方75km，アドリア海岸より8kmほど内陸にある都市。人口13万2,000(1971)。運河で海に通じ，農産物の集散と肥料・セメント・食品工業が盛ん。古代ローマ時代には海軍基地であり，5～8世紀にはその繁栄はローマ以上であったといわれ，歴史的に名高い。ビザンチン美術が多く残っている町で，サンビターレ聖堂・サンアンドレア聖堂などが名高く，国立美術

ラベル





ラベンダー



ラ　マ

館もある。〔梶川勇作〕

ラボアジエ ［Antoine Laurent Lavoisier］（1743～1794） フランスの化学者で，近代化学の父といわれる。パリに弁護士の子として生まれ，はじめ法律家を志したが，しだいに天文学・数学・化学・植物学・地質学など諸科学を学ぶようになった。1768年科学アカデミー会員となる。1775年には国立火薬工場監督官となって造幣廠(ぞうへいしょう)内に実験所をつくったが，これは科学者たちの参集するところとして有名となった。1772年イオウおよびリンが燃焼して重さを増すことを確認し，1774年にはプリーストリの話からヒントを得て，金属灰は金属と空気中の〈呼吸し得る部分〉との結合によることを実証した。1777年に空気は2種の気体からなることを認め，次いで動物の呼吸と燃焼とはともに酸化現象であることを明らかにして，フロギストン説*を根底から揺るがした。また酸の酸素説を提出し，酸素を一元素と認めて命名し，空気が単体ではないということを明らかにした。そのほか33種の単体の元素表をつくった。さらに1783年水の組成を明らかにして，翌年有機化合物の元素分析法の原理を樹立。1787年にはベルトレらと新しい化学命名法を体系づけた。1788年には糖のアルコール発酵の際の反応生成物の分析から質量保存の法則*を明らかにした。このほかラプラスと共同で比熱・潜熱・反応熱などを測定。1779年から徴税請負人となり，この前歴のために革命政府によって処刑された。〔山下愛子〕

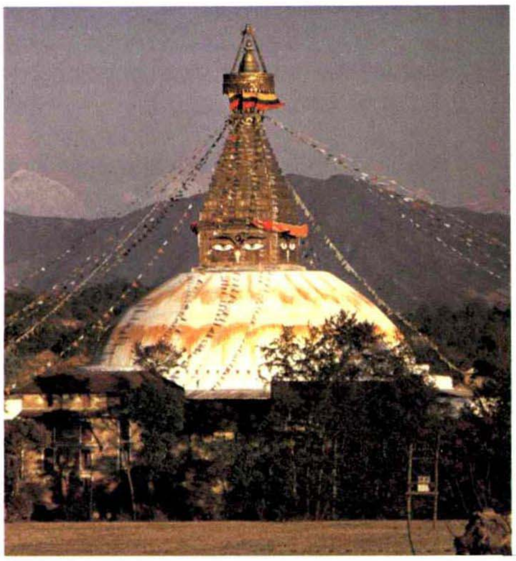
ラ-ボエーム ［La Bohème］ プッチーニ*作曲の4幕のオペラ。ミュルジェの小説に基づきイリーカとジャコーザがイタリア語の台本にまとめ，1896年2月トリノのレッジオ劇場で初演された。物語は1830年ごろのパリのラテン区に住む貧しい芸術家たちの生活を描いたものである。登場人物はミミ(ソプラノ)・ムゼッタ(ソプラノ)・ロドルフォ(テノール)・マルチェロ(バリトン)などで，《トスカ*》《蝶々夫人*》と並ぶ代表作。〔向坂正久〕

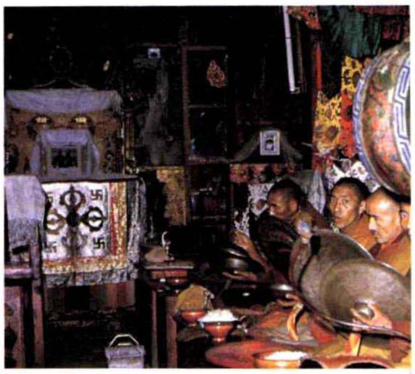
ラボック ［Sir John Lubbock］（1834～1913） イギリスの人類学者・考古学者。旧石器時代と新石器時代をはじめて区別。また旧石器文化理解のために，現存する未開民族との比較という方法を考え出した。博物学に造詣(ぞうけい)が深く，銀行家でもあった。その著《ユース-オブ-ライフ》は人生案内書として有名。

ラホール ［Lahore］ パキスタン北東部の都市。人口214万8,000(1972)。インドとの国境に近く，インダス川支流のラビ川に沿うパキスタン第2の都市である。11世紀ごろからパンジャブ地方の中心都市としてインドにおけるイスラム教の要地となり，ムガール帝国時代には一時その首都となった。市内には壮大なイスラム寺院などの史跡が多い。また付近の平野部で産する小麦・綿花などの農産物の集散地であり，紡織・電機・製材などの工業も行なわれている。〔別技篤彦〕

ラマ ［llama］ 哺乳(ほにゅう)類偶蹄(ぐうてい)目ラクダ科。羊駝とも書く。肩の高さ1.3m以下で，体はふつう白色，あるいは白色の地にかっ色・黒色の斑(まだら)があり，全身黒色のものもある。グアナコを飼いならして家畜としたという説もあり，事実は不明。ペルーで雄は荷物の運搬や乗用にされるが，雌は小さいので乳や肉を利用する。

ラマきょう 【ラマ教】 チベット本土を中心にその周辺諸国・モンゴル・中国西北部に行なわれている大乗仏教の一派。チベット仏教ともいわれる。ラマとはサンスクリット語guru(グル)のチベット語訳で〈上人(しょうにん)〉の意である。チベットではラマは仏・法・僧の三宝と同様に帰敬・絶対視されていたため，異国人により〈ラマの宗教(ラマイズム)〉として紹介されたが，正しくはチベット仏教とよぶべきである。ラマ教の歴史は，8世紀後半にチソンデツェン王





ラ マ 教　(左)ネパールの首都カトマンズのボドナス寺のストゥーパ　(右)ラマ教では読経の際，鈴・銅鑼・ダマル(振鼓)ほか，数多くの楽器が用いられる

がインド系仏教の受容を国是としたことに基礎をおく。王はシャーンタラクシッタなどの高僧を招き，775〜787年にサムエ大寺院を完成させ仏教宣揚の中心殿堂とし，チベット人出家を養成，サンスクリット仏典の訳経事業を組織的に行なった。王の積極的な援助をうけた当時のインド系仏教は，ナーランダ*寺出身のシャーンタラクシッタに代表された顕教と，ウディヤーナ地方から入蔵したパドマサムババに代表された密教*とである。顕教は当時のチベット上層階級にかなり多くの支持者をもっていた禅宗系中国仏教を排除することで，また密教はチベットの土着宗教ボン教の反発を融和した点で歴史的役割を果たしている。この系統のインド密教を母体に発展した仏教をニンマ派(古派ラマ教)という。このように吐蕃*(とばん)王朝時代のチベット仏教は王朝保護下に急速な伸長をみた国家仏教・大伽藍(だいがらん)仏教であるが，受容された仏教思想は上記の２系統が主流であった。この伽藍仏教は９世紀半ばにかけて吐蕃の国富が傾くとともに保護を失い，かえって種々の規制や弾圧をうけるようになり衰微した。846年の王朝崩壊後チベットは群雄による分割国家となったが，仏教は地方勢力を背景に命脈を保って復活する。10世紀半ばから11世紀半ばにかけての代表的地域仏教には，西部にグゲ王朝仏教，東部に唃厮羅(こくしら)王朝仏教などがあった。訳経事業も小規模ながら続けられていた。1042年にはチベット仏教再興の歴史的役割を果たしたアティーシャ*が入蔵して《菩提(ぼだい)道燈論》を著わし，顕密学修と戒律を主体とした仏教を説いた。彼のもとには俊英が蝟集(いしゅう)して僧伽(そうぎゃ)仏教形成の端緒となり宗派仏教時代を画することになった。この一派をカーダムパ派という。一方同時代にはビクラマシーラ寺院系統の密教を継承して帰国したマルパが開宗したカーギュパ派がある。門下からは詩人ミラレパや同派の教学を体系づけたダクポハジェが輩出した。また一方，コン氏族を中心にサキャ寺によった僧団が〈道果教理〉をもって一派を樹立したのがサキャパ派である。これが11〜12世紀に新興した宗派仏教の３主流であるが，カーダムパ派系統から後世ゲールクパ派(→黄教)が，カーギュパ派からカルマパ派・ディグンパ派・タクルンパ派などの多くの分派が，古派ニンマパ派からはシチェパ派などが生まれた。13世紀後半になると元帝フビライの信任をうけたサキャパ派がチベット統治権を元朝からゆだねられ，僧団支配国家へ移行する。しかし，14世紀半ば元朝の衰退と並行してサキャパ派の権勢も退潮し，元朝での国師としての地位をカルマパ派に，またチベット本土での支配者の役割をパクモドゥパ派にとって代わられた。この変革期のラマ教は八大教王の分立した時代であったが，同時に後世ラマ教文化圏で圧倒的勢力となったゲールクパ派の揺籃(ようらん)期であった。同派の開祖ツォンカパ*は青海省に生まれ，各派の教学を修めたのち，1409年にガンデン大寺を建立(こんりゅう)した。彼の教学は戒律の厳守と顕教学修を根幹としたもので，その土台のうえに密教の正調な学修が可能となるとし，二教の学修課程を《菩提道次第論》《真言道次第論》の２著に詳説した。ツォンカパを師としガンデン寺を根本道場とした黄教は，アティーシャ教学を源流とする同系統のカーダムパ派を吸収しながら急速に発展し，その法燈伝承の過程でダライ-ラマ*とパンチェン-ラマ*の二大法王系譜の出現をみた。黄教がモンゴル地域に流布したのは第３代ダライ-ラマのときで，トゥメットのアルタン汗とハルハのアバタイ汗の帰依が契機となったものであるが，さらにアルタン汗の曾孫(ひまご)が第３代ダライ-ラマの転生者であると認定されて第４代ダライ-ラマを襲位するに及び，ゲールクパ派とモンゴルとの関係は決定的なものとなった。17世紀初頭第５代ダライ-ラマ当時に，黄教はチベット西部に割拠し紅帽派*を信奉したツァンパ汗の圧迫をうけ危機にたったが，黄教信者だったホショット部グシ汗の援軍を得て紅帽派を駆逐し，チベットの支配権まで掌中にして，いわゆるダライ-ラマ法王国を樹立した。その後黄教国チベットは清朝(しんちょう)・イギリス領インド・帝政ロシアの緩衝地帯として国際的影響をうけ現代に至ったが，1950年中華人民共和国解放区に吸収され，1959年に第14代ダライ-ラマはインドに亡命した。現在チベット・モンゴルのラマ教は終息状態となり，カシミール東部・ネパール・シッキム・ブータン・インドに存在するだけとなっている。　〔金子良太〕

ラーマクリシュナ　[Rāmakrishna]　(1836〜1886)　インドの宗教改革者。ベンガルの貧しいバラモンの家に生まれた。カーリー女神の崇拝者となり，12年間森林にこもって苦行と瞑想(めいそう)の生活を送り，神との合一体験を得た。シャンカラ派の不二一元論*に依拠して諸宗教の帰一を主張した。彼は終生書物を書かなかったが，その教えは〈ウパニシャッド*〉に含まれている古代インド哲学の神髄と一致するといわれる。高弟ビベーカーナンダ*はのちにラーマクリシュナ-ミッションを創設して，師の教えを世界に広めた。　〔山折哲雄〕

ラマトガン　[Ramat Gan]　イスラエル中部，テルアビブ-ジャファの東方にある都市。人口10万7,000(1968)。テルアビブの衛星都市で，宗教大学・技術学校がある。建築材料・食品加工工業などを行なう。

ラーマーヌジャ　[Rāmānuja]　(1055〜1137)　中世インドにおいてシャンカラ*と並ぶ二大哲学者のひとり。南インドの生まれ。彼の哲学的立場は〈限定一元論〉といわれ，ブラフマン*を唯一無二の存在と認めるが，シャンカラのように無限定の絶対精神とはみなさない。彼のいう神は具体的な属性をもつ実在であり，単なるマーヤー(幻)ではない。神に対する信愛を強調し，憶念と瞑想(めいそう)によって神を直観することを重視するところに，彼の教説の特徴がみられる。　〔山折哲雄〕

ラマピテクス　[Ramapithecus]　1935年，北西インドのシワリクで，ルイスによってはじめて発見されて以来，インド・中国・東アフリカなどで，多数発見された第三紀鮮新世初の霊長類の化石につけられた属名。リーキーによって発見されたケニアピテクスも含む。歯牙(しが)形態学的には，ヒト的な特徴が優勢であって，ヒト科に含めうるとする説が強い。

ラマポ(海淵)　[Ramapo]　伊豆(いず)諸島から小笠原(おがさわら)諸島に至る島列の東側沖にある伊豆-小笠原海溝(かいこう)の最深点。最深度10,680m。伊豆諸島南端の鳥島の東方に位置し，1933年アメリカの軍艦ラマポ号によって発見され，艦名にちなんで

名づけられた。

ラーマーヤナ ［Rāmāyaṇa］〈ラーマの生涯（しょうがい）〉の意。《マハーバーラタ*》と並ぶインドの二大叙事詩の一つで，バールミーキ作と伝えられる。全編は9巻に分かれ，約20,000頌（しょう）を含む。アヨードヤー国の王位を継ぐべき英雄ラーマは，ある呪（のろ）いの実現によって14年間追放されることになるが，その流浪生活の間に，愛妻シーターを魔王ラーバナによって奪われる。そこでラーマは猿王（えんおう）とその大臣ハヌマンの助けを借り，サルの大軍を動員してラーバナを殺し，シーターを奪回してアヨードヤーに帰還して王位につく。このほか全編には数多くの妖怪談（ようかいだん）・奇蹟譚（きせきたん）が織り込まれ，無数の挿話（そうわ）がちりばめられている。ラーマは有徳・敬神・勇気に富む国王の模範，シーターは献身的従順と貞操をそなえる理想的婦人像として描かれている。このラーマの物語はのちにタイやインドネシアの諸地域に伝播（でんぱ）して，民間説話や建築物の中に残された。

〔山折哲雄〕

ラマルク ［Jean Baptiste Pierre Antoine de Monet,chevalier de Lamarck］(1744～1829) フランスの生物学者。進化論の最初の体系的記述者。北フランスのピカルディの生まれ。パリに出て医学と植物学を学び，1778年《フランス植物誌》を出版して名を知られる。のちフランス革命に伴う研究制度の改革とともに，自然史博物館の無脊椎（むせきつい）動物学の教授に就任。《動物哲学》(1809)において進化論を展開，その中で進化の主過程として単純な動物から複雑な動物への変化をあげ，副過程として同程度に複雑な動物間での適応的変異を述べた。彼はこれらの進化過程が，刺激反応系・神経系の機能を通じて，体液が身体の構造を変化させることによって生じるとした。このようなラマルクの主張は，彼自身が開拓者のひとりである海産無脊椎動物の研究，および18世紀フランスの啓蒙（けいもう）思想の影響との関連において理解されるべきであろう。しかし，彼の進化原因論は十分には説得的ではなく，説得的な原因論の提出はダーウィンの手によってはじめて実現された。➔用不用説 〔中村禎里〕

ラ-マルセイエーズ ［La Marseillaise］フランスの国歌・革命的愛国歌。フランス革命中の1792年，干渉戦争の危機が高まった際，ストラスブール市長ディートリヒの依頼で工兵大尉ルージェ-ド-リールが同年4月24日一晩で作詞・作曲したもの。原題は《ライン軍進軍歌》。7月マルセイユ義勇兵たちが道々歌いながらパリにはいったので〈マルセイユの歌〉の意味のこの呼称が普及した。1795年7月15日，国民公会で正式に国歌として採用された。

ラマルチーヌ ［Alphonse de Lamartine］(1790～1869) フランスの詩人。貴族の家に生まれ，幸福な少年時代を送ったのち，イタリアに旅行，数々の精神的な事件にでくわして，その心の動揺を詩に書いた。第1詩集《瞑想（めいそう）詩集》は，孤独な魂の叙情を自然の風物との交渉を通してみずみずしくうたったもので，熱狂的に世に迎えられ，19世紀前半のロマン主義の代表的作品となった。やがて外交官生活を経て，政界に進出。1848年の二月革命には仮政府外務大臣になった。ほかに《続瞑想詩集》や叙事詩《ジョスラン》《天使の堕落》，小説《ジュヌビエーブ》などがある。キリスト教的博愛思想がその本質であったが，新しい叙情詩の時代を切り開いたロマン派の代表者とされている。 〔井上輝夫〕

ラーマン ［Chandrasekhara Venkata Raman］(1888～1970) インドの物理学者。マドラス州立大学に学び，はじめインド大蔵省に勤務したがやがて科学振興協会会員となりカルカッタで物理学を研究。1915年カルカッタ理科大学の創立にあたって物理学教授となった。1928年溶液による光の散乱の研究で〈ラーマン効果*〉を発見，量子論の結論を実証した。この業績により1930年ノーベル物理学賞を受賞。インド科学研究所所長，科学アカデミー会長もつとめた。

ラーマン ［Tengku Abdul Rahman］(1903～) マレーシアの政治家。イギリスに留学し，ケンブリッジ大学卒業，1949年帰国後政治活動を始め，統一マラヤ国民組織総裁となった。1955年統一マラヤ国民組織・マラヤ中国人協会・マラヤ-インド人協会の連合党総裁として選挙に圧勝し，イギリス領マラヤ連邦首相となった。1957年マラヤ連邦として独立後初代首相兼外相。1963年マレーシア連邦の発足とともに首相に就任，1970年9月辞任。 〔吹浦忠正〕

ラーマンこうか 【ラーマン効果】 ある物質に振動数νの光をあてると，その散乱光にνと異なる振動数ν'の光が混ざってくる現象。1928年ラーマンがはじめて見いだしたのでこの名がある。入射光の光子$h\nu$（h: プランク定数*）が物質を励起してΔEのエネルギーを失うと$h\nu-\Delta E$となり，これが$h\nu'$に等しいから，$\nu>\nu'$。逆に物質が励起されていて，光子にエネルギーを与えてより低エネルギーの状態に落ちるときは$\nu<\nu'$となる。ΔEは物質に固有のものであり，またその選択則は量子論的に知られているので，ラーマン効果の研究によって物質の構造を明らかにすることができる。

〔吉原邦夫〕

ラミー ［ramie］ 双子葉植物・イラクサ科。アジア東南部原産の多年草ないし低木で，繊維をとるために古くから栽培された。高さ1～2mで，全草かたい毛におおわれる。葉は長さ14～18cmの広卵形で，長い柄で互生し，裏面に白色の綿毛がある。8～9月，上方の葉腋（ようえき）に雌花穂，下方の葉腋に雄花穂をつける。雄花には4本のおしべ，雌花には1本のめしべがある。苧麻*（ちょま）と同様，その靱皮（じんぴ）繊維を採集して用いる。茎を切りとり，砕茎法・発酵法によって靱皮をとり，ペクチン質・表皮を除去して精製する。単繊維の長さは70～280mmであるが，これが集束して，1～2mの繊維束となる。苧麻と同様に麻織物として用いられる。吸水性があり，冷涼感があるので夏の衣料，テーブルクロス，ハンカチ地などに利用される。 〔小川安朗〕

ラミーかみきり 【ラミー天牛】 こん虫類・鞘翅（しょうし）目・カミキリムシ科。体長8～17mm。体は黒色で，前胸背板の大部分と小楯板（しょうじゅんばん）鞘翅の肩部の小点紋と中央の太い波状紋および翅端部，体の腹面の大部分などは淡緑色。触角は雌雄とも体長よりも長い。前胸背板の両側は丸みをおびる。鞘翅は肩部で最も幅広く，翅端に向かってやや細まる。本州・四国・九州のほか，台湾・中国などに分布し，成虫は5～7月ごろに出現する。幼虫はラミーやムクゲの根株に穿孔（せんこう）加害する。

ラム ［rum］ 甘蔗（かんしょ）のしるまたは甘蔗糖製造のときできる糖蜜を原料とし，アルコールの含量が65～80%と高い蒸留酒。西インド諸島が特産地で，ジャマイカ-ラムは最良という。南アフリカのデメララ-ラム・マルチニック-ラムなどが有名。複雑な味と特殊なかおりがあり，スポンジケーキなどの洋菓子にも用いられる。

ラム ［Charles Lamb］(1775～1834) イギリスの随筆家。ロンドンの生まれ。貧困のため学業を中断，16歳で商事会社に勤め，翌年東インド会社にはいり，50歳まで会計係として勤務。学校時代の友人コールリッジ*との交友を一生続け，文学書を耽読（たんどく）するとともに，文筆をとった。1796年に姉メアリーが錯乱して母を刺殺したため，みずからも精神異常の恐怖におびえ，姉との生活の中，生涯（しょうがい）を独身で通した。正気にもどった姉との共著《シェークスピア物語*》は，児童文学の名著として名高い。代表作は《エリア随筆*》で，洗練された感受性と透徹した知性にささえられた名文は，世界文学における随筆文学の絶品とされる。

〔長崎勇一〕

ラムジェット-エンジン ⇨ジェット-エンジン

ラムゼー ［William Ramsay］(1852～1916) イギリスの化学者。グラスゴーの生まれ。グラスゴー・ゲッチンゲン大学に学ぶ。1887年ロンドン大学教授。化学量論に対する諸定律を発見し，また，アルゴン・ネオン・クリプトン・キセノンなど空気中の希ガス類*の諸元素を発見し，さらに周期律における0族の位置を決定。その後放射能の研究を行なって，放射性元素崩壊説を提唱。1904年ノーベル化学賞を受賞。

ラムダ-ロケット ［λ-rocket］ 東京大

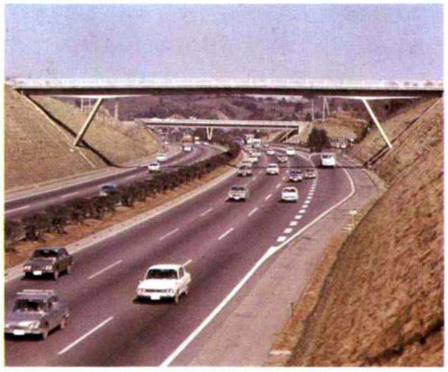
学生産技術研究所(その後ロケット部門は東京大学宇宙航空研究所に移る)が，カッパ-ロケット*に次いで開発した観測ロケット。カッパ-ロケットをつけた2段ロケットであるラムダ2型は1963年(昭和38)仰角78°で410kmの高さに昇り，2段のカッパ-ロケットをつけた3段ロケットのラムダ3型は，1966年1,800kmの高さに達した。3型は1段目の直径73.5cm，全長19.2m，重さ7t，推力は約40tである。

ラムネ　わが国で古くからつくられている炭酸飲料の一種。その語源はレモネードの転訛(てんか)といわれ，サイダーと本質的な違いはないが，独特のびんに詰められている。1860年(万延1)にイギリス船によって長崎にはじめて持ち込まれ，明治の初期には神戸(こうべ)で商業的に製造が行なわれ，1890年(明治23)東京本所の洋水社で玉ラムネの大量製造が始められ，東京全市に売り出された。現在なおかなりの生産量があり，子どもや昔をなつかしむ人々により飲用されている。〔斎藤　進〕

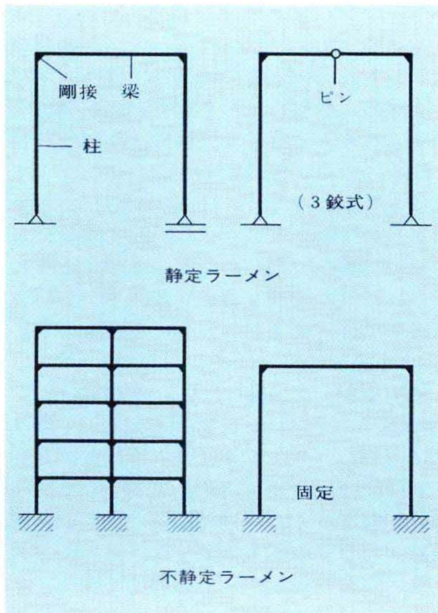
ラメ　[lamé]　金銀糸・切箔(きりはく)を織り込んだ織物やレース・メリヤスなどの総称。原義は〈金属箔で飾られた〉の意。金銀糸は，絹糸・化繊糸をしんとして，これに金銀の箔をらせん状に巻き付けたもの。切箔とは，金・銀・スズ・アルミニウムなどの箔を細長く切って糸状にしたものである。これらを模様にしたがって織り込み，光輝のある文様を現わす。帯地・綴織*(つづれおり)衣装・ドレス・袋物などの高級な製品として用いられる。〔小川安朗〕

ラーメス(2世)　[Rames]　(?～BC1224ごろ)　ラムセス・ラメセスともいう。古代エジプト第19王朝の王。エジプト帝国の再建者。在位BC1290ごろ～BC1224年ごろ。パレスチナを再征服してアジア植民地の部分的回復に成功した。しかし，ヒッタイト王ムワタリシュとのカデシュの戦いには決定的勝利を得られず，北シリアの回復は失敗に終わった。のちアッシリアの進出に対抗するためヒッタイトと平和条約を締結，その王女と結婚して同盟関係を強化した。北東デルタに新都ラムセス市を建設，国内のいたるところに大建築を営んだが，中でも王の葬祭殿であるラメセウムおよびカルナク神殿*の大列柱室とアブシンベル神殿*はいまなお当時の壮麗さをとどめている。〔屋形禎亮〕

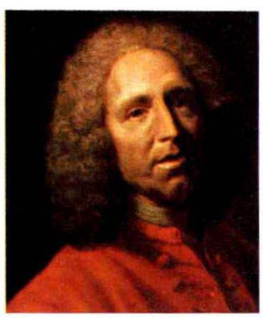
ラ-メトリ　[Julien Offroy de La Mettrie]　(1709～1751)　フランスの医学者・哲学者。フランス唯物論の代表者のひとり。絹商人の子としてブルターニュのサン-マローに生まれた。はじめパリで神学を学んだが，医学に関心をもち，さらにライデンで当時の有名な医者に師事した。1742年フランス王室親衛隊軍医となる。しかし1745年，《霊魂の自然誌》を出版するや，その唯物論的・反宗教的思想のために圧迫され，一時



ラーメン橋　高速道路を越えるのによく使われる。東名高速道路(横浜付近)



ラーメン構造



ラモー　ディジョン美術館蔵

ライデンにのがれた。やがてフリードリヒ2世*に招かれて終生仕えた。主著《人間機械論》はデカルトの動物機械説を人間にまで徹底させたものである。〔石井忠厚〕

ラーメン　⇨中華そば

ラーメンきょう　【ラーメン橋】　本体がラーメン構造になっている橋。同じスパン(支点間の間隔)を渡すなら桁橋(けたばし)よりもラーメン橋のほうが桁高が低くてすむので，立体交差などで橋下の空間を高くとりたい場合などに有利である。力学的性質はアーチと似ているが外観は直線材が多いので軽快であり，高速道路をまたぐ高架橋などにはプレストレストコンクリートのラーメン橋が多数見受けられる。お茶の水橋(東京都)は美しい鋼製ラーメン橋として有名である。〔堀井健一郎〕

ラーメンこうぞう　【ラーメン構造】　骨組み構造の一。部材と部材を完全に一体となるよう接合し，曲げる力(曲げモーメント)などを，他の材に伝えるようにつくった構造である。鉄筋コンクリート造は，形わくにコンクリートを流し込んで固めてつくられるので，部材と部材とは自然に一体となりラーメン構造になる。鉄骨構造でも，特に部材間の接合を厳重にすればラーメン構造になる。木構造では，梁(はり)・柱の接合を完全にできないので，方杖(ほうづえ)などで接合を補強しなければラーメン構造とはならない。ラーメン構造はトラス構造*に比較して，必ずしも力学的にはすぐれていないが，梁・柱が一体構造となり，内部の空間を自由にとることができるため，ビル建築などに多く利用されている。ラーメン構造を梁として用いた場合は，フィレンデール桁(けた)といい，一部の橋の構築に使われている。〔桜井譲爾〕

ラモー　[Jean Philippe Rameau]　(1683～1764)　フランスの作曲家。ディジョンのサン-ベニーニュ聖堂のオルガン奏者の家に生まれた。はじめはイエズス会のもとで学校教育を受けたが，その後音楽家の道を選ぶことを決心し，イタリアやフランスの各地を旅行した。1700年から1722年までの約20年間をこうした旅行に費やし，各地のオルガン奏者などをつとめるかたわら，作曲と理論の二つの分野で着実な修業を重ねた。1722年には著書《和声学》をパリで出版し，このことがきっかけとなって，翌1723年から死の年までパリに定住した。この時期のラモーの活動は文字どおり精力的なもので，音楽理論の著述，クラブサン(→ハープシコード)の教授，オルガン奏者としての演奏，オペラの作曲といくつかの分野できわめて重要な業績を残した。1745年には，ルイ15世によって王室作曲家に任命されている。1752年からは，有名なオペラ論争に巻き込まれ，百科全書派たちを相手どって，イタリア-オペラに対するフランス-オペラの優位を主張した。この論争は数年間続いたが，ラモーは論争に積極的に加わりながら，同時に実践の場で勝負しようといくつかのオペラを作曲した。彼はクラブサン曲や室内楽の分野でも重要な作品を残しているが，最もすぐれた作品はオペラの分野にあるといってよい。オペラの代表作は，《イポリトとアリシ》(1733)，《カストールとポリュクス》(1737)など。〔船山　隆〕

ラーモアのさいさうんどう　【ラーモアの歳差運動】　中心力の下で電子などの荷電粒子が磁場の作用を受けて行なう歳差運動。原子内の電子は原子核を中心に回転運

動をしており，これに磁場Hをかけると電子の回転運動の法線OLは磁場の方向の軸の回りに傾きの角度θ，磁場の強さに比例した角速度で回転する。これは，1899年イギリスの物理学者ラーモア(1857～1942)の導いた定理〈磁場の作用を受けた荷電粒子の運動は，ラーモアの角速度で回転している座標系に立ってみれば，磁場のないときの運動と同一になる〉によって説明される。一般に回転運動をしている物体に偶力が作用すると回転運動体は歳差運動を行なうが，磁場の中に置かれた電子のような荷電粒子はそのスピンあるいは回転による角運動量に比例した磁気モーメントをもち，この磁気モーメントが磁場と作用して偶力が生じ，歳差運動を行なう。1905年フランスの物理学者ランジュバン(1872～1946)は，物質の反磁性が原子内電子のラーモアの歳差運動に基づいて説明できることを示した。以上は古典力学に基づく理解であるが，量子論的にも同様に説明できる。ただし，この場合はθが連続的な値をとりえず，不連続な値となる。〔中野藤生〕

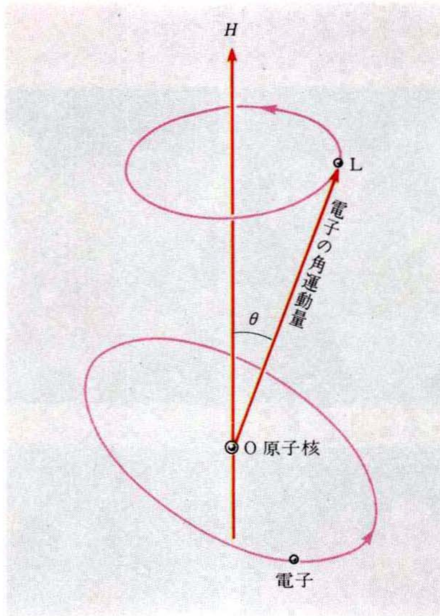
らもん【羅文】 羅は薄い絹織物の称で，これに細かい地文を入れて織る。それで，中国では非常に細かい線の文様を羅文といった。すずりに細微な線状の文様のあるものを羅文硯(けん)，細かいすだれ目の薄い上質紙を羅文紙という。

ラーユ【辣油】 調味ごま油。ごま油に赤トウガラシを入れて弱火でゆっくり熱し，トウガラシの辛みを油に移したもの。香辛料として，中国料理のいため物・酢の物やギョーザのたれなどに用いられる。

らよう【裸蛹】 こん虫のさなぎにみられる一型。軟顎蛹(なんがくよう)とよばれるさなぎの大顎(おおあご)が硬化してない種類のうちで，触角・翅(はね)・肢(あし)も硬化せず，また皮膚全体の硬化の程度が弱いものである。このため乾燥や光線の照射に抵抗力がなく，土中や巣あるいは繭の中にいる，鞘翅(しょうし)目・撚翅(てんし)目・隠翅目・膜翅目などのさなぎがこの裸蛹に属している。裸蛹に対する語が被蛹で，これは体表が硬化しているもので，鱗翅(りんし)目などにみられる。

ララ［Agustín Lara］(1900～1970) メキシコの作曲家。ベラクルス州の生まれ。独学でピアニストとなり，1930年代はじめ，作曲家として並ぶもののない名声を博した。作品は1,000曲あまりあるが，特に有名なものは《グラナダ》《ソラメンテ-ウナ-ベス》《ロンダの夜》《ムヘール》《南国の夜》《ローサ》《ラ-クンバンチャ》など。メロディーは叙情的でメキシコ的感情にあふれ，世界的によく知られている。

ラルゴ［largo］〈幅広い〉を意味するイタリア語で，音楽用語としては，17世紀以来，ゆっくりしたテンポとして，特にサラバンド*ふうの3拍子の曲によく用いられている。なお，ヘンデルの《ラルゴ》として



ラーモアの歳差運動

知られている曲はオペラ《クセルクセス(セルセ)》のアリアを編曲したものである。

ラルボー［Valery Larbaud］(1881～1957) フランスの小説家。少年のころからスペイン・イタリア・イギリス・ロシアなどを旅行し，コスモポリタン的作家としての素質を深めた。代表作《A.O.バルナボートの日記》では青年の精神が新鮮な感覚のもとに描かれ，また《フェルミナ-マルケス》や短編集《子供ごころ》では少年少女の心が陰影豊かに表現されている。外国語に精通し，ジョイス*の紹介者としても著名。

ラロ［Edouard Lalo］(1823～1892) スペイン系のフランスの作曲家。生地リールの音楽院で学んだのち，パリ音楽院に入学。1845年ごろから作曲活動を始め，歌曲や室内楽曲などを書いたが認められず，1855年からは四重奏団のビオラ奏者をつとめた。1865年ごろから再び作曲を始め，オペラ《フィエスク》を書いた。彼が作曲家として成功を博しはじめるのは，このオペラからの編曲《ディベルティスマン》(1872)によってである。1874年および1875年サラサーテ*によって初演されたバイオリン協奏曲ヘ長調と《スペイン交響曲》は彼の名を高めた。彼の音楽は，深みのあるものとはいえないが，異国情緒と巧みなオーケストレーションによった色彩豊かな作品となっている。代表作は他にオペラ《イスの王様》，バレエ《ナムナ》などがある。〔寺田兼文〕

ラロシェル［La Rochelle］フランス西部，ビスケー湾岸の港市。人口73,000(1968)。14世紀からフランス最大の港湾の一つにあげられ，特にカナダとの往来で栄えたが，18世紀後半から衰退した。いまは大形船は1891年に開かれた西方のラパリスの港に着く。16世紀後半には新教徒の拠点であった。歴史の古い建物がよく残っている。化学・造船・水産加工の工場がある。

ラ-ロシュフコー［François de La Rochefoucauld］(1613～1680) フランスのモラリスト。名門貴族の出身の軍人で，フロンドの乱では反軍の指揮をとり重傷を負って引退。後半生はセビニェ夫人・ラファイエット夫人*らのサロンに出入りして，人間の心理の微細をとらえた人間性批判の書《箴言録(しんげんろく)》を1665～1678年に発表して，17世紀モラリスト文学を代表する存在となった。この書は，みずからの波乱に富んだ前半生の経験に基づくもので，あらゆる人間の美徳はエゴイズムから発するという思想が基調となっていて，格調高いフランス語とともに，後代の文学者・思想家に多大の影響を与えた。〔小松英輔〕

ラワルピンジ［Rawalpindi］ パキスタン北部にある都市。人口34万3,000(1961)。ヒマラヤの山地からインダス平原へ抜ける位置にあり，14世紀ごろから発展した都市で，パンジャブ地方北部の戦略・交通上の要点となっている。小麦・トウモロコシ・羊毛・木材その他の取引が盛んであり，付近では油田も開発されている。パキスタンの新首都イスラマバードは，ここに北接する地域に建設された。

ラワン［lauan］ フィリピンに産するフタバガキ科の樹木のうち，パラショレア属・ペンタクメ属・ショレア属に属し，しかも軽軟なまたはやや重硬な木材を産するような種の総称。常緑高木で，中には高さ70m，直径2mに達するようなものもある。葉は鋸歯(きょし)がなく，互生する。果実はふつう5枚の翼をもつが，そのうち3枚が長い。また，側根の背面が肥大膨隆して平板状となって地上に露出する板根が発達するものが多い。ラワンの木材は色調によって区別され，レッドラワン類(赤色ないし濃赤かっ色の木材のもので，レッドラワン・タンギールなどが含まれる)，ホワイトラワン類(淡色ないし桃色の木材のもので，ホワイトラワン・バクチカン・マヤピス・アルモンなどが含まれる)，イエローラワン類(淡黄白色の木材のもので，マンガシノロなどが含まれる)に分けられる。木材は特別に高級ではないが，家具材・建築材などとして広く用いられる。〔須藤彰司〕

らん【蘭】 単子葉植物・ラン科。この科には600以上の属と，1,500以上の種が含まれ，特徴ある花容によって識別は容易である。世界各地に分布するが，熱帯・亜熱帯に特に多く85%を産し，両極地や砂漠(さばく)には自生を見ない。日本にもフウラン・シラン・マメラン・エビネ・クマガイソウ・セッコク・カキラン(スズラン)・オニノヤガラ・サギソウ・ハクサンチドリなど数多くのラン科植物が自生する。これらのうちオニノヤガラは寄生植物で，葉緑素を欠く。ランは習性によって，着生ラン(樹の幹や枝に着生するもので，熱帯産のランに多い)

ラ　ン


①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

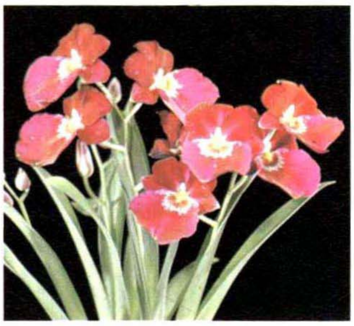
⑧

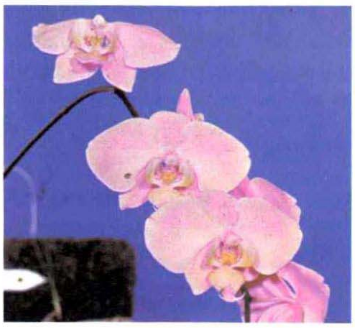
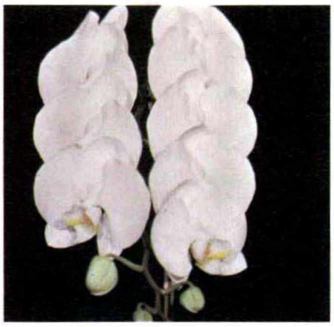
⑨

⑩

⑪

⑫

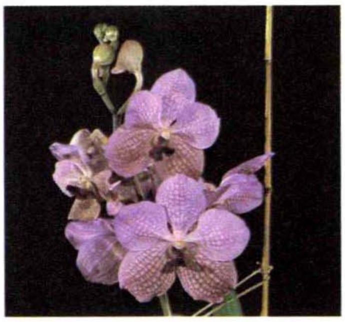
⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

⑲

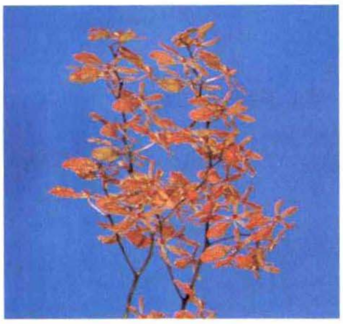
⑳


㉑


㉒


㉓


㉔


㉕


㉖


㉗


㉘

洋ラン

①ブラソレリオカトレアーハーリクウィン ②カトレアーサンダーーリーフ ③カトレアープリンセスーベルー“バレンタイン” ④カトレアーネリーーロバート×レリアカトレアーローラインーシライ ⑤レリアカトレアーエドガーーオムラー“フカザワ” ⑥ソフロレリアカトレアーカオシャンー“フォルモサールビー” ⑦ソフロレリアカトレアーマリカーノ ⑧ソフロカトレアーアトレウス×レリアールベッセンス(原種)ーアルバ ⑨パフィオペディルムーロールライト×パフィオペディルムーライタ ⑩パフィオペディルムーレディークルナス “ベタ” ⑪パフィオペディルムーシアーラインー“ロンド” ⑫パフィオペディルムーレボーディアナム ⑬ミルトニアーパンドラ×ピカディリー ⑭ミルトニアームラートークィーン×ウッドーランド ⑮ミルトニアースーザンーリーン×J.M.ブラック ⑯ファレノプシスーアリサン ⑰ファレノプシスーサーフライダー×グレイスーパーム ⑱ファレノプシスードリーンー“コダマ” ⑲バンダーセルレア(原種) ⑳バンダージョセフィンーバンーブレロ×C.S.フィッシャー ㉑バンダーロスチャイルディアナ ㉒アングレカムースコッティアナム(原種) ㉓アングレカムービッチー ㉔オンシジウムーケーロフォラム(原種) ㉕レナンテラーブルーキーーチャンドラー ㉖デンドロビウムーホワイトキングーNo.1 ㉗エピデンドラムースタンフォルディアナム(原種) ㉘オンシジウムーノナ

東洋ラン


シュンラン


ピアナンシュンラン


白花ベニラン


ベニラン


ガンゼキラン


イトラン


フウラン


セッコク

と，地生ラン(樹下の土や岩陰などに自生するもので，温帯産のランに多い)に分ける。また，取り扱い上，東洋ランと，洋ランとに分けることもある。

【来歴】①東洋ラン：いわゆる蘭蕙(らんけい)(東洋原産のシンビジウム)と風蘭(アングレカム属)，石斛(せっこく)(デンドロビウム属)を総称したものであるが，中国原産の種類が多く，中国ではすでに宋(そう)の時代に盛んに栽培され，ランに関する著書もある。《金漳(きんしょう)蘭譜》《王氏蘭譜》がそれで，その後，明(みん)を経て清(しん)の時代(1616～1911)の如皐冒襄巣の《蘭言》には〈一幹一花で香のあるものを蘭，一幹数花で香の足りないものを蕙という〉とある。日本では《花壇地錦抄》(1695)には蘭類を土蔵または穴蔵に入れるとあり，《草木奇品家雅見》(1827)には金龍辺(きんりゅうへん)の名があり，《草木図説》(1832)に記載がある。このころセッコクやミヤマウズラも流行した。近年東洋ランの栽培は復興した。種類には，シュンラン(春蘭)・ホウサイラン(報歳蘭)・キンリョウヘン(金稜辺)・コラン(小蘭)・メラン(雌蘭)・ソシンラン(素心蘭)・カンラン(寒蘭)・ホウラン(鳳蘭)・フウラン(風蘭)・セッコク(石斛)など。②洋ラン：洋ランの栽培は比較的新しく，1732年にはじめてイギリスで熱帯産のランが開花したのに始まる。1818年カトレアとシプリペジウムが紹介され，1825年には180種の熱帯ランが栽培された。1856年はじめてランの交雑が行なわれ，1840年ラン菌が発見され，1922年無菌発芽に成功した。1960年にはシンビジウムの生長点培養に成功した。日本の洋ラン栽培は明治初年から始まり，第2次世界大戦後急激に普及した。種類としては，カトレア・パフィオペディルム・シンビジウム・デンドロビウム・バンダ・ファレノプシス・ミルトニア・ジゴペタラム・エピデンドラム・ブラッサボラ・ソフロニチスなどやその交雑種がある。

【栽培】繁殖は株分けによるが，近年無菌発芽による実生や，生長点培養が盛んに行なわれている。栽培法は種類によって異なり，比較的高温を要するもの(カトレアなど)と，低温でよいもの(シンビジウムなど)とある。〔小林　清〕

らん　【卵】　卵子ともいう。雌雄の配偶子のうちで，形態的にはっきり区別することができ，小形で運動性のあるほうを精子または精虫というのに対し，大形で不活動的な雌性の配偶子を卵という。動物の卵は精子に見られるほど形態が特殊化しておらず，球形・楕円(だえん)形またはそれに近い形である。一般には，卵という語は非常に広い意味の状態で使用されているのが普通であるが，これを正確に取り扱うならば，次のようないくつかの状態のものを区別することができる。①卵形成(または卵子形成)：後生動物の場合に卵巣内で卵原細胞から成熟卵が形成される過程で，特に第一卵母細胞・第二卵母細胞・成熟卵などの別がある。②母体の中にある位置による区別で，卵巣卵・体腔(たいこう)卵などをいう。③受精に関連した状態で，受精卵・未受精卵などである。これらのほかに広義に卵細胞およびそれを包む卵膜を総称することもある。さらに，生理的・生態的状態を基準として，耐久卵(冬卵)，夏卵，浮性卵(水の表層に浮遊する卵で海産魚のイワシ・マダイなどにみられる)，沈性卵(水底に沈む卵でおもに硬骨魚のうち，淡水魚の大部分と海水魚のニシンなどにみられる)，複合卵(大多数の渦虫(うずむし)類や吸虫類・条虫類のように，1個の卵殻(らんかく)内に卵細胞と卵黄細胞がはいっているもの)，単一卵(渦虫類の三岐腸類にみられる卵細胞の中に卵黄が含まれているもの)，閉鎖卵(孵化(ふか)するまで酸素を摂取する以外は外界に依存してない鳥・こん虫など，卵殻が厚い卵膜をもつもの)などに区別することもできる。動物の種類によって，卵黄の量もまちまちであるが，その状態に応じて，無黄卵・僅黄卵・中黄卵・多黄卵というように分けることもできる。また，卵黄の分布状態によって，等黄卵・不等黄卵に分けられる。さらに不等黄卵の場合，卵黄がかたよって存在する位置により，端黄卵・心黄卵に分けられる。卵黄に対して，卵の細胞質は卵質または卵細胞質という。卵には極性があって，それによって卵軸が考えられ，動物極・植物極を想定することができる。一般に卵は運動性のないものであるが，アメーバ運動をするヒドラの卵のようなものもある。卵は精子に比較すればはるかに大形で，動物細胞の中では最大であり，卵黄量の多い鳥卵などでは長径が数センチメートルからダチョウ卵のように16cmほどになるものもある。

被子植物では胚嚢(はいのう)内の卵装置とよばれる細胞群のうち，いちばん大きな細胞が卵細胞である。裸子植物では造卵器内の大きな1細胞であり，コケ植物とシダ植物では造卵器の中にある2個の細胞のうちの下方にある大きな細胞が卵細胞である。〔蒲原春一〕

らんいしゃ　【藍衣社】　中国，蔣介石(しょうかいせき)政権時代の中国国民党内の特務機関。黄埔(こうほ)軍官学校出身者を中心に組織され，蔣介石を社長にいただく秘密機関で，満州事変直後に結成されたといわれる。1930～1940年代を通じて，中国共産党およびその他の反蔣派に対する血なまぐさい弾圧を行ない，蔣支配維持の重要な一支柱となった。

らんおう　【卵黄】　動物の卵の細胞質内に含まれている栄養のための貯蔵物質。カエルのように原形質内に卵黄顆粒(かりゅう)として分散しているものと，鶏卵のように原形質とは別に卵黄球という小球だけが集まって独立した部分となっているものとがある。卵黄の量がほとんどないかごく少ないウニなどのような無黄卵，カエルのように中位の卵黄量を含んでいる中黄卵(卵黄が卵の中央部にあるものをいうこともあるがこれは正確には心黄卵という)，卵黄量の非常に多い多黄卵などに分けることができる。

卵黄の量と分布とによって，初期発生の形式に重大な影響を及ぼすが，それは卵黄の存在が卵割を妨げるからである。卵黄は卵細胞が卵巣内でつくられるときに血管から材料を得てたくわえられ，その化学的性質は動物の種類によって違いがある。〔蒲原春一〕

らんがくことはじめ　【蘭学事始】　回想録。杉田(すぎた)玄白*著。2巻。1815年(文化12)脱稿。玄白が蘭学創始の思い出や蘭学発達のあとをまとめたもので，洋学史上貴重な文献である。ことにドイツのJ.A.クルムスの《解剖図譜》のオランダ語訳《ターヘル-アナトミア》を翻訳し，《解体新書*》として出版した苦心談は有名である。玄白は自筆の草稿を大槻(おおつき)玄沢*に示して訂正を依頼し，玄沢は玄白から伝聞したものと，みずからの見聞を加え，整理して《蘭東事始》と題して玄白に呈した。1869年(明治2)福沢諭吉*が《蘭学事始》と題して木版本として刊行して以来，この名が一般に普及した。〔岡山泰四〕

ランカシャー　[Lancashire]　イギリス，イングランド北西部の州。西はアイリッシュ海，東はペニン山脈を隔ててヨークシャーに対し，北部は山地でカンバーランド・ウェストモーランドに連なり，南は平地でチェシャーに続く。面積は4,864km²で，同国の50分の1であるが，人口は513万で，同国の10分の1が住む。イギリスで最も工業の発達した地域で，マンチェスターやリバプールなど多くの工業都市が並んでいる。古くは羊毛工業地帯であったが，石炭資源と水運に恵まれていたことから産業革命*によって世界的な綿工業地帯となった。世界初の鉄道も1830年マンチェスター～リバプール間に開通した。いまでは綿工業のほか，機械・造船・化学など諸種の工業が行なわれる。南西部は工業都市向けの集約的農業地である。州都はランカスター*。〔梶川勇作〕

ランカスター　[Lancaster]　イギリス，イングランド北西部，ランカシャーの州都。人口約50,000。モアカム湾に臨む小都市であるが，12世紀からの古い都市で，15世紀建造のセントメアリー教会など多くの遺跡が残る。リノリウムの生産が盛ん。1964年創立の大学がある。

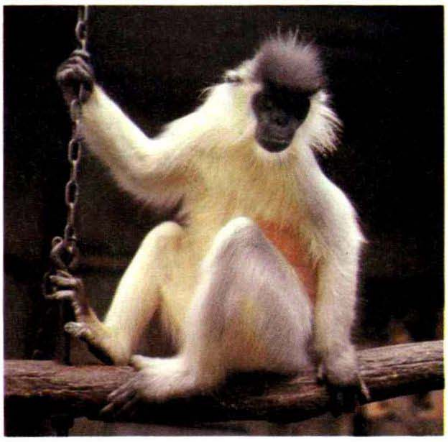
ランカスターけ　【ランカスター家】　イギリスの王家。エドワード3世の第4子ランカスター公ジョンに始まる。そのむすこヘンリーは1399年リチャード2世より王位を奪い，ヘンリー4世*としてランカスター

朝を開始。ヘンリー5世を経て孫のヘンリー6世のとき，ヨーク家のエドワード4世によって王位を奪われた。1470年皇太子エドワードの力によって王位を回復したが，翌年エドワードが戦死，ヘンリー6世自身も死去し，ランカスター家は絶えた。赤バラを家紋とした。〔板橋重夫〕

らんかつ【卵割】 卵分割または分割ともいう。受精した1個の卵細胞(受精卵)に，続いて起こる特別な細胞分裂のこと。卵割の結果できた細胞を割球という。第1回めの卵割が起こって二つの割球となったものを2細胞期，次は4細胞期，8細胞期，16細胞期などと，卵割の最初の時期は割球の数によってよんでいる。卵割が起こるとき，はじめに卵の表面に溝(みぞ)ができるが，これを卵割溝(らんかつこう)といい，みぞが深くなってやがてくびれて卵割したとき，この分裂面を卵割面または分割面という。卵割が進んでたくさんの割球の集まりになるが，胚(はい)全体の大きさには変わりがないので，割球の大きさはだんだん小さくなる。やがて卵の表面がクワの実のように見える桑実期となり，さらに卵割が進むと割球の間に割腔(かっこう)とよばれる腔所ができる。この割腔は発達して胞胚腔となるわけで，この時期の胚が胞胚である。卵割期と胞胚期の区別ははっきりしないが，いちおう胚の中に腔所ができ，胚の表面が割球が小さくなったために平滑になり，上皮のような状態になったころを胞胚期に移ったとしている。卵割は卵黄の存在により，全割(卵割面が卵を完全に分けるもの)・部分割(一部だけ分裂しないところができる)に分けられ，部分割はさらに盤割(胚盤の部分だけ卵割する)・表割(卵表面だけ卵割する)などに区別される。また，卵割の形式として，卵割面の幾何学的な関係に由来して，放射卵割(海綿動物・腔腸動物・棘皮(きょくひ)動物・原索動物・両生類などにみられ，割球が卵軸に対して放射状に配列する)・二相称卵割(クシクラゲのように，二つの相称面が割球の位置について考えられる)・螺旋(らせん)卵割(渦虫(うずむし)類・紐虫(ひもむし)類および頭足類を除く軟体動物などの卵割は卵の主軸に対してうずまきのようによじれて起こる)などがある。〔蒲原春一〕

らんかん【卵管】 排卵によって卵巣から遊離した卵を子宮まで運ぶ管。輸卵管・らっぱ管ともいう。無脊椎(むせきつい)動物では卵巣に直接つながっているが，脊椎動物ではつながっていないために，排卵された卵はいったん腹腔(ふくこう)に落ちてから卵管にはいる。ヒトでは成人で長さ7～15cm，左右1対ある。筋性・繊維性で，子宮の両側にある子宮広間膜のひだの上縁を子宮底から側方に向かって走る。子宮に続くところが最も狭く(卵管峡部)，しだいに広くなって(卵管膨大部)漏斗状となり(卵管漏斗部)，花弁状に腹腔内に開いている(卵管采部(さいふ))。この卵管采部のうち最長の1条は卵巣の卵管端に達しているので卵巣采という。卵巣を破って腹腔に落ちた卵は，繊毛上皮の繊毛運動と卵管筋層の蠕動(ぜんどう)運動によって子宮に送られる。ふつうは卵管内で受精し，分裂しながら子宮に達するが，ときにはこれが卵管内で発育して卵管破裂をみる(→子宮外妊娠)。〔高野一雄〕





ラングールザル　(上)ハヌマンラングール　(下)アッサム地方からビルマの森林に分布するボウシラングール

ランキン［William John Macquorn Rankine］(1820～1872) イギリスの工学者。エジンバラの生まれ。エジンバラ大学で物理学を修め，土木技師を経て，1855年グラスゴー大学の工学教授。蒸気機関におけるランキン-サイクルやボイラーの伝熱に関する理論を発表したほか，《応用力学》(1858)，《蒸気機関便覧》(1859)，《土木工学》(1862)および《造船学》などの多くの工学教科書を著述し，工学の体系化に貢献した。日本の工部大学校はランキンに推薦された新進気鋭の門下生によって確立され，彼の教科書は明治の日本人に広く読まれた。前記《蒸気機関便覧》の邦訳書《蘭均氏汽機学》(1885)は，文部省編集になる機械工学の最重要な教科書となった。〔山崎俊雄〕

ラング［Fritz Lang］(1890～1976) ドイツの映画監督。ウィーンの生まれ。最初，建築家を志した。《ドクトル-マブゼ》《ニーベルンゲン》《メトロポリス》をつくったのち，1933年ナチスからのがれてアメリカに移住，多くの作品を発表。運命と罪にとらえられた人間がその作品に共通したテーマといわれるが，他方，画面の構築的な美，緊密な構成，的確なカメラの動きが，確固とした様式をつくり出している。

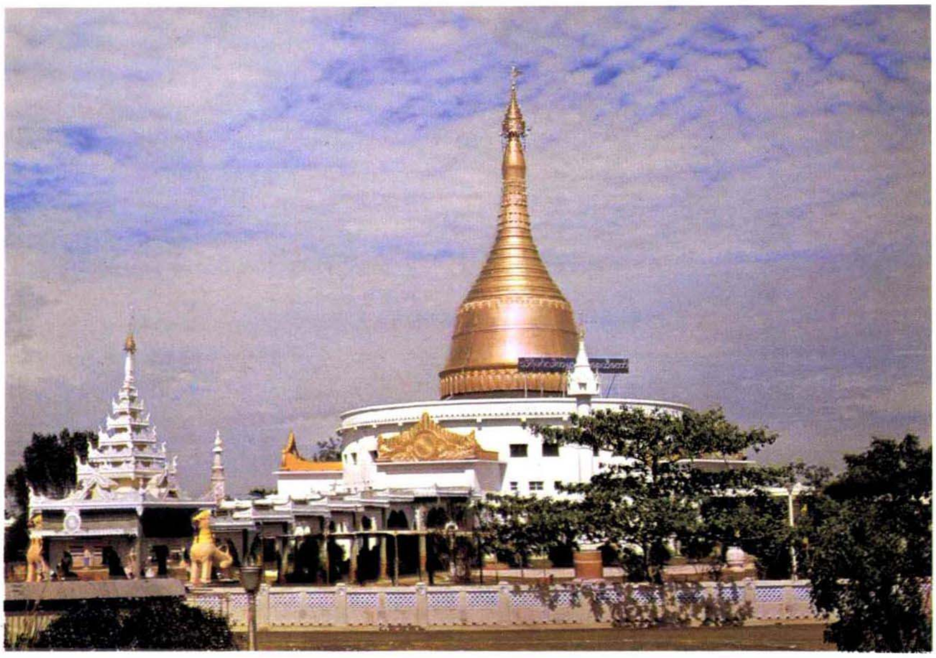
ラングミュア［Irving Langmuir］(1881～1957) アメリカの物理化学者。ブルックリンの生まれ。コロンビア大学およびドイツのゲッチンゲン大学に学んだ。1909年以降ゼネラル-エレクトリック(GE)研究所技師，のち顧問。1919年ルイスの原子価理論(八隅説)をもとに，化学的性質を説明するルイス-ラングミュアの原子価理論を提出し，化学結合論の基礎を築いた。また低圧における蒸発・凝結などの新領域を開拓し，吸着現象について単分子層説・吸着等温式を提出した。これら界面化学の研究により，1932年ノーベル化学賞を受賞。このほか，ガス入り電球・凝結ポンプ・真空計などを発明し，ヨウ化銀を使った人工降雨の実験も行なった。1934年に来日。〔山下愛子〕

ラングランド［William Langland］(1330ごろ～1400ごろ) 中世イギリスの詩人。伝記的事実はほとんど知られていない。聖職者でもあったが，妻帯者であったこと，生まれのよくないことから出世の道を断たれたといわれる。中世イギリス文学の傑作《農夫ピアスの夢》の作者として知られ，当時の堕落した教会・法曹界(ほうそうかい)への批判をイギリス中西部地方の方言で書いたこの頭韻詩は，のちの宗教改革や農民戦争にも影響を与えた。〔五十嵐一〕

ラングリー［John Newport Langley］(1852～1925) イギリスの生理学者。ニューバリーの生まれ。ケンブリッジ大学で学び，同大学教授。ニコチンを交感神経に塗ってインパルスの伝達を抑止した実験(1889)をはじめ，自律神経系研究の大成者として知られる。

ラングールざる【ラングール猿】 哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オナガザル科。インド・東南アジアに分布し，体は細く長い尾がある。樹上生活を行ない，主として木の葉を食べる。そのうちの一種のハヌマンラングールはインドにすみ，15～20頭の群れをつくり，成雄は1頭で，群れはなわ張りをもって対立する。このサルの生態は，日本の学者によって詳しく調べられている。

ラングーン［Rangoon］ ビルマの首都。人口172万(1974)。同国南部，イラワジ川の支流ラングーン川の河口から33km上流に位置する港市で，東南アジアの主要港になっている。6世紀ごろにペグー王国の一部として建設されたが，18世紀末にはイギリスの商館が置かれ，1824年イギリスとの戦争の結果，イギリスに奪われた。その後，イラワジ川デルタの開拓に伴い，世界有数の米の輸出港として栄え，住民ではインド


ラングーン　金色に輝くカーバーアヤのパゴダ。1952年世界の平和を祈願して建立され，これを中心にして仏教の聖域が造営されている

商人が勢力を有していた。北方の丘の上にはBC558年の建立(こんりゅう)とされる名高いシュウェダゴン寺のパゴダ(113m)をはじめ多数の仏塔がそびえ，ラングーン大学(1920年創立)・動物園も有名である。第2次世界大戦後はインド人の数も減り，ビルマ人の都市としての特色を強めている。精米・製材の加工業，タバコ・マッチの小規模な工業が主であるが，近年は製薬・製鉄・紡績などの新しい工場もふえつつある。北郊に空港がある。〔別技篤彦〕

ランケ［Leopold von Ranke］(1795～1886)　ドイツの歴史家。今日の歴史学の創始者とされる。チューリンゲンの弁護士の子として生まれ，ライプチヒ大学で神学を学ぶ。1818年に高校教師となり，1825年よりベルリン大学教授として1871年まで在職。その間イタリアへ旅行し，また〈歴史政治雑誌〉の編集に従事したことがある。その秀作として《ロマンス系ゲルマン系諸民族の歴史》《ローマ教皇史》3巻，《宗教改革時代のドイツ史》6巻，《プロイセン史》3巻，《フランス史》5巻，《イギリス史》7巻，《世界史》4巻など多数。彼は近代政治史，特に近代初期の外交史を専門とし，近代国家の成立を通じて国家を独自の個性としてとらえようとした。史料に基づいて過去を実在のとおりにとらえようとする客観主義により，今日の歴史学研究の基礎を築いた。〔兼岩正夫〕

ランゲ［Friedrich Albert Lange］(1828～1875)　ドイツの哲学者。チューリヒ大学教授を経てマールブルク大学教授となる。自然科学的唯物論の哲学的限界をカント的立場から批判的に考察し，カントの認識論の〈アープリオーリ〉を人間の生理学的素質として解釈し，また形而上学(けいじじょうがく)を宗教や芸術と同位に置き，その学問性を拒否した。のち新カント派(マールブルク派)の先駆者とみられている。著書には《唯物論史とその現代における意義の批判》など。〔仲村計美〕

ランゲ［Oskar Richard Lange］(1904～1965)　ポーランドの経済学者。トマーゾウの生まれ。ポズナニ・クラクーフ両大学に学び，クラクーフ大学で博士号を得たのち，アメリカに渡り，ミシガン・カリフォルニア・スタンフォード各大学の講師をつとめ，1939年にはアメリカの市民権を得て，シカゴ大学教授となった。第2次世界大戦後は，駐米ポーランド大使・国連ポーランド代表として活躍したが，1945年にはポーランドに帰り，ポーランド統一労働者党(共産党)中央委員になり，ワルシャワ大学教授の職についた。著書は,《社会主義経済理論》(1938),《価格伸縮性と雇用》(1944),《計量経済学入門》(1958)など。社会主義体制における経済計算の可能性についてのミーゼスとの論争は有名〔林　達〕

らんけいどうりゅう【蘭溪道隆】(1213～1278)　中国，南宋(なんそう)代の臨済宗の僧。中国西蜀(せいしょく)の人。俗姓は冉(ぜん)氏。諡(おくりな)は大覚禅師。13歳で成都の大慈寺に出家し，無明慧性(むみょうえしょう)禅師の下で開悟した。1246年(寛元4)33歳で弟子(でし)の義翁・龍江(りゅうこう)とともに来朝し，北条時頼(ほうじょうときより)の帰依を受け，鎌倉の建長寺*開山となり，住すること13年，勅命で京都の建仁(けんにん)寺*に移り，3年で再び鎌倉へ帰った。著作に《大覚禅師語録》3巻があり，大覚派の祖とされる。〔田中良昭〕

ランゲッサー［Elisabeth Langgässer］(1899～1950)　ドイツの女流詩人・小説家。詩集《子羊の回帰線》(1924)などの叙情詩において自然神話的要素とキリスト教的要素との相克・融合による独特の世界を形成。また，キリスト教文学の新しい形式を求めて，信仰をよりどころとして第2次世界大戦の戦時下にひそかに書き続けられた長編小説《消えない印》(1946)は一躍彼女を有名にした。

ランゲルハンスとう【ランゲルハンス島】　膵臓(すいぞう)の内部に島状に散在する内分泌腺(せん)。膵島ともよばれる。1869年ドイツの病理学者ランゲルハンス(1847～1888)によって発見された。直径100～200μの外径を有する。島の中には染色性の異なるα細胞とβ細胞，最近になってδ細胞などが区別されている。数の多いのはβ細胞で70～80％を占め，α細胞は10～15％，δ細胞は2～8％の割合である。α細胞からはグルカゴン，β細胞からはインシュリン*が分泌される。β細胞の機能が低下するとインシュリンの産生が少なくなるので糖尿病*を生ずる結果となる。グルカゴンはインシュリンとは逆に血糖値を高める作用やブドウ糖の燃焼を高める作用を行なう。δ細胞の機能については不明の点が多い。➔膵臓
〔高野一雄〕

ランゴバルドおうこく【ランゴバルド王国】　ゲルマン人の一派ランゴバルド族が，568～774年に北イタリアに建てた王国。ランゴバルド族はアルボイン王に率いられて北イタリアに侵入し王国を建設。その建国はゲルマンの大移動の中で最もおそいものであったが，彼らははなはだ野蛮でイタリアに混乱を与えたとされている。574～584年の間空位時代が続いたが，584年アウタリが王位について王政が再開された。その子アギルルフ(在位590～616年)のもとで国の基礎が固まり，王のカトリック改宗で統一が進んだ。ロタリス王(在位628～652年)の発布した〈ランゴバルド法典〉(643)はゲルマン的要素の強いものとして知られる。リウトプランド王(在位712～744年)のころ最盛期に達する。アイストゥルフ王(在位749～756年)はビザンチン帝国領ラベンナを併合し，ローマ教皇を脅かしたので，教皇はフランク王国のピピン(小)の助けを求めた。ピピンは再度の遠征でランゴバルド軍を破った。774年カール1世*(大帝)の遠征で滅亡した。〔兼岩正夫〕

らんこん【乱婚】　モーガン*らの19世紀の進化論学者によって設定された婚姻発展の図式のうち，原初的な形態として想定された婚姻形態。これは世代にかかわらず，無差別に交わり合う乱交の状態があったという仮説である。この仮説は論議がくり返されたすえ，未開社会の婚姻において性関係を不当に強調したものとして批判を受け，理論上の架空のものであり，その存在を実証できないことが明らかとなった。

らんさいぼう 【卵細胞】 ⇨卵

らんし 【卵子】 ⇨卵

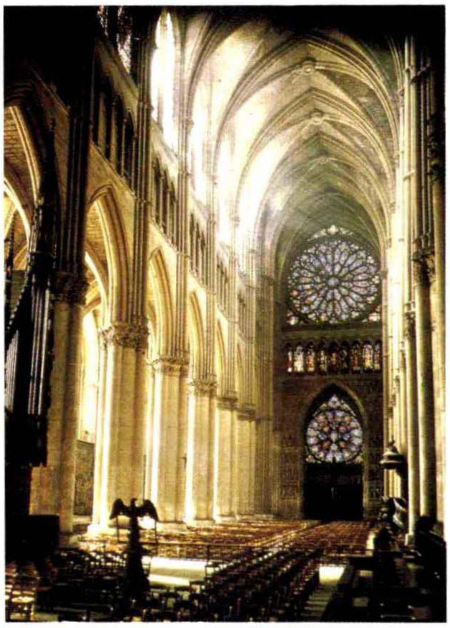
らんし 【乱視】 眼球の光学系の屈折異常により，いかなる角度から眼内にはいってくる光線も眼内で1点に集まらない状態。つまり，遠くも近くもよく見えないもの。正視では，眼球の屈折面は各経線が均等な球面をなしているので，光は正しく網膜に像を結ぶが，その各経線の屈折力に差異を生じたり，または同一経線内にすでに凹凸(おうとつ)を認めて屈折力が不規則になると，外界を明視できないようになってくる。一般に前者を正乱視，後者を不正乱視とよんでいる。正乱視は，球面における屈折力の最も強い経線(強主経線)と最も弱い経線(弱主経線)とが互いに直交している。その交差の方向によって，直乱視・倒乱視・斜乱視，また両主経線の屈折状態(近視または遠視)によって，近視性乱視・遠視性乱視・雑性乱視(近視と遠視の混合したもの)とに区別する。原因としては先天性素因のほか，眼球に対する眼瞼(がんけん)圧迫説や，眼内圧の亢進(こうしん)による眼圧説などがあげられているが，誘因として通勤車中の読書や，読書姿勢，テレビの見過ぎ，過労なども関連があり，日常の生活態度にも注意を払う必要がある。治療は，乱視表・レフラクトメーター(屈折計)などで，正しく検眼処方した円柱レンズの装用が第一である。不正乱視は，初発白内障(→白内障)の水晶体や，黄斑(おうはん)部病変による眼底にも見られることがあるが，主として角膜変化による場合が多い。角膜潰瘍(かいよう)・角膜瘢痕(はんこん)・パンヌス・円錐(えんすい)角膜などがおもな原因で，細隙燈(さいげきとう)顕微鏡や，プラチドー角膜計などで容易に発見される。いかなる眼鏡でも矯正(きょうせい)できないが，ときとしてコンタクトレンズが，視力回復に著効を示すことがある。 〔納富教雄〕

ランジェリー ［lingerie］ 婦人用の装飾的下着類およびへや着類の総称。後者はホームランジェリーともいい，ナイトガウン・ネグリジェ*・パジャマ*などがある。リンネル(麻布)を意味するフランス語のランジュから出た語で，古代から衣料，特に下着類はずっと麻製品を主としてきたので，下着の代名詞となった。レースをつけたり，ししゅうを施したりするなど，手芸的な美しい装飾を加えたものが多く，今日では綿・絹・化繊・混紡など各種の素材が用いられる。➔下着 〔小池千枝〕

らんじゃたい 【蘭奢待】 最上質の伽羅*(きゃら)につけられた美称。この意味は蘭麝と書くのが正しく，15世紀ごろに麝が奢に変わったという。油脂分が豊富で黒色を呈し，柔らかさに富み，表面には正しいしま目を有し，加熱しなくても芳香を放つ。したがって普通の炷法(しゅほう)では焦げるので，特別な炷法が考究されており，かつ火味(ひあい)も定められている。蘭奢待は10回まで使用にたえるために十返(とかえり)の名香ともいわれ，こうした名香は一度で聞けなければならない。世に蘭奢待とよばれるものに3系統があり，①は正倉院にある黄熟香の一部と称されるもの，②は源頼政(よりまさ)が鵺(ぬえ)退治の賞として賜わったものの一部と伝えられるもの，③は東大寺・初音・大内などの名でよばれているものなどである。 〔三条西公正〕



ランショウ石 アメリカ，ノースカロライナ州産



ランス大聖堂 内陣，バラ窓

らんしゅう 【蘭州】 ランチョウ 中国西部，甘粛(かんしゅく)省の省都。人口約100万。黄河上流に臨み，包蘭(包頭(パオトウ)～蘭州)・隴海(ろうかい)(蘭州～連雲港(れんうんこう))・蘭新(蘭州～ウルムチ)の3鉄道の連絡点にあたる交通の要衝である。古くからシルクロードに沿って栄えた都市で，隴西盆地の中心をなしている。付近一帯は石油・水力などのエネルギー資源をはじめとする資源に恵まれ，おもに石油化学・機械工業の盛んな大工業都市になっている。近年，原子力の研究機関や工場が建設され，操業していると伝えられている。 〔船越昭生〕

らんじゅほうしょう 【藍綬褒章】 ⇨褒章

らんしょ 【蘭嶼】 ランシュ 台湾の南端から約80km東方の海上にある島。旧名紅頭嶼。台東県に属している。周囲38.4km，面積47km²。住民はヤミ族で，特徴のある船を使って漁業をおもに行なっている。タロイモが主食で，水田は少ない。最高点は，北部にある紅頭山で，標高604m。

らんしょうせき 【藍晶石】 アルミニウムのケイ酸塩鉱物の一。Al_2SiO_5 三斜晶系。比重3.56～3.67，屈折率1.717～1.729，硬度はC軸方向では4～5，これと直角方向では6～7。劈開*(へきかい)は一方向に完全。長柱状結晶で，色は藍(あい)色ないし白色または灰色，真珠光沢をもつ。コウチュウ石・ケイセン石と同質多形*の関係にある。中程度の温度，10,000気圧以上の高圧下で生成されたアルミニウムに富む変成岩に特徴的な鉱物。さらに高温ではケイセン石，圧力が低いとコウチュウ石*となる。世界的には各地の変成岩から産出するが，わが国ではまれで四国の三波川結晶片岩，黒部(くろべ)川流域の変成岩の一部に知られている。熱電対*のカバー，研究用磁器など高級耐火材として利用される。 〔加藤敏郎〕

ランシング ［Lansing］ アメリカ合衆国，ミシガン州の州都で，工業都市。人口13万2,000(1970)，大ランシング37万8,000(1970)。州中央部，デトロイトの西北西160kmに位置する。19世紀後半から車両製造が盛んになり，20世紀以降は自動車工業が発達した。ほかに農業機械・プラスチック製品などの工業もあり，農産物（おもに酪製品)の集散も行なわれる。衛星都市イーストランシングには，1849年創立された合衆国最古の農科大学のミシガン州立大学(現在は総合大学)がある。

ランス ［Reims］ フランス北東部，シャンパーニュ地方の都市。人口15万3,000(1968)。シャンペン生産の中心で，また17世紀からの羊毛工業が盛ん。ローマ時代から宗教都市として栄え，496年クロービスがここでカトリックに改宗して以来，歴代フランス王の戴冠式(たいかんしき)はこの地で行なわれ，ランス大聖堂*はゴシック様式の代表建築とされる。

らんすうひょう 【乱数表】 0から9までの数字を1個ずつ書いてある10枚の札を，よく混ぜて無作為に1枚を抜き出し，この操作をくり返し行なって，毎回に出た数を書き並べると，0から9までの数が不規則に並んだ列ができる。このように不規則に並んだ数の列を乱数といい，それをたとえば5個ずつにくぎって表の形に並べた表を乱数表という。乱数表は母集団*から標本を無作為に取り出すときや実験計画法に用いる。 〔小西勇雄〕

ランスだいせいどう 【ランス大聖堂】 フランスのゴシック寺院。フランス歴代の王の戴冠式(たいかんしき)の場であったこの寺院は，パリを中心とするイル-ド-フランス地方の数多い寺院建築の中でも，最もゴシッ

ク的な特徴を備えている。この寺院の原型は，9世紀のカロリング朝期につくられたものと推定される。その後幾多の変遷を経て，13世紀に現在の建築の主要部分が完成された。その建造にあたっては，ジャン-ド ルベー・ジャン-ル-ルーらが中心となった。オンヌクールのスケッチが多く残されていて，現在破壊された部分の細部を知ることができる。〔吉田玲子〕

らんせい【卵生】有性生殖を行なう動物で，卵のときから親の体外で発育することをいう。これに対応するのが，自由生活をするまで母体内にとどまって，しかも母体と組織的に連絡して栄養の補給を受ける胎生である。多くの無脊椎(むせきつい)動物は卵生であり，脊椎動物でも哺乳(ほにゅう)類を除けば大部分は卵生である。ただし，哺乳類でもカモノハシ・ハリモグラなどの単孔類は例外的に卵生である。卵が母体から産み出されるときの発生段階は，動物の種類によってさまざまで，体外受精するものは問題ないが，体内受精でも受精直後に産卵されるものは発生のはじめから親の体外にあるわけで，体内受精してから産卵まである程度時間のかかるものは，母体内で発生もいろいろな段階まで進むことになる。ニワトリなど鳥類がこの例で，初期胚(はい)の状態で産卵され，体外で発育することとなる。このような例の特別な場合が，母体内で孵化(ふか)まで進み幼生の状態となって生まれる卵胎生である。いずれにしても卵生の場合は，胎生と違って発生に必要な栄養は卵自身に卵黄としてたくわえられているのが特徴である。〔蒲原春一〕

らんせつ【嵐雪】(1654～1707) 江戸前期の俳人。本名服部(はっとり)治助。別号雪中庵(せっちゅうあん)・玄峰堂・不白軒など。江戸の人。はじめ諸大名に歴仕，1690年(元禄3)ごろ致仕して専門俳人となる。1675年(延宝3)ごろより芭蕉(ばしょう)に師事，質実穏雅の句風をもって，其角(きかく)と並ぶ蕉門の高弟と仰がれたが，芭蕉の〈軽み〉には随伴できずに終わった。その門流を雪門という。編著《其袋(そのふくろ)》《或時集(あるときしゅう)》，句集《玄峰集》がある。〔尾形　仂〕

らんそう【卵巣】雄の精巣(睾丸(こうがん))に相当する雌の生殖巣で，卵をつくる生殖器官。脊椎(せきつい)動物では一般に体腔(たいこう)背面に正中線をはさんで左右1対ある。ヒトの卵巣は女性性器の内性器の一つであり，骨盤内で子宮の両側にある1対の平たい楕円(だえん)形の器官である。大きさは一般に長さ25～50mm，幅12～20mm，厚さ6～11mmで，卵巣固有靭帯(じんたい)によって子宮に固定され，その外側は卵管の端に接している。内部は外周の皮質と中心部の髄質に分かれ，皮質は種々の発達段階の卵胞を多数含み，その中に卵を蔵している。髄質は血管・リンパ管・神経に富んだ柔らかい層である。〔高野一雄〕



ランタナ

らんそううん【乱層雲】雨雲・雪雲ともいう。低気圧の中心や不連続線付近に発生する。→雲

らんそうしゅよう【卵巣腫瘍】卵巣は多種多様の細胞からなり，排卵・ホルモン産生という特有の機能を果たしている。また，臓器としての発生過程もきわめて複雑で，人体の臓器のうちでは最も多彩な腫瘍が発生する。卵巣の構造・機能・発生についてはまだ不明のことが多く，したがって腫瘍発生もすべて明らかにされたわけでない。腫瘍の分類についてもいろいろな意見があるが，大別すると分泌物がたまって嚢(ふくろ)状になったもの(嚢腫(のうしゅ))と，細胞あるいは組織の詰まっているもの(充実性腫瘍)に分けられ，それぞれに良性と悪性とがある。卵巣腫瘍の大部分は良性の嚢腫であるが，卵巣腫瘍は無症状のことが多く，早期発見が困難である。また，良性・悪性の鑑別もむずかしく，大きく発育して腹腔(ふくこう)を満たすようになるまで気づかれないこともある。〔木川源則〕

らんそうのうしゅ【卵巣嚢腫】卵巣腫瘍中最も多いもので，約80％を占める。腫瘍の上皮からの分泌物が多量に分泌されて貯留し，大きく嚢(ふくろ)状になったものである。多数の嚢腫からなるもの(多胞性嚢腫)と単一の大きな嚢をつくっているもの(単胞性嚢腫)がある。嚢内貯留液の性状は漿液(しょうえき)性あるいは粘液性である。漿液嚢腫が最も多く，両側性に発生することが多い。粘液性(ムチン性)嚢腫は片側性に発生することが多く，増殖力が強く，しばしば全腹腔(ふくこう)を満たす巨大嚢腫となり，通常成人頭ぐらいになる。また，腹腔内に播種(はしゅ)状に広がることがあり，腹膜偽粘液腫という。卵巣内に子宮内膜様組織があって，月経ごとに内出血し，黒かっ色粘稠(ねんちゅう)液で満たされた嚢腫(子宮内膜症嚢腫)は，両側性が多く，手拳大ぐらいになり，月経困難症が特徴的である。

らんそうるい【藍藻類】藍藻植物門とされる最下等の光合成植物。クロロフィルaをもつことで有色植物の系統上にあるが，光合成補助色素としてフィコシアニンとフィコエリスリンを含むことは，紅藻類とつながる特別な系統上にあることも示している。しかし，核膜をもたぬこと，色素体を形成せず色素を含むラメラが細胞質中に広がること，二分裂による無性生殖だけであることなどは，その特徴であるとともに原始性をも示している。なお，光合成産物はグリコゲンで，べん毛形態をもたない。淡水・海水・氷雪・湿土・温泉(95℃まで知られる)に広く生育し，またソテツ(アナベナ)・地衣菌などと共生し，まれに寄生もする。土壌(どじょう)藻・共生藻としては空中窒素固定の能力が生態学上重要である。富栄養の湖沼ではしばしば水の華(はな)の原因となる。藍藻は次のように分類される。①クロオコックス目：単細胞ないし群体で，アオコ・スイゼンジノリなどを含む。②カメシフォン目：単細胞ないし群体で，胞子を形成し，イデユコゴメなどを含む。③プレウロカプサ目：偽柔組織状。④ネンジュモ目：分枝しない糸状体で，ユレモ・アナベナ・ネンジュモなどを含む。⑤スチゴネマ目：分枝糸状体で，アイミドリなどを含む。

らんたいせい【卵胎生】動物が有性生殖するときに，卵の状態で産み出されて親の体外で発育するものを卵生，幼生の形で産み出されてしかも母体内で栄養を依存して発育するものを胎生という。ところが，卵胎生は一見胎生と似ており，幼生の形で産み出されるのであるが，胚(はい)は母体から栄養を受けるのではなく，卵生のように必要な栄養はみずからたくわえていて，それを利用している。ただ，母体は発育し孵化(ふか)する場所として役だっているにすぎないので，卵生とも胎生とも区別して卵胎生とよぶ。陸生動物では爬虫(はちゅう)類のマムシ，魚類ではウミタナゴや熱帯魚のグッピーなどでよく知られている。しかし，ウミタナゴのように，完全な意味では卵胎生とよべず，胎生といったほうがいい例もある。それは，卵巣で受精・発生・孵化するが，幼魚は開口するまでに，体上皮や鰓孔(さいこう)から卵巣組織によって供給される栄養を受けているからである。なお，鳥類は卵を産むけれども，産卵までは卵内で発生が進行しているので，広義に卵胎生ということもある。〔蒲原春一〕

ランダウ［Lev Davidovich Landau］(1908～1968) ソ連の物理学者。バクーの生まれ。レニングラード大学に学ぶ。卒業後コペンハーゲンでボーアに師事したのをはじめ，ドイツ・スイス・イギリスなどに留学した。その後科学アカデミーの物理学理論部長，次いでハルコフおよびモスクワ大学教授となる。固体論・極低温・統計力学の権威。相転移の熱力学的理論や低温における量子流体の理論をはじめ，流体力学から場の理論に至る理論物理学の全分野にわたってすぐれた業績がある。1962年液体ヘリウムの研究によりノーベル物理学賞を受賞。〔藤村　淳〕

ランタナ［lantana］双子葉植物・ク

マツヅラ科。和名をコウオウカ(紅黄花)・シチヘンゲ(七変化)などという。熱帯アメリカ原産の低木で，高さ0.3～1m。全体に毛がまばらにある。葉は長さ3～5cmの卵形で，表面にしわがあり，細かい鋸歯(きょし)がある。独特の臭気がある。主として夏，茎頂に黄色の小さな花を多数集合して，頭状花序につける。花色は橙色(とうしょく)・紅色へと変化する。本種の仲間は熱帯地域に約80種が分布する。コバノランタナは葉の大きさ2cm前後で淡紫色の花をつける。ムラサキランタナは紅紫色花で花口部が黄色のものをいう。いずれも庭に栽培される。

ランタニドぞくげんそ 【ランタニド族元素】 ⇨希土類元素

ランタン [lanthanum] 周期律表第Ⅲ族に属するランタニド元素の一。記号La，原子番号57，原子量138.9055。スズ白色の金属で，融点880℃，沸点約4,000℃，比重(25℃)6.16。酸に可溶。空気中では酸化されて灰白色となる。スズよりかたく，亜鉛より柔らかい。熱水とはすみやかに反応して水素をはなつ。耐食・耐熱性向上の添加剤として使用される。

ランチ [launch] 港内・河川などで，連絡・交通・遊覧のために用いられる小形の動力船の総称。軍艦や商船に積載され，運搬・交通に用いられる小形動力艇もランチという。

らんちゅう 【蘭鋳】 ⇨キンギョ

らんちょう 【蘭蝶】 新内の曲名。《若木仇名草(わかぎのあだなぐさ)》の通称。初世鶴賀若狭掾(つるがわかさのじょう)から伝えられたもので，18世紀末にできたものと考えられている。役者の声色のまねを商売とする市川屋蘭蝶と妻のお宮，愛人の此糸(このいと)の三角関係を扱ったもの。新内端物の代表作で，その情痴的な世界と，此糸の口説(くどき)〈今さらいふも古けれど，四谷で初めて会ふたとき〉，お宮の口説〈えにしでこそあれ末かけて〉などの聞きどころが有名である。また，この中で使われている三味線(しゃみせん)の手が，新内流しの手となっている。〔徳丸吉彦〕

らんていじょ 【蘭亭序】 中国，東晋(とうしん)の王羲之*(おうぎし)の法帖(ほうじょう)。353年(永和9)3月3日，会稽(かいけい)山陰(浙江(せっこう)省)の蘭亭に，当時の名士41人が会して，修禊(しゅうけい)(みそぎ)をなし，流觴(りゅうしょう)曲水の宴(庭園や林間を曲折して流れる小流のほとりに座を設け，上流から流した杯が前を過ぎないうちに詩をつくる遊び)を張って詩酒に興じたときの詩集に，王羲之が筆をとって序をしたためたもの。原本は唐の太宗の昭陵に殉葬されて，いまは唐代の臨模本によって知ることができる。行書で28行に書かれ，ところどころに抹削(まっさく)のあとがある。唐の何延之(かえんし)の《蘭亭記》にその伝来の経路が記されているが，いまの臨模本が王の書いた原本によっているかどうかについてはなお疑問があり，近年，その成立の真偽について論議されている。しかし，王羲之の行法を見る代表作として古来著名であり，広く流行したもので，現在なお張金界奴本・定武本・褚(ちょ)臨絹本・開皇本など多数の異本がある。〔中田勇次郎〕



ランテッ鉱　栃木県足尾鉱山産



ランドウ鉱　アメリカ，アリゾナ州産

らんてっこう 【藍鉄鉱】 単斜晶系に属する鉱物。$Fe_3(PO_4)_2 \cdot 8H_2O$ 劈開*(へきかい)は1方向に完全，硬度1.5～2，比重2.68～2.69。ガラス光沢で元来は無色透明であるが，感光すると緑青に変わりしだいに濃色になる。条痕(じょうこん)は白ないし帯青色である。湖底に堆積(たいせき)した泥岩(でいがん)の中などによく含まれている。

ランデブー [rendez-vous] 2個の人工衛星が接近し，同じ軌道にはいって相伴って飛行すること。元来は海軍艦艇の会合に用いられた語である。1965年アメリカのジェミニ6号がそのまえに打ち上げられた7号と30cmまで接近するのに成功したのが最初である。この場合，7号は円軌道を回っており，6号はまずそれより低い楕円(だえん)軌道に打ち上げられ，1周ごとに遠地点で加速して円軌道に近づけ6号の軌道に移った。

らんどうこう 【藍銅鉱】 銅の原料鉱石。$Cu(OH)_2 \cdot 2(CuCO_3)$ 単斜晶系，劈開*(へきかい)は2方向に完全で，硬度3.5～4，比重3.77～3.83。もろく，断口は貝殻(かいがら)状，色・条痕(じょうこん)ともに青藍(せいらん)色で，ガラス光沢を有する。銅鉱床の酸化帯に産出する。

ラントシュタイナー [Karl Landsteiner] (1868～1943) オーストリアの病理学者。生地のウィーン大学で医学を学ぶ。1896年同大学の助手となって病態生理学を専攻し，1911年病理学教授。1922～1939年までアメリカのロックフェラー医学研究所員。ヒトの血液群に関する研究を行ない，ABO式血液型を発見し，輸血法を確立した。1930年その功によりノーベル医学生理学賞を受け，さらに1940～1941年にヒトの血液型のRh因子に関する研究を行なった。〔大鳥蘭三郎〕

ランドセル 通学用かばんの一種。おもに小学校の児童が背負って用いる。両手があき，重量が平均してからだにかかる利点がある。材料は皮革が主だが，布・ビニルなども用いる。色は男児用が黒・茶色，女児用はえんじ・茶色が多い。ランドセルの名称はオランダ語の背嚢(はいのう)のなまったものである。もと将兵の背嚢を模してつくられ，1885年(明治18)学習院で全生徒に背嚢を背負わせるように定めたのが普及の端緒である。

ランバエク [Lambayeque] ペルー北部，太平洋岸の州。乾燥地域にあるが，アンデス山脈からの流水により整備された灌漑(かんがい)をもち，同国の主要な農業地域をなす。米・サトウキビ・ワタがおもに栽培される。州都チクラヨ。

らんぱく 【卵白】 鳥類の卵細胞を包む卵膜の一種で，その由来するところからの分類によれば(→卵膜)第3次卵膜に入れられる。第1次卵膜である卵黄膜の外側で，第3次卵膜の卵殻膜(らんかくまく)の内側に満たされている透明なゾル状の物質である。その主成分は卵アルブミン・オボムコイドなど糖タンパク質のほかにリゾチームなどの酵素を含んでいる。卵の長軸方向に沿った鋭端部と鈍端部には濃厚卵白が卵殻に結合し，他端は卵黄を固定していて，カラザとよばれる。

ランバレネ [Lambaréné] アフリカの中西部，ガボンの西部にある町。人口5,000(1962)。オグエ川を300kmさかのぼったところにあり，シュバイツァー*が医療伝道を行なった地として有名である。彼は1913年ここに病院を建設，生涯(しょうがい)を原住民への奉仕にささげた。今日では国営の病院も建設されている。

らんはんしゃ 【乱反射】 物体の表面に細かい凹凸(おうとつ)があると，光があたったとき反射の法則で定まる以外のあらゆる方向に光が反射される現象。その反射の角分布は表面のあらさに関係があり，凹凸が細かいほど鏡面反射に近くなり，鏡面反射の角近くに反射光が集中する。この角分布から表面のあらさを推定することができる。

ランビエこうりん 【ランビエ絞輪】 ⇨神経繊維

ランフォード [Graf von Rumford] (1753～1814) アメリカ生まれの理工学者・軍人・政治家。本名ベンジャミン-トンプソ

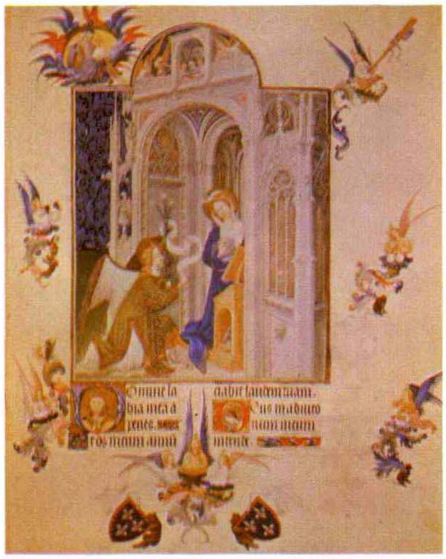
ン。商店の店員を振り出しに教師となり，また独立戦争に際して軍人，さらに政治にも関与するなど，波乱に満ちた生涯(しょうがい)を送った。1776年イギリスに渡ったころから自然科学の研究に進み，王立協会の会員になる。その後ドイツに渡り，バイエルンの王室に仕え，伯爵となった。ミュンヘン滞在中，大砲の中ぐり作業から摩擦による熱の発生に注目し，熱の本性を物質の一種とみる旧来の説(熱素説)を批判し，熱運動説の先駆をなした。〔藤村　淳〕

ランプール［Rampur］インド北部，ウッタル-プラデシュ州北西部の都市。人口16万1,000(1971)。バレーリとサハランプールを結ぶ鉄道に沿う。農産物の集散都市で，製糖・綿工業なども行なわれる。かつてはランプール藩王国の主都として栄えた。17世紀以降はイスラム支配者の下に置かれたが，人口ではヒンズー教徒の方が多い。ジャマー-マスジットをはじめ，17～19世紀建造のイスラム建築が残っている。

ランブールきょうだい【ランブール兄弟】 15世紀初頭に活躍したフランドルのミニアチュール画家。ポル・エンヌカン・エルマンの3兄弟。はじめブルゴーニュ公の宮廷で働き，1411年からベリー公の宮廷画家となった。ここで，彼らの最大傑作《ベリー公大祈禱書(だいきとうしょ)》を協力して制作した。この作品は，その精密な手法と写実的な姿勢，工芸的な精緻(せいち)さなどによって，後期ゴシック様式の最もすぐれた作例とみなされている。〔吉田玲子〕

ランブルべんもうちゅう【ランブル鞭毛虫】 原生動物・鞭毛虫綱に属する原虫で，世界的に広く分布し，熱帯地方に多い。体長10～20 μの西洋ナシ形で，8本のべん毛をもつ。ヒトの小腸上部・胆嚢(たんのう)に寄生し，糞便(ふんべん)中に嚢子として排出され，経口的に感染する。下痢や胆嚢炎を起こすともいわれているが，病原性については疑問をもつ者もいる。治療にはアテブリン・クロロキンなどが用いられる。本種によく似た鞭毛虫で，イヌやネズミに高率で寄生しているものもある。

ランプレヒト［Karl Lamprecht］(1856～1915) ドイツの歴史家。ゲッチンゲン・ライプチヒ・ミュンヘンの各大学で学ぶ。マールブルク大学教授を経て1891年よりライプチヒ大学教授。1909年にライプチヒ大学に〈文化史世界史研究所〉を創設。彼は政治史中心の当時のドイツ史学界に反対して文化史を主張し，論争の中心人物となった。歴史学を科学にしようと努め，歴史家は個的なものでなく典型的・普遍的なものに注目すべきだと説いた。主著《ドイツ史》12巻でドイツの歴史は象徴主義・典型主義・伝統主義・個人主義・主観主義の5段階を通ってきたと説いた。その他，《中世のドイツ経済生活》《近代歴史学》《歴史的思考入門》など。〔兼岩正夫〕



ランブール兄弟　P.ランブール　《ベリー公大祈禱書》の一部



ランボー

らんぺいものぐるい【蘭平物狂】 ⇨倭仮名在原系図(やまとがなありわらけいず)

ランベルト［Johann Heinrich Lambert］(1728～1777) ドイツの数学者・物理学者・天文学者・哲学者。アルザスに仕立屋の子として生まれた。フリードリヒ2世(大王)に認められ，その知遇を受けた。ベルリン-アカデミー会員。1761年πが無理数であることを証明したほか，ランベルト級数の発見，双曲線関数・微分方程式・透視図などについての研究がある。また光学測定の基礎を確立して〈ランベルトの法則〉をたて，光度計・湿度計・熱度計を発明。天文学者としては彗星(すいせい)の軌道について〈ランベルトの定理〉を発見した。哲学方面ではウォルフの理性論とロックの経験論を結合する独自の認識論をたてた。〔下平和夫〕

ランボー［Arthur Rimbaud］(1854～1891) フランスの詩人。北フランスのシャルルビルに軍人の子として生まれ，6歳で父と生別，カトリック教徒の母の手で育てられた。早熟の天才で，16歳できわめてすぐれた詩を書き，既存の秩序や価値体系をいっさい否定して生来の粗暴な野性味をことばの錬金術の詩法にのせ，《母音》《酔いどれ船》を極致とする鮮烈な世界を構築した。1871年ベルレーヌと知り合い，同棲(どうせい)生活を始め，各国をともに放浪するが，傷害事件を機に決別，その後《地獄の季節》《イリュミナシオン》を書き上げ，20歳の若さで文学活動に終止符を打った。以後，商人・探検家としてアフリカ・アラビアなどに過ごし，病を得てマルセーユで没した。その詩法は1871年のいわゆる〈見者(ボワイアン)の手紙〉に記され，未知のものを認識するために詩人は感覚の理性的な惑乱を行なうべきとした。ランボーの生涯(しょうがい)は文学史の過激な圧縮とも評され，わずか5年の期間に詩表現のあらゆる可能性をその極限まで追求し，象徴主義の代表的詩人としてのみならず，20世紀の思想・文学に多大の影響を与えつづけている。〔山口佳己〕

らんぽう【卵胞】 卵巣の中にある卵およびそれを囲む細胞性の膜からなる無数の濾胞(ろほう)のこと。卵巣濾胞ともいう。性周期が始まると卵胞は順次発育を始める。最初は1個の卵を1層の卵胞上皮細胞が取り巻く原始卵胞で，次いで上皮細胞が数層にふえ，細胞塊内に卵がはいって発育卵胞となり，さらにこの細胞塊の中に間隙(かんげき)が生じて卵胞液を満たした成熟卵胞(グラーフ卵胞)となる。このような発育過程を経た卵胞は排卵したのち黄体に変わるが，排卵に至らないで途中で死滅するものもあり，これを卵胞閉鎖という。〔高野一雄〕

らんぽうせき【藍方石】 ホウソーダ石の一種。(Na，Ca)$_{4\sim8}$〔$Al_6Si_6O_{24}$〕(SO_4，S)$_{1\sim2}$　しばしば少量のK，Fe^3，Clを含む。等軸晶系。硬度5.5～6，比重2.4～2.5，劈開(へきかい)は(110)。白・灰・緑・青色。ふつうフォノライト中に産出し，通常カスミ石・ハクリュウ石を伴う。酸でゼラチン化する。

らんぽうホルモン【卵胞ホルモン】 卵巣の卵胞(濾胞(ろほう))から分泌されるホルモンで，濾胞ホルモンともいう。また，発情作用を示すので，発情ホルモンともよばれる。最初，このホルモンはヒトや哺乳(ほにゅう)類の卵胞液中に見いだされたのでこの名があるが，卵胞液中だけでなく胎盤・副腎(ふくじん)皮質・睾丸(こうがん)などにも存在するので，卵胞ホルモンという名は適切ではない。生体内のホルモンではなくて合成した物質で，発情作用を示すものが発見され，この物質は生体内の卵胞ホルモンとほとんど同様に発情作用およびその他の生理作用を示す。このため卵胞ホルモンのように生体内から得られたものを天然発情ホルモン，合成によって得られたものを合成発情物質とよび，この両者を合わせてエストロゲンとよんでいる。多くのエストロゲンが卵巣あるいは妊娠動物尿から抽出され，その構造式も明らかにされている。ヒトで重要なエストロゲンは，エストロン・エストラジオール・エストリオールの三つである。エストロゲンのおもな作用は女性性器を発育させること，第2次性徴を発現させること

である。すなわち，乳房を発育させ，皮下脂肪分布を女らしくさせ，骨格の構造を女性的にすることなどである。また成熟婦人の子宮粘膜の周期的変化(月経)を起こすために必要欠くべからざるものである。つまり，エストロゲンは月経によって剝脱(はくだつ)されてしまった子宮粘膜を再び増殖させ，排卵後は発生した黄体から分泌されるプロゲステロンと協力して，増殖期粘膜を分泌期粘膜に変える。排卵しても受精が行なわれないときは，内膜は剝脱し，新たな月経が始まる。➔月経　〔木川源則〕

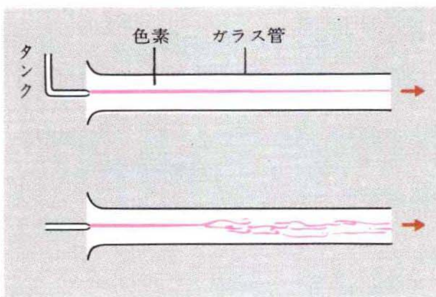
ランポン［Lampong］ インドネシア，スマトラ島南部の地方。東部は低地，西部は山地をなし，南部はスンダ海峡に面し，ランポン・スマンカの湾入がある。古くからのコショウの産地で，近年はジャワ人の移住開拓地となった。ランポン湾奥のテルクベトン湾はスマトラ南部の門戸で，ジャワ島との間に定期航路が開かれている。主都テルクベトン。

らんま【欄間】 座敷の天井と鴨居(かもい)または内法(うちのり)なげしとの間の小壁に設けられた開口部，出入り口の上部や縁側鴨居上などに設けられた明り取り窓をいう。欄間は室の上部に設けられた開口部であるため，その扱い方によって通風・換気・採光の役目をするほか，装飾性にも富み，また，建具を取り除いた際，二へやが一へやのように見える利点がある。種類には，開口部の形によって，くし形・つのがら・月形・丸形・長方形などがあり，これに障子・ふすま・板・組み物とが組み合わせられる。採光のために障子欄間が，間仕切り・踏み込みなどに板・組み物欄間が多く用いられる。　〔神山幸弘〕

らんまく【卵膜】 動物の卵細胞の外部を包む非細胞性の膜のこと，卵細胞に付随した原形質膜である両生類卵の表面膜やウニの透明層などは卵膜とはいわず，それらより外方にあるものが卵膜である。卵膜はその由来から次の3種を区別することができ，位置からいえば①は最も内側に，そして②③としだいに外側に並ぶ。①第1次卵膜：卵細胞から分泌された膜で，卵黄膜・受精膜などである。鶏卵の黄身の表面の膜はこの膜である。②第2次卵膜：卵巣内で卵を包む濾胞(ろほう)上皮から分泌形成される卵膜。こん虫卵や硬骨魚の卵殻(らんかく)など，キチン質様のかたい物質でできていて，産卵後長時間空中に置かれるような種類ではよく発達している。③第3次卵膜：輸卵管やその付属腺(ふぞくせん)，子宮壁，そのほかの腺から分泌される卵膜。鶏卵の卵白，両生類卵のゼリー質，軟骨魚類の卵殻などがある。動物の種類によってはこのような卵膜をまったく欠くもの，また上記のうち1種または2種をもつもの，同種のものが何層にも分かれているものなどいろいろである。



欄　間
西本願寺(京都)の透かし彫りのある欄間



乱　流 レイノルズの実験（上)層流（下)乱流



蘭陵王 答舞《納曽利》とともにしばしば演じられる

らんりゅう【乱流】 粘性流体が運動するとき，流体の小部分が平均流に乗って移動しながら，そのまわりで不規則な変動運動をする状態。直径dの円管内に動粘性係数νの流体を平均速度uで流すとき，レイノルズ数$R=ud/\nu$が小さい間は，流体の小部分は管軸に平行に層状をなして流れ，不規則な変動を含まない。これを層流といい，円管に関するポアズイユの法則がなりたつ。Rが2300以上になるとこの法則は破れる。レイノルズは管内に色素を入れて流れの状態を観測し，$R \geqq 2300$のとき色素が急激に拡散することから，流体の小部分が平均流を横切って混じり合うことを見いだした。円管の流れにかぎらず，一般にレイノルズ数の大きい流れは時間的・空間的に不規則な変動を含む。この変動を乱れといい，乱れを含む流れが乱流である。乱流中では質量・運動量・エネルギーなどの輸送は分子運動よりはるかに大規模な乱流運動によるため，拡散・粘性・熱伝導などの係数は非常に大きな値となる。これらの乱流による交換係数を乱流拡散係数・渦動(かどう)粘性係数・乱流熱伝導率などとよぶことがある。乱流の発生は次のように考えられる。層流運動は分子粘性による粘性流体の運動方程式によって支配されるが，Rの小さい範囲ではこの中に生じた微小な変動は減衰してしまう。しかし臨界レイノルズ数をこえると変動の種類によっては増幅して不安定となり，これがある時間の間に生長して乱流となる。層流から乱流に移ることを遷移という。乱流になると拡散や熱伝達が促進されるが，摩擦抵抗も増加するので実用上は注意する必要がある。　〔内田茂男〕

らんりょうおう【蘭陵王】 雅楽の曲名。〈陵王〉とも〈羅陵王(らりょうおう)〉ともよばれる。左方(唐楽)に属する。蘭陵王という美貌(びぼう)の持ち主が顔を面で隠して戦いに行ったという故事による。一人舞で舞人は面をつけ，奇妙な装束をつける。舞は走り舞といわれる活発な部類に属し，音楽は唐楽に属する。中心になるのは，舞人の登場の音楽である〈陵王乱序〉とこの題の曲で，旋律的にも奏法的にも興味深く，しばしば演奏される。右方の《納曽利*(なそり)》とともに〈番舞(つがいまい)〉とよばれる。

り

り 【理】 ⇨理気説

り 【里】

1①律令(りつりょう)制下における最末端の行政単位。律令制で全国を国・郡・里に分け，50戸＝1里として里長を置き，2里以上20里以下を1郡とした。715年(霊亀1)郷里制*施行に伴い郷に改められ，郷の下に2～3里を分かち，各里に里正を置いた。しかし740年(天平12)ごろこの制は廃止され，郷のみの組織となった。②条里制*における土地区画名。③距離の単位。律令制では6町＝1里(5尺＝1歩，300歩＝1里)としたが，中世以降は条里制の里と混同して1里＝36町が一般化した。しかし，地方によって40町・48町・50町などの1里制が行なわれ，不統一となった。近世初頭，徳川家康(いえやす)は諸街道に一里塚*(いちりづか)を設けて36町＝1里とすることを定めたが徹底に至らず，1876年(明治9)にはじめて全国的に統一された。〔高崎徳次〕

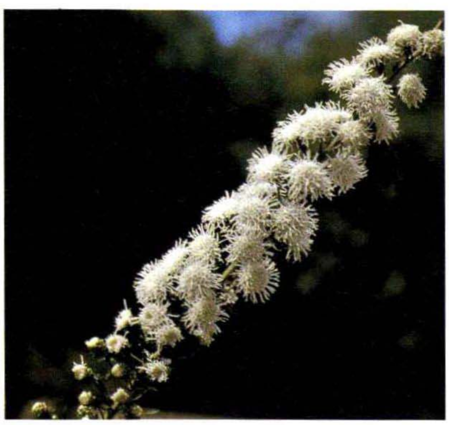
2尺貫法の距離の単位。36町，すなわち12,960尺に相当し，メートル法で3,927.3mにあたる。

リー ［Robert Edward Lee］ (1807～1870) アメリカ南北戦争における南軍の司令官。バージニアの名家に生まれ，陸軍士官学校卒業後，アメリカ-メキシコ戦争*に戦功をたてた。彼は当時の南部人には珍しく，政治的・道徳的に奴隷制を認めず，南部諸州の連邦脱退にも反対であったが，南北戦争が起きると南軍に投じ，1862年8月のブル-ランの戦いで北軍を破り北部に攻め入ったが，翌年7月のゲチスバーグの戦い以降退却を重ね，1865年4月バージニア州アポマトックスでグラント*将軍に降伏した。戦後はワシントン大学総長として教育の発展に貢献した。〔折井一彦〕

リー ［Jonas Lie］ (1833～1908) ノルウェーの小説家。ノルウェーの戯曲の祖といわれるイプセン*に対し，小説の伝統の創始者とされる。1870年処女作《夢みる者》を発表，故郷ノルラン地方における幼時の思い出や家庭内の美しい恋の挿話(そうわ)を描いたこの作品によって作家としての地歩を確立した。その他の作品も当時の問題小説の風潮に反し，家庭生活を主題としたものが多く，平和な家庭こそ社会秩序の基盤をなすと考えていた。《ギリェの家族》が最も有名。〔鈴木徹郎〕

リー ［Marius Sophus Lie］ (1842～1899) ノルウェーの数学者。生地のクリスチャニア(現オスロ)大学を卒業。1872年同大学教授，次いでライプチヒ大学教授。F.クライン*とともに球面幾何学を研究し，連続群論を創始した。これはのちE.カルタン・H.ワイルにより，リー群論として完成された。

リアおう 【リア王】 シェークスピア*の悲劇。5幕。1605年の作と推定される。ブリテンの老王リアは，ゴネリル・リーガン・コーデリアの3人姉妹に国を分割して譲ることにしたが，巧言で取り入る姉ふたりにだけ国を分け与え，誠実な末娘コーデリアを勘当する。しかし姉娘ふたりはやがてリア王を裏切り，リア王はあらしの荒野にさまよう。フランス王に嫁していたコーデリアが父を迎えに来るが，敗戦して殺され，リア王もまた絶望と悔恨の苦しみの中に死ぬ。この主筋に，老グロスター伯の同じような悲劇がからまりあって劇は展開し，新旧世代の人生観・自然観がきわめて精緻(せいち)な構成のもとに描き出される。いわゆる四大悲劇の一つであるが，規模の雄大さと悲劇の質の深さとは最も高く評価されている。〔五十嵐一〕



リアトリス

リアクタンス ［reactance］ インダクタンス*素子と容量素子に交流電源を接続したときの電圧と電流との比。交流の周波数をω，インダクタンスをL，キャパシタンスをCとするとき，リアクタンスの値は，それぞれ$2\pi fL$および$1/2\pi fC$である。インダクタンスをもつリアクタンスを誘導リアクタンス，キャパシタンスをもつものを容量リアクタンスといって区別することがある。

リアスしきかいがん 【リアス式海岸】 ⇨沈水海岸

リアトリス ［*Liatris*］ 双子葉植物・キク科の一属。北アメリカ原産の耐寒性宿根草で，約30種の植物が含まれる。地下部は塊状になり，茎は直立して，わずかに分枝するか分枝しないで株立ちになる。葉は線形で短く，互生する。頭状花は穂状または総状花序となってつき，舌状花を欠く。おもに切り花用として栽培される。繁殖は実生，まれに分球によって行なう。春・秋ともにまき，日あたり排水のよいところを好む。耐寒性も強く栽培は容易。

リアリズム ⇨写実主義

りあんちゅう 【李安忠】 生没年未詳。中国，南宋(なんそう)の画家。徽宗(きそう)朝(12世紀初)の画院の待詔，成忠郎を授けられた。南宋になってからは高宗の紹興画院に復職し，画院最高の栄誉である金帯をたまわったという。李迪(りてき)と同世代で，同様に院体の花鳥走獣を描いたが，特に写生的な鶉(うずら)の名手である。わが国の花鳥画，とりわけ土佐派に与えた影響は大きい。

りいく 【李煜】 (937～978) 中国，五代南唐の詩人。南唐の皇子に生まれ，961年父の中主李璟(りえい)(916～961)のあとを継いで即位，南唐の帝位についた。李後主という。北方の宋(そう)に圧迫されて国勢ふるわず，宮廷生活の歓楽に寂しさをいやしていたが，975年都の金陵は宋軍によって陥落，李煜は降伏して宋の都汴京(べんけい)に囚徒として送られ，毒殺された。その変化に富む生活環境からくる憂悶(ゆうもん)の情を詞*にうたい，詞の作者としては古今独歩の叙

情詩人といわれる。父の李璟も詞がうまく，父子2人の作品は王国維編《南唐二主詞》に集録。〔今村与志雄〕

リウィウス ［Titus Livius Patavinus］（BC59～AD17） ローマの歴史家。北イタリアのパタウィウムの生まれ。熱烈なポンペイウス派だったが，オクタビアヌス(のちのアウグストゥス帝)の勝利以後は政治を離れ研究に専念。壮年期にローマへ行き皇帝の庇護(ひご)を得る。晩年は故郷へ引退。40年前後の歳月をかけて膨大な《ローマ建国史》142巻を完成。うち現存するのは1～10巻，21～45巻の35巻だけである。神話伝説に包まれたアエネアス，ロムルスの時代から紀元前9世紀までの歴史を記述。古代歴史家の例にもれず多くは間接資料に甘んじているが，批判精神も発揮している。文体ではキケロ，歴史記述ではタキトゥス，愛国心宣揚ではウェルギリウスに並ぶ。〔松田 治〕

リウィウス-アンドロニクス ［Lucius Livius Andronicus］（BC284ごろ～BC204ごろ） ローマ文学草創期の詩人。ギリシア植民市タレントゥム生まれのギリシア人。ローマで奴隷としてリウィウス家の家庭教師をつとめ，のち解放され主家の名を名のる。《オデュッセイア》のラテン語訳のほか，若干の悲劇・喜劇も書いたが，わずかな断片しか残らない。ローマ人にギリシア文学を知る糸口を与えた最初の作家である。〔松田 治〕

リウマチ ［rheumatism］ 筋肉や関節およびその周囲の疼痛(とうつう)・腫(は)れ・運動障害・こわばりなどを起こす一連の病気の総称。リウマチ熱*(急性関節リウマチ)・リウマチ様関節炎(慢性関節リウマチ)・類似疾患(心因性リウマチ症や反復性リウマチ症)などが含まれる。原因として，細菌，特に溶血性連鎖球菌の感染説・病巣感染説・ウイルス感染説・アレルギー説・物質代謝障害説・内分泌失調説など数多くあげられているが決定的なものはない。しかし発病の誘因として，外傷・過労・精神的ストレス・感染・過敏症・遺伝などが重要視されている。共通の症状として，発熱，関節の腫脹(しゅちょう)・疼痛・こわばり，皮膚の紅斑(こうはん)などがあり，気温の変化の著しい時期や，高湿度の地域に多発することが多い。治療は古くから対症的に鎮痛解熱剤(アスピリン・ブタゾリジン)が投与されているが，最近は各種の消炎酵素剤や副腎(ふくじん)皮質合成ステロイド剤が用いられている。〔佐野隆志〕

リウマチねつ 【リウマチ熱】 高熱とともに全身に突っ張るような痛みを感じ，しだいに日常よく使用される関節だけが痛むようになる疾患。原因はまだ不明だが，細菌感染(特に溶血性連鎖球菌)・アレルギー・ウイルス感染などが考えられ，外傷・ストレス・過労・寒冷湿潤などが誘因として重要視されている。症状は急激な高熱と悪寒(おかん)および関節痛を伴って発病する場合と，感冒様症状が1～2週間続いたのちに発病する場合とがある。発熱(38～40°C)は必発の症状で，幼小児ではこのため脳症状を示すことがある。関節は膝(しつ)関節・足関節が好発部位で，このほか手指や手の関節，股(こ)関節などが侵される。同時に2～3の関節が侵されることもあり，関節痛が次々に移動するのが特徴である。またときには心内膜炎・心筋炎を起こして心雑音が聴取される。皮膚には種々の紅斑(こうはん)を認めるが経過とともに褪色(たいしょく)する。臨床経過は種々であるが，発熱・関節炎の症状が数か月にわたり再発反復することもある。また一度本症に罹患(りかん)すると罹患素因を獲得し，生涯(しょうがい)のうちに往々発病をくり返すことが多い。心弁膜症の発現と関節の変形，運動障害の発現防止に十分注意を要する。診断は一般臨床症状のほか，血液化学的検査(ASLO価，CRPRA反応など)を参考とする。治療は従来から鎮痛解熱剤としてアスピリン製剤が好んで用いられてきたが，さらに最近では各種の消炎酵素剤・抗生物質・副腎(ふくじん)皮質合成ステロイドホルモン剤が用いられている。なお溶血性連鎖球菌の感染防止にはペニシリン製剤の投与が効果的であるといわれる。〔佐野隆志〕

リエカ ［Rijeka］ ユーゴスラビア北西部，アドリア海岸の港市。人口13万2,000(1971)。造船・製油・製紙・食品加工などの工業が行なわれる。イタリア語名はフィウメ。また東部のスシャクと合わせてリエカ-スシャクともよばれる。イタリア系住民が多く，ユーゴスラビアとイタリアの係争地であった。第1次世界大戦後はユーゴスラビア領であったが，1920年フィウメ自治市となり，1924年からはイタリア領，第2次世界大戦後の1947年ユーゴスラビア領に復帰した。

りえき 【利益】 ある経済活動の結果としてもたらされる価値量と，そのために要した価値犠牲分とをそれぞれ貨幣額で表わした場合に，前者が後者を上回る額をいう。企業があげた利益という場合には，人為的にくぎられた一会計年度中の総収益と総費用との差によって求められる。普通は，売上高から売上原価を差し引いた売上総利益と，それから販売費・一般管理費を差し引いた営業利益，それにさらに営業外の費用・収益(主として金融に関する)を加減した純利益とが区別される。〔山桝忠恕〕

りえきかんり 【利益管理】 管理会計*の一分野。企業が一期間に達成すべき利益目標を設定し，それに基づいて経営活動を全体的観点から統制する総合的経営管理方式のこと。これは利益計画と利益統制の二つから構成される。まず，利益計画においては，最高経営者が策定した全般的経営方針にのっとって，目標としての計画利益が設定され，その計画利益を実現するための収益と費用とが見積もられる。その際，目標利益としては総資本利益率*を用いるのが合理的である。なお，その設定にあたっては一般に損益分岐図表(→損益分岐点)または利益図表が利用される。次に，このように企業全体の統一目標として設定された計画利益を基準にして経営諸活動が統制されることになるが，それは具体的には予算統制*という形で行なわれる。なお，利益統制は利益管理と同義に用いられることもある。以上のように，利益計画と予算による利益統制とが有機的に結びついて，はじめて利益管理の効果的な遂行が期待されるのである。〔森川八洲男〕

りえきしゃかい 【利益社会】 ⇨ゲゼルシャフト

りえきじゅんびきん 【利益準備金】 毎決算期の利益から積み立てられる法定準備金(→法定積立金)。会社の営業活動より得た利益は，全部配当しても特に資本充実の原則に反することではないが，不時の損失ということを考えると，利益を全部配当してしまうということは，会社の財政的基礎をあやうくすることにもなりうる。そこで商法は，株主・会社債権者の保護のために，会社の資本の4分の1に達するまで，毎決算期に金銭による利益の配当額の10分の1以上を利益準備金として積み立てることを命じている(商法288条)。〔松本治雄〕

りえきしょぶん 【利益処分】 企業が獲得した利益を種々の目的のために充当・使用すること。処分の結果，利益は税金や配当金の形で社外に分配流出されるものもあれば，積立金または準備金(→法定積立金)として社内に留保されるものもある。株式会社の場合には，利益処分の対象になるのは，当期純利益に繰り越し利益剰余金期末残高を加えた当期末処分利益剰余金(ただし任意積立金*とりくずし高があればそれを加算する)であり，通常それが①利益準備金，②法人税，③配当金，④役員賞与金および⑤任意積立金などとして処分される。なお利益処分は定時株主総会の承認を経て決定される。〔森川八洲男〕

リエージュ ［Liège］ ベルギー東部の工業都市。人口14万5,000(1971)。ムーズ川に沿い，炭田地帯の中央に位置し，重化学工業が盛ん。フランスからオランダやドイツへ向かう交通の要地にあたり，8世紀ごろから宗教都市として繁栄し，いまも教会や中世ふうの建造物が多く残り，また美術の町としても知られる。1817年創立の大学がある。第1次・第2次世界大戦の激戦地で，堅固な要塞(ようさい)で知られ，ドイツのエッセンと並ぶ兵器生産地であった。郊外に労働者の住宅地が広がっている。〔梶川勇作〕

りえん 【離縁】 養子縁組み(→養子)を解消させること。一般に離婚の意味に用い

られ，明治初年には法令上もその意味として用いたこともある。今日，法律上離縁とは養子縁組みを解消することのみを意味する。離縁には協議上の離縁，調停または審判による離縁，裁判上の離縁がある。①協議上の離縁：縁組みの当事者がその協議によって縁組みを解消させることであるが(民法811条1項)，養子が15歳未満であるときには，養親と養子の離縁後にその法定代理人となる者との協議によって行なう(民法811条2項)。禁治産者*も本心に復しているときは，法定代理人の同意を必要としないで離縁できる。養親が死亡したあとであれば，養子は家庭裁判所の許可を受けることによって単独で離縁できる(民法811条3項)。なお協議上の離縁は，これを届け出なければ効力を生じない(民法812条)。②調停または審判による離縁：当事者の協議がととのわないとき，または協議することができないときに調停や審判によって成立させる縁離のことである。③裁判上の離縁：悪意の遺棄，養子の生死が3年以上不明，その他縁組みを継続しがたい重大な事由がある場合，縁組み当事者の一方の提訴によって縁組みを解消させることである(民法814条)。離縁の効果としては，養子は離縁の日から養親の嫡出子*の身分を失い，養子と養親の親族関係が消滅することである(民法729条)。養子縁組み後に婚姻した養子の配偶者，その間に生まれた養子の直系卑属およびその配偶者と，養親およびその血族との親族関係も消滅する(民法729条)。また，養子は離縁によって縁組み前の氏に復する(民法816条)。養子であった間に養親の祖先の祭祀(さいし)を承継したときには，離縁の際に，当事者その他の関係人の協議によってその権利を承継する者を決定しなければならない(民法817条)。〔黒木三郎〕

りえん【李淵】(565～635) 唐初代皇帝。在位618～626年。高祖。字(あざな)は叔徳，おくり名は大武皇帝。家系は漢人ではなく胡(こ)族の血を引くともいう。晋陽(しんよう)の留守であったとき，隋(ずい)末の混乱に乗じて挙兵し煬帝(ようだい)が殺されると恭帝から位を譲られ，618年位につき唐王朝を開いた。年号は武徳。626年皇太子と次男李世民*(りせいみん)との内訌(ないこう)によって位を退き，太上皇となったが，635年に没した。

リオグランデ(川) ［Rio Grande］ 北アメリカ南部の川。アメリカ合衆国コロラド州のロッキー山脈中に発し，ニューメキシコ州を南流，テキサス州エルパソからはメキシコとの国境をなして南東に流れ，メキシコ湾に注ぐ。全長約2,900km。流域は乾燥した山地と高原であるため，流量の変動が大きい。メキシコではリオブラボーとよぶ。

リオデジャネイロ ［Rio de Janeiro］ ブラジル南東岸にある港市で，この国最大の都市。人口425万2,000(1972)。1960年4月，ブラジリアが新首都となるまで，140年間にわたってブラジルの首都であった。緯度上は熱帯に位置するが，貿易風が年間を通じて吹き，涼しい。ブラジリアへの遷都後も，この国の政治・経済・文化の中心としての地位を占め，重工業も盛んで，市外にある鉄鋼工場は国内総産額の過半を生産している。市街はグアナバラ湾と丘陵地帯の間に位置し，港は風光明媚(めいび)で世界三大美港の一つに数えられている。港湾施設も整備されており，大形船を修理できるドックもある。ブラジル最大の貿易量を誇り，コーヒー・砂糖・タバコ・鉄鉱石などを輸出する。観光客も多く，特にコパカバーナ海岸は世界的に知られた海水浴場になっている。市街は商業・経済の中心をなす16世紀以来の旧市街と，近代建築が並び学問・文化の中心である新市街とに分けられる。1502年ポルトガル人ゴンサロ-コエリョによって発見され，1567年にポルトガル人が定住した。1822年にブラジル帝国の首都，1889年にブラジル共和国の首都になった。〔小栗　宏〕

リガ ［Riga］ ソ連西部，ラトビア共和国の主都。人口77万6,000(1974)。西ドビナ川下流，バルト海のリガ湾奥にある港市で，水陸交通の要衝をなす。車両・電機・化学・繊維などの工業が盛んで，この国の工業総生産の半ばを占める。科学アカデミーや大学・博物館もある。市の起源は1201年で，ハンザ同盟*にも加わりバルト海の沿岸貿易の商港として栄えた。1721年ロシア領となり，19世紀にはロシアの重要港の一つとなった。第1次・第2次世界大戦と再度ドイツに占領された。〔斎藤晨二〕

りが【李賀】(789～816) 中国，唐代の詩人。李長吉ともいう。早熟の天才で，短命に終わったが，独自の詩境を創造し，鬼才といわれた。詩風は耽美(たんび)的で色彩感覚に富む辞句を駆使して，奇怪で変幻，神話的な幻想の世界を造形したが，他方，きびしい現実批判も蔵していた。李商隠*・杜牧*(とぼく)らはその影響を受けた。

りかがくけんきゅうじょ【理化学研究所】 わが国の自然科学技術に関する総合研究機関の一。第1次世界大戦前後の政治的・経済的状況を背景に，高峰譲吉によって提唱され，官民多数の賛同を得て1917年(大正6)3月わが国ではじめての大規模な財団法人組織の総合研究所として創立された。初代所長は菊池大麓(だいろく)。3代所長大河内正敏(おおこうちまさとし)のとき，研究室制を敷き研究分野を拡張，また研究成果を利用して理研コンツェルンを形成，活発な活動を行なった。第2次世界大戦後，連合軍による財閥解体政策によって組織を解体されて科学研究所となり，以後数度の組織上の変遷を経たのち，1958年(昭和33)10月に理化学研究所法に基づき，政府および民間の出資金・寄付金などによって運営される科学技術庁管下の特殊法人組織の研究所となり，現在に至る。創立以来わが国の中心的研究機関として基礎から応用まで幅広い研究活動を行ない，日本の科学技術史上に大きな足跡を印しており，ノーベル賞を受けた湯川秀樹(ひでき)・朝永(ともなが)振一郎らをはじめ，すぐれた学者・研究者を生み出している。現在の人員規模は約610名，研究分野は原子核・物性物理・基礎工学・無機化学・有機化学・生物化学・農薬などの広い部門にわたる。所在地は埼玉県和光市広沢，ほかに東京都文京区本駒込(ほんこまごめ)および板橋区加賀に分所がある。〔宮川寿夫〕

りかしゅう【李花集】 宗良(むねなが)親王*の家集。1371年(建徳2・応安4)ごろ成立。親王が諸国を転戦した35年間の歌899首，他人の歌107首の1,006首からなり，春・夏・秋・冬(上)，恋・雑(下)に部立てされる。親王の歌は二条派*の流れをくむが，流離・苦闘の切実な体験に基づく真情の流露した作品が含まれ，読む者の心をうつ。本集から100首が《新葉和歌集*》にとられている。

リカード ［David Ricardo］(1772～1823) イギリス古典学派*の経済学者。オランダから移住したユダヤ人の株式仲買い人の子としてロンドンに生まれた。21歳のとき株式仲買い人として独立し，その手腕によってたちまち富裕になり，特にナポレオン戦争末期の物価変動を利用して巨万の富を手に入れ，農村に広大な土地を購入して，ジェントリとしての生活を送った。研究者としての教育をまったく受けていなかったため，一家をなし，産をなしてから独学で勉学した。はじめの著作は金融財政についての《金価格論》(1809)で，通貨の縮小を主張したが，反対論が多かったため，次いで《地金高価格論》(1810)を出版した。また《穀物法》をめぐるマルサス*との論争は有名であるが，それはマルサスが当時の地主層の見解を代弁していたのに対し，リカードは工場主ら産業資本家の立場を代表していたからである。J.ミル*の勧めによって書かれた《経済学および課税の原理》(1817)では，商品の価値はその生産に投下された労働量によって決定されるとし，A.スミス*の労働価値説*をいっそう徹底した説を展開した。彼の理論は新古典学派*に継承されるとともに，マルクス経済学の出発点となるなど後世に多大の影響を与えた。この間，イギリス財界で不動の地位を占め活躍する一方，アイルランドから下院議員に選出され，政界で働いた。著書は上記のほか，《低報価の資本利潤に対する影響》(1815)，《農業保護論》(1822)などがある。〔林　達〕

りかんりつ【罹患率】 罹病率・発病率ともいわれる。一定期間中の病気にかかった人数の，特定人口に対する比率。通常は人口1,000人に対しての罹患者数で表わすが，分母に全人口を用いたものは粗罹患率という。疾病(しっぺい)によっては，性別・年齢で

罹患する割合が大きく変動するものがあるため，このような因子を加味して罹患率を求めることがある(特殊罹病率)。しかし病気にかかっていることを判定するのが困難であったり，よく把握(はあく)されていなかったりすることもあり，実際の数を正確にとらえることは困難である。〔佐野隆志〕

りきがく【理気学】⇨朱子学

りきがく【力学】物体に作用する力と運動の関係を論ずる物理学の基礎的な部門。物体に働く力がつり合って静止しているときに，そのつり合いの条件について論ずる静力学は，古くエジプトやギリシアの時代にほぼ完成されたが，物体の運動とそれに働く力との関係を論ずる動力学は17世紀に至り，ガリレイやニュートンによって初めて完成され，古典力学とよばれる体系を形成した。これは地上物体や惑星の運動についての研究から発見され，同時にその有効性が示されたが，のちに弾性体や流体などに対しても応用されてそれぞれ弾性体力学や流体力学を生み，さらにその熱現象への適用は統計力学を築いた。古典力学の基本的な法則はニュートンの運動方程式によって記述され，それはある時刻での物体の運動状態(位置・速度)が知られると，過去および未来の全時刻にわたる運動が一義的に決定されてしまうという構造をもつ(→因果律)。

力学の方法の特徴は，複雑な構造をもった対象を，単純な構造をもった基本的要素(たとえば質点*)へ還元し，後者の運動を論ずることによって前者を理解しようとする点にあり，これは力学に対する数学的方法の適用を容易にするとともに，力学を物理学の基礎的な部門としているものである。このような力学的方法の特質は物質構造についての科学である量子力学*へもひきつがれている。古典力学の成功は，すべての自然現象を力学的な機械的運動に還元しようとする，いわゆる力学的自然観を生んだが，しかし19世紀以後，熱学や電磁気学の発展はこのような自然観を否定し，さらに20世紀にはいるや，古典力学における時間空間の概念を変革した相対性理論*や，古典力学の因果律とはまったく異なった因果性の解釈を物理学にもちこんだ量子力学などを生んだ。〔荒牧正也〕

りきがくてきエネルギー【力学的エネルギー】力学的状態によって定まるエネルギー。質点の運動に伴って現われる運動エネルギー*と，質点の位置によって定まる位置エネルギー*に分けられる。摩擦や抵抗のない運動では，物体の力学的エネルギーの総和は一定に保たれる(→エネルギー保存の法則)。

りきしょっき【力織機】動力を利用する機械化された織機。手工の手織機に対する語。1785年イギリスのE.カートライト*が，織機の機械化に成功したのに始まる。構造の主要部分は，たて糸の開口装置，よこ糸の投入装置，よこ糸の打ち込み装置と，たて糸巻きを送り出す装置，および織られた布の巻き取り装置からなる。近来は自動的によこ糸を替える自動織機も利用され，大量で均一な織物を織るようになった。

りきせき【力積】物体に働く力とそれが作用する時間との積。運動の状態を変化させるのに，どれだけ強く，またどれだけ長く力を加えたかのめやすとなる量。運動の第2法則によれば，物体に力が作用するとき〔力〕=〔質量〕×〔加速度〕の関係がなりたつが，一定の力が一定の時間作用したとき上式の右辺は〔質量〕×〔速度の変化〕/〔時間〕=〔運動量の変化〕/〔時間〕と書き換えることができるから〔運動量の変化〕=〔力〕×〔時間〕=〔力積〕となる。すなわち力積は運動量の変化に等しい。この関係は力 F が時間とともに変化する場合もなりたつ。この場合力積は $\int F(t)dt$ で表わされる。〔有山正孝〕

りきせつ【理気説】宋学(そうがく)，特に程伊川*(ていいせん)によって唱えられ，朱子*によって発展させられた宇宙・万物の生成原理についての説。〈理〉の字はもと玉の筋目を意味したが，ひいては事物の構造や法則のこととなり，さらに事物の成立原理を意味するに至った。その後華厳(けごん)哲学の用語として理は体，事は用といったが，これを程伊川が儒教の道徳哲学に取り入れ，次いで朱子学*の用語となった。朱子学では，自然現象と人間行為とを一括してその現象の側面を〈気*〉とよび，その現象の〈然(しか)る所以(ゆえん)の原理〉と〈当(まさ)に然るべき規範〉とを同じ一つの〈理〉とよんだ。そして，理は天*そのものであると同時に人間のうちなる性*そのものであるということによって，道徳規範の自律性と道徳内容の客観性とを説いたのである。〔西　順蔵〕

リキテンシュタイン［Roy Lichtenstein］(1923〜　)アメリカの画家。オハイオ州立大学で美術を学び，卒業後母校で教鞭(きょうべん)をとる。ポップ-アート*の代表的な作家のひとりとされ，日常的な主題を現代アメリカ文化の象徴として取り上げた。作風は，巨大なハンバーガーやタイヤ，〈こまもの漫画〉の一部を拡大した作品，ポリバケツなど，印刷技術を取り入れた手法でオブジェのように描いた作品群に最もよく示されている。

リキニウスほう【リキニウス法】古代ローマの法。BC377年ローマの護民官リキニウスとセクスチウスが提案し，10年の政争ののち，BC367年ようやく元老院の承認を得た法案(平民会決議)で，提案者の名をとってリキニウス-セクスチウス法ともよぶ。内容は，①借財について利息として支払われた金額を元金から差し引き残額を3か年の分割払いとする，②何人も500ユゲルム(1ユゲルムは約2,500m^2)以上の公有地を占有してはならない，③これ以後執政官の1名を必ず平民(プレブス)より選ぶというものであった。ウェイイとの戦争やBC387年のケルト人の侵入などの戦後の混乱のため，ローマ市民の貧富の差がはなはだしくなり，国家は危機に直面し，それを救うため，大土地所有の形成をおさえ，貴族(パトリキ)と平民との政治的平等などを実現しようとしたものである。しかし実際に執政官になった者は平民の富裕な上層で，彼らと貴族との政治的結合によるノビレスとよばれる新たな貴族が形成されて共和政末期まで政治を牛耳った。提案者のリキニウスもそうした有力者のひとりで，みずからの提案した公有地占有制限を越えたため処罰されたほどの大土地所有者であった。〔弓削　達〕

りきゅう【離宮】皇室の別宮として特に定められた宮殿。皇室所有の離宮として赤坂離宮*・浜離宮(→浜離宮庭園)・霞が関(かすみがせき)離宮(東京都)，函根(はこね)離宮(神奈川県)，武庫離宮(兵庫県)，桂(かつら)離宮*・修学院*離宮(京都市)などがあり，天皇行幸先の宮殿として使用されていたが，第2次世界大戦後これらはそれぞれの都県に下賜になり，公園などとして一般国民の利用に供され，またあるものは国の施設として利用されることになった。現在国有財産として皇室の用に供されている離宮には桂・修学院の両離宮があるが，その庭園は日本の代表的な名園として有名で，国賓などの来日に際しその接伴場として使用されている。〔小林玄典〕

リキュール［liqueur］アルコールを主原料とし，砂糖・エッセンス・色素などを加えてつくる混成酒の総称。コーディアルともいう。そのまま飲み，またはカクテル用とする。粘稠(ねんちゅう)な甘味の強い酒で，糖分30度以上，アルコール分30〜50度。各国でつくられるが，オランダとフランスが著名である。加えるエッセンスにより名称が異なり，多くの種類があるが，次のものがよく知られる。

〔種類〕①キュラソー：オレンジの皮をエッセンスとしたリキュールで，甘味が強くかおりがよい。本来は西インド諸島産のキュラソーオレンジの皮を入れてかおりをつけたので，この名がある。アルコール分は甘口30度内外，辛口37度内外で，ふつう赤色と無色とがある。フランスのコアントロー社の製品は，社名でよばれ，特に名高い。②キュンメル：ヨーロッパ北部の地方の名産種。キャラウェイシーズ(ドイツ語でキュンメル)を主香料とし，かおりが高く渋みがある。③クレーム類：特に濃くつくった糖度の高いリキュール類で，おもにカクテルに用いる。主香料の名称によりクレーム-ド-カカオ(ココアを入れたもの)，クレーム-ド-モカ(コーヒー)，クレーム-ド-ミンツ(ハッカ)，クレーム-ド-アナナス(パイナ

ップル)などとよばれ，種類が多い。④ゴールドリキュール：本来ポーランドのダンチヒの産で，産地名でもよばれる。糖度が高く，金箔(きんぱく)入りで，注ぐと光って美しい。⑤シャルトルーズ：フランス産で，黄・緑・無色の3種があり，糖分は25度，アルコール分は黄43度，緑55度，無色は70～80度。レモンの皮，ハッカ，セネガ*の根，ヨロイグサなどのかおりをつけてある。⑥スロージン：スローベリーの実の成分を加えたもので，濃い赤ぶどう酒色を呈する。糖分50度内外，アルコール分30度内外。⑦チェリーブランデー：桜桃の果実，オレンジの皮などを加えてつくる。なお，アルコールの代わりに桜桃を発酵させて蒸留したブランデーを用いたもの，あるいは桜桃の果汁(かじゅう)を加えたものもある。アルコール分は24度。⑧チナール：イタリア産。おもにチコリ*を配合し，苦みがある。⑨ベネディクチン：フランスの最も古いリキュールの一。アンゼリカ*を主香料とし，ハッカその他を加える。ベネディクト会の修道院でつくられたが，現在は一般にもつくられる。芳香のある強壮酒で糖分35度内外，アルコール分43度内外。⑩ペパーミント：セイヨウハッカを主香料とし，オレンジの皮，アニス油・メリッサ油などを配合する。さわやかなかおりをもち，ふつう青緑色に着色し，ほかに赤色・無色のものもある。カクテルや冷たい菓子類に用いられる。⑪マラスキーノ：チェリーブランデーの一種で，黄色と赤色とがある。ユーゴスラビアのダルマチア地方に産するマラスキーノ種の桜桃のかおりが強い。糖分20度，アルコール分30度内外。〔住江金之〕

りぎょ【李漁】(1611～？) 中国，清(しん)初の戯曲作者。李笠翁(りりゅうおう)ともいう。晩年，西湖のほとりに閑居，湖上笠翁と号した。戯曲・小説をつくり，《風箏誤(ふうそうご)》《奈何天(なかてん)》などの10種の戯曲(これを《笠翁十種曲》という)や，短編小説集《十二楼》(別名《覚世名言》という)などがあるほか，好色小説《肉蒲団(にくぶとん)》もその作だという。また随筆集《閑情偶寄》6巻があり，その第1巻の詞曲部，第2巻の演習部は，演劇理論の書として有名。〔今村与志雄〕

りきりつ【力率】 正弦波交流における電圧と電流の間の位相差をθとしたときの$\cos\theta$のこと。交流電源が発生する交流電力または負荷が消費する交流電力は，電圧の実効値と電流の実効値との積よりも一般に小さい。これは，回路のリアクタンス*によって電圧と電流の間に位相差があるためである。電圧と電流の積を皮相電力W(VA)といい，Wのうち有効に使用される分$p=W\cos\theta$(W)を有効電力あるいは単に電力といい，$Q=W\sin\theta$(バール)を無効電力という。〔田村康男〕

りくう【陸羽】(？～804) 中国，唐代の人。字(あざな)は鴻漸(こうぜん)。顔真卿(がんしんけい)の保護を受け，浙江(せっこう)省の茗渓(めいけい)に住んだ。《茶経》3巻の著者として有名で，そのため茶道の祖といわれ，茶神として祭られた。

りくうせん【陸羽線】 小牛田(こごた)～新庄(しんじょう)～余目間の国鉄路線で，新庄を境として，陸羽東線と陸羽西線に分かれる。営業キロ数東線94.1，西線43.0。1913(大正2)～1917年開業。奥羽地方の横断鉄道の一つで，最上(もがみ)川の中・下流部(庄内(しょうない)平野・新庄盆地)と江合川(北上川の支流)流域を結び，東北本線・奥羽本線・羽越本線を連ねている。なお，陸羽線の名称は1931年(昭和6)まで現在の陸羽東線のみをさすもので，西線は当時酒田線と称していた。〔青木栄一〕

りくうんぎょう【陸運業】 旅客・貨物の陸上運送を業務とするものをいう。そのおもなものは，鉄道業と自動車運送業である。第2次世界大戦後わが国の旅客・貨物の陸上運送量は，急速な経済成長と輸送機関の発達に伴って急増したが，旅客輸送・貨物輸送ともに自動車輸送の伸びが著しく，国鉄・私鉄などの鉄道輸送の伸びをはるかに上回っている。自動車輸送が急増したのは，非弾力的な鉄道輸送の不足を補うためのみならず，長距離ハイウエーの建設，都市およびその周辺道路の整備によって，機動性に富んだ自動車輸送力がより効率的に利用できるようになったためである。この傾向を反映して，陸運業の中で自動車運送業の比重は増大しつつあり，路線トラック業，区域トラック業，バス業，ハイヤー・タクシー業はめざましい成長を遂げている。これに対して，貨物・旅客輸送に占める鉄道，特に国鉄の比重は低下し，貨物では長距離低級貨物，旅客では長距離通勤通学客の割合がふえ，路線では東海道新幹線の利用が著しくふえている。しかし，陸運業界にとって今後の発展への障害は，近年の要員不足と人件費上昇である。特に鉄道業，ハイヤー・タクシー業などは運賃が公的に規制されているため，運賃引き上げをめぐってしばしば政治問題が発生していることは周知のとおりである。➔運輸業〔原　豊〕

りくえふ【六衛府】 ⇨衛府

りくえんたい【陸援隊】 幕末，土佐藩郷士中岡慎太郎*(しんたろう)が組織した尊攘(そんじょう)派の軍隊。薩長(さっちょう)同盟*が成立して討幕運動*が具体化するに伴い，坂本龍馬*(りょうま)の海援隊*結成に呼応して，1867年(慶応3)4月組織された。土佐藩の経済的援助を受けて京都藩邸内に置かれ，幕府の尊攘討幕派弾圧に対抗するとともに討幕運動の推進力たらんとした。中岡を隊長として，隊士は諸藩の志士および大和(やまと)(奈良県)十津川郷士ら50余名。同年11月中岡は坂本とともに暗殺されたが，隊は王政復古の際高野山に拠(よ)って，親藩の紀伊(きい)藩を牽制(けんせい)する役割を果たした。〔高崎徳次〕

りくき【陸機】(261～303) 中国，六朝(りくちょう)時代，晋(しん)の詩人。三国時代，呉の名門の出身で，呉の滅亡後，郷里で学問に励み，《弁亡論》《文賦》などをつくった。弟の陸雲(262～303)も文名があり，ふたりとも晋に仕え，二陸と称された。

りくぎ【六議】 〈ろくぎ〉とも読む。律令(りつりょう)制下，律*において最も有利な特典を受ける資格を有する者。養老律によれば，議親・議故・議賢・議能・議功・議貴をいう。〈議親〉は天皇の5等以内の親族，太皇太后・皇太后の4等以内の親族，皇后の3等以内の親族，〈議故〉は天皇の故旧(古い知り合い)，〈議賢・議能・議功〉は大徳行・大才芸・大勲功ある者，〈議貴〉は三位以上の貴族である。六議にあたる者が八虐(謀反(むへん)・謀大逆・謀叛(むほん)・悪逆・不道・大不敬・不孝・不義)以外の死罪を犯したときは太政官(だじょうかん)の大納言以上，刑部(ぎょうぶ)省の少輔(すけ)以上の官人が刑を合議して勅裁を仰ぎ，また六議の祖父母・父母・兄弟姉妹が同じ罪を犯したときは上請した。六議が流(五刑〔笞(ち)・杖(じょう)・徒(ず)・流・死〕の一)以下の罪を犯したときは罪一等を減ずると規定している。〔高崎徳次〕

りくぎえん【六義園】 東京都文京区本駒込(こまごめ)町にある回遊式築山庭園。面積99,997m²。1695年(元禄8)5代将軍徳川綱吉(つなよし)が老中格の柳沢吉保(よしやす)に与えたものといわれ，その後吉保が7年の歳月をかけて造園したものである。池の水源に江戸三大上水の一つといわれた千川上水を引いていた。明治になって岩崎弥太郎(やたろう)の別邸となり，1938年(昭和13)年東京市に寄付され公開されるようになった。かつて園内の名勝地88か所には，中国の名所や歌枕(うたまくら)に見立てた呼び名がつけられていたが，現在は吹上ノ茶屋・心泉亭(てい)・蓬萊(ほうらい)島・渡月橋・紀ノ川・つつじ茶屋・千鳥橋などがわずかに残っているにすぎない。〔菊池万雄〕

りくぐん【陸軍】 軍制上の区分による軍隊の一軍種。おもに陸戦(陸上戦闘)に任ずる。軍種の区分は各国により異なる。たとえば，海軍の中にも陸戦に任ずる海兵隊があり，陸軍にも海上輸送を行なう船舶兵がある。対空戦闘部隊は通常各軍に分かれているが，防空軍として一軍種の国もある。

【沿革】 原始社会では全員が戦闘員であり，徒歩兵が戦闘の主役であった。また，都市国家時代でも同様であり，ギリシアでは紀元前5世紀ころから傭兵(ようへい)となり，精兵を保持して，領土の拡張や敵の侵略に対抗した。7世紀ごろから乗馬兵が徒歩兵に代わって陸戦の立て役となった。10世紀に分権的封建制度が成立すると，各国は陸軍とよばれるような集団的組織はもたず，少数

精鋭の騎士団の個人的勇気と武技に依存するようになった。ところが11世紀になると，ビザンチン帝国マケドニア王朝では歩兵の密集部隊を主とする強大な陸軍をつくり，これらの騎士団を圧倒した。さらに，このころから大砲や小火器が発達したので，これら兵器を組織的に使用する歩兵が最も戦力をもつ部隊となっていき，17世紀には砲兵・工兵という兵種が生まれた。輜重(しちょう)兵科ができたのは19世紀後半になってからである。この間に各国も集権的封建体制に変わり，強力な陸軍部隊の維持に努めた。フランス革命を転機として徴兵による国民軍隊が出現した。また，火器の進歩とあいまって大規模な師団・軍団を編成する陸軍軍制が進み，大陸諸国の軍備は陸軍の拡充によって強大となった。第1次世界大戦は交戦兵力の増大，兵器・戦略戦術の進歩により陸戦史上の一大変革をなすものであった。しかし，戦争が世界的規模にまで拡大されると，軍備は陸軍だけでなく海軍との均衡のとれたものが必要となった。各国はその地政学的地位や歴史的伝統によって陸軍を主とし海軍を従とするか(陸主海従)，海軍を主とするか(海主陸従)が決定された。第2次世界大戦では各国とも陸・海・空軍の均衡に留意して軍備を整えた。しかし，空軍のすばらしい発達により，制空権の獲得が海戦には決定的意義を，また陸戦にも大きな影響力をもたらすようになった。陸戦においては，第1次世界大戦で芽を吹いた戦車が成長して主要戦力となり，新しい部隊としては空挺(くうてい)・空輸部隊が出現した。軍事技術の進歩は兵器技術を著しく精巧にし，仕事が分業的となり，多くの兵種*あるいは特技区分を生ずるようになった。第2次世界大戦後は核兵器とミサイルの開発により，在来型陸海軍無用論さえ唱えられた。しかし，現在では核保有国およびこれと集団防衛体制内にある国の多くは，核戦争と非核戦争の両方に応じられるよう戦備を整えている。そこで，核戦争に応ずる地上部隊の新編成は，損害を極力少なくするため軽快に集合離散ができることを眼目とし，歩兵師団においても，人員を減少して，火力装備の強化や機械化を促進し，ヘリコプターによる人員・兵器・補給物資の局地輸送能力，掩護(えんご)施設構築の土工能力などの増大に努めている。一方，核兵器による全面戦争抑圧の逆作用として局地制限戦争が続発しているので，非核戦にも応ずる戦備が必要となっている。また，非同盟・中立諸国の軍隊はだいたい在来型であり，アメリカ・ソ連など大国の余剰兵器をもって近代化に努めている。

【各国軍隊の現況】アメリカ陸軍は，1968年末現在，正規軍約152万(3軍の総兵力約347万)，航空機9,500機，地対地ミサイル38大隊，対空ミサイル18大隊，特殊部隊などのほか，国内に州兵をもっている。正規軍の大部分は志願兵であり，あとは選抜徴兵である。陸軍長官は軍政・兵站(へいたん)の責任をもち，軍令については陸軍参謀長が補佐する。1966～1967年度は，現役17個師団，装甲騎兵連隊5，独立騎兵空挺旅団10である。アメリカ本国には戦略機動師団数個が待機し，主力は目下南ベトナムと西ヨーロッパに派遣され，一部がスエズ・ハワイ・沖縄・韓国(かんこく)などの配置についている。

ソ連の国防軍は，1962年末推定約320万，うち地上軍は約200万の約140個師団で，地上軍は狙撃(そげき)・戦車・ロケット砲兵・工兵・通信兵・空挺兵・化学兵などの兵種からなる。部隊はアメリカ軍同様，核・非核戦用に準備されている。地上軍司令部は，海軍・空軍・防空軍・戦略ロケット軍司令部と並列して国防省に属する。この軍種区分が他国と異なった特色である。

中華人民共和国の軍隊は陸軍が主力であり，海・空軍は弱体である。軍の統帥権は国家主席にあり，そのもとに国務院内の国防部が軍政を，中国人民解放軍総部が軍令を実施する。しかし，実権は党の中央軍事委員会にあるといわれている。解放軍総部の中に総参謀部・総政治部・総後方部および海軍・空軍・砲兵・装甲兵・通信兵・空挺兵・鉄道兵などの各司令部が併立している。軍主力が陸軍であるので陸軍司令部を設けていない。正規軍総兵力は推定約225万の115個師，民兵約3,000万といわれる。民兵は16～45歳の男子および35歳までの女子に服役義務があり，人民公社*・大工場・鉱山・学校などを合して地域ごとの民兵師を編成し，これらを各省市の人民武装部が指揮している。

イギリスは，国家の安全保障をNATOの軍事力と関係国の政治的団結に依存し，スエズ以東の海外派兵を削減するとともに兵備を逐次縮小している。1967年末の総兵力42万のうち陸軍は19万6,000である。

その他の小国の陸軍兵力は次のとおりである。フィンランド34,000，スウェーデン現役47,000，召集中の予備兵力75,000，ノルウェー18,000，デンマーク28,000，アジアではカンボジア45,000，タイ95,000，台湾37万2,000，韓国は総兵力62万(うち陸軍55万)で，目下民兵約200万の編成中である。南ベトナムは，正規軍総数41万(うち陸軍37万)，ほかに補助兵力32万5,000(地方部隊・民衛隊・市民警察隊)をもつ。以上のように，一般には正規部隊の兵力は多くないが，それに比べて相当な補助部隊・予備兵力を準備する傾向にある。

【日本の陸軍】大和(やまと)朝時代には天皇みずから兵権を掌握し，皇族を四辺に派遣して征討に努め，4世紀の半ばには日本全土を統一した。その後しだいに地方豪族間の権勢争いが強まったので，6世紀末から諸制度を改正し，645年の大化改新で中央政府の権力を強化するとともに兵部省を設けて政治と軍事を分離した。次いで701年(大宝1)の大宝令(たいほうりょう)(→大宝律令)により軍団の制を定め，約10万の壮丁を兵士として徴集した。軍団の兵士で毎年交替して都の警備にあたる者を衛士*(えじ)，3年ごとに交替して辺境の警備につく者を防人*(さきもり)と称した。くだって平安末期になると世の中は大いに乱れたが，源頼朝(よりとも)がこれを平定し，1192年(建久3)征夷(せいい)大将軍に任ぜられ，鎌倉に幕府を開いた。このとき以降約700年間兵権は武門に帰し封建制をとることとなった。16世紀の戦国時代には，群雄が割拠して相争い戦法・装備は著しく進歩した。やがて織田・豊臣(とよとみ)氏を経て徳川家康(いえやす)の代になり，1603年(慶長8)江戸に幕府が開かれ侯藩の制により兵制が整えられた。しかし，その後は鎖国と泰平が続いて兵備はすこぶるゆるんだ。江戸時代の末期，対外関係の緊迫した情勢によって覚醒(かくせい)した幕府は，西洋の兵制を採用し，1862年(文久2)陸軍奉行(ぶぎょう)を置き，兵制の一変を図った。しかし，諸藩の制度はそれぞれ異なり，国として統一できなかった。1867年幕府の政権奉還により兵権が天皇に帰ると翌1868年(明治1)政府は陸海軍局(のちに兵部省)を設け，1869年には諸藩の常備兵力や編成を定め，陸軍はフランスの制度を採用して諸藩の兵制統一を図った。1871年には廃藩置県*があり，御親兵(のちの近衛兵*(このえへい))を設け全国に4鎮台を置いた。1872年兵部省を廃止して陸軍省・海軍省として徴兵制を定めた。1873年全国を区分して6軍管区とし，おのおの鎮台を置き徴兵を召集した。当時の平常兵員数は約37,000。西南戦争*(1877年)では新陸軍としてはじめての実力を発揮した。翌1878年新たに陸軍業務を三大別して陸軍省・参謀本部・監軍本部を設け逐次兵備を拡張し，1889年の憲法発布により近代軍としての軍制を確立した。その後日清(にっしん)・日露戦争その他の事変で勝ち，ますます精鋭な軍隊となったが，ときには軍縮による兵力の削減も行なわれた。太平洋戦争開始前の兵力は約60師団と航空約150中隊を基幹としたが，1945年終戦後の陸軍復員兵力は約550万であった。➔軍隊 ➔軍備 〔森田 哲〕

りくぐんしかんがっこう 【陸軍士官学校】 陸軍将校を養成する学校。1874年(明治7)東京の市ケ谷(いちがや)に開設し，当初第11期までの士官生徒を，次いで第59期までの士官候補生を卒業させた。学校制度はしばしば改正されたが，1920年(大正9)中央幼年学校を予科とし，もとの士官学校を本科とした。予科生徒は幼年学校卒業者のほか一般応募者の中から選抜した。別に准士官・下士官から選抜した少尉候補者，現役を志願する特別志願将校*，外国留学生などの教育も実施した。1937年以降は，再び予科・本科が分離し，航空士官学校も独立し



陸上競技　男子200m決勝　第10回ヨーロッパ選手権大会　1971　ヘルシンキ

た。教育は現役初級将校に必要な軍事学と術科であり，特に精神教育を重視してエリート養成に努めた。なお，幹部候補生の教育は前橋(群馬県)・豊橋(とよはし)(愛知県)・久留米(くるめ)(福岡県)にある陸軍予備士官学校で実施した。〔森田　哲〕

りくぐんしょう　【陸軍省】　日本陸軍の軍政を管理していた中央機関。1872年(明治5)兵部(ひょうぶ)省*の廃止に伴って設けられた。その長官は陸軍大臣で内閣員に列した。大臣の現役武官制については，しばしば政治問題となったが現役将官以外の者から任命されたことはない。軍政事務は一般国務に属するものと，統帥・編制事項に関するものがあり，前者は閣議にかけるが，後者は閣議に示すことなく処理された。陸軍省官制は変遷があるが，1942年(昭和17)の改正に大臣官房および人事・軍務・整備・兵務・経理・医務・法務の各局を置き，航空本部・兵器行政本部を外局とした。〔森田　哲〕

りくぐんだいがっこう　【陸軍大学校】　陸軍の高等用兵に関する学術(主として戦略)の研究・教育を行なった学校。1883年(明治16)東京の青山に開校した。初期の約10年間，メッケル少佐をはじめプロシア将校が教育指導したので，その思想が日本兵学の源流として大きな影響を与えた。正科学生は全軍から優秀者を選抜したので，卒業後は進級も早く，要職を歴任した。別に専攻学生・専科学生制度がとられた時期があった。〔森田　哲〕

りくぐんようねんがっこう　【陸軍幼年学校】　将来陸軍の士官候補となることを志願する少年から選抜し，準備教育を実施した学校。1872年(明治5)開設，1896年陸軍中央幼年学校と改称，同時にその下級学校として仙台(せんだい)(宮城県)・広島・大阪・熊本・名古屋(愛知県)・東京の6か所に地方幼年学校を設けた。教育の特色は軍人精神の涵養(かんよう)とエリートの養成であった。

りくげい　【六芸】　中国古代の支配階級の基本教養で，礼・楽・射・御(馬術)・書・数の六つの技芸。これは《周礼*(しゅらい)》に基づいている。のちに，儒家では六つの経典，《礼》《楽》《書(尚書(しょうしょ))》《詩(詩経)》《易》《春秋》の総称とされた。しかし，楽経は亡逸したので，その後は残りの五経が経典*とされるに至った。

りくけいとう　【陸繋島】　砂州*によって陸地と連結した島をいう。島あるいは陸地に働いた強力な海食作用の結果，侵食された物質が運搬・堆積(たいせき)されて陸地との間に砂州を生じてできた。この砂州は陸繋砂州またはトンボロという。男鹿(おが)半島，博多(はかた)湾の志賀島，紀伊(きい)半島先端の潮岬(しおのみさき)，函館(はこだて)山，江の島，ジブラルタル岬，喜望峰などの例がある。

りくしょ　【六書】　中国，後漢の許慎*が，中国最古の漢字を解説した書である《説文解字*》をつくった際に，その後序の中で漢字のなりたちを6種に分けて説明した。これを六書(書とはかきつける文字のこと)という。その内容は，①象形文字*(日・月など)，②指事文字(上・下など象徴的な記号を用いた字)，③会意文字(〈戈(ほこ)＋止(あし)＝武〉〈人＋言＝信〉などの組み合わせ文字)，④形声文字(諧声ともいう。〈水＋音符可＝河〉〈水＋音符工＝江〉など，発音を示す音符を添えた字)。以上の4者が本式の造字法である。さらに⑤転注文字(考～老のように，意味の上であい通じて代用できる字)，⑥仮借(かしゃ)文字(ある種のほこを表わす〈我〉を，〈nga(ガ)＝一人称代名詞〉にあてて用いるようなあて字の用法)を加えて6種となる。➔漢字　〔藤堂明保〕

りくじょうきょうぎ　【陸上競技】　トラックとフィールドおよび路上などで行なわれる競走・競歩・跳躍・投擲(とうてき)・混成競技の総称。オリンピック競技の代表的種目。

【沿革】陸上競技は，走る，跳(と)ぶ，投げるという身体運動の三つの原型からなりたっている。この三つは，人類のはじまりとともにあり，他の人間や部族，自然とのきびしい生存競争の中で，生命を守り，食糧を確保し，子孫を育てるために，欠かすことのできない生活の手段であり，技術であった。それが，今日考えられるような，一定の規則に基づいた競技として歴史に現われたのは，古代ギリシアにおいてであるとされる。そこでは，神々が競技を求め，住民も進んで神に競技をささげた。よく走り，よく跳び，よく投げることは，英雄となる最も重要な条件の一つとされ，戦勝の祈願や祝賀また英雄の死をたたえるためにも，しばしば競技が行なわれた。それは，主として祭典競技であったといえる。したがって，それは厳粛な行事であり，ただひとりの勝利者を選ぶために生命をかけて争う戦いであり，競技者自身の楽しみのために行なわれるものではなかった。しかも，勝利者にはただ一つのゲッケイジュの葉で編んだ冠が与えられるだけであった。その典型が古代オリンピックである。それは，BC 776年に始まったとされているが13回大会までは1スタジオン(192.3 m)の短距離競走だけであった。14回大会から中距離競走(2スタジオン)，15回大会から長距離競走(14～48スタジオン)がはいり，18回大会から五種競技(短距離・立ち幅とび・円盤投げ・槍(やり)投げ・レスリング)が加わるというように，競走競技を中心に発達し，古代ローマ帝国に征服されるまで，170余回行なわれた。

これが，近代スポーツとして復活，再生したのはイギリスにおいてである。イギリスでは，1650年代にすでに記録を対象にした長距離競走が行なわれている。それは主として，賞金をめあてにした走丁や学生・将校たちの競走であった。1817年には最初のスポーツクラブ〈ネクトン-ギルド〉が生まれ，1800年代の前半には学校生活に採用され，世界最古の対抗競技会，オックスフォード対ケンブリッジ戦が始まっている。また1866年にはロンドン-アスレティッククラブではじめての世界選手権大会が開かれており，アメリカ・カナダなど旧イギリス領植民地を通して世界的な規模で普及した。1912年，17か国が参加して国際陸上競技連盟(IAAF)が誕生した。そして，1896年にスタートしたオリンピック大会は，陸上競技の普及・発展に決定的な役割を果たした。現在，国際陸上競技連盟加盟国は137か国である。

【日本の陸上競技】明治の文明開化とともに，アメリカとイギリスからまず軍隊に輸入され，1874年(明治7)東京築地の海軍兵学寮で，イギリス人教官の指導により日本ではじめての陸上競技会が〈戦闘遊戯〉の名称で開かれた。種目は少年の短距離が雀雛出巣(じゃくすうしゅっそう)，中距離が秋鷹群翔(しゅうようぐんしょう)などとよばれた。翌年イギリス人のストレンジが旧制第一高等学校の教師として来日し，1883年に第1回校内運動会を開いて13種目の陸上競技を行なっている。また1878年には札幌(さっぽろ)農学校でクラー

クらアメリカ人教師によって第1回遊戯会の名で陸上競技を行ない，1886年に三田の慶応義塾(ぎじゅく)で第1回遊戯会を開いている。これが基礎となって，高校・大学を中心に普及し，1901年には東大運動会において藤井実が棒高とびで3m90の当時の世界新記録をつくった。1912年第5回オリンピック-ストックホルム大会に三島弥彦(いやひこ)(短距離)，金栗四三*(かなぐりしそう)(マラソン)を送ったのが大きなきっかけとなって，日本の陸上競技は普及した。1911年に大日本体育協会(現日本体育協会)が創立され，対外的には1913年(大正2)から始まった極東選手権大会，4年ごとのオリンピック大会，国内的には1913年からの日本選手権大会，その後の学生選手権大会などが刺激となり，陸上競技は急速に発展した。

1924年の第8回オリンピック-パリ大会では織田幹雄(おだみきお)が三段とびで6位，1926年の第2回国際女子陸上競技大会では人見絹枝*が最高個人賞，1928年の第9回オリンピック-アムステルダム大会では織田幹雄が三段とびで優勝，人見絹枝が800mに2位，次の第10回ロサンゼルス大会では三段とびに南部忠平が優勝，大島鎌吉(けんきち)が3位，棒高とびに西田修平が2位，走り幅とびに南部忠平が3位。1936年の第11回ベルリン大会では三段とびに田島直人(なおと)が16m0の世界新で優勝，マラソンで孫基禎(そんきてい)が優勝したほか，西田修平が棒高とび2位，原田正夫が三段とび2位，南昇龍(しょうりゅう)がマラソン3位と，黄金時代を築いた。

しかし，第2次世界大戦は，日本の陸上競技を再び振り出しにもどし，世界の陸上競技の進歩からとり残されてしまった。オリンピックでは，1964年(昭和39)東京大会，1968年メキシコ大会で円谷(つぶらや)幸吉と君原健二がマラソンで3，2位になっただけで，世界ランキング50傑を見ても，マラソンを除くと日本選手の名はまことに少ない。

【競技の概要】国際陸連が世界記録を公認する種目には男子56，女子25。日本記録が公認されるのは，これらの中からヤード・マイル競技を除き，スウェーデン-リレーと，時間競歩を加えた男子42，女子16種類であるが，このほかに，マラソン・クロスカントリー，日本独特の駅伝競走などがある。

【世界記録の公認される種目】男子の種目は以下のとおり。①競走：100m・200m・400m・800m・1,000m・1,500m・2,000m・3,000m・5,000m・10,000m・20,000m・25,000m。100ヤード・220ヤード・440ヤード・880ヤード・1マイル・2マイル・3マイル・6マイル・10マイル・15マイル・1時間。②障害：110m・200m・400m・120ヤード・220ヤード・440ヤード・3,000m障害物。③リレー：4×100m・4×200m・4×400m・4×800m・4×1,500m。4×110ヤード・4×220ヤード・4×440ヤード・4×880ヤード・4×1マイル。④競歩：20,000m・30,000m・50,000m・20マイル・30マイル・2時間。⑤跳躍：走り高とび・走り幅とび・三段とび・棒高とび。⑥投擲：砲丸投げ・円盤投げ・槍投げ・ハンマー投げ。⑦混成競技：十種競技。女子の種目は以下のとおり。①競走：60m・100m・200m・400m・800m・1,500m。100ヤード・220ヤード・440ヤード・880ヤード・1マイル。②障害：100m・200m。③リレー：4×100m・4×200m・3×800m。4×110ヤード・4×220ヤード・3×880ヤード。④跳躍：走り高とび・走り幅とび。⑤投擲：砲丸投げ・円盤投げ・槍投げ。⑥混成競技：五種競技。

【進歩の要因】陸上競技は，近代スポーツの中で最も早く発生・普及したこともあって，オリンピック・地域選手権・各国内選手権などの諸大会はこれが中心的な地位を占めてきた。それに，記録があって，客観的な比較の対象としやすく，また手軽にできるという点も見のがせないし，なによりも，走・跳・投はあらゆるスポーツの基礎である。これらの条件が重なって，激しい競争を生み，それがすぐれた人材を集め，新しいトレーニング法を生んで，スターティング-ブロックやグラス-ファイバーのポールなどにみられる器具の改良，新しい走路の開発などの進歩を促してきた。事実，近代スポーツ-トレーニングの主流をなしているインタバル・レペティション・コンディショニング・ウェイト-サーキットといったトレーニング法も陸上競技界で先鞭(せんべん)がつけられ，世界のすぐれたスポーツ科学(生理学・心理学，トレーニングなど)も陸上競技を対象として開発されてきた。

特に，合成樹脂加工をしたタータン-トラックの出現によって100mに9秒台時代の到来したことも見のがすことができない。さらに走り高とびで背面とび(メキシコで優勝したフォスベリーの名をとってフォスベリー-フロップとよばれている)が現われ，走り幅とびで回転運動を入れて記録を伸ばすくふうがあり，ハンマー投げで4回転ターンが研究されるなど，新しい技術が次々と開発されている。〔伊東春雄〕

りくしょうざん【陸象山】(1139～1192) 中国，宋(そう)代の儒者。名は九淵(きゅうえん)，字(あざな)は子静，象山は号。江西省金溪(きんけい)の人。官僚でもあったが，道徳思想家として同時代の朱子*と対立し，朱陸と称された。彼の学を陸学といい，明(みん)代に朱子学*を批判した王陽明*の学風のもとになったというので陸王学の名もある。その学説は朱子学の〈性即理〉に対し〈心即理〉を中心とし，道徳実践のためには経書の精読や客観的条件の攻究よりは，本心を反省して徳性を深めることが肝要だとした。〔西　順蔵〕

りくじょうじえいたい【陸上自衛隊】⇨自衛隊

りくせいそう【陸成層】陸上および陸水中に堆積(たいせき)して生じた地層。陸上に堆積する風成層*や火山からの噴出物のほかに，特定の地域，たとえば砂漠(さばく)・氷河地域や各種の陸水中に河成層・湖成層などとしての堆積物がある。砂漠の堆積物は砂層が多く，偽層*や漣痕*(れんこん)などを生じやすい。氷河堆積物は氷河によって運ばれた大小の礫(れき)や砂・粘土が堆積したもので層理*を示すことが少ない。河成堆積物は，山麓(さんろく)の堆積物，氾濫原(はんらんげん)の堆積物で，前者は扇状地・崖錐(がいすい)などであり，後者は段丘の堆積物である。湖沼堆積物は，湖沼の底に堆積した礫・砂・泥土(でいど)などで，有機物質が含まれることも多い。〔平山　健〕

りくぜん【陸前(国)】宮城県の大部分と岩手県の一部にまたがる旧国名。東山道に属する。1868年(明治1)陸奥*(むつ)を5か国に分割した際に新設された。旧陸奥のうち柴田(しばた)・名取・宮城・黒川など14郡(古代には17郡)をもって陸前国とした。1869年(明治2)桃生県・登米県が置かれた。1871年に仙台(せんだい)県，1872年宮城県と改称，気仙郡を岩手県に編入した。

リーグせん【リーグ戦】総当たり戦ともいう。競技会での試合方式の一。参加チームが交互に試合を行なって，勝率などで1位を決定する。➔トーナメント

りくぜんたかた【陸前高田(市)】岩手県南東部の市。人口32,000。三陸沖の漁場を控えた古くからの漁業地で，江戸時代は高田街道と今泉街道の交差する宿場町でもあった。1955年(昭和30)気仙(けせん)郡の高田・気仙・広田の3町と周辺5村が合併して市制施行。市域は東は太平洋岸に湾入するリアス式の広田湾に面し，気仙川と支流矢作(やはぎ)川の合流点を中心に西は黒森山(603m)，北は氷上(ひがみ)山(875m)・大平山(691m)・生出(おいで)山(771m)など，北上山地の斜面にかけて広がる。産業三大別人口比は42：25：33。主産業は漁業で，長部(おさべ)・脇ノ沢(わきのさわ)・広田などの漁港は，マグロまき網船団を主力にした遠洋漁業の基地となり，広田湾内ではノリ・カキの養殖が盛んである。気仙川流域に水田が開け，最近はリンゴ・ナシ・カキなどの果樹栽培や酪農も興っている。石灰石をはじめ大理石・黒鉛などの地下資源に富み，工業用水にも恵まれて，大船渡臨海工業地帯の一環をなしている。北接する大船渡市，南接する気仙沼市(宮城県)と大船渡線・国道45号線で結ばれる。広田湾一帯は〈岩手の湘南(しょうなん)〉とよばれる保養観光地で，高田松原やウミネコの繁殖地椿(つばき)島があり，陸中海岸国立公園*の観光基地となる。〔浅井得一〕

りくせんほうき【陸戦法規】陸戦に関

する国際法上の諸規則の総称。陸戦法規は古くから国際慣習法として成立してきたが，現在ではそれを主体として成文化したハーグ陸戦規則が代表的なものとして各国間に通用されている。これは交戦資格・捕虜・害敵手段・間諜(かんちょう)・軍使・降伏・休戦・占領など陸戦に関する重要な法規を集めたものであるが，すでに近代戦では時代遅れの条文も出てきた。

りくだな　**［陸棚］**　⇨大陸棚

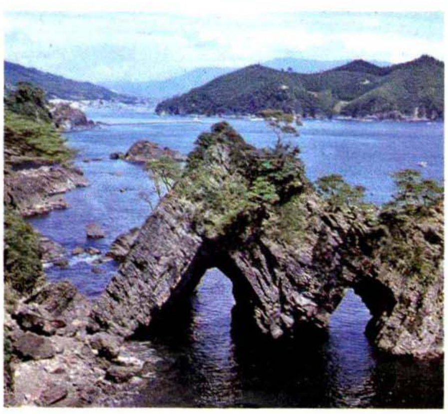
りくたんび　**［陸探微］**　生没年未詳。中国。六朝(りくちょう)時代の宋(そう)の画家。明帝の侍従。人物画のほか，動物や風俗も描き，筆法は勁利(けいり)で，画風は秀骨清像と評された。画の六法を兼備した画家として，古来最高の評価を受け，顧愷之(こがいし)・張僧繇(ちょうそうよう)と並び称される。宮廷・貴族社会の要求に応じた肖像・故事人物のほか観賞用の花鳥などもあり，顧愷之らが書の発達に呼応する線描の美しさをもっていたのに対し，陸探微は精美で周密な画態であったと想像される。　〔中島純司〕

りくちゅう　**［陸中(国)］**　岩手県の大部分と秋田県の一部を占める旧国名。東山道に属する。1868年(明治1)旧陸奥(むつ)を分割した際新設された5か国中の一国。磐井(いわい)・江刺(えさし)・胆沢(いざわ)・和賀・稗貫(ひえぬき)・志和・閉伊(へい)・岩手・九戸(くのえ)・鹿角(かづの)の10郡からなる。1871年盛岡県・一関県が置かれた。1876年岩手県，1877年鹿角郡のみを秋田県に編入した。➔陸奥(国)

りくちゅうかいがんこくりつこうえん　**［陸中海岸国立公園］**　岩手・宮城の2県にまたがる，三陸海岸一帯の面積115km²の地域を占める国立公園。1955年(昭和30)に指定された。リアス式海岸の豪快な外洋と優美な内湾が組み合って展開する海岸風景で名高い。宮古の浄土浜は入り江の中にあって女性的な海岸美で知られる。魹ケ崎(とどがさき)は本州の最東端に位置して景勝地である。気仙沼(けせんぬま)湾内には大島をはじめ小島が散在し多島海風景を見せている。唐桑(からくわ)半島には変化に富んだ海食崖(かいしょくがい)が見られる。広田崎はウミネコの繁殖地である。東北本線から山田線・釜石(かまいし)線・大船渡線が通じている。　〔木村東一郎〕

りくちょう　**［六朝］**　中国史上，秦(しん)・漢時代に続き，隋(ずい)・唐時代のまえに位置する時代で，中国が360年にわたって数か国あるいは南北に分裂した時代をさす。この間，現在の南京(ナンキン)に呉・東晋(とうしん)・宋(そう)・南斉(なんせい)・梁(りょう)・陳の6王朝が続いた。この6王朝を総称して六朝というが，中国の歴史家は伝統的に宋から陳に至る南朝を正統とするため，広く魏(ぎ)晋南北朝時代の代名詞として使われることが多い。なお，晋・宋・北魏・北斉・北周・隋を六代とよぶこともある。〔勝村哲也〕





陸中海岸国立公園　大船渡湾の湾口碁石海岸の海食地形〈穴通り岩〉の奇観。対岸の山の背後は大船渡湾で，その奥に大船渡市がある

りくとう　**［陸稲］**　⇨イネ

りくとうさんりゃく　**［六韜三略］**　中国の兵法書。《六韜》は周の太公望の作，《三略》は漢初の黄石公の授けたものと伝えられるが，実は魏(ぎ)・晋(しん)時代かそのころのもので，そのころからこの両書を併記して兵法書の代表とするようになった。兵法のことを〈孫呉〉と称するのと同じである。その後，北宋(ほくそう)のときに《武経七書》が編定されたが，この両書の現存テキスト(それぞれ6巻と3巻からなる)もそのときのものである。　〔西　順蔵〕

リーグニッツのたたかい　**［リーグニッツの戦い］**

①1241年，バトゥの率いるモンゴル軍がシュレジエンに侵入したとき，シュレジエン公ハインリヒ2世がドイツ・ポーランドの騎士軍および農民軍を率いてリーグニッツの東南ワールシュタットでモンゴル軍を迎えうった戦い。この戦いでハインリヒ公は大敗して戦死し，全ヨーロッパに衝撃を与えた。ワールシュタットの戦いともいう。

②七年戦争*中の1760年，プロイセンのフリードリヒ2世*がオーストリア軍を破った戦い。プロイセンはこの勝利によってオーストリアとロシアの結びつきを断ち切ることが可能となった。　〔松　俊夫〕

リグニン　［lignin］　植物の成熟した木質組織の細胞壁に含まれる高分子物質で，その量は細胞壁の重量の数パーセントないし50％にも達する。リグニンは化学的な処理や微生物の作用に対して抵抗性が強く，化学構造を変えることがないので，細胞壁からこれを抽出するよい方法がない。したがって，その構造も十分に明らかではないが，フェニルプロパノイド(ベンゼン核に3個の炭素が鎖状についた構造)を基本単位にしていると考えられている。亜硫酸水素ナトリウムはリグニンを溶解するが，これは木材からの紙パルプ製造の際にリグニンを除くのに利用される処理法の一つである。　〔南川隆雄〕

りくふう　**［陸風］**　⇨海陸風

リグ-ベーダ　［Rg-Veda］　バラモン教の根本聖典である四つの〈ベーダ*〉の一。広義には〈本集〉〈ブラーフマナ*〉〈アーラニヤカ〉〈ウパニシャッド*〉の4部門を含む。ふつう狭義に用いられ，〈本集〉のみをさす。本集は数多くの神に対する1,028の賛歌の集成である。BC1200年を中心に成立し，ベーダ文献中最も古く，最も重要である。インドへ侵入したアーリア人の宗教・神話などを知る根本資料でもある。宗教は本質的には多神教であるが，一神教的・汎(はん)神論的傾向もみられ，一元論的思索の跡を示す哲学賛歌もある。　〔前田専学〕

りくゆ　**［六諭］**　中国，明(みん)の太祖洪武帝(こうぶてい)がつくって国家の力によって普及させた庶民のための教戒。しだいに力をもってきた庶民に対する思想対策の一つとしてなされた。父母に孝順に，長上を尊敬し，村里と和睦(わぼく)し，子孫をしつけ，足るを知り，非為を行なわない，の6条からなる。清朝(しんちょう)になってからその普及をいっそ

う奨励されたが，それには明末の人の范鋐(はんこう)の《六諭衍義(えんぎ)》(通俗向けの解説書)が用いられた。〈六諭〉は,日本でも幕府や藩が奨励した。〔西　順蔵〕

りくゆう【陸游】 (1125～1210) 中国，南宋(なんそう)の詩人。放翁と号した。長く官僚生活を続け，若いころは宋王朝の国事多端だったためか，憂国の情のあふれた作品が多く，現在，愛国主義の詩人として高く評価されている。しかし，晩年は閑適自然の境地をうたった作が多い。また，詞もつくり，飄逸(ひょういつ)で婉麗(えんれい)な作風を示している。詩集に《剣南詩稿》，詞集《放翁詞》のほか，旅行記《入蜀記(にゅうしょくき)》，歴史書《南唐書》，随筆集《老学庵(あん)筆記》があり，詩人の范成大(はんせいだい)と親交があった。〔今村与志雄〕

リーグル ［Alois Riegl］ (1858～1905) オーストリアの美術史家。ウィーン大学教授として，様式史の方法論を一新した。文様研究を手がかりとしてギリシア・ローマや中近東美術を研究し，様式の変化は技術的な能力や創造的な想像力の涸渇(こかつ)によるものではなく，芸術的な制作意図の変化によるという諸様式の発展の自立性を唱えた。主著は《様式問題》《後期ローマ時代の応用美術》などで，いわゆるウィーン学派の基礎を築いたとされる。〔吉田玲子〕

リケッチア ［rickettsia］ 発疹(はっしん)チフス・発疹熱・恙虫病(つつがむしびょう)・キュー熱・ロッキー山紅斑熱(こうはんねつ)などの発疹を伴う熱性疾患の病原体。このグループの微生物による病気を最初に記載したリケッツ(1871～1910)は，研究中発疹チフスに感染して死亡した。1916年，ダ－ロカ－リマが発疹チフスの病原体を見いだし，新生物だったためにリケッツを記念してリケッチア属と命名した。リケッチアの特徴の一つは，シラミ・ダニ・ノミなどによって媒介され，これらの節足動物中で増殖し，ときには発病させることである。形態はグラム陰性細菌と似ており，細胞壁構造をもち，核酸もDNA・RNA双方を備えている。増殖するときは2分裂をする。これらの性質は細菌と共通であるが，大きさは一般の細菌より小さく，250mμ×350～500mμである。細菌と異なる点は，宿主細胞内でのみ増殖し(例外もある)，細胞外の条件では物質代謝だけしか行なえないことである。細胞内侵入後，クラミディアのような陰性期(感染性のなくなる時期)はない。以上の諸性質から考えて，リケッチアはクラミディアとともに細菌から進化して生じたものと思われる。リケッチアを小形齧歯(げっし)類の静脈または腹腔(ふくこう)に注入すると，急性毒性を発揮する(血管壁での血液透過性が増す)。また，哺乳(ほにゅう)類の赤血球を生体内でも試験管内でもとかす能力があり，この溶血能は細菌と異なって，リケッチアが生きているときにのみ現われる。これらのことも，他の


李鴻章

微生物にはみられず，リケッチアの特性である。リケッチアに感染した宿主の障害は，多くの場合，小血管・毛細血管を囲む細胞にリケッチアが侵入増殖し，その結果として，出血性発疹をひき起こすことにあると考えられるが，このことは上記の特性と関連しているのであろう。リケッチアの多くのものは，培養細胞でも，おそい速さながら増殖する。

一般に不安定で，室温でも数時間で不活化され，アルコールにも弱い。抗生物質，特にクロラムフェニコールやテトラサイクリンに対して感受性が強く，これらの抗生物質のおかげで，リケッチアに対する恐怖は過去のものとなった。なお，ネオリケッチアとよばれ，クラミディアにさらに近いものの存在も示されている。〔石川　彬〕

リゲル ［Rigel］ オリオン座のβ星。三つ星の西側に輝く青白色星。実視等級0.1等。600光年の距離にあるB型超巨星。

りげん【俚言】 ある方言の語彙(ごい)のうち，標準語と違う単語をいう。たとえば，うそ(嘘言)を茨城の俚言では〈ちく〉という。〈うそを言う〉を〈ちくぬく〉というような慣用句をも含む。土語ともいわれるが，この語には価値感が含まれているので好ましくない。

りげんこう【李元昊】 (1003～1048) 中国の北西，現在の寧夏地方に西夏を建国した。西北貿易による中継利得を主要な財源として勢力をたくわえ，たえず華北に侵入して北宋(ほくそう)を苦しめた。宋にならって官制を改革し，国内の体制を整えたが，中国文化に対抗する意識も強く，西夏文字(→西夏語)をつくらせ使用させた。

りこうしょう【李鴻章】 (1823～1901) 中国，清朝(しんちょう)末の政治家。安徽(あんき)省合肥の生まれ。字(あざな)は少荃(しょうせん)，おくり名は文忠。1847年に進士となる。太平天国の乱に際して淮勇(わいゆう)(淮軍)を結成して活躍，のち捻軍(ねんぐん)を破り，頭角を現わした。1870年に直隷総督兼北洋大臣となり，洋務運動を推進するとともに，外交権を一手に掌握した。日清戦争の敗北により一時失脚したが，講和会議の全権代表となり，売国的な条約を締結した。著書に《李文忠公全集》などがある。〔狭間直樹〕

りこうせい【里甲制】 中国の明(みん)代に始まり，清(しん)初まで続いた地方自治制度。賦役の義務をもつ民戸110戸を1里として組織し，その中の富裕な10戸を里長戸と定めて，1年交替で任にあたらせ，残りの100戸を10甲に分け,各甲ごとに1年交替で甲首の役につかせた。この里長・甲首が，租税の徴収と治安維持の全責任を負う。

りこうちたい【履行遅滞】 債務者が履行期において，債務の履行が可能であるにもかかわらず履行をしないことによって，履行期を徒過すること。債務者遅滞ともいう。履行不能・不完全履行とともに債務不履行の一態様である。履行遅滞の成立要件としては，①履行が不可能であれば履行不能の問題となる。②履行期を徒過したことである。確定期限を定めた債務についてはその期限の徒過によって，不確定期限の債務については，債務者が期限の到来を知ったときから，期限の定めのない債務については，債権者が催告をしたときから遅滞となる(民法412条)。③債務者の責に帰すべき事由に基づくことである。民法は過失責任主義を原則とするため，債務の履行遅滞が不可抗力に基づくものであれば，債務者は責任を免れることができる。ただし，その挙証責任は債務者にある。金銭債務については特則があり，履行遅滞が不可抗力に基づくものであっても，債務者は損害賠償責任を免れることはできない(民法419条)。④履行しないことが違法であることである。債権者が留置権や同時履行の抗弁権を有する場合などのように，履行が遅延してもそれを正当化させる法律上の事由があるときは履行遅滞とはならない。履行遅滞の効力としては，債権者はなお履行を請求することができるとともに，遅延による損害賠償を請求することができる(民法415条)。さらに，相当の期間を定めてその履行を催告し，その期間内に履行がなされなければ契約を解除することもできる(民法541条)。契約の性質上，一定の日時・期間内に履行をしなければ，その契約の目的を達することのできない定期行為については，催告することなく直ちにその契約を解除することができる(民法542条)。〔黒木三郎〕

りこうでん【李広田】 リーコワンテン (1907～　) 中国現代の作家・詩人・エッセイスト。詩人の何其芳(かきほう)(1912～　)・卞之琳(べんしりん)(1910～　)とともに1930年代に芸術派の詩人として詩壇に登場した。清華大学に在職中，戦争のため昆明(こんめい)に移り，戦後，北京(ペキン)にもどったが，1953年雲南大学副校長となり，昆明に赴任した。1946年小説《引力》を発表，戦時下の抵抗運動を描いて好評を得た。文芸評論と後進の指導に尽力，新中国になってからは，雲南における少数民族文学研究活動に参与している。〔今村与志雄〕

りこうふのう【履行不能】 債権の成立後，債務者の責によって債務の履行が不能となること。履行遅滞・不完全履行ととも

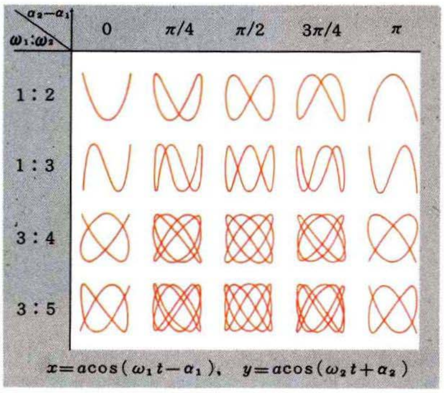
に債務不履行の一態様である。履行不能の成立要件は，①債権の成立後に履行が不能となることである。最初から不能な給付を目的とする契約は成立しないから，債権もまた存在しない。また，履行が不能かどうかは社会観念上の判断による。したがって，目的物が債務者の不注意によってこわれてしまったなどの物理的事由による場合のほか，これを二重売買して，すでに目的物を第三者に引き渡してしまった場合なども不能と解される。②債務者の責によって履行が不能となることである。履行の不能が債務者の責に基づかないことを主張して責任を免れるためには，債務者の側においてこれを挙証しなければならない。履行不能が不可抗力に基づくものであれば債務者は責任を免れ，その債務は消滅することになるが，双務契約(当事者双方が互いに対価的な関連ある債務を負担する契約)に基づく債務であれば，危険負担の問題を生ずることになる。履行不能の効果としては，債権者は本来の給付に代わる塡補(てんぽ)賠償を請求することができる。また，ただちに契約を解除するとともに(民法543条)，履行不能による損害の賠償を請求することもできる(民法415条)。　〔黒木三郎〕

リコール　[recall]　罷免投票・解職投票・国民罷免とも訳される。公職にある者を任期完了前に投票で罷免する制度。直接民主制の一形態。スイスでは古くから行なわれており，アメリカでも採用されている。わが国では第2次世界大戦後，はじめてとり入れられ，地方公共団体の議会の解散請求，議員および長(知事・市町村長)の解職請求，教育委員会委員・農業委員会委員・漁区漁業調整委員の解職請求の権利をその地方公共団体の住民に与えている。最高裁判所裁判官の国民審査もリコール制の一種である。➔直接請求　➔住民投票

〔寺岡方孝〕

リゴレット　[Rigoletto]　ベルディ作曲の4幕のオペラ。台本はV.ユゴーの戯曲《歓楽の王》によってピアーベがイタリア語にまとめ，初演は1851年3月11日にベネチアのフェニーチェ劇場で行なわれた。登場人物はマントバ公(テノール)・リゴレット(バリトン)・ジルダ(ソプラノ)などで道化師リゴレットの美しい娘ジルダをめぐる悲劇。ベルディ中期の傑作の一つである。〈女心の歌〉〈慕わしき御名〉，終幕の四重唱など有名な曲が多い。　〔向坂正久〕

りこん　**【離婚】**　夫婦の双方が生存中に婚姻関係を解消させること。今日，離婚は当事者の意思に基づくことを要するが，父権的な家父長制家族においては，家長のみの独断の意思によって離婚が行なわれていた。また婚姻当事者の意思による場合でも，それはもっぱら夫の一方的な意思のみによって妻の追い出し離婚が行なわれていた。すなわち，妻の意思はまったく無視され，



リサジューの図形

夫からの三下り半の離縁状によっていつでも追い出される立場に置かれていたばかりでなく，逆に妻の側から離婚を求めるなどは思いもよらないものであった。ただ，このような場合は，縁切寺(鎌倉の東慶寺，上野(こうずけ)(群馬県)の満徳寺は有名)へ逃げ込み，ここで3年間俗世と離れた修行をすることによって夫との縁を切る手段が残されていたにすぎなかった。しかし，1873年(明治6)の太政官(だじょうかん)布告によって，妻の側からも合法的に離婚を求めることが認められるようになった。西欧においても，カトリック的世界観の強い国では，婚姻は宗教的サクラメントであって，婚姻は当事者の意思によってではなく，神が合わせたまえるものであると考えることから離婚は禁止されていた。今日でも，離婚を禁止し，別居制のみを認めるカトリック教国がある。しかし，その多くの国々は，市民社会の成立とともに，婚姻を教会法から国家法の管理に移し，しだいに裁判離婚・協議離婚を認めるようになった。ソ連においては，一時協議離婚を徹底させ，夫婦のいずれかの一方的意思表示による単意離婚制を認めたこともあったが，のち1944年裁判離婚のみに改めた。しかし，1968年結婚・家族基本法は18歳未満の子のいない夫婦が合意しているときは，協議離婚ができることを定めている。離婚の自由は，婚姻の自由とともに原則的には認められなければならないが，この問題は離婚後の扶養を含む社会的条件と当事者の意思および責任問題を抜きにしては論じることのできない問題である。

わが国の民法によると，離婚は協議上の離婚，調停または審判による離婚，裁判上の離婚がある。協議上の離婚とは，夫婦が協議による合意を届け出ることによって成立するものである(民法763・764条)。協議上の離婚については，当事者の合意さえあれば，法律はその理由がなんであるかを問わない。調停による離婚とは，当事者間で離婚の協議がととのわないとき調停によって成立させる離婚のことである。すなわち，当事者間で離婚の協議がととのわなければ裁判所へ訴えを提起するほかはないが，この場合，離婚の訴えをするには，まず調停の申し立てをしなければならないことになっている(家事審判法18条)。これを調停前置主義という。審判による離婚とは，調停が成立しそうにない場合，職権で離婚を審判することによって成立させる離婚のことである。裁判上の離婚とは，夫婦の一方が離婚を欲しないにもかかわらず，他方が訴えを提起し，これが裁判によって認められた場合に成立するものである。離婚の訴えを提起するには法定の離婚原因のある場合に限られる(民法770条)。法定の離婚原因としては，配偶者に不貞な行為があったとき，配偶者から悪意で遺棄されたとき，配偶者の生死が3年以上明らかでないとき，配偶者が強度の精神病にかかり，回復の見込みがないとき，その他婚姻を継続しがたい重大な事由があるときの五つの原因が明示されている(民法770条1項)。ただし，裁判所はこれらの事由に基づく離婚の訴えがあっても，いっさいの事情を考慮して，婚姻の継続を相当と認めるときには離婚の請求を棄却することができる(民法770条2項)。離婚による効果としては，夫婦の婚姻関係が消滅するとともに，姻族関係も当然に消滅する(民法728条)。婚姻によって氏を改めた夫または妻は，婚姻前の氏に復する(民法767条)。再婚は自由となるが，女性についてのみ6か月の待婚期間がおかれる(民法733条)。また，離婚に際しては未成年の子の親権者をいずれか一方に定めるほか，子の監護について必要な事項を当事者の協議によって定めておかねばならない。親権者および監護者について協議がととのわない場合は，家庭裁判所で決めてもらわなければならない(民法766条)。婚姻によって氏を改めた夫または妻が，祖先の祭祀(さいし)のための祭具などを承継したときは，当事者その他の関係人による協議によってこれを他の承継人に移さなければならない(民法769条)。なお，離婚した者の一方は，相手方に対して財産の分与を請求することができる(民法768条)。この財産分与は，夫婦間の財産関係を清算する意味のほか，有責者からの慰謝料および離婚後の扶養料を含むものと解されている。厳密にはこの三者は，それぞれ法律的性格をことにするが，民法に明文をもって区別していない以上，広義の財産分与はこの三者を包含するものと考えられる。　〔黒木三郎〕

リサージ　[litharge]　一酸化鉛 PbO のこと。密陀僧(みつだそう)ともいう。鉛塊を溶融して，空気と接触させて酸化し，製造する。黄色と赤色の2種類がある。比重9.5。硫酸およびアルカリにとける。塗料の乾燥剤として用いられるほか，黄鉛の原料や鉛ガラスの製造に用いられる。

リサジューのずけい　**【リサジューの図形】**　平面上を運動する一つの点の位置が直角座標 x，y を用いてそれぞれ $x=A_1\cos$

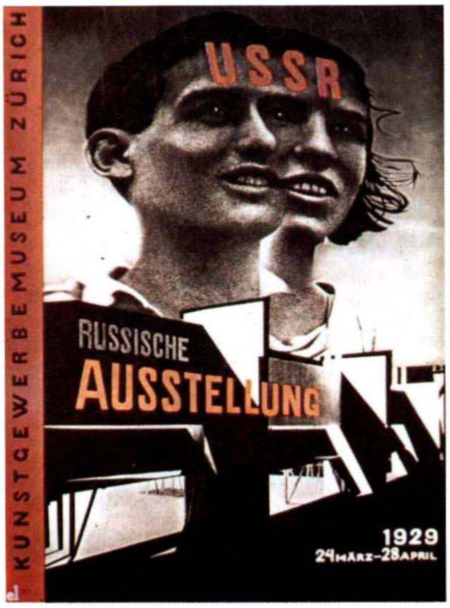
$(\omega_1 t+\alpha_1)$, $y=A_2\cos(\omega_2 t+\alpha_2)$(ただし $A_1, A_2, \omega_1, \omega_2, \alpha_1, \alpha_2$は定数, tは時間)で表わされるとき，この点の運動はx方向とy方向の単振動を合成したものと考えてよい。このような運動をしている点が平面上に描く軌道はx方向の辺の長さ$2A_1$, y方向の辺の長さ$2A_2$の矩形(くけい)の中に限られた曲線で，特にω_1とω_2との比が簡単な有理数となる場合には，図のような美しい閉じたループとなる。このような曲線を，最初に研究した人の名にちなんでリサジューの図形という。$\omega_1=\omega_2$の場合には軌道の形は長円になる。実際にはたとえばブラウン管*の水平方向と垂直方向の偏向電極に周波数の異なる正弦波形の交流電圧を加えると，螢光(けいこう)面上の輝点がリサジューの図形を描く。描かれた図形から逆に二つの交流電圧の周波数の比などを知ることができるので，周波数の測定・較正などに利用される。〔有山正孝〕

りざん【驪山】リー山　中国，陝西(せんせい)省臨潼(りんとう)県の南東にある山。別名を麗山ともいう。秦(しん)の始皇帝が葬られており，周の幽王の死んだ地ともいわれる。唐の玄宗帝が温泉宮(のち華清宮)を建て，しばしば行幸したことによって知られる。

りし【李贄】⇨李卓吾

りし【利子】生産要素のうち資本用役に対して支払われる対価。生産において直接用いられる実物資本(資本財)と，その実物資本の購入を可能にする資金である貨幣資本*とによって利子の意味も異なる。実物資本の用役に対する対価を利子とするとき，実物利子(生産利子)とよぶが，これは実物資本の使用によって，そうでなかった場合よりもより多くの収益がもたらされることによって生ずるものである。この実物利子説の中でも代表的なものは資本の限界生産力説であるが，その他の制欲説のように現在の消費欲望を抑制し，貯蓄する代償を利子としたり，また時差説のように現在財よりも低く評価される将来財の生産に資源をより多くふり向けることに対する代償を利子とする学説も，それによってより多くの資本財の蓄積が可能になるとするのであるから，実物利子説の系統に属する。しかし最近では流動性選好*説のような貨幣利子説のほうが有力である。それは貨幣経済の発展とともに，貨幣や証券の独自の働きが経済を支配するようになったためであるが，長期の経済成長では実物利子がやはり大きな意味をもつ。なお貨幣利子説では証券の利回り*が重視されてくる。利子は実際には一定期間における元本の価値額に対して何パーセントというように利子率として表わされるが，1年以上の場合には単利法でなく複利法によって利子を計算するのが一般的である。➜金利〔速水　保〕

りし【李斯】(?～BC208)　中国，秦(しん)の政治家。楚(そ)の上蔡(じょうさい)の人。



リシツキー　1929年，チューリヒで開かれたロシア展のためのポスター

性悪説を主張し法治主義者である荀子(じゅんし)について，帝王の学を学ぶ。呂不韋*(りょふい)の紹介で秦の荘襄(そうじょう)王に仕え，始皇帝*を助けて天下を統一し，丞相(じょうしょう)となった。始皇帝の政策のうち李斯の関係しないものはないといってよく，郡県制度*の実施，焚書坑儒*(ふんしょこうじゅ)の強行はいずれも彼の献策による。帝の死後趙高(ちょうこう)の讒言(ざんげん)によって殺された。〔勝村哲也〕

りじ【理事】法人*の業務を執行し，かつ法人を代表する必須(ひっす)の常置機関をいう。理事は，法人の種類によって取締役・総裁・理事長などとよばれている。社団法人*でも財団法人*でも，法人には必ず理事を置かねばならないが，その員数については制限がない(民法52条)。また，その資格についても自然人*であることを要するほか，公権剝奪(はくだつ)者，または公権停止者でないことが要求されるにすぎない。理事の職務の権限としては，対内的なものとしての業務執行権と，対外的なものとしての代表権がある。業務執行権とは，法令・定款・寄付行為または社員総会の決議などによって別段の制限がないかぎり，理事が法人の内部的業務を処理することのできる権利をいう。法人の内部事務とは，総会の招集，財産目録の調製，社員名簿の作成，登記，破産宣告の請求などをいう。代表権とは，理事が法人のいっさいの事務についてこれを代表する権利をいい(民法53条)，理事が法人のために行なった行為は直接法人自体の行為とみなされる。法令・定款・寄付行為または社員総会の決議などによって代表権に制限を加えることはできるが，これをもって善意の第三者に対抗することはできない。理事が職務を行なうにあたって，他人に損害を加えたときは法人自身の行為とみなされることから，法人は理事と並んで損害賠償責任を負担しなければならない(民法44条)。なお，理事と法人との利益相反する事項については，裁判所に申し立てて特別代理人を選任してもらうことを要し(民法57条)，この場合にはその理事は代表権を失うことになる。〔黒木三郎〕

りしうみしほん【利子生み資本】利子の取得を目的として貸し付けられ，一定期間貸し付けられた結果その所有者に利子をもたらす資本のことをいう。したがって貸し付け資本*は総じて利子生み資本である。利子生み資本のもたらす利子は，利子生み資本そのものが機能的につくりだしたものではなく，企業家に貸し付けられた資本が産業資本*なり商業資本*として機能した結果としてもたらされる利潤からの分けまえにほかならない。利子生み資本は資本の自己増殖の根源から最も遠ざかったところにあり，擬制資本*創出の媒介体となっている。〔常盤政治〕

りしくん【李思訓】(651～718ごろ)　中国，唐代の画家。唐の宗室で，玄宗朝に官が左武衛大将軍に至ったので，李将軍とよばれた。山水樹石を描き，筆格遒勁(しゅうけい)といわれ，金碧(きんぺき)輝映する着色の装飾的な画風で，北宗画の祖となる。同時代の呉道玄と並称されたが，李思訓は六朝(りくちょう)以来の伝統的な画風で，貴族階層に受け入れられたとみられる。

りじせい【李自成】(1606～1645)　中国，明(みん)末の農民反乱の指導者。陝西(せんせい)省の貧農の出身。明末の農民反乱軍に加わって頭角を現わし，みずから闖王(ちんおう)と称して華北を転戦，1641年洛陽(らくよう)を攻略，1644年北京(ペキン)に迫って崇禎帝(すうていてい)を煤(ばい)山で縊死(いし)させた。その結果明は滅亡したが，北京を保つことができず，清(しん)軍の進撃を受けて殺された。

りしちょうせん【李氏朝鮮】⇨李朝[1]

りじちん【李時珍】生没年不詳，最盛期1560年ごろ。中国，明(みん)代の本草学者。字(あざな)は東璧(とうへき)。湖北の生まれ。1590年に《本草綱目》を著わす。これは古代以来の中国本草学の集大成である。日本においては，朱子学者の林羅山*(らざん)が長崎で入手して徳川家康(いえやす)に献じたことから，この書物が日本の本草学に大きな影響を与え，羅山をはじめとして，貝原益軒・稲生(いのう)若水などの日本の本草学における最も重要な人物が，いずれも《本草綱目》の校注を出している。〔中村禎里〕

リシツキー［El Lissitzky］(1890～1941)　ソ連のデザイナー。タイポグラフィ*と展覧会の展示の方法論において顕著な業績を残した。1919年に当時の美術界の指導者であったマーレビッチに会い，そのグループとともに革命直後の1920年代の有力な芸術家として活躍，抽象絵画も制作した。作風はデ・スティール*やバウハウス*にも強

い影響を与えた。

りしゅきょう【理趣経】 般若(はんにゃ)経*の一。〈般若理趣経〉ともいい，正しくは〈大楽金剛不空真実三昧耶経般若波羅蜜多(さんまやきょうはんにゃはらみった)理趣分〉。1巻。仏の真実知(般若)におもむく理(理趣)を説いた経で，それは，ものの本性は清らかであり，現実がそのまま仏の大なる楽であることを悟り，その境地に生きることであると説く。〈般若経〉の一つであるが，般若の空*はより積極的に不空・大楽としたもので，密教経典ともされる。真言宗の日常経典として重きをなしている。類経が多い。〔金岡秀友〕

リシュリュー［Armand Jean du Plessis, Duc de Richelieu］(1585〜1642) フランスの政治家。ルイ13世の枢機官・宰相。ソルボンヌ大学で神学を専攻，1606年司教。1614年の三部会*に選出され(僧侶(そうりょ)身分)，当時の摂政母后マリー=ド=メディシス*に認められ，1622年枢機官，1624年宰相となる。以後20年間，王を助けて，レーゾン=デタ(国家理性)をふりかざし，王権と王国の強化に努め，絶対主義確立への道を固めた。対内的には1625・1628・1629年とあいついでユグノー(新教徒)を討伐し，新教都市ラ=ロシェルを下し，また貴族の権限を奪い，1614年以来三部会を開催せず，地方に知事(アンタンダン)を置いて中央集権を強化し，産業・文化を奨励した。対外的には，ドイツ新教徒諸侯・デンマーク・スウェーデンを助けて三十年戦争*に介入しスペイン・オーストリア両ハプスブルク家をおさえ，また貿易・植民に意を注いだ。しかし，その苛酷(かこく)な政治は，特に貴族の反感を招いた。〔喜多迅鷹〕

りじゅんほうしき【利潤方式】 リーベルマン方式ともいい，ソ連において1965年の〈工業管理・計画の完全化，工業生産の経済的刺激の強化について〉の決議に基づき実施されている新制度・経済改革。その直接的な契機を与えたのは，1962年9月の《プラウダ》所載のハリコフ工科大学リーベルマン教授の《計画・利潤・報償》の論文であり，1962〜1963年にかけて利潤論争が全ソ的に展開された。その主要内容は，①計画に弾力性を与え，企業の自主性を拡大する，②企業の独立採算原則，企業間の経済契約制を普及強化し，価格・信用・利潤・報償などの利用を拡大する，③価格制度の合理化，④労働者の物質的関心の刺激の強化などである。ソ連では1966年から実施され，工業部門では1970年じゅうに完了している。東欧でもルーマニア・アルバニアを除き，この新経済制度の導入を決め，新方式が実施されている。〔深海博明〕

りじゅん・りじゅんりつ【利潤・利潤率】 一般的には利益・もうけといった意味に用いられるが，経済学的には企業または会社の一会計期間における総収入から総費用を差し引いたものをいう。また利潤率とは利潤の投下資本総量に対する割合をいう。したがって利潤率は一般的には，

$$\frac{\text{年間総収入}-\text{年間総費用}}{\text{投下資本総額}}=\frac{\text{利潤}}{\text{投下資本総額}}$$

によって示される。一方，企業会計では，自己資本利潤率などのほか，場合によっては利潤／費用価格とか売上高利潤率と称して利潤／売上高をもって示したりする場合などがある。しかし，経済学上厳密な意味での利潤率は利潤／投下資本総額が正しい。ところで社会全体としての利潤は剰余価値にほかならないから社会的総資本の利潤率，すなわち平均利潤率は剰余価値総量／社会的総資本をもって示される。これは利潤・利子・地代への剰余価値の分配以前の利潤率であり，マルクスが〈利潤率の傾向的低下の法則〉として問題にした利潤率はこの次元での利潤率である。〔常盤政治〕



リシュリュー フィリップ=ド=シャンパーニュ《リシュリュー像》ルーブル美術館蔵



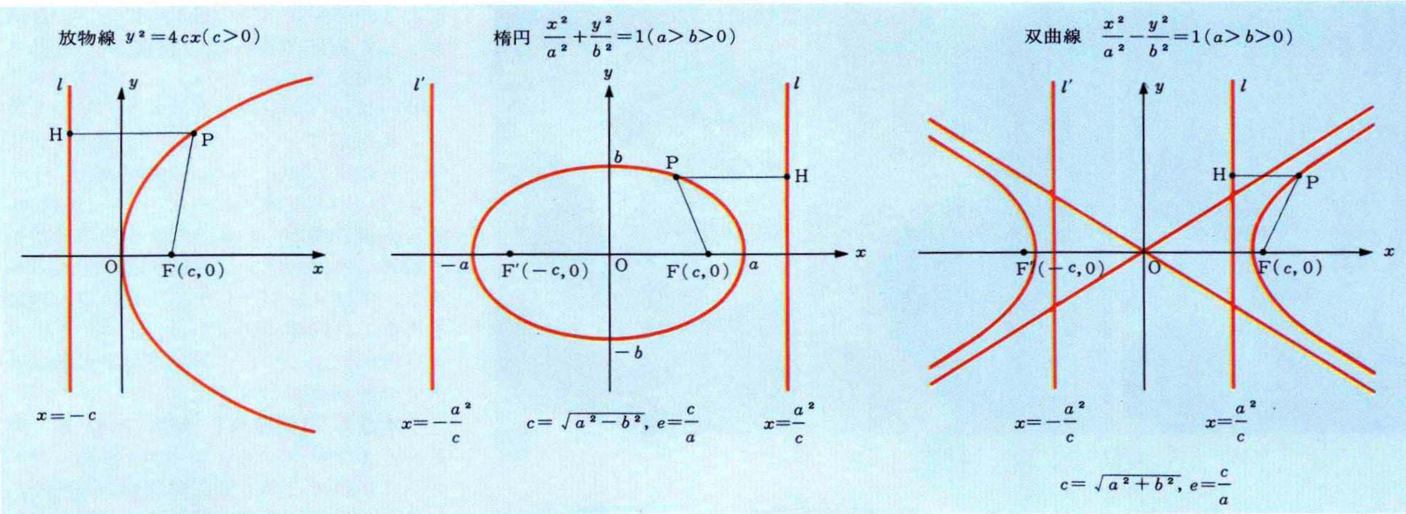
李承晩

りじゅんりつていかほうそく【利潤率低下法則】 資本が増加するにつれて利潤率が低下の傾向にあるとする経済法則。長期的にみて，資本が増加すると利潤率が低下する，という見解は古典派経済学の中にすでにあったが，とりわけ有名なのはマルクスが《資本論*》で指摘している〈利潤率の傾向的低下の法則〉である。マルクスは，資本主義が発達して資本の有機的構成*が社会的に高まると利潤率は傾向的に低下する，と指摘した。彼によれば，社会的総資本の利潤率は，剰余価値(m)／投下総資本として示される。投下総資本は不変資本*(c)と可変資本*(v)とからなっており，いま仮に剰余価値率(m/v)を100%とし，cを50，vを50とすれば，利潤率(P)は，$\frac{50m}{50c+50v}$=50%であるが，cが100に増加すれば，$P=\frac{50m}{100c+50v}=33\frac{1}{3}$%，$c$が200に増加すれば，$P=\frac{50m}{200c+50v}$=20%となる。このように$c$が増加して資本の有機的構成が高度化するにつれて利潤率は傾向的に低下していくとした。〔常盤政治〕

りしょういん【李商隠】(813〜858) 中国，唐代の詩人。李義山ともいい，玉谿生(ぎょくけいせい)とも号した。叙情的作品が多く，修辞を吟味し，精緻(せいち)華麗な作風で政治生活上の不遇と，秘めたる恋愛体験とを婉曲(えんきょく)に歌ったが，奇を求め，故事を過度に使用するあまり難解である。唐末・五代を通じその詩は流行し，宋(そう)初の楊億(ようおく)(974〜1020)らの西崑体(せいこんたい)はその詩風に起源がある。《雑纂(ざつさん)》1巻は彼の作と伝えられる。〔今村与志雄〕

りしょうばん【李承晩】イースンマン (1875〜1965) 朝鮮の政治家。黄海道の貴族出身。ワシントン大学卒。1910年の日韓(にっかん)併合以後主としてアメリカで独立運動に従事し，1919年上海(シャンハイ)で大韓民国臨時政府を樹立して臨時大統領に就任，のち臨時政府駐米外交委員長となる。1945年帰国，1948年大韓民国成立とともに初代大統領に就任，以後4選。1960年4月〈李政権打倒〉運動が起こり，5月にハワイに亡命し，客死した。

りしょうばんライン【李承晩ライン】 1952年(昭和27)1月8日韓国(かんこく)の李承晩*大統領が〈海洋主権宣言〉(李承晩宣言)で，韓国周辺における公海*上の一定範囲の海域に国家主権を行使すると述べて設けた海域線。李ラインともいう。東は竹島を含み，西は黄海の中央(32°N, 124°E)，南はマッカーサー=ライン(第2次世界大戦後の占領下，日本人が漁業を許される範囲を定める海域線。1945年10月マッカーサーにより指定された)よりさらに日本側の広大な水域に引き，水産資源の保全などを理由としてこのラインの範囲内における日本漁船の締め出しを図った。その主な内容は，〈深度のいかんを問わず〉所定の範囲の〈大陸棚*(たいりくだな)の上部・表面および地下において〉鉱物と水産資源の保全・利用のために主権を留保し，わずかに上部水域(公海)の自由航行を妨げないとするものであった。韓国は，大陸棚理論と接続水域*とを根拠としてその正当性を主張したが，いずれの点からみても，国際先例・国際法に違反するものであった。このライン侵犯を理由として，韓国軍による日本漁船の拿捕(だほ)，射殺事件などがあいついで起こり，日本漁業に重大な影響を与えていたが，1965年の日韓基本関係条約と日韓漁業協定の締結により撤廃された。〔広部和也〕



離 心 率

りしりとう【利尻島】 北海道の北西部,幅19kmの利尻水道を隔てた日本海上にある火山島。北西に礼文(れぶん)島*がある。利尻富士ともよばれる利尻山(1,719m)は,形の美しい成層火山で,高山植物が多く,島の海岸線もほぼ円形をなしている。面積182.8km²,宗谷支庁に属し,東半の東利尻町(人口6,500)と,西半の利尻町(人口6,300)に分かれ,前者に鴛泊(おしどまり)・鬼脇(おにわき),後者に仙法志(せんぼうし)・沓形(くつがた)の集落がある。かつてはニシン漁が盛んであったが,いまはさびれ,利尻コンブとよばれるコンブ漁が主となっている。稚内(わっかない)~鴛泊,小樽(おたる)~沓形の定期航路のほか,鴛泊の西方に利尻空港があって,稚内との間に横浜航空の不定期便があり,最近は観光客が増加している。利尻礼文国定公園に属する。〔浅井得一〕

りしりれぶんこくていこうえん【利尻礼文国定公園】 北海道の北部,南稚内(わっかない)・抜海(ばっかい)・稚咲内(わかさくない)の海岸一帯と,利尻・礼文の2島を含む国定公園。面積167km²の地域で,1965年(昭和40)に指定された。利尻山(1,719m)は那須(なす)火山帯*最北の山で,通称利尻富士とよばれて美しい。礼文島の西海岸は海食景観が発達し,猫岩(ねこいわ)・アマナ岩などの名勝地がある。内陸部の礼文岳(490m)からは利尻山の展望がよく,海驢(とど)島は日本最北端の島である。本土海岸のサロベツ原野の海岸一帯は原生砂丘林が分布し,高山植物も見られる。利尻・礼文両島へは稚内から連絡線の便がある。〔木村東一郎〕

リシン [ricin] トウゴマの種子から分離されたタンパク質で,アルブミン性毒素の一。生の種子を多量に食べたり,水抽出液を注射すると,内臓諸器官に激しい出血を起こして死に至る。部分精製されたリシンの粗結晶は,毒性のほかに血球凝集能・タンパク質分解能を有する。粗結晶中からさらに精製純化されたリシンD(分子量約60,000)はタンパク質に対する分解能・凝集能は示さないが毒性はきわめて強い。ハツカネズミに対するリシンDの致死量は0.001μg(窒素量として)である。〔南川隆雄〕

リジン [lysine] $H_2N\cdot(CH_2)_4\cdot CH(NH_2)\cdot COOH$ ふつうα-リジンをいい,塩基性アミノ酸の一種。L-型は必須(ひっす)アミノ酸で,多くのタンパク質中にかなり高い比率で存在する。たとえば,カゼイン・ゼラチン・ヘモグロビン中に多い。しかし,トウモロコシのタンパク質であるゼインにはきわめて少量しか含まれていない。米や小麦中の含量も少なく,栄養効果を増すためにこれらの食品中にL-リジンを添加することもある。異性体であるβ-リジンは抗生物質中から発見されているが,タンパク質中には含まれていない。〔南川隆雄〕

りじんしょう【離人症】 自分自身が自分でなくなってしまうと感ずる自我意識の障害の一。その内容や現われ方は多様であるが,大別すると,①自分の人格に関するもの(自己の存在が不確かであるという感じ),②身体に関するもの(自分自身の肉体だと感じられなくなる),③行動に関するもの(自分の思考・行動が自分が行なっているように感じられない),④知覚に関するもの(周囲が変わってしまったようだ,自分自身の感覚が変わってしまった)などがある。このような症状は単独に現われる場合もあるが,一般に他の症状と合併して起こることが多く,鬱病(うつびょう)(→躁鬱(そううつ)病),精神分裂病*などの初期にみられる。〔岩井 寛〕

りしんりつ【離心率】 3種の円錐(えんすい)曲線である放物線・楕円(だえん)・双曲線には,共通な次の性質がある。すなわち,円錐曲線上の任意の一点Pから定点(焦点)Fまでの距離PFと定直線(準線)lまでの距離PHとの比PF/PHは,それぞれ一定値eで,放物線の場合には$e=1$,楕円の場合には$0<e<1$,双曲線の場合には$e>1$である。この一定値eを円錐曲線の離心率という。楕円の場合には,eが0に近づくにしたがって形が円に近づき,1に近づくにしたがって形が扁平(へんぺい)になる。また,双曲線の場合には,eが1に近づくにしたがって曲線がx軸に近づき,eが大きくなるにしたがって曲線がy軸に近づく。〔菊池兵一〕

りしんろん【理神論】 17~18世紀の啓蒙(けいもう)期の思想家によって説かれた思想。デイズムの訳。〈理神論者〉はフランスでビレが《キリスト教の教育》(1564)に,〈理神論〉は1657年パスカルが《パンセ》の中ではじめて用い,イギリスでは前者は1621年,後者は1682年に用いられた。ドイツではこれよりも遅い。語源はラテン語で〈神〉を意味するデウス。理神論は初めは無神論と対立して用いられたが,のちに汎(はん)神論・有神論と対立して用いられた。理神論と有神論の区別は一定せず,人によって異なっている。

理神論は17世紀前半にイギリスに起こり,フランス・ドイツに伝わり,18世紀後半まで続いた啓蒙主義の宗教哲学であり,形而上学(けいじじょうがく)・歴史批判・歴史哲学の側面からいって近代宗教哲学の起源となった。イギリスでは政治的・宗教的発展と関連して展開するが,第一流の学者はいない。フランスではじめて深い影響力をもったが,神学論争の外に成立した。ドイツでは理神論は最高の重要な運動をひき起こした。彼らは〈自由思想家〉と自称し,彼らに反対する人々は彼らが超自然の啓示に反対したところから,彼らを〈自然主義者〉とよんだ。理神論は当時のドグマに対する自然科学的形而上学的批判と,当時まで支配的であった超自然の啓示に対する疑いから出発する。それゆえ普遍的で,だれもが認めうる宗教上の真の規範を求めようとする。この規範は直接与えられた啓示の教えの価値と正しさを検討し,自然科学的形而上学の成果と一致するものでなければならなかった。こ



リ　ス　(左)ニホンリス　(中)シマリス　(右)タイワンリス

れが彼らが〈自然宗教〉を求めた意味であり，また彼らのいう〈自然的〉の意味である。それゆえ理神論は，啓示の神を拒否して，自然の能力を与えられたただひとりの人＝神に根拠をおき，その中では自然が不確定のままでいる絶対者の存在を認める理論である。啓示の権威を否定して人間理性にかなう宗教を唯一の宗教とし，神の存在と霊魂の不死を認めながらも決定論を取って神と人間の自由を否定し，世界は神意に支配されずにまったく自然必然的に進行する。したがって奇跡は否定され，祈りは無意味になる。理神論の理論的形而上学的側面は，第１にロックからヒュームに至る経験論哲学によって形而上学一般が不可能とされ，神の目的論的存在証明が不可能となることにより，また第２に自然哲学の側面により，すなわちリスボンの大震災のような世界の非合目的な事実によって，否定されねばならず，宗教の本質を道徳に認め，神は人間の地上の生活の善悪の行状に比例して人を永遠の救いと罰へと定め，宗教生活は真剣な道徳的義務の遂行のほかにはなく，この義務の遂行が神への畏敬となるという倫理的側面だけが理神論に残ることになった。多神教が倫理的一神教よりも成立史からいえば先であるとするヒュームの宗教の起源の研究は，理神論を否定する決定的なものであった。さらにルソーの自然や感情の考察，啓示は歴史において神が人類を徐々に教育するものであるとするレッシングの思想，合理的神学の不可能を証明したカントによって，理神論は影響力を失っていった。理神論の理論的根拠となったものはホッブズ・ベイル・ロック・クラーク・スピノザ，およびニュートンの自然哲学などで，ニュートンは半ば理神論者であるがその他の人は理神論者ではない。E.ハーバートは理神論の祖といわれる。C.ブラント，J.トウランド，ロックの晩年の友J.A.コリンズ，M.ティンドル・シャフツベリ，ある時期のボルテール，ディドロなどの百科全書家，レマールスはドイツの典型的理神論者，バールト・エーデルマンらが代表的理神論者。



リ ス ザ ル

ルソー・レッシングは半ば理神論者といえる。　〔中川　誠〕

りす　**【栗鼠】**　哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・リス科・リス属の総称。頭胴長20～31.5cm，尾長20～31cm。体はふつう灰・灰茶・黒かっ色などで，腹面は白・黄・橙色(とうしょく)など。ヨーロッパ・アジア・南北アメリカに55種ほどが分布するが，日本にはエゾリスとニホンリス(ホンドリス)の２種がある。山地の森林に多く，早朝・夕刻によく活動し，クルミ・シラビソの実などの種実類を好む。おもに樹上で生活し，木の枝に小枝や樹皮などで球形の巣をつくる。冬眠はしない。このほか北海道には別属のシマリスが分布する。また，タイワンリスは台湾から東南アジアに分布するが，伊豆(いず)大島では動物園で飼育したものが逃亡して野生化している。

リース　[Ludwig Riess]（1861～1928）ドイツの歴史家。わが国にドイツ史学を伝えた。ベルリン大学でランケ*に学んだ。専門はイギリス中世史。1887年(明治20)東京帝国大学に史学科が設けられたときその教授として来日し，1902年に帰国した。ランケ史学をわが国に伝えてその後のわが国の歴史学の発展に大きな影響を与えた。彼はその専門にとらわれず広く総合的な見方で講義をし，史料に基づく客観的な歴史研究を説き，草創期当時の日本の歴史学の指導者として適任であった。著書に《イギリス憲法史講義》などがある。　〔兼岩正夫〕

リーズ　[Leeds]　イギリス，イングランド北東部ヨークシャーの工業都市。人口50万4,000(1969)。ペニン山脈東麓(とうろく)，ハンバー川の支流エア川に沿う。18世紀以降，毛織物業の中心地となり，皮革の取引も盛ん。また大学・図書館・美術館などがあり，中部イングランドの文化の中心地でもある。1770年に完成したリーズ-リバプール運河によって，イングランドの西岸と水運で結ばれている。

りすざる　**【栗鼠猿】**　哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オマキザル科。コスタリカからブラジルにかけて分布する広鼻猿類の一種で，体長30cmほど。背部は黄緑色で，鼻部が黒くマスクをかけたように見える。川辺に多く見られ樹上にすむが，地上へも降りてくる。敏捷(びんしょう)，性質は温順。大群をつくり，雑食性。医学実験用に重要で，またペットにもなる。動物園に普通に見られる。

リスター　[Joseph Lister]（1827～1912）イギリスの外科学者。エッセンのアプトンに生まれる。1852年ロンドン大学のユニバーシティ-カレッジを卒業し，翌年エジンバラ大学外科学教授サイムについて炎症・壊疽(えそ)・血液凝固に関する研究を行なう。1860年グラスゴー大学外科学教授となり，創傷の化膿(かのう)について研究。1865年には石炭酸による防腐手術法を考案し，翌年これの実地に成功，一躍その名をあげた。のちエジンバラ大学，ロンドン大学のキングズ-カレッジの外科学教授，さらに王立協会会長などを歴任した。〔大鳥蘭三郎〕

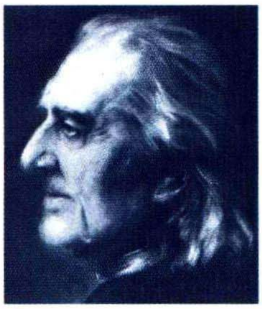
リスト　[Friedrich List]（1789～1846）ドイツの経済学者。ドイツ歴史学派*の創立者。ロイトリンゲンに生まれ，家業や役所の仕事に従事したあと，チュービンゲン大学に学び，官吏試験によって内閣秘書官となり，次いで会計検査官となった。さらに1817年，母校に国家経済学科が新設されるにあたり，国家行政学の教授の地位を得た。しかし，彼の後援者の失脚と過激な行政改革思想の宣伝とによって，その職を奪われ，多彩な人生を歩むことになった。ドイツの経済統一のための〈ドイツ商工業同盟〉の設立，《ドイツ商工業新聞》の創刊，代議士当選ののち，デマゴーグの烙印(らくいん)を押されて国外へ追放され，ロンドン・パリ・ニューヨークへ亡命した。アメリカで市民権を得，ハンブルク駐在アメリカ領事となり帰国，再度の渡米，帰国ののち，ドイツ鉄道網建設に奔走，そのかたわら，主著《政治経済学の国民的体系》(1841)の出版，《関税同盟新聞》の創刊にかかわった。しかし，その主張はなに一つ政府に取り入れられず後進国ドイツの近代化に生涯(しょうがい)をかけたリストは，その関税統一計画・鉄道網計画の挫折(ざせつ)に再起の気力を失

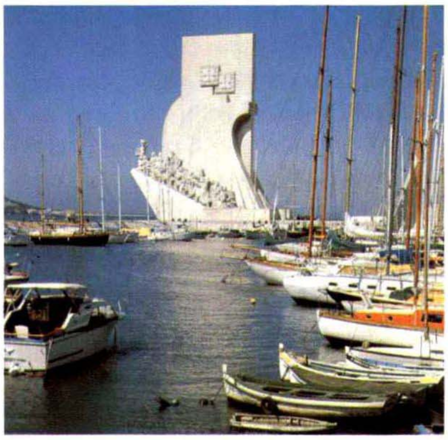
い，チロルへの旅に出て，クフシュタインの山中でピストル自殺を遂げた。〔林　達〕

リスト ［Franz Liszt］（1811～1886）ロマン派の代表的な作曲家。ハンガリーのライディングで音楽愛好家の役人のむすことして生まれ，6歳でピアノを学びはじめ，早くから演奏会を開いてその才能を認められた。9歳のときにピアノを学ぶためにウィーンに移り，チェルニーに2年間師事し，1822年の暮れにはウィーンでデビュー-リサイタルを開き，ピアノの名手としてのはなやかな道を歩みはじめた。翌年パリに行き，1848年までの間この芸術の都に居を構えて，作曲をパエールとライヒャに師事するかたわら，パリやロンドンで独奏会を開いて大きな成功を収めた。いまやピアノの名手・指揮者・作曲家としてのリストの名声は，ヨーロッパ各地に広まった。1822年から1848年までのパリ時代ともいうべき時期に，リストは，パリの上流社会の婦人たちといくつかの恋愛事件を起こしたが，1847年暮れにはウィトゲンシュタイン侯夫人との恋愛に陥り，これがきっかけとなって翌1848年ワイマールに夫人とともに移り，1861年までワイマールの宮廷音楽監督をつとめた。この時期のリストは，夫人の勧めで創作活動に重点をおいていたが，同時に宮廷音楽監督としてワーグナーをはじめとする重要な新作をとりあげ，ロマン主義運動を力強く推進した。1861年から1870年にかけて，夫人との結婚を断念したリストは，主としてローマに住み，修道院にはいって静かな宗教生活を送り，最晩年にはローマ・ワイマール・ブダペストの各都市で過ごしたが，1886年バイロイトに旅行中急性肺炎を起こして客死した。彼の作品は，ピアノを中心とした器楽曲と，管弦楽による交響詩の二つに大別される。前者の代表作としては，2曲の《ピアノ協奏曲》や《超絶技巧練習曲》《練習曲》など，後者の代表作としては，《ファウスト交響曲》《ダンテ交響曲》，あるいは《マゼッパ》をはじめとする12曲の交響詩をあげることができる。〔船山　隆〕

リスト ［Franz von Liszt］（1851～1919）ドイツの刑法学者。音楽家F.リスト*のいとこ。ギーセン・マールブルク・ハレ・ベルリンの各大学教授を歴任，国際刑事学協会の創設者のひとりとなった。目的刑主義を主張して近代の刑事立法に大きな影響を与え，刑罰は外部からの侵害に対する衝動的反動であってはならず，犯人の危険性から社会を防衛する目的のものと説いた。また〈刑法は犯罪人のマグナ-カルタ〉と述べて，犯罪人の権利に対する刑法の保護を主張した。主著に《ドイツ刑法教科書》《刑法における目的思想》などがある。〔原田政洸〕

リスボン ［Lisbon］ ポルトガルの首都。人口76万2,000(1972)。大西洋に注ぐテジョ川河口の北岸にあり，同国第1の貿易港である。ぶどう酒・コルク・オリーブ油などの輸出と陶器・肥料・精油・製紙などの諸工業が盛ん。西岸海洋性と地中海性の両方の気候特色をもち，過ごしやすい。気温は1月でも11℃，8月も23℃にしかならない。年降水量は700mmであるが，夏にはほとんど降らない。市街は，カコウ岩の丘陵と河岸に東西に長く広がっている。中央部は1755年大地震による壊滅後に再建された地区で，商業活動の中心であり，官庁や公園・広場が配されている。東部は最も古い地区で城砦(じょうさい)が残っており，西部には大学や国会議事堂があり，高級住宅地となっている。古くはオリンポとよばれてフェニキアの植民地であったが，のちローマに征服され8～12世紀にはムーア人の支配下にあった。1260年アルフォンソ3世が首都をコインブラからここへ移し，16世紀にはポルトガルの海外発展の根拠地として繁栄した。第2次世界大戦中は中立国の港として重要であった。ポルトガル語名はリズボア。〔梶川勇作〕


フランツ-リスト


リスボン　市の西部のベレンはバスコ-ダ-ガマ出帆の地で，ここに，かつてのリスボンの繁栄を記念する白い航路標識の塔が建っている

リズム ［rhythm］ リズムは，芸術だけでなく，さまざまな現象にも適用されることばであるが，日常語で動きをリズム的という場合は，その周期的な性格に基づいていることが多い。リズムには，具体的な音のレベルでも，その精神的な解釈のレベルでも，さまざまな解釈が可能であるが，ここでは音のレベルに限ることにする。リズムと周期性の関係は古くから指摘され，音楽事典でも，リズムを〈長短の音の周期的な交替〉とか〈強弱の周期的な交替〉と記したものがあるが，これは明らかな誤りである。なぜなら，このような周期性をもたない音楽もあるからである。アメリカの美学者ランガーは，リズムの本質は，あるできごとを終えることによって，次のできごとの準備をすることにあるという。これは，できごとが時間的な順序で現われれば音楽や舞踊のリズムとなり，同時的に，つまり空間的なずれとして現われる場合には絵画や庭園などのリズムとなるということができる。これを一般化すれば，音楽でも，羅列(られつ)にすぎない音をグループにまとめるときにリズムが生まれるということになる。グループ化は，しばしば規則的に行なわれ，特に舞曲や行進曲のように，拍子にしたがってそれが行なわれるものが多いと，その拍子のもつ規則性がリズムの不可欠な要素であるかのように感じられるが，日本の多くの伝統音楽(古代の神楽(かぐら)や声明(しょうみょう)から，近世の三味線(しゃみせん)音楽まで)，あるいは，ヨーロッパのグレゴリオ聖歌のように，規則的な拍子なしにリズムをつくっているものもある。なお，リズム-グループは，実際には一つのアクセントを中心にした非アクセントの集まりとされるが，このアクセントは音量的に強い音であるよりも，和声や旋律などさまざまな様相の組み合わせの中で，構造的に重要な音であることが普通である。どれがアクセントであるかを決定する物理的な規則はないので，それぞれの音楽様式を学び，それに慣れないと，正しいリズムの把握(はあく)は行なえない。〔徳丸吉彦〕

リズム-アンド-ブルース ［rhythm and blues］ アメリカ黒人に起源をもつ音楽スタイル。黒人が自分たちの苦悩や悲しみを独自のフィーリングをもって吐露して歌うブルースに，ジャズや激しい躍動感に満ちたゴスペルソング*などの影響が加わり，強いビートをもった新しい都会的な黒人音楽に発展した形で，R＆Bともよばれる。ふつう，叫ぶような激しい歌声・電気ギターが躍動的な演奏をするが，歌の代わりにテナーサックスなどがあおるような演奏を繰り広げる場合もある。ブルースから発展したこの形は，1940年ごろに始まったが，1950年代にはいってファッツ-ドミノのようなスターを生んで，広い人気を獲得し，白人もこれをまねるようになり，その融合は今日のロック*の隆盛を招いている。〔鈴木道子〕

リズムがっき 【リズム楽器】 合奏楽器を音楽上の役割(機能)によって分類するときに便宜的に使われる用語。リズム楽器と拍子楽器とを分けることもあるが，実際にはリズム*と拍子*(韻律)の区別が困難であるので両方まとめてリズム楽器とよぶことが多い。カスタネット・トライアングル・拍子

木などの体鳴楽器*と，大太鼓・小太鼓など膜鳴楽器*の大部分がリズム楽器になりうる。この用語は旋律楽器・和声楽器と並んで使われる。〔山口　修〕

リスリン ⇨グリセリン

りせい【理性】 さまざまな意味に用いられる。①思想・行為・目的を決定する際の，人間に特有な知的能力。思考過程で人間精神を指導する原理。②神から光を受ける恩寵(おんちょう)知に対して，人間が生まれながらにもっている知恵・自然の光。③カントは認識に関係する思弁理性と実践の法則を与える実践理性に分け，両者は同一理性であるが，後者が理性の真の姿であるとした。思弁理性に二つの用法がある。すなわち広義には先天的な認識能力の全体(感性・悟性，狭義の理性)をさし，狭義には理念の能力をいう。④ドイツ観念論では宇宙の原理をいい，ヘーゲルは世界理性という。⑤理性・悟性は知的認識の能力で感性と対立する。伝統的に悟性は論証的概念的能力・下位の知性，理性は最高実在を直観的に認識する能力，上位の知性とされる。プラトン・アリストテレスは悟性をディアノイア・エピステーメー，理性をヌースとよぶ。中世哲学以来下位の知性をラチオ，上位の知性をインテレクトスとよんだが，エックハルト*がラチオを理性(フェルヌンフト)，インテレクトスを悟性(フェルシュタント)と訳した。スピノザは知性を理性と直観に分ける。カントがエックハルト以来のことばの上下関係を逆転し，悟性を下位の知性，理性を上位の知性とした。ドイツ観念論はカントにしたがっている。ヘーゲルでは悟性は抽象的概念，理性は具体的概念・弁証法的思考の能力とされる。➔悟性　➔感性〔中川　誠〕

りせいけい【李成桂】(1335～1408) 李氏朝鮮初代の王。太祖。高麗(こうらい)末期に倭寇(わこう)を連破，その軍事的信望を背景に李仁任・崔瑩(さいえい)らを退け，1389年には辛昌王(しんしょうおう)を廃して恭譲王を立て，政治・軍事の実権を握った。土地に対する国家の支配力の強化と官僚への土地支給を目的とした田制改革を実行し，1392年，推されて即位した。1398年，王位継承問題の争いのため退位。

りせいしょう【李清照】(1084～？) 中国，宋(そう)代の女流詩人。易安居士と号した。《金石録》を著わした考古学者の趙明誠(ちょうめいせい)に嫁し，夫婦そろって風雅をたしなんだ。北宋が金に滅ぼされるや南方に避難，夫が南京(ナンキン)で死ぬや彼女はひとり江南の各地で難民の生活を送った。詩・詞にすぐれたばかりでなく，散文も巧みであったが，その詞は〈婉約(えんやく)派の正統〉と評されるほどずばぬけていて，南唐の李煜*(りいく)に比較される。〔今村与志雄〕

りせいどう【李政道】 リーチョンタオ(1926～　) 中国の物理学者。上海(シャンハイ)の生まれ。西南連合大学に学んだのち，1946年アメリカに渡り，シカゴ大学にはいる。卒業後ヤークス天文台・カリフォルニア大学を経てプリンストン高等研究所の研究員，さらに1955年以降コロンビア大学教授となる。統計物理学・核物理学などの研究により早くから注目されたが，そのほか場の理論・天体物理学・乱流の研究など研究分野は広範にわたる。1957年楊振寧(ようしんねい)とともにパリティ非保存の研究によりノーベル物理学賞を受賞。〔藤村　淳〕

りせいみん【李世民】(598～649) 中国，唐第2代皇帝。在位626～649年。太宗。おくり名は文武大聖大広皇帝。高祖李淵*(りえん)の次男であるが，高祖に挙兵を勧め，天下統一に最大の功績をあげた。有力な腹心を多く養い信望を集めていたため，兄の皇太子建成と弟の元吉にねたまれ除かれようとしたが，逆に玄武門にこれを襲撃し，ついに高祖から位を譲られた。年号は貞観(じょうがん)。23年の治世は貞観の治とたたえられ，唐300年の基礎を固めた中国屈指の名君であり，内治・外交に輝かしい業績を残している。〔藤善真澄〕

りそう【離騒】 中国，戦国時代の楚(そ)の詩人屈原*のつくった叙情詩。古代で最も長い叙情詩で，373句2,490字からなる。〈離騒〉とは憂にあうという意味。はじめにおい立ち・抱負を述べ，次に政治上の体験と迫害を語り，そのあと鬱屈(うっくつ)し，訴えようのない苦悶(くもん)や理想や，理想と現実との矛盾を語り，楚を離れて遠く天界へおもむかんとして思いきれず，死によって理想に殉じようと結ぶ。

りそうきたい【理想気体】 状態方程式*が$PV=nkT$と表わされ，内部エネルギー*が温度のみの関数になっていて圧力や体積によらない理想的な気体。ただし，Pは圧力，Vは体積，nは構成分子の数，kはボルツマン定数，Tは絶対温度*。きわめて希薄な気体は，このような性質をもつ。気体は，一定温度のもとで圧力を加えていくとしだいに圧縮されて密度が大きくなり，理想気体の性質が失われて気相から液相への相転移が起こる。これは，密度が増加すると気体分子自身の大きさや分子間相互作用などの影響が無視できなくなるためで，ファン-デル-ワールスの状態方程式*はこれらの効果を考慮したものである。圧力・温度の等しい数種の気体の混合物において，圧力・温度をもとの状態に保てば全圧力は分圧(混合気体の各成分気体のおのおのがほかの成分を除いてそれ自身だけで全体積を占めたと仮定したときの圧力)の和に等しいというドルトンの法則は理想気体に関してなりたつものであるが，水素ガス・空気・炭酸ガス・メタンガスなどの現実の気体は，高温では物質分子あるいは原子がそのまま存在するとはかぎらず，分子は解離し，原子はイオン化している場合も多く，特に水蒸気や炭酸ガスなど理想気体からほど遠い。〔服部真澄〕

りそうしゅぎ【理想主義】〈理想〉は〈現実〉と対立する概念で，あらゆる存在可能なもののうちで最も完全なものであり，われわれの行為の原型として役だつものをさす。それはカント以来具体的な個物としての理念を意味し，知的には神，道徳的にはたとえば人格の実現，ストア派の賢者，美的にはたとえば，理念が感覚的現象において個体的に現象化したものをいう。理想主義の原語アイデアリズムは観念論*と同じで，理想・理念を中心とする世界観・人生観をいう。富・名誉などの日常生活に見いだされる価値・理想を求める現実主義に対立する。超越的価値を理想として，これの実現に人生の存在理由・行為の目的を置く態度で，プラトン哲学・カント哲学・ドイツ観念論は理想主義の典型である。これらはイデア*・理念を尊重する実践的観念論であるが，唯物論者の実践的態度もしばしば理想主義的である。美学では写実主義*に対立する。アリストテレス以来模倣説は，実際には模倣の概念に多少とも理想化の意味を含んでいるから，対象の本質を再現する意味を有することになり，芸術はすべて理想主義の傾向をもつといえる。〔中川　誠〕

りそく【利息】 ⇨利子

りそくせいげんほう【利息制限法】 金銭を目的とする消費貸借上の利子について最高限度を定め，高利を取り締まることを目的とする法律(1954)。元本10万円未満の場合は年2割，元本が10万円以上100万円未満の場合は年1割8分，元本が100万以上の場合は年1割5分の利率を最高限として規定し，契約による利子がこれらの利率を超過するときはその部分につき無効とする(1条)。ただし，債務者が超過した部分を任意に支払ったときは返還請求をすることができない(1条2項)。債権者が元本以外の金銭，たとえば，礼金・割引金・手数料・調査料などを受け取った場合は，名義の如何(いかん)を問わずこれを利息とみなし，本法の適用を受けることとなる(3条)。また，債務不履行の場合に対する賠償額の予定は，その賠償額の元本に対する割合が制限利息の2倍をこえるときは，その超過部分につき無効とする(4条)。〔黒木三郎〕

リゾチーム［Lysozym］ ムコ多糖類・ムコペプチドまたはキチンの中のN-アセチルムラミン酸と2-アセチルアミノ-2-デオキシ-D-グルコース残基の間のβ-1，4結合を加水分解する酵素で，ムラミダーゼ，または正式名としてN-アセチルムラミドグリカノヒドラーゼともいう。脾臓(ひぞう)・卵白・鼻じる・植物ラテックスなどに含まれ，グラム陽性菌の細胞壁を構成するアミノ類を含む多糖類や，大腸菌・サルモネラ菌などのグラム陰性菌の一部の細胞壁をも分解する。リゾチームという名は，この殺菌的

な作用から名づけられたものである。白血球の内部にも含まれ，呑食(どんしょく)された異物を囲むライソゾームの中に含まれる酵素の一つでもある。近年，この酵素のアミノ酸の配例や立体構造などが明らかになり，直線部とループ状の部分からなっているので，一部分を変化させて免疫学に有用な抗原としても用いられている。〔和気 朗〕

リゾール ⇨クレゾールせっけん液

リソルジメント ［Risorgimento］イタリア語で〈復興〉を意味する。19世紀におけるイタリアの独立・統一の運動。ウィーン会議*以来イタリアは分裂状態におかれ，オーストリアの反動的支配が深く浸透していたが，このイタリアをオーストリアの支配から解放し，近代的民族国家として統一しようという国民主義の運動である。カルボナリ党*がその先駆をなし，青年イタリア党*もこの運動に貢献したが，結局サルジニア王国*により達成されて，1861年イタリア王国が樹立された。〔大野真一郎〕

りた 【利他】仏教用語で〈自利〉の対語。自利利他はまた〈自益(じやく)益他〉〈自行化他〉などともいう。自利とはみずからを利することで，自己の功徳のためにのみ努力修行することをいい，利他とは他の多くの人人の救済のために尽くすことをいう。この両者を完全に両立させたすぐれた状態を〈自利利他円満〉といい，大乗仏教の理想とする。これに対して小乗仏教は自利にかたよっているとされる。また親鸞(しんらん)は自利を自力，利他を他力の意味に用いることがある。〔広川堯敏〕

りたいしょう 【李大釗】リーターチャオ (1888～1927) 中国の政治家・思想家。河北省の人。日本に留学。はじめ民国革命の民主主義を支持し，列強特に日本帝国主義の侵略と国内軍閥の専制に対して人民の自覚による人民のための政治を主張，ロシア十月革命を知って人民の革命を意図して《庶民の勝利》などを書いた。新文化運動の当時，北京(ペキン)大学教授をし，《新青年*》などの編集に関係した。1919年《わがマルクス主義観》でマルクス主義思想を体系的に紹介し，五四運動ののち胡適*(こてき)との〈問題と主義〉論争で革命的知識人論を展開した。1921年中国共産党*創立に指導的役割を果たし，その後革命運動に組織上・思想上の寄与をしたが，北京で刑死した。〔西 順蔵〕

りたいはく 【李太白】 ⇨李白

りたくご 【李卓吾】(1527～1602) 中国，明(みん)代の異端思想家。名は贄(し)，卓吾は字(あざな)。福建省の人で，家は回教徒だったという。中央・地方の役人をつとめ，やめて僧形となったが，処世はまったく反体制的で，そのため風俗壊乱の名で著書は焚(や)かれて下獄し，自殺した。その思想は，陽明学*の左派の最後の最極端というべきものである。王陽明の〈良知〉を純粋化して伝統的権威や世間知から自由な主観である〈童心〉を提唱したが，これは本能や私欲をも含むものであった。そして，私欲を否定するのは偽善であるといって支配階級の偽善を罵倒(ばとう)し，儒教的価値基準を転倒させた反面，反抗的で率直な〈俠(きょう)〉の人間結合を賛美した。著書に《焚書(ふんしょ)》《蔵書》があり，清(しん)末以後の思想界に復活した。〔西 順蔵〕

リーダーズ-ダイジェスト ［Reader's Digest］アメリカの月刊雑誌。1922年2月D.ウォーレスが創刊。〈読者のための要約〉をモットーに各種刊行物の中からすぐれた内容のものを選んで要約・転載する編集方針をとっている。1938年イギリス版が発行されたのを皮切りに，現在14か国語，29種の国際版が発行されている。日本語版は1946年(昭和21)発行された。発行部数総計2,900万(1971)をこえるといわれ，そのうち日本語版は50万部前後。〔飯田良明〕

リチウム ［lithium］周期律表第I族，アルカリ金属の一。記号Li，原子番号3，原子量6.941。1817年にスウェーデンのA.アルフェドソンによってヨウチョウ石中から発見された。鉱石としてはリンウンモ(リチアウンモ)・ヨウチョウ石などがある。金属リチウムは溶融塩化物の電解によって得られる。銀白色のかなり柔らかい金属。融点179℃，沸点1,336℃，比重0.534(20℃)。すべての金属中でいちばん軽く，石油上に浮く。化学的性質はほかのアルカリ金属に類似するが，マグネシウム・カルシウムなどと似ている点もある。空気中で燃えて酸化物を生じ，水素中で燃えて水素化リチウムとなる。炎色反応は赤色。金属として軸うけ合金，化合物としてグリース用・吸湿剤・特殊ガラス用として使われ，原子力関係の材料にも用いられる。〔古屋 弘〕

リチェルカーレ ［ricercare］16～17世紀の器楽曲に用いられる名称。器楽のアンサンブルによる初期のリチェルカーレは16世紀の宗教音楽の様式をもち，主題を模倣技法により展開する。その最盛期はウィラールトらベネチア楽派*の活動した時代にあたる。この対位法的なリチェルカーレはオルガンの作品にもみられる。しかし，ここでは，主題は一つではなく，二つまたはそれ以上の場合が多い。声部にこだわらない，装飾的な進行をもった自由な書法がその特徴である。バロック初期から中期にかけて盛んにつくられ，J.S.バッハの作品はその最後の形を示している。これら対位法的リチェルカーレとは別に，技術の訓練といった教育的目的で書かれたものもある。これらはリュート*やビオールのための作品に数多くみられる。〔吉田泰輔〕

リチャーズ ［Theodore William Richards］(1868～1928) アメリカの化学者。ペンシルバニア州ジャーマンタウンの生まれ。ハーバード大学に学ぶ。のちヨーロッパに留学し，1901年からハーバード大学教授となる。多数の元素の原子量を精密測定し，特に放射性鉛の同位体を発見。このほか電気抵抗，ガスの膨張，結晶の成長などに関する研究もある。1914年アメリカ人としてはじめてノーベル化学賞を受賞。

リチャーズ ［Ivor Armstrong Richards］(1893～) イギリスの文芸評論家。主著《文芸批評の諸原理》は心理主義の立場に立って，日常経験をも含めた全人的な意味での文学との触れ合いの可能性を論じたもので，いわゆる新批評*の先駆となった。またケンブリッジ大学で教えるかたわら，文学鑑賞の多様性を実験的に明らかにした《実践批評》など，読者の主体性に関する論文が多い。他にオグデンとの共著《意味の意味》がある。〔五十嵐一〕

リチャード ［Richard］イングランド王。

1 1世(1157～1199) プランタジネット朝の王。在位1189～1199年。勇猛無類の騎士とうたわれ，〈獅子(しし)心王〉とよばれる。ヘンリー2世の次子。母や兄弟と結んで父王と争い，兄の死により王位についた。その反面，政治に関心がなく武名を得ることにのみ熱中し，第3回十字軍に指揮者のひとりとして参加した際，その軍費調達のため多くの都市に自由の特許状を売りつけた。十字軍遠征ではサラディン*と戦い，1192年和を結んだが，その帰途オーストリア公に捕えられ，ばくだいな身代金を払って釈放された。1199年家臣リモージュと出土した古代財宝の所有権を争いシャリュース城を包囲したが，守備兵にねらい撃ちされて戦死した。➔次ページ(写真)

2 2世(1367～1400) プランタジネット朝の王。在位1377～1399年。エドワード黒太子*の子。フランスのボルドーの生まれ。1377年祖父エドワード3世の死によりイングランド王に即位。美貌(びぼう)の少年王として知られ，ワット-タイラーの乱*の鎮圧に際しては，その勇気を賞賛された。しかし，このときの行為は摂政であった叔父(おじ)や母の演出したものという。長じて王権の強化をはかったが十分な成功をみず，貴族たちの反感を買った。1399年ランカスター家のヘンリー4世*によって王位を奪われ，翌年幽閉中に死去。

3 3世(1452～1485) ヨーク朝最後の王。在位1483～1485年。エドワード4世*の弟。1483年兄の死後，13歳の甥(おい)エドワード5世とその弟エドワードをロンドン塔に幽閉して殺害し，王位を簒奪(さんだつ)した。モアやシェークスピアは彼を不具で残忍な人物として描いているが，実際には勇敢な気宇の大きい人物であったともいわれる。1485年ランカスター派のヘンリー-チューダー(ヘンリー7世)とボズワースで戦い，激戦ののちに討ち死にした。これによりバラ戦争*は終わり，チューダー朝が開かれた。➔次ページ(写真)〔板橋重夫〕

リチャードソン [Samuel Richardson] (1689～1761) イギリスの小説家。指物師(さしものし)の子として生まれ,出版業で成功した。筆がたつことから恋文の代筆などしているうち，模範手紙文例集をまとめたことがきっかけで,51歳になって書簡体小説《パミラ》を執筆,ロマンスに飽きた女性読者に歓迎された。次いでやはり書簡体の大作《クラリッサ-ハーロー》《グランディソン》を発表。律義な倫理感と説教調，冗長な記述のため，今日ではあまり読まれないが，心理的リアリズムを早くも確立したことで，その評価はイギリスばかりでなくヨーロッパ大陸においても高い。 〔沢村 灌〕

リチャードソン [Owen Willams Richardson] (1879～1959) イギリスの物理学者。ヨークシャーのデューズベリの生まれ。ケンブリッジ大学を卒業後，キャベンディッシュ研究所にはいる。1906年アメリカに渡りプリンストン大学教授。1914年帰国してロンドン大学教授，のち王立協会教授を兼ねた。高温物体からの電子放射現象(リチャードソン効果)の理論的・実験的研究から，熱電子管発展の基礎をつくった。このほか磁性・電子論・水素分子スペクトルなどに関する研究がある。1928年ノーベル物理学賞を受賞。 〔橋本槙矩〕

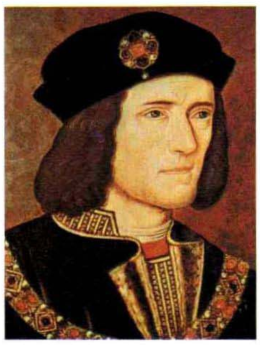
リチャードソン [Dorothy Richardson] (1882～1957) イギリスの女流小説家。同時代のジョイス*・ウルフ*とともに,〈意識の流れの文学*〉の作家として知られる。代表作は,《尖(とが)った屋根》に始まる全12巻の連作《巡礼》で,ミリアム-ヘンダーソンという女性の10数年にわたる意識・心理の動きを描いた。

りちゅうてんのう 【履中天皇】 生没年不詳。仁徳(にんとく)天皇の皇子。母は葛城磐之媛(かづらきのいわのひめ)皇后。諱(いみな)は去来穂別(いざほわけ)。仁徳天皇没後,同母弟の住吉仲皇子(すみのえのなかつおうじ)に襲われ，難波(なにわ)宮よりのがれて大和(やまと)(奈良県)の石上(いそのかみ)神宮にはいり,弟の瑞歯別(みずはわけ)皇子に仲皇子を討たせ,やがて磐余(いわれ)宮で即位したという。陵墓は大阪府堺市の百舌鳥耳原(もずのみみはら)南陵。なお，陵墓は仁徳天皇陵・応神天皇陵に次ぎ，全国第3位の規模をもつ前方後円墳である。 〔黛 弘道〕

りちょう 【李朝】

1朝鮮最後の王朝。1392年太祖李成桂*(りせいけい)が高麗(こうらい)に代わって建国，1910年(明治43)の日韓(にっかん)併合*まで27代519年にわたって存続。国号は朝鮮。李氏朝鮮王朝ともいう。李太王のとき国号を韓と改め,皇帝と称した。日韓併合後1945年(昭和20)まで李氏は昌徳(しょうとく)宮李王として皇族の待遇を受けた。太祖から第8代の睿宗(えいそう)までが全盛期で，中国文化にならって儒学を国教とし，国字(ハングル*)がつくられ，国王を頂点とする官制が整備され，体系的な法典《経国大典*》，朝鮮全土の統一





リチャード
(上)1世 国会議事堂前の騎馬像
(下)3世

地誌《東国輿(よ)地勝覧》がつくられた。次の成宗(1469～1494)のころから党派的争いが激しくなり，王朝は衰勢に向かう。16世紀末期における豊臣秀吉(とよとみひでよし)の朝鮮侵略(文禄・慶長の役*)により大打撃をこうむった。その後17世紀初頭から清(しん)を宗主国とし，19世紀以後ヨーロッパ列強および日本の脅威を受け続け，日清戦争以後日本の政治的支配が決定的となった。文化的には高麗朝に比して特筆すべきものに乏しく，仏教芸術は影を潜め，陶磁の作風も荒れすさんだ時代である。王朝の記録として《李朝実録*》がある。 〔勝村哲也〕

2ベトナムの最初の王朝(1009～1225)で，9代216年にわたって存続。1054年，国号を大越国と改めた。始祖は太祖李公蘊(りこううん)で，即位後，都を華閭(かりょ)からハノイ(昇龍(しょうりゅう))に移し，以後これが国都となった。その盛時は2代太宗，3代聖宗，4代仁宗と12世紀初めまで続き，その間南方チャンパを征討してその進出をおさえ，また中国の宋(そう)に対しても，仁宗のとき，これと戦って一時中国に侵入，ついに防御に成功した。しかし，中国に対してはおおむね朝貢関係を維持し，儒教を盛んにして文廟(ぶんびょう)を設け，また国子監を開いて経書を講じ，さらに科挙の制を導入するなど，大いに中国の文物・制度を取り入れた。仏教も盛んで，これに保護を加え，多くの仏寺を建立(こんりゅう)した。しかし，神宗・英宗ののち，高宗・恵宗ら暗愚・病弱の君主が続き，ついに昭皇に至って内紛のため滅亡した。 〔船越昭生〕

りちょうじつろく 【李朝実録】 朝鮮，李朝*太祖から哲宗に至る25代の事跡を記録した官選の史籍。1708巻。高宗・純宗を加えて1782巻とすることもある。編纂(へんさん)は仁宗実録までが中央の春秋館，以後が実録庁，高宗・純宗実録が李王職で行なわれた。活字印刷した実録は中央と地方の史庫に分蔵され，公開されなかった。1930～1932年京城帝国大学(現在のソウル大学)で影印本がつくられ，1971年に京城で《朝鮮王朝実録》として出版された。 〔勝村哲也〕

りちょうだいえつこく 【李朝大越国】 ⇨李朝2

りつ 【律】 ⇨三蔵

りつ 【律】 律令(りつりょう)制*国家の基本法典で，令*と並ぶもの。人民統治のための諸種の法を総合した令の効力を裏づけるための刑法典。天武天皇の定めた飛鳥浄御原(あすかのきよみはら)律を最初とし,以後大宝律・養老律があいついで制定された。唐律を手本とし，刑罰は唐より数段階軽いのが普通である。また外祖父母が唐よりも特に重視されているのも，母系を重んじたわが古代社会の慣習を反映するものであろう。 〔黛 弘道〕

りつ 【律】 中国・日本の音楽理論用語。十二律*のうち呂*(りょ)以外の6音(黄鐘(こうしょう)・太簇(たいそく)・姑洗(こせん)・蕤賓(すいひん)・夷則(いそく)・無射(ぶえき))をさし，陽性の音とされる。

りっか 【立花】 ⇨生け花

りっか 【立夏】 二十四気*の一。陽暦の5月5日ごろにあたる。太陽黄経は45°。暦の上ではこの日から夏であるが，気象的にはまだ春である。いわゆるゴールデンウィークの締めくくりにあたる。このころは一年のうちで最もさわやかな季節である。

りっきょう 【陸橋】 陸上に架設されている橋で，低地や谷間を越えるためあるいは通路を地面より高く維持することが主たる目的で架設されるもの。よく見かける例に跨線(こせん)橋などの取りつけ部分を盛り土の代わりに陸橋にしたものや高架道路や高架鉄道のためにつくられているものがある。一般にかなり長区間にわたって連続してかけられるのが普通で，盛り土では用地幅が大きくなって不利な場合とか，地盤が軟弱で盛り土が維持できないような場合に実例が多い。 〔堀井健一郎〕

りっきょうだいがく 【立教大学】 私立大学。1874年(明治7)，東京築地の外人居留地内に，アメリカ聖公会宣教師による私塾(しじゅく)〈聖ポウロ学校〉として開設された。以後，立教学校・立教専修学校・立教学院・立教大学などと改称，1949年(昭和24)新制大学となった。キリスト教主義に基づく〈神と国のために〉を建学の精神とする。現在，文学部Ⅰ・Ⅱ，経済，社会，理，法の各学

部と大学院，原子力研究所などからなっている。本部は東京都豊島(としま)区池袋3丁目。

リッケルト ［Heinrich Rickert］（1863～1936） ドイツの哲学者。新カント主義の一派である西南学派の代表者。ダンチヒの生まれ。ベルリン大学に学び，フライブルク・ハイデルベルク各大学の教授をつとめた。彼は当時の自然科学と文化科学との区別についての哲学的論争において指導的役割を果たし，先験的観念論の立場から形而上学(けいじじょうがく)・心理主義を排した。ウィンデルバントの弟子(でし)で，その歴史学を継承発展させ，文化哲学・価値哲学を建設した。主著《認識の対象》《文化科学と自然科学》《哲学の根本問題》。〔豊福英利〕

りっけんかいしんとう 【立憲改進党】 ⇨改進党

りっけんくんしゅせい 【立憲君主制】 ⇨君主制

りっけんこくみんとう 【立憲国民党】 大正時代の政党。1910年(明治43)憲政本党を中心にして無名会・又新会(ゆうしんかい)など非政友会3派を合同して結成。犬養毅(いぬかいつよし)・島田三郎・河野(こうの)広中らを中心に第1次憲政擁護運動の先頭にたったが，内部に対立をはらみ，桂(かつら)太郎首相に切りくずされて，1913年(大正2)多くが脱党して中央倶楽部(クラブ)と合同，桂の立憲同志会が結成された。犬養らの残留組は国民党としてその後も残ったが，しだいに小勢力となり，1922年9月解党，革新倶楽部へ発展した。〔杉山三枝〕

りっけんじゆうとう 【立憲自由党】 ⇨自由党

りっけんしゅぎ 【立憲主義】 立憲政治ともいう。広義には政治権力を一定の安定した法律秩序によって規整しようとする政治体制またはその原理，狭義には三権分立の原則に立つ憲法に基づいて政治を行なうという原則を意味する。ある政治体制が単に三権分立を形式的にのみ認めている場合，これを外見的立憲主義という。

りっけんせいゆうかい 【立憲政友会】 1900年(明治33)，伊藤博文(いとうひろぶみ)が憲政党を中心に結成した政党。政友会と略称する。支持層は地主・ブルジョアジー・官僚。憲政擁護運動・普通選挙運動には消極的で，官僚出身の伊藤が政党否認の方針を捨てて内閣を組織するために創設したものなので軍国主義的な面が政党中最も強かった。日露戦争後，ブルジョアジーの勢力が強まり，党内にも政党内閣の主張が盛んになった。1918年(大正7)3代総裁原敬(たかし)は内閣を組織して政友会の全盛時代を実現したが，1922年原が暗殺されると政友会は分裂して政友本党が成立し，勢力は衰えた。これを回復するため陸軍大将田中義一を総裁に迎え，1927年(昭和2)与党となり，中国侵略政策を強行した。1931年に成立した犬養毅(いぬかいつよし)政友会内閣が翌年の五・一五事件で倒れると，次の鈴木喜三郎総裁は挙国一致内閣という形で軍部・官僚に政権を奪われ，以後分裂などもあってファシズムの進行する中で1940年7月解党，新体制運動に吸収された。〔杉山三枝〕

りっけんていせいとう 【立憲帝政党】 明治初期の御用政党。1882年(明治15)福地源一郎・丸山作楽・佐々木高行らが自由党・改進党の結成に対抗して結成。政府の承認と谷干城(たにたてき)らの支持のもとに活動し，欽定(きんてい)憲法・主権在君・制限選挙などを政綱に掲げ，《東京日日新聞》をその機関紙とした。反動的士族・僧侶(そうりょ)・神官・国漢学者などの保守的階層の支持を受けたが，大日本帝国憲法制定の方針が確立すると，政府から絶縁され，翌1883年解党した。〔杉山三枝〕

りっけんどうしかい 【立憲同志会】 大正時代の政党。1913年(大正2)第1次憲政擁護運動の激化に悩んだ桂(かつら)太郎首相が政党結成宣言を発表，桂の死により，同年12月正式に結党式をあげ，立憲政友会と対立した。総裁加藤高明。1914年ジーメンス事件に際し第1次山本内閣を攻撃，続く第2次大隈(おおくま)内閣の与党として加藤高明・若槻(わかつき)礼次郎らを入閣させ，1916年総選挙では大浦兼武(かねたけ)内相の選挙干渉で151名を獲得し，第一党となった。同年10月大隈内閣が対華二十一か条の要求などで総辞職すると，同志会は中正会・交友倶楽部(クラブ)と合同して加藤高明を総裁とする憲政会に改組した。〔杉山三枝〕

りっけんみんしゅとう 【立憲民主党】 20世紀初期ロシアの帝国主義的ブルジョアジーの党。カデットともいう。1905年10月ゼムストボ議員，立憲主義者，〈解放同盟〉会員などによって創設された。第1次革命の高まりの中で立憲政体を主張したが，1906年1月の第2回党大会で立憲・議会制の君主制へと転換した。ミリューコフらを中心指導者として，1906年2月からペテルブルグで機関紙〈レーチ〉を発行した。帝国主義的膨張政策，大ロシア民族主義の対外政策をとり，農業政策では地主的土地所有を保護し地主の利益に立って農民との間の協調を図った。第1・第2ドゥーマ(国会)で多数党となり表面上ツァーリ政府と対立したが，第3・第4ドゥーマではストルイピンの反動政治を支持した。第1次世界大戦を積極的に支持し，ミリューコフの指導のもとにドゥーマ内のブルジョア諸党を結集して〈進歩的ブロック〉を結成し，戦争を最後まで遂行することを基本方針とした。1917年二月革命後の臨時政府で指導的役割を果たし，ブルジョアジー・地主の利益を代表した。十月革命後ソビエト政権に敵対し，外国干渉を導き入れ，反革命の組織者となった。国外の亡命先でも活発な反ソビエト活動を行なった。〔山県弘志〕

りっけんみんせいとう 【立憲民政党】 立憲政友会と並ぶ昭和初期の政党。1927年(昭和2)田中義一内閣(政友会)の成立に対抗し，憲政会と政友本党が憲政連盟を結成，6月これを改組して結党。総裁浜口雄幸，顧問若槻(わかつき)礼次郎・床次(とこなみ)竹二郎らをあげ，議会政治の徹底，国際正義の実現，社会不安の除去などを綱領に掲げた。政友会が地主的性格をもつのに対し，都市ブルジョア的性格をもつ。第1回普通選挙で第二党となり，山東出兵・南満州鉄道爆破事件をめぐって田中内閣が倒れたのち，浜口を首班とする民政党内閣を成立させ，金解禁の断行，ロンドン軍縮条約の調印を行なった。1931年浜口辞任のあと若槻が総裁となり，第2次内閣を組織した。1935年町田忠治が総裁となり，軍部・政友会とともに天皇機関説を攻撃，1936年二・二六事件以降軍部の圧力に屈し，1940年解党。〔杉山三枝〕

りっこくし 【六国史】 官撰(かんせん)の国史6部の総称。奈良期から平安期にかけて，勅命によって撰修された《日本書紀》《続日本紀(しょくにほんぎ)》《日本後紀》《続日本後紀》《日本文徳天皇実録》《日本三代実録》をいう。中国史書にならって漢文で記し，神代から光孝天皇887年(仁和3)までの時代を承接していったが，律令(りつりょう)制の崩壊とともに廃絶。史書・史料として貴重である。

りっし 【律詩】 漢詩の形体の一。絶句とともに近体詩の一種で，全8句を2句ずつ一聯(れん)とし，順に首聯・頷聯(がんれん)・頸聯(けいれん)・尾聯と名づける。六朝(りくちょう)に起こり，唐代に至って完成した。声調や均斉美(きんせいび)を尊ぶのがその特色とされ，1句5字の五言律詩と7字の七言律詩とあるが，いずれも頷聯と頸聯には対句を用いる。押韻は偶数句の末にあることが多い。なお，律詩の長編のものは排律とよばれる。

丞相祠堂何処尋　錦官城外柏森森(首聯)
映階碧草自春色　隔葉黄鸝空好音(頷聯)
三顧頻煩天下計　両朝開済老臣心(頸聯)
出師未捷身先死　長使英雄涙満襟(尾聯)

リッジ ［ridge］ 気圧の峰のこと。波状に変動している等圧面の峰に相当する部分をいう。その部分に位置する空気が暖かいか，冷たいかによって暖かい尾根，または冷たい尾根という。一般に，リッジの圏内は天気がよい。

りっししゃ 【立志社】 自由民権運動の中心的役割を果たした日本最初の政治結社。1874年(明治7)征韓(せいかん)論に敗れて下野した板垣(いたがき)退助・片岡健吉・林有造らが高知で海南義社を吸収して結成。1875年には各地民権結社に呼びかけて愛国社を組織した。はじめは，士族の互助救済教育とその政治的啓蒙(けいもう)を行なうことを目的としたが，1877年には国会開設の建白書を提出し，1881年の自由党結成に至るまで，愛国社・国会期成同盟・自由党の中核として自由民権運動に活躍した。〔杉山三枝〕

りっしゃくじ【立石寺】 山形市大字山寺にある天台宗の寺。山寺の名で知られる。立谷(たちゃ)川の北岸，奇岩怪石からなる岩山にあり，創建は860年(貞観2)，開基は円仁(えんにん)または安恵といわれている。伽藍(がらん)の規模は比叡(ひえい)山延暦(えんりゃく)寺を模したと伝えられ，根本中堂を中心に多くの堂宇が山内に建てられ，岩山をうがってつくられた円仁の入定窟(にゅうじょうくつ)には金棺が納めてあり，大師の首像が生前の面影を伝えている。根本中堂の《木造薬師如来坐像(ざぞう)》は秘仏で，ひざ裏に1205年(元久2)の修理銘があり，12世紀中葉の作と考えられる。《天養元年如法経所碑》は，入阿大徳(にゅうあだいとく)が1144年(天養1)同法5人とともに《法華経(ほけきょう)》一部を書写して経塚(きょうづか)をつくった由来を記したものである。〔永井信一〕

りっしゅう【律宗】 南都六宗・日本十三宗の一。ブッダの教えを経・律・論の三蔵に分け，それぞれの中心的な教えに基づいて宗派が成立した。律宗は律を中心とする。律にはインドでは《四分律》《十誦律(じゅうじゅりつ)》《五分律》《摩訶僧祇律(まかそうぎりつ)》《解脱律》の五部律があるが，宗派は形成されなかった。中国において《四分律》による学派が成立し，道宣の南山宗，法礪(ほうれい)の相部宗，懐素の東塔宗の三家が主となる。そのうち南山宗が長く続き，元照は中興の祖とされる。日本には道宣の弟子(でし)恒景に師事した鑑真(がんじん)が754年(天宝勝宝6)に来朝して東大寺に戒壇院を設立して授戒をはじめ，唐招提(とうしょうだい)寺が建立(こんりゅう)されてのちはここを戒律研究の中心として律宗が成立した。その後下野(しもつけ)(栃木県)の薬師寺，筑紫(つくし)(福岡県)の観世音寺にも戒壇が設けられ，日本じゅうの僧尼がこの3か所で必ず受戒するようになり，律宗は重んじられた。その後衰微し，鎌倉時代に俊芿(しゅんじょう)の北京律，覚盛・叡尊(えいそん)の南都律の復興をみたが，再び衰え，江戸時代に真言律宗，天台の安楽律・浄土律の復興が行なわれ，明治時代には雲照によって復興が叫ばれた。現在，唐招提寺を本山とする律宗と奈良西大寺を本山とする真言律宗がある。〔石井修道〕

りっしゅう【立秋】 二十四気の一。陽暦の8月7日ごろにあたる。太陽黄経は135°。暦の上では，この日から秋である。暑さはまだきびしいが，ふとしたおりに忍び寄る秋のけはいが感じられる。

りっしゅん【立春】 二十四気の一。陽暦の2月4日ごろにあたる。太陽黄経は315°。暦の上では，この日から春である。この朝，禅宗(おもに曹洞宗(そうとうしゅう))の寺院と信徒の家で〈立春大吉〉と書いた紙片を建物の入り口や門柱に張るならわしがある。また，八十八夜・二百十日などは，この日から起算する。立春の前日が節分で，古くはこの日を年起こしとするならわしもあった。そのなごりは広く豆まきの行事として残っているが，土地によってはいまなお立春を元日として立春正月を祝うところ(近畿(きんき)地方の一部など)もある。

りっしょうあんこくろん【立正安国論】 日蓮(にちれん)の著書。1巻。1260年(文応1)に著わされ，前執権の北条時頼(ほうじょうときより)に上呈された。1257〜1260年ごろ関東地方には地震・疫病・飢饉(ききん)などの災害があいついだ。彼はその原因についての典拠を仏典に求め《守護国家論》などを著わしたが，それらを本書中に総合した。彼はこれらの災害は，邪法である法然の浄土教が流布していることが原因であり，このままではやがて内乱や他国の侵略が起こるであろうと予言した。そしてこの対策として邪法を禁止し，正法である《法華経(ほけきょう)》の信仰をひろめれば，社会は安穏となるであろうと主張した。しかし，この主張は採択されることなく，かえって鎌倉の念仏者は彼に対して迫害を加え，その結果1261年(弘長1)に彼は伊豆(いず)(静岡県)の伊東に流罪となった。〔塚本啓祥〕

りっしょうこうせいかい【立正佼成会】 新興宗教の一。庭野日敬(にっきょう)と長沼妙佼とが1938年(昭和13)霊友会から離れて，〈大日本交成会〉を設立したのに始まる。1948年〈立正交成会〉，副会長妙佼の死後，1960年交を佼と変えて〈立正佼成会〉と名称を変えた。設立当初30人の会員は，第2次世界大戦前1,000人にとどまったが，戦後急速に教勢を伸ばした。会長日敬の易・方位学・姓名学から霊友会・日蓮(にちれん)教学への求道遍歴，副会長妙佼の天理教を通しての霊能の感応発動とが車の両輪をなして発展を導いたことに特徴がみられる。教義の中核は霊友会に仰ぎ，霊友会から引き継いだ〈法座活動〉を通して，心のもち方を変え，祖先の霊を祭って悪い因縁を断ち切れば病気がなおると説いた。組織面では，全国に200にのぼる教会・支部と海外教会を置き，各地に修養道場を建設し，《佼成》《佼成新聞》などの機関紙を発行するとともに，本部に大聖堂・普門会館・養老院・学校などの教団施設を拡充した。1951年に結成された〈新日本宗教団体連合会〉(略称，新宗連)の中心教団として，〈宗教協力〉〈国民皆信仰運動〉を展開している。信仰を心の建て直しとみる唯心論的色彩をしだいに強め，初期の現世利益の強調を正信に導くための方便であったとみて，原始仏教の教義をとり入れた在家仏教道をめざす姿勢が顕著にみられる。公称信者470万。〔藤井正雄〕

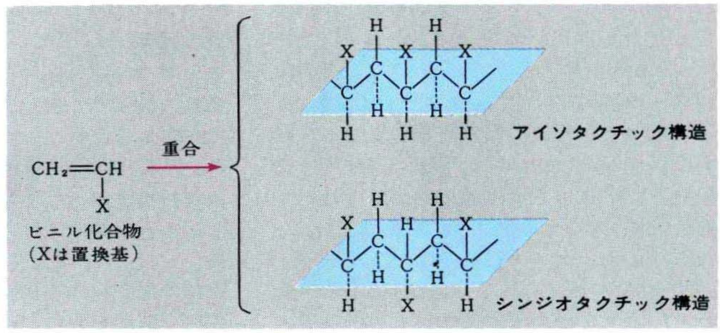
りったい【立体】 球・柱体・錐体(すいたい)などのように，面で囲まれた三次元空間内の図形。立体図形ともいう。らせん状の曲線やひご細工でつくった立体状の図形は，面で囲まれていないから立体とはふつういわないが，このような図形も包括してよぶときには空間図形という。

りったいいせいたい【立体異性体】 分子の異性体の一。幾何異性体と光学異性体に2分することが多いが両者の区別は厳密ではない。①幾何異性：有機化合物では，分子内回転が制約され，構成部分が異なった立体配置をとるときに生ずる。エチレンやオキシムの置換体，マレイン酸とフマール酸などが典型的な例。無機化合物では，四つ以上の配位子が配位する場合，二つの異なる配位子の位置関係で生ずる。錯塩に多い。②光学異性：融点・沸点などは同じで旋光性が異なる異性体。光学異性があるかないかは鏡映面・対称心・回映軸の有無で決まり，すべてを欠くとき分子は重ね合わせることのできない二つの立体構造，右旋性化合物(d-体)と左旋性化合物(l-体)の一対の異性体(対掌体・左右像)となる。このような分子構造を不整であるといい，分子内原子が不整の場合と分子構造が不整(分子不整)の場合がある。〔三輪　誠〕

りったいえいが【立体映画】 立体的に見える映画。普通の映画でも，観客は視覚の慣習ないし想像力によってスクリーンの映像を立体視しているが，立体映画では直接視覚の構造に立体感が与えられる。通常の立体映画(ステレオ方式)は，視差(両眼の距離)をもつ2個のレンズで撮影したフィルムを，2台の映写機で同一スクリーンに映写するもので，観客は色眼鏡ないし偏光眼鏡によって，左右の眼にそれぞれ異なった映像を見て立体感を得る。しかし中には，特殊スクリーンの使用によって視差をつくりだすものがあり，またシネラマ方式の立体映画は，湾曲した超ワイド-スクリーンと立体音響によって，観客の錯覚による立体感をつくりだすものである。立体映画の構想・発明は，すでに1900年ごろからあったが，作品として製作・上映されたのは，1935年アメリカにおけるものが最初である。〔波多野哲朗〕

りったいきそくせいこうぶんし【立体規則性高分子】 ある特定の立体構造の規則的なくり返しからなる分子鎖を基本構成単位とする高分子化合物。ステレオポリマーともいい，その生成反応を立体特異性重合という。1955年にイタリアの化学者ナッタが，チーグラー触媒の一変種を用いてポリプロピレンを得たのが最初である。この場合のポリプロピレンは主鎖を構成している単量体単位のほとんど全部が，アイソタクチックといわれる配置のしかたをしており，アイソタクチックポリプロピレンといわれる。アイソタクチックに対してシンジオタクチックという配置のしかたがあり，両者を図に示す。立体規則性になることによって重合体の性質も変化し多くの場合結晶性が高くなり，したがって密度も大きくなる。現在，多くのビニルポリマーについて立体規則性高分子が知られるが，そのうち，工業的に特に重要なのは，ポリプロピ

立体規則性高分子



レンのほかに，ステレオゴム*といわれるジエン化合物の1,4-重合体を特別シス型にしたものがある。〔伊藤 卓〕

りったいこうさ【立体交差】道路と道路，鉄道と鉄道または道路と鉄道とが異なった高さで交差する方式。同一の高さで交わる平面交差に対していう。道路と道路が立体交差する場合に二つの道路同士を結ぶ連絡路のある場合にはインターチェンジ*ともいわれる。立体交差は，交差点における交通流の円滑化と事故防止のうえに望ましい方式である。

りったいしれい【立太子礼】皇太子の地位を公式に内外に知らせる儀式。現行皇室典範では，皇長子は生まれながらにして皇太子であるが，かつては立太子礼を経てはじめて皇太子の地位が決定された。平安初期に制度化し，儀式は紫宸(ししん)殿で行なわれた。式中，皇太子に護身用として〈壺(つぼ)切の剣〉を授与されるが，この儀式は現在に及んでいる。室町初期以来長く廃止されていたが，近世になって霊元天皇の代に旧儀に復した。なお，現皇太子は1952年(昭和27)立太子礼を行なった。〔高崎徳次〕

りったいずけい【立体図形】⇒立体

りったいほうそう【立体放送】⇒ステレオ

リッチモンド［Richmond］アメリカ合衆国，バージニア州の州都。人口24万9,000(1970)。州東部，チェサピーク湾口からジェームズ川をさかのぼったところにある滝線都市で，外洋汽船の終点である。古くから有名なバージニア-タバコの市場として知られ，タバコ製造工業が盛ん。また紙・レーヨン・セロファン・機関車の製造工業も行なわれる。1733年に建設の起源をもつ都市で，南北戦争では南軍の本営が置かれた。〔相村大彬〕

りっとう【立冬】二十四気*の一。陽暦の11月7日ごろにあたる。太陽黄経は225°。暦の上では，この日から冬である。冬の季節風が吹きはじめ，黒土から麦の芽がのぞきだす。このころ，札幌(さっぽろ)地方では最低気温が氷点下となり，東京あたりではイチョウが黄葉する。

りっとう【栗東(町)】滋賀県栗太(くりた)郡の町で，1郡1町をなす。人口36,000。県南部，野州(やす)川の南岸に位置する。1954年(昭和29)金勝(こんぜ)など4村が合併して発足。東海道本線・草津線，国道1号線・8号線が通り，また名神高速道路のインターチェンジのある交通の要地で，近年工場の進出が著しく，新興工業地域を形成しつつある。

リットル［liter］メートル法の体積の単位。1 m³の1,000分の1，すなわち，1辺が10cmの立方体の体積にあたり，記号〈l〉で表わす。本来は，1気圧のもとで最大密度の純粋の水1kgの体積として規定されていたが，誤差があって不便なので，1,000cm³の体積をリットルと称することに改められた。リットルの10分の1をデシリットル(dl)，1,000分の1をミリリットル(ml)，また，1,000倍をキロリットル(kl)という。これらの単位は，液体・粒状物の体積や容積などを表わすのに用いる。〔富田芳秀〕

リットン-インダストリーズ［Litton Industries Inc.］アメリカの代表的なコングロマリット*(複合企業)。タイプライターや電子機器・計算機，航空宇宙用・産業用の電子機器のほか，造船・医療部門ももつ。1953年の設立以来80余の会社を買収し，世界じゅうに219の工場・研究所をもつ。軍需・宇宙関係では政府との結びつきが密接で，売り上げは全体の3分の1を占める。本社カリフォルニア州ビバリー-ヒルズ。年間売上高24億7,000万ドル，従業員数11万6,000(1971)。

リットンちょうさだん【リットン調査団】満州事変*後，国際連盟*が派遣した調査団。1931年(昭和6)9月18日満州事変が起こると，中国政府は日本を侵略国として国際連盟に提訴した。このため連盟は翌年1月イギリスのリットン伯を団長とし，アメリカ・フランス・ドイツ・イタリア各国委員からなる5名の調査団を編成。3～4月まで中国，4～6月まで満州を調査し，満州事変は日本の正当な自衛権の発動ではないとして，日・中間に満州に関する新条約の締結を勧告する報告書を発表した。国際連盟が42対1(日本)でこの報告書を採択するや，日本はこれを不満として，1933年国際連盟を脱退した。〔杉山三枝〕

リッピ［Filippo Lippi］(1406？～1469) イタリア-ルネサンス期の画家。ロレンツォ-モナコ*の弟子(でし)といわれ，マサッチョ*から大きな影響を受けた。年少時からカルメル会修道士の生活を送ったが，当時から絵画にすぐれていた。確実な素描の知識，色彩の清新さは，15世紀イタリア画家の中でも特筆に値する。むすこのフィリピーノ・リッピ(1457～1504)もすぐれた画家となり，弟子にボッティチェリがいる。代表作には《ヘロデの宴》《聖母子》《聖母戴冠(たいかん)》などがあげられる。〔井関正昭〕

リップス［Theodor Lipps］(1851～1914) ドイツの哲学者・心理学者。ボン・ブレスラウ・ミュンヘン各大学の教授を歴任。彼は意識体験を対象とする心理学を，論理学・美学・倫理学などの基礎におき，いわゆる心理主義の立場をとった。美学においては，有名な〈感情移入*〉の理論を唱え，美は対象の中にあるのではなく，対象を見る意識によって把握(はあく)されたものを，対象の中に移してそれと融合させるところになりたつと説いた。倫理学においては，カント的な人格主義をとり，義務の感情をもって道徳の本質と解し，人格価値を唯一の価値とみなしている。彼の倫理思想は，阿部(あべ)次郎*らを中心に，わが国にもかなりの影響を与えた。主著は《論理学概論》《倫理学の根本問題》《美学》など。〔飯塚勝久〕

リップマン［Walter Lippmann］(1889～1974) アメリカの政治評論家・コラ



リッピ《聖告》ロンドン-ナショナル-ギャラリー蔵

ムニスト。ハーバード大学卒業後，1914年ジャーナリストとなり，《ニューヨーク-ワールド》紙主筆として名をあげた。その後1931～1967年の間《ニューヨーク-ヘラルド-トリビューン》紙の特別寄稿者となり，同紙のコラム〈今日と明日〉を担当，政治・文明批評に活躍して世界的な評価を得た。主著に《世論》《冷たい戦争》がある。なお，1962年ピュリッツァー賞を受けた。

リップル　［ripple］　しま状に縮みを現わした織物。しま状に苛性ソーダを作用させて収縮させると，作用されない部分が縮れたひだをつくる。主としてレーヨン・綿などに応用し，格子縞(こうしじま)などの色模様を織り出したものが多い。夏の婦人服・子ども服などに用いる。布面に凹凸(おうとつ)があり，触感がさわやかで吸水性に富む。

リッベントロップ　［Joachim von Ribbentrop］（1893～1946）　ドイツの外交官。第1次世界大戦に従軍し，戦後商業資本家としてナチス政権の成立を援け，のちナチスに入党。1935年，イギリス・ドイツ海軍協定を成立させた。翌年イギリス駐在大使となり，1938年以降，第2次世界大戦の敗戦まで外相をつとめ，ヒトラーを支持して強硬外交を指導したが，戦後ニュルンベルク裁判によって絞首刑に処せられた。

りっぽう　【立方】　⇨累乗

りっぽう　【立法】　法を定立する作用。三権分立*制において行政・司法に対していわれる。狭義には法律を制定する国会*(議会)の作用をいうが，広義には行政機関による命令*，地方議会による条例*，最高裁判所による規則*などの制定をも含む。

りっぽう　【律法】　《旧約聖書》に記される戒律。ユダヤ教徒の法律。ヘブライ語で〈トーラー〉。書名としての律法は〈モーゼ五書*〉をさす。他の古代国家と異なって，イスラエルでは法は宗教から分かれず，つねにその一部であった。すべて神がこれを与え，祭司・士師・預言者・王などが民衆に伝達したとされ，長い伝承を経て〈モーゼ五書〉に記録された。祭儀的なものと倫理的なものからなり，神の与えたものとの観念がイスラエルの民の生活を導き規定した。ヤーウェ*は彼らを選んで救済し，律法を与え，約束の地へ導く。また彼らを通じて全人類を支配する。この神の律法を遵守することにより，永遠の生命が得られると考えたのである。キリスト教は，《旧約聖書》の律法がイエス-キリストの福音によって成就されたとする。この律法解釈の相違が両教分離の原因の一つである。　〔松田　治〕

りっぽうぎかい　【立法議会】

①国民議会・憲法制定国民議会に次ぐフランス革命期の議会(1791年10月～1792年9月)。立憲君主制と制限選挙制を定めた1791年憲法を制定した憲法制定国民議会(立憲国民議会)は，ロベスピエール*の発議によって再選の権利を放棄して9月30日解散し，10月1日新しい議員による立法議会の召集となった。フイヤン派*(264名)，ジャコバン党*(136名)，中間派(345名)から成り，最初フイヤン党が政権を握ったが，1792年3月ジロンド党*(ジャコバン党の一派，翌月分裂)に代わり，4月オーストリアに宣戦布告を行なった。次いで八月十日事件後革命は新段階にはいり，王権は停止され，パリにコンミューンが形成され，封建制の完全な一掃(農民革命の進展)，普通選挙の実現をみたが，対外的危機の中で議会は解散した。代わって普通選挙による国民公会が召集されたのはバルミーの戦い*の勝利の翌日の9月20日である。

②フランス第二共和政下の憲法制定議会に次ぐ議会(1849～1851)。1848年の二月革命の成果としての直接・秘密・平等・普通の選挙によって選出された任期3年の議員750名からなる一院制の議会。政府と議会との間に権力分立が強調され，議会の解散権は認められていなかった。1849年5月の最初の勢力分布では，第一党がナポレオン支持の秩序党で500名，ブルジョア共和派は70名に激減し，山岳党が180名と大幅に増加した。その後山岳党は弾圧され，1850年には資格制限を復活し普通選挙は廃止された。1851年12月，ルイ-ナポレオンはクーデターによって議会を解散，1852年1月新憲法が制定され(第二帝政)，普通選挙は復活したが，第二帝政下の立法院には発案権・修正権もなかった。　〔喜多迅鷹〕

りっぽうきかん　【立法機関】　⇨国会

りっぽうけん　【立法権】　立法機関(国会*)が法律を制定する権能。広義には，統治権の作用として法規を定立する権能も含まれる。近代国家が成立して三権分立制が確立して以来，立法権は国民を代表する議会に与えられるのが通例となっている。日本でも憲法41条によって国会が独占することとなっているが，各議院による議院規則の制定権(憲法58条2項)，最高裁判所の規則制定権(憲法77条)などいくつかの例外もある。

りっぽうこん　【立方根】　立方して a になる数を，a の立方根という。三乗根ともいう。$a(\neq 0)$ が実数のとき，a の立方根のうち，一つは実数であり(それをふつう $\sqrt[3]{a}$ と表わす)，他の二つは虚数である。たとえば，1の立方根は，$x^3=1$ の根で，それは 1，$\frac{-1+\sqrt{3}\,i}{2}$，$\frac{-1-\sqrt{3}\,i}{2}$ の三つである。

一般に，複素数 $Z=r(\cos\theta+i\sin\theta)$ の立方根は $\sqrt[3]{r}\left(\cos\frac{\theta+2n\pi}{3}+i\sin\frac{\theta+2n\pi}{3}\right)$，$(n=0, 1, 2)$ の三つである。　〔杉岡司馬〕

りっぽうしょうけい　【立方晶系】　⇨結晶

りっぽうたい　【立方体】　⇨正多面体

りっぽうメートル　【立方メートル】　メートル法の体積の単位。辺の長さが1mの立方体の体積。記号 m^3。$1\,m^3=1{,}000{,}000\,cm^3=1{,}000\,l$。$1/1{,}000{,}000\,m^3=1\,cc$。

りつりょうせい　【律令制】　律*と令*という二大法典により規定され運営される政治制度・国家体制をさして律令制(度)とよぶ。律令制の行なわれた時代はすなわち律令時代である。したがって，それは具体的には645年(大化1)の大化改新*から平安時代の末までということになるわけだが，一般的には，大宝律令*が制定された701年(大宝1)から，延喜・天暦(てんりゃく)時代とよばれる10世紀中ごろまでをさす。この場合7世紀後半は律令制成立期であり，10世紀後半以降は摂関時代および院政時代とよんで区別されるが，国家統治の基本法典が律令であるという点で，やはり広義の律令時代に入れることができるであろう。ところで，このような基本法典も時代の進展につれて時世に適合しなくなる面を生じることは避けられない。特に令においてそれは顕著であった。ここに律令の部分的改訂ないし補足が必要となる。このような改訂・補足の法令を格(きゃく)という。格はすでに701年大宝律令施行の当初からあるところをみると，律令ははじめから格を必要としたことが知られる。このようにして律令制は，律と令を基本法典としながらも，その施行にあたっては同時に格と式とを必要としたのであり，弘仁(こうにん)格式*の序文に〈四者(律・令・格・式)相須(ま)ちて以(もっ)て範を垂(た)るるに足る〉といっているのは，その間の事情を説明したものである。

また，律令の条文はもともと大綱を示したもので，細目についてはしばしば〈(別)式に依(よ)れ〉といっている。式とはすなわち律令の施行細則であり，律令法典は最初から式なしには施行しえないものであった。(→格式)

律令制の特徴の一つとしては，強固な中央集権体制をあげることができる。律令制により全国を支配したのは天皇と畿内(きない)およびその周辺部に根拠をもつ貴族・官僚であった。そして大化以前にあっては地方の支配者として勢力をふるった国造*(くにのみやつこ)の子孫は，この時代になると郡司*に任用されたが，同時に中央からは新たに国司*が任命派遣されて郡司を強力に統制したので，地方の政治勢力はまったく中央の支配下に隷属させられてしまった。中央集権体制を象徴するものとしては，公地公民*制も指摘できる。全国土は天皇の一元的支配の下に置かれ，天皇の支配を助ける者が貴族・官僚にほかならなかった。貴族・官僚はいうに及ばず，天皇すら個人として土地を支配することは否定された。この徹底した土地国有制(公地主義)の下では，神田・寺田・大功田などごく一部に無期限の土地領有が認められたほかは，みな期限つきの占有・耕作の権利しか認められなかった。人民は良民*と賤民*(せんみん)とに大別され，賤民の中に私有のものもあったが，その数は人口

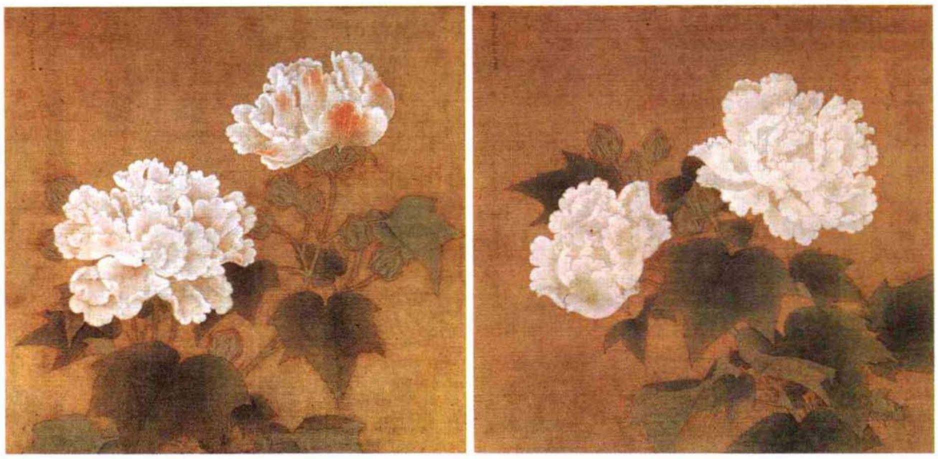
比でおそらく5％弱であった。良民の大部分は口分田*を授けられてその耕作に従事する班田農民(公民)であり，彼らは租・庸・調*，雑徭*(ぞうよう)，出挙*(すいこ)，義倉，兵役，仕丁などの負担を負い，国家の主要財源と目された。したがってその把握(はあく)のために政府は力を入れた。戸籍を作製して全人民を登録し，これを班田収授の台帳とし(→班田収授法)，また計帳*で調庸賦課人口を把握した。このように公地主義と公民主義とは律令制の二大支柱であったが，班田制の行き詰まりからその根底が動揺しはじめ，これが天平時代以降の幾多の政変とあいまって，律令政治の衰退を招いた。

なお，律令制の特色として文書主義・官僚主義をあげることもできる。文書主義の徹底も行き過ぎると帳面面を合わせることに主眼が置かれ，かえって弊害を生じたが，ともかく文書主義によって行政能力が格段に向上したことは国家統治の上からは看過できない現象であった。官僚主義はすなわち才能主義・適材適所主義に通じ，ここにも氏姓制度*の打破，行政能力の向上の因があったが，上級貴族は蔭位*(おんい)の制によりその地位をほぼ世襲的に確保できたので，その官僚主義には大きな限界があったことも事実である。律令制導入の契機となった大化改新は，革命ではなくて改革であり，これは支配階級が前後を通じて不変であったことに原因があろう。律令に天皇の地位や権能についてなんらの規定がないことは，天皇が律令に優先し，これを超越する存在であり，律令の権威の源泉が天皇そのものにあったからであるが，他面，天皇の権威は形式の法律面で強く，実際面では貴族階級との対立関係・利害関係によって左右されるところが大であり，それほどの権威はなかったともみられる。〔黛　弘道〕

りつりんこうえん　【栗林公園】 香川県高松市にある県立公園。高松城主松平頼重(よりしげ)が江戸城内の吹上御苑(ぎょえん)を模してつくった別荘〈栗林荘〉の庭である。池と丘を巧みに配置し，珍石・佳木を添えた池泉回遊式庭園である。掬月亭(きくげってい)・三日月橋のあたりのけしきが特に美しい。園内には商工奨励館・美術館・民芸館・動物園・プール・運動場などの施設も整っている。



栗林公園　園内は洋式の北庭と純日本式の南庭に分かれる。写真は南庭の南湖にかかる三日月橋，左奥は掬月亭，背後は紫雲山



李　迪《紅白芙蓉図》東京国立博物館蔵

リディア(王国)　［Lydia］　インド-ヨーロッパ系のリディア人が小アジア西海岸に建てた王国。首都はサルディス。王国の前史については不明であるが，フリギア王国の支配下にあったらしい。紀元前7世紀前半ギュゲス(在位BC692ごろ～BC654年ごろ)が，フリギア王国を滅ぼした余勢をかって侵入してきたキンメリア人を撃退し，新王朝を開いてから隆盛に向かい，第5代クロイソス(在位BC560～BC546年)のとき，小アジア沿岸の全ギリシア植民市を服属させ，東は小アジア中部のハリュス川流域まで支配したが，BC546年ペルシア王キュロス2世*に征服されて滅びた。メソポタミアより小アジアを通ってエーゲ海に出る通商路に位置して商業が栄え，豊富な金の産出とともにその富は古代世界に知れわたり，紀元前7世紀後半には世界最古の鋳造貨幣が発明されたとされている。小アジア沿岸(イオニア)のギリシア植民市とは早くより活発な交渉があり，文字や信仰をはじめギリシア文化を積極的にとり入れている。〔屋形禎亮〕

りてき　【李迪】 生没年未詳。中国，南宋(なんそう)の画家。河南省の人。徽宗(きそう)以後歴代の画院に仕えたといわれ，高宗朝の紹興画院では画院副使，成忠郎の位を授けられたという。実作では光宗朝ごろに傑作を残している。花鳥竹石にすぐれ，精緻(せいち)な写生画態の花鳥画に優品が多い。徽宗朝の院体花鳥の伝統を引いて，没骨(もっこつ)と細線の勾勒(こうろく)を併用した濃彩な花卉(かき)写生画である。

リート　［Lied］　広義にはドイツ語による歌曲をさし，これには中世のミンネザンク(ミンネゼンガーによるリート)・マイスターゲザンク(マイスタージンガーによるリート)から，ルネサンスの多声リートを経て現代に至るすべての歌曲が属する。

狭義にはドイツ-リートをさし，ピアノ伴奏つきの独唱歌曲である。これは，すでにバロック時代の通奏低音*によるアリア風の歌曲にその源をもち，ベルリン楽派*やハイドン・モーツァルトらの古典派作曲家の手で準備され，シューベルト*によって開花される。このロマン主義のドイツ-リートはピアノの表現能力の拡大とすぐれた詩の出現によって，次代のシューマン・ブラームスの時代に全盛期に達し，ウォルフ*の作品でその窮極の姿を示す。リートの作曲は20世紀にはいっても衰えず，R.シュトラウス*・プフィッツナー*らの作品を経て現代に至っている。〔吉田泰輔〕

リード　［Thomas Reid］　(1710～1796)　イギリスの哲学者。常識哲学*の創唱者。経験論が常識の認める外界存在や霊魂不滅，真理の可能性をも疑ったのに反対し，感覚のもっているような，事物は実在するという直接的な確実性こそ，すべての証明を基礎づけるもの，常識であるとし，これを必然的真理の原理(論理学・数学・文法学・倫理学・美学・形而上学(けいじじょうがく)の公理ないし原理)と事実的真理の原理(意識の現実性，記憶による人格の保証，あるがままの事物の承認，思惟(しい)による自我の存在の

保証など)とに分けた。　〔玉井　治〕

リード　[Herbert Edward Read]　(1893～1968)　イギリスの詩人・美術評論家。大学在学中に第1次世界大戦に出征，その体験に基づいた詩集《戦いの終り》，従軍記《退却しつつ》を発表。その後美術館に勤め，詩作とともに美術評論を手がけ，現代美術における啓蒙者(けいもうしゃ)として多大な業績を残した。大学で詩学や美術を講じる一方，政治や教育問題にも関心が深く，その分野での論文も多い。主著は《芸術の意味》《芸術と社会》《英詩の諸相》など。　〔星野恒彦〕

リード　[Carol Reed]　(1906～1976)　イギリスの映画監督。ロンドンの生まれ。舞台俳優から転じてトーキー*初期の映画界にはいった。1936年監督となり，第2次世界大戦中は陸軍映画班で活躍。戦後はスリルを中心とした作品から庶民生活を描くものまで，幅広い題材を独自のリアリズムで描いた作品で，イギリス映画界を代表した。代表作は，《邪魔者は殺せ》《第三の男》《文化果つるところ》《文なし横丁の人々》《鍵(かぎ)》など。

リトアニア(共和国)　[Litovskaya S.S.R.]　ソビエト連邦を構成する共和国の一つで，リトバともいう。ヨーロッパ-ロシア西部にあり，西はバルト海に面し，南西部は一部ポーランドに接している。面積65,200km²，人口329万(1975)，主都ビイルニウス。

〔自然・住民〕一般に低平な地形で，高地は中部と東部に海抜200～250mの山地がある程度である。バルト海に注ぐネマン川が国土を東西に貫流し，航行と木材の輸送とに利用されている。気候は湿潤で，西部へ向かうほど海洋性の度合いが強い。マツを主とする森林が国土の約16%を占める。住民は，インド-ヨーロッパ語の古い形をとどめるリトアニア語を用いるリトアニア人が79.3%と最も多く，ほかにロシア人・ポーランド人・白ロシア人・ユダヤ人などもいる。

〔産業・経済〕バルト三国中で，工業化が最も遅れており，国土の60%以上が農地で，乳牛・肉牛・ブタなど酪農が盛んであり，燕麦(えんばく)・亜麻の産出も多い。しかし，第2次世界大戦後は機械・造船・建設資材・繊維などの工業建設が進められている。ビイルニウスの空港，カウナスの河港は交通の重要な要点となっている。

〔政治・歴史〕13世紀前半にはリトアニア公国をなし，18世紀末ロシアに併合された。1918年には一時社会主義政権ができたが，初めポーランド，次いでドイツの支配に属した。1940年にソ連軍が進駐し，ソビエト連邦に加盟したが，1941～1944年には再びドイツの占領下に置かれ，ユダヤ人虐殺などの被害をこうむった。　〔斎藤晨二〕

りとう　**【李唐】**　生没年未詳。中国北宋(ほくそう)・南宋の画家。字(あざな)は晞古(きこ)。



リード-オルガン　武蔵野音楽大学楽器博物館蔵

河南省河陽三城の人。徽宗(きそう)・高宗朝の画院待詔。山水画の名手で，郭熙(かくき)らの北宋の大観的で緻密(ちみつ)な自然把握(はあく)から，南宋の余白を喜ぶ象徴的な画態への過渡的作風をもつ。徽宗画院の詩意や蔵意を尊ぶ行き方で，南宋院体山水の典型が李唐に始まるとされる。その皴法(しゅんぽう)を特に大斧劈皴(だいふへきしゅん)という。

りとうしんこうほう　**【離島振興法】**　本土から隔絶した離島の後進性を除き，産業を振興させ，島民の生活の安定と福祉の向上を図るために，1953年(昭和28)に制定された法律で，期間は1963年までの10年であったが，さらに10年間延長された。対象となっているのは815島，うち人が常住するのは327島である。離島の産業や交通の開発と改良，電気の導入や簡易水道の設置，教育や医療の改善などに効果をあげているが，これによって離島の過疎化を防止することはできず，八丈小島をはじめ島をあげて他へ移り住む例もいくつか出している。　〔浅井得一〕

リード-オルガン　[reed organ]　鍵盤(けんばん)楽器の一。ハルモニウムともいわれる。パイプによらず，薄い金属片を空気の流れで振動させるものである。これは，鍵盤や音色を選ぶストップの装置を備えており，空気を送ることによって音を出すため，音色だけでなく，音量変化のしかたがパイプ-オルガンに似ているので，19世紀のはじめにつくられて以来，ヨーロッパでも日本でも，パイプ-オルガンの代用として使われてきた。19世紀後半には，ドボルザーク・フランクらによって，この楽器のための作品も書かれている。　〔徳丸吉彦〕

リードがっき　**【リード楽器】**　楽器の分類名。有簧(ゆうこう)楽器ともいう。小形の薄い板状のものをリードまたは簧(〈こう〉あるいは〈した〉と読む)・舌とよび，このリードの一端が固定されて他方の端が振動することによって空気振動をもたらす楽器を総称している。常識的にはシングルリードのクラリネット類，ダブルリードのオーボエ類，唇(くちびる)から離れたところにリードをもつ笙(しょう)・ハーモニカなどの自由リード楽器類だけをさしていう。しかし原理的にはホルン・トランペット類は人間の両唇をダブルリード的に振動させるのでリップリード楽器とよぶこともあるし，口琴*の振動部分もリード的であるのでこれに含める考え方もありうる。さらにフルート類をエア(空気)リード楽器とみなすことさえある。　〔山口　修〕

リートけいしき　**【リート形式】**　あまり大きくない楽曲で2部分形式のものをさす。おもにドイツ-リートなどの歌曲に用いられるところからこの名がある。リート形式には2種類があり，最も簡単なものは，前後それぞれ別々の旋律が反復される例①の形であり，aの部分は半終止してbへ移り，bは属調をとるのが普通である。これに対してより複雑なものに例②があり，この形は，18世紀には，歌曲ばかりでなく協奏曲や交響曲の分野でもよく使われた。　〔吉田泰輔〕

例①　‖: a :‖: b :‖

例②　‖: a :‖: ba :‖

リトビノフ　[Maksim Maksimovich Litvinov]　(1876～1951)　ソ連の外交官・政治家。1898年入党し，1901年シベリア流刑となったが逃亡，レーニンに協力して《イスクラ》を編集。1903年社会民主党第2回大会後ボリシェビキとなり，第1次革命に参加して亡命。十月革命*後初代イギリス駐在大使となり，1918年外務人民委員部参与，1921年外務人民委員代理。数多くの国際会議に出席し，1934年ソ連邦を国際連盟に加入させた。同年党中央委員。1938年のミュンヘン会談*を転機にファシズムに対するリトビノフ外交は破綻(はたん)し，1939年モロトフと交替。1941～1943年アメリカ駐在大使をつとめ，その後外務次官となったが，1946年解任された。　〔山県弘志〕

リトポン　[lithopone]　白色顔料の一。硫化亜鉛と硫酸バリウムの混合物。硫化バリウム溶液に硫酸亜鉛溶液を加え，生じた沈殿を乾燥，さらに還元気流中で800℃前後で焼成してつくる。比重4.2～4.3，吸油量19～27ml/100g，耐熱性はよいが，耐候性に劣る。無機酸には侵されて硫化水素を発生するが，アルカリまたは硫化水素には安定。内部用・下塗り用として塗料に用いられるほか，リノリウム・ゴムなどに用いられる。

リトマス　[litmus]　色素の一。紫色の無定形粉末で，種々の地衣類ことにリトマスゴケやサルオガセから得られる。主成分はアゾリトミンやエリスロリトミン。水・アルコールにわずかにとける。酸(pH4.5)によって赤色，塩基(pH8.3)によって青色に変化するため，古くから酸・塩基指示薬として知られているが，塩誤差やタンパク誤差が大きい。通常，白亜やせっこうの粉

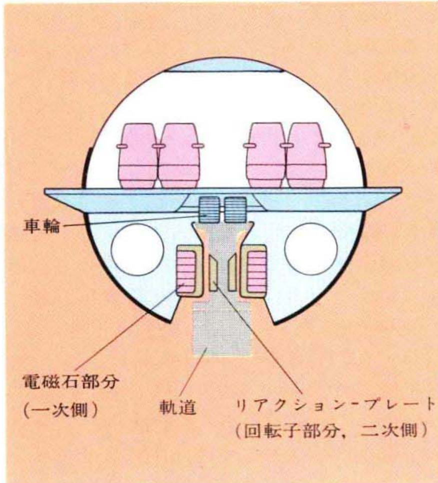
末に溶液を浸透させて固め，小立方形としたものや，リトマス試験紙として市販される。リトマス試験紙は，アルコール溶液に少量の塩酸あるいはアンモニアを加えて赤色あるいは青色としたものを濾紙(ろし)に浸み込ませて乾燥したもので，青色のものは酸の，赤色のものは塩基の検出に用いられる。

リトマスごけ　［リトマス苔］　地衣類・リトマスゴケ科。地中海地方・アメリカ・オーストラリアに分布し，海岸の岩上に生じる。樹枝状で高さ15cmほどになり，青みがかった灰色か白色。この種および近縁種から，酸・アルカリの定性試薬であるリトマス色素が得られる。これはかつて羊毛を染める色素として用いられたが，現在はあまり利用されていない。北ヨーロッパでは，動物性繊維に適する染料として，現在も家庭で用いられている。

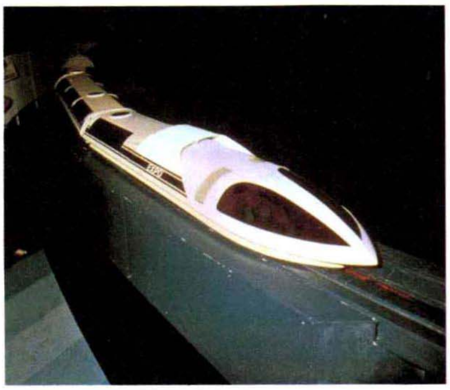
リトルネッロ　［ritornello］〈小さなくり返し〉を意味するイタリア語で，14世紀のカッチャやマドリガルなどの声楽曲では，詩の終わりに置かれ，その歌詞の内容を示す部分をさした。しかし，17～18世紀には，オペラや歌曲でも器楽による終止の楽句を示し，しだいにそれらの反復されるものをさすようになった。後期バロックのコンチェルト(協奏曲)では，独奏か名人芸を披露(ひろう)する一方，合奏は同一の主題に基づいた旋律を反復し，これがリトルネッロとよばれた。　〔徳丸吉彦〕

リトルロック　［Little Rock］　アメリカ合衆国中南部，アーカンソー州の州都。人口13万2,000(1970)。州中央部にある最大の都市で，アーカンザス川をはさんだ北部のノースリトルロックとは六つの橋で結ばれている。教会・公園などの多い静かな町で，綿実製品・製材工業が盛ん。付近には全国一といわれるボーキサイトの大鉱山がある。1957年ハイスクールへの黒人の入学差別問題で暴動が起こり，連邦軍隊が鎮圧した事件があった。　〔椙村大彬〕

リニア-プログラミング　［linear programming］　略称LP。線型計画法。オペレーションズ-リサーチ*(OR)の一手法。特定目的を達成する際に，制限のある諸資源ないし能力をどのように組み合わせると最も効率的な配分となるかという最適解を求める手法。制約条件は一次不等式で与えられ，目的関数も一次式で与えられるので，リニア(一次的)の形容詞がある。LPの課題は目的関数を最大化あるいは最小化するために，実現可能な若干の代替案の中から最善の案を選択することで，最適解はシンプレックス法や図形的に求めうる。シンプレックス法は1947年にG.B.ダンチッヒらにより開拓され，軍事問題に適用された。現在その適用分野は生産計画・在庫管理，人員配分，経済分析・経済計画，交通・輸送問題など多岐にわたっている。　〔清水　晶〕



二次側固定式の構造(モノレール式)


地上一次式，磁気浮上式の車両(日本，鉄道技術研究所の1/5模型車)


有軌エアクッション車(アメリカ，1972年トランスポに展示された研究車)

リニアモーターカー

リニアモーターカー　［linear motor car］　駆動と制動にリニアモーター(線形誘導電動機)を用いた車両。現在の鉄道は，車輪とレールとの摩擦力(粘着力)により前進する方式である。これでは，車両が高速になると走行抵抗が急激に増加する一方，車輪とレールの粘着力が減少するので，時速300km程度が限界速度と考えられている。このため，将来の超高速輸送機関の一つとして考えられているのが，リニアモーター方式である。リニアモーターを車両に応用するには，誘導電動機を軸方向に切って平面に展開し，一次側(固定子)を地上に長くして，車両に取りつける二次側(回転子，リアクションレール)を移動させる。一次側に電流を流すと移動する磁界が生じ，その反発力により二次側が駆動する。この方式では，給電が容易であるが，多数の固定子を必要とする。逆に固定子を車体に取りつけると車両への給電に難点がある。しかし，非粘着駆動であるため，磁気の反発力やエアクッション方式で車体を地上からわずかに浮かせる方式を併用して，時速500km程度を出すことが可能である。現在国鉄の鉄道技術研究所で基本的な研究・実験が行なわれており，1972年(昭和47)には超電導*磁気浮上によるリニアシンクロナスモーター方式の浮上走行実験に世界ではじめて成功した。またアメリカ・イギリス・フランス・ドイツ連邦共和国でも，常電導または空気による浮上方式によるものが研究され，アメリカでは1975年完成をめざしてのボストン～ワシントン間高速鉄道構想がある。　〔宍塚正幸〕

りにゅう　［離乳］　乳児のおもな栄養である乳汁(にゅうじゅう)を，成人の主食のように変えていくこと。乳児に半固形食を与え，そのかたさ・量・種類をだんだん増していき，日本人の場合でいえば米飯(または代用品)と適当な副食を1日3回とるように移行させることである。

［目的］①乳児は発育するにしたがって栄養必要量が増し，乳汁だけでは栄養が不足するようになる。②乳汁中には鉄分が十分に含まれていないので貧血を起こしたり，ビタミンC・Dも不足しがちなため出血したり，くる病になったりする。③栄養が不足すると免疫も低下し，伝染病や肺炎にかかりやすく，しかも病気は重くなりがちである。④いつまでも乳汁だけを飲んでいることは社会習慣に反するので，年齢が長ずるにつれて成人食に慣れさせる。

［方法］まず生後2～3か月から，離乳の準備として乳汁のほかに果汁・スープなどを与えはじめる。5か月ごろからは半固形食，すなわち米飯がゆ・食パンがゆ・フレーク(小麦粉にコメ胚芽(はいが)・脱脂ダイズ・乾燥酵母・リン酸石灰・食塩・乳酸鉄などを混合し，鱗片(りんぺん)状に固めたもの。煮るとすぐ消化のよいかゆになる)がゆなどを始め，ほかに野菜・魚・肉などを少量ずつ添加・増量していく。できるだけ各栄養素の調和をとり，乳児の月齢に応じた消化吸収のよい材料をよく調理し，また飽きないように種類を適当にとり混ぜ，味は薄味のほうがよい。進め方は少量から徐々に増していくように注意し，流動食からだんだん固めにし，はじめまず1種の食品を与えて慣れさせたのち，他の食品を追加する。はじめは1日1回，慣れたら2回・3回と増していき，11～12か月には米飯を子ども茶

わん1杯，副食物1さら，しる1わんずつ，1日3回，ほかに間食を1日2回与え，母乳はやめさせる。なお，牛乳は1日180～360 mlを間食時に与えたり，調理の材料に用いたりする。離乳に用いる食品を離乳食といい，最近はかんづめや粉末の離乳食製品が市販されている。これは調理の手間が省けるので，乳児の月齢に応じたものを選び，利用するとよい。

〔民族性〕 古く日本では，離乳の意味で食初(くいぞ)め*の祝いの行事をした。時期は地方によって異なるが，だいたい乳児に乳汁以外のものを与えはじめるころに行なわれた。しかしあまりに儀式的となり，赤飯などを食べさせたり，アワビやタコをなめさせたりして，消化不良を起こしたりすることもあった。本格的離乳には，古くから，米を用いて重湯やかゆをつくっている。南方未開の民族では，つぶしたバナナ・タロイモを与えて離乳を始めている。〔宇留野勝正〕

りにょうやく 【利尿薬】 尿量を増加させる薬。尿量の減少，あるいはむくみ(浮腫(ふしゅ))があるとき用いる。組織から血液へ水と塩類を移動させ，その結果腎(じん)からの尿量を増加させるものを腎外性利尿薬といい，水作用または浸透圧作用によるものがある。腎に直接作用して尿量を増加させるものを腎性利尿薬といい，糸球体濾過(ろか)を高め，再吸収を抑制する作用がある。これには水銀性利尿薬，血圧降下作用もある食塩排泄(はいせつ)性利尿薬，キサンチン誘導体(カフェイン・テオブロミン・テオフィリンなど)がある。〔伊藤隆太〕

リネン ［linen］ 亜麻繊維の糸・織物の名称。亜麻繊維はフラックスといい，その製品をリネンと称する。歴史は古く，紀元前数千年前にエジプトで用いられ，わが国では明治のはじめに北海道で栽培が始められた。リネン製品は，耐久力が大きく，吸水性に富み，吸水すると繊維が膨潤するのでホースなどにも用いられる。また，ややかたく，さわやかな触感があるので夏の衣料に賞用され，綿糸・ポリエステル繊維と混紡した衣料もつくられる。そのほか天幕・雨おおい・帆布・ロープなどにも使われる。〔小川安朗〕

リノ ［Reno］ アメリカ合衆国，ネバダ州西部の都市。人口51,000(1960)。ラスベガスとともに離婚手続きが簡単なことで知られ，離婚希望者は，6週間ここの居住者として登録すると離婚手続きがとれるために訪れる者が多く，その収入は市の大きな財源になっている。1886年創立の州立ネバダ大学がある。肉かんづめ・製粉・製材工業が盛ん。

リノリウム ［linoleum］ 張り床材料の一。亜麻仁油(あまにゆ)の酸化重合物と松やにを粘結材としたリノリウムセメントを主成分とし，コルク粉末・木粉・顔料その他を加え，カレンダーロールにかけて麻布の上に加熱圧着し，厚さ2～5mm，幅1.8 m，一巻きの長さ13～30 mほどのシート状の長尺物にする。適度の弾力性をもち，歩きやすいので事務所の床に賞用される。難燃性であり，傷もつきにくく，耐酸・耐油性にすぐれる。ただアルカリと湿気や水分に弱いので防水処理をしにくい地下や，結露しやすい場所には使わないほうがよい。接着材を用いて木造やモルタル下地に張りつける。〔難波蓮太郎〕

リノールさん 【リノール酸】 $CH_3(CH_2)_4CH=CHCH_2CH=CH(CH_2)_7COOH$ 無色・無臭の液体。融点－9℃，沸点210℃(5mmHg)，比重0.9025。植物油中，特に亜麻仁油(あまにゆ)などの乾性油中にグリセリンエステルとして広く含まれる。空気中では酸化されて硬化しやすいため乾性酸ともいわれる。還元すればステアリン酸になる。塗料・せっけんなどに利用される。

リノレンさん 【リノレン酸】 $CH_3(CH_2CH=CH)_3(CH_2)_7COOH$ 無色・無臭の液体。融点－11℃，沸点194℃(4 mmHg)，比重0.905。乾性油中にグリセリンエステルとして含まれる。還元すればステアリン酸となる。塗料などに利用。

リバイアサン ホッブズ*の主著。1651年刊。リバイアサンとは《旧約聖書》の〈ヨブ記〉に出てくる巨大な怪獣の名で，ホッブズは国家をこれにたとえた。人間は自然状態においてはまったく自由で平等であった。しかし，各人の自然権を行使すれば〈万人の万人に対する闘(たたか)い〉となるので，人間は契約により国家を形成し，各人の自然権を制限して国家に主権をゆだねた。もしも，この主権が各人の自己保存を傷つけるならば，これに対する服務義務はないと説いた。

りはく 【李白】 (701～762) 中国，唐代の詩人。李太白ともいい，青蓮(せいれん)と号した。李杜(りと)といって杜甫*(とほ)と並び称される。若いとき剣術を好み，遊侠(ゆうきょう)の生活を愛したが，故郷の蜀(しょく)(四川省)を離れ，各地を放浪した。742年玄宗に招かれて長安におもむいたが，宮廷詩人としては失格，744年長安を離れ，のち江南の各地に遊び，安禄山*(あんろくざん)の乱の起こったときは，粛宗の弟の永王の謀叛(むほん)に参加，そのため下獄，758年夜郎(貴州省梓県)に配流された。その後許されて潯陽(じんよう)(江西省九江)にもどり，江南にいたが，当塗(安徽(あんき)省)で流浪の生涯(しょうがい)をとじた。杜甫が思想的には儒教の影響が濃いのと対照的に道教徒の色彩が濃く，自然児のように酒と女を詩に歌い，悲喜哀歓を自由奔放に述べ，〈天上謫仙人(たくせんにん)〉といわれたとおり現実界を超越した感情を詩的世界として表現した。その詩は人生の多方面にわたっているが，唐文化の爛熟(らんじゅく)期に際会して，退廃的なところが強いが，しかも情熱的であって杜甫とともに唐詩の二大詩人として高く評価されている。〔今村与志雄〕

リバーサルカラー ⇨カラーフィルム

リパーゼ ［lipase］ 中性脂肪を加水分解して，脂肪酸とグリセリンに分解する反応を触媒するエステラーゼの一。動物では胃液・膵液(すいえき)・腸液・血清・肺・腎臓(じんぞう)・脂肪組織・胎盤などで見いだされる。胃液リパーゼは至適pHがアルカリ側であるが，胃液は塩酸酸性となっているので，有効な働きはないと考えられる。消化液のリパーゼのうちで膵リパーゼ(ステアプシン)が最もよく知られている。この酵素はトリグリセリドを加水分解して，モノグリセリドと2個の脂肪酸を生成する。モノグリセリドを，腸リパーゼはさらにグリセリンと脂肪酸へ加水分解する。リパーゼは腸壁や細胞内のミトコンドリア・ミクロソームでも見いだされている。また植物ではヒマの種子・茎・葉，アブラナ・ケシなどの種子でも見いだされる。血液中にリポタンパク質が増加すると，リポタンパク質リパーゼが働いて脂肪成分を分解する。リポタンパク質が増加すると，血液は濁って見えるので，この酵素をクリーニングファクターともよぶ。正常な血液ではこの酵素はほとんど検出されず，毛細血管の壁に局在していると考えられる。〔原野友之〕

リバティーせん 【リバティー船】 第2次世界大戦中にアメリカが大量生産した戦時形標準船の一種。最初の着工が1941年で，それ以来2,300隻が建造された。戦後船腹不足により各国の船主が買って運航したので，リバティー船隊は一時海運界の重要な地位を占めた。しかし大部分はアメリカ政府が保有し，非常用として待機，または倉庫代わりに使用された。要目は，全長134.6 m，幅17.1 m，深さ11.4 m，喫水7.7 mで，7,185総トン，速力10～11ノット，乗り組み定員44名。〔飯島幸人〕

リハビリテーション ［rehabilitation］ 心身の障害が持続している者に有意義な人生を送らせるため，最高の能力を発揮できるように行なう医学的・社会的訓練。現在次のような病気を対象として実施されている。①神経の病気(四肢麻痺(まひ)・片麻痺*・末梢神経麻痺・ポリオ*・運動失調など)。②筋肉の病気(筋萎縮(きんいしゅく)症・筋ジストロフィー症*・多発性筋炎など)。③関節の病気(慢性関節リウマチ・変形性関節炎など)。④呼吸器の病気(結核・気管支喘息(ぜんそく)・慢性気管支炎など)。⑤脳血管障害・高血圧症・心筋障害・鬱血(うっけつ)性心不全など。⑥慢性の消化器や肝臓の病気。⑦慢性の腎臓(じんぞう)の病気。⑧糖尿病。⑨小児の奇形および脳性麻痺*。⑩老人の病気。⑪精神病(一部の分裂病)。⑫弱視および盲。⑬手術後など。その方法は理学療法・作業療法・言語療法などに大別される。①理学療法：温熱・機械的刺激・電気療法などの物理的

エネルギーを利用するもののほかに，下肢(かし)の義肢，装具の訓練・固定，牽引(けんいん)などをして筋肉・神経・血管の訓練を行なうもの。②作業療法：精神的・身体的な機能を各種の作業(木工・絵画・機織り・園芸・革細工など)を通じて改善させようとするもの。③言語療法：失語症・失認症・失読症・構語障害などについて，専門的に訓練された言語療法士が中心となって言語訓練を行なうもの。④以上のような医学的リハビリテーションに加えて，患者の年齢や社会的・経済的背景などを考慮して，障害者がよりよい社会生活を送ることができるようにするソーシャル-ケースワーク(→ケースワーク)的なものがある。 〔佐野隆志〕

リバプール [Liverpool] イギリス，イングランド北西部ランカシャーの都市。人口60万3,000(1972)。アイリッシュ海に注ぐマージー川河口右岸にある港市。マンチェスターなど工業地帯への原料輸入港として重要で，内陸部とは運河・鉄道で結ばれている。綿花・食料品・羊毛・木材を輸入し，綿織物・機械・金属などを輸出する。古くは南方のチェスターが重要港であったが，18世紀の産業革命以後世界的な貿易港となり，世界初の鉄道が1830年マンチェスターまで開通した。 〔梶川勇作〕

りはんりゅう 【李攀龍】 (1514～1570) 中国，明(みん)代の文人。王世貞*らとともに文学上復古運動を起こし，古文辞派といった。日本の荻生徂徠*(おぎゅうそらい)らはその影響を受けた。また，歴代の詩の選集《古今詩刪(さん)》を編したが，これは《唐詩選*》の種本になったといわれている。

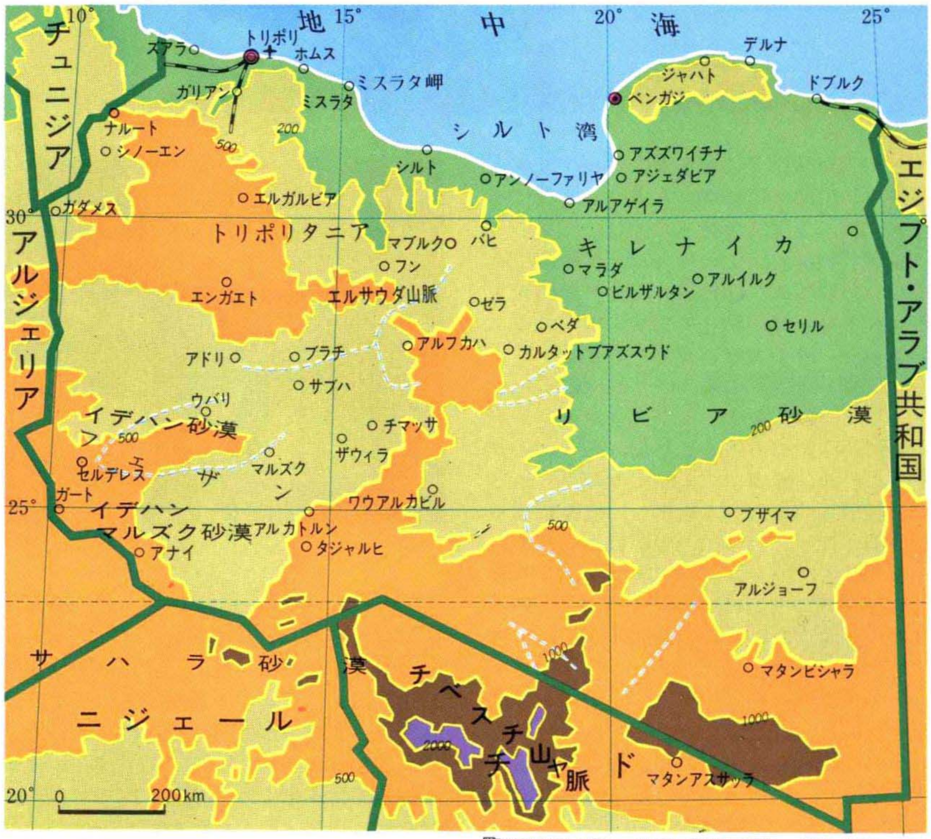
リビア(砂漠) [Libya] アフリカ北東部の砂漠(さばく)。広義のサハラ砂漠の東部を占める。ナイル川以西のエジプト-アラブの東部からスーダン・チャドの北部，およびリビア東部にかけて広がる。面積約194.3万km²。地中海沿岸とナイル川沿岸を除いてはほとんど居住不可能であり，ベンガジ(リビア)からチャド湖に至る隊商路に沿って2～3のオアシスが点在するのみである。山地を除けば，ほとんどが200m以下の平坦地(へいたんち)で，世界で最も広大な砂漠である。

リビア-アラブ(共和国) [Al-Jumhuriyat al-Arabiyat al-Libiyat, Libyan Arab Republic] アフリカ北部の共和国。北は地中海に面し，東はエジプト-アラブ共和国，西はチュニジアとアルジェリア，南はニジェールとチャドに接する。1977年，世界に類を見ない直接民主制のジャマヒリア(人民共同体)に移行した。面積175万9,540km²。人口286万(1978年推)。首都トリポリ。

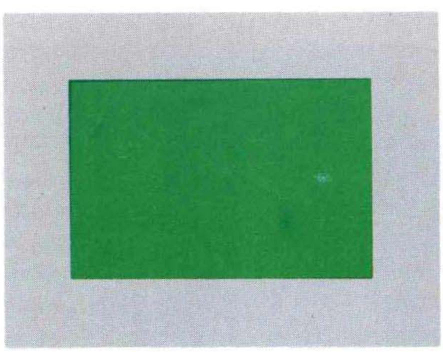
〔自然・住民〕国土全体が台地状をなし，南部の国境は高度を増して，標高約3,000mのチベスチ山脈に連なる。地中海岸には草原があるが，国土の90%は砂漠(さばく)である。気候は北岸は地中海性気候であるが，南部では乾燥気候となっている。国土全体にベ



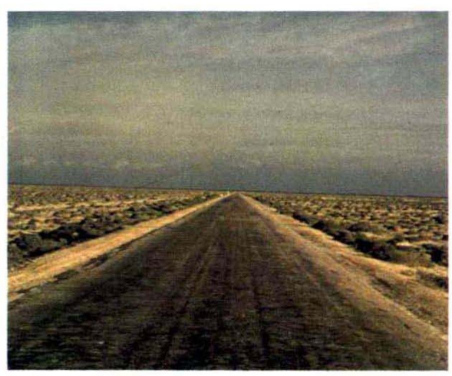
リバプール 古い教会の塔も見え，町のたたずまいには，アービングの《スケッチブック》に描かれた19世紀初期のおもかげが残っている



リビア-アラブ



リビア-アラブの国旗 1977年11月，暫定的な新国旗として制定されたもの。使用されている緑色は，9月1日革命の別称「グリーン革命」に由来したもので高潔を意味している。この新国旗を機に従来の連邦統一旗の使用を中止した



リビア-アラブ 首都トリポリとエジプト-アラブのアレキサンドリアを結ぶ道路。道路は丈の低い草がはえる荒涼とした砂漠の中を一直線に走る



リビエラ　ニースの海岸。浜べにはビーチパラソルが並び泳いでいる人より，日光浴をしている人々のほうが多い

ルベル人が分布するが，北岸にはアラブ人が住み，南部にはニグロも多い。国教はイスラム教，公用語はアラビア語。

〔産業・経済〕国土のほとんどが砂漠であるため，農牧的な開拓もオアシス農業を主としたものが地中海岸で帯状にみられるにすぎない。そこでは，オリーブ・ナツメヤシ・小麦・大麦・柑橘(かんきつ)類・蔬菜(そさい)を産し，このうちオリーブ・ナツメヤシが主要商品作物である。しかし，産業に活気を与えたのは砂漠中での油田の発見(1959)で，以来石油生産が本格化し，世界有数の産油国となった。輸出の大部分は石油で，イギリス・フランス・西ドイツ・アメリカ合衆国などの外国石油会社も進出している。

〔歴史・政治〕古くから征服者が東西に往来した道すじにあったため，フェニキア・ローマ・アラブ・オスマン-トルコなどに征服され続け，20世紀にはいってからはイタリアの植民地となった。第2次世界大戦後イタリアが退いて国連の信託統治領となったが，1951年12月独立し，トリポリタニア・キレナイカ・フェザンの3地区からなる王国となった。しかし産業は乏しく，財政的にも自立能力があやぶまれ，イギリスと友好同盟および軍事・経済協定を結んで援助を受け，またアメリカ合衆国とは経済援助のほか，空軍基地供与も取り決めていた。しかし1969年9月，国王の国外滞在中に軍による革命が起こり，王制を廃して共和政権を樹立した。元首は革命評議会議長。首都は，秋と冬はトリポリ，春と夏はベンガジとそれぞれ政府機関が移動する。なお1972年8月，エジプト-アラブとの間に，1973年9月を目標に両国の完全統合を実現する旨の宣言がなされ，国際的関心をよんでいる。〔小栗　宏〕



リヒテル

リビエラ〔Riviera〕フランス南東部の地中海岸(マルセイユ)から，イタリア北部のジェノバ湾(ラスペチア)一帯にわたる海岸をいう。地名は〈首飾り〉の意で，フランスのイエール・カンヌ・ニース・マントンとモナコ，それにイタリアのサンレモ・サボナ・ジェノバ・ラパロ・ラスペチアの諸都市が海岸線に連なっている。イタリア側はリビエラ-デ-バレンテとよばれ，フランス側はコートダジュール*といわれている。海岸は，マリチームアルプス・アペニノ両山脈が迫っているために岩石海岸となり，海崖(かいがい)が多く砂浜は少ないが，夏には多くの海水浴客・観光客が訪れ，また避寒地としても名高く，世界的な観光保養地となっている。〔長津一郎〕

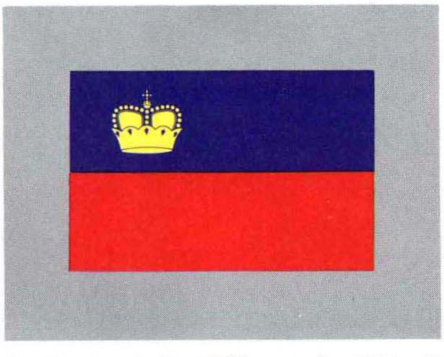
リビエール〔Jacques Rivière〕(1886～1925)　フランスの批評家。1910年《NRF*(エヌ エル エフ)》の編集に従事し，1919年に同誌が復刊されて以後編集長として活躍，その傾向を決定づけた。自我を明晰(めいせき)な精神のもとにみつめようとする態度がその批評の根幹にある。代表作の評論《エチュード》のほか，アラン-フルニエ*との《往復書簡》，小説《エーメ》などがある。

リヒター〔Jeremias Benjamin Richter〕(1762～1807)　ドイツの化学者。シュレジエンの生まれ。ケーニヒスベルク大学で学び，カントの講義を聞く。化学に数学的方法を導入し，化学量論という語をはじめて用い，定量的分析を行なって，化学当量と中和について質量保存の法則を設定していたが，難解であったため認められなかった。1803年には30種の塩基と18種の酸の当量表をつくった。

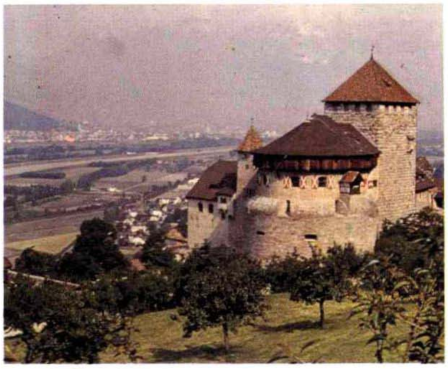
リヒテル〔Sviatoslav Richter〕(1914～　)　ソ連のピアニスト。ウクライナのジトーミルの生まれ。ピアニストの父から手ほどきを受け，15歳ごろからオデッサのオペラ-バレエ劇場の専属ピアニストとして実際的な訓練を受け，22歳のときにモスクワ音楽院に入学した。1940年にリサイタルを開いてデビュー，1945年には全ソ-コンクールのピアノ部門第1位となった。1950年から東ヨーロッパを，1960年から西ヨーロッパを演奏旅行し，1970年(昭和45)には来日。ロシア派大形ピアニストの継承者といえよう。〔向坂正久〕

リヒテンシュタイン(公国)〔Fürstentums Liechtenstein, Principality of Liechtenstein〕ヨーロッパ中部，スイスとオーストリアの間にある小独立国。面積157 km²。人口3万(1978年推)。首都ファドーツ。

国土は，西のスイス国境をなすライン川



リヒテンシュタインの国旗　1921年の憲法で追認されたもので，起源は18世紀初頭にさかのぼる。青と赤はリヒテンシュタイン家の紋章に由来し，冠はその爵位を示す



リヒテンシュタイン　首都ファドーツにあるリヒテンシュタイン公の居城。ライン川沿いの緑の平野が一望のもとに収められ

右岸の細長い低地と台地からなり，集落は台地に多く見られる。住民はドイツ系で，ドイツ語を話し，ほとんどカトリック教徒である。昔から酪農が盛んで,6,000頭のウシや4,000頭のブタ，1,000頭のヒツジが飼育されている。しかし，農業従事者は国民の６％にすぎない。近年は外国人移民によって工業化が進み，繊維・陶器・家具などの軽工業が行なわれている。また年間60,000人をこす外人観光客からの収入と，精巧な切手発行による収入も重要である。18世紀初めシェレンブルク・ファドーツの２公領がリヒテンシュタイン家に統一され，1866年ドイツ連邦より独立，翌1867年永世中立国となったが，第１次世界大戦まではオーストリアの保護下にあった。第１次・第２次世界大戦中はドイツに占領された。現在，外交はスイスを通じて行なわれ，スイスと関税同盟を結び,スイス-フランが通貨で，貿易取引でもスイスが最も多い。1921年憲法を制定，４年ごとの直接選挙で選出される代表15人からなる国会がある。行政権は国王と国会にあり，軍隊はなく，税金も安い。〔梶川勇作〕

リビドー ［Libido］ 精神分析の用語で，性的エネルギー(性衝動)のこと。しかし，いわゆる〈性欲〉よりも広い概念として使われる。フロイトの性欲論によれば，性的エネルギーは思春期に突然現われるのではなく，幼児期から徐々に発達するもので，口唇愛(こうしんあい)期・肛門愛(こうもんあい)期・男根愛期を経て，４～５歳ごろを頂点にいったん潜伏し，思春期に再び正常な成人にみられるような性器愛として現われるという。

リピド ⇒脂質

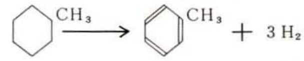
リービヒ ［Justus Freiherr von Liebig］（1803～1873） ドイツの化学者。ダルムシュタットの生まれ。はじめ薬剤師の徒弟となったが，化学の実験に興味をもち，ボン・エルランゲン両大学に学ぶ。しかし，当時のドイツの化学教育に満足できず，その後パリに行き，A.フンボルトの紹介でゲイ-リュサック・テナールらに新しい化学の方法を学ぶ。帰国後ギーセン大学教授。学内の旧兵舎を改造して学生実験室をつくり，実験化学の新しい教育法を始める。この試みは人気を博し，彼のもとへ各地から学徒が集まり，この中から多くの歴史的な化学者を輩出した。パリ留学中研究した雷酸塩が，ウェーラー*の研究したシアン酸と同一組成であるが性質が異なるところから，1826年異性体の存在を認め，以後両者の終生にわたる共同研究が始まった。1831年有機化合物の元素分析法を改良，カリ球を考案して，アルカロイドの定量や分子量の研究を行なった。翌年ウェーラーと苦扁桃油(くへんとうゆ)の研究から，エムルシン・アミグダリンを発見してベンゾイル基の存在を示し，同年エチル基の存在をも示して，基の理論を提唱し，有機化合物の分子構造論に貢献。また1837年にはウェーラーと尿酸を研究。1838年以降は生化学方面に力を注ぎ動物界と無機界の元素の循環に注目し，1841年植物の無機栄養論および最小養分律を発表，さらに人造肥料の必要を説いて農業改良にも寄与した。1857年には発酵の研究でパスツールと論争した。1852年以降ミュンヘン大学教授。文筆の才にも長じ，通俗化学書として貴重な《化学通信》(1844)，ウェーラーとともに《薬学化学年報》を創刊・編集，ウェーラーとの《往復書簡集》２巻(1888)など多くの著書がある。〔山下愛子〕

リビングストン ［David Livingstone］(1813～1873) イギリスの探検家・宣教師。スコットランドの生まれ。医学と神学を修めてロンドン伝道教会にはいり，1849年宣教師として南アフリカのベチュアナランド(現在のボツワナ)に派遣された。1852年ザンベジ川をさかのぼり，コンゴ川を下ってアフリカ大陸を横断，1855年ビクトリア滝を発見，1859年ニアサ湖を発見した。1867年タンガニーカ湖方面の探検に出発したまま ゆくえ不明を伝えられ，彼の捜索に向かったスタンリー*と1871年11月タンガニーカ湖畔のウジジで劇的な会見をした。その後もなお探検を続行し，1873年にナイル川の水源を発見，その数か月後バングウェウル湖のほとりで病死した。生涯(しょうがい)を通じて26,000kmを踏破。ロンドンのウェストミンスター寺院に葬られた。〔大崎　晃〕

リファール ［Serge Lifar］（1905～　） ロシア生まれのフランスの舞踊家・振り付け師。1923年ディアギレフ*のバレエ-リュス*に参加，本格的な舞台活動を始める。ディアギレフの死後，1929年からパリ-オペラ-バレエ団の指導者として活躍，新作を次々と発表してオペラ座に新風を吹き込んだ。主要作品《狐(きつね)》《プロメテの創造物》《イカール》など。

リフォーミング ［reforming］ 改質ともいい，石油精製における最も重要な操作の一。オクタン価の低い重質ナフサを触媒の作用により高オクタン価ガソリンに転化させる操作。この操作により得られる製品を改質ガソリンといい，市販自動車用ガソリンの大部分を占める。工業的にきわめて多くの方式があるが，現在実施されている方式のほとんどがハロゲンを添加した白金-アルミナ触媒を用いるもので，その代表的な方式に世界的に広く使用されているプラットフォーミング法がある。わが国でもこの方式が最も多いが，同様に白金系触媒を用いるパワーフォーミング法・フードリーフォーミング法なども採用されている。酸化モリブデン触媒を用いるハイドロフォーミング法など古い方式は，現在世界的にほとんど行なわれなくなった。

これらの各方式では，重質ナフサをまず水素化精製したのち，20～50kg/cm² の水素加圧下，500℃前後の温度で触媒を充塡(じゅうてん)した反応塔を通して反応させる。主反応はつぎの例に示すようなナフテン炭化水素の脱水素による芳香族化，および高級パラフィン炭化水素の水素化分解である。



$$C_{12}H_{26} + H_2 \longrightarrow C_5H_{12} + C_7H_{16}$$

このほか一部のパラフィン炭化水素の脱水素環化による芳香族の生成，n-パラフィンの異性化によるイソパラフィンの生成も起こる。低オクタン価成分はこれらの反応中，特に芳香族化反応によって高オクタン価成分に変化し，また生成改質ガソリン(沸点約30～200℃)のオクタン価は，原料ナフサおよび操作条件の相違により98(アンチノック剤添加)～101(無添加)程度となる。

リフォーミングでは低級芳香族炭化水素が多く生成されるため，操作は溶剤抽出法と組み合わせて，石油化学工業原料のBTX(ベンゼン・トルエン・キシレン)製造にも応用されている。〔原　伸宜〕

リープクネヒト ［Wilhelm Liebknecht］(1826～1900) ドイツの労働運動指導者。大学時代から政治運動に参加。1848年のドイツ革命に参加し，ロンドンに亡命，マルクス*に師事した。マルクスの理論に基づいて活躍し，1869年にドイツ社会民主労働党*を創立。ビスマルクによるドイツ統一後，ラッサール派と合体し，その際〈ゴータ綱領*〉を起草した。これはラッサール派への屈服としてマルクスの批判を受けたが，リープクネヒトは終始修正主義と戦った。著書に《カール-マルクス追想録》がある。〔仲村計美〕

リープクネヒト ［Karl Liebknecht］(1871～1919) ドイツの社会主義者。W.リープクネヒトの子。ベルリン大学などを卒業したのち弁護士を開業，社会民主党左派に属し，第１次世界大戦前から反軍国主義運動で活動した。1916年，ローザ-ルクセンブルク*とともにスパルタクス団*を結成，反戦運動を行なったため投獄された。1918年のドイツ革命*後，ドイツ共産党を結成，プロレタリア革命を志して，1919年ベルリンで蜂起(ほうき)したが鎮圧され，1月15日，帝政派の将校によって殺された。〔松　俊夫〕

リプシッツ ［Jacques Lipchitz］（1891～1973） リトアニア生まれの彫刻家。1909年パリに出てキュービスムの彫刻家として活躍し，のち独特の単純化した有機的形象を示した。1941年以来主としてアメリカに住んだ。

リーフデごう 【リーフデ号】 日本に最初に来航したオランダ船で，1598年(慶長3)ロッテルダムの組合が東洋に派遣した５隻の艦隊に属し，乗組員110名，160トンの木造帆船。はじめはエラスムス号といった。大西洋からマゼラン海峡を経て太平洋横断中遭難し，僚艦を失って生存者がわずか24名となり，1600年３月豊後(ぶんご)(大分県)臼

杵(うすき)に漂着した。生存者のイギリス人W.アダムズ*(三浦按針(あんじん))・ヤン－ヨーステン*は徳川家康(いえやす)に引見して，日蘭(らん)・日英関係が開かれる端緒となった。船尾に飾ったエラスムス像は栃木県足利(あしかが)市の龍江(りゅうこう)院に貨狄(かてき)尊者(中国で船の創造者)として伝えられ，現在東京国立博物館に保存されている。

〔高崎徳次〕

リーブルビル ［Libreville］ アフリカ中部，ガボンの首都で，港市。人口57,000(1967)。ギニア湾奥に臨む天然の良港で，木材のほか，ウラン・マンガンなどの鉱石を輸出する。1849年フランスの植民地赤道アフリカの開拓基地として建設され，1960年ガボンが独立するとともに，その首都になった。空港もある。

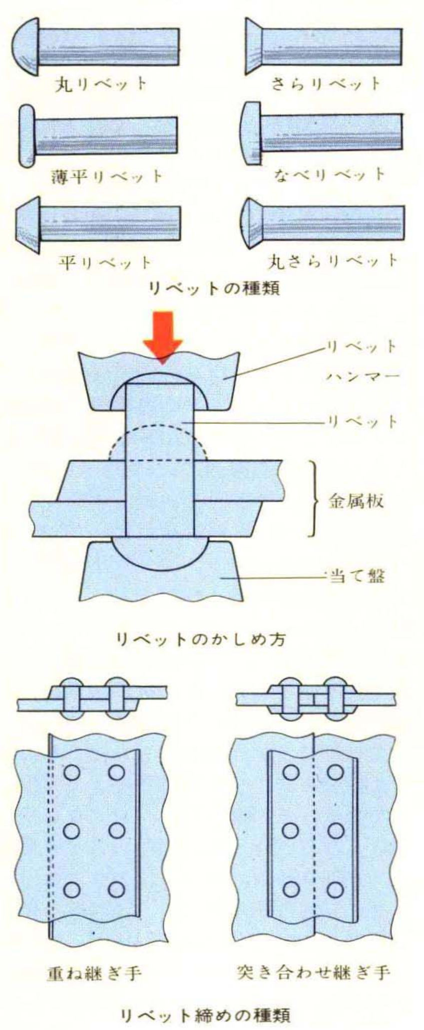
リフレイン ［refrain］ 詩の各節の終わりにでてくることば。フランス語でルフランともいう。このリフレインは音楽も同一にされており，このことばは両方をさすことが多い。グレゴリオ聖歌をはじめとして，ヨーロッパの声楽曲には，リフレインをもったものが多く，中世のバラード・ロンドーなどの形式もリフレインの方法によって規定されているほどである。

リベット ［rivet］ 金属の丸棒の一端に頭をつけたもので，金属板を重ね合わせ，これにあけられたリベット穴にさし込み，リベット締め機によって他端をつぶして板を締結する機素。締結された部分をリベット継ぎ手といい，半永久的な締結法である。リベットの材料としては鋼が多いが，アルミニウム・銅・黄銅・ジュラルミンなども用いられる。リベットを締めるには赤熱状に加熱する場合と常温の場合とがある。鉄骨構造物・圧力タンク・橋梁(きょうりょう)・船舶などの製作に広く使われたが，最近は溶接継ぎ手に代わりつつある。〔森田　鈞〕

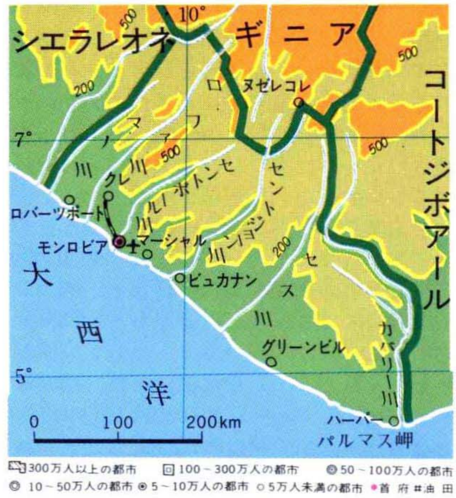
リベラ ［Jusepe de Ribera］ (1588～1652) スペインの画家。バレンシアの近くに生まれ，ナポリに没した。はじめは文学者になるつもりであったが，リバルタの門にはいって画家を志し，ローマに渡り，カラバッジョの影響を受けた。次いで，コレッジョを研究しその明暗の深さを習得した。1611年以来はナポリ派の代表的画家として自他ともに許した。残酷な殉教図が多く，劇的な明暗の対照の作品を描く。代表作に《聖バルトロメオ》《聖セバスティアヌス》がある。

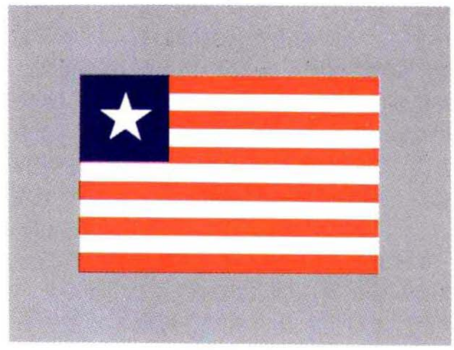
リベラ ［Diego Rivera］ (1886～1957) メキシコの画家。首都国立美術学校に学び，1907年スペインに留学，次いでヨーロッパ各地に滞在し，キュービスム*の運動に加わった。帰国後，民衆画家としての立場を貫き，革命的な作風で，各地の壁画を制作。アメリカでは左翼的であるとの理由で発表を拒否されたこともある。1950年の大回顧展はメキシコ市民の圧倒的な支持を受けた。

リベラリズム ⇨自由主義

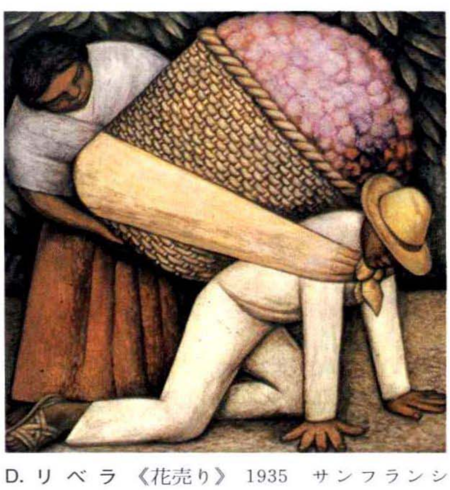


リベット





リベリアの国旗 1847年制定。建国を援助したアメリカ合衆国の星条旗から図がらを得たもので，11本の条は独立宣言に署名した11人の代表者を，一つの星は当時アフリカ唯一の黒人国家であったことを示している。1961年制定の国旗法によれば，青は自由・正義・友愛を，白は純潔・清潔・正直を，赤は不抜・勇気・熱情を表わすと説明されている



D. リベラ《花売り》1935 サンフランシスコ美術館蔵

リベリア(共和国) ［Republic of Liberia］ アフリカ西部，ギニア湾に臨む共和国。北西に接するシエラレオネとともに，かつてヨーロッパ人の奴隷とされていた黒人が解放されて建国した国で，国名は〈自由〉(リバティ)にちなんで命名された。面積11万1,369km²。人口187万(1978年推)。首都モンロビア。

〔自然・住民〕国土全体が熱帯多雨林の気候にあり，南部には平野が展開しているが，北部では低い台地状をなす。住民は，解放奴隷の子孫約20,000が海岸に，内陸には農耕に従事するギニア系黒人の原住民が居住している。政治的主導権は解放奴隷の子孫が握っており，在来原住民との関係はあまりスムーズではない。国教はキリスト教だが，信教の自由は保証されている。公用語は英語だが，部族語も話される。

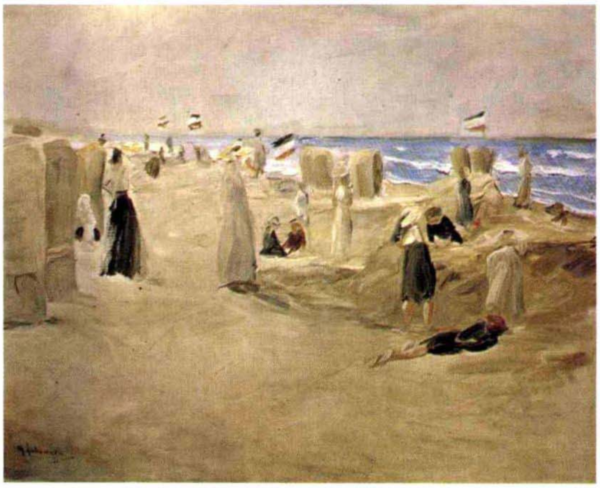
〔産業・経済〕農耕や狩猟に依存し貧しい生活を続ける原住民は，新しい解放奴隷の指導にも長い間従わなかったため，開拓は遅れていた。国家財政も困難をきわめていたが，1925年アメリカ合衆国のゴム会社が進出して広大なゴム園を経営するようになってから，ようやく経済的にもゆとりを生じた。第2次世界大戦中は連合軍のゴムの需要を果たして国家収入も増大し，現在も外国ゴム会社のゴム園借地料が政府収入の約3分の1に達している。また1951年から

アメリカ資本による鉄鉱山の開発が開始され，主要産物になってきた。しかし，民族資本による開発でめぼしいものはほとんどなく，アフリカでは古い独立国に属しながら，経済的にはまだ植民地経済の状態が続いている。税金が安く，労働条件の制限がきびしくないため，船籍をリベリア国籍にして登記する外国の船会社が多く，登録船数では世界第1位である。

【歴史・政治】アメリカ合衆国が奴隷制度を廃止したあと，アメリカ植民地協会はモンロビア周辺の土地を買収して，1822年に解放奴隷を移住させた。当時は同協会が管理統治していたが，1847年に独立を与えた。これはアフリカで最初の独立共和国である。首都モンロビアは当時のアメリカ合衆国大統領モンローの名にちなんでいる。政治機構はすべてアメリカ合衆国にならって組織されたが，統治の実権を握る解放奴隷は，内陸に住む原住民と長いあいだ融和を欠いていた。しかし，第2次世界大戦後アフリカ各地で原住民の独立国建設があいついだのに刺激されて，原住民の政治意識もしだいに高まり，一方実権派住民も協調的な姿勢を示しつつある。政体は共和制で，元首は大統領。アメリカ憲法にならって三権分立をとり，国会は上院(18人，任期6年)と下院(41人，任期4年)の二院制。外交面でもアメリカ合衆国との結びつきが強い。　〔小栗　宏〕



リベリア　セントポール川河口に位置する首都モンロビアの市街。写真左の川中の小島は解放奴隷の最初の移住者の上陸地として有名



リーベルマン　《スケベニンゲンの渚》　バイエラー画廊

リーベルマン　［Max Liebermann］(1847〜1935)　ドイツの画家。ワイマール美術学校に学ぶ。のちパリ・ミュンヘンに滞在し，1884年以降はベルリンで活躍。初期の作品にはクールベ・ミレーらの影響がうかがわれる。1890年ごろから印象派の刺激を受け，初期の写実的作風とあいまって独自の画風を発展させていった。肖像画・風俗画のほか，風景画・静物画を好んで描く。

りべんかるい　【離弁花類】　双子葉植物綱から合弁花類を除いたもの。普通は各花弁が離れている花をもつ植物と理解されるが，①花被のないもの，②がくだけのもの，③花弁・がく片をもつもの，④オジギソウ・ネムノキやツバキ科のようにおしべ数が花弁数よりも多いもので，花弁がある程度癒合(ゆごう)しているものなど，種々の段階の植物群が含まれている。このため現在では双子葉植物を機械的に離弁花類・合弁花類に分ける方法は疑問視されるようになってきている。　〔加藤僖重〕

リペント　⇨忌避剤

リポイド　［lipoid］　類脂質ともいう。かつては有機溶媒中に脂質(リピド)とともにとけ込む脂肪に似た天然物の総称として用いられた。しかし，本来有機溶媒に不溶な物質も脂肪の働きによってとけ込むこともあり，定義が不正確であるために，現在では物質名としては使用されていず，〈脂肪様の〉という形容詞として残っている。

リボかくさん　【リボ核酸】　RNA(ribonucleic acidの略)ともいう。核酸のうち，その構成糖がリボースのもの。塩基成分は主としてアデニン・グアニン・シトシン・ウラシルが含まれる。細胞質および核にあって，DNAとともにタンパク合成にあずかる。➔核酸

リポさん　【リポ酸】　α-リポ酸は，ある種の原虫や微生物の増殖に必要な成分として，酵母・肝臓などから発見・分離されたイオウを含む脂肪酸で，チオクト酸ともいう。β-リポ酸はα体の酸化型である。黄色板状晶で，生体内ではチアミンおよびリン酸と結合し，補酵素としてα-ケト酸の酸化的脱炭酸反応あるいは光合成に関与している。臨床面では肝機能の改善に効果があるといわれている。またα-リポ酸のジヒドロ体(還元型)は核酸の生合成に必須(ひっす)因子であるという報告がある。　〔谷村顕雄〕

リボース　［ribose］　ペントースの一種。酵母のリボ核酸の加水分解によって得られる。D-型はリボ核酸の構成成分であり，また低分子のヌクレオチドなど多くの補酵素の分子に組み入れられている。さらにリボースのリン酸エステルは，炭水化物の代謝系や光合成での炭酸固定回路の要員として働いている。ペントースの中では，生体にとって最も重要な糖である。➔ペントース

リボゾーム　⇨細胞

リポたんぱくしつ　【リポ蛋白質】　脂質を構成成分として含むタンパク質で，複合タンパク質の一。水溶性のものと，水に不溶のものの二つに分けられる。水溶性のものでは，血清中に存在する分子量1,300,000のタンパク質が知られている。このタンパク質は，水に不溶の脂質を体液中を運搬する荷車となっている。脂質の外側をこのタンパク質が囲んでミセルを形成するが，リンパ管中のヒロミクロンは特に大きなミセルを形成する。水に不溶なリポタンパク質は細胞膜・核膜・ミトコンドリア膜など膜の構成成分となっており，特にミトコンドリアでは電子伝達系の主成分ともなっている。　〔原野友之〕

リボフ　［L'vov］　ソ連，ウクライナ共和国西部にあるリボフ州の州都。人口60万5,000(1974)。鉄道・道路の要点であり，バス・トラック・農業機械・繊維・食品などの工業があるほか，科学アカデミー支部や大学も置かれている。13世紀に起源をもち，戦略・商業上の重要な位置を占める都市である。第2次世界大戦中にポーランド領からソ連領となった。

リボフラビン [riboflavin] ビタミンB_2とよばれ，ネズミの微量成長促進因子のうち，耐熱性因子として1927年に発見され，1935年に合成された。黄色の結晶。酵母・牛乳・牛肉など広く天然に存在するが，牛乳中を除いてはすべてリン酸エステル(フラビンモノヌクレオチド，FMN)またはアデニル酸と結合した形(フラビンアデニンジヌクレオチド，FAD)で存在している。生体内にリボフラビンが取り入れられた場合には，FMNやFADになってはじめて生理活性を示す。FMN・FADはアミノ酸酸化酵素・キサンチン酸化酵素・グルコース酸化酵素などの補酵素として重要な役割を演ずる。リボフラビンが欠乏すると口唇(こうしん)粘膜剝離(はくり)・舌炎・鼻尖炎(びせんえん)・咽喉(いんこう)炎・皮膚炎・眼瞼炎(がんけんえん)などが起こる。1日必要量は2mgで，欠乏症には5～10mg，皮膚疾患には2～5mgを投与する。このほか同様の目的にリボフラビンのリン酸エステルのナトリウム塩が用いられるが，溶解性が増すために注射剤として利用される。〔谷村顕雄〕

リボルノ [Livorno] イタリア北西部，トスカナ地方の港市。人口17万3,000(1968)。リグリア海に面し，フィレンツェの西方80kmにある。オリーブ油・大理石・ぶどう酒を積み出す。近代的工業のほか，麦わら帽子の特産がある。ルネサンス期にメディチ家によって築港され，かつては古い商港のピサをしのいだこともあり，いまでもイタリア西岸ではジェノバ・ナポリに次ぐ港となっている。英語名をレグホーンといい，この港から輸出された卵用ニワトリはレグホーン種として知られた。〔梶川勇作〕

リボン [ribbon] 両耳のある細幅の織物。実用・装飾用に結んだり，髪・帽子・洋服などにつける服飾上のアクセサリーや品物を飾るためのアクセサリーとしても使われる。ヨーロッパで衣服にリボンが盛んに使われるようになったのは近世になってからで，全盛時代の17世紀には男女の服にさまざまにつけられ，特に男子服のコートの前合わせのボタン代わりにつけたり，そで・すそ・半ズボン，くつの甲にまでつけられ，服装にはなやかさを加えた。18世紀はおもに婦人服に用いられ，デコルテの首や胸が飾られ，19世紀後半には大きく広がったスカートが流行し，これらに蝶形(ちょうがた)のリボンなどをつけた。材料としてはあらゆる糸が使われ，絹・レーヨン・ビロード・タフタ・紙，または衣服と共布でも結ばれた。平織・繻子(しゅす)織・紋織その他種類も多く，編み物状のものもあり，無地をはじめ，縞物(しまもの)・がら物など色の種類も多い。

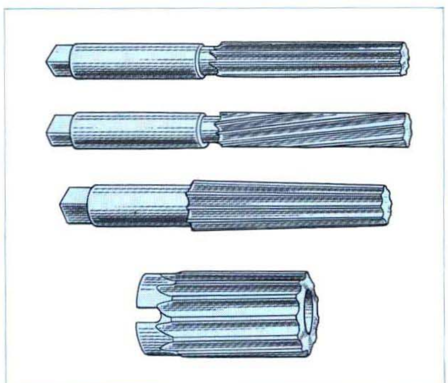
細く柔らかい手芸用のリボンを使用して，衣服の装飾効果をあげるリボンししゅうは，17世紀ごろから行なわれていたといわれ，ロココエンブロイダリーともよばれる。材質は絹やナイロンで，リボンの幅は約3.5～4mmである。ステッチはフランスししゅうの基礎縫いと基本的には変わらないが，幅を利用するので糸の場合と違う技法も必要である。リボンを撚(よ)って太い糸として使うとか，糸に撚るのではなく，ねじって折りながら刺すとか，重ねて刺すなどして，量感のあるさまざまな効果を出す。したがって繊細な図案には不向きで，ししゅう糸で刺すときと同じ手法でも，縫い上がりの量感ばかりでなく，リボン面の絹の光沢と色彩ではなやかな感じを表現できる。〔小池千枝・山村あい子〕



リボングラス



リ　マ　空から見た市の中心部。中央手前の大きな建物は大統領官邸で，その向こうはプラサ-デ-アルマ広場



リ ー マ ー　ふつう用いられるリーマーの種類

リボングラス [ribbon grass] 単子葉植物・イネ科。ヨーロッパ原産の多年草であるオオカニツリの変種チョロギガヤの葉が白覆輪斑(はん)のもの。花壇の縁取りや観葉植物として栽培される。盛夏には葉が枯れるが秋に新芽を出し，特に春秋の新葉のころが美しい。英名でリボングラスというのは，クサヨシの変種のシマヨシで，新葉に淡紅色や白色のしまがあって美しく，観葉植物として栽培される。

リマ [Lima] 南アメリカ，ペルーの首都。人口286万2,000(1972)。太平洋岸から約13km内陸の標高153mに位置する。ペルー最大の都市で，政治・経済・文化の中心をなす。ワタ・タバコなど周辺地域の農産物を集散するとともに，綿紡績・製粉・醸造などの工業が行なわれる。市内には南北アメリカ大陸を通じて最古の大学であるマルコス大学(1551年創立)をはじめ，1563年建造の劇場もあり，市街は古都の風格をとどめている。1535年ピサロによって建設され，以来スペイン植民地の主都として栄えたが，1821年のペルー独立とともにその首都となった。付近にはインカ帝国の遺跡が多い。〔小栗　宏〕

リーマー [reamer] 回転させながら穴の中に送り込んで，穴の形状や寸法を精密に仕上げるための工具。ボール盤*に取り付けて用いることが多い。図に示したものは普通の円筒穴用のものであるが，円錐(えんすい)穴用のテーパーリーマーもある。また，大きな穴用のシェルリーマー，直径を調節することのできるエキスパンジョンリーマー・アジャスタブルリーマーなどもある。

りまとう 【利瑪竇】 ⇨マテオ-リッチ

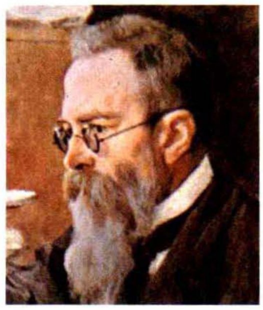
りまわり 【利回り】 有価証券*の利子または配当金の有価証券の価額に対する割合。有価証券の価額は時価がとられるので，利回りは債券の表面金利(券面価額に対する利子の割合)や株式の配当率(払い込み金額に対する配当金の割合)とは異なる。なお債券の利回りには応募者利回りと発行者利回りがあり，応募者利回りは債券の年間利子率に割引発行の際の償還差益(額面価額－発行価額)を償還年限で割ったものを加算したものであり，発行者利回りは債券の年間利子率に発行差金や発行に要した費用を償還年限で割ったものを加えたものである。〔速水　保〕

リマン(海流) [Liman] 日本海の西部を流れる寒流。対馬(つしま)海流*の分流が北上して低温となり，間宮海峡付近から向きを変えて南下し，沿海州および朝鮮半島東岸を流れる部分をいう。欝陵(うつりょう)島付近で再び対馬海流に合し，その下に潜流して日本海の底層をなす。

リーマン [Georg Friedrich Bernhard Riemann] (1826～1866) ドイツの数学者。ハノーバーに牧師の子として生まれた。ゲッチンゲン大学で神学と言語学を学んだが，のちに数学を専攻してガウスに師事。ゲッチンゲン大学講師を経て，1859

年同教授となったが，肺結核のため若くして病没した。1851年卒業論文として複素関数論を論じ，また1854年就職論文でいわゆるリーマン幾何学*の理論を提出，幾何学史上新段階を画した。この両論文はきわめて著名である。さらに関数論におけるリーマン面の導入，楕円(だえん)関数論・アーベル関数論などの研究があるほか，物理学においても場の概念による物理的空間の理論をたてた。〔下平和夫〕

リーマンきかがく 【リーマン幾何学】 曲面上の図形では最短通路は直線のような役割をするが，これを直線とみると平行線公理がなりたたない。曲面のように曲がった空間の幾何学がリーマン幾何学で，相対性理論にも用いられる。平行線公理の代わりに〈直線外の1点を通ってこの直線と交わらない直線は存在しない〉とする幾何学をリーマンの非ユークリッド幾何学または楕円(だえん)幾何学という。この幾何学では，三角形の内角の和は2直角より大きくなる。〔小西勇雄〕



リムスキー-コルサコフ

リムスキー-コルサコフ [Nicolai Andreevich Rimskii-Korsakov] (1844～1908) ロシアの作曲家。ノブゴロドの貴族系の高官の家庭に生まれた。幼時から楽才を現わしたが，12歳のときに海軍兵学校にはいり，軍務のかたわら音楽を身につけた。1861年にバラキレフ*に会い，いわゆる五人組*の最年少者の仲間となった。1865年に第1交響曲を発表し，1868年には第2交響曲《アンタール》を完成して作曲家としての評価を受けた。1871年にペテルブルグ音楽院教授となり，1873年には軍籍を退いて海軍軍楽隊の指揮者にもなった。ゴーゴリの原作に基づくオペラ《五月の夜》やオストロフスキーの原作に基づくオペラ《雪娘》を発表したあと，1886年にロシア交響楽演奏会の指揮者となり，この時期に《スペイン奇想曲》《シェラザード*》《ロシアの復活祭》などの傑作を書いている。1890年代には再びオペラに関心を示し，《サドコ》などを発表，また最晩年には《金鶏》を書き上げている。《管弦楽法原理》という著作を残したほどのオーケストレーションの大家のひとりで，その門からグラズノフ*・イッポリトフ-イワーノフ*・ストラビンスキー*・プロコフィエフ*ら多くの逸材を生んでいる。〔向坂正久〕

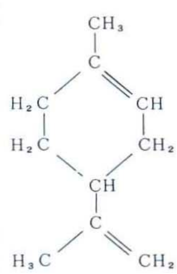
リムドこう 【リムド鋼】 縁つき鋼ともいう。溶鋼の脱酸にフェロアロイなどを用いた脱酸程度の低い鋼で，外層は不純物の少ないリム(縁)状に固まり，内部は比較的不純物が多く，また発生した炭酸ガスによる気泡(きほう)も多く含む。表面が良好なことを要求される薄板や，圧延したままで用いる建築用鋼材などに用いられるが，表面を削り取って使用する用途には適しない。

リモージュ [Limoges] フランス中央部の都市。人口13万3,000(1968)。中央高地の西端，ロアール川の支流ビエンヌ川上流の盆地にあり，盆地内で産する農産物の集散をなす。11世紀に始まったといわれる陶磁器生産は名高く，ほかにくつ・帽子などの工場もある。半円形状の市街には，中世の建造物が多い。

リモートコントロール [remote control] 機械や装置などを，遠隔から制御を行なうこと。遠隔制御ともいう。大別して有線によって制御用の信号を送る方式と無線による場合，および空気圧・油圧を用いる方式とがある。この場合，制御される装置の状態はテレメーターによって知る。ロケット・航空機の誘導に用いられ，月面の探索車を地球上から制御するなどはきわめて遠距離の場合である。

リモナーデざい 【リモナーデ剤】 酸と単シロップを主剤とする酸味のある清涼感を伴う内用水剤である。酸としては塩酸・クエン酸・酒石酸・乳酸のいずれかが用いられ，普通は，芳香剤としてレモン油を加える。主として熱性疾患などに止渇の目的に用いる。

リモネン [limonene] 単環テルペンに属する炭化水素の一種。レモン様の香気がある液体で，光学異性体 *d*-および *l*-体がある。*d*-リモネンはオレンジ油・レモン油・ベルガモット油などの植物精油中に含まれ，*l*-リモネンは，はっか油・スペアミント油などに含まれる。またラセミ体はジペンテンともいい，テレビン油などに含まれる。



d-リモネン

d-体，*l*-体は融点－96.9℃，沸点178℃，比重0.8411(20℃)。水には不溶であるが，エチルアルコール・エーテルには任意の割合でとける。空気と光により酸化されやすい。各種香料に用いられる。

リヤカー 後部の車を意味する日本製英語で，自転車の後方に連結して使う荷物運搬用の二輪の車体のこと。自動車・トラックの普及した今日ではほとんど姿を消したが，第2次世界大戦前や戦争直後には輸送機関として大いに使われ，1945年(昭和20)ごろの国内保有台数は約170万台もあった。現在でも農村で使われ，ハンドトラクターで引くことが多い。

りゃくご 【略語】 単語の語形が部分的に省略されてできた語。長い語形を短くして発音(または表記)を簡略にするためにできることが多い。省略されるのは下の部分(インフレ〈ーション〉，急行〈列車〉，お召し〈ちりめん〉)が多いが，上の部分(〈プラット〉ホーム，〈千秋〉楽)もある。それらを組み合わせた場合(てん〈ぷら〉どん〈ぶり〉，労〈働〉組〈合〉，テレ〈ビ〉ドラ〈マ〉，〈航〉空母〈艦〉)もある。また外国でつくられた略語が略語としてはいったもの(PTA，BG，OL，UNESCO)のほか，日本でつくられたローマ字による略語(NHK)もある。〔西尾寅弥〕

りゃくしきめいれい 【略式命令】 簡易裁判所において，その管理に属する事件について，公判*を開かずに書面で審理して，刑を言い渡すとき(略式手続き)発せられる命令*。検察官の略式手続きの請求により，簡易裁判所が50,000円以下の罰金または科料を言い渡す場合に認められる。不服があれば，告知後14日以内に正式裁判を請求することができる。この請求があれば公判を開いて通常の裁判手続きが開始され，その判決が確立すると，前の略式命令は効力を失う。また正式裁判の請求がなく，告知後14日を経過すると，その略式命令は確定し，確定判決と同一の効力を生ずる(刑事訴訟法461～470条)。〔井上公耳〕

りゃくしゅざい 【略取罪】 ⇨誘拐(ゆうかい)罪

りゃくだつこん 【略奪婚】 男性が妻となる女性を他の集団から強制的に略奪し結婚すること。これは最近まで北アメリカの平原インディアンでみられた。社会的・経済的に妻を得ることが困難なため，敵方の女を奪取し妻とする。この場合，結婚要件である花嫁方への贈与や奉仕の必要はなく，その互酬性を無視できる。しかし，このような例はまれであり，形式的な奪取を婚姻の際に伴う例が一般的である。あらかじめ花嫁の親族との間に同意があり，奪取の際に花嫁の親族による抵抗も儀礼的に行なわれる。このような形式的な略奪婚は世界各地にみられ，日本の〈嫁盗み〉という結婚の習俗もその一例である。〔大岩　碩〕

りゃくふ 【略譜】 音楽の記譜法の一。精密に記すのがめんどうであったり，かえって見にくい場合に，決まった記号によって，パターン化して記した楽譜のこと。伴奏の音形によく用いられる。なお，西洋音楽では五線譜の代わりに数字でメモ代わりに記したものも略譜ということがある。

リャザン [Ryazan'] ソ連，ロシア連邦共和国西部にあるリャザン州の州都。人口40万5,000(1974)。モスクワの南東，オカ川(ボルガ川の支流)に臨み，河港をもつ交通の要衝である。工作機械・農業機械・電機・石油精製などの工業が盛ん。1095年に建設の起源をもち，以来商業の中心とし

て発達した。寺院などの古い建築物が残っている。

リヤド ［Riyadh］ サウジアラビアの首都。人口35万(1974年推)。アラビア半島の中央内陸，ネジド州の南東隅(ぐう)にあるオアシス都市で，ペルシア湾岸のダーランと鉄道で結ばれる。イスラム教の清教主義ワッハーブ派発祥(18世紀)の地だけに戒律が厳格で，飲酒や映画は禁じられている。また首都でありながら外国大公使の駐在を許さず，外交機関は紅海岸のジッダに置かれ，外務省も同地にある。

りゅう 【龍】 略字で竜とも書く観念上の霊獣で，龍神話は世界的に広く分布している。中国およびその影響を受けた日本における龍は，胴はヘビ，角はシカ，耳はウシに類似し，体は鱗(うろこ)におおわれ，4足の動物と想像されている。中国における龍の起源については，①電光の形に由来する，②龍巻(たつまき)の現象に基づく，③ヘビを神格化したインドからの影響によるなどの諸説があるが，まだ定説をみない。中国では，龍がすむとされる龍潭(りゅうたん)や河神としての信仰もあるが，最も顕著なのは雨神としての龍の信仰で，旧2月2日は〈龍擡頭(たいとう)〉とよばれ，龍が昇天して雨の施与者となると伝えられている。また，皇帝の御衣を龍袍(ほう)，面貌(めんぼう)を龍顔と表現するなど，龍を瑞獣(ずいじゅう)とみる信仰も古い。日本では，龍をタツすなわち神霊の示視という意味でよぶことからも知られるように，古くから龍を霊視してきた。民間の信仰でも，龍神は雲や水をつかさどる神とされ，水神として祭る事例も多い。〔直江広治〕

りゅう 【留】 天体が順行*から逆行*または逆行から順行に移るとき，見かけ上その天体が天球上で止まって見える現象。留は内合*・衝*の前後すなわち地球が内惑星に追い抜かれるか，外惑星を追い越すときに起こる。

りゅうえん 【劉淵】 (？～310) 中国，五胡(ごこ)十六国の漢の創建者。匈奴(きょうど)族出身。国号の漢は，昔前漢の王室と匈奴の単于(ぜんう)とが姻戚(いんせき)関係にあったことに由来する。八王の乱*後の晋(しん)の弱体化に乗じて華北に侵入し，308年帝位につき，北方民族による華北支配の先駆をなした。

りゅうおう 【龍王】 雲を起こして雨を降らせ，雷も起こす一方，河海を支配すると信じられている想像上の動物の姿をもった神。龍神ともいうが，仏教信仰の八大龍王の観念とも結びつき龍族の支配者とされる。多量に雨を必要とする稲作農耕民にとっては，雨ごいのときになくてはならぬ神として，東南アジアや東アジアにもその信仰が分布している。中国では龍王を祭る龍王廟(びょう)が，各地の都市・農村にあり，6月23日がその祭日となっているが，雨ごいのときには近くの池泉に祭られる龍王廟に出かけて降雨の祈願をする。朝鮮では，龍王は龍神・龍宮などとも称され，水の神，海の神とされ，また各種の土着信仰とも融合している。日本，とくに沖縄ではもっぱら海の神として信仰され，6月23日の祭日には海の幸(さち)祈願，豊穣(ほうじょう)祈願，山の幸祈願などが行なわれる。〔渡辺欣雄〕

りゅうがく 【留学】 ある期間外国に在留して学問・芸術の研鑽(けんさん)を積むことをいう。留学には，その費用の支出主体の違いによって，国費・給費・私費の3種類がある。国費による留学生を特に文部省在外研究員とよぶ。給費留学は，国内の諸団体が費用を支出するものと，留学先の政府・諸団体が支給するものとがある。第2次世界大戦後の留学は，1949年(昭和24)アメリカ政府がガリオア資金によって，次いで1952年フルブライト計画によって，日本から留学生を招致したことに始まり，現在では約30か国の政府が給費留学生を招致するに至っている。〔山崎昌甫〕

りゅうがさき 【龍ケ崎(市)】 茨城県南部の市。人口43,000。古くから〈龍ケ崎木綿(もめん)〉の特産で知られ，中世には龍ケ崎氏・土岐氏などが領し，江戸時代には仙台(せんだい)藩の陣屋が置かれた。明治以降は養蚕業が盛んであったが，常磐(じょうばん)線からはずれたため都市の発達は遅れ，1954年(昭和29)市制施行。市域は北部は高さ25m内外の関東ローム層の洪積(こうせき)台地，南部は利根(とね)川と小貝川の合流点付近に形成される沖積(ちゅうせき)低地を占め，ほぼ菱形(ひしがた)をなしている。産業三大別人口比は23：31：46。低地には水田が開けて県の穀倉地帯となり，養豚・養鶏も盛んである。最近は化学・輸送用機器・電気機器・機械製造などの近代工業が興っている。関東鉄道で常磐線佐貫(さぬき)駅と結ばれ，常磐線の電化と国道6号線の整備によって東京都の住宅衛星都市化が進んでいる。北西端に牛久沼がある。

りゅうかすいそ 【硫化水素】 H_2S 天然には火山ガスや鉱泉中に含まれ，またイオウを含むタンパク質の分解によっても生ずる。一般には硫化第一鉄に塩酸を作用させてつくる。無色，腐卵臭をもつ気体で有毒。融点－85.5℃，沸点－60.2℃，密度1.539g/l(0℃)，誘電率8.3，有機物をよくとかす。20℃で水100mlに258mlとけ，水溶液は弱い二塩基酸である。空気中では青色の炎をあげて燃え二酸化イオウとなる。還元性があり，ヨウ素に作用してヨウ化水素を生ずる。また湿気の存在で種々の金属に作用して硫化物*をつくる。酢酸鉛の水溶液を浸した紙片を黒変させ，これが検出に利用される。金属イオンの沈殿試薬として分析に用いられる。〔竹下三吉〕

りゅうかせんりょう 【硫化染料】 イオウまたはポリ硫化ナトリウムと比較的構造の簡単な有機化合物とを加熱して製造する含硫染料。複雑で不明確な構造の染料の混合物である。水に不溶なため，染色は硫化ソーダで加熱還元した浴中で行なう。色調は赤系統以外は豊富であるが鮮明さに欠ける。また，漂白に弱く，強アルカリで染色するため繊維をいためるなどの欠点があるが，日光および洗たくに堅牢(けんろう)で安価なため，広くもめん染色に用いられている。〔稲田正作〕

りゅうかてっこう 【硫化鉄鉱】 鉄の硫化物の総称。硫酸製造の原料鉱石として利用されるほか，焼きかすは製鉄原料になる。オウテッ鉱・ハクテッ鉱・ジリュウテッ鉱の3種の鉱物を含む。

りゅうがどう 【龍河洞】 高知県香美郡土佐山田町三宝山の中腹にある鍾乳洞(しょうにゅうどう)。1931年(昭和6)に発見された。洞窟(どうくつ)内には古代人の穴居生活の跡があり，天然記念物とともに史跡の指定も受けている。東西二つの洞に分かれ，延長4.3km。洞内の川は瀑布(ばくふ)や深淵(しんえん)，早瀬や甌穴*(おうけつ)など変化に富む景観をつくっている。また鍾乳石・石筍(せきじゅん)・石柱などの石灰洞内特有の景観は，天降石・前ノ千本・鬼ノ千本・玉簾滝(たますだれのたき)・記念滝とよばれる奇勝となっている。〔菊池万雄〕

りゅうかぶつ 【硫化物】 イオウとそれより陽性な元素との化合物。ほとんど全部の金属および水素・窒素・ホウ素・炭素・ケイ素・リン・ヒ素・セレン・テルルなどとの硫化物が知られている。単体とイオウとの反応，または酸化物や水酸化物とイオウとの反応により得られることが多い。重金属では硫化水素中で酸化物を熱するか，塩類水溶液に硫化水素を通じて沈殿させてつくる。アルカリ金属の硫化物は無色で水によくとけるが他は一般に難溶。水溶液は加水分解して強いアルカリ性を呈する。難溶性硫化物は金属の種類により特有の色をもつため，硫化水素による硫化物沈殿生成反応は分析に利用される。空気中で赤熱すると硫酸塩または酸化物となる。強酸により分解硫化水素を発生する。水と熱すると水酸化物や酸化物となり硫化水素を発生する。〔竹下三吉〕

りゅうがん 【龍眼】 双子葉植物・ムクロジ科。中国南部原産の常緑高木で，高さ10mほど。葉は9～12cmの長卵形の小葉5～7枚からなる羽状複葉で，互生する。雌雄異株で，7～8月，葉腋(ようえき)に円錐(えんすい)花序をつけ，かおりのよい径2mmの白黄色の5弁花をつける。果実は径2.5cmほどの球形で，表面に細かい突起がある。仮種皮は肉質多汁(たじゅう)で美味。乾燥したものを龍眼肉といい，やはり食用にする。

りゅうきかいがん 【隆起海岸】 土地が隆起して海底であった部分が海面上に現われて生じた地形をいう。しかし近年は隆起海岸の概念は変わってきており，氷期の海面下降は全世界に及んでいて，この間は一

様に陸地が相対的に海面より上昇したことになるので，先の隆起の場合を含めて離水海岸とよぶようになった。砂質海岸が離水すると海底堆積(たいせき)面が海面上に現われて海岸平野を生じる。九十九里浜・常総台地・加越台地，アメリカ合衆国大西洋岸中部からメキシコ湾岸に及ぶ平野にこの例を見ることができる。また岩石海岸が離水すると，海食崖(かいしょくがい)下の海食棚(かいしょくだな)が海面上に生じ，さらに数次の離水現象をくり返したところでは海岸段丘*が生じる。本州北部から北海道一帯，房総半島から西南日本の太平洋岸一帯には海岸段丘の発達が特に著しい。〔大崎　晃〕

りゅうきゅう【琉球】沖縄*と同じ地域をいうが，古くは現在は鹿児島県に属する奄美(あまみ)諸島をも含んでいた。この範囲が琉球王の統治下にあったためであるが，1609年(慶長14)に島津家久が琉球討伐をし，奄美諸島を直轄領とし，それより以南の琉球王国を実質的に薩摩(さつま)藩の属領としてから，琉球と現在の沖縄の区域が一致するようになった。琉球とはもともと中国がこの地域をよんだものであり，その文字も流求・流鬼・瑠求・留求などとしるしていたが，明(みん)の太祖のときに琉球の文字に統一された。これに対して沖縄という文字は新井(あらい)白石の《南島誌》に見えるのがはじめてであるが，それらしい地名は753年(天平勝宝5)鑑真(がんじん)なども加わっていた遣唐使の一行が唐より帰途〈阿児奈波(おきなは)島〉に漂着したという記事が《僧鑑真伝》に出ているのが最初である。第2次世界大戦中の1945年(昭和20)4月5日，沖縄本島に上陸したアメリカ軍は，沖縄県に対する日本政府のすべての行政権を停止し，戦後も沖縄をアメリカの軍政下に置いたが，意識的に琉球という地名を公式の呼称として採用，〈琉球列島米国民政府〉をおいて統治し，その下に住民によって構成する〈琉球政府〉を置いた。1972年5月15日，アメリカの施政権は日本に返還され，沖縄県が復活した。しかし琉球という名称は，琉球芸能・琉球語あるいは国立の琉球大学，動植物としてはリュウキュウムラサキ・リュウキュウツツジなど，まだまだ広く使われている。〔浅井得一〕

りゅうきゅうおんがく【琉球音楽】沖縄本島を中心とした琉球諸島の音楽。日本音楽の中で独特の音楽構造・レパートリーをもっている。豊かな音楽伝統は三つの系統に分けられる。第1に古くから行なわれてきた本来土地固有のもので，その代表例が祝女*(のろ)の歌う宗教的・叙事詩的な〈おもろ*〉である。また，青年男女の健全な社交の場〈毛遊(もうあす)び〉では即興的な歌舞交歓が各島で少しずつ違った形態で行なわれていたし，宮古島では《くいちゃ》《あやぐ》《とうがに》など，八重山では《とうばらーま》〈ゆんた*〉などの固有の民謡レパートリーが，



琉球音楽〈前列〉(左)箏　(右)横笛〈後列〉三線



リュウキュウツツジ

独特の発声で歌われる。第2の系統は，地理的に近い中国の影響を受けたもので，行進のための〈路次楽〉など宮廷に関係したレパートリーが多い。民間のものでは糸満など漁業地での〈爬龍船競漕(はーりーすーぶ)〉〈綱曳(ひ)き〉での音楽や，豊作祈願の〈弥勒(みるく)迎え〉〈四つ竹踊り〉などがある。第3の系統は本土の影響を受けながら豊かに発展させた蛇皮線(じゃびせん)(三線*(さんしん))音楽を中心とするものである。蛇皮線は14世紀に中国から導入され，これが16世紀に本土へ伝わり，さらに本土から逆輸入されていまの形となった。16世紀初期に赤犬子*(あかいんこ)が8・8・8・6の詞型をもった琉歌をうたいだしたのが蛇皮線音楽のはじめといわれ，17世紀には湛水(たんすい)親方(1623〜1683)によって大成されて湛水流が生まれた。その後も総合芸術的な〈組踊り*〉が創作されたり，謡曲的な当流が派生したりした。この当流からさらに今日盛んな安冨祖(あふそ)流と野村流とが，工工四(くるるんし・くんくんし)という記譜法を使ったり，箏(そう)・胡弓(こきゅう)・笛・太鼓・鉦(しょう)などの楽器を加えて発展させた。上記の〈組踊り〉はそのまま保存される一方，〈歌劇〉として新しい形態で明治以後に受け継がれている。〔山口　修〕

りゅうきゅうしょとう【琉球諸島】南西諸島*のうち，27°N以南の諸島。北半の沖縄諸島*と南半の先島諸島*の二つの部分に分かれる。沖縄県に属する。第2次世界大戦後はアメリカ合衆国の統治下にあって沖縄または琉球とよばれていたが，1972年(昭和47)5月に返還された。

りゅうきゅうしんぽう【琉球新報】沖縄県で発行されている日刊新聞。1893年(明治26)9月日清(にっしん)戦争開戦論を唱える尚(しょう)順らによって創刊された。1940年(昭和15)12月新聞統合政策により《沖縄新報》に併合され，1945年5月に終刊。第2次世界大戦後，《うるま新報》がアメリカ占領軍の援助によって発刊され，1951年9月現名に復元改題された。本社は那覇(なは)市。発行部数朝夕刊セットで約109,000(1980)。

りゅうきゅうつつじ【琉球躑躅】双子葉植物・ツツジ科。モチツツジとキシツツジを親にしてつくられたと考えられる栽培種で，枝や葉柄にかたい毛が密にはえる。葉は枝先に集まってつく。5月，枝先に直径4〜5cmの白色花を2〜3個つける。おしべ10本，めしべ1本，子房に粘毛がある。

りゅうきゅうれっとう【琉球列島】⇨南西諸島

りゅうきょう【劉向】⇨りゅうこう

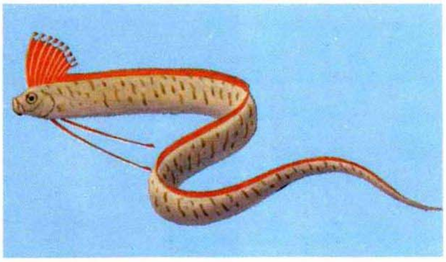
りゅうきょう【劉勰】(464？〜520)中国，六朝(りくちょう)時代，梁(りょう)の文人。宋(そう)・斉(せい)・梁の3朝に歴仕した。青年時代，《弘明集(こうめいしゅう)》の編者の僧佑について生活，仏教経典の整理に携わり，梁代に役人になったが，のち出家して名を慧地と改め，まもなく死んだ。儒教と仏教の影響を深く受けたが，斉代につくった文学理論書《文心雕龍*(ぶんしんちょうりゅう)》によって知られる。

りゅうきょうしんし【柳橋新誌】成島柳北*の漢文随筆集。3編からなり，初編は1859年(安政6)の著で刊行年不明，第2編は1874年(明治7)刊，第3編は公刊を許されず序文が伝わるのみである。内容は，初編は江戸末期，第2編は明治初期の柳橋花街(いろまち)の風俗を詳細に記し，風刺がよくきいて，文明批評家としての柳北の見識がうかがえる。

りゅうぐう【龍宮】龍王*が住むと伝えられる異郷。龍宮は海や川の底にあるとか，深淵(しんえん)・井戸・洞穴(どうけつ)が龍宮に通じているといった伝承が多い。浦島太郎*の龍宮訪問の昔話のほかに，〈龍宮童子(わらし)〉〈龍宮女房〉という昔話も，青森県から沖縄県に至るまで分布している。また椀(わん)貸し伝説*や河童*(かっぱ)の伝承などが龍宮と結びついている場合も多く，ひでりのときに

は龍宮様に雨ごいすると，必ず雨が降るとされている。この種の龍宮伝承には一定の型があるところから，伝承運搬者のあったことが予想される。〔直江広治〕

りゅうぐうのつかい【龍宮使】硬骨魚類・リュウグウノツカイ科。全長10mに達する深海魚で，ごくまれに海岸に打ち上げられ，日本では新潟・鹿島灘(かしまなだ)・九十九里浜・土佐・鹿児島などからの報告がある。体は細長く著しく側扁(そくへん)し，後方に向かって低くなる。背びれ前部の6軟条と腹びれは著しく長い。腹びれには途中の3か所に膜質の付属物があり，背びれ基底は長い。



リュウグウノツカイ

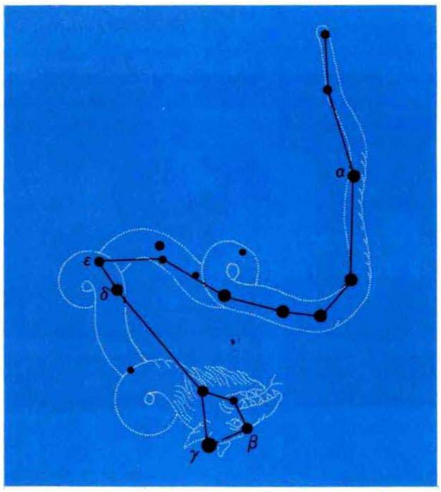
りゅうけつじゅ【龍血樹】⇨ドラセナ

りゅうげん【流言】流言飛(蜚)語ともいう。ある情報が比較的広範囲の人々の口から口へと急速に伝達されていく現象。流言発生の条件として①情報の内容が話し手・聞き手双方にとって強い関心事であり重大事であること，②その事がらについての正しい情報が欠けており，あいまいであることの二つが必要である。流言は伝わっていくうちに変容し種々なねじ曲げが起こるのが特徴であるが，意図的に虚報を流す〈デマ〉とは区別される。〔斎藤幸一郎〕

りゅうこう【流行】一時的に取り入れられる社会的慣習。変化を求める一部の人たちが目新しい服装や行動様式をいちはやく取り入れることによって発生し，流行が形成される。したがって，新奇さがなくなったり，社会の大多数に取り入れられたりすると消滅する傾向にある。流行は心理的には人間の個性化もしくは自己顕示の要求(孤立化の傾向)とその反対の集団所属の要求(結合の傾向)とのかねあいによって発生すると考えられる。〔斎藤幸一郎〕

りゅうこう【劉向】(BC77〜BC8) 中国，前漢末期の学者。〈りゅうきょう〉ともいう。王室に蔵する文献を全面的に整理し，一書を整理するごとにその目録と要旨を記した。この仕事は子の劉歆(りゅうきん)が継承し完成したが，古文献を整理し系統化して後世に伝えた功績は大きい。彼は外戚(がいせき)の横暴をおさえて天子の権力を高めるべきであるという見解に立ち，天子に直接諫言(かんげん)した。《説苑(ぜいえん)》などの政治・道徳の事例集を編集した。〔西　順蔵〕

りゅうこう【隆光】(1649〜1724) 江戸中期の真言宗の僧。字(あざな)は栄春。世に〈護持院大僧正〉とよばれた。大和(やまと)(奈良県)の人。12歳のとき唐招提(とうしょうだい)寺の朝意によって得度し，翌年豊山(ぶざん)長谷(はせ)寺にのぼり亮汰(りょうたい)に師事して密教を修め，次いで京都・奈良・高野山の諸大徳に従い内外顕密の学をきわめた。1688年(元禄1)信仰厚い将軍徳川綱吉(つなよし)にこうて筑波(つくば)山知足院を神田橋外に移し，護持院と改称して開山となり，幕府の鎮護に精励し，1695年には大僧正にのぼった。諸神祠を興隆し，荒廃した寺を復興し，教門を振興した事績は名高く，傑僧と仰がれた。著書に《理趣経解嘲》《聖無動経慈怒鈔(しょう)》《筑波山縁起》などがある。〔北条賢三〕



りゅう座

りゅうこうか【流行歌】短い期間に広く歌われ，その後は次の歌に取って代わられる歌の総称。〈はやりうた〉ともいう。狂言小歌に収められている《七つ子》や《海道下り》は当時の流行歌を反映しており，義太夫節(ぎだゆうぶし)も〈木遣(きや)り歌〉や《相の山》などの当時はやっていたものを効果的に用いている。江戸時代になると，《伊勢音頭(いせおんど)》《弄斎(ろうさい)》《潮来節(いたこぶし)》，都都逸(どどいつ)などが実際に限られた期間に流行した。第2次世界大戦までは，今日の歌謡曲にあたるものが，日本の代表的流行歌であったが，現在は，歌謡曲の名まえが一般的になっており，流行の期間はきわめて短くなっている。➔歌謡曲〔徳丸吉彦〕

りゅうこうけん【柳公権】(778〜865) 中国，唐代の書家。字(あざな)は誠懸。公綽(こうしゃく)の弟で，陝西(せんせい)省の人。穆宗(ぼくそう)の朝，右拾遺翰林(かんりん)侍書学士となり，のち工部尚書(しょうしょ)を経て河東郡公に封ぜられ，太子太保に至った。かつて穆宗に筆法を問われたとき〈用筆は心にあり，心正しければ筆正し〉と答えたのは有名である。経学に博通し，書は晋(しん)・唐の諸家を学んでまた一家の風をなし，気骨のある勁媚(けいび)さは顔真卿(がんしんけい)を継ぐものとされ，当時，公卿大臣の間にもてはやされた。《玄秘塔碑》《神策軍紀聖徳頌(しょう)》などがある。〔中田勇次郎〕

りゅうこうご【流行語】ある期間，人人におもしろがられ，盛んに使われることば。一般にその生命は短いが，中には普通語として残るものもある。たとえば，江戸時代のある時期の流行語であった，〈だて〉〈土左衛門(どざえもん)〉・〈八百長(やおちょう)〉。現代では，流行語の源になったり広めたりするのは，テレビなどマスコミの媒体である場合が多い。

りゅうこうせいかんえん【流行性肝炎】⇨肝炎

りゅうこうせいかんぼう【流行性感冒】⇨インフルエンザ

りゅうこうせいじかせんえん【流行性耳下腺炎】ウイルスによる流行性疾患。俗にお多福風とよばれる。春秋に多く，主として小児を冒すが成人も罹患(りかん)する。いったん罹患すれば終生免疫が得られ，再感染することはまずない。潜伏期は約2週間と考えられている。頭痛・全身倦怠(けんたい)感・食欲不振・発熱(1〜2日)などの前駆症状ののち，片側の耳下腺がはれる。両側ともに冒される場合が多いが一側が2〜3日先行する。耳前・耳下部の皮膚が腺の腫大(しゅだい)のため緊張して，圧痛・自発痛がある。髄膜炎・脳炎などの合併症のないかぎり，ふつう小児では10日以内，成人では2〜4週間で消退しなんらの障害なしに治癒(ちゆ)することが多い。しかしまれには睾丸炎(こうがんえん)・卵巣炎を併発し，聴力障害・不妊症を生じることもある。対症療法以外に的確な治療法はない。〔冨田善治〕

りゅうこうせいのうせきずいまくえん【流行性脳脊髄膜炎】髄膜炎双球菌によって起こる髄膜炎。法定伝染病に指定されている。上部気道からの感染が多く，四季に関係なく1〜4日の潜伏期ののちに発症し，全身違和・頭痛・四肢倦怠(ししけんたい)・意識障害・頸部(けいぶ)硬直・痙攣(けいれん)などの症状が現われ，しばしば口唇(こうしん)に疱疹*(ほうしん)をきたし，小児では副腎(ふくじん)不全症候群をきたすことがある。脳脊髄液*中に病原菌を証明することによって確診する。長びいたり，重篤な後遺症を残すことも少なくない。治療には抗生物質・サルファ剤などが有効。〔井形昭弘〕

りゅうざ【龍座】北天の星座。ケフェウス座とヘルクレス座の間から，おおくま座とこぐま座の間をはう長大な星座であるが，2等星は1個だけで，他は3等以下の暗い星からなる。黄道の北極はこの星座のδ星とζ星の間に位置し，地軸はここを中心とする歳差運動を行なう。α星ツバンはいまから約5,000年前に北極星の役目をしていた。

りゅうざい【粒剤】薬剤を増量剤で粒状に固めたもの。従来アメリカなどで，畑

作害虫に適用された。わが国ではＢＨＣをはじめダイアジノンあるいはカーバメート系粒剤の水面施用で大きな殺虫効果をあげている。また手まきや空中散布も盛んに行なわれる。その利点は施用に手がかからず省力的であるばかりでなく効力が持続することである。

りゅうさん　【硫酸】　H_2SO_4で表わされる物質あるいはその水溶液。一般には後者をさす。100％硫酸に三酸化イオウSO_3をとかしたものは強い発煙性があり，発煙硫酸という。水溶液の場合，正確な規定があるわけではないが，濃度の低いものを希硫酸，濃度約90％以上のものを濃硫酸といっている。工業的な製法には次の２方法がある。原料の二酸化イオウSO_2は，イオウまたは硫化鉄の燃焼，あるいは石炭，石油精製の際の二次生成物としての硫化物などが使用される。①鉛室法：古くから行なわれている方法で，鉛室で反応させることからこの名がある。酸化窒素類（N_2O_3，NO_2）を触媒として，二酸化イオウと空気と水蒸気を反応させてつくる。反応は複雑であるが，中間生成物としてのニトロシル硫酸を経て硫酸ができると考えられている。

$$SO_2 + H_2O \rightarrow H_2SO_3$$

$$H_2SO_3 + N_2O_3, NO_2 \rightarrow HOSO_2ONO \rightarrow H_2SO_4 + NO$$

$$NO + O_2 \rightarrow N_2O_3, NO_2$$

酸化窒素類は，硝酸として加えられそれの分解によって得られる。この方法によってつくられた硫酸は鉛室硫酸とよばれ，比較的濃度が低く不純物を多く含むため，蒸留精製される。②接触法：二酸化イオウと空気との混合物を固体触媒上で，接触的に反応させる方法。

$$2\,SO_2 \rightarrow 2\,SO_3$$

固体触媒としては，白金・五酸化バナジウム・酸化鉄などが用いられるが，最も多く用いられるのは五酸化バナジウム（V_2O_5）を主体としたものである。この反応はほとんど定量的に進み，生じた三酸化イオウを97～98％の濃硫酸に吸収させる。触媒をそこなわないため，原料のガスをよく精製するので，得られる硫酸の純度は鉛室法に比べて高い。接触法でつくられた硫酸を接触硫酸とよぶ。

硫酸イオンの構造は中心にイオウがあり，各頂点に酸素の位置する四面体構造である。100％硫酸は無色，粘稠（ねんちゅう）な液体で，比重1.834，融点10.49℃，加熱すると290℃で三酸化イオウを発生して分解しはじめる。発煙硫酸を冷却するとピロ硫酸$H_2S_2O_7$の結晶が得られる。H_2SO_4とH_2Oの混合比によって$H_2SO_4 \cdot H_2O$（融点8.5℃），$H_2SO_4 \cdot 2H_2O$（融点－38℃），$H_2SO_4 \cdot 4H_2O$（融点－25℃）などの結晶が得られる。通常の蒸留によって得られる硫酸は約98.5％である。市販の硫酸は濃度約96％，比重1.84，36規定のものがふつう。水と任意の割合で混ざり，多量の熱を発生する。このため薄めるときは希釈液に濃硫酸を徐々に加えなければならない。強い二塩基酸で，希硫酸での第一段の解離はほとんど完全である。吸湿性が強く，気体の乾燥剤として使われる。また強力な脱水作用を有し，たとえばショ糖に濃硫酸を加えると，ショ糖は直ちに炭化する。熱濃硫酸は酸化作用を有し，銅・銀・水銀・炭素・イオウなどを酸化する。

希硫酸は，イオン化傾向が水素より大きい亜鉛・鉄などと反応して水素を発生する。有機化合物に対しては付加・スルホン化・酸化・脱水反応を行なう。化学工業の原料，金属の製錬，紡織，製紙，製革，食料品工業などその使用はきわめて広範囲にわたっており，きわめて重要な化合物である。

〔三輪　誠〕

りゅうざん　【流産】　胎児が成熟する以前に妊卵が排出されるのを妊娠中絶といい，中絶の時期により流産と早産に区別される。妊娠第28週以前に起こるものを流産というが，一般には胎盤完成まで（妊娠第16週）に中絶する場合をいう。自然に中絶される場合は自然流産，人工的に中絶する場合を人工流産（人工妊娠中絶*）といい，違法の中絶が堕胎*である。流産の起こりかかっている状態を切迫流産，胎児・胎盤の全部が完全に外に出ずに一部が残っている状態を不全流産，たびたび流産をくり返して習慣性になっているものを習慣性流産という。自然流産の頻度（ひんど）は妊娠の回数の重なるにつれて高くなり，ほぼ15％前後であるが，母体年齢の上昇とともにしだいに増加する。初回妊娠時人工中絶をした場合は，その後の妊娠時の自然流産頻度は満期分娩（ぶんべん）後に起こる例に比して高い。臨床的に原因不明の場合が約半数の例に認められる。原因としては妊卵の異常（胎児あるいは胎児付属物の奇形）・子宮奇形・子宮筋腫（きんしゅ）・母児血液型不適合・黄体機能不全・熱性疾患・梅毒などが考えられている。明らかな医学的原因がなくて起こる流産は，妊婦の日常生活のしかたに原因がある。つまり，妊娠初期の子宮はあらゆる刺激に対して不安定であるので，激しい運動や過労，睡眠不足によって流産は起こりやすい。妊娠２～３か月が最も流産しやすく，流産の主徴候は子宮出血と下腹痛・腰痛である。出血および痛みの程度はいろいろである。

〔木川源則〕

りゅうさんあえん　【硫酸亜鉛】　$ZnSO_4$　無色で光沢ある斜方晶系の結晶。比重3.474，740℃で分解。水にとける。６水塩および７水塩がある。亜鉛・酸化亜鉛あるいは焼成硫化亜鉛鉱を硫酸に溶解した溶液から蒸発結晶させてつくる。皓礬（こうはん）ともいい，眼科薬・防腐剤などに用いられる。亜鉛化合物製造用原料としての用途も広く，たとえばこの水溶液に硫化バリウム溶液を加え，リトポン*製造に用いる。

りゅうさんアルミニウム　【硫酸アルミニウム】　無水塩$Al_2(SO_4)_3$は，無色，斜方晶系の結晶，比重2.672，770℃で分解する。水にはよくとけるが有機溶媒には不溶。含水塩は$Al_2(SO_4)_3 \cdot 18H_2O$で，無色，単斜晶系の結晶。比重1.69，86.5℃で分解する。水にはとけやすいがエチルアルコールには不溶。水溶液は加水分解して酸性を示す。ふつう硫酸アルミニウムといえば含水塩をさす。これは水酸化アルミニウムに硫酸を加え，加熱して硫酸アルミニウム溶液とし，これをアルミニウムの板上などに流出，固化させてつくる。以前には粘土・ボーキサイト・ミョウバン石などを原料としてつくっていたが，最近ではもっぱらこの方法が用いられる。無水塩は含水塩を焼いて得られる。上水道水の浄水用・製紙用・媒染剤などとして多くの用途がある。液状のままタンク車に積み需要場所に運んで使用することも多い。　〔鈴木　篁〕

りゅうさんアンモニウム　【硫酸アンモニウム】　$(NH_4)_2SO_4$　無色，斜方晶系の結晶。比重1.769，水には容易にとけるが，エチルアルコール・アセトンには不溶。融点513℃（加圧），空気中で熱すると120℃で分解し，357℃でアンモニアを放って融解する。アンモニアを硫酸に吸収させてつくる。

【肥料】硫安ともいう。最も代表的な窒素肥料。昭和初期から現在まで窒素肥料の中心であった。しかし国内消費面では高成分肥料（尿素や高度化成）の需要増，輸出面では生産コストの低い肥料への要望が高まり，1965年（昭和40）度から首位（成分換算）を尿素にとって換わられている。1967年度生産量262万t，このうち163万tを輸出している。窒素21％を含み，速効性の生理的酸性肥料である。老朽化水田には適さないが，あらゆる作物に用いられ，ほとんどの複合肥料の主要構成分である。施肥後葉色が急に濃くなる特徴があるがその機構は不明。製法により，合成硫安・回収硫安・副生硫安・変性硫安に分けられる。合成硫安は合成アンモニアと硫酸を直接反応させたもので，最も多く生産されてきたが，しだいに生産減少の傾向にある。逆に合成繊維製造やチタンの精練など，あるいは亜硫酸ガスや硫酸ガスの排煙脱硫によって回収される回収硫安や重油脱硫による副生硫安などが増加している。変性硫安は石灰窒素からつくられるが，わが国では現在製造されていない。

〔早瀬達郎〕

りゅうざんいせき　【龍山遺跡】　中国山東省歴城県龍山鎮城子崖（じょうしがい）にある新石器時代遺跡。1930～1931年の発掘により，遺跡の下層から黒色磨研（まけん）の土器（黒陶*）を特色とする文化が確認された。ろくろ製の黒陶には殷（いん）文化と共通する鬲（れき）・鼎（てい）・高坏（たかつき）・磨製石器・卜骨（ぼっこつ）があり，彩陶を主とする仰韶（ぎょうしょう）文化より進んだものであり，まだ文字や青銅

がないことから殷文化に先だつものとされる。この文化は龍山文化あるいは黒陶文化の名でよばれる。〔小谷仲男〕

りゅうさんえん【硫酸塩】一般式が，$M^{I}_2SO_4$，$M^{II}SO_4$などで示される塩。すなわち，硫酸H_2SO_4の水素が金属イオンで置換されて生じた塩。金属・金属酸化物・水酸化物などを硫酸にとかしてつくる。無水のものは一般に無色の結晶であるが，中心金属が遷移元素で，結晶水(配位水)を有する化合物は，その金属に特有な色を呈する。強熱すると三酸化イオウを放って分解し酸化物を生ずる。還元剤を加えて強熱すると硫化物を生じる。

りゅうさんカリウム【硫酸カリウム】K_2SO_4 無色，斜方晶系の結晶。比重2.662，融点1,069℃，588℃で六方晶系に転移する。水によくとけるが，エチルアルコール・アセトン・二硫化炭素には不溶。天然にはアルカナイトとして，またレオナイト・カイナイト・ラングバナイトなど複塩として産する。工業的には塩化カリウムに硫酸を加えてつくることもあるが，多くはラングバナイトなどに塩化カリウムを加えて複分解によって得る。ガラス・明礬(みょうばん)の原料となるほか肥料としても重要である。〔鈴木 篁〕

【肥料】硫加ともいう。1967年(昭和42)のわが国の硫加の需要量は約20万tで，このうち50,000t が輸入されており，残りの約15万 t が国内生産であるが，ほとんど塩加を硫酸で処理して得る。これは同年の塩加の需要量約100万tに比べ少ないが，塩素が塩化ビニルなど工業的に多量に必要とされること，またタバコなど塩素イオンを特にきらう作物には硫加が必要であることなどの事情による。硫加はカリ成分50%前後のものが多く，成分あたりの価格は塩加よりも高いが，吸湿性がほとんどなく最も取り扱いやすい肥料として重要である。化学的中性・生理的酸性肥料。〔早瀬達郎〕

りゅうさんカルシウム【硫酸カルシウム】$CaSO_4$ 無水塩(硬セッコウ)・半水塩・2水塩(セッコウ)の3種がある。一般にカルシウム塩と硫酸塩の水溶液の複分解により，66℃以上で無水塩，それ以下で2水塩が晶出する。無水塩は無色で斜方・単斜・三斜の三つの結晶系がある。比重2.96，融点1,450℃，20℃の水100gに0.298gとけるが，100℃の水100gには0.1619gしかとけない。2水塩$CaSO_4\cdot 2H_2O$は硬度2，単斜晶系の白色半透明の結晶。これを100～150℃に焼成すると4分の3の結晶水を失い，半水塩$CaSO_4\cdot 1/2H_2O$となる。これに水を加えて練るとすみやかに凝結固化する。200℃以上に焼くとさらに2分の1のH_2Oが奪われ，水和性を失う。しかし500～900℃に焼いたものは再び水和性をもつ。2水塩および無水塩は天然に産出し，また化学工業の副産物としても回収される。2水塩はセメントに約3%程度混じて凝結を遅緩させるのに用い，半水塩は塗料用プラスターとして用いられ，良質のものは陶磁器の型，美術用・歯科用などに使われる。900℃前後に焼いた無水塩は，硬セッコウプラスターとして用いられ，半水塩からのものよりも，つやもよく，強度も強い。〔鈴木 篁〕

りゅうさんし【硫酸紙】原紙*を硫酸で変性してつくった半透明の薄い紙。パーチメント紙ともいう。もめん繊維または化学パルプからつくった原紙を濃硫酸浴に数秒間通すと，繊維表面のセルロースがいったん溶解し，酸を中和すると再び沈殿し，乾燥の過程で緻密(ちみつ)で強靭(きょうじん)な紙をつくる。耐油性・耐水性が大で，また透気性が小さいため，バター・チーズ・肉類などの包装に使われるほか，着色して造花用などに使用される。〔角祐一郎〕

りゅうさんどう【硫酸銅】

①硫酸第一銅：Cu_2SO_4 無色の粉末。水中に入れたり，湿気の存在により分解する。

②硫酸第二銅：$CuSO_4$ 無色，斜方晶系の結晶。比重3.603，水に可溶。1水塩・4水塩・5水塩があるが，一般的には5水塩$CuSO_4\cdot 5H_2O$が重要。単に硫酸銅といえばこれをさす。これは胆礬(たんばん)として天然にも産する。青色，三斜晶系で，比重2.286。水にとけ，加水分解して酸性反応を示す。有毒。脱水して4水塩・1水塩となる。硫酸銅をつくるには，くず銅または酸化銅に希硫酸を加え，二酸化イオウを除き酸化を完全にしてから蒸発結晶させる。銅塩の製造，果樹・野菜の殺虫・滅菌用として多量に使用されるほか，染料・媒染剤・電池・めっき・防腐剤・彫刻・試薬などに用いられる。〔鈴木 篁〕

りゅうさんナトリウム【硫酸ナトリウム】Na_2SO_4 比重2.698，無色の結晶で，斜方晶系・単斜晶系の2形態がある。前者は100℃の水100gに42g，後者は42.5gとける。含水塩には，7水塩$Na_2SO_4\cdot 7H_2O$と10水塩$Na_2SO_4\cdot 10H_2O$がある。後者を芒硝(ぼうしょう)またはグローバ塩ということがある。食塩に硫酸を加えて硫酸水素ナトリウムをつくり，さらにこれを強熱してつくる。またビスコース法人絹製造の副生品としても得られる。硫化ソーダ・クラフトパルプ・ガラス・水ガラス・ソーダ塩類・硫酸バリウム・群青・紺青などの製造に用いられるほか，染料の希釈剤，精練・染色・捺染(なっせん)用助剤，洗たくせっけんの混和用など多方面に用いられる。〔鈴木 篁〕

りゅうさんニコチン【硫酸ニコチン】$(C_{10}H_{14}N_2)_2\cdot H_2SO_4$ 殺虫剤の一。特異臭のかっ色液体。殺虫効果はニコチンによるため，使用時にはせっけん・炭酸ナトリウムなどでニコチンを遊離させる。アブラムシ防除などに用いる。人畜に有害なため注意を要する。

りゅうさんニッケル【硫酸ニッケル】$NiSO_4$ 緑黄色で等軸晶系の結晶。比重3.68，水によくとけ，エチルアルコールにも可溶。840℃で三酸化イオウを放って酸化物に変わる。含水塩には$NiSO_4\cdot 6H_2O$(α態は青緑色で正方晶系，β態は緑色で単斜晶系)と$NiSO_4\cdot 7H_2O$(緑色・斜方晶系)とがあり，比重は6水塩が2.031，7水塩が1.948。ニッケル・炭酸ニッケル・酸化ニッケルなどを硫酸に溶解するか，工業的に銅の電解精練の電解液から副産物として製取し，再結晶により精製して得る。ニッケルめっき，ニッケル化合物の製造などに用いられる。〔鈴木 篁〕

りゅうさんバリウム【硫酸バリウム】$BaSO_4$ 白色の結晶，バリウム塩水溶液に硫酸または硫酸塩溶液を加えると沈殿する。天然にはジュウショウ石として産する。融点1,580℃，比重4.499(15℃)。通常斜方晶系であるが1,149℃で単斜晶系に転移する。水にはほとんどとけないが濃硫酸には可溶。空気や熱には安定で，硫化水素によっても変色されない。またX線吸収力が大きい。白色顔料・試薬などに用いられる。

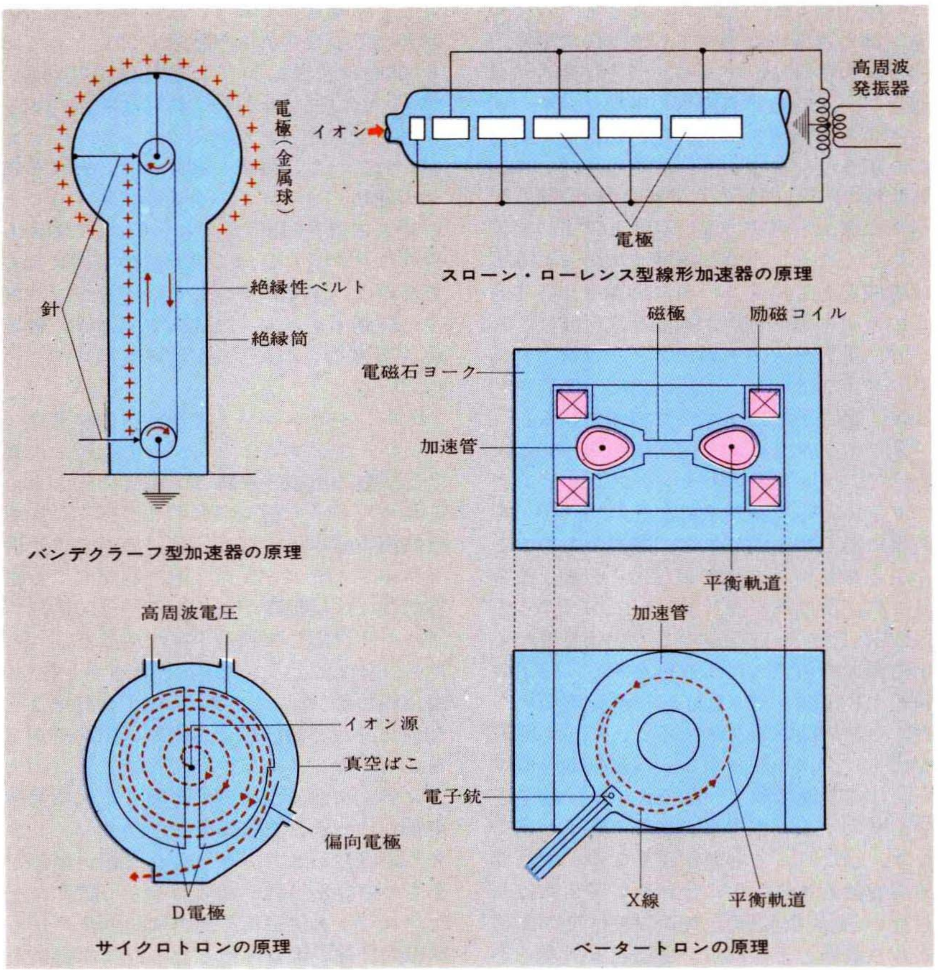
りゅうさんマグネシウム【硫酸マグネシウム】$MgSO_4$ 無色の結晶状粉末で，融点1,185℃，比重2.66。天然には7水塩が海水中に，また1水塩がキーゼライトあるいは種々の複塩として岩塩水などに産する。ドイツのシュタスフルト鉱床中の1水塩は有名。水溶液からは1，2，4，5，6，7，12の水和物が知られるが，2，4，5の水和物は不安定であり，－3.9～1.8℃で12水塩，1.8～48.3℃で7水塩，48.3～68℃で6水塩，68℃以上で1水塩が得られる。1水塩は無色，単斜晶系結晶で比重2.57，7水塩は斜方晶系柱状結晶で比重1.68，ふつう硫酸マグネシウムといえばこれをさし，瀉利(しゃり)塩・エプソム塩あるいは硫マグなどともいう。空気中では風解し，水溶液は苦みがある。また700℃以上に熱すると無水物になる。工業的には海水から，あるいは炭酸マグネシウムや酸化マグネシウムの硫酸処理によってつくる。媒染剤，紙の充填(じゅうてん)剤，緩下剤などに用いる。

りゅうしかそくき【粒子加速器】電子・陽子その他のイオンなどの荷電粒子を電磁気的な力を利用して高速・高エネルギーにする装置。1932年，イギリスのコッククロフトとウォルトンが陽子を加速して原子核にあて，世界ではじめて原子核の人工破壊に成功した。現在では素粒子・原子核の研究用の加速器は大形化し，最高エネルギー200GeV(1GeV＝10^9eV)のシンクロトロンでは直径2km，20GeVの線形加速器では長さ3kmに達している。一方，数MeV(MeV＝10^6eV)程度のものは放射線出力1kW以上で，放射線源として原子炉や放射性同位元素よりも経済性・出力・エネルギー・

安全性などの点ですぐれているので電子線源・X線源・中性子線源として放射線化学・医療用・ラジオグラフィーなどに利用されている。加速器は加速形式の違いによりそれぞれの名まえがつけられており，以下のようなものがある。エネルギーは通常eVを単位としてはかる。

①コッククロフト-ウォルトン型加速器：直流高電圧により直接イオンを加速する装置。直流電圧を得るには交流変圧器と整流器およびコンデンサーを用いる。整流回路の基本は単波整流であるが，１個の整流器で数十万Ｖを一挙に整流することは不可能であり，一つのコンデンサーで数十万Ｖ耐圧のものの製作は実際的でないので，いわゆる倍電圧整流方式を何段か積み重ねる方法が考案された。コッククロフトとウォルトンがこの方式によって400～600kVの電圧を得，陽子を約400 keVのエネルギーに加速して，リチウムLiにあて原子核の人工破壊に成功したことから，この方式をこの名でよぶ。整流器の積み重ねを増せば，いくらでも高い電圧を得ることができるはずだが，実際には，支持絶縁体の絶縁破壊や，コロナ放電のため，到達電圧に限度があり，したがって加速エネルギーも２～４MeV程度が普通である。最近は改良され交流周波数を高くしてコンデンサーの容量を小形にし，装置を六フッ化イオウSF_6などの絶縁耐力の高いガスを詰めたタンクに封入した簡便で安価なものがつくられた（ダイナミトロン）。現在では直接に原子核研究に使用されることはなく大形加速器であるシンクロトロンの前段加速に用いられている。また低エネルギーでの大出力電子線源や中性子源として0.5～1.5MeVくらいのものが工業用として利用されている。

②バンデグラーフ型加速器：1931年に，アメリカのバンデグラーフが考案した装置で，静電型高電圧発生装置またはベルト起電機ともいう。これは，コンベヤーベルトで物を運ぶのに似て，絶縁性のよいベルトで電気を運び集電極に電荷をためて高電圧をつくるという方式から出た名である。電位が上がってくると電極などから放電によって電気が逃げベルトが運ぶ電荷と平衡するので，放電を防ぐため装置全体を六フッ化イオウ・フレオンなど絶縁耐力のよい気体を数気圧で詰めたタンクに入れる。またベルトや絶縁支柱表面の電界分布を一様にするため多数の金属環（フープ）で囲む。この装置は，どんな種類のイオンも加速でき，電圧は連続して自由に変えられ非常に安定なので粒子のエネルギーを斉一(せいいつ)にすることができる。加速エネルギーが陽子で10MeV以下であるにもかかわらず現在も原子核の精密実験に広く用いられている。また簡便なため中性子源・電子線源・X線源として工業用・医療用にも用いられている。1950年代後半にはタンデム型バンデグラーフ加速装置が開発され加速電圧が10MeVを越えるようになった。これは，タンデム（二頭立て馬車）という名まえのように，加速電圧を２重に利用する。装置の中心には正電極があり，両端は接地電位にしてある。一方の端で負イオンをつくり，それを中央の正電極まで加速する。正電極の内部には，ストリッピング-カナルとよぶ気体（薄膜の場合もある）のはいった部分があり，加速されてきた負イオンは，その部分で電子がはぎとられ正イオンに変わる。この正イオンはもう一方の接地電位の端に向かって再び加速される。たとえば7MeVの一つの装置で14MeVに加速できる。負イオンを正イオンに変える効率があまり高くないので粒子線の強度は弱い。



粒子加速器

③線形加速器：イオンをまっすぐに走らせながら，高周波電界で加速する装置。原理は1925年ごろから考えられていたが，1931年にアメリカのスローンとローレンスが700万Hzの高周波を用いて，水銀イオンを1.25MeVに加速することに成功した。初期の線形加速器はガラス製真空箱の中に適当な長さの金属円筒電極を並べ，一つおきに高周波電源の電極に接続したものであった。加速電極間の距離と高周波の周期は，イオンが加速電極に到達するときにつねに加速を受けるように選んでおく。10MHz程度の高周波発振器しかなかった初期は，陽子を加速しようとすると，電極間の距離が数百メートルにもなるので非現実的だった。しかし第２次世界大戦中のレーダー技術開発により3,000MHzで出力数MWというマグネトロンやクライストロンが製作され線形加速器は有力な加速装置として復活した。波長１m以下の短い電波は，金属管内での電力損失が少ない。このような管を導波管とよび，波長と管の断面形状によりいろいろの伝わり方をする。その内の一つはTM_{010}波というもので管内波長が無限大となり管軸に沿った電界をつくる。管の両端にふたをして円筒空洞(くうどう)をつくりTM_{010}波が励起されるようにしておき，管内に軸に沿っていくつかの円筒を並べるとこの円筒電極間に同じ向きの電界が発生する。電界が加速する向きになっているときにイオンが電極間隙(かんげき)にあり，次の半周期の逆方向の電界ができているときは，イオンは電極円筒内にあって電界から遮蔽(しゃへい)されるようにする。アメリカのアルバレはこの方法で1947年に陽子を32MeVに加速した。この型の線形加速器をアルバレ型ともいう。現在ではおもに数十MeVのものが，陽子シンクロトロンの入射器として用いられてい

る。電子は1MeV程度のエネルギーでその速度は光速度に近づいてしまうので電極円筒が長大になり，アルバレ型の加速方法は適さない。そこで導波管の内部にいくつかの穴のある円板を入れ，出口には無反射終端を置き反射のない進行波をつくる。加速導波管の内径，円板の穴の径，円板の間隔を適当に選ぶと電波の進行速度と電子の速度が等しくなり，一度加速電波にのった電子は電波とともに走りつねに加速をうける。この方式の電子線形加速器を進行波型ともいう。世界最大のものはアメリカスタンフォード大学にあり，全長3.2km，電子で23GeV，陽電子で15GeVまで加速できる。

④サイクロトロン：1930年から1932年にかけて，アメリカのローレンスとリビングストンによって開発されたもので，粒子を直線に走らせる代わりに，磁界の中でまるく走らせながら加速する方式である。彼らはこれにより陽子を1.2MeVに加速するのに成功した。一様な磁界の中では荷電粒子は磁界に直角方向に円運動をする。粒子の軌道上に電極を置き粒子の円運動周期に一致する高周波電界を加えると，粒子が電極を通るたびに加速される。円運動の周期は一定なので周波数も一定でよいが，粒子速度が増大すると相対論的効果で粒子が重くなり，したがって周期が遅くなるので高周波周波数もその変化に合わせて変えねばならない(周波数変調)。加速電極はその形状からD電極とよばれる。電磁石は外側でわずかずつ弱くなるように設計されているが，これは粒子の加速に際して損失を少なくすべく集束作用をもたせるためである。D電極の中心部にあるイオン源から出た粒子は円運動をはじめ加速により速度を増すにつれて回転半径が増し，渦(うず)巻き状の軌道(サイクロイド線)を描いて電磁石の外縁に近づき偏向電極により外にひき出される。サイクロトロンで加速するのに適した粒子は陽子や重いイオンである。加速エネルギーは陽子で20～30MeVまでである。それ以上のエネルギーに加速するには周波数変調が必要となるが，この方式によるものをシンクロサイクロトロンとよぶ。この方式では周波数変調のためサイクロトロンと違って粒子流は連続でなくパルス(間欠)的となる。また加速効率の差のため最終エネルギーに達する粒子線の強度は，サイクロトロンでは数百μAであるのに対し，シンクロサイクロトロンでは，その100分の1程度である。現在この形式で陽子を740MeVまで加速しているが，電磁石の直径が4.8m，重量が5,000tという大きなものである。原理的には到達エネルギーに限界はないが，装置が巨大になるので，加速エネルギーを上げるにはあとで述べるシンクロトロンのほうが経済的である。AVFサイクロトロンといわれる，高周波の周波数を一定のままでエネルギーも高く非常に強い粒子線を得る装置も開発されており，この場合は粒子の速度が早くなる外側で磁界が強くなっており(等時性磁界)，さらに磁極に磁界の強い部分と弱い部分を設けて粒子の集束作用をもたせてある。また補正コイルがたくさん巻かれていて，電流を調節して加速する粒子の種類，エネルギーを大幅に変えることができる。粒子強度が大きいので，これからのサイクロトロンはこの方式のものになるであろう。すでに完成しているものでは陽子の最高エネルギー70MeVであるが，数百MeV程度のものの建設が世界各地で行なわれている。

⑤シンクロトロン：加速粒子の軌道をだいたい一定にするように，その軌道上に適当な個数の電磁石を置き，磁界の強さを粒子エネルギーの増加に合わせて強くし加速は高周波電界で行なう。粒子の走る真空槽(そう)をドーナツとよぶ。電磁石がつくる磁界の強さには限度があるから粒子の最高エネルギーに応じて軌道半径が決まり，さらにその直径によって電磁石の大きさと数(一般に偶数個)も決められる。粒子を効率よく加速するため磁界による集束作用を利用する。ベータートロンやサイクロトロンのように外側に弱くなる磁界を使う方式を弱集束型というが，光の集束を凹凸(おうとつ)レンズの組み合わせで行なうように強い集束力をもつ磁界と，強い発散力をもつ磁界をそれぞれつくる電磁石を適当に組み合わせて，結果的に強い集束作用となる方式を強集束型という。後者は，1952年にアメリカのクーランらによって考案された。強集束型のほうが電磁石を小形にできるので，高いエネルギーのシンクロトロンはほとんど強集束形である。また集束作用だけの電磁石と，粒子軌道を決めるだけの電磁石との2種を組み合わせたもの(分離型)も建設されている。線形加速器やシンクロサイクロトロンと同様シンクロトロンでも高周波電波の特定の位相につかまった粒子だけが加速される。1945年，アメリカのマクラミンとソ連のベクスラーは，粒子加速の位相安定性の原理を発見し，これによってシンクロトロン加速が実現可能となった。シンクロトロンでは，あらかじめ線形加速器やバンデグラーフ型加速器などで，数MeVか数十MeVにまで加速した粒子を環状電磁石のほうへ入射する。電子を加速する場合には電子はすぐに光速度に近い速度になるので，回転周期は一定であり加速電波の周波数も一定でよい。しかし陽子の場合は，加速されるにつれ速度が速くなるので，これに周期して電波の周波数を増さねばならない。現存する陽子シンクロトロンのうち，1968年に完成したソ連の76GeV加速器は，軌道の直径が470mもあり，アメリカで建設中の200GeVの装置は実に直径2kmにも達する。また電子シンクロトロンでは，アメリカの10GeVの装置が最大である。さらにエネルギーを上げるには，たとえば1,000GeVのシンクロトロンでは，超電導マグネットを使って強い磁界をつくることができても，軌道の直径がやはり1,000m程度という大きなものになる。そこで二つの低エネルギーのシンクロトロンを使い，加速した粒子を互いに正面衝突させる方式が考案された。静止している水素標的に1,000GeVの陽子を衝突させることは，22GeVの陽子どうしを正面衝突させることとエネルギー的に同じであるので，この方式を使えばきわめて高いエネルギーの素粒子実験が比較的小形のシンクロトロン2台でできることになる。

⑥ベータートロン：高周波電界を直接使わず，磁界が時間的に変化するときに生ずる電界で電子を加速する方式。1940年にアメリカのカーストが考案した。ある閉曲線に沿って生ずる電位は，その閉曲線に囲まれた磁束の時間的変化に等しい。電子はこの電磁誘導電界により加速される。ベータトロンは，交流電磁石とそれを励磁するための電源(50～60ないし200Hz程度の周波数)および電子を走らせる部分であるドーナツ状の真空槽(ガラスや磁器などの絶縁物製)とで構成されている。電子を一定半径の軌道を回らせるため，交流磁界と磁束との間にはベータートロン条件とよばれる一定の関係が満たされている。電子銃からとび出した電子は，ドーナツの中を加速されながら回り，最高エネルギーに達したら外にひき出されたり，ドーナツ内部でX線に交換して外にとり出される。現存するベータートロンでは，電子のエネルギーが320MeVのものが最大であるが，20～30MeVの小形の装置は電子線源・X線源として工業用に応用されている。〔福井崇時〕

りゅうしかそくそうち　【粒子加速装置】
⇨粒子加速器

りゅうしせつ　【粒子説】　光は光源から放出された粒子であるという学説。ニュートン*によって体系化されたといわれる。17世紀には，この説とホイヘンス*の波動説とが対立し，以後しばらく粒子説が優勢であったが，19世紀に至り，ヤング*・フレネル*などの研究および光速度の測定により波動説が正しいとされるようになった。しかし，その後，光電効果などの現象が発見されるに及び，光の粒子性が改めて確認され，量子論によって粒子性と波動性とが総合されて現在に至っている。〔吉原邦夫〕

りゅうしせん　【粒子線】　原子・分子・イオン・原子核・中性子・電子などの粒子の細い一定方向への流れ。特に電子・中性子などは研究手段として重要で電子線・中性子線などとよばれる。粒子線を物質に照射し，相互作用を調べる研究方法は，その発生源開発などとあいまって今日物理学の広い分野で利用されており，原子・分子などの磁気モーメント・衝突断面積などの直接的研究はこれを用いて行なわれる。

りゅうじゅ【龍樹】⇨ナーガールジュナ

りゅうしょうき【劉少奇】リウシャオチー（1898～1973？）中国の政治家。湖南省出身。1922年中華人民共和国がつくった中国労働組合書記部の仕事を担当，1925年五・三〇運動を指導するなど，中国随一の労働運動指導者といわれた。中華人民共和国成立後は，1954年の第１回全国人民代表大会で憲法草案の提案報告を行ない，同代表大会常務委員会委員長に選ばれた。1959年４月には共和国主席に就任。党内の地位は中央委員会副主席・中央政治局常務委員であり，実権をふるって毛沢東の政治路線としだいに対立を深めた。1966年に始まるプロレタリア文化大革命は，毛沢東の指導権確立の方向で第１段階を終わり，劉少奇は第８期第11回中央委員会総会（1966年８月）で副主席の地位を解除され，同第12回拡大総会（1968年10月）で除名された。〔斎藤秋男〕

りゅうじょうこうじけん【柳条溝事件】満州事変*の発端となった事件。1931年（昭和６）９月18日，関東軍参謀板垣(いたがき)征四郎*・石原莞爾*(かんじ)らは満州の軍事占領を画策して，奉天郊外柳条溝の南満州鉄道線路を爆破する事件を起こした。関東軍司令官本庄(ほんじょう)繁はこれを張学良*軍の挑戦(ちょうせん)として攻撃を命じ，直ちに奉天を占領，次いで全面攻撃に移り満州事変に突入した。若槻(わかつき)内閣は不拡大方針を声明したが，関東軍はこれを無視して軍事行動を広げたため，中国の抗日運動は激しくなった。〔杉山三枝〕

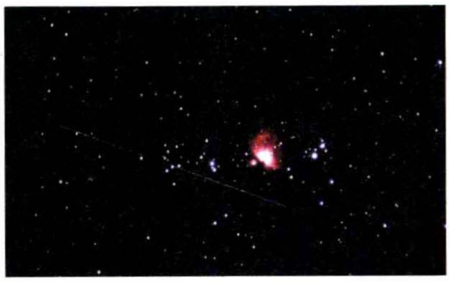
りゅうじょうはん【粒状斑】太陽の全表面にわたって見られる無数の小斑点。直径は平均約1,000km。これは太陽内部のエネルギーを光球に運ぶ熱い上昇気流を表わし，数分程度で消滅する。地球大気のゆらぎが大きいときにはぼやけて見えなくなる。

りゅうじょうひりょう【粒状肥料】粒状にして施肥する肥料の総称。粉状肥料の対語。一般に粒状肥料とよばれるのは粒の直径が２～４mm程度のもので，それ以下は粉状，それ以上は固形肥料または大粒などとよばれる。近年，粒状肥料は生産・消費とも増加の傾向にあり，1967年（昭和42）の生産量は複合肥料に限っても粒状417万ｔに対し，粉状は65万ｔである。施用時に扱いやすいという利点に加えて，特殊な場合を除いて機械施用に適するため，今後施肥機の普及に伴いますます増加すると思われる。ただし，有機質肥料・ケイ酸質肥料・石灰質肥料など，その物理的性質や肥効上の関係から粒状になしえないものもある。〔早瀬達郎〕

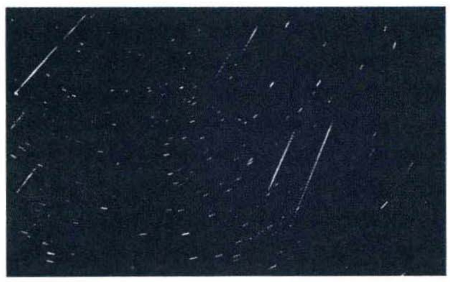
りゅうしりょう【粒子量】原子・分子の相対的質量としての原子量・分子量と同じ基準と方法で決められたコロイド粒子の質量。コロイド粒子は，原子の集合した場合，ミセルの場合など，合成の条件により異なるが，粒子量は一括して用いられる。

劉少奇





流　星　オリオン座大星雲の近くを飛ぶ流星



流星群　ジャコビニ流星雨　白線に見えているのがすべて流星



リュウゼツサイ

ただし，ミセルの場合はミセル量ということがある。コロイド粒子の質量は一般には一定でないので，粒子量は平均的な数値となる点が原子量・分子量と異なる。

りゅうすいねつりょうけい【流水熱量計】化学反応で生ずる熱量を測定する計器。発生する熱量が比較的大きく，定常的に発生する場合に適する。化学反応を容器の中で起こさせ，その容器を管で囲み発生する熱量がすべて管の中を流れる水に伝わるようにする。管の入り口と出口との水の温度差および単位時間あたりの流水量から発生熱量を求める。特に気体の燃焼熱を測定するのに用いられる流水熱量計を，ユンカースの熱量計とよぶ。〔中野藤生〕

りゅうせい【流星】惑星間空間内に浮遊している固体物質（流星塵*(りゅうせいじん)）が地球大気に突入し，摩擦によって加熱され発光する現象。たいていの場合，流星塵は大気中で蒸発してしまうが，流星の通ったあとにはしばらくの間電離したガスの柱が生じ，レーダーで観測することができる。流星塵の大部分は非常に小さな粒子で，0.05ｇのもので１等級，0.01ｇで６等級くらいの明るさに見える。これより大きな塊は火球となって非常に明るく輝き，さらに大きいものは大気中で燃えつきないで隕石*(いんせき)として地上に落ちてくる。流星の発光しはじめる高さは100～200kmで，中には地上まで光り続けているものもあるが，大部分は70～80kmの高さで消滅する。流星のスペクトルを調べると，光量の大部分は数千度（セ氏）の高温にあるガスの放つ輝線スペクトルであることがわかる。

流星は同じ質量でも地球大気に突入する速度が大きいほど明るく輝く。地球の自転の方向は太陽をめぐる公転の方向と同じであるから，明け方の流星は地球の進む方向からぶつかってくるが，夜半までの流星は地球の背後から追突してきたものである。前者のほうが流星塵と地球との相対速度が大きいので，一般に夜半すぎのほうが多くの流星が観測される。

流星はその起源から，流星群*に属するものと散在流星に区別される。流星群に属する流星は，その母彗星(すいせい)の軌道を地球が通り過ぎる時期に見られる。この場合，流星は天球上の一定点から四方に飛び散るように見える。一方散在流星は，その軌道から小惑星と同じ起源をもつと推定されている。隕石となって地上に落下する流星はすべて散在流星であり，隕石の成分が惑星のそれに似ていることも上記の推定を裏づけるものである。〔磯部琇三〕

りゅうせいぐん【流星群】群をなして太陽系内を運動している流星物質。これらが地球に遭遇すると，天空上の一点から次次に流星*が放射状に飛び散る流星雨が観測される。この点を流星群の放射点とよぶ。流星群は彗星(すいせい)をつくる物質がこわれて，その軌道上にばらまかれたものと考えられている。おもな流星群に，８月中旬に現われるペルセウス座流星群（母彗星は1862Ⅲ），11月中旬に出現するしし座流星群（母彗星は1866Ⅰ）などがある。〔磯部琇三〕

りゅうせいじん【流星塵】流星*のもととなる直径数～数十ミクロン程度の小さな固体粒子。惑星間空間内に漂っていて，地球の引力に引き寄せられ，地球大気に飛び込むと発光し流星として観測される。最近は人工衛星やロケットによって，直接流星塵の数やエネルギーが測定されている。流星塵の大部分は彗星(すいせい)がこわれてそのかけらが彗星の軌道上にばらまかれたもの

と推定されている。

りゅうぜつさい　【龍舌菜】　双子葉植物・キク科。アキノノゲシの改良品で，変種として扱われる。高さ2ｍに達する大形の一年草で，葉にアキノノゲシのような臭気はなく，葉が非常に密につき，中肋(ちゅうろく)は赤みがかる。➔前ページ(写真)

りゅうぜつらん　【龍舌蘭】　単子葉植物・ヒガンバナ科。メキシコ原産の多年草で，観賞用として温帯地方にも栽培されている。葉は多数根生し，長さ1～2ｍ，幅20cm内外の細い披針(ひしん)形で，縁はまばらにかたい短刺となり，葉先もとげになる。多肉で粉白をおびた暗緑色で，白い斑(ふ)入りや縁に黄条があるものもある。夏に葉叢(ようそう)から高さ4～8ｍ，径10～20cmの花茎を伸ばす，茎には包葉が多数散在し，上部は横に分枝して，散形花序をつける。花は淡黄色で多数つき，花冠は筒形で先は6裂し，おしべとめしべが花外に超出する。果実は長楕円(ちょうだえん)形の蒴果(さくか)。花後に地下茎から出た子株を残して枯れる。開花までに10数年を要し，温帯ではまれにしか開花しないのでCentury plantとかマンネンラン(万年蘭)ともいわれる。原地や熱帯地方では，列植して牧場のさくの代用にしたり，メキシコでは葉から繊維を採る。また，しぼりじるからプルケという酒をつくる。　〔横井朝子〕

りゅうせん　【流線】　流れている流体の各部分で，流速の方向に接するように引いた曲線。流れの速度分布が，時間とともに変化しない定常流では，流線の形は一定に保たれる。流れが時間的に変化する非定常流のときは，流線も変化し，この場合は流線と流体小部分の移動する道筋とは一致しない。流体以外でも，導体内を熱エネルギーの移動する熱流線や，電導体内を電流が流れる場合の電流線も同様な性質をもつ。

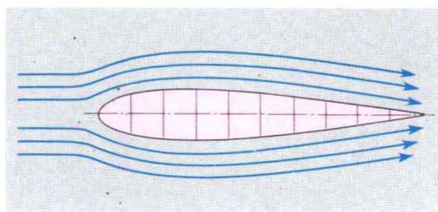
りゅうせんけい　【流線形】　流体*中で，普通の物体よりも流れから受ける抵抗が小さくなるような形。物体が流体中を運動するとき，流れは物体に衝突後，その表面に沿って流れる。物体の後部では流れが表面から剝離(はくり)され渦動(かどう)部分を生ずるが，この部分の圧力が低いため，大きな流体抵抗が発生する。流線形はこれを減らすために考えられた形で，図のように前半は楕円(だえん)形に近く，後半はなめらかに伸びて先がとがっている。飛行機の翼や胴体，流体機械の羽の断面形などに使われ，効率を上げるのに役だっている。〔内田茂男〕

りゅうぜんこう　【龍涎香】　動物性香料の一。アンバーグリスともいう。マッコウクジラの腸内に生ずる灰色ないしかっ色をしたろう状のかたまり。病的排泄(はいせつ)物であるらしいが，成因は不明。この排泄物は一種の結石らしく，海上に浮遊するか海浜に打ち上げられる。主成分はアンブレイン。そのままではほとんど香気を発しないが，良質のものはすぐれた保留剤(各種香料を調合した際，各成分が総合されてすぐれた香気を発するように加える補助香料)である。高価なために高級香料のみに使用される。

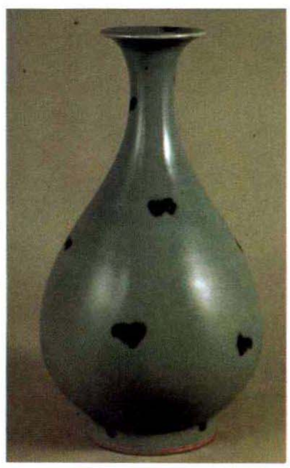


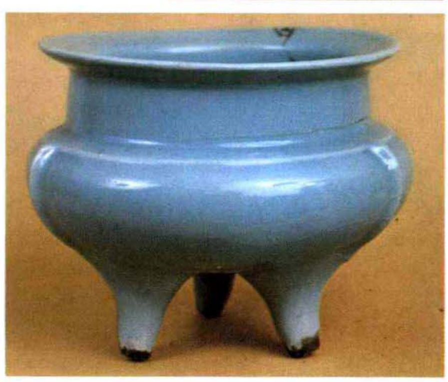


リュウゼツラン
下はつぼみ



流線形





龍泉窯
(上)《飛青磁花生》 安宅産業株式会社蔵
(下)《青磁三足香炉》

りゅうせんどう　【龍泉洞】　岩手県北東部北上山地にある鍾乳(しょうにゅう)洞。山口県の秋芳洞*(しゅうほうどう)に匹敵する大規模な石灰洞窟(どうくつ)である。洞窟は延長5,000ｍと推定され，いまでも調査がくり返されている。1938年(昭和13)天然記念物に指定され，近年の観光ブームの波に乗って開発された。北部には，規模において秋芳洞をしのぐといわれる安家洞*(あっかどう)があるが，観光地としては龍泉洞のほうが早く開発されて施設も整っている。　〔菊池万雄〕

りゅうせんよう　【龍泉窯】　中国浙江(せっこう)省龍泉県を中心とする地方の青磁窯。中国第1の青磁の産地で，輸出量も景徳鎮産の染付とともに双璧(そうへき)をなす。起源は判然としていないが，北宋(ほくそう)時代にすでにすぐれた青磁を焼いたと推測され，南宋に至って急激に隆盛した。わが国では，これを作風によって砧(きぬた)・天龍寺・七官の3種に分類している。南宋時代に焼かれた砧青磁は，青色の澄んだいわゆる粉青色の美しい微妙な青磁で，最も高い評価が与えられており，青磁の究極をきわめている。時代が元・明(みん)初期になると成形・焼造の技術は進歩し，大作が量産されているが，作風は重厚で雄大なものが多く，釉調(ゆうちょう)も暗黄緑色を呈して，天龍寺青磁とよばれる。明中期以降はいよいよ作風に衰えが深まり，強い光沢のある淡青色の七官青磁へと移行した。このころの下手(げて)の青磁がわが国の侘茶(わびちゃ)の美意識の世界で着目され，珠光青磁・人形青磁などがとりあげられている。　〔矢部良明〕

りゅうそうげん　【柳宗元】　(773～819)　中国，唐代の文人。字(あざな)は子厚。韓愈*(かんゆ)とともに古文復興を主張し，唐宋(そう)八大家のひとりに数えられる。散文は寓言(ぐうげん)・風刺文とともに山水の間を旅してしるした紀行文に出色のものが多く，六朝(りくちょう)時代の《水経注》の著者酈道元(れきどうげん)をしのばせる。長く西南辺境に左遷されていたから，詩にも自然の風物を詠じつつその感慨を寄せた作品がみられる。文集に《柳河東集》がある。　〔今村与志雄〕

りゅうぞうじたかのぶ　【龍造寺隆信】　(1529～1584)　戦国大名。父は水江周家(ちかいえ)。幼少で出家したが，1547年(天文16)還俗(げんぞく)して本家を継ぎ，1549年元服して山城守隆信と称した。その後少弐氏*を倒し，大友宗麟(そうりん)としばしば交戦したのち和した。さらに有馬・松浦(まつら)・後藤氏らを破って肥前(佐賀県・長崎県)一国をほぼ平定した。進んで筑後(ちくご)(福岡県)・肥後(熊本県)に侵入して，一時は島津・大友氏と並んで九州地方の勢力を三分した。し

かし1584年(天正12)島津家久(義久(よしひさ)の弟)と島原で戦って敗死。〔高崎徳次〕

りゅうそくけい 【流速計】 流体の速度をはかる装置。次の3種に大別される。第1はタービン式で，プロペラまたはカップ形の回転子による軸の回転数を測定し，これに比例する量として流速を求める。第2はピトー静圧管方式で，総圧p_0と静圧pをはかり，圧力上昇分の動圧，またはp/p_0の関数として得られるマッハ数(流速/音速)から，計算により流速を求める。第3は熱線方式で，支柱間に張った5μ程度の細い金属線の放熱による抵抗変化をブリッジ回路ではかり，流速に換算する。高速気流や水流の計測用には，膜状の熱線部を楔(くさび)や円錐(えんすい)の先端部にとりつけ，強度を高めたものが使われる。熱線方式は回路の補償により，20kHzぐらいまでの速度変動が正しく求められるので，乱流の計測には欠くことのできない計器である。〔内田茂男〕

りゅうたい 【粒体】 粒径1mm以上の固体粒子が多数集合している状態にあるもの。複数の粒子が凝結した集合体のこともある。粒径0.1μ以下のものをコロイド，0.1～1mmのものは粉体とよんでいる。粒子が小さくなるにつれて表面積は増加し，互いに密に凝集して体積が減少し，化学的に不安定となり反応しやすくなる。

りゅうたい 【流体】 液体と気体の総称。流体の特徴は形の変化に対する抵抗が小さいことにある。流体は多少の粘性をもつため，内部摩擦によって形の変化に抵抗するが，これは内部変化の速さに比例しており，ゆっくり行なえばどのような大変形も可能である。粘性のまったくない理論上の流体を理想流体といい，流体の基本的な運動を調べるのに適している。また流体は強い圧力をかけると圧縮されて縮まる性質がある。液体は圧縮に対して強く抵抗するが，気体は容易に圧縮される。圧縮性のまったくない理論上の流体を非圧縮性流体，または密度一定の流体というが，これは液体を理想化したものである。粘性も圧縮性もない流体のことを完全流体という。〔内田茂男〕

りゅうたいていこう 【流体抵抗】 流体中を運動する物体が流体*から受ける抵抗。発生機構にしたがって，摩擦・剝離(はくり)・形状・誘導・造波の諸抵抗に分類される。摩擦抵抗は粘性による内部摩擦が，また剝離抵抗は流れの剝離による渦流領域の発生が原因であり，これらの合計を形状抵抗という。物体が揚力を発生していて，物体のまわりを循環する流れの成分があるときは，物体の両端から1対のうずが後方に流れ出るが，このうずが原因で発生する抵抗を誘導抵抗という。超音速流の場合はこれを渦(うず)抵抗という。造波抵抗は水面上を走る船が波をつくり，その圧力分布が原因となって生ずるが，気体中を超音速で飛行するときなどにも流れの波動性によって衝撃波やマッハ波が発生し，やはり造波抵抗を生ずる。管や流体機械の内部を流体が通過するときに生ずる流体抵抗は，主として摩擦や剝離による圧力損失が原因である。〔内田茂男〕

りゅうたいりきがく 【流体力学】 流体を連続体として考え，その静止の状態や運動の状態，あるいは流体中の物体に及ぼす作用などについて論ずる学問。これには静止状態を論ずる流体静力学と，運動のようすを調べる流体動力学とがある。流体静力学は，浮力に関するアルキメデスの原理の発見に始まり，ガリレイを経て，17世紀にトリチェリ・パスカルらによって液体静力学が体系化され，またボイル・マリオットらによる気体の圧力と容積または密度の間になりたつボイルの法則の発見によって，気体静力学の基礎が築かれた。大気の圧力や密度の垂直分布などは気体静力学を応用して求められる。一方，流体動力学は18世紀以後，運動する流体のエネルギーに関するベルヌーイの法則の発見に始まり，オイラー・ラグランジュらによる運動方程式や，ヘルムホルツによる渦(うず)定理の研究によって完全流体の運動が確立され，その後ナビエ・ストークスらによる粘性流体の運動に関する基礎方程式，レイノルズの乱流理論，プラントルの境界層理論を経て現代流体力学へと発展した。さらに圧縮性流体の運動に関する研究は，マッハ・レーリーの音響学から展開され，近年に至りプラントル・カルマン・ブーゼマンらによって超音速気流の運動までも確立された。最近では流動性をもつ電気流体(プラズマ)に関する電磁流体力学という新しい研究領域も生まれつつある。なお流体力学の基本となる法則は，気体の状態方程式，流体の小部分に対する質量保存の法則，ニュートンの運動の第2法則による運動方程式または運動量方程式の3成分，およびエネルギー保存の法則からなる。〔内田茂男〕

りゅうたつぶし 【隆達節】 室町時代末期，堺(さかい)(大阪府)の高三(たかさぶ)隆達(1527～1611)が始めた世俗的な歌謡。〈尺八はひとよぎり(一節切*)こそねもよけれ，君とひとよはねもたらぬ〉といった形の歌が約500首残っている。隆達の歌が世に広く知られはじめたのは，まだ三味線(しゃみせん)の普及しない天正・文禄(ぶんろく)年間(1573～1595)であったため，この歌は一節切や簡単な拍子を打つ道具を伴って歌われたという。先行する狂言小歌にも関連が深いが，江戸時代にはいっても，柔らかい歌の代表として，新しい楽器がつけ加えられたりして歌われ，新しい歌謡に大きな影響を与えたようである。〔徳丸吉彦〕

りゅうだんほう 【榴弾砲】 火砲の一。以前は砲身の長さが口径の13～20倍のものと定義されていたが，第2次世界大戦ごろから，この範囲は厳密ではなくなり，用途による呼称に変わってきている。臼砲*(きゅうほう)とカノン砲の中間に位置するが，カノン砲に比べて砲身が短いので射程は短い。大口径化しやすいため，口径400mmなどというものまでつくられた。曲射弾道で落角が大きく，遮蔽(しゃへい)物のうしろを攻撃できる利点がある。弾丸はふつう榴弾・榴霰弾(りゅうさんだん)を使用し，野戦砲として多く使われている。〔藤井冬木〕

りゅうちき 【劉知幾】 (661～721) 中国，唐の歴史家。字(あざな)は子玄。父や伯父(おじ)が国史編纂(へんさん)に関係していたため，進士及第後は修史の官につき，《史通*》を著わし，中国最初の体系的な史学批評・史学理論を展開した。長子の貺(きょう)が罪を犯したので，地方の下役人に落とされ，不幸のうちに死んだ。死後《史通》は玄宗の前で講ぜられ，玄宗を感激させ，工部尚書(しょうしょ)を追贈された。

りゅうちけん 【留置権】 他人の物の占有者が，その物に関して生じた債権を有する場合，その債権の弁済を受けるまでその物を留置することのできる物権(民法295条)。たとえば，時計屋は修繕代金の支払いがあるまで修繕した時計を留置して，その返還を拒むことができる。留置権が認められるのは社会の公平の観念に合致するからであり，当事者の意思によってではなく法律上当然に発生する担保物権*である。同時履行の抗弁権*とその趣旨を同じくするが，留置権が物権である点において異なる。留置権の成立要件としては，①債権が留置権の目的物に関して生じたものであること，②債権が弁済期にあること，③留置権者が他人の物を占有していること，④占有が不法行為*によって始まったものではないことなどである。留置権は他の担保物権のように優先弁済の効力はないが，留置的効力によって優先弁済と同様の法的効果を期待することができる。また，留置権は目的物を留置することがその主たる内容であることから，他の担保物権のように物上代位性(担保物権の目的物が滅失毀損(きそん)して保険金に変じた場合，この保険金に対しても担保物権の効力の及ぶことなど)をもたない。留置権の効力としては，留置権者はその債権の弁済を受けるまで目的物を留置し，その引き渡しを拒みうることであり，この権利の行使はだれに対してもなしうる。なお，留置権者は善良な管理者の注意義務をもって目的物を保管しなければならない(民法298条)。〔黒木三郎〕

りゅうちょう 【留鳥】 ある地域に見られる鳥のうち，一年じゅうその地域内に見られる種類をいう。留鳥のうち，その地域内で季節によって出現場所をことにするものは漂鳥とよばれる。しかし，厳密にはどんな留鳥であっても多少とも漂鳥的性格をもつので，漂鳥と狭義の留鳥の間に線を引

くことはできない。また，問題にする地域の広さによって，同一種でも留鳥とよばれたりよばれなかったりする。たとえばムクドリは日本全体にとって留鳥であるが，九州では冬鳥である。➔漂鳥　〔浦本昌紀〕

りゅうつうかくしん　【流通革新】　⇨68ページ

りゅうつうぜい　【流通税】　財の移転・流通という事実に基づいて課税される税。印紙税・登録税・取引所税・とん税・通行税・有価証券取引税・売上税などがこの範疇(はんちゅう)に含まれる。流通税は，財の移転そのものをとらえて課税する売上税・有価証券取引税などと，財の移転に伴う文書の作成や登記・登録などをとらえて間接的に課税する印紙税・登録税などに分けることができる。

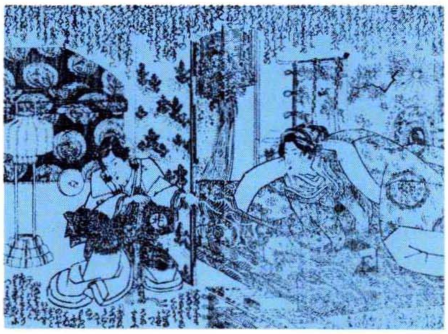
りゅうていたねひこ　【柳亭種彦】（1783～1842）　近世後期の草双紙作者。本名高屋知久(ともひさ)，通称彦四郎(ひこしろう)，別号修紫楼(げんしろう)・足薪翁。旗本(はたもと)の家に生まれ，禄高二百石の武士であったが，若年から俳諧(はいかい)や歌舞伎(かぶき)を愛好し，町人的ふんい気の内に育った。25歳で読本《阿波之鳴門(あわのなると)》《奴(やっこ)の小万物語》を発表して作家生活にはいり，合巻に転じては《正本製(しょうほんじたて)》《昔々歌舞伎物語》などを執筆。特に《修紫田舎源氏(にせむらさきいなかげんじ)》は好評を博して28年間続刊した。また俳書・浮世草子・古浄瑠璃(こじょうるり)など古書の蒐集と考証に力を注ぎ，その成果を《好色本目録》《還魂紙料(すきかえし)》などの著述にまとめるとともに，作品中にも利用し，風格のある合巻の作成に成功したが，天保(てんぽう)の改革で罪を受け，作品の絶版を命ぜられて失意のうちに病没した。　〔渡辺守邦〕

りゅうていりじょう　【滝亭鯉丈】（？～1841）　江戸後期の滑稽(こっけい)本作者。本名池田八右衛門(はちえもん)。元旗本(はたもと)の家に婿入りしたが，転々と職業を転じ，《花暦八笑人》《滑稽和合人》によって文名を確立した。いずれも後期江戸市民の一部の退廃的・遊戯的生活を描き，それなりの興味はあるが，悪ふざけに堕し，式亭(しきてい)三馬や十返舎一九には及ばない。

りゅうてき　【龍笛】　雅楽の代表的な横吹きの笛。それ以後の邦楽の横笛のモデルでもある。中心となる材料は竹であるが，外側に樺(かば)を巻き，内側には漆を塗る。指穴は七つで，西洋の笛類のオクターブ-キーはないが，嬰(えい)ハを基音として，完全な半音階ではないが，2オクターブの広がりをもつ。この音域の広さ，そして低い音とオクターブ高い音との交替が容易であることが，合奏において，篳篥(ひちりき)にない装飾的旋律を吹かせている。〔徳丸吉彦〕

りゅうてつ　【粒鉄】　⇨ルッペ

りゅうどうしさん　【流動資産】　現金および比較的短期間に販売・費消または現金



柳亭種彦《修紫田舎源氏》の文中さし絵



リュウノウギク

化されると認められる資産。ここで比較的短期間とは，ふつう貸借対照表作成の日から1年以内，あるいは1取引周期(原材料や用役の取得から製造・販売を経て現金化されるまでの平均的期間)内を意味する。代表的な流動資産としては現金・預金・売掛金，一時所有の有価証券などの当座資産と，製品・商品・仕掛品・原材料などの棚卸資産とがある。　〔山桝忠恕〕

りゅうどうしほん　【流動資本】　生産資本のうち，原料・補助材料などのように，ただ1回だけ生産過程に投入されることによって，その価値すべてを生産物に移転する資本。近代的工業では，総資本のうちに占める流動資本の割合は比較的少ない。

りゅうどうせいせんこう　【流動性選好】　流動資産の中でも最も流動性(価値の損失なしに容易に他の資産に換えうる性質)の高いものは貨幣であるが，この貨幣に対する需要は人々の流動性に対する選好によって決まる。利子率が貨幣に対するこの流動性選好によって決定されるとする説を流動性選好説という。このような貨幣の需要の起こる動機をケインズは次の三つに分類した。①個人や企業が日常の取引に使用する目的で貨幣を保有しようとする取引動機。②将来のまたは不時の支出のために使用する目的で貨幣を保有しようとする予備的動機。③将来債券の価格が下落すると予想される場合には，現時点では債券を購入するよりも貨幣を保有したほうが有利になるという，投機的な目的で貨幣を保有する投機的動機。以上のうち①と②は所得水準に依存するが，③は利子率に依存する。したがって所得水準を一定とすれば，利子率は貨幣当局(中央銀行など)による貨幣の供給量と，これらの貨幣需要量の一致する点に定まる。つまり貨幣のもつ独自の効用である流動性を手放した代償として利子が与えられるわけである。　〔速水　保〕

りゅうどうパラフィン　【流動パラフィン】　ホワイトオイルともいう。比較的粘度の低い石油留分を脱漏し，高度に精製したもの。無色・無臭の油状液体で，螢光(けいこう)を呈しないことが要求される。化粧品・医薬品，食品加工などに用いられる。

りゅうどうひりつ　【流動比率】　流動資産の流動負債に対する割合。百分率によって示すことも多い。古くから銀行などによって短期支払い能力の判定に用いられてきたので，銀行家比率ともよばれる。一般には，この比率が200％あればよいとされる。

りゅうどうふさい　【流動負債】　短期負債ともいう。負債のうち，支払い・返済期限あるいは役務の提供が比較的短期間に到来するもの。流動負債には，すでに役務の提供を受け，その対価の支払いを義務づけられたもの，たとえば買掛金・未払い金・未払い費用・支払い手形といった項目，短期借入金のように返済を義務づけられたもの，前受け金・前受け収益など将来引き渡すべき財貨や用役の対価の一部として受け入れたもの，営業上の各種取引保証，従業員の身もと保証，源泉徴収による役員または従業員の所得税，従業員などからの社内預金などの預り金，その他がある。分割して返済する取り決めになっている債務のうち，1年以内に支払うべき割賦金，法人税引当金・修繕引当金・退職給与引当金・品質保証引当金など，負債性引当金で1年以内に支出を伴う部分も流動負債に含まれる。固定負債との区別が，負債としての特別な性質を基準とせず，もっぱら支払い・返済期限などの時間的要素に依存しているので，ふつう流動負債に属する項目とみなされるものでも，その支払い・返済の期限によっては固定負債として表示する必要がある。流動負債と固定負債との区分は，一般にはワン-イヤー-ルール(返済予定日が貸借対照表日の翌日から起算して1年以内のもの)を基準とするが，そのほか取引周期を基準とする考え方もある。　〔山桝忠恕〕

りゅうのう　【龍脳】　$C_{10}H_{18}O$　モノテルペンアルコールの一。ボルネオールともいう。樟脳(しょうのう)に似たかおりをもつ無色の結晶。融点207.2℃。d-，l-の光学異性体があり，前者はボルネオ産のリュウノウジュの主成分，後者はリュウノウソウから得られ，ラセミ体も種々の精油中に見いだされる。水には不溶，アルコール・エーテルには易溶。そのままあるいはエステルとして香料などに用いるほか，樟脳の原料にも使用する。

りゅうのうぎく　【龍脳菊】　双子葉植物・キク科。丘陵から山地の日あたりのよいと

ころに自生する多年草で，根茎から伏枝を出してふえる。茎は高さ40～80cmで，白毛がある。葉は卵形ないし広卵形で浅裂ないし中裂し，裏面には白色の綿毛が密生する。10～11月，枝先に直径2.5～5cmの頭花をつける。中心の管状花は黄色で，舌状花は白色または淡紅色。まれに舌状花が黄色のものがあり，キバナリュウノウギクという。

りゅうのひげ　【龍の鬚】 ⇨ジャノヒゲ

りゅうは　【流派】 日本の伝統的な芸能において，特定の様式的特徴とそれを保持しようとして集まった集団。箏曲(そうきょく)の山田流，尺八の琴古流や都山流は，流派の代表であるが，流と名のらなくても，豊後節(ぶんごぶし)から生まれてきた常磐津節(ときわずぶし)・富本節・清元節などのジャンルも相互に違いをもち，しかも内部的にはまとまりをもとうとした点で〈流〉である。外部に対しては一つの流として共通の特徴を保持しながらも，内部では細かな違いを問題にして分かれる場合がある。これが〈流〉であり，箏や三味線(しゃみせん)の音楽でも，多くの派に分かれたものが多い。また，流派は多くは家元制度と重なっており，特に派のレベルで家元が成立していることが多い。その場合，現在でも，家元制度が，派の音楽的様式を正確に保つのに貢献している場合もある。この点で，日本の流派は，古い作曲方法を革新しながら成立するヨーロッパ音楽の楽派とは性質をことにしている。〔徳丸吉彦〕

りゅうび　【劉備】 (161～223) 中国，三国時代，蜀漢(しょくかん)(→蜀[1])の建国者。昭烈帝，字(あざな)は玄徳。前漢景帝の子孫と称するが，偽りであろう。関羽・張飛と結び，諸葛孔明(しょかつこうめい)を参謀とし，呉の孫権の協力を得て，魏(ぎ)の曹操(そうそう)を赤壁の戦いで破り，漢中に拠(よ)って自立した。曹丕(そうひ)が漢の献帝を廃したと聞き，221年帝位につき，蜀(四川省)の成都に都し，国号を漢と定め，魏・呉と天下を三分して争った。呉を討ち，大敗して陣中で死んだ。〔勝村哲也〕

りゅうひてっこう　【硫砒鉄鉱】 ヒ素の原料鉱物。FeAsS 斜方晶系，比重5.9～6.2，硬度5.5～6。もろく，銀白色ないし鋼灰色，加熱すればイオウ臭とともにヒ素特有のニラ臭を発する。別名毒砂という。

りゅうひどうこう　【硫砒銅鉱】 銅およびヒ素の原料鉱物。Cu_3AsS_4 斜方晶系，硬度3，比重4.4～4.5，柱状結晶で柱面に完全劈開(へきかい)。金属光沢を有し，灰黒色ないし鉄黒色，条痕(じょうこん)は灰黒色である。わが国では花岡・尾去沢などの鉱山より産する。台湾の金瓜石(キンカセキ)産のものは特に有名である。

りゅうひょう　【流氷】 海上を風や潮海流の作用で漂流している海氷。海面上の海氷の量は雲量と同様に，海面のある面積に対するその中の海氷の占める面積の割合を



リュウヒテッ鉱　埼玉県秩父鉱山



流　氷　南極の流氷




リュウビンタイ
葉裏の縁に沿って
胞子嚢が並ぶ

0/10から10/10までの階級をもって表わされる。海氷はその形・状態によって種々の名まえでよばれる。結氷初期のグリース状海氷から，発達するにつれて蓮葉(はすば)状海氷・パックアイス(群氷)・ハンモックアイス(堆氷(たいひょう))などとなる。パックアイスの状態では層状に広い面積をおおい，船舶の航行が不能となる場合が多い。ハンモックアイスは，風浪などのために氷が重なり高く積み上がったものである。また，海岸から沖合いまで張りつめて動かない海氷はファストアイス(定着氷)とよばれる。厚さは，オホーツク海では1～2mのものが多いが，2～5mのものも見られる。エクマンの吹送流の理論は，流氷と海面を吹く風の関係の研究から生まれた。〔相原正彦〕

りゅうびんたい　【観音座蓮】 シダ植物・リュウビンタイ科。八丈島・三宅(みやけ)島・紀伊(きい)半島および九州南部以南などに見られる大形常緑シダ。根茎は太く，直径30cm以上に達する。根茎から長さ1～2mの葉が束になって出て，葉柄と葉身はほぼ同長。葉身は2回羽状複葉で，5～10対の羽片，15～25対の小羽片よりなる。胞子嚢(ほうしのう)群は葉縁より少し離れたところに1例に並ぶ。

りゅうほ　【立圃】 (1595～1669) 江戸初期の俳人。野々口氏。名は親重(ちかしげ)。別号松翁・如入斎など。京で人形細工を業とし雛屋(ひなや)と称したが，かたわら和歌・連歌・和学・書道に親しみ，俳諧(はいかい)を貞徳に学んだ。1633年(寛永10)，《犬子集(えのこしゅう)》の編集をめぐって同門の松江重頼(しげより)と争い，《俳諧発句帳》を刊行して対抗，以来独立の一派を形成して，重きをなした。付合作法書《はなひ草》，俳論書《河船徳万歳》，句集《そらつぶて》などのほか，《十帖源氏》《稚(おさな)源氏》など《源氏物語》の梗概(こうがい)書がある。〔奥野純一〕

りゅうほう　【劉邦】 ⇨高祖

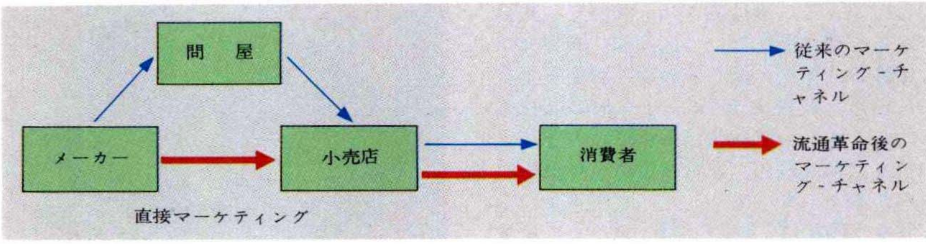
りゅうほりえき　【留保利益】 会社があげた利益は，株主総会の決議によって，配当その他の形で流出するものと，利益準備金・配当平均積立金・繰越利益剰余金などの形で社内に留保されるものとに分けられるが，後者を留保利益という。

りゅうもんがん　【流紋岩】 酸性岩に属する火山岩の一種。石英粗面岩ともいう。化学組成は深成岩のカコウ岩に似ている。斑晶(はんしょう)としてセキエイおよび種々の割合のチョウ石を含み，有色鉱物の斑晶は少量のクロウンモ以外はまれである。石基はガラス質のことも微晶質のこともある。完全に近いガラス質石基の場合は美しい黒色を呈しコクヨウ石とよばれる。石基が微晶質のときは全体として白っぽくなり，石英斑岩とよばれることもある。流紋岩の溶岩は一般に粘性が高いので，固化の途中で生じた微晶や気泡(きほう)などがうねりながら流れたような模様を残していることがある。〔片山信夫〕

りゅうもんせっくつ　【龍門石窟】 中国，河南省洛陽(らくよう)の南13kmの伊水(いすい)のほとりにある大規模な仏教石窟。大小2,137個の石窟・仏龕(ぶつがん)があるという。北魏(ほくぎ)が大同から洛陽に遷都すると(494)，雲岡(うんこう)石窟に代わって龍門石窟の造営が始まった。雲岡の砂岩に対して龍門はかたい黒色の石灰岩で，彫刻に鋭さが増すとともに，作風も中国的なものに変化する。古陽洞(こようどう)・賓陽洞・蓮華洞(れんげどう)の三大窟は北魏後半の代表的石窟である。また，わが国の法隆寺釈迦(しゃか)三尊の源流も，この賓陽洞本尊あたりに求められる。北魏のあと，石窟造営はやや下火となるが，初唐年間(618～683)には敬善寺・恵簡洞・奉先寺洞などがあいついで造営され，龍門の最盛期となる。中でも奉先寺は龍門最大の窟で，中央に大きい盧舎那仏(るしゃなぶつ)(高さ16m)，左右に羅漢(らかん)・菩薩(ぼさつ)・神王・力士像を配し，一大殿堂の観がある。

➔69ページ

流通革新



今日，学問上また実務上においてマーケティングとよばれるものの中には，そのアプローチの態度の違いによって，①国民経済学の観点に立つマーケティングと，②経営経済学の観点に立つマーケティングとの性格をことにする二つのものが知られている。すなわち，前者をマーケティング経済論またはマクロ的マーケティング論とよび，後者をマーケティング経営論またはミクロ的マーケティング論とよんでいる。このことは，マーケティングをもって，生産や消費や分配などとともに，経済活動を分析する一つの過程と考えるならば，それをマクロ的に観察する場合とミクロ的に観察する場合とによって，二つのマーケティングに分けられると理解すべきであろう。

このように，マーケティングをもって，経済活動の一過程としての流通ないし流通活動を意味するものと理解するならば，それを観察し，またその理論を構成するのに，マクロ的観察とミクロ的観察との二つの観点をもってする結果は，ここに市場論・配給論，もしくは市場経済論の意味のマーケティングと，営業論，仕入れ・販売論，もしくは営業管理論の意味のマーケティングとが成立するわけである。そして，もし後者の意味のマーケティングをもって，ただ単にマーケティングとよぶならば，流通一般の意味のマーケティングは，これを広義のマーケティングとよぶことができるであろう。また，もし流通一般の意味のマーケティングをもって，ただ単にマーケティングとよぶならば，経営経済学的な観察をするマーケティングは，これを狭義のマーケティングとよぶことが適当であろう。

このようにみてくると，アメリカ-マーケティング協会が規定しているマーケティングの定義は，まさに上述の狭義のマーケティングを考えているものであるといえるのであるが，その内容についてみてみると，①商品もしくはサービスを対象とするものであること，②生産者から，消費者もしくは使用者にまで至る流通を問題とするものであること，③その流通を企業の経営活動の遂行によって実現させるものとして取り上げるなどの三つの要件を含んでいる。

このような意味あいから，ここでも流通をミクロ的な観点を中心にして理解し，流通革新の内容について検討していくと，まず，問題となるのは，数年前にはなやかに論議された流通革命についてである。それは，主として，卸売業者や問屋に関するものであり，大規模なスーパーマーケットなどの出現や進出によって，流通革命が起こり，従来から現存していた卸売業者や問屋が排除されてしまうという意味あいのものであった。すなわち，マーケティング-チャネルについて，中間の段階を省略して短縮化を図れば，中間利潤や中間経費が節約されうるから，それだけ小売り価格が安くなるとか，あるいはそれだけ小売り業者やメーカーの利益が大きくなるという理論である。そして，これを図で説明すると上のようになる。これはマーケティング-チャネルを短縮し，太くて短いパイプを構成するならば，そのマーケティングは，ずっと合理化されうるというのである。

しかし，この考え方の中には，非常に大きな，しかも根本的な一つの誤りが伏在していることを見のがしてはならない。それは流通機構のみをみているということである。しかし，より本質的なのは機構ではなく機能である。機能をよりよく遂行できるように合理化することこそが，その本質に横たわる要求である。そして，この機能をよりよく遂行するために必要とあれば，機構をいじくることが要求されることもあるであろう。つまり，流通機構の以前に，流通機能の問題があるのである。また，機構とともに，技術の革命も考えられなければならない。それでは，流通機能の革命とはどのような意味のものであろうか。いうまでもなく流通は生産と消費とをつなぐための機能である。だから，生産や消費の上で変革が起これば，必然的に，流通の上にも変革が起こらざるをえないこととなり，ここにいうところの流通機能の革命がみられるわけである。また，交通の変革，通信の変革，貿易の変革など，いろいろの経営環境の変革もまた，この流通機能の革命を要求するのである。かくして，メーカーや，卸売店・小売店などにおける流通活動のあり方，あるいは営業のあり方が，現代の生産や消費，その他の変革してきた経営環境にふさわしいように近代化されねばならぬこととなるのである。

また，現代の経営的マーケティングは，生産技術の革新と消費生活の革新との両側面から刺激され，促進されたマーケティング活動を問題とするものであり，消費者志向の考え方の進展とともに消費者を十ぱ一からげに，まったく同質的なものとして考えるだけでなく，消費者がもつ異質性を尊重し，これを基礎とした理論の構成に関心をもたざるをえなくなり，二極化の理論が展開され　消費者(市場)がもつ同質性と異質性のそれぞれに基礎を置いたマーケティング理論とその実践化が要請されてきたのである。

ところで，いうところの同質的市場について観察してみると，需要される商品のタイプは，供給される商品のタイプとまったく同じである。また，その市場は，まったく価格という条件によって特徴づけられる。つまり，その市場を特徴づけるものは，規格化もしくは標準化であり，そこにおいて流通されるものは平準化商品である。またそれに対する異質的市場とは，細分化された需要のそれぞれが，特色をもった細分化された供給の一つ一つによって満足されるもので，その市場を特徴づけるものは細分化ならびに個別化であり，そこで流通されるものは特色化商品である。

このようにみてくると，同質的市場において支配的な生産の姿は，機械やオートメーションによる近代的な大量生産である。また現代の支配的な消費の姿は，生活の高度化と合理化とを前提とする近代的な大量消費であることが理解される。そして，このような大量生産と大量消費とをつなぐ流通であるためには，必然的に近代的な大量流通が支配的なものとならざるをえない。いわゆる流通機能の革命が，流通の大量化を，その一つのねらいとするゆえんである。

さらにまた，そのような大量生産は，通常の場合，生産する商品1個あたりの生産コストが引き下げられ，そしてそれだけ商品1個あたりの販売価格が引き下げられることを，その重要なねらいとしている。またそのような大量消費は，通常の場合，消費する商品1個あたりの購入価格が引き下げられることによって，その実現が期待される。したがって，このような大量生産と大量消費とをつなぐ流通であるためには，必然的に，取り扱う商品1個あたりの合理的な流通コストの引き下げがなされることが，そしてまたそれだけ商品1個あたりの販売価格の引き下げがなされることが，強く要求されることとなる。いわゆる流通機能の革命が，流通コストの引き下げを，そのもう一つのねらいとするゆえんである。

上に説いたところを要約してみると，いわゆる流通機能の革命がねらいとしている

ところは，①流通の大量化，②流通コストの引き下げの二つの目標である。そしてこれを実現するような流通機能の遂行のしかたを，平たくいえば営業のやり方を革新すること，もしくは近代化することこそ，今日要求されているところの流通機能の革命にほかならないのである。そうだとすれば，それは正しくは革命というよりは，むしろ革新というべきであり，または近代化といってもよい。したがっていわゆる流通革命は，正しくは流通近代化とか流通革新と言い換えるべきものである。

すでに指摘したように，流通革新のねらいとする第1の目標は，流通の大量化ということであった。たとえば，バターの流通についてみても，従来から一般に1日に10箱とか，15箱とかいうような販売をしている食料品店が少なくはなかった。しかしすでに多くの家庭で大量に常用するようになっているバターのような商品でありながら，わずかに1日に10箱や15箱の販売しかできぬというのでは，どうみても，今日要求されている流通機能を，満足できる程度にまで遂行しているものとはいえない。これに反して，たとえば，あるスーパーマーケットでは，平均して1日に1,000箱を下らぬ販売を実現している。これこそ，今日要求されている流通機能の革新に即した販売を行なっているものということができる。もっとも，このような大量販売を実現するために，無謀なディスカウント販売に狂奔することは非常に危険であり，厳に慎まなければならぬことはもちろんである。大量販売に見合う程度の合理的ディスカウント販売は，今日の流通革新が量産商品の流通について要求しているところであるが，無謀な競争的ディスカウント販売は，けっして要求しているわけではなく，むしろ否定しているところである。今日の流通革新が量産商品の流通について要求しているものは，実に合理的ディスカウントを基礎とする販売の大量化である。

今日の流通革新がねらいとする第2の目標は，流通コストの引き下げということである。もちろんこれは販売価格の合理的な引き下げ，すなわち，合理的なディスカウント販売を意味するものであることはいうまでもない。流通を合理化し，積極化し，大量化することによって，合理的に流通コストを引き下げ，またそれによって販売価格を合理的にディスカウントすることは，明らかに流通機能のにない手である商店の社会的な責務であり，流通革新が要求しているものは，実にこの意味におけるディスカウント販売である。機械やオートメーションによって大量生産される規格化商品については，このような合理的ディスカウント販売の戦略を打ち出しつつ，その大量販売を実現することが要求されるのである。そしてこのような今日の流通革新が要求する流通の大量化と流通コストの引き下げとを組み合わせた営業，つまり低コスト・大量販売または低マージン・大量販売の営業を実現するためのものがマス-マーチャンダイジング技術であり，またスーパーマーケット・スーパーストア・セルフサービス-デパートメントストア(S.S.D.S.)・ディスカウント-ストアなどの小売店の経営形態は，取りもなおさず，その遂行を効果的ならしめうる機構を備えたマス-マーチャンダイザー，ないしは大量営業店もしくは量販店である。〔清水　晶〕

その後の龍門石窟はしだいに衰微した。龍門には彫刻のほか多数の造像碑文がみられることが特色で，中国仏教史研究の貴重な資料となっている。〔小谷仲男〕

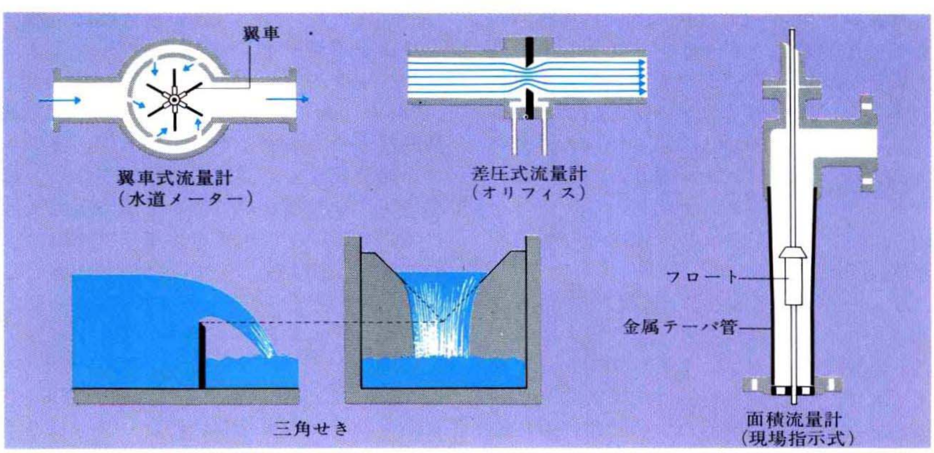
りゅうもんにじっぴん　**【龍門二十品】**　中国，河南省にある龍門の造像銘文のうち，代表的名品20種をいう。北碑の書の代表作として，清(しん)末からもてはやされた。北魏(ほくぎ)の孝文帝が都を河南の洛陽(らくよう)に移すとともに，都の南にある龍門山を切り開いて，多くの造像をつくらせた。そののち唐代までこの事業は継続されたが，北魏の造像記には，北碑の書として雄健素朴(そぼく)な美しさを備えたものが多いので，その中から4品，10品，20品，50品，100品を選んで鑑賞にあてるようになった。20品の内容は必ずしも一定していないが，《牛橛(ぎゅうけつ)造像記》(495)，《始平公造像記》(498)，《北海王元詳造像記》(498)など，太和年間(477～499)のものから《比丘尼慈香慧政(びくにじこうけいせい)造像記》(520)のような神亀(しんき)年間(518～520)のものに及んでいる。〔中田勇次郎〕

りゅうゆう　**【劉裕】**　(356～422)　中国，南朝宋(そう)の初代皇帝。高祖。武帝。江蘇(こうそ)省の彭城(ほうじょう)県の人。東晋(とうしん)の武将。晋(しん)に反逆した桓玄(かんげん)を討って軍事権を握り，土断法を行なって財政的基礎を固めた。しばしば北伐を行ない，南燕(なんえん)・後秦(こうしん)を滅ぼし，一時は長安も手中に収めた。420年，東晋の恭帝から禅譲を受けて帝位についた。

りゅうよう　**【劉墉】**　(1719～1804)　中国，清(しん)代の政治家・書家。字(あざな)は崇如。号は石庵(せきあん)。統勲の子で，山東諸城の人。1751年(乾隆(けんりゅう)16)の進士。官は体仁閣大学士に至る。文清とおくり名された。書をよくし，はじめ董其昌(とうきしょう)からはいり，蘇軾(そしょく)に移り，70歳のころから北碑を学んだ。小楷(しょうかい)・行・草みなすぐれ，気骨を蔵したうちに豊かな情味をたたえ，品格の高い書風を創始した。その子鐶之(かんし)の刻した《清愛堂石刻》がある。集に《劉文清公遺集》がある。〔中田勇次郎〕

りゅうりょう　**【流量】**　ある規定された断面を単位時間あたりに通過する流体の量。考える量が，容積か質量か重量かによって，容積流量 Q・質量流量 M・重量流量 G などに分けられる。測定部の断面積を A，速度を V，密度を ρ，比重量を $\gamma=\rho g$ とすると，$Q=VA$，$M=\rho VA$，$G=\gamma VA=\rho gVA$ で求められる。

りゅうりょうけい　**【流量計】**　流体の流量を測定する計器。管内流体の計測には，おもに翼車式・差圧式・面積式などの流量計が用いられる。翼車式は管中に装着した翼車を流れによって回転させその回転数から，差圧式はベンチュリ管・オリフィス・ノズルなどの絞り機構を管路に入れ，その前後の圧力差から，また面積式は垂直テーパ管中にフロートを入れ，下位から上位に流れる流体の量とフロート位置の相互関係からそれぞれ流量を測定する。このほか流体中に熱を流し上流と下流の温度差から計



流量計

測するもの，電気伝導性流体の流れに磁場をかけ，生ずる誘導起電力から測定する電磁流量計，超音波のドップラー効果を利用する超音波流量計などがある。また開渠(かいきょ)の流量は三角あるいは四角の切り込みのある堰(せき)で計測する。　〔大岡二郎〕

りゅうりょうちょうせつ 【流量調節】 流量を適当な量に加減すること。管路内の流量は絞りや弁によって調節される。弁には弁体と弁座があり，両者の間隔を加減すると流路の断面積が変化するが，そのときの圧力損失によって流量が変わる。開水路の流量は堰(せき)や水門によって調節される。河川の流量は，貯水池をつくって洪水量(こうずいりょう)を貯留し，これを渇水時に放出して平均化するように調節される。

リュカス-バン-ライデン ［Lucas van Leyden］（1494～1533）オランダの画家・版画家。はじめ父について画業を学んだが，エンゲルブレヒツに師事し，15歳ですでに版画家として名声をはせた。新しい技法の開拓に意欲を燃やし，飽くことない写生によって遠近法，人間の性格の描出などに取り組んだ。マブゼやデューラーにも会い，少なからぬ刺激を受けた。代表作は《最後の審判》《三王礼拝》《盲者の治癒(ちゆ)》など。

リュクルゴス ［Lykurgos］ 生没年不詳。古代ギリシアのスパルタの立法者。紀元前9世紀末ごろの人とされ，デルフォイの神託を受けて，市民持分地の譲渡および分割禁止，貴金属貨幣の使用禁止，外人追放による鎖国主義，青少年の軍国主義的教育(→スパルタ教育)など，スパルタ特有の法律を制定したとされる。

リュシッポス ［Lysippos］ 紀元前4世紀のギリシアの彫刻家。アレクサンドロスの宮廷彫刻家で，古典期の最後を飾り，ヘレニズム期の先駆となった重要な作家である。オリンピア競技の勝利者像を制作し，アレクサンドロスの肖像も残している。きわめて繊細な細部の表現にすぐれ，また情念の描写にもひいでていた。代表作には《アポクシュオメノス》《アギアス像》《ヘラクレス像》などがある。

リュシマコス ［Lysimachos］（BC360ごろ～BC281） アレクサンドロス大王の後継者(ディアドコイ)のひとり。テッサリアの生まれ。他のディアドコイと結びトラキア王を称した。BC301年のイプソスの戦いで有力なアンチゴノスを破り，所領をあわせトラキアから小アジアに勢力を伸ばした。のちシリアのセレウコス1世と戦い戦死。王国は分裂した。

リュージュ ［luge］ 木製で滑走面に鋼鉄板をとりつけたそりによる雪上滑降競技。英語でトボガン，ドイツ語でローデルとよんでいる。ヨーロッパでは古来交通機関あるいは遊戯に使われていたが，近代的な競技としてとりあげられてからの日は浅く，1955年ノルウェーのオスロで第1回世



リュージュ　男子2人乗り競技のスタート地点　1972　第11回冬季オリンピック-札幌大会



リュート　武蔵野音楽大学楽器博物館蔵

界選手権大会が開かれ，1957年には国際リュージュ連盟(FIL)が創立された。また冬季オリンピックでは1964年第9回インスブルック大会から正式種目となった。わが国では1969年(昭和44)最初のコースが札幌(さっぽろ)郊外の藤野に建設されてから本格的に選手の育成に努め，1972年の冬季オリンピック第11回札幌大会に初参加後選手の数も増加している。競技は，男子は1人乗り・2人乗り，女子は1人乗りがあり，1人乗りは4回，2人乗りは2回滑走して，その合計所要時間の少ないものが勝つ。そりの全重量は20kgまたは22kgで，幅は45cm，そりの長さ，座席の高さなどはいっさい自由である。滑走路は1,000～1,500m，幅1.2～1.5mで平均斜度は10%前後(約5～6°)で収まるような地形がよく，左カーブ・右カーブ・ヘアピンカーブ・S字カーブなど細かい連続の曲線と直線を必要とする。
〔藤岡　端〕

リュックサック ⇨ルックザック

リュッケルト ［Friedrich Rückert］（1788～1866） ドイツの詩人・翻訳家。叙情的なビーダーマイヤーの詩人で，後期ロマン派に属する。法律・言語学を学び，編集者・大学教授を経て静かな田園生活にはいる。語学の才に恵まれ，東洋文学のすぐれた翻訳・翻案家としての功績が大きい。詩集《恋の春》《バラモンの知恵》などが有名。

リュッツェンのたたかい 【リュッツェンの戦い】 三十年戦争中の1632年ザクセンのリュッツェン(ライプチヒ南西の都市)で，神聖ローマ皇帝軍を率いたワレンシュタインがスウェーデン王グスタフ-アドルフの軍を迎撃した戦い。この戦いでスウェーデン軍は勝利を収めたが，王が戦死したため，以後スウェーデン軍はふるわなくなった。

リュート ［lute］ ヨーロッパで16～17世紀に最もよく用いられた撥弦(はつげん)楽器。語源はアラビアの同種の楽器ウード(アル-ウード)に由来する。胴は洋ナシを半分にした形にふくらんでおり，指板にはフレットがある。弦は2本ずつ同音に調弦されて1対(コース)をつくり，たとえば，5コースと最高音弦1本の計11本になる。調弦は4度を中心にする。リュートは独奏にも，歌曲の伴奏にも使われ，旋律と和声を同時にになえるものとして，また，一つの楽器で対位法も行なえるものとして，技法が高められた。多くの独奏舞曲は今も楽しまれており，のちのチェンバロ音楽にも影響を与えている。

また，〈リュート属〉はホルンボステル・ザックスの科学的な楽器分類における弦鳴楽器の1部類で，リュートのように胴体と頸(くび)(ネック)の両方にまたがって弦が張られている楽器をさす。これにはリュートのほかにギター・マンドリン・タンブーラ・三味線(しゃみせん)・琵琶(びわ)・バラライカ・ウードなどが含まれる。〔徳丸吉彦・山口修〕

リュード ［François Rude］（1784～1855） フランスの彫刻家。ナポレオンの崇拝者で，その失脚後は一時ベルギーに亡命した。代表作のパリ凱旋門(がいせんもん)〈ラ-マルセイエーズ〉の浮き彫りのように，情熱あふれる劇的な作風を示した。

リュードベリていすう 【リュードベリ定数】 原子スペクトルに関するスウェーデンの物理学者リュドベルイ(1854～1919)の公式中の普遍的定数。リュドベルイは，多くの元素のスペクトルを整理して系列に分け，それにより各系列の波数(波長の逆数)$\tilde{\nu}$は

$$\tilde{\nu}=\frac{R}{(n+\alpha)^2}-\frac{R}{(m+\beta)^2}$$

で近似できることを確かめた。m，nは整数，α,βは元素に特有の定数。またRは普遍定数で，のちにリュードベリ定数とよばれるようになった。

その後これは量子論の発展により$2\pi^2\mu e^4/ch^3$に等しいことがわかった。eは電子の電荷，cは光速度，hはプランクの定数。またμは原子核および電子の質量をM，mとしたとき$\mu=mM/(m+M)$と表わされる。
〔吉原邦夫〕

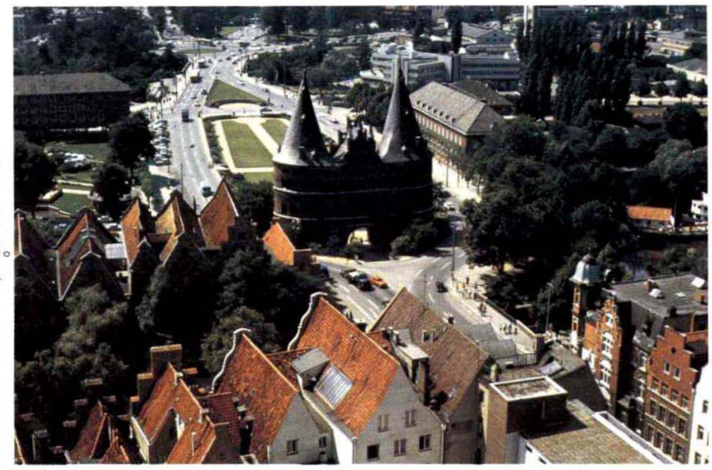
リュドベルイ ［Viktor Rydberg］（1828～1895） スウェーデンの小説家。人道主義的理想主義を標榜(ひょうぼう)し，キリストの神性に対する反論《キリストに関する聖書の教え》やキリスト教のギリシア文化克服を概嘆する歴史小説《最後のアテナイ人》などを書く一方では，スウェーデン文学における浪漫小説の白眉(はくび)といわれる《シンゴアラ》のような，美しい幻想の世界も表わした。幼年時代に母と死別し一家は離

散，貧窮のうちに苦学したが，晩年にはウプサラ大学から名誉博士の称号を贈られ，ストックホルム大学で文化史を教えた。〔鈴木徹郎〕

リュネビルのわやく【リュネビルの和約】1801年2月9日フランス・オーストリア間に結ばれた平和条約。フランスは4年前のイタリア遠征の大成功の結果結ばれたカンポ-フォルミオの和約*を再確認させ，わずかながら領土をふやした。リュネビルは北フランスの都市。

リューブリアナ ⇨次項

リュブリャナ［Ljubljana］リューブリアナともいう。ユーゴスラビア北西部，スロベニア共和国の主都。人口17万4,000(1971)。大学・美術館などの文化施設が多く，また商工業の中心でもある。町はBC34年アウグストゥス*によって建設された。1821年ナポリ王国継承問題についてのヨーロッパ国際会議が開かれたところとして有名。1595年創立の大学がある。旧名エモーナ，ドイツ名ライバッハ。

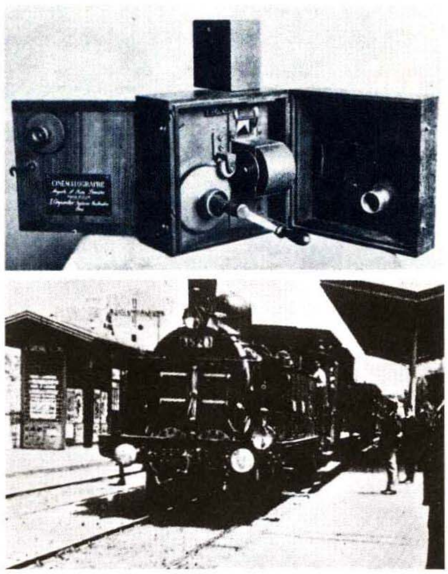


リューベック　中央の二つの塔は，古いリューベックの町の入り口にあるホルシュテン門。15世紀後半につくられた

リューベック［Lübeck］西ドイツ北東端の港市。人口23万6,000(1974)。東ドイツとの境をなすトラーベ川河口に近く，ハンブルクの北東方65kmに位置する。運河でエルベ川と結ばれ，造船のほか各種工業が盛んである。13世紀に始まったハンザ同盟*の中心であった。北ドイツでは最も中世のなごりをとどめる都市で，1937年プロシアに編入されるまではリューベック共和国の主都であった。

リューマチ ⇨リウマチ

リュミエールきょうだい【リュミエール兄弟】兄はオーギュスト(1862～1954)，弟はルイ(1864～1948)。フランスの映画の発明者。弟ルイが中心となり，1895年映画撮影機兼映写機シネマトグラフを完成。他の機械に比べて性能がすぐれていたので普及し，〈シネマトグラフ〉という名まえは映画そのものを意味するようにさえなった。また，この機械を用いて1895年末，ふたりの手により映画の興行的一般公開がはじめてなされた。その製作方法はカメラを固定し，被写体を動かしたことに特徴がある。代表作として，《リュミエール工場の出口》《汽車の到着》などがある。〔大谷裕子〕



リュミエール兄弟　(上)シネマトグラフ　(下)1896年ごろの映画《駅にはいる列車》

リュリ［Jean-Baptiste Lully］(1632～1687) フランスの作曲家。フィレンツェの粉ひき屋のむすことして生まれた。早くからほぼ独学でギターとバイオリンと舞踏を学んでいたが，1646年イタリア旅行中のフランスの騎士にその才能を認められてパリに移った。パリでオルガンと作曲とを本格的に学び，1652年に道化役者としてルイ14世の宮廷にはいり，以後生来の策略を弄(ろう)しながら宮廷内での地位を着実に確保していった。1653年国王付作曲家，1661年国王付近侍作曲家，1662年王室楽長に昇進した。彼の初期の作品は，おもに室内楽とバレエのためのものであり，そこではイタリアふう様式とフランスふう様式が巧みに混ぜ合わせられている。しかし，その活動の中心はオペラの分野であり，1664年にはモリエールと知り合い，モリエールと共作で一連のコメディー-バレエの作曲に乗り出した。《強制結婚》(1664)，《町人貴族》(1670)などがその代表作であり，伝統的なバレエや付帯音楽を大幅にとりいれ，きわめてきらびやかな世界を築き上げた。モリエールの死後は台本作家としてキノーを選び，その後長らくフランス-オペラの伝統となった〈叙情悲劇〉とよばれる分野に着手して，《アルミード》(1686)，《アシスとガラテー》(1686)などの傑作を発表した。当時リュリはフランスにおけるオペラ上演の勅許を独占していたが，指揮に用いていた杖(つえ)で足を傷つけ，数週間で死去した。〔船山　隆〕

リューリック［Ryurik］(？～879) ロシアの最初の王朝リューリック朝の創始者といわれ，ノルマン(バリャグ)人軍隊の半ば伝説的首長。《ロシア年代記》の記述は不確かであるが，ノブゴロドの内乱のとき，一方の側に招かれてロシアにはいったとみられ，862年ノブゴロドを占領したとされる。その死に際してオレーグに幼少のイーゴリを託したといわれる。またデンマークのリョリクと同一視する説もある。

リュルサ［Jean Lurçat］(1892～　) フランスの画家。スペイン的な血統にふさわしい強い色彩をもつ。ビクトル-プルーベに学び，ベルナール-ノーダンの弟子(でし)となる。1914年タペストリーの制作をはじめ，ゴブラン織の意匠に専心。原子力時代を象徴する作品《生の歓び》などがある。

りょ【呂】中国・日本の音楽理論用語。十二律*のうち三分損益法*を1度施して得られた6音(大呂・夾鐘(きょうしょう)・仲呂(ちゅうりょ)・林鐘・南呂・応鐘)をさし，陽性の音である律*に対して陰性の音とされる。

りょう【涼】⇨前涼 ⇨後涼 ⇨南涼 ⇨北涼 ⇨西涼

りょう【量】量ということばは，明確な意味で用いる数学の用語としてではなく，日常語としていろいろな意味で使われる。古くは度量衡*というように，長さやものさしを表わす度，重さやはかりを表わす衡と対にして，容積やますを表わすことばとして用いられた。今日では，長さ・面積・体積・重さ・時間・温度・速さなどをまとめて，数・式や図形に対してこれらを量とよぶのが普通である。最も広い意味では，なんらかの意味で大きさとか分量というものが考えられるものを一括して量ということがある。狭い意味では，単位のものの何倍かという数で表わされたものを量ということがある。普通は大小が比較されるだけでなく，大きさが同じかどうかが客観的に判断され，分割したり合併したりしても全体の大きさが変わらないものを量とよんでいる。しかし，いろいろな大きさを数値化する必要が起こり，数値化する方法がくふうされるにしたがって量の意味も広くなる。〔小西勇雄〕

りょう【令】律令制国家の基本法典で，

律と並ぶもの。国家統治に必要な各種の法を包含するが，これは刑法典たる律により，強制力を付与されることによってその機能を果たした。天智(てんち)天皇の近江(おうみ)令，天武天皇の飛鳥浄御原(あすかのきよみはら)令，文武天皇の大宝令，元正朝の養老令などがあいついで制定されたが，大宝(701〜703)のときには律と令がはじめて定まったといわれ，これをもって律令国家の完成とみるのが一般である。養老令の大部分が現存する。〔黛　弘道〕

りょう　【梁】

1中国，南朝の一(502〜557)。南斉(なんせい)末の内乱を平定した蕭衍(しょうえん)が，南斉の和帝から禅譲を受けて創建した。これを武帝という。都は建康(現在の南京(ナンキン))。武帝の治世は48年に及び，九品官人法などの官制も整い，六朝(りくちょう)貴族政治の最盛期をつくりだした。文化的にもすぐれたところが多く，唐の詩人杜牧(とぼく)によって〈南朝四百八十寺〉とうたわれた仏教，昭明太子選の《文選(もんぜん)》に代表される文学の隆盛などが有名。侯景の乱によって滅んだ。梁末に梁室の子孫が再興した王朝を後梁という(555〜587)。

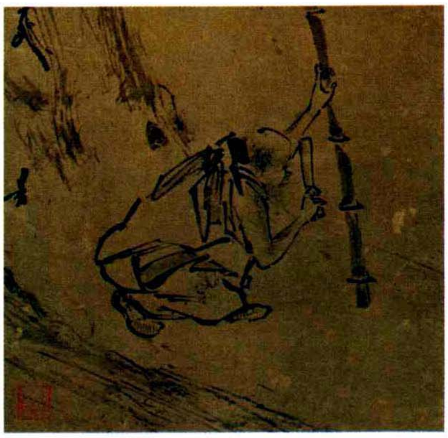
2中国，隋(ずい)末に梁師都が朔方(さくほう)によって建てた国。同じく蕭銑(しょうせん)が巴陵(はりょう)によって建てた国。同じく沈法興(しんほうこう)が毗陵(びりょう)によって建てた国。唐に滅ぼされた。

3中国，五代の一。➔後梁

4中国，元末に甘麻剌(かんまら)が雲南によって建てた国。明(みん)に滅ぼされた。〔勝村哲也〕

りょう　【遼】　東モンゴルのシラ-ムレン川流域から興った契丹(きったん)族の王朝(916〜1125)。建国者は耶律阿保機(やりつあぼき)，首都は林東付近の臨潢府(りんこうふ)。10世紀の前半に東は渤海(ぼっかい)をあわせ，南は河北・山西両省の北部を取り，西はほとんど内・外モンゴルを包含した。1004年，宋(そう)と澶淵(せんえん)の盟を結んでから国内に平和が続き，1世紀余の最盛期を現出したが，1125年天祚(てんそ)帝が女真族の金国に滅ぼされ滅亡した。このとき一族の耶律大石は中央アジアにのがれて西遼(せいりょう)(カラ-キタイ朝)を建国した。遼朝の領域内には，契丹族をはじめ同系の奚(けい)部族やトルコ系部族・チベット系部族あるいは中国人・渤海人など多種多様の民族が共存し，しかも遊牧社会と農耕社会とに分かれて相克していた。そのため遼は二元的統治を行ない，遊牧民(契丹族など)には部族制(北面制)を，農耕民(漢人・渤海人)には中国の州県制(南面制)を準用した。また，漢に同化されるのを避けて国粋を保存しようとし，契丹文字もつくられた。➔カラ-キタイ朝〔若松　寛〕

りよう　【李邕】　(675〜747)　中国，唐代の書家。字(あざな)は太和。《文選注》で知られた善の子。江夏(湖北省)の人。玄宗のとき北海太守となったので李北海とよばれる。747年罪を得て李林甫(りりんぽ)の憎むところとなり，殺害された。書は王書の伝統を受けて特に行書に長じ，碑文と並んで広く世上に名をはせ，高官の依頼するものが多かった。《雲麾(うんき)将軍李思訓碑》《麓山寺(ろくざんじ)碑》《法華寺(ほっけじ)碑》《大照禅師碑》などがある。《李北海全書》(唐祖培編)がある。〔中田勇次郎〕



梁　楷《竹伐図》(部分)　東京国立博物館蔵

りょうあんじ　【龍安寺】　京都市右京区龍安寺御陵ノ下町にある臨済宗妙心寺派の寺。戦国時代の武将細川勝元の創建と伝わり，方丈の前庭の石庭で有名である。築地塀(つきじべい)に囲まれた平庭は，15個の石を5群に分けて配置し，白砂を敷きつめて一木一草をも使わない庭として知られ，トラが子を連れて川を渡るさまになぞらえ，〈虎(とら)の子渡し〉の庭ともいわれる。江戸初期の作庭で，作者は不明。➔庭園(写)

りょういんきょうぎかい　【両院協議会】　国会の両院がある議案について意見が一致しない場合，一致の議決を成立させるために設けられる一種の委員会である。両院協議会は予算(憲法60条②)，条約(憲法61条)または内閣総理大臣の指名(憲法67条②)について意見の不一致があるときは必ず開く必要がある。しかし法律(憲法59条③)についての意見の不一致があるときは開くか否かは任意とされている(国会法84条)。同協議会の委員は各議院において選挙された10人で組織され，定足数は各議院委員の3分の2以上となっている(国会法89・91条)。〔吉田善明〕

りょううんしゅう　【凌雲集】　平安前期の漢詩集。嵯峨(さが)天皇の勅命によるもので，わが国最初の勅撰(ちょくせん)詩集。1巻。正しくは《凌雲新集》。814年(弘仁5)成立。選者は小野岑守(みねもり)ら。782年(延暦1)から814年までの，平城・嵯峨・淳和(じゅんな)天皇をはじめ，藤原冬嗣(ふゆつぐ)など24人の詩91首を，身分・官位の順に配列。七言詩が多く，公的なものとはいえ取材範囲は広く，全体に唐の宮廷詩の影響が強い。

りょうか　【寮歌】　旧制高等学校や大学予科などの学生寮の歌。そのはじまりは1897年(明治30)の第一高等学校寮歌《ああ玉杯に花うけて》であるといわれる。その後他の学校でも寮歌や，さらに校歌・応援歌といったいわゆる学生歌が数多くつくられるようになった。中でも寮歌は文語的文体の歌詞と拍感豊かな旋律をもち，俗世間の雑念から意図的に離れようとした純粋な学生の気持を反映したものとして親しまれている。〔山口　修〕

りょうかい　【領海】　領土(沿岸)に沿った一定範囲の帯状の海で，国家領域をなす。一般には沿岸国の公認の大縮尺海図に記載されている沿岸の低潮線を基線として，そこから測られる。この基線から測られる領海の幅は，従来一般に3海里であったが，今日一致したものはない。3海里は，18世紀末に当時の沿岸大砲の最大の着弾距離をとって考えられたが，その後大砲の射程距離と関係なくしだいに定着し，国際法の原則と考えられ，かなり長い間支配的な慣行として行なわれてきた。しかし他の慣行がないわけではなかった。領海の幅は沿岸国の意思だけで決めることはできず，他国との関係では国際法によらなければならない。領海の幅を統一しようとする試みは，1930年の国際連盟国際法典編纂(へんさん)会議，1958年と1960年の国際連合海洋法会議において提案されたがいずれも失敗に終わっている。

領海は，国家領域の一部として公海とはその法的地位をことにし，国家の支配が原則として排他的に及ぶ。すなわち，漁業を独占的に行ない，関税・衛生などの警察作用や国防上の観点から安全措置を講ずるなどである。しかし，領海は海洋として公海と一体をなすものであるから，国際交通の見地から，沿岸国の平和・秩序および安全を害しないかぎり，外国船舶は領海を通航することができる。これを無害通航(権)という。この結果，沿岸国の権利(管轄権)もいろいろな形で制約を受けることになる。〔広部和也〕

りょうかい　【梁楷】　生没年未詳。中国，南宋(なんそう)の画家。号は梁風子。山東省の人。13世紀初め寧宗朝画院待詔となる。山水・人物・道釈画を描き，院体らしい精妙な描写のものと草々の減筆といわれるものとがあった。生来不羈(ふき)で縦洒(しょうしゃ)狂放といわれた性格をもち，禅僧と親しみ，禅的な趣致を鋭い筆致に反映させている。馬遠・夏珪(かけい)・牧谿(もっけい)らに劣らず，鎌倉・室町時代美術に大きな影響を与えた。

りょうがえ　【両替】　種類の異なる通貨を交換することをいい，手数料をとってこれを行なうものを両替商という。今日では両替は銀行などが付随業務として行なう外国通貨を自国通貨に交換するものと，両替商の行なう高額面の自国通貨を小銭に交換

するものとに分かれる。

りょうがえしょう　【両替商】　江戸時代，金銀銭３貨の交換および金融業務を主とした商人。両替屋とも称した。銭両替と本両替とがあり，銭両替は両替専門で銭屋ともよばれた。両替と記した独特の商標を店頭に掲げて全国都市の各所で営業し，手数料を取って収益とした。本両替は富裕な両替商によって経営され，金銀の売買，預金，貸付，為替(かわせ)，手形発行などの金融業務を主とし，幕藩領主の公金も取り扱った。大阪・江戸・京都の三都に発達し，それぞれ株仲間*を結成して全国にわたり金融の信用取引を行なった。中でも大阪の本両替はその資力と信用において最も優位を占め，諸大名への多額な融資(→大名貸)により大名をも威圧した。江戸の本両替は上納金の検査，金融相場，為替の取組などを業務とし，幕府の為替方御用達をつとめた三井組(→三井家)が代表的である。〔高崎徳次〕

りょうがきょう　【楞伽経】　後期大乗経典の一。如来蔵思想を説くことが主題となっているが，仏教各派や仏教以外の思想潮流の影響も認められる。特に如来蔵思想と唯識説との総合が企てられていることが特色で，《大乗起信論*》の先駆思想となった。〈ランカーバターラ-スートラ〉というサンスクリット原典が現存し，チベット訳も２種伝わっている。漢訳に宋(そう)訳(４巻)・魏(ぎ)訳(10巻)・唐訳(７巻)がある。中国では初期禅宗の人々の間で特に読まれた。〔岡部和雄〕

りょうかん　【良寛】　(1758～1831)　江戸後期の曹洞宗(そうとうしゅう)の僧。越後(えちご)(新潟県)出雲崎(いずもざき)の名主山本泰雄の長子として生まれる。幼名は栄蔵，のち文孝，字(あざな)は曲(まがり)，諱(いみな)は大愚。18歳のとき突然曹洞宗光照寺の玄乗破了に投じて剃髪(ていはつ)し，５年間師事した。その後，備中(びっちゅう)(岡山県)玉島円通寺の国仙和尚(こくせんおしょう)の教化に会い，随行した。その間，曹洞禅を親しく学び，国仙の法を継いだ。その後，諸国を行脚して43歳のとき越後に帰り，はじめは諸方を転々としていたが，1804年(文化１)に国上(くがみ)山で五合庵(ごごうあん)を結び，起臥(きが)すること14年，次いで国上山麓(さんろく)乙子宮(おとごみや)に10年間庵居した。70歳のころ島崎村の木村元右衛門の別屋に寓(ぐう)し，1831年(天保２)正月６日に寂した。辞世の句，〈かたみとて何残すらむ春は花，夏時鳥(ほととぎす)，秋はもみちば〉は有名。良寛の生活は質素で，破れ衣をまとい，一つのすりばちでみそをすり，米をとぎ，足を洗った。床下のたけのこのために床をこわしたり，村の子どもと無心に遊んだと伝えられる。

　また，良寛は書もじょうずであった。漢字は主として唐の懐素の《自叙帖(じょう)》，かなは伝小野道風(おののみちかぜ)筆《秋萩(あきはぎ)帖*》を学んだが，脱俗清純にして個性がよく現われている。〔石井修道・春名好重〕



良　寛　亀田鵬斎画

りょうかんせい　【猟官制】　⇨スポイルズ-システム

りょうき　【猟期】　狩猟期間をいう。国によっては，一年を通じてなんらかの獲物がとれる制度がしかれているが，わが国では1963年(昭和38)以来，毎年11月１日(北海道は10月１日)から翌年２月15日までを猟期と定めている。なお，獲物の種類によっては，猟期の短縮されているものがあり，アナグマ・イタチ(牡(おす))・キツネ・シカ(牡)・タヌキ・テン・ムササビ・リスなどは，毎年12月１日から翌年２月15日(北海道では毎年11月15日から翌年１月31日)までとされている。また，都道府県によっては，特定の狩猟鳥獣の猟期を短縮しているものがある。猟期は，棲息(せいそく)密度の如何(いかん)によって，農林大臣や都道府県知事が，鳥獣審議会に図って変更ができるので，年によって若干変動する場合もある。〔白井邦彦〕

りょうきんうけとりにんばらい　【料金受取人払】　郵便物の料金を受け取り人が支払う制度。商社などがその所在地の受け持ち集配郵便局の承認を受けて〈料金受取人払〉の文字や受け取り人である自分の住所・氏名などを表示した封筒(長辺14cm以上23.5cm以内，短辺９cm以上12cm以内のものに限る)，または私製はがきを調整し，これをあらかじめ必要とする向きに配布しておき，配達されてきたときにその料金を支払うもので，一般郵便料金に３円を付加して納めることとなっている(現金または国債・地方債・電信電話債券・鉄道債券および金融債を担保として後納することもできる)。この料金受取人払の承認を受けるには，申請書に所定の表示をした封筒，または郵便はがきの見本を添えて集配郵便局長に提出しなければならない。なお，あらかじめ郵便局長の承認を受けて，配達を待たずに，当該郵便局の窓口で料金受取人払の郵便物の交付を受けることもできる。〔高橋譲二〕

りょうきんけいきべつのう　【料金計器別納】　郵便物へ郵便切手をはる代わりに，差出郵便局(集配郵便局および地方郵政局長の指定した郵便局)の長の承認を受け，郵政大臣の認可した郵便料金計器を使用して，郵便物の表面に，納付郵便料金額，使用を承認した郵便局名，差し出し年月日などの表示をして差し出すことができる制度。納付方法には次の２種類がある。①あらかじめ，郵便料金計器の性能に応じて郵便局長の指定した額を現金または郵便切手で納付しておく。②料金後納*制度の例によって，一定額の担保を提供して後納する。〔高橋譲二〕

りょうきんこうのう　【料金後納】　郵便料金の後納制度。郵便物を毎月100個以上差し出す者で，差出郵便局(集配郵便局および地方郵政局長の指定した郵便局)の長の承認を受けた者に限って許可される。郵便物の表面の左上部(横に長いものは右上部)に料金別納の表示をし，料金後納郵便物差し出し票を添えて差出郵便局に差し出し，料金は翌月20日までに現金で納付する。この場合，１か月以内に差し出す郵便物の料金および特殊取り扱いの料金の概算額の２倍以上の額に相当する現金または国債・地方債・電信電話債券・鉄道債券および金融債を担保として提供しなければならない。〔高橋譲二〕

りょうきんべつのうゆうびん　【料金別納郵便】　郵便を利用する場合の料金納付方法の一種。郵便物を多数差し出す場合(料金額の同一な郵便物で，通常郵便物ならば50通以上，小包郵便物ならば10個以上)，郵便切手の代わりに，郵便物に所定の表示をして差し出し，料金は郵便切手または現金をもって一括納付する制度で，集配郵便局または地方郵政局長の指定した無集配郵便局で取り扱っている。この制度は，差し出し人・郵便局双方の時間と労力を省き，多数の郵便物をできるだけすみやかに処理することを目的としている。また，料金別納郵便物の差し出しを受ける郵便局の長は，差し出し人に郵便物を種類ごとに，または区域ごとに分けて差し出させることができる。このように郵便切手の消印を必要としない郵便物で，差し出し人の差し出し前の区分によって，直ちに差し立て(発送)の処理ができるものには，料金減額制度が設けられている。〔高橋譲二〕

りょうく　【猟区】　国・都道府県・市町村などが経営している有料の狩猟場。狩猟鳥獣を保獲増殖させて，入猟希望者から承認料(入猟料)をとって狩猟させる。獲物が少なくなったためにとられた方策で，棲息(せいそく)数に見合った人員だけ入猟させ，希望者が多いときは抽選で定める。近年猟区はますます増設の傾向にあるが，設定の権限は国または地方公共団体に限られ，私人の設定は認められていない。〔白井邦彦〕

りょうくう【領空】 領土および領水の上部空間で国家領域の一部。20世紀以来，航空機の発達に伴って，国家領域としての領空の観念が固まってきており，第1次世界大戦ごろには，領空は国の排他的支配に服するものであることが確立された。領空は領海のように他国の無害通航の権利は認められず，領空の飛行ないし領域への着陸を許可するか否かは，当該国家の自由意思による。ただし，実際には，国際民間航空協定(1944年成立，1947年発効)などの多数国間協定によって，協約当事国相互間の領空については，無害通航や無害着陸が認められている。なお，領空の上限については，その限界は無限であると考えられたこともあったが，大気圏外の利用が可能になった現在では，領空は大気の存在するところに限ると一般には解釈されている。〔広部和也〕

りょうくうしんぱんそち【領空侵犯措置】 自衛隊の行動の一。国際法規または航空法その他の規定に違反して，日本の領域の上空(領空)に侵入した外国の航空機に対し，これを着陸させ，または領空から退去させるための必要な措置をいう。防衛庁長官の命により行なわれる。

りょうくどせき【菱苦土石】 ⇨マグネサイト

りょうけ【領家】 古代末期から中世の荘園(しょうえん)制における荘園領主の称。10世紀ごろから地方の荘園領主たちは，国司の干渉や外部の侵害から荘園の領知権を防衛するため，中央の有力者に荘地を寄進して政治的な保護を求めた。この場合その寄進を受け名義上の領主者を領家と称した。領家には年貢(ねんぐ)・所当が納められたが，政治上の必要から設定された領主であったので，荘園権益の確保のため，必要があればさらに優位の有力者を本所と仰いでその政治性を補強することもあった。このように重複した荘園領知権に伴い，領知上の権益を意味する領家職(しき)は多様で，完全な領主権をもつもの，単なる年貢・所当だけをもつもの，本所の預所(あずかりどころ)となっているものなど，その内容は一定しなかった。〔高崎徳次〕

りょうけいちょう【梁啓超】 リアンチーチャオ (1873～1929) 中国近代の啓蒙(けいもう)的学者・ジャーナリスト。広東(カントン)の人。号は任公，筆名に飲冰(いんぴょう)室主人その他。清(しん)末，康有為の門下にはいり，師を助けて1898年のいわゆる戊戌(ぼじゅつ)新政の実現に尽力した。新政失敗後，日本に亡命，日本で学者と交わり日本語の書物を通じて西洋の思想文化を知るとともに師の康有為から離れ，雑誌《清議報》《新民叢報(そうほう)》などを編集，1902年には中国最初の文学雑誌《新小説》を創刊，政治小説を唱え，みずから《新中国未来記》という小説も書き，日本の政治小説も翻案紹介した。新しい文体で啓蒙的論説を発表，革命派に対抗して立憲君主制を主張し，多大の影響を当時の中国青年に与え，世論の指導者のひとりであった。民国成立後，政界にはいったが，1920年から学究生活にはいった。著書はきわめて多く《清(しん)代学術概論》をはじめ，啓蒙的役割を果たしたものが多い。《飲冰室合集》がある。〔今村与志雄〕

りょうげのかん【令外官】 律令時代において，令に規定されたもの以外に設けられた官職。奈良時代にすでに内大臣・中納言・参議などが新設されたが，平安時代にはいって，複雑な太政官(だじょうかん)の機構を整理して実質的官職とする意味で，蔵人所(くろうどどころ)・検非違使(けびいし)・勘解由使(かげゆし)などが置かれた。

りょうげん【良源】 (912～985) 平安中期の天台宗の僧。近江(おうみ)(滋賀県)浅井郡の生まれ。姓は木津氏，諡号(しごう)を慈慧(じえ)大師，通称元三大師・御廟(みみょう)大師など。12歳で比叡(ひえい)山にのぼり，理仙(りせん)・相応などに学び，応和宗論で東大寺の法蔵を論破して高名をはせた。55歳で第18世天台座主となり，981年(天元4)大僧正に任ぜられた。荒廃した比叡山を復興し，教学の興隆につとめ，天台中興の祖と仰がれる。〔京戸慈光〕

りょうごく【両国】 東京都墨田区の南西部，隅田(すみだ)川にかかる両国橋の両たもと一帯の地区。いま墨田区に両国1～4丁目の町名が残る。地名は隅田川がかつて武蔵(むさし)・下総両国の境界であったことにちなむ。両国橋は中央区東日本橋1丁目と墨田区両国1丁目を結ぶ長さ162mの橋で，1661年(寛文1)に落成し，1932年(昭和7)鋼橋が架設された。江戸時代以来，橋畔は見せ物や川開き花火・納涼などでにぎわい，旧国技館(現在の日本大学講堂)があり，付近には相撲部屋(すもうべや)が多い。〔浅井得一〕

りょうさいしい【聊斎志異】 中国，清(しん)代の怪異物語集。蒲松齢(ほしょうれい)の作。現在最新のテキストでは全部で491編のほか9編の付録があり，すべて短いコントである。長期にわたって材料を集めて執筆したものらしく，唐代の伝奇小説や古い書物の話の翻案もある。キツネや幽霊・仙人(せんにん)・道士などと人間世界との交渉を語ったものだが，おのずから当時の社会への批判や，官吏登用試験に落第を続けて不遇に終わった体験や，倫理・礼教に束縛された感情生活の鬱憤(うっぷん)などがそれらの話ににじみ出ていておもしろい。当時広く流行し，その後，模倣した作品も多く出た。〔今村与志雄〕

りょうじ【領事】 外国において，本国およびその国民の利益，特に経済的利益の保護を任務とする国家機関。外交使節のように派遣国を代表して国際交渉を行なうものではない。総領事・領事・副領事・領事代理の4階級がある。また，専任か否かで本務領事と名誉領事に分かれる。前者は，専務領事ともいわれ，本国から派遣され，一定の俸給を受けてもっぱら領事の職務に従事する者であり，後者は，接受国に居住する人から選ばれて領事の職務を委託された者である。領事の任務は，接受国において派遣国とその国民の利益を保護すること，両国間の通商上・経済上・文化上および科学上の関係発展を助長し，合わせて接受国の諸事情を本国政府に報告すること，旅券・渡航文書・査証(ビザ)などの発給をすること，在留民の出生・死亡および婚姻の届出の受理や，契約と遺言の証明，未成年者などの無能力者の保護，証拠調べや訴訟書類の送達などの事務を行なうこと，派遣国の国籍を有する船舶や航空機およびそれらの乗務員に関し監督や検査をすることなどである。領事の派遣と接受には当事国の合意が必要であり，通常は通商航海条約や領事条約で定められる。外交使節のようなアグレマン(受入国の反対のない旨の意思表示)を求める必要はなく，派遣は委任状によって行なわれる。ただし，接受国は派遣された人を必ずしも受け入れる必要はなく，接受を拒むこともできる。領事も外交使節と同様に一定の特権・免除が認められるが，接受国の管轄権からの免除が主で，不可侵権はきわめて制限的に認められるにすぎない。領事館にある公文書および公館は一般に不可侵を認められているが，私文書や領事の住宅などの不可侵は認められない。また，裁判権や警察権の免除はほとんど認められず，領事は原則として接受国の刑事および民事裁判権に服する。なお，課税については本務領事は原則として免除される。〔広部和也〕

りょうしエレクトロニクス【量子エレクトロニクス】 原子・分子の直接の動作，ことにその量子力学的な状態間の遷移を利用して電磁波の増幅・発振を行なわせ，これを応用する技術。真空中，固体中の電子現象を利用し，特に電子の流れを制御して増幅・発振を行なうエレクトロニクスでは，電子の運動にある時間が必要なため，非常に高い周波数ではその技術を使用できないが，量子エレクトロニクスでは光波のような高い周波数(10^{14}Hz)まで扱うことが可能である。量子エレクトロニクスで取り扱う問題に次のようなものがある。①増幅・発振作用：増幅機構の量子論的解明，発振の条件やその特性の研究は量子エレクトロニクスの基本的問題として重要である。また実際にエネルギーの逆転分布をつくり出す方法も実験上重要で，これには強い光をあてて直接励起させる方法(光ポンピング)，電子の衝突によって原子・分子を励起する方法，励起された原子をほかの原子・分子に衝突させてこれを励起する方法など，さまざまな方法がある。また雑音の問題もお

ろそかにできない。②メーザー*・レーザー*：メーザーでは，励起された原子・分子のビームを共振器に導いて発振させるビームメーザー，固体内イオンのスペクトルの微細構造を利用する常磁性メーザーなどがよく知られる。またレーザーでは気体・固体・半導体の例が無数に存在し，ルビーレーザー，ヘリウム-ネオンのガスレーザーは特に有名である。10μ付近の赤外線を放出する炭酸ガスレーザーは非常に強力で集光すれば高融解点の物質をとかすことも可能である。緑色の光を出すアルゴンイオンレーザーも注目されている。半導体レーザーは小形簡便なのが特徴である。なお，ルビーレーザーなどで，励起されたイオンが十分多数になってから，急に発振が起こるようにすると非常に強力なパルスが得られるが，これをQスイッチ法といい強い光を得る方法として重要である。③非線形光学：レーザー光を集めて非常に強い電磁場をつくり，これを物質にあてると，ふつう存在しない非線形の効果が現われるが，これを研究する学問を非線形光学といい，新しい光学分野として注目されている。この場合，誘電分極が電場に比例しなくなるため，誘電率や屈折率が一定でなく電場により変化する。その結果，光をある物質に入射させると波長が半分の光が新しく放出されたり，レンズで光を集光すると光束が絞られたまま広がらずどこまでも進んで行ったりする。

これらの応用面についての研究もきわめて広範囲にわたっている。たとえばレーザー・メーザーを用いての時間や長さの精密測定，逆に時間や長さの標準をこれでつくる試みは成功しつつある。またレーザー光の干渉性を利用したホログラフィは新しい写真法として画期的である。一方レーザー光をプラズマに入射させてその特性を測定する方法は，いわゆるプラズマ診断における有力な手段である。そのほか，レーザーの通信への応用，月までの距離の精密測定，一点に集中したレーザー光線による金属の精密加工や，人体手術などいろいろな分野での開発が行なわれている。〔吉原邦夫〕

りょうしか【量子化】 古典物理学*において定義された物理量を量子論における物理量に置き換える操作。対応原理*によれば，量子論の対象となる系(分子や原子など)に対してはその古典物理学における対応物が存在し，後者に現われる物理量，たとえば粒子の位置とか運動量，あるいは電場とか磁場の強さなどを，単なる数としてではなく，互いに一般には乗法の交換法則を満足しないような演算子として考えなおす，すなわちいわゆる交換関係を満たすものとして考えることによって量子論における物理量が得られる。量子化によって古典物理学ではみられなかった物理量の不連続性が現われ，古典物理学では粒子として考えられていたものは波動性を，波動として考えられていたものは粒子性を獲得し，量子論特有の粒子-波動の二重性が現われることになる。〔荒牧正也〕

りょうしかがく【量子化学】 量子力学に基づいて化学上の諸問題を論ずる理論化学の一分野。原子・分子あるいは原子核・電子などは量子力学の法則に従うため，その化学的諸現象を理解するためにはそれらの量子力学的解釈は基礎的方法としてきわめて重要である。現在量子化学で取り扱う対象としては，原子価の理論，分子あるいはイオンなどの構造論，分子間力や化学反応機構に関する諸理論，光学的・電磁気学的・熱的性質に関する諸問題がある。

りょうじさいばん【領事裁判】 外国人が滞在国の裁判に服さず，滞在国に駐在する自国の領事*の裁判に服する制度。本来，外国人は一般にその滞在国の支配統治に服するものであるが，領事裁判の制度は，その治外法権*となる。アジア諸国の司法制度が未整備であることに不信をもった西欧諸国が，自国民の利益のために，不平等条約によって設けた制度である。この制度が行なわれるようになったのは近世初頭のトルコを最初として日本・イラン・エチオピア・タイ・中国・エジプトなどであったが，後進諸国の発展に伴い，19世紀末からしだいに廃止されるようになり，現在では過去の制度となった。〔広部和也〕

りょうシチリアおうこく【両シチリア王国】 南イタリアとシチリア島を領有する王国で，ナポリ王国ともいう。東ローマ帝国・サラセン人・神聖ローマ帝国・ローマ教皇などの勢力の抗争するこの地域に来攻したノルマン人が1130年建国したのに始まる。12世紀末神聖ローマ皇帝が王位を奪取し，13世紀前半フリードリヒ2世はパレルモに宮廷をおいて文化繁栄期をもたらした。13世紀後半教皇のひらいたフランスのアンジュー家が支配権を握ったが，1282年イタリア人の反乱を機にアラゴン王国がシチリア島に進出して，ナポリ王国とシチリア王国に分裂した。15世紀前半アラゴン王国がこれを統合し，その支配権はアラゴン王家からスペイン王，神聖ローマ皇帝カール5世*，スペイン王フェリペ2世*へと継承された。18世紀オーストリアの支配を経て，1734年スペイン系ブルボン家の独立王国となり，ナポレオン時代一時南イタリアを占領されたが，ウィーン会議*により復興した。しかしその反動政治は民心を失い，1860年ガリバルディの征服をうけて外国人支配を脱し，翌年イタリア王国に統合された。〔大野真一郎〕

りょうしでんきりきがく【量子電気力学】 相対性理論に基づいた，電子・陽電子・光子からなる力学系に関する場の量子論。量子電磁力学ともいう。1946年から1949年にかけて朝永(ともなが)振一郎*を中心とするグループにより完成された。これと独立に同じような理論形式はJ.シュウィンガーによっても展開され(1948, 1949)，量子電気力学の理論は朝永-シュウィンガーの理論ともよばれる。別の観点から出発した理論の展開はR.ファインマンによっても与えられ(1949)，これが朝永-シュウィンガーの理論と同じ内容のものであることはダイソンによって詳細に論ぜられた(1949)。

1929年ハイゼンベルクとパウリは電子・陽電子・光子に関する場の量子論を展開したが，この理論の形式に沿っての計算は，計算の個々の過程で相対性理論の要求を満足するようなものとはなっておらず，特に場の量子論に特有の発散の問題，つまり物理量の計算値が往々にして無限大になるという問題の処理が不可能であった。朝永は，1943年計算の各段階で相対性理論の要求がつねに満たされるような形式の理論(超多時間理論)を展開したが，彼はこれに基づき計算の過程に生ずる無限大の量を質量型と偏極型に分類した。一方理論に最初に導入された電子の質量や荷電は，相互作用を無視した場合におけるものであり，実際に観測されるものは相互作用の結果それらが変化したものであるが，この変化量が，実は上記の質量型と偏極型の無限大にほかならないことが示された。したがって，最初に導入された電子の質量や荷電に，これらの無限大を繰り入れたものを，現実に観測される電子の質量や荷電の値で置き換えれば，計算値には見かけ上無限大はなくなる。この手法を繰り込み理論*といい，これによって水素原子のスペクトルのラム-シフトとよばれるきわめて微細な構造や，電子の異常磁気能率がみごとに説明された。〔大貫義郎〕

りょうしとうけい【量子統計】 量子論において，物質を構成する粒子のしたがう統計。物質の性質は，物質を構成する粒子(分子・原子・電子など)の量子力学的・電磁気学的性質によって規定されるだけでなく，それらの粒子がきわめて多数集合し，粒子集団となって物質を構成する場合に示す統計的性質によっても強く規定される。このような粒子に対しては古典力学ではなく，量子力学を適用しなければならないが，単にそれだけでなく，統計法も改めなければならないことがわかっている。すなわち統計力学では量子効果は力学と統計法の二つの側面において現われる。古典統計はボルツマン統計ともいわれ，同一粒子の集団において，粒子の個性が認められており，どの粒子がどの状態にあるかが問題となるが，量子統計では粒子の個性は認められず，どの状態にいくつの粒子が存在するかしか問題にならない。これには，一つしか存在しないフェルミ統計にしたがう場合と，いくつでも許されるボーズ統計にしたがう場合とがあり，フェルミ統計・ボーズ統計にしたがう粒子をそれぞれフェルミ粒子・ボ

ーズ粒子とよぶ。前者は必ず半整数(½, 3/2, 5/2, ……), 後者は整数(0, 1, 2, ……)のスピン量子数をもつことがわかっている。高温の場合には量子統計の結果も古典統計の結果に一致する。電子や核子(陽子と中性子)などはフェルミ粒子であり, α粒子・フォノン・フォトンなどはボーズ粒子である。奇数個または偶数個のフェルミ粒子が合成されてできた粒子はそれぞれフェルミ統計またはボーズ統計にしたがい, ボーズ粒子が合成されてできた粒子はすべてボーズ統計にしたがう。〔中野藤生〕

りょうしゅさいばんけん 【領主裁判権】 西洋中世の封建社会で荘園(しょうえん)領主が農奴に対して荘園法によって行なった裁判権。フランク王国カロリング朝*のころ現われて封建制の成立とともに広く行なわれた。荘園領主は定期的に荘園裁判を開いたが, そこでは領主の執事や荘司が長となり村内から選ばれた陪審員がこれを助けた。盗みなど一般の犯罪のほかに, 賦役や農耕の問題など荘園の経営に関する問題も決められ, 課せられた罰金は領主の手中に帰した。荘園裁判に関する記録は中世農村地を知る重要な史料となっている。〔兼岩正夫〕

りょうしょうし 【廖承志】 リャオチョンチー (1908〜) 中国の政治家。孫文とともに革命運動に活躍した廖仲愷(りょうちゅうがい)と何香凝(かこうぎょう)を父母として東京で生まれた。早稲田(わせだ)大学在学中から政治活動にはいり, 退学処分を受け, 1928年以後ドイツ・ベルギーなどで活動, オランダで国外追放となって1932年帰国, 上海(シャンハイ)で国民党に逮捕された。釈放後, 江西省の共産党根拠地にはいり長征*に参加。中華人民共和国成立後は, 青年運動・平和運動を指導し, 1954・1957年には中国紅十字会代表団副団長として訪日した。1964年, 中国日本友好協会成立にあたり会長に就任。日本と関係の深い政治家である。〔斎藤秋男〕

りょうしりきがく 【量子力学】 惑星の運動など, 巨視的対象の世界がニュートン力学・マクスウェル-ファラデーの電磁気学をその基本的な運動法則とする古典物理学によって支配されるのに対し, 物質を構成する原子・分子, さらに原子を構成する原子核・素粒子など, 微視的対象の世界を支配する基本的な運動法則が量子力学である。20世紀初頭のプランクの量子仮説をその端緒とし, アインシュタインの光電効果, 固体の比熱理論, ボーアの原子構造論などを中心とする前期量子論を経て, ハイゼンベルク・シュレーディンガー・ディラックらによって建設された。量子力学は, たとえば粒子の位置と運動量といった一組みの物理量の測定誤差の間に不確定性原理が存在したり, また厳密な意味での因果律が成立しないなど, 古典物理学とは根本的に異なる。量子力学の形成は, 自然探究の方向を一方は物質の原子・分子構造の解明へ, また一方はより小さな原子核・素粒子の力学研究へ向けた。前者は固体電子論を中心とした物性論として今日では物理学の主要な一分野を形成し, 化学・生物学・医学・工学などにも深く関係する。後者は, 原子核の構造, 素粒子の本質解明へと進み, 現代物理学の基本的課題となっている。特に素粒子論では量子力学は本質的に相対論的であり, 量子電磁力学など成果は得られているものの, まだ必ずしも完全な理論とはいえず, さらに素粒子の内部構造を支配する法則の研究までなされる段階にある。

【前期量子論】作用量子の仮説は1900年末プランクによって黒体放射の理論に関連して提唱された。黒体放射のエネルギー-スペクトルの低い振動数部分は古典論的なレーリー-ジーンズの公式が, また高い振動数の部分はウィーンの半実験的公式がよく実験を説明するが, プランクはその理論的欠陥を取り除き, 両者をつなぐものとして, 有限の値をもつ作用量子 h(プランク定数)を仮定し, 黒体放射の公式を導いた。ここではエネルギーは古典物理学で考えられるような連続した値をとることはできず, とびとびの不連続な値しかとることができない。その後1905年アインシュタインは作用量子仮説を基礎に光電効果を理論的に説明し, 光はその振動数に比例するエネルギーをもつ粒子(光量子)と考えられることを主張した。この粒子性をもつ光量子は, 光も素粒子の一族と考える上で光子といわれる基礎となった。また固体の低温における比熱減少のようすが, 作用量子仮説をもとにして, 固体を構成する分子の運動エネルギーが不連続な値しかとりえないとするとよく説明できることを示した(1907)。

ボーアはラザフォードの原子模型の電子の運動に作用量子仮説を持ち込み, 原子核のまわりを運動する電子の軌道は連続的なものではなく, ある決まった条件(ボーアの量子条件)を満たす特別な軌道のみが安定な電子軌道として実現されるとし, また原子による光の吸収・放出は電子の安定軌道間の遷移によって生じ, 関与する光の振動数は遷移する両軌道のもつエネルギー差に比例するとした(1913)。ボーアの量子条件は, 電子軌道を円としたとき, その角運動量は $\hbar$(ディラック定数, プランク定数 h を 2π で割ったもの)の整数倍でなければならないとする。このボーアの考え方は, 原子の安定性, 不連続なエネルギー準位, 電子のエネルギー準位間の遷移による光の放出・吸収の現象をよく説明し, 対応原理に基づく計算によって量子論的な原子構造の基本的性格を明らかにした。1925年パウリは電子が単なる点電荷でなく, 二つの自由度をもつ固有の内部状態をもちうることを示した。電子のこの自由度にスピンという描像を与えたのはウーレンベックとガウシュミットである(1924)。

【対応原理と行列力学】原子構造についてのボーアの理論は原子のもつ古典物理学から予想されるものとは異質の幾多の性質を明らかにした。しかしその輝かしい成果にもかかわらず, それが, 量子力学形成への過渡的理論とならざるをえなかったのは, 電子に対して粒子としての古典的描像を保持し, 量子条件に基づく安定した軌道の存在(量子論的定常状態), 定常状態間の電子の遷移(量子論的飛躍)に基づく光の吸収・放出を考えるという自然認識の論理の首尾一貫性を欠いたことに原因する。ボーアはこの不十分さを補うのに量子論と古典論との対応関係を探り, いわば模索的に対応原理を見いだして吸収・放出光の強さやかたよりなどを求めた。この対応原理を量子力学形成への指導原理として追求し, 物理量の量子論的な表現は, 定常状態に付随する量子数の組を成分とする一般には無限の数の集合, すなわち無限次元の行列であるという考えを提出したのがハイゼンベルクである(1925)。物理量である行列の従う運動方程式は古典論におけるものと同形であり, 量子条件は, たとえば電子の位置と運動量を表現する行列は互いに非可換である, といった形で与えられる。このときエネルギーを表現する行列は対角行列である。この行列による量子論的力学(行列力学)は理論形式としても首尾一貫しており, 一応量子力学の誕生といってもよいが, もう一つの形式(波動力学)との相互関連が明らかにされてはじめてその新しい概念のもつ意義や, 理論構造が明確になる。

【物質波と波動力学】アインシュタインの光量子仮説は, 光の本性に対して, その回折・干渉の現象をもたらす波動性と, 光電効果などをひき起こす粒子性と, 古典的には対立する二つの性質(二重性)を付与することになった。この問題を追求したド-ブロイは, 1924年二重性は光に限らずあらゆるエネルギー, 運動量のにない手に付随させられるべきものであることを提唱した。この仮説によって粒子(物質)に付与される波動を物質波という。物質波の波長はその粒子のもつ運動量に逆比例する。この仮説はその後まもなく結晶による電子の回折・干渉現象の発見で実験的に確証された。シュレーディンガーは量子力学へのハイゼンベルクの対応論的接近とは異なり, ド-ブロイの物質波の考えを対応論的に追求し, 行列力学に対して波動力学をつくった(1926)。ハイゼンベルクは物理量を無限次元の行列で表現し, 原子現象では原理的に観測可能な物理量のみを対象とすることを主張したが, シュレーディンガーは波動力学で物質粒子の状態を表わす関係(波動関数)を導入し, この波動関数に物質粒子の波動性をになわせた。波動力学では物理量は波動関数に作用する演算子として表わされ, 粒子の波

動関数ψは，その粒子の属する力学系のエネルギー演算子(ハミルトニアン演算子)をHとしたとき

$$i\hbar\frac{d}{dt}\psi=H\psi$$

という波動方程式に従う。これはシュレーディンガーの波動方程式といわれ，波動力学の基礎方程式である。波動関数はド-ブロイの物質波の描像より抽象化されており，波の強度を意味する波動関数の絶対値の2乗は粒子の存在の確率分布密度に対応している。すなわち指定された時刻・空間内の点に粒子が見いだされる確率を与える。

〔変換理論〕ハイゼンベルクによる行列力学とシュレーディンガーによる波動力学とが，本質的に同じ理論内容をもつものであることが，ディラックとヨルダンによって示され，量子力学は彼らの構成した変換理論によって理論形式としても高められ，論理構造も一貫したものとなった。量子力学的状態の運動方程式において，位置座標を対角化する表示をとったときシュレーディンガーの波動関数と波動方程式が得られ，ハミルトニアン演算子を対角化する表示をとったとき，ハイゼンベルクの行列力学が得られる。この両表示はユニタリー変換で結びつけられる。

〔不確定性と観測の理論〕ハイゼンベルクの行列力学で，行列で表現された二つの物理量が相補的であるといわれる。ハイゼンベルクは互いに相補的な物理量，たとえば電子の位置xと運動量pを同時に測定したとき，それぞれの測定値の不確定度$\Delta x, \Delta p$の間には，

$$\Delta x\cdot\Delta p\geqq\frac{1}{2}\hbar$$

という相互に規制し合う関係があることを示した(不確定性原理)。すなわち，この関係は両物理量を同時に正確に($\Delta x, \Delta p$をともに0にする)測定することが不可能であることを示している。ここでの測定値の不確定は，実験装置や測定技術によるものではなく，原理的なものである。量子力学が支配する微小な世界では，たとえば電子の位置を測定するための電子に対する観測者側からのわずかな働きかけも位置と相補的な関係にある運動量に原理的に精度をあげることのできない誤差，すなわち不確定を与えるのである。ここには古典物理学では考えられなかった測定に伴う原理的な不確定性が生じている。古典物理学では測定対象の状態になんの変化も起こさない理想的な測定が可能であると考えたため，観測に関する理論は特に問題とはならなかった。量子力学では観測の過程で測定対象の状態が非因果的に変化し，測定値の原理的な不確定を生ずるために，測定対象と観測装置を含めた観測系全体を問題にせざるをえなくなる。これが量子力学の支配する対象について観測の理論が問題となる理由である。
〔安野　愈〕

りょうじんにっき　**【猟人日記】**　ツルゲーネフ*の短編小説集(1852)。25編の農村スケッチからなる。全編を貫く一定の筋はないが，農奴制下のロシアの農民の姿をあるがままに描き，彼らを一つ一つの人格として，勇気・愛・あこがれ・悲しみ・喜びをもつ一個の人間としてとらえようとする態度は一貫している。農村とそれを取り巻く自然の描写もすばらしく，散文詩的味わいももつ。

りょうじんひしょう　**【梁塵秘抄】**　平安後期の歌謡集。1179年(治承3)ごろの成立。編者は後白河(ごしらかわ)法皇。歌謡集10巻・口伝集10巻でなりたっていたと思われるが，現存は，歌謡集の巻2と巻1の一部，口伝集の巻10と巻1の最初の一部である。歌謡集巻1の断片には，長歌(形式は短歌)10首，古柳1首，今様10首，第2は法文歌220首，四句神歌204首，二句神歌122首である。口伝集巻1には歌謡の由来・歴史，巻10には法皇の雑芸に関しての経歴や当時の歌謡の名手(法皇の門弟や遊女)について述べてある。法文歌とは，仏法僧に対する賛歌など仏教的な内容で，今様形式(7・5の四句体)である。神歌は〈神楽(かぐら)歌〉の系統で，神事・神社についての歌謡が最初に配列されているが，大部分は世間的・世俗的な歌謡で，当時の生活をそのままに歌ったものが多い。そこには，あらゆる階層の人が素材となっているので，当時の世相がよく映し出されている。この集は，各地に散在していた歌謡を，勅撰(ちょくせん)和歌集のような規範意識なく集めてあるので，当時の民衆の生態をそのまま伝えるものとして貴重な存在であるが，残欠しか現存しないことが惜しまれる。
〔木越　隆〕

りょうせいざっしゅ　**【両性雑種】**　二つの遺伝子座について，ともにヘテロ接合である生物をいう。一般には二つの独立した遺伝子によって支配される形質をもった個体の間で交配を行ない，得られた雑種をさす場合が多い。メンデル遺伝にしたがう連関*していない二つの劣性形質(劣性遺伝子をa・b，それに対する正常形質をそれぞれA・Bとする)をもつ純系同士(ａａＢＢとＡＡｂｂ)を交配すると，雑種第1代で両性雑種(ＡａＢｂ)を生じ，それらの同系交配による雑種第2代では，表現型についてみれば〔ＡＢ〕:〔Ａｂ〕:〔ａＢ〕:〔ａｂ〕が，9：3：3：1の割合で生じる。
〔北川　修〕

りょうせいさんかぶつ　**【両性酸化物】**　酸化物のうち酸に対しては塩基として，塩基に対しては酸として作用するもの。たとえば酸化アルミニウムAl_2O_3は硫酸とは硫酸アルミニウム$Al_2(SO_4)_3$をつくり，水酸化ナトリウムとはアルミン酸ナトリウム$NaAlO_2$を生成する。亜鉛・カドミウム・スズ・鉛・ヒ素などの酸化物も同様の性質をもつ。

りょうせいしゅよう　**【良性腫瘍】**⇨腫瘍

りょうぜいほう　**【両税法】**　中国，唐の税法。780年に成立。従来は，成年男子の労働力を対象に90日分(租＝15日，調＝15日，庸＝20日，雑徭(ぞうよう)＝40日)を穀・帛(はく)・労役で納める均等賦課の法が租庸調制として採用されてきたが，土地制(均田制)や兵制(府兵制)の紊乱(びんらん)と安史の乱による支出の拡大に伴い，雑税・付加税の乱発に苦しんだ。そこで宰相楊炎(ようえん)の建議に基づき，一部で行なわれていた夏税・秋税に一括し，戸の資産の多寡により納税は銭に換算し，また土戸・客戸の区別なく現住地で課税することとなった。その結果，商工業の発展，貨幣経済の農村浸透，節度使勢力の削減，階級分化などを促進したが，資産の評価方法など多くの欠点もかかえていた。
〔藤善真澄〕

りょうせいるい　**【両生類・両棲類】**　脊椎(せきつい)動物の一綱。両生類が最初に出現したのは，デボン紀初期かシルリア紀末期と考えられ，祖先は魚類の扇鰭(せんき)類とされる。古生代には大いに繁栄して，体長1.8mに達するエリオプスなどの大形種も出現し，いわゆる両生類時代を築いたが，当時の12の目のうち，現在まで残ったものは3目にすぎない。両生類から枝分かれして大発展を遂げた爬虫(はちゅう)類が，乾燥に耐える卵を産み，陸上生活を営むようになったのに比べ，両生類はついに現在に至るまで，完全に水から離れて生活を送ることができない。爬虫類の表皮は，水を透過させない角質化したうろこや鱗板(りんばん)でおおわれ，かわいているのに対し，粘液腺(ねんえきせん)に富んだ両生類の皮膚は，水を透過させるために乾燥した場所では体内の水分が失われてしまう。逆にいうならば，両生類は湿った場所や水中にすんで，皮膚から水分を摂取し，皮膚を通じてガス交換も行なわれている。普通のカエル類では体重の3分の1の水分を失うと，致命的になるため，水辺や湿った場所から離れることができない。ただしヒキガエルのように陸上の湿った場所に住むものは，40%の水分喪失にも耐えうる。また卵殻(らんかく)をもたない卵は乾燥を防ぐため，水中に産みつけられねばならず，孵化(ふか)した両生類の幼生は，えらをもち，原則として水中で形態的にも生理的にも魚類に似た生活を送る。変態後はえらは消失して肺を生じて陸に移るものが多いが，生涯(しょうがい)外鰓(がいさい・そとえら)をもち水中生活を送るものや，肺はあるが幼生に似た性質をもち，水中生活を送るもの，肺を欠き皮膚呼吸だけで陸上生活を送るものなどもある。

現生の両生類は，アシナシイモリ目・無尾目(カエル)・有尾目(イモリ・サンショウウオなど)の3目に分けられ，14科2,000種ほどが知られている。そのうちカエル類が最も勢力が強く，生息範囲も北極圏からア

フリカ・南アメリカの南端まで広がっている。すべてが非力でおとなしい小動物であるが，自衛用の毒腺をもつものもある。えさは主としてこん虫・クモ・ミミズなどである。〔松井孝爾〕

りょうぜん【霊山】福島県伊達(だて)郡霊山町にある。阿武隈(あぶくま)山地の北部を占める奇峰。標高805m。県立自然公園になっている。北畠(きたばたけ)一族を祭る霊山神社をはじめ，国司館跡・霊山城跡など南北朝時代の史跡が多い。断崖(だんがい)絶壁の自然の要害が鷲(わし)岩，離岩，東の物見岩，西の物見岩などの奇岩とともに，山城としての軍略的意義をもっていたものである。

りょうそうようすい【両総用水】千葉県，九十九里平野の南部を灌漑(かんがい)する農業用水路。利根(とね)川下流の佐原市岩崎を取水口とし，トンネル・サイホン・開渠(かいきょ)で両総台地を貫いて九十九里平野に注ぐ。1943年(昭和18)から1967年にかけて98億円の工事費をかけて完成したもので，山武・長生・匝瑳(そうさ)の３郡の150km²に給水されている。

りょうた【蓼太】(1718～1787)江戸中期の俳人。大島氏。本姓は吉川(よしかわ)氏。信州(長野県)の人といわれる。若いときに家を出て江戸の吏登(りと)の門にはいった。やがて師から社中を譲りうけて雪中庵(せっちゅうあん)三世を名のる。当時の江戸俳壇を論難した《雪おろし》を著わし，江戸座*と論戦したが，これが蕉風(しょうふう)復帰運動の一端ともなり，その名を有名にもした。門人2,000といわれ，芭蕉(ばしょう)研究などの編著も多い。〔弥吉沙恵〕

りょうちょう【猟鳥】〈鳥獣保護及(および)狩猟ニ関スル法律〉によって指定され，同法に指定された期間・地域・手段・数量の制限内で，狩猟対象とされる鳥類。これを捕獲するには狩猟免許を必要とする。法的には狩猟鳥というが，普通は略して猟鳥とよぶ。現行法は野生鳥類は保護すべきものという原則に立っており，例外として猟鳥を指定している。したがってその種数は減らされ，いろいろな制限は強化される方向にある。➔狩猟鳥獣　➔保護鳥

〔浦本昌紀〕

りょうつ【両津(市)】新潟県，佐渡島(さどがしま)東部の市。人口22,000。明治以後小木港に代わって佐渡の表玄関として発達した。1954年(昭和29)市制施行。市域は日本海の両津湾岸一帯に南北にＳ字形に伸び，ほぼ中央部に海跡湖の加茂湖があり，中心市街は湾頭に発達した幅800mの砂州上に位置する。産業三大別人口比は41：14：45。主産業は水産業で，両津港を中心として沿岸漁業が盛んで，加茂湖ではカキの養殖が行なわれる。佐渡弥彦(やひこ)国定公園の観光基地で，島唯一の交通機関であるバス路線の起点となる。両津港と新潟港との間にフェリーボートが通じ，加茂湖岸には佐渡空港がある。

りょうつじんく【両津甚句】新潟県佐渡の民謡。佐渡甚句とは別のものである。昔は三味線(しゃみせん)・笛・太鼓・鉦(しょう)・拍子木の伴奏による盆踊り唄(うた)であったが，伴奏楽器の数は減ってきている。波形の旋律型と音階上行・下行の旋律型が特徴である。

りょうてっこう【菱鉄鉱】鉄鉱石の一種。$FeCO_3$　三方晶系，硬度3.5～4，比重3.83～3.89，ガラス光沢を有し，集合体ではときに真珠光沢・絹糸光沢・淡灰色などを示し，半透明である。条痕(じょうこん)は白色。通常は菱面体・板状・柱状結晶・繊維状・魚卵状・土状に産する。

りょうと【涼菟】(1658～1717)江戸前期の俳人。岩田氏。伊勢(いせ)(三重県)の神職。芭蕉*(ばしょう)の晩年に入門したらしく，特に支考*と親交があった。諸方に旅を重ねて風交を広め，北越・九州・中国地方に勢力をふやし，いわゆる伊勢派*の基礎を築いた。作風は平明軽妙。編著に《皮籠摺(かわごすり)》《山中集》などがある。

りょうど【領土】国家領域の陸地の部分。国家領域は，領土・領海*・領空*の３次元的に構成される。このうち，領土は，国家の排他的な管轄権が最も典型的に及ぶ部分であり，また，領空・領海と異なって，それ自体が処分の対象となる。割譲・併合・征服・先占・添付などの国家領域の取得喪失は，もっぱら領土についていわれることである。領土の内部にある河川や湖沼などは，領土の一部とされる。

りょうとうてつりつ【両統迭立】鎌倉時代，大覚寺統*・持明院統*が交互に皇位を継承したこと。両統は皇位と皇室領とをめぐって争い，公家(くげ)も両統に分裂，それぞれ幕府と結んで有利にことを図ろうとして，かえって幕府の干渉を招き，後宇多天皇以降６代が両統から交互に即位した。両統ともさらに各２家に分かれたため，皇統関係はますます複雑となって皇位継承ごとに紛争を重ねた。1317年(文保１)両統の和議が成立したが(文保の和談)，対立は依然解消しえず，ついに大覚寺統の後醍醐(ごだいご)天皇による討幕運動にまでことは進展した。建武中興*で一時大覚寺統が勝利を得たが，足利尊氏(あしかがたかうじ)が持明院統の光明天皇を擁立して北朝*を開くに及び，両統の対立は南北朝の対立にまで発展した。

〔高崎徳次〕

りょうとうはんとう【遼東半島】リャオトン半島　中国の遼寧省南部，南西方に突出して黄海と渤海(ぼっかい)とを分ける半島。遼河・鴨緑江(おうりょっこう)の河口から旅大に至るほぼ三角形の形状をなし，南は渤海海峡を隔てて山東半島と相対する。沿岸は屈曲に富み，大連湾・金州湾・復州湾や長山列島がある。コウリャン・ダイズ・アワ・トウモロコシ・リンゴ・柞蚕(さくさん)などを産する。鉱業・漁業も盛んで，旅大では重化学工業が行なわれている。1895年日清(にっしん)戦争によって日本領とされたが，三国干渉によって返還され，のち南部はロシアが租借した。1905年日露戦争によって再び日本がこれを受け継ぎ，99年間の期限で関東州としたが，第２次世界大戦後はソ連が占領・管理し，1950年から中国領になった。

〔千田　稔〕

りょうにん【良忍】(1072～1133)平安後期の僧。融通念仏宗*の開祖。光静房(光乗房)といい，尾張(愛知県)知多郡富田(とみた)の領主実房(一説に道武)の子として生まれた。12歳(一説に７歳)の春，比叡(ひえい)山に登り，檀那院(だんないん)良賀のもとで出家，顕密両教の奥義をきわめた。早くから常行三昧堂(じょうぎょうさんまいどう)の堂僧をつとめ，1103年(康和５)以後まもなく大原に隠れ，来迎院(らいごういん)を中心に念仏を唱導した。かたわら円仁*(えんにん)以来伝承された声明梵唄(しょうみょうぼんばい)を集大成して一家をなし，のちに声明中興の祖と仰がれている。1117年(永久５)，46歳のとき常行三昧中に〈一人一切人，一切人一人，一行一切行，一切行一行，是名他力往生，融通念仏，億万百遍，功徳円満〉という偈(げ)を感得したという。この偈頌(げじゅ)がのちの融通念仏宗の宗義の根本となっている。次いで1124年(天治１)，鞍馬(くらま)寺毘沙門天(びしゃもんてん)の夢告を得て諸国教化を決意し，大原を離れて京都に進出した。宮中における融通念仏会には鳥羽(とば)上皇をはじめ待賢門院など多くが結縁したが，上皇はみずから念仏者名帳に署名されたと伝えられる。さらにこの名帳を捧持して広く畿内(きない)諸国を教化勧進した良忍は摂津(大阪府)に融通念仏の根本道場(いまの大念仏寺)を定めた。このように良忍は上は上皇から下は民衆に至るまで広範に結縁して同行関係を結びながらともに往生極楽を期した，いわゆる勧進上人(しょうにん)といえる。晩年，再び大原の来迎院に住し，1133年(長承２)２月に入寂した。1773年(安永２)朝廷から聖応大師の諡号(しごう)が贈られている。〔大谷旭雄〕

りょうねいしょう【遼寧省】リャオニン省　中国，東北地区南東部の省。もとの遼西省と遼東省の一部，熱河省の東部からなり，10市41県・２自治区で構成する。面積約15万1,000km²，人口約3,400万(1972年推)。省都は瀋陽(しんよう)。東部は長白山脈の延長である千山山脈が走り，中部は遼河流域の平野，西部は承徳東部の山地である。気候は冬は低温で雨は少なく，夏には高温多雨となるが，年間の降水量は全般に少なく，西に向かうほど乾燥度が増す。鉄鉱石・石炭・石油など鉱産資源の宝庫で，これらを基礎に満州国時代から重工業が発展し，第２次世界大戦後も発展を続けており，化学工業や軽工業が盛んである。コウリャン・ダイズ・アワ・綿花・果実を栽培し，柞蚕

(さくさん)も行なっている。東部の山地には森林資源が多く，海岸では漁業のほか塩田を営んでいる。鉄道網は瀋陽を中心にして中国で最も発達しており，河川交通も盛んである。主要都市は瀋陽のほか旅大・鞍山(あんざん)・撫順(ぶじゅん)・本溪(ほんけい)・遼陽・丹東・錦州(きんしゅう)・阜新(ふしん)・営口など。〔木村辰男〕

りょうのぎげ【令義解】平安初期編纂(へんさん)された養老令の官撰注釈書。10巻。淳和(じゅんな)天皇の命を受けた清原夏野(きよはらのなつの)らの撰。833年(天長10)完成。本書の注釈は令の本文と同様の効力があり，翌年から施行された。なお，養老令の本文は本書によって現在に伝えられている。➔養老律令

りょうのしゅうげ【令集解】平安初期私撰(しせん)された養老令の注釈書。30巻。明法博士惟宗直本(これむねのなおもと)著。それまで行なわれていた種々の令文の解釈を集大成したもの。清和天皇の貞観(じょうがん)年間(859～876)成立。大宝令の古記をはじめ，日本および中国の律令研究上重要である。現存25巻。

りょうはくさんち【両白山地】中部地方西部，富山・石川・福井・岐阜の4県にまたがる山地。東側はほぼ庄(しょう)川と長良(ながら)川のそれぞれの上流を連ねる線が境で，南は伊吹(いぶき)山地と接する。両白山地の北半は石川・岐阜県境に位置する白山(2,702m)を中心とする加越山地，南半は福井・岐阜県境にある能郷(のごう)白山(1,617m)を中心とする越美山地である。庄川・手取川・九頭龍(くずりゅう)川はここから発源する。

りょうぼ【陵墓】陵は天皇・皇后・皇太后・太皇太后を葬る墳墓，墓は他の皇族を葬る墳墓をいう。陵は山陵とも称するように，奈良時代以前は高塚式(たかづかしき)で築造された。そのうち崇神(すじん)天皇以前の天皇陵についてはその原初的な陵形が明らかでないが，崇神天皇陵から敏達(びたつ)天皇陵までは壮大な前方後円墳で，中でも応神天皇陵・仁徳(にんとく)天皇陵は代表的である。飛鳥(あすか)時代にはいると，中国の薄葬思想の影響を受けて，天皇陵は方墳・円墳となって縮小し，646年(大化2)の薄葬令は，皇族以下の墓の規模を規定している。さらに持統天皇が遺詔して火葬を用いたことから，その後歴代が火葬に従うことが多く，それが陵制に大いに変化をもたらした。奈良時代から平安時代にかけて陵制は定まらず，元明・嵯峨(さが)・淳和(じゅんな)の各天皇のように遺詔によりまったく薄葬された陵，小規模な墳丘をもつ陵，仏式により納骨され，堂塔・石塔が置かれた陵などさまざまである。その後平安末期の白河(しらかわ)天皇から江戸末期の仁孝天皇まで約700余年間は，仏式により遺体または遺骨を堂塔の下に納め，あるいは陵標として石塔を立てた。幕末には尊王思想から山陵復興論が唱えられるようになり，孝明天皇陵から山陵の出現をみた。明治天皇・皇后の桃山陵は上円下方丘で築造され，1926年(大正15)皇室墓令が定められてから，陵は上円下方丘，または円丘とし，非域の広さも天皇陵1,500m²，皇后陵800m²，皇太子墓350m²，親王・王墓200m²と定められた。律令時代には諸陵寮が管理し，陵戸・守戸が置かれた。現在は宮内庁書陵部の所管。〔高崎徳次〕



リョウマンガン鉱　北海道稲倉石鉱山産

りょうほうこっか【領邦国家】ドイツで13世紀ごろから三十年戦争にかけて成立し，神聖ローマ帝国を構成した約300の小国家。帝国内の諸侯はその領土に対して完全に独立の主権を行使したもので，1871年のドイツ帝国の成立まで続いたドイツ独特の国家。その起源は，皇帝と教皇の間に行なわれた聖職叙任権闘争や対イタリア政策で，皇帝は諸侯の支持をうけるために諸侯と妥協し，諸侯の権力を伸長させた点にあった。特に大空位時代が続き，金印勅書が選帝侯に領邦主権を承認したことは決定的であった。さらに三十年戦争によって領邦主権はますます強固なものとなり，それがウェストファリア条約で完成したのである。〔松　俊夫〕

りょうぼせい【両墓制】⇨墓

りょうマンガンこう【菱マンガン鉱】マンガンの原料鉱石。$MnCO_3$ 三方晶系，硬度3.5～4.5，比重3.31～3.74。劈開(へきかい)は(10$\bar{1}$1)に完全。ガラス光沢を有し，結晶は赤・黄灰・暗赤色を示し，条痕(じょうこん)は白色。マンガン鉱床中に広く産する。

りょうみん【良民】賤民(せんみん)に対する語。律令(りつりょう)制においては，陵戸・官戸・家人・公奴婢(くぬひ)・私奴婢を賤民とし，それ以外のすべてのものを良民とよんで区別した。良民の大部分は一般農民で公民・公戸の民ともよばれた。租税・兵役などを負担したが，10世紀ごろにその区別はほぼ消滅した。

りょうめんおり【両面織】表裏の両面が表地として使えるように織られた布地。リバーシブルファブリックのことで，略してリバーシブルともいう。表裏を同じに仕上げ二重織にした風通織物と，表裏異なった2枚の織物を連続させて二重組織の布にしたものとがある。片面を無地，片面をチェックにするなど，配色のよい組み合わせができる。また，この布を用いて仕立てることを両面仕立てといい，まったく異なった布を2枚外表に合わせて仕立てたものもいう。ジャケット・コートなどに多く使われ，2着分のデザインを楽しむことができる。〔小池千枝〕

りょうめんかち【両面価値】⇨アンビバレンス

りょうもうせん【両毛線】小山～新前橋間の国鉄路線。営業キロ数84.4。1884年(明治17)～1889年開業。前橋・伊勢崎(いせさき)・桐生(きりゅう)・足利(あしかが)・佐野・栃木などの都市が沿線にあり，両毛機業地帯を走る。両毛鉄道・日本鉄道を経て1906年国有化された。全線電化(直流)されている。

りょうよう【遼陽】リャオヤン　中国，遼寧省の遼河支流太子河左岸にある省轄市。東北地区最古の植民都市で，1621年清(しん)の太祖ヌルハチが，ここに都を置いたことがある。市内には遼・金代の代表的建造物である白塔があり，太子河の対岸には東京城・東京陵などの遺跡，南郊には日露戦跡の首山がある。長大(長春～大連)鉄道に沿って遼溪(りょうけい)(遼陽～本溪)鉄道を分岐し，紡績・醸造などの商工業が盛んである。

りょうようしょ【療養所】大気あるいは気候を利用して疾患の治療を行なう施設，また慢性疾患の治療のために，長期にわたる入院を必要とする患者を収容する施設をいう。結核・精神病・癩病(らいびょう)・脊髄(せきずい)損傷患者に対する施設がある。代表的なものは結核療養所で，国立療養所の90％を占め，一般にサナトリウム(療養所)というと結核療養所の意味に用いられている。しかし，近年結核の減少に伴って，これらが精神療養所へ転換するケースも多い。

りょうようほしょう【療養補償】⇨災害補償

りょうり【料理】元来はすべて物事を取り計らい，整えることを意味したが，のちに食物にのみ用いられ，食品の分量をはかり，味を整え，食べやすい状態につくって整えること，およびでき上がったものをさすようになった。調理は，料理とほぼ同義であるが，特に第2次世界大戦後，学校教育・集団給食の場合に多く使われている。日本料理をはじめ，西洋料理・中国料理・朝鮮料理など，世界各国のものがあるが，ここでは特に日本料理について示す。

【特色】①豊富な魚料理：日本列島は暖流と寒流とが沿岸を流れているので，魚の種類が多く，そのため，古来魚介類・海草類を多食し，魚料理が発達した。特に新鮮な魚介類に恵まれ，生食としてさしみ・なます類が発達し，日本料理の土台をなす煮出し汁(じる)もかつお節・コンブを用い，その取り方も日本独特である。焼き物もおもに魚を用い，さらに煮物・てんぷら・蒸し物・和(あ)え物・すし類などもある。②肉料理：

仏教の伝来以来あまり行なわれず，ほとんど発達しなかったが，明治初期からは獣肉食の風習がしだいに盛んになった。③食器：形・色彩・材質などが変化に富み，料理・季節だけでなく，器相互の調和も考えて，視覚的な美しさが重視される。材料は箸(はし)で食べるので，小さく切って供され，盛り方は1人まえずつ盛るのが原則で，盛り付けにも独特なものがある。④味つけ・材料：地域的には関東ふうと関西ふうとに大別される。関西ふうは調味が淡泊で材料自体の味をそこなわないようにし，関東ふうは砂糖・しょうゆで濃厚な味つけをする。しかし日本料理一般としてはご飯・日本酒と調和するようにつくられて発達し，淡泊な味が特徴で，その中に材料の自然のもち味を生かすよう苦心が払われる。また四季の変化が明らかで，それに伴う海・山野の材料が豊富で，同じ材料でも味のよい旬(しゅん)のものを巧みに生かすとともに，季節感を出すことが重んじられる。色彩や形が美しく，全体の感覚が繊細であることも大きな特色である。なお，調味料・つけ物の種類が多く，独特のものがある。

【歴史】①起源：《日本書紀》によると，景行天皇が東国巡幸のおり，膳臣(かしわでのおみ)の遠祖磐鹿六鷹命(いわかむつかりのみこと)が白蛤(うむぎ)をなますにつくって天皇に進め奉った。これが日本料理の最初とされる。古代には魚貝のほか獣肉(イノシシ・シカ)のなますもつくられたが，のちにはおもに魚を用いた。②奈良時代：玄米を甑(こしき)で蒸して強飯(こわめし)として食べ，麦・アワ・ヒエも用い，イモや野菜類をたき込んだりした。野菜は煮物・和え物，あるいはゆでたりつけたりした。肉類も煮たりあぶったり，あるいは生のまま食べた。6世紀に仏教が渡来すると，殺生禁断の法令がしばしば敷かれ，肉食はますます減少した。

保存食品としては，煮堅魚(にかつお)・煮塩年魚(にしおあゆ)・鰒鮨(あわびずし)，いりこや魚の楚割(すわやり)，乾魚(ほしうお)などがあった。③平安時代：強飯は平安中期以降はかなり少なくなり，うるち米を水たきした姫飯(ひめいい)が多く食された。しかし一般人は玄米・雑穀を常食とした。また，焼き物・煮物・嘗物(なめもの)・つけ物・鱠(なます)・鮓(すし)などがあった。当時の供宴は供卓式で，一椀(わん)一皿(さら)に1種ずつ盛り，塩・酢・醤*(ひしお)・酒などを卓上に備え，中国ふうにこれで各自が味をつけた。だし汁としては煎汁(いろり)(カツオや豆を煮た汁)を用い，汁の実ははじめは野菜類が，のちに魚・鳥・海草などが使われた。④鎌倉時代：武士の食膳(しょくぜん)は質素であった。禅宗がもたらされて精進料理*が発達し，宋(そう)からは豆腐が伝えられた。⑤室町時代：四条・大草など，料理の流派が現われ，包丁式も盛んになり，その術が奥儀や秘伝として伝えられた。飯は姫飯がしだいに多くなり，末期ごろには強飯は正月・儀式にだけ用い，今日の赤飯に相当するものも祝儀用につくられた。このころしょうゆが製造され，なますは種類が多くなり，盛り方・掛け酢などがくふうされ，またなますから分かれてさしみが生まれた。汁の実には魚・青味・吸い口が取り合わされ，現在の吸い物*の形が完成した。この時代に日本料理の基礎ができ，饗応(きょうおう)の形式も確立した。⑥安土・桃山時代：茶道が大成され，懐石*料理の形式ができた。また南蛮料理と称する洋風料理法が伝来し，各種の会食・供応などに用いられた。17世紀初期にはてんぷらが伝来した。⑧江戸時代：飯米はますます精製された。またしっぽく料理*・普茶料理*も広まり，会席料理が始まった。本膳料理*は一般に普及して，冠婚葬祭の儀式に用いられた。この時代に，外国の料理を吸収・取捨選択し，日本独特の料理が完成した。⑧明治時代以後：食生活にもヨーロッパ・アメリカの影響を受けたが，なお日本食が主であった。第2次世界大戦後は，パン食の普及に伴って，副食も外国の影響を受け，それらの長所を取り入れて，栄養的にも合理的な料理に変わりつつある。〔塩川ふみ〕

りょかくき【旅客機】旅客を乗せて輸送する航空機*。

【特徴】旅客を乗せるための設備(座席・手荷物室・便所・厨房(ちゅうぼう)および与圧装置など)を備えることはもちろん，飛行の安全を確保するために，双発以上の多発機であること，構造部分の疲労強度を実験によって確認すること，不時着に備えて非常脱出口や救命設備を備えることなど，特別の規定のもとに計画・製造されている。

【形式】不時着水や降着装置故障の場合に行なう胴体着陸の際に，安全性が高いという理由で低翼形式が多い。エンジンを後部に装着するリア-エンジン形式はフランスのシュド-カラベルではじめて導入され，客室騒音が低いなどの特長を認められたために，その後ボーイング727など多くの旅客機に採用されている。

【エンジンの種類と巡航速度】表に示すように，1950年代の終わりに，まず長・中距離機からジェット化が始まり，1960年代の中ごろから中・短距離機にも及んで，巡航速度はプロペラ機の2倍に飛躍し，マッハ

世界の主要な旅客機

機名 (型)[1]	DC 3	バイカウント (800)	コメット (4C)	フレンドシップ (200)	カラベル (Ⅲ)	ボーイング707 (320B)	DC 8 (62)	Tu114 (D)
製造会社 (国名)	ダグラス (アメリカ)	ビッカース (イギリス)	デハビランド (イギリス)	フォッカー (オランダ)	シュド (フランス)	ボーイング (アメリカ)	ダグラス (アメリカ)	ツポレフ (ソ連)
原型機初飛行 (就航)	(1935)	1948 (1950)	1949 (1952)	1955 (1958)	1955 (1958)	1957 (1959)	1958 (1959)	1957 (1961)
エンジンの種類[2]×数(位置)[3] 全出力	RP×2 hp 2,400	TP×4 hp 6,960	TJ×4 (IW) kg 19,100	TP×2 eshp 4,400	TJ×2 (R) kg 10,340	TF×4 (UW) kg 32,700	TF×4 (UW) eshp 34,400	TP×4 kg 48,000
座席数	32	53〜63	68〜104	40	64〜80	〜189	〜189	170〜220
全幅(m)	24.95	28.30	35.00	29.00	34.30	39.87	45.23	51.10
全長(m)	19.65	26.40	36.00	23.50	32.01	44.04	47.98	54.10
主翼面積(m²)	92.00	89.50	197.20	70.00	146.70	279.64	271.90	311.10
自重(kg)	8,950	18,580	35,200	10,592	27,210	62,771	64,366	91,000
全備重量(kg)	12,750	29,250	70,900	19,730	46,000	148,325	153,315	171,000
巡航高度(m)	1,820	6,100	10,000	6,100	7,620	7,620	9,150	9,000
巡航速度(km/時)	267	496	818	474	805	966	969	770
航続距離[4] (km)	930 〜2,600	1,730 〜5,800	5,000 〜7,600	970 〜1,950	1,680 〜1,850	9,700 〜11,300	9,700 〜12,100	6,300 〜8,900

機名 (型)[1]	VC 10 (1150)	YS-11 (A200)	トライデント (1E)	ボーイング727 (200)	IL 62	DC 9 (40)	ボーイング737 (200)	ボーイング747	Tu 144	コンコルド
製造会社 (国名)	BAC (イギリス)	日本航空機製造 (日本)	ホーカ・シドレー (イギリス)	ボーイング (アメリカ)	イリューシン (ソ連)	マグダネル-ダグラス (アメリカ)	ボーイング (アメリカ)	ボーイング (アメリカ)	ツポレフ (ソ連)	シュド・BAC (フランス イギリス)
原型機初飛行 (就航)	1962 (1964)	1962 (1965)	1962 (1964)	1963 (1964)	1963 (1967)	1965 (1965)	1967 (1968)	1968 (1969)	1968	1969
エンジンの種類[2]×数(位置)[3] 全出力	TF×4 (R) kg 40,820	TP×2 (R) kg 6,120	TF×3 kg 15,510	TF×3 (R) kg 19,000	TF×4 (R) kg 42,000	TF×2 (R) kg 13,100	TF×2 (UW) kg 13,100	TF×4 (UW) kg 79,000	TJ×4 (UW) kg 60,000	TJ×4 (UW) kg 69,200
座席数	120〜174	60	115	163〜189	114〜186	〜125	88〜113	360〜490	〜121	〜128
全幅(m)	44.55	32.00	28.96	32.92	43.30	28.47	28.35	59.64	27.00	25.60
全長(m)	52.32	26.30	34.98	46.69	53.12	38.28	30.48	70.51	58.00	58.84
主翼面積(m²)	272.40	94.80	134.33	157.90	282.20	92.97	91.05	511.00		358.25
自重(kg)	70,479	15,050	32,432	40,506	67,800	25,261	25,432	147,000		76,650
全備重量(kg)	151,950	24,500	61,462	76,655	157,500	51,710	48,535	322,050	150,000	175,000
巡航高度(m)	11,600	4,575	9,150	5,500	10,000 〜12,000	7,620	6,275	9,150	20,000	16,600
巡航速度(km/時)	886	469	959	953	850〜900	903	922	960	2,500	2,330
航続距離[4] (km)	76 〜11,500	1,300 〜2,150	〜3,950	1,852 〜3,700	6,700 〜9,200	1,950 〜2,700	3,400 〜3,900	7,500 〜12,000	6,500	6,600 〜7,200

注〕
1)型：各機種ともいろいろなタイプがつくられているが，下に掲げた要目・性能などは( )内の型に対応する。初飛行および就航の年は原型のものである。
2)エンジンの種類：RP：レシプロエンジン-プロペラ，TP：ターボプロップ，TJ：ターボジェット，TF：ターボファン。
3)エンジンの位置：IW：主翼内部，UW：主翼下方，R：リア-エンジン(胴体後部内または外)。
4)航続距離：短いほうは旅客・荷物満載時，長いほうは燃料満載時。

0.75～0.85の高亜音速になった。その後熱効率の高いターボファン-エンジン(➔ジェット-エンジン)が開発され，この種の旅客機は例外なくターボファン-エンジンを搭載(とうさい)しており，巡航速度もマッハ0.9に達している。1970年代の中ごろからマッハ2.2ないし2.7のSST(超音速機*)が大陸間の航空路に導入される見込みである。ローカル線のきわめて短い距離の区間では，巡航速度の速さが生かされず，むしろSTOL(短距離離着陸)性が重要視されるので，ターボプロップ機*が当分賞用されるであろう。この種の機体はターボプロップ双発ないし4発で巡航速度500km/時，航続距離930km前後であり，その代わり滑走路長は500～700m(通常の旅客機では1,200～2,500m)のものとなろう。

【ジャンボ-ジェットとエアバス】航空輸送の需要は年々増加し，空にも大量輸送時代が訪れたが，空港の処理能力には限界があるので，1機あたりの乗客数を飛躍的に増加し，便数をあまり増さないですませようという要望が出された。これにこたえるものがボーイング747などのジャンボ-ジェット*で，350～500人の旅客を乗せ，長・中距離の航空路に使用されている。一方より短い距離の航空路についても，めんどうな予約手続きを必要としないで乗れるエアバス*が要望され，旅客数300～400前後の機体がヨーロッパやアメリカの各社で開発されている。これらの機体は1機の乗客数が多いだけに，飛行の安全に対しては装備上特に注意が払われている。また一時に乗降する旅客が従来の2～3倍に上るために，空港その他の地上設備もそれに対応する改良が必要となった。

【その他の課題】主要空港への発着機数が増大するに伴って，飛行場付近の騒音および排気による空気汚染が問題となり，1960年代の後半からエンジンを中心にその低減がはかられ，新しい旅客機を計画するときこの問題は重要項目の一つになった。また，輸送機関として発着の定時性がいっそう強く要求され，視界がほとんどゼロの場合でも着陸できるような全自動着陸システムが開発され，一部の旅客機に装備されている。➔飛行機　〔中口　博〕

りょかくせん　【旅客船】　⇨客船

りょかん　【旅館】　旅客の宿泊を営業目的とする和式の宿泊所。旅館業法(1948)は，旅館とはホテル業・簡易宿泊所営業および下宿営業以外の宿泊業と規定し，5室以上の和式客室(1室7m²以上)，適当な規模の便所・浴室その他の設備を備えていることなどの最低規準を定めている。旅館には一般の宿泊に利用されるもののほか，料理や宴会を主とする割烹(かっぽう)旅館，温泉地にある温泉旅館，団体旅行を対象とする団体旅館，公営で国民の休暇と保養を目的とする国民宿舎，外人客の宿泊に適する旅館で政府に申請・登録された登録旅館などがある。

律令(りつりょう)制下，官人の旅宿として各道に駅家があったが，平安末期に京都・奈良および地方の交通要地に経営された専業の旅宿が原形といえる。大社寺の参詣(さんけい)宿，問丸*(といまる)の商人宿も発達し，近世になって参勤交代の大名の宿泊機関として各街道に本陣*が設けられた。その後商業経済の発展に伴って一般旅行者が増加し，はじめは宿泊だけの木賃宿であったが，のちには食事も出す旅籠*(はたご)が軒を並べ，宿場*を形成した。旅館という名称は明治になってからで，近代以降はホテルも混えた大小の旅館が各都市に発達し，その経営も合理的になった。➔ホテル　〔高崎徳次〕

りょくおうやさい　【緑黄野菜】　ビタミンA効果のあるカロチン*を100gあたり1,000IU(国際単位)以上含有している野菜の総称。濃色野菜ともいい，《三訂日本食品標準成分表》では，有色野菜とよんでいる。カロチノイド色素を含む赤色野菜のニンジン・カボチャ，葉緑素*を含むホウレンソウ・ピーマン・コマツナ・パセリ・ニラなどがある。ビタミンAはきわめて消化がよいが，生野菜中のカロチンの吸収率は約30%と悪い。しかしカロチンは脂溶性ビタミンなので，油を使って調理することにより，吸収はよくなる。なお緑黄野菜以外のキャベツ・ハクサイ・もやしなどは淡色野菜ともいわれ，おもにビタミンCの給源となる。　〔榊原住枝〕

りょくかうんどう　【緑化運動】　林業振興のための森林資源の培養，または国土の美化・保全を目的として行なわれる国民運動。第2次世界大戦後国土緑化推進委員会が設置され，毎年植林時期を中心に植樹祭，緑の羽根募金，学校林コンクール，ポスター図案および標語の募集などが行なわれ，これらを通じて愛林思想の普及が図られている。ヨーロッパ・アメリカ諸国でも広く行なわれてきている。

りょくじゅほうしょう　【緑綬褒章】　1881年(明治14)太政官(だじょうかん)布告で褒章条例が決められ，翌年から施行された栄典の一種。それまで金品を授与して表彰していた孝子など，徳行のすぐれた者に金品に代えて授与することになったものである。褒章には，ほかに紅綬(人命救助)・藍綬(公益)・紫綬(文化功労)などがある。

りょくしょくぎょうかいがん　【緑色凝灰岩】　凝灰岩が堆積(たいせき)後に多少変質して，モンモリロン石族やリョクデイ石族の鉱物ができたために緑色をおびたもの。酸性岩の凝灰岩では緑色が薄く，かわいたときにはほとんど白く見える。わが国では東北地方からフォッサマグナ*にかけてと，北陸・山陰地方の第三系中とに広く分布している。そして，緑色凝灰岩を伴う第三系中には多くの金属鉱床，特に黒鉱鉱床や石油鉱床が含まれている。　〔片山信夫〕

りょくしょくへんがん　【緑色片岩】　結晶片岩の一種。リョクデイ石・リョクレン石またはアクチノセン石(カクセン石族の鉱物)などの緑色鉱物が多いために，岩石全体として緑色を呈する。おもな造岩鉱物は上記のほかアルバイトであって，緑色鉱物の多い薄層と，アルバイトの多い薄層とに分結して，片理*をきわだたせていることが多い。塩基性または中性の火山岩や凝灰岩が広域変成作用*を受けてできた変成岩のうち比較的低温でできたものに属する。　〔片山信夫〕

りょくそうるい　【緑藻類】　緑色植物の最も原始的な群で，緑藻植物門とされる。光合成色素がクロロフィルa，bで，その他カロチン・キサントフィルを含むこと，および光合成によってデンプンを形成することは，緑色植物の特徴を示している。広義には車軸藻類*を含めるが，最も狭義には接合藻類*も除外する。以下は接合藻を含めた意味で述べる。その特徴は，鞭毛(べんもう)細胞を生ずる場合，べん毛は等長の2本ないし多数で細胞の頂部につくこと，有性・無性ともに生殖器官は単細胞性で，また多室にもならぬことである。体制・生殖法などは変化に富む。海水・淡水中のみならず陸上(気生藻・スミレモなど)や氷雪上(アカユキモ)に生活するもの，寄生性のもの(ケファレウロス)，地衣菌と共生するものなどの生活もある。緑藻類は次のように分類される。①オオヒゲマワリ目：栄養体がべん毛をもつ。クラミドモナス・オオヒゲマワリ(ボルボックス)など。②ヨツメモ目：栄養体がべん毛をもつが寒天質中で群体となり不動である。③クロロコックム目：栄養体はべん毛をもたないクロレラのように単細胞のもの，あるいはセネデスムス・クンショウモ・アミミドロなどのように定形群体のものがある。④ヒビミドロ目：ヒビミドロのような単純糸状体またはアオサ・ヒトエグサ・カワノリなどのような膜状体。⑤ケートフォラ目：ツルギミドロ・スミレモなどのような分枝糸状体またはサヤゲモのような盤状体。⑥サヤミドロ目：単純または分枝糸状体で，細胞生長時にできる細胞膜外層のひだが特徴。⑦シオグサ目：細胞が多核で，ジュズモのような単純糸状体またはシオグサ・マリモなどのような分枝糸状体。⑧ミドリゲ目：体制は前目に似るが，葉緑体が小盤状のもの。⑨クダモ目：多核嚢(のう)状体で，イワヅタ・ハネモ・カサノリ・ミルなどがある。⑩接合藻目：鞭毛細胞はなく，有性生殖はアメーバ状配偶子の接合による。単細胞性のツヅミモ・ミカズキモなどまたは単純糸状体のホシミドロ・アオミドロなど。

りょくちゃ　【緑茶】　不発酵茶の総称。製造の第1段階で茶葉を蒸気か，かまで蒸し，茶葉中の酵素を殺して酸化を防ぎ，固

有の緑色を保つようにつくる。蒸気を使うのが日本茶の特徴，かまを通して火熱でいるのが中国茶の特徴である。かまいり茶は日本では九州で行なわれる。緑茶の種類は玉露・碾茶(てんちゃ)・かぶせ茶・煎茶(せんちゃ)・玉緑茶・番茶・かまいり茶などである。煎茶の製造工程は，蒸し→粗揉(そじゅう)→揉捻(じゅうねん)→中揉→精揉→乾燥の順である。玉露・かぶせ茶・碾茶は日おおいをして栽培するが製法が異なり，玉露・かぶせ茶は煎茶と同様，碾茶は蒸して乾燥したのち粉末にして抹茶(まっちゃ)とする。玉緑茶は蒸し製とかまいり製とあるが形状は丸くもむ。番茶の製法は煎茶と同じであるが原料に硬葉や古葉を用いる。　〔大石貞男〕

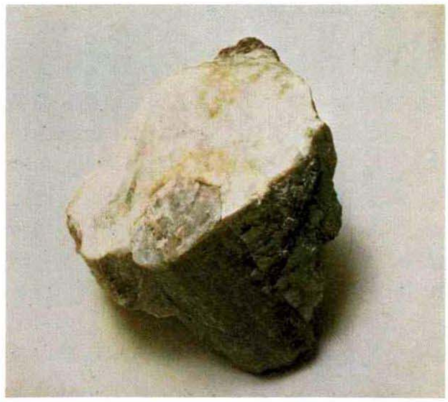
りょくちゅうせき　【緑柱石】　ベリリウムの主要鉱物で，ベリルともいう。$Be_3Al_2Si_6O_{18}$　六方晶系，比重2.75〜2.80，硬度7.5〜8.0，劈開*(へきかい)は不完全。ふつう淡緑色のガラス光沢を呈するが，次のような色の美しいものは宝石として用いられる。緑色(エメラルド)・青色(アクアマリン)・紅色(モルガナイト)・金色(ゴールデンベリル)。加熱すると色が変わる。たとえば，黄緑色のものは275℃で鮮緑色に変わり，緑色のものは300〜400℃で青色に変わる。カコウ岩・ペグマタイト*・片麻岩中に産する。ブラジル・シベリア・マダガスカル・アメリカなどに産する。わが国では福島県石川町などに少量産する。1925年ごろまでは，宝石としての価値しかなかったが，ベリリウムが合金材料・電子機器・原子炉材として用いられるようになり，ベリリウムの鉱石としても用いられるようになった。

〔加藤敏郎〕

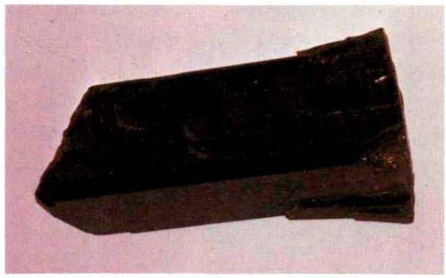
りょくでいせき　【緑泥石】　粘土鉱物の一。$(Mg,Fe,Al)_6(Al,Si)_4O_{10}(OH)_8$　マグネシウムと鉄の割合は種々変化する。単斜晶系。大きな結晶はまれで，ふつう微晶または土状塊として産する。劈開*(へきかい)は底面に完全，硬度2.5，比重2.6〜3.3，特徴ある緑色を呈する。クロムを含むと紫色を，マンガンを含むとオレンジ〜かっ色を呈する。低変成度の緑色片岩中の重要な鉱物で，また火成岩中でもクロウンモや，キ石・カクセン石などの変質物として普通に産する。また熱水鉱脈や堆積(たいせき)岩中にも産出する。　〔加藤敏郎〕

りょくないしょう　【緑内障】　眼圧(眼内圧)の異常上昇によって起こる眼疾患。瞳孔(どうこう)の奥が緑色に見えるところから俗に〈あおそこひ〉ともいわれる。眼圧はおもに角膜と水晶体間の体腔(たいこう)を埋める房水の容量で決まるが，房水の産生が多すぎたり，排出が制限されたりすると，その容量の増大をきたして眼圧が上昇し，種々の障害を起こす。その障害の程度や経過に応じて，原発性緑内障と続発性緑内障に大別される。原発性緑内障はさらに炎性(鬱血(うっけつ)性)緑内障・単性緑内障・牛眼*に分類される。①炎性緑内障：40歳以後の女子に多く，急激な眼圧上昇とともに眼痛・頭痛・悪心(おしん)・嘔吐(おうと)・視力障害を訴え，他覚的には球結膜下充血・角膜混濁・瞳孔散大・眼球硬化・眼底透過見困難などの所見を呈する。これらの急性症状はしばしばくり返されてしだいに慢性化の経過をたどり，ついには視神経が萎縮(いしゅく)して高度の視野狭窄(きょうさく)・視力低下をきたし，ときには失明を招くようになる。②単性緑内障：炎性症状を欠き，性や年齢に関係なくきわめて慢性に経過する。発現が緩徐であるため，しばしば眼精疲労*と混同され，精密検査によりはじめて発見されることが多い。眼圧上昇も軽度で，ときに頭重感や紅視症を訴え，病状が進むと視野の狭窄(きょうさく)や視力低下が加わるようになる。この時期には眼底検査で視神経乳頭が褪色(たいしょく)して蒼白(そうはく)となり，輪郭の明確な緑内障性陥凹(かんおう)を生じていることがわかる。

原発性緑内障のうち炎性緑内障・単性緑内障は，ともに房水の排出障害とみなされている以外原因は未詳だが，続発性緑内障は，原病が最初にあって二次的に起こった緑内障で，癒着(ゆちゃく)性角膜白斑(はくはん)・虹彩炎(こうさいえん)・網膜出血などのあとにみられ，症状は原発性緑内障と同様である。治療としては，続発性緑内障では原病の治療，原発性緑内障では化学療法を主とし，無効のときは手術に負うことが多い。なお，緑内障には精神的要因が強く関係するので，できるだけ精神の安静に心がけるようにつとめることがたいせつである。〔納富敦雄〕



リョクチュウ石　福島県石川産



リョクレン石　オーストリア産

りょくのうきん　【緑膿菌】　グラム陰性の小桿菌(かんきん)で，長さ1〜2μ，幅0.3〜0.5μ，短い連鎖状になることもある。莢膜(きょうまく)・芽胞を欠き，1本ないし数本のべん毛で活発に運動する。特有な色素ピオシアニンを産生し，集落は緑黄色で芳香性の臭気がある。しかし，色素を出さない変異菌もある。慢性の化膿性疾患における混合感染巣の重要な原因菌である。

りょくばん　【緑礬】　化学組成が$MSO_4\cdot 7H_2O$で表わされる一群の鉱物を緑礬(ロウハ)族と総称し，単斜晶系に属する。MにはFe，Cu，Co，Mn，Mgがはいる。このうちMが主としてFeからなるものを緑礬という。比重1.898，硬度2，短柱状または厚い板状の結晶で，種々の色調の緑色を示すが，Cuが多くなると青色が強くなる。乾燥空気中では脱水して黄白色に変わる。硫化鉄鉱の鉱床の酸化帯に二次鉱物として産出する。

りょくひ　【緑肥】　新鮮な緑色植物を田畑にすき込み肥料としたもの。植物体内に含まれていた窒素・リン酸・カリ・微量要素などの養分は，微生物による分解を受け，再び作物に吸収される。種類は多く，野草および飼肥料作物とよばれる作物群の大部分が含まれる。緑肥は土壌(どじょう)・作物・経営状態により種類を選ぶ必要があるが，よく使用されるのはマメ科植物で，レンゲ・ウマゴヤシ・クローバー・青刈りダイズ・ザートウィッケンなどがある。また非マメ科植物には菜種・燕麦(えんばく)・グラス類などがある。マメ科植物が多く用いられるのは，耐寒・耐湿性がある，分解が容易で肥効が高い，根粒菌によって固定した空中窒素を固定できるなどの理由による。水田裏作としては耐湿性のあるレンゲ類が広く栽培され，畑地では耐寒性が高く，やせ地にもよく生育するベッチ類が栽培される。

〔早瀬達郎〕

りょくゆ　【緑油】　コールタールの蒸留で得られる300〜360℃留分。収率は約10%，黄緑色を呈する。アントラセン油ともいう。5〜10%のアントラセンのほか，フェナントレン・カルバゾールなどが多量に含まれる。アントラセンは常温で析出するので，加圧濾過(ろか)あるいは遠心分離によってアントラセン粗結晶を分離回収し，残油は木材防腐剤・ピッチ希釈剤・燃料油などに用いられる。

りょくれんせき　【緑簾石】　カルシウムの含水アルミナケイ酸塩。$Ca_2(Al,Fe)_3Si_3O_{12}(OH)$　単斜晶系。板状・繊維状・塊状として産する。劈開*(へきかい)は一方向に完全。比重3.3〜3.6，硬度7，屈折率1.72〜1.80，黄緑，かつ緑または黒色，ガラス光沢。低〜中変成度の変成岩の重要な構成鉱物。スカルン*中に鉄鉱を伴って大量に産出し，また玄武岩の空洞(くうどう)中にフッ石と共生することがある。

りょけん　【旅券】　外国に旅行する場合

の身分証明書。パスポートともいう。本人の国籍と身分を証明し，外務大臣が本人の外国旅行中に相手国に対して旅行についての便宜供与と保護を依頼し，また本人の行動に対して責任をもつ旨を記載してある。一般に，旅券をもたない者は外国に入国できず，日本でも一定の条件をもった有効な旅券をもたない外国人の入国を禁止している。したがって，外国人の入国に際しては，旅券が有効であるか否か，入国審査官の審査が行なわれる。日本の旅券は，国内では外務大臣，国外では領事*が発行する。また，日本政府の発給する旅券には，公用旅券と一般旅券とがある。　〔広部和也〕

りょこうしんようじょう　【旅行信用状】　外国に旅行する者が，あらかじめ一定の金額を為替(かわせ)銀行に預託しておくか，または一定金額の信用借りを予約しておいて，その銀行から発行させる一種の信用状*。これは旅行者が外国各地の行くさきざきで，ほしい通貨をその銀行の本支店または取引銀行から引き出すことができるよう権利を与えるもので，発行銀行またはその銀行の指定銀行にあてて一覧払いの為替手形を振り出し，これを銀行で金に替えてもらう。➔一覧払い手形　〔上坂酉三〕

りょししゅんじゅう　【呂氏春秋】　中国，秦(しん)の呂不韋*(ふい)の編になる一種の百科全書。一名《呂覧》。春秋戦国時代の分裂・過渡期を収束して統一帝国時代を踏み出した時期の編述にふさわしく，当時までに開花し蓄積された暦時や農耕の知識のほか，特に諸子百家*の多様な世界観・人間観を，幕下の学者たちに記述させ，それを形式的に総合し編成したもの。十二紀・八覧・六論の合計26巻，各巻おのおの数編からなる。

りょしのらん　【呂氏の乱】　中国，前漢の高祖劉邦(りゅうほう)の呂皇后がひき起こした権力争い。呂后は高祖を助けて天下統一の事業を完成させた女傑で，その実力は唐の則天武后*，清(しん)の西太后*と並び称される。呂后は，BC195年高祖の没後政治の実権を握り，韓信*(かんしん)・英布ら開国の功臣や帝室の劉氏一族を退け，呂氏一族を立てて天下を奪おうとしたが，BC180年呂后の死後，劉氏および高祖の遺臣は呂氏に反乱の陰謀があるとして，一族を全滅させた。　〔勝村哲也〕

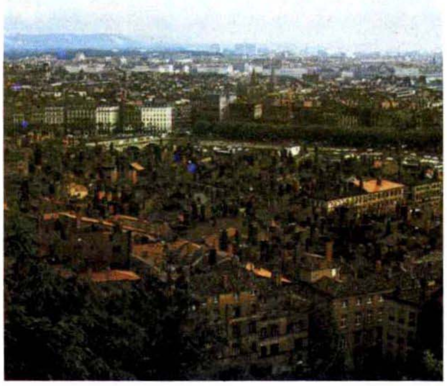
りょしゅう　【旅愁】　横光利一*の長編小説。1937年(昭和12)4月から1946年4月まで新聞・雑誌に分載。当時の知識人が当面した東洋と西洋精神の激しい対決をテーマとした小説で未完。日華事変後の時代を背景に，フランス滞在の日本人たちの交渉を描いて，日本の伝統とカトリシズムの問題を追究し，西洋精神を克服して，日本的民族意識としての精神性に帰依する知識人の思想的混乱が描かれている。

りょじゅん　【旅順】　⇨旅大

りょじゅんこうげき　【旅順攻撃】　清(しん)国から旅順を租借したロシア帝国は，これを太平洋艦隊の基地としてステッセルを守備にあたらせた。日露戦争が始まると日本は制海権を得るため同港を抑えようとし，乃木希典*(のぎまれすけ)の指揮する第三軍は，1904年(明治37)7月旅順攻撃を開始。4回の総攻撃などで12月にようやく占領したが，日本軍が死傷者約5,900もの犠牲を出した大激戦であった。



旅　券
表紙(左)と
内容の一部



リヨン　市の西側フールビエールの丘から見たリヨン市街。中景にソーヌ川が流れ，その向こうに並行してローヌ川が流れている

りょだい　【旅大】　リュイター　中国，遼寧(りょうねい)省南部の省轄市で，旧大連市と旧旅順市および付近5県を市域とする。旧関東州の領域であった遼東半島のほぼ全域を占める。面積約3,400km²。人口約420万(1972年推)。大連は，大連湾の南西岸に臨み，大連港を擁し，市の政庁が置かれている。長大鉄道の起点にあたり，港は不凍港で，東北地区最大の商港として港湾設備も整っている。日清(にっしん)戦争後，ロシアが旅順港とともに大連湾の港づくりに着手したが，わずか2年で日露戦争となったために中断し，戦後日本が計画を継承し満鉄本社をおいて，大連港を自由港とした。東北地区の玄関口，さらに華北地方・朝鮮・日本にも近いことから上海(シャンハイ)に次いで商港として栄えている。産業は造船のほか，金属・化学・機械・車両・油脂，さらには製麻・製糖なども行なわれている。また近郊ではリンゴを栽培しており，塩田もある。ロシア名はダルニー。旅順は，遼東半島の南西端にあり，三方を山に囲まれ，港口はわずかに南に開けており，古くから軍事上の要地とされた。このため，港も軍港として発展し，日露戦争では激戦地となった。日本の租借後は関東州庁・関東軍司令部・海軍基地などが置かれ，大陸進攻の基地とされた。1955年以後は中国海軍の基地となっている。旧金県地区は，ダイズ・コウリャン，リンゴその他の果実，石材・海産物・織物を産し，旧長海県地区は黄海中にある五つの大きな島と14の小島からなり，漁業が盛んである。ロシア名はポルト-アルツール。　〔木村辰男〕

りょだん　【旅団】　陸軍部隊編制上の単位の一。通常師団内の2個歩兵連隊で組織され，旅団司令部が設けられている。歩兵連隊のほかに砲兵・工兵・通信の部隊を合わせた独立混成旅団，あるいは騎兵部隊のみの騎兵旅団などがある。師団は歩兵連隊を4個とするか，3個とするかが問題となったが，第1次世界大戦で火砲の進歩に伴い3単位を採用するようになった。日本陸軍は1937年(昭和12)末以降逐次改編し，旅団に代わって，3個歩兵連隊の上にこれを指揮する歩兵団司令部を置いた。　〔森田　哲〕

りょふい　【呂不韋】　(?～BC235)　中国，戦国時代末期の秦(しん)の政治家。楚(そ)の陽翟(ようてき)の大商人で巨万の富を築いた。趙(ちょう)の都邯鄲(かんたん)で秦の公子子楚が人質となっているのに会い，〈奇貨おくべし〉とこれに投資して，秦の荘襄(そうじょう)王とすることに成功し，丞相(じょうしょう)となった。のち始皇帝より罪を受けて自殺。《呂氏春秋*》は彼のもとに集まった食客に，それぞれの見聞を著述させ，編集させたものである。

リヨン　［Lyon］　フランス南東部の都市。人口52万8,000(1972)。パリ・マルセイユに次ぐ大都市。ローヌ川とソーヌ川の合流点にあり，古くから地中海岸とドイツとの交通要地であった。伝統的な絹織物工業のほか機械・化学などの工業が盛ん。生糸市場として古くから有名で，また同国の金融・

商業の一大中心である。フランス革命時には反共和主義の中心，第2次世界大戦中は自由フランス軍の根拠地であった。近年は郊外にも市街が伸び，都市域人口は100万をこす。1808年創立の大学や12世紀建造のゴシック様式の聖堂など歴史的建築物も多い。〔梶川勇作〕

リラ ⇨ライラック

リラ ［lyra］ 古代ギリシアの代表的な撥弦(はつげん)楽器。キタラ*より小さく，木や亀(かめ)の甲羅(こうら)でできた共鳴箱に木を立てて，これと共鳴箱との間に弦を張ったもの。弦は3本のように少ないものもある。歌の伴奏によく用いられ，ディオニュソスと結びついたアウロスとは異なり，アポロンの楽器として，青少年の教育にもよいとされた。なお，同じ名称が，中世以降は弓で奏するバイオリン状の弦楽器に用いられたり，ハーディ-ガーディ*にも用いられた。〔徳丸吉彦〕

リラ ［lira］ イタリアの貨幣単位。補助単位はセンティシモ(centisimo)であり，1リラは100センティシミ(centisimi，センティシモの複数)。リラの為替(かわせ)平価＝1アメリカ-ドル＝581.5リラである(1972年7月末現在)。

リラダン ［Philippe Auguste de Villiers de L'Isle-Adam］(1838～1889) フランスの小説家。すべての物質的功利主義を排して夢想の世界に生きた孤高の作家で，貴族出身でありながら生涯(しょうがい)貧困に苦しんだ。代表作《残酷物語*》をはじめ，長編《未来のイブ》《トリビュラ-ボノメ》などには超越的神秘主義がみられ，その作風はポー・ホフマン・ネルバルの系譜に属し，象徴主義*の先駆をなした。

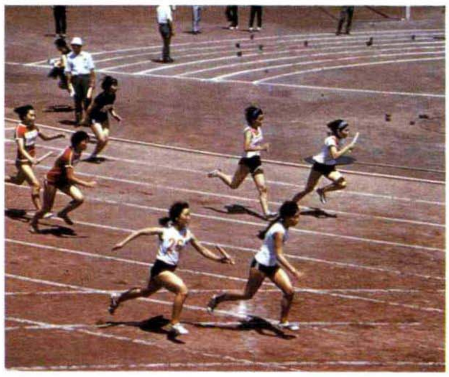
リーリエンクローン ［Friedrich Detlev von Liliencron］(1844～1909) ドイツの詩人。父は貴族の出身。士官としてプロイセン-フランス戦争に従軍，多彩な経歴の後，作家となる。自然，戦闘，兵営生活，航行，狩り，貴公子ぶりなどを簡潔・素朴(そぼく)に歌い，しかもあざやかな印象を与える。《副官騎行》《ポグフレッド》などの詩集のほか，小説・戯曲も書いた。

リリエンソール ［David Eli Lilienthal］(1899～1981) アメリカの政治家。シカゴで弁護士を開業。1931年公益事業に関係し，1933年TVA*の創設とともに理事，次いで理事長として同事業を完成した。1946～1950年原子力委員会委員長をつとめ，原子力の管理に関する国務省報告書を作成，のちのアメリカの基本的態度を決定した。

リリエンタール ［Otto Lilienthal］(1848～1896) ドイツの航空工学者，グライダーの研究者。プロイセン北部のアンクラムに生まれる。1867年ベルリン工業学校にはいり，ルーロー教授のもとで機械力学を研究した。少年のころから飛行機に関心をもち，鳥の飛翔(ひしょう)を力学的に研究して，1889年に《飛行術の基礎としての鳥の飛翔》と題する名著を著わした。1891年から滑空の実験を開始し，1894年にはベルリン近郊のリヒテルフェルデの人工丘から飛んで成功を収めた。1896年には発動機をとりつけるはずであったが，滑空中に強風にあおられて不幸な事故死を遂げた。生前グライダーの試験は2,000回にも及び，彼の著書は飛行機のその後の研究者にとって必読の書となった。〔山崎俊雄〕



リルケ ラローニュ(スイス)の村の教会にあるリルケの墓



リレー-レース 4×100mリレー 中学放送陸上選手権大会 1970 駒沢競技場

りりつさん 【李立三】(1896～) 中国の政治家。湖南省の出身。勤工倹学運動でフランスへ渡り，1922年パリで周恩来らと中国少年共産団を結成した。帰国後中国共産党に入党し，1927年中央委員となった。指導的な地位にあった1930年6月から約4か月間，極左日和見(ひよりみ)主義の都市武装蜂起(ほうき)路線をとって革命に大被害をこうむらせた。のちに誤りを認め七回大会・八回大会では中央委員に選出された。

リリヤーン ［lilyyarn］ 本来はアメリカでつくられた人絹糸で編んだ手芸用のひもの登録商標である。これが手芸用糸として喜ばれ，一般に普遍化された。150～250デニールの人絹糸を4～5本メリヤスの丸編みにした中空のひもで，外観は丸みをおびた四角または五角形をなす。結束用の大口リリヤーン，手芸・装飾用の中細リリヤーン，ししゅう用の細口リリヤーンなどがある。人絹糸のほかストローヤーン・絹糸・毛糸などでつくることもある。

りりょう 【李陵】(？～BC74) 中国，前漢の将軍。字(あざな)は少卿(しょうけい)。甘粛省成紀の出身。武帝のとき，歩兵5,000を率いて，匈奴*(きょうど)の騎兵10万と対戦，連戦すること1,000里(1里は約500m)，ついに捕われて単于(ぜんう)の娘を妻とし，その地にとどまること20余年で死んだ。《蘇武(そぶ)に与うる詩》は最古の五言詩として〈五言の祖〉と称されるが，後人の仮託かと疑われている。

リール ［Lille］ フランス北部の商工業都市。人口19万1,000(1968)。ベルギーとの国境に近く，北フランス炭田の北端に位置する。合成繊維や皮革・食品などの工業が盛んで，またフランス北部の文化・教育の中心でもある。11世紀に建設され，中世以来フランドルの主都として繁栄した。一時スペイン・オーストリアに占領されたが，1668年以降フランス領となった。第2次世界大戦前までは国境の軍事基地としても重要であった。〔梶川勇作〕

リルケ ［Rainer Maria Rilke］(1875～1926) オーストリアの詩人。プラハの生まれ。1899年のロシア旅行直後に書いた《時禱(じとう)詩集》で独特の音楽的詩風をつくり，その後パリでロダン*に学び，《新詩集》で造形的詩作を確立した。1910年以後それをさらに深化しつつ，人間存在はいかにして肯定できるかという哲学的問題に取り組み，《ドイノの悲歌*》と《オルフォイスへのソネット》を完成した。その思想の根底には実存に対する不安があり，それを自分の内部で突きつめていった記録が《マルテの手記*》である。後期には実存の不安を克服しようという希求が強く，〈世界内面空間〉という生死両界を貫く実存の世界を透視するに至った。自分で選んだスイスの土地で死去。〔神品芳夫〕

リレー ⇨継電器

リレーえいせい 【リレー衛星】 アメリカが実験的に打ち上げた通信衛星。1号は1962年12月に打ち上げられ，近地点約1,300km，遠地点約7,400kmの軌道に乗った。衛星本体の重量77kg，六角柱形である。地上からの電波を衛星で増幅して発信する，いわゆる能動式の衛星である。日本とアメリカの間の最初のテレビ中継試験は，1963年11月23日このリレー1号を用いて行なわれた。なお1964年2号が打ち上げられ，アメリカとヨーロッパの間の第9回オリンピック冬季大会のテレビ中継に成功した。

リレー-レース ［relay race］ 陸上競技・水泳・スキーなどで，一定の距離を定められた人数(原則として4人)の選手により順次中継して行なわれる競技。

陸上競技では，4人の走者が等距離またはそれぞれ異なった距離をバトンを渡しながら継走する。種目としては4×100m，4

×200m，4×400m，4×800m，4×1500mのほか，スウェーデン-リレー(100・200・300・400)，アカデミック-リレー(200・300・400・500)などがある。いずれの場合もテーク-オーバーゾーン(発走線の前後10mの白線内)でバトンの受け渡しをする。ただし，800mまでのリレーでは，次のランナーはテーク-オーバーゾーンの前10m以内から走りはじめてもよい。①バトンは手で受け渡しをする，②バトンを落としても落とした当人が拾えば有効，③審判者の許可がないかぎり，第1予選とそれ以後のメンバー変更はできない，などの制限がある。バトンは，円形で木製または金属性の中空の管で，長さ28～30cm，周囲12cm，重量50g以上。レース中に割れても，一片を持っていれば有効。

水泳競技では，自由形の4×100m，4×200m，メドレー-リレー(4人の泳者がそれぞれ背泳・平泳ぎ・バタフライ・自由形の順で泳ぐ)などがあり，水泳のリレーの場合では前泳者がゴールインしたときに次泳者がスタート壁についていればよい。

スキー競技では，男子4×10km，女子は3×5km。なおバイアスロン*では，4×7.5kmで途中で射撃を行なわねばならない。またスケート競技では，例外的に国民体育大会で行なわれている。〔伊東春雄〕

りろんすいりょく【理論水力】水力発電所の水路によって発生しうる最大の出力。水の比重量 ∂=1000kg重/m³とすると，有効落差H(m)の水路の末端では圧力差∂H(kg重/m²)となる。使用水量がQ(m³/秒)のとき，落下水の出力は∂HQ(kg重m/秒)=9.8HQ(kW)となる。発電所出力=(理論出力)×(水車効率)×(発電機効率)で全体の出力が与えられる。

りろんぶつりがく【理論物理学】物理学を理論的に研究する科学。古代や中世の物理学が思弁的・教条的であったのに対して，仮説とその実験による検証という方法をとることによって物理学はガリレイ以後客観的な科学として成立した。すなわち実験(観測も含む)によって新しい事実や現象が発見され，また実験によって理論の基礎に置かれた仮説が正しいかどうかが決定されるようになった。このように，ガリレイ以後の物理学の歴史は理論と実験とが分かちがたく相補って発展してきたことを示しており，20世紀にはいるまでは物理学はその理論的研究と実験的研究とが特に分けて考えられることはなかった。しかし物理学が発展し，種々の現象を包括して複雑な体系がつくられるのに伴い，物理学の研究は理論と実験とに大きく分業化されるようになり，19世紀末ごろにはローレンツやプランクなどのように理論的研究を専攻する物理学者，すなわち理論物理学者とよばれる研究者が生まれ，物理学の理論的研究は理論物理学という物理学の一部門をなすに至った。

理論物理学は，実験によって与えられる経験事実に基づきながら，いくつかの基本的な仮説を置くことによって，複雑に交錯した自然についての統一的な描像を理論的に形成し，さらにそれによって新しい未知の現象を理論的に予見しようとするものである。同時に，諸仮説からの帰結を数学を用いて論理的に首尾一貫した形で追究し，その予見を実験と比較しながら仮説を批判・検討していくものである。この際数学はそのための一つの手段でしかありえず，この点，物理学を数学の立場からながめ，その数学的構造を調べ，その数学的形式を整備したりすることによって数学の応用問題の一つとして考える数理物理学とは，内容の上で区別されるのが普通である。➔物理学〔荒牧正也〕

りわくろん【理惑論】中国，後漢の牟子(ぼうし)の著書。1巻。ある人が問いを発し，牟子がそれに答えるという形式で論が展開されている。著者自身の序によれば，彼ははじめ経学や神仙(しんせん)の書に親しんでいたが，母の死を契機に仏教に転向し，他からの仏教批判に答える目的で本書を書いたという。本書は，仏教の立場に立って三教(儒・仏・道)の異同を明らかにしたもので，三教関係を論じた文献としては古いものである。本書の成立をめぐっては諸説があるが，遅くも3世紀ごろには存在したとみてよいであろう。〔岡部和雄〕

リーワード(諸島)〔Leeward〕西インド諸島，小アンチル諸島中の北半部の島群。アメリカ合衆国・フランス・オランダ・イギリスの領土からなる。面積1,792km²。北東貿易風帯にあり，南半部のウィンドワード諸島の風下にあるためにこの名がある。島々は肥沃(ひよく)でワタ・ココナツ・タバコ・果実を産する。1493年，コロンブスによって発見された。

りん【燐】周期律表第V族に属する非金属元素の一。記号P，原子番号15，原子量30.9738。1669年にH.ブラントによって，はじめて尿中から発見された。天然にはリン酸誘導体として動植物・鉱物界に広く分布する。現在，工業的なリンの製法は，リン鉱石にケイ砂とコークスを加えて約1,500℃に加熱し，発生する蒸気を水中で凝縮させて黄色のリンを得る方法である。数種の同素体があり，黄色でニラ臭を有する黄リンがよく知られている。白リンは八面体等軸晶系の猛毒物質で，黄リンを二硫化炭素溶液から結晶させてつくる。赤リンは赤かっ色，無臭の粉末で，黄リンを空気を遮断(しゃだん)した密閉器中で250℃に長時間加熱して得られる。そのほか，紫リン・紅リン・黒リンなどがあり，また紫リンと他のリンとの固溶体である赤リンもある。リンは化学的に非常に活発な元素で，炭素・窒素以外のすべての元素と直接化合する。特に酸素と激しく反応し，酸化物をつくる。このとき発熱し，またリン光を放出する。マッチ・殺鼠(さっそ)剤・殺虫剤や電球製作上のゲッター，合金製造原料などに使用される。質量数32の同位体は放射性があり，トレーサーとして広く利用されている。〔古屋　弘〕

りんえん【燐塩】リン酸水素ナトリウムアンモニウムの4水塩$Na(NH_4)HPO_4 \cdot 4H_2O$の別名。無色，単斜晶系の結晶。比重1.574。リン酸ナトリウム水溶液に塩化アンモニウムを作用させて得る。熱すると280℃でメタリン酸ナトリウムとなり，金属酸化物と反応して特有の色を呈する。これはリン球反応といわれ，分析に利用される。

りんえんきゅうはんのう【燐塩球反応】⇨溶球試験

りんかいあつりょく【臨界圧力】⇨臨界状態

りんかいおんど【臨界温度】⇨臨界状態

りんかいかく【臨界角】⇨全反射

りんかいじっけんじょ【臨海実験所】生物の宝庫である海産の材料を研究するためにはなるべく海岸の近くに研究機関のあることが望ましい。このような目的で臨海実験所が各地に設置され，海産生物の分類学・生態学・発生学・生理学・生化学などの理科系の研究をはじめ，水産学や海洋学方面の研究はもとより，生物学専攻の学生のための実験や実習に役だっている。外国でおもなところは，ウッズホール(アメリカ)・ナポリ(イタリア)・プリマス(イギリス)・ロスコフ(フランス)などがある。日本では，1885年(明治18)東京大学理学部付属の臨海実験所が三浦市三崎町油壺(あぶらつぼ)に設立されたのをはじめとして，和歌山県白浜に京都大学の瀬戸臨海実験所，青森県浅虫に東北大学の臨海実験所，熊本県天草に九州大学の天草臨海実験所などがあいついで設けられた。そのほか，厚岸(あっけし)(北海道)・下田(静岡県)・菅島(すがしま)(三重県)・佐渡(新潟県)・能登(のと)(石川県)・岩屋(兵庫県)・玉野(岡山県)・向島(広島県)・宇佐(高知県)・合津(熊本県)などに臨海実験所がある。大部分は大学に付属する機関で，生物学その他の研究に貢献しているが，近ごろは観光や産業などの進出によって，生物にも水質にも被害が出ているので，今後の問題が生じている。〔蒲原春一〕

りんかいじょうたい【臨界状態】①臨界点における物質の状態。2相が共存しうる温度と圧力との関係を表わす曲線はある点で切れる。この点を臨界点といい，このときの温度と圧力とをそれぞれ臨界温度・臨界圧力という(図-1)。臨界点以下では，この曲線上で2相(たとえば水と水蒸気)が共存して一つの相から他の相へ移るときに熱的性質が不連続に変わるが，臨界点以上では，2相は融合して物質は均質な一つの相をなし，熱的性質は連続的に変化する。

たとえば374℃，218気圧以上では水と水蒸気の区別はなくなる。臨界点が存在する場合，一定量の物質について，温度を指定したときの体積と圧力との関係を示したのが図-2である。低温度T_Lでは，体積が変わっても圧力は一定である水平な部分が存在し，この圧力のもとでは密度の小さいものと大きいものとの2相が共存し(gとl)，低圧側から高圧側へ密度が不連続に変わることを表わすが，温度を上げるにつれて，しだいに水平部分は短くなりその圧力は増加する。温度T_Cで，圧力はP_Cとなり水平部分はなくなる。さらに高温T_Hでは連続的な変化だけである。この温度T_Cおよび圧力P_Cが，それぞれ臨界温度および臨界圧力である。〔服部真澄〕

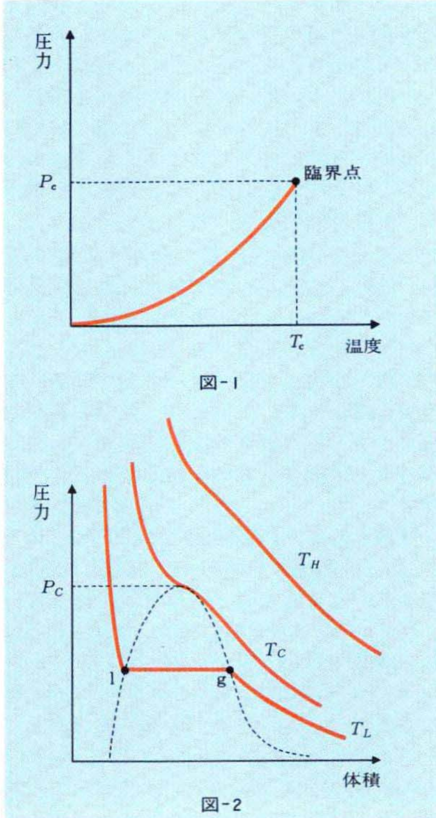
②原子炉の核分裂連鎖反応が継続するようになった状態。原子炉からのエネルギーは，原子炉内での核分裂によって発生する中性子が，核分裂性原子核に有効に吸収されて次の核分裂を起こす，いわゆる連鎖反応によって連続的に取り出されるが，燃料体の量が少ない場合はむだに消費される中性子の割合が大きく連鎖反応が継続しない。すなわち核分裂中性子を有効に利用するためには燃料体をある一定量以上集めなければならない。この量を臨界量といい，これは核燃料の種類，減速材の種類，原子炉の方式，反射材の有無によって決まる量である。なお核燃料は一定体積内に臨界量が集まると，自然に連鎖反応を起こすため保存には特に注意を要する。〔加藤敏郎〕

りんかいせき【燐灰石】リンの原料鉱石。$Ca_3(PO_4)_2 \cdot Ca(F,Cl)_2$ 六方晶系，劈開*(へきかい)は(0001)に平行で完全。硬度5，比重3.15～3.27。結晶は白色・かっ色・緑色を示す。種々の岩石，鉱床中に広く産するが，わが国には経済的鉱床は存在しない。カナダ・ノルウェー・ソ連などに大鉱床が存在する。

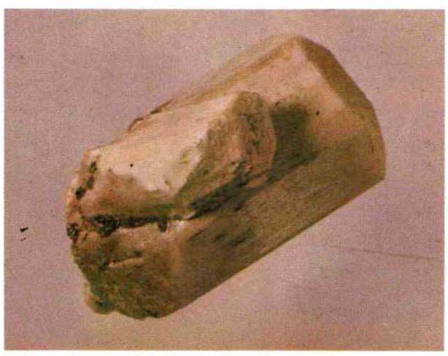
リンガーえき【リンガー液】⇨リンゲル液

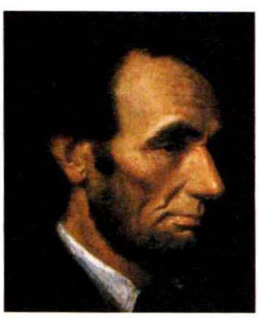
りんがく【林学】林業および林産業の技術の基礎，および森林の効用・保全などを考究する応用学。陸上の自然界における生物相の発達過程の最終の形である森林は，それ自身種々の効用があるが，そのままあるいは人工的にこれを変えて人類に役だてている。これを造林学(育林学)・森林土木学・林業機械学など木材の生産利用の面，パルプ学・改良木材学・林産化学など木材利用の面，および砂防工学・自然保護学や風致工学・造園学の面から研究することを目的とするが，さらに林政学・林業経営学・森林経理学なども林学の範囲に含まれる。〔川名 明〕

リンカン［Lincoln］アメリカ合衆国，ネブラスカ州南東部にある同州の州都。人口12万9,000(1960)。1869年創立のネブラスカ大学，1887年創立のネブラスカ-ウェスレイアン大学などがあり，大学都市として有名。シカゴ-ロックアイランド鉄道とバーリントン鉄道の要地にあたり，農産物・家禽(かきん)の大集散をなす。



臨界状態


リンカイ石 神奈川県足柄上郡玄倉産


リンカーン ワシントン国立絵画館蔵

リンカーン［Abraham Lincoln］(1809～1865) アメリカ合衆国の政治家。第16代大統領。在任1861～1865年。ケンタッキーで生まれ，インディアナを経てイリノイに移住。独学で弁護士となり，1834～1841年イリノイ州議員，1847～1849年連邦議員をつとめる。イリノイの開拓地で体験した民主主義はリンカーンに大きな影響を与え，彼は早くから奴隷制に対して人道主義的反対を表明，特に奴隷制の拡大をひき起こすアメリカ-メキシコ戦争*やカンザス-ネブラスカ法*に反対した。しかし，彼は奴隷制の全面即時廃止には反対，奴隷の解放は漸進的になされ，補償によるべきだとの穏健な立場をとった。奴隷制廃止を公約する共和党から1860年出馬し，民主党の分裂を利して大統領に当選したことは南部にとって打撃であり，1861年3月彼が就任するまでに南部7州が連邦を脱退した。リンカーンは大統領就任演説で連邦維持の必要を説き，他の南部州の脱退を阻止しようとしたが，4月サウスカロライナ州チャールストン港での武力闘争で，南部4州も連邦を脱退，ここに南北戦争*が始まった。リンカーンは戦時大統領として大きな権限を握るとともに，急進的奴隷制廃止論者をおさえ，漸進的な奴隷解放の実現につとめた。しかし，戦争初期に連邦軍は有能な指揮官をえず劣勢に立ち，これを挽回(ばんかい)するため，また世論にこたえるため，1862年9月と1863年1月奴隷解放宣言*を発表した。1863年11月激戦地のゲチスバーグで行なった演説〈人民の，人民による，人民のための政府〉は民主主義の本質を言い表わしたことばとして有名である。戦闘が長期戦化し，グラント*が総司令官となるや，戦況は北軍に有利に展開，これを背景に1864年リンカーンは再選された。この間，彼は南部諸州の連邦復帰についても寛容的計画を提案していた。1865年第2次就任演説で彼は〈なにびとに対しても悪意をいだかず〉と述べている。しかし，彼の再建案は南部に過酷な政策を求める共和党急進派の反対に会った。南北戦争は4月9日に終わったが，その5日後の晩，リンカーンはワシントンの劇場で南部人ブースによってピストルで狙撃(そげき)され，翌朝死んだ。〔折井一彦〕

りんかんがっこう【林間学校】⇨夏季施設

りんぎょう【林業】経済的あるいは社会的に森林の効用を人類に役だたせる産業。森林は木材生産，各種林産物の供給のほか，治山・治水・国民休養などの効用がある。林業の概念は，一般的には天然林の伐採・搬出，人工林の造成・育苗・育林・伐木・運材，林木の売買・貯木，素材の売買などをさすが，広くは森林を維持造成して防災・水源涵養(かんよう)を図るばかりでなく，治山・砂防などの工事によって，崩壊地・禿赭(とくしゃ)地，公害による裸地の緑化・復旧工事や，河川工事・堰堤(えんてい)の造成なども含まれる。さらに国立公園・森林公園，釣魚(ちょうぎょ)・狩猟などの森林レクリエーション

や，自然保護などにおいても広義の林業に属する部分が多い。また，関連産業である林産業も広義の林業に含められるが，これには薪炭，シイタケなどのきのこの生産，木材工業すなわち建築用材・家具材，土木用材などの製材・加工・改良木材製造，紙・パルプ工業などが含まれる。

狭義の林業を農業と比較すると，種々の特徴がある。①森林は立体的に広がり，葉が重なって存在する期間が長く，面積あたりの葉量・物質生産量が大きい。②更新して収穫に至る期間が長いため，投資の回収に時間がかかり，多くの資本を要する。③伐採面が広大で生育期間が長いため，需給の急速な調整は困難である。④将来の需要を予察して，樹種・育林法を決定することが困難で，目前の状勢に左右されやすい。⑤収穫期が一定していないので，所有者のつごうや市況によって自由に伐期を調節できる。⑥まったく人工の加わらないものから，きわめて集約のものまであり，その効用は多種多様である。⑦経営形態も，国や公共団体・公企業・大会社・個人所有のほか，副業的小規模経営のものまであり，単に財産保有的な性格をもつにとどまるものもある。⑧木材は樹種間の使用範囲を重ねることができるので，天然林から採取したものも，人工林で造林して得た材も，同一市場で競合して価格を形成する。⑨重量・容積の大きい商品となるため，運搬に港湾，道路その他の施設を要し，森林開発はしばしば都市・集落を発達させる。⑩農業が労働集約的なのに対し，資本集約的である場合が多い。⑪効用が多岐にわたるため，なんらかの形で国が介入することが多く，わが国でも各種の法規制，国の助成がある。⑫労働者は農工の中間的で，季節労務者と常勤労務者の双方にたよっている。なお農業の耕耘(こううん)・施肥にあたるものがないとする説もあるが，昔から混農林業(木場作)や農業的育林も存在した。近時は木材の騰貴に伴い，投資が可能になったこと，労賃が高く省力が望まれること，機械器具，肥料が安価になったことなどから，下刈りの耕耘や生育促進のための耕耘あるいは施肥が行なわれる地域がふえている。

【世界の林業】 陸地総面積130億ヘクタールのうち，林地は約41億ヘクタール，次いで農地(35億ヘクタール)と砂漠(さばく)・ステップ・サバナなどの乾燥地とが大きい。各国の森林面積は表のとおりで，ソ連などを除き，主要国の国・公有林は30～40％である。木材生産は約20億m³で，うち用材は12億m³。生産量はソ連3億8,000m³，アメリカ3億1,000万m³，ブラジル1億6,000m³，中国1億5,000m³，カナダ1億1,000m³の順である。これらは多くの部分が天然林にたよっているが，木材の不足に伴い，天然林の過伐，不足更新がみられ，人工林の拡大，優良樹種の導入，肥培，更新方法の改善などが講ぜられている。乾燥地造林や瘠悪(せきあく)地造林も課題となり，各国は植樹祭などを行なって愛林思想の普及に努めている。

【日本の林業】 わが国の面積3,700万ヘクタールのうち，森林は2,500万ヘクタールを占め，亜寒帯から亜熱帯まで細長く連なり，標高差も大きいため，森林帯の異なるものから構成される。1,480万ヘクタールが天然生林，870万ヘクタールが人工林で，残りは無立木地である。木材不足が続き，明治以来の拡大造林がいまだに継続している。蓄積は針葉樹が9億9,000m³，広葉樹が9億2,000m³である。面積比では国有林32％，公有林11％，私有林57％となっている。表に示したように，人口1人あたりの森林面積は各国と比べて小さい。木材の消費は近年著しくふえ，1969年(昭和44)には9,800万m³になり，最近は1億m³を越えている。国産材は5,000万m³前後なので，50％以上は外材の輸入にたよっているにかかわらず，一部で過伐が心配されており，これは最近では自然保護上からも問題となっている。また1,100万ヘクタールの人工林を目標として拡大造林が進められ，さらに林道網の拡充整備，育種，林地肥培などが実行されるようになった。わが国の林政は農林省林野庁で国有林行政と民有林行政とを分離して行なっている。都道府県には，林業部門を部・課としてもっている。国立公園は環境庁で所管し，砂防は建設省に属する。

〔川名　明〕

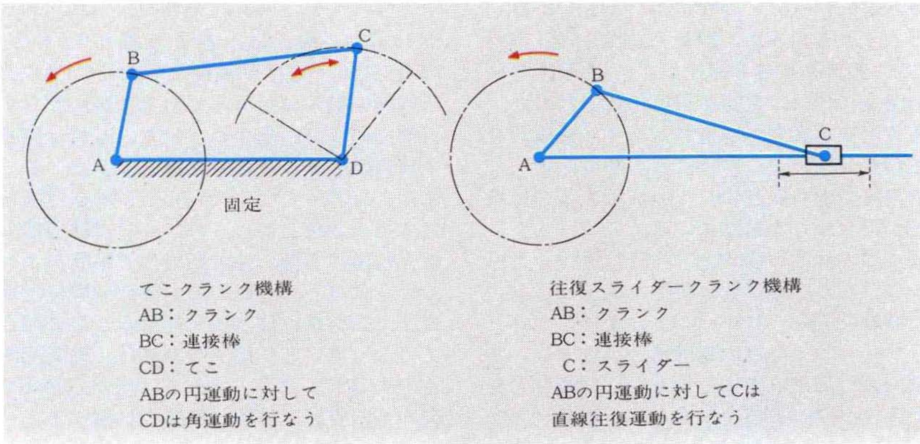
世界の林業　(ha：ヘクタール)　林業統計要覧 1971年

国名	調査年	林地	非林地 総数	非林地 農地	非林地 叢地	土地全面積	人口1人あたり林野面積
		(1000ha)	(1000ha)	(1000ha)	(1000ha)	(1000ha)	(ha)
世界	—	4 126 000	8 907 000	3 492 000	—	13 033 000	1.2
アメリカ	1963	307 101	612 077	181 422	—	919 178	1.5
ソ連	1961	910 009	1 233 631	930 495	—	2 143 640	3.3
カナダ	1963	443 108	479 022	62 852	—	922 130	22.2
日本	1959～1963	25 053	11 785	6 081	1 196	36 838	0.2
スウェーデン	1953～1961	23 441	17 685	4 260	—	41 126	2.9
中国	—	96 380	879 721	287 350	—	(976 101	0.13
フィンランド	1951～1963	21 741	8 799	2 900	—	30 540	4.7
フランス	1950～1964	11 600	43 500	34 800	4 000	55 100	0.2
西ドイツ	1961～1963	7 154	17 167	14 221	—	24 321	0.12
ブラジル	1964	352 100	494 701	275 000	211 700	846 801	4.4
ポーランド	1956～1960	7 684	22 694	20 403	—	30 378	0.2
ルーマニア	1960～1963	6 396	16 546	14 723	—	22 942	0.3
チェコスロバキア	1960	4 285	8 345	7 327	—	12 630	0.3
オーストラリア	1955～1961	207 267	555 346	199 804	—	762 613	19.0
フィリピン	1962～1963	11 914	17 827	12 318	—	29 741	0.4
オーストリア	1952～1962	3 352	4 918	3 931	—	8 270	0.4

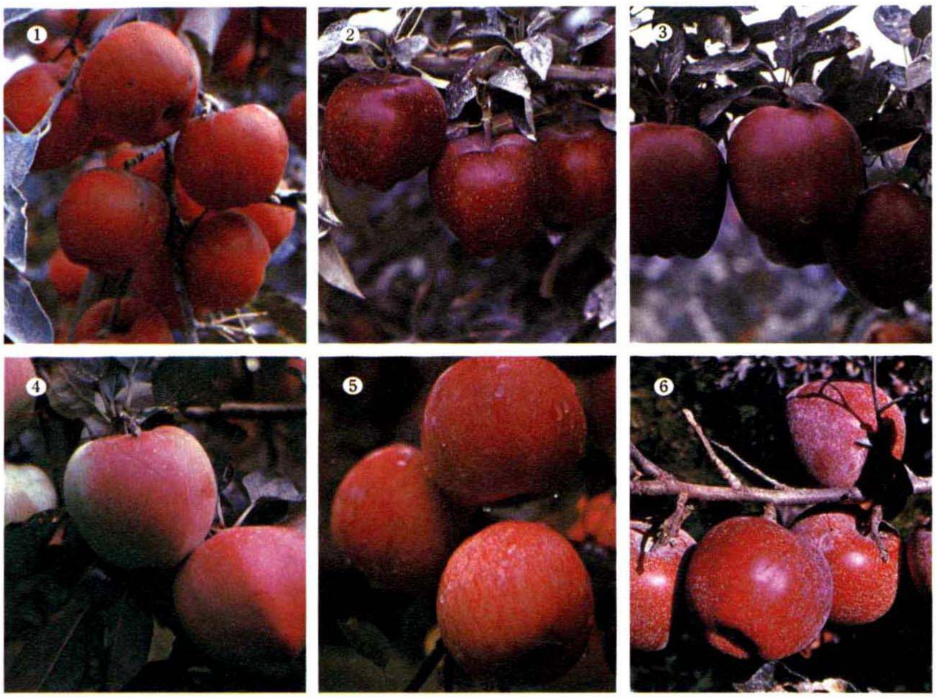
りんぎょうきかい　【林業機械】　林業に使用される機械。育苗・造林事業用，伐木・造材・集運材・貯材などの素材生産事業用，また林道・治山事業用などにわたる各種機械が含まれる。このうち育苗用には一部の特殊作業機を除き農作業用のものが使用される。造林用としては人力携行形の植穴掘機・刈り払い機が主体であるが，一部に耕耘機(こううんき)状の機体にそれらを装着したものも用いられる。林道・治山事業には山地土木用の機械がそのまま適用されることが多い。

素材生産の伐木・造林には，手鋸(てのこ)に替わって2サイクルガソリンエンジン駆動の1人用チェーンソーが主体であることは各国共通であり，また近年はトラクターに装着した油圧鋏(ばさみ)も用いられている。集材作業は，わが国は山岳林が主体であるため特異な集材機作業が発達したが，トラクター作業も行なわれている。集材機作業は1本の架空索を主索とし，搬器の走行，荷吊(つ)り滑車の上下および横取りは作業索により行ない，その操作は集材機のドラムの駆動・制動による。トラクター集材にはクローラトラクター・ホイールトラクターが用いられ，木材引き寄せ，鼻上げのためのウインチを装備する。ホイールのものは集材専用機で，四輪駆動・関節式車体・大形低圧タイヤなどに特色がある。クローラのものは，サルキー・鉄玉などに木材の先端をつり上げたり，乗せたりして運搬抵抗を減ずることが多い。運材用には，複線式または単線循環式の索道が用いられる。前者は林道密度の少ない民有林に多い。トラックなどへの木材の積みおろしにはクレーンが用いられるが，油圧把(つか)み機式のものが多くなった。近年，世界的傾向として，数工程の処理を可能とする機械または装置の開発が進んでおり，油圧伐採機には伐倒木をそろえて集材を能率化するもの，また自分の車台に載せかけて集材までを行なうものなどある。また集材したものについて枝払い，梢端(しょうたん)部切り落とし，造材を行なう高性能プロセッシングマシンなども出現している。

〔丸山正和〕



リンク装置


リンゴ ①紅玉 ②スターキング ③リチャーレッド ④東光 ⑤ふじ ⑥あかね

りんぎょうきほんほう 【林業基本法】 林業および林業従事者に関する国の政策の基本的方向を示す法律。第１次産業の経済的格差を是正するために〈農業基本法〉〈沿岸漁業等振興法〉に次いで1964年(昭和39)に公布された。政策の目標は，林業総生産の増大，他産業との格差是正，生産性の向上，林業の安定的発展，林業従事者の所得増大および社会的地位の向上におかれ，これらの目標達成のために国は必要な施策を総合的に講じなければならないとしている。この法律に基づき林業構造改善事業，国有林経営の合理化などが実施されている。

りんぎょうしけんじょう 【林業試験場】 林業に関する試験研究機関。農林省に所属する。林業試験場は〈林業に関する試験・分析・鑑定・調査・講習ならびに標本の生産・配布を行なう〉もので，調査・経営・機械化・造林・保護・防災・林産化学・木材・土壌(どじょう)など各部に分かれ，また地方に支場・分場・試験地がある。なお，都道府県にも都道府県立の林業試験場・林業指導所などが存在し，地域の特殊性に応じた試験研究業務を行なっている。〔野々村豊〕

りんきん 【淋菌】 淋病*の原因菌。1 μほどの腎臓(じんぞう)のような豆形に見えるグラム陰性の双球菌。分泌物や膿汁(のうじゅう)中では白血球の細胞質内に認められ，莢膜(きょうまく)・べん毛・胞子を欠く。接触感染によって尿路・性器に炎症を起こし，また，血管中を流れて激痛のある関節炎や髄膜炎を起こし，さらに新生児が産道感染によって結膜炎を起こして失明することもある。治療にはペニシリン・オーレオマイシンなどの抗生物質やサルファ剤が用いられるが，近年耐性菌が増加している。

リングせいぼうき 【リング精紡機】 ⇨精紡機

リンクそうち 【リンク装置】 細長い棒をピンで連結し，互いに回転できるようにした運動を伝える装置。おのおのの棒をリンクといい，回転するリンクをクランク，往復角運動をするリンクをてこまたはレバーという。また直線に沿ってすべる部品をスライダーという。これらを組み合わせることにより多種の機構が生じる。たとえば，内燃機関は，ピストン(スライダーに相当する)の往復運動から連接棒を経てクランクに回転運動を与えるリンク装置である。この装置の運動の順序を逆にして，先にクランクに回転運動を与え，連接棒を経てピストンに往復運動を与えればポンプとして利用できる。さらにリンク装置を用いて早戻(もど)り運動(→早戻り機構)をさせたり，力を増大させたりすることもできる。自在継ぎ手*もリンク装置の一種である。〔森田　鈞〕

りんけいどうぶつ 【輪形動物】 ⇨ワムシ

リンケージ ⇨連関

リンゲルえき 【リンゲル液】 リンガー液ともいい，イギリスのリンガー(1835～1910)が1882年につくり出した塩類の混合溶液。リンゲル液は，浸透圧pHが体液とほぼ等しく，イオン組成が適当(必ずしも体液のイオン組成と一致するものではない)なので，体外に取り出した組織・器官などを長時間正常に近い状態に保たせることができる。また，失血の際に血液の代用液としても注射される。リンゲル液は生理学的実験に広く用いられているが，当初はカエルの心臓を生かしておくためにつくられたものであり，現在では，当初のものとは多少組成が異なり，動物によって次のようなものが用いられる。冷血動物用：$NaCl$ 0.65g，KCl 0.014g，$CaCl_2$ 0.012g，$NaHCO_3$ 0.02g，NaH_2PO_4 0.01g，ブドウ糖0.2gに水を加えて100mlとする。ただし，ブドウ糖を除くこともある。温血動物用：$NaCl$ 0.9g，KCl 0.042g，$CaCl_2$ 0.34g，$NaHCO_3$ 0.01～0.03g，ブドウ糖0.1～0.26gに蒸留水を加えて100mlとし，溶液を体温に保ち，酸素を通じて用いる。なお，日本薬局方では，$NaCl$ 8.6g，KCl 0.3g，$CaCl_2$ 0.33gに注射用蒸留水を加えて100mlとするとしている。〔平野修助〕

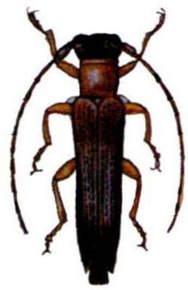
りんご 【林檎】 双子葉植物・バラ科。セイヨウリンゴはアジア西部～インド北部原産の落葉高木で高さ10mになる。若枝・葉・花柄は灰色の綿毛をかぶる。わが国には明治初年主として北アメリカからいろいろな品種が導入され，1900年(明治33)におのおのの品種に紅玉・国光などの日本名がついた。さらに大正から昭和にかけてデリシャス・スターキングなどの品種が移入され，のちに新品種も盛んにつくられている。葉は長さ５～10cm，幅４～６cmの長卵形で鋸歯(きょし)がある。４～５月，直径約３cmの白～淡紅色の５弁花をつける。果実(偽果)

はふつう直径7～10cmで生食し，またジャムなどに用いられる。変種の一つで古く中国から伝わったワリンゴ(別名ジリンゴ)は果実の直径が3.5～4cmと小さく，黄色の地に紅色斑点(はんてん)があるもので，まれに植えられている。〔加藤僖重〕

【栽培】栽培品種は，明治初年欧米から数多く輸入されたが，今日経済品種になっているものはアメリカから導入されたものに多い。主産地は青森・長野・岩手・北海道およびほかの東北諸県で，総栽培面積6万5,600ヘクタール。これはミカンに次いで第2位であり，ミカンとともにわが国の二大果樹をなす。自然的条件は平均気温6℃以上14℃以下，降水量1,300mm以下。土壌(どじょう)の適応範囲は広いが，有機質に富む埴壌土(しょくじょうど)が適しており，水分および空気の要求度が大きい。

品種には市販に多く見る国光・紅玉・旭(あさひ)・祝などは明治初年，デリシャスやゴールデンデリシャスは大正期に導入したものである。デリシャスには着色の早い枝変わりが出やすく，その代表的存在であるスターキング・リチャーレッド(リチャード)は昭和初期に導入された。後者は1931年(昭和6)，プロペラ機による初の太平洋無着陸横断飛行の成功を記念してアメリカから寄贈されたものである。印度は青森における古い偶然実生である。昭和になって交配実生による品種改良が行なわれ，青森県リンゴ試験場育成の大果の陸奥(むつ)，かおりのよい東光などは外国でも好評。農林省園芸試験場盛岡支場で育成されたふじ(国光×デリシャス)は甘味が多く，貯蔵がきくため，好評で大いに増植され，古い品種の更新にも用いられている。なおデリシャス系の品種やふじの果心から果肉に半透明，水浸状の部分が生ずることがあるが，これは生理障害で，蜜(みつ)がはいったと称し，この部分は甘く感じられるので，好む人もある。

整枝ははじめ変則主幹形で，のちに遅延開心形に移行する方法，あるいは主枝中心の半円形に仕立てられる。主枝数は2～3本，主枝から副主枝，側枝が構成される。剪定(せんてい)は樹形を整えながら，光線の透射に注意して，年々均産するよう間引きを中心に行なわれる。無袋栽培が行なわれることが多くなったが，さびの多い品種や着色を特によくしたい品種には袋掛けが行なわれる。土壌管理は浸食防止と土壌改良のため草生法・敷草法あるいは両者の併用が行なわれる。病害ではモニリア病の防除に注意し，実腐れ予防には早めに授粉することが有効。根を腐らせる紫および白紋葉病，葉の斑点ラクヨウ病，貯蔵中のゴム病など警戒を要する。害虫にはハダニ類・カイガラムシ類・キンモンホソガ・グンバイムシなどが重要である。1935年ごろまで駆除に手を焼いていたリンゴワタムシには輸入天敵ワタムシヤドリコバチが著しい効果を示した。〔岩垣駿夫〕



リンゴカミキリ

りんこう【燐光】 ルミネッセンスの一種で，ある物体に光をあて，その後光を取り除いても発光作用が残っている現象。蛍光(けいこう)に対する語。アルカリ金属およびアルカリ土類金属の化合物，特にカルシウム・ストロンチウム・バリウムなどの硫化物には顕著な燐光を発するものが多い。燐光を発する物質を燐光体というが，これは天然に産し，燐光を発する宝石類および硫化鉱物を除いて人工的につくられる物質をさす場合が多い。燐光体は，すべて固体である。夜光塗料などは長時間の燐光作用を利用するものである。〔中山忠己〕

りんごかみきり【林檎天牛】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カミキリムシ科。体長13～21mm。体は細長く，頭部・触角・第5腹板は黒色，前胸・体の下面の大部分・脚は黄かっ色。鞘翅は，基部は黄かっ色，両側部は黒色で，背面は粗大点刻があり，翅端の外縁角は棘状(きょくじょう)を呈する。本州・四国・九州・奄美(あまみ)大島・対馬(つしま)のほか，朝鮮・中国東北部に分布し，成虫は4～9月に発生する。幼虫は，リンゴ・サクラ・ナシ・ウメ・スモモなどに寄生する。成虫はスイカズラやニンドウの葉を食べ，夕暮れに産卵のため寄生植物の周辺を飛び回る。近似種にホソキリンゴカミキリ・ニセリンゴカミキリ・ヘリグロリンゴカミキリなど数種がある。〔鈴木邦雄〕

リンゴさん【リンゴ酸】 HOOC・CH(OH)CH_2COOH　L型として天然に存在し，植物の成分として広く分布している有機酸。特にカエデの樹液やリンゴ・ブドウなどの果汁(かじゅう)に多く含まれる。また，一般にリンゴ酸はトリカルボン酸回路に属する代謝物質であり，生体内のエネルギー獲得系に重要な働きを行なっている。清涼飲料水の酸味に用いられ，またシダ植物の精子がリンゴ酸に正の走化性を示すことも有名である。

りんごどう【林語堂】 リンユイタン(1895～1976) 中国現代の作家・ジャーナリスト。上海(シャンハイ)の聖約翰(セント-ジョンズ)大学を卒業，英語教師となり，1919年アメリカ，次いでドイツに留学，1923年帰国した。はじめ言語研究に従い，次いで魯迅(ろじん)・周作人兄弟らの語絲社(ごししゃ)に加入，エッセーを書き出した。国民革命のとき政治活動に従事したが，その挫折(ざせつ)後，公職にはつかずジャーナリズムで活躍した。中国語と英語とを使い分けて文明批評を書き，1930年代にはユーモア雑誌《論語》，小品文雑誌《人間世》などを編集して左翼公式主義にあきた当時の文壇に新風を吹き込んだ。1939年アメリカに渡り，それ以来，大部分はアメリカで過ごし，日中戦争から国共内戦にかけて国民政府側に立ち，英文で小説や評論を発表した。小説《北京好日》《嵐(あらし)の中の木の葉》などがある。晩年は，アメリカや東南アジアにいて執筆活動を続けたが，国民的基盤からは遊離してしまった。英文のエッセー集に《わが国土わが国民》《生活の発見》などがある。〔今村与志雄〕

りんごはなぞうむし【林檎花象鼻虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゾウムシ科。体長3～5mm。体は暗かっ色ないし濃かっ色で，脚はやや淡色。口吻(こうふん)はやや長く，触角はそのほぼ中央より出る。前脚の腿節(たいせつ)端には1個の棘状(きょくじょう)突起がある。鞘翅には2本の淡い白色毛からなる横帯がある。本州のほか，朝鮮・中国東北部・シベリア地方からヨーロッパまで広く分布し，リンゴやナシなどの花部を食害する。年1回の発生で，冬は成虫態で樹皮下などで越し，翌春4月ごろから出現する。幼虫は糸を吐いて花弁をつづり，芯(しん)や子房部を食害する。花の中でさなぎとなり，新成虫も若葉を葉裏から食害する。ナシハナゾウムシともよばれ，日本では長野・岩手県などで特に被害が大きい。〔鈴木邦雄〕

りんごわたむし【林檎綿虫】 こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・ワタアブラムシ科。無翅の胎生雌虫は，体長2mm内外，暗赤かっ色で，多量の白色ろう質の分泌物でおおわれる。有翅の胎生雌虫は無翅型よりも小形で複眼があり，触角は6節，口吻(こうふん)は長く中脚の基節を過ぎ，翅(はね)は透明で脚は短い。全世界に広く分布し，リンゴの害虫として知られる。年に10～20世代をくり返し，冬は若い幼虫態で根ぎわや幹のすきまなどで越す。幼虫・成虫ともに，新梢(しんしょう)・花梗(かこう)・葉柄などに群生寄生して吸汁(きゅうじゅう)加害する。本種の加害を受けると，新梢などにはこぶができてそこに白い綿状のものが見えるので容易にわかる。こぶはやがて縦に割れて枯死する。また，ときには根部に寄生して樹勢を衰えさせることもある。本種の天敵としては，北アメリカ原産のワタムシヤドリコバチ*が有名で，日本でも1931年(昭和6)に青森県下に輸入され，防除に大成功を収めたが，近年は農薬のために天敵が少なくなり，各地での発生も目だってきた。また，この類は，晩秋に出現する有翅虫が白色分泌物を体につけたまま飛ぶので，〈雪虫〉とか〈お綿〉などとよばれ，子どもたちに親しまれている地方がある。〔鈴木邦雄〕

りんざいぎげん【臨済義玄】（？～867）中国，唐代の禅僧。臨済宗の開祖。曹州南華の人。俗姓は邢（けい）氏。諡（おくりな）は慧照（えしょう）禅師。出家，遊歴ののち，黄檗（おうばく）希運禅師に謁して60棒を喫し，大愚に参じ，再び黄檗に帰って嗣法した。851年河北鎮州城南東の臨済院に住し，のち，興化寺に移った。機鋒峻烈（きほうしゅんれつ）の禅風で知られ，〈黄檗の棒，臨済の喝（かつ）〉と並称され，禅宗中最も隆盛をきわめた。著書に《臨済録》1巻がある。〔田中良昭〕

りんざいしゅう【臨済宗】 禅宗の一派。中国禅宗の六祖慧能（えのう）の下から，南嶽懐譲（なんがくえじょう）・馬祖道一・百丈懐海・黄檗（おうばく）希運を経て臨済義玄が出現し，独特の禅風を挙揚してその門流は大いに栄えたところから，臨済を開祖とする一派が成立した。これが臨済宗であって，同じく南嶽系の潙仰宗（いきょうしゅう），青原系の曹洞宗（そうとうしゅう）・雲門宗・法眼宗とともに五家とよばれ，さらに臨済宗の分派によって生じた黄龍（おうりょう）派と楊岐（ようぎ）派の2派を加えて五家七宗とよばれている。臨済の宗風は機鋒峻烈（きほうしゅんれつ）といわれ，きわめて厳格で，学人の指導には，〈三句〉〈四賓主〉〈四料簡（しりょうけん）〉〈四照用〉〈四喝（しかつ）〉といった手段を用い，特に喝は黄檗の棒と並び称せられて名をとどろかした。この臨済を祖とする門流は，その後ますます発展し，興化存奨・宝応慧顒（えぎょう）・風穴延沼・首山省念・汾陽（ふんよう）善昭・石霜楚円（そえん）と受け継がれたが，宋（そう）代に至って石霜下に黄龍慧南と楊岐方会が出て，それぞれ黄龍派と楊岐派を起こし，曹洞宗・雲門宗と相対峙（たいじ）して発展した。特に南宋代に楊岐派から出た大慧宗杲（そうこう）は公案禅を主唱し，同じころ曹洞宗から出た宏智（わんし）正覚の黙照禅と激しく対立した。日本への臨済禅の伝来は，二度にわたって入宋（にっそう）した栄西禅師が，黄龍派第7世の虚庵懐敞（きあんえしょう）に法をうけ，1191年（建久2）帰朝して博多（はかた）に聖福（しょうふく）寺，京都に建仁（けんにん）寺を開き，円（天台宗）・密（真言宗）・禅（禅宗）の三宗兼学の道場としたのが最初である。この栄西の伝えた一派は，のちに千光派といわれるが，以後黄龍派の伝来はなく，栄西と同時代の俊芿（しゅんじょう）が，楊岐派第7世の孫，蒙庵元聡（もうあんげんそう）に法をうけ，1211年（建暦1）帰朝して，京都の泉涌（せんにゅう）寺に，戒律とあわせて禅を広めたのが，楊岐派伝来の最初である。以後臨済宗の伝来はすべて楊岐派であり，禅宗伝来24流の内20流を数えている。鎌倉時代以後，その宗風が武家階級に好まれ，幕府の保護のもとに，主として京都・鎌倉を中心に栄え，五山十刹の制も敷かれ，独特の禅宗文化である五山文学を発展させ，日本文化の興隆に貢献した。明治以後，各派独立し，天龍（てんりゅう）寺・相国寺・建仁寺・南禅寺・妙心寺・建長寺・東福寺・大徳寺・円覚寺・永源寺・方広寺・国泰寺・仏通寺・向嶽寺をそれぞれ本山とする14派に分かれ，各派に管長が置かれ，全体で約6,000寺の末寺を擁している。➔禅宗〔田中良昭〕

りんざいろく【臨済録】 中国，唐代の禅僧臨済義玄の行なった説法の語や行実を弟子（でし）の三聖慧然（さんしょうえねん）が編集したもの。1巻。詳しくは《鎮州臨済慧照禅師語録》という。内容は法堂（はっとう）での説法である上堂，修行者への説示としての〈示衆〉，師と弟子との問答である〈勘弁〉，行状を記録した〈行録〉，石塔への刻記である〈塔記〉からなっており，禅宗の1派臨済宗の根本の書であると同時に，実践的な禅の真髄を説き尽くした書として重んぜられている。〔田中良昭〕

りんさく【輪作】 種々の作物を適当に組み合わせ，一定の順序で循環的に作付けする栽培方式。連作に対する語。連年同一作物を同一圃地に栽培すると，病害にかかりやすく，同一成分が不足気味となり，生育収量が低下する。輪作はこれを避けるための方法である。19世紀以来，輪作は有畜農業と結びつき，ヨーロッパ農業を飛躍的に発展させたが，ヨーロッパでは輪栽作物の一つに必ず牧草をとり入れている。輪作年数は2～5年が普通である。〔金木良三〕

りんさん【燐酸】 広義には五二酸化リンが水和した一連の酸 $P_2O_5 \cdot nH_2O$ を総称し，これにはオルトリン酸 H_3PO_4，メタリン酸 HPO_3，ピロリン酸 $H_4P_2O_7$，三リン酸 $H_5P_3O_{10}$，四リン酸 $H_6P_4O_{13}$，ポリメタリン酸 $(HPO_3)_n$ などがある。しかし，一般にはオルトリン酸（正リン酸）をさす。オルトリン酸は五二酸化リンに水を十分作用させるか，赤リンを濃硝酸で酸化して得られる無色の斜方晶系の結晶で，融点42.35℃。潮解性が強く，水には容易にとける（542g/100g（20℃））。中程度の強さの三塩基酸で不揮発性。熱すると213℃でピロリン酸となり，さらに赤熱するとメタリン酸となる。メタリン酸は無色透明，潮解性のあるかたいガラス状の固体で氷状リン酸ともよばれる。水によくとけ，重合体をつくる。徐々に水和してオルトリン酸になる。リン酸肥料の製造，清涼剤，歯科用セメント，医薬品などに用いられる。〔竹下三吉〕

りんさんアンモニウム【燐酸アンモニウム】 オルトリン酸が三塩基酸であるため，次の3種の塩が存在する。①リン酸三アンモニウムあるいは第三リン酸アンモニウム $(NH_4)_3PO_4 \cdot 3H_2O$ 無色の柱状晶で水に可溶。②リン酸水素二アンモニウムあるいは第二リン酸アンモニウム $(NH_4)_2HPO_4$ 無色，単斜晶系の結晶。比重1.619，155℃でアンモニア1分子を失ってリン酸二水素アンモニウムになる。水にはとけるが，エチルアルコール・アセトンには不溶。ふつうリン酸アンモニウムといえばこれをさし，俗にリン安ともいう。肥料などに用いられる。③リン酸二水素アンモニウムあるいは第一リン酸アンモニウム $NH_4H_2PO_4$ ADPと略称する。無色の正方晶系結晶。比重1.803，融点190℃，水に可溶。圧電率・誘電率が大きく，圧電振動子などに用いられる。

りんさんえん【燐酸塩】 リン酸の塩。種々のリン酸に対応して多くの塩があるが，一般にはオルトリン酸塩をさす。オルトリン酸は三塩基酸であるため第一塩 MH_2PO_4，第二塩 M_2HPO_4，第三塩 M_3PO_4（Mは一価の金属）の3種の塩が存在する。第一塩はすべてが水に可溶，第二，第三塩はアルカリ塩のみが水にとける。加熱すると第一塩はメタリン酸塩に，第二塩はピロリン酸塩になるが，第三塩は不変である。また第三塩は結晶しにくい。リン酸塩はリン酸肥料の成分として重要である。

りんさんカルシウム【燐酸カルシウム】 オルトリン酸は三塩基酸であるため3種の塩が知られる。①リン酸三カルシウムまたはリン酸第三カルシウム $Ca_3(PO_4)_2$ 天然にはリン灰石として産する。また動物の骨・歯などの主成分である。人工的には第二リン酸ナトリウムの溶液にカルシウム塩の溶液およびアンモニアを加えて沈殿として得る。白色の無定形粉末，比重3.14，融点1,670℃。水には難溶。酸にはとけるがエチルアルコール・アセトンにはとけない。乾燥の程度によって1，2，5水和物が知られる。栄養剤・制酸剤などのほか，釉（うわぐすり）・エナメルの添加剤などに用いられる。②リン酸一水素カルシウムまたは第二リン酸カルシウム $CaHPO_4$ 中性カルシウム塩溶液にリン酸アルカリを加えると沈殿する。水中に長く放置すると2水和物となる。無色の単斜・斜方・六方晶系の結晶で，比重2.306，75℃で無水物となる。水には難溶，酸にはとけるがエチルアルコールにはとけない。医薬品・ガラス製造などに用いられる。③リン酸二水素カルシウムまたは第一リン酸カルシウム $Ca(H_2PO_4)_2$ リン酸三カルシウムを硫酸で処理して得る。ふつう1水和物で，無色，三斜晶系の結晶，比重2.220，109℃で無水物となり，200℃でメタリン酸カルシウムとなる。水には容易にとけ，30℃では100gの水に1.8gとける。また酸にはとけるがエチルアルコールには不溶。肥料として重要で，過リン酸石灰・重過リン酸石灰の主成分である。またエナメルやガラスの製造にも用いられる。〔吉村公平〕

りんさんひりょう【燐酸肥料】 窒素・カリと並ぶ肥料の三主要成分の一。ほとんどすべての原料がリン鉱石に由来する。現在世界のリン鉱石埋蔵量は300億tといわれるが，日本ではほとんど産せず，アメリカ・アフリカなどから輸入している。リン鉱石中のリン酸はフッ素アパタイト $Ca_{10}F_2(PO_4)_6$ の形をしており，よほど微粉末にし

ないかぎり肥効はない。この構造をこわしてリン酸を有効化する処理法には湿式法と乾式法とがある。前者は硫酸・リン酸・硝酸などの酸で分解するもので，製品はおもに水溶性のリン酸塩を含む過石・重過石・リン安などである。後者はリン鉱石を塩基性の塩類とともに高温で焼成または溶融する方法で，おもに枸溶（くよう）性（2％クエン酸可溶性，植物に有効とされる）のリン酸を含む塩基性または中性の肥料で，多量の石灰・ケイ酸を含む溶リン・焼リンなどをつくる。1970年（昭和45）度のわが国のリン酸P_2O_5生産量は57万t，このうち肥料としての消費量は43万tである。なお，最近は40％以上が高度化成肥料の形で用いられている。〔早瀬達郎〕

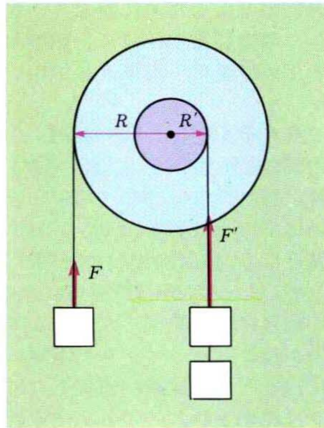
りんさんぶつ【林産物】⇨林業

りんじ【綸旨】古文書の一様式。奉書形式の文書のうちで，天皇の命を蔵人（くろうど）が奉じて出すものをいう。平安中期以降，宣旨*に代わって多くみられるようになり，南北朝時代には特に盛んに用いられた。その多くは宿紙（すくし）（漉返紙（すきかえしがみ））を用い，漉返したために薄墨色をしているところからこの紙を〈薄墨紙〉とも称し，さらにこの綸旨を〈薄墨の綸旨〉ともよんだ。また戦乱の際用いた小形の切紙の綸旨は，密使が髻（もとどり）に折り込んで携行したので，これを〈髻の綸旨〉と称したといわれている。〔飯田悠紀子〕

りんじく【輪軸】直径の異なる二つの輪を同一の軸に固定し，それぞれの輪に逆向きに綱を巻きつけ，小さい力で大きい力が得られるようにしたもの。てこと滑車を組み合わせたものといえる。大きい輪の半径をR，小さい輪の半径をR'，それぞれの輪に巻いた綱の張力をF，F'とするとつり合いの条件は$F \cdot R = F' \cdot R'$である。輪軸は重いものを引いたり，つり上げたりするのに用いられる。

りんじこう【臨時工】臨時に短期間使用される労働者。わが国では，本来の意味の臨時工は少なく，本工と同じ仕事に従事し，契約更新をくり返して長期間勤務している者が多い。そのため本工と臨時工という語は，労働条件・身分保障・社会保険などにある身分的・地位的な差異を示すにすぎないものとなっている。また臨時工は，労働組合の組織外にあるため本工に比べて一方的に解雇されやすく，賃金やその他の労働条件も非常に劣悪で，景気変動に対する使用者の安全弁となっている。さらに臨時工には，本工の賃金その他の労働条件を引き下げるという社会的機能もあり，労働法上，その契約・解雇との関連，労働基準法21条（解雇の予告）の解釈などが問題となっている。なお，最近は臨時工の採用よりも，社外工やパートタイマーの使用のほうが盛んになりつつある。〔河井研一〕

りんじこっかい【臨時国会】臨時会と



輪 軸

もいう。通常国会*（常会）のほか臨時の必要により召集される国会*。召集権は内閣にあるが，衆・参両院どちらかの議院の総議員の4分の1以上の要求があれば内閣はその召集を決定しなければならない（憲法53条，国会法3条）。この規定は少数党に国会審議の機会を設定しようとしたものである。しかし臨時国会の召集の要求があってから，内閣がどのくらいの期間内に召集しなければならないかについては法的に定められていない。なお，地方議会でもほぼ同じ手続きを経て召集される（地方自治法101条1項）。〔吉田善明〕

りんししつ【燐脂質】親水性基にリン酸エステルをもつ脂質の総称で，複合脂質の一。生体中にみられる脂質の70％以上を占め一般的に臓器の活動力の高いときほどリン脂質＋コレステリンの含量が高まるなど，生体にとって活発な役割をになっている。疎水性基がグリセリドよりなるものをグリセロリン脂質，スフィンゴシンよりなるものをスフィンゴリン脂質として分類している。グリセロリン脂質にはケファリン・レシチン・プラズアローゲン・エーテルリピドなどがあり，スフィンゴリン脂質にはスフィンゴミエリンなどがある。

りんしつ【淋疾】⇨淋病

りんじょ【林紓】（1852～1924）中国，清（しん）代末期の翻訳家。林琴南ともいう。福建省の人。桐城派（どうじょうは）の古文を学び，1899年友人の口訳をたよりに，デュマ－フィスの《椿姫（つばきひめ）》を古文で《巴黎（パリ）茶花遺事》と題して訳出，大いに評判となり，それ以後，共訳者の協力を得て，シェークスピア・ディケンズ・セルバンテスらから群小作家に至るまでヨーロッパやアメリカなどの作品160種ほどを訳述して，西洋文学の香気を中国の読者に伝え，啓蒙（けいもう）的役割を果たした。ただ彼自身は保守的な文学観の持ち主で，文学革命*には反対の急先鋒（せんぽう）となった。〔今村与志雄〕

りんしょう【輪唱】2声部以上のカノン*で，各パートで，終わりまで歌ってから初めにもどって歌い，それを適当にくり返してよいもの。たとえば声部が三つで，音楽がa～b～cの3部分に分かれており，最初に歌い出したパートが二度歌って止めるとすると，次のようになる。したがって，a・b・cの3部分は同時にどのように組み合わされても合うようにつくられている。

Ⅰ　a～b～c～a～b～c
Ⅱ　　　a～b～c～a～b
Ⅲ　　　　　a～b～c～a

〔徳丸吉彦〕

りんしょういがく【臨床医学】実際に病人を診察・治療しながら，診断・治療・予後，その他疾患に関する種々の事がらを研究する医学の一分野。基礎医学（生理学・解剖学・生化学・薬理学・病理学・衛生学・公衆衛生学・細菌学・法医学など）に対してよばれる。診断と治療の2面に大別され，前者には診断学・臨床検査学・放射線医学などがあり，後者には内科学・外科学・産科学・婦人科学・小児科学・皮膚科学・眼科学・耳鼻咽喉（いんこう）科学・泌尿（ひにょう）器科学・精神科学・整形外科学・放射線科学・歯科学などがある。臨床医学に携わる医師を総称して臨床医とよぶ。〔佐野隆志〕

りんしょうじょ【藺相如】中国，戦国時代の政治家。趙（ちょう）の恵文王・孝成王を補佐して，秦（しん）の東方進出の勢いに対抗した。秦への使者にたって和氏（かし）の璧（へき）という名玉を無事に持ち帰ったことや，BC279年の澠池（べんち）の会同で秦の野望をくじいたことなどの外交手腕により，上卿（じょうけい）に任ぜられた。将軍の廉頗（れんぱ）が，藺の官位の高いことに嫉妬（しっと）したとき，国家のために争いを避け，のちにふたりは〈刎頸（ふんけい）の交わり〉を結んだことも有名。〔小南一郎〕

りんしょうしょくぶつ【林床植物】森林の中で灌木層（かんぼくそう）以下の範囲に生活する植物や植物集団。森林はさまざまな高さをもつ植物によって構成されるが，基本的には高木層・低木層・灌木層・草本層・地衣蘚苔層の階層に分けられ，各階層はその環境を反映する。森林によっては，これら各階層のうち，いずれかの階層が存在しないこともあるが，林床植物が欠けることはない。したがって林床植物は森林の生活環境を示す指標植物として林業上重要視されている。〔片岡寛純〕

りんしょうしんりがく【臨床心理学】個人の適応の診断・指導・治療およびこれらに関する理論的研究を目的とする心理学。一般の心理学が人間の行動を一般的に研究するのに対し，臨床心理学では，個人の適応行動を，その個人に即して研究し，適切な心理学的処置を加えることを目的とする。研究の対象および方法は，精神医学・異常心理学・犯罪心理学などと一部重複する。

りんしるい【鱗翅類】こん虫類・鱗翅目。チョウ類とガ類とが含まれ，体と翅（はね）が鱗粉により密におおわれるためこの名がある。体は細長くやや円筒形で，通常大

きな翅をもつ。口器は大顎(おおあご)が一般に退化し，小顎の一部が伸びて汁液(じゅうえき)の吸収に適した口吻(こうふん)となり，通常はぜんまい状に巻かれている。翅には鱗粉の配列によってつくられる各種の斑紋(はんもん)があり，種を決める重要な特徴となっている。翅脈は横脈が非常に少なく，縦の脈とで中室をつくっている。完全変態を行ない，卵・幼虫・さなぎを経て成虫となる。幼虫はイモムシ・ケムシ・アオムシなどとよばれ，重要害虫が多く含まれる。種類数は世界で約11万種が知られ，そのうちチョウ類は6分の1を占めている。この中にはヨナクニサンのように翅を広げると300mmになるものから，モグリチビガのように2mmほどと小形のものまで含まれる。日本では現在チョウが225種，ガが3,300種ほど知られている。大部分のガとチョウとは本質的には違いはなく，分類学上は同一の群に入れられる。➔ガ　➔チョウ　〔多々内修〕

りんず　【綸子】　経糸(たていと)で地を緯糸(よこいと)で文(地紋)を織出した絹織物。普通は地を経の五枚繻子(しゅす)または八枚繻子組織とし，文をその裏組織である緯五枚繻子または緯八枚繻子組織とする。経緯とも無撚(むより)の生糸で織り，製織後精練して用いる。繻子組織のために絹の光沢が強く，地質が柔らかい。地と文とでは組織が反対になるため光の反射が異なり，文がはっきり見えて変化がある。地と文との割合がほぼ同じくらいに織られることが多いので，白生地のままのときは表裏の区別がつけにくい。紗綾形(さやがた)にキク・ランを配した文が古くから織られてきたので，現在でもこれが綸子の代表的なものとなっている。繻子は，古くから染呉服用の生地として広く用いられてきた。現在でも主として女物の盛装用の着物や染帯・羽織・羽裏などに使用されている。現在，石川県小松が綸子の製織の中心地で，小松綸子として著名であり，京都府丹後および新潟県五泉も多量の綸子を織っている。　〔北村哲郎〕

りんせいどう　【燐青銅】　少量のリンを加えた特殊青銅。リンは青銅中に含まれる酸化物を還元除去して湯流れをよくし，強さ・靭性(じんせい)を大きくするとともに耐食性をよくする。工業用リン青銅は次の3種に大別される。①普通青銅をリンで脱酸しただけのもの。青銅より鋳造性がよく，強靭かつ耐食性もまさる。②スズ10％以下の青銅に0.35％以下のリンを残した鍛練用のもの。展延性に富み靭性もある。軟鋼程度の機械的性質をもち，耐食性ははるかにまさる。各種機械部品に加工して使用されるほか，棒・板・線・管に加工されるなど用途が広い。ばね用リン青銅はスズ7～9％のもので，リン0.03～0.25％を含む。良好なばね性を発揮させるために，冷間加工後低温焼き鈍(なま)しを行なう。③スズ10％以上の青銅にリン0.3～1.5％を加えたもの。過剰のリンのためにかたく，靭性は小さいが，摩擦係数が小さく，耐摩耗性が大となるため軸受け・歯車として用いられる。　〔藤井康次〕

りんそくじょ　【林則徐】　(1785～1850)中国，清朝(しんちょう)末の政治家。福建省の出身。字(あざな)は元撫・少穆(しょうぼく)。おくり名は文忠。1811年の進士。1837年に湖広総督となり，黄爵滋に次いで阿片(あへん)厳禁を上奏した。1839年欽差(きんさ)大臣となり，阿片輸入の根絶を図ったことから翌年阿片戦争が起こった。イギリス海軍の攻撃のまえに宮廷内で降伏派が優勢となると，1840年9月免職された。のち太平天国平定のための欽差大臣に任ぜられたが，赴任途上で病没した。著書に《林文忠公政書》などがあり，また西洋事情・知識の最初の翻訳者のひとりでもあった。　〔狭間直樹〕

リンター　［linter］　綿実から綿繊維を採取したあと，綿実の表面に残る微細短小な綿繊維。長さは3mm以下，紡績することができないので，綿火薬の原料，寝具類の中入れ綿，吸水材料，マットレスなどに利用するほか，キュプラ・アセテートなどの繊維素再生繊維の原料として用いられる。

りんたんぱくしつ　【燐蛋白質】　補欠分子団としてリン酸を含む複合タンパク質。一般の組織ではほとんど認められず，乳腺(にゅうせん)や産卵中の鳥類の肝臓および血清などに含まれている。代表的なものにはカゼイン(乳汁(にゅうじゅう))・ビテリン(卵黄)・ビテレニン(卵黄)などが知られている。リン酸との結合はエステラーゼによって分解される。

りんちゅうどく　【燐中毒】　黄リンまたは有機リン化合物による中毒。黄リンは猛毒で殺鼠(さっそ)剤などに含まれており，ことにねこいらずは約8％の黄リンを含んでいる。リンは油などに溶解していると吸収が速く，服用後30分～1時間で中毒症状が現われる。0.2～0.5g，場合によっては0.05～0.1gで死ぬこともある。死に至る時間は中毒時より7時間～7日。嚥下(えんげ)による急性中毒の場合は麻痺(まひ)様症状・胃腸症状を呈し，ときに急死する。胃腸内容は特異な黄リン臭を発し，暗所で発光(リン光)を認める。亜急性のものは嘔吐(おうと)・腹痛・下痢・皮膚出血・タンパク尿などが認められ，肝臓を冒して黄色肝萎縮(いしゅく)・脂肪肝を呈し，数日後に黄疸(おうだん)がみられる。治療はできるだけ早くリンを体外に排出することで，場合によっては輸血を試みる。　〔朝倉　了〕

リンツ　［Linz］　オーストリア北部の都市。人口20万3,000(1971)。ドナウ川に臨む河港市で，大規模な水力発電所があり，鉄鋼・繊維・製紙工業が盛ん。8世紀建造のバロック様式の寺院や博物館がある。旧名はレンチア。

リンデ　［Carl von Linde］　(1842～1934)　ドイツの工学者。ミュンヘン工科大学教授。アンモニアを用いた冷凍機を作成し，1879年リンデ製氷機製作会社を創立。1895年には〈リンデの装置〉とよばれる空気の液化装置を発明し，1902年には液体酸素の分離に成功するなど，低温工業の発展に貢献した。

リンド　［Robert Lynd］　(1879～1949)　イギリスの随筆家・批評家。アイルランドの生まれ。ロンドンに出てジャーナリストになり，〈Y・Y〉という筆名で死ぬまで《ニュー-ステーツマン》誌などに寄稿。文芸に対する理解が深く，機知とユーモアにいろどられた穏健な論理と美しい文体とでイギリス人に愛された。随筆集に《アイリッシュとイングリッシュ》《道路の両側》，文芸評論に《新旧大家》などがある。

りんどう　【龍胆】　双子葉植物・リンドウ科。山野に自生する多年草。茎は四角柱で，高さ20～60cm。葉は無柄で対生し，10～20対と数多くつき，長さ5～8cm，幅1～3cmの卵状披針(ひしん)形，3条の縦脈が目だつ。9～11月，葉腋(ようえき)や茎頂に紫色で長さ4.5～6cmの筒状花を1～数個つける。花冠は5裂し，各裂片の間に小さな副裂片をもつ。果実は有柄の蒴果(さくか)である。根茎および根を龍胆(りゅうたん)といい，苦みがあり，健胃薬とされる。花は切り花に用いられる。葉の広いものをササリンドウ，細いものをホソバリンドウという。リンドウ属(ゲンチアナ)には次のようなものがある。エゾリンドウは東北地方から北海道に分布する種で，根が太く，青紫色花をつけ，花冠裂片は平開する。オヤマリンドウは関東・中部地方の高山に分布し，葉は小さく，花は青紫色であるが花冠裂片は平開しない。トウヤクリンドウも高山植物の一つで，葉は細く，黄緑色花をつける。以上はすべて秋咲きであるが，春咲きのものに次の各種がある。ハルリンドウは山野の陽地にはえる越年草で，高さ10cm前後，青紫色花をつけ，根出葉はロゼットをなす。タテヤマリンドウはハルリンドウの変種で全体小形，高山の湿原にはえる。フデリンドウは山野の林内にはえ，ハルリンドウに似るが根出葉はない。コケリンドウはさらに小さな越年草で，日あたりのよい野原にはえ，花色は薄い。これらのほか，ゲンチアナールテアのように苦味健胃剤のゲンチアナ末をとるものもある。また，ツルリンドウは山地にはえるつる性の多年草で，リンドウ属とは別属のツルリンドウ属の植物である。　〔加藤僖重〕

りんどう　【林道】　森林の内外に通じて，林産物の運搬と林業経営のために必要な交通を目的として築造された施設。自動車道・森林鉄道・牛馬道・木馬道など規模はいろいろである。これらの林道を組織だてた運材系統を林道網といい，その整備状況は林業経営上の集約度をはかる一つのめやすと

リンドウ

①リンドウ　②ミヤマリンドウ　③ゲンチアナ-アコーリス　④ハルリンドウ　⑤タテヤマリンドウ　⑥フデリンドウ　⑦ササリンドウ　⑧ツルリンドウ　⑨ゲンチアナ-ベルナ　⑩ゲンチアナ-ルテア












もみられる。林道は林業経営上および森林の価値にも重大な関係があり，その地域の未開発資源の開発，文化の向上に役だつことも多大である。　〔夏目　正〕

リンドグレーン　[Astrid Lindgren]（1907～　）　スウェーデンの女流児童文学作家。南西部のビンメルビュー出身。おてんばでユーモラスで奔放な少女のひとり暮らしを描いた《長靴下(くつした)のピッピ》(1945)によって画期的成功を収め，次々に〈ピッピ〉シリーズを発表，世界的人気作家となる。さらに，少女時代の田園生活を素材として子どもの四季の生活を描いた《やかまし村の子どもたち》，寂しい少年の幻想の世界を描いた《ミオ，私のミオ》，冒険童話《名探偵(たんてい)カッレくん》などの作品によって20世紀児童文学において最も注目される作家となった。スウェーデンにおける人気は成人文学作家も含めてつねに首位を占めている。　〔鈴木徹郎〕

リンドバーグ　[Charles Augustus Lindbergh]（1902～1974）　アメリカの飛行家。ウィスコンシン大学に入学したが，飛行学校に転校，飛行士となった。1927年5月20～21日，ライアン単葉機スピリット-オブ-セントルイス号により，ニューヨーク～パリ間5,700kmを単身33時間30分で飛び，大西洋無着陸飛行に成功した。のち，子息の誘拐(ゆうかい)死事件にあって傷心のあまりヨーロッパ各国を回り，1939年帰国して陸軍省にはいったが，第2次世界大戦の開始期にルーズベルト大統領の政策に反対して辞職した。しかし日本の真珠湾攻撃以後は空軍顧問となり，准将に進級した。《セントルイス号の精神》などの著書がある。　〔大崎　晃〕

りんね【輪廻】　梵語(ぼんご) saṃsāra（サンサーラ）の訳で，〈生死〉〈流転〉とも訳される。生あるものは一つの生存状態から他の生存状態へと何度も再死再生をくり返すという信仰で，古代インドで一般に信じられていたものを仏教が採用したものである。次の生存状態を決定するものは，その前の生存における*業（行為およびその影響）である。このように輪廻は早くから業説と結びつけられて業報輪廻説となった。生存の状態は，欲界・色界・無色界の三界として，あるいは地獄・餓鬼・畜生・阿修羅(あしゅら)・人間・天上の*六道（六趣）として具体的に説かれた。仏教は輪廻の生存をすべて苦の世界（一切皆苦）として表象し，この苦なる輪廻の世界から解放されることを〈*解脱〉といった。解脱した状態は〈*涅槃(ねはん)〉の世界であり，再死再生することのない安穏な理想世界（涅槃寂静）である。業報輪廻説はもともと仏教への入門的な教えとされたが，しだいに仏教思想そのものに変貌(へんぼう)していった。　〔岡部和雄〕

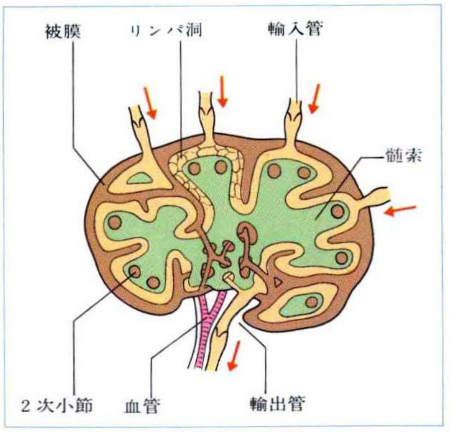
リンネ　[Carl von Linné]（1707～1778）　スウェーデンの植物学者で，近代植物分類学の基礎をつくった。ラシュルトの牧師の家に生まれ，ルンド・ウプサラ両大学で学ぶ。のちオランダ・イギリス・フランスに留学し，帰国したのちウプサラ大学教授。植物分類学におけるリンネの功績は，おしべの数と位置を規準として分類を行ない自然分類に近づいたこと（1735），および二名法を完成したこと（1753）などにある。リンネは花粉に植物の成体が前成している

と信じていたため，花粉をつくるおしべを最重視したのである。彼はしばしば種の不変の主唱者とみなされているが，晩年において，交雑と環境の影響により新しい種，新しい属が生じると考えるに至った。ただしその場合も，神が各属・各目の共通植物を創造したと信じているので，リンネは完全な進化論者であるとはいえない。〔中村禎里〕

リンパ［lympha］淋巴とも書く。リンパ管*内を流動している液体をいう。人体は組織液という液体に浸されているが，リンパは組織液の一部がリンパ管内に収容されたものである。無色透明の漿液(しょうえき)性の液体で，有形成分として白血球，おもにリンパ球*を含んでいる。体外に出ると凝固するが，きわめて遅く，十分には固まらない。pH7.1と弱アルカリ性を示し，タンパク質・糖・脂肪・塩類・酵素・ホルモンなどを含み，血漿に似た組成であるが，タンパク質濃度は2～5％と低い。しかし，リンパは臓器・組織の別や，臓器の活動状態によって組成が変化する。肝臓由来のものはタンパク質濃度が高い。腸由来のものは脂肪吸収のため，脂肪の小球を多数含んで白濁しており，特に乳糜(にゅうび)とよばれる。リンパ管系にはポンプ作用をする心臓のようなものはなく，筋運動・動脈搏動(はくどう)・呼吸運動などがリンパ管に圧力となり，リンパは受動的に体の末梢(まっしょう)から中心部へと流れ，鎖骨下静脈のあたりで静脈にはいる。このとき，リンパ管内の弁が逆流を防ぐ役目をする。リンパの流動量は安静時の健康人の胸管では，体重1kg1時間あたり，1.0～1.6mlで，全血漿のほぼ60～100％にあたる量が，1日間に胸管から静脈中に放出されている。リンパ流がフィラリヤの寄生や癌(がん)の転移などで障害されると，鬱滞(うったい)を起こして乳糜性腹水・乳糜水などが起こり，また結合織の増殖をひき起こして象皮病の原因となる。〔三好和夫〕

リンパかん【リンパ管】 リンパ*(リンパ液ともいう)を運ぶ管。全身のほとんどに分布し，管が合しながらリンパを集めしだいに太くなって静脈の本幹に注ぐ。リンパ管は血管(特に静脈)と並行していることが多く，ときには1本の血管の周囲に数本が存在する場合もある。静脈と同じように逆流を防ぐ意味で弁をもち，その数は静脈よりも多く，流速は静脈血より遅い。リンパ管は小腸から吸収した脂肪を運ぶことが知られている。なお，リンパ管の全身における分布は，左右によって異なる。〔高野一雄〕

リンパきゅう【リンパ球】 白血球の一種で，円形，単一の核をもつ小形の細胞。リンパ節・脾臓(ひぞう)・腸管のリンパ装置などのリンパ組織で産生される。胸腺(きょうせん)は中枢性のリンパ組織と考えられ，胸腺からのリンパ球は，胎生期に上述リンパ組織に種まきされ，成人して胸腺退縮後も播種(はしゅ)されたリンパ球は機能を発揮する。上述リンパ組織で産生されたリンパ球はリンパ中に放出されて循環し，血液中に流入して血液中のリンパ球となり，その大部分は再びリンパへと再循環している。血液中のリンパ球数は生後6か月ないし1年が最も多く，白血球数11,000～12,000/mm³のうち約70％を占める。年齢とともに減少して，成人では4,000～9,000/mm³のうち，25～45％を占める。大きさから原形質の狭い小リンパ球と原形質が広い大リンパ球に分けられる。リンパ球には運動能があり，手鏡様の運動をする。以前，小リンパ球は分裂能のない終末細胞と考えられていたが，近年試験管内で抗原刺激，フィトヘムアグルチニンのような非特異的刺激によって，幼若化してリンパ芽球となり，分裂することがわかった。この能力を有するのは，末梢(まっしょう)血リンパ球の約3分の1にあたるといわれている。寿命は3～4日と短命のものと，100～200日と長命のものとがあり，後者が幼若化，分裂の能力をもち，再循環していると考えられている。リンパ球は，また，生体組織中にも容易に出入りし，リンパ節や脾臓で破壊されるといわれている。また腸管中に遊出して損失されるリンパ球も多い。生体内におけるリンパ球の機能は免疫反応，特に細胞免疫に関与し，生体防御を行なうことである。〔三好和夫〕



リンパ節 構造

リンパせつ【リンパ節】 リンパ管*の途中にある結節状の小体。臨床医学ではリンパ腺(せん)とよばれる。結合組織からなり，多くはアズキ大からソラマメ大で数個から数十個群をなすことが多い。リンパ管はしだいに集合して鎖骨下静脈に流れ込むが，そのまえに身体の各所にあるリンパ節を必ず1回は通過する。リンパ球を産生するほか，細菌の侵入によって肥大する。頸部(けいぶ)・鼠蹊(そけい)部などに多い。➔リンパ

リンパせん【リンパ腺】 ⇨リンパ節

リンパせんえん【リンパ腺炎】 リンパ節*(腺)に起こる炎症。臨床的に次の三つに大別される。①急性リンパ腺炎：傷口や感染された傷から病原菌が侵入してリンパ腺を冒す場合で，化膿(かのう)菌の感染によることが多い。症状は急激にリンパ腺が赤く腫(は)れて疼痛(とうつう)を認め発熱をきたし，高度のものは膿瘍(のうよう)を形成する。安静を保って冷湿布をし，抗生物質を投与する。また膿瘍に対しては切開排膿する。②単純性慢性リンパ腺炎：湿疹(しっしん)・皮膚炎・むし歯・扁桃炎(へんとうえん)・咽頭炎(いんとうえん)・潰瘍などの慢性炎症からリンパ腺が冒されるもので，1～数か所のリンパ腺が慢性にかたくはれるが，化膿することは少なく疼痛も軽い。原因となっている病気が治癒(ちゆ)すればそれに伴って自然に治癒する。③結核性リンパ腺炎：結核菌がリンパ腺に侵入して起こるもので，頸部(けいぶ)リンパ腺や腋窩(えきか)リンパ腺が最も冒されやすい。通常数か所のリンパ腺が徐々にはれしだいに癒着して腺塊をつくる。熱感や疼痛は伴わないが，軟化して冷膿瘍となり，皮膚に破れて瘻孔(ろうこう)をつくるときわめてなおりにくいものとなる。安静にして栄養を補給し，X線照射や抗結核剤の投与，また必要によりリンパ腺を摘出したり，冷膿瘍の切開搔爬(そうは)を行なう。〔佐野隆志〕

リンパせんしゅよう【リンパ腺腫瘍】 リンパ節*(腺)に原発した腫瘍またはそこに転移した癌(がん)。悪性リンパ腫ともいい，濾胞(ろほう)性リンパ節腫・ホジキン病・リンパ肉腫・細網肉腫などがある。アメリカではホジキン病，日本では細網肉腫が多く，おもに頸部(けいぶ)や腋窩(えきか)に現われる。大きさは米粒大から鶏卵大までいろいろで，全身のリンパ節が腫大することもある。ときに高熱をみることもあり，その傾向は特にホジキン病に多い。予後は一般に不良である。治療には副腎(ふくじん)皮質ホルモン*・エンドキカン・ビンクリスチン・ビンブラスチンなどが用いられる。放射線照射や外科的に除去することもある。〔大橋辰哉〕

りんびょう【淋病】 淋菌*の感染によって起こる性病の一。淋疾ともいわれる。おもに保菌者との性交によって感染し，尿道・子宮・眼球などの粘膜が冒される。症状は男女によって異なる。

【男子の淋病】 淋菌性前部尿道炎を主体として，全性器および遠隔臓器に合併症をきたす。感染後3～5日の潜伏期を経て発病する。初期には粘液様の分泌物があり，尿道先端に軽度の排尿痛を感じ，次いで分泌物は膿性(のうせい)となり，尿道粘膜が発赤腫脹(しゅちょう)し，排尿時の熱感あるいは疼痛(とうつう)が増強する。感染後2週間めごろより分泌物は膿厚となってやや緑色を呈し，しばしば疼痛性勃起(ぼっき)に悩まされる。疼痛のない場合もあり，また，排膿があっても必ずしも淋病とは限らないので注意を要する(➔尿道炎)。放置しておけば多くは慢性淋菌性前部尿道炎に移行し，やがて後部尿道炎へ進展すると頻尿(ひんにょう)となり，排尿の終了時には出血することもある。合併症

としては，前立腺炎(ぜんりつせんえん)・副睾丸炎(ふくこうがんえん)・亀頭(きとう)包皮炎・膀胱炎(ぼうこうえん)などがあり，淋菌が手などから目にはいれば膿漏眼*となる危険がある。

〔女子の淋病〕症状は年齢・処女・非処女などによって異なり，卵巣機能と深い関係にある。感染から発病までの潜伏期も1～40日で不定である。女児では入浴や下着などから間接的に感染し，小児淋菌性外陰膣炎(ちつえん)を起こす。この場合，自覚症状はほとんどないが，黄色の膿性分泌物がある。処女では尿道炎，非処女では尿道炎とともに子宮頸管炎(けいかんえん)にかかることが多い。老女ではこのほかよく膣炎の症状を伴う。成人女子の急性淋病の症状としては，性器下部の強い瘙痒(そうよう)感が顕著で，これがのち灼熱(しゃくねつ)感に変わって外陰部に触れると激痛を感ずる。このほか前庭部の充満感，頻尿，排尿末出血，膿性帯下，下腹痛，発熱などがある。合併症としては，尿管炎・子宮内膜炎・卵管炎・卵巣炎・腹膜炎・膀胱炎・眼疾患などがある。

治療には，ペニシリン・サルファ剤・ストレプトマイシン・オーレオマイシンなどが用いられる。〔藤井和明〕

りんぴょう【林彪】リンピャオ（1908～1972） 中国の軍人・政治家。湖北省出身。黄埔(こうほ)軍官学校卒業後，共産主義青年団に加入。1928年，井岡山で毛沢東*・朱徳*のもとで紅軍の建設と戦闘指導にあたった。日中戦争中は，抗日軍政大学校校長として，幹部養成の実績をあげる一方，板垣(いたがき)師団21旅団撃破（平型関の戦い）をはじめ日本軍を大いに悩ませた。また，東北人民解放軍司令として蔣介石(しょうかいせき)軍を，朝鮮戦争では援朝義勇軍司令としてアメリカ軍を撃破した。1959年彭徳懐*(ほうとくかい)に代わって国防部長に就任以後，人民解放軍の全部隊で毛沢東思想学習運動を進め，政治思想を第一とする軍の確立に努めた。のちに世界的話題となる《毛主席語録》は，彼の指導のもとに1964年，解放軍総政治部が編集したものである。抗日戦争20周年記念論文《人民戦争の勝利万歳》（1965年9月）も有名。毛沢東の後継者の地位は，1969年4月，中共中央委員会副主席に選ばれたことによって不動のものとなった。しかし，1972年，毛政権奪取を陰謀して発覚し，国外に逃亡の途次，モンゴル上空の飛行機事故で墜死したと伝えられている。〔斎藤秋男〕

リンブルクきょうだい【リンブルク兄弟】⇨ランブール兄弟

りんぽ【林逋】（967～1028） 中国，宋(そう)代の隠士。杭州(こうしゅう)の西湖の孤山に隠棲(いんせい)し，ツルとウメを愛し，西湖の風物を静かに詩に詠じた。《林和靖(りんわせい)先生集》がある。

りんぼく【林木】林地とともに植生連続の最終段階としての森林を構成する要素。高木および亜高木からなり，低木は一般に



林　彪

林木には含めない。林木は樹冠が互いに接して下を暗くするので，下枝は枯れ上がり，枝葉は上にかたよって林冠を形成する。したがって，閉鎖したあとの幹は孤立木とは違って上下の太さの差が少なく，節のない材をつくる。なお，森林を形成する樹種，造林用に供する木を林木として，林木育種・林木種子などとよぶことがある。

〔川名　明〕

〔林木の病虫獣害〕最近，生産性の高い人工林の増大に伴い，病虫獣害が激増し問題化している。

①病害〈スギ赤枯れ病〉病原菌はサーコスポラセクオイアエという不完全菌。明治の終わりごろ，アメリカから導入した樹種とともにわが国に侵入し，現在は林業上最も重要な病害である。幼苗に被害があるのみならず造林木にも溝腐病を起こす。苗では春から秋にかけて枝葉が暗かっ色に変色し，やがて枯れる。病苗を造林すると慢性症状を呈し，幹が溝状(みぞじょう)になって用材とならなくなる。ボルドー液やマンネブ剤を散布して予防する。〈カラマツ先枯れ病〉病原菌はフィザロスポラララリキナという子嚢(しのう)菌。1965年（昭和40）ごろから北海道・東北地方のカラマツ造林地に大発生したが，最近は下火になってきた。7～8年生のカラマツ造林地で風の強くあたる場所に発生しやすい。新しく伸びた枝が侵され，その部分から曲がり先はたれる。シクロヘキシミドを主成分とする薬剤を散布して予防する。〈きりてんぐ巣病〉小枝が箒(ほうき)のように多くなり，その部分の葉が黄色化し，形も不斉(ふせい)となる。秋になると発病部の大部分は枯れる。病原体は最近になってマイコプラスマであることが明らかにされた。媒介こん虫は不明。関東以西に被害が大きい。健全な母樹から分根するか，実生苗を養成して防止する。〈ツチクラゲ病〉病原菌は子嚢菌のツチクラゲ。本菌は北ヨーロッパで古くから針葉樹の根を侵すことが知られていた。わが国でも存在は認められていたが，病原菌としては最近，東北地方の海岸のマツの枯死の原因として見いだされた。山火事跡地のアカマツ林に数か月以内に子実体が認められる。〈ヒノキの心材腐朽病〉九州南部のヒノキの造林木の心材・根株・根などが腐朽する。病原菌はキヅメタケという担子菌類。〈ストローブマツ発疹さび病〉欧米の五葉松類，特にストローブマツ・モンチコラマツなどに大きな被害を与える。朝鮮半島でもチョウセンゴヨウショウに発病する。わが国でも中間寄主のスグリ類に夏胞子・冬胞子がみられるが，五葉松類には発病しない。病原菌は担子菌類のクロナチュウムクエルクュウム。

②虫害〈マツクイムシ〉マツの樹皮や材に穿入(せんにゅう)する害虫の総称で，マツノキクイムシ・マツノシラホシゾウムシ・マツノコキクイムシ・マツノマダラカミキリなどがおもなもの。マツノキクイムシは幼虫が材に穿入し，さらに成虫はマツの新条に穿入して髄心部を加害するなど被害が著しい。一般には老樹・衰弱木を加害するといわれる。マツクイムシの加害する前提条件は根系の衰弱，材の水分低下など土壌(どじょう)水分の減少にあるが，マツ枯死の原因は複雑である。〈マツカレハ〉北海道以南に分布するマツの大害虫。成虫は翅(はね)の開張60～90mmぐらいのガで，幼虫は全体に黒色の剛毛を生ずるケムシである。発生は年1回であるが，暖地では2回の場合もある。7～8月ごろ，成虫が発生して針葉に産卵する。6月ごろ蛹化(ようか)し羽化する。公園などでは冬季，幹にこもを巻いて越冬する幼虫を集めて捕殺する。造林地では生物的防除法がとられつつあり，中腸細胞型多角体病ウイルス（スミシアウイルス）がわが国最初のウイルス製剤殺虫剤として市販されるようになった。また，モミに加害するハラアカマイマイに対しても核型多角体病ウイルス（ボレリナウイルス）および中腸細胞質多角体ウイルスが用いられようとしている。

③獣害〈ノウサギ〉ノウサギの生態学的分野がまだ明らかにされていないが，単独で夜間に好んで行動し，一夜に10kmも移動することが知られている。秋から春にかけ，特に雪がとけて植栽木が頭を出したころの被害が著しい。マツ・カラマツ・スギでは鎌(かま)で切ったように切断する。ヒノキでは幹が剝皮(はくひ)される。防除法としては銃器やくくりわななどによる捕獲のほか，たとえばスギではさし木，または大苗を植栽し，植栽木をわらやササで隠す。また古くから各種の忌避剤が用いられたが，労力や，価格の点から現在はあまり用いられていない。〈ノネズミ〉林業に被害のあるのは本州・四国・九州のハタネズミ・スミスネズミ，北海道のエゾヤチネズミなどである。ともに異常繁殖して大きな害を生ずる。積雪地帯では融雪期，無雪地帯では早春に被害がでる。異常繁殖に及ぼす食物要因はササ類・ブナなどの開花結実で，ほかに生理的要因もあると思われ，食物要因で1ヘクタールあたり150～200匹，生理要因でも150匹に増殖する。行動圏は雌は巣を中心に半径20m，雄は150mぐらいで，主として夜間に活動する。ヒノキ・マツ・モミ・カラマ

ツ・スギ・エゾマツ・トドマツなどの幹と根とが害される。防除に際してはつねに発生消長および予察に努める。殺鼠(さっそ)剤としてリン化亜鉛を主成分とした整剤が市販されており，そのままで散布できる。散布は秋に2回，春に1回実施する。北海道のように大面積の造林地ではヘリコプターを用いて散布する。〔中村克哉〕

りんぽどうめい 【隣保同盟】 ⇨アンフィクチオニア

リンポポ(川) [Limpopo] アフリカ南東部の川。南アフリカ共和国のヨハネスバーグ付近の丘陵地に発して北流し，ボツワナおよびローデシアとの国境を北東流してモザンビークにはいり，インド洋に注ぐ。全長約1,600km。河口から約100kmまでは航行可能。流域は鉱産資源が豊富である。

りんも 【臨摹】 臨・摹ともに書の写し方をいう。臨は原本をかたわらにおいてそれを見ながら写す方法。摹は原本の上に紙をあてて敷き写す方法。唐代まではただ原本をできるかぎり忠実に写すことを目的としていたので，臨・摹の区別のあいまいな場合があるが，宋(そう)代以降，このことばははっきり使い分けられるようになり，書を写すには臨・摹・硬黄・響搨(きょうとう)の4種の方法があるとした。摹は普通の敷き写しをいい，硬黄は油蠟(ゆろう)をひいて透明にした紙を用いて敷き写しをする方法，響搨は壁に茶わん大の穴をあけ，そこに原本をあてて外部からの光線に透かし，紙をあてて双鈎塡墨*(そうこうてんぼく)の方法で写しとる方法である。なお，双鈎塡墨を古くは搨摹といった。〔中田勇次郎〕

りんもんびょう 【輪紋病】 植物の病気の一。トマト・ジャガイモなどに多く，葉・茎・果実などに暗かっ色，楕円(だえん)形の斑点(はんてん)を生じ，その周囲が黄変する。斑点上に同心輪紋と，やがて黒色ビロード状の胞子を生ずる。葉は下葉から枯れ，茎は折れやすくなる。ササゲ・ソラマメでは円形，赤かっ色・黒かっ色の輪紋を生ずる。胞子・菌糸が被害植物について越年する。予防は，施肥に注意し，茎葉を強健に生育させ，発病期にはダイセン・ボルドー液などを散布する。〔渡辺　実〕

りんやちょう 【林野庁】 農林省の外局。国有林野・公有林野の管理・処分，民有林の指導監督，林産物の生産・流通・消費の調整，その他森林および林業の行政事務いっさいを担当する。林野庁長官を長とし，内部部局として林政・職員・指導・業務の4部，地方支分部局として営林局(旭川(あさひかわ)・北見・帯広・札幌(さっぽろ)・東京・長野・名古屋・大阪・高知・熊本)，その下に多くの営林署があり，付属機関に林業試験場・林木育種場などがある。〔寺尾方孝〕

りんゆう 【林邑】 ⇨チャンパ

りんりがく 【倫理学】 一般に人間の意志と行為のあるべき姿をその起源・本質・内容の面から探究する学問をいう。古代ギリシアにおいて学*の成立以前に，自然全体の秩序は自然の一部である人間をも支配する法則・正義であるとする考えがあったが，そこではまだ倫理は宗教や自然哲学と結合しており，内面的な道徳の法則と外的なポリスの法律とは分離していない。このようなポリス社会の慣習としての倫理が崩壊しはじめたころ，〈徳*は知なり〉と主張し，神話の世界から切り離された人間の世界を中心とする倫理説を述べたのがソクラテス*である。個別的な徳ではなく，徳の本質の探究こそ人間にとって本来の課業であるとするソクラテスにおいて，倫理学の可能性が自覚されたといえる。プラトン*は四元徳(智(ち)・勇・節制・正義)の理論によって，アリストテレス*は中庸の説によって，それぞれ異なった立場からソクラテスの思想を体系化したが，いずれもポリス中心の考えであり，主知主義*である点は共通している。学としての倫理学はアリストテレスに始まる。人間も自然も神に支配されるとする中世では道徳法則も神の啓示を通じて人間に示される。アウグスチヌス*と同じくトマス＝アクィナス*も人間の自由意志を重視するが，最高善は啓示され，与えられる神とされる。このような，神学の一部としての倫理学は他律的倫理学とよばれる。これに対して近世ではヒューマニズムの立場から，人間学の形をとる自律的倫理学が形成される。イギリス経験論の代表者ヒューム*は倫理を人間の心理現象の一種とみなし，善悪を快・不快の感情から説明した。このように人間の自然的欲求を倫理的に肯定しようとする経験論の倫理学は，さらに社会倫理を本質とするベンサム*・J.S.ミル*・スペンサー*らの功利主義的倫理学へと発展する。この傾向に反対し，人間の理性的な面を強調するカント*は善悪の原因を経験の中に見いだされる慣習的法則にではなく，もっぱら自律的な理性によって立てられる普遍的・絶対的・形式的な道徳法則に求め，典型的な規範倫理学を樹立した。これら，自律的人間像を中心とする近世の倫理学は，個人の真の自由の獲得や道徳の完成が共同体への参与によって実現されるとするヘーゲル*において頂点に達する。現代の倫理思想は主としてヘーゲル批判から出発する。キルケゴール*は，思惟(しい)と存在，理性と現実の一致というヘーゲル哲学の原理を否定し，真の現実存在は理性化しきれない面をもつと主張し，実存倫理を説いた。またマルクス*は，現象としての実在の本質は観念であるとするヘーゲルの立場を逆転し，社会の変革によって規定される倫理を説いたが，両者は19世紀後半の人間を疎外状況にあるものとし，本来の可能性を見失った人間として把握(はあく)し，時代批判としての倫理を志向する点においては共通点をもつ。18世紀以後，唯物論や社会科学の発展に伴い，倫理の絶対性・先天性に対する懐疑的な傾向が強まるが，現代の分析哲学には別の面からの懐疑的傾向がみられる。ウィトゲンシュタイン*は倫理が言語においては表現できない神秘的なものであり，理論化できない実践活動としてのみ意味をもつと主張する。分析哲学から派生するメタ倫理学はイギリス・アメリカで有力な倫理学説とされているが，これは従来の倫理学が主として〈いかに生きるべきか〉についての実践的な指針の獲得，すなわち実践を目的としたのに対し，倫理的概念の意味についての知識，すなわち，純粋に知識を目的とする。〔玉井　治〕

りんれい 【林齢】 林を形成してからの年齢。造林地では植栽年から起算し，天然林などの異齢林，あるいは数個の異なる林齢の林では平均林齢を用いる。択伐林では林齢は考えられない。一方，単木の年齢を樹齢といい，種子が発芽してから，あるいはさし木が発根してからの年数で現わす。樹齢は年輪で数えることが多く，樹種によっては枝階で判別できるが，林齢は記録によるほかは樹齢から推定する。

る

ルー ［Wilhelm Roux］（1850～1924）ドイツの動物学者・発生学者。イエナの生まれ。イエナ・シュトラスブルクの両大学で動物学・医学を学ぶ。のちブレスラウ・インスブルック・ハレの各大学教授。現代実験発生学の創始者のひとりで，特に両生類２細胞期卵の割球の一方を焼いて半胚をつくった実験が有名である。さらに精子の侵入の観察や欠失実験に基づき，胚を構成する各部分が，内的要因により自律分化すると考えた。しかもその内的要因は核にあると主張し，割球は核さえ失われなければ細胞質が多少流出しても分化が可能であると論じた。〔中村禎里〕

ルアーブル ［Le Havre］ フランス北部，セーヌ川河口北岸，イギリス海峡に臨む港市。人口20万(1968)。パリの外港の役割を果たし，貿易港として繁栄している。綿花や嗜好(しこう)品を輸入し，織物・セメント・ガラスなどを輸出する。造船業をはじめ，航空機・機械・石油などの諸工業も盛ん。第１次世界大戦中，一時ベルギー政府がここに移されたことがある。

ルアン ［Rouen］ フランス北部，パリ北西方110km，セーヌ川に臨む港市。人口12万1,000(1968)。パリの外港の役割を果たし，綿花・石炭・石油などを輸入し，繊維などの工業製品を輸出する。かつては羊毛紡績の中心であったが，いまは綿工業や石油精製・造船が行なわれる。古くはノルマンジーの主都であり，古い建物も残っている。ジャンヌ-ダルク処刑の地としても知られる。

ルアンダ［Luanda］アフリカ南西部，ポルトガル領アンゴラの主都。人口28万(1968)。アンゴラ北西部の大西洋岸の港市で，アンゴラの貿易額の約半分を取り扱っている。市街は山手と下町とに分かれ，総督府など官庁や経済機関・病院・教会などは山手に集中している。1575年ポルトガル人によって建設され，長い間ブラジルへ送られる奴隷貿易の中心地であった。ヨーロッパと南アフリカ各地との海底電線の中継地でもある。〔小栗 宏〕

ルアンプラバン ［Luang Prabang］ ラオス王国の王宮所在地。人口約20,000(1968)。同国北部のメコン川に沿う都市で，14世紀にルアンプラバン王国の首都となり，のち1899年までラオスの首都であった。地名は〈黄金の仏塔〉の意で，市内には寺院が多く，落ち着いた雰囲気を漂わせている。南方約22kmの首都ビエンチャンとは道路・運河で結ばれている。



ルアーブル ルアーブル港の埠頭。クレーンの林立する岸壁には，大小の船舶やタグボートが接岸し，港は活気を呈している



ルアン 市内の繁華街にあるグロ-オルロージュ(大時計)下の雑とう。この古い建物は16世紀前半につくられた由緒あるもの

ルイ ［Louis］ フランスの王。

1 ９世(1214～1270) カペー朝９代めの王。在位1226～1270年。即位後1236年までは母后ブランシュ-ド-カスティーユが摂政。王は貴族たちの反抗を押えて王権を強化し，高等法院や会計院など諸機構を整備した。対外的には前代以来のイギリスとの抗争を，1259年パリ条約で和平に運んで領土を回復した。1248年から第７回十字軍に従軍し，一時捕虜となったが，再び1270年第８回十字軍に出征して北アフリカで病没した。キリスト教を信ずることあつく，有徳の王で，西ヨーロッパ諸君主から尊敬され，フランスの国際的地位をも高めた。死後1297年聖人の列に加えられ，聖王ルイともよばれる。

2 11世(1423～1483) バロア朝６代めの王。細かくは直系バロア朝に属する。在位1461～1483年。王太子時代には父王シャルル７世*に対してたびたび反抗した。即位後大貴族たちと争ってこれを押え，またブルゴーニュ公シャルルと抗争し，その死後ブルゴーニュ公領の多くを王領に併合するなど，王国の統一を進めた。経済上の保護政策，貿易の振興，郵便制度の創設，印刷所の設立などを行ない，フランス絶対王政の基礎をすえた。この王はクモにたとえられているが，奸策(かんさく)や背信をも辞せず王権の伸張に努めた。

3 12世(1462～1515) バロア朝８代めの王。在位1498～1515年。直系バロア朝は７代めのシャルル８世*で絶え，バロア-オルレアン朝に属する。即位前にはこのシャルル８世と対立したこともあった。またシャルル８世のあとをうけてイタリア戦争を行なったが，イタリア支配の野心は成就しなかった。慣習法の編集，減税，土木事業，裁判・訴訟制度の改良などを行ない，1506年には〈人民の父〉の名を贈られたが，これは過分の賞辞ともいわれている。フランス-ルネサンス文化もこの王の時代に発展してきた。



ル　イ
(左) 14世
(中) 15世
(右) 16世

4 13世(1601～1643)　ブルボン朝2代めの王。在位1610～1643年。父アンリ4世*が暗殺され，幼少で即位し，母マリー-ド-メディシス*が摂政となった。1615年スペインの王女アンヌ-ドートリッシュと結婚。1617年から実権を握り，リュイーヌ，次いでリシュリュー*を登用した。特にリシュリューの補佐のもとに貴族や新教徒勢力を押え，また三十年戦争*に介入して宿敵ハプスブルク家と対決しつつ，絶対王政への道を踏み固めた。

5 14世(1638～1715)　ブルボン朝3代めの王。在位1643～1715年。幼少で即位し，母后アンヌ-ドートリッシュが摂政となり，これに重用されたマザラン*は貴族の反抗であるフロンドの乱*を鎮圧し，三十年戦争の結果ハプスブルク家を押え，内外に王権強化に努めた。彼の死後1661年親政を始めた王は中央集権化を進め，コルベール*を登用して重商主義政策により経済的発展をもたらし，ルーボアらに軍制改革を行なわせて，富国強兵の実をあげた。理論上でも王権神授説に裏づけられて，フランス絶対王政は最盛期を迎えた。一方王はベルサイユ宮殿を造営して宮廷をパリから移し，貴族たちをますます王権に服属させるとともに，国際的にも宮廷文化の中心として，王者にふさわしい英姿と気性を誇りつつ，〈太陽王〉〈大王〉，あるいはその〈大御代(おおみよ)〉とよばれて君臨した。〈朕(ちん)は国家なり〉という王のことばは誤伝であるとはいえ，あまりにも有名である。

しかし豪華な宮廷生活は財政を苦しめ，新教徒に信仰の自由を認めるナントの勅令*を廃棄したことは，宗教上のみならず，社会上・経済上に混乱を招いた。また17世紀後半から18世紀初めにかけて，スペイン継承戦争*を含む四度の戦争は，多少の領土拡大をもたらしたり，ブルボン家をスペイン王家としたが，その反面ヨーロッパ諸国を敵に回し，さらに財政難を深めることとなった。治世末期には王に対する批判の声もあがり，民心も離れていった。フランス革命の遠因が求められるゆえんである。

王は1660年スペインのハプスブルク家からマリー-テレーズを王妃に迎えたが，モンテスパン夫人・マントノン夫人などを愛し，後者とは王妃の死後1684年ごろひそかに結婚したといわれる。後継者のルイ15世が曽孫(ひまご)であったように，肉親に早死された王晩年の宗教的な生活に影響したのはこのマントノン夫人であった。なお，王の保護のもとに，フランス古典主義文芸やバロック美術が栄えた。

6 15世(1710～1774)　ブルボン朝4代めの王。在位1715～1774年。ルイ14世の曽孫。幼少で即位し，オルレアン公フィリップの摂政時代を経て，まず宰相フリュリーの補佐を得て親政の初期を飾った。しかし彼の死後は人材が欠けたうえに，王は政治への熱意を失い，ポンパドゥール*夫人やデューバリー夫人らの寵姫(ちょうき)に左右され，〈愛(いと)しき君〉とまでよんだ国民の期待を裏切り，財政難をはじめとして，旧制度(アンシアン-レジーム)下の絶対王政の矛盾は深まり，これを批判する啓蒙(けいもう)思想が流行した。またオーストリア継承戦争*・七年戦争*などにフランスを参戦させ，後者においては宿敵オーストリアのハプスブルク家と結ぶという外交革命を行なったが，この間北アメリカおよびインド植民地を巡り，イギリスと戦って敗れ，フランスはその経営から大きく後退した。

7 16世(1754～1793)　ブルボン朝5代めの王。在位1774～1792年。ルイ15世の孫。1770年オーストリア帝室ハプスブルク家のマリー-アントアネット*と結婚。性格が弱く，政治力に欠け，対外的にはアメリカ独立戦争に介入して勝利を得たが，内政ではチュルゴー*らの諸改革を生かしえず，特権保守勢力に屈してフランス革命を招来した。そして立憲王政を表面では認めながら，王妃とともに反革命の動きを続け，特に1791年6月の逃亡失敗によってみずから王権を失墜させた。外国からの干渉を期待したが，かえって1792年8月10日事件で捕われて王権を停止され，9月王政廃止，国民公会の裁判で，国家に対する反逆罪により，1793年1月処刑された。それは名実ともにフランス絶対王政の終わりであった。

8 18世(1755～1824)　ブルボン朝6代めの王。在位1814～1815年，1815～1824年。ルイ15世の孫でルイ16世の弟。フランス革命が起こると国外に亡命し，反革命運動を組織，1795年ルイ17世(ルイ16世の王子)の死後，王党派からは国王と認められた。1814年ナポレオン1世の退位によって即位(第1次王政復古)，1815年百日天下で一時的に亡命ののち復位した(第2次王政復古)。欽定(きんてい)の憲章に基づく立憲王政を敷き，王権の神聖化と市民社会の原理の妥協が意図されたが，旧保守勢力も復活し，政情は反動化していった。対外上ではナポレオン戦争の処理として第1次および第2次パリ条約を結び，また1818年からはフランスを五国同盟に参加させて，ウィーン体制維持に努めた。　〔山上正太郎〕

るいけい【類型】　タイプの訳。一群の事象に共通する特徴が具象的に統一されたもの。類概念に似て普遍的でありながら，同時にそれ自体独自の構造＝内的連関をもち，したがって他の類型と区別されるのであるから個性的でもある。個々の内容の個別性が積極的に統一，主張される点が類概念とは異なる。これは類概念は個々の特性を捨象するところに成立するものだからである。普遍的法則が確立していない領域に適用され，特にディルタイ*はこれを精神科学に導入して，世界観の諸形態を分類した。こうしてさらに社会・文化を歴史的にとらえるための規範としての意義をおびてくると，M.ウェーバーの学説にみられるような〈理想型〉となる。また個々の現象形態の

うち類型を最もよく現わしているものを典型という。〔石倉恒之〕

ルイコフ [Aleksei Ivanovich Rykov] (1881〜1938) ソ連の革命家・政治家。1899年入党し，カザン大学在学中から革命運動に参加。1905年第3回党大会で中央委員。逮捕・流刑をくり返し，1917年十月革命後内務人民委員となったが，メンシェビキ・社会革命党(エス-エル)との連立を主張し，11月ボリシェビキの政策に反対して政府と党の要職を辞任した。直ちに自己批判して最高国民経済会議議長，人民委員会議議長などを歴任。1928年右翼的偏向を批判され何度か自己批判したが，1938年ブハーリンらとともに処刑された。のちに1956年無実であることがわかり名誉回復された。〔山県弘志〕

ルイジアナ(州) [Louisiana] アメリカ合衆国南部，メキシコ湾岸の州。面積11万7,000km²，人口364万3,000(1970)。州都バトンルージュ。1812年連邦政府に加盟，1861年に脱退して南部連盟に加わったが，1868年6月連邦に再加盟して，合衆国18番めの州となる。州名はフランスのルイ14世の名にちなむ。植民時代のスペイン・フランスの遺跡と伝統を多く残している。ミシシッピ川のデルタが州面積の3分の1を占め，その肥沃(ひよく)な堆積地(たいせきち)と鉱産資源に恵まれ，内陸水路が発達している。農産物ではジャガイモ・サトウキビが全国第1位，米はテキサスに次いで第2位，その他，タバコ・綿花・トウモロコシなどの産がある。鉱産額ではイオウ・塩の生産は第1位，石油・天然ガスはテキサスに次いで第2位となっている。石油とイオウの大部分は沿岸沖合いの海底油田から産出される。工業では化学工業が最も盛んで，食品・製紙・輸送機械工業などがこれに次いでいる。主要都市はニューオーリンズ・シュリーブポート・バトンルージュ。〔相村大彬〕

ルイジアナこうにゅう 【ルイジアナ購入】 1803年アメリカがナポレオンからフランス領ルイジアナを購入した事件。当時ルイジアナとよばれた地域はミシシッピ川以西ロッキー山脈以東，北はイギリス領カナダ，南はスペイン領メキシコに至る広大な地であり，現在のルイジアナ州はその南東の一部にすぎない。そのルイジアナは七年戦争の結果スペインに譲渡されたが，1800年フランスに割譲された。強国フランスの存在はアメリカにとって脅威であり，また同国が支配するミシシッピ川はアメリカ西部の農産物の搬出路として重要であったため，大統領ジェファソンは特使モンローに同川の航行権承認と河口周辺の土地購入の交渉を命じた。イギリスの脅威に悩むナポレオンは対イギリス戦争の不可避を知り，戦費調達のためルイジアナ全土の売却を提案。両代表は越権でこれを1,500万ドルで購入，ジェファソンも平常の憲法厳格解釈に反してこれを承認した。ルイジアナ購入によりアメリカはそれまでの領土に匹敵する土地を加え，1804年ルイジアナからオレゴンに及ぶ広大な未知の土地にルイスとクラークを隊長とする探検が行なわれて，西部への関心が高まり，その発展は急速に西漸運動を促進した。〔折井一彦〕

るいししつ 【類脂質】 ⇨リポイド

るいじゅうこくし 【類聚国史】 平安初期の史書。本編200巻・目録2巻・帝王系図3巻。892年(寛平4)勅命を受けて菅原道真(すがわらみちざね)が編纂(へんさん)。《日本三代実録》を除いた六国史(りっこくし)の記事を，神祇(じんぎ)・帝王・後宮・人・歳時・音楽・奉献・政理などの事項別に分類し，年代順に収録したもので，のちに《日本三代実録》の分が増補されたという。六国史を補う史料として重要である。61巻と抄本1巻とが現存する。〔高崎徳次〕

るいじゅうさんだいきゃく 【類聚三代格】 平安初期の法令集。全30巻。現存15巻。編者・成立年ともに不詳だが，成立は10世紀ごろとされる。弘仁(こうにん)格・貞観(じょうがん)格・延喜(えんぎ)格を集大成し，神祇(じんぎ)・仏事などの内容に従って分類・編集したもので，その当時から官吏必携の書として珍重された。平安初期研究の重要史料とされている。➔弘仁格式 ➔貞観格式 ➔延喜格式

ルイじゅうよんせいようしき 【ルイ14世様式】 ルイ14世の親政時代(1661年以後)，宰相コルベール・首席宮廷画家ルブランの統率下にあったフランス美術，特に室内装飾や工芸品類の様式をいう。いわゆるバロック美術の一部であるが，ここではいっさいが国王の威厳の表現を主眼とした。同王によって拡張整備され，居城となったベルサイユ宮殿は，その巨大なサンプルである。ルイ13世時代の古典的形式から出て，すべてが豊饒(ほうじょう)豪華な重々しい装飾様式へと発展する。すなわち室内壁面の区画も，卓や椅子(いす)などの家具の表面も，彫りの深い複雑な植物文や渦巻(うずまき)文で飾られただけでなく，木材に金属を併用したり，鍍金(ときん)したり，材質の混用によって色彩的にも豊麗重厚な趣を出すことが愛好された。またタペストリー特にゴブラン織がルブラン総指揮の王立工場で多数生産された。一方18世紀のロココ時代までつづくシノワズリー(中国趣味)が流行しはじめたのも，この時代からである。〔富山秀男〕

るいじゅみょうぎしょう 【類聚名義抄】 漢和辞典。編者不明。1081年(永保1)以降に成立。11巻。仏・法・僧の3部よりなり，偏(へん)・旁(つくり)によって漢字を120部に類別してある。所収漢字約32,000語。標出漢字の字形・音義を注し，豊富な和訓を注記している。特に和訓には声点を施して清濁やアクセントを示してある点は，国語のアクセント史の貴重な資料である。和訓は，音義や古辞書，あるいは漢文に施した訓点などから取材したらしい。近年，宮内庁書陵部所蔵の零本(法の部のみ)が世に知られたが，この本には，注文の出典を示してあり，古代語・古代文化の研究に資するところが大きい。〔寒河江実〕

るいじょう 【累乗】 同じ数または文字を何回か掛けた積を，その数または文字の累乗という。冪(べき)ともいう。$a \times a$をa^2と書き，aの2乗または平方という。$a \times a \times a$をa^3と書き，aの3乗または立方という。aのn個の積をa^nと書き，aのn乗という。aの右肩の数字は，aを掛けた回数を示し，これを累乗の指数または冪指数という。a^1はふつうaと書く。指数は実数または複素数に拡張できる(➔指数)。

正の整数の2乗になっている数1，4，9，……を平方数，正の整数の3乗になっている数1，8，27，……を立方数という。〔青柳雅計〕

るいじんえん 【類人猿】 狭鼻類の中のオランウータン科(ヒトニザル科ともいう)の通称。テナガザル亜科とオランウータン亜科に分かれる。後者は，オランウータン・チンパンジーの2属を含み，チンパンジー属にはゴリラが含まれる(ゴリラをゴリラ属として独立させ，オランウータン科を3属に分けることもある)。サル類中最も高等で，知能程度は高い。形態的にもヒトに似た点が多いが，テナガザルは大昔に進化の別の枝に分かれたもので，ヒトからは最も遠い。チンパンジー属がヒトに最も近縁であるが，人類の進化を考えるうえでは，ゴリラよりもチンパンジーのほうを重要視する傾向にある。〔河合雅雄〕

るいしんぜい 【累進税】 課税標準の増大に伴って税率が高くなる税をいう。課税標準の増大に伴って税率が逆に低くなる税を逆進税という。

ルイス [Juan Ruiz] (?〜1350?) スペインの詩人。イータの僧正の名で知られる。13年間獄にあり，そこで唯一の作品《よき愛の書(ふみ)》を書いたといわれる。〈よき愛〉とは神の愛を意味するが，実は作者の型破りな恋愛遍歴をつづった韻文の自伝小説で，随所にみられる鋭い風刺精神はのちのピカレスク小説へと受け継がれている。

ルイス [Pierre Louÿs] (1870〜1925) フランスの詩人。高踏派から出発し，孤独のうちにあってギリシア的で透明な感覚と完璧(かんぺき)な美の追求に生涯(しょうがい)をかけた。詩集《ビリチスの歌》は，欲情と愛の一致した調和の世界を洗練されたことばで歌ったもので，ほかに小説《アフロディット》などがある。

ルイス [Gilbert Newton Lewis] (1875〜1946) アメリカの物理化学者。マサチューセッツ州ウェイマスの生まれ。ハーバード・ライプチヒ・ゲッチンゲンの各大学で学び，1912年カリフォルニア大学教授。

逃散能概念を導入して活動度を熱力学関数で表わし，熱力学的溶液論の基礎を築いた。1916年原子の価電子が立方体の８隅を占めるという八隅説を提唱，これはさらにルイス-ラングミュアの原子価論として発展させられた。このほかデューテリウム(重水素*)を分離した。

ルイス［Percy Wyndham Lewis］(1884～1957) イギリスの小説家・批評家・画家。アメリカに生まれてイギリスに育ち，画家として出発。一方，パウンド*とともに評論誌《ブラスト》を発行しつつ，《ター》《神の猿(さる)たち》などの風刺小説で文名をあげた。いずれも芸術家きどりの俗物を痛烈に風刺したもので，評論《芸術なき人々》《作家と絶対》でも現代芸術家への批判を展開した。

ルイス［Sinclair Lewis］(1885～1951) アメリカの小説家。中西部ミネソタ州の田舎(いなか)町に医者の子として生まれ，早くから父の反対を押しきって文学を志した。実質的には処女長編《わが社のレン氏》で世に出たが，文名を一躍高めたのは，田舎医師の妻となった理想家肌の主人公キャロルの孤軍奮闘を通して町の因襲を風刺した《本町通り》(1920)で，《バビット》《アロースミス》《エルマー-ガントリー》《ドッズワース》などの話題作をたてつづけに刊行，作家としての地位を築いた。1930年にはアメリカ人として最初のノーベル文学賞を受賞。しかし彼の創作活動は1920年代とともに終わったといってよく，その後も多数の作品を発表したが，往年の風刺の鋭さには及ばなかった。〔酒本雅之〕

るいすい【類推】 類比による推理であって，比論とも，また単に類比ともいう。類比とはもともと数学における比例であり，ある事物間の関係が他の事物間の関係に等しいことを意味するが，ここからいくつかの共通点がある二つの事物において，一方がある性質をもつならば他方もこれと同じ性質をもつであろうと推定するのが類推である。これは特殊から特殊への推理であるから，演繹*(えんえき)的推理および帰納*的推理とは区別される。そして結論は蓋然(がいぜん)的である(→蓋然性)。一般的には〈Aはa・b・cであり，Bはa・b・cかつdであるならば，Aはdである〉という形式である。この場合，a・b・cはAおよびBにとって本質的でなければならず，またdとは相関的でなければならない。〔石倉恒之〕

ルイス-デ-アラルコン［Juan Ruiz de Alarcón］(1581？～1639) スペインの劇作家。メキシコの生まれ。生来のせむしであったが，肉体的不幸に屈することなく，数こそ少ないが完成された性格喜劇を書いた。中でも，《疑わしい真実》《壁に耳あり》などは人間の道徳的欠陥をあばいた傑作で，コルネイユ*に影響を与え，フランス喜劇の端緒を開くものとなった。

るいせきてきゆうせんかぶ【累積的優先株】 優先株*の一種。なんらかの理由のために，ある年度の配当が一定の優先配当率に達しなかった場合に，その不足配当を将来の年度において補塡(ほてん)することを約束した優先株式のことである。これは特に投資の安全性・収益性を高め，資本の調達を促進する効果をもつ。→株式

るいせきとうひょう【累積投票】 株式会社の取締役の選任について認められる投票方法。２人以上の取締役を同時に選任する場合，各株主が１株につき選任すべき取締役の数と同数の議決権を与えられ，自分の任意のやり方で，これを１人に集中投票しても，数人に分散投票してもよく，その結果最多数の投票を得た者から順次取締役に選任される方法である。少数派の株主でも，その代表を取締役として送り込み，多数派の横暴を防ぐことを目的とする。２人以上の取締役を選任する株主総会の招集があったときは，株主はだれでも総会の５日前に会社に書面で累積投票によるべき旨請求することができる(商法256条ノ三)。定款で累積投票によらないということを決めることはできるが，この場合でも発行済み株式総数の４分の１以上にあたる株主から請求があったときは，累積投票によらなければならない(商法256条ノ四)。〔松本治雄〕

るいせん【涙腺】 涙*を分泌する腺。爬虫(はちゅう)類・鳥類・哺乳(ほにゅう)類がもっている。眼球の外側上端の位置にあって，腺体はそこより奥の，一部は眼瞼(がんけん)内，一部は眼窩(がんか)口にわずかはいったところにある。涙腺は延髄によって支配されて，たえず涙を分泌している。分泌された涙は導管を通って目の上外側に出て，まばたきによって結膜の全表面と角膜の上を流れ，その乾燥を防いでいる。涙はさらに内眼角(目がしら)に集まったのち，上下のまぶたに開口する涙点から涙小管にはいり，いったん涙嚢(るいのう)にたまったのち，鼻涙管を通って鼻腔(びこう)に流入する(爬虫類では口腔に流入する)。〔高野一雄〕

ルイセンコ［Trofim Denisovich Lysenko］(1898～1976) ソ連の農学者・生物学者。ウクライナのカルローフカの生まれ。キエフの農業専門学校を卒業。ガンジャの育種試験場およびオデッサの遺伝選択研究所において，さまざまな大胆な学説を提唱し，世界的に大きな波紋を巻き起こした。特に，生物の遺伝的性質を短時日で望ましい方向に変えることができると主張し，コムギ播性(はせい)の変化(1935，1936年)や栄養雑種の形成(1941)をその論拠とした。彼の主張は，ソ連政府の農業政策にうまく適合していたため，スターリン*をはじめとするソ連の指導者の支持を得，1939年には農業アカデミー総裁の地位についた。ルイセンコは，自説に反対する生物学をブルジョア生物学と規定し，反対派を研究職から追放するなど勢威をふるったが，現在では彼の業績の大部分は疑問視されている。ただし最初期に属する研究，植物発育段階説(1929)については，現在でも支持者が多い。→段階発育論〔中村禎里〕

ルイセンコろんそう【ルイセンコ論争】 ルイセンコ*によって提起された生物学・農学上の，特に正統遺伝学理論の正当性をめぐる論争。ルイセンコは，①コムギの遺伝的性質の一つである秋まき性を春まき性に，またその逆に転換させた実験，②つぎ木雑種，③混合受粉，④植物の段階発育などの実験を通して，生物の遺伝現象を，生物の生活条件になんら作用を受けない遺伝子の伝達とみるメンデル*以来の正統遺伝学を批判し，生物の生活条件を変化させることによって遺伝性が変化すること，すなわち獲得形質の遺伝を承認することを主張した。1936年これをもとにソ連では農業科学アカデミー総会で，①のコムギの播性(はせい)の遺伝的転換をめぐり，ルイセンコ派と正統遺伝学者と激しい論争が行なわれた。続いて1948年の農業科学アカデミー総会で，ルイセンコは〈生物科学の現状について〉の報告を行ない，上記の実験を全面的に打ち出した。その主旨は，生物の生活条件の変化は植物体の発育の型そのものを変化させ，それゆえ変化した発育の型が遺伝性の変化の根本原因になることを中心に，ダーウィン*学説の正しい面を評価し，その科学的核心を創造的に発展させること，ミチューリン*の生物体を方向的に変異させる原則と方法を学びとることこそ，ソ連生物学の方向であり，生物学が農学の基礎になるべきことを強調した。この報告は討論ののちに承認され，ソ連生物学の主流となった。

この論争で，①メンデル以来の正統遺伝学が否定している獲得形質の遺伝を認めたこと，②正統遺伝学をブルジョア科学として科学上の問題をイデオロギー的に評価したこと，③ソ連共産党がルイセンコを支持し，政治が科学に介入したことなどが，国際的な反響をもたらし，生物学上の問題を中心として多面的な問題が各国でも論議された。わが国でも，生物学者・農学者・哲学者などが参加し，特に生物学上の問題を中心に論議された。その論争は，ルイセンコの提出した実験をわが国で追試験することをせずに行なわれたこと，イデオロギー上の問題が科学の論争に持ち込まれるなどして，生物学論争を含みつつも，複雑な内容をおび，決着がつかないまま終わった。しかし，その後，この論争を通して，他学説の批判をする場合の科学者の態度，外国の学説の導入に対する日本の科学者の態度，学説の評価とイデオロギーの問題，理論と実践の問題など多くの教訓を日本の科学者に与えただけでなく，つぎ木雑種の追試を行なうなど，ルイセンコ論争は多大な影響を与えた。一方ではルイセンコが，ダーウ

ィン・ミチューリンの生物理論〈生物が環境との統一体であること〉に立脚し，生物科学が実践と結合すべきであり，それによって理論と実践の相互的に発展するとする彼の基本的な立場を評価した人々により，〈日本ミチューリン会〉が組織され，農民を主体にした研究・実験・普及がミチューリン運動として展開する契機にもなった。〔柳下　登〕

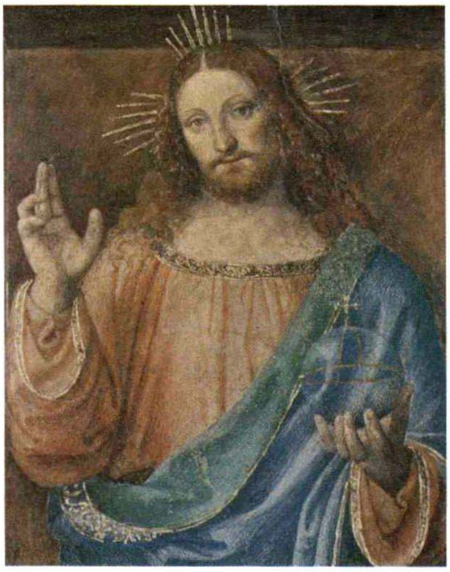
ルイ-ナポレオン ⇨ナポレオン３世

ルイーニ［Bernardino Luini］（1475ごろ～1532ごろ）イタリアの画家。ボルゴニョーネの弟子(でし)で，当時最も人気のあったミラノ派に属した。レオナルド-ダ-ビンチの作風の模倣がその成功をもたらしたが，繊細・穏和な色彩感覚で，叙情的な作品を多く描いた。

るいのうえん【涙嚢炎】涙嚢の炎症。涙液は，結膜鼻側の上下涙管からはいり，涙管を通って涙嚢に流れ込み，さらに鼻涙管を通って下鼻道に流出するが，トラコーマ，結核，梅毒，鼻涙管周辺部の炎症，外傷，上顎洞(じょうがくどう)手術後の瘢痕狭窄(はんこんきょうさく)などで鼻涙管閉塞(へいそく)が起こると，涙嚢に涙液が停滞し，まもなく肺炎菌・ブドウ球菌・連鎖球菌などの細菌感染をうけるようになる。慢性涙嚢炎では，外見上はそれほど異常を認めないが，流涙や結膜炎症状があり，涙嚢部を指圧すると，涙点より膿(うみ)あるいは粘液が逆流する。そのため角膜損傷時や眼球手術時に，容易に細菌感染をひき起こして角膜潰瘍(かいよう)，さらに失明を招くことがあるので，涙嚢洗浄のほか，できれば涙嚢摘出が望ましい。急性涙嚢炎は，おもに慢性涙嚢炎の経過中，感染が急速に涙嚢周辺部に波及して蜂巣織炎*(ほうそうしきえん)を起こしたものをいい，涙嚢および涙嚢周辺部の発赤・腫脹(しゅちょう)・疼痛(とうつう)が顕著で，一見重篤な所見を示すことが多いが，抗生物質の投与，切開排膿により容易に治癒(ちゆ)する。ただし，炎症がひいたあとに硬結を残したり，化膿巣が皮膚面に自潰して瘻孔(ろうこう)をつくることがある。〔納富教雄〕

るいはん【累犯】懲役に処せられた者がその執行を終わり，または執行を免除された日から５年以内にさらに罪を犯し，有期懲役に処せられること。通常の場合より刑が加重される（刑法56条）。再犯・３犯以上を問わず，累犯の刑は犯した罪について定めた懲役の最高限の２倍（ただし，20年以上は20年とする）以下とされている。

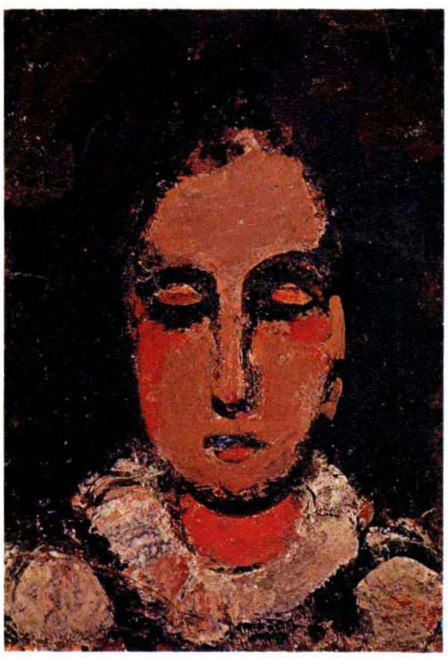
ルイ-フィリップ［Louis Philippe］（1773～1850）フランスのオルレアン朝の王。在位1830～1848年。フランス革命では自由主義貴族として活躍したが，中途で亡命し，王政復古期に帰国，保守反動政治の中で自由主義ブルジョアたちを身辺に集めた。1830年七月革命*が起こると，彼らの支持によってブルボン朝に代わって王位につき，憲章に基づき七月王政とよばれる立憲王政を敷いた。王自身市民的な生活を行ない，利殖の才にも長じていたが，選挙資格制限制などにもみられる大ブルジョア・地主体制は，当時産業革命の進展につれて台頭した新興ブルジョアや労働者層の不満を買った。対外的にはイギリスとだいたい協調し，またアルジェリア経営を進めた。1840年代には外相，それから首相となったギゾー*に依存し，1848年二月革命*でこのギゾーの失脚とともに王政も倒れ，退位してイギリスに亡命し，その地で没した。〔山上正太郎〕



ルイーニ《キリスト》ルーブル美術館蔵



ルイ-フィリップ　ベルサイユ宮殿蔵



ルオー《ピエロ》1925　ブリヂストン美術館蔵

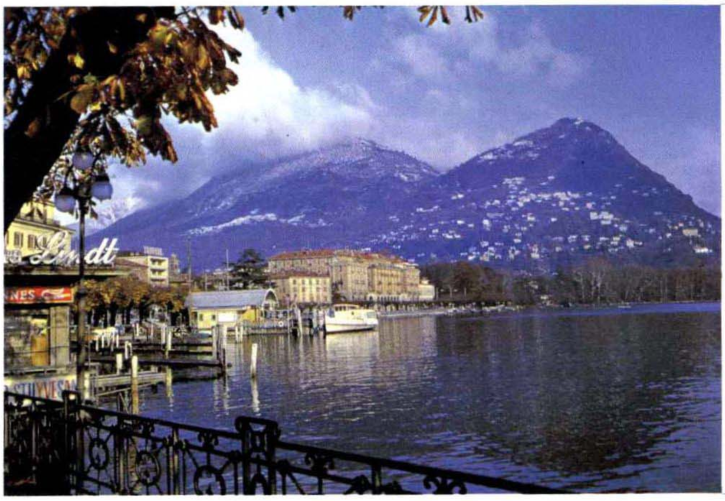
るいれき【瘰癧】⇨頸部(けいぶ)リンパ腺(せん)結核

ルウェンゾリ（山）［Ruwenzori］アフリカ中東部，エドワード湖とアルバート湖の間にある山地で，ウガンダとザイール（旧コンゴ民主共和国）との国境をなす。長さ約100km，幅約35km。標高4,500mを越える高峰が六つあり，いずれも氷河をいただき，最高峰はマルゲリタ山で5,119m。1889年スタンリーによって発見された。

ルオー［Georges Rouault］（1871～1958）フランスの画家。最初，母方の祖父から絵画の手ほどきを受け，14歳時にはステンドグラスの職人の徒弟となった。その後官立美術学校に入学したが，彼の宗教芸術への性向はそこで芽ばえたとされる。官立美術学校ではギュスターブ-モロー教室の生徒であり，同級のマチスと知り合うに至る。モローの死後，ギュスターブ-モロー美術館の館長となる。マチス・マルケらと第１回サロン-ドートンヌに参加した。彼の奔放な筆致はフォーブを思わせるがこの運動には直接関係はない。1940年以降はほとんど宗教上のテーマに専念するが，さらに道化師・売春婦・弁護士などの人物を配した風景画も多く描く。そこにはつねに厳粛な宗教的感情がにじみ出ている。また，荒荒しく力強い線と輝くような色彩にはステンドグラスを思わせるものがある。〔島田紀夫〕

ルカ［Loukas］生没年不詳。シリアのアンチオキアの生まれとされるが，異説もある。元来，医者であったらしく，異教からキリスト教に改宗して，使徒パウロ*の第２次・第３次伝道旅行に同行し，パウロがローマに護送された際もいっしょだったらしい。《新約聖書》の〈ルカの福音書〉〈使徒行伝〉の著者とされる。晩年の消息は不明。

ルカーチ［Lukács György］（1885～1971）ハンガリーの哲学者・文学史家。ブダペストの生まれ。ドイツ留学後ハンガリー革命に参加，1919年革命政府の成立とともに教育人民委員の要職につく。しかし，人民共和国の崩壊によってオーストリア・ドイツに亡命，その後ソ連に落ち着いた。1945年再び帰国してブダペスト大学教授。1956年ハンガリー動乱によって成立したナ



ルガノ ルガノ湖畔の山腹にまで家々が建ち並ぶルガノの町。ヘルマン－ヘッセは1919年以後，風光明媚なこの近郊で執筆生活を送った

ジ政府の教育相・国民文化相に就任したが，ソ連の二度にわたる介入によって反乱は失敗し，彼も捕えられた。しかし，その後釈放され，復職した。彼は，マルクス主義の最も独創的な思想家のひとりといわれ，1923年に発表した《歴史と階級意識》は高く評価されたが，公式のマルクス主義者には受け入れられなかった。ソ連亡命中に芸術理論に関するすぐれた論文を発表，1948年には《実存主義かマルクス主義か》を書いて実存主義批判を行ない，サルトル*らと論争した。その他，ゲーテやヘーゲルに関する研究，美学に関する論著など多数がある。〔飯塚勝久〕

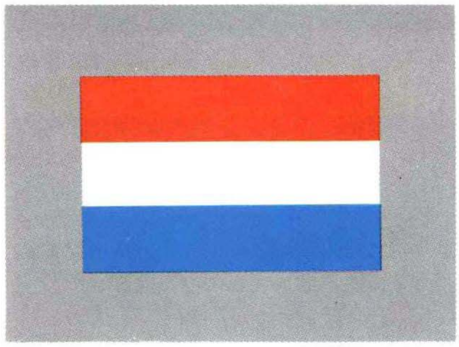
ルカヌス [Marcus Annaeus Lucanus] (39～65) ローマの叙事詩人。哲学者セネカ*の甥(おい)。スペインのコルドバに生まれ，ローマで教育を受け，早くから才能を発揮した。そのため皇帝ネロ*の寵(ちょう)を得たが，やがて詩才を自負する皇帝に嫉妬(しっと)され，創作活動を禁じられたため忿懣(ふんまん)やるかたなく，ピーソーのネロ暗殺計画に荷担して発覚，26歳の若さで自殺した。作品はカエサルとポンペイウスの争いを歌った叙事詩《ファルサリア(内乱)》10巻が残っている。〔松田　治〕

ルガノ [Lugano] スイス南西部，ルガノ湖北岸の観光都市。人口22,000(1968)。背後にサンサルバトーレ山などの高峰を控え，イタリアふうのたたずまいを見せ，15世紀建造の教会など史跡が多い。絹・紙・チョコレート・皮革製品を産する。

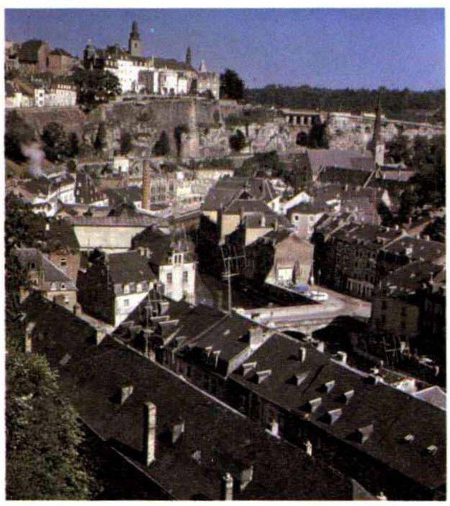
ルカのふくいんしょ 【ルカの福音書】

⇨福音書

ルガンスク [Lugansk] ソ連，ウクライナ共和国東部のルガンスク州の州都。人口36万3,000(1968)。1935～1958年の間はボロシーロフグラードとよばれた。ドネツ工業地帯の中心の一つで，機関車・内燃機関の製造工場があり，ほかに鉱山用機械・鋼管・建設資材・繊維・食品などの工業も盛ん。18世紀末に建設された鉄の鋳造所によって発達した都市で，第2次世界大戦中はドイツに占領された。



ルクセンブルクの国旗 1845年制定。ルクセンブルク公家の青い条のある銀の台に乗った赤いライオンの紋章に由来する。起源は13世紀に求められ，色の順序などは変化したが，19世紀以来オランダの青よりやや明るい青がいちばん下にくるという現在の旗になった



ルクセンブルク 首都ルクセンブルクの町はアルゼット川とその支流に刻まれた段丘状の丘の上にある。写真はその旧市街の一部

ルキアノス [Lukianos] (120ごろ～180ごろ) ローマ時代のギリシアの哲学者・弁論家。ユーフラテス河畔サモサタの生まれ。高等教育をうけて弁論家となったが，のち講演旅行家となり，ソフィスト的弁論術を試みつつ旅行，ゴール地方にまで足を延ばした。40歳のころアテナイに移住し，哲学研究に親しみ，独自の対話法を編み出して名をなした。後年エジプトでローマ行政官となる。その随筆・論文にみられる独特のユーモアは，同時代の擬曲や，キュニコス派の哲人メニッポスの影響を受け，一般宗教や虚栄心を揶揄(やゆ)している。後期にはプラトンの影響が強く，対話篇や書簡体文学で宗教的偏執狂や知ったかぶりの人々，社会の偽善的な面をこきおろしている。代表的作品には，《神々の対話》《偽予言者アレクサンドロス》《異邦人》《本当の話》《死者の対話》などがある。文章は古典期アテナイの散文を器用に模し，擬古文の代表とされている。80編余の対話集がある。〔久保正彰〕

ルキリウス [Gaius Lucilius] (BC180ごろ～BC103) ローマの風刺詩人。ラティウムの富裕な騎士階級の生まれ。スキピオの文学サークルの一員。〈サトゥラ〉とよぶラテン文学独特の風刺詩形式を開拓。政治・文学・道徳など広範な主題を扱った30巻の作品があったが，今日ではわずかな断片しか残っていない。

ルクセンブルク(大公国) [Grand Duchy of Luxembourg, Grand-Duché de Luxembourg] ヨーロッパ西部，西ドイツ・ベルギー・フランスに囲まれる大公国。面積2,586km^2。人口36万(1979年推)。首都ルクセンブルク。

北部はベルギーから続く標高500m前後のアルデンヌ高原で，西ドイツとの国境をモーゼル川が流れる。アルデンヌ高原には豊富な鉄資源があり，農業はモーゼル川沿いの南部で行なわれる。小国ながら鉄鉱石に恵まれ，年間630万tが採掘され，ベルギーなどへ輸出される一方，国内でも鉄鋼業が盛んである。1969年には銑鉄487万tを産し，世界15位である。農業従事者は約16,000人で，13万6,000ヘクタールの耕地でオート麦・ジャガイモ・小麦が栽培され，ウシ19万頭，ブタ90,000頭が飼育されている。酪農製品などはベルギーへ輸出される。ベルギー・オランダとは関税同盟・経済同盟を結び，ヨーロッパ共同体(EEC)にも加盟している。住民はドイツ系で，チュートン語から起こったルクセンブルク語が公用語であるが，フランス語・ドイツ語も広く使われており，ほとんどはカトリック教徒である。11世紀にルクセンブルク伯領が成立し，14世紀に公国となり，のちフランス・スペイン・オーストリアの支配を経て，1815年ウィーン会議でネーデルラント王統治の下に大公国となった。1867年フランスとプロシアの対立の中で，永世中立を宣言して独立したが，第1次・第2次世界大戦ではドイツに占領され，大きな被害をうけた。1945年永世中立を廃し，1948年には憲法を改正して北大西洋条約機構(NATO)に加入した。政体は大公を元首とする立憲君主国で，一

院制の議会(56議席・任期5年)をもつ。女性も第1次世界大戦後，参政権を得ている。国民1人あたりの所得は1,978ドル(1969)で日本の1.5倍も多く，社会保障制度も完備している。現君主は1964年に世襲したジャン大公。〔梶川勇作〕

ルクセンブルク [Luxembourg] ルクセンブルク大公国の首都。人口78,000(1972)。10世紀に起源をもつ城塞(じょうさい)都市で，旧市街は中世のなごりをとどめている。市の中央に16世紀の建築である大公の宮殿があり，17世紀のノートルダム寺院も名高く，谷間の美しい町として知られる。また鉄道の中心で，鉄鋼・機械・織物などの工業も行なわれる。

ルクセンブルク [Rosa Luxemburg] (1871〜1919) ドイツの女性社会主義者。ロシア領ポーランドの首都ワルシャワで，商人の家に生まれた。若いときから社会主義思想をもち，ポーランド社会党の民族主義的傾向に反対して，ポーランド社会民主党を創立し，国際主義的プロレタリアートの立場にたってこれを指導した。第1次世界大戦前，同志の学生との名義上の結婚によってドイツ国籍を得てドイツに入り，社会民主党左派としてベルンシュタイン*らの修正主義に激しく対立して活躍した。大戦中は反戦運動を指揮していたが，ドイツ十一月革命の勃発(ぼっぱつ)とともに〈スパルタクス団*〉を組織し，機関紙《ローテ-ファーネ》(赤旗)を発刊し，ドイツ共産党の創設者となった。しかし1819年1月，社会民主党の手先のために，リープクネヒト*とともに虐殺された。主著として《資本蓄積論》(1912)がある。資本主義の発展のためには非資本主義的環境の必要なことを論じ，帝国主義戦争の必然性を説いたものである。〔林　達〕

ルクソールしんでん 【ルクソール神殿】 上エジプト，ナイル東岸のルクソールの町(かつてのテーベ)にあるアモン*の神殿*。古代エジプト第18王朝のアメンヘテプ3世*が建造をはじめ，アマルナ時代の中断を経て，第19王朝のラーメス2世*が完成(紀元前14〜紀元前13世紀)。部分的な修改築はプトレマイオス期まで続けられた。全長260m，最大幅65m。カルナク神殿*の壮大さには及ばないが，塔門・柱廊つきの中庭・列柱室・内陣(控えの間,至聖所とそれを取り巻く小房)と続く統一あるプランを示し,新王国神殿の典型的な姿をよく伝えている。特にアメンヘテプ3世の手になるパピルス柱列は，エジプト建築を特徴づけるパピルス柱を代表するものである。北方のカルナク神に祭られたアモンが,毎年ここで挙行される〈オペトの祝祭〉に臨席するための住居として建造されたもので，カルナク神殿とは羊頭のスフィンクス(羊はアモンの聖獣)の並ぶ舗道でつながれている。ツタンカーメンによる〈オペトの夜祭〉の状景を描く浮き彫りも残されている。→エジプト(別丁)〔屋形禎亮〕

ルクランシェでんち 【ルクランシェ電池】 1863年フランスのルクランシェが発明した一次電池の一。陽極に炭素板，陰極に亜鉛棒を用い，電解液に塩化アンモニウム，減極剤に二酸化マンガンを用いる。起電力は1.5V，内部抵抗はおよそ5Ωである。

ル-クレジオ [Jean Marie Gustave Le Clézio] (1940〜) フランスの小説家。イギリス人を父に，フランス人を母に南フランスのニースに生まれた。フランス語で作品を書くが，国籍はイギリスである。処女作《調書》で一躍有名となり，独自な実存的人間探究を想像力豊かな文体でつづり，現代人の複雑な内面を表現。《発熱》《大洪水(だいこうずい)》《愛する大地》などの作がある。

ルクレチウス [Titus Lucretius Carus] (BC98？またはBC94？〜BC55) ローマの哲学詩人。その生涯(しょうがい)は詳しくはわからない。身分についても騎士階級あるいは解放奴隷など，いくつかの説がある。しかし古代文学でも屈指の傑作《事物の本性について》6巻を残した。これは信奉する哲学者エピクロス*やレウキッポス*・デモクリトス*らの学説をヘクサメトロス格に託してつづったもので，だいたい1〜2巻は諸存在の原理，3〜4巻は人間の本性，5〜6巻は自然現象を内容とする。合理的知識の優位を信じながらも，ときには幻視者的直感による論述もある。倫理学的にはアタラクシア(心の平安)のみを問題にしており，これが宗教上の無神論につながっている。しかし特に注目すべきは，自己の確固たる哲学と，無味乾燥に陥りがちな原子論・宇宙論を，熱情的で色彩豊かな叙事詩として韻文化した詩才である。この点でやがてウェルギリウスによって完成をみるラテン叙事詩の基礎をすえたといえる。〔松田　治〕

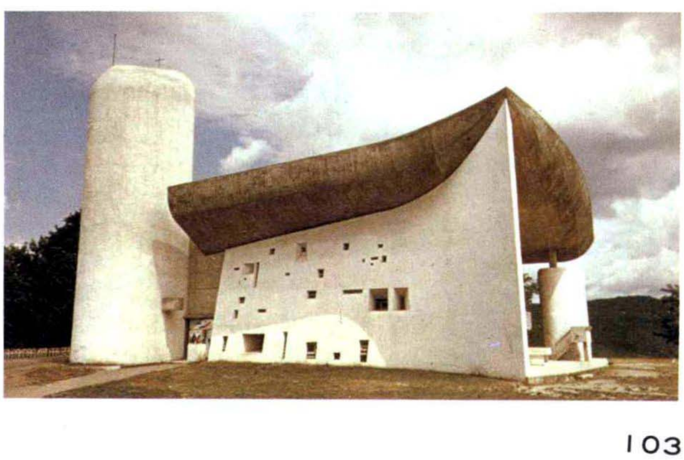


ルコウソウ

るこうそう 【縷紅草・留紅草】 双子葉植物・ヒルガオ科。熱帯アメリカ原産のつる性一年草。茎は長さ1〜2mで，左巻きで他物にからみつく。葉は互生し，羽状に深裂して，糸状の裂片は主脈の左右に対生につく。6〜8月，葉腋(ようえき)から長い柄を出し，その先に1〜2個の赤色花まれに白色花をつける。花冠は直径1cmほどのらっぱ状で，先が星形に5裂する。果実は卵形の蒴果(さくか)で，種子は細長い。近縁のハゴロモルコウソウ(モミジルコウソウ)の葉は中裂し，裂片の幅が広い種である。また，マルバルコウソウは葉が心状円形で，黄紅色の花をつける。

ルゴールえき 【ルゴール液】 ヨウ素をヨウ化カリウムの存在下に錯塩として水に溶解した液。赤かっ色，澄明で，ヨウ素臭があり，ふつう3.3%のヨウ素を含む。防腐・殺菌・消毒剤として皮膚病・咽頭炎(いんとうえん)などの場合，患部に塗布して用いる。光によって変化するため，保存には注意を要する。このほかグリセリンやフェノールを加えて処方を変えた製品が多い。

ル-コルビュジエ [Le Corbusier] (1887〜1965) スイス生まれフランスの建築家。現代建築の最大の巨匠のひとり。パリに出て，ペレー・ベーレンスらについて建築を研究，同時に画家としても活動し，オザンファンとともにピューリスム(純粋主義)を唱え，広範な影響を与えた。建築家としては，地中海的な伝統に根ざすヨーロッパの都市郊外建築に強い共感をもち，アメリカの無機的な巨大都市建築には批判的であった。実作とあいまって新しい総合芸術としての建築を主唱し，現代建築国際会議(CIAM)を創設し，著書《建築に向かって》でその立場を理論的に明確にした。また，カルシュやポワッシーに幾何学的でありな



ル-コルビュジエ
《ロンシャンの教会堂》
1957

がら人間工学的な配慮を払った新しい家屋群を建設した。1927年《近代建築の５原則》を発表し，この原則をジュネーブの国際連盟の建物に具体化した。上記のほかに，マルセイユ-アパート，ニューヨークの国連事務局，ロンシャンの聖母教会などの代表作がある。〔吉田玲子〕

ルコント-ド-リール　［Charles Marie Leconte de Lisle］（1818〜1894）　フランスの詩人。はじめ政治に強い関心をもったが，1848年の革命後，政治的信念を失い，極度の厭世観(えんせいかん)を抱いて文学者として生活した。冷静な客観主義に立ち，古代宗教に関心を示して，《古代詩集》《夷狄(いてき)詩集》を発表した。また《現代高踏派詩集》を編集，ロマン派に対する高踏派の中心人物として活躍した。

ルーゴン-マッカールそうしょ　【ルーゴン-マッカール叢書】　ゾラの20巻に及ぶ小説群の総称で，バルザックの《人間喜劇》にならって意図された。この中には《居酒屋》《ナナ》《ジェルミナール》《大地》《獣人》などが含まれ，執筆期間は1871〜1893年。いずれの作品も，フランスの第二帝政時代(1852〜1870)の社会・風俗を背景に，ルーゴン家とマッカール家との一族の自然的・社会的歴史が描かれ，ゾラの自然主義思想が最も顕著にみられる。〔池田公麿〕

ルサカ　［Lusaka］　アフリカ南部，ザンビアの首都。人口34万8,000(1972)。標高約1,400ｍの高原上に位置する美しい都市で，中央のカイロ大通りはみごとな並み木と高層建築で知られる。アフリカ南部の幹線鉄道上にあり，周辺農牧地域の中心をなし，またセメント工業が行なわれる。1935年以来北ローデシアの主都であった。1965年創立のザンビア大学や空港がある。

ル-サージュ　［Alain-René Le Sage］（1668〜1747）　フランスの小説家・劇作家。スペインのピカレスク小説の影響を受けた風刺小説《びっこの悪魔》で認められ，同種の傑作《ジル-ブラース物語》などを発表。写実的な風俗・人物の描写によって写実主義の先駆をなした。その他，金銭をはじめて主題にした喜劇《チュルカレ》など，多数の笑劇も手がけ，フランスで最初の職業作家といわれる。

ルージ　［Łódź］　ポーランド中央部，首都ワルシャワの南西110kmにある，この国第２の都市。人口74万8,000(1967)。特に繊維工業で名高く，ポーランド軽工業の中心をなす。この地の工業発達は1815年以降支配したロシアに負うところが多い。第１次世界大戦の激戦地であり，また第２次世界大戦でも戦災が激しく，30万以上の人口減少をみた。ドイツ名はロズ。

ルシタニアごうじけん　【ルシタニア号事件】　第１次世界大戦中の1915年５月７日，ドイツ潜水艦がアイルランド沖でイギリスの巨船ルシタニア号を撃沈した事件。同船は軍需品を積載していたが，ドイツ潜水艦は国際法違反の無警告攻撃であったこと，死んだ乗客1,200人の中に中立国人であったアメリカ人が100人余り含まれていたことにより，アメリカの対独世論は急速に悪化した。ドイツは1916年賠償を約したが，この事件は1917年２月のドイツの無制限潜水艦戦宣言とともに，合衆国の第１次世界大戦参加の原因となった。〔折井一彦〕

ル-シッド　コルネイユの5幕韻文悲劇(1636)。ロドリーグ(またの名ル-シッド)とシメーヌは相思相愛の仲であるが，ロドリーグは父の名誉を救うためにシメーヌの父親を決闘で殺す。シメーヌは復讐(ふくしゅう)を誓うが，正義を重んじる相手の心情にうたれ，２人は結ばれる。騎士の道を貫くロドリーグと情熱の女性シメーヌの義理と愛情の葛藤(かっとう)を主題にした古典主義演劇初期の傑作。

ルシフェラーゼ　［luciferase］　生物発光において発光に関係する物質のうち，熱に不安定で，分子量の大きい化合物に対して与えられた名称。現在では，ルシフェラーゼは一種の酸化酵素であり，ルシフェリンを酸素で酸化する働きをもつと理解されている。北アメリカ産のある種のホタルのルシフェラーゼは結晶状に分離され，分子量は約10万と推定されている。ホタルの発光に際しての作用様式も詳細に研究されているが，他の生物のルシフェラーゼについての知見はきわめて少ない。〔秋野美樹〕

ルシフェリン　［luciferin］　生物発光において発光に関係する物質のうち，比較的熱に安定で，分子量の小さい化合物に対して与えられた名称。発光に際し，ルシフェリンはルシフェラーゼの存在で，酸素によって酸化される。各種発光生物のルシフェリンのうち，その本体がわかっているのは，発光細菌，日本産のウミホタル，および北アメリカ産のホタルの場合だけである。発光細菌のルシフェリンは，リボフラビン(ビタミンB_2)の誘導体(リボフラビンのリン酸エステル，フラビンモノヌクレオチドの還元型)で，発光にはそれ以外に脂肪族アルデヒド(炭素数６〜16)が必要とされる。ホタルのルシフェリンは比較的不安定な化合物で，$C_{11}H_8O_3N_2S_2$という分子式をもつ。発光にはそれ以外にATPとマグネシウムイオンが必要である。ウミホタルのルシフェリンは$C_{21}H_{28}O_2N_6$という分子式をもつ。発光機構に関してはホタルの場合が最もよく研究されている。〔秋野美樹〕

ル-シャトリエ　［Henry Louis Le Chatelier］（1850〜1936）　フランスの化学者。ソルボンヌ大学教授。冶金(やきん)・窯業など工業上の研究から，1884年に物質系の平衡移動の法則(ル-シャトリエの原理)を確立した。さらに白金-イリジウム熱電対(ルシャトリエの高温計)をくふうして，高温測定を正確にした。

ル-シャトリエのげんり　【ル-シャトリエの原理】　熱力学的に平衡状態にある系に対して，濃度・圧力・温度などを変化させると，その変化を打ち消す方向にその系は動く，という法則。1884年H. L. ルシャトリエが提出したのでこの名がある。たとえばハーバー法において

$$N_2 + 3H_2 \rightleftarrows 2NH_3 + 23.8\,\mathrm{kcal}$$

圧力を高めると系は圧力の低い方向，すなわちNH_3のできる方向に動き，温度を下げると発熱の方向，すなわち右側へと動いて平衡に達する。この法則は平衡状態において，系のエントロピーその他の熱力学的関数が極大あるいは極小値をとることから熱力学的にも導かれる。〔三輪　誠〕

ルジャンドル　［Adrien Marie Legendre］（1752〜1833）　フランスの数学者。ツールーズの生まれ。パリのマザラン大学に学んだ。1775年パリの陸軍学校教授，のちエコール-ノルマル教授。整数論・最小二乗法・楕円(だえん)積分の分野ですぐれた業績を残した。このほか数学教育にも尽力し，《幾何学原論》(1794)はすぐれた教科書として世界的に影響を及ぼした。

ルージン　ツルゲーネフの中編小説(1856)。小地主出身のルージンは高い教養を身につけ，浪漫的な理想主義を説くが，ロシアの民衆や現実生活から遊離した根なし草であり，女の愛にこたえる意志の力にも欠け，祖国では活動の場を得られず，フランス革命のさなか，パリのバリケードで名もなき犠牲者として死ぬという物語。当時のロシア知識人の一典型であるいわゆる余計者を描いた傑作である。

るすい　【留守居】　江戸幕府および諸藩の職名。幕府の留守居は奥年寄ともいい，老中支配に属して大奥の取り締まり，非常立ちのき，諸国関所の女手形(江戸藩邸にいる大名の妻子の帰国を警戒する目的で設けられた女性用関所通過手形)などの事務をつかさどった。定員４〜６名。将軍外出の際には江戸城内の守衛を委任され，旗本最高の役職とされた。諸藩の留守居は各江戸藩邸に置かれ，幕府と自藩間の公務の連絡，また他藩の留守居との交際にあたった。藩の渉外面を代表し，殿中において同じ間詰(まづめ)の大名留守居間で仲間組合をつくり，定期・臨時の会合をしばしばもった。

〔高崎徳次〕

るすどころ　【留守所】　平安・鎌倉時代，国司(地方官)遙任の盛行に伴い，目代と在庁官人によって構成された政庁。10世紀末より成立したとみられるが，その成立過程・職能は各国各様で一定していない。知行国制の進展，在庁官人の御家人化するにしたがい，目代と在庁官人との利害が対立し，鎌倉末期に消滅した。

ルーズベルト　［Theodore Roosevelt］（1858〜1919）　アメリカ合衆国の政治家。第26代大統領。在任1901〜1909年。ニュー

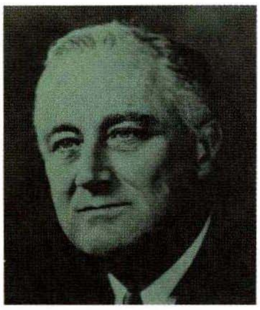
ヨークの名家の出身。ハーバード大学卒業後，23歳でニューヨーク州議会議員となり，共和党進歩派として州政界で活躍。1897年マッキンリー大統領の海軍次官となり，翌年起こったアメリカ-スペイン戦争*には同次官を辞し，義勇兵を指揮してキューバに侵攻，国民的英雄になった。1899年ニューヨーク州知事となり，1900年マッキンリーの副大統領として選出され，1901年マッキンリー暗殺により大統領に昇格し，1904年再選された。その任期はいわゆる〈革新主義の時代〉にあたり，彼自身も革新運動の全国的指導者として天然資源の保護や食物・薬品などの適正維持に努めた。特に強大化しつつあったトラストの対策には意を払い，1904年の大持株会社〈北部証券会社〉の解散など，国民の利益とならぬトラストに州際通商法・シャーマン反トラスト法を適用して最高裁にその解散を提訴，〈トラスト征伐者〉の異名をとった。また，1902年の炭鉱ストには労使間の調停役として介入，その先例をつくるなど，独占資本の弊害を政府の権限で積極的に規制しようとした。外交面ではアメリカの海外進出に努め，1903年パナマの独立を援助し，パナマ運河開削に着手。1905年中南アメリカにモンロー主義を拡大，アメリカの国際警察権を主張する〈ルーズベルトの系論〉を発表，強硬な〈棍棒(こんぼう)外交〉によるカリブ海政策を実施した。極東では中国の門戸開放政策を維持した。国際紛争の調停にも活躍，1905年ポーツマス会議での日露戦争の講和，1906年アルジェシラス会議*の調停，1907年日米紳士協定でアメリカ西海岸の排日運動の解決に努めた。その功で1906年ノーベル平和賞を受賞。1909年辞任したが，党の保守化と後任のタフトとの反目から1912年進歩党を結成，〈ニューーナショナリズム〉を掲げて出馬したが，民主党のウィルソンに敗れた。彼の政治生命はウィルソンの〈ニュー-フリーダム*〉政策の実施で終わったと考えられるが，その革新主義的政策はタフト・ウィルソンに継承された。➔カリブ海政策　➔革新党

〔折井一彦〕

ルーズベルト [Franklin Delano Roosevelt]（1882～1945）アメリカ合衆国の政治家。第32代大統領。在任1933～1945年。ニューヨークの名家に生まれ，T.ルーズベルトのいとこにあたる。ハーバード・コロンビア両大学を卒業して弁護士となり，1910年民主党よりニューヨーク州上院議員に当選。1912年ウィルソンの大統領選出を助け，1913年その功により海軍次官に任命された。1920年民主党副大統領候補となるが落選。1921年ポリオにかかり下半身の不自由に悩んだ。1929年ニューヨーク州知事となり，公益企業の規制や農民救済政策で進歩的政治家として名声を博し，世界恐慌の深まりつつある1932年民主党の大統領候補に指名された。彼は世界恐慌の原因

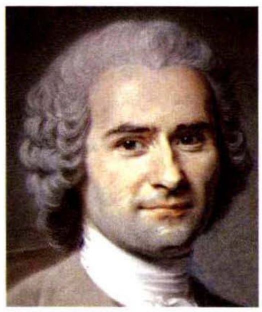
T.ルーズベルト





F.ルーズベルト

J.ルソー



を国内経済の富の分配の不平等にあるとし，資本主義の修正を約して，国際経済に恐慌の原因ありとする共和党のフーバーを破り，1933年大統領に就任した。当時アメリカ経済は最悪の状態にあったが，彼は就任演説で〈恐れねばならぬのは恐怖そのものである〉と述べ，国民の心に勇気を与えるとともに，ブレーン-トラストを起用してニュー-ディール*政策を立案，制定した。1936年選挙では圧倒的支持で再選されたが，1935年ごろより資本家の反対と労働者・農民の強い要求を左右両側から受け，また最高裁の改組・党内改革問題，1937年の景気後退に悩み，ニュー-ディールはここにいちおう終焉(しゅうえん)を迎えた。当時までのルーズベルトの関心は内政にあり，対外的には積極的参加を避けていた。オタワ世界経済会議への不参加，極東での現状維持，ラテン-アメリカへの善隣外交*はその現われである。しかし，ヨーロッパでの緊張激化に伴い，中立政策・孤立主義から民主主義防衛へと政策を変化，1937年には全体主義の侵略から民主主義国を防衛せねばならないと，いわゆる〈防疫演説〉を発表，1939年中立法を連合国に有利に改正。1940年異例の3選を実現，1941年〈四つの自由〉を説き，武器貸与法を制定し，アメリカを〈民主主義の兵器庫〉と宣言するとともに，チャーチルと大西洋憲章*を発表した。同年末第2次世界大戦に参加してからは国論を統一し，チャーチル・スターリンとともに数回の連合国会談で戦争遂行と戦後の平和世界の創造に尽力した。1944年4選をなし遂げたが，ドイツや日本の降伏をまたず，1945年4月死去した。アメリカ史上リンカーンと並ぶ偉大な大統領と評価される。

〔折井一彦〕

ルーズベルト [Anna Eleanor Roosevelt]（1884～1962）アメリカ合衆国の社会運動家。大統領F.ルーズベルトの夫人で，大統領T.ルーズベルトの姪(めい)。ニューヨークの生まれ。1905年結婚。州婦人有権者連盟・民主党州委員会婦人部・民主党全国委員会婦人部などで活躍した。第2次世界大戦中は民間防衛局次官となり，1945～1953年国際連合代表，1946～1953年国連人権委員長として平和と基本的人権の発展に貢献した。《自伝》(1937)，《回想録》(1949)などの著書がある。

〔折井一彦〕

ルーセル [Albert Roussel]（1869～1937）フランスの作曲家。フランス北部の小都市ツールコワンの生まれ。早くから音楽に親しんでいたが，海にあこがれて海軍士官になった。しかし1894年，25歳のとき軍職を退官し，パリのオルガン奏者ジグーに師事して作曲を学びはじめ，さらに1898年からはスコラ-カントルムに在学して，ダンディ*のもとで古典的な作曲技法を身につけた。さらにのちには同校で教鞭(きょうべん)を取り，サティ*やバレーズ*などを教えた。作曲家としてのルーセルの名を一躍高めたのは，独唱・合唱・オーケストラのための《エボカシオン》(1912)とバレエ曲《蜘蛛(くも)の饗宴(きょうえん)》(1912)で，色彩豊かな管弦楽法と印象派から引き継いだ繊細な音感覚は高く評価された。以後，しだいに純粋な器楽曲の作曲に興味をもち，4曲の交響曲のほか多くの作品を残した。代表作は交響詩《復活》(1903)，交響曲第1番〈森のうた〉(1906)，交響曲第3番ト短調(1930)。

〔船山　隆〕

ルソー [Jean-Jacques Rousseau]（1712～1778）フランスの思想家・文学者。スイスのジュネーブの時計職人の子に生まれる。生後まもなく母と死別し，父に育てられたが，10歳のとき，父が家出し，叔父(おじ)に引き取られた。徒弟奉公に出されたが，16歳のとき放浪生活にはいり，1731年ワラン夫人と知り合い，同棲(どうせい)した。1742年彼女と別れてパリに出，ディドロ*をはじめとする進歩的思想家たちと交わった。1746年お針子テレーズ-ルバスールと同棲し，のち彼女との間に5子をもうけた。1749年ディジョンのアカデミーの懸賞論文に応募して当選し，翌年《学問芸術論》として刊行。この中ですでに自然の善性を説き，人間堕落の原因を文明社会に帰する独自の思想を確立した。以後，その見解に沿って《人間不



T.ルソー
《フォンテーヌーブローの森の入口》



H.ルソー
《落日》

平等起源論》(1755)，書簡体恋愛小説《新エロイーズ》(1761)，政治論《社会契約論(→民約論)》(1762)を発表，特に教育小説《エミール》(1762)における自然宗教礼賛が政府の迫害の対象となり，8年間ヨーロッパ各地を逃亡した。その間，自己の思想の正当性弁護のため，自伝《告白録》(没後刊)を執筆。他に老境の憂愁を述懐した未完の《孤独な散歩者の夢想》などがあり，美しい自然描写とあいまってロマン派の到来を準備した。また，その急進的政治理念はフランス革命の先駆ともなり，わが国においても中江兆民の紹介などにより，自由民権運動にその理論的根拠を提供している。〔石井忠厚〕

ルソー ［Théodore Rousseau］(1812〜1867) フランスの画家。古典主義的な画家レティエールのもとで絵画を学ぶ。やがて，カンスタブルやオランダの風景画家たちの作品に接し，独自の道を歩むようになる。森や沼など汚れなき自然の風景を詩情をもって描き出した。バルビゾンに住み，いわゆるバルビゾン派の代表的画家である。

ルソー ［Henri Rousseau］(1844〜1910) フランスの画家。軍隊に勤務したのち，弁護士の書記となる。1869年以降，パリの入市税関で働くかたわら絵を描きはじめたところから，〈ルードゥアニエ(税関吏)〉と愛称された。1886年税関をやめ，その後ほとんど毎年アンデパンダン展に出品する。素朴(そぼく)で独創的な作風は，はじめ観衆や批評家の嘲笑(ちょうしょう)を誘ったが，1890年代にはいってから前衛的な若い画家たちの注目するところとなる。無垢(むく)な新鮮さと怪奇な幻想が生みだすルソーの世界は，20世紀にはいってからピカソやアポリネールらに〈発見〉され，〈素朴派〉の画家として抽象派やシュルレアリストたちによって特に賞賛されるようになった。〔島田紀夫〕



ルター ルーカス-クラナッハ《ルター像》 バール美術館蔵

ルソン(島) ［Luzon］ フィリピン北部にあり，フィリピン諸島中最大の島。フィリピンの主島をなし，主都マニラがある。北はバシー海峡，東は太平洋，西は南シナ海に臨む。面積10万4,700km²。人口約1,200万。北部に農業の盛んなカガヤン谷が南北に走り，谷の東方にシェラマドレ山脈，西方に中央コルジェラ山脈がある。中央コルジェラ山脈のさらに西側には，リンガエン湾からマニラ湾に至る中央ルソン平野(マニラ平野)が開け，人口も多く主要農業地帯になっている。中央コルジェラ山脈はマニラ付近でバイ湖などのある地溝(ちこう)状の湖水平野に達し，さらに東に向かって侵食された火山地域となり，タール火山やマヨン火山がある。熱帯の海洋性気候で，モンスーンの影響を受け，台風がしばしば東海岸を襲う。農業が主産業で，米・トウモロコシ・ココナツ・サトウキビ・アバカ・タバコ・バナナ・果樹を栽培する。鉱産物には金・クロム・銅・鉄鉱・石炭・石灰岩がある。第2次世界大戦中の1941年12月に日本軍が上陸し，マニラ湾東部のバターン半島と湾口のコレヒドール島が激戦場となったため，マニラは無防備都市を宣言した。1945年2月，激戦の末アメリカ軍が奪回した。主要都市はマニラ・ケソンシチー・バギオ・レガスピ・バタンガスなど。〔大崎 晃〕

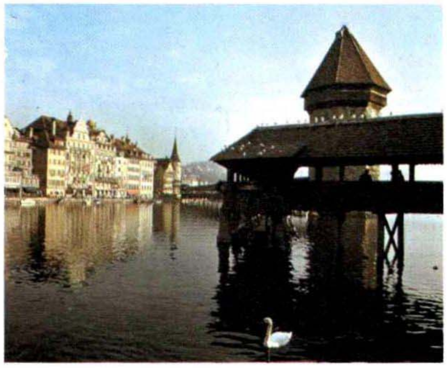
るそんすけざえもん 【呂宋助左衛門】 生没年不詳。安土桃山・江戸初期の貿易商。本名は納屋。和泉(いずみ)(大阪府)堺(さかい)の上層町人層である納屋衆の家に生まれた。1593年(文禄2)ルソンに渡り，翌年帰国。その貿易品が豊臣秀吉(とよとみひでよし)および諸大名に買い上げられて巨利を得たが，豪奢(ごうしゃ)な生活が秀吉の怒りに触れ，家産を没収された。1607年(慶長12)カンボジアに渡り，同地に永住したという。堺市の太安寺本堂はその屋敷跡と伝えられる。〔高崎徳次〕

ルター ［Martin Luther］(1483〜1546) ドイツの宗教改革者。アイスレーベンに農民の子として生まれた。エルフルト大学に進み，級友の急死と落雷の恐怖に会って，死の問題をめぐる第1次回心を体験し，1505年アウグスチヌス隠士修道会にはいる。修道士としてのルターは忠実なカトリック主義者として戒律を極限まできびしく守ったが，むしろこのきびしさのゆえに自己崩壊に陥っていった。彼をとらえた疑いは，救いが〈なされた行為によって〉決められないとすれば，その場面で人間はまったく無力であるから，そのように決めた神を人間は愛せるかどうかという問題であり，ついに〈わたしは神を憎悪する〉とさえ叫ぶにいたる。その間，彼は司祭となり，ウィッテンベルク大学講師，ローマ滞在，聖書研究，ウィッテンベルク大学神学部教授と活動を広げながら，この魂の苦闘は，1513年夏ごろ，〈塔の体験〉とよばれる第2次回心を迎えた。それは自分の恐怖から出発する信仰は真に対象への愛ではないという

宗教の純化の問題であった。つまり〈自己を求める我の意志〉こそが罪なのであり，この罪は自己の追究から出る善き行為によっては清められない。神によって義として受け入れられるのは完全に自己なき自己感情，つまり〈信仰のみによって〉であり，宗教は自然的な幸福追求の衝動から切断されている。このような苦悩を背景として，1517年免罪符*に反対する95か条論題*がウィッテンベルク城教会の門扉(もんぴ)にはられ，ドイツ宗教改革が始まる。この免償論争が巻き起こした渦(うず)の中で，彼は《教会のバビロン捕囚》《ドイツ国民たるキリスト者貴族に与う》《キリスト者の自由》の３著作を著わして，その義認論を確立し，ついに1520年，教皇レオ10世の破門脅迫状を焼き，両者は決定的破局を迎えた。翌年ウォルムス国会によびだされたルターは，ドイツ皇帝カール５世に対して自己の信仰を取り消さず，帝国アハト(追放)刑を宣せられたが，ザクセン侯フリードリヒの好意によってワルトブルク城に保護された。ここで彼は《新約聖書》のドイツ語訳を完成し，〈聖書のみによって〉という改革の原理を具体化した。このルター不在の時期に，宗教改革は暴動の形をとって次々と爆発し，社会的レベルで現実となっていった。ワルトブルク城から帰ったルターは，ひたすら人心をしずめ，農民一揆(いっき)を拒否し，領邦主権と妥協しながら，彼自身の新しい福音主義教会制度を固めてゆく。彼が一時的便法と考えていたものは固定化し，領主の教会に対する統制は阻止できないものとなって，いわゆる〈領邦教会〉が成立したが，それでも原理的にはルターの神学が貫かれている。それはカトリック伝承の多くを退けているが，洗礼と聖餐(せいさん)の儀礼，三位一体論の教義を保持している。また，1525年にはカタリナ-フォン-ボラと結婚して〈すべての信徒が司祭である〉ことを確かにし，さらに《大・小教理問答書》《アウグスブルク信仰告白》によって，彼はルター派教会*の信仰規準に決定的刻印を押した。〔堀越知巳〕

ルターはきょうかい　【ルター派教会】約7,000万の信徒を有し，プロテスタント系の32%を占める最大の教派。宗教改革の当初，ルター*は新しい教会を設立する意図をもたなかったが，改革運動の進展につれて，ルター派を組織化する必要が生じ，しだいに自己の教説を中心とする信仰規準・教会制度を決めていった。その過程で，ルターはドイツ諸侯の力を借り，それと妥協していったため，諸侯はその領地内の教会の首長的地位を占めて，教理や礼拝様式にも介入し，こうして領邦によって相当の制度的差をもつ〈領邦教会〉が形成された。ルター派教会は，1555年のアウグスブルク宗教和議*の結果，ドイツ帝国内に法的権威を認められ，さらに1580年，〈和協信条書〉によって教理の基礎も確定した。それは〈信仰のみによって〉〈聖書のみによって〉〈万人祭司制〉を柱として，洗礼と聖餐(せいさん)の儀礼，三位一体論を受け入れ，教理問答による教育を特色とする。のちにはスコラ的神学方法を導入して福音主義信条を解明しようとする正統主義が生じるが，同時にそれを批判する敬虔(けいけん)主義も対立して，内部的に一つの緊張関係をなしている。前者は国教会的立場に，後者は自由教会運動に結びついていった。

ドイツでは，13の領邦教会を受け継いで1948年に成立したドイツ一致福音ルター派教会(VELKD)が2,100万の信徒を有し，政教分離をたてまえとしつつも，実質的には教会税の徴集などの面で国家の力と密着している。スウェーデン・デンマーク・ノルウェーの３国ではルター派を国教会とし，共和国憲法をもつフィンランドでも実際上はルター派が国教会的組織をもつ。アメリカでは多くの自由教会的分派が生じたが，しだいに統合され，今日は在アメリカ-ルター派教会(LCA)とアメリカ-ルター派教会(ALC)とが主たる教会となっている。日本においては，1893年(明治26)にアメリカ，次いでフィンランドの教会から伝道され，佐賀県を中心とする九州伝道に始まってしだいに北に広まり，1953年(昭和28)から宗教法人法による教団となり，〈日本福音ルーテル教会〉と称している。教会数約140，教職者数約210，信徒数約13,000。〔堀越知巳〕



ルツェルン湖　ルツェルン市の屋根のある橋カペル橋と水塔。湖から流れ出るロイス川にかかり，14世紀の建造でルツェルンでは最も古い



ルッソロ　《家,光,天》　バーゼル美術館蔵

ルチン　［rutin］　エンジュのつぼみ，ソバの全草，タバコの葉などに含まれるフラボン配糖体。淡黄色ないし淡黄緑色の細かい結晶。ルチンが動物実験において毛細血管の脆弱(ぜいじゃく)性および異常な透過性を回復させ，血圧降下作用を示すなどの報告があるが，一方ではこのような著明な作用は少ないとする学者もいる。臨床的には毛細血管出血の予防，高血圧症，脳溢血(のういっけつ)，諸種の紫斑(しはん)病，毛細血管拡張症などの治療に内服または注射投与する。毒性は少なく，副作用は認められない。〔中館正弘〕

ルツェルン　［Luzern］　スイス中部，同名県の中心都市。人口74,000(1968)。ルツェルン湖*の西岸，ロイス川の流出口にあり，アルプス連山を控える観光・保養地として知られる。繊維・食品などの工業や金細工が行なわれる。８世紀に起源をもつ都市で，歴史的建造物が多く残されている。フランス語名はリューセルン。

ルツェルン(湖)　［Luzern］　スイス中央部にある湖。スイスではフィーアワルトシュテット(四州湖)という。面積115km²。湖面標高437m，最大深度214m。氷食を主成因とする氷河湖で，ロイス川が北岸から流れ出ている。北岸のリギ山(1,800m)，西岸のピラッス山(2,133m)などが藍色(あいいろ)の湖水に影を映し，スイス有数の景勝の地とされている。西岸に古都ルツェルン*があり，湖畔には観光地が多い。

ルツき　【ルツ記】《旧約聖書》の第８書。〈諸書〉の一。BC450～BC250年ごろの作。嫁と姑(しゅうとめ)の心暖まる物語。異国モアブで夫と２人のむすこに先だたれたナオミは，モアブ人である嫁たちと別れて帰郷しようとする。しかし嫁のひとりルツだけは孝養を尽くす決意を変えず，ベツレヘムへついて行く。そこで彼女は姑に仕え，義父の親族ボアズと再婚して子をもうける。この子がダビデ*の祖父である。２女性間の情愛を縦糸にして，ヤーウェ神の大きな愛が異邦人にも分け隔てなく注がれることが強調される。〔松田　治〕

ルックザック　［Rücksack］　リュックサックまたは略してザックともいう。登山用の荷物を入れる布製の背負い袋。各種の形がつくられ，軽い登山に用いる小形のものをサブザック，やや長期の登山のために食料・露営用具などを詰める大形のものをキスリングとよぶ。いずれももめんの防水布や合繊を用いて袋状に仕立て，口は巾着(きんちゃく)形に引き締め，サイドポケットがつけられている。このほかスキー用や岩登り用などのものもある。近年ハイキング用にナイロン製のナップザックがあり，ひもが細いので，長時間背負うと肩を痛める欠陥があるが，手軽なものとして多く利用され

ている。〔小池千枝〕

ルッソロ［Luigi Russolo］（1885～1947） イタリア未来派の画家。音楽を学び，詩人でもあった。画家としても，音楽的要素をもつ未来主義のダイナミズムを表現する作品を描いた。《騒音の芸術宣言》を発表し，〈イントナルモーリ（騒音発生装置）〉と称する一種の楽器を発明した。第1次世界大戦に参加，戦後はパリに移住，晩年は具象的絵画に向かった。➔前ページ（写真）

ルッペ［luppe］ 直接製鉄法によって得られる粒状の還元鉄。粒鉄ともいう。成分は使用原料の良否によって異なるが，純度のよいものは製鋼用原鉄として製鋼炉で鋼にする。また不純物の多いものは銑鉄製造用原料として溶鉱炉に装入し銑鉄にする。

るつぼ【坩堝】 物質の溶融または焙焼（ばいしょう）に用いる容器。黒鉛・耐火粘土・アルミナ・マグネシアなどの高温に耐える材料でつくられる。場合によっては鋳鉄・鋳鋼・鋼などでつくられたものを含めることもある。軟化温度・融点が高く，溶解金属中へ不純物の混入が少なく，急熱・急冷に耐えることが必要とされる。容量は数グラムから数百キログラムまで種々ある。化学分析では薬品・酸に強い白金製るつぼ・ニッケル製るつぼなども使用される。

〔草川隆次〕

るつぼせいこうほう【坩堝製鋼法】 原鋼を耐火製るつぼ内に配合充填（じゅうてん）し密閉した後るつぼ溶解炉に入れ，外部からガスまたはコークスで加熱して溶融させ不純物を分離させる製鋼法。原料の選択が必要で，精選すれば優良鋼が得られる反面，炉の熱効率がきわめて低く，生産費が高くなる。るつぼには粘土るつぼと黒鉛るつぼとの2種類がある。1回の溶解量は15～50kg程度，寿命は普通炭素鋼で3～4回である。現在はほとんど用いられていない。

〔草川隆次〕

るつぼろ【坩堝炉】 るつぼを加熱しその中で物質を溶解する炉。構造は簡単で，小規模作業に適している。銅合金・軽合金などの溶解に利用され，一般に銅合金には黒鉛製るつぼ，軽合金には鉄製るつぼが用いられる。加熱方式には燃料燃焼式と電気加熱式とがあり，前者における重油炉が普及している。

ルテイン［lutein］ カロチノイドアルコールの一種で，キサントフィルに属する色素。キサントフィルを植物ルテインと称することもある。緑色植物の葉，藻類（そうるい），種々の黄色の花弁に広く見いだされる。植物の葉のキサントフィルの中では，普通は最も多量に存在する。カナリアなどの鳥の羽毛，哺乳（ほにゅう）類の卵巣の黄体，魚卵などにも含まれている。また，鶏卵の卵黄のおもな色素でもあるが，これは摂取した植物に由来すると考えられる。〔南川隆雄〕

ルテチウム［lutetium］ 周期律表第Ⅲ族，ランタニド族元素の一。記号Lu，原子番号71，原子量174.97。ランタニド族のうち最大原子番号の元素である。天然には質量数175，176の二つの同位体がそれぞれ97.4％，2.60％の割合で存在し，176同位体は放射性がある。六方晶系の結晶，比重9.74，融点約1,700℃，原子価は3価で，その化合物は無色，反磁性をもつ。化学的性質はほかのランタニド元素に類似している。

ルテニウム［ruthenium］ 周期律表第Ⅷ族，白金族元素の一。記号Ru，原子番号44，原子量101.07。1845年ロシアのK.クラウスによって自然白金中から取り出された。銀白色のかたくてもろい金属。融点約2,450℃，空気中では冷時安定だが，加熱すると酸化されて黒色となる。白色・パラジウムの硬化金属として装飾用や電気接点に利用される。また，イリジウム・オスミウムなどとの天然合金は万年筆のペン先・小軸受けなどに用いられる。〔古屋 弘〕

ルーテルきょうかい【ルーテル教会】 ⇨ルター派教会

ルーデンドルフ［Erich Friedrich Wilhelm Ludendorff］（1865～1937） ドイツの軍人。第1次世界大戦初期，東部戦線の第8軍参謀長として司令官ヒンデンブルクを助け，タンネンベルクの戦いで大勝して国民的英雄とされた。1916年ヒンデンブルクが参謀総長に就任すると，直ちに参謀次長に任命され，軍部の事実上の指導者として強硬戦術をとった。戦後の1920年にはカップ一揆（いっき）を助け，1923年にはヒトラーとともにミュンヘン一揆を行なうなど，右翼の中心人物のひとりとなった。

〔松 俊夫〕

ルードウィヒ（1世）［Ludwig］（778～840） フランク国王・西ローマ皇帝。在位814～840年。〈敬虔（けいけん）王〉とあだ名される。カール1世（大帝）の第3子で，父の存命中にその共同統治者となった。キリスト教信仰に熱心で，アニアーヌのベネディクトなどの言を用いて，キリスト教の改革を図った。彼のもとで修道院文化は展開したが，政治的には無能で国内から混乱，フランク王国の崩壊をもたらすことになった。王ははじめ，国の統一を保つため帝号と国土の主要部分を長子ロタールに与え，次子ピピンと第3子ルードウィヒとには，副王としてそれぞれ周辺の地であるバイエルン・アキテーヌを与えようとした。ところがその後二度めの王妃ユーディットにそそのかされ，その子カール2世（禿頭（とくとう）王）にも国土を分けようとしたので，上の子3人が反乱を起こした（829～833）。王はむすこたちに降服して廃位させられたが，父王に対する長子ロタールの虐待は人々の反感を呼び，王は翌年復位した。しかし，その後もむすこたちとの争いは続き，外からはノルマン人の侵入に苦しめられ王国は衰えた。王は父カール大帝に比べてはるかに凡庸な人物とされているが，多くの伝記作家に恵まれ，テガヌスとアストロノムス（天文家）といわれる匿名作家がその伝記を書き，またエルモルドゥス-ニゲルルスはその生涯（しょうがい）を詩でうたっている。〔兼岩正夫〕

ルードウィヒ［Otto Ludwig］（1813～1865） ドイツの劇作家・小説家。貧乏と病の青春時代を経て劇作家として名を成した。悲劇《世襲山林番》（1850）が出世作。ほかにユーモア豊かな郷土小説《ハイテレタイ》，素朴（そぼく）な人間を描いた写実主義の名小説《天と地》などを残した。戯曲批評を集めた演劇論集《シェークスピア研究》（1871）はシラーに反発し，シェークスピアを肯定した彼の永年の労作である。

ルードウィヒ［Carl Friedrich Wilhelm Ludwig］（1816～1895） ドイツの生理学者。ウィッツェンハウゼンの生まれ。マールブルク・エルランゲン両大学で学び，チューリヒ・ウィーン・ライプチヒなどの各大学教授を歴任。分泌生理の研究に著しい貢献をなしたほか，筋肉運動の記録器・血圧曲線描写器の創案によって生理学の発展に寄与した。

ルードウィヒスハーフェン［Ludwigshafen］ 西ドイツ南西部，ラインラントーファルツ州の工業都市。人口17万3,000（1968）。ライン川左岸の河港市で，マンハイムの対岸にある。染料・肥料・薬品などの工場があり，ドイツ化学工業の一中心である。17世紀に城塞（じょうさい）が築かれたのが起源で，化学工業の発達は今世紀になってからである。第2次世界大戦では市街の大半が被災した。

ルートマップ［route map］ 調査路線に沿って地質状態を調査した結果を記入した図。路線地質図・踏査路線図ともいう。それによって得られた資料を総合して地域の地質図がつくられる。調査地域が設定されたら，できる限り道路・海岸・谷などの露頭を探し求めて踏査し，地層の走向・傾斜および種類と累重関係，断層，化石の種類など，観察されるあらゆる事項をフィールドノート（野外帳）に記載する。これらの作業は，地質図作成の基本となり重要である。〔船越 泉〕

ルドルフ（湖）［Rudolf］ アフリカ東部，ケニアとエチオピアの国境にある湖。大部分がケニア領である。面積7,100km²。湖面標高375m，最深約73m。北からオーモ川，西からタークウェル川が注いでいるが，流出河川はない。中央地溝（ちこう）帯に位置する構造湖と考えられているが，湖中に火山島の噴出もあるため，成因は明らかではない。塩分は濃いが魚類も多く，ワニ・カバなどが生息している。1888年に発見され，当時のオーストリア皇太子の名を湖名とした。〔長津一郎〕

ルドルフ（1世）［Rudolf］（1218～1291） ハプスブルク家初代の神聖ローマ皇

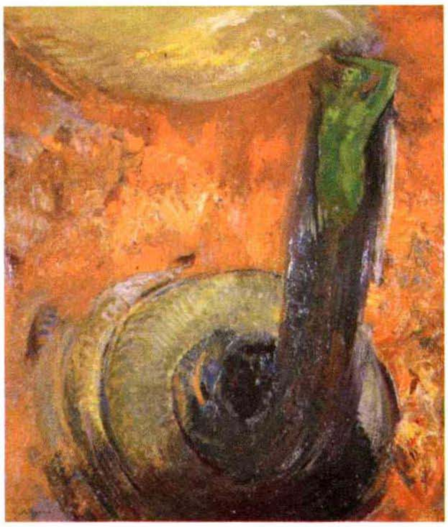
帝。在位1273～1291年。ハプスブルク伯アルブレヒト4世の子。1273年国王に選ばれ，大空位時代*に終止符を打った。1278年ベーメン王を打倒し，オーストリアを平定，以後オーストリアを本拠としてハプスブルク家の基礎を確立した。

ルドン ［Odilon Redon］（1840～1916） フランスの画家・版画家。ドラクロワ・ゴヤに傾倒し，同時代の画家の主張に同調せず，独自の道を歩み，マラルメら象徴派の詩人と親しんだ。当初は幻想に満ちた銅版画を制作したが，50歳ごろからパステル画・油絵を描き始めた。華麗な色彩による幻想と神秘の世界の表現は，シュルレアリスムの先駆的要素を含んでいるとされる。

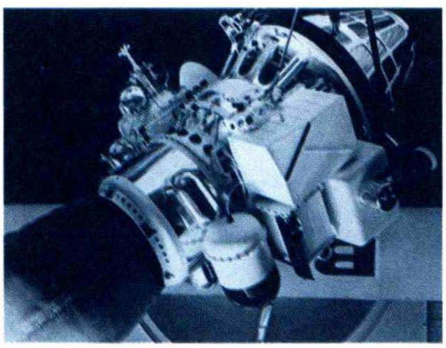
ルナ ［Luna］ ソ連の月探査体。1～3号はルーニクの名で打ち上げられ，4号からルナと改称された。ルーニク1号は1959年1月，下弦の月の月面命中をめざして打ち上げられたが失敗し，月から7,500kmのところを通過，最初の人工惑星となってメチタと改名された。命中に失敗した場合は人工惑星となるように，はじめから地球の進行方向にある下弦の月をねらったのである。重さは1,472kgで，8種の観測装置が積まれていた。同年9月に打ち上げられた2号は，史上はじめて月に命中した。命中点は，雨の海と晴れの海の間にある噴火口のあたりである。球形で，4本の長いアンテナが前方に突き出し，重さは1,511kg，磁気・放射線・星間物質・流星塵(じん)などの測定器と，ソ連の国名・紋章を刻んだ金属製ペナントを封入した鉄球を積んでいた。続いて同年10月に打ち上げられた3号は，月の後方70,000kmに達する長円軌道に乗り，月の裏面の撮影に成功。人間ははじめて月の裏側を知った。以後ルナと改称され，重さ1.5tに近いルナ4号は1963年4月に，さらに1965年にはいって5～8号が立て続けに打ち上げられた。これらはいずれも月軟着陸をめざしたと思われるが，月に激突したり，人工惑星となったりした。月軟着陸は1966年1月のルナ9号によってはじめて果たされた。軟着陸地点は嵐(あらし)の大洋で，パノラマ写真の撮影に成功した。10号，11号，12号はいずれも同年に打ち上げられ，孫衛星となった。同年12月の13号も嵐の大洋に軟着陸，月面の近接撮影を行ない，月面強度とγ線を測定した。続いて1968年4月，14号が孫衛星となり，1969年7月には15号がアポロ11号とともに月の回りを回ってから月面に激突した。1970年9月の16号は軟着陸してから，電気ドリルで月面を掘り，深さ35cmのところから岩石を採集して無事地球にもどった。〔原田三夫〕

ルナオービター ［Lunar Orbiter］ レインジャー・サーベイヤーに続くアメリカの月探査体。1号は1966年8月アトラスアジェナDで打ち上げられ，近月点190km，遠月点1,870kmの月の赤道上の軌道に乗った。1968年8月までに5個打ち上げられ，月表面の99%が撮影された。これを参考にしてアポロ計画の月着陸船の着陸地域が静かの海など5か所選定された。

ルナチャルスキー ［Anatorii Vasilievich Lunacharskii］（1875～1933） ソ連の文芸理論家・劇作家。政治家としても著名で，1890年代から革命運動に参加，十月革命後12年間にわたって教育人民委員(文相)をつとめた。理論家としては社会主義文学を唱道し，その内容を階級闘争におけるプロレタリアートの立場を表現するものと規定した。《実証美学の基礎》《西欧文学史》などの評論のほか，《解放されたドン-キホーテ》などの戯曲がある。〔灰谷慶三〕



ル ド ン 《緑の死》



ル ナ ルナ9号

ルナール ［Jules Renard］（1864～1910） フランスの小説家・劇作家。農村に起こる身近なできごとを題材に，写実的なきびしい目によって，皮肉なユーモアを含みもつ軽妙・簡潔な作品を書いた。小説《根なしかずら》《にんじん*》のほか，劇作《日々のパン》《南の風》がある。また，文学的粉飾を排した文体は《博物誌》を生み出し，きびしい自己省察の眼は《日記》4巻となった。

ルナン ［Joseph Ernest Renan］（1823～1892） フランスの宗教史家・言語学者。パリのサン-シュルピス神学校に学んで聖職者を志したが，ヘーゲル・コントらの影響を受けて，1845年同校を去り，1848年，《科学の将来》を発表。やがて歴史的実証性に徹した《キリスト教起源史》7巻の著述を計画，1860～1861年シリアを学術探検し，その後20年余を費やして完成した。1862年コレージュ-ド-フランスのヘブライ語教授となるが，開講の際イエスを〈比類なき人間〉とよんだため，彼を〈神の子〉とする正統信仰に反するとして免職。以後，著述によって生活していたが，1871年同校に復職，1884年学長となる。彼の名を不朽にしたのは《起源史》第1巻の《イエス伝》で，発表当時多くの非難を招いたが，そのかおり高い芸術性のゆえに現代なお多くの読者を有している。他に《イスラエル宗教史》がある。〔石井忠厚〕

ル-ナンきょうだい 【ル-ナン兄弟】 フランスの3兄弟画家。長兄アントワーヌ(1588～1648)，次兄ルイ(1593～1648)，末弟マチュー(1607～1677)。生涯(しょうがい)については不明の点が多く，3人の作品はそれぞれ区別しにくい。パリに共同のアトリエをもち，作品の大部分は共同制作と考えられる。1648年の王立アカデミー設立に参与し，その会員となった。当時の豪華な宮廷美術と異なり，オランダやフランドル絵画の影響を受けて，素朴(そぼく)な農民や小市民の風俗を質実な写実的手法で描いた。代表作

L.ル-ナン 《農夫たちの食事》 ルーブル美術館蔵



に《鍛冶屋(かじゃ)》《農夫の食事》などがある。
〔岡部紘三〕

ルーニク ⇨ルナ

ルヌービエ ［Charles Renouvier］ (1815～1903) フランスの哲学者。フランスにおける新批判主義運動の創始者で，カント哲学の相対主義をさらに徹底し，物自体の観念を排してすべての実在を〈関係〉に還元しようと試みている。また，個人を犠牲にした人類の発展という観念を退け，個人の道徳的完成を説く人格主義を唱えた。彼は，1848年の二月革命に際し共和主義者としてこれに参加しているが，のち研究に没頭して多数の著書を残した。著書には，古代数学・近代哲学に関するもののほか，《新単子論》《人格主義》などがある。
〔飯塚勝久〕

ルネサンス ⇨112ページ

ルネサンスおんがく ［ルネサンス音楽］ 西洋音楽史上ゴシック音楽とバロック音楽の間に位置する音楽の総称。だいたい15世紀初頭から16世紀末までの200年間にあたり，大きく次の五つの時期に分けられる。①15世紀初頭～中ごろまでの音楽で，いわゆるブルゴーニュ楽派やイギリスの作曲家たちが中心をなし，ゴシック的な構築的作風を残しつつも，ルネサンス音楽の基礎固めをした。宗教音楽ではミサ・モテットの作曲が盛んとなり，定旋律ミサおよびモットーによる循環ミサなどの通常文によるミサ作曲が定着した。世俗曲ではシャンソンがその主たるジャンルであり，ロンドーなど前世紀の定型詩の影響を残しつつより自由な様式への転換を見せはじめた。作曲家としては，デュファイ・バンショワ・ダンスタブルらがいる。②15世紀後半にはいると，宗教音楽の領域では，４声部書法が普通となり，模倣が曲中に現われて次の時代の様式を暗示させる。一方，自由な，激しく移り変わるリズム型が重視され，全体の響きはむしろ古風な感じをいだかせる場合もある。この時期の代表者はオケゲムである。③15世紀末から16世紀初頭に至って，古典的なア-カペラのポリフォニー様式はその頂点に達し，全声部が同じ音型の入りをもつ通模倣様式が登場した。それと同時に，ミサ作曲においても，従来の厳格な定旋律の処理は捨てられ，リズムや旋律が変えられた。また定旋律をもたない作品も現われた。歌詞の扱いにおいても，言語のアクセントやシラブル・文章構成などが作曲に際して重視され，特に世俗曲では，より情緒表現に富むシャンソンが現われた。この時期の作曲家としては，オブレヒトとジョスカン-デ-プレがいる。④続く16世紀中ごろまでは，ジョスカンらの築いた様式にいっそうの洗練が加えられた。宗教曲では声部数の拡大，さらに既存の作品に少し手を加えて作曲するパロディーの技法が発達し，世俗曲では，特にイタリアを中心として，ビラネルラやマドリガルなど新しいジャンルが出現し，これら世俗曲の感情豊かな表現と，宗教曲の様式との混合が始まった。ゴンベール・ウィラールト・クレメンス-ノン-パパらがこの時期の代表的作曲家である。⑤16世紀後半は，ルネサンス様式の総合と新しい時代への準備という，二つの相反する流れを包含している。前者はパレストリーナのミサやモテットに代表され，その後ポリフォニー技法の典型とされるもので，後者はラッソーやジェズアルド・マレンチオらの世俗声楽曲，ガブリエリらベネチア楽派の器楽曲などに代表される。これらの潮流からやがてオペラを中心とする初期バロックのホモフォニー的な様式が生まれた。
〔吉田泰輔〕

ルネサンスびじゅつ ［ルネサンス美術］ 美術史的には，ルネサンスはイタリア初期ルネサンス・イタリア盛期ルネサンス・後期ルネサンス・北欧ルネサンスなどに区分される。①イタリア初期ルネサンス：自我の自覚と，その自我の対象として感覚に映じる世界を客観的に把握(はあく)し，積極的に肯定するという15世紀初めのルネサンスの精神的態度の確立に伴って発展した。この視覚に立って，イタリア美術は写実を基調とし，純造形的価値を追求した。具体的にはパースペクティブが研究され，人体の写実は解剖学的に追求されたのである。建築においては，荷重と支持の有機的調和，部分と全体のプロポーション，確固たる空間の美などが追求された。これらはギリシア・ローマの古典に倣(なら)うところが多かった。②イタリア盛期ルネサンス：初期ルネサンスの客観的態度の完成がなされた。しかし，レオナルド-ダ-ビンチらはこの完成をさらに発展させ，主観と客観を融合し，古典的芸術への道を開いた。対象は主観的に純化され，形態は想念化された。建築においては，諸点においていわゆる〈偉大なる平静さ〉が現出された。この時期は1520年代にあたる。③後期ルネサンス：盛期ルネサンス様式の解体と，それに伴うバロック様式の萌芽(ほうが)がみられた。また，一方にはマニエリズモの様式が出現した。④北欧ルネサンス：イタリア-ルネサンスの形成力の移入が行なわれ，初期には忠実な再現力を伴ってはいたが，後期ルネサンスの影響化にさらされた。

【絵画・彫刻】イタリア初期ルネサンスの絵画様式の完成はマサッチョが行なったとされる。マサッチョは師のマソリーノのゴシック様式を断ち切り，ルネサンス絵画の先駆者とされるジョットの伝統に立ち，彫刻家のブルネレスキとドナテッロの方法を利用して，新様式を創始した。この例はフィレンツェのカルミネ聖堂ブランカッチ礼拝堂の壁画にみられる。次いで，この成果を追求したウッチェロ・ベネツィアーノ・カスターニョらのフィレンツェ派の活躍がある。また，アンジェリコもマサッチョの影響を受け，三次元の構図に人物像を造形的に表わした。しかし，これらがリッピらによる細部描写へのこだわりをみせるようになると，風俗画的性格が濃厚になった。この時期にピエロ-デーラ-フランチェスカの出現がある。立体的な人体表現と空気遠近法による荘厳な画風は，サン-フランチェスコ教会堂の壁画などに例がみられる。15世紀後半にはバルドビネッティが技法的能力を拡大して新生面を志向した。ギルランダイヨも写実主義に徹し，現実主義的傾向を強めた。この中でボッチチェリは現実的な美よりも，むしろ写実的な美を追求した。なお，地方派の台頭も忘れることはできない。ウンブリア派のメロッツォ-ダ-フォルリ，ペルージア派のペルジーノ，パドバ派のマンテーニャ，ベネチア派のヤコポ-ベルリーニらである。16世紀にはいると，古典様式の完成がみられる。レオナルド-ダ-ビンチは《岩窟(がんくつ)の聖母》《最後の晩餐(ばんさん)》の時期を経て，《モナ-リザ》などで極致をみせた。そして，その後のイタリア絵画に大きな影響を与えた。まず，その成果を受けてミケランジェロが出た。しかし，初期には古典様式を保ちながらも，システィナ礼拝堂の壁画にあるように激情を象徴し，バロック様式の萌芽をみせ，古典様式の解体を思わせた。この後，活動の中心はローマやベネチアに移る。しかし，フィレンツェ派にあってもマニエリズモの動きが起こり，後期ルネサンスを代表した。画家としては，ロッソ-フィオレンティノ・ポントルモ・ブロンツィーノ・バザーリらがいる。16世紀イタリア絵画の中心となったベネチア派は官能美の芸術を展開した。ジョルジョーネ・ティツィアーノに導かれ，パルマ-ベッキョ・ロレンツォ-ロット・ベロネーゼらはベネチア派の黄金時代を謳歌(おうか)した。しかし，ロンバルジア地方ではカラバッジョにつながる徹底的な自然主義が芽ばえていた。また，さらにカラッチらの装飾主義が加わって，17世紀を迎えることになる。アルプス以北では，フランドルにおいて，後期ゴシックの影響の中からバン-アイクが現われて，自然を克明に描いて，新時代を画した。ワイデン・メムリンクが続いたが，16世紀には特徴は薄らいだ。フランスではフーケが異色を発揮し，ドイツではデューラーらがドイツ-ルネサンスを展開した。また，クラナハ・グリューネワルト・ホルバインらもこれに連なった。
〔村木幸生〕

【建築】15世紀初頭，イタリアでは中・北部の諸都市を中心に，ルネサンスの気分の中で，古代ギリシア・ローマの古典建築に規範を求めるルネサンス建築が誕生した。ルネサンス建築は，その後スペイン・オランダ，さらにフランス・ドイツ・イギリスへと広がった。イタリアにルネサンス建築

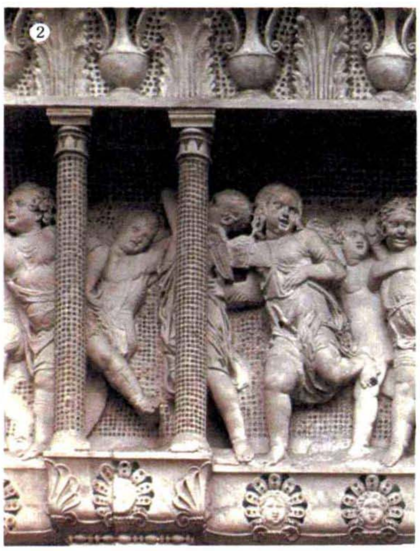
ルネサンス美術



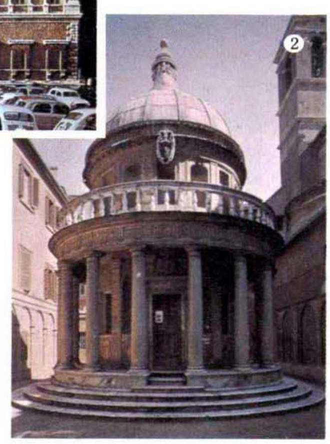




絵　画　①シニョレッリ《最後の審判》(部分)　オルビエト大聖堂蔵　②レオナルド－ダ－ビンチ《イサベラ－デステ》　③ジョルジョーネ《眠れるビーナス》　ドレスデン絵画館蔵　④ティントレット《キリストとマリア》　⑤コレッジョ《レダと白鳥》(部分)

彫　刻　①ドナテッロ《ダビデ》　②ルカ－デラ－ロッビア－サンタマリア－デル－フィオーン大聖堂の聖歌隊席大理石浮彫《踊る小児》

建　築　①サンガッロ・ミケランジェロの設計になるパラッツオ－ファルネーゼの正面　②ブラマンテ　サン－ピエトロ－イン－モントリオのテンピエット

が誕生した背景には，次のような事実があった。すなわち，12～13世紀から十字軍の遠征や地中海の海上交通の発達などで東方貿易の中心地となり，15世紀までにはヨーロッパで最も早く近代的な経済体制を確立したこと，またそうした交易で繁栄し，独立的地位を獲得して都市国家を形成した諸都市やフィレンツェのメディチ家，ミラノのスフォルツァ家などの富豪が中世の教会に代わって芸術の保護者となったこと，さらに中・北欧で発展したゴシック建築がイタリアでは深く根を降ろさず，陽光の強い風土の中では形態の明確な古代ローマの古典建築が自然であったこと，またイタリア人が明朗で闊達(かったつ)な国民であったことなどがあげられる。

建築物の種類としては，教会が比較的少なく，都市の富豪の邸宅(パラッツォ)や宮殿・城館などが多い。教会の基本的平面はギリシア十字形が好まれ，その中心にドームを載せるのが大きな特色である。しかも，教会正面の壁面は最大の注意を払って構成されていた。邸宅建築は，一般的には3階建てで左右相称の正面をなし，平面は中央

➜114ページ

ルネサンス

［Renaissance］

15～16世紀にイタリアを中心としてヨーロッパ一帯に，現世を重んずる人間中心の考え方に基づいて著しい文化の発展がみられた。ルネサンスはそれらの文化運動およびその時代をさす。〈文芸復興〉ともいわれる。

［ルネサンスとはなにか］ ルネサンスとは〈復活〉の意味で，古典文化の再興をさしている。これによってヨーロッパは中世から近代へ移ったとされている。ルネサンスという歴史概念はフランスの歴史家ミシュレ*により用いられ，スイスの歴史家ブルクハルト*により確立された。彼の著書《イタリアにおけるルネサンスの文化》(1860)は，ルネサンス研究の古典として知られる。一般にルネサンスという場合に考えられる古典古代の復活，自然と人間の発見，個性の解放，暗黒の中世のあとの光明の新時代などの意義づけは，彼に発するものである。そしてブルクハルトはルネサンスの近代性を強調し，中世に対立するものとみなした。しかし，その後の研究はルネサンスの中世的要素を認めるとともに，また中世にもルネサンス的な現象があったことが主張されるようになった。たとえばアメリカの歴史家ハスキンズは，いわゆる〈12世紀のルネサンス〉を主張している。

12～13世紀はヨーロッパ中世の盛期であるが，14～15世紀になると中世社会は崩壊して近代社会へ移ろうとしてくる。主従関係に基づく封建支配がくずれ，王権が強化されて国家の統一が進んだ。農村中心の荘園(しょうえん)制度が衰えて都市中心の貨幣経済が進展し，資本主義が展開しようとする。教皇を首とするローマ教会の勢力が弱まり，人間中心の世俗的傾向が強まってくる。

13世紀はじめはローマ教皇権の最盛期で，教皇インノケンチウス３世*は皇帝や国王をも自由に動かした。スコラ哲学やゴシック美術の完成など中世キリスト教文化の大成も13世紀のことである。しかし13世紀末になると教皇権はすでに衰微の徴を示しはじめてくる。教皇ボニファチウス８世*はフランス王フィリップ４世*と争って捕えられた。14世紀はじめから約70年間教皇はローマを離れて南フランスのアビニョンに住み，フランス国王の命ずるままになった(→教皇のバビロン捕囚)。これに次いでローマの教皇とアビニョンの教皇が対立する教会分裂*(シスマ)が起こった。このころの教皇庁は信仰の中心というより経営のための事務機関のようになり，ローマ教会の俗化堕落が著しかったとされている。これに対して教会内部では改革教会会議(たとえばバーゼル公会議)を開いて刷新を図り，またイギリスのウィクリフ*やボヘミアのフス*らのような異端運動が起こり，やがてルター*やカルバン*らの宗教改革へと発展していく。中世末におけるこうしたローマ教会の権威の衰退は，人心の世俗化を促すことになった。

ルネサンスはヨーロッパ各国で起こった全欧的な動きであるが，なんといってもその中心はイタリアである。他の国々のルネサンスはイタリアの影響をうけて展開したといってよい。ルネサンスが特にイタリアで展開したのはなぜであろうか。イタリアでは東方貿易(レバント貿易)により早くから都市が栄えた。この貿易は東方から香料・宝石などの贅沢(ぜいたく)品を輸入してヨーロッパ諸国に売ったもので，巨利を博する反面損害も大きい危険な仕事で，伝統を無視し個人の能力を最高度に発揮することが要求された。このような東方貿易による不安定で動的なイタリア都市社会が，ルネサンスを生む社会的地盤となったのである。フィレンツェ・ミラノなどのイタリア都市はそれぞれ小国家を形成し，相互に対立して争うとともに都市内部ではゲルフ党*とギベリン党*，大市民と小市民との間などで抗争が激しかった。かくて都市の支配者は権力の維持拡大のため国の内外にわたり権謀術数をめぐらし，また市民の心をとらえるため都市を美術品で飾り，学芸を保護した。ミラノのビスコンチ家，スフォルツァ家*，フィレンツェのメディチ家*などは，そうした都市の支配者の典型である。イタリアはローマ帝国の中心地として，中世においても古典文化のなごりが少なくなかった。しかも中世イタリアが分裂して他国の支配に苦しんでいたのに対して，古代ローマ帝国はまことに輝かしいイタリア人の直接の過去であった。近代はじめフランス・イギリスなどで国家統一が進んだとき，イタリアの国民精神はそうした過去の遺産にめざめてルネサンス文化として開花したともいえよう。

ルネサンス精神は中世のキリスト教の神中心の考えに対して，人間中心の現世的世界観とされている。中世人は来世の救いを求めたのに対して，ルネサンス人はこの世の名声を求めた。自己を赤裸々に描いた最初の作品とされるチェリーニ*の自叙伝は，自分の美術作品が最高傑作であることを誇ってあくことを知らない。造形美術では肉体の美が表現され，人体の解剖や遠近法に基づいて，ゴシック様式の生硬な手法に対してリアリズムの作品が生まれる。個性の自由な展開が行なわれたので，多方面にすぐれた能力を発揮した天才が少なくなかった。たとえばアルベルティ*やレオナルド-ダ-ビンチ*らがあげられる。その反面，史上まれな悪人も出ることになり，暗殺や裏切りなどがしばしばみられた。たとえばボルジア*がそれである。

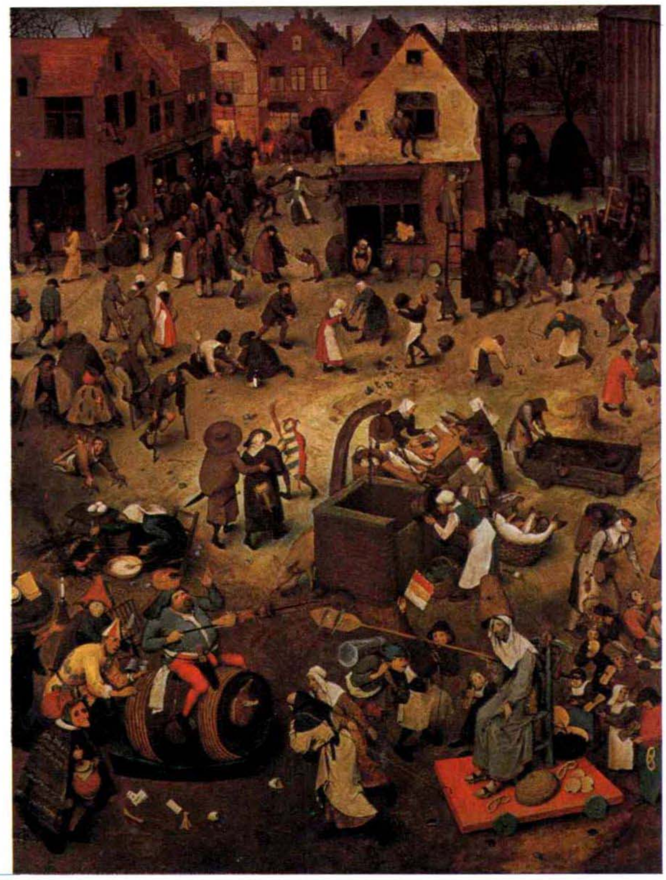
ルネサンス時代には古典作品の写本の発見・収集が熱心に行なわれ，バチカンその他，各地に立派な書庫ができることになった。それはグーテンベルク*の発明した印刷術により刊行され，一般の人々にも読まれるようになった。ビザンチン帝国は1453年に滅亡するが，その末期の政治的不安によって，学者たちがヨーロッパへ逃避したが，彼らもルネサンスにおける古典の復活に一役買っていた。ルネサンス時代に古典を研究した言語学者を人文主義者(ユマニスト)とよんでいる。中世でも古典作品が知られなかったわけではない。しかし中世の古典はキリスト教世界観に従属させられていた。ルネサンスの人文主義者は古典から人間中心の見方をくみとり，それに基づいて新しい文化を展開させたのである。

ルネサンスは広く解釈すれば，当時の人間活動のすべて，政治や経済などにも現われたともいえるであろう。しかしルネサンス文化として最も重要なものは，美術と文学であろう。イタリアでは美術が特にすぐれた成果を示し，これに対して北方諸国では人文主義者などの文筆活動が中心になっている。➔ルネサンス美術

［イタリアのルネサンス］ ルネサンス文化を育てたイタリア都市の中で最も重要なのはフィレンツェで，ルネサンスにおけるその地位は，ギリシア文化におけるアテナイにあたるといえるであろう。この町は毛織物工業で栄えた市民社会のモデルで，銀行業を営むメディチ家の支配(コシモおよび大ロレンツォ)の下でルネサンス文化の中心地となった。また宗教の都ローマもルネサンス教皇といわれるユリウス２世*・レオ10世*らの下で文化を発展させた。さらに商人の町ベネチアは他よりもおそくなってから世俗的で色彩豊かな絵画を生んだ。

イタリア-ルネサンスの人文主義者としてダンテ*・ペトラルカ*・ボッカッチョ*が著名である。ダンテはフィレンツェを追放されて諸国を放浪して多くの作品を書いた。成立期のイタリア語(トスカナ語)による《神曲*》《新生》《饗宴(きょうえん)》，ラテン語による《帝政論》《俗語論》などにみられる彼の思想には，まだ中世的要素が少なくない。真の人文主義者の最初といわれるペトラルカは聖職につき，またミラノのビスコンチ家に仕えた。彼はラテン語の古典の研究に熱中し，《歌集》やラテン詩《アフリカ》などを残した。ボッカッチョは《デカメロン*(十日物語)》でキリスト教の俗化を批判し人間のありのままの生活を描いた。しかし彼もラテン語作品を多く書き，後年キリスト教信仰を深め修道院にはいった。哲学の方面ではピコ-デラ-ミランドラ*はキリスト教と





(上)15世紀半ば，活版印刷術が発明されると，ギリシア・ローマの作品から当時の人文主義者の作品まで盛んに刊行され，ヨーロッパじゅうに広まっていった。印刷所は時代を動かす震源地でもあった
(右)16世紀半ばのネーデルラントの庶民生活。ブリューゲル　《謝肉祭と四旬節のけんか》1559　ウィーン美術史博物館蔵

古典思想との調和をはかり，フィチーノ(1433～1499)はプラトン研究者として，コシモ-デ-メディチの建てたフィレンツェのプラトン学園を指導した。歴史作品としてはグィッチァルディーニ(1483～1540)の《フィレンツェ史》《イタリア史》，マキアベリ*の《フィレンツェ史》などがある。グィッチァルディーニは古代末から17世紀までの最大の歴史家とされ，またマキアベリは《君主論*》において政治の本質を明らかにして近代政治学の祖となった。バラ(1406～1457)はローマ教会の世俗権力の拡大に利用された《コンスタンチヌス寄進状》が偽作であることを言語学的に証明して，ルネサンスの批判精神を示した。

【北方のルネサンス】 アルプス北方の国々ではイタリアにみられるような美術のはなやかな展開は行なわれず，人文主義者の文筆活動が中心であった。またこれら人文主義者は言語研究を聖書にまで適用し，いわゆるキリスト教人文主義が発展した。かくて北方では人文主義と宗教改革とが結びつくことになった。

ネーデルラントはイタリアとともに毛織物業が盛んで，特にフランドル地方は12～14世紀に毛織物業の大中心地であった。かくてこれら地域には都市が栄えて市民の勢力が強まった。こうした社会情勢を背景としてバン-エイク兄弟*らに代表されるフランドル派の絵画が展開した。またロッテルダムの出身で《痴愚神礼賛*》で有名な人文主義者エラスムス*が活動した。

ルネサンス時代のヨーロッパ諸国をみると，イギリス・フランスでは王権が強化されて国家統一が進んだのに対して，ドイツ・イタリアでは国内の分裂がはなはだしかった。イギリスやフランスのルネサンス文化は，市民の協力による宮廷文化という形で展開した。またイベリア半島のスペイン・ポルトガルは，地理上の発見に活躍してヨーロッパの海外進出のパイオニアとなった。

イギリスではノルマン征服*(1066)によって成立したノルマン朝時代から王権が強固であったが，アンジュー朝(プランタジネット朝)のころ議会が成立し，またフランス領内に広大な領土をもつことになった。このころのイギリスは大陸国家といってよく，当時のイギリスとフランスとの関係は密接であった。14世紀から15世紀にかけて両国の間に百年戦争*が起こった。この戦争ははじめイギリス側が終始優勢であったが，最後にフランス側が勝利を収め，イギリスは大陸の領土を失い島国に閉じこもることになった。百年戦争ののちイギリスではランカスター家とヨーク家との間でバラ戦争*が起こったが，この戦いで封建諸侯が自滅して国王と国民を直結する結果となった。この戦争ののち成立したチューダー朝は王権が強力でイギリス史上絶対主義の時代とされている。ヘンリー8世*やエリザベス1世*などの有力な国王により王権は強化され，ローマ教会から離れてイギリス国教会が成立した。封建貴族が没落してジェントリーが社会の中心勢力となった。また海外への発展も行なわれた。イギリスのルネサンス文化はこのころ展開した。

イギリスの代表的な人文主義者はコレット(1466～1519)である。彼はイタリア・フランスに留学し，エラスムスら他国の人文主義者と交わり，オックスフォード大学で聖書の講義を行ない，人文主義的な学校を建てた。このころからオックスフォード大学やケンブリッジ大学で新しい人間的な教育が始まった。モア*はコレットやエラスムスの友人でヘンリー8世に仕えたが，信仰問題で死刑に処せられた。彼の《ユートピア》は理想郷を描くことにより当時のイギリス社会を批判した。エリザベス1世の時代に活動したシェークスピア*は劇作と詩によって世界文学史上不朽の名を残した。

フランスは典型的な封建社会であったが，13世紀フィリップ-オーギュストやルイ9世*(聖王)など有能な国王の長い治世により王権が強化された。百年戦争では戦争が終始フランス国内で行なわれ，諸侯の対立で内部が混乱し黒死病(ペスト)の被害も大きかった。しかし最終的にイギリス軍に勝っ

て国土を統一した。15世紀後半のルイ11世は封建勢力をおさえて国内を整備し，フランス絶対主義の成立の基礎をおいた。最初の近代的歴史家といわれるコンミーヌの《回想録》には，この王の治世の模様が描かれている。

フランスのルネサンスは16世紀前半のフランソア1世の治世に展開した。この王はイタリア戦争に熱中したが，また学芸の保護に努めた。彼の姉マルグリット-ド-ナバールは学芸のパトロンとして著名であり，みずから詩文を草した。フランスのルネサンス文学の代表的作品として知られる《エプタメロン(七日物語)》は彼女の宮廷でつくられた。人文主義者としてはビュデ(1468～1540)・ルフェーブル-デタープルらがある。ビュデはギリシア語に通じた学者で，フランソア1世によるコレージュ-ド-フランスの創設にあたった。ルフェーブル-デタープルは人文主義に基づく宗教改革を志して異端とされ，マルグリット-ド-ナバールの保護をうけた。文学作品としてはラブレーが《パンタグリュエル物語》《ガルガンチュア物語》で人間の自然の欲望をそのまま認め，キリスト教や当時の社会を風刺した。

ドイツの神聖ローマ帝国では帝権が維持されたのは13世紀ごろまでで，皇帝のいない大空位時代(1254～1273)を経てのち，15世紀からオーストリアのハプスブルク家が帝位を世襲して近代に至った。しかし，その皇帝は教皇と並んでキリスト教界に君臨した中世皇帝の権威を失い，オーストリアの地方君主という性質が強くなっている。これに反して地方諸侯は強大となり，事実上独立の君主としての地位をもつようになった。中世末から近代にかけてドイツは長い間分裂状態を続けることになる。また，ドイツでは他国に比べて特にローマ教会の勢力が強く，このことがルターの宗教改革をひき起こすことになった。ドイツではイタリアの影響で起こった人文主義運動にも，またデューラーなどに代表されるルネサンス絵画にもキリスト教的色彩が少なくない。ドイツの人文主義はキリスト教人文主義の傾向を強くもっている。人文主義者は諸侯や司教などの宮廷でその保護をうけて活動したが，またイタリアなどと異なって大学との関係が密接であった。イタリアで人文主義の教養をうけたドイツの学者は，帰国すると大学で教えたが，それらの大学ではスコラ学の伝統が依然強力であり，古いスコラ学者と新しい人文主義者とが激しく争い対立することが少なくなかった。

初期の人文主義者としてはハイデルベルク大学でギリシア語を教えたベッセル(1420ごろ～1489)，その後任となり，〈ドイツ人文主義の父〉とよばれるアグリコラ(1443～1485)らがある。16世紀にはフッテンは《蒙昧者(もうまいしゃ)の書翰(しょかん)》の主要作者として激しい社会風刺を行ない，またルターの熱心な援助者となった。ロイヒリンはギリシア語やヘブライ語に熟達した学者として多くの著書を残し，メランヒトンはウィッテンベルク大学でギリシア語や神学を教え，ルターに協力してプロテスタント神学の基礎を築いた。

〔科学と技術〕 ルネサンス時代はヨーロッパがあらゆる方面で大いに活気を呈した時期で，科学や技術の方面でも多くの天才が出た。画家として著名なレオナルド-ダ-ビンチはこの方面でもすぐれた才能を示した。ルネサンスの絵画は遠近法や人体解剖など科学的な要素を少なからず含んでいる。それは近代科学の源流の一つともいえよう。医学では解剖学を始めたベサリウス，血液循環の原理を発見したセルベトゥス(1511ごろ～1553)らがある。天文学では地動説がコペルニクスによって唱えられ，ガリレイによって確認された。それは人間を世界の中心におくキリスト教の世界観を根底からゆり動かすことになった。さらに三大発明として知られる火薬・羅針盤(らしんばん)・印刷術は人々の生活に大きな変化を及ぼした。火薬と銃砲の使用は騎馬で戦う封建武士を没落させ，封建社会を崩壊させることになった。羅針盤の使用は遠洋航海を可能ならしめ，ヨーロッパ人による地理上の発見(→大航海時代)を達成させた。その際船舶に火砲を載せて武装したことがヨーロッパの海外征服を助けている。さらに印刷術は人文主義者の作品を広め，また宗教改革精神を急速に普及させるのに大いに役だった。

〔兼岩正夫〕

に中庭をもつ矩形(くけい)をなした。入り口や窓は半円アーチを用い，窓の上部には古典的な三角形の破風(はふ)をもつ。政争の激しかったフィレンツェでは，1階部分に窓が少なく，外壁の仕上げをあらい石積み(ルスティカ)となし，上階ほどなめらかな仕上げをした。

ルネサンス建築は比例や相称を重視し，明確な輪郭線と節度ある区画をもち，単純で壮大な効果をねらったこと，各種オーダー・半円アーチ・筒形ボールトを使用した点などで古典建築に通じる。したがって，古典の様式に対する素養をもつ者が職人を指導する必要が起こり，ここに建物を設計する〈建築家〉がはじめて生まれた。ルネサンス初期には画家や彫刻家が建築家となることが多かった。

フィレンツェにおけるルネサンス最初で，しかも最大の建築家ブルネレスキは，15世紀初頭には彫刻家であったが，のちに古典建築を研究して建築家に転じ，初期ルネサンス建築の傑作を設計した。彼の初期の作品であるスペダーレ-デリ-インノチェンティ(育児院)は，細い円柱の上部を半円アーチで結んだ軽快で美しい前廊をもつ建築で，初期ルネサンスの特色を最もよく表わしている。サンタ-マリア-デル-フィオーレ大聖堂の巨大な八角形のドームでは，ドームの横圧をドーム基部の木と石材からなるリングで押えることにより，空中高くそびえる単純で明快な量塊の表現に成功した。また，パラッツォ-ピッティは左右に翼を張り出した三層の雄大な建物で，以後フィレンツェの邸宅建築の定型となった。ブルネレスキに次いで現われたアルベルティは，平たい角柱と窓で構成された正面をもつパラッツォ-ルチェライ，聖堂の本質をよく表わす簡明でしかも壮大な空間をもつマントバのサンタンドレアなどを設計した。ローマはフィレンツェに遅れてルネサンスが始まり，古典建築の影響が強く現われている。ローマ最大の建築家はブラマンテである。フィレンツェの三層の邸宅建築パラッツォ-デラ-カンチェレリア，ドームと美しい比例をもった円形の小建築であるモントリオのテンピエット，サンタ-マリア-デラ-パチェ聖堂などの設計をした。また，サン-ピエトロ大聖堂の最初の設計を行なった。サン-ピエトロは多くの建築家の手を経て完成されたが，現在の正面はマデルナ，大ドームはミケランジェロ，前庭の列柱廊はベルニーニが設計したものである。サンガッロの設計になるローマのパラッツォ-ファルネーゼは，ルネサンス最高の傑作で，ここにパラッツォ建築は頂点に達した。3階建てで高さ30m，平滑な壁面に三角形・弓形の破風をもつ3列の窓があり，頂部にミケランジェロのデザインになる深い庇(ひさし)を配する。ビニョーラはルネサンス建築の古典的性格を確立した。ミケランジェロはルネサンスからバロックにかけての大建築家で，サン-ピエトロのドーム，メディチ家礼拝堂，ローマのカピトール宮殿などにその才能がうかがわれる。ベネチアでは，ネーブの筒形ボールト天井の半円形をそのまま正面の意匠としたサンタ-マリア-ディ-ミラコリ聖堂を設計したロンバルド(1435～1515)，サン-マルコ図書館を設計したサンソビノ(1479～1570)らが活躍した。

フランスは16世紀初頭，イタリア遠征などによりルネサンスの影響を受けた。その後，フランス王室はビニョーラらの建築家や工匠を招いて，ルネサンス建築の導入に努めた。しかし，ゴシック建築発祥の地であるため多くは細部にルネサンスの手法がみられるのみにすぎない。ブロア城・シャンボール城などの城館は，基本的には中世ふうで，細部にイタリアふうの趣を示す。宮殿建築にはフォンテンブロー宮殿・ルーブル宮殿・チュイルリー宮殿などがある。

スペインではゴシックやムデハル様式に

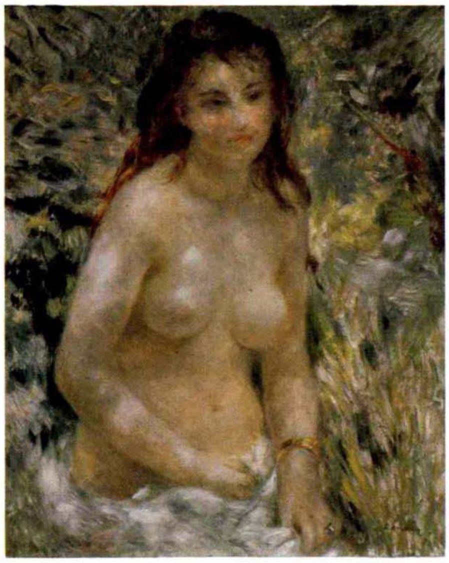
ルネサンスを取り入れたため，巧緻(こうち)で空想的な装飾の完成に主眼が置かれ，金銀細工的イメージを与えるので，プラテレスコ様式とよばれた。サラマンカ大学の正面はその例である。ホアン-デ-エレラ(1530～1597)は古典的構成を取り入れ，スペイン-ルネサンス最高の傑作聖ロレンソ修道院を完成した。〔鈴木誠司〕

ルノアール ［Auguste Renoir］ (1841～1919) フランスの画家。年少のころから陶器の絵付けや扇子の装飾などに従事し，そうした職人的仕事がのちの偉大なアルティザンをつくる原因になった。1861年グレールの門にはいり，モネやシスレーらとあい知る。クールベ・マネら印象派の仲間の影響を受けて，明るい色彩を用いた外光描写に向かう。しかし，モネと違って，絵の題材を好んでパリの市民生活に求めた。彼の関心は風景描写よりも人物描写にあった。1874年の第1回印象派展に参加，続いて2回展・3回展にも出品したが，その後しだいに印象派から離れた。1883年ごろから，イタリア旅行の影響で，古典的な線描表現を試みるがまもなく放棄。その後はまったく独自の様式をつくり，裸婦像を中心主題として生命の賛歌，暖色による豊潤な色彩の交響楽をかなでた。彫刻や石版画も残している。〔岡部肱三〕

ルノアール ［Jean Renoir］ (1894～1979) フランスの映画監督。画家A.ルノアール*を父にもち，若くして映画界にはいった。その豊饒(ほうじょう)な語り口により世界最大の映画作家に数えられている。現実と夢想を越えて人間の真実に迫る代表作《ゲームの規則》(1939)は映画史に残る傑作とされ，ヌーベル-バーグ*など後世に与えた影響も大きい。トーキー初期から1940年にかけて，《十字路の夜》《ピクニック》《大いなる幻影》《獣人》などのリアリズムの系譜を追求。第2次世界大戦中アメリカに渡って成功，戦後インドで《河》，イタリアで《黄金の馬車》の2傑作をつくった。帰国して《フレンチ-カンカン》などますます豊かさを加えたが，《コルドリエ博士の遺言》(1963)を最後にアメリカに隠栖(いんせい)した。〔蓮実重彦〕

ルノーこうだん 【ルノー公団】 Régie Nationale des Usines Renault フランスの国有自動車企業。1898年乗用車の生産を開始。第2次世界大戦中ナチス-ドイツに協力したため，戦後没収，国有化された。大衆小形乗用車4CVの生産を中心に国内6工場のほか，世界10数か国に組み立て工場をもつ。また共産圏諸国との間に生産協定を結ぶなど積極的な進出が目だつ。1966年には競争会社のプジョーと業務提携した。年間生産台数117万4,000(うち乗用車106万9,000)，世界第8位。年間売上高27億5,000万ドル，従業員数15万5,000(1971)。〔氏家　尚〕

ルノード ［Théophraste Renaudot］ (1586？～1653) フランスの新聞発行者。パリで医学を学んだのちルイ13世の侍医となり，救貧制度の設立に努め職業紹介所・慈善病院をつくるなど政治活動に従事した。1631年5月フランス最初の新聞《ガゼット》を創刊，この新聞はブルボン王朝の御用新聞として，王室の保護を受け，宰相リシュリュー*は国策遂行の道具として利用，世論の指導をもくろんだ。1640年ルノード自身は政治的に失脚したが，新聞事業は続け，フランスジャーナリズムの歴史に不朽の名を残した。〔片岡一郎〕



ルノアール 《陽向の娘》 1875～1876 ルーブル美術館蔵

ルノホート ［Lunohod］ ソ連の自動月面車。1号は，1970年11月10日にルナ17号に乗せて打ち上げられ，17日に月面の〈雨の海〉に軟着陸して，史上初の自動月面車となった。ルノホートは走行用に直径51cmの車輪を8個もち，そのほかに，9番めの車輪を距離測定用として備えている。車体の幅1.6m，長さ2.2m，重さは756kg。上面のふたの裏側に太陽電池が張ってあり，月面の昼の間はこれから電力が供給される。夜間はふたを閉じ，ラジオアイソトープの熱で車体内を保温する。テレビカメラ・化学分析装置・X線望遠鏡・レーザー光線反射装置(フランス製)などを積み，約1年間いたが，その間に10.5km移動して，各所で土の化学分析を行ない，その結果を送信してきた。また送信してきた写真は20,000枚を越えたが，特に1971年2月10日には，月面での日食を観測して，そのテレビ画像を送信するのに成功した。〔新羅一郎〕

ルバイヤート ウマル-ハイヤーム*作のペルシア語の神秘哲学的叙情詩集。〈四行詩集〉の意。12世紀初めに成立したとされる。写本・刊本の多くはルバーイー(四行詩)400～500編を収めているが，後世の追補も多い。現世的享楽主義を強調して来世を否定し，《コーラン*》を嘲笑(ちょうしょう)するなど反宗教的姿勢を表明している。19世紀にイギリスの詩人E.フィッツジェラルドの英訳により有名となった。

ルバシカ ［rubashka］ ルパシカともいう。ソ連男子が着用するゆったりしたオーバーブラウスふうの民族服。立衿(たちえり)に続いて左胸が短い短冊(たんざく)あきになっており，ボタンまたはホック止めになったもの。ウエストには腰ひもが結ばれていて，衿や短冊・そで口などにししゅうを施したものが多い。生地は，もめんや毛織物が多いが，防寒用の毛皮のものもある。

ルパン フランスの小説家モーリス-ルブラン(1864～1941)の一連の探偵(たんてい)小説に登場する主人公の名まえ。怪盗ルパンとして知られ，天性の才能で次々事件を起こし，その手ぎわの洗練された点で，世界的な人気を博した。《813》《水晶の栓(せん)》などがその登場作品で，オペラ・映画などにも取り上げられた。

ルビー ［ruby］ コランダム*の一種。酸化アルミニウム(Al_2O_3)の組成をもつ紅色のものをいう。菱面(りょうめん)体晶系，硬度9，比重3.98～4.03。宝石・レーザー光源などに使用する。Al_2O_3のみでは元来無色であるが，酸化クロムが微量に混合することによって紅色となる。主産地はビルマ・タイ・セイロン・インドなど。

ルピー ［rupee］ インドの貨幣単位。補助単位はパイサ(paisa)で，1ルピー＝100パイス(paise，paisaの複数)。為替(かわせ)平価は1アメリカ-ドル＝7.28ルピー(1972年7月末現在)。なお，セイロン・ネパール・パキスタンの通貨単位でもあるが，補助通貨は各国によって異なる。

ルビーあかやどりこばち 【ルビー赤寄生小蜂】 こん虫類・膜翅(まくし)目・トビコバチ科。体長は，雄1.2mm内外，雌1.7mm内外。雄と雌で色彩が異なる。雌は，頭胸部は橙黄(とうおう)色，複眼は黒色，胸部は赤かっ色，触角は幅広く大きく，前翅にはかっ色の斑紋(はんもん)がある。雄は，体はほぼ黒色で，触角は細長く，長毛がはえており，翅(はね)は透明。柑橘(かんきつ)類の害虫であるルビーロウカイガラムシ*の天敵として知られる。年2回発生し，冬は幼虫態で寄主の体内で越す。第1回めの成虫は6～7月に，第2回めの成虫は9月に羽化する。雌成虫は，1個体が約400個の卵をルビーロウカイガラムシに産付し，孵化(ふか)した幼虫はその体内で発育する。九州原産で，のちに四国と本州へ移入された。〔鈴木邦雄〕

ルビジウム ［rubidium］ 周期律表第I族アルカリ金属の一。記号Rb，原子番号37，原子量85.4678，1860年G.R.キルヒホフが分光的に発見し，その色にちなんで命名した。他のアルカリ金属に伴い少量だが広く分布する。塩化物を溶融電解するか，または真空中で過剰のカルシウムと熱するかして得られる。銀白色の柔らかい金属。

融点39.0℃，沸点700℃，比重1.532。炎色反応は紫赤色。化学的性質は，カリウムに似て活性であるがより激しい。空気中ではすみやかに酸化される。光電池用として少量使用される。〔古屋　弘〕

ルピナス［lupinas］双子葉植物・マメ科。ハウチワマメともいう。メキシコ原産の多年草で，高さ30～60cm。全体に白い毛がはえる。葉は7～11小葉からなる羽状複葉で長さ2.5～5cm。5～6月，白・赤・青色などの長さ約15mmの蝶(ちょう)形花を茎の先に長さ20～30cmの総状につける。豆果は長さ3～4cmで，4～6粒の種子を入れる。キバナルピナス(ノボリフジ・キバナノハウチワマメともいう)はヨーロッパ原産の一年草で，全体に茶色の毛があり，黄色の花をつける。庭に植えられる。

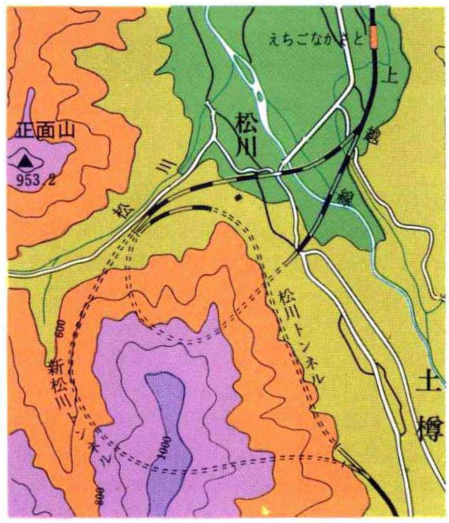
ルビーろうかいがらむし【ルビー蠟介殻虫】こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・カタカイガラムシ科。雄成虫は，体長1mm内外，翅(はね)を広げた長さ2.4mm内外，体は暗紅色，翅は白色半透明で前方の翅脈に沿って淡紫色の帯状線がある。雌は無翅で，体は幅広い楕円(だえん)形で各側2か所の気門部は凹入(おうにゅう)し，背面は直径3.5～5mmのろう質の分泌物でおおわれるが，これは初めは紅色でしだいに淡紅色となり，やがてアズキ色となる。ほとんど全世界に分布し，樹木や果樹類の害虫として知られる。日本には明治の初期に長崎県に侵入し，1907年(明治40)ころからしだいに各地に分布を拡大して，現在では関東地方と北陸地方以南の地方に広く普通に見られる。年1回の発生で，冬は受精した雌成虫態で越し，翌年6月中・下旬から幼虫が発生しはじめて，7月下旬から8月上旬まで続く。9～10月に成虫となり，交尾して雄は死に雌のみ残って冬を越し，翌年産卵する。寄主植物は，ミカン類・ツバキ・チャ・モチノキ・カキ・マサキ・サカキ・ゲッケイジュなど多数が知られ，記録された寄主植物は200種以上に達する。有力な天敵にルビーアカヤドリコバチ*がある。〔鈴木邦雄〕

ルビンシュテインきょうだい【ルビンシュテイン兄弟】アントン(1830～1894)，ニコライ(1835～1881)。ユダヤ系のロシア人で，ともにピアニスト・音楽教育家。アントンは，10歳のときにリストの教えを受け，ピアニストとして活躍，1862年にペテルブルグ音楽院を創設，ロシア音楽のアカデミズムを確立した。作曲家としても多くの作品を書いている。ニコライは，1864年にモスクワ音楽院を創設し，チャイコフスキー*らを教授として招いた。指揮者としても活躍した。〔向坂正久〕

ルービンスタイン［Artur Rubinstein］(1886～　)アメリカ合衆国のピアニスト。ポーランドのルージの生まれ。幼少からピアノで才能を示し，バルトに師事，1898年にベルリンでデビュー。のちポーランドの



ルピナス　右はキバナルピナス



ループ線　上越線松川トンネル

大ピアニストのパデレフスキー*の教えも受け，1906年にアメリカ演奏旅行を行なった。以後世界各地に足跡を広げたが，1937年アメリカに定住し，1948年に市民権を得た。その演奏活動は75年に及ぶが，現在なお現役として第一線で活躍している。1936年(昭和11)と1966年に来日。〔向坂正久〕

ルブ-アル-ハリ(砂漠)［Rubʻ al Khālī］アラビア半島南部の砂漠(さばく)。面積約65万km²。岩石と砂礫(されき)層が大部分であるが，南西部には砂丘地帯もある。世界でも最も灼熱(しゃくねつ)な砂漠といわれ，オアシスも北部を除いてはほとんどなく，〈空白地帯〉とよばれている。1930～1931年ヨーロッパ人によって初の横断がなされた。第2次世界大戦後は石油資源の探査・開発が行なわれている。

ルフェーブル［Henri Lefèbvre］(1901～　)フランスの哲学者。国立科学研究所研究員・パリ大学教授。はじめパスカルの研究から出発し，その後〈他人〉の問題を通じて全体的人間の回復をめざす疎外論を追究，マルクス主義の立場に立った。彼は初期マルクスの哲学的疎外論をマルクス主義の根本とみなし，疎外の諸形態の弁証法的展開を明らかにしようとする。そのために，個人と階級の中間にある社会集団の役割を重視，その解明を社会学によって行なおうと試みている。著書には《総和と余剰》をはじめ多数がある。〔飯塚勝久〕

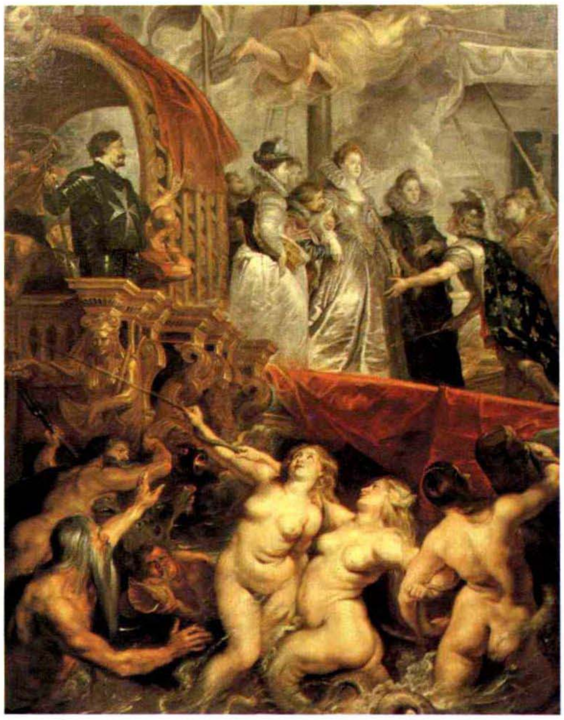
ルフェーブル-デタープル［Jacques Lefèvre d'Étaples］(1450～1537)フランスの人文主義者・神学者。ピカルディ州エタープルの出身。パリでアリストテレスを研究し，のちヘブライ語を習得，聖書の原典批評にしたがった。その著《三人のマリア論》はソルボンヌ大学神学部によって異端とされた。1523年《新約聖書》のフランス語訳を完成。のちモーの副司教となり，ルターの宗教改革に反対して福音主義的改善主義を主唱，〈モーの集団〉の中心的人物として活躍。やがて激しい弾圧を受けてストラスブールにのがれ，さらにネラクの女王マルグリット-ド-ナバールにかくまわれて同地で没した。エラスムス*とも親交があった。〔石井忠厚〕

ル-フォール［Gertrud von Le Fort］(1876～1971)ドイツの女流小説家。処女作《教会への讃歌(さんか)》(1924)以来，〈文学それ自体のうちにキリスト教的なものが潜んでいる〉という文学観とカトリック信仰に支えられ，歴史を救済史としてとらえる立場に立つ。自伝的長編《ベロニカの聖帛(せいはく)》や《海の法廷》などの作品において巧みな構成と叙情的文体によって，救いへの使命をになう女性像を描き出している。

ループせん【ループ線】勾配(こうばい)の急な地形に線路を敷設する場合に，らせん状に線路を迂回(うかい)させ，ゆるやかな勾配にした鉄道路線。勾配がゆるくなるので，補助機関車の付け替え程度で運転できるようになる利点をもつ。またこのらせん部分のトンネルをループ-トンネルといい，上越線清水(しみず)トンネル両側の第1湯檜曾(ゆびそ)トンネル・松川トンネルが有名。

ルフトハンザ-ドイツこうくう【ルフトハンザ-ドイツ航空】Deutsche Lufthansa A.G. 西ドイツの半官半民の航空会社。1926年ドイツ-ロイド航空・ユンカース航空の合併により設立され，1953年再発足した。短期間のうちに急速な発達を遂げ，特に旅客数の増加率は世界平均より2倍も多い。路線の開拓も盛んで，ニューヨーク・ジャマイカを越えてチリへ行く中南米線，北極経由日本線，オーストラリア線などもふえ，北大西洋線を中心にドイツ・ヨーロッパ線など収入をあげている。旅客用中距離機としてマスターズ・ボーイング727を，長距離用としてボーイング707などを使用している。〔氏家　尚〕

ルブラン［Charles Lebrun］(1619～1690)フランスの画家・装飾家。シモン-ブエーの弟子(でし)。1642～1645年のローマ留学の間にプーサンの影響を受け，古代美術を学ぶ。1648年王立アカデミーを設立。コルベールに重用され，絵画・建築・装



ルーベンス《マリー-ド-メディシスのマルセーユ上陸》ルーブル美術館蔵

飾・ゴブラン織りなどあらゆる部門で活動，ルイ14世時代の壮麗な美術の総合的指導者となる。装飾事業としてはルーブル宮の〈アポロンの間〉，ベルサイユ宮の〈鏡の間〉が著名である。また，アカデミーの芸術理論を体系化し，大様式の絵画を推進した。歴史画の連作《アレクサンドロス大王の生涯(しょうがい)》はことに名高い。〔岡部紘三〕

ルブラン［Nicolas Leblanc］(1742～1806) フランスの化学者。パリで化学と医学を学び，1780年以来オルレアン公家の主治医。その後化学方面の研究に転じ，食塩からソーダを製造するルブラン法*をディゼとともに考案，1791年特許を取得した。オルレアン公の支持によってサン-ドニにソーダ工場を建設し，生産を高めたが，フランス大革命により工場は没収され，失意と窮乏のうちに自殺。しかし彼の死後ルブラン法は急激に広まった。〔加藤邦興〕

ルブランほう【ルブラン法】アンモニアソーダ法の出現以前に行なわれていた炭酸ナトリウムの製造法。食塩に濃硫酸を作用させ無水硫酸ナトリウム(ぼう硝)をつくる。副生する塩化水素からは塩酸をつくる。

$$2NaCl + H_2SO_4 \longrightarrow Na_2SO_4 + HCl$$

無水硫酸ナトリウムに石灰石と石炭を混ぜて加熱融解すると，無水炭酸ナトリウムと硫化カルシウムの混合物(黒灰)ができる。

$$Na_2SO_4 + 2C \longrightarrow Na_2S + 2CO_2$$

$$Na_2S + CaCO_3 \longrightarrow Na_2CO_3 + CaS$$

黒灰を水で浸出して炭酸ナトリウム溶液をつくり，蒸発濃縮して$Na_2CO_3 \cdot H_2O$を析出させ，焼いて脱水させてソーダ灰(無水炭酸ナトリウム)にする。品質はアンモニアソーダ法によるものより劣り，現在は工業的には行なわれない。〔久保輝一郎〕

ルブリン［Lublin］ポーランド南東部の都市。人口23万8,000(1969)。繊維・ビール・航空機・皮革などの工業が行なわれ，大学や医学校がある。ポーランドでは起源の古い都市の一つで，16世紀建造の教会などが残っている。第1次世界大戦中にオーストリア・ハンガリー支配下の軍事政府が置かれ，1945年にも臨時首都となった。第2次世界大戦前はユダヤ人住民がきわめて多かった。

ルーブル［rubl'］ソ連の貨幣単位。14世紀以来使用されてきている。補助単位はコペック(kopeck)で，1ルーブル＝100コペックス(kopecks)。IMF(国際通貨基金)に加盟していないため，為替(かわせ)平価は設定されていない。対アメリカ-ドル相場からの円換算は1ルーブル＝375.61円(1972年8月1日現在)。

ルーブルきゅう【ルーブル宮】パリの宮殿。宮殿建設以前はパリの王城であった。1546年から1664年にかけてレスコ・ルメルシエ・ル-ボーらによって，宮殿建築が進められた。東に面する正面は，はじめベルニーニに設計が依頼されたが，フランスの建築家の共作に切り換えられ，ペロー・ルブラン・ル-ボーらがこれにあたった。19世紀にはいって，ルーブルは17世紀的なスタイルで増築され，その後のフランス建築に大きな影響を与えた。

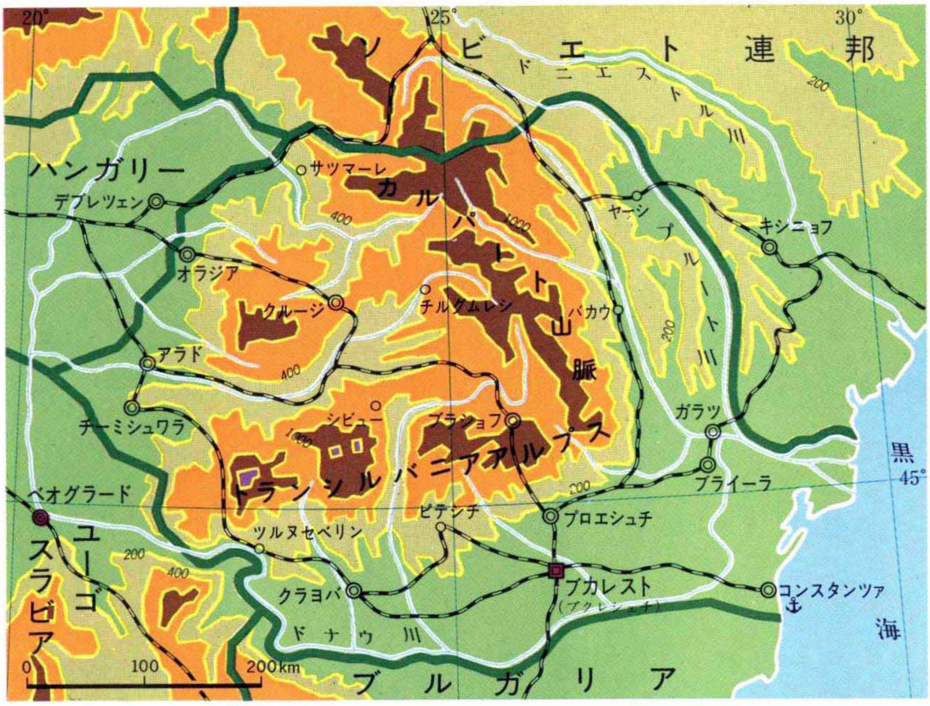
ルーブルびじゅつかん【ルーブル美術館】パリにある規模・内容ともに世界最大の美術館。16世紀フランソワ1世以来の王家の財宝を収蔵するルーブル宮は，フランス革命を機に1793年国立美術館として公開。以来収蔵品も増し，建物も増改築されて今日に至った。所蔵品は6部門に分かれ，古代ギリシア・ローマ，エジプト，オリエントのすぐれた彫刻や遺品，回教美術や中世ルネサンスから近代までのヨーロッパ絵画・素描・彫刻・工芸にわたる。数多い名作・逸品の中には《ミロのビーナス》《サモトラケのニケ》，レオナルド-ダ-ビンチの《モナ-リザ》《巌窟(がんくつ)の聖母》，ルーベンスの《マリー-ド-メディチの生涯(しょうがい)》連作や近代フランス絵画の巨匠の傑作が含まれている。充実した図書館・古文書館，完備した作品保存科学研究所，美術史教育のエコール-デュ-ルーブルが付属している。〔藤井久栄〕

ルブンバシ［Lubumbashi］アフリカ中部，ザイール共和国(旧コンゴ民主共和国)南東部の都市で，カタンガ州の州都。人口23万3,000(1966)。豊富な鉱産資源に恵まれたカタンガ州の開発に伴って発展した。1960年にコンゴ民主共和国が独立した際，一時分離独立を宣言したカタンガ州の首都になったことがある。銅の精練工場，製粉工場などがある。また大陸の南端，南アフリカ共和国のケープタウンとは鉄道が通ずる。旧名エリザベトビル。〔小栗　宏〕

ルベーグ［Henri Lebesgue］(1875～1941) フランスの数学者。いわゆるルベーグ積分の創始者。ボーベーの生まれ。少年時代より数学の才覚を現わした。パリ大学およびコレージュ-ド-フランスの教授。長さ・面積に関する洞察(どうさつ)からルベーグ積分の考えに達した。集合論・実変数関数論・フーリエ級数論・ポテンシャル論・位相幾何学などにも多くの業績を残した。

ルベリエ［Urbain Jean Joseph Leverrier］(1811～1877) フランスの天文学者。ノルマンジーの生まれ。1831年エコール-ポリテクニクに入学，数学にすぐれた才能を現わした。その後煙草(たばこ)管理局の技師となり，はじめ化学を研究，1837年に母校の天文学教師となった。1839年太陽系の安定性について論じた研究を学士院に提出。数理天文学の第一人者となり，1846年フランス学士院会員に選ばれた。同年，J.アダムスとは独立に天王星の軌道の乱れから未知惑星の存在を予言。これはガルレによって確認され，海王星と名づけられた。その後1853年パリ天文台長となり，在任中に天気予報事業の創設にあたり，1856年気象観測のための通信網をつくった。1863年から世界に先がけて毎日の天気図の発刊を実施した。〔根本順吉〕

ル-ベル［Joseph Achille Le Bel］(1847～1930) フランスの化学者。アルザスの生まれ。パリ大学でウルツのもとで研究し，1874年オランダのファントホフ*と同時に，光学異性体の原因として不斉(ふせい)炭素原子の概念を提出し，立体化学の基礎を築いた。このほかアオカビを使って合成ラセミ体から活性体を分離し，また5価の窒素原子を含む光学活性体の合成を行なった。



ルーマニア

300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市　10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　油田



ルーマニアの国旗　1967年制定。もと紋章にあるリボンの文字が，ルーマニア人民共和国の略号であるRPRだったが，社会主義共和国への国名変更に伴って現在のものとなった。青・黄・赤の三色旗は1848年の旗に由来するが，星と麦の穂と石油産出国を表わす油井などからなる紋章が描かれたのは1948年のことである



ルーマニア　トランシルバニアの主邑クルージ市の教会。この地方はハンガリー人・ドイツ人が多く，宗教や文化にもその色彩が強い



黒海沿岸にあるこの国最大の貿易港コンスタンツァの港。ギリシア・ローマ時代以来の古い歴史をもち，遺跡も多い

ルーベンス　[Peter Paul Rubens]　(1577～1640)　フランドルの，バロック様式の代表的画家。はじめベニウスら3人の師に絵を学び，1598年アントワープの画家組合に登録された。1600年イタリアに行き，以後8年間，ベネチアのマントバ公に仕えた。その間各地に旅行し，おもにベネチア派やカラバッジョの作品を模写・研究した。帰国後アントワープに落ち着き，フランドル最大の画家として盛んな創作活動にはいる。バン・ダイクら多くの弟子(でし)との共同制作も少なくない。リュクサンブール宮を飾るための21枚の連作《マリー・ド・メディチの生涯(しょうがい)》(現在はルーブル美術館所蔵)は，壮麗な色彩と雄渾(ゆうこん)な線によって，生命の躍動を伝えるルーベンス様式の完成を示している。1630年エレーヌ・フールマンと再婚して円熟した画境にはいり，若妻をモデルに多数の秀作が生まれた。宗教・神話・肖像・風景・風俗画などあらゆるジャンルに卓越した手腕を示し，2,000点以上の作品を残した。〔岡部紘三〕

ルーボア　[François Michel Le Tellier, Marquis de Louvois]　(1641～1691)　フランスの政治家。父は大法官ル・テリエ。ルイ14世*に仕え，1666年に陸軍大臣になると，徴募制や兵隊の地位の改善，輸送・宿駅の整備，歩兵の銃剣装備，工兵隊の組織，主計官の配置などを行ない，フランス軍を再組織，世界最強の30万の軍隊をつくり上げた。政治面では栄光と征服を追って新教徒迫害，プファルツ略奪を提言し，コルベール*と衝突した。コルベールの死後ルイ14世の最高顧問となり，ナントの勅令*の廃止などを進言したが，やがて王の不信を買い失意のうちに死んだ。〔喜多迅鷹〕

ル・ボン　[Gustave Le Bon]　(1841～1931)　フランスの社会心理学者。医学・理論物理学・考古学・人類学などの部門に幅広く活躍し，《群集心理》《民族進化の心理法則》の著書により社会心理学の一分野を確立した。彼は群集を一個の精神的統一体と考え，その解明を通じてあらゆる社会現象の解明を試みた。すなわち群集は，軽心的・被暗示的・衝動的などの非常に劣性な心性をもつとして，群集の密集した近代社会，群集支配の産物である民主主義社会への不信，現代文明への危惧(きぐ)を強調した。永続的・組織的集団をも含める彼の群集概念やそこから展開される理論は，多くの批判を受けたが，群集心理学や群集社会学の分野では看過できない先駆者のひとりとなった。〔藤見純子〕

ルーマニア(社会主義共和国)　[Socialist Republic of Rumania, Republica Socialistă România]　ヨーロッパ東部，バルカン半島東部の社会主義共和国。北から東にかけてプルート川がソ連との国境を流れ，東は黒海に面し，南から西にかけてはドナウ川がブルガリア・ユーゴスラビアとの境をなし，北西はハンガリーと接する。面積23万7,500km²，人口2,207万(1979年推)。首都ブカレスト。

【自然】北西部から中央にかけてカルパート山脈とトランシルバニアアルプスの山地が連なり，東南部と西部の低地を分けている。両山地には標高1,000～2,000mの準平原化した高原が多く，夏季にはヒツジの放牧地に利用されている。最高峰はトランシルバニアアルプスのネゴイ山(2,543m)。南東部はワラキア平野とよばれ，100m以下の扇状地や台地で，厚く黒土におおわれてソ連に続き，小麦の世界的産地となっている。ドナウ川の氾濫原(はんらんげん)や三角州は低湿地や沼沢が多く，不毛である。西部はハンガリー大平野の一部で，扇状地部分は砂礫(されき)質でやせているが，国境付近は黒土におおわれ，ワラキア平野に次ぐ農業地帯である。気候は，一般に雨の少ない内陸性気

候であるが，中央に山地があるために地域差が激しい。ブカレストの平均気温は1月－3℃，7月23℃，年降水量は580mmである。南東部のワラキア平野ではステップの景観を示すが，山地では1,500mmほどの降水があり，ポドゾル性土壌(どじょう)に変わる。高山部には針葉樹林もみられる。

【住民】160万のマジャール人*,40万のドイツ人のほかはルーマニア人である。ルーマニア人は1世紀ごろこの地方に移住したローマ人を祖先とし，バルカン半島では珍しいラテン系であるが，古くからスラブ化している。マジャール人・ドイツ人は新教徒，ルーマニア人はギリシア正教徒が多い。国民の42％は都市住民である(1970)。

【経済】住民の半分以上がいまだ農業に従事し，国土の60％の農地を利用している。主要農産物はトウモロコシと小麦である。トウモロコシは年産768万tで，ヨーロッパではソ連に次ぎ，小麦は年産440万tで，ともに輸出され，ヨーロッパの穀倉になっている。農地は第2次世界大戦後の改革によって，50ヘクタールを限度として，農地没収，農民への分配が行なわれた。現在では農地の91％は協同組合化されている。鉱産資源ではプロエシュチ周辺をはじめとする石油が重要で，年産1.3億t,約40％を輸出している。戦後発達した工業部門には約200万人が従事し，農業など含め労働者の94％は社会主義化された部門に従事している。輸入品は鉄鉱・石炭・金属・電気機械が主で，貿易取引は1960年までは対共産圏諸国が80％を占めていたが，現在は30％を占めるソ連を含めて55％にすぎず，西ドイツ・イタリアなどとの取引も多い。共産圏内でも自主独立路線を展開し，西ヨーロッパや中国との関係を深めている。〔梶川勇作〕

【歴史・政治】ローマ帝国時代にラテン人が住みついたダキア地方は，肥沃(ひよく)な土地に恵まれ，交通の要衝でもあった。そのため民族大移動期にゴート族に荒らされ，またスラブ族*の南下・定住にもあった。13世紀にはモンゴル族の支配もうけたが，14世紀には，ルーマニア人によるワラキア・モルダビア両王国が成立し，16世紀末にこの両王国が合同して，わずか8年間ではあったが統一国家をつくった。その後19世紀初めまで，トルコの圧制などに苦しんだが，ギリシア正教という宗教的背景や，フランスの自由主義思想の影響などによって独立運動が起こった。そして1856年のクリミア戦争を経てロシア・トルコの勢力を排し，1861年ルーマニア侯国が成立した。バルカン半島進出をねらう列強の勢力争いの影響をうけながらも,1881年カロル1世(在位1881～1914年)のもとにルーマニア王国として正式に独立した。ルーマニアでは，大土地所有者である貴族や教会と，新興の中産階級との対立があり，一方で農民は自作農として独立することを求めるなど，対立・紛争が絶えなかった。第1次世界大戦前後に領土を拡張したが，かえって近隣諸国との対立を深めることとなった。カロル2世(在位1930～1940年)のもとでは全体主義的傾向がとられ，またナチス-ドイツに接して，第2次世界大戦ではソ連と戦った。しかし1944年，ソ連の援助のもとに愛国勢力が権力を握り，翌年には民主民族戦線政府が成立した。1946年の選挙で民主ブロックが圧勝すると，翌年に人民共和国が宣言され，社会主義への道を進んだ。

1948年人民共和国憲法のもとに産業国有化が実施され，翌年から農業の集団化が進んで，1952年の新憲法で社会主義国家と規定されるほどになった。さらに工業化計画と農業の高度化がはかられ，1965年には新憲法によりルーマニア社会主義共和国となった。この憲法では，一院制の大国民会議のもとに，閣僚会議とよばれる政府が存在する。しかし実際の権力は，1948年の共産党と社会民主党の合同による労働者党(現在の共産党)が一貫して保持してきた。近年，共産党第一書記チャウシェスク*のもとに，ソ連との同盟関係を維持しながらも，独自の社会主義の道を歩んでおり，中ソ対立の調停にも一役買おうとしている。なお政党ではないが，大衆団体の連合体として人民民主戦線が存在し，国民の結束に重要な役割を果たしている。〔桜木　庚〕

ルーミスしじみ【ルーミス小灰蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・シジミチョウ科。翅(はね)を広げた長さ25～29mm。翅は黒かっ色で，前翅は基半部に美しい青色の紋があり，後翅にはわずかに青色の鱗粉が散布される。裏面は白みをおびたかっ色で，雲状の紋が多数ある。年3回の発生で，成虫は6・8・9月に出現し，第3化の個体がそのまま越冬する。幼虫はイチイガシを食し，若葉を巻いてその中にすむ。千葉県清澄山を北限として局地的な分布を示し，国外では台湾・中国より知られている。奈良県春日(かすが)山では天然記念物に指定されていたが，最近全滅した。〔多々内修〕

ルミナール ⇨フェノバルビタール

ルミネッセンス［luminescence］螢光(けいこう)・燐光(りんこう)などのように温度放射によらない光を発する現象。物質が光・熱・X線・放射線および種々の粒子線・化学的刺激・機械的刺激などを受けることによって発光するもので，高熱を伴わないため冷光ともいう。光を発する刺激原因の種類により光ルミネッセンス・摩擦ルミネッセンス・陰極線ルミネッセンス・陽極線ルミネッセンス・X線ルミネッセンス・放射線ルミネッセンス・化学ルミネッセンス・生物ルミネッセンス・音ルミネッセンスなどという。その発する光は物質と刺激するエネルギーの種類によって異なる。〔中山忠己〕

ルミノールほう【ルミノール法】化学発光試験として血痕(けっこん)検査*に用いられる方法。ルミノール反応ともいう。ルミノール0.1g，無水炭酸ソーダ5g，3％過酸化水素水15cc，蒸留水100cc，またはルミノール0.1g,0.5％過酸化ソーダ水100ccを混じて調製した試薬を，暗室中か暗夜血痕に加える(噴霧する)と青白い光を発する。血液に対して特異的に発光するもので，これは他の体液・精液・唾液(だえき)・尿・膿汁(のうじゅう)・牛乳などに発光しない。この反応は鋭敏で，血液が10,000～20,000倍に希釈されていても反応する。ヘミン(ヘマチン*が酸と結合して生成した塩)化した古い血痕ではいっそう強く発光する。〔青木利彦〕

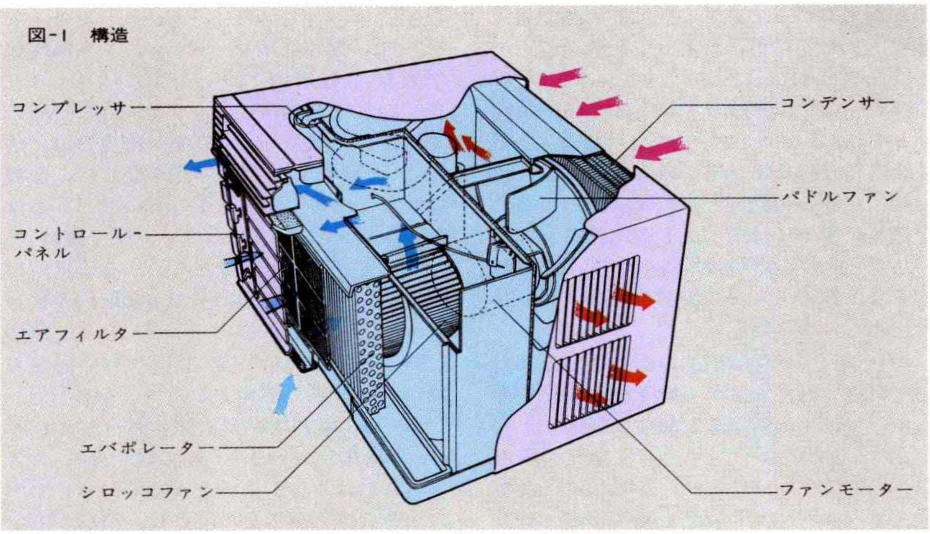
ルーム-エアコンディショナー［room air conditioners］一般にはルーム-エアコンまたはルームクーラーともいう。室内の快適な空気調和を目的とし，冷房・除湿・除塵(じょじん)や空気の循環の機能をもつ装置。最近の機種には，暖房運転のできるものもある。原理は，液体が気化するとき，周囲から多量の熱を奪う性質を利用したもので，揮発性が強く，無臭・無害のフロンという化合物を使って空気調和を行なう。

基本構造は図-1に示すとおりで，冷媒は次のように循環して，冷房作用を行なう。①コンプレッサー(圧縮機)で圧縮され，高温高圧のガスになって送り出される。コンプレッサーには，ロータリー式・往復運動式・振動式とがある。②コンデンサー(凝縮器)で熱を放出する。コンデンサーは銅またはアルミパイプの表面にアルミのフィンを取り付けてある。③キャピラリチューブ(毛細管)という内径1mm程度の細い銅パイプを通って圧力を減らす。大形の機種にはエクスパンションバルブ(膨張弁)を使うものもある。④低温低圧の液体になった冷媒は，急に太いパイプになったエバポレーター(蒸発器，コンデンサーと同様の構造)にはいり，ここで蒸発・気化して周囲から熱を奪う。エバポレーターの表面に触れた空気は，温度が下がるとともに，空気中の水分は露となり，取り除かれる。⑤気

表-1　ルーム-エアコンの容量による分類

冷房能力（50／60Hz）	圧縮機出力	冷房可能面積
kcal／時 1 250／1 400	w 400	7～11m² (4～7畳)
1 600／1 800	600	8～14 (5～9)
2 000／2 240	750	11～18 (6～11)
3 150／3 500	1 100	17～28 (10～17)
4 000／4 500	1 500	17～36 (13～22)

注）冷房可能面積は，ごく一般的な日本間の家庭の一例をとったもので，正確には冷房負荷計算によって決められる



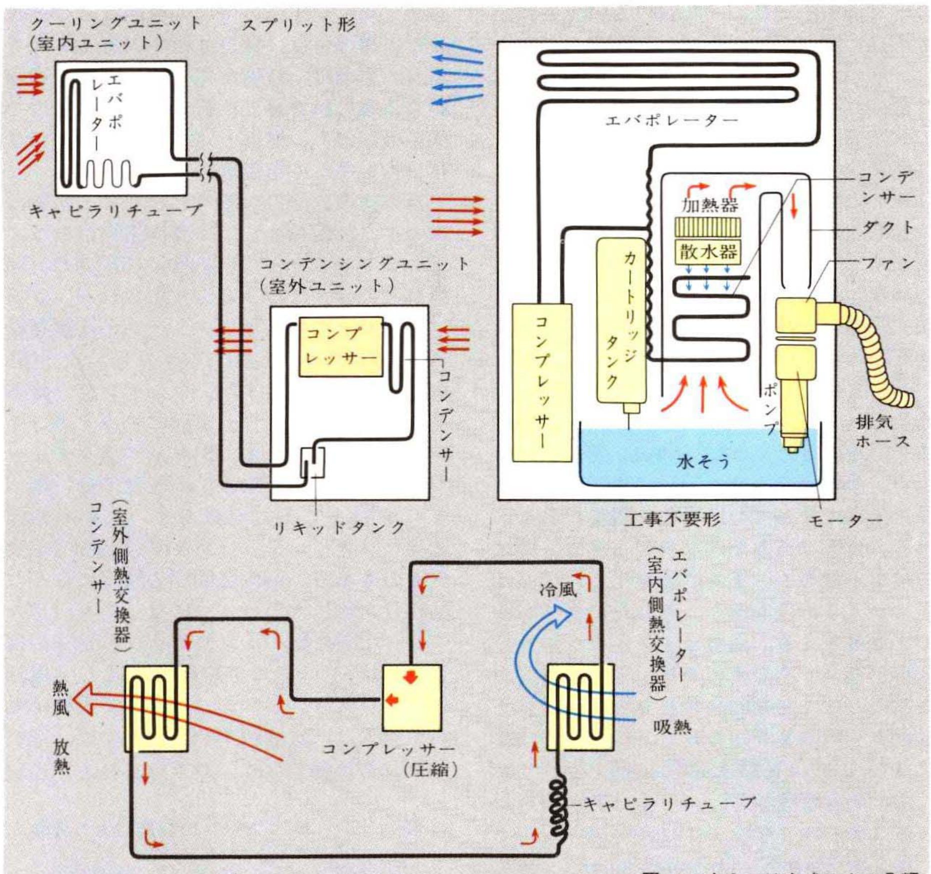


図-2 すえつけ方式による分類

ルーム-エアコンディショナー

化した低圧のガスとなった冷媒は，またもとのコンプレッサーへもどり，同じ動作をくり返す。なおファン（送風機）は熱交換を効率よく行なうために強制的に空気を送るとともに，室内側では気流分布をよくする。室内の空気吸い込み口にはフィルターがあり，ほこり・ごみなどを取り除く。またサーモスタットにより室内の好みの温度に合わせて，適当な運転制御を行なわせる。

家庭用エアコンをすえつけ方式で分類すると，次の三つのタイプに分けられる。①スプリット形：室内にエバポレーターとファンを納めたクーリングユニットと室外にコンプレッサー・コンデンサー・リキッドタンクを納めたコンデンシングユニットをパイプでつないだ方式。室内の運転音が静かで，室内ユニットの場所が自由に選べる。屋外ユニットを置くスペースおよび，両ユニット間の配管が必要。②ウインド形：①の各ユニットを一体として，窓や壁に取り付けられるようにした方式。床面積をとらないが，外壁のあるへやにしか設置できない。③工事不要形：その他の壁に穴をあけられないへやや窓をつぶせないところなどに取り付けるためのくふうがなされたもの。すえつけ工事は簡単であるが，設置可能な場所が限定される。なお冷房能力別でみると，一般家庭で使われるのは2000/2240（kcal/時，50/60Hz）のものが中心機種となっている（表-1）。➔空気調和〔舘内富男〕

ルームクーラー ⇨ 前項

ルムンバ［Patrice Lumumba］（1925～1961） コンゴ共和国（キンシャサ）の政治家・民族運動指導者。コンゴ民族運動党（MNC）を創設，アクラの全アフリカ人民会議（1958年12月）に出席，民族主義・独立運動を推進。1960年ベルギーからの独立とともにMNCは第一党となり初代首相に就任，独立式典当日ベルギーのボードワン国王を前にして激しい植民地主義攻撃演説を行なった。その直後，カタンガをめぐるベルギーの策動と，カタンガ分離を事実上黙認する国連軍の措置に憤激，反ヨーロッパ色を強くし，ソ連に接近した。1960年9月カサブブ*大統領はルムンバを解任したのに対抗し，ルムンバは議会を召集してカサブブ解任を決議した。その間モブツ*軍参謀長のクーデターが起こり，混乱はその極に達した。11月ルムンバはレオポルドビルを脱出したが，途中で逮捕され，1961年カサブブ・モブツの手によりツォンベに引き渡され，同年2月殺害された。〔喜多迅鷹〕

ルメートル［Jules Lemaître］（1853～1914） フランスの批評家。アナトール-フランスとともに印象批評の第一人者として，ブリコシティエール一派の客観批評に対抗した。観察対象が固定していても，われわれの精神が変わりやすいことから，彼は瞬間的な印象を重要視した。小説《セレニコス》や戯曲などもある。

るもい【留萌（市）】 北海道北西部，留萌支庁のある市。人口37,000。18世紀初期から漁場として開け，明治中期に農業移民の入植が始まった。1910年（明治43）に鉄道が開通し，1932年（昭和7）には築港が完成した。1947年市制施行。市域は，西は日本海に臨むが，平地に乏しく，大半は丘陵性の山地で，中心市街は留萌川河口付近の低地に位置する。産業三大別人口比は8：25：67。主産業は鉱業と林業で，背後の山地には古第三紀層に属する留萌炭田と国有林が広がるが，留萌炭田は近年の石炭不況のために休閉山する炭鉱が目だつ。旧河口を利用した留萌港は重要港湾に指定され，内外2港に分かれて石炭・木材を積み出す。かつてはニシン漁で栄えたが，現在は底曳（そこびき）漁業の基地となり，ホッケ・スケソウダラ・タコなどの水揚げが多く，水産加工が行なわれる。留萌本線から羽幌（はぼろ）線と天塩（てしお）炭鉱鉄道を分岐し，国道231号線・232号線・233号線が集まる。日本海上の天売島や焼尻（やぎしり）島に近く，黄金岬（みさき）・千望台・見晴公園などの観光地に富む。

るもい【留萌（支庁）】 北海道14支庁の

一。道北西部，日本海に沿って南北に長く延びる地域で，増毛町・小平町・苫前(とままえ)町・羽幌(はぼろ)町・初山別村・遠別町・天塩(てしお)町・幌延(ほろのべ)町の7町1村を含み，面積3,736.7km²。人口54,000。庁舎所在地は留萌市。海岸線に平地が広がり，背後に天塩山地が南北に長く延びて，南部に留萌炭田がある。南接する石狩支庁との間には暑寒別岳(1,491m)を最高峰とする増毛火山群がある。日本海沿岸部はかつては留萌港を中心にニシン漁が盛んで，いまはホッケ・スケソウダラ・タコなどの水揚げが多い。平地は水田が開け，リンゴの栽培も最近盛んである。留萌炭田の開発は，支庁内の基幹産業であったが，最近は石炭不況のため休閉山する炭鉱が多い。

るもいほんせん 【留萌本線】 北海道深川～増毛間の国鉄路線。営業キロ数66.8。1910年(明治43)深川～留萌間が開通し，1921年(大正10)さらに増毛まで延長し完成した。石狩川上流部と日本海沿岸とを結び，羽幌(はぼろ)*線とともに石炭輸送に重要な役割を果たす。

ル-モンド ［Le Monde］ フランスの最も権威ある日刊新聞。夕刊。1944年パリ解放後,《ル-タン》の組織を引き継いで創刊された。党派的傾向の強いフランス新聞界の中で，資本や政党と密着せず，ややカトリック社会主義的色彩をおびながらも，中立主義的立場を保持して世界的信用を博している。パリで発行され，発行部数約44万(1980)。

るり 【瑠璃】 ⇨ラピスラズリ

るりかけす 【瑠璃懸巣】 鳥類・カラス科。翼長17～18cmで，カケ*スより少し大きい。奄美(あまみ)大島と徳之島特産の美しい鳥。背と腹は暗い栗色(くりいろ)，他の部分は光沢のある深い色調の紫紺色で，天然記念物に指定されている。

るりかみきり 【瑠璃天牛】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カミキリムシ科。ルリヒラタカミキリ・ナシルリカミキリ・ナシアオカミキリともいう。体長9～12mm。体は細長く円筒状で，黄かっ色。体の背面には黒かっ色の長毛が多少密にはえ，腹面には灰白色の短毛がはえる。複眼と触角は黒色。鞘翅は金属光沢のある藍色(あいいろ)ないし藍紫色。複眼は上下に完全に分離している。本州・四国・九州・沖縄・対馬(つしま)のほか，朝鮮・中国・台湾に分布し，成虫は5～7月に出現する。幼虫はナシをはじめ多数のバラ科植物の枝に穿孔(せんこう)加害する。

るりぎく 【瑠璃菊】 ⇨ストケシア

るりしじみ 【瑠璃小灰蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・シジミチョウ科。翅(はね)を広げた長さ27～33mm。雄は青白色で，外縁は黒かっ色に狭く縁取られる。雌はこの縁取りが幅広くなり，夏型は特にこの傾向が著しい。裏面は白色で，外縁に沿って3列の黒色紋列がある。3月ごろから出現して晩秋まで姿を見せ，ヤマトシジミとともに最も普通なシジミチョウである。幼虫はフジ・クララなどの花・実を食べ，食草によって体色が変化する。さなぎで越冬し，沖縄を除く日本全土のほか朝鮮・中国・ヨーロッパにかけて広く分布する。


ルリカケス



ルリタテハ
(上)成虫
(下)幼虫


ルリビタキ　雄

ルリスタンせいどうき 【ルリスタン青銅器】 イラン，ザグロス山中のルリスタン人の用いた青銅器。彼らの民族系統や年代には確定説はないが，メソポタミア文化の影響を受け，紀元前2000年紀から1000年紀にかけて青銅器文化を起こしたと思われる。今日彼らの墓から特異な動物文で飾られた武器や馬具，儀仗(ぎじょう)頭部などが豊富に発見されている。

るりそう 【瑠璃草】 双子葉植物・ムラサキ科。本州中部から北海道の丘陵・山地の林内にはえる多年草。茎の高さ20～35cm。葉は，長さ7～15cm，幅1.5～3.5cmの広倒披針(ひしん)形で，基部は細くなる。4～6月，茎の先に総状に直径1～1.5cmの瑠璃色の花をつける。花が白色のものをハリソウ，紅斑(こうはん)のあるものをメノウソウという。近縁のヤマルリソウは，全草に粗毛があり，茎の高さ12～20cmで，4～5月に直径1cmの青色花をつける。

るりたては 【瑠璃蛺蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ63mm内外。翅は黒色で前翅前縁部に青白色の紋があり，また前翅から後翅にかけて外縁に沿う幅広い青色の帯が走ってよく目だつ。裏面は黒かっ色。発生は6～7月，8月，10月の年3回で，第3化はそのまま成虫で越冬する。成虫の飛び方は活発であるが，日あたりのよい山間の裸地やクヌギなどの樹液に集まり，一度飛び去っても再びもとの場所にもどることが多い。幼虫はサルトリイバラ・ホトトギスなどの若葉を食べる。日本全土のほか朝鮮・台湾に分布する。

るりちゅうれんじ 【瑠璃鐫花娘子】 こん虫類・膜翅(まくし)目・ミフシハバチ科。体長9mm内外。青藍色で，腹部背面の基部数節など紫色の光沢をおびる部分がある。触角はほぼ黒色。翅(はね)は暗色半透明で，翅脈と縁紋は黒かっ色。全体に明瞭な点刻を欠くため，光沢が強い。日本全国のほか，台湾・中国に分布し，ツツジ類の害虫として知られる。年3回発生し，成虫は5・7・8月に出現する。卵は葉縁の組織内に1粒ずつ産め込まれる。幼虫は黄緑色で，黒色の小さい斑点(はんてん)があり，頭部は黒色ないし黒かっ色で，老熟すると体長25mm内外に達し，地中に灰白色長楕円形の繭をつくってさなぎとなる。近似の種に，リンゴにつくリンゴチュウレンジ(北海道・本州，朝鮮・シベリア)，ウシコロシにつくウンモンハバチ(北海道・本州・四国，サハリン)，カバノキ類につくカンバチュウレンジ(本州・ヨーロッパ)などがあり，いずれも大きさや色彩などがよく似ている。〔鈴木邦雄〕

ルーリック ⇨リューリック

るりびたき 【瑠璃鶲】 鳥類・ヒタキ科。全長約14cmの小形のツグミ類。雄の上面は美しい瑠璃色，雌はじみなかつ緑色で，下面は淡黄かっ色。北海道・本州の亜高山帯の森林で繁殖する。冬季は本州以南の低山帯から平地で越冬する。目はまるくて大きくかわいい顔をしているが，特に冬季は人を避けず平気でいるので，多くの地方で〈馬鹿(ばか)っちょ〉などとよばれる。

るりひらたむし 【瑠璃扁虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ヒラタムシ科。体長20～25mm。体は著しく扁平(へんぺい)で黒色，鞘翅はほとんど光沢のない青藍(せいらん)色。頭胸部は密に点刻され，多少光沢がある。大顎(お

おおあご)は強大。前胸背板の側縁は後方に向かってせばまり，数個の歯状突起がある。後脚の跗節(ふせつ)は雄は4節であるが，雌では5節。日本全国に分布し，山地の枯れ木の樹皮下などに見いだされる。冬は成虫態で越す。本種に類似の種に，鞘翅が光沢のある赤色のベニヒラタムシ，それに似て鞘翅が光沢のない赤色のエゾベニヒラタムシがあり，ともに日本全国の主として山地に分布し，やはり枯れ木の樹皮下などに見いだされる。〔鈴木邦雄〕

るりぼしかみきり　**【瑠璃星天牛】**　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カミキリムシ科。体長15～30㎜。体は黒かっ色ないし黒色，全体に灰青色の鱗状毛(りんじょうもう)でおおわれ，前胸背板の前縁と中央に1個，鞘翅に各3個の黒色の鱗状毛からなる斑紋(はんもん)がある。しかし，これらの黒色紋は個体による変異が大きく，しばしば消失したり互いに融合したりする。触角は灰青色の軟毛でおおわれ，雄では第3～第5節の先端に塊毛があり，また第3～第6あるいは第7節の先端に棘(きょく)がある。雌では第3～第7節の先端に塊毛と棘がある。触角の長さは，雄では体長の約1.5倍，雌では約1.3倍。日本全国のほか，朝鮮・中国東北部などに分布し，成虫は7～9月に出現して，おもに山地に多い。幼虫は，カエデ類・ブナ・ナラ・クルミ・ニレなどの樹幹に穿孔(せんこう)加害する。➔カミキリムシ　〔鈴木邦雄〕

ルール　［Ruhr］　西ドイツ北西部，ライン川の支流ルール川沿いの地域名。面積約4,600km²。年産1億tに及ぶルール炭田を中心に，ドルトムント・エッセン・ジュッセルドルフ・ジュイスブルクなどの工業都市が密集し，鉄鋼・機械・化学などドイツ最大の重化学工業地帯を形成する。第1次世界大戦後の1923年，ドイツの賠償不履行を理由にフランスが一時占領したことがある。第2次世界大戦では大戦災をうけたが，1955年ごろには回復した。〔梶川勇作〕

ルルス　［Raimundus Lullus］（1235～1315）　中世スペインのスコラ哲学者。フランシスコ会修道士でカトリック教会聖人。30歳ごろに深い宗教体験を得て妻子を捨て，修道生活にはいった。北アフリカ・近東のイスラム教徒を改宗させるために布教活動を行ない，北アフリカのブージーで殉教死。ニコラウス-クサヌス*から哲学的影響を受け，アベロエス派と対立。また若干の根本概念の組み合わせからあらゆる真理の導出を図る〈ルルスの術〉を考案したことで有名。200種をこえる書物を残したと伝えられる。〔石井忠厚〕

ルレオ　［Luleå］　スウェーデン北部，ボスニア湾北端のルレ川河口の港市。人口57,000(1968)。木材やキルナ・エリバレなどで産する鉄鉱石の夏季の積み出し港で，製鉄所もある。冬季は凍結する。

ルーロー　［Franz Reuleaux］（1829～



ルワンダの国旗　1961年制定。中央のRの文字は，ルワンダ(Rwanda)が革命(révolution)によって生まれ，国民投票(référendum)によって確認された共和国(république)であることを表わしている。また，赤は革命のために流された血と苦難を，黄色は自由な国民の平和な生活を，緑は将来に対する希望と楽観を表わしている



ルワンダ　空から見た首都キガリの主要部。旧ルワンダ王国の王宮があり，町はゆるい起伏のある丘の上に広がる

1905)　ドイツの機械工学者。アーヘン近郊のエシュワイラーの生まれ。チューリヒの工業学校に学び，1868年にベルリン工業学校(のちの工業大学)の学長に就任。電磁気学者アンペールが創始した運動学(キネマティーク)の概念により，機械の本質が機械を構成する各部分の運動を制御することにあることを明らかにし，機械に関する最初の技術学を樹立した。その理論は1875年の古典的名著《理論運動学》に体系化されている。〔山崎俊雄〕

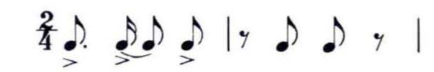
ルワンダ(共和国)［Republic of Rwanda, République Rwandaise］　アフリカ中央部の共和国。内陸国で，北はウガンダ，東はタンザニア，南はブルンジ，西はザイール(旧コンゴ民主共和国)とそれぞれ国境を接する。面積26,338km²。人口505万(1978年推)。首都キガリ。

〔自然・住民〕国土は標高1,500m前後の高原で，西部国境にキブ湖があり，東部国境をカゲラ川が流れる。熱帯に位置するが，高原のために気候は比較的温和である。住民の大部分はバンツー系のバフツ族で，ほかにバッチ族やピグミーがいる。公用語はフランス語。カトリック教徒が約55%で，ほかは原始宗教を信仰する。

〔産業・経済〕農業が主産業で，自給用にトウモロコシ・インゲンマメ・サツマイモ・マニオクなどを栽培し，またコーヒー・茶・除虫菊などを輸出している。家畜ではウシ・ヒツジ・ブタを飼育している。スズ・緑柱石・ウォルフラムなどの鉱産物も輸出しているが，中でもスズは重要な鉱産資源である。貿易面ではヨーロッパ共同体(EC)と経済協力関係を結んでおり，輸出入ともこれとの関係が深い。

〔歴史・政治〕19世紀末，ドイツのアフリカ東部への進出によって植民地化されたが，ドイツが第1次世界大戦に敗れたためベルギーの委任統治領となり，第2次世界大戦後も信託統治領として引き継がれた。その後独立運動が活発となり，1962年ブルンジとともに独立して王国となった。しかし王制廃止の気運が強まり，部族間の対立も激化して国王支持派の部族が敗れたため，王制を廃して共和制を敷いた。元首は大統領で，一院制の議会をもつ。なお1964年，王制派と共和派の部族対立のしこりから，少数部族のバッチ族が数千人も殺されるという事件が起こるなど，政情は不安定である。〔小栗　宏〕

ルンバ　［rumba］　キューバ起源のダンス-リズム。キューバではアフリカ色の強い早いテンポで，くり返しの多い音楽形式をいう。しかし1930年アメリカで《南京豆(なんきんまめ)売り》が，実際にはソンという形式にもかかわらず，ルンバの名で大ヒットしたため，そのリズムとダンスがルンバとして世界的に知られた。下図のような2小節1単位のリズム-パターンが特徴で，今日までラテン-アメリカ系社交ダンスの代表としてもてはやされ，《ママ-イネス》《ルンバ-タンバ》など多数の有名曲がある。〔中西義郎〕



ルンペン-プロレタリアート　［Lumpenproletariat］　プロレタリア階級の最下層に属する浮浪的な貧民層。長期にわたる失業と窮乏のため生産過程から隔離され，かつ不節制な行動やその日暮らしの自棄的な生活慣習を身につけ，労働能力・労働意思を喪失し，心身ともに堕落して都市の片すみにスラム*を形成する。

ルーンもじ　**【ルーン文字】**　ギリシア-ラテン式アルファベットの直系で，古代ゲルマン民族の文字。最初の6文字を取り〈フサルク〉ともいう。初期には折線型の24字をもっていたが，8世紀以降，16字となる。最古の記録は3世紀に始まり，主として北ヨーロッパ諸国・イギリス北部で用いられ，14世紀には北ヨーロッパの共通的文字となって，ゴットランドでは17世紀まで生き残る。ただし，残された記録は短い碑文・刻文であることが多い。〔崎山　理〕

れ

レー　[John Ray]　(1628～1705)　イギリスの生物学者。エセックス州の生まれ。ケンブリッジ大学に学び，一時は同大学で教職についたが，チャールズ２世の宗教政策に服さず同大学を去り，民間において研究を続けた。植物分類学において，1702年単子葉植物と双子葉植物を分類上の名称として最初に用いた。

レア　[rhea]　鳥類・レア科の総称で，アメリカダチョウともいわれる走鳥類。南アメリカ大陸にソウゲンレアとダーウィンレアの２種が分布する。ソウゲンレアは背たけが1.2～1.5mで，全体にかつ灰色をおび，アルゼンチンのパンパスとブラジルに生息する。一夫多妻性で，雄はテリトリー(なわ張り)をもち，そこに巣づくりをして，５～６羽の雌がその巣に産卵する。20～30卵になると雄が抱卵をはじめ，また雛(ひな)の世話もおもに雄が行なう。ダーウィンレアはアンデスからパタゴニアにかけて分布し，小形である。

レア　[Rhea]　ギリシア神話の女神。ウラノス*とガイア*の娘。クロノス*の妻。ヘスチア*・デメテル*・ヘラ*・ハデス*・ポセイドン*・ゼウス*の母。自分の子のひとりに神々の王の座を奪われると予言されていたため，クロノスはレアが生んだ子をすべてのみこんだ。末子ゼウスのときには，レアは夫を欺き赤子の代わりに産衣(うぶぎ)でくるんだ石をのませてゼウスを助け，クレタのイデ山中に隠して育てた。

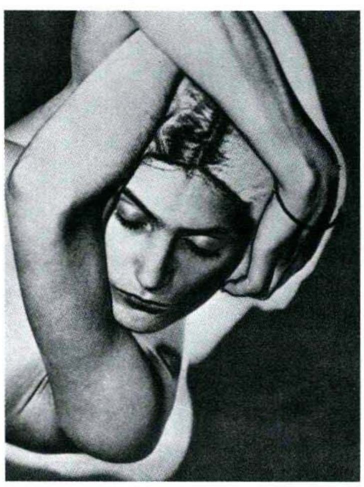
れい　【零】　⇨ゼロ

れい　【礼】　中国で，この字はもと宗教儀礼を意味し，やがて祖先祭祀(さいし)を中心に組織された大家族の秩序規定を意味するようになり，さらに広く政治的・社会的組織の規定を意味するに至った。儒家では権力的支配に対して血縁的一体性の秩序を標榜(ひょうぼう)して，〈法〉に対して礼を優先させた。そのために《周礼*(しゅらい)》《儀礼》《礼記*》の三礼が編集されて経書となったが，これも〈礼〉とよぶ。

レイ　[Man Rey]　(1890～　)　アメリカの写真家・画家。はじめに建築を学び，のちに美術学校に入学し画家となる。幻想的あるいは抽象的な構成の絵を描いていたが，アカデミズムに退屈し近代的な傾向にも不満を覚えて，しだいに写真へと関心を寄せた。また早くからデュシャン*やピカビア*の影響を受けてダダイスムに接近し，第１次世界大戦中からニューヨークで多くのオブジェを制作したが，1921年パリに移って本格的にダダ*運動に参加し，1924年にはシュルレアリストのグループに加わった。写真ではレイヨグラム(フォトグラムと同じ)による作品をツァラ*の詩とともに《シャン-デリシュ》として出版している。またソラリゼーションを利用した独創的な技法によるポートレートや，ネガ表現，ハイキーな表現などの成果は，《マン-レイ》《写真は芸術でない》にまとめられている。前衛映画の作品も多く，《理性の復帰》《エマク-バキア》《ヒトデ》《骰子(さいころ)城の神秘》などがある。　〔大辻清司〕



レ　ア　ダーウィンレア



レ　イ　《ソラリゼーション》　1931

レイアウト　[layout]　割り付(わりつけ)ともいう。新聞・雑誌などで，見出し活字・本文用活字・写真版・凸版(とっぱん)などを組み合わせて紙面を構成すること。レイアウトの第１要素は，音楽の作曲のようにプロローグがあり，エピローグで終わるように，あるウエーブを設定しながら全体像の統一を図ることである。第２の要素は，活字や写真の視覚効果を十分に計算することである。そのために活字やレタリングの種類，写真の特性などを熟知しなければならない。このような作業をする人はレイアウトマンとよばれ，レイアウトマンは編集長との共同作業によってレイアウトを行なう。なお，広告デザインにおけるレイアウトは，その構成要素である商品名・タイトル・コピー・マーク・社名・イラストレーション・写真などを一つの誌面にレイアウトする。この場合もアートディレクター・カメラマンなどとの共同作業によって行なわれる。　〔伊藤幸作〕

れいがい　【冷害】　夏季の気温の低下，日照不足，多雨などの悪条件が重なって農作物，ことに水稲が減収すること。冷害に伴って発生するいもち病の被害も重大である。北海道や東北に多く，北海道では７～８月の平均気温が20℃以下になると不作となり，19.5℃以下では稲の収量が急激に減少する。東北地方では７月か８月のどちらかの月平均気温が20℃以下になると冷害を発生することが知られている。冷害には３型がある。①遅延型冷害：梅雨期と６～７月にかけて低温少照の天候が続く型で，初期生育と出穂期が遅れるためこの名がある。出穂期遅延のまま，実がはいらず青立ちとなることもある。②障害型冷害：梅雨のあと，夏にかけての低温で発生する冷害。稲が冷害をうけやすい時期は，出穂期の22

～24日前，12～14日前である。不稔籾(ふねんもみ)発生の多いのが，この型の特徴である。③混合型冷害：梅雨から初秋にかけての低温障害で，①と②の混合型である。冷害の対策は，耐冷性・耐いもち病性の高い品種の作付け，早播(ま)き，早植えが行なわれる。〔金木良三〕

れいかんかこう　【冷間加工】　金属または合金に，その再結晶温度以下で塑性変形を与えるような加工。冷間加工を行なうと機械的性質が変化し，特に硬度，引っ張り強度が増加し，延展性は減少する。また電気抵抗・磁性・比熱などの物理的性質もわずかに変化する。結晶粒や非金属介在物も変形方向に伸び，組織変化も起こる。

れいぎさほう　【礼儀作法】　対人的な言語動作の面で，守るべき生活上のきまりや礼法の総称。外国ではエチケット・マナーに相当する。わが国では儒教の礼法が，フランスでは中世の宮廷礼式が基礎になったとされるが，時代・階層により内容は異なる。

れいきじょうたい　【励起状態】　原子・分子などがとりうるエネルギー値の異なるいろいろな状態のうち，最もエネルギー値の低い定常状態(基底状態)を除いた，よりエネルギー値の高い状態。量子論によれば，原子・分子などはとびとびのエネルギー値をもつ状態にしか存在しえず，通常は基底状態にあるが，外部から粒子を衝突させたり，光をあてて吸収させたりすると励起状態に遷移する。これを励起という。また励起状態のまま放っておくとより低いエネルギー状態に移るが，この際両状態の差に相当するエネルギーを電磁波として放出する。

レイキャビク　［Reykjavik］　アイスランドの首都。人口81,000(1969)。同島南西岸にある港市で，漁業が主要産業であり，水産加工が行なわれる。アイスランドの人口の3分の1以上がここに住む。北緯64°にあるにもかかわらず，メキシコ湾流のために1月でも－1℃くらいで，比較的暖かい。近くに温泉があり，これを利用して暖房・給湯が行なわれている。彫刻美術館・国立劇場・国立博物館などが有名。1911年創立の大学がある。〔梶川勇作〕

れいけつどうぶつ　【冷血動物】　外界の温度によって体温が変化する動物のことで，変温動物ともいう。無脊椎(むせきつい)動物はすべてこの性質をもち，脊椎動物でも，魚類・両生類・爬虫(はちゅう)類がこれに含まれる。冷血動物に対応するのが温血動物(恒温動物)で，これは哺乳(ほにゅう)類のように外界の温度に関係なく一定の体温を保つしくみをもっている。冷血動物といっても，中には外界温度の変化にしたがって物質代謝の速度を調節することができる魚類・こん虫・甲殻(こうかく)類なども おり，少しは体温が調整できる。冷血動物は外界温度がある程度以上低くなると体温も低下して物質代謝は衰えるので，運動・摂食もできなくなり，休眠をする。➔冬眠〔蒲原春一〕

れいげんこう　【黎元洪】　(1864～1928)　中国，民国初期の軍人政治家。湖北省の出身。字(あざな)は宋卿(そうけい)。張之洞(ちょうしどう)の下で新軍建設に従事し，湖北新軍第21混成旅団長となった。1911年の武昌蜂起(ぶしょうほうき)の際，湖北軍政府都督にかつがれ，南京(ナンキン)臨時政府の副総統にも選ばれた。以後，北京(ペキン)政府でも副総統の地位にあり，袁世凱(えんせいがい)の死後，大総統となった。張勲復辟(ふくへき)事件で一度辞職し，1922年の第1次奉直戦争後再び大総統となったが，翌年には引退した。著書に《黎副総統政書》などがある。〔狭間直樹〕

れいげんてんのう　【霊元天皇】　(1654～1732)　後水尾(ごみずのお)天皇の皇子。生母は新広義門院藤原国子。名は識仁(さとひと)。後光明天皇の猶子となり，1663年(寛文3)後西天皇より譲位された。在位24年にして1687年(貞享4)東山天皇に譲位。1713年(正徳3)出家して素浄と称した。著作に《修学院御幸宸記(ごこうしんき)》がある。陵墓は京都市東山区にある月輪陵。

れいごえ　【礼肥】　果樹などの永年生作物におけるある時期の窒素施用を示す俗称。秋期などに果実収穫後に施すものをさす場合が多い。果樹において秋期の窒素供給は果実の品質を害することなく，貯蔵炭水化物量を増し，翌年の開花・受精・新梢発育に好影響をもたらすと同時に隔年結果の防止にも役だつ。

れいこん　【霊魂】　人間の肉体に対して，精神の本体・生命力などをさす。未開人は霊魂に関してさまざまな観念をもっており，人間のみでなく，種々の事物や動物・植物，自然現象などにも存すると考えた。万物に霊魂が宿るとする観念をアニミズム*とよび，人類学者タイラーは，アニミズムが宗教に発展したと考えた。アニミズム的世界観は農耕民族に多くみられる。狩猟民は，人間と動物の間に相違を認めず，相互の移行，死後の動物への転生，神が動物の形をとっているという〈獣の主〉の観念などを信じる。これをアニマリズムとよぶ。木石・髪やつめなどの物質に霊魂が宿るとするフェチシズム，非人格的な力の観念であるマニズム，特定の1個の動植物などを崇拝するトーテミズムも霊魂崇拝の例である。死霊の観念は，ほとんどすべての民族にみられ，特に農耕民の間では，祖先崇拝の形で発達している。〔神谷美保子〕

日本語ではタマといわれるが，これは霊魂を丸石状のものと考えたための名であり，人間や動物の心臓の形をあてはめたものかもしれない。歴史的仮名づかいで〈タマシヒ〉というのは，タマの働きを示す。モノという場合もあるが，これは霊魂の名を直接によぶことを避けた忌詞(いみことば)の転じた語である。日本では今日なお，原始信仰以来の霊魂観が残存し，またきわめて広く生活文化の中に浸透している。霊魂信仰の考え方では，霊魂は不滅の存在であり，霊魂だけが尊い。霊魂はしばしば人や物に乗り移り，自由に出入りすることができると考えられた。たとえば，赤子が生まれると，肉の塊(かたまり)に霊魂を注入する生児儀礼があり，あくびをしても道で転んでも霊の脱出することがあると考えられた。死の前後には，肉体を離れていく霊を呼びもどして，よみがえらせようとする魂呼びの儀礼がある。近世には，霊魂は一般に青白い玉となって尾を引いて空中を飛ぶと信じられた。〔井之口章次〕

古代ギリシアではプシュケー*とよばれて，本来は〈気息〉の意味であるが，のちにはさまざまな意味に用いられている。すでにホメロスにおいて，プシュケーは，人が死んだとき，生前と同じ姿の影となってあの世へ行き生気のない暮らしをするものと語られ，いわば幽霊のような魂を意味した。イオニアの自然哲学者たちはプシュケーを生命の根源・原理とし，空気のようなものと考えた。しかし，プシュケーについて独自な意味づけをしているのはオルフェウス教(➔オルフィズム)とその影響を受けたピタゴラス派である。彼らによれば，プシュケーは本来，肉体とはまったく無縁な永遠不滅の神的存在であると考えられた。感覚や肉体の世界は魂にとっては仮の棲家(すみか)，一時的な世界であり，人間の肉体も魂にとっては〈墓場〉〈牢獄(ろうごく)〉なのであって，肉体の死によってはじめてその牢獄から解放され，純粋な魂だけになることができると説く。そしてその肉体から離れて魂だけになるための方法としてカタルシス*(浄化)が説かれた。〈魂の世話〉を説いたソクラテスも魂の不滅を信じ，魂が純粋に魂だけの世界にかえるための方法として，真の知を求める愛知(哲学)を勧めた。プラトンはさらにこの考えを発展させるとともに，魂を欲望・意志・理性の3部分に分け(魂の三部分説)，中でも最高の働きは理性にあると説いている。➔次項〔本橋正義〕

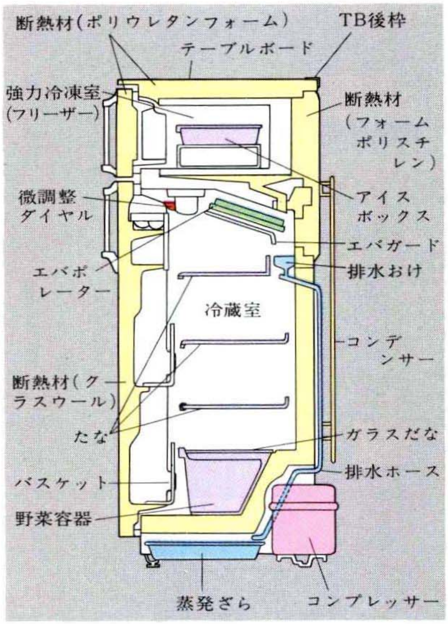
れいこんふめつせつ　【霊魂不滅説】　人間はほとんどだれもがなんらかのかたちでいつまでも生きたい(不死・不滅)と願う気持ちをもっている。しかし肉体が滅びることは現実に経験しているから，この肉体が滅んでもなおのちに存続するものを求める。原始人にあっても，すでに夢で遠くの人や死んだ人に出会う経験から，魂が肉体を離れて存在しうることを知っていた。この魂は死後も地下などに存続すると考えられた。また家族たちの似ていることから孫は祖父母の生まれ変わりと考えたり，人間と動物の性格の類似からその間にも生まれ変わりがあると考えた。こうした想念は古代のエジプト人やインド人やギリシア人に受け継がれ，霊魂輪廻(りんね)の信仰となった。ギリシ

アではオルフェウス教(→オルフィズム)やピタゴラス派に顕著であった。これを受けてプラトンは師ソクラテスの死を機縁として特に魂の不死の論証を試みた(《パイドン》)。これが哲学的理論的見地からの最初の霊魂不滅説となった。彼はいろいろの観点から証明を行なおうとした。万物は反対から反対へ生成するとする反対生成論や人間の魂は前世ですでにイデアをみているとする想起説，また合成的で可視的で可変的で個別的な物体と異なり，イデアは単一的・不可視的・自己同一的・一般的で永遠不変の実在であるというイデア説をふまえて，魂は物体よりもイデアに似ていること，さらにイデアどうしでは相反するものを受け入れないように，魂も生命であるかぎり反対の死を受け入れない，つまり不死であると証明した。これはイデアの存在，つまり真理を求めて道徳的に生きることを認めるとすれば魂の不死も必然だというわけである。ここで魂の不死は単に個人的な不死を越えている。こうした魂はプラトンでは肉体と関係して感覚や意欲的な働きをする部分でなく，不変的一般的な実在を思考し思惟(しい)する理性的なものをさしている。肉体に関係する魂はなお輪廻の世界で生き続ける，いわば長生きはするが，さらに浄化されて輪廻(生成の輪)から真に脱却したとき，魂は不死つまり神的になり，神々と永生の境地にはいるのである。霊魂の不死にもこの2段階のあることが注目される。道徳的にも哲学的にも宗教的にも第2のいわば解脱の段階が望まれているわけである。

このプラトンの説はアリストテレスをはじめ，その後の哲学者や宗教家になんらかの形で影響を与えている。とりわけ近世ヨーロッパでこのプラトン説に呼応するのがカントの説である。彼は純粋理性の立場から霊魂の不滅は証明できないが，道徳法則を守り意志の神聖さに向かって無限に前進しようとすれば，その実践的必要条件として要求される，つまり霊魂不滅説は神の存在とともに実践理性の要請だという。これはレッシングらの人類の進歩と完成をめざす啓蒙(けいもう)思想を徹底させたものといえる。

なお，キリスト教でも霊魂不滅説が説かれているが，復活の思想からとらえられている。カトリック教会では霊肉二元論を保ったまま，肉の復活，神の裁きによる霊の不死が説かれるが，ルターなどのプロテスタントでは人格一元の立場に立って，肉の意志が神の意志へと参与せしめられる復活の中でまったく新たな不死が強調されている。➔前項　〔村治能就〕

れいし　【茘枝】　双子葉植物・ムクロジ科。ライチーともいう。熱帯で古くから栽培されている中国南部原産の常緑小高木で，高さ5～10mになる。葉は披針(ひしん)形の小葉4～6枚からなる複葉で，光沢があって厚く，裏は灰色である。雌雄異株で，直径約



冷蔵庫

3mmの黄色花を枝先や葉腋(ようえき)に円錐(えんすい)花序につける。果実は径3cmの球形ないし倒卵形で，内部に1個の種子があり，表面はうろこ状の突起におおわれて，鮮赤色に熟す。果実は芳香があり，生食するほか，乾燥させて保存食とする。

れいしがい　【茘枝貝】　軟体動物・腹足類・アクキガイ科。イボニシに近縁の巻き貝で，殻高(かくこう)6cm，殻径4cmに達するが，通常は殻高4cmほど。殻(から)は厚く堅固で，紡錘形。螺層(らそう)は6階。体層は大きい。各層に2本，体層に4本の瘤列(りゅうれつ)の螺肋(らろく)がある。殻表は淡黄色で，黒かっ色斑(はん)がある。殻口は卵形で橙色(とうしょく)，外唇(がいしん)は肋に応じて湾曲する。蓋(ふた)は革質で，核は外縁にある。本州から台湾の潮間帯の岩礁にすみ，夏に多数集まって産卵する。卵嚢(らんのう)は棍棒(こんぼう)状で，多くの黄色の卵を入れる。肉食性で，養殖のカキなどに孔をあけて食害する。　〔波部忠重〕

れいしょ　【隷書】　⇨書体

れいしょう　【冷床】　⇨苗床

れいじょうしゅぎ　【令状主義】　逮捕・拘留・捜索・差し押えなどの強制処分を行なうにあたって令状を必要とする方式(憲法32・35条)。現行刑事訴訟法は，強制処分が人の身体や意思の自由などに制限を加えるものである点から，強制処分をすべきかどうかを裁判所に判断させる。その判断の結果が令状で，この令状がなければ強制処分はできないこととして基本的人権を擁護している。したがって基本的人権を侵害するおそれのない現行犯の逮捕・押収などは例外とされている。　〔井上公耳〕

れいじんそう　【伶人草】　双子葉植物・キンポウゲ科。山林に自生する多年草。茎は高さ40～70cmで，下部は少し角張り，上部には短毛が密生する。葉はトリカブトに似て5～7中裂し，互生する。8～10月，茎頂に淡紫色で長さ2～2.5cmのトリカブトの花を小さくしたような花を総状花序につける。

れいすいかい　【冷水塊】　わが国の南方を流れる黒潮は，その流路が南岸を離れて大きく迂回蛇行(うかいだこう)することがあるが，そのとき，流路の内側にできる水温の低い水塊。出現した場所によって固有の名まえがつけられている。冷水塊の水温は，周囲に比べて表面で5℃も低いことがある。その大きさは半径が190kmに達することがあり，また，その寿命も短期間で消滅するものから，10年にも及ぶものがある。冷水塊の発生機構については種々の説があり，まだ確定的ではない。黒潮下にはいった親潮潜流が南下し，湧昇(ゆうしょう)して生じたとするもの，伊豆(いず)諸島や日本南岸の海岸線や海底地形の影響によるとするもの，強い気象擾乱(じょうらん)による海流変化とするものなどがあげられる。　〔相原正彦〕

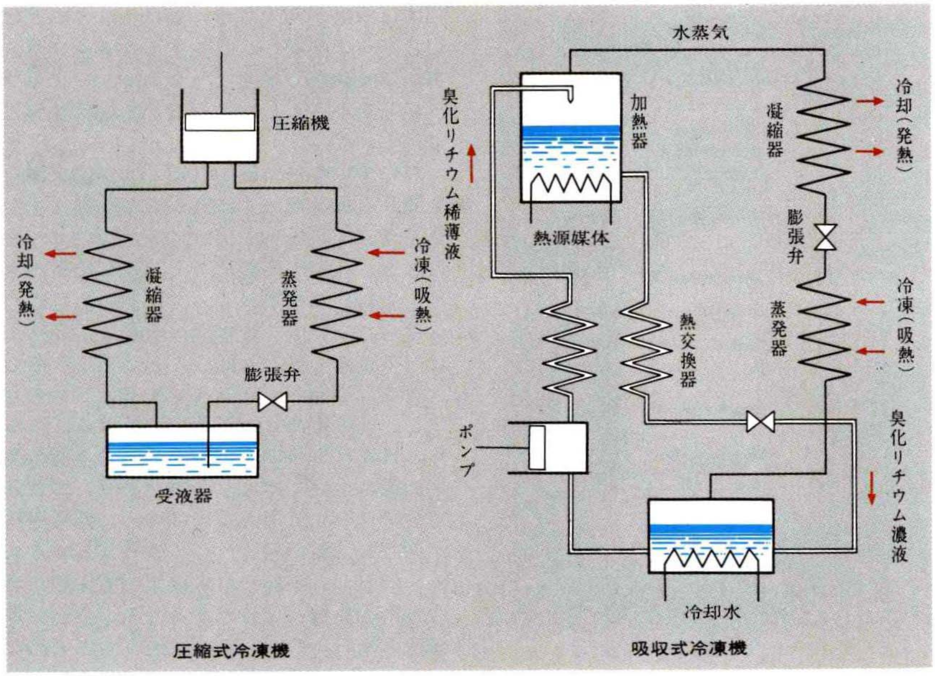
れいすう　【霊枢】　中国古代の鍼灸(しんきゅう)治療書。九巻・鍼経・九霊経ともよばれるが，黄帝内経霊枢の名が最も一般的である。しかし本書も〈素問〉と同様に内経とは別本と考えられる。9巻81編からなり，後漢中期ごろ(100年代)の作と推察される。鍼灸治療の原理である経絡説と，実際の鍼(はり)の運用法が詳述されている。中国本土では本書が一時亡失し，現存するものの底本は，879年に高麗(こうらい)から伝来されたものとされている。　〔丸山昌朗〕

れいぜいためちか　【冷泉為恭】　⇨岡田為恭

れいぜいてんのう　【冷泉天皇】　(950～1011)　在位967～969年。諱(いみな)は憲平(のりひら)。父は村上天皇の皇子。母は皇后藤原安子。在位中の969年(安和2)安和(あんな)の変が起こったが，これは即位のはじめに18年間中断していた関白を復活したことあいまって，摂関政治の開幕を告げるものとなった。陵墓は京都市左京区の桜本陵。

れいぜいは　【冷泉派】　冷泉為相(ためすけ)にはじまる冷泉家の歌人とその門弟たちからなり，中世後期に栄えた歌道の流派。二条為世(ためよ)と京極為兼が抗争している間は親京極派であったが，京極家が絶えたあと歌壇に大きな勢力を占める。為相のころから鎌倉に勢力を広げたこともこの派の命脈を長くした一因である。為世・冷泉為尹(ためただ)と続く嫡流のほか，了俊や正徹・心敬らの門弟が出て，この派の精神は歌のみでなく連歌にまで流れた。　〔佐藤恒雄〕

れいぞうこ　【冷蔵庫】　食品を低温に保つことによって食品中の酵素や微生物の繁殖をおさえ，長期にわたって食品の品質を保持し，腐敗を防止するための装置。氷冷蔵庫・電気冷蔵庫・ガス冷蔵庫などの種類がある。氷冷蔵庫は，断熱材で囲まれた貯



冷凍機 原理図

蔵庫の中に氷を入れて冷やすものであるが，冷却力が弱く，取り扱いにも難点があるので，最近ではあまり使われていない。電気冷蔵庫・ガス冷蔵庫は，ともに冷媒*の液体が気化する際の気化熱を利用したものである。

電気冷蔵庫のおもな構成要素は次の三つである。①冷凍機：冷媒を電動式圧縮機で圧縮し，放熱器に導いて放熱して液化させたあと，蒸発器で気化させる。このとき気化熱が多量に奪われ，庫内が冷える。冷媒には一般にフレオンが使用されている。②貯蔵庫：食品を入れる箱で，低温の庫内を外気から遮断(しゃだん)するために，壁の中にガラスウールや硬質ポリウレタンフォームなどの断熱材を入れている。③制御器：庫内を適当な温度に保つための温度調節器と霜取り装置などがある。庫内温度はだいたい２～７℃程度である。庫内の蒸発器には，とびらの開閉で侵入した空気中の水分や，食品から蒸発した水分が霜となって付着するが，霜が多くなると冷却力が弱くなるので，霜取り装置で霜をとかすしくみになっている。また電気冷蔵庫には一温度式のものと，二温度式の冷凍冷蔵庫がある。一温度式は，一つの冷却器で製氷室と冷蔵室を同時に冷やす方式のものである。二温度式には，フリーザーと冷蔵室を分離して，それぞれ専用の冷却器をつけた２冷却方式と，庫内にファンを取り付けて冷風を循環させるファンクール方式とがある。フリーザーの温度はだいたい－15℃程度で，冷凍食品やアイスクリームなどの保存ができる。なお，電気冷蔵庫のすえつけは，直射日光のあたらない風通しのよい場所で，凝縮器の放熱が妨げられないように，壁から離すことがたいせつである。〔土屋松男〕

れいちょうるい【霊長類】 哺乳(ほにゅう)類・霊長目(Primates)。サル類のことで，学名のPrimatesとは，〈第一のもの〉という意味である。つまり，動物の中で最も高等なものということで，一般にもそのように思われているが，サル類のすべてが高等とはいえない。確かに，ヒトや類人猿(るいじんえん)は最も高等な動物であるが，ツパイなどはむしろ食虫目(モグラの仲間)に近いし，原猿類なども，哺乳類中むしろ下等な部類にはいろう。霊長類は，下等なものから高等なものまでの幅がたいへん広く，形・色・大きさなどがバラエティーに富んでいることが一つの特徴といってよい。

サル類の特徴は，一言でいえば目と手の動物だといえる。一般の哺乳類では眼窩(がんか)の一方が切れているが，サル類の眼窩はまるく，両眼は前方を向いているので視野が広く，立体視することができる。また，ふつう哺乳類は色盲であるが，サル類は色彩感覚に富んでおり，視力もよい。つめはネコのようなかぎづめではなく，ヒトと同様に平づめで，５本の指が長く，１本１本が自由に動き，親指と他の指は向かい合って物をつかむことができる。

霊長類の先祖は，7000万年前の暁新世のはじめに食虫類(モグラの仲間)から生まれた。それは現存のツパイのような姿をしていた。彼らは森林の樹上に生活の場を求め，適応放散していった。霊長類の諸特徴は，樹上生活に適応した結果である。霊長類の先祖は北アメリカに生まれたが，現在はアフリカ・アジア・ラテンアメリカの３大陸に分布し，ヨーロッパや北アメリカにはいない。

霊長類の分類はたいへんむずかしく，細かく分ける者は約600種というが，最近は200種余にまとめる者が多い。霊長目は原猿類と真猿類の二つの亜目に大きく分けられる。原猿類は下等なサルで，*原始的な性質を多く備え，ツパイ類・キツネザル類・ロリス類・メガネザル類の四つの下目よりなる。真猿類は，ラテンアメリカにすむ広鼻猿類と，旧大陸にすむ狭鼻猿類の２下目に分類される。広鼻猿類にはマーモセット・クモザル・オマキザルなどが，狭鼻猿類にはニホンザル・テングザル・類人猿・ヒトなどが含まれる。

人間の進化や生物的基礎を明らかにするために，最近霊長類の研究が非常に盛んになった。また，ヒトとサルの病気は共通のものが多く，サルの腎臓(じんぞう)からつくるポリオワクチンの例でもわかるように，医学の実験材料にサル類はなくてはならないものである。現在，年間40万～50万頭のサルが実験に使われているが，今後はますますその重要さを増すと思われる。〔河合雅雄〕

レイテ(島) ［Leyte］ フィリピン中東部，ビサヤ諸島の東部にある島。面積8,018km²。人口約118万。火山が多く，南北に山脈が走っている。土壌(どじょう)は肥沃(ひよく)で，ココナツ・アバカ・米・カポック・タバコ・カカオ・サトウキビ・コーヒー・トウモロコシを産する。1521年マゼランが来島してスペイン領となり，アメリカ-スペイン戦争後アメリカ合衆国領になった。第２次世界大戦中の1942年に日本軍が占領したが，1944年アメリカ合衆国軍が奪回してフィリピン進攻の足がかりとした。主都は北東岸のタクロバン。〔大崎　晃〕

れいとうき【冷凍機】 常温より低い温度のところから熱を奪うための機械的装置。おもな方式に，圧縮式・吸収式がある。圧縮式冷凍機の原理を図に示す。アンモニアなどの冷媒を圧縮機で高圧にし，これを凝縮器で水などを用いて冷却すると冷媒*は液体になる。このようにして受液器にはいった液体を膨張弁を通して圧力を下げると，温度が下がり，低温で液が蒸発する。この際，外部から熱を奪って冷凍を行なう。吸収式冷凍機は気体(蒸気)の溶液が低温では多量の気体をとかし，高温では気体が分離するという性質を利用したものである。溶液として臭化リチウム水溶液を用いる場合の例を図に示す。加熱器で分離された水蒸気は冷却されて水となり，これを非常に低い圧力のもとで蒸発させることにより低温で熱を奪う。蒸発した水蒸気は，低圧のままで臭化リチウム水溶液に吸収される。動力を用いる代わりに加熱でエネルギーを与えて冷凍する点に特徴がある。圧縮式冷凍機は冷媒としてフレオンまたはアンモニアを用い，家庭用冷蔵庫から大形冷蔵庫・製氷用・冷房用など広く用いられる。臭化リチ

ウム水溶液吸収式冷凍機は，最近冷房用に大分利用されるようになった。アンモニア水溶液の吸収式冷凍機は家庭用冷蔵庫に用いられる。〔小泉睦男〕

れいとうこ【冷凍庫】⇨フリーザー

れいとうしょくひん【冷凍食品】食品を凍結させることによって，微生物の繁殖と酵素作用をおさえた貯蔵食品。凍結温度は，低いほどよく，凍結時間は長時間をかけると大形の氷結晶を生じるので短いほどよく，ふつう凍結温度は−30℃以下，凍結時間は4時間以内である。凍結の終わったものは−18℃以下で貯蔵する。貯蔵期間は，食品の種類によって異なるが，短くて6か月，長ければ2年間はほとんど変質せずに保たれる。原料は野菜・果実・魚介類・鳥獣肉などのほか，シチュー・茶わん蒸し・フライ・パイなどの調理食品もある。

冷凍食品をおいしく食べる〈こつ〉は，できるだけ低温に貯蔵することと，じょうずに解凍することである。一般には常温で自然に解凍するのがよく，急いで水につけたりするのはよくない。魚介類は，冷蔵庫でもどし，豆類は解凍せずに袋のまま熱湯に入れる。フライなども凍結したままやや高温で手早く揚げるとよい。解凍すると微生物や酵素が急激に活動しはじめ，変敗しやすくなるので，できるだけ早く調理することがたいせつである。〔佐藤友太郎〕

レイノルズ［Joshua Reynolds］（1723～1792）イギリスの画家。バン-ダイクやイタリア絵画の影響を受ける。1768年新設のアカデミーの初代会長となり，指導的役割を果たし，1784年にはジョージ3世の宮廷画家となった。ゲーンズボロと並ぶ当代の代表的肖像画家として婦人や子どもの肖像を得意とした。主要作品は《悲劇のミューズに扮(ふん)したシドンズ夫人》などである。

レイノルズ［Osborne Reynolds］（1842～1912）イギリスの工学者・物理学者。アイルランドのベルファストの生まれ。ケンブリッジ大学に学んだ。マンチェスターのビクトリア大学（現在のオーエンズ大学）教授をつとめ，1877年王立協会会員。流体力学の研究で知られ，乱流の限界を与える〈レイノルズ数〉および流体運動の相似を示す〈レイノルズの相似法則〉を見いだし（1879），近代流体力学の基礎を築いた。

レイノルズすう【レイノルズ数】幾何学的に相似で大きさの違う2物体がそれぞれ異なる粘性流体中を運動するとき，二つの流れのようすが力学的に相似であることを決める数値。物体の代表的長さをD，流速をV，流体の動粘性係数をνとするとき，レイノルズ数はVD/νで与えられる。二つの流れについて，この無次元数が等しいときは，流れは力学的に相似となる。これをレイノルズの相似法則という。レイノルズ数は粘性流体の運動方程式に含まれる慣性項と粘性項の大きさの比として与えられ，この比が等しいとき運動は力学的に相似となる。〔内田茂男〕

れいばい【霊媒】霊魂の世界と現世との媒介をなし，霊のことばを伝えたり，霊力による病気の治療など種々の心霊現象を起こすと信じられている特殊能力者。古代の予言者・巫子(みこ)，未開社会の祈禱師(きとうし)，シャーマン，わが国の市子*・神人(よりまし)などこれにあたる。通常トランスという特殊な意識状態にはいり心霊現象を起こす。霊媒の能力については，前世紀末より研究されているが真実性には疑問の点が多い。ESP*テストで能力を示した霊媒はきわめて少ない。➔心霊現象〔大谷宗司〕

れいばい【冷媒】冷凍機*に用いられる動作流体のこと。常温常圧下では気体であるが，常温のままで圧縮すると液体になるような物質が適している。普通に用いられるものはアンモニアフロンガス（フレオンはその一種）である。アンモニアは製氷などに適しているが，もれた場合に臭気が強く爆発の危険がある。フロンガスは炭化水素の水素をハロゲン（特にフッ素）で置換したもので，蒸気圧の高いものから低いものまで各種のものがある。毒性がなく爆発の危険も少ない。〔小泉睦男〕

れいふく【礼服】冠婚葬祭などの改まった席で着る衣服。洋服ではフォーマルウエアにあたる。特別な儀式や婚礼・葬儀などに着る式服としての正礼装と，略礼装や半礼装などがある。身分・階層・職種・年齢・性別によって差異があるが，各時代を通じて概して重要な意義のものほど華麗・複雑で，意義の軽くなるにしたがって簡素になり，また近年はしだいに簡略化される傾向にあるが，他方伝統を守るという一面もあるのが礼服の特徴である。

【和服】朝廷を中心とする公式の儀礼服に大礼服・通常礼服があり，民間には冠婚葬祭その他の儀式に着る礼服がある。歴史的に見ると，飛鳥(あすか)・奈良時代に隋(ずい)・唐風を取り入れて礼服が制定され，大礼服に相当する上級公家(くげ)のものが礼服*(らいふく)であった。古代後期には，前代の公家の出仕服であった朝服*が国風化されて束帯*となり，女房装束は唐衣*(からぎぬ)・裳*(も)・五つ衣で，これらが通常礼装化して江戸末期まで続いた。また中世になると，古代から下級官吏の野外服であった狩衣*(かりぎぬ)が公家・武家の式服になり，武家の日常服であった直垂*(ひたたれ)・素襖*(すおう)の類が武家の礼服となった。近世には裃*(かみしも)が礼服化して江戸末期まで続き，女性は小袖(こそで)・打掛*(うちかけ)姿（夏は腰巻*）が礼服となった。明治以後は宮中を中心に洋服の礼装も制定され，今日では伝統的な礼装と洋装とが使い分けられている。現代では婚礼衣装・喪服*，その他各種の公式の祝賀会などに，それぞれ不文律に定められたものがある。明治・大正から今日にかけての大きな変化は，男子は吉凶ともに黒五つ紋付きの羽織に袴(はかま)と定まっているのに対し，女子は喪服は黒一色を主とし，吉事には黒留袖(くろとめそで)（➔留袖），次いで訪問着*，付け下げ*・小紋を礼服とし，くだけた場所には縞(しま)・格子(こうし)や第2次世界大戦以前には礼装にならないとされた絣(かすり)の長着も着るようになったことである。なお一般に女性の礼服は，吉凶の感情を柄よりも色を主体として表わしている。〔堀越すみ〕

【洋服】男女ともに，素材は絹・ウールなどの高級品が使われ，デザインはいちおう形式が規定されているが，婦人服はその形式を破らない程度の自由なデザインが行なわれている。色彩は，一般には赤・黄・白などの明色を吉事用に，黒・紺などの暗色を凶事用に使う。和服と異なり，時間によって着分ける。夜間の正礼装としては，男子は燕尾服*(えんびふく)，婦人服はイブニングドレス*，略礼装は男子はタキシード*程度，女子はディナードレス（セミイブニングドレス）かカクテルドレス*である。昼間の正礼装は，男子はモーニングコート，女子はアフタヌーンドレス*（アフタヌーンスーツ），略礼装は男子は一般にブラックスーツとして黒または濃色の背広でよく，女子はアフタヌーンドレスであるが，現今はタウンウエア（街着）を兼用する場合もある。形状については，17～18世紀フランスのルイ王朝時代における宮廷貴族の服装が，現在へと引き継がれている。➔婚礼衣装〔小池千枝〕

れいぼ【鈴慕】尺八の本曲レパートリーの中でも三虚霊に次いで重要視される一連の曲。唐時代の中国の僧普化(ふけ)禅師（普化尺八の始祖）が鐸(たく)を振って伝道したときの鈴の音を慕う意から，一般に故人や遠くにいる人を慕う曲の総称とされている。《奥州鈴慕*》《九州鈴慕*》《葦草(いぐさ)鈴慕*》などがある。

れいぼう【冷房】室内気温が外気温以下になるように，人工的に室内気温を下げる方法。空気調和の一種で，おもに夏に用いられることから夏季空気調和ともいう。

住宅などにおいてはウインドークーラー（窓掛け形冷房機）を用いることが多い。これは図のように，冷凍機を用いて室内空気を冷やすものである。圧縮機から出た高温の冷媒*を空冷コンデンサーに通して，外気により冷却し，冷媒はここで液化する。この液化した冷媒は，空気冷却コイルにはいって10℃以下の低温で蒸発し，このときの蒸発熱により，この外部を通る室内空気を冷却する。室内空気は吹き出し口で20℃以下の冷風になり，このため室内気温は夏でも25℃前後になる。このように冷房室内に冷房機を備える方法を個別式冷房といい，これに対し1か所の機械室内に冷房の機械を設けて，多くの室を同時に冷房する方法

を中央式冷房とよぶ。中央式冷房は事務所建築などの大規模建築に多く用いられ，暖房と併用して年間空気調和を行なう。また，紡績工場などでは，冷凍機を用いることなく15℃前後の地下水を用いて冷房することが多いが，これを井水冷房とよぶ。〔井上宇市〕

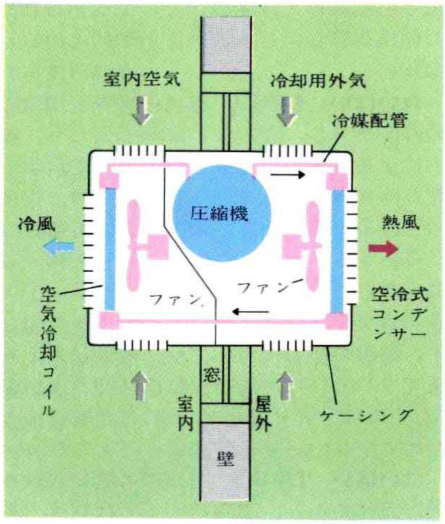
レイボウィッツ ［René Leibowitz］（1913～　）ポーランド生まれの音楽理論家・作曲家。13歳のときフランスに渡り，以後パリに居を定めてヨーロッパ各国で活躍した。1931年から3年間ウィーンに住み，その間ウェーベルン*に作曲を師事し，本格的に音楽家の道を選ぶことを決定した。1934年パリにもどると，ラベル*に管弦楽法，モントゥー*に指揮を学んだ。作曲家・指揮者としての幅広い活動の基礎はこの時期につくられたが，彼の名を決定的にしたのは，1939年から1945年にかけて執筆した著書《シェーンベルクとその楽派》であった。以後多くの著書を通して12音技法を紹介し，第2次世界大戦後の新しい音楽様式の理論的支柱となった。〔船山　隆〕

れいほく 【苓北(町)】 熊本県天草郡の町で，天草下島北部を占める。人口11,000。1955年(昭和30)富岡町を中心に2村が合併して発足。地名は苓州(天草のこと)北部の意。富岡港は石炭・陶石を積み出し，長崎と定期船で結ばれる。キリシタン関係の史跡が多い。

れいめいかい 【黎明会】 1918年(大正7)12月吉野(よしの)作造*と経済学者福田徳三(1874～1930)の主唱によって結成された思想団体。主として学者を会員とし，反動思想に対し学問的・合理的言論をもって対決することをめざした。講演会活動や雑誌《黎明運動》の刊行などを行ない大正デモクラシー*の一環をなしたが，社会主義思想の進出と会員間の思想上の不一致のため1920年解散した。

レイモント ［Wladyslaw Stanislaw Reymont］（1867～1925） ポーランドの作家。本名レイメント。仕立屋の徒弟，旅役者，鉄道員など種々の職業を転々としたのち，作家として大成した。自然主義的な作風だが，当時の〈若いポーランド〉とよばれたネオ-ロマン主義の影響を受け，象徴主義的手法を交えた叙情的な文体を特徴とする。方言を駆使し中部ポーランドの一農村を活写した，秋冬春夏の4部に分かれる長編小説《農民》(1902～1909)が代表作で，これにより1924年度ノーベル文学賞を受賞。〔米川和夫〕

れいゆうかい 【霊友会】 新興宗教の一。1925年(大正14)，久保角太郎(1890～1944)と義姉小谷キミ(1900～1971)とによって開かれた。関東大震災(1923)後まもなく法華経(ほけきょう)行者の祈禱(きとう)による病気なおしで発足，1934年(昭和9)ごろから信者が増加しはじめ，1943年ごろには戦争による



冷　房

疎開者たちを通して全国的な広がりをみせ，第2次世界大戦後急速に発展した。教祖の《法華経》に基づく行者的性格が強いだけに多くの教団に分裂した。1935年ごろから分裂の機運が生じ，数年間に孝道教団*・妙道会・思親会・立正佼成会*(こうせいかい)とが独立した。戦後は，角太郎の病死のあとを継いだキミの強引な病気治療・商売繁盛を説く〈お導き〉で教勢を伸ばした反面，1949年の脱税・金塊隠匿・麻薬事件，1953年のリンチ，赤い羽根募金横領，ヤミドル事件など2度にわたる不祥事件を契機に，博愛同志会・妙智会・仏所護念会・法師会などの11教団が分派独立している。教義は〈法華経の大義を遵奉し，その奥義とするところの先祖供養を行践し，もって思想善導，社会教化をなす〉ことに目的をおく。本尊は《法華経》による曼荼羅(まんだら)で，〈法座〉とよぶ小集団サークル形式の身上相談・信仰指導を通して，悪い因縁を断ち切り，先祖を正しく祭れと，祖先供養こそが解脱の道と説く。1971年，会長を久保継成(つぐなり)が継いだ。公称信者459万。〔藤井正雄〕

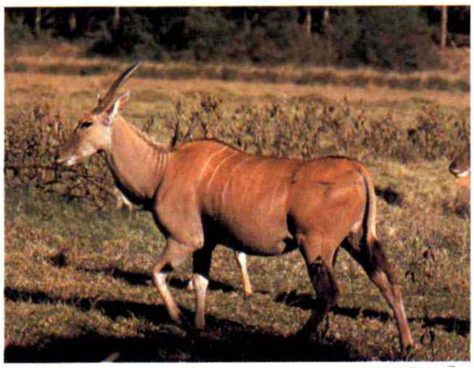
れいよう 【羚羊】 哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ウシ科。系統的に一つのものではないため，一つの分類群にはまとめられず，ブッシュバック・ハーテビースト・オリックス・リードバック・インパラ・ガゼル・ダイカー・ローヤルアンチロープの各亜科に分けられ，それらに属するものの総称として用いられる。多くは草原・砂漠(さばく)，ときには森林にすみ，体つきは走行に適して胴と足が細く，頸(くび)が長い。蹄(ひづめ)は小さく，体毛は短く，多くは美しい毛色をしている。角は雌雄ともにあるものと，雄にだけあるものとあり，その形状はさまざまである。また，目の下に臭い液を出す穴(眼下腺(がんかせん))があるものとないものとがあり，乳頭の数も種々である。インドとアジア中央部に分布する種類はわずかで，大多数はアフリカに分布し，アフリカに特産するかの感があるが，100万年以上前にはヨーロッパやアジアに広く分布していたことが知られている。アンチロープ(アンテロープ)ともいわれる。

ニアラ・シタツンガ・クーズー・イランド・ボンゴ・ニルガイなどブッシュバック類は中～大形で，アフリカ・アジアの砂漠や木のない草原にはほとんどすまず，木の多い所を好む。小形で雄に角が4本あるヨツヅノレイヨウもこの類に入れられることが多い。ダマリスクス・ボンテボック・ヌーなどのハーテビースト類は大形で，眼下腺があり，角は雌雄ともにあり，アフリカに分布する。ゲムズボック・アダックス・ローンアンテロープなどのオリックス類は大形で，眼下腺がなく，雄・雌にある角はサーベル状で長く，アフリカに分布する。リーボック・シンシン・リーチュエ・コーブ・プークーなどのリードバック類は中～大形で，眼下腺をもち，雌には角がなく，アフリカに分布する。インパラ類はインパラ1種で，肩高85～100cmと中形である。ブラックバック・スプリングボック・ディバタグ・ジェレヌクなどのガゼル類は種類が多く，体は小～大形で，角は雌にはないかあっても小さく，アフリカ・アジアに分布する。ダイカー類は体は小～大形で，比較的多くの種類があり，角は耳の長さよりも短く，雌もほとんど角をもち，アフリカに分布する。ジャコウアンテロープ・ディクディク・クリップスプリンガー・ベイラ・スタインボック・オリビなどのローヤルアンテロープ類は多くは小形で，角はふつう雌にはなく，アフリカに分布する。〔今泉吉典〕

レインジャー ［ranger］ アメリカ陸軍の特種任務をもった遊撃部隊で，正規軍に属する。ゲリラ戦法により敵を奇襲するため，綱渡り・岩のぼり・偵察(ていさつ)・破壊・襲撃など特別の技術訓練を行なう。特に不眠・飢餓・疲労に耐える体力・気力の養成に努める。陸上自衛隊でも編成している。

レインジャーけいかく 【レインジャー計画】 月に自然落下(硬着陸)する探査体を用いて，月面の近接写真を写すことを目的としたアメリカの計画。レインジャーは探査体の名称。計画は1958年に開始され，1号と2号は1961年試験飛行のため打ち上げられて，地球の衛星軌道に乗り，翌年から本格的な飛行が開始された。レインジャーは基部の六角のわくに立つ骨組みに観測器を取りつけたもので，多くの制御ロケットをもつ。両側には翼状の太陽板が開くようになっており〈月の蝶(ちょう)〉と愛称された。自動あるいは地上からの指令によって太陽板を太陽に向けるなど複雑な動作をする。長さ2.5m，重さ327.15kgの3号は1962年1月打ち上げられたが，初速が大きすぎ月から36.6kmのところを通過，アンテナ

レイヨウ


イランド(ブッシュバック亜科)


シンシン(リードバック亜科)


コンゴニハービーテースト(ハービーテースト亜科)


トピ(ハービーテースト亜科)


インパラ(インパラ亜科)


ベイサオリックス(オリックス亜科)


トムソンガゼル(ガゼル亜科)


グラントガゼルの雌(ガゼル亜科)

の故障で写真撮影にも失敗した。その後4～6号でもいろいろな理由から写真撮影には失敗，7号から最後の9号で成功した。撮影は24km内外の高さから開始され，衝突直前までに数千枚が電送され，地上から最大の望遠鏡で写したものより1,000倍も精密な写真が得られた。〔原田三夫〕

レーウィン [rawin] radio wind findingの略。電波を利しての高層風の観測，および測定法・測定機械。気球につけた小形発信機から発信する電波の方向を方向探知機で追跡し，方位角と高度角を測定し，高さを発信機内蔵の気圧計から求める。専用の発信機を使用したものと，ラジオゾンデを共用したものとがある。悪天候のときでも利用できる利点がある。

レーウェンフック [Antony van Leeuwenhoek] (1632～1723) オランダの顕微鏡生物学者。デルフトに生まれる。学校教育は受けていない。商業に従事する片手間に，自製の単式顕微鏡をつくり，多くの独創的観察を行なった。そのおもなものは，血球および血球の毛細血管内での運動，精子，原生動物，細菌，こん虫の複眼，筋肉の横紋，ノミの変態などで，彼はこれらのいずれについても，その最初の記載者もしくは最初期の記載者のひとりであった。〔中村禎里〕

レウキッポス [Leukippos] (BC480～?) 古代ギリシアの哲学者。ミレトスの生まれ。特に古代原子論の祖として知られる。エレアに行ってゼノンに学んだといわれ，エレア派*から多くの影響を受けている。〈真に有るもの(存在)〉についてのエレア派の所説にしたがいながら，〈有らぬもの(空虚・非存在)〉については，感覚的現実を肯定する立場に立って，空虚は物体的存在ではないが，なお存在するものであるとし，それによって多と運動も可能となると説いた。彼は，〈真に有るもの〉は不生不滅であるとともに，無数にあって運動すると考えた。さらに，その無数の有るものはそれ以上分割することのできない極微の物質であるとして〈アトモイ(原子)〉とよんだ。この原子についての考えをさらに大きく発展させ，原子論として確立したのがデモクリトス*である。〔本橋正義〕

レウクトラのたたかい [レウクトラの戦い] BC371年古代ギリシアのテーベ*の将軍エパメイノンダス*が，無敗のスパルタ軍を破った戦い。レウクトラはテーベ南方の平原。この勝利でギリシアの覇権(はけん)はスパルタからテーベに移ったが，ポリス間の対立は激しく，テーベの覇権も長く続

かなかった。

レオ　[Leo]　ローマ教皇。

①1世(？～461)　在位440～461年。〈大教皇〉とよばれる。フン族の王アッチラ*，バンダル国王ガイセリック*らのローマ侵入を防ぐ。またアリウス派・ペラギウス派・ネストリウス派を異端として排した。

②3世(？～816)　在位795～816年。教皇庁内部の紛争で重傷を負い，フランク国王カール1世*(大帝)のもとにのがれた。のちにローマにもどり，800年カールを西ローマ皇帝として戴冠した。

③10世(1475～1521)　在位1513～1521年。メディチ家*の出身で，ラファエロ*・ミケランジェロ*らを保護してルネサンスに一役買った。サン-ピエトロ大聖堂の改築資金を得るため贖宥状(しょくゆうじょう)(→免罪符)を発行してルター*の非難を受け，宗教改革を招いた。

④13世(1810～1903)　在位1878～1903年。プロイセンと和解して文化闘争*を終結させた。スコラ学の研究を奨励する一方，国家に関する回勅(1885)，労働問題に関する回勅(1891)など，新しい社会状況に適応した回勅を発した。

レオ(3世)　[Leo]　(675ごろ～741)　東ローマ皇帝。在位717～741年。ウマイア朝サラセン軍の侵入を退け，小アジアを奪回。726年には偶像破壊令を出して聖像崇拝論争を激化させた。これがのちのキリスト教会の東西分裂の原因ともなり，東ローマをして西ヨーロッパから分離させる基ともなった。

レオナルド-ダ-ビンチ　[Leonardo da Vinci]　(1452～1519)　イタリア-ルネサンスの中心的な画家・彫刻家・建築家・科学者。1466年にフィレンツェのベロッキョに弟子(でし)入りし，《受胎告知》などを師に協力して制作。1476年にベロッキョから離れて，自身の工房で《聖ジェローム》《ジネブラ-デ-ベンチ》などを描いた。1482年ミラノ侯ロドビコ-スフォルツァと契約してミラノに移住。この時期には《岩窟(がんくつ)の聖母》，サンタ-マリア-デル-グラツィエ聖堂の《最後の晩餐(ばんさん)》，スフォルツァ城のフレスコなど重要な作品を完成している。このころ，建築および科学に対する関心はますます深まり，解剖学・数学・物理学などの研究に没頭し，建築では多くのノートを残している。1499年にミラノを離れてフィレンツェにもどり，チェーザレ-ボルジアの庇護(ひご)を受けた。この間《聖母子と聖アンナ》，有名な《モナ-リザ》などを完成。1506年再びミラノにおもむいてフランス軍の技術顧問となり，1513年ローマに出てバチカンに仕事場をもつが，1517年ローマを去ってアンボワーズに行き，舞台装置や祭事の計画などに従事。その地で没した。レオナルドの人体のフォルムや動きの科学的な分析に基づく精確でダイナミックな構成，淡く輝く光と影の巧みな扱いは前時代の絵画と隔絶した新しい絵画を形成し，盛期ルネサンスを導いた。　〔吉田玲子〕



レオ10世　ラファエロ《レオ10世とふたりの枢機卿》1518ごろ　ピッティ画廊蔵



レオナルド-ダ-ビンチ　《聖アンナ》　ルーブル美術館蔵



レオポン

レオナルド-ピサーノ　[Leonardo di Pisano]　(1180ごろ～1250ごろ)　イタリアの数学者。本名フィボナッチ。ピサに商人の子として生まれた。商用で地中海沿岸を広く旅行し，この間見聞によりインドやアラビアの計算法がすぐれていることを知り，《算盤(そろばん)の書》(1202)を著わした。これはアラビア数学をはじめてヨーロッパに伝えた書物として著名である。

レオニダス　[Leonidas]　(？～BC480)　古代ギリシアのスパルタ王。第3回ペルシア戦争のとき，テルモピレーの戦い*でスパルタ軍300名と援軍700名を率い，クセルクセス指揮の数十倍のペルシア軍と戦い，3日間よくささえたがついに戦死し部下も全滅した。スパルタ武人の鑑(かがみ)とされる。

レオーノフ　[Leonid Maksimovich Leonov]　(1899～　)　ソ連の小説家。内戦時代赤軍に従軍し，1920年代にはいってから短編を発表。ドストエフスキーの影響を感じさせる中編《小人間の死》，長編《あなぐま》で文名を得た。ネップ時代の混乱をいきいきと描いた長編《泥棒(どろぼう)》から第2次世界大戦後の大河小説《ロシアの森》に至るまで，社会主義と個人のテーマをとりあげている。戯曲にも佳作が多い。

レオパルディ　[Giacomo Leopardi]　(1798～1837)　イタリアの詩人。少年時代から文学・言語学に天分を発揮，38歳で没するまで，病弱と経済的困窮の中で創作に励んだ。その詩は厭世(えんせい)的な色彩が濃く，イタリア-ロマン主義文学に特異な地位を占める。主要な作品は詩集《カンティ》に収録。ほかに《道徳的小品》《雑記帳》の散文，《書簡集》がある。

レオポルド(1世)　[Leopold]　(1640～1705)　神聖ローマ皇帝。在位1658～1705年。ハンガリーの反乱に介入したオスマン-トルコと戦い，1699年カルロウィッツ平和条約を結んでトルコのヨーロッパ進出を阻止した。またルイ14世の侵略に対抗してオランダ戦争*に介入し，さらにファルツ継承戦争(→アウグスブルク同盟戦争)やスペイン継承戦争*に参加するとともに，国内では重商主義政策を取り入れてハプスブルク家*の勢力伸張に努めた。　〔松　俊夫〕

レオポルドビル　⇨キンシャサ

レオポン　[leopon]　哺乳(ほにゅう)類・食肉目・ネコ科。ヒョウとライオンの一代雑種。ヒョウの雄とライオンの雌との交雑によって生じ，ヒョウleopardのleop—とライオンlionの—onとをつなげてleoponとしたものである。1959年(昭和34)に日本の甲子園阪神(はんしん)パークで，世界ではじめてつくり出された。

レオミュール　[René Antoine Ferchault de Réaumur]　(1683～1757)　フランスの物理学者・動物学者。ラロシェルの富裕な家に生まれ，はじめは法律を学び，のちに自然科学者になった。磁器の製法，鋼のスズめっき法などを考案した。また氷点と沸点との間を80等分した列氏(R)温度計(レオミュール寒暖計)を発明。列氏温度

目盛りによる摂氏(C)および華氏(F)との換算はR＝4／5C＝4／9(F－32)によって求められる。このほか動物学者として生物学上の研究も多く，真珠の生成の発見などがある。〔根本順吉〕

レオロジー［rheology］ 物質の変形と流動現象を扱う学問。流動学ともいう。コロイドのように固体や他の液体の粒子を分散してもっている液体は，変形の速さによって応力の現われ方が異なる。変形の速さが小さいときは，粒子がつながり合って一種の構造をつくり固体のような剪断(せんだん)弾塑性を示す。変形の速さが大きくなると，つながりが切れて純粋の粘性だけを示す。このように，粘性と弾性を同時にもっている物質(粘弾性体)を流動により変形させても，純粋な粘性流体のような剪断応力と変形速度の比例関係をもたない。このような流体を非ニュートン流体という。レオロジーとは，言い換えればその流動現象を扱う学問である。粘性と完全非弾性を含む非ニュートン流体の応力は，変形速度だけの関数として与えられる。x軸に平行に速度$u(y)$で流れている流体中の変形速度はdu/dyで表わされるが，これと剪断応力τの関係は，係数をςとすると，$\tau=\tau_0+\varsigma(du/dy)^n$の形に書ける。$n=1$，$\tau_0=0$のものが純粋粘性流体(ニュートン流体)である。$n<1$で$\tau_0=0$のものをダイラタント流体，$n>1$で$\tau_0=0$のものをシュード塑性流体，また$n=1$で$\tau_0>0$のものをビンガム塑性流体という。また非ニュートン流体である，粘性と弾性を含む普通の粘弾性体の応力は，マクスウェルの式$i=-\tau/t_r+G\gamma$を満たす。ここでτは剪断応力，iはその時間微分，t_rは作用が遅れて始まるまでの緩和時間，Gは剪断弾性係数つまり剛性率，γは剪断変形である。粘弾性体の応力は変形を受けはじめてから時間とともに変化し，履歴現象を示す。また，生体に含まれる細胞液・血液などの運動もレオロジーの研究対象となり，特に生体物質に対して生物レオロジーの部門がある。〔内田茂男〕

レオン［León］ メキシコ中部の都市。人口34万1,000(1969)。標高2,000mの高原に位置し，皮革工業が盛んで，くつ・馬具類の生産が多い。

レオンおうこく【レオン王国】 8世紀初めから国土回復運動を開始していたアストゥリアス王国が，10世紀初め都をレオンに移してレオン王国と改称した。ところがまもなくレオン王国から独立したカスチリア王国が強勢となり，11世紀前半これに統合された。のち一時独立を回復したが，1230年再びカスチリア王国に併合され，主導権を奪われてその一地方になった。

レオンカバロ［Ruggero Leoncavallo］(1858～1919) イタリアのオペラ作曲家。ナポリの生まれ。ナポリ音楽院に学ぶ。オペラ作家を志し，1878年最初のオペラ《チェタートン》の上演を企図したが失敗した。次いでワーグナーの影響のもとにルネサンス期の史実に基づいて書かれた《メディチ家》(3部作《たそがれ》の第1部)などを作曲。彼がオペラ作曲家として世に認められたのは，マスカーニの《カバレリア-ルスチカーナ》の成功に刺激されて書きあげられたベリズモ-オペラ《道化師(イ-パリアッチ)》においてである。この作品は，彼の代表作であると同時に，ゾラ・イプセンらのリアリズム演劇の影響を受けて19世紀後半のイタリア-オペラの一つの新しいスタイルとなったベリズモ-オペラの傑作となっている。
➔ベリズモ　〔寺田兼文〕

レオンチェフ［Wassily Leontief］(1905～　) ロシア生まれのアメリカの経済学者。レニングラードに生まれ，1921年から1925年までレニングラード大学に学び，1928年にベルリン大学から学位を得た。1929年に南京(ナンキン)の中国政府の経済顧問になったが，1931年にアメリカに渡り，ニューヨークの国家経済調査局の調査員となり，また，ハーバード大学の講師となった。1946年以来，同大学の経済学教授に就任した。主著は，《アメリカ経済の構造》(1941)，《経済分析における投入産出法》(1953)。レオンチェフの研究方法は投入産出分析または産業連関分析とよばれる。企業と家計を可及的多数の部門に区分し，それら諸部門間の収入・支出の相互関係を一連の方程式をもって解明し，その結果を統計的に調査して，投入産出表または産業連関表に作成する。この方法は，古くはケネーの経済表，マルクスの再生産表式，ワルラスの一般均衡理論の展開途上に位置するもので，現代の計量経済学の中心的地位を占めている。〔林　達〕

レーガー［Max Reger］(1873～1916) ドイツの作曲家。南ドイツのバイエルンに教師の子として生まれた。父親から音楽の手ほどきを受け，1890年有名な音楽理論家リーマンに師事した。以後5年間この師のもとで学び，バッハからベートーベンに至るドイツ音楽の厳格な作曲法を身につけた。そしてそれ以後，短い生涯(しょうがい)に，オルガン音楽・室内楽・オーケストラなど，非常に多数の作品を残している。代表作は《ヒラーの主題による変奏曲とフーガ》(1907)，《モーツァルトの主題による変奏曲とフーガ》(1914)など。〔船山　隆〕

レガート［legato］〈結びつける〉を意味するイタリア語の過去分詞で，音楽用語としては，次々に現われる音が，急激な音量の変化や，息継ぎなどなしに，なめらかに接続されながら歌われ，奏されることをさす。ポルタートのように1音1音が強調されても，またスタッカートのように切れても，レガートにはならない。

れき【鬲】 ⇨三足土器

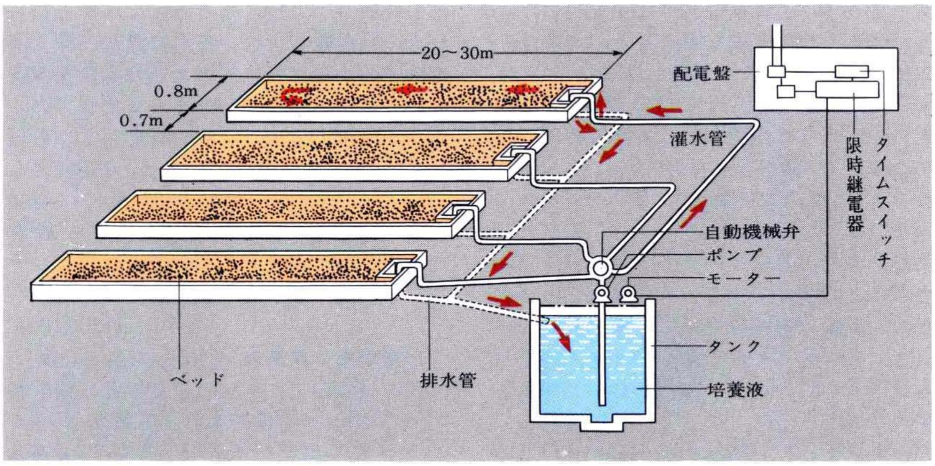
れき【礫】 径約2mm以上の大きさの岩石の砕屑(さいせつ)物。まるみのないかど張ったものは角礫とよび，それに対し川原や海岸の礫のように特に円摩されたものを円礫という。主として礫が集まってできている地層を礫層とよび，それが固結していればレキ岩という。粒径によって，細礫(2～4mm)・中礫(4～64mm)・大礫(64～256mm)・巨礫(256mm以上)に細分される。礫を利用する場合は砂利(じゃり)とよばれ，コンクリート用骨材として大量の需要がある。〔片山信夫〕

レギオモンタヌス［Regiomontanus］(1436～1476) ドイツの天文学者・数学者。ケーニヒスベルクの生まれ。本名ヨハン-ミュラーまたはヨハネス-デ-モンテ-レギオ。1462年イタリアにおもむきギリシアの古典を収集，帰国後1471年ニュルンベルクにドイツ最初の天文台を建て，当時出現したハレー彗星(すいせい)を観測した。ここで多くの書籍を出版したが，この中には航海者に必要な航海暦も含まれ，これは大航海時代を切り開く重要な要因となった。1475年ローマ法皇に招かれ暦法改革に従事。また，数学者としてドイツ代数学の研究を促進し，三角法に関する著書および正弦・正接の表はのちの天体観測などに広く用いられた。〔根本順吉〕

れきがん【礫岩】 少なくとも約10％以上の礫を含む堆積(たいせき)岩を一般にレキ岩とよんでいる。礫以外の部分は大部分が砂である。不整合面の直上には，薄いレキ岩層が存在することが多い。これを基底レキ岩という。昔の河道の堆積物もレンズ状のレキ岩となる。一方，氷河堆積物に由来するレキ岩は，巨礫からどろに至るまであらゆる粒度のものを含み，礫は亜角礫状で，氷河による擦痕(さっこん)がある。

れきこうさいばい【礫耕栽培】 作物栽培の培地に土壌(どじょう)を使わず，礫を使う栽培法。培地が土壌である土耕栽培，砂である砂耕栽培に対する語。礫はダイズ・アズキ大であり，これを水の漏らないベッドに入れ，礫がかわかぬよう，培養液を時おり流す。苗は礫をささえとして植えられる。ベッドはガラス室あるいはビニルハウスの中につくられるのが普通である。根からの有害酸が培地中に残らず，培養液は更新されるので，連作が可能となる。ハウス内栽培では，塩類の集積が起こりやすく，メロン栽培などでは一作ごとにベッドの土を入れ替えねばならないが，礫耕ではその必要がなく省力化が可能である。また，作物のささえが困難な水耕栽培に比べても有利である。礫耕における培養液の循環はすべて自動的に行なわれ，更新の必要性も少ない培養液がつくられている。➔次ページ(図)〔金木良三〕

れきし【歴史】
①ヘロドトスの著書。9巻。現存最古のギリシアの歴史書。ペルシア戦争について



礫 耕 栽 培

その原因・経過を詳述する。まずペルシア帝国の由来について，リディアの王クロイソスの没落とペルシアの覇権(はけん)獲得を書き，次いでアテナイとスパルタの歴史を説いて，東西両国の激突を盛り上げる。正確を期するため彼自身の目と耳で確かめた事実・資料を記述する一方，伝説風聞なども説話ふうに語り，歴史全体にいきいきとしたおおらかさを与えている。なお,歴史(ヒストリー)の語はこの書の標題〈ヒストリアイ(探究)〉に由来する。

②ツキジデス*の著書。8巻。ペロポネソス戦争*の原因と経過を記述したもの。ツキジデスは未完のまま没したが，その冷静にして合理的・科学的な記述法はのちの歴史記述の確立に多大の影響を与えた。開戦と同時に書きはじめられ，敵味方の正確な情報を集めて，史実にできるだけ忠実に記録された。歴史記述を通して人間の存在，社会や歴史を動かしていく力の本質にまで迫る鋭い歴史観を示している。〔久保正彰〕

れきし 【轢死】 汽車・電車・自動車などにひかれて(轢過)死亡すること。一般に傷の大きいわりには出血が少ない。生活反応*はときに明確を欠くこともあるが，鉄道車両に轢過された場合は挫滅(ざめつ)轢断され，油のついていることが多く，法医学的には下山事件*のように死後轢断との鑑別が問題となることもある。轢過の痕跡(こんせき)(証拠)として自動車による場合は，着衣や体表に特徴的なタイヤマークを認めることもある。またタイヤ表面の溝部(こうぶ)によって皮下出血，山部によって変色斑(はん)・圧迫痕・表皮剝脱(はくだつ)，側面によって擦過性表皮剝脱がみられることもあり，さらに轢過開始部の損傷は終末部より強いことなどを指標として加害者を捜査したり，加害の状態を推測することができる。死亡の原因としては圧挫による頭腔(ずこう)・胸腔・腹腔・骨盤腔などの内臓損傷(内臓破裂および出血)が多い。〔朝倉　了〕

れきしがく 【歴史学】 人間社会ないし人間生活の歴史的過程を研究する学問。

〈研究法〉 過去に起こった人間に関する事象を研究するものなので，その対象とする過去の世界は，史料を媒介としてのみ認識される。それゆえ史料学と史料批判とが歴史学研究の基礎となる。史料学は史料を分類してその特質を知ることを目的とし，一般に遺物と伝承(報告)に大別される。遺物は，過去の人間がその生活のため直接つくって現在まで残されているもので，身体的遺物・言語・風俗習慣・発掘品・史跡・美術工芸品・古文書などである。伝承(報告)は，過去または当時の事実・思想およびそれに対する自己の経験・見聞・印象・考察・感想などを他人に伝える目的をもってつくられたもので，口碑または伝説，歴史文書・絵図などがそれにあたる。史料の価値決定を史料批判といい，史料批判は外的批判と内的批判とに分けられる。外的批判は利用すべき史料の真実性を確かめ，内的批判はその史料が内容的に史実をどの程度にまで保証しうるか，その可信性を明らかにすることである。史料の内外批判を経てその確実性が実証されたのちには，史料を通じてその時代の人間の活動や文化を知るため，さらに史料の解釈が試みられる。

〈補助科学および特殊史〉 他の諸科学の助力を必要とするため,それらの諸科学を補助科学と称する。補助科学にはそれ自身が独立の科学であるものと，歴史学に従属または歴史学との関係によりはじめて意義をもつものとがある。前者のおもなものには法律学・経済学・社会学・人類学・言語学・地理学などがあり，歴史学にとっていわゆる隣接科学であるが，実際にはすべての科学が歴史学の補助科学になるといえよう。後者には考古学・古文書学・金石文学・印章学・紋章学・古銭学などがある。また歴史学の対象は過去の人間的活動の全分野を占め，特にその一面を限って研究する立場から特殊史が成立する。政治史・法制史・経済史・文化史などは特殊史の例である。

〈歴史理論および史観〉 ドイツのベルンハイムは歴史の変遷を，①物語ふうの歴史，②教訓的歴史，③発展的歴史の3段階に分けた。発展的歴史の観念はヘーゲル*によって始められた。彼は歴史を一つの発展として把握(はあく)し，彼特有の論理形式である弁証法*によってその発展を説明した。一方その理論体系が超越的であることに反発して，ランケ*らの実証的な歴史研究が発達した。マルクス*はヘーゲルの発展的史観を継承しつつその観念哲学の面を排除し，唯物史観を樹立して，歴史を階級闘争の歴史とした。19世紀末にドイツに起こった新カント派*の哲学のうち，特にその歴史哲学と深い関係をもつものがリッケルト*らの西南学派*である。リッケルトは歴史を人類の生きんがために創造した文化の集積であるとし，法則性とは異なった歴史学の論理を形成した。ほかに社会心理学を基礎としたランプレヒト*,社会科学の客観性を確立したマックス-ウェーバー*らの歴史理論が一般の歴史研究に大きな寄与をなした。なおトインビー*は，歴史を，それぞれ成長し没落するいくつかの文明の連続とする循環史観により,《歴史の研究》を公刊した。〔高崎徳次〕

れきしがくは 【歴史学派】 19世紀の中ごろにドイツに起こった経済学派。当時すでに主流となっていた古典学派が普遍妥当な自然法則の存在を確信していたのに対して，歴史学派は，そのような考え方は先進資本主義国における産物であって，資本主義経済への発展にたちおくれたドイツでは自然法的経済秩序を現実的に認めることはできなかった。ドイツにはイギリスとは異なった経済秩序が存在するものとし，普遍的に妥当する経済法則の存在を否定して，経済法則をもっぱら歴史的なものとしてとらえ，歴史的経済法則の探求に努めた。この学派の先駆者はリスト*で，次いでロッシャー*・ヒルデブラント*・クニース*らの旧歴史学派，さらに彼らの方法を発展させ，歴史的方法を確立し国民経済学を称した新歴史学派にシュモラー*・ブレンターノ・グスタフ-シェーンベルク・ワグナー・カール-ビュッヒャー・ゾンバルト*ら多数の学者がいる。なお，新歴史学派はその主張から〈社会政策学会〉派,あるいは講壇社会主義*者ともよばれる。〔藤枝省人〕

れきししゅぎ 【歴史主義】 ノバーリス*が歴史に与え，1852年カール-プラントル(1820〜1888)から明瞭(めいりょう)に用いられた概念。のちにビコ*の思想を示すのに用いられ，さらにメンガー*がシュモラー*とその学派を論難した際に用いたことにより，広く用いられるに至った。①あらゆる行為や価値をこれらの成立基盤である歴史状況から理解しようとするのみでなく，行為や価値が成立し形成された根源へ帰ることがこれらのもつ内容やこれらが現代に対してもつ意味を十分に理解することになるとする考え方。②歴史性の中に人間存在，のみならず存在一般の決定的な本質的特徴をみる哲学の立

場。それゆえ世界を歴史としてとらえ,〈世界観や哲学の中に歴史的思考やこの思考の結果を導入すること〉(ディルタイ)や〈われわれの知識や思考を根本的に歴史化すること〉(トレルチ)を要求あるいは至当とする。この意味で歴史主義の概念は，メーザー(1720～1794)・ヘルダー*以来の哲学に基礎をもつ歴史思想の発展と偉大さの価値を認めるために，ことにマイネッケ*によって用いられた。歴史主義はまた，理念と実在の結合のこれまでに到達された最高段階であり，ライプニッツからゲーテの〈個体は口では言い表わしえない〉，ランケ*の〈おのおのの時代は直接に神に属する〉ということばに至るまでのドイツの精神運動で獲得された新しい生の原理を，歴史の生に適用するものとするドイツ歴史学派の主張となる。この意味の歴史主義に対立する立場は，生は歴史からでなく理性や理念からとらえられ形成されるとする合理主義，さらに人間は本質的には自然存在あるいは環境の所産であるとする自然主義，ことに実証主義・マルクス主義の立場である。③歴史を歴史そのもののために研究し，あらゆる価値・規範・内容を単に歴史的に妥当なものの発展した結果と考える。この立場は完全に相対主義に陥り，文化に疲れ懐疑的になり非生産的となる。　〔中川　誠〕

れきしちりがく　**【歴史地理学】**　人文地理学*の一分科で，自然・人文両現象における歴史部門を取り扱う地理学。現在の地理的事象は，自然・人文とも過去における人間活動が集積して形成されたものであるから，地理学研究には当然歴史的考察を加えることが必要とされる。ただし歴史地理学と歴史の地理的研究とは，資料を同じくしても研究の立場をことにする。歴史の地理的研究の目的は，歴史に及ぼす地理的影響を探ることにあるが，歴史地理学の研究対象は，歴史の一時期における土地の広がり，地域である。歴史地理学は時代別に先史地理学と，文献出現以後の狭義の歴史地理学とに区別される。また資料の性質から，前者は遺跡・遺物，後者は文献を主として研究を進めるので，考古地理学と狭義の歴史地理学にも分類される。その内容から分類すると，歴史時代における地形や気候，植物の変化など自然の面を取り扱う歴史自然地理学，都市や交通をはじめとする歴史時代の人文関係を取り扱う歴史人文地理学，さらに歴史時代の地域区分などを問題とする歴史地誌学とに分けられる。歴史地理学は従来歴史家によって試みられることが多かったが，現在では地理学での独立部門を形成し，その研究は地理学者の手にゆだねられるようになった。　〔高崎徳次〕

れきしてきかなづかい　**【歴史的かなづかい】**　かなづかいの一種。国語を書き表わす基準を現代語の発音によらず，歴史上平安前期に求めたもので，現代かなづかいが行なわれる以前に伝統的に用いられていたもの。古典(的)かなづかい・語源的かなづかい・復古かなづかいともいう。また，現代かなづかいを新かなづかいというのに対して，旧かなづかいなどともいわれている。かなの用法に混乱のなかった平安中期以前の古典にかなづかいの基準を求めたもので，伝統を尊重する国学者によって支持され，江戸時代に契沖*(けいちゅう)によって整理されたもので，明治になって学校教育に採用され，広く普及して，正書法的性格をもつものとされてきた。かなづかいについては，鎌倉後期に歌人藤原定家*(さだいえ)が当時混乱していたかなの使い方を正そうとして，平安時代後期の文献にその基準を求めたものがある。これを追補したものが〈定家かなづかい〉として，その後も一部で用いられていたのを契沖がその基礎を確立したものである。また，古典的かなづかいには平安以前の文献に見られるかなづかいで〈上代特殊かなづかい〉とよばれるものもある。➔かなづかい　〔石黒　修〕

れきしてつがく　**【歴史哲学】**　哲学の一分野。主観的にはできごとの叙述としての歴史，歴史の論理，客観的にはできごとそのもの，存在としての歴史，歴史の形而上学(けいじじょうがく)に分かれる。歴史哲学の語は1756年ボルテールがはじめて用い，続いて1770～1774年ベグラン(1721～1791)がベルリン学士院の論文集に用い，ヘルダー*の《人類史の哲学》(1784～1791)，ヘーゲル*の《歴史哲学講義》(1822～1831)によって学問として成立した。歴史の形而上学としては，歴史哲学は自然としての存在と区別された歴史としての存在，歴史を動かす力あるいは指導理念，歴史の根源と目標・意味・価値を基礎づけ，これを述べる。この点で最も重要な歴史哲学はビコ*の《諸国民の共通本性についての新科学の諸原理》(1725)，ヘルダーの前掲書，カント*の《世界市民的見地における一般史考》(1784)およびヘーゲルの前掲書である。19世紀ではコント*の《実証哲学講義》(1830～1842)，マルクスの史的唯物論があげられる。歴史の論理あるいは歴史の方法論としては，歴史哲学は歴史認識の本質と限界を確かめ，歴史哲学の概念構成に携わる(ウィンデルバント*・リッケルト*・ロータッカー・N.ハルトマン*ら)。歴史哲学者の中には歴史の生に固有の法則のあることを根拠とし，自然科学の方法との類比から，一般的なそれぞれの歴史の現実に妥当する法則や歴史過程の形態を求めようとするブライジッヒ・ディルタイ*・トレルチ*らの立場もある。歴史哲学はキリスト教の自覚化として成立したものであり，歴史の理論と歴史の形而上学は無関係ではない。歴史的個体の因果律，歴史の時間，これらを包括する歴史の論理と，歴史の存在の中心にある現在，事実としての存在は，歴史意識を破ったところからとらえられ基礎づけられると考えられる。

古代の時間観念は循環する連続体であって，歴史は自然の一部であった(ヘシオドス・ツキジデス)。キリスト教はこの自然的時間を神の子の受肉と復活の信仰によって根本から変えた。贖罪論(しょくざいろん)と終末論による時の終わりの観念と瞬間・非連続の時間の観念である。アウグスチヌスの《神の国*》は歴史哲学の初めといわれ，歴史を救済史とみる中世の史観の基礎となった。西洋の歴史哲学はアウグスチヌスの意味での救済史の神学の世俗化といえる。進歩史観は啓蒙主義の理想として抱かれた。ヘルダー・ビコ・モンテスキューの歴史哲学が口火を切り，ロマン主義が受け継いだ歴史は，自然的人間の連続した発展・人間性の理念の実現であった。この見方をレッシング*・フンボルト*・シラー*も継承している。ヘーゲルは歴史を神の精神の自覚と考える。ロマン主義の有機体的歴史観はヘーゲルに反対して個体を強調し，歴史を再生として理解する。歴史を過程ととらえることに反対してランケ*は〈おのおのの時代は直接に神に属する〉ことを強調。ドロイゼン*はこれに反発して〈われわれの仕事は弁神論である〉という。コントの実証主義史観では歴史の目標は物を自然科学的に支配することにある。史的唯物論は歴史の中に経済法則の貫徹をみようとする。生産力と生産関係の矛盾が消滅して階級闘争のない社会の到来をマルクス主義は期待するが，これは世俗化された終末論であると考えられる。20世紀前半の歴史哲学は人類の概念に問題を感じて普遍史に背を向け，文化形態学に転向する。進歩史観の代わりにシュペングラー*の《西洋の没落》が登場した。ディルタイは歴史意識を強調したにもかかわらず，歴史は単に理解の対象にすぎないものであった。トレルチは〈人間的な物をまったく歴史的にみること〉，それゆえ歴史主義の立場に立ち，歴史主義の克服を生涯(しょうがい)の課題とした。M.ウェーバー*は彼の社会科学の認識論の原理である理想型を，理想からの価値判断からきびしく分離した。クローチェ*の《歴史記述の理論と歴史》やコリングウッド*の《歴史の観念》は，歴史研究は歴史家が心の中に過去の経験を再創造することであるという。　〔中川　誠〕

れきしほうがく　**【歴史法学】**　法の研究において，その歴史性を重視する法学一般をいうこともあるが，普通には特に19世紀ドイツに興った歴史法学派の理論とその法学史的研究をさす。その学派はサビニー*・アイヒホルン(1781～1854)により19世紀のはじめ創始され，1815年《歴史法学雑誌》を創刊した。サビニーはその綱領論文で，法は民族精神の発露であり，けっして自然法的な抽象的思弁によって人為的につくり出されるものではないとし，法学を〈歴史法学〉と〈非歴史法学〉とに分けて，前者の正当性

を主張した。この学派の特色とするところは，自然法学が自然法の普遍性・不易性を主張するのに対して法の歴史性・発展性を明らかにし，自然法学の制定主義に対して慣習法の重要性を説いた点にある。18・19世紀は啓蒙(けいもう)主義の専制君主により，各国で自然法思想に基づく法典制定があいついだが，歴史法学派は当時の統一民法制定運動に反対した。サビニーおよびその後継者の法学研究は，自然法に対する理論的克服の役割を果たすに至らなかったが，ドイツのロマン主義の思想を背景にして，19世紀初頭における有力な法学史的地歩を築いた。〔高崎徳次〕

レキシントンのたたかい 【レキシントンの戦い】 アメリカ独立革命の発端となった戦い。コンコードの戦いともいう。ボストン茶会事件*処理のため派遣されたイギリス軍司令官ゲージ将軍は，ボストン北西約2kmのレキシントンに事件の首謀者ジョン-ハンコックとサミュエル-アダムズが潜んでいること，ボストン西北西約3kmのコンコードに植民地人が武器弾薬を集積していることを探知，1775年4月18日夜，2人の逮捕と兵器の押収のためひそかに行動を起こした。植民地人はこれを察知，19日朝レキシントンで最初の銃火が交わされ，植民地人8名が殺された。イギリス兵はコンコードに向かい，町を占領したが，植民地兵が結集，ボストンへもどるイギリス軍に損害を与えた。ゲージ将軍の目的は達せられず，勝敗も明らかではなかったが，戦闘開始のニュースは一瞬にして各植民地に伝わり，イギリス本国と植民地の対立は独立戦争へと進展した。5月開催された第2回大陸会議はこの結果アメリカ独立戦争遂行機関と化した。〔折井一彦〕

れきせい 【歴青】 ビチューメンともいう。アスファルト・石油・天然ガスなど固体・液体・気体の炭化水素化合物の総称。しかし一般には，主として液状または固状の，天然に存在する炭化水素類またはそれらの非金属誘導体などの混合物，あるいはその類似物を総称していう。これらは次のように分類される。①真正歴青：天然ガス・石油・オゾケライト・アスファルトなど。②ピロ歴青：各種の石炭など。③人工歴青：①②を化学的方法によって処理して得られる物質。

れきせいたん 【歴青炭】 ⇨石炭

れきだいし 【歴代誌】《旧約聖書》の〈諸書〉に属し，2巻からなる。ヘブライ語名では〈日々のできごと〉。アダム*からダビデ*に至る系図による歴史，ダビデの治世，ソロモン*の治世，ソロモン没後からバビロン捕囚までのユダ王国の歴史が記される。エルサレム神殿の復興後，祭儀が盛んになるとともに祭司族(レビ人)の地位も高まり，紀元前3世紀ごろ，宗教的教訓を目的として，これまでの歴史を祭司的観点から書き改めたもの。著者不明で一般に歴代史家と称される。〔松田 治〕



歴代帝王図巻 唐の閻立本の筆と伝えられ，前漢昭帝から隋煬帝に至る16帝を描く。図は晋武帝 ボストン美術館蔵

れきだいていおうずかん 【歴代帝王図巻】 唐の閻立本(えんりっぽん)筆と伝える画巻1巻。絹本着色。前漢から隋(ずい)に至る歴代の帝王を描き，宋(そう)・元以来名家の蔵品となり，元・明(みん)・清(しん)の内府にも収められたが，現在はボストン美術館に収蔵されている。多くは帝王を中心に三尊形式で描く。鉄線描の輪郭，朱を中心とする，ぼかしを用いた重厚な彩色に特徴があり，六朝(りくちょう)以来の伝統を受けた画風であるが，補絹・補筆が多い。現在，これが当初のものか後代の模本かについては諸説がある。〔中島純司〕

れきど 【礫土】 角礫土ともいう。一般に土壌(どじょう)中の粒子で直径が2mm以上あるものを礫とよび，原土中礫を50%以上含むものを礫土という(日本農学会報)。透水性はよいが，水・肥料養分の吸収力は弱い。

れきねん 【暦年】 暦の上での1年。グレゴリオ暦*では400年間に365日の平年を303回，366日のうるう年を97回置いて1年の平均の長さを365.2425日としている。この平年とうるう年を合わせて暦年とよんでいる。

れきひょうじ 【暦表時】 地球の公転運動をもとにしてつくられた一定不変の時系。暦表時が使われる以前は，地球の自転をもとにした世界時*は，極運動による経度変化，自転速度の季節変化の補正を行なえば一様に流れるものと考えられていた。しかし，月・太陽・惑星の運動を観測すると，どうしても理論から説明のつかない食い違いが出てきて，この食い違いは地球の自転速度の非一様性によるものであることがわかった。そこで1955年ダブリンで開かれた国際天文学連合総会において，ニュートン力学が成立する時系として暦表時を採用することが決議され，1960年から各国の天体暦は暦表時を使用している。

暦表時の原点は1900年の近くで，太陽の平均黄経が279°41′48″04になった瞬間を1900年1月0日12時とし，1秒の長さは，このときの1太陽年の長さの1/31,556,925.9747と定める。暦表時と世界時(UT2)との差は24.349秒＋72.3165×t秒＋29.949×t^2秒＋1.812秒×Bで与えられる。tは1900年1月0日12時からの時間を100年単位で表わしたものである。Bは月の運動の観測から決められる。〔木下 宙〕

れきほう 【暦法】 暦*の構成法。暦法にしたがって暦は太陰暦*・太陰太陽暦*・太陽暦*に分けられる。暦法でいちばん重要なことは，朔望月*(さくぼうげつ)や太陽年*の長さを正確に決め，うるう月・うるう日をうまく配置して日付と季節がずれないようにすることである。

レクイエム [requiem] 〈鎮魂ミサ〉ともよばれ，死者のために行なわれるミサ。冒頭にレクイエムのことばがうたわれるためそうよばれる。カトリック典礼におけるレクイエムは通常のミサから，グローリア・クレド・ハレルヤをはずし，代わりにトラクトゥスとディエス-イレ(怒りの火)を挿入(そうにゅう)したものであるが，多声のものあるいは近代のものでは必ずしもこの定式はあてはまらない。現存する最古の多声によるレクイエムはオケゲムの作品で，ルネサンス時代にはパレストリーナ・ラッソーをはじめ多くの作曲家が手がけている。近代の作品では，モーツァルト・ベルリオーズ・ベルディ・ブラームス・フォーレらの曲が有名である。また，全体ではなく，ディエス-イレの部分のみを取り出し，独立の曲を書くことも多く，リュリ・クリスチャン-バッハの曲などがよく知られている。〔吉田泰輔〕

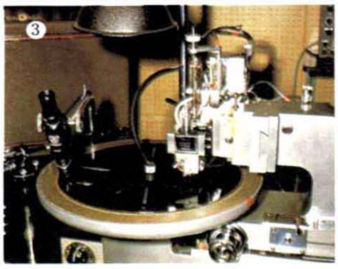
レクォーナ [Ernesto Lecuona] (1896〜1963) キューバの作曲家。グアナバコアの生まれ。幼時からピアニストとして知られた。ハバナ音楽院を卒業し，のちハバナ管弦楽団の初代指揮者となる。1932年レクォーナ-キューバン-ボーイズのリーダーとなり，クラシック音楽・ポピュラー音楽の両面にわたってキューバ音楽に寄与した。代表曲はピアノ組曲《アンダルシア》(ポピュラーソングとなった〈マラゲーニャ〉〈アンダルーサ(そよ風と私)〉を含む)，歌曲《マリア-ラ-オ》《シボネー》など。〔中西義郎〕

レグホーン [leghorn] 卵用種に属するニワトリの代表的な品種で，イタリアの原産といわれる。この中で白色単冠内種(白色レグホーン)が最も普及している。体重は雄2.4〜2.7kg，雌1.8〜2.0kg。孵化(ふか)後150〜180日で初産を行ない，平均卵重は55g内外で，年間250個前後を産卵。白色レグホーンのほかに，少数であるがかっ色レグホーンも飼われている。



レコード

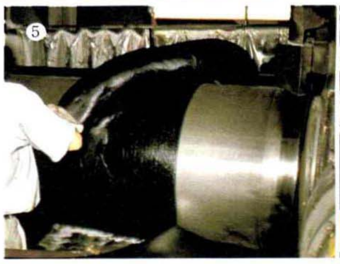


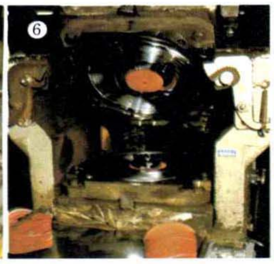


①録音　特殊な場合以外，録音はスタジオで行なわれる。ふつう5～20本のマイクロホンでそれぞれ最良の音をとらえ，隣接したミキシングールームで音質・バランスなどを調整して，2～8チャンネルぐらいのテープをとる　②編集　録音されたテープはレコード用に2または4チャンネルに編集される。このとき，ディレクター・演奏家らの立ち合いのもとで，さらに最良の音質・音量に調整される　③カッティング　テープは再生されてラッカー盤に切削録音される　④スタンパー作製　マザーにニッケルめっきを施して直接レコードの母型となるスタンパーを何枚もとる　⑤材料　主原料である塩化ビニル・酢酸ビニルの共重合体樹脂に安定剤・帯電防止剤などを混合し，均質になるまで十分混練りする　⑥プレス　上下にスタンパーとレーベルを装着し，予熱したレコード材料を載せてプレスする。約30秒でレコードができあがる　⑦試聴　試聴はテープ・ラッカーマスター・マザーの各段階でも行なわれ，さらにレコードの段階でも繰り返し行なわれる　⑧検査・包装　偏心・そりなどの物理検査を経て，最後に目による検査が行なわれ，包装されて商品として出荷される

協力　日本ビクター㈱











レグミン　[legumin]　植物種子に含まれるグロブリン性タンパク質の一種。古くは植物性カゼインともいわれた。双子葉植物のうち，特にエンドウなどのマメ科植物の種子から10%食塩水で抽出して得られる。水にとけないが希アルカリにとけ，酸によって沈殿する。他方，10%食塩水で抽出されて水に可溶なものは種子アルブミンであるが，このうちマメ科種子から得られるものを，レグミンに対してレグメリンという。

レグール　[regur]　黒綿土ともいう。熱帯地方に分布する粘土質で暗色の土壌(どじょう)を熱帯黒色土壌と総称するが，そのうち，インドのデカン高原の玄武岩の風化によってできたものを，レグールという。ふつう，地表1～2 mの範囲に生じ，湿ると著しく膨潤し，乾燥すると収縮して割れ目ができる。有機物の含有率は低いが，細粒のジテッ鉱を多量に含むため黒色を呈する。

レグルス　[Regulus]　しし座α星。実視等級1.4等,70光年の距離にあるB型主系列星。黄道上にある唯一の一等星で，月にしばしばおおい隠され，昔は占星術にとって重要な星であった。

レクレーマー　[reclaimer]　ベルトコンベヤーを利用した，ばら物置き場の集荷装置。機体は地上のコンベヤーをまたいで移動する。機体よりベルトコンベヤーのブームを出し，先端の集荷機で集めたものを，ブームのコンベヤーで地上のコンベヤーに送る構造。ブームのコンベヤーを逆回転して，スタッカー*に兼用できるものもある。石炭・コークス・鉱石などの置き場用に用いる。扱い量は毎時6,000 tまで。

レーゲンスブルク　[Regensburg]　西ドイツ南東部，バイエルン州の都市。人口12万8,000(1969)。ドナウ川右岸の河港市で，陶器・化学・製材などの工場がある。古代ローマ以前のケルト時代に起源を有し，初期のバイエルン公の居住地であり，13世紀にはインドなど東洋との貿易で，南ドイツ第1の商業中心として繁栄した。1663年以降しばしば神聖ローマ帝国議会が開かれた。第2次世界大戦中は航空機工場があったため戦災が激しかった。　〔梶川勇作〕

レコーダー　[recorder]　ルネサンスとバロック時代を通じて最も親しまれた木管楽器。ドイツ語でブロックフレーテといわれる。縦吹きのフルート*ではあるが，横吹きの通常のフルートと違い，息を入れればいちおうは音が出る。古くは11世紀ごろまでさかのぼれるが，形が定まったのは中世の終わりといわれる。ルネサンス時代は非常に高音域の小形のものから，低音域の大形のものまで各種あり，また，よく使うアルトの音域では，日本の篠笛のように，高さが少しずつ異なるものがつくられた。音域は2オクターブとヘ音で，半音階的に変化できる。ルネサンスでは同じ種類の合奏に用いられ，バロック時代ではソナタやコンチェルトに用いられた。音色は柔らかいので，独奏コンチェルトでは，音がよく目だつ高音域のものが用いられる。20世紀にはいってから，楽器が再びつくられ，この楽器のために書かれたビバルディ・テレマンらの作品がまた復活演奏されたほか，ヒンデミット・ブリテンらの新作も現われた。日本でも外国でも，簡易楽器として音楽教育にはいっているが，この楽器が歴史的に果たしてきた役割は，もっと重要なものである。　〔徳丸吉彦〕

レコード　[record]　蓄音機*によって再生される音を刻み込んだ平円板。レコードの歴史は1877年，エジソン*によって発明されたスズ箔(はく)円筒の蓄音機に始まる。これは円筒を横にスライドさせてスズ箔に上下に音溝(おんこう)を刻み，これを直接再生するものであった。その後，A. G. ベル*やチンターらがスズ箔筒をロウ管に変え，1887年にはエジソンも中空のロウ管をつくって，1台の機械で何本もの録音体を取り替えるのに成功した。また同年，エミール-バーリナーは今日のレコードの基本的な形である平円板のレコードを発明するとともに，複製化にも成功して量産の可能性を現実のものにした。音溝が上下振動から左右振動に変えられたのもこのときで，録音された音声はかなり均質化された。しかし，当時はマイクロホンがなく，朝顔形の大きなメガホンによって集音し，メガホン底部に装置

されたガラスなどの膜の振動を直接カッター針に伝えて音溝を刻んだので，音の鮮明さは今日の比ではない。1895年，バーリナーはワックス円板に録音する方法を考案した。同じころ，レコードの材質としてシェラック(天然樹脂)を使ったものが生産された。また，1924年ごろからマイクロホンを用いた電気録音方式が行なわれはじめ，音量と音質は一段と向上した(→録音)。さらに第2次世界大戦中にはシェラック樹脂に代わって塩化ビニルを主原料とする人工樹脂が用いられるようになり，これと1931年にすでに開発されていた音溝を細く狭くしたマイクログローブ方式とが合体して，1948年LPレコードが生まれた。同時に再生装置も発達して，いわゆるハイファイ*時代が訪れ，数多くの音楽愛好者が生まれた。1957年アメリカでステレオレコード(→ステレオ)が発売されると，すぐに世界に普及した。

〈製造工程〉 録音は演奏会場での実況録音とスタジオ録音とがある。いずれの場合も，何本ものマイクロホンで各音の最良の音を個々に磁気テープに録音し，のちにそれぞれ最適の音量をバランスよく混合して最良の演奏に合成する。これをミキシングという。ステレオの場合はテープを2チャンネルに編集してマスターテープとする。次いで，マスターテープから原盤となるラッカー盤に切削録音(カッティング)する。これによってできたラッカーマスターにはニッケルめっきが厚めに施されて型がとられる。これはメタルマスターといわれ，レコードとは逆に音溝が突出している。このメタルマスターからもレコードはつくれるが，大量生産をするため，さらにメタルマスターにニッケルめっきをし，これをはがしてマザーに再びニッケルめっきをしてはがすと音溝の突出したスタンパーができ，これが直接レコードの型となる。スタンパーはプレス機のＡＢ両面に装着され，塩化ビニル・酢酸ビニルの共重合樹脂をベースとするペレットを加熱してプレスし，急速冷却して型をはずしてレコードができあがる。１枚のレコードは約30秒で成型され，このときレーベルも埋め込まれる。

〈種類〉 レコードは回転速度の面から，ＬＰレコード(毎分33回転３分の１，ビニル盤，30cm)，45回転レコード，ＳＰレコード(毎分78回転，シェラック盤，30cm)の３種に大別できる。45回転レコードには音溝が１cmにつき40～60本のポップ(ビニル盤，17cm)と，60～120本のＥＰレコード(ビニル盤，17cm)の２種があり，演奏時間は前者が３～４分であるのに対して後者は８～９分である。なお，16回転３分の２の超ＬＰレコードも開発され，特殊用途の場合に用いられており，また良質の音が得られる45回転のＬＰレコードもわずかにつくられているが，広く普及するには至っていない。ＳＰレコードは音質・演奏時間などの点から今日生産されていない。

また，録音の面からはモノラルレコードとステレオレコードに大別できる。モノラルレコードは１本の溝にすべての音が一つにまとめて刻まれているので，再生された音は１か所から聞こえる感じである。ステレオレコードは45度の角度で刻まれた一つの音溝に二つの系統の音を録音してあるもので，再生されると立体的に聞こえる。これは今日一般のステレオレコードで，45°-45°方式といわれる２チャンネル(２系統)ステレオである。なお，１本の音溝に四つの音を録音した４チャンネルのレコードも開発されているが，メーカーによってその方式が異なるため，いまのところ広く普及するに至っていない。〔室本高明〕

〈レコードと文化〉 レコードとそれに類する録音道具の発明と普及は，音楽だけでなく，生活のあり方を含めて，広く文化全体に刺激と変化をもたらした。すでにエジソンは1878年に彼自身の発明のもつ可能性として次の点を指摘している。①速記によらない手紙や筆記の役割。②盲人にも伝えられる音による本。③ことばの授業。④音楽の再生。⑤家族の思い出や臨終の人のことばなどの家庭の記録。⑥オルゴールやおもちゃ。⑦はっきりした声で食事や帰宅の時間を知らせる時計。⑧諸国のことばの正しい発音の保護。⑨教育的な目的。⑩電話との結合による通信の記録。以上はレコードだけでは実現できなかったが，それと密接な関係で発展してきたテープレコーダー*や，それらを組み合わせた言語学習装置，ティーチング-マシン，るす番電話によって，現在ではすべて実用化されている。これによりかつては視覚の形でしか記録や固定できなかった言語や文芸や音楽(かつては楽譜が正確な伝承のおもな方法であった)を，音の状態で伝達することが可能になった。また，レコードが大量に生産できるところから，音楽を広い層に普及させることが可能になった。このことは一方では，音楽家の評価(特に西洋クラシック音楽)や作品の流行(特に歌謡曲やポピュラー音楽)が，レコード化とその普及度によって強く規定される状態をつくっている。

また，かつてレコードは実演の代理であったが，第２次世界大戦後，ミュージック-コンクレートや電子音楽の出現により，レコードやテープでしかつくられないジャンルが生まれ，レコードが多かれ少なかれ独立性を主張しはじめた。この種の録音態度は，ロックはもとより日本の歌謡曲にも認められるが，最近はテープレコーダーの性能が高度になり，音楽・演劇・言語などでレコードの果たしていた役割がかなり奪われているのも事実である。〔徳丸吉彦〕

レコード ［Robert Recorde］（1510ごろ～1558ごろ） イギリスの数学者・医者。オックスフォード・ケンブリッジ両大学で数学を教え，のちエドワード６世およびメアリ１世の侍医をつとめた。彼の算術書《諸芸の基礎》(1540)は16世紀イギリスの数学教育にきわめて大きな影響を与えた。またイギリス最初の代数書《機知の砥石(といし)》を著わし(1557)，これには等号がはじめて印刷された。

レコードプレーヤー ［record player］ 円板レコードを載せて，これを定速度で回転させ，音溝(おんこう)に刻まれている信号を電気信号に変換する装置。ターンテーブル(回転台)とこれを駆動するモーターおよび音溝から信号を取り出すためのピックアップを一体として組み込んだもの。ピックアップより取り出される電気信号は微弱であるから，これを適当な増幅器(アンプリファイヤー)によって増幅してからスピーカーに加えて音響信号に変換するのが普通である。現在，レコードの回転数は毎分33⅓回と45回とが標準であるが，以前は78回転が標準であった。〔伊藤　毅〕

レコンキスタ ⇨国土回復運動

レーサー ［racer］ 競走用自動車。サーキット*またはクローズドコースにおけるスピードレース用に特別に設計された自動車。国際自動車連盟(FIA)では《国際スポーツ法典》の中で２座席レーシングカーと単座席レーシングカー(フォーミュラカー*)に分け，さらにそれらをエンジンの総排気量別に分類している。なお競走用につくられたモーターボート*やヨット*なども，この名でよばれる。➔自動車競走　➔モータースポーツ

レザー ［leather］ 皮革。人造皮革をアーティフィシャル-レザーというので，単にレザーというと人造皮革をさすこともある。天然皮革は，牛皮・馬皮・豚皮・羊皮などを，タンニン・クロームなどで鞣(なめ)して，鞣し革として用いる。人造皮革は，外観を天然皮革に似せてつくったもので，一般に織物などの基布の表面にラッカー・合成樹脂などで着色塗装を施して，その表面に皮革に似た圧(お)し型をつける。近来は合成皮革と称し，基布に合成繊維の不織布を用いて，天然皮革に近似の繊維構造として，表面塗装を施す。くつの甲革，袋物・カバンなどに用いる。耐久力があり，よごれはぬれた布でふくだけでよい。〔小川安朗〕

レーザー ［laser］ 原子や分子などの中で起きる量子力学的定常状態間の遷移を直接利用して，光の増幅や発振を行なう装置。light amplification by stimulated emission of radiationの略称。レーザーもメーザーも，原理はまったく同じものである。1953年アメリカのJ.ウェーバーは物質を構成している分子・原子を利用して，マイクロ波の増幅が可能であるという論文を発表した。1954年，コロンビア大学のタウンズとソ連のバゾフらは，互いに独立に，

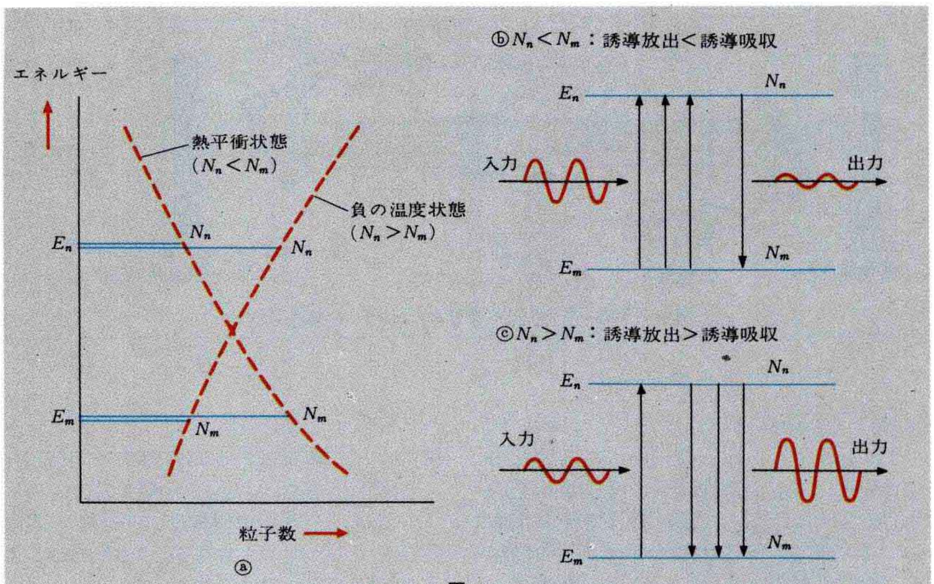


図-1

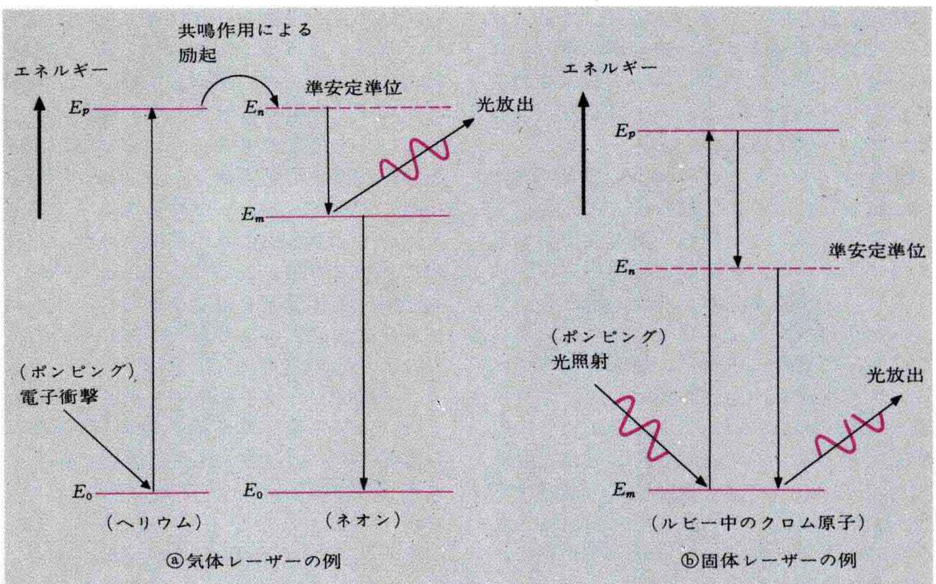


図-2

レーザー

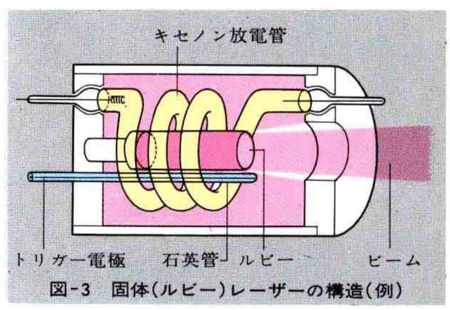


図-3　固体(ルビー)レーザーの構造(例)

同じ着想によるメーザー(maser：microwave amplification by stimulated emission of radiationの略)をつくることに成功した。次いで1956年，ハーバード大学のN.ブルンバーゲンは3準位メーザーの理論を発表し，この理論に基づいてベル研究所で，ルビーを用いたマイクロ波の増幅の実験に成功した。1958年シャロウとタウンズらは，メーザーの理論を光の領域まで拡張し，光の発生・増幅の可能性を予言，1960年メイマンがはじめてレーザーによるコヒーレント(可干渉)な光の発生に成功した。このような光増幅器を光メーザーまたはレーザーとよんでいる。メイマンのルビーレーザーの成功後まもなく，ベル研究所のジャバンらによってヘリウム-ネオンの放電を利用した連続的出力が得られるガスレーザーが開発され，続いて1962年には，アメリカにおいて，GaAsダイオードのp-n接合領域に注入される電子-正孔を利用した半導体レーザーがつくられた。

〔原理〕 レーザーやメーザーを扱う学問・技術の分野を量子エレクトロニクス*といい，分子・原子・原子核などと電磁波との相互作用を，通信・制御あるいは計測などに用いることを目的としている。

光も電波と同じ電磁波であるが，普通の光は，原子や分子中の電子が互いに関連なく，熱や他のエネルギー粒子との衝突によって励起され，これらの電子が散発的に基底状態にもどるとき，それぞれのエネルギーを電磁波の形(光子)として放出するものである。したがって，個々の電子が放出する電磁波の位相は互いに無関係であるばかりでなく，周波数や偏波面も一般には一定していない。これに対して，アンテナから発射される電波は，波の位相がそろっており，偏波面も一定で，平面波として進んでいく，コヒーレントな性質をもっている。励起状態にある粒子(原子や分子)に刺激を与えることによって，光子の同相的な誘導放出を起こさせ，コヒーレントな光を得る装置がレーザーである。

粒子が励起された状態にあると，外部からの作用に関係なく偶発的に光子を放出し，低いエネルギー準位に移る。この現象を自然放出といい，この場合に発生する光はコヒーレントな性質をもっていない。励起された粒子のエネルギー準位間の遷移は，その遷移によって発生する光の波長と同一の波長の光の刺激によっても起こり，高い準位にある原子は光子を放出して低い準位に遷移し，低い準位にある原子は光子を吸収して高い準位に移る。前者を誘導放出といい，後者を誘導吸収とよぶ。

一般に，熱平衡状態にあるある粒子系においては，エネルギー準位E_mおよびE_nの状態に対応する粒子の数N_mおよびN_nは，

$$\frac{N_m}{N_n}=\exp\left(-\frac{E_m-E_n}{kT}\right)$$

で与えられるボルツマンの法則に支配される(図-1ⓐ)。したがって，高エネルギー準位にある粒子数N_nは，低エネルギー準位にある粒子数N_mよりも少なく，入射電磁波による刺激に対しては，誘導吸収が誘導放出よりも強く起こることになる(図-1ⓑ)。そこで，適当な方法によって$N_n>N_m$という状態をつくることができれば，誘導放出が強く起こり，光子の増幅作用が期待される(図-1ⓒ)。このような粒子系の状態を，反転分布あるいは負の温度状態という(図-1ⓐ)。

反転分布をつくるための方法には，$E_p>E_n>E_m$という関係にある3個の準位間の遷移を利用する方法(図-2ⓐ)と$E_p=E_n>E_m$という関係にある準位間の遷移を利用する方法(図-2ⓑ)とがある。これらの方法は，E_m準位にある粒子をまずE_p準位に励起し

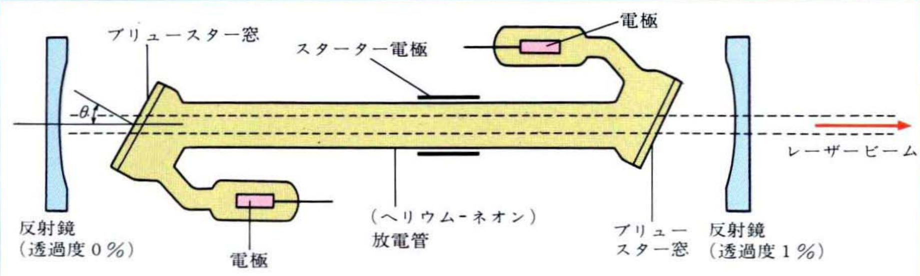


図-4　気体レーザー(ヘリウム-ネオン)の構成図(例)

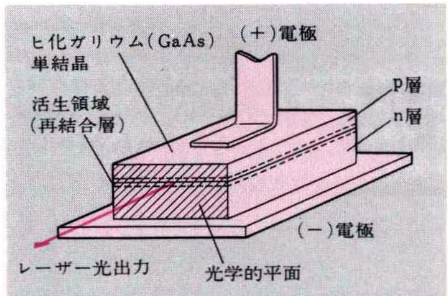


図-5　半導体(ヒ化ガリウム)レーザーの構造(例)

レーザー

(このような操作をポンピングとよぶ), 次にこれを利用して同一粒子中の準安定状態への遷移, あるいは他粒子の準安定状態の励起を急速に行なって反転分布を作り出すもので, 前者の方法は固体レーザーの励起に, 後者の方法は気体レーザーの励起に, それぞれ利用されている。

〔構造〕現在のレーザー装置は, コヒーレントな光を発生させる装置を意味する。このため, 2個の反射鏡によって構成される光に対する共振器と励起原子を含んだ誘導放出系から構成されている。

〈個体レーザー〉ルビーあるいはガラス中に励起原子となる不純物原子, たとえばクロム原子を混入した円柱を誘導放出系として用いる。この円柱の両端は平行な鏡面に仕上げ, 金属膜を蒸着して反射鏡とし, 光共振器を形成するようにつくられている。この円柱の周囲にキセノン放電管を巻きつけ, 放電管から出る光を利用して, クロム原子をE_m準位からE_p準位に励起する。E_p準位にとどまっている寿命時間は10^{-7}秒程度と短く, 直ちに準安定準位E_nに遷移する。E_n準位の寿命は10^{-3}程度であるため, E_n準位の粒子数が増加して反転分布が生じ, レーザー発振が起きる(図-3)。

〈気体レーザー〉固体レーザーがパルス出力(間欠的発振)であるのに対して, 連続的発振出力が得られる特徴がある。気体レーザーの主体は, 両端にブリュースター窓を取りつけた一種のガス放電管である(図-4)。封入気体としては, ヘリウム-ネオンのほかにも, キセノン・アルゴン・クリプトンなどの希ガス, 一酸化炭素・炭酸ガス・一酸化窒素・二酸化窒素などの分子ガスなども用いることができる。発振波長も, 近紫外線から遠赤外線領域までに渡るきわめて広い範囲に及んでいる。ヘリウム-ネオンレーザーを例にとって構造を説明する。ヘリウム1トル(1トル=1.33322ミリバール), ネオン0.1トルの混合気体を封入して, 電極間に放電を起こさせると, ネオン原子中の二つのエネルギー準位(3s-2p)間に反転分布が起こり, 主として6.328Å(オングストローム)の赤色光を発生する。この光は, 放電管の両端に取りつけられているブリュースター窓によって, 一定の偏波に統一され, 同時に2個のファブリー-ペロー形反射鏡によって構成される光に対する共振器により安定化され, レーザー光を発生する。この光は, 一方の反射鏡(1％程度の透過度をもつようにつくられている)を透過して, 外部に取り出される。

〈半導体レーザー〉固体および気体レーザーでは, 互いに独立した状態に近い原子・分子あるいはイオンなどのつくる, 比較的幅の狭いエネルギー準位が関係しているのに対して, 半導体のエネルギー準位は, 一般にバンド構造をもち, これらの準位間の遷移が関係する半導体レーザーは, 前者に比較してかなり異なった性質をもっている。エネルギー準位間に電子密度の反転分布を起こさせる方法としては, 光による励起, 電子線による励起も可能であるが, 普通はキャリアの注入による方法が用いられる。このような動作方式を注入形レーザーとよぶ。半導体レーザーに用いられる材料としては, エネルギー準位間の遷移(伝導帯から価電子帯への遷移)が直接遷移の形で起こるような物質, たとえばヒ化ガリウム(GaAs)・ヒ化インジウム(InAs)あるいはリン化インジウム(InP)などが用いられている。これらの半導体のp-n接合に強い順方向電流を流すと, 相互に大量のキャリアの注入が起こり, 両準位間にキャリアの反転分布が発生する。このため, これらキャリアの再結合に伴い, 誘導放出が起こり, 光が両端の鏡面間を往復する間に帰還作用が行なわれて, レーザー光を発振する(図-5)。図の斜線を施した面とそれに相対する面とが反射面で, これらの鏡面によって光共振器が形成されている。光は図に示すように, 接合部付近の比較的狭い活性領域から放出される。

〔応用〕レーザーの応用範囲はきわめて広く, また拡大されつつあるが, そのおもなものを列挙すると, 研究の分野では, 非線形光学・光物性・光化学・プラズマ加熱・プラズマ散乱などの光源として重要である。また, 実用の分野では, ①ホログラフィー, 測距離, レーザー-レーダーなど物体の測定, ②光通信・光メモリー・ディスプレーなど光情報処理, ③各種の精密加工, ④レーザー-メス・レーザー-コアギュレーターなど医学用に使われている。　〔伊藤糾次〕

レーザーかこう　【レーザー加工】　レンズによって集束したレーザー*光線を加工面にあて, そのとき発生する超高温を利用する加工法。穴あけ・切断・溶接加工に用いる。最小0.1mm程度の穴あけが可能である。

レザー-シャー　⇨パフラビー朝

レザノフ　[Nikolai Petrovich Rezanov]　(1764～1807)　ロシアの商人・外交官。ペテルブルグの生まれ。北太平洋の漁業・貿易・植民に特権をもつロシア-アメリカ会社の重役となり, アラスカ・アレウト列島の経営に従った。1803年(享和3)ラクスマン*の後任使節として長崎に来航し, 通商条約締結の交渉を続けたが, 幕府の拒絶にあって果たせなかった。

レーザーへいき　【レーザー兵器】　レーザーを利用した兵器。レーザーは人造ルビーや, ネオン・ヘリウムなどの気体を利用して光線を増幅, 集束し遠方に送る装置で, これにより送られる光波は指向性が強く, また非常な高熱とすることができる。この性質を利用して, 通信機・陸戦兵器などに用いようとする研究が各国で行なわれてきた。1964年アメリカで試作されたレーザー銃は数十メートルの距離で被服を焦がしたといわれる。またミサイル迎撃用としても研究され, 特にこの部門での将来性が期待されている。

レジェ　[Fernand Léger]　(1881～1955)　フランスの画家。1897年建築家の弟子(でし)になり, 1900年パリに出て建築事務所にはいる。1905年ごろからフォービスムの画家やセザンヌの感化を受ける。1911年ごろピカソやブラックと会い, キュービスムの運動に参加する。第1次世界大戦に応召, その後機械の世界にモチーフを見いだし, 抽象的・構築的な独自のスタイルを確立する。1951年の《建築労働者》では社会的なテーマを扱っており, 〈グランド-パレード〉の連作は数度のアメリカ滞在をもとに描かれたもの。　〔島田紀夫〕

レジスター　⇨金銭登録機

レジスタンス　[résistance]〈抵抗〉の意のフランス語。第2次世界大戦中フランスではドイツ占領軍およびビシー政府に対する抵抗運動が行なわれたが, 広くイタリ

アや東ヨーロッパ諸国でも同様な抵抗が行なわれた。解放と独立のためのこれらの反ナチス抵抗運動を総称してレジスタンスという。フランスでは国内・国外と二つの抵抗運動の流れがあった。国内では，降伏直後から共産党の呼びかけがあったが，むしろ自然発生的・分散的な先駆者たちの運動として始まり，〈チルール(便衣隊)〉〈パルチザン(遊撃隊)〉などの組織がつくられゲリラ活動を開始，1942年にはビシー政府のドイツへの労働者提供に反抗した青年たちによって抗戦団体〈マキ*〉がつくられ，これが母体となって，翌年〈国内フランス軍(FFI)〉となった。武装組織とともに広範な階層を含む〈国民戦線〉も1941年に発足，1943年にはすべての抵抗諸団体・労働組合・諸政党による統一組織〈全国抵抗評議会〉がつくられ，国外の解放闘争と連絡をとって運動を進め，非合法出版物《ユマニテ》や深夜叢書*(そうしょ)などを発行した。一方，ロンドンから抵抗を呼びかけたド・ゴール将軍は，〈自由フランス軍〉を組織し，連合軍と協力，1943年には北アフリカ(アルジェ)に〈国民解放フランス委員会〉をつくり，連合国はこれを〈フランス共和国臨時政府〉として承認した。この間ナチスの弾圧は残虐をきわめ，1944年6月にはベルコールで10,000人以上のマキ団員が集団処刑された。こうして連合軍と呼応した大衆の武装蜂起(ほうき)により，1944年8月26日のパリ解放に大きな役割を果たした。〔喜多迅鷹〕

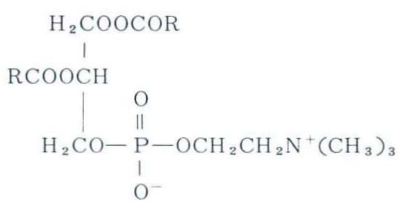
レジスタンスぶんがく【レジスタンス文学】第2次世界大戦中，ドイツ軍の侵略に対して戦ったフランス人の民族的抵抗運動〈レジスタンス*〉に基づく文学をいう。雑誌《レットル-フランセーズ》や深夜叢書*(そうしょ)を中心に，モルガン*・アラゴン*・エリュアール・モーリヤック*・サルトル*・ベルコールらが，抵抗精神を鼓舞したが，文学的に高い価値のものは生まれなかった。

レシタチブ［recitative］音楽用語。レチタチーボともいう。歌と語りの中間的なもので，カトリックの典礼で用いる朗唱ふうのレシタチブを別とすれば，オペラの誕生とともにその歴史が始まる。初期のフィレンツェのオペラでは，言語のアクセントや音節に適した語りふうの旋律(レチタチーボとはよばれなかったが)がその主要な音楽的要素である。この語りふうの旋律はベネチア楽派に至って，しだいに，より旋律的なアリアとレシタチブへと分離した。ナポリ楽派のオペラではアリアが中心となり，レシタチブは音楽的に見れば類型的であり，またその役割も，アリアとアリアの間に物語を運ぶために置かれるといった二次的なものであった。しかし，バロック末期から，このようなレチタチーボ-セッコ(チェンバロ伴奏つきのレシタチブ)に代わって，レチタチーボ-アコンパニャート(オーケストラ伴奏つきのレシタチブ)が現われ，その重要性が再認識され，おもにオペラ-セリアの分野では，しだいにセッコの地位を奪い，19世紀にはほとんどこの方法が用いられるようになった。しかし逆に，レシタチブとアリアといった明瞭(めいりょう)な区別は失われた。〔吉田泰輔〕



レジェ《女と子供》1922
バーゼル美術館蔵

レシチン［lecithin(phosphotidyl choline)］リン酸とコリンを含むグリセロリン脂質。タンパク質と同様に強い両性電解質である。動植物界のリン脂質の50%以上を占めるが，バクテリアではまれである。レシチンは膜の脂質成分の重要な構成要素であるため，細胞中に広く分布しているが，とりわけ肝臓の脂肪代謝に重要である。レシチンの合成が衰えると脂肪肝を生じ，さらには肝硬変へ進むと考えられる。また表面張力の強いジパルミチルレシチンは，表面張力によって，肺胞の癒着(ゆちゃく)を防いでいる。〔原野友之〕



レシーバー ⇨受話器

レシフェ［Recife］ブラジル東北部にある港市で，南アメリカの最東端をなす。別名ペルナンブコ。人口114万7,000(1969)。ブラジル第3の都市で，天然の良港をもち，砂糖・綿・染料・皮革・アルコール・ラム酒などを輸出する。ペルナンブコ州の州都であり，州政庁をはじめ大学・海軍兵学校・兵器工場・放送局・銀行などの諸機関が集まっている。ヨーロッパへの最短距離に位置することから，海外通信の中継所もある。1548年ポルトガルの船員によって建設された町で，市街には運河や橋が多く〈ブラジルのベネチア〉ともよばれる。〔小栗 宏〕

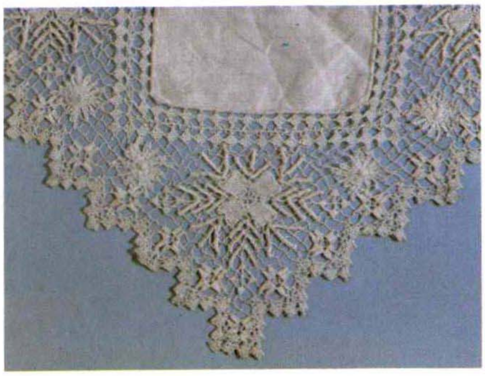
レシプロ-エンジン 航空機用のエンジンの一種。レシプロケーティング-エンジン(reciprocating engine)の略称で，ピストン-エンジン・往復機関ともいう。飛行機の歴史が始まって以後，ジェット機が誕生する1940年代の後半までの約40年間，唯一の原動機であった。液冷列型のガソリンおよびディーゼル，空冷星型および空冷列型のガソリン-エンジンなど各種の形式を経て，大馬力のものは複列星型(14・18・22・24気筒など)，小馬力のものは列型の空冷ガソリン-エンジンがほぼ定型となった。1940年代を頂点として，タービン*-エンジンに王座を譲り，今日では軽飛行機用小馬力の列型のもののみが生産されている。〔中口 博〕

レジャー［leisure］余暇のこと。生活のために必要な時間は，生理的必需時間(睡眠・食事時間など)・労働時間・自由時間に3大別される。技術進歩に基づいて労働時間が短縮され，自由時間が増大し，人間がレジャーを享楽することを可能とした。日本でも総理府の〈家計支出調査年報〉によれば，1969年(昭和44)における1世帯あたりのレジャー関係支出費は18万6,000円に達し，消費支出全体の22%を占めている。これは1965年に比べて65%の増加で，消費支出中に占める割合も2.6%増加している。また最近の余暇の過ごし方は，1965年前後に比べて多様化しているのが大きな特徴で，従来からの映画・かけごと・旅行などに加えて，ドライブ・ボーリング・つり・ゴルフなど新しい種類が増加している。

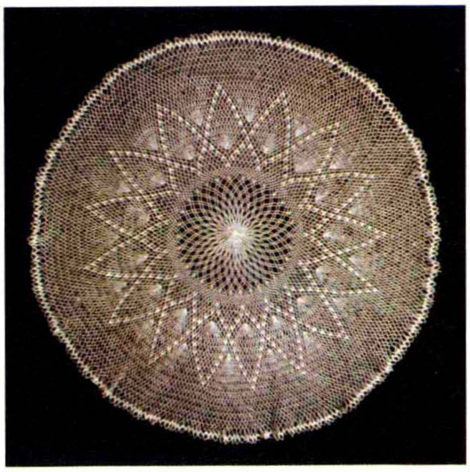
レジョン-ドヌール［Légion d'honneur］フランスの最高勲章で，〈名誉の軍団〉を意味する恩典制度。5級に分かれ，文武の功労者に授与される。1802年5月ナポレオンによって創設されたものであるが，当時はナポレオンの顧問の参事会議員のほとんどが反対し，法案審議の護民府・法案採決の立法府でもかろうじて可決された状態であったが，その後一般に歓迎され，現在に及んでいる。外国人にも授与される。→勲章(写真)

レス［loess］氷河堆積(たいせき)物中の微粒子が風の運搬作用で堆積したもので，乾燥した気候の地域に多く分布する。非常に微細な砂・粘土でセキエイ・チョウ石・ウンモ・ホウカイ石などの新鮮な粒子が含まれている。黄かっ色を呈し，均質で層理*

レース



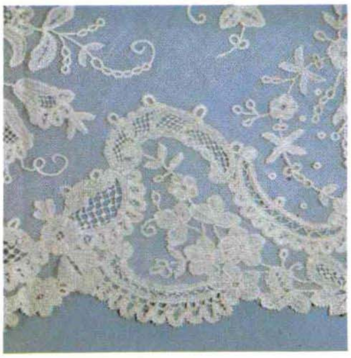
フィーレレース(ししゅう)



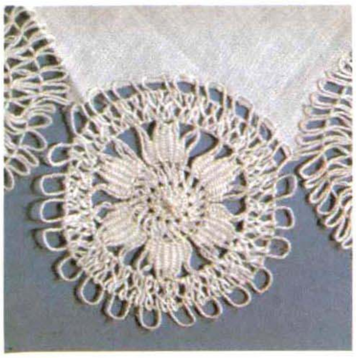
フィーレレース(ネッティング)



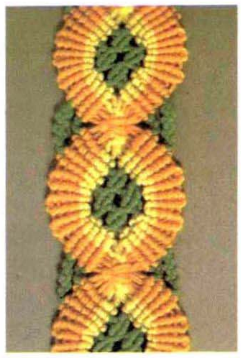
ニッティングレース



ボビンレース



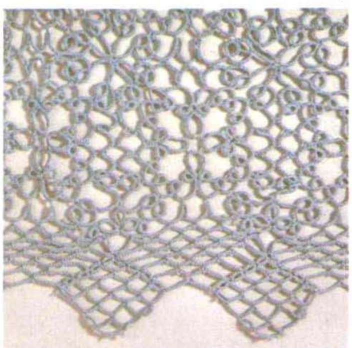
テネリーフレース



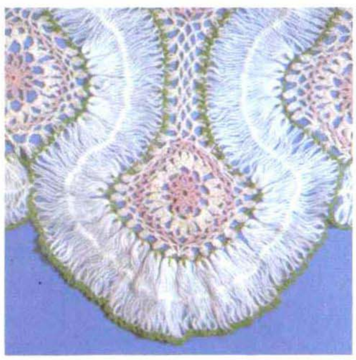
マクラメレース



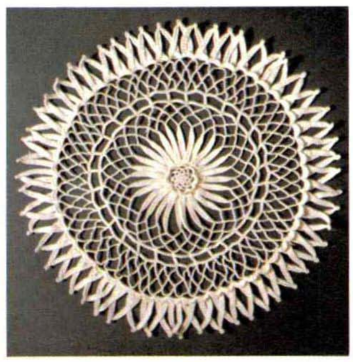
ニードルポイントレース



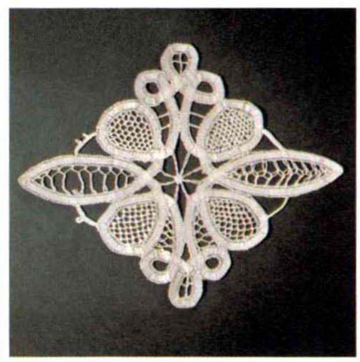
タッチングレース



ヘアピンレース



クロッシェレース(アイリッシュ)



バテンレース

を示さない。中国のレスは黄河の堆積物が風で運ばれたものであるとの説もある。

レース [lace] 糸をからげ合わせて，隙間(すきま)模様をつくった布地，およびこの種の模様をもつ織物地・編み物地の総称。綿糸・絹糸・麻糸・化繊糸などでつくられ，装飾的に，えり・そで口・胸飾りなどのほかに，婦人服・子ども服・帽子・ハンカチーフ・袋物・カーテン・クッション・テーブル掛け・置き物敷きなど，広い用途に供せられる。エジプトに起源をもつといわれるが，定かではない。ヨーロッパでは15世紀ごろベネチアで盛んになり，16世紀後半から17世紀にはフランスがその中心地となって発展した。19世紀初期には，イギリスとスイスでレース機械が発明され，大量生産が開始された。わが国へは明治初期に渡来し，明治中期から洋服の普及に伴って広まり，手工レース工場もつくられた。

〔種類〕糸からげを主とする糸レースと布レースに大別することができ，またその技法によって，手工レース・機械レースに区分される。①手工レース：糸レースには，その用具によって，鉤針(かぎばり)で編むクロッシェレース(鉤針編み*・レース編みともいう)・タッチングレース*・マクラメレース*，ボビン(糸巻き)を使って糸をねじったり交差させたりしてつくるボビンレース，棒針で編むニッティングレース，ピロー(枕)状のクッションを使って編むピローレースなどがある。このほか，ネット(網地)を基布として糸からげをするフィーレレース(四角または菱形(ひしがた)のネットの上に種々のステッチをして模様をつくり出す)・チュール*レース・ネッティングレースなどもある。織物地を主体として模様を切り抜いたカットワーク*，たてよこ糸を引き抜いて隙間をつくるドロンワーク*やハーダンガーワーク*，またこれを併用したレース類がある。②機械レース：ネット地に模様を編み出すカーテンレース，ピローレースを機械化したトーションレース，エンブロイダリーレース機でつくり，布地に穴をあけてししゅうを施したししゅうレース，糸で地と模様を編み出すリーバーレース，ブレンネットなどがある。〔小川安朗〕

レスコーフ [Nikolai Semyonovich Leskov] (1831～1895) ロシアの小説家。職業を転々と変えながら国内を旅して回り，民衆の世態風俗を描いた短編で文壇に登場。続いて革命的な青年層を誹謗(ひぼう)した長編《どんづまり》《刃の上にて》を発表したため，反動家のレッテルをはられた。しかしその後政治色のない，宗教・道徳などをテ

ーマとする作品《ムツエンスク郡のマクベス夫人》《僧院の人々》《魅せられたる旅人》《封印された天使》などを書いた。素材の豊富さ，民衆の語法を交じえた独特なスタイル，筋のおもしろさなどが特色である。〔北垣信行〕

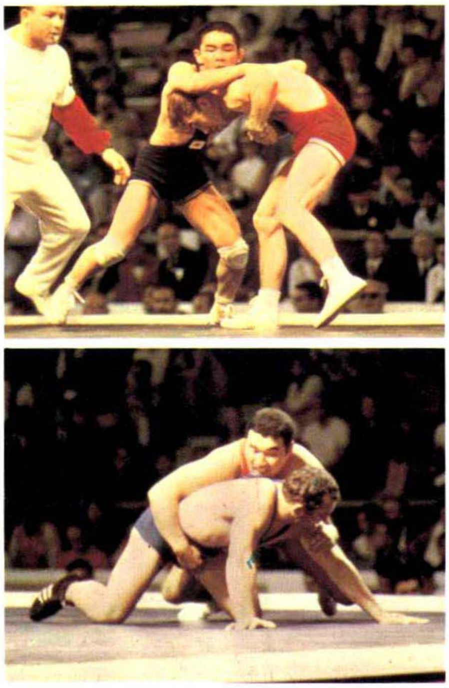
レスター [Leicester] イギリス，イングランド中央部の都市。人口27万8,000(1969)。バーミンガムの東方にあり，レスターシャーの主都。17世紀末から盛んになったくつした・靴の生産で知られる。古代ローマ時代の城塞(じょうさい)に起源をもつ古い都市で，ノルマン人の城や修道院など史跡が多い。リア王の居住地であった。周辺の丘陵では牧羊が盛んで，肉用ヒツジとしてすぐれたレスター種の原産地としても知られる。〔梶川勇作〕

レスピーギ [Ottorino Respighi] (1879～1936) イタリアの作曲家。ボローニャの音楽家の家庭に生まれた。父親から音楽の手ほどきを受け，1891年ボローニャの音楽学校に入学し，バイオリンとビオラと作曲法とを学んだ。1899年音楽院を卒業してのちは，オーケストラのビオラ奏者をつとめたり，室内楽団でビオラを担当したりしながら，作曲活動を続けた。1913年ローマのサンタ-チェチリア音楽院の作曲の教授に就任し，後進の育成にあたると同時に，ヨーロッパ各地やアメリカに演奏旅行を行なった。彼はオーケストラ曲とオペラの二つの分野に重要な作品を残しているが，最もすぐれた作品は，《ローマの噴水》(1916)，《ローマの松》(1924)，《ローマの祭》(1928)という交響詩の3部作である。ここでは，印象派風の手法と絶妙な管弦楽法によって，きわめて豊かな色彩感がつくりだされている。〔船山 隆〕

レスポンソリウム [responsorium] 独唱者と合唱隊とが交互に歌う演奏法。二つの合唱隊の交替によるアンチフォナに対応する。すでに，初期キリスト教会で採用され，その聖歌の演奏法として，ローマ-カトリック典礼に必須(ひっす)のものとなった。この演奏法によるものにグラドゥアーレ・ハレルヤなどがある。

レスリング [wrestling] 格技の一種。所定の競技場(マット)の上で，2人の競技者が組み打ち，投げ合って，相手の両肩を同時にマットにつけること(フォール)によって勝敗を競うもので，グレコローマン-スタイルとフリー-スタイルの2種類がある。

【沿革】レスリングは，走る，跳(と)ぶ，投げるに次いで起こったスポーツといえる。有史以前の人間は日常生活の中で，自己防衛のために野獣と格闘しなければならなかったので，野獣に対する効果的な格闘方法を研究する必要があった。1938年アメリカのスパイザーの一行がメソポタミアで古墳発掘中に発見した，鋳銅の組み合った人間の小像が，レスリングを実証する最古のものとされている。これはスメリア人によるもので5,000年を経過しているとされ，当時，レスリングが重要なスポーツであったことを物語っている。



レスリング (上)フリー-スタイル(下)グレコローマン-スタイル 1968 第19回オリンピック-メキシコ大会

古代ギリシア・ローマにおいてはすべての祭礼でレスリングは重要な行事とされ，以後今日まで世界各地で行なわれてきた。これは，レスリングが走ったり跳んだりすることと同じように，なにも道具を必要としない競技であったことにもよる。最初の規則は現在行なわれているフリー-スタイルと似ているが，指を折ること，首を絞めることなどを禁じていなかった。しかし，ギリシア人に取って替わったローマ人は，ギリシア人の行なっていたレスリングとローマ人特有の格闘方法とを混ぜ合わせて新しい規則をつくり，グレコローマン-スタイル(腰から下に手をやり足をかけることを禁じたレスリング)を生み出し，そののち，ヨーロッパ大陸で盛んになった。そしてこれがイギリスに渡ってから数百年ののち，ランカシャー地方で，腰から下に手を触れたり，足を使ったり，自由になんでもできるレスリングが始まった。これをキャッチ-アズ-キャッチ-キャン-スタイルといい，このほうがおもしろいのでだんだん盛んになり，イギリスの植民地がふえるとともに世界各地へ広まった。英語を話す国ではいずれもキャッチ-アズ-キャッチ-キャン-スタイルが行なわれており，別名フリー-スタイルと称していた。オリンピックでは，はじめ前者を正式名称としていたが，1948年の第14回ロンドン大会からこの長い名称をやめて，フリー-スタイルを正式名称とした。

階　級	体　重
ジュニア-フライ級	48kg
フ ラ イ 級	52kg
バ ン タ ム 級	59kg
フ ェ ザ ー 級	62kg
ラ イ ト 級	65kg
ウ ェ ル タ ー 級	74kg
ミ ド ル 級	82kg
ライト-ヘビー級	90kg
ヘ ビ ー 級	100kg
オーバー-ヘビー級	100kg以上

レスリングは，古代オリンピックでは重要な種目であったが，近代オリンピックでも必須(ひっす)種目の一つとして年々盛んになりつつある。フリー-スタイルは1904年の第3回セントルイス大会から，グレコローマン-スタイルは1908年のロンドン大会からそれぞれオリンピックに参加している。

【競技の概要】競技はグレコローマン-スタイルとフリー-スタイルの2種類がある。試合は直径9m，厚さ10cmの円形マットで行なわれ，相手の両肩を同時にマットに押しつけると〈フォール〉となって勝負が決まる。試合の運営はマット-チェアマン(マット主任)1人，レフェリー(主審)1人，ジャッジ(副審)1人計3人の審判とグランジュリー(陪審員団)で構成される。時間(10分間)切れとなると3人の審判が優劣をつける。その判定は，試合中の有効なポイント数(フォールに近いわざとか，相手の背中に回るなど有効なわざ)による。反対に，乱暴な行為や逃げる(エスケープ)など，競技中レフェリーから注意を2度受けたりするとマイナスのポイントとなる。レフェリーはフォールの判別者であり，笛を吹き試合をスムーズに進行させるのがそのおもな仕事である。

参加選手は，最初それぞれ持点として6点が与えられる。試合の結果に応じて次のように減点され，①フォール勝ち(減点なし)，②判定勝ち(減点1)，③引分け(減点2)，④判定負け(減点3)，⑤フォール負け(減点4)，⑥負傷棄権(減点4)。持点が0になれば失格となる。

レスリング大会の競技運営は，最初抽選で各選手に固有番号を与え，一定の方式にしたがって総当たり戦を行ない最後に3名の選手を残し，決勝リーグを行なって順位を決定する。競技者はユニホーム(両肩からつった海水着のようなもの)に，柔らかい，かかとのないくつをはく。金属類はいっさい身につけてはならない。〔呉 政男〕

レーズン [raisin] 干しブドウともいう。天日または人工的に半乾状態にしたブドウ。菓子パンに練り込んだり，洋菓子のデコレーションにしたり，サラダその他の料理にも用いられ，産地としては，アメリカのカリフォルニアが有名。専用の品種に2種ある。そのうち，マスカット種の大粒

のものはふさのままで，小粒のは柄を除いて粒をそろえ，種を抜いてから売り出す。トムソン-シードレスは小粒で酸の含有量が低く，種なしである。ほかに，ワイン醸造の原料にした残りのブドウを干しブドウにすることがあるが，これらは酸度が高くて甘味が少なく，ドライドグレープとよび，レーズンとはいわない。〔佐藤友太郎〕

レセップス［Ferdinand Marie de Lesseps］(1805～1894) フランスの外交官で，スエズ運河建設の功労者。1825年外務省にはいり，リスボン領事・カイロ領事・マドリード大使を歴任。1854年エジプト大守サイド-パシャの招きによりエジプトにおもむき，スエズ運河開削を計画し，その建設認可を得た。工事は1859年から始められ，1869年に完成した。また1881年にはパナマ運河開削を計画し，会社を設立して工事に着手したが難航し，1889年会社は破産，彼は懲役刑の宣言を受けたが刑は執行されなかった。なお1884年アカデミー-フランセーズの会員に選ばれている。《スエズ運河の起源と結果》(1890)の著書がある。

〔大崎　晃〕

レーゼドラマ［Lesedrama］ 上演を目的にして書かれた戯曲に対する読む(ドイツ語 lesen〔レーゼン〕)ための戯曲の意。〈ブーフドラマ(本の戯曲)〉〈書斎の戯曲〉ともよばれる。古くはギリシア時代から存在したが，特に18世紀末から19世紀にかけてのロマン主義時代，詩劇*時代に多くつくられた。ティーク*の《聖ゲノフェーファの生と死》，ミュッセの諸作，バイロン*の《マンフレッド》などはその例。わが国では，北村透谷*の《蓬萊曲(ほうらいきょく)》などがある。

〔五十嵐敏夫〕

レセルピン［reserpin］ インドジャボクの根および根茎に含まれる血圧降下作用をもつアルカロイドの一種。インドジャボクはインド・マライ・タイ・ジャワなどに分布するキョウチクトウ科の低木で，根および根茎をラウオルフィアといい，多くのアルカロイドを含み，エキスおよびレセルピンの原料とされる。レセルピンは白色ないし淡黄色の結晶で，著しい中枢神経鎮静作用と，細動脈を拡張して血圧を降下させる作用がある。血圧降下剤としては通常1日0.3～0.5mgを，精神安定剤・鎮静剤としては1日1～6mgを内服または注射する。

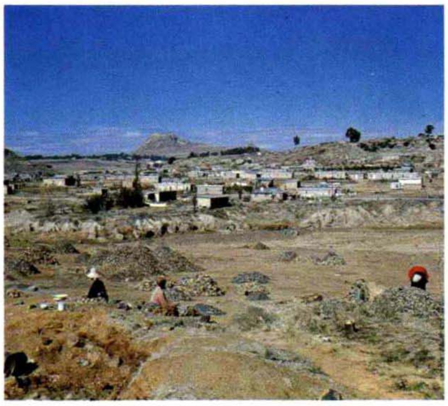
〔中館正弘〕

レソト(王国)［Kingdom of Lesotho］ アフリカ南部，南アフリカ共和国の地域内にある王国。面積30,355km²。人口134万(1978年推)。首都マセル。

国土の大部分は高さ2,000m以上のドラケンスバーグ山脈，西部から南部にかけては高さ1,500～1,800mのオレンジ川流域の高原で，ここで小麦・豆などの自給農業と牧畜が行なわれ，羊毛やモヘヤが輸出されている。気温の年較差がやや高い。人口の約80%がバンツー系のバスト族で，回りの他の部族やブール人の侵略に屈せず，1884年にイギリス保護領バストランドとして残り，その後も南アフリカ連邦(現在の共和国)の併合の要求も退け，1966年イギリス連邦内の自治国として独立，直ちに国連にも加盟した。国王を元首とする立憲君主国であるが，南アフリカ共和国に接近する政策をとるジョナサン首相が1970年に国王モシュシュ2世を一時オランダに追放するなど，政情は安定せず，国王はいま国政にはいっさい関与を許されていない。国会は二院制。経済的には南アフリカ共和国に依存しており，同国への18万人もの出かせぎがあって，その送金が最大の収入源となっている。地下資源としてはダイヤモンドがある。大部分はキリスト教徒で，公用語は英語とレソト語。教育は比較的普及し，就学率は男児60%，女児90%といわれ，マセルの南東のローマにボツワナ-レソト-スワジランド大学がある。〔浅井得一〕



レソトの国旗 1966年制定。緑は国土の豊かさ，赤は信仰の厚さを表わし，青は特別に美しいといわれる南アフリカ高原地方の空を意味して近隣のボツワナ・スワジランドに共通のものである



レソト 首都マセル近郊の村落と採石場。石材は原住民の家屋材料や道路などに使われる。降水量は少なく，景観は荒涼としている

レゾール［resol］ フェノールとホルマリンをアルカリ触媒下で加熱して得られるメチロールフェノールの混合物。第1次樹脂で，分子量は小さく200程度である。触媒としてはアンモニア-苛性(かせい)ソーダ混合物が多く用いられる。レゾールはメチルアルコールやアセトンに容易にとけ，また加圧・加熱すると脱水縮合反応を起こし，不溶・不融のかたい樹脂となる。このような性質を利用して，型に流し込んでから加熱硬化させて製品化したり，積層板用の紙や布の浸漬(しんし)用に用いたり，あるいはそのまま木材接着などに用いたりする。

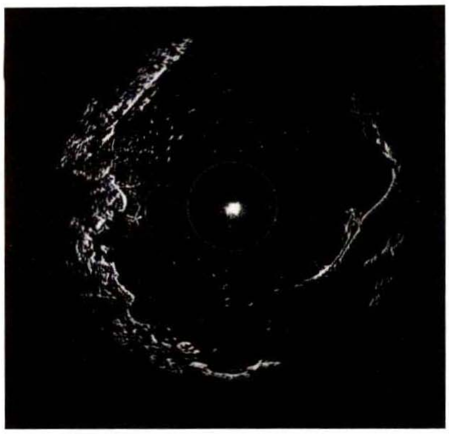
レダ［Leda］ ギリシア神話でアエトリア王テスチオスの娘。スパルタ王テュンダレオスの妻。ゼウスに愛され，彼は白鳥の姿となって彼女を訪れた。子どもたちには，ヘレネ*とディオスクロイ*とよばれる双生児，クリュタイムネストラらがある。うち前2者はゼウスの子といわれる。

レーダー［radar］ radio detection and rangingの略。電波探知機ともいう。パルス*状の電波を発射して反射波の到来時間をはかり，反射点までの距離を測定する装置。この方法は1925年(大正14)ごろから電離層の高度測定に使用されていたが，航空機や船舶の位置を算定できることから世界各国で極秘裡に研究され，第2次世界大戦の勃発(ぼっぱつ)時にはレーダー技術として完成し，戦争の帰趨(きすう)を定めたといっても過言ではない。レーダーは図-1のように，鋭い指向性アンテナから短いパルス状の電波を特定の方向に発射し，送信点からRキロメートルの距離にある物標で反射した電波(一次レーダー)，または物標が受信して再発射した電波(二次レーダー)を同じアンテナで受信する。パルス状電波の往復時間をt秒とすれば，$R=t/2c$ ($c=3\times10^5$ km/秒)として物標までの距離が求められ，アンテナの送信方向が物標の所在方向になる。

レーダーに使用する電波の波長は物標の寸法，距離の測定範囲，精度などによりメートル波からミリメートル波まで用いられ，波長によりL(20～30cm)，S(10cm前後)，C(5～7cm)，X(3cm前後)，K(1～2cm)，Q(5～9mm)などの通称をもったバンドに区分されるが厳密な定義ではない。

送信部はピーク出力数10kW～数MWの大出力マグネトロン*を使用してパルス変調(→変調)の電波を発生し，送受切り換え器を通ってレーダーアンテナに送る。アンテナはファンビームまたはペンシルビームの指向特性をもったパラボラで，垂直軸の回りに回転し，必要に応じ小仰角を変える。反射電波は再びアンテナで受けて送受切り換え器を通って受信部に送られる。送受切り換え器は同一のアンテナで送受共用し，大出力の送信電波が受信部へもれ込まないためであって，グロー放電管(TRおよびATR)を使用するものが多い。受信部はスーパーヘテロダイン方式になっている。

多数の物標の位置(距離・方位角・小仰角)および反射強度をレーダーの使用目的に応じて表現するのが指示部で，ブラウン管が広く使用されている。極座標表示のPPI



レーダー PPIスコープ(8マイルレジ)による東京湾の映像。中心の明るい点はレーダー観測船の位置。左下ののびた映像が観音崎で，右下のそれが富津岬，湾内の白点は船

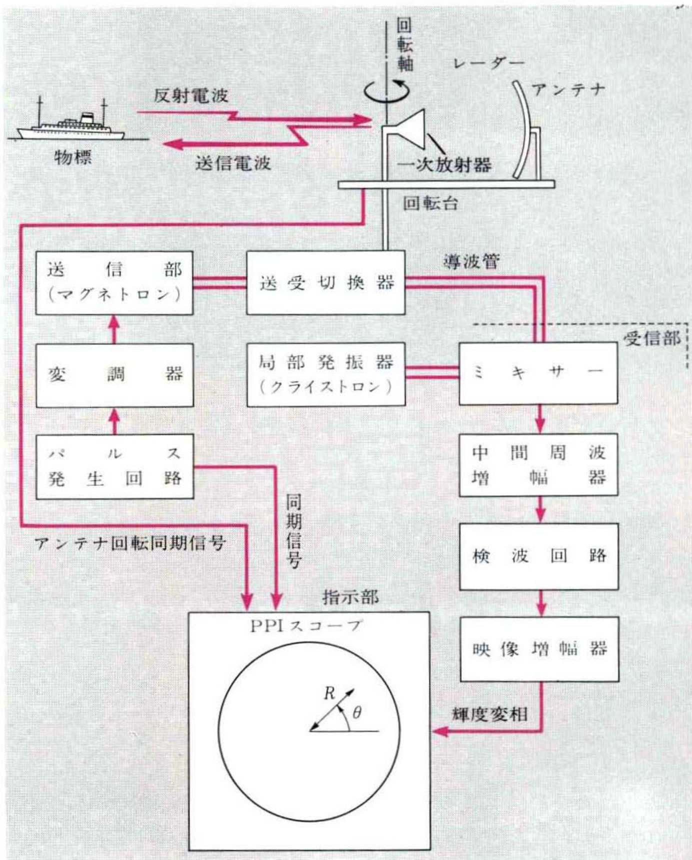


図-1 レーダーの構成

スコープは，受信出力に応じて強度の変化する輝点をパルス送信と同時にブラウン管の中心から外側に向けて掃引し，次の送信パルスが始まるまえにブランキングで中心にもどす。一方を掃引の方向が送信電波ビームの方向とつねに一致するように，アンテナの回転と同期して輝点の掃引方向を回転させることにより，物標の所在を地図のように極座標スケールとともにブラウン管上に表示する。

レーダーは，航空用・船舶用・気象用・軍事用などに利用されている。航空用は捜索範囲の広い航空路監視レーダー(ARSR)，二次レーダーの再発信波をコードで変調して航空機の識別を容易にし航空交通管制に役だつSSR，ミリ波帯を使って空港全地表面を監視できる空港地表面探知機(ASDE)，機上からドップラー効果*を用いて対地速度を連続的に測定し，地上施設の誘導なしにその位置を確認できるドップラーレーダー・機上気象レーダーなどがある。船舶用は視界不良のとき，他の船または水面上の妨害物を探知し，また航路標識に対する自船の位置を指示し安全な航海を可能にする。Xバンド(3.2cm)が多いが，高分解能を必要とするときはミリ波も使用する。港湾内でレーダーを装備していない船に対しても安全な出入を指導するための港湾レーダーがある。

レーダー送信電波が空中に浮遊する水滴にあたると散乱反射を起こし，その反射波を受信すれば降雨域を指示できる。降雨域を探知してその大きさ・高度・形状・移動状況から気象状況を知る気象用レーダーがあり，わが国ではおもに波長5.7cmが使用される。図-2に全国に配置された気象レーダー網のカバー範囲を示す。〔小原啓義〕

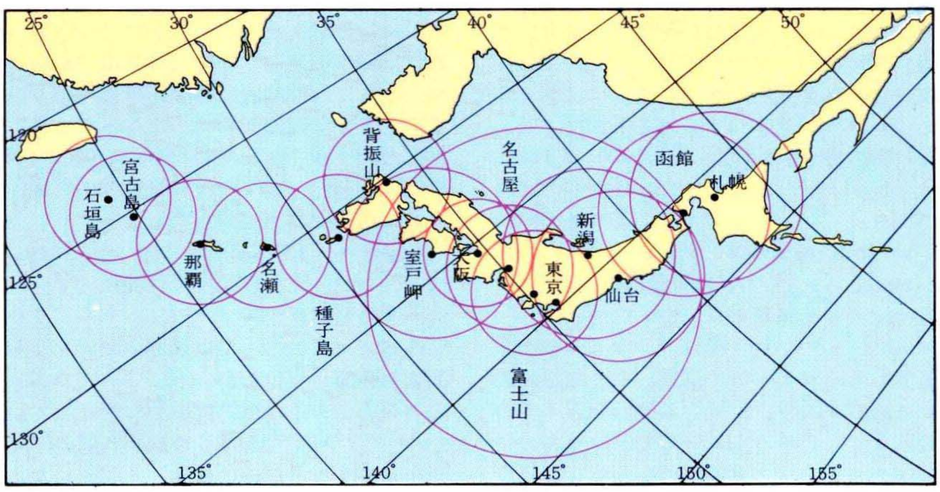


図-2 わが国における気象用レーダー網

レタス ［lettuce］ 双子葉植物・キク科。畑に栽培される一年生または二年生草本で，和名はチシャまたはチサ。中近東原産と考えられており，地中海沿岸で発達した，多くの品種がなりたっている。根出葉が多数出て結球しないコスレタス(立チシャ)，キャベツのように結球する玉レタス(玉チシャ)，茎の伸びる茎レタス（茎チシャ)などがあるが，わが国には明治以後導入され，特に玉レタスの栽培が多い。在来種の掻(かき)チシャはレタスの仲間で中国で発達したものである。冷涼な気候を好むため，秋まき冬採など，夏季高温期以外の時期に平坦地(へいたんち)で，また夏には高冷地で盛んに栽培される。生食の利用が多い。➔次ページ(写真) 〔松本正雄〕

レタリング ［lettering］ 特定のスタイルをもった文字，または書き文字のこと。西欧ではレタリング-アートとよばれ，伝統的なもの，現代的なものなどきわめて多様で，その種類は2,000余種も制作されている。それに比べわが国のレタリングのスタイルは，大別して明朝(みんちょう)・清朝(しんちょう)・ゴシック・丸ゴシック・アンチックなどで種類が少ない。少ない理由として字画が多く，しかも文字の量が多く当用漢字で2,000字もあり，そのスタイル化が技術的に困難であるためもある。西欧文字は字画が少なく，字数が27字にすぎないゆえにスタイル化が容易であるため，多種多様なレタ


レタス （左）玉チシャ （右）搔チシャ

リングがつくられた。わが国の文字のレタリングは，江戸初期の元禄ごろ町人文化として完成した浄瑠璃(じょうるり)・常磐津(ときわず)・長唄(ながうた)に付随して独特のスタイルがつくられた。特に歌舞伎(かぶき)番付のために様式化された勘亭(かんてい)流は，その格調の高さと庶民感情を豊かに内包した秀作であろう。現代の情報社会で最も多く目にふれる明朝体は，明治初期に長崎の蘭学者本木昌造*(しょうぞう)が中国の康熙(こうき)辞典の漢字を典拠として作字したもの。平がなの明朝体は歌人池原遅秀がつくり，今日の明朝体はそれらを母体に修整を加えて形成。いずれも書道の筆法を基本にしてスタイル化している。西欧のレタリングは，カリグラフィとよばれる書法を基本にして形成されている。美しく正しい平明なレタリングは，洋の東西を問わず正しい書法，正しい文字の構成要素を理解することによって新しいレタリングがつくられるものである。なおに商品名やシンボル-マークのレタリングはロゴタイプとよばれ，合わせ文字の意味である。　〔伊藤幸作〕

レ-タン-モデルヌ ［Les Temps Modernes］ フランスの月刊雑誌。1945年10月サルトル*を主筆とし，メルロ-ポンティ*・ボーボワール*・アロン・ポーランなどの実存主義者たちを同人として創刊。その論調は鋭くて高度であり，世界的影響力をもっている。カミュ*とサルトルとの論争は有名。1958年アルジェリア戦争報告を掲載して発行禁止となった。その後顔ぶれは変わったが，復刊された。

レチネン ［retinene］ ビタミンAの末端のアルコール基が酸化されてアルデヒドとなったもので，レチネン$_1$とレチネン$_2$とがある。前者はロドプシンが光の作用を受けて分解生成されたものであり，還元されてビタミンA$_1$となり，タンパク質（オプシン）と結合して再びロドプシンとなる。レチネン$_1$をもつものは，陸生の脊椎(せきつい)動物や海産魚類に多い。淡水魚などでは，ロドプシンに類似したポルフィロプシンをもち，この物質が光によって分解生成したものがレチネン$_2$であり，還元されるとビタミンA$_2$となる。

レチフ-ド-ラ-ブルトンヌ ［Nicolas-Edme Restif de La Bretonne］（1734～1806） フランスの小説家。自伝的要素の濃い膨大な作品群で当時の人気作家となった。いずれも下層庶民の風俗を写実的に描いた小説で，フランス革命前後の社会史ともなっており，のちのバルザック*・ゾラ*ら写実主義・自然主義の作家に影響を与えた。代表作は《ニコラ氏》《堕落した百姓あるいは人生の危険》《パリ夜話》。

れっこく 【裂谷】 ⇨地溝(ちこう)

れっこくぎかいどうめい 【列国議会同盟】 Inter-Parliamentary Union 略称IPU。世界平和と国際協力の推進，各国間の相互理解の助長を目的とする各国国会議員の連合体。国際議員連盟とも訳される。1885年イギリスのクレーマー，フランスのパッシーの両国会議員の提唱により創設され，1889年以後毎年加盟国の都市で総会が開かれる。現加盟国は約50か国にのぼり，国際連合の諮問機関の一つとなっている。本部はジュネーブ。なお，日本は1906年(明治39)に加盟し，第2次世界大戦で中断後，1952年(昭和27)再加盟した。

レッサー ［Frank Loesser］（1910～1969） アメリカの作詞家・作曲家・ミュージカルの台本作家・プロデューサー。父や兄がピアニストだった環境の中で早くから楽才を発揮していたが，ニューヨーク市立大学を中退し，本格的に歌曲作家となる。《マナクーラの月》をはじめ映画音楽の作詞や作曲でヒットが多いほか，ミュージカル《野郎どもと女たち》《努力しないで出世する方法》など，多くの名作を生んでいる。またプロデューサーとしても活躍した。　〔鈴木道子〕

れっし 【列子】 中国，戦国時代，老子の弟子(でし)で道家のひとりであった列禦寇(れつぎょこう)という人，またその人の著書であるという。列禦寇の実在については明証がないが，人は欲求に振り回されずに〈虚・静〉を保持すべきであるという考えの持ち主であったらしい。《列子》7編は，古い道家の言や神仙(しんせん)説を残しているが，また魏(ぎ)・晋(しん)のころの仏教の話も含んでいて，雑駁(ざっぱく)である。しかし，その論述中には〈朝三暮四〉などの寓言(ぐうげん)が多くはさまれていて，《老子》《荘子》と並んで愛読された。晋の張湛(ちょうたん)の注釈がある。　〔西　順蔵〕

れっしゃ 【列車】 停車場外の線路を運転させる目的で組成された鉄道車両(日本国有鉄道運転取扱心得による)。したがって，客車に人が乗り，貨車に貨物が積み込まれていても，その車両が停車場外の線路を運転させる目的や，列車としての運転に必要な標識(前照燈と尾燈)やブレーキ機能の完全さなどの条件を備えていないものは，単なる車両であって列車ではない。また車両数には関係しないので，客車や貨車を連結せず，機関車だけでも列車となる。列車は，用途・運転目的・運転時期・運転距離・速度などによって，それぞれ営業用・事業用，旅客・貨物・試運転・工事・回送など，定期・不定期・臨時・季節など，特別急行・急行・普通などの種類に分けられる。　〔宍塚正幸〕

れっしゃじどうていしそうち 【列車自動停止装置】 ⇨ATS

れっしゃしゅうちゅうせいぎょそうち 【列車集中制御装置】 ⇨CTC

れっしゃてんぷくざい 【列車転覆罪】 人の現在する汽車・電車を転覆または破壊する罪。刑は無期または3年以上の懲役(刑法126条1項)。人の現在する艦船を沈めたり破壊した場合も同じである(刑法126条2項)。これによって人を死亡させたときは，死刑または無期懲役(刑法126条3項)。未遂も罰せられる。本罪は汽車・電車・艦船に限られ，自動車などの交通機関には適用されない。〈人の現在する〉とは，犯罪の実行開始時に犯人以外の者がいれば足り，結果発生のときに人がいなくとも成立する(判例)。また時限爆弾を電車などに仕掛けたときに人がいなくとも，爆発の時限に人が乗り込むであろうと予想される場合には本罪が成立すると解される。〈破壊〉とは，交通機関である機能の全部または一部を失わせる損壊をいい，ガラスを割る，車体の表面を傷つける程度のものは含まれない。なお，人の現在しない汽車・電車を転覆または破壊した場合は，往来危険罪が成立し，刑は2年以上の有期懲役(刑法125条)，また政治目的のための本罪の予備・陰謀・教唆・煽動(せんどう)は，破壊活動防止法*により3年以下の懲役または禁錮(きんこ)。〔井上公耳〕

レッシング ［Gotthold Ephraim Lessing］（1729～1781） ドイツの劇作家・文芸批評家・思想家。ドイツ近代文学の父ともいうべき存在で，ドイツ啓蒙(けいもう)主義の代表的文学者。ドイツ文学，なかでも劇を外国，ことにフランスの擬古典主義の規則づくめの影響から解放し，国民文学として独立させた。ドイツ最初の市民悲劇《ミス-サラ-サンプソン》，同じく最初のリアリスティックな喜劇《ミンナ-フォン-バルンヘルム》，反人間的専制に対する市民の反抗を描く《エミリア-ガロッティー》，宗教的寛容

とヒューマニズム賛歌ともいうべき思想劇《賢者ナータン》が戯曲における代表作。批評家・文芸理論家としては，《新文学書簡》《ハンブルク演劇論》などが著名，特に後者は今日も有意義である。また文学と美術のジャンルの相違を論じた《ラオコーン》は美学論文の古典的名著。その他人類の進歩の理想を示した《人類の教育》など，啓蒙思想家として大きい足跡を残した。〔北条元一〕

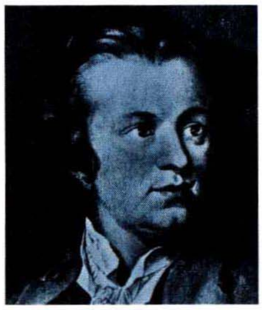
れっせい【劣性】⇨優性

レッセ-フェール ⇨自由放任主義

れっとうかん【劣等感】 他者と比較して，自己の弱点，無力を意識した際にいだく感情や情緒的反応。優越感の対語。人格における劣等感の意識を重視して，独自の人格理論を提唱したのはアドラー*である。彼によると，人は生来なんらかの劣性をもっており，この劣性をいかに処理していくかが，人格形成に重要な意味をもつという。精神分析ではこの劣等感の処理に失敗したとき，劣等感は心のしこりとなり劣等コンプレックス(インフェリオリティ-コンプレックス)が生ずるという。〔馬場礼子〕

レッド-パージ［red purge］ 1949年(昭和24)10月の中華人民共和国成立，翌年1月のコミンフォルム(→インターナショナル)の日本共産党批判による同党の戦術転換，同年5月の総選挙における与党の惨敗などにより危機を痛感したGHQ*が行なった日本共産党*に対する一連の弾圧措置。日本共産党の非合法化を示唆していたマッカーサー*は1950年6月6日の朝鮮戦争*勃発(ぼっぱつ)直前，日本共産党中央委員の公職追放，《赤旗*》発行停止と編集委員の追放を指令し，教育・電産・新聞・報道をはじめ全産業部門にわたる共産党員とその同調者の追放を行なった。民間で10,972名，官公庁で1,196名(労働省調べ)にのぼるこのレッド-パージは，いかなる法的根拠ももたない露骨な弾圧で，日本を反共陣営につなぎとめておくための強硬手段であった。労働組合の指導者・活動家も根こそぎにされたため，以後労働運動も沈滞した。〔杉山三枝〕

レッペはんのう【レッペ反応】 アセチレンを原料とする一連の合成反応。1930年ごろからドイツの化学者レッペ(1892〜1969)らを中心に開発されたもので，第2次世界大戦にかけてドイツ国内でめざましく発達した。その偉大な成果は，終戦後連合軍の技術調査団を一驚させた。ドイツ国内ではレッペ化学ともいわれ，アメリカを中心に発達した石油化学と好一対をなすものであったが，戦後は世界的に興隆した石油化学に押されて工業的には大発展するには至らなかった。レッペ反応は各種触媒を用いて，加圧下でアセチレンに水・アルコール・フェノール・アルデヒド・ケトン・アミン・一酸化炭素などを付加させたり，あるいはアセチレン自身を重合させたりするもので次の4反応に大別される。①ビニル化：1930年ごろ発見されたもので，レッペ反応中では最も古い。オートクレーブにアルコールと苛性(かせい)ソーダを入れ，150〜200℃で20〜30気圧のアセチレンを作用させてビニルエーテルを得るもの。


レッシング

$$\underset{\text{アルコール}}{R-OH} + \underset{\text{アセチレン}}{CH\equiv CH} \longrightarrow \underset{\text{ビニルエーテル}}{CH_2=CH-OR}$$

この反応はカルボン酸・フェノール類・アミンなどに広く応用され，その主成物を重合させて塗料・可塑剤・接着剤などに利用する。②エチニル化：第2に見出されたレッペ反応で，100〜125℃で5〜15気圧のアセチレンをアルデヒド・ケトン・アミンなどに作用させ，エチニル化合物を得る。触媒としては金・銀・水銀あるいはそのアセチリドを用いる。代表的なのはホルマリンとアセチレンからプロパルギルアルコールとブチンジオールを得る反応で，この両者からプラスチック原料や，合成繊維・合成ゴム原料を得る。③環化重合：アセチレンが重合して環状化合物を生ずる反応。代表的例はシアン化ニッケルを触媒として高圧アセチレンを重合させ，八員環物質シクロオクタテトラエンを生成する反応で，これからは容易にコハク酸・テレフタル酸・スチレンなどを得ることができる。④カルボニル化：アセチレンと一酸化炭素からカルボニル基を含む化合物を得る反応。触媒としては，はじめニッケルなどの金属カルボニル化合物を用い，同時に一酸化炭素源としたが，その後ニッケル錯塩などを用い，一酸化炭素は別に与えるようになった。たとえば，一酸化炭素ガスにアルコールとアセチレンを加圧下で反応させてアクリル酸エステルを生成させる。アクリル酸エステルは重合させて塗料・接着剤製造などに用いる。〔吉村公平〕

レーディ［Francesco Redi］(1626〜1697) イタリアの生物学者。アレッツォの生まれ。ピサ大学に学び，のち同大学教授。1668年ハエを用いた実験を行ない，肉を入れたびんを紙または布でおおうとウジが発生しないが，おおいをしないびん内ではウジが発生することを示し，肉眼可視の生物の自然発生を否認した。このほか寄生虫・ヘビ毒についてもすぐれた研究成果をあげている。➔自然発生説

レディア［redia］ 扁形(へんけい)動物吸虫類の二生類の幼生の一型。ミラキディウム・スポロシストに次ぐもので，スポロシストの幼生生殖による幼生であり，中間宿主である巻き貝の肝臓などに寄生している。スポロシストの体壁が胚(はい)細胞となって単為生殖的にレディアが発生し，スポロシストの体内に充満すると，宿主の組織内に出る。また，レディアの体内でできるのがケルカリアであるが，レディア中にさらにレディアのできることもある。

レディーミクスト-コンクリート［ready-mixed concrete］ 計量装置・練り混ぜ装置などが整備された製造工場から，随時に供給されるフレッシュコンクリート(未固結のコンクリート)のこと。レミコンまたは生コンクリートともいう。工場の固定ミキサーで練り混ぜ完了したものをトラックアジテーターで購入者に配達されるセントラルミクスト-コンクリート，固定ミキサーである程度練り混ぜ，運搬中にトラックミキサー中で練り混ぜを完了するシュリンクミクスト-コンクリート，工場で材料を計量し，運搬中にトラックミキサーで練り混ぜるトランシットミクスト-コンクリートなどがある。品質が管理され，良質のものが廉価で入手できる利点がある。〔神山 一〕

レト［Leto］ ギリシア神話の女神。ティタン*神族の娘。ゼウス*の愛を受けてふたごを身ごもり，出産のときが近づいたが，嫉妬(しっと)深いゼウスの妻ヘラ*のために出産の場所を与えられなかった。レトは身重なからだで世界中をさまよい歩き，最後にデロス島が場所を提供したのでアポロン*とアルテミス*の2神を生むことができた。その際，それまで浮島だったデロス島は海の底にしっかり固定され，〈輝く島〉の意のデロスの名を与えられたという。〔黒田杏子〕

レトロフォーカスレンズ ⇨写真レンズ

レナ(川)［Lena］ ソ連，シベリア東部の川。全長4,270km。バイカル湖西方の山地に発して北東流，ヤクート自治共和国を北流して河口に広大なデルタを形成しながら北極海のラプテフ海に注ぐ。ヤクーツ付近からは川幅が約7kmの大河となる。上流部で11〜5月，下流部で10〜6月間が氷結する。ヤクート自治共和国における主要な輸送路で，沿岸はダイヤモンド・金などの鉱産資源に恵まれる。沿岸の主要都市はヤクート。〔長津一郎〕

レーナウ［Nikolaus Lenau］(1802〜1850) ハンガリー系オーストリアの詩人。憂愁と憧憬(どうけい)に苦しみながら放浪しうたった詩には，自由への心の戦いの中に，19世紀前半の社会への絶望がうかがえる。1844年発狂し，6年後に苦悩の生涯(しょうがい)を閉じた。詩集《葦(あし)の歌》《森の歌》《秋の嘆き》などにみられる悲歌的情調の美しい自然詩が多い。世界的に有名な題材による《ファウスト》《ドン-ジュアン》などの叙事詩も書いたが，失敗に終わった。〔横溝政八郎〕

レーナルト [Philipp Eduard Anton Lenard] (1862〜1947) ドイツの物理学者。ブレスブルクの生まれ。ブレスロー・アーヘン・ハイデルベルク・キールの各大学教授。気体の電離の研究から金属の光電効果，螢光(けいこう)・燐光(りんこう)などを研究。1894年〈レーナルトの窓〉を放電管に設けて陰極線を取り出すことに成功し，これをレーナルト線と命名，陰極線研究に一歩を開いた。このほかカナール線の研究もある。ナチズムの支持者であった。1905年ノーベル物理学賞を受賞。〔藤村 淳〕

レニ [Guido Reni] (1575〜1642) イタリアの画家。ボローニャ派の代表的画家のひとり。カールバルトおよびロドビコ・カラッチに学ぶ。一時ローマで活躍し，同地でカラバッジョの影響を受ける。神話画・宗教画を好んで描いたが，その雄大でドラマチックな構図は，ラファエロおよび古代ギリシア・ローマ芸術におうところが多い。ローマ，ロスピリオージ宮の天井画《オーロラ》は最も有名な作品である。

レーニア(山) [Rainier] アメリカ合衆国，ワシントン州南西部，カスケード山脈の最高峰。休火山。標高4,392m。山頂は万年雪におおわれ，28の氷河があるが，そのうちの11は長さ6〜10kmに達する。山腹はみごとな森林でおおわれ，山麓(さんろく)には美しい草原が展開する。最後の火山活動は1870年。付近一帯は1899年レーニア山国立公園に指定された。インディアン語名ではタコマ山といい，日系人はタコマ富士とよんでいる。北西90kmにタコマ市がある。〔大石堪山〕

レニウム [rhenium] 周期律表第Ⅶ族に属する金属元素。記号Re，原子番号75，原子量186.2。1925年ドイツの鉱山で銅精錬の副産物中に見いだされ，ライン川にちなんで命名された。キスイエン鉱・モリブデン鉱・テツマンガンジュウ石などに含まれる。モリブデン冶金(やきん)の副産物として得られる過レニウム酸カリウムに塩化カリウムを加え，熱しながら水素で還元すると得られる。銀白色，六方晶系結晶，粉末はかっ色である。融点3,167℃，比重21.40。化学的性質は同族のマンガンに類似している。金属は空気中では酸化されないが，酸素中で熱すると黄色の七酸化レニウムとなる。高真空電子管材料などに使用される。〔古屋 弘〕

レニエ [Henri de Régnier] (1864〜1936) フランスの詩人。自由詩運動の中心人物であり，マラルメ*門下の象徴主義詩人であったが，のちには定型の短詩を多く書くに至った。音楽性と優雅な官能性をあわせもつ詩風で，詩集《夢のごとく》《水の都市》がある。わが国には，上田敏*らの訳詩で古くから紹介され愛誦された。ほかに小説作品も数多い。



レ ニ《エウロペの掠奪》 ツール美術館蔵



レーニン H.アンドレーエフ《V. I. レーニン》



レニングラード 市の西郊にあるピョートル大帝の別荘，夏宮の庭園。18世紀につくられた近世ロシアの代表的な建築式庭園の一つ

レーニン [Vladimir Il'ich Lenin] (1870〜1924) ロシアの革命家。本名はウラジーミル-イリイッチ-ウリヤーノフ。レーニンは1902年ごろからのペンネーム。ボルガ河畔のシンビルスク(いまのウリヤノフスク)に，視学官の子として生まれた。夭折(ようせつ)したひとりを除き，兄弟5人はすべて革命家となった。1887年長兄アレクサンドルはアレクサンドル3世暗殺陰謀のかどで19歳で処刑された。レーニンはカザン大学の法学部にはいったが，学生騒動に加わったため放校処分をうけた。1891年ペテルブルグ大学の校外生として卒業資格認定試験をうけ弁護士となったが，まもなく革命運動に走った。1894年《人民の友とは何か》を書き，ナロードニキを批判し，ロシア社会民主党の設立を主張した。ペテルブルグで〈労働者階級解放闘争同盟〉を結成したが，逮捕され，1897年3年間のシベリア流刑に処せられた。この間《ロシア社会民主主義者の任務》および《ロシアにおける資本主義の発達》を著わした。刑期満了後，スイスへ亡命し，プレハーノフ*ら〈労働者解放団〉の人々と雑誌《イスクラ(火花)》を創刊し，ひそかにロシアに送った。1903年，国外で社会民主労働党大会が開かれ，大会席上，ボリシェビキ*とメンシェビキ*の分裂が起こった。それ以来，ボリシェビキは独立の政党となり，レーニンの指導下にあった。1905年の革命に際し，ペテルブルグに帰って参加したが，革命は失敗しフィンランドにのがれ，1907年に以後9年間の亡命生活にはいった。スイスにあって《社会民主党》を発行，1910年には《唯物論と経験批判論》を著わした。1912年にパリへゆき，次いでオーストリアのガリシアに移り，そこから国内の革命運動を指導し，ペテルブルグから日刊紙《プラウダ*》を発行した。1914年，第1次世界大戦の勃発(ぼっぱつ)によりスイスに追放された。1915年にこの国際戦争を国内における革命に転化することを主張し，1916年にはいわゆる《帝国主義論》を書いた。1917年3月ロシアにおいてメンシェビキの革命が成功すると，レーニンはスイスからドイツ政府の仕立てた封印列車で，30人の同志とともにロシアに送られた。ドイツとの即時無条件講和を主張したが敗れ，フィンランドに亡命した。この間《国家と革命》を著わし，11月にボリシェビキ革命が成功，労働者・農民・兵士のソビエト*が成立すると，直ちにドイツとブレストリトフスク条約*を結び，ソビエトを破滅から救った。以後，ソビエトの人民委員会議議長となり，終生この地位にあって，ロシアにおける社会主義国家の建設に尽力した。1919年に第3インターナショナルを組織し，《民主主義と独裁に関するテーゼ》を書き，1920年《左翼共産主義小児病》を著わした。1924年モスクワ効外ゴーリキー村で，脳出血のため没した。〔林 達〕

レニングラード [Leningrad] ソ連，ロシア連邦共和国西部のフィンランド湾に面する都市。1914年まではペテルブルグ，1914〜1924年にはペトログラードといわれ，1924年1月にレーニンの死後，彼にちなんで現名に改められた。人口362万(1972)。モスクワに次ぐソ連第2の大都市で，市街はネバ川河口三角州の多くの島々にまたがっている。ロシア皇帝の旧居城であった冬宮を中心に，ネフスキー大通りなどの街路が放射状に延び，市中を延長300km以上に及ぶ運河が縦横に貫いている。冬は凍結し，砕氷船で港内の航路を確保するほど厳寒で

あるが，バルト海をはじめ，運河と河川によってボルガ川・カスピ海・黒海へと通ずる重要な港でもある。帝政時代からの工業都市で，精密機械・電機・造船・化学・パイプ・食品，その他，多種の工業製品を生産する。またモスクワと並んで文化の一中心をなし，レニングラード大学をはじめ多数の大学・専門学校，科学アカデミーの研究所，プーシキン劇場・エルミタージュ美術館，冬宮その他の博物館・図書館などがある。1703年にピョートル大帝によって要塞(ようさい)が建設されたのが市の起源で，以来ロシアのヨーロッパへの窓として急速に発展し，1712年から1917年の革命までは首都であった。1825年のデカブリストの乱以降は，革命運動の拠点ともなり，1917年の二月・十月革命の主要な舞台となった。第2次世界大戦では，ドイツ軍の29か月にわたる包囲を耐えぬき，英雄都市の称号を与えられた。〔斎藤晨二〕

レニングラード-バレエだん【レニングラード-バレエ団】ソ連のバレエ団。1738年，帝室舞踊学校として創設され，以後ペテルブルグ帝室ボリショイ劇場バレエ(1830)，マリンスキー劇場バレエ(1860)と改称され，1935年に表記の名称となり現在に至っている。モスクワのボリショイ-バレエ団とともに現在ソ連の二大バレエ団の一つに数えられている。新作のボリショイ，古典のレニングラードといわれているように，ソ連古典バレエの伝統を最もよく保存している。1960年(昭和35)以後たびたび来日。〔高橋孝一〕

レニングラード-フィルハーモニーかんげんがくだん【レニングラード-フィルハーモニー管弦楽団】ソ連の代表的なオーケストラ。1772年に創設されたペテルブルグ音楽協会が前身で，1802年に宮廷管弦楽団として発足した。1882年に帝室交響楽団として再組織され，1917年の革命後に国立管弦楽団として，新たな歴史を始めることになった。革命後の初代指揮者はクーセビツキー*，1930年からはガウク，1938年からはムラビンスキー*があたっている。日本には1958年(昭和33)と1970年に訪れ，ソ連のオーケストラでは最も洗練された響きを聞かせてくれた。〔向坂正久〕

レーニンごう【レーニン号】1959年にソ連で建造された世界最初の原子力砕氷船。世界で2番めの原子力船で，南極観測や北氷洋を経由する商船隊の水路確保に活躍している。排水量16,000t，全長134m，幅27.6m，主機ターボ電気推進44,000馬力，航海速力最大18ノット。原子炉*は加圧水型で，熱出力90,000kW×3基。➔原子力船

レーニンしょう【レーニン賞】

1 ソ連で文学・芸術・科学技術などの分野で，すぐれた業績のあったものに対して与えられる賞。1925年創設されたが，1935年中絶。1939年にスターリン賞が創設されたが，1956年レーニン賞として復活した。2年に1回(奇数年)授賞。

2 国際レーニン平和賞。1949年創設された国際スターリン平和賞を1956年改称したもの。毎年世界平和に貢献した各国の社会活動家に授与される。日本では大山郁夫(いくお)・関鑑子(あきこ)・安井郁(かおる)・太田薫(かおる)・岩井章(あきら)が受賞。



レーニン号 砕氷能力5m，補給なしで18か月間航行可能

レネ［Alain Resnais］(1922～)フランスの映画監督。第2次世界大戦直後，独創的な美術映画《ヴァン-ゴッホ》で一躍有名となり，記録映画《夜と霧》を経て，デュラス*の脚本による《二十四時間の情事》(1959)において，繊細な技法で記憶と人類の破壊とを描いて世界的名声を確立。さらにロブ-グリエ*脚本による《去年マリエンバートで》や《戦争は終わった》などで，ブレッソン*と並んで戦後フランス映画を代表する地位に立つに至った。〔蓮実重彦〕

レバー［liver］肝臓のこと。一般にウシ・ブタ・トリなどの肝臓をさす。成分の大部分はタンパク質で，脂肪は少ない。各種のビタミン，特にビタミンA・E・B_{12}を多く含み，栄養価は高い。肉と同じように調理するほか，レバーソーセージやレバーペーストの原料として用いられる。



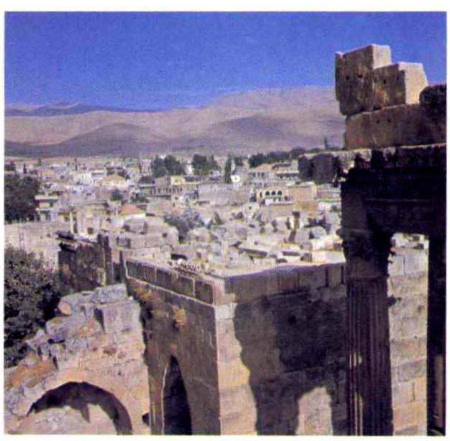
300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市
10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　油田

レバノン(共和国)［Republic of Lebanon, Al-Jumhuriyat al-Lubnániyat］地中海東岸，シリア-アラブとイスラエルにはさまれた共和国。面積10,400km²。人口316万(1972年推)。首都ベイルート。



レバノンの国旗 1946年制定。赤は愛国心と犠牲を，白は山に雪，丘に石灰岩のみられる国土を象徴している。中央のレバノンスギはこの国のシンボルとして世界的に有名である

〔自然・住民〕レバノン山地が海岸に沿って南北に走り，シリア国境にはアンチレバノン山地が走っている。両山地の間にはアフリカ大地溝(ちこう)帯の延長であるベカー地溝が谷をなしている。海岸部は地中海性の気候で，夏は涼しく，冬は暖かいことから，西アジア有数の避暑・避寒地になっているが，内陸に進むにつれて大陸性気候に変わる。地中海側と内陸側では植生の種類も異なり，家屋の構造にも差異が見られる。住民の大部分は7世紀以後にアラブ化した広義のアラビア人で，ほかにトルコ人・イラン人・アルメニア人，これらの混血，およびヨーロッパ人との混血もいる。国語はアラビア語だが，一部ではフランス語も用いられる。風俗・習慣はアラブ的だが，宗教は，近年フランスとの接触が多くなり混血などがふえたことから，過半数がキリスト教徒である。



レバノン 国の北東部，レバノン山脈の東のビカー高原にあるバールベックの遺跡。ローマ時代の巨大な石造の神殿や宮殿の廃墟が残る

〔産業・経済〕平地部では年間約900mmの降雨があり，麦類を産し，沿岸部では柑橘(かんきつ)類も栽培される。野菜・くだもの・たばこ・オリーブ油などの輸出もあるが，この国の経済をささえるのは商業活動で，貿易による手数料収入が国民所得の26%を占め，金融・銀行も8%を占めており，これはフェニキア時代からの伝統である。またパイプラインの石油通過料金，観光収入，海外移民の送金，アラブ富裕者の投資など

も重要な財源で，所得水準はアラブ諸国の中で最も高い。工業では食品加工・製油・織布・メリヤス・ベニヤ板・セメントなどの軽工業が行なわれる。

〔歴史・政治〕古代エジプト文明以来，この地方は先進文明の影響を強く受けてきた。1920年，トルコ領シリアがフランスの委任統治下にはいると，シリアの一部であったレバノンは，宗教的対立を理由に分離し1944年に独立した。アラブ連盟の一員をなすが，イスラエルとの対立はヨルダン川転流計画の阻止にもみられるように深刻な状態にある。政体は共和制で，元首は大統領で任期は6年。連続再選はできないが，大統領はマロン派キリスト教徒から，首相はシーア派イスラム教徒から選ばれることが憲法に規定されている。国会は一院制，議員は99人で，年2回召集される。なお，1967年の中東戦争後はアラブ-ゲリラの拠点となっている。〔今井留吉〕

レハール［Franz Lehar］(1870～1948) ハンガリーに生まれ，ウィーンで活躍したオペレッタの作曲家。プラハ音楽院で学んだのち，軍楽隊の指揮者となり，各地を回ったが，1902年に発表したオペレッタ《ウィーンの女たち》の成功でウィーンに居を構え，《メリー-ウィドー》(1905)によって世界的な名声を得た。以後，次々とオペレッタを発表，ヨハン-シュトラウスの後継者としての地位を築き，ワルツでも《金と銀》などの佳作を残している。〔向坂正久〕

レパントのかいせん【レパントの海戦】1571年ギリシア半島の一角レパント沖におけるオスマン-トルコ海軍とベネチア連合艦隊の海戦。1570年オスマン-トルコがキプロス島を占領すると，地中海貿易に脅威をうけたベネチア・ジェノバは教皇を動かして，同じくオスマン-トルコの地中海進出を恐れるスペインと同盟を結び，翌年この海戦となった。戦闘は連合艦隊の勝利に終わり，フェリペ2世*のもとでスペインの極盛期をもたらすとともに十字軍以来の地中海海上権争奪戦におけるキリスト教徒の勝利を決定して，イスラム教徒を地中海から後退させた。〔大野慎一郎〕

レバントぼうえき【レバント貿易】エジプト・トルコ地方を中心に地中海経由で行なわれたインド・アジア方面との貿易。東方貿易ともいう。〈レバノン〉はフランス語・イタリア語で〈(日が)上る〉を意味することばで，地中海東部沿岸地方に対するヨーロッパ中世以降の呼び名。中世には，はじめサラセン人が東西貿易を独占していたが，11世紀末の十字軍の遠征を契機として，イタリア諸都市がこれに携わり東方貿易はますます盛んとなった。東方産の香料・薬物・絹などに対する需要は急増し，特にモルッカ諸島をはじめとするインド・東南アジア産の香料は調味料として珍重され，ヨーロッパの銀・織物と交換し，イタリアだけではなくドイツ・フランスなどの都市も繁栄した。しかし，15世紀末新航路の発見とともにアフリカ回り航路が利用されるようになってレバント貿易は衰退した。〔喜多迅鷹〕

レビー［Max Levy］(1857～1914) アメリカの写真製版家。ルイス-エドワード-レビー(1846～1919)の弟。ミシガン州デトロイトの生まれ。兄とともに写真製版の発明に従事した。1893年に網版印刷用の網目スクリーンを発明し，精密な画線機の発明とともに精密な網版印刷を可能にした。彼の改良したスクリーンは，平行線を彫った2枚のガラスからなり，線が十字状に交わるようにガラス板をはり合わせて小さな透過面をつくる方式であった。〔山崎俊雄〕

レビき【レビ記】《旧約聖書》の第3書。〈モーゼ五書*〉の一。おもに礼拝に関する諸規則の集成で，BC428年ごろ公布された。犠牲の供物の規定，祭司の聖別の規定，汚れとその清め，清浄な生活の規定，安息日や過越祭*(すぎこしのまつり)その他の祭りの規定などが主たる内容で，歴史記述は少ない。どのように礼拝すればヤーウェ*の選民にふさわしく生きていけるかを，祭司の立場から示そうとしたもの。本書の教える信仰は19章2節の〈主が聖であるから，あなたがたも聖なる者とならねばならない〉に集約される。〔松田 治〕

レビ-ストロース［Claude Lévi-Strauss］(1908～) フランスの人類学・民族学者。ベルギーの生まれ。コレージュ-ド-フランス教授，パリ大学高等研究指導教官。彼は〈構造主義*〉の主唱者のひとりとして最近多方面から注目を浴び，特に親族関係・象徴的理念・象徴的思想などの構造分析，および人類学の分析などの研究の成果は大きい。主著に《親族の基本構造》(1949)，《悲しき熱帯》(1955)などがある。

レービット［Karl Löwith］(1897～1973) ドイツの哲学者。ミュンヘン生まれ。ミュンヘン・フライブルク・マールブルク各大学で哲学・生物学を学ぶ。1936年(昭和11)ナチスの圧迫をのがれて来日，一時東北帝国大学で教えたが，1941年アメリカに渡り，第2次世界大戦後の1952年，ヤスパースのあとをうけてハイデルベルク大学教授となる。彼は実存主義的傾向をもつが，社会学的視野も広い。主著《人間存在の論理》《ニーチェの哲学》。〔豊福英利〕

レピドゥス［Marcus Aemilius Lepidus］(？～BC13) 古代ローマの政治家。共和政末期の内乱ではカエサル*に味方した。BC46年執政官となったが，カエサル死後はアントニウス*を支持し，BC42年より三頭政治*を行なった。アフリカを支配したが，オクタビアヌスと対立し失脚した。

レビ-ブリュール［Lucien Lévy Bruhl］(1857～1939) フランスの社会学者・民族学者・哲学者。パリのユダヤ人の家に生まれ，エコール-ノルマン-シュペリユールを卒業，ソルボンヌ大学などで哲学史を担当した。はじめコントの実証主義を研究したが，しだいに社会学的研究に進んだ。1910年主著《未開社会の思惟(しい)》を著わし，未開人の心性を〈前論理的〉として近代人の心性との根本的な相違を説いた。

レビュー［revue］ 本来は定期刊行誌・調査・批評を意味するフランス語。転じて年末に1年のできごとをめまぐるしい場面の転換と風刺的な寸劇・踊り・歌などを用いておもしろおかしく演じてみせる大衆芸能をさすようになった。語源が示すとおり，フランスに起源を有し，その源流を中世の笑劇に求めることができる。中世笑劇の風刺精神にさまざまな見せ物的要素が加わり，19世紀末からパリのキャバレーやサーカスのアトラクションとして，小規模な形で行なわれていたものがこの原型である。1917年パリのカジノ-ド-パリで上演されたグランド-レビューによって，劇場芸能としてのジャンルを確立した。ドラマとして一貫した筋がなく，互いに関連のない種々雑多な芸能を集め，舞台に変化(バラエティー)をつける点ではバラエティー-ショーと同種のものであり，両者の区別はつけがたい。イギリスでは17世紀の酒場で行なわれていた風刺的な歌や軽い演芸にレビューの原型がみられるが，これはバラエティー-ショーとよばれて現在まで伝わっている。

わが国では，昭和のはじめ浅草の軽演劇や宝塚(たからづか)・松竹などの少女歌劇に取り入れられ，一時隆盛をきわめたが，現在では豪華なスペクタクル的要素が強くなる反面，本来の風刺精神が希薄になり，発生当時のものとかなり違ったものになっている。〔高橋孝一〕

レビレートこん【レビレート婚】夫が死亡したとき未亡人が夫の兄弟の妻になる婚姻習俗で，兄弟逆縁婚ともいう。これには，男が死んだ兄弟の妻との結婚を義務づけられている社会と，男が結婚を欲しないならばその権利を放棄できる社会とがあり，またこの結婚義務あるいは権利が弟にのみ限定されている社会もある。

レビン［Kurt Lewin］(1890～1947) ドイツの心理学者。ベルリン大学を中心とするゲシュタルト心理学*派のひとりとして活躍したが，ナチの迫害を避けてアメリカに亡命。各地の大学を経てマサチューセッツ工科大学で集団の研究室を主宰，形態(ゲシュタルト)の概念を知覚面に限らず，これを集団の心理学に応用して独自の学説を提唱した。集団力学(グループ-ダイナミックス*)の理論はその成果で，集団内には，個人の心理の単なる集積ではなく，独特な集団自体の心理が働くとした。〔山崎恒夫〕

レーピン［Ilya Efimovitch Repin］(1844～1930) ソビエト-ロシアの画家。ロシア-リアリズム絵画の偉大な画家であ

り，スリコフらとともに移動派を形成した。有名な《ボルガの舟引き》などのように貧しい民衆をテーマにした絵画のほかに，肖像画・風景画にもすぐれていた。彼の写実主義には表現主義的な要素が強いが，のちの社会主義リアリズムに与えた影響は多大であった。革命後はフィンランドに住む。


レーピン
《ボルガの舟引き》
1872

レーブ ［Oscar Loew］（1844～1941）ドイツの農芸化学者・植物生化学者。マルクトレトウィッツの生まれ。ミュンヘン・ライプチヒ両大学に学ぶ。アメリカに渡り，いったん帰国したのち，1893年（明治26）に来日し，帝国大学農科大学（現東京大学農学部）教授となり，日本の農芸化学者・生化学者の育成に努めた。1907年離日し，再びアメリカに渡り，帰国後ミュンヘン大学教授。タバコの葉の発酵が微生物によるのではなく，タバコの酵素によることを発見した。〔中村禎里〕

レファレンダム ⇨国民投票

レプチャぞく 【レプチャ族】 シッキムおよびインドのダージリン地域に住むモンゴロイド系部族。言語はチベット-ビルマ語族に属し，彼らはみずからをその言語とともにロングとよぶ。以前レプチャ族は山岳地帯に独立して住んでいたが，17世紀にシッキム-チベット人（ボウティア人）の支配下に入り，18世紀以後ネパール人により，その居住地の大部分を占拠されるに至った。ダージリンではかつて狩猟地であった森林を開いてチャの栽培を行なっており，シッキムでは1938年指定保留地に住むこととなり，山地では陸稲・ソバ・キビを，平地では水稲・ショウガを栽培している。宗教はラマ教であるが，精霊崇拝も盛んである。〔佐々木宏幹〕

レプトスピラ ［*Leptospira*］ 微生物のスピロヘータ目の一属。1915年に稲田・井戸らが発見したワイル病の病原体であるレプトスピラ-イクテロヘモラギアエのほか，静岡県の秋疫（あきやみ），福岡県の七日熱など日本や世界各地の地方病の病源体がこれに属する。ネズミが保菌してその尿とともに排泄（はいせつ）され，農作業中に皮膚から侵入することが多い。

レプトセファルス ［leptocephalus］ ウナギ目魚類の変態前の幼生。サッコファリンクス目やニシン目のある魚類にも見られる。柳葉状幼生といわれるように，ヤナギの葉のように細長く側扁（そくへん）した体をしており，透明である。一般にこの幼生を経て成魚と同じ体形となるが，この際体は一時的に縮小するといわれている。

レプラ ⇨癩（らい）

レブリヤヌ ［Riviu Rebreanu］（1885～1944） ルーマニアの作家。20世紀前半のルーマニア農村の暗い現実を，自然主義的技法によって描いた《イオ》，1907年の流血の農民一揆（いっき）を描いた《一揆》，第１次世界大戦時の少数民族の悲劇を描いた《絞首台の森》などが代表作である。

れぶんとう 【礼文島】 北海道の北西部，本土から約50km離れて日本海上に浮かぶ島。面積81.7km²，人口6,000。全島が宗谷支庁礼文町を形成する。島名はアイヌ語の〈レブンシリ〉つまり〈沖の島〉にちなむという。南北に細長く，地形は丘陵性で，最高点は中央部の礼文岳（490m）。南部に香深，北部に船泊の集落があり，香深に町役場がある。江戸末期からニシン漁でにぎわったがいまはすたれ，コンブやアワビなどを主とする沿岸漁業と，観光がおもな産業となっている。南東の利尻（りしり）島*とともに，利尻礼文国定公園の区域内に含まれ，稚内（わっかない）～船泊～香深～沓形（くつがた）（利尻島），香深～鴛泊（おしどまり）（利尻島）～稚内などの定期航路があり，最近は観光客が増加している。北端に小岩礁の海驢（とど）島があり，45°30′Nに近く，日本の最北端宗谷岬（そうやみさき）よりわずかに南に位置する。〔浅井得一〕

レベッカ イギリスの女流小説家デュ-モーリア（1907～　）の小説（1938）。心の素直な娘がふとしたことから中年の紳士と結ばれ，マンダレーの邸宅の女主人となり，古い邸宅によどむクモの巣のような因習と伝統に縛られながら幸福を求めて生きる姿を，主人公の手記の形式で描いたもの。ゴシック小説*ふうのスリルとサスペンスに満ち，同時に女性心理が生き生きと描かれ，世界各国で数多く読まれている。〔浅井得一〕

レベラーズ ［Levellers］ ピューリタン革命期にジョン-リルバーンらに率いられた急進派。〈水平派〉〈平等派〉などと訳される。共和政・普通選挙制・上院の廃止，宗教上の寛容などを主張，議会軍の兵士たちの間で勢力を有し，人民協約を起草してO.クロムウェル*らの上級将官の独裁を批判した。1649年全軍会議の復活を求めて反乱を起こし，クロムウェルの共和政を王政と変わらないものとして攻撃した。1653年リルバーンが弾圧を受け，その後影響力は急速に減退した。〔板橋重夫〕

レベルけい 【レベル計】
1 一般には水準・水平・標準の意。
2 水準測量に使用する水平を求めるための測量機械。一定の視準線を求めるための望遠鏡，気泡管（きほうかん）および視準線を水平に調整するための装置，三脚などからなる。水準測量地点に立てられた標尺は，望遠鏡を通して見える十字線の横線の位置で読み取る。種類は多く，Yレベル・ダンピーレベル・可逆レベルなどがある。Yレベルは望遠鏡のみが器械から取りはずしができるもの，ダンピーレベルは望遠鏡が器械に固定したもの，可逆レベルは望遠鏡の取りはずしはできないが，望遠鏡の軸の回りに回転できるようになったものをいう。ほかに，簡単なハンドレベルがある。これは望遠鏡内の半円部分に円形水準器の気泡が見えるようになっていて，残り半円部分で標尺を読み取る方式である。また最近では，水準器を用いないで自動的に視準線が水平になるようにつくられたものもある。〔船越　泉〕

レーマー ［Olaus Römer］（1644～1710） デンマークの天文学者。ユトランドのアールフースの生まれ。コペンハーゲン大学に学んだのち，1671年パリに留学。その後，1681年コペンハーゲン大学の数学教授ならびにコペンハーゲン天文台長。1676年木星の衛星の食現象の間隔が，時期によって系統的に変化することから光の速度を求めた。また天体観測用の子午環の発明者としても知られる。

レマルク ［Erich Maria Remarque］（1898～1970） ドイツの小説家。18歳で第１次世界大戦に従軍，その体験に基づく反戦小説《西部戦線異状なし*》で世界的反響をよんだ。続いて《帰還》を発表，1923年ナチスに追われてスイスへ亡命し，1933年著作は発禁になった。1939年アメリカへ移住して市民権を獲得。1946年発表した《凱旋門（がいせんもん）》は第２次世界大戦前夜のパリを舞台に，強制収容所をのがれた一医師を主人公に，亡命者らの不安と焦燥を描き，ベストセラーズとなった。〔酒井　府〕

レマン（湖） ［Leman］ ジュネーブ湖ともいう。スイス西部にある湖で，フランスとの国境にある。氷河の侵食によってできた細長い三日月形の湖で，面積580km²，湖面標高372m，最深310m，透明度21mである。南東からローヌ川が注ぎ，南西部から流出している。アルプスの山々や湖畔の古都の建築物が藍（あい）色の湖水に影を映す景観は古来有名で，スイス随一の観光地となっている。湖畔にジュネーブ・ローザン



レマン湖 湖の西岸にある保養地モントルーの町。瀟洒なホテルが湖岸や山の中腹・頂にも建っている。シヨンの古城もここにある

ヌ・モントルーなどの国際的な保養都市がある。〔長津一郎〕

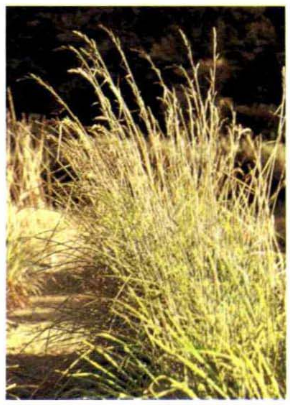
レ-ミゼラブル ユゴー*の長編小説(1862)。一切れのパンを盗んだために投獄され，社会を呪(のろ)って出獄したジャン-バルジャンが，ミリエル神父の教えに愛と良心をとりもどして，博愛の道にはいるという物語。主人公を執拗(しつよう)に追う警視，薄幸の少女コゼットとその恋人など，多くの人物や挿話(そうわ)・事件をつないで，当時のフランスを描く叙事詩であるとともに，贖罪(しょくざい)と悪に対する善の闘いを描く魂の叙事詩でもある。日本でも黒岩涙香*訳《噫(ああ)無情》以来，多くの読者を得ている。〔井上輝夫〕

レーミゾフ [Aleksei Mikhailovich Remizov]（1877～1957）ロシアの小説家。第1次世界大戦およびロシア革命直前に勃興(ぼっこう)した新写実派の中心人物。象徴派の詩的技巧と民間伝承の民族的様式を融合させることを志し，多くの作家に影響を与えた。1921年パリに亡命。代表作は《池》《ユダの悲劇》《燃えあがるモスクワ》など。

レミング [lemming] 哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ネズミ科。頭胴長14cm，尾長1.7cmほど。ふつう背と頭は黒かっ色，腹面は灰黄色で，腰や耳に橙色(とうしょく)の斑(まだら)があり，つめは長い。北ヨーロッパに分布し，おもに山地にすむが，冬には森林帯などに移る。春になると湿った草地や林のやぶや岩の間に大きな丸い巣をつくって繁殖する。定期的に大増殖し，群れをなして移動するためタビネズミの別名がある。正常では4～5月に繁殖するが，年により冬から繁殖が始まる。1腹5～7子，条件がよいと1シーズンに1頭が4～5回も産む。子は3週間で巣立ちし，数週間で性成熟する。〔今泉吉典〕

レモン [lemon] 檸檬とも書く。双子葉植物・ミカン科。東インド原産の常緑高木で，幹や枝に長いとげがある。葉は長さ8～10cmの倒卵形で鈍い鋸歯(きょし)があり互生する。花は5～6月葉腋に白色5弁花をつける。果実は長さ8～12cmの楕円(だえん)形で，果皮は淡黄色，果肉は酸味が強いため生食には適さないが，果汁(かじゅう)はビタミンCを多量に含み独特の風味がある。

アメリカのカリフォルニアとイタリアのシチリア島とが世界の二大産地で，日本では瀬戸内海沿岸などで栽培されるが，耐寒性が弱く，また降雨の少ないところに適する性質上，品質は外国のものより劣る。代表品種にリスボン・ユーレカ・ゼノアがあり，リスボンは1903年(明治36)に日本に導入された。かおり・酸味などによって愛好され，レモンティー・レモネード・レモンスカッシュなど，あるいは料理に添えたりして用いるほか，美容にも用いられる。〔岩垣駛夫〕



レモングラス

レモングラス [lemongrass] 単子葉植物・イネ科。原産地は不明だが，熱帯で香料をとるために栽培される多年草。葉は多数根生し，高さ50～60cm，幅1cmほどの細長い披針(ひしん)形で，銀白緑色を呈する。花茎は葉叢(ようそう)から出て，高さ1～1.5mになってまばらに葉をつけ，上方に大形の円錐(えんすい)花序をつける。小穂は花序の小枝の包葉中に2個つき，一方は有柄の雄性小穂，他方は無柄の両性小穂である。全草にレモンに似た香気があり，茎葉からレモングラス油をとる。香気の主成分はシトラールで，香水・せっけん・化粧品などの香料にする。レモングラスのほか，近縁のシトロネラグラス・ベチベル・パルマローサグラスなどが同じ目的のために栽培され，これらをまとめてコウスイガヤ(香水茅)といい，主としてインド・セイロンで栽培されている。〔横井朝子〕

レーモンド [Antonin Raymond]（1889～1976）チェコ生まれのアメリカの建築家。1906年から1910年までプラハで建築を学んだのちアメリカに渡った。ライトの弟子(でし)として帝国ホテル建築のために来日し，東京に設計事務所をもった。聖路加病院・東京女子大学などの建築に従事したが，1938年一時帰国。第2次世界大戦後再び東京に事務所を開き，日本の建築界に多大な影響を与えた。

レユニオン(島) [Réunion] インド洋，マダガスカル島の東方650kmにある火山島。面積2,512km²。人口43万(1969)。フランス領。南東貿易風帯にあって雨量が多く，植物が繁茂し，サトウキビなどを産する。サイクロン*(インド洋の熱帯低気圧)の通り道にあたるため，しばしば被害を受ける。チョコレート・たばこ・かんづめなどの工業がある。住民はフランス人とその混血，インド人・中国人・黒人からなる。16世紀はじめにポルトガル人が発見し，その後フランスの植民地となった。〔大崎 晃〕

レーヨン [rayon] セルロース再生繊維の総称。はじめは人造絹糸と称していた。1884年フランスのシャルドンネが工業化したのはニトロセルロース人造絹糸であったが燃えやすい欠点があった。1891年にイギリスのクロス・ビバン・ビードルの発明したビスコース法の人造絹糸製造法が一般化して，世界的に生産されている。のちに銅アンモニア法の再生セルロース人造繊維が発明され，キュプラ*繊維とよばれている。レーヨンにはフィラメント(連続繊維)とステープル(短繊維)とがあるが，単にレーヨンといえば前者をさす場合が多い。フィラメントは絹糸と同様な用途に供されるが，動物繊維である絹糸に比べて，吸水性に富み，光沢があり，繊細な製品につくられる。光沢を消すために，酸化チタンを混入したダル(つや消し)のものもつくられている。最近は強力人絹がつくられて，タイヤコードにも使われている。〔小川安朗〕

レーヨンし【レーヨン糸】 レーヨンを何本か撚(よ)り合わせた糸。レーヨンのフィラメント(連続繊維)を用い，所要の本数を合わせて過度に撚りをかけ，糸とする。単糸は，ふつう5デニール内外，細いものは2～3デニールで，これを何本か合わせて，30～300デニールの太い糸として使う。標準的な120デニールのレーヨン糸は単糸を24～26本合わせたものが普通である。細いものを数多く集束したものをマルチ糸，また，太いもの1本の糸をモノフィラメントという。〔小川安朗〕

レーヨンステープル ［rayon staple］ レーヨン短繊維。レーヨンフィラメント(連続繊維)を綿繊維あるいは羊毛繊維の長さに切断したもの。紡績して糸として用いる。太さは綿紡用1.5デニール内外，毛紡用3～5デニールが普通である。直線状のものをレギュラー，羊毛と同様にらせん状に縮らせたものをクリンプ(捲縮)ステープルという。近来は強力ステープルも生産されており，その一つであるポリノジックは湿潤時における弾性率が高く綿繊維に近似した性質をもつ。また，ほかの繊維質を混入して弾性を与えた改質レーヨンステープルも研究されている。〔小川安朗〕

レーリー ［John William Strutt Rayleigh］（1842～1919） イギリスの物理学者。エセックスの生まれ。ケンブリッジに学び，マクスウェルのあとを継いでキャベンディッシュ研究所教授，のち王立研究所教授。1908年ケンブリッジ大学名誉総長。音響学，弾性波の研究，電気単位の精密測定，色彩論，流体力学，放射論(レーリー-ジーンズの式)などその研究は多方面にわたる。1894年ラムジとともにアルゴンを発見した。1904年ノーベル物理学賞を受賞。〔藤村 淳〕

レーリーさんらん 【レーリー散乱】 光の散乱現象のうち，入射波の波長に比べて散乱粒子の直径が十分に小さく，また散乱光の波長が入射光のそれと同じ場合をいう。レーリーがはじめて定量的に研究した。それによると，入射波の電場によって粒子に振動する電気2重極が誘起され，これが2次的な波を四方に送り出すため散乱波が生ずる。散乱光は一般にかたよっており，特に入射波と垂直な方向では完全な直線偏光が観測される。レーリー散乱の大きな特徴は，散乱光の強度が波長の4乗に逆比例するため，短波長の光が長波長のものに比べて非常に強く散乱されることである。たばこの煙に白色光をあてると青く見えるのはこれによる。また晴れた空が青いのは，空気の分子により太陽光の短波長部がより多く散乱されて眼にはいるからである。逆に夕日では光線が斜めに長い大気層を通過するため，散乱により青や紫の光を失い，赤く見える。〔吉原邦夫〕

レール ［rail］ 軌条ともいう。車両の重量をささえ，車輪を円滑に転動させるための細長い鋼材。通過列車の種類・回数によって線区別に大きさと品種が多少異なる。わが国では，I字形断面の平底のものが使われているが，外国では現在でも双頭レールが敷設されているところがある。レールの大きさは，単位長さ(1m)あたりの重量で表わし，国鉄には，30kg・37kg・40kg・50kgのレールが用いられている。重いレールは，幹線や大都市の電車区間など，列車回数の多い区間で使われている。長さは，10m・20m・25mを標準としているが，継ぎ目の隙間(すきま)が列車に衝撃を与えて乗りごこちをそこね，また軌道を痛める原因となるので，連続溶接を行ない，2,000m以上の長大レール(ロングレール)を使用する箇所が多くなった。新幹線には50Tという53kgの特殊レールが用いられ，熱海(あたみ)～静岡間のロングレールは2,051mである。なお，材質は，高炭素鋼を圧延したもので，分岐器*など特別な場所にはマンガン鋼レールや焼き入れレールなどを使い，摩耗を防いでいる。➔線路〔宍塚正幸〕

レールモントフ ［Mikhail Yur'evich Lermontov］（1814～1841） ロシアの詩人。幼くして母を失い，祖母のもとで育ち，早くから複雑な陰影ある性格とすぐれた芸術的才能をみせた。青年期にいろいろ曲折を経たあと，近衛龍騎兵(このえりゅうきへい)として社交界に出た。1837年に発表したプーシキン*を死に追いやった社会の古い力への抗議の詩《詩人の死に》は，反逆詩人レールモントフの誕生といえよう。この詩の筆禍でコーカサスに左遷され，4年後プーシキン同様決闘で倒れるまでペテルブルグとコーカサスの間を往来しながら，分裂した近代的自我の不幸，英雄主義，規律なき自由へのあこがれ，倦怠(けんたい)感などを歌った新しい感覚の叙情詩・叙事詩を創作した。また唯一の小説《現代の英雄*》によってプーシキン以後の19世紀ロシア文学の一方向を示した。《ボロジノ》《商人カラシニコフの歌》《悪魔*》《ムツィリ》などの詩が傑作として名高い。〔中村健之介〕

レン ［Christopher Wren］（1632～1723） イギリスの建築家。はじめ天文学・幾何学・心理学などに興味をもち，グレイシャム-カレッジで天文学の教授をつとめたが，しだいに建築に強くひかれるようになり，特に1665年のパリ訪問から受けた影響は強かった。1669年，大火災後(1666)のロンドンの諸教会とセント-ポール大聖堂の復興の総監督を命ぜられた。レンの建築の特徴は，ネオ-クラシシズムとイギリス的伝統の感覚との混合にあるといえよう。代表作にセント-ポール大聖堂・セント-メリー-レ-ボウ・ハンプトンコート・トリニチー-カレッジ図書館がある。〔吉田玲子〕



レールモントフ

れんうんこう 【連雲港】 リエンユンカン 中国，江蘇(こうそ)省北東部の港市。旧名海州。塩田地帯の中心地にあり，運塩河によって江蘇省中部と連絡する水運の要地として発達した。1935年ベルギーの借款を得てオランダ治港公司の手で築港が完成し，上海(シャンハイ)・青島(チンタオ)間の要港となった。隴海(ろうかい)鉄道(連雲港～蘭州(らんしゅう))によって河南・陝西(せんせい)両省と連絡し，さらにその延長である蘭新鉄道によって，新疆(しんきょう)方面とも連絡するため，急速に発展しつつある。主要な移輸出品に落花生・穀物・塩・綿花・石炭などがあり，移輸入品は繊維・金属・砂糖・木材・機械など。中華人民共和国成立後，一時新海連と称したが，1961年現名となった。付近にはモリブデン鉱やリン鉱の埋蔵があり，鉄鋼業も興っている。〔船越昭生〕

れんおち 【聯落】 画仙紙*(がせんし)の縦4分の1を切り取った大きさ。書または絵を書いて，掛け物に仕立てる。

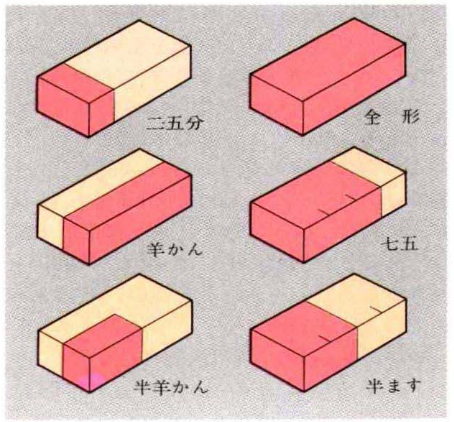
れんが 【連歌】 和歌の上句と下句に相当する，5・7・5音の長句と7・7音の短句とを，複数の参加者が順次交互につけ進め，百句をもって完結させる文芸。各句は，それぞれ1句として独立するとともに，前句と合して一つの世界を形成することが必要で，参加者は作者であると同時に享受者として，変転する作品世界を楽しむ。その変化を保障するために制定されたものが《連歌新式*》などの式目で，詩における規制



レン ハンプトンコート宮殿東方部分と庭園

の集積として特異な存在である。これらすべての点で，連歌は世界に類例のない文芸として注目されている。連歌の発生には，古代の言語信仰に根ざす問答唱和などが関係すると考えられるが，《万葉集*》巻８の大伴家持*(やかもち)と尼との唱和を最古の例とする２句付合の短連歌*は，平安朝貴族の間ではもっぱら縁語・掛詞*(かけことば)・対句*などを駆使して，機知的な応酬を楽しむ言語遊戯として，盛んに行なわれた。院政期にはいって，連歌は賦物(ふしもの)を詠み込む３句以上の鎖連歌*に発展し，承久の乱前後には，後鳥羽(ごとば)院*・藤原定家*らによってほぼ50句・100句などの長連歌*に固定した。当時は，和歌的な有心(うしん)連歌と滑稽(こっけい)な無心連歌が共存し，賦物も複式で各句によみこまれていたが，しだいに賦物は簡略化し，代わって式目が整備されていった。鎌倉中期以降になると，花の本(はなのもと)連歌として地下層に大流行し，善阿*(ぜんな)らの名手が出，南北朝にはいると二条良基*(よしもと)が救済*(ぐさい)の協力を得て《菟玖波(つくば)集*》を撰(せん)し，《応安新式*》を制定し，《連理秘抄*》《筑波問答*》などの連歌論書を著わして連歌の文芸性を向上させ，伝統文芸たる和歌に匹敵する存在となした。また一方では，連歌は武士階級のみならず，地方庶民の間でも神事や祈禱(きとう)といった宗教的行事として行なわれるほどに普及していく。次いで永享末年から応仁(おうにん)期(1440〜1468)に至って，連歌は文芸的に最大の開花をみせる。宗砌*(そうぜい)・蜷川智蘊(にながわちうん)・行助・専順・心敬*らが輩出し，特に心敬は仏道をもって連歌を内面的に深化させた。これら七賢の作を《竹林抄*》にまとめた宗祇*(そうぎ)は，宗砌・心敬の作風を止揚して連歌の正風を確立し，一条兼良*(かねら)や兼載*と協力して《新撰菟玖波集*(しんせんつくばしゅう)》を撰したが，ここに連歌ははじめて和歌をこえる文芸となった。以後連歌は，宗祇門の肖柏*(しょうはく)・宗長*・宗碩(そうせき)・宗牧・昌休*・紹巴*(じょうは)らによって，ますます広範な社会層に享受されるものとなり，形式的にも36句の歌仙(かせん)，44句の世吉(よよし)連歌などに多様化し，表現の洗練化も進んだ。しかし，内容的には大きな進化はみられず，江戸時代にはいると幕府の連歌師を里村家が世襲するなどして固定化し，荒木田守武*(もりたけ)や山崎宗鑑*によって切りひらかれた俳諧*(はいかい)に道を譲った。〔奥野純一〕

れんが　【煉瓦】　一定寸法に製造された陶磁器耐火物製品。普通れんが(赤れんが)・空洞(くうどう)れんが・耐火れんが*・耐火断熱れんがなどに分けられるが，単にれんがといえば一般には普通れんがをさす。①普通れんがの寸法は日本工業規格(ＪＩＳ)では長さ210mm，幅100mm，厚さ60mmと定めており，これを積み上げて目的物を構築するが，その際一定の寸法に割って用いる場合があり，これには七五・半ます・羊かんなどがある。



れんが


錬金術　錬金術師の実験室

普通れんがは，釉(うわぐすり)がかけてなく，多孔質で土器に近い。焼成後の赤い色は原料に含まれる鉄分が酸化発色したものである。焼成は一般には900℃前後。②空洞れんがは，空洞がれんがの全容積の25％以上を占めるもので，空洞はおもに熱伝導を減少させるためと，建築物を軽くする目的で入れられる。こうした建築用れんがは明治初期から広く用いられたが，地震に弱いため，最近では装飾性を重視した場所で使用されている。特に外装では，吸水性を防止するため釉をかけて1,200℃くらいの高温で焼成したテラコッタれんがも用いられる。③耐火れんがは，直方体以外にアーチを構築するための楔形(くさびがた)寸法も定められており，これらを並形れんがとよび，これ以外の注文製品を異形れんがとよんでいる。〔川久保正一郎〕

れんかく　【蓮角】　鳥類・レンカク科の総称およびそのうちの一種。いずれも亜熱帯および熱帯の水辺に生息する鳥で，バン*やクイナ*類のように脚は長く，趾(ゆび)も非常に長い。メキシコからアルゼンチンにかけて１種，アジア・アフリカ・オーストラリアに６種が分布する。この科の一種であるレンカクは，この科の他のものが全長20〜30cm大であるのに対し，本種にはキジのような長い尾があって全長50cm大である。顔・胸は白色，後頸(けい)は黄金色，翼の一部は白色，他の部分は濃かっ色。インドから台湾にかけて繁殖・分布し，まれに迷鳥として日本にも渡来する。〔安部直哉〕

れんがしんしき　【連歌新式】　連歌式目。二条良基*(よしもと)・救済*(ぐさい)による《応安新式*》は二度の追加ののち，1452年(享徳１)一条兼良(かねら)・宗砌*(そうぜい)の手で〈新式今案〉と〈和漢篇〉を加えて《連歌初学抄》に収められた。その後，さらに1501年(文亀１)肖柏*(しょうはく)らによって増補改訂の加えられたものがこれで，正式には《連歌新式追加並新式今案等》とよばれる。式目は以後もなお若干の変更は加えられていくが，その規範となっている。〔奥野純一〕

れんかん　【連関】　連鎖・リンケージともいう。遺伝子座の違う２個の遺伝子が，独立に行動しないでその間にある程度の関係があること。２個の遺伝子が同一の相同染色体にあれば，それらの遺伝子は同一の連関群に属する。連関群の数は，その生物の半数の染色体数に等しい。別の連関群に属する２個の遺伝子は，成熟分裂のときに独立に行動するが，同一連関群にあってしかも遺伝子の距離が近いほど，それらの遺伝子はいっしょに行動する割合が多くなる。この法則を利用して遺伝子の染色体の相対的な距離を推定し，遺伝子座を決めることができる。〔北川　修〕

れんかん　【連管】　尺八の演奏慣習についての用語。複数の演奏者による同時的あるいは交互的演奏をいう。もとは同じ長さの尺八を使って斉奏(せいそう)したが，サイズの違うものを意図的に使って音楽的効果をあげている新しい方法もある。

れんぎょう　【連翹】　双子葉植物・モクセイ科。中国原産の落葉低木で，観賞用に庭などに植栽される。枝は中空で長く伸び，先がたれて地面につくと発根する。葉は対生し無毛，長さ４〜８cm，幅３〜５cmの広卵形ないし卵状楕円(だえん)形で，ときに３深裂する。３〜４月，直径２〜2.5cmの黄色花を葉の出るまえにつける。よく似た種にシナレンギョウ・チョウセンレンギョウ・ヤマトレンギョウなどがある。これらは枝の髄に薄い板状の仕切りが多数あり，前の２種は毛がないが，ヤマトレンギョウは有毛，シナレンギョウは幹は直生し，チョウセンレンギョウは伏す。

れんきんじゅつ　【錬金術】　中世にヨーロッパで盛んとなった原始的な化学技術。発祥は１世紀のアレキサンドリアとされ，それがエジプト・シリア・ペルシアを経てアラビアにはいり，11世紀ごろになってヨーロッパに伝わり形を整えるに至った。その基盤はギリシア以来の元素観(４元素説)で，物質を構成する４元素の混合の割合を

変え，人工的に金属(4元素の混合体)をほかの物質に転換することをねらった。この転換には仲介物として媒薬が必要と考えられ，それは〈エリキシル〉〈賢者の石〉などとよばれた。こうして錬金術は，卑金属を貴金属に変えること，したがって賢者の石を求めることがその中心課題となったが，これは一方では不老長生薬あるいは万能薬の追求という形をも生み，16世紀ごろからの化学の本来の使命は，不老長生薬の発見にあるとするいわゆるイアトロ化学の一派につながっていく。こうした錬金術師たちの努力は多くの悲劇を生みながら，その目的からいえばむだ骨折りとなったが，一方ではこのような錬金術の実験を通じて化学実験の実際的な技術と知識とが発展し，蓄積されたことは注目に値する。錬金術の学説や実験方法は神秘的・魔術的な要素が強く，科学とはかけ離れていたけれども，18世紀に近代化学の基礎が築かれるまでほぼ1,000年にわたる豊富な蓄積は近代化学に資料を与え，その育つ土壌(どじょう)を用意したのである。　〔藤村　淳〕

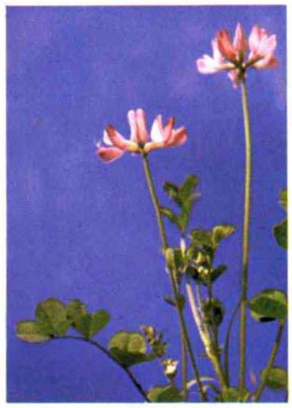
れんく　【連句】　俳諧(はいかい)用語。古典的な純正連歌に対して，素材・用語・発想などにおいて俗的な性格をもった連歌をいう。正しくは〈俳諧之(の)連歌〉，略して〈俳諧〉といったのを〈発句〉と区別して〈連句〉というようになったもの。特に高浜虚子*以後，この名称が一般化した。その作法は連歌*に比べ自由さをもつが，5・7・5の長句と7・7の短句とを交互につけ進め，100句・36句・44句などで完結させることは連歌と同様である。　〔奥野純一〕

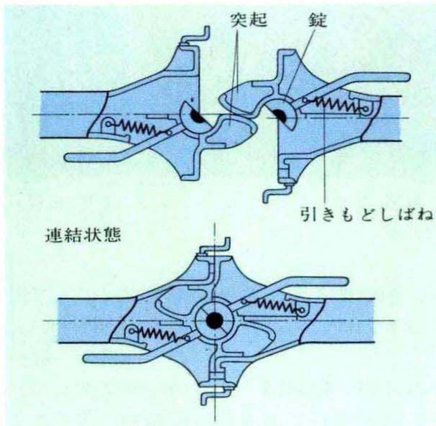
れんげおういん　【蓮華王院】　⇨三十三間堂

れんげそう　【蓮華草】　双子葉植物・マメ科。ゲンゲともいう。中国原産の越年草で，田に多く栽培され，野生化もしている。緑肥・家畜飼料とされ，また蜂蜜(はちみつ)源としても重要である。茎は根もとから多く分かれて，四方に広がり，節から根が出る。高さ10～30cm。葉は9～11枚の倒卵形の小葉からなる複葉で，互生する。各小葉は薄くて柔らかく，長さ1～2cm，幅5～15mm。4～6月，葉腋(ようえき)から高さ10～20cmの花柄を伸ばし，先端に5～10個の長さ約1cmの紅色蝶(ちょう)形花を放射状につける。なお，根の根粒には根粒菌が共生し，空中の窒素を固定する。

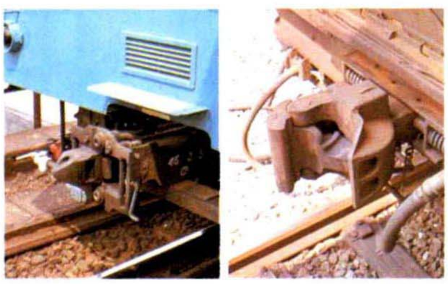
れんけつき　【連結器】　鉄道輸送の単位を大きくするため，車両と車両を連結する装置。相互にどれとでも連結できる構造をもち，機関車・客車・貨車などに使われている普通の自動連結器，電車に使われている密着式連結器，特急客車・ディーゼル動車(ディーゼルカー)に使われている密着式自動連結器などがある。密着式は，電車がほかの車種と連結することがないので，連結面の遊びがなく，加減速時に前後衝動の

レンゲソウ





密着式連結器の作用



密着式連結器　　自動連結器

連結器

少ない利点をもつものが採用されている。密着式自動連結器は，普通の自動連結器と形が同じであるが，内部機構を改良し，連結面の遊びをなくして小形化したものである。このような連結器の採用以前には，鉤(かぎ)のついた鎖を引っかけてねじで締めるという手間のかかる，しかも危険な作業を伴うねじ式連結器が使われていた。　〔宍塚正幸〕

れんけつざいむしょひょう　【連結財務諸表】　広義には会社合併の合併財務諸表や本支店会併財務諸表をも含めるが，通常は，法律的には独立した企業体であっても，経済的には一つの経済単位に包含される子会社もしくは関係会社の財務諸表*を，親会社の財務諸表に総合して作成した財務諸表をさす。連結財務諸表には連結損益計算書・連結貸借対照表・連結剰余金計算書・連結株主持ち分勘定計算書などがある。連結の範囲は客観的基準を必要とするところから，議決権株式の過半数の実質的所有を原則としているのが普通である。連結財務諸表の作成手続きは連結精算表においてなされ，各個別財務諸表の合算から始まり，親会社・子会社間のすべての取引を消去する。たとえば親会社の投資勘定と子会社の資本勘定，債権・債務関係，売り上げ・仕入れなどの損益取引などは，単一の経済単位としてみれば内部取引にすぎないものであるから消去されねばならない。この消去手続きに伴って，連結調整勘定・少数株主持ち分・連結未実現利益などに関して固有の問題が生ずる。わが国においては，1967年(昭和42)に企業会計審議会が意見書を公表しているものの，少数の企業において作成されているにすぎないし，制度化されているわけではない。アメリカではすでに1937年に，イギリスでは1948年，ドイツは1966年に制度化されている。　〔山桝忠恕〕

れんげつつじ　【蓮華躑躅】　双子葉植物・ツツジ科。高原に自生する落葉低木。高さ1～2mで，枝に開出毛がある。葉は倒披針(とうひしん)形で長さ5～10cm，幅1.5～3cm，表面にまばらに剛毛があり，裏面は淡緑色。4～6月，葉に先だって枝先に2～8個の直径5～6cmの紅色花をつける。葉裏が白色のものをウラジロレンゲツツジ，黄色花のものをキレンゲツツジという。

れんげつに　【蓮月尼】　⇨太田垣(おおたがき)蓮月

れんごうかんけい　【連合関係】　ヨーロッパ共同体(EC*)はイギリスなど4か国の正式加盟決定にみられるように，加盟国を増大し範囲を拡大できるのみならず，他の国あるいはグループと連合関係を結び，特殊・密接な関係をもつことが可能である。この連合関係には二つのものがあり，ヨーロッパ域外の発展途上国との間の貿易・援助関係に中心をおくものと，地中海沿岸諸国との間に，将来の加盟を目標としつつ準加盟方式をとるものとがある。前者としてはヤウンデ連合協定(旧フランス領・ベルギー領18か国)，アルーシャ連合協定(東アフリカ3か国)があり，後者にはギリシア・トルコ・マルタとの連合協定，マグレブ連合協定(モロッコ・チュニジア・アルジェリア)がある。さらにスペイン・イスラエルと特恵通商協定を締結している。1972年7月拡大ECとヨーロッパ自由貿易連合残留国との16か国で自由貿易圏協定を調印し，またイギリスのEC加盟に伴いアフリカのイギリス連邦発展途上国との間にも連合協定が締結されるなど，今後連合協定を他の国国に拡大していくことが予想される。この連合関係の場合は，完全加盟と異なり，EC内の決定には参加できない。〔深海博明〕

れんごうかんたい　【連合艦隊】　艦隊2個以上をもって編成し，さらに所要の艦船部隊を編入してつくる艦隊。日本とイギリ

スの連合艦隊は著名であった。日本の連合艦隊は，戦時になると海軍のほとんど全艦隊で編成され，おもに敵海上作戦能力を撃破して所要海域を制海するのを任とした。したがって，司令長官の海軍における地位は高く，実力はきわめて大であった。➔艦隊

れんごうこくきょうどうせんげん　【連合国共同宣言】 1941年(昭和16)12月８日，日本がアメリカ・イギリスに宣戦を布告して第２次世界大戦*が極東・太平洋方面に拡大したことに対して，翌年１月１日，アメリカ・イギリスなど反枢軸陣営26か国がロンドンで署名・発表した宣言。大西洋憲章*の原則と目的に賛同し，署名国政府は日本・ドイツ・イタリアの枢軸国に対する戦争に総力を結集し，互いに協力し合うこと，単独に休戦・講和をしないことなどを約束した。1945年８月15日の日本降伏までにさらに19か国が参加した。　〔杉山三枝〕

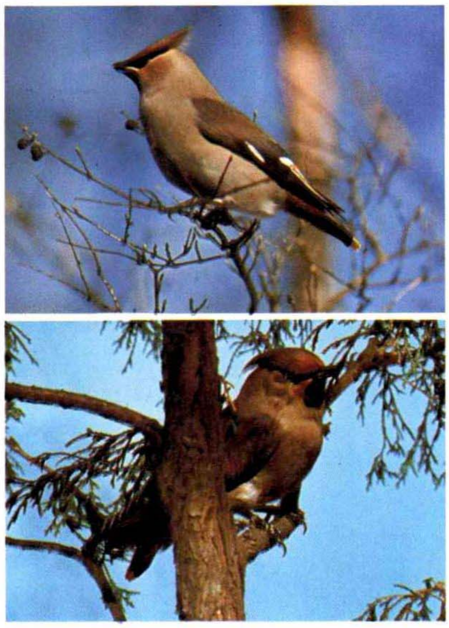
れんごうさくせん　【連合作戦】 ２個以上の国家の軍の部隊が，共通の目的のために結合して行なう作戦。通常１人の指揮官が全部隊を指揮する。

れんごく　【煉獄】 カトリック教会において説かれる地獄*と天国*の中間的存在。小罪を犯したか，大罪を犯しても許された死者の霊魂が天国に至るためには，ここで罪の償いを果たし，罰の苦しみを受けて浄化されなければならないとされる。プロテスタント教会は信仰のみによって救われるという立場から煉獄の存在を否定している。

レーンコート　［raincoat］ 雨の日にふつう衣服の上に着る防水用コートの総称。防水性とともに，通気性・機能性を考慮したデザインと素材を用いてある。かつては素材といえばバーバリー*のみであったが，現在はその他の綿やギャバジン・クレバネットなどをはじめ，ナイロン・アセテート・ビニル・エナメルクロス・レザークロスなどが用いられる。色彩も近年は雨の日を楽しくする意味から明るいものが好まれ，機能性と同時に装飾性を加味したデザインが豊富になった。縫製面では，肩部を二重にしたり，縫い目が直接外側へ出ないようにしたり，縦ポケットや雨ぶたつきポケットをつけたものもつくられる。そのほか，そで口をバンドで絞るものやウエストベルトつきもあり，近年はダスターコートで兼用することも多い。　〔小池千枝〕

れんこん　【蓮根】 ⇨ハス

れんこん　【漣痕】 堆積(たいせき)岩の表面や層理*面の間，浅海底の砂，砂丘表面などに見られる波形の模様で偽層*面の一種。波痕ともいう。水流・気流・波浪の作用でできるもので，流速・水深などによっても形はいろいろに変化する。海岸の浅水底には沿岸流・底流の作用で生じ，砂丘の表面には風の作用で生じるため風痕ということもある。これらは波形が非対称である。しかし，海岸その他，揺れ動く波浪によって生じるものは波形が対称であることが多い。　〔平山　健〕



レンジャク　(上)キレンジャク　(下)ヒレンジャク

れんざ　【連座】 他人の犯罪に関して，それに連帯してある特定の範囲の人々をも処罰する制度。古代・中世の社会においては，個人責任の原理が確立されていないため，一般的な犯罪予防方式として採用された。日本では，古くは律令(りつりょう)制において官吏の職務上の犯罪につき，各官衙(かんが)の四等官は連帯して公罪の責を負った。中世に至って罪種・範囲が拡大され，江戸時代にさらに適用範囲が拡大された。近代国家においては原則として行なわれないが，現在問題になるのは，選挙違反の場合である。すなわち，選挙運動に関して，運動の総括主宰者や出納責任者が，一定の選挙犯罪によって刑に処せられたとき，候補者の当選は無効になるという制度があり(公職選挙法251条の二)，一般にこれを連座制とよんでいる。選挙腐敗の激化とともに，この制度の強化が叫ばれているが，実効はあがっていない。　〔溝口　潔〕

れんさきゅうきん　【連鎖球菌】 緑膿(りょくのう)菌*・溶連菌*のほか数種を含む総称で，グラム陽性・球状の対または連鎖状をなす細菌である。通常莢膜(きょうまく)はみられず，運動性・色素産生性はない。液体培地中では連鎖の短いものは平等に懸濁し，長いものは沈殿して増殖する。多くのものは多糖体のC物質，タンパク質のM物質を有し，それぞれの抗原性で型・群に分ける。ヒトや動物の口腔(こうこう)・腸管などにみられ，一部のものは病原性を示す。

れんさく　【連作】 同一の作物を連年同一圃地(ほじ)に作付けすること。連作によって一般に同一成分が吸収されるため養分欠乏から生理的疾病(しっぺい)をきたすほか，病虫害の発生を促し，根からの有害酸が蓄積するなど，諸種の被害を生じやすい。ナス科・ウリ科など連作をきらう作物であるが，しかし，サツマイモ・ダイコンなど収量は減少するが，かえって連作により品質を向上させる場合もある。

れんさはんのう　【連鎖反応】 一つの反応の結果として生じた要因が，同様な反応をひき起こす要因となることにより，外部からエネルギーを摂取することなしに反応が連続的に起こる現象。化学反応では一つの分子がなんらかの原因によって活性化されて反応を起こし，反応生成物が次の反応物質となるような場合で，たとえば水素と塩素との光化学反応では次のように考えられる。

①$Cl_2 \xrightarrow{光} 2\,Cl$

②$Cl + H_2 \rightarrow HCl + H$

③$H + Cl_2 \rightarrow HCl + Cl$

連鎖化学反応の一般的機構は，活性体の発生(開始)，連鎖，活性体の消滅(停止)の３段階からなると考えられるが，この例では①が開始，②③は連鎖の過程である。連鎖反応は最初光化学反応において考えられたものであるが，その後熱反応(熱分解・燃焼など)にも拡張され，ことに爆発反応は典型的な連鎖機構によるものとされている。また一方，最近では核分裂による連鎖反応もよく知られるようになった。たとえばウラン235の核分裂に伴い２～３個の中性子が放出されるが，この中性子がほかのウラン235の原子核に飛び込んで核分裂を起こし，さらに次々と新しい核分裂が起こる。この場合連鎖反応が起こるためには，分裂によって生じた中性子が次の原子核に飛び込むことが必要であるが，これが有効な形で起こり，核分裂が継続するようにした装置が原子炉であり，瞬間的に起こるようにしたものが原子爆弾である。

れんじし　【連獅子】 日本舞踊・長唄(ながうた)の曲名。能《石橋*(しゃっきょう)》の替の型にならった親子の獅子の踊り。２世杵屋(きねや)勝三郎作曲(1861)のものと，３世杵屋正次郎作曲(1872年初演)のものとあり，舞踊では後者が多く用いられる。前ジテは手獅子をもった狂言師の姿で，親獅子が子獅子をけおとしてその力をためすくだりが見どころ。後ジテは白・赤の毛をつけて勇壮に振る。前後のつなぎには《宗論*》の間狂言(あいきょうげん)がはいる。　〔如月青子〕

れんじゃく　【連雀】 鳥類・レンジャク科の総称。この科はわずか９種であるが，４亜科に分類され，亜科間の類縁関係や他の科との関係も明らかでなく，４亜科がそれぞれ独立した科とされてもいいといわれるグループである。レンジャク亜科は全北区産のキレンジャク・ヒレンジャク・スギレンジャクの３種からなる。キヌバネレンジャク亜科はアメリカ西南部からメキシコ・

パナマにかけて4種が分布し，キヌバネレンジャクは羽毛が柔らかく，少し光沢をおびて美しい鳥である。ハイイロレンジャクはイラクからインド西部，ヤシドリは西インド諸島に分布し，それぞれ1種1亜科をなしている。いずれも森林性の果実食性の鳥で，全長15～23cm。わが国に渡来するものは，キレンジャクとヒレンジャクであり，体の大部分は美しい淡い葡萄(ぶどう)色で，冠羽がある。前者の尾の先は黄色，後者は赤色である。10～50羽ぐらいで群れをつくることが多く，ムクノキ・エノキ・ヤドリギなどに群れて果実を食う。ヒトが近寄っても平気で，美しい姿をよく見ることができるため鳥の愛好者には人気がある。

〔安部直哉〕

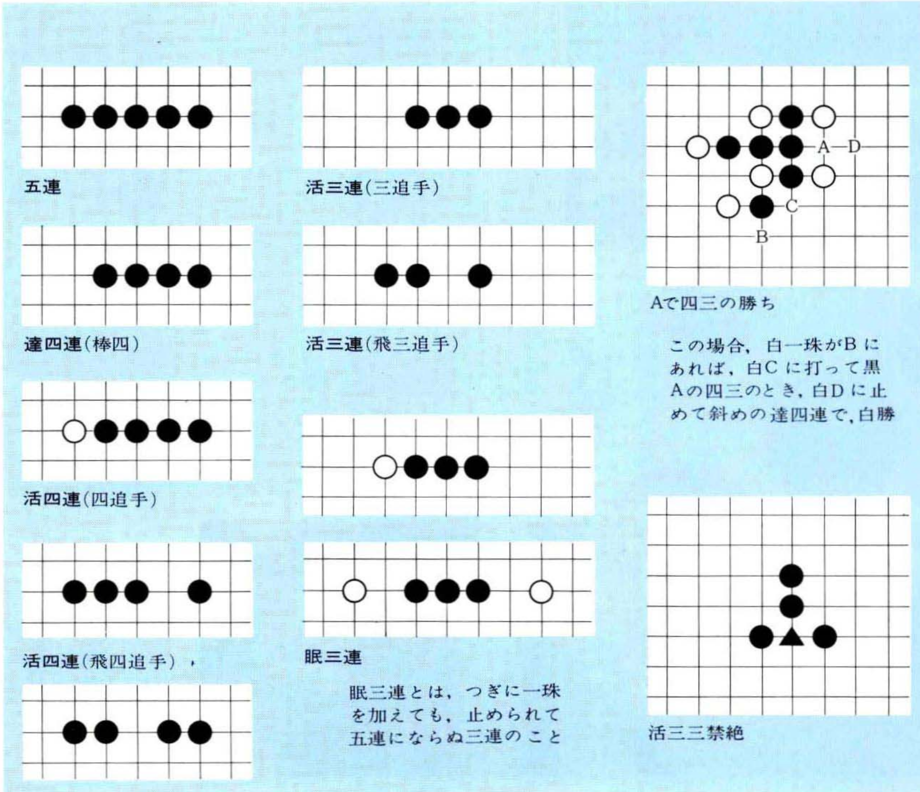
れんじゅ　【連珠・聯珠】 室内遊技の一つで，五目並べのこと。中国，黄河の地に発し，堯(ぎょう)・舜(しゅん)のころすでにこの技(わざ)があったと伝えられている。わが国へは応神天皇の時代に〈格五〉と称して渡来し，持統天皇の時代に双六(すごろく)に代わって行なわれた。その後，元禄(げんろく)年間(1688～1703)には老若男女を問わず全国を風靡(ふうび)した。〈五石〉〈五道〉〈五法〉〈五並べ〉などとよばれていた連珠に，聯珠と命名したのは黒岩涙香*(高山互楽)で，1899年(明治32)のことである。涙香は1918年(大正7)に初世名人位につき，現在は高木楽山が3世名人である。

現在，連珠にはA・B・Cの3様式がある。これは〈五目並べ〉に規格と精神を与えたもので，いずれも五連を勝ちとする。

【A式連珠】近代連珠ともいい，現行の連珠である。15道の連珠盤と黒白各50個の石を用いて行なう。盤面には縦・横に15道が画され，225の交点がある。また，天元と四隅(しぐう)(四4)の5か所に星をつけている。競技は2人の対局者によって行なわれる。先手は〈四三〉(四追手と三追手が同時にできること)は打てるが，一珠で同じ数の追手を同時に二つ以上つくる手は打てない。すなわち，〈三三〉(三追手が2個以上同時にできること)と〈四四〉，〈長連〉(1列に六珠以上並ぶこと)を禁絶負けとし，後手の〈長連〉は〈五連〉と同等に扱い，勝ちとなる。双方が持ち石50個を使いはたして無勝負のときは満局とし，後手の勝ちまたは引き分けである。このほか，対局の様式には先手が第三珠まで自由に打てる〈随意打ち〉と，後手が先手に第三珠を指定して打たせる〈指定打ち〉との二つがある。

【B式連珠】囲碁の用具をそのまま用いて打つ旧式の連珠である。

【C式連珠】いわゆる五目並べである。ルールは先手も後手も〈三三〉を打てないだけである。ただし，相手の〈四追手〉を止めるときは〈三三〉でも打てる。持ち石は黒白各35個で，持ち石を使いきっても五連の勝ちとならない場合は満局で，後手の勝ちであ



連　珠

る。　〔高木楽山〕

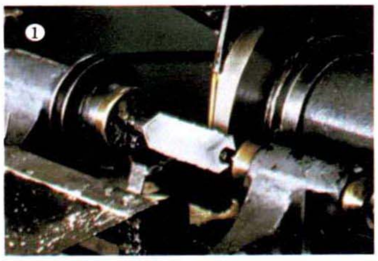
れんしゅうせん　【練習船】 商船・漁船の乗組員を養成する学校の学生が，操船・漁労技術を実習するために運航される船。航海練習船(帆船*と汽船がある)と漁業練習船とがあり，後者には東京水産大学に所属する海鷹丸(うみたかまる)(1,387総トン，船尾トロールの設備がある)をはじめ，各都道府県の水産高等学校に所属する小形の船がある。➔航海練習船

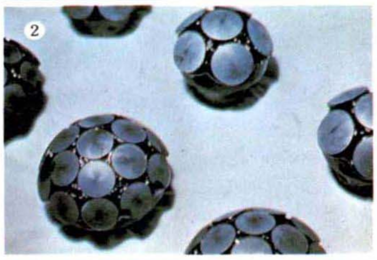
れんしょ　【連署】

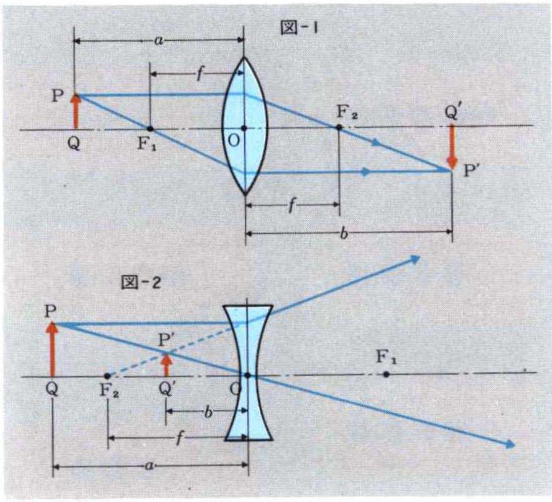
[1]鎌倉幕府の職名。執権*を補佐して政務を主宰するところから，執権と合わせて両執権ともいわれる。幕府の発する下文*(くだしぶみ)・下知状*・御教書*(みきょうじょ)に執権とともに署名する。1224年(元仁1)北条泰時(ほうじょうやすとき)執権のとき，おじ北条時房が連署となったのがはじめで，以後北条氏一門の有力者が補任された。

[2]憲法上，内閣総理大臣が法律と政令に主任の国務大臣の名とともに署名すること(憲法74条)。総理大臣の連署は一般の法律・政令のほか，条約および憲法改正にも必要であって，内閣による執行の責任(政令の場合にはその制定の責任)の所在を示す制度である。法律と政令の公布には天皇の署名と総理の連署がなされるが，この場合の連署は，天皇の国事行為*に対する内閣の助言と承認の責任を示すものである。なお，地方自治法の定める条例の制定・改廃および監査請求には50分の1以上，議会の解散請求および議員・長・役職員の解職請求には3分の1以上の有権者の連署が必要である。➔連判　〔吉田善明〕

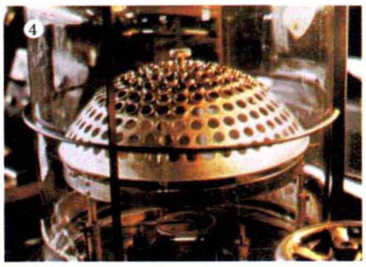
レンズ　［lens］ 光を透過する媒質でつくられ，光の屈折作用を利用して光を収斂(しゅうれん)あるいは発散させるために用いるもの。歴史は古く，BC1500年ごろといわれ，エジプトなどの遺跡中から発見されている。中世に至り眼鏡(めがね)レンズとして発展，17世紀に光学機械の発明に伴い組み合わせレンズが開発され，19世紀には光学ガラス製造技術の発達，新種ガラスの開発など理論・技術両面で著しい進展をみた。さらに20世紀にはいり薄膜の蒸着や合成樹脂，希土類元素を含む新種ガラスが出現し，今日に至る。レンズは光を収斂する凸(とつ)レンズ(正レンズ)と，光を発散する凹(おう)レンズ(負レンズ)とに分けられ，用途別からは眼鏡レンズ・写真レンズ，望遠鏡などの対物レンズ・接眼レンズなどに分けられる。単レンズは二つの球面でなりたち，その中心を結ぶ線を光軸という。凸レンズ(図-1)では物点Pから光軸に平行に入射した光線はレンズにより屈折して光軸上の1点(F_2：後側焦点)を通り，P'(像点)より逆方向に光軸に平行な光線は前側焦点(F_1)を通る。凹レンズ(図-2)では屈折後光線は発散するが，その逆向き延長が光軸を通る点がF_2となる。レンズの厚さを無視できるとすれば$\overline{OF_1}$を前側焦点距離，$\overline{OF_2}$を後側焦点距離という。屈折光線が通る像点を実の像点，逆向きの延長線が通る像点を虚の像点という。同様に図-1における像P'Q'を実











レンズ製作工程　①切断　②砂かけ・研磨のためのピッチ貼り付け　③研摩　④増透

像，図-2における像を虚像という。また物体と像の上下関係が同じものを正立像，逆のものを倒立像という。像と物体の比$\overline{P'Q'}/\overline{PQ}$を像の倍率あるいは横倍率，$\overline{F_2Q}/\overline{F_1Q}$を縦倍率という。レンズを構成する球面の曲率半径を$r_1$，$r_2$，レンズの媒質の屈折率を$n$，レンズの両側の屈折率を1とすれば，焦点距離$f$は

$$\frac{1}{f}=(n-1)\left(\frac{1}{r_1}-\frac{1}{r_2}\right)$$

またレンズから物体および像までの距離をaおよびbとすれば

$$\frac{1}{b}=\frac{1}{f}+\frac{1}{a},\quad \text{横倍率は } m=\frac{b}{a}$$

となる。ただし距離およびr_1，r_2はレンズからはかり，光線の方向を正とする。前側(後側)焦点からレンズに向かって前側(後側)焦点距離だけ離れた位置を前側(後側)主点といい，これから物点・像点位置をはかればレンズの厚さにかかわらず前式が成立する。以上の関係は近軸領域内で成立するもので，実際にはこのような理想的像は成立せず各種収差が存在する。収差には，いわゆるザイデルの5収差*と色収差*があるが，収差除去の条件は互いに両立しないものがあるため完全な除去は困難で，レンズの使用目的に応じて除去する。レンズの媒質には古くはクラウン系・フリント系のガラスが用いられたが，1877年ショットによってバリウム系光学ガラスが開発された。いわゆるショットガラス群である。最近ではランタン・タンタル・トリウムなどを含む高屈折・低分散あるいは低屈折・高分散の新種ガラスも開発されている。またプラスチックが媒質として注目され，フレネルレンズ・コンタクトレンズ・眼鏡などに実用化されている。また紫外・赤外領域用には紫外用として水晶・溶融石英など，赤外用として岩塩・臭化ナトリウム結晶などが使われる。レンズは次のような工程を経て生産される。①切断：材質を所定の大きさに切断，指定の形に型押しする。②荒ずり：型押し後のガラスを荒ずりして指定の球面・厚さに近い状態にする。③砂かけ：レンズをピッチで貼つけ皿(ざら)にはり，鋳鉄製の精密な研摩皿に微細な研摩砂を用いて所要の形状に仕上げる。レンズの精度はほとんどこの工程で決まる。④研摩：ピッチ皿に酸化セリウム・酸化ジルコンなどの微粉研摩剤を入れ，透明になるようにみがく。球面状態はニュートン環を用いて検査する。⑤洗浄：レンズを超音波洗浄機あるいは手作業で洗浄する。⑥心取り：光軸に合わせて指定の直径にダイヤ砥石(といし)でけずる。⑦増透：研摩したレンズ面に光線の透過率をよくするための処理を行なう。レンズに垂直入射する光線の反射は一面につき約4%といわれるが，組み合わせレンズでは損失を無視できないため，特定物質の薄膜をレンズ面に真空蒸着させて反射を防ぐ。単層膜の場合は通常フッ化マグネシウムを用いて特定波長の反射を防止する。最近は波長域を広げた多層膜による処理技術も開発されている。⑧接合：収差補正などのため2個以上のレンズをはり合わせることがあり，接着剤としてはカナダバルサムが一般的であるが，目的によっては合成樹脂系のものも用いられる。⑨組み立て：レンズを定められたレンズ鏡枠(わく)に入れ，最終的な製品の形にまとめる。〔加藤定雄〕



レンズ雲

レンズぐも　【レンズ雲】　縁のはっきりとしたレンズ状の雲。ときには着色された，いわゆる彩雲*が現われる。おもに山岳地方に見られ，大気中の湿度の高度分布，および地形などによって起こる上昇流などで生じる。レンズ雲の発生する高度付近の流れにはかなりの乱れがあるが，このような流れの中にあってもほとんど動かないのも一つの特徴である。

れんせい　【連星】　二つの星が物理的に結びついていて，互いに軌道運動をしているもの。望遠鏡で軌道運動がわかる実視連星，望遠鏡では二星として分離できないがスペクトル線の周期的な移動から連星とみなせる分光連星*，光度が周期的に変わって食現象が認められる食連星*に大別できる。星の質量は，他の天体との間で，どのような作用を及ぼし合っているかという力学的な効果を通して決められるので，単独の星の質量は直接には求められない。質量が決められるのは，一つの力学系をつくっている連星に限られる。実視連星で，軌道の平均距離aと，公転周期pがわかるとケプラーの第三法則(→ケプラーの法則)から，二つの星の質量の和が$m_1+m_2=\frac{4\pi^2}{G}\cdot\frac{a^3}{p^2}$から求められる($G$は万有引力定数)。さらに互いの重心からの距離の比がわかると質量の比が知れるので，おのおのの星の質量m_1とm_2とがきまる。さいわい星の中には連星がかなり多いので，太陽に近い星では比較的多くの星の質量がわかっている。太陽から5パーセク以内の55個の星のうち，18個の星は9組の連星，6個は2組の三連星(三つの星が一つの力学系をつくっている)で，単独の星は31個である。シリウスとその伴星*は実視連星の一例であり，軌道の平均距離が20.4天文単位*，公転周期50年，重心からの距離の比は1：2.54であるので，シリウスの質量は太陽質量の2.14倍，伴星は，太陽質量の1.06倍となる。〔日江井栄二郎〕

れんせつぼう　【連接棒】　ピストンとクランク軸を連結する棒状の部品。ピストンの往復運動をクランク軸の回転運動に変える(またはその逆)役割をする。ピストンに

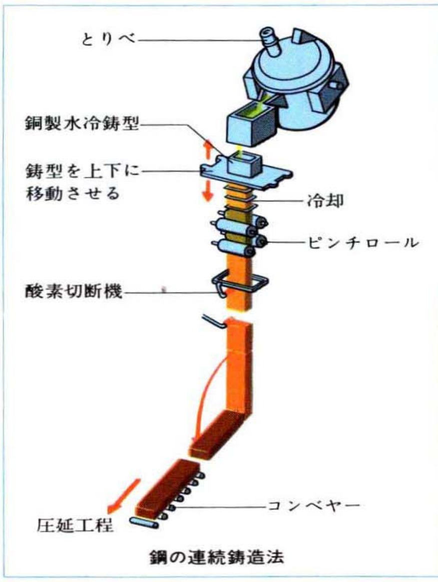
接続する部分を小端，クランクピンに接続する部分を大端という。➔往復動機関(図)

れんそう 【連想】 意識のうちにある観念が現われるとそれに伴って別の観念が呼び起こされることで，観念連合ともいう。二つの観念の結合が自然に生じる自由連想と，特定の意図をもってなされる制限連想とがある。連想が観念の意味内容とは無関係に，単にことばの上での類似に基づいて行なわれる場合は特に外連合という。また意識の働きには観念のみならず感情や知覚もかかわっているので，こうした意識内容すべての結合が問題とされるときには，これを連合とよぶ。連合が成立するのは連合される要素間の類似および時空的な接近によるとみられるが，このように意識を原子的な要素に分解し，それらの結合によってあらゆる精神現象を説明するのが連想主義であり連合心理学である。〔石倉恒之〕

れんぞくスペクトル 【連続スペクトル】 ある範囲で連続的に変化する波長の光をすべて含むスペクトル。白熱電燈の光はその一例。どんなに分解能の高い分光器を用いても，これを線スペクトル*に分解することはできない。連続スペクトルが生ずるのは，発光体のエネルギー準位に連続的な部分があるためで，この連続的準位の間あるいはこれと不連続な準位との間で遷移が起こると，放出された光の波長は少なくともある範囲で任意の値をとることができ，連続スペクトルが現われる。固体や液体に限らず原子・分子でもイオン化や解離によってエネルギー準位が連続になるため連続スペクトルが見られるようになる。〔吉原邦夫〕

れんぞくちゅうぞう 【連続鋳造】 インゴットやバーやビレットなどを，ただ1個の鋳型で，多数連続的に鋳造するか，あるいは1本の非常に長い鋳塊を連続的に引き出していく方法。熱伝導のよい銅で底のない鋳型をつくり，まわりを水冷して，この中に溶金を注入する。溶金は急速に凝固して収縮し，鋳型との間にすき間を生じ，自重によって降下し，鋳型を出て受け台に乗る。受け台の降下速度と，溶金の注入速度を適当に加減すれば，連続的な鋳造が可能である。受け台上の鋼は必要な長さに切断して圧延する。生産性の向上，歩留りの改善，結晶組織の良化などの長所があり，近年著しく発達した方法である。現在は構造用鋼の生産に使用されているが，多方面の鋼材への応用が期待される。〔加山延太郎〕

れんたいさいむ 【連帯債務】 2人以上の債務者が，同一内容の弁済について各自独立に全部の弁済をなすべき義務を負い，そのうち1人が弁済をすれば，他の債務者もことごとく責任を免れる債務のこと。各自の債務が独立したものであって主従の区別がない点において保証*と異なる。連帯債務は契約または法律の規定(夫妻の日常家事に関する債務についての連帯責任を規定



連続鋳造

する民法761条など)によって生ずる。債務者が各自独立に債務を負担するものとされることから，債権者は債務者の1人に対し，または同時もしくは順次に総債務者に対して全部または一部の履行を請求することができるし(民法432条)，連帯債務者の1人に対してなされた履行の請求は，他の債務者に対してもその効力を生ずる(民法434条)。債務者の1人について生じた事由は他の債務者にその効力を及ぼさないのが原則であるが，例外として履行の請求，更改・免除・混同，時効の完成などは総債務者のために絶対的効力を生ずる(民法434〜439条)。連帯債務者の1人が債務の弁済，その他自己の出捐(しゅつえん)をもって共同の責任を免れたときは，他の債務者に対してその各自の負担部分につき求償権を取得する(民法442条)。連帯債務は，債権者に対する関係においては，各債務者が全部の弁済をなすべき債務を負担しているが，連帯債務者相互間においては，債務を負担する割合(負担部分)が定まっており，1人の債務者がこの負担部分以上の弁済をすれば，実質的には他人の弁済をしたことになるからである。負担部分は連帯債務者間の特約によって，特約がなければ連帯債務の成立によって各債務者が受けた利益の割合によって定まる。これら特殊の事情がないときは各自平等の割合と解するのが正当であるとされる。ただし，各連帯債務者は弁済その他出捐をなして共同の免債を得ようとするときには，他の債務者に対して事前および事後にその弁済の通知をすることを要し，これを怠ると求償権の制限を受けることになる(民法443条)。連帯債務者中に求償に応ずる資力のない者がいるときには，その者の負担部分は他の債務者にその負担部分に応じて分割される(民法444条)。〔黒木三郎〕

れんたいし 【連体詞】 品詞の一種。自立語で活用がなく，もっぱら，体言を修飾する。副体詞ともいう。〈この・その・あの・ある(日)・大きな・小さな・あらゆる・いわゆる・おかしな・たった・わが(国)〉など。〈この・その〉などは，文語では，〈こ・そ〉(代名詞)と〈の〉(助詞)とに分けられるので，連体詞とはしない。連体詞は，その数が少なく，すべて他の語から転成してできたものである。〔市川　孝〕

れんだいじおんせん 【蓮台寺温泉】 静岡県賀茂郡下田町にある温泉。泉温26〜60℃，泉質は単純泉で，胃腸病・皮膚病・リウマチなどにきくといわれる。田園風景の展開する歴史の古い静かな温泉町で，約700年前蓮台寺があったのが地名の起こりと伝えられる。付近に米山薬師・お吉ケ淵(おきちがふち)などの名所がある。

れんたいしゅうしょくご 【連体修飾語】 ⇨修飾語

れんたいほしょう 【連帯保証】 保証人が主たる債務者と連帯して債務を負担する保証*のこと。保証債務は主たる債務の担保を目的とするものであるから，主たる債務が履行されない場合にのみその補充として履行される債務である。これに対し，連帯保証債務はこの補充性を有しないから，催告の抗弁権*(まず主たる債務者に債務の履行を請求せよという抗弁権)も検索の抗弁権(まず主たる債務者の財産に執行せよという抗弁権)も有しない(民法454条)。したがって，主たる債務者に対して履行の請求，強制執行をせずに直接連帯保証人にそれを行なうことができる。ただし，連帯保証は，主たる債務が成立しなければ連帯保証債務も成立せず，また主たる債務が変更・取り消し・消滅すれば連帯保証債務も変更・取り消し・消滅するという付従性をもち，この点が連帯債務と根本的に異なるところである。主たる債務者または連帯保証人について生じた事由の効力については，連帯債務に関する規定が準用される(民法458条)。〔黒木三郎〕

レンタカー [rent-a-car] 不特定多数の需要者に対し，短期間賃貸しする自動車。わが国では明治40年代に始まったといわれる。第2次世界大戦後アメリカ軍の払い下げ車両を用いたいわゆるドライブクラブが増加したが，管理の悪さと悪質なユーザー(利用者)とが社会問題化し，1957年(昭和32)に許可制を実施した。その後今日までに浮沈はあったが，アメリカ式レンタカーシステムの採用により，近年急速に発達した。免許証があれば車を借りることができ，全国ネットのある業者では乗り捨てや乗り継ぎが自由にできるシステムを採用している。なお，これとよく似た事業で，カーリースがあるが，これは特定の需要者に長期(2〜5年)製品を賃貸しするものである。〔成田武男〕

れんだく 【連濁】 日本語において，複

合語がつくられるとき，そのあとの要素のはじめの音節が清音から濁音に変わる現象をいう。〈から→貝がら〉〈さら→はいざら〉〈とり→やまどり〉〈はと→子ばと〉など。しかし，複合語がつくられるとき，清音がいつも濁音になるわけではない(〈とり→にわとり〉のように)。また，外来語はふつう連濁しない。

れんたん【練炭】微粉炭にピッチその他の結合剤を加え，加温して練炭機により加圧成形したもの。鉄道その他の工業用には直径数センチメートル程度の塊状のものが用いられているが，家庭用として，さらに大形の円筒形で，多数の通風孔を設けたものも使われている。

レンツ［Jakob Michael Reinhold Lenz］(1751〜1792) ドイツの詩人・劇作家。1774年発表の戯曲《家庭教師》(1950年，ブレヒトが改作上演)，それに続く《兵士たち》は〈シュトルム-ウント-ドランク*〉期を代表する作品で，社会の不正に対する激情がほとばしり出ている。シュトラスブルクでゲーテ*と友人になり，のちワイマールのゲーテの客にもなったが落ち着かず，転々として失意のうちに発狂，モスクワで病死した。

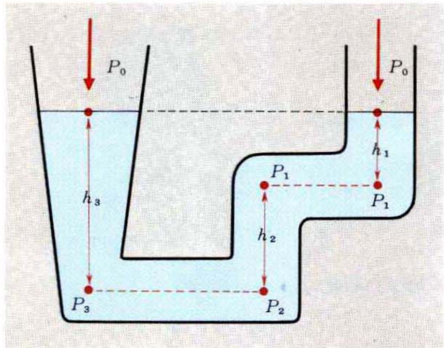
レンツ［Heinrich Friedrich Emil Lenz］(1804〜1865) ドイツの物理学者。ロシアのペテルブルグ大学教授。電流現象を研究し，1834年電磁誘導の方向に関する〈レンツの法則〉を発見，また誘導起電力に関する実験(レンツの実験)を行なった。温度による電気抵抗の変化についての研究もある。

れんつうかん【連通管】二つあるいはそれ以上の管の底部を連結し，内部に入れた液体が自由に流通できるようにしたもの。管内の液体面は管の太さ・形状に関係なく同一水平面となる。図において同一水平面にある2点での圧力P_2，P_3は，液体の密度ρ，大気圧をP_0とすれば，$P_2=P_0+\rho g h_1+\rho g h_2=P_0+\rho g(h_1+h_2)$，$P_3=P_0+\rho g h_3$，$P_2=P_3$であるから$h_1+h_2=h_3$，連通管はタンク内の水面のように直接見ることのできない水位を知るための水位計や，土木建築工事で水平面を定めるための水盛りなどに応用されている。〔今淳治郎〕

レンツのほうそく【レンツの法則】⇨電磁誘導

れんてつ【練鉄】炭素含有量0.2〜0.02%くらいの極軟鋼。鍛練できる鉄という意味で鍛鉄ともいう。製法は鉄鉱石を直接低温で還元してつくるものと，パドル法などによるものがある。鉱滓(こうさい)を多く含むが，鍛接性に富み，さびにくい。わが国で古来砂鉄を原料としてつくった鉄や，スウェーデン鉄などは練鉄である。現在では溶鋼が容易に得られ，鋼が安価に入手されるため特殊な場合以外用いられない。

レント［lento］〈ゆっくり〉を意味するイタリア語で，17世紀初めから，ゆっくりしたテンポを示す音楽用語として使われた。古い時代は，アダージョ*とラルゴ*との間の区別が明確ではないが，一般には，アダージョよりは遅く，ラルゴほどの幅広さがない場合に使われる。



連通管

レントゲン［roentgen］X線またはγ線の線量の単位。記号R。X線またはγ線は物質にあたると，原子・分子から電子をたたき出して正イオンとする。たたき出された電子はほかの原子・分子について負イオンをつくる。1レントゲンは，0℃，1気圧の乾燥した空気1 cm³(質量0.001293g)中に1静電単位の正・負のイオンをつくる線量である。X線の人体に対する最大許容量は，X線技師などについては1週間に100mR(＝10^{-3}R)，一般市民については10mRと定められている。〔飼沼芳郎〕

レントゲン［Wilhelm Konrad Röntgen］(1845〜1923) ドイツの実験物理学者。プロイセンのレンネップの生まれ。のちオランダに移住したためレンチェンともいわれる。チューリヒ工科大学に学び，クラウジウス，およびクントの影響をうけた。ギーセン・ウェルツブルク・ミュンヘンの諸大学教授を歴任。ウェルツブルク大学在任中の1895年クルックス管を用いた陰極線の実験中，X線(レントゲン線)を発見した。この発見は当時学界のみならず一般にも大きな反響を呼び起こした。これを契機として，ベックレルやキュリー夫妻らによる放射能に関する発見があいつぐことになる。1901年最初のノーベル物理学賞を受賞。〔藤村　淳〕

レントゲンけんさ【レントゲン検査】可視光線*に対してまったく不透明である物体の内部を，X線*を照射してその物体を通過したX線*の強弱(透過度)から観察しようとする検査法。X線検査ともいう。X線は写真作用と螢光(けいこう)作用の両者をもっているので，医学的にはこの現象を利用して人体の内部の状態を螢光板に写したり(透視)，直接写真フィルムに感光させたり(X線直接撮影)，あるいは螢光像をカメラでとったり(X線間接撮影)して病気の診断・治療に役だてている。普通撮影法と特殊撮影法とに大別され，前者が一般に用いられているもので，これには胸部・骨などの身体各部を造影剤を用いないでとる単純撮影と，各種の造影剤を用いて食道・胃・腸・胆嚢(たんのう)・腎臓(じんぞう)・子宮・血管などを撮影するものとがある。後者の特殊撮影には，断層撮影*・重複撮影・連続撮影*・高圧撮影・間接撮影などがある。〔佐野隆志〕

レントゲンせん【レントゲン線】⇨X線

れんにゅう【練乳】牛乳を加熱して，真空釜(しんくうがま)で濃縮したもの。加糖練乳(コンデンスミルク)と無糖練乳(エバミルク)に大別される。加糖練乳は牛乳を約3分の1に濃縮したのち砂糖を加え，無糖練乳は牛乳を濃縮し，かんに詰めて殺菌したものである。母乳あるいは牛乳の代用品として用いられてきたが，現在はパン・菓子・アイスクリームその他の加工原料に用いられることが多い。わが国では加糖練乳の生産量が多いが，アメリカでは無糖練乳のほうが圧倒的に多い。➔エバミルク〔佐藤友太郎〕

れんにょ【蓮如】(1415〜1499) 室町時代の浄土真宗の僧。本願寺第8世。浄土真宗中興の祖といわれ，たぐいまれな政治力と独創的な布教活動を展開して，封建的大教団の基礎を固めた。本願寺第7世存如の庶子として京都東山大谷に生まれた。15歳にして本願寺再興の志を立て，43歳のとき異母兄との継職争いに勝ち，以後《御文》による書簡伝道を開始して，まず近江(おうみ)(滋賀県)琵琶湖(びわこ)に強力な門徒団を組織した。1465年(寛正6)以降比叡(ひえい)山の度重なる弾圧をうけ，1471(文明3)には北陸開教をめざして，越前(えちぜん)(福井県)吉崎(よしざき)に進出した。以後蓮如は，越前の朝倉党や加賀の富樫(とがし)党と政治的連携策をとって巧みに教線を伸ばすとともに，同じ親鸞(しんらん)の流れをくむ異端の高田門徒の勢力を排除していった。こうして教線は加賀(石川県)・越前・越中(新潟県)に驚異的な伸びをみせたが，そのため今度は守護勢力との利害の衝突をきたし，蓮如は畿内(きない)に身を退いた。以後将軍家と朝廷貴族との融和を図りつつ，京都山科(やましな)の地に本願寺の大伽藍(だいがらん)を建立(こんりゅう)し，1483年にその完成をみた。この間彼の活動区域は摂津・河内(かわち)・大和(やまと)・和泉(いずみ)，さらに東海地方に広がり，同じ流れをくむ仏光寺派，木辺(きべ)(錦織寺)派，三門徒派などの秘事法門*の切りくずしを行なって本願寺翼下の門末化を推し進めた。彼はその生涯(しょうがい)に5人の夫人をめとり，27人の子をもうけたが，男子はすべて各地の有力寺院に配して，本願寺の血縁支配の支柱となした。また将軍足利義政(あしかがよしまさ)や管領細川政元，尼将軍日野富子ともよしみを通じ，彼ら支配層のため門徒からの年貢徴収の便を図った。彼の〈信心正因〉という信仰の立場に対して，〈王法為本*〉とい

う政治的原理が注入されたのも，そのためであった。こうして功なり名を遂げた大坊主としての蓮如は，1489年隠居し，法主職を５子の実如に譲り，85歳で没した。〔山折哲雄〕

レンニン ［rennin］ 乳を固める酵素の一つで，レンネット・凝乳酵素ともいう。哺乳(ほにゅう)類の幼若の動物の胃液中に含まれる。はじめは不活性のプロレンニンであるが，胃液の酸素のために活性型のレンニンになり，可溶性のタンパク質であるカゼイノゲンをカゼインに変える。カゼインはカルシウムと結合して不溶性になる。

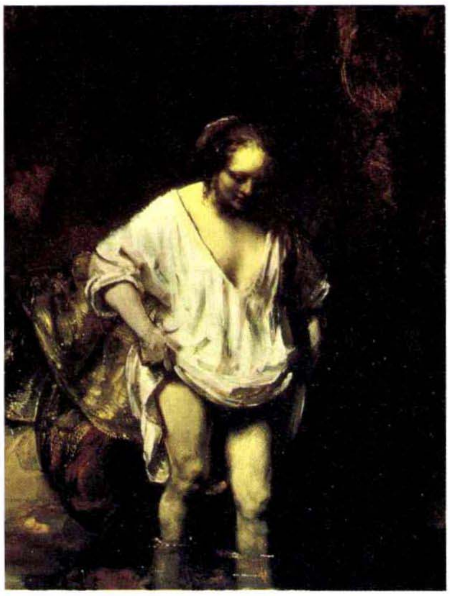
レンヌ ［Rennes］ フランス北西部，ブルターニュ地方の中心都市。人口18万1,000(1968)。ブルターニュ半島の基部，ビレーヌ川とイール川の合流点に位置する。農村地帯の中心にあり，酪農製品の集散と農業機械・皮革・綿工業が盛ん。起源はきわめて古く，中世にはブルターニュ公国の主都であった。1720年に大火があり，のち近代的都市に復興した。1735年創立の大学がある。

レーンバハ ［Franz von Lenbach］ (1836～1904) ドイツの画家。ミュンヘン・ローマ・ベルリン・マドリードなどで制作。この間イタリアなどでは依頼されて古大家の作品を模写した。自然主義から出発した作品には，彼が模写した大家の影響が色濃く反映している。数多くの肖像画を描き，名声を博す。ウィルヘルム１世・ビスマルク・ワグナー・リストらの肖像がある。

れんぱん 【連判】 文書の差し出し人が複数で，文書の署判が複数の場合をいい，連署ともいう。原則としてあて名に近いほうが上位であるが，多数の場合は，２列・３列に連署することがある。また連判者の地位の平等を表わすためにくじによって順位を定める孔子(くじ)次第としたり，円の回りに放射状に連署する傘(からかさ)連判(円(つぶら)連判)などがある。訴状や一揆(いっき)の団結に用いた。

れんぴ 【連比】 ⇨比

レンブラント ［Harmensz van Rijn Rembrandt］ (1606～1669) オランダの画家。銅版画家・素描家としても世界的な巨匠である。ライデンの生まれ。同地で画業の修業を始めたが，アムステルダムに移ってラストマンに師事。肖像画家として盛名をはせ，ことに《テュルプ教授の解剖学講義》などの群像肖像に傑作を残し，収入も多く豊かで家庭生活にも恵まれ，作品的にも多作であった。愛妻サスキアの死の年に描いた大作《夜警》で不評をこうむってから，生活は貧困し，破産を宣告された。しかし，画境は貧困にもかかわらず深化し，独特の光線法によって独自の作風を樹立。妻子に先だたれた孤独な老境にあって，レンブラントは大きな愛と透徹した洞察(どうさつ)によって真にヒューマニスティックな人



レンブラント《水浴の女》 1654 ロンドン-ナショナル-ギャラリー蔵

物像を残した。バロック期最高の画人である。代表作は前記のほか，多くの自画像，《83歳の老女像》《放蕩(ほうとう)息子(むすこ)の帰宅》などがある。〔吉田玲子〕

レーンブルック ［Wilhelm Lehmbruck］ (1881～1919) ドイツ表現派の彫刻家。ジュッセルドルフ美術学校に学び，一時パリに出てマイヨールの影響を受けた。細長いプロポーションをもつ単純化した人体表現に特異な作風を展開したが，第１次世界大戦後自殺した。代表作に《ひざまずく女》などがある。

れんぶんせつ 【連文節】 ⇨文節

れんぽう 【連邦】 連邦国家ともいう。一つの主権のもとにありながら，多くの点で一個の独立国に近い権限をもつ多くの州・支邦などの連合によって成立している国家。アメリカ合衆国・カナダ・スイス・ソビエト社会主義共和国連邦などがその例。➔国家連合

れんぽうじゅんびぎんこう 【連邦準備銀行】 アメリカ合衆国の中央銀行。アメリカでは1913年の連邦準備法によって連邦準備制度が設立された。この制度の中心に立つものは連邦準備制度理事会であり，これが連邦公開市場委員会および連邦諮問会議とともに同制度の最上部機構を形成し，その下に準備銀行が設置され，さらに加盟銀行(連邦準備制度に加盟している商業銀行)がこれに属している。連邦準備銀行は，アメリカ全国を12の地域に区分し，各地域(それを準備区とよぶ)の中心地に１行ずつ合計12行設置されている。このうち，最も代表的なものはニューヨーク連邦準備銀行である。連邦準備銀行の資本金は各準備区内の加盟銀行によって出資される。各加盟銀行は自己の資本金と剰余金の６％を最高限度として連邦準備銀行に出資する義務を負うが，連邦準備銀行に対して株主としての通常の権限をもつことは認められず，ただ出資額に対して年６％の配当を受け取るにすぎない。連邦準備銀行の主要業務は，①加盟銀行に対する適格手形の再割引および貸し付け，②加盟銀行の法定支払い準備金の受託，③連邦公開市場委員会の指令のもとに証券市場における証券売買操作(オープン-マーケット-オペレーション)，④連邦準備券の発行，⑤加盟銀行のために手形交換ないし取り立ての便宜の供与，⑥加盟銀行の業務の検査，⑦国庫の代理者としての機能などである。〔安井孝治〕

れんぽうつうしんいいんかい 【連邦通信委員会】 略称FCC(Federal Communication Commission)。アメリカにおける電気通信事業の監督を行なう機関である。1934年に電気通信法が制定されたときにできた委員会で，次の範囲を監督する。①民間が使用する電波，②各州間にまたがる公衆電気通信事務，③国際電信電話。

れんようしゅうしょくご 【連用修飾語】 ⇨修飾語

れんらくせん 【連絡船】 ⇨鉄道連絡船 ⇨フェリーボート

れんりそう 【連理草】 双子葉植物・マメ科。本州から九州の川原の砂地草原に自生する多年草。茎は高さ30～80cmで，両側に幅１～２mmの翼があり，茎の上方は伏毛におおわれる。葉は互生し，２～６枚の小葉からなる偶数羽状複葉，各小葉は長さ３～10cm，幅４～10mm，中軸の先は１本の巻きひげになって分岐しない。５～６月，葉腋(ようえき)から花柄を伸ばし，1.5～２cmの紫色の蝶(ちょう)形花を３～８個ずつつける。近縁のエゾノレンリソウは，毛が少なく，小葉の幅が広く，巻きひげの先が分岐して２～３本になり，本州北部から北海道に多く見られる。

れんりつほうていしき 【連立方程式】 ２個以上の未知数を含む２個以上の方程式を組にしたもの。

(例) $\begin{cases} 3x+2y=1 \\ 2x-3y=4 \end{cases}$ $\begin{cases} 5x^2-4y^2=29 \\ xy=6 \end{cases}$

一般に未知数の個数がm個で，未知数についての最高の次数がn次のものをm元n次連立方程式という。上例では，左側が二元一次方程式であり，右側が二元二次方程式である。このような連立方程式を解くときは，組になっている方程式のすべてを同時に満たす未知数の値の組を残らず求めることを意味する。〔菊池兵一〕

れんりひしょう 【連理秘抄】 二条良基*(よしもと)の連歌論書。1349年(正平４・貞和５)の成立。連歌修業上の注意・用語・賦物(ふしもの)・嫌物(いやもの)，興行の心得，寄合・発句など主として実作上の注意をまとめている。巻末の連歌式目は《応安新式*》とかなりの差をみせ，式目形成上注目される。

ろ

ろ【炉】⇨窯炉

ろ【絽】絽織ともいい，搦み織(からみおり)の一種で，ある間隔を置いて隙目(すきめ)をつくった織物。緯絽(よころ)と経絽(たてろ)があり，生絽(きろ)と練絽に分けられる。構成は搦経糸と地経糸を用い，搦糸をからみながら緯糸(ぬきいと)を織り込んでいく。経絽は一定の間隔ごとの経糸をからませて織り，その他の経糸は平織に織ったもので，平織の地に経縞(たてじま)が現われる。緯絽は経糸を一定本数の緯糸と平織にし，緯糸に経糸をからみ合わせ，打ち込み数だけ平織に織ったのち，経糸を２本ずつからみ合わせて緯糸に組織させる織り方である。

ろ【櫓】艪とも書く。和船に用いられる人力による推進器具。長さ４～５ｍの木製で，船尾あるいは船側に固定され，２㎝ほど突出している櫓臍(ろべそ)を櫓の凹所(おうしょ)である入れ子にはめて，こぎ手は櫓の柄を持ち，船の左舷側・右舷側方向に，交互に押したり引いたりしてこぐ。櫓脚は水中で８の字を描き，プロペラのような動作となり，脚に働く水の前方への分力により推力を生ずる。また櫓を押す力と引く力の大きさを変えることにより，舵(かじ)の作用も行なうことができる。〔飯島幸人〕

ろ【魯】中国，周代の諸侯国。西周の建国に功績があった周公旦が曲阜(きょくふ)(山東省)に封ぜられて国を建てた。時代が下るにつれて国力はふるわなくなり，春秋時代末には国の実権も三桓(さんかん)氏に移った。BC249年楚(そ)に滅ぼされた。魯には周の古い礼楽が保存され，春秋末には孔子が出て儒家思想を開いたため，小国ではあるが中国文化史上重要な意味をもっている。

ロー［Thomas Roe］（1581ごろ～1644） イギリスの外交官。ジェームズ１世によりムガール帝国駐在大使として派遣され，インドにおけるイギリス勢力の基礎を築いた。このときの彼の日記は貴重な史料となっている。

ロー［Giacomo Rho］（1598～1638） イタリアのイエズス会士。中国名，羅雅各(らがかく)。ミラノの生まれ。マカオを経て，1624年中国山西省に入り，伝道に従った。のち北京(ペキン)に招かれてアダム-シャール*のもとで天文・暦学の百科全書ともいうべき《崇禎(すうてい)暦書》を完成。ほかに《測量全義》《月離暦指》など多数の編著がある。

ロー［John Law］（1671～1729） イギリスの経済学者。エジンバラの生まれ。アムステルダムで銀行業務に従事。1717年ミシシッピ計画を企画し，ルイジアナ会社を設立。翌年フランス王立銀行総裁となり，1719年にインド会社を設立。国債支払いを引き受けることにより租税徴収を請け負ったが，1720年投機に失敗，フランスより逃亡し，ベネチアで死去。

ロー［Andrew Bonar Law］（1858～1923） イギリスの政治家。カナダの生まれ。スコットランドのグラスゴーで教育を受け，この地で鉄鋼業に従事して財産を築いた。1900年保守党から下院議員に当選し，保護貿易論を説いてしだいに頭角を現わし，第１次世界大戦中には植民相，さらに蔵相を経て1922年組閣したが，翌年病をえて辞任。

ロー［David Low］（1891～1963） イギリスの漫画家。ニュージーランドの生まれ。同地で政治漫画を描きはじめ，1919年オーストラリアを経てロンドンに出て，《スター》《イブニング-スタンダード》《デーリー-ヘラルド》《マンチェスター-ガーディアン》などの諸新聞に次々と作品を発表した。彼の創造した漫画の主人公で最もよく知られているのはブリンプ大佐であるが，W.チャーチルなどの風刺人物画も定評があった。

ロアール(川)［Loire］ フランス中西部を西流する同国最長の川。全長1,020㎞。中央高地のセベンヌ山脈に発し，一連の小盆地を貫流して北流，ヌベールから北西に向かってパリ盆地にはいり，オルレアンから南西に向きを変えてロアール盆地にはいり，ナントの下流でビスケー湾の長い入り江に注ぐ。多くの支流をもつが，流量の変動が大きく，また，運河によって他の河川とも結ばれるが，舟運はナントより上流ではない。流域は，上流部丘陵地帯の粗放的な牧畜地域を除けば，フランスで最もよく耕地化されているところで，ブドウの栽培とぶどう酒醸造は世界的に知られる。〔大石堪山〕



ロアール川　ロアール川中流のブロアの町。このあたりから河口にかけた流域は，最もフランス的な田園が広がり，由緒ある古城が多い

ロイコマイシン［leucomycin］ 放線菌のストレプトミセス-キタザトエンシスが産生する抗生物質で，1953年(昭和28)秦(はた)藤樹らによって発見された。エリスロマイシン*・オレアンドマイシン・スピラマイシンと構造が類似しており，これらを一般

にマクロライドとよぶ。グラム陽性菌(→グラム染色法)および陰性菌の一部，スピロヘータ*・リケッチア*・クラミディア*にも奏効する。ブドウ状球菌・肺炎双球菌・淋菌(りんきん)やインフルエンザ菌による眼感染症に外用剤として用いる。〔川村次良〕

ロイシン [leucine] $(CH_3)_2CHCH_2CH(NH_2)COOH$ アミノ酸の一。L-ロイシンは必須(ひっす)アミノ酸の一つで，ほとんどすべてのタンパク質に存在する。特にゼイン(約25%)・ヘモグロビン(約30%)・グリアジン・カゼイン・ゼラチンなどに多く含まれ，また，天然に遊離状態で広く見いだされる。D-ロイシンはタンパク質中には含まれないが，グラミシジンなどのポリペプチド性抗生物質の構成成分として存在する。

ロイス [Josiah Royce] (1855～1916) アメリカの哲学者。カリフォルニア州の生まれ。ドイツに留学し，帰国後パース*やW.ジェームズ*と交友し，ハーバード大学教授をつとめた。観念は目的のための道具であるため，知的生活は同時に実践的生活であるとしてプラグマチズム*に同意したが，プラグマチズムの相対主義的性格に強く反対した。新ヘーゲル主義的傾向のもとに，相対主義を救うものとして，世界包括的な絶対的な意志としての神の意志を考えた。著書に《近代哲学の精神》《世界と個人》がある。〔仲村計美〕

ロイズ [Lloyd's] ロンドンの個人の保険引受業者の組合。17世紀後半ロンドンのエドワード-ロイドの経営するコーヒー店に，海運貿易業者が常時出入りし取引の場としていたのに対し，エドワードが常客のために海運情報を提供したので，のちに至って海上保険業者が保険取引のためにこのコーヒー店を利用するようになり，18世紀後半にはロイズは海上保険の中心市場となった。その後幾多の変遷を経て，今日ではロイズは個人の保険業者の一種の組合として，イギリス保険市場のほぼ3分の1を占めて隆盛をきわめている。その引き受ける保険の種類は海上保険*のみならず，火災保険*から新種保険*の分野にもくまなく及び，世界保険市場の中心的地位を確保している。〔庭田範秋〕

ロイズせんきゅうきょうかい【ロイズ船級協会】 イギリスの船級協会で，正式名称はLloyd's Resister of Shipping(略称LR)。1760年ロイズ*に起源をもち，1834年独立の機関として設立された。世界で最も歴史が古く，権威あるとされ，登録船舶は10,000隻をこえている。→船級

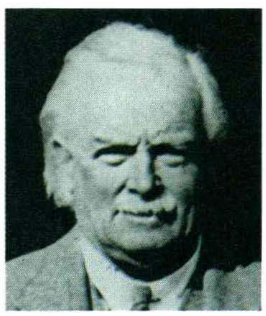
ロイスダール [Jakob van Ruysdael] (1628ごろ～1682) 17世紀オランダ最大の風景画家。ロイスダール一家のひとりでサロモン(1600ごろ～1670)の甥(おい)。ハーレム・アムステルダムで活動した。暗緑色・かっ色を主調に平野や山岳の風景を好んで描いたが，深い森林や古木・廃墟(はいきょ)な



J.v.ロイスダール《小川の岸辺の水車》



ロイド



ロイド-ジョージ

どの描写には詩的な叙情が漂っている。その作品はカンスタブル・T.ルソーら19世紀の風景画家に多大の影響を与えた。

ロイター [Reuters Ltd.] イギリスに本社をもつ国際通信社。1851年ドイツ人パウル-ユリウス-ロイターがロンドンに創立。19世紀イギリス連邦の繁栄とともに発展し，20世紀初頭まで世界の通信を独占していたが，アメリカのAP*・UP(現在はUPI*)の台頭，さらに無線通信時代を迎えるに及んでその独占はくずれた。しかし，現在でも国内に約60支社，海外に契約社3,000紙をもち，その地位を保っている。日本では共同通信社・朝日新聞社が特約を結んでいる。〔須藤泰秀〕

ロイテル [Michiel Adriaanszoon de Ruyter] (1607～1676) オランダの提督。イギリス-オランダ戦争で活躍し，特に1667年にはイギリス海軍を破ってテムズ川をさかのぼり，ロンドンに迫ったこともあった。のちフランスのルイ14世のオランダ侵略に際し，海軍の総司令官として奮戦，シチリア島のフランス海軍を攻撃した際，重傷を負って戦死した。

ロイド [Harold Lloyd] (1893～1971) アメリカの喜劇俳優。1916年ハル-ローチと独立プロを設立，カンカン帽にロイドめがねという独特のスタイルで人気者となる。のちパラマウントに移って《要心無用》《ロイドの人気者》などをつくり，チャップリン*・キートン*らと並んでサイレント喜劇の黄金時代を形成した。その演技は，アメリカ中産階級の楽天性を示しながらも，機械文明に抵抗する庶民の願望を体現していた。

ロイド-ジョージ [David Lloyd George] (1863～1945) イギリスの政治家。マンチェスターに生まれ，北ウェールズで育つ。1890年カナーボンから自由党の下院議員に選出され，以後同選挙区より55年にわたって議席を維持。自由主義者として，イギリスの帝国主義的植民政策に反対し，ボーア戦争を非難した。1905年商相，1908年には蔵相となる。1915年アスキス連立内閣の軍需相となったが，アスキスの戦争指導に反対し，保守党と結んでアスキス内閣を倒し，1916年首相となり，1922年まで政権を担当した。彼は第1次世界大戦を勝ち抜き，パリ平和条約にはイギリス代表として出席。国内においてはアイルランド問題にいちおうの解決をみせ，第4次選挙法改正を実現。しかし，保守党との連立政府は自由党員の不信を買い，彼自身政界において孤立するに至った。〔板橋重夫〕

ロイヒリン [Johannes Reuchlin] (1455～1522) ドイツの人文主義者。インゴールシュタットおよびチュービンゲン大学教授をつとめた。古典語，特にギリシア語とヘブライ語の大家で，エラスムス*と並んでヨーロッパ人文主義の代表的人物。ヘブライ語による聖書研究は，宗教改革にも大きな影響を与えた。また，ユダヤ的神秘主義説〈カバラ〉について正統派キリスト教

徒と論争した。《蒙昧人(もうまいじん)の手紙》は有名である。〔米沢克夫〕

ロイマチス ⇨リウマチ

ロイヤル-アカデミー [Royal Academy] 正しくはロンドン王立美術アカデミー。絵画・彫刻・建築についての教育と，その進歩向上を目的とするイギリスの美術アカデミー。1768年ジョージ3世の勅許と援助を得て設立され，初代院長はレイノルズ。幾多の変遷を経て，現在は絵画科・彫刻科・建築科の3部門があり，各分野から選ばれた30人の会員と30～35人の準会員がいる。

ロイヤルゼリー [royal jelly] ミツバチの若い働きバチが幼虫の餌(えさ)として分泌する物質。外見はヨーグルトに似ており，乳白色。味はすっぱく，特異の臭みがある。主成分は，水分が50～60%，タンパク質18%，脂肪6%，含水炭素15%，鉱物質1.5%などで，ほかに微量のビタミンB_1・B_2・B_6・B_{12}，パントテン酸・アセチルコリンなどが含まれる。動物の産卵，生長促進，寿命の延長などに効果があり，人間用には，活力剤・性欲剤，婦人の更年期障害剤，化粧品などに利用されている。〔岡田一次〕

ロイヤル-ソサイエティ [Royal Society] 1662年，ロンドンに設けられた自然科学学会。正確には〈自然の知識を増進するためのロンドン-ロイヤル-ソサイエティ〉という。王立学会あるいは王立協会などと訳す。17世紀半ばごろから，ベーコンの精神を体し，実験科学を推進しようという科学者の運動が起こりロンドンの自主的なグループの一つがオックスフォード哲学協会を経て，やがてチャールズ2世の公認のもとに王立学会として発足し，いま一つの有力なグループ〈目に見えぬ学会(インビジブル-カレッジ)〉がまもなくこれに合流した。王立学会とはいっても王室の財政的保護を受けるものではなく，王や議会などの特許状により，一定の法的な特権あるいは保護を受けることを意図した自治組織であった。財政は会費でまかなわれ，組織は近代的な委員会・総会方式がとられた。その点で近代的な学会の先駆とされる。フック・オルデンバーグらによって学会は活発に活動をし，雑誌《フィロソフィカル-トランズアクション》を刊行した。ニュートンの《プリンキピア》も王立学会の援助で刊行されたものである。代々の会長はいずれも著名な人物によって占められ，国際的に権威ある学会として今日まで続いている。〔藤村 淳〕

ロイヤル-ダッチ-シェル-グループ [Royal Dutch Shell Group] 略称シェル。国際石油資本の一。私企業としてヨーロッパ最大であり，石油会社としてスタンダード石油*(通称エッソ)に次いで世界第2位。ロイヤル-ダッチ-シェル-グループは，オランダのロイヤル-ダッチ石油(60%)とイギリスのシェル運輸商事(40%)を親会社としてもち，さらにシェル石油・バタビア石油を持株会社とし，2,500以上の会社を支配下に置いている。油田の採掘・輸送・精製，石油化学品の生産販売まで総合的に行なう。原油の産出は圧倒的にアメリカ・ベネズエラ・中近東が多く年々増量している。海外市場ではカナダ・アメリカ・日本・ヨーロッパがおもな販売地である。化学品の需要も多く，合成ゴム，高圧および低圧ポリエチレン，塩化ビニルなどの生産設備を拡大・増産している。わが国には直接の子会社としてシェル石油・シェル興産などがある。また，三菱(みつびし)油化・昭和石油と合弁の昭和四日市石油，三菱商事と合弁の西日本石油開発などの系列会社がある。年間売上高127億3,000万ドル，従業員数18万4,000(1971)。〔氏家 尚〕

ロイヤル-バレエだん [ロイヤル-バレエ団] イギリスのバレエ団。1931年ド-バロワ女史によってサドラーズ-ウェルズ-バレエ団として創設され，1945年表記の名称となり現在に至る。ランバート-バレエ団・フェスティバル-バレエ団と並ぶイギリスの代表的バレエ団で，特に《王手詰》《スケートをする人々》《ハムレット》などの新作によってイギリス国民バレエを確立した。なおフォンティン*や映画《赤い靴(くつ)》のシアラーはこのバレエ団のプリマ-バレリーナをつとめた。〔高橋孝一〕

ろう [蠟] ワックスともいう。従来，脂肪酸と長鎖1価アルコールとの固形エステルと定義されていたが，木ろう・羊毛脂・マッコウクジラ油などこの定義からはずれるものもあり，また合成ろうのように化学構造の異なるものもろうとして用いられるなど，いわゆるろう状物質をろうとよぶ場合も多い。ろうは動植物ろうともほとんど固体であるが，マッコウクジラ油は液体，羊毛脂は半固体である。ろうは油脂に比べて比重が小さく0.9以下。水に不溶で，アルコール・クロロホルムなどにとけ，空気中で変質せず，細菌などに侵されない。一般に光沢付与剤，サイジング，ろうそく，医薬用，香料原料などに用い用途は広い。〔岡部平八郎〕

ろうあ [聾啞] 高度の難聴*のため言語生活が障害されている状態をいう。聾とは聴力が著しく減退あるいはまったく消失して日常会話が聞き取れないものをいい，啞とはことばを覚える以前に聾となり，その結果言語を習得できないか，または4～5歳ごろ聾となったため，それまでに習得した言語を忘れた結果生じたものである。通常両者を伴う場合が多く，これを聾啞という。先天性・後天性があり，先天性聾啞は遺伝性または血族結婚などにより，すでに聾となるべき運命をもった卵と精子の結合によると思われるもの(内因性)と，妊娠中の障害(感染薬物中毒・母体栄養障害)，出産前後に原因のあるもの(未熟児・仮死など)がある(外因性)。後天性聾啞は幼少時に種々の脳膜炎，ことに流行性脳脊髄膜炎(のうせきずいまくえん)に罹患(りかん)した場合に最も多く，そのほか急性伝染病・遺伝梅毒・外傷・薬物中毒・中耳炎が原因となる。先天性は女児に，後天性は男児に多いといわれるが，このような患児では早くから特殊な言語教育が必要である。〔日野原 正〕

ろうあきょういく [聾啞教育] 聴覚障害とそれに伴う音声上の障害をもつ者に対する教育。広義には，中耳や内耳の障害による末梢(まっしょう)性聾，脳の異常による中枢性聾，強度の情緒不安定による精神性聾，精神薄弱による精薄性聾を対象とするが，普通には末梢性聾が中心である。まず失聴の程度や時期に応じ，話しことばを理解し発表する言語指導を行ない，さらにその発展として各教科の指導を展開し，障害を克服して社会人として立っていくのに必要な知識・技能を授けることを目的としている。かつて聾啞者は，16世紀に至るまで教育的にはまったく放置されていた。これは当時の宗教観，言語観，医学の進歩の程度などに基づく社会的偏見によるものであって，彼らは人々の憐憫(れんびん)にささえられて生きていたといえる。しかし，ルネサンスに始まる近代の黎明(れいめい)は聾啞者に対する新しい認識をもたらした。すなわち教育の可能性が実証されるのである。イタリアの医師G.カルダン(1501～1576)は，聾啞者には理性があるから教育できると発表し，有名なM.ルーテルも彼らに信仰を与えうると説いた。以来，ヨーロッパ先進諸国に教育可能を実証する試みが起こりはじめた。聾啞者に対する学校教育が社会の責任で行なわれたのは，18世紀の後半からである。フランスのA.D.レペ(1712～1789)，ドイツのS.ハイニッケ(1729～1790)がその推進者で，前者は手話法，後者は口話法を唱え，指導法上の相違はあるが，それぞれの国に公立の聾啞学校の設立を可能にした。19世紀にはいるとイギリスやアメリカにも普及し，その末期には指導法も口話法を正統とし，就学の義務制や教員養成も実施されるようになる。わが国の場合，1878年(明治11)に設立された京都盲啞院，1879年の東京訓盲院が最初で，1923年(大正12)の勅令で制度化され，1947年(昭和22)の学校教育法で義務制となり，今日に及んでいる。義務制以降，今日に及ぶこの教育の動向で着目すべきものの第1は，早期教育の普及である。通常小学校に入学する6歳まで家庭で放置された場合，就学後の教育は著しい困難や遅滞を招く。そこで幼児段階から直接学校で教育をするか教育相談に応じるかによってこの欠点を補おうとするのである。3歳入学の幼稚部を置く学校がふえてその成果をあげつつある。第2は補聴器の開発と聴能教育の進歩である。聾啞者といえどもそのほとんどは若干の聴力を残している。この残存聴力を最大限に生かして耳を通して

の教育を図ろうとするのである。最近，通常の学校に設けられた難聴学級もこの成果に負うところが大きい。第3は教育機器の導入である。おもに視覚教具の利用であるが，これによる学習の効率化が促進されつつある。これら三つの新しい動きは必然的に児童生徒の学習を相当に向上させ，高等学校段階を終えて通常の大学に進学する者がここ数か年に50名をこすに至っている。

〔小畑修一〕

ローウィ　[Raymond Loewy]　(1893〜　)アメリカのデザイナー。パリの生まれ。パリ大学で工学を学ぶが，1919年アメリカに渡り，ファッション誌のイラストレーターとなる。1927年にインダストリアル-デザイナーとして自立，1932年ごろにはこの分野の新しい動きの旗手となり，機能や美の追求を大企業の大量生産販売政策と結びつけて，アメリカのみならず世界のインダストリアル-デザイン界のリーダーとなった。流線形をとり入れたデザインが特徴的。代表作はペンシルベニア鉄道の駅と機関車，ステュードベーカー車，グレーハウンドのバス，シアーズ-ローバックの冷蔵庫，シェル石油，たばこのラッキーストライク・ピース，アサヒビールなど，文字通りその著になる書名の《口紅から機関車まで》に及んでいる。　〔吉田玲子〕

ろうえい　【朗詠】　雅楽の歌い物の一種。歌のほうが独唱と斉唱(せいしょう)と交替し，斉唱には笙(しょう)・篳篥(ひちりき)・横笛各1本が助奏として加わり，歌のパートをなぞっていく。現在宮内庁楽部に伝承されているものは15曲で，これらの歌詞は，平安時代に公家(くげ)の間で愛好された漢詩である。たとえば，《東岸》では，〈東岸西岸之柳遅速不同，南枝北枝之梅開落已異〉を〈(a)とうがんせいがんのやなぎ(a′)ちそくおなじからず，(b)なんしほくし(b′)のうめ，(c)かいらく(c′)すでにことなり〉と読み，番号にダッシュのついていない部分が独唱でダッシュのついている部分が斉唱で歌われる。旋律は音域が広いが，あるくぎりの中では，同じ音の反復が目だつ。リズムは拍子を前提にしていないため，楽器の吹き方も含めて，全体が柔軟に流れていく。朗詠は元来，だれもが参加して歌う，室内楽のような機能をもっていた。　〔徳丸吉彦〕

ろうえきこん　【労役婚】　おもに未開社会にみられる婚姻制度の一つの形態。すべての未開社会における婚姻は単なる一対の男女の結合ではなくて，それぞれの家族・親族の社会的結合であり，このような社会的結合を満足させる婚姻の要件のさまざまな形態が存在する。最も一般的なのは婚資*である。その場合に財貨の代わりに一定期間婿が嫁側に労役奉仕するのが労役婚である。しかし，逆の形の妻側から夫側への奉仕もガロ族*(インド)などの母系制*の社会に存在する。　〔森部　一〕



臈　纈　東京国立博物館蔵裂部分

ろうえきじょうりゅうち　【労役場留置】　罰金または科料を言い渡された者がこれを完納できない場合，その額に相当する期間労役場に留置されること(刑法18条)。罰金・科料の言い渡しとともに留置の期間を定めて言い渡される。労役場は監獄に付設され，留置者には原則として作業が科せられる。留置期間は，罰金については1日以上2年以下，科料については1日以上30日以下とされる。その執行は，罰金は30日を，科料は10日を経過しなければできない。罰金・科料の一部を納めた場合は，その額に相当する期間が控除される。なお，少年には労役場留置は適用されない(少年法54条)。

〔井上公耳〕

ろうかげんしょう　【老化現象】　加齢による生体の退行性変性。老衰・老人性変化ともいわれる。一般的に水分は減少し，諸臓器は萎縮(いしゅく)し，機能が低下する。動物によって加齢の程度は異なる。原因については，内因説・外因説などあるが明らかではない。

ろうがっこう　【聾学校】　⇨聾唖(ろうあ)教育

ろうがん　【老眼】　⇨老視

ろうきゅう　【籠球】　⇨バスケットボール

ろうけち　【臈纈】　染色の一技法で，ロウを防染剤に用いて布地に文様を表わしたもの。わが国には，奈良時代に中国からその技術が伝えられ，盛行した。正倉院に残る染織品の中には，絹地に臈纈を施した屏風(びょうぶ)や絁(あしぎぬ)・綾(あや)・羅(ら)などがある。染めの方法は，とけた熱ロウを筆または刷毛(はけ)につけて模様を描くか，陽刻した木型を布地の表面に押しつけ，染液につけて地色を染め，のちに脱ロウするものである。古くは白抜きのものが多かったが，現在では多色染めが行なわれている。多色染めには先の方法がくり返される。臈纈の特徴は，他の技法による染色品と比較して描線が流暢(りゅうちょう)で，絵画的な効果が表現される点にある。

ろうこく　【漏刻】　⇨水時計

ろうさいぶし　【弄斎節】　18世紀前半に遊里を中心にしたはやりうたの一種で，隆達節*(りゅうたつぶし)よりは遅れ，投げ節よりは時代が早い。この呼び名の起源は明らかではないが，弄斎(籠斎)と名のる浮かれ坊主が

歌いはじめたためといわれる。今日では，三味線(しゃみせん)組歌，三味線長歌(佐山検校(けんぎょう))《雲井弄斎》，筝(そう)組歌《雲井弄斎》などに旋律が残っているが，これらは当時のはやりうたをどこまで含んでいるのかは不明である。歌詞は恋を扱ったものが多く，〈いかな夜もよも人こそ知られ，閨(ねや)は涙の淵(ふち)となる〉といった，7・7・7・5調のものが多い。〔徳丸吉彦〕

ろうさいほけん　【労災保険】⇨労働者災害補償保険

ろうざんゆうき　【老残遊記】　中国，清(しん)末の通俗小説。全20回。劉鶚(りゅうがく)(1857～1909)の作。1903年雑誌に連載，1907年単行本刊行。鉄英，字(あざな)は老残という人物の旅行記の形をとり，その言行や見聞を通じて当時の中国社会の病態，中でも官吏のそれを風刺し，批判している。なお，著者の劉鶚は鉄雲ともいい，殷墟(いんきょ)出土の亀甲(きっこう)獣骨の収集家としても知られる。

ろうし　【老視】　老眼ともいう。老齢化に伴って，近点(明視できる最も近い点をいい，正視では25cm)が遠のいて，読書・筆記などが困難になる状態。*水晶体の弾性低下およびその付属器物の老人性変化が起こるためで，ふつう男女を問わず40～45歳で発現する。自覚的には，*遠視のほうがもともと近点距離が遠いので*近視よりも早く現われるのが特徴である。それぞれの年齢に応じた適切な老眼鏡をかける必要がある。

ろうし　【老子】　中国の道家の祖と伝えられる人。また，その著と伝えられる書。《史記》によれば，姓は李(り)，名は耼(たん)，河南省の苦県の生まれ。博学で，孔子が礼を問うたことがある。衰乱の世を見て西方に身を隠したが，その途中の関所で書き残したのが《老子》であるという。実際には，これは道家思想が形成される過程で作為された伝説的人物の像である。《老子》もまた道家思想の中で漢初に定型化した経典で，戦国時代の諸子の書に老子の語としてしるされているものなどを材料として作成されたものである。口頭で伝唱されたらしい押韻文を核とした短文81章，2巻からなる。のち，その所説によって〈道徳経〉という名が生まれ，また全部で5,000余字なので〈老子五千言〉という呼び名も起こった。

《老子》の思想は〈道〉を根本とする。道は人の根源である。これを〈玄・虚・無・天〉と形容する。その作用は〈無為〉であり，道の無為に基づいている万物の作用は〈自然〉である。この道の観念は，実は人間界を説くためのものである。さて，道の体得者は聖人で，これが王となる。体得の内容を〈徳〉といい，これも無為であり，そして〈無為にして為(な)さざる無し〉である。知や道徳，また一般に文明を否定し，民を愚にし小国寡民の郷に知足安分させることによって，無為の徳の聖人の下に人民を完全に掌握できるとする。こうして，《老子》は処世権謀の書でもある。およそ低きにおり，物事に従うことによってこそ万物を支配し，その最高の地位に立つという《老子》の有名な逆説も，このような処世権謀の発想からなったものである。《老子》の政治術はのちに〈黄老の術〉といわれ，その観念的な否定と逆説の哲学が《*荘子(そうじ)》とともに*老荘思想を生んだ。なおまた，*道教の理論的基礎づけに利用され，道教経典となった。➔道家　➔諸子百家　〔西　順蔵〕

ろうしきょうぎせい　【労使協議制】　労働組合または労働者の代表と使用者または使用者の代表とが生産・経営問題に関して協議する制度。一企業，一産業あるいは全国規模などいろいろなレベルで行なわれる。*団体交渉が賃金・労働時間など労働条件の決定を目的とするのに対し，この制度は生産方法・労務管理・福利厚生など企業経営上の特殊的・具体的な問題を協議するもので，労働者の経営参加の一形態をなしている。日本では，第2次世界大戦直後経営参加的性格を有する*経営協議会が多くつくられたが，その後経営者側の〈経営権〉の主張によって変質を遂げている。また，日本の労働組合は企業別に組織されているため(➔企業別組合)，この制度と団体交渉との区別はしばしば困難であり，団体交渉の前段階的役割をになっている場合が多い。〔河合研一〕

ろうしゃ　【老舎】　ラオショ　(1898～1967？)　中国現代の作家。北京(ペキン)の満州旗人の出身。1924年イギリスに留学，ディケンズの作品に接して作家として開眼，長編小説《張さんの哲学》を執筆，文壇に認められる。古都北京とそこに生きる庶民の生活に深く共鳴し，浮薄な知識人に反発する態度を創作活動にとり続け，日中戦争中もその立場を守って抵抗文学を執筆した。新中国になってからも創作を続けていたが，文化大革命に際して自殺したと伝えられる。代表作は，五・四運動当時の学生を風刺的に描いた《趙子曰(チャオズユエ)》，北京の人力車夫の物語《駱駝祥子(ルオトーシャンズ)》，戦時下北京の庶民の抵抗運動をテーマにした三部作《四世同堂》など。〔今村与志雄〕

ろうじゅう　【老中】　江戸幕府の職名。将軍に直属して政務を統轄した幕府の最高職。鎌倉時代から武家の役職として老臣を年寄・首名(おとな)などと称したが，室町後期には，宿老中・年寄中・家老中・老中などの称があった。家の重臣は，壮年でも政務にあずかったので，年齢に関係なく老中とよばれ，それが職名となった。江戸幕府でもはじめは，年寄衆・宿老・加判・連判・奉行(ぶぎょう)などといった。その職務は1634年(寛永11)の規定によれば，禁中・公家(くげ)・門跡・諸大名に関する諸事務をはじめ，大目付・町奉行・代官などの役人の支配，奉書連判のこと，財政，普請，知行制，寺社・外国御用，参勤交代などを扱った。二万五千石以上の譜代*大名が任ぜられ，定員は4～5名，月番制であった。ほかに将軍の世子付の西丸老中，前将軍付の大御所様付(二丸付)老中があった。なお，老中の先任者を特に老中首座とよんだ。幕末には月番制を廃し，海軍総裁・陸軍総裁・会計総裁・事務総裁・外国事務総裁に分け職務を分担した。〔岡山泰四〕

ろうじんせいちほう　【老人性痴呆】　脳の老人性変化に伴う機能的退化により起こる精神疾患。生理的な*耄碌(もうろく)との境界は明らかでない。*痴呆を主症状とし，昔の記憶は比較的よいが，記銘力が低下し，独断的となり，知能低下・道徳心低下・性格変化・ふきげん・無遠慮，ときに妄想(もうそう)などを伴う。夜間に不安・不眠があり，進行するとなにもしないで日々を送る。70歳前後に発病することが多いが，老人性精神病や梅毒などとの鑑別を必要とする。病理学的には，脳全体，特に前頭葉の萎縮(いしゅく)が顕著である。治療は対症療法が中心だが，予後は不良である。〔井形昭弘〕

ろうじんびょうがく　【老人病学】　老年者におけるさまざまな疾患の成因，症状の特徴，治療などを研究する学問。ジェロントロジーともいう。単に疾病(しっぺい)の研究を目的とするのではなく，医療を通じて老人の寿命を延長し，心身の健康を保持し，意義のある人生を送っていくことができるようにすることを目的とする。老年期の慢性疾患は，突然起こるのではなく，すでに壮年期に端を発している場合が多いので，壮年から老年に向かっていく過程での生理学や病理学の研究が，この学問の根底をなしている。〔岩井　寛〕

ろうじんホーム　【老人ホーム】　老人福祉法(1963)の施行に伴って従来の*養老院の用語に代わって用いられるようになった老人福祉施設。養護・軽費・特別養護・有料の4種類がある。①養護老人ホーム：65歳以上の者で，身体上・精神上・環境上および経済上の理由で，居宅では養護を受けることが困難な者を収容し，養護することを目的とする施設。2畳に1人の割合で収容され，生活保護法(1950)(➔生活保護制度)の適用と福祉*年金の支給が行なわれている。②軽費老人ホーム：低額な料金で老人を収容し，給食その他日常生活上必要な便宜を供与することを目的とした施設。子どもの送金によって入居している者が多く，1人1室が与えられている。③特別養護老人ホーム：65歳以上の者で身体上・精神上著しく欠陥があるために常時の介護を必要とし，かつ居宅でこれを受けるのが困難な者を収容することを目的とした施設で，いわゆる寝たきり老人を対象とした施設。ヨーロッパやアメリカでは看護ホームとよんでいる。看護婦が常置されており，また身体機能の回復のための*リハビリテーションの施設が

併設されているものが多い。④有料老人ホーム：民間の経営による健康老人を対象とした有料施設。常時10人以上の老人を収容し，給食その他日常生活上必要な便宜を供与することを目的としたもので，デラックスな設備をもつものもある。〔那須宗一〕

ろうじんもんだい　【老人問題】 ⇨次ページ

ろうすい　【老衰】 ⇨老化現象

ろうせいねい　【郎世寧】 ⇨カスチリオーネ

ろうせき　【蠟石】 粘土鉱物の一種であるパイロフィライトを主成分とし，セキエイの微粒子を種々の割合で含んでいる鉱石。淡緑色でろうのような光沢を示すことが多い。カオリンや水酸化アルミニウムの鉱物を多量に含み，セキエイをほとんど含まないものは白ろう石とよばれ，白色ないし淡灰色である。白ろう石は耐火度が高く，るつぼ原料として珍重され，一般のろう石は耐火れんがの一種であるろう石れんがの原料になる。また粉砕して水簸(すいひ)したものは，クレーとして製紙用や農薬増量材に用いられる。また外観の美しいものは，印材やその他の工芸用になる。特に半透明のろう石の中にシンシャを点々と含むものは，鶏血石と称し，古来中国で印材として珍重された。ろう石の利用が盛んなのは日本であって，年産額80万tに達し，主産地は岡山県の三石地方と広島県の勝光山地方とである。〔片山信夫〕

ろうせん　【蠟箋】 版木を用いて絵や文様をこすり出した紙。その線にろうでこすり出したような光沢があるから蠟箋といわれているが，ろうを用いたのではない。書を書く料紙として用いられる。

ろうそうしそう　【老荘思想】 道家の代表的な書物である《老子》《荘子(そうじ)》に述べられている思想の併称。➜道家

ろうそく　【蠟燭】 糸を心として回りをろうで棒状に固めた照明具。らっそく・らっちょうともいう。松明(たいまつ)や脂燭*(しそく)の類から発達したもので，西洋・東洋ともにおよそ紀元前3世紀ごろに現われ，日本では仏教の伝来とともに中国から輸入されたらしく，奈良時代に宮廷・寺院の一部で用いられていた。平安時代後期，中国との交流が絶えるに及び，松脂(まつやに)による蠟燭が用いられた。江戸時代にはいると櫨(はぜ)による木蠟燭の国産化が進み，蠟燭の需要は急激に増大した。しかし木蠟燭が都市を中心に広く利用されたのに対して，地方の農山村では明治時代末期まで依然として松脂蠟燭が用いられた。明治時代以後，パラフィン・ステアリンなどを原料とし，機械生産による光度の強い西洋蠟燭の普及により，在来の手工的蠟燭は姿を消していった。〔渡辺欣雄〕

ろうちゅう　【老中】 ⇨ろうじゅう

ろうづけ　【蠟付け】 金属の接合方法の一。接合すべき金属の接合面に，それより融点の低い金属を溶融添加して接合する。母材と溶加金属(ろう)との融合部は，ふつうろうが母材にわずかに拡散しているか，または両者が薄い合金をつくっている。ろうのうち，融点が450℃以上を硬ろうといい，ガス炎・炉・電気熱などで加熱を行ない，ろうのみをとかして接合を行なう。これはふつうブレージングといわれる。この場合酸化物除去のためフラックスを用いる。銀ろう・黄銅ろう・アルミニウムろう・リン銅ろうなど日本工業規格(JIS)で規定されているものもあり，これらの合金の接合や，鉄と黄銅，アルミと銅などの異種金属の接合にも用いられる。また融点が450℃より低いものを軟ろうといい，そのろう付けははんだ付けとよばれている。〔内田信邦〕



蠟　燭　草花を描いた絵蠟燭　山形県鶴岡市

ろうでん　【漏電】 配線工事の不良および絶縁物の絶縁耐力の劣化により，正常の電気回路以外の個所に電流が流れる現象。放置すると感電の恐れがあるばかりでなく，電流の熱によって過熱し火災の原因ともなる。したがって，定期的に絶縁能力を検査する必要がある。特に，電気洗たく機のように水にぬれる機会の多いものはアースを完全にすることが必要である。

ろうとう　【郎等】 ⇨家の子郎等

ろうどうあんぜんえいせいほう　【労働安全衛生法】 労働災害の防止のための危害防止基準の確立，責任体制の明確化および自主的活動の促進の措置を講ずるなどその防止に関する総合的・計画的な対策を推進することにより，職場における労働者の安全と健康を確保することを目的としてつくられた法律。従来，労働安全衛生に関する定めとしては，労働基準法の〈安全及び衛生〉の規定(42～55条の二)，およびこの規定を具体化したものとしての〈労働安全衛生規則〉ほか各種労働省令としての規則があった。しかし，最近のように新工法や新物質の採用が急速に進み，新しい企業形態が登場してくると，これまでの労働基準法の定めでは労働者の安全と健康を有効に確保できなくなる。そこで，生産の場の変化に即応した労働災害防止対策の展開を図るとともに，労働災害防止のための最低基準を確保するだけでなく，より快適な職場を目ざす対策を実施することとし，そしてそうした対策推進を裏づけるものとして，技術上・財政上の援助も行なうことができるよう，1972年(昭和47)6月本法が制定され，同年10月1日施行された。なお，本法が制定・施行されたことに伴い，労働基準法に定める上述関係規定は削除され，労働省令としての各種規則も一部改正のうえ本法によることとなった。〔河合研一〕

ろうどういいんかい　【労働委員会】 労働組合法によって設置される労働者委員・使用者委員・公益委員同数の代表による三者構成の行政委員会。労働組合の資格審査，不当労働行為の救済などのいわゆる判定的機能と，労働関係調整法に基づく労働争議の処理などの調整機能とを合わせもっている。労働委員会には，労働省の外局として労働大臣の所轄に属する中央労働委員会*，都道府県に設置され知事の所轄に属する地方労働委員会*，運輸大臣所轄の船員中央労働委員会および船員地方労働委員会の4種がある。労働委員会は，上述の機能を果たすために工場・事業場への臨検，物件の検査などの強制権限をもち，中央労働委員会は，さらに労働組合の資格審査や不当労働行為に関する地方労働委員会の処分の再審査，および中央・地方労働委員会の行なう手続きに関する規則制定権をもっている。なお，広義には，公共企業体等労働関係法に基づく公共企業体等労働委員会*(公労委)もこれに含まれる。〔河合研一〕

ろうどううんどう　【労働運動】 ⇨170ページ

ろうどうかちせつ　【労働価値説】 商品の価値の大きさは，その商品を生産するために必要な労働量によって規定されるという学説。17世紀の終わりごろ，イギリスではペティ*，フランスではボアギュベールによって提唱されたといわれているが，その後，A.スミス*・リカード*によって展開されて経済学体系の土台とされ，さらにマルクス*によって完成された。スミスにおいては，商品の価値の大きさはその商品の生産のために投下された労働の量によって規定されるという考え(投下労働価値説)だけでなく，商品の価値はそれがどれだけの投下労働を含む商品と交換されるかによって規定されるとする考え(支配労働価値説)が混在していたが，リカードは支配労働価値説を捨てて投下労働価値説に醇化(じゅんか)した。しかし，リカードも剰余価値*と利潤との区別，価値の生産価格への転化の関係を明らかにすることができなかった。特に国際間の商品交換において等価労働量交換の法則を貫徹しえなくなって，労働価値説の経済学体

➜168ページ

老人問題

1950年にはじめて老年国際学会がベルギーのリエージュで開催されて，老人問題はすべての国における20世紀後半の重要な社会問題であることが確認された。わが国においても，これまでの児童福祉法など福祉四法に加えて，新たに老人福祉法(1963)が制定されるに至った。

〔老人の人口問題〕老人問題は，まず人間の寿命の延長と出生率の低下から始まったといえる。日本人の平均寿命は1955年には男63.8歳，女68.4歳であったものが，10年後の1965年には男67.7歳，女72.9歳と著しく延びている。この寿命延長の傾向を1975年を目標値として推計すると男72.5歳，女75.8歳となり，現在の北欧なみの平均寿命が予想される。出生率は1947年の34.3％をピークとして漸次減少し，1965年には18.6％にまで低下した。厚生省の推計によると，1975年にはさらに15.3％まで低下すると予想している。このような寿命の延長と出生率の低下から，老人人口の増加と若年者人口の減少という人口の変動を生じた。この少産少死型の人口構造が急速に進行しはじめたのは，朝鮮事変後の1955年ごろからだとされている。1955年当時は，65歳以上の人口は総人口の4.7％にすぎなかったものが，逐年増加して1965年には6.4％に上昇し，長期推計では1980年には9.1％となり，1985年には総人口の10％を占めることになっている。1970年現在でも60歳以上の人口をとれば，すでに11％を占め，1,100万人に達している。また定年退職の年齢55歳以上の人口を推計していくと，1985年には55歳以上の人口は総人口の20.3％となり，同じ年の14歳以下の人口20.9％とほとんど同率となる。このような日本の老人人口の増加が欧米に比べて短期間に出現しただけに，日本の国民生活に急激な影響を与えることは当然といわねばならない。

〔老人の貧困問題〕老年期になると，労働収入の激減または途絶という貧困化への不安が高まる。最近の職業構成上の変化をみると，農業や自営業のような老年期にも就労しやすい職業分野は減少し，新しい技術や機械の習熟を必要とする若い世代に向いた職業分野が増加している。大企業による中小企業の系列化とともに，高齢者の労働力はしだいに近代産業から排除される傾向にある。そのために老人の雇用先は，近代産業から取り残された，労働条件の悪い零細な企業部門にとどまるにすぎない。労働省の定年到達後の再就職先の給与調査によれば，65歳以上の老人の給与は，20～24歳までの単身者の給与にほぼ等しいといわれている。したがって配偶者をもつ65歳以上の老人が，勤労収入のみによって家計を維持することはきわめて困難な状況にある。しかし，他方若年労働力が，出生率の低下，産業機械化の進展，高校・大学進学率の上昇に伴い，今後ますます不足をきたすことが予想されている。そこで高齢者の労働力がこれに代わっていくため，定年の延長などが行なわれて老人の就労難は解消するのではないかという見方がある。しかし欧米においても，中年婦人のパートタイム雇用は増加していても，高齢者の雇用はそれほど増加していない。また西ドイツでは若い労働力不足はむしろ機械による代替と国外の若い労働者を輸入することによって補給されている。日本の定年制は，欧米の65歳に比べて10年も若い55歳であるところから，日本においては老年期以前の向老期の問題がある。定年制の延長や高齢者の働く権利を確立する労働問題については，最近ようやく企業者も労働組合も取り組みはじめた。しかし日本の賃金体系が欧米に比べて低賃金であり，そのため生活給の性格が強く，年功序列型賃金*体系から脱却できないことや企業間の労働移動が自由でないため，職場転換や職種変更が円滑に行なわれないことなどが理由となって，定年制の延長ないし廃止の方向はなかなか実現しない。したがって都市の産業に雇用されていた定年退職者の潜在的失業率は，今後も解消されそうにないのが実情である。また農村では労働の老齢化がすでに問題化しており，兼業農家の増大に伴って老人夫婦の二チャン農業が普遍化しつつある。したがって農業に従事する老人の場合は，専従期間の長期化によって過重労働化が問題となっている。老人の就労の現状と展望からみて，就労は老後の生活収入源として十分なものを期待することは困難である。したがって老年期の職業活動のもつ意味は，経済的レベルよりは，精神的・肉体的な健康を維持し，社会的有用感を失わないという社会福祉的レベルがむしろ重要である。したがって老人の生活を維持するにたる収入源は，基本的には老齢年金などの社会保障によらざるをえないことは，おそらく時代の要請である。

日本の年金制度は年金開始年齢(厚生年金60歳，国民年金65歳，福祉年金70歳)が定年制55歳とリンクされていないばかりでなく，その給付水準も低く，残念ながら老後の所得保障の役割は果たしていない。欧米の年金額は1人あたり国民所得のほぼ40％であるのに，日本の年金額はわずかに9.6％である。年金額を欧米なみの40％程度に引き上げ，しかも物価上昇率にスライドした年金額を確保するには，政府のよほどの努力なしには実現困難である。老後の生活資源としては財産貯蓄からの収入がある。しかし1960年以降の消費者物価は大幅に上昇し，1970年度(1965年＝100)では総合で132.5となっている。このような物価上昇の傾向は，過去に蓄積した貯蓄などによって生活の安定を図ろうとする老人にとっては，その影響はきわめて深刻である。中でも大多数の勤労階層は，定年前後に自分の住宅を保有することを目的として従来から積み立て，貯蓄するのが通例であるが，最近のように地価や建築費の値上がりが大きい場合には過去の貯蓄の実質購売力は大幅に減価することになる。したがってこのような傾向が続くかぎり老後のための資産形成もまたますます困難となっている。子どもの扶養による老人の家族的保障もまた衰退する傾向にある。現在日本の65歳以上の老人は，大部分が家族扶養によってささえられていて，勤労収入・財産収入・年金によって経済的に自立している者は，1963年の厚生省調査によれば，老人全体の33.2％にとどまっている。しかし第2次世界大戦後子ども夫婦との別居化に伴い扶養意識も大幅に変化し，家族扶養によって生計をささえている者は，1957年の77％から1963年には66％と低下する傾向にある。国民の生活原理が消費の抑制から充足へと変わってきたために，別居の子どもにとっては親の扶養にふり向ける経済的余力は減少している。1963年の厚生省調査によれば，別居の子どもから仕送りを受けている者は子どもの数には関係なく，わずかに11％にとどまっており，別居の子どもの仕送りだけで暮らしている老人にいたっては，4.5％にすぎない。最近の核家族化の傾向は高齢者世帯(男65歳以上，女60歳以上で夫婦または単身の世帯かあるいはこれに18歳未満の子，または孫を加えた世帯)の数を増加させ，1957年に47万世帯だったのが，1965年には約80万世帯に増加している。このような高齢者世帯では，生活保護を受ける極貧の者も少なくない。

〔老人の保健問題〕老年期にはいると，死への距離が近いだけに健康に対する不安はきわめて強い。老人福祉法は65歳以上の老人に対しての全額公費負担による健康診査を行なうことを規定しているが，年1回しか実施されていないため，老人が必要なときに適宜に診査を受ける態勢にはない。また最近精神病疾患の老人がふえているが，この無料健康診査は身体的診査だけで精神衛生の診査は実施されていない。また老人みずから疾病の発見をおそれる傾向もあって，年1回の健康診査の機会すらみずから放棄している場合もある。1969年の老人健康診査の実施状況によれば，正常な健康体の老人は52％で，半数近い老人は精密診査を必要とするか，医療を必要とする状況であった。療養者の病名で最も多いのは，高血圧性の疾患50.3％，次いで心臓の疾患14.3

%であった。老人の病気は一般に慢性，長期化するものが多く，医療費がかさむため，資力の少ない老人にとっては大きな負担である。定年退職して雇用者の地位をもたなくなった老人は，国民健康保険*に加入することになる。国民健康保険は治療費の30%は本人負担であるから，病気にかかりやすい高齢者ほど経済資力がないので，国の医療保険制度を利用しにくいという矛盾が現われている。また日本に多発する卒中やそれに伴う後遺症については，特別の治療・看護・リハビリテーションを必要とする。現在の医療機関には，この機能を備えているものが少なく，慢性疾患の老人専用の病院もほとんど皆無に等しい。先年在宅の寝たきり老人の調査が行なわれたが，1968年の推定によれば全国で40万人とみられ，そのうち失禁症のたれ流し老人が10万人近くもいると推計されている。在宅の寝たきり老人の多くは，医学の治療的対象とならず，したがって医学上の治療的関心も少ないために，もっぱら同居の家族(妻またはむすこの嫁)の看護に放置されているのが現状である。看護者の家族についての疲労状況の調査では，〈たいへん疲れる〉〈少し疲れる〉を合わせると半数またはそれを上回っている。都市の社会福祉事務所では寝たきり老人の家族へ家庭奉仕員*を派遣しているが，家庭奉仕員の数が少ないので，単身の老人か夫婦だけの老人家庭に限定して週２回派遣されているにすぎない。寝たきりの老人に対する福祉施設として特別養護老人ホーム(→老人ホーム)があるが，これは看護婦によって専門的看護を受ける施設である。しかしこの種の施設はきわめて少なく，また十分に普及していないため入所希望者は必ずしも多くない。

【老人の孤独問題】老年期に訪れる，心理的な特性に孤独がある。職業から身を引き，友人知己の死別にあうことの多い老年期は，すべての人間がこの孤独感を味わうことになる。しかも，現在のように社会変動の激しい社会では，世代間の断絶も大きいので，老人はとかく社会的に疎外された状況に置かれやすい。孤独の感情は愛情の対象を喪失したときに最も深刻となるが，家族との離死別は愛情の対象との日常的な情緒的接触を失うことになるので，孤独感はさらに深まる。最近の核家族化の傾向では，老後の家族形態は子ども夫婦と別居することをたてまえとしている。1930年当時の核家族では，末子が結婚する前にすでに老人夫婦とも他界していることが多かったが，30年後の1960年では末子が結婚して家を離れてから，老人夫婦だけで暮らす時期が平均して10～13年に延びている。さらに核家族の周期の最終段階では老人は単身世帯となるが，女の場合は1960年にはほぼ７年間のひとり暮らしの時期が訪れるようになった。したがって核家族時代の老人は，成人した子との別居によって親子関係の情緒的機能を失いやすいために，家庭生活で孤独感におそわれることが多くなる。ことに核家族では，夫婦中心の生活規則が日常化していることが必要であるが，日本においては老齢化につれて妻は夫に代わって成人した子どもへの傾斜が高まり，夫よりも子どもとの相互援助に強い関心と満足を覚えるため，子ども夫婦との別居は老人夫婦の孤独感をさらに強めることになる。ウィーンの老人の孤独感を調査したもの(ノイミアーによる)によれば，核家族の老人で最も強い孤独を訴える老人は，配偶者と離別した男の老人，次いで妻に先だたれた男の老人であるとのことである。しかしロンドンのひとり暮らしの老人調査(タンスタル女史による)によれば，孤独を訴える老人はあんがい少なく，経済的にも精神的にも自立していることに誇りをもち，数分の歩行距離に住む娘夫婦と，毎日のように往来している者が多いとのことである。核家族の生活慣習が定着しているところでは，かえって別居の子ども夫婦との間に相互援助の情緒的交流が行なわれているようである。大阪で子ども夫婦と同居している老人の孤独感を調査したもの(岡村重夫による)によれば，子どもや孫と同居しながら，相互に対話もなく孤独を訴える老人が比較的多くみられ，世代間の断絶から子や孫から疎外された老人をみかける場合がある。欧米においても自殺率は老人に最も多いが，日本は世界的にも老人自殺率が高く，女性は第１位で，男性は第７位にランクされている。老年期の自殺には一般に疾病者の割合が高いといわれているが，老年期にはたいていなにほどかの慢性的疾患をもっており，寝たきり老人にはかえって自殺者が少ないともいわれている。老人の中で自殺頻度(ひんど)の高いものを数量的にみると，配偶者関係では離死別した者，職業別では無就業者が多い。こうしてみれば，老人の自殺の動機には，配偶者の離死別による孤独な精神状態，職業を失ったことからくる社会的に疎外された状況感情が大きく影響していることになり，一般的に自殺は，各国ともに男の老人に多くみられる。

【老人の余暇問題】余暇には二つの意味がある。その一つは労働力の再生産のためにレクリエーションの形で費やされるものであり，その二は労働とまったく切り放されて，趣味，創造的な仕事，社会的奉仕などのためにまったく自由に使われる余暇である。65歳までは大半がフルタイムの職業をもっているから，この場合の余暇は第１の労働の対概念としての意味に費やされている。しかし，職業活動から身を引いた65歳以上の老人の余暇活動は，むしろ余暇を余暇として利用する第２の意味においてなされる。日本の老人が余暇時間を消費する場合は家の中が多い。したがって最も多いのはラジオ・テレビの視聴である。またいちばん楽しい余暇活動は，男は庭いじり，晩酌(ばんしゃく)・読書など個人的色彩の強いものであり，女では家族団欒(だんらん)，孫と遊ぶ，家事など家族的な接触の中に見いだす楽しみ方である。このような余暇利用は，職業・家事労働を中心とする中年期の余暇利用の姿勢と本質的には変化していない。中年期においても，余暇活動を自発的に計画する経験もなく，もっぱら与えられたものを受けとるといった姿勢がそのまま老年期に持ち越され，余暇の多くが家庭での時間つぶしの域を出ないものにしている。老人が家庭の外で楽しむ余暇活動の中で，最も参加度の高いのは敬老会と旅行会のような一時的な催しであって，老人の生活のリズムの中に積極的に組み込まれた家庭外の余暇活動は少ない。

核家族化の風潮のもとで，家庭の中で生きがいとなる活動を見いだすことが困難になっているだけに，職場や家計管理から身を引いた老人の余暇は無為無用感に通ずる。そこに老人の悲劇がある。老人の余暇では，地域社会との住民接触や地域社会の施設のあり方が活動の内容を決定する重要な要因である。地域社会における老人の余暇活動の組織化の一つに老人クラブがある。現在老人クラブは会員数が全国で400万人といわれ，国や地方公共団体の助成もあって，最近めざましい発展をみせた老人の社会活動であり，余暇利用の組織化である。ここでは70～75歳の老人が活動の中心となって，特に子ども夫婦と同居している余暇老人の社会活動の場となっている。老人クラブの活動内容からみると〈娯楽中心型〉〈講習会型〉〈社会奉仕型〉などがあって，それぞれのクラブ指導者の特性が反映されている。クラブ活動はそれぞれ地域社会の老人の必要性に応じた独特のアイディアが打ち出されるのは当然である。しかしとかく画一化され，形骸化され，行事本位となる傾向もみられる。また他の地区から移住してきた人や経済的に困窮している老人に対する呼びかけの方法や受け入れ方など，組織化の面でも残された問題がある。このほか余暇の社会活動としては，民生委員*や町内会委員・団体役員など，市民として参加して活動する市民権活動も重要な分野である。さらに重要な社会活動は，最近健康な老人が老年期にふさわしい職業活動を求めているのに対応して，職業再訓練によって老人の能力を再開発し，生計をささえるためでなく，健康と生きがいのための仕事の場を確保していくことであろう。〔那須宗一〕

系の樹立において挫折(ざせつ)した。このリカードにおいて挫折した労働価値説を，価値形態論の展開，労働と労働力の区別，剰余価値と利潤との区別と関連，価値の生産価格への転化のメカニズムを明らかにすることによって再建し，労働価値説に基づく経済学の体系化に成功したのがマルクスである。すなわち，価値の大きさはその商品を生産するのに必要な社会的(平均的)労働量(社会的必要労働時間)によって決定されるというものである。今日では，労働価値説といえば，マルクスによって代表されるものとされている。〔常盤政治〕

ろうどうかんけいちょうせいほう【労働関係調整法】 労働関係の調整，労働争議の予防を目的とする法律(1条)。略称労調法。1946年(昭和21)制定。労働組合法*・労働基準法*とともに労働三法の一。労調法は，当事者(労働組合と使用者)の自主的調整・解決を原則としながら，さらに公的な調整について定めている。調整にあたる機関は労働委員会*であり，調整の手続きは斡旋*(あっせん)・調停*・仲裁*である。斡旋は，当事者双方もしくは一方の申請または労働委員会会長の職権によって行なわれる。調停は，当事者双方(または労働協約の定めに基づく当事者の一方)の申請による任意調停を原則とするが，運輸・郵便・電信・電話・水道・電気・ガス・医療の公益事業(8条)に関しては，当事者の一方の申請，労働委員会の決議，労働大臣(船員については運輸大臣)または都道府県知事の請求による強制調停の制度が定められている。なお，調停は，労・使・公益三者で構成される調停委員会により行なわれる。仲裁は，当事者双方(または労働協約の定めに基づく当事者の一方)の申請によって開始される。仲裁委員会は公益委員から指名される3名の仲裁委員によって構成され，その仲裁裁定は労働協約と同一の効力を有する。最も強力な調整手段として設けられているのは緊急調整制度である。緊急調整は，争議行為*が国民経済または国民生活を著しく阻害すると思われる場合に総理大臣が決定する。緊急調整の決定によって中央労働委員会*の調整手続きが開始され，決定の日から50日間争議行為は禁止される(38条)。また公益事業の争議行為に関しては，10日前の予告が義務づけられている(37条)。なお，緊急調整制度は，1952年の法改正で規定されたものであるが，労働者の争議権を大幅に制限するとして批判がある。〔河合研一〕

ろうどうきじゅんかんとくしょ【労働基準監督署】 労働省の地方支分部局の一。労働基準法・労働者災害補償保険法・けい肺法・最低賃金法などの実施・監督を行なう機関で，各都道府県に設置され，都道府県労働基準局の指揮監督を受ける。労働基準監督官は，事業場などへの臨検，帳簿・書類提出の請求，使用者または労働者に対する尋問を行なうことができ(労働基準法101条)，また労働基準法違反事件について，刑事訴訟法に規定する司法警察官の職務を行なうことができる(労働基準法102条)。労働者は労働基準法違反の事実について，労働基準監督署・労働基準監督官に申告することができる(労働基準法104条)。しかし現今は，監督官の不足などの理由によって，その監督行政は十分とはいえない。〔河合研一〕

ろうどうきじゅんほう【労働基準法】 略称労基法。労働者の生存権*を保障し，労働者が人たるに値する生活を営むに必要な労働条件の最低基準を定めた法律。1947年(昭和22)制定。この法律に定められる基準は最低限度のものであるから，労働関係の当事者は労働条件*をさらに向上させるように努力しなければならず，したがってこの基準を下回る労働条件を定める労働契約*は無効となる。総則，労働契約，賃金，労働時間・休憩・休日及び年次有給休暇，安全及び衛生，女子及び年少者，技能者の養成，災害補償，就業規則，寄宿舎，監督機関，雑則，罰則の13章および付則からなる。保護基準のおもな内容は，男女同一賃金の原則(4条)，前借金相殺の禁止(17条)，解雇予告制度(30条)，8時間労働制(32条)，年次有給休暇(39条)，女子の産休(65条)，生理休暇(66条)などであるが，監督機関である労働基準監督署*の人員不足などから十分に守られていない実情もあって，もっぱら指導を通じて本法の目的を達しようとしている現状である。なお，最低賃金法*(1959)，職業訓練法(1969)などの関連法があり，また，本法の適用から除かれていた零細企業・内職など〈同居の親属のみを使用する事業〉(8条)については，家内労働法(昭和45年法律60号)が制定された。〔河合研一〕

ろうどうきほんけん【労働基本権】 労働者の生存を守るため憲法が保障している基本的権利。通常は団結権*・団体交渉権*・争議権*の労働三権をさすが，広い意味では労働権(勤労の権利)を含んで用いられる。実定法上は，国家公務員法*・地方公務員法*・公共企業体等労働関係法*・地方公営企業労働関係法*によって公務員・三公社五現業*職員などの団体交渉権・争議権は制限剝奪(はくだつ)され，労働基本権が大幅に制限されている。公務員の労働基本権剝奪は，学説上違憲とするものが多く，また労働運動の歴史においても，1957年(昭和32)以降官公労働者を中心とするILO*闘争・労働基本権奪還闘争が大規模に展開され，日本の公務員法制は国際的批判も受けるに至った。なお，労働関係調整法*の定める緊急調整制度，スト規制法*も労働基本権に一定の制約を課する法律である。〔河合研一〕

ろうどうきょうやく【労働協約】 労働条件などに関して労働組合*と使用者またはその団体との間で締結される協定。ヨーロッパやアメリカの労働協約は，産業別の全国的・地方的協約が通常であるが，日本では労働組合の組織形態に対応して企業別に締結されるのが大部分である。書面に作成され，当事者の署名または記名押印の付された協約は，労働組合法上の協約として効力を生ずる(労働組合法14条)。労働基準法などの強行法規に違反することはもとよりできないが，一種の自主法としての性格をもって労働契約を規律する。労働協約に定める労働条件その他の労働者の待遇に関し，基準に違反する労働契約の部分は無効となる。この場合無効となった部分は，基準の定めるところによることとなる(労働組合法16条)。また労働組合法は工場・事業場における一般的拘束力(17条)，地域的拘束力(18条)の規定によって非組合員に対する労働協約の効力の拡張を制度化している。なお，労働協約は労働条件だけを内容とするものでなく，ユニオン-ショップ*・争議に関する平和条項，団体交渉・苦情処理に関する条項など，労働組合と使用者またはその団体間の関係を規律する条項をも含んでいる。〔河合研一〕

ろうどうきんこ【労働金庫】 1953年(昭和28)の労働金庫法に基づく組合組織の非営利金融機関。会員は労働組合・消費生活協同組合・健康保険組合などの団体およびそれらの構成員である労働者である。業務はこれら会員からの預金の受け入れと，これら会員に対する貸し付けが主であるが，信用金庫*や信用協同組合*が事業金融を主としているのに対し，労働金庫の貸し付けは消費金融的色彩が濃い。

ろうどうくみあい【労働組合】 資本主義社会において，経済的弱者の地位に置かれる労働者がみずからの生存と生活利益を守り，労働条件を改善していくため自主的に形成する団結体。初期の労働組合は熟練工の職業別組合*であったが，産業革命以降大量の未熟練・不熟練労働者が採用されるに伴い，産業別組合*が一般化するようになった。その後，労働組合は大規模な国際組織に結集し，現在では世界労働組合連盟*・国際自由労働組合連盟*の二大国際組織がある。各国で労働組合が合法性を獲得したのはほぼ19世紀後半から末にかけての資本主義が独占段階にはいった時期であるが，日本では1897年(明治30)結成された職工義友会*・労働組合期成会*にその萌芽(ほうが)がみられ，第1次世界大戦期から急速に発達した。しかし，第2次世界大戦中は半ば禁圧の状態で，組織化が進んだのは戦後憲法によって団結権*が保障されてからのことである。今日では，賃金労働者の約3分の1が労働組合に加盟している。➔法外組合 ➔労働組合法 〔河合研一〕

ろうどうくみあいきせいかい【労働組合期成会】 職工義友会*を母体に，労働組合の結成を促進するため組織された日本最

全国労働組合組織勢力一覧

（労働省調査　1971年6月末現在）

日本労働組合総評議会		電通共闘	282 400	海員	160 100	全建総連	209 400	航空機労協	34 800
（総評）		国労	247 200	電労連	130 500	食品労連	100 400	ゴム労会議	29 600
4 284 800		全逓	212 500	一般同盟	128 200	全電線	43 900	政労協	29 100
		全林野	60 600	全化同盟	113 300	全窯連	42 100	日電工	27 500
私鉄総連	238 100	動力車	52 000	交通労連	101 900	全石油	26 700	建設連合	23 900
全国金属	228 900	全専売	34 900	同盟三菱	74 000	全国セメント	25 700	全損保	23 600
鉄鋼労連	206 500	全印刷	7 000	造船総連	75 300	全国ガス	20 900	鉄弘労	22 300
全国一般	129 600	全造幣	1 700	全食品同盟	26 100	全造船機械	18 900	全軽労	17 000
合化労連	126 100	アルコール専売	900	全民労	15 000	車輛労連	16 700	全国自労	17 000
全日自労	120 800	都市交通	68 100	資源労連	11 800	交通公社労組	10 700	全信連	16 800
全日通	75 500	全水道	33 700	全炭鉱	11 800	ホテル労連	9 000	損保労連	15 100
日本医労協	74 000	全自労	927 400	同盟全紙パ	9 500	映演総連	4 100	観光労連	14 500
全自交	68 300	日教組	566 500	全日航労組	7 600			全国油労協	12 200
新聞労連	40 200	全農林	48 200	凸版労組	6 400	全国産業別労働組合連合		炭職協	11 400
紙パ労連	39 400	全労働	19 200	基金労組	4 000	（新産別）		全国電力検集労連	10 900
炭労	33 500	全司法	13 900	港湾同盟	2 800	76 300		出版労協	10 900
化学同盟	31 600	全開発	10 400	全映演	2 200			日港労連	10 800
全港湾	27 600	全商工	9 700	共石労組	1 500	全機金	38 300	全建同	10 100
ゴム労連	26 300	全法務	8 700	海移労	300	新化学	12 900	民放労連	10 100
全鉱	25 700	全運輸	6 900	地方地区同盟	102 600	新運転	5 400	全倉連	10 100
全印総連	18 300	全建労	5 200	鉄労	93 300	京滋地連	12 800	全日塗	9 900
繊維労連	17 600	全財務	4 500	全郵政	49 500	その他	6 154	全信労	9 900
全駐労	17 300	全港建	3 700	日林労	10 300			伸銅労連	9 400
政労協	14 700	全厚生	3 500	電電新労	100	上記4組織に加盟しない		民航労連	7 800
日放労	13 400	（以下略）		国税労組	10 600	産業別組織		全相銀連	7 600
全自運	12 700	（注）全日建は1971年4月加盟		自治労連	4 400	1 384 800		生協労連	7 500
全海連	9 000			（注）全日航労組は1970年11月加盟				全粉労連	7 200
全木労	8 700	全日本労働総同盟				市銀連	160 500	相銀労連	6 800
全硝労	6 600	（同盟）		中立労働組合連絡会議		運輸労連	138 900	製錬労協	7 519
日逓	4 300	2 172 000		（中立労連）		全国自動車	137 500	全砥労協	5 700
全電力	3 900			1 349 900		全農協労連	75 500	国鉄施設	1 400
共済労	2 600	全繊同盟	560 800			日建協	53 700	日高教（麹町）	29 800
自運労	2 600	全金同盟	297 300	電機労連	555 200	商業労連	53 300	日教連	21 700
全日建	100	自動車労連	160 400	生保労連	271 800	全商社	43 400	日高教（神田）	17 300

初の労働組合。1897年(明治30) 7 月結成。幹事高野房太郎(ふさたろう)・片山潜ら，のち安部磯雄(あべいそお)・島田三郎らも参加。地方遊説，工場法案の促進，治安警察法反対，消費組合*運動などに活躍。同年12月鉄工組合の結成を図り，同時に最初の労働組合機関誌《労働世界》を発刊した。翌年日本鉄道矯正会(きょうせいかい)・活版印刷工組合懇話会の結成を支援したが，1900年以降は会員が減少し，1901年自然消滅した。〔杉山三枝〕

ろうどうくみあいほう【労働組合法】 労働者の団結権*・団体交渉*権・争議権*の労働三権を具体的に定めた法律。略称労組法。1945年(昭和20)制定されたが，1949年GHQ*の指示に基づいて全面改正され，労働組合の〈目的〉の限定，資格要件の厳格化，不当労働行為*の制度，労働協約*の有効期間の規制などが追加された。おもな内容は，①団体交渉権・争議権の行使における刑事免責(1条2項)および民事免責(8条)，②組合結成・加入の自由と団結活動の権利，その保障としての使用者の不当労働行為の禁止(7・27・32条)，③労働協約の効力発生要件，基準的効力・拡張的効力の賦与(14～19条)，④労働委員会*の組織・権限(19～27条)，⑤罰則(28～33条)などである。なお，労働組合法上の手続きに参与するためには，労働組合の資格要件(2・5条)が必要とされるが，この要件を欠く団結体も，団結権・団体交渉権・争議権などの基本権を有することは当然であるとされている。〔河合研一〕

ろうどうけいやく【労働契約】 労働者の資本に対する従属的地位に着目して構成された使用者と労働者の労働力取引に関する契約の概念。対等な人間の自由な契約ではなく，使用者の一方的な労働条件決定，解雇の自由保持などによって労働者の生存が脅やかされがちなことから，民法の雇用*関係とは異なる特別の規制である。現在法は，最低基準を定めた労働基準法*に違反する労働契約(労働基準法13条)，就業規則*に違反する労働契約(労働基準法93条)，労働協約*に違反する労働契約(労働組合法16条)は無効であるとしている。なお，労働基準法は，契約期間の制限(14条)，使用者の労働条件明示義務(15条)，損害賠償額予定の禁止(16条)，前借金と賃金との相殺禁止(17条)，強制貯蓄の禁止(18条)，解雇制限(19条)，30日前の予告制度(20条)などを定めている。〔河合研一〕

ろうどうけん【労働権】 ⇨勤労権

ろうどうさいがい【労働災害】 労働過程で生ずる事故によって労働者が受けた身体傷害。産業災害または特に工場内で発生したものについて工場災害ともいう。労働災害の頻度(ひんど)および災害強度は，産業別では鉱業・建設業・林業に多く，日変動では午前・午後とも作業開始後2～3時間に起こりやすく，週変動では木曜日・金曜日，年間変動では6・7・8月の夏季に多い。これらの災害は，生産設備・作業環境などの物的原因と，肉体的疲労・経験不足などの人的原因とから生ずるが，基本的要因は，資本主義的生産体制のもとで労働安全設備費用が節約されていることにある。法的には，労働安全衛生法*・クレーン等安全規則・四アルキル鉛中毒予防規則などによって災害防止の施策を講じることが使用者に義務づけられており，また女子年少者については女子年少者労働基準規則が，危険・有害業務への就業制限を定めている。労働基準法は，〈業務上の負傷〉〈疾病(しっぺい)〉に関して，労働者に重大な過失のあった場合を除いて療養補償・休業補償・障害補償・遺族補償の無過失責任*を使用者に負わせている(75～79条)。また使用者のこれらの負担の軽減，危険の分散を図るために労働者災害補償保険*がある。なお，業務上疾病にかかった場合は職業病*という。〔河合研一〕

労働運動

資本主義社会における資本と賃労働との矛盾によって必然的に生み出された労働者階級の運動。資本主義的な搾取と抑圧に反対して労働者の労働条件・生活条件の向上を目的とするとともに，究極的には資本主義制度そのものの廃止をめざす運動である。しかし労働運動が発展し，労働者の団結が法制度として確立されるにつれて，労働条件の改善や地位の向上という目的だけをめざす運動などさまざまな潮流が現われ，今日に及んでいる。高度に発達した資本主義諸国においては，就業人口に占める労働者の比重が増大するとともに，労働運動は大きな社会的・政治的発言力をもつに至っている。労働組合は，各国において巨大な組織にまで発展しているが，ヨーロッパ・アメリカでは産業別組織に編成されているのに対し(→産業別組合)，日本では企業別に組織されているのが特徴である(→企業別組合)。また労働者政党も大きな政治的勢力をもっており，たとえばイギリスの労働党*は，第2次世界大戦後いくどか政権を担当するという経験をもっている。さらに1917年のロシア革命*によって成立したソビエト連邦をはじめ，今日では東ヨーロッパ諸国や中華人民共和国など世界人口のおよそ3分の1を占める地域に社会主義世界体制が形成されており，全世界的規模における労働運動の国際連帯組織がつくられている。

労働運動は，その組織的性格からいえば，労働組合*を軸として，共済組合*・協同組合*などの形態をとって展開され，それ自体としては労働者の経済的利益の擁護を主眼とする大衆組織として構成されている。また運動体の政治的性格からみれば，労働組合運動における改良主義的・労使協調的潮流と戦闘的・階級的な潮流との対立・抗争が，それらと密接な協力関係にあるさまざまな労働者の政党間の対立・抗争とのからみあいの中で展開されている。

【世界の労働運動】資本主義的労働運動の前期的形態は，ギルド*的生産に従事する手工業職人の団結行動であったが，市民革命*によってギルドが解体され，経済的自由体制と産業革命の進行の中で，封建的賃金規制の復活要求，封建制下でそれなりに保障されていた身分と生活への復帰という反動的運動として現われた。資本の原始的蓄積の段階にある初期ブルジョア国家は，このような初期労働運動に対して厳格な刑罰による抑圧体制をとった。イギリスの1799年と1800年の団結禁止法，フランスの1791年の団結禁止法(ルシャプリエ法)などはその典型的な例である。しかし，団結禁止法のもとで労働者の団結行動・組織化は非合法に展開し，賃金引き上げ要求のストライキ，機械打ちこわし(ラダイツ)運動，相互扶助組合などの相互扶助および共済組織が自然発生的に生まれた。労働者の組織化が進み，労働運動の本格的な展開はイギリスでは18世紀末，フランスでは1830年代に始まった。イギリスにおける1830～1840年代のチャーチスト運動*，1848年のフランスにおける二月革命*は，それぞれ労働者が独自の階級意識を形成しはじめたことを示している。産業革命がいちおう完了した段階で，団結禁止法は廃止された。イギリスでは1824年および1825年，フランスでは1864年，ドイツでは1869年，それぞれ団結禁止法が撤廃され，労働者団結容認の端緒となった。

団結が国家法による禁圧から解放されたことによって，各国の労働組合の組織化が公然と進められることになり，イギリスでは，1834年ロバート-オーエン*の指導する全国労働組合大連合の試みがなされ，チャーチスト運動を経て，1851年には熟練工の職能別組合(クラフト-ユニオン)である合同機械工組合が設立された。イギリス資本主義の先進性による産業独占・植民地独占を基礎にして形成された穏和なイギリスのトレード-ユニオニズム(労働組合主義)は，この時期の特権的熟練工のクラフト-ユニオンによって本格的な発展を示し，これは1864年のTUC*(イギリス労働組合会議)の結成に結実した。他方，フランスの労働運動は，1830年の七月革命*，1848年の二月革命の経験に加えて，サン-シモン*やフーリエ*などの社会主義思想の影響を受けて，イギリスとは対照的に政治的性格を強くもっていた(→空想的社会主義)。二月革命はドイツに波及し，ヨーロッパ大陸に革命的情勢を生み出した。マルクスとエンゲルスによる《共産党宣言*》が発表されたのもこの年であり，1864年には第1インターナショナル(→インターナショナル)が，マルクス主義的綱領をもつ最初の国際的労働者組織として創立された。第1インターには，イギリス・フランス・ドイツ・イタリアの労働者が参加し，フランスの労働運動においてはアナーキズム*(無政府主義)的なプルードン*主義が強い影響力をもっていたが，1871年のパリ-コンミューン*は，世界史上最初の労働者権力を樹立するものであった。しかしパリ-コンミューンはわずか3か月で敗北し，その崩解後，ヨーロッパ諸国は反動の時代にはいった。インターナショナルは本部をロンドンからニューヨークに移したのち，1876年に解散し，ドイツではビスマルクによる社会主義者鎮圧法*(1878)が威力をふるった。

19世紀末，帝国主義段階にはいると，不熟練労働者の組織化，労働組合運動における全国組織の形成，社会主義政党の出現がみられ，法的にも，イギリスの労働組合法(1871)，フランスの労働組合法(1884)によって，労働組合の団結が認められた。イギリスでは1880年代にニュー-ユニオニズムとよばれる不熟練労働者のジェネラル-ユニオンの運動が起こり，産業別組合が形成されることとなった。他方イギリスのTUCのほか，1886年にアメリカ労働総同盟(AFL)(→AFL-CIO)，1895年にフランス労働総同盟*(CGT)が結成されるなど各国に代表的な全国組織が組織されたのもこの時期である。ドイツでは，1869年に結成された社会民主党*が社会主義者鎮圧法のもとで着実に組織を拡張し，1890年には議会への大量進出と社会主義者鎮圧法の撤廃に成功した。ドイツの労働者階級は，1889年に創立された第2インターナショナルを舞台に国際労働運動の指導的地位を占めるようになったが，各国における独占資本主義の確立によって労働運動内部には労働貴族層が形成されつつあった。ドイツの労働組合の全国組織(1890)においてリーダーシップをとったカール-レギエンは，典型的な改良主義者であり，ドイツ社会民主党内にもベルンシュタイン*を筆頭とする修正主義的潮流が有力になっていた。イギリス・アメリカにおいても，資本主義のわく内で労働条件の改善をめざすトレード-ユニオニズムおよびビジネス-ユニオニズムがそれぞれの労働組合運動の主流を形成することになった。ただ，フランスでは，伝統的なアナーキズム的思潮を背景としてアナルコ-サンジカリズム*がCGTの綱領的路線となっていた。こうして労働組合運動・労働者政党運動の全面にわたって，改良主義的・修正主義的傾向が強まった反面，帝国主義諸国間の矛盾の蓄積によって，迫りつつある世界戦争を控えて労働者階級の革命的志向も成長した。第1次世界大戦に直面して各国の社会民主主義政党，第2インターナショナル右派が帝国主義戦争支持の態度に変わったのに対し，レーニン*の指導する社会民主労働党*は，世界戦争を社会主義革命の機会として利用することになった。

第1次世界大戦は，資本主義の諸矛盾によって勃発(ぼっぱつ)し，その結果，1917年のロシア革命によって資本主義世界体制の一角がくずれた。さらに資本主義体制にとどまった諸国においても労働者階級の闘争が激化し，〈資本主義の全般的危機〉といわれる時代にはいった。しかし，一方で戦争に協力した改良主義的労働貴族層と社会民主主義政党は，戦後のインフレと失業の時期にも独占資本との協力を強化維持し，ヨーロッパ諸国において〈相対的安定期〉をつくり出すことに貢献した。それが最も特徴的にみられるのは戦敗国ドイツであったが，社会民主党は，1918年11月から翌年1月に

かけての革命運動に敗北し，その後資本と積極的に協力して生産復興，独占資本の復活強化をめざすこととなった。1919年のワイマール憲法*による団結権保障，1920年の経営協議会法にみられる外見上の労働者の権利の拡大も，その内実はのちにナチス*(国家社会主義ドイツ労働党)の台頭を許すことになる多くの弱点を含んだものとみなさなければならない。しかし反面において，権力によるこのような妥協は労働組合運動を公的に組織化・体制化することなしには，もはや資本主義社会を維持しえないという意味で，労働運動の力量が全般的に増大したことを示すものでもあった。第1次世界大戦後，労働政策はすべての資本主義国の共通の関心事となり，1919年にはILO*(国際労働機関)が創立された。

第1次世界大戦後，革命的な国際労働運動の中心はロシアに移った。1919年モスクワで創立された第3インターナショナル(共産主義者インターナショナル，通称コミンテルン)(→インターナショナル)は，国際共産主義運動の統一の核となり，1920年労働組合運動の国際組織としてプロフィンテルン*(赤色労働組合インターナショナル)が結成され，主としてアジアにおける植民地の労働運動を援助した。第2インターナショナルは，戦争協力によって一時組織が崩壊したが，1919年に再建された右派の社会主義労働者インターナショナルと，中央派の第2半インターナショナルとに分裂，コミンテルンと対立してその反共的な性格をあらわにした。第2インターナショナルは，第2次世界大戦後はコミスコ*(国際社会主義者会議委員会)を経て，社会主義インターナショナルに継承された。

1929年の世界大恐慌によって相対的安定期はくずれ，1933年ドイツにナチス政権が成立するに及んでワイマール体制は崩壊し，ドイツ労働運動は暴力的に圧殺された。同様の資本主義的危機に対応して，アメリカではニュー-ディール*政策がとられ，その改良主義的な労働政策の一環として1935年にワグナー法*が成立し，アメリカの労働運動に対して産業別組合運動発展の契機を与えた。他方，ヨーロッパにおける労働運動は，台頭するファシズム*に対して人民戦線方式により平和と民主主義的諸制度，諸権利を守る戦いに立ち上がっていった。スペイン・フランスでは1936年にあいついで人民戦線内閣が成立した。この内閣は短期間のうちに軍事クーデターあるいはそれ自体の弱点によって崩壊したが，ファシズムの支配下に反対する抵抗運動はヨーロッパ各国において粘り強く持続された。人民戦線における社会党・共産党の統一戦線およびフランスのレジスタンス*における労働組合(CGT)の役割は，こうして労働運動の貴重な歴史的経験の一つとなった。

第2次世界大戦は，再び資本主義的諸矛盾を深める結果となった。反ファシズム闘争の中から東ヨーロッパ諸国に人民民主主義*革命が起こり，1949年には中華人民共和国が建設され，ベトナム民主共和国・朝鮮民主主義人民共和国が生み出された。他方資本主義諸国においても，戦争中抑圧されていた労働運動がいっせいに開花し，労働者政党の政治的発言力も強まった。反ファシズム・民主主義の思想が勝利し，日本・フランス・イタリアなどの憲法には労働者の団結権が宣言された。反ファシズム，平和・民主主義的諸権利の擁護，労働条件の向上を目的として，1945年に結成された世界労働組合連盟*(世界労連)は，56か国，6,500万の組織労働者を代表する画期的な国際組織であった。しかし，第2次世界大戦で唯一の債権国となり，世界の富を独占したアメリカ合衆国が社会主義圏に対する冷戦政策をとり，資本主義諸国の独占資本を復活する政策をとりはじめると，各国において反共的な労働運動の再編成が行なわれた。1949年にはマーシャル-プラン*に関連してイギリスのTUC，アメリカのCIO(産業別労働組合組織)などが世界労連から脱退し，アメリカのAFLを加えて国際自由労働組合連盟*(国際自由労連)を結成し，各国で労働運動の反動化が顕著となった。こうして，アメリカの支配のもとに各国で独占資本が復活し，労働運動の労使協調主義的路線が強化された。しかし一方で資本主義体制の危機はさらに深まり，朝鮮戦争*，インドシナ戦争(フランスがアメリカの支援のもとに旧植民地ベトナム・ラオス・カンボジアの再支配を目的として1946～1954年にかけて起こした戦争で，これに対して3か国の合同民族戦線が結成された)などアジア・アフリカ・ラテンアメリカの民族解放闘争が高揚し，1960年代には多数の国が植民地支配を断ち切った。1960年代にはいってから今日まで続けられているベトナム戦争*は，アメリカに軍事的敗北と国内財政への負担をもたらし，アメリカ国内の諸矛盾をいっそう激化させており，そのため各地で反戦運動・労働運動が激化した。また，資本主義国全体においても，1968年のフランスの5月危機に典型的に示されるような大規模なストライキが多数起こり，イタリア・フランスでは共産党，社会党などの労働者政党の進出が顕著となった。しかし，イギリスでは1971年の労使関係法が，頻発(ひんぱつ)する非公認ストライキの抑圧を目的として制定され，労働組合運動に対する伝統的な放任政策から統制政策へと転換を示しつつある。

【日本の労働運動】第2次世界大戦前の日本においては，絶対主義的天皇制のもとで労働組合運動は全般的に抑圧し続けられ，社会主義政党も発展を遂げることが困難であった。しかし，労働運動に対する権力の抑圧制策にもかかわらず，日本資本主義の発展とともに日本の労働運動も発展せざるをえなかった。一揆(いっき)的・本能的な労働者の反抗として名高いのは，1870年(明治3)の高島炭鉱の暴動である。またストライキの最初のものとして知られるものに，1886年の雨宮製糸工場女工ストがある。しかしこれらの一揆的暴動やストライキは，恒常的な労働者組織をもつものではなかった。

日本で本格的な労働組合が結成されたのは，日本の産業資本主義が確立されたとみられる日清(にっしん)戦争以後のことである。すなわち，1897年高野房太郎*(ふさたろう)・片山潜らによって設立された労働組合期成会*の指導のもとに組織された鉄工組合*・日本鉄道矯正(きょうせい)会・活版印刷工組合懇話会は，日本で最初の本格的な労働組合といえるものであった。これらの組合は，熟練労働者の職能別組合で，鉄工組合は5,400名，日本鉄道矯正会は1,000名，活版印刷工組合懇話会は2,000名を組織したといわれるが，治安警察法(1900)などの弾圧によって短期間で消滅した。社会主義運動の先駆的位置を占める片山潜・幸徳秋水*・安部磯雄(あべいそお)らの社会民主党*も結党即日に禁止され，1910年の大逆事件*の社会主義者弾圧によって，日本の労働運動は〈冬の時代〉にはいった。1912年(大正1)キリスト教的社会改良主義の立場に立つ鈴木文治によって結成された友愛会*は，大資本家渋沢栄一*の援助を受けて協調主義的組合として出発したが，第1次世界大戦後ロシア革命の影響を受けて労働運動が活発化する過程でしだいに戦闘的となり，1921年には日本労働総同盟*(総同盟)と名を改めた。総同盟は急進的なサンジカリズム*に傾斜していったが，アナ-ボル論争(アナルコ-サンジカリズムとボルシェビズムとのおもに労働組合の組織論をめぐる対立・論争)を経て，ボルシェビズムの影響力が強まり，亀戸(かめいど)事件*・甘粕(あまかす)事件*などの白色テロの攻撃と治安維持法*(1925)などの弾圧強化のもとで分裂し，1925年に左派の日本労働組合評議会*(評議会)が結成された。評議会は1922年に創立された日本共産党*の影響力のもとにあったが，1928年(昭和3)結社禁止の命令によって解散させられ，また同年の三・一五事件*，翌年の四・一六事件*によって日本共産党自体が壊滅的な打撃をこうむることとなった。満州事変*・日中戦争*としだいに強化される軍部ファシズムのもとで，評議会を継承して1928年に結成された日本労働組合全国協議会*(全協)は，プロフィンテルンに加盟し，産業別戦線の統一運動，反戦運動を展開し

たが，あいつぐ弾圧と内部対立のため，1934年ごろに実質上崩壊し，1934年結成された日本労働組合全国評議会(全評)も1937年には結社禁止となった。他方左派を除名した総同盟は戦争政策の進展とともに右傾化し，日中戦争が開始されると〈ストライキ絶滅宣言〉を発して軍部に協力する態度をとったが，ファシズムの昂進(こうしん)によって1940年解散させられた。自主的労働運動がすべておしつぶされたあと，国家総動員体制のもとでファッショ的な労務統制と戦争協力の産業報国会(→大日本産業報国会)が日本の労働者階級を支配した。1920年から1926年にかけては，多くの労働組合法案が議会に提出されたが，天皇制権力は労働組合に対する弾圧政策をとりつづけ，いずれも立法化をみないうちに1925年治安維持法が制定された。そのため労働組合の組織力は，最高の時点でみても組織人員42万人強(1936)，組織率7.9％(1931)にとどまっている。

第2次世界大戦の終結によって，日本帝国主義と絶対主義的天皇制権力は崩壊した。アメリカ占領軍は一連の民主化政策の一環として弾圧法規の撤廃，労働運動の助成政策を行なった。このことは，日本の労働運動が発展するための一つの有力な条件を提供した。1945年12月には，労働組合の結成・活動を保障する労働組合法*が制定され，翌年5月には勤労者の労働基本権の保障を定めた日本国憲法*が公布された。戦後の食糧難，インフレによってひき起こされた生活危機によって，労働組合の急速な組織化が進み，1946年にはすでに12,006組合，368万人が組織され，1948年・1949年には組合数約33,000，組合員数660万強にのぼり，組織率は54％から55％となった。戦後の特殊な条件のもとで，労働運動はおもに生産管理の戦術をとり，労働条件の改善と職場民主化が戦われた。また，労働運動は急速に組織化されたために戦前とも異なる企業別の組織形態が生み出され，政党運動の領域においても，1945年末に政治犯釈放によって日本共産党が合法的存在として姿を現わし，同年日本社会党*も結成された。翌年には労働組合運動の全国組織として，日本労働組合総同盟*(総同盟)・全日本産業別労働組合会議*(産別会議)が結成され，特に産別会議は，日本共産党の影響力のもとで，1946年秋の大ストライキ，同年末から翌1947年にかけての官公労働者260万の闘争を指導し，戦闘的労働組合運動を代表していた。1947年4月には，日本社会党の片山哲*を主班とする連立内閣が成立し，日本共産党が1949年1月の衆議院選挙で35議席を占める進出をみせた。

しかし，アメリカ占領軍の民主化政策は，それ自体限界をもっており，ヨーロッパにおけるマーシャル-プランによる独占資本復活政策，トルーマン-ドクトリン*による共産勢力の侵入阻止政策のもとで，労働組合運動の中心的役割を果たしていた公務員労働者に対する弾圧をかわきりに，日本の労働運動に対する政策も変化してきた。1948年マッカーサー書簡に基づく政令201号は，国家公務員からストライキ権・団体交渉権を全面的に剝奪(はくだつ)した。また組合運動の内部にも反共的潮流が育成され，1947年11月には国鉄反共連盟が結成され，翌年2月には産別会議の中に産別民主化同盟(民同)がつくられた。1949年末に吉田(よしだ)内閣に要求された経済九原則とそれを具体化したドッジ-ライン*に基づく日本独占資本の復活と経済の軍事化政策によって，企業整備・合理化が強行され，失業と貧困が広まった。国鉄労働者の10万人合理化(首切り)に反対する運動に対しては，下山事件*・三鷹(みたか)事件*・松川事件*などの謀略事件がひき起こされ，次いで朝鮮戦争を契機に，1949〜1950年にかけて行なわれた労働組合活動家のレッド-パージ*によって，また反共的潮流の育成によって，労働組合運動は全体として後退を余儀なくされた。産別会議は1950年全労連解散命令によって大きな打撃を受け，同年結成された日本労働組合総評議会*(総評)は，民同派の指導する全国組織として成立した。しかし総評は，結成の翌年国際自由労連への一括加盟の否決，平和四原則(全面講和・中立堅持・軍事基地反対・再軍備反対)の採択によって民同左派の指導権が確立し，〈ニワトリからアヒルへ〉といわれるような戦闘化の傾向を示すことになった。

1952年4月28日対日講和条約*・日米安全保障条約*が発効し，日本はいちおう直接占領から脱却し，事実上の半占領状態におかれることとなった。占領下の弾圧法令の国内法化に対して，労働法規改悪・破壊活動防止法*制定反対の〈労闘スト〉が，総評・中立系組合によって行なわれ，1952年4月から7月にかけて5次にわたってゼネスト*が行なわれた。破防法反対ゼネストは，戦後労働運動の復活を示す画期的な闘争であったが，他方政府・資本家団体の政治スト違法論の宣伝，総評内部における右派指導者の抵抗を生んだ。この年の電産・炭労ストの直後，全国繊維産業別労働組合同盟*(全繊同盟)，全日本海員組合*(海員組合)など4単産の批判書が提出され，全国民主主義労働運動連絡協議会(民労連，1928年2月結成)に結集した右派指導部は総評から脱退した全繊同盟・海員組合などの単産・総同盟・国鉄右派幹部を糾合して1954年4月に全日本労働組合会議*(全労会議)を結成した。全労会議は労使協調，生産性向上協力を旗印にして，日本の労働運動の右翼的潮流を形成し，のちの全日本労働総同盟*(同盟)の母胎となった。講和後の諸闘争で戦闘的な性格を回復した日本の労働運動は，砂川事件*・勤務評定反対闘争・警察官職務執行法*反対闘争を経て，1960年の安保闘争*・三池闘争へと進んだ。また，総評の春闘方式による賃上げ闘争が始まったのは1955年のことである。安保闘争では安保阻止国民会議のもとに23次にわたる統一行動が積み重ねられ，1960年5月から6月にかけては，政党・労働組合・市民の大衆的な政治闘争が大規模に展開された。しかし，安保闘争の初期に，日本社会党右派と全労会議が統一行動から脱落し，1960年1月には民主社会党(民社党)が結成され分裂が持ち込まれた。安保闘争によって岸内閣が倒れたあと登場した池田内閣は，〈低姿勢〉と〈所得倍増計画(論)〉によって政治的安定を図り，労働運動の分野においてもアメリカと共同して系統的な労使協調主義の育成を図った。日本社会党内では構造改革論*が唱えられ，1962年全労会議は官公労働者の第二組合*である全官公を吸収して全日本労働総同盟組合会議(同盟会議)を組織し，1964年に現在の全日本労働総同盟*(同盟)となった。さらに同年国際金属労連日本協議会(IMF-JC)が結成され，1967年には100万人を傘下(さんか)に収めた。1960年代後半にはいって〈労働戦線の統一〉を標榜(ひょうぼう)する右翼的な労働運動再編の動きが活発となり，1970年1月に労組右翼幹部の全国主要民間労組委員長懇話会(全民懇)が発足した。しかし，ILO闘争，労働基本権奪還闘争を軸とする公務員労働運動がその間に前進し，総評は日教組*(日本教職員組合)・国労(国有鉄道労働組合)などの左派が主流を占め，1966年からのベトナム反戦10・21ストは，その後国際的な反戦デーに発展し，沖縄返還・安保廃棄の〈70年闘争〉においては，総評・中立・日本社会党・日本共産党・民主団体などによる広範な統一行動が組織され，京都(1970)・東京(1971)・大阪(1971)・沖縄(1972)・埼玉(1972)・岡山(1972)の知事選挙においても革新統一勢力が勝利を収めている。〔河合研一〕

ろうどうしゃきょういく【労働者教育】 労働者の人間性の回復を通して，人間的成長を意図して行なわれる教育。使用者が被使用者に対して行なう企業内教育訓練と労働者教育とに区別されるが，おもに後者が活発である。労働者教育は，労働者が労働者自身のために組織的・体系的に行なうものであるから，運営主体は労働組合ないし労働者の各種各様の集団，労働者教育協会などの学習団体，労働者政党ということになる。そして，この運営主体がどのような立場をとるかによって，労働者教育の内

容・方法は，労資協調的なそれと階級的な姿勢を明確にとるものとの２方向に分かれる。教育の形態は，学習サークル・座談会・講座あるいは講習会・労働学校・労働大学など直接的なものと，通信教育・機関紙・パンフレットなど間接的な手段によって働きかけるものとがあり，対象によって初級・中級・上級または新組合員教育，青年婦人部員教育，活動家あるいはオルグ教育，組合幹部教育などがある。内容は大きく二つに分かれ，労働問題および労働組合の組織と活動に関するものと，経済学・労働法など社会科学系列のものおよび哲学・芸術論・文化論などの人文科学系列のものがある。〔山崎昌甫〕

ろうどうしゃさいがいほしょうほけん【労働者災害補償保険】 略称労災保険。労働者災害補償保険法(1947)に基づき運営される災害補償制度。業務上の事由による労働者の疾病(しっぺい)・負傷・廃疾または死亡に対し，労働基準法上の災害補償を行なうことを内容とする保険で，社会保険*の一種。保険者すなわち保険経営主体は政府で，この意味では国営保険である。適用対象は事業主で，保険料は事業主の全額負担。比較的災害発生の多い製造業・鉱業・漁業・運送業などを対象とし，原則として常時５人以上の労働者を使用する事業は強制適用である。療養補償給付・休業補償給付・障害補償給付・遺族補償給付・葬祭費および長期傷病補償給付などがこの保険によって支給される。この保険は事業主に対し，無過失責任主義を採用しているところに大きな意義が認められる。〔庭田範秋〕

ろうどうしゃのうみんとう【労働者農民党】

[1] 1928年(昭和３)結成大会のみを開いた左派無産政党。労働農民党*解散後，大山郁夫*(いくお)らは新党組織準備会の結成を唱えたが，まず労農派*が離反し，また日本共産党もコミンテルン第６回大会の決定により，態度を急変して結成大会を解散に導いた。このため新党組織準備会は政党結成をあきらめて，政治的自由獲得労農同盟(政獲労農同盟)に改組した。

[2] 1948年黒田寿男(ひさお)・木村禧八郎(きはちろう)・岡田春夫(はるお)らの日本社会党左派が結成した小政党。日本共産党を含む社会主義勢力の統一戦線を主張し，一定の影響力をもったが独自の政策をもてず，1957年日本社会党に合併した。〔杉山三枝〕

ろうどうしゅうやくざい【労働集約財】⇒資本集約財

ろうどうしょう【労働省】 労働者の福祉と職業の確保を図ることを主要任務とする国の行政機関。1947年(昭和22)９月厚生省から分離して独立。労働組合関係の業務，労働条件の改善向上，婦人問題の調査，失業対策，職業訓練，労働者災害保険・失業保険業務，その他労働関係の調査・宣伝などを行なう。労働大臣を長とし，内部部局として大臣官房のほか，労政・労働基準・婦人少年・職業安定・職業訓練の５局，外局として中央労働委員会*・公共企業体等労働委員会*がある。付属機関として産業安全研究所・労働衛生研究所・労働研修所・労働保険審査会など各種の審議会，地方支分部局として都道府県労働基準局・労働基準監督署・婦人少年室・公共職業安定所が置かれている。〔寺尾方孝〕

ろうどうじょうけん【労働条件】 賃金・労働時間・休憩・休日・有給休暇など，労働者が使用者に労務を提供する際の諸条件。労働契約によって決められるが，これは労働基準法*の定める最低基準に違反することができず，また，現実には就業規則*・労働協約*や協定などによって，その大部分は決められている。労働基準法は，労働条件を労使対等の立場で決定すべきこと(２条)，使用者は労働者の国籍・信条または社会的身分によって労働条件について差別的取り扱いをしてはならないこと(３条)を定めている。労働時間に関する１日８時間１週48時間制(労働基準法32条，ILO条約１号)，賃金の通貨払い，直接・全額・定期払いの原則(労働基準法29条，ILO条約95号)，男女の同一労働・同一賃金の原則(労働基準法４条，ILO条約100号)，強制労働の禁止(労働基準法５条，ILO条約105号)などは，その最も基本的な基準である。しかし，労働基準法の規定は最低基準であるから，本来のあり方としては，労使双方が労働条件を不断に向上させるように努力することが期待されている(労働基準法１条２項)。〔河合研一〕

ろうどうせかい【労働世界】 日本最初の労働組合機関誌。1897年(明治30)12月片山潜*を主筆に労働組合期成会*の機関誌として創刊。社会主義思想の宣伝に努めたが，1901年12月第100号をもって廃刊。1902年１月日刊《内外新報》と改題し片山個人の有するところとなったが，同年４月《労働世界》として復活した。1903年以降社会主義協会の機関誌となり，《社会主義》と改題，1904年まで発行した。なお，現在の《労働世界》は第１期のものを受けて，資料労働委員会が復刻したものである。〔前納弘武〕

ろうどうそうぎ【労働争議】 一般に労働関係の当事者が紛争状態にあること。わが国では通常使用者または使用者団体と労働組合・争議団などとの集団的紛争を意味するが，労働関係調整法*７条は，争議調整の観点から〈労働関係の当事者において，労働関係に関する主張が一致しないで，そのために争議行為が発生している状態または発生するおそれがある状態〉と定義している。したがって，労働争議とは必ずしも争議行為が実行されている段階ばかりを意味するとは限らない。➔争議権　➔争議行為〔河合研一〕

ろうどうちだい【労働地代】 古典的荘園(しょうえん)制といわれる初期封建制のもとにおける支配的な地代*形態で，生産物や貨幣ではなく直接の労働をもって支払われる封建地代*をいう。賦役あるいは賦役労働ともよばれる。初期封建社会の農民(農奴)は，１週間のうちたとえば３日間を封建領主によって与えられた分与地(農民保有地)で働いて，自分の労働力および家族を再生産するための生活資料を得る代わりに，他の４日間を領主の直営地で働かされるという形で地代を納める。こうした労働地代の段階では，直接生産者が自分自身の労働力および家族の再生産のための生活資料を得るに必要な労働部分(必要労働)と剰余労働の存在が時間的にも場所的にも分離されているから，搾取*関係は赤裸々で疑う余地なく明白である。それだけにまた農民保有地での労働と領主直営地での労働に生産力の差ができ，農民保有地での生産力の高まりは〈萌芽的(ほうがてき)利潤〉成立の可能性を生み出す。こうした〈萌芽的利潤〉の農民への帰属をおさえ，直営地での生産力の停滞を打破する封建領主の対応として，労働地代は生産物地代に移転する。〔常盤政治〕

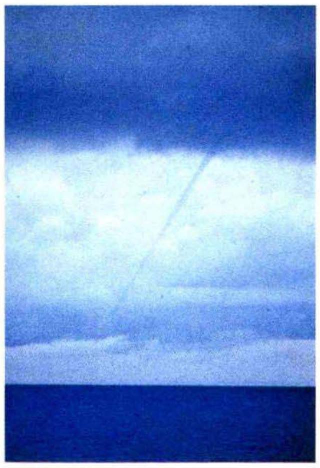
ろうどうとう【労働党】 イギリスの政党。保守党*と並ぶ二大政党の一。1893年ケア-ハーディーによって組織された独立労働党とフェビアン協会などの社会主義者・労働組合員が結合して，1900年労働代表委員会として結成された。マクドナルド*が初代書記長となり，1906年の選挙で29人が当選し，ケア-ハーディーを党首として正式に労働党と改名した。1923年マクドナルドを首班とする最初の労働党内閣を成立させたが，翌年の総選挙に破れ退陣。1929年の総選挙ではじめて第一党となったが，1931年に閣内不一致で分裂。1932年ランズベリが党首となり，1935年にはアトリー*がこれを継承。1945年はじめて過半数を獲得し，アトリー内閣を組織した。1951年以降，保守党に連敗したが，1964年H.ウィルソン*の率いる労働党が勝利。1969年６月まで政権を担当した。現在の党員数は約630万。〔板橋重夫〕

ろうどうのうみんとう【労働農民党】 1926年(大正15)３月結成された日本最初の無産政党。略称労農党。杉山(すぎやま)元治郎を中心に議会政策による大衆の生活向上をめざしたが，まもなく左派の加入をめぐって分裂し，右派は社会民衆党*を，中間派は日本労農党*を結成した。日本共産党に指導されて残留派は日本労働組合評議会*(評議会)など広く左派を受け入れ，大山郁夫(いくお)・細迫兼光(ほそさこかねみつ)を首脳部に党を再建し，議会解散請願運動・対華非干渉運動および８時間労働法・最低賃金法の制定などを要求して大衆の支持を得た。1928年(昭和３)第１回普通選挙には政府の激しい干渉にもかかわらず，山本宣治・水谷長三郎を当選させたが，この間コミンテルン(➔イ

ンターナショナル)や福本イズム*の直接的影響を受けてセクト主義的傾向が目だった。同年三・一五事件*で大打撃を受け，4月評議会とともに解散させられた。さらに四・一六事件*で左派は禁圧されたが，日本共産党と決別し，1929年11月大山を委員長として再び結成された。翌年総選挙で大山を当選させたが，日本共産党との紛争で党内は混乱して脱党が相次ぎ，しだいに退勢となり，1931年7月全国労農大衆党*に吸収された。〔杉山三枝〕

ろうどうほう【労働法】資本主義社会において，経済的に弱者の地位にある労働者の生存権*を基礎として，労働者の社会的・経済的地位の向上を図り，その生活と権利を擁護するための法の総称。歴史的には労働運動の発展によって形成されたものであり，労働者も資本家も等質的な市民とする市民法の体系に対して，経済的弱者として労働者を念頭において市民法を修正し，成立した。ヨーロッパ各国では19世紀末から20世紀初頭にかけて独自な法制度として生み出され，第1次世界大戦後にほぼ体系的なものとなった。その後労働法は1919年のＩＬＯ*の成立によって国際的に普遍化され，第2次世界大戦後には各国においてさらに発展して現在の形になった。わが国の代表的な労働法制は，労働組合法*・労働関係調整法*・労働基準法*のいわゆる労働三法であるが，これらの基本的な法律には関連する諸法律・規則があり，さらにその他に職業安定法*・失業保険法・職業訓練法などの法制がある。また，公務員・公共企業体職員などに関する労働法には公共企業体等労働関係法*・地方公営企業労働関係法*があり，また労働法上の問題を包摂した公務員法制がこれに関連している。なお，わが国の労働法制の頂点には，憲法27条の労働権保障，28条の団結権保障の規定が位置していること，労働協約*・就業規則*などの諸規範が労働法の実質的な内容の一部をなしていることに注意する必要がある。〔河合研一〕

ろうどうりょく【労働力】物質的財貨の生産のために費やされる人間の精神的・肉体的な諸能力のこと。労働力の具体的な発現，すなわち労働力の使用・消費が労働である。したがって，労働力とは労働を支出する主体，生産に携わる直接生産者を意味し，資本主義社会では賃労働者として存在する。賃金は労働の価格という現象形態をとっているが，本質的には〈労働力〉の価値の現象形態である。このことを明らかにしながら，〈労働〉と〈労働力〉とを峻別(しゅんべつ)したのがマルクス*である。彼はそのことによってリカード流の労働価値説*の弱点を克服し，労働力の価格である賃金が価値どおりに支払われることを前提として，剰余価値*(利潤の源泉)がいかに発生するかを明らかにした。なお，労働力の価値は，労働者を再生産するに必要な生活資料などの生産のために要する社会的(平均)必要労働時間によって規定される。〔常盤政治〕


漏斗雲


ロウバイ

ろうとうん【漏斗雲】積雲や積乱雲などが強い雷雨を伴うようなとき，これらの雲底が，漏斗状の形となることがある。このきわめて特殊な形をした部分を漏斗雲という。この部分の内部は強い回転風の領域で，時計回りに動いている。その先端が地表に達している場合がたつまきである。直径はふつう数～数十メートルであるが，北アメリカ大陸では数百メートルに及ぶものもある。

ろうにん【浪人】①古代，本籍を離れて他国で暮らしている浮浪人，もしくは他国に逃亡して課役をのがれて暮らす浮浪人を，略して浪人とよんだ。②中世以後は，主家を離れたり主家を失ったりした武士をいった。戦国時代では武家の興亡が激しく，そのため浪人も激増したが，諸大名は戦力の充実を必要としたので，浪人は将来性のある主人や自分の力を認めてくれる主人を求めた。江戸時代，平和の世となると諸大名は譜代の家来を優遇し，新参者の人減らしを行ない，また幕府の大名取りつぶし政策のため主家を失った浪人が激増し，その総数50数万人といわれた。そうした社会不安から，1651年(慶安4)の由井正雪による慶安事件*，翌年の別木(戸次)庄左衛門(しょうざえもん)(？～1652)の事件などが起こったため，幕府は大名の取りつぶしを緩和するなど，浪人対策に苦心してその減少策を図った。一方，浪人の中にも学芸にすぐれ，文化面で活躍した者もあった。なお，南北朝時代から室町時代にかけて，牢籠(ろうろう)といって，落ちぶれた，すたれた意を表わし，牢籠の人，牢人の語が浪人と同じ意味に用いられた。〔岡山泰四〕

ろうのうとう【労農党】⇨労働農民党

ろうのうは【労農派】昭和初期，雑誌《労農》(月刊)を機関誌として結集したマルクス主義理論家の集団。福本イズム*に反対した山川均*(ひとし)・猪俣津南雄*(いのまたつなお)・荒畑寒村*を中心とし，櫛田(くしだ)民蔵*・向坂(さきさか)逸郎・大内兵衛(ひょうえ)らをも含み，〈講座派〉(《日本資本主義発達史講座》執筆の学者グループ)の人々と日本資本主義論争*を展開した。明治維新について，〈講座派〉は絶対主義の成立とみたのに対し，〈労農派〉は不徹底なブルジョア革命と規定し，日本の次期革命は社会主義革命であると主張した。やがて両派ともファシズムの弾圧を受け，1938年(昭和13)人民戦線事件*で労農派グループはいっせいに検挙された。また，第2次世界大戦後の農地改革で天皇制の基盤とされた地主制が消滅し，労農派の理論は事実上否定されたとみられる。なお，雑誌《労農》は1927年に廃刊された。〔高崎徳次〕

ろうばい【蠟梅】双子葉植物・ロウバイ科。中国原産の落葉低木で，古くから花の観賞用に庭に栽培された。幹は基部より多数出て，高さ2～3m。葉は長さ8～15cmの卵形で先がとがり，全縁，葉面はざらつく。1～2月，葉の出るまえに直径2cmほどのかおりのよい花を下向きに咲かせる。花被は多数あり，内側のものは小さく暗紫色，その外側は大形の円形で黄色でやや光沢があり，最も外側のものは小形で鱗片(りんぺん)状。花色全体が黄色のものはソシンロウバイ，また花弁が広いものはトウロウバイ(ダンコウバイ)という変種である。

ろうはちせっしん【臘八接心】禅宗の重要な年中行事の一。臘は臘月すなわち12月，八は8日で，臘八とは12月8日のこと。接心とは摂心ともいい，一定期間昼夜不断に坐禅し，心をおさめて散乱させないよう努めることをいう。古来禅宗の修行道場では12月1日から8日朝までの1週間，ブッダの成道(じょうどう)を記念奉賛する意味で，昼夜を通じて坐禅修行に励み，8日の成道会*の暁がた，出山釈迦(しゃか)像の前で〈大悲心陀羅尼(だらに)〉を唱して終わる法会を行なっている。〔田中良昭〕

ろうべん【良弁】(？～773)奈良時代の華厳宗(けごんしゅう)の僧。日本華厳宗第2祖。相模(さがみ)(神奈川県)の人。一説には近江(おうみ)(滋賀県)の人ともいう。法蔵の法を受けた新羅(しらぎ)僧審祥(しんじょう)について華厳教学を受けた。聖武(しょうむ)天皇は彼の学徳を慕い，金鐘(こんじょう)寺(三月堂)を賜わる。そ

れにちなんで金鐘行者ともよばれた。751年(天平勝宝3)東大寺大仏殿が落成すると，彼は同寺別当に補せられた。のちに慈訓や法進とともに四位十三階の制定を上奏して，当時の僧侶(そうりょ)の乱れを正そうとした。〔吉津宜英〕

ろうむかんり【労務管理】 経営管理の一部門で，企業における労働者の雇用から退職までに関する諸問題を処理し，労働者を効率的に用いることを可能にするとともに，機械化によって生じる労働者の人間性の回復を意図して行なわれる計画的な施策を内容とする。労働者は企業および労働組合に対しておのおの異質の帰属意識をもつため，企業側としては企業への帰属意識を強めようとして人事関係の向上を，労働組合への帰属意識に対しては労使関係の改善を意図して接近する。労務管理の発展には次のような理由がある。産業革命後，機械化による生産の発展がみられたが，市場の狭隘(きょうあい)化，競争の激化といった要因による利潤の低下が生じた。そこで利潤を維持するため，従来非合理のままにされていた労働者の作業を効率化しようとして科学的管理*法が生まれた。だがこの方法の人間性無視の面が問題とされるに至り，人事管理の問題が表面化したため，しだいに人間関係論などの知識を導入した方法により，種種の労務問題を合理的に解決しようとする方向がとられている。➔人事管理 〔清水 晶〕

ろうもん【楼門】 二階造りの門。法隆寺中門のように屋根が二重にあるものと，東大寺中門のように一重のものとがあり，近世では区別せず楼門とよぶが，最近の建築術語では，一重のものを楼門，二重のものを二重門として区別する。

ろうらん【楼蘭】 中国，漢・魏(ぎ)時代に，西域のタリム盆地東辺のロブノール近辺にあったオアシス商業都市。原名はクロライナ。20世紀初頭S.ヘディン*によって発掘調査され，兵営遺跡や多数の木簡・木彫類が発見された。

ロエブ ［Jacques Loeb］（1859～1924） ドイツ生まれのアメリカの生物学者。ドイツのマインツの生まれ。ベルリン・ストラスブール両大学で学ぶ。1891年アメリカに渡り，シカゴ・カリフォルニア大学教授を経て，1910年ロックフェラー研究所所員。1899年ウニの人為単性生殖に成功し，実験発生学・生理学に大きな影響を与えた。このほか1894年発生における核の役割の追究など多方面において活躍した。

ローエル ［Percival Lowell］（1855～1916） アメリカの天文学者。ボストンの生まれ。ハーバード大学に学んだ。はじめ実業家および外交官として長らく東洋にあった。1870年に火星を見たころから天文学に興味をもちはじめ，1894年アリゾナのフラグスタッフに私設の天文台を設けて，感星ごとに火星表面の観測を行なった。その結果火星表面の運河とよばれる模様を観測し，生物の存在を信じ，火星人存在説を強調した。また海王星外の太陽系の惑星の存在を予言，この惑星はのちに助手トンボーによって発見され，冥王星(めいおうせい)と命名された。著書に天文学啓蒙書(けいもうしょ)のほか，日本・朝鮮などを旅行した際の見聞記がある。〔根本順吉〕

ローエングリン ［Lohengrin］ ワーグナー*の3幕のオペラ。台本も作曲者自身による。初演は1850年8月28日，リストの指揮によりワイマール宮廷劇場で行なわれた。登場人物はローエングリン(テノール)，エルザ(ソプラノ)，テルムラント(バリトン)，オルトルート(メゾ-ソプラノ)などで，ブラバントの領主の姫エルザが弟殺しの嫌疑(けんぎ)をかけられるが，白鳥の騎士ローエングリンに救われる。しかし，その婚礼の夜に聞いてはならぬ名を聞いてしまい，しあわせを失うという物語。二つの前奏曲をはじめ，〈婚礼の合唱〉など名曲が多い。〔向坂正久〕

ろかい【蘆薈】 ⇨アロエ

ロガリズム ⇨対数

ロカルノ ［Locarno］ スイス南東部，マジョーレ湖北岸の観光都市。人口13,000(1968)。住民にはイタリア人が多い。16世紀建造の城塞(じょうさい)や教会が残っている。国際会議の開催地としても知られ，1925年ここで結ばれたロカルノ条約*は有名。

ロカルノじょうやく【ロカルノ条約】 1925年10月，イギリス・フランス・ドイツ・イタリア・ベルギー・ポーランド・チェコスロバキアの7か国がスイスのロカルノで仮調印した，ヨーロッパ安全保障に関する諸条約。①ドイツ・フランス，ドイツ・ベルギー間の国境維持と不可侵，紛争の平和的処理，これに対するイギリス・イタリアの保障を規定，イギリス・フランス・ドイツ・イタリア・ベルギーが調印したラインラントの現状維持に関する相互保障条約。これをロカルノ条約とよぶ場合もある。②国際紛争の仲裁裁判機関への付託を定めるドイツ・ベルギー，ドイツ・フランス，ドイツ・ポーランド，ドイツ・チェコスロバキア間の仲裁裁判条約。③これらの条約に違反してドイツが攻撃をした場合，被攻撃国への援助を約したフランス・ポーランド，フランス・チェコスロバキア間の相互援助条約よりなる。1926年ドイツの国際連盟加入によって発効。第1次世界大戦後の集団安全保障の最大の成果であり，フランス・ドイツ間の対立は和らいだが，ドイツの東部国境については言及せず，ソ連の不満は強く残った。世界恐慌で死文化し，1936年3月ヒトラーにより一方的に廃棄された。なお，この条約に採用された地域的集団安全保障の形式をロカルノ方式という。〔折井一彦〕

ローカルほうそう【ローカル放送】 放送番組の内容が特定の地域に密接な関連をもっている放送。全国向け放送に対していわれる。電波は短波を除いて受信可能地域(サービスエリア)が制限されるので，全国向け放送のためには中継設備を利用しなければならない。この電波の性質を利用してローカル放送は行なわれる。NHKの場合，ローカル放送は県域を対象とする〈県中ローカル〉，隣接する数局を結んだ〈ブロック-ローカル〉，中央放送局管内全域を対象とする〈管中ローカル〉とがある。民間放送の場合は，一定の地域を対象としていることから，一般にローカル放送といえるが，民間放送もまたキー局を中心とするネットワーク番組(全国向け放送)と各社制作番組(ローカル放送)とを併存させて放送している。〔飯田良明〕

ローガン(山) ［Logan］ 北アメリカ，カナダのユーコン地方南西部にある山。標高6,050m。ロッキー山脈の一支脈イーリアス山脈中にあり，アメリカ合衆国アラスカ州のマッキンリー山に次ぐ北アメリカ第2の高峰。氷河が発達し，雪原も多い。初登頂は1925年。

ろき【呂紀】 生没年未詳。中国明(みん)代の画家。字(あざな)は廷振，号は楽愚・明善。浙江(せっこう)省勤の人。弘治(こうじ)年中(1488～1505)宮廷の仁智殿に出仕し，錦衣(きんい)指導使となった。辺景昭に花鳥画を学び，また唐宋(そう)以来の古画臨摹(りんも)を通じて，馬遠以降の院体花鳥，とりわけ黄氏体の描法を会得した。浙派的な皴(しゅん)法*もとり入れ，装飾的な画態をつくった。子の呂文英をはじめ明(みん)代花鳥画家に多くの追随者があり，わが国の室町末・桃山の花鳥画形成に影響を与えた。〔中島純司〕

ろきんびょう【露菌病】 ⇨べと病

ろくおん【録音】 音を記録して保存し，聞きたいときにこれを再生できるように，録音装置を用いて収音すること。録音方式には，円板録音・磁気録音・光電録音がある。いずれも音波をマイクロホンを介して電気信号に変換したのち，さらに適当な変換装置によって，レコード面上の音溝(おんこう)とか磁気テープ面上の磁荷とか写真フィルム上の透明度に変換して記録する。

【円板録音】塩化ビニル・酢酸ビニルの共重合樹脂をベースとし，これに耐熱性をもたせるための安定材，着色材の炭素を加えた薄い円板上に，音の信号に応じて振動する切削針でみぞを刻み込んで録音する。この方式は最も古く，1877年エジソンの蓄音機*の発明時に用いられたスズ箔(はく)の表面にみぞを刻み込む方式から，のちにろう管，さらにシェラック樹脂(天然樹脂)を主体としたシェラックレコードに移り，現在では上記のようなビニル重合体の時代を迎えた。しかし，録音操作が非常にむずかしいため一般には用いられないが，複製品の大量生

産と再生とが簡単なため，レコード*として広く普及している。

〔磁気録音〕1898年デンマークのパウルセンが高速度電信の受信用に使用したのが最初で，1907年ごろには直流バイアス方式による音声の記録の研究が行なわれたが，増幅技術が未発達のために実用にはならなかった。その後1930年ごろスティルが鋼帯式磁気録音方式を開発し，1935年にはドイツのシェーラーがリングヘッドを考案，1938年には永井(ながい)・五十嵐(いがらし)が高周波バイアス方式を考案したが，一方1928年ドイツのプフリウマーが磁気録音テープを考案し，1938年にはAEGでテープの工業的製造法に成功したことから，テープ式磁気録音方式が実用化され，1945年以降急激に普及して今日に及んでいる。

今日のテープレコーダー*は，すべてリングヘッドを用いた縦方向磁化方式のテープ式磁気録音器であって，消去ヘッド・録音ヘッドおよび再生ヘッドを備えていて，録音と再生が自由に行なわれるところが円板レコードと異なっている。しかし，テープの走行速度やテープレコーダーの性能によって，高価で高性能の職業用テープレコーダーから普及形の家庭用テープレコーダーまで種々の性能のものが市場に出回っている。また，1本のテープに録音軌道(トラック)を2本，4本と設けることにより，同時に複数の信号を録音することができ，また2本のトラックを用いてステレオ録音を行なうこともできる。

〔光電録音〕映画フィルムへの録音は大部分が光電録音方式によって行なわれる。光電録音は音声信号をマイクロホンで電気信号に変換してのち，光電変換系によって光量の変化に変換し，これを写真感光材料を塗布した透明なフィルム上に投射しながら，このフィルムを一定速度で走行させると，現像したフィルム上に音声信号が記録されている。

トーキー*は，エジソンが1898年ごろ考案したといわれているが実用的なものとはならず，のちの真空管増幅器の発達によって光電変換機構が応用されるようになってはじめて実用化された。映画フィルムは中央部に画面があり，その横に幅の狭いサウンド-トラック*があって，その上に光電録音が行なわれる。

光電録音の方式には，RCAで開発された面積式光電録音方式と，ウェスタン-エレクトリックで開発された濃淡式光電録音方式とがある。面積式は，サウンドトラック上の透明な部分と黒い部分との面積の比が信号波形に比例するように録音する方式で，透明部分と黒色部分との境界の波形が信号波形を表わしている。これに対して濃淡式は，録音軌道の透明度すなわち濃淡が信号に比例するように録音する方式であって，ウェスタン-エレクトリックの光弁装置を用いて録音される。

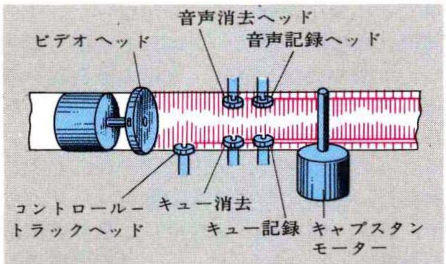


図-1　4ヘッドVTRによる磁気パターン

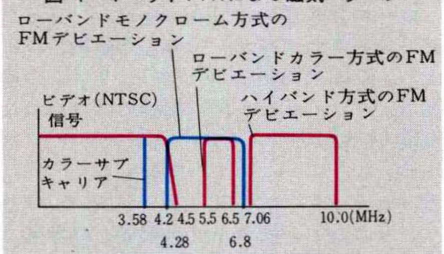


図-2　ビデオとFMデビエーションの周波数スペクトル

録　画

光電録音を再生するには，光源燈の光をフィルムの走行方向と垂直な狭いスリットを通してサウンドトラック上に投射し，サウンドトラックを透過した光を光電管に入射させ，光量の変化に対応した電気信号に変換する。

映画のフィルムは毎秒24こままたは30こまで走行するが，撮影時にはフィルムは1こまずつレンズの前で一時停止する。これに対して，サウンドトラックのほうは一定速度で走行しないと録音再生が行なわれないので，録音時には画面用フィルムとは別のフィルムに録音し，焼き付けの段階で1本のフィルムに画面と録音を焼き付ける。したがって，再生するときには，画面が映写される場所と録音を再生される場所は少し離し，その間にフィルムのたるみをつくって，録音が再生される場所には一定速度で走行するように平滑装置が設けてある。〔伊藤　毅〕

ろくおんじ　【鹿苑寺】京都市北区金閣寺町にある臨済宗相国寺派の寺。金閣寺の名で知られ，足利義満(あしかがよしみつ)が1397年(応永4)に西園寺(さいおんじ)家の山荘を譲り受けて，金閣などを造営したことに始まる。義満の没後，子の義持が鹿苑寺と名づけた。衣笠(きぬがさ)山を背後に控え，舎利殿を中心に自然の景致を利用してつくった庭園の構えは，西芳寺の庭園を模したといわれる。三層の楼閣からなる舎利殿は一般に金閣とよばれ，1950年(昭和25)に焼失したが，1955年には再建された。〔永井信一〕

ろくが　【録画】再生を目的としてテレビジョンの映像信号を記録すること。録画にはフィルム録画・電子ビーム録画，およびビデオテープによる録画がある。フィルム録画は最近使用頻度(ひんど)が減り，電子ビーム録画はCBS*が開発したEVRなどがあるが，ここでは最も多く使われているビデオテープ録画(VTR)について述べる。テープ録画に比べて磁気録画は，記録信号であるテレビ信号が，低周波分は直流に近く，高周波分は4MHz以上に伸びているため，相当の広帯域となって従来の録音方法では記録が不可能であり，そのためVTR独自の方法が考案され，採用された。

わが国で白黒VTRが実用化されて10余年になるが，その間放送用にはアンペックスの方式によるVTRが使用されてきた。この方式は，幅2インチのテープを15インチ／秒の速度で走行させ，テープ走行方向に直交して回転する4個のヘッドドラム(直径約2インチ，回転は毎秒240)を用い，両者の組み合わせによって相対スピードを1500インチ／秒まで上げて帯域の録画を行なうものである。ビデオヘッドチップは固いアルミフェノールで形成され，ヘッド空隙(くうげき)は約4分の1ミル，横幅は10ミルである。最近は長寿命のフェライトヘッドも開発されている。

再生時にテープスピードを制御するコントロールトラック信号や，音声信号は，従来の録音と同様15インチ／秒の割合でテープ幅の下側と上側にそれぞれ帯状に記録される。さらにキュートラックが設けられ，コントロールトラックのすぐ上側に録音される。したがってテープ上に記録された磁気パターンは図-1のようになる。変調方式は低搬送波FM変調方式を用い，下側波帯を利用した残留側波帯方式となっている。アンペックス方式以外に，1個のみ，あるいは2個の回転ヘッドを用いる方式もあるが，これらは放送用には使用されていない(主として工業用・家庭用)。

また，カラー用VTRとしては，従来のローバンド方式に対してハイバンド方式といわれるものがあり，この両方式のFMデビエーションは図-2のとおりである。ハイバンド方式はテープヘッド・回路系・エアベアリングなど機械系が改良されており，これによって良好なカラーの録画・再生が可能となった。〔杉本昌穂〕

ろくがつじけん　【六月事件】1848年6月，フランスの二月革命*後に起こったパリの労働者・社会主義者の最後的な反乱。二月革命後にルイ-ブランらが中心となって装置した国立仕事場*も，4月選挙で復活した保守多数派(ブルジョア共和派)により，6月22日事実上解散の措置がとられた。これをきっかけとして26日までパリで激烈な市街戦が展開，独裁権を委ねられたカベニャック将軍の武力弾圧により，即時銃殺1,500名，逮捕25,000名を出して鎮圧された。以後フランスを中心とするヨーロッパの革命的勢力は後退し，反動勢力の復活が著しくなる。〔喜多迅鷹〕

ろくさいいち　【六斎市】室町時代から

江戸時代にかけて月6回開かれた定期市。この名称は仏教思想の斎戒日(→忌)に由来し，従来月3回開かれていた三斎市が，商品流通の発展に伴って進展したもので，1の日と6の日，2の日と7の日というように組み合わされて各旬2回開かれた。戦国大名は新宿を設けた際，この六斎市を開くことが多く，各地に発達したが，江戸時代にはいってからはしだいに城下町に吸収された。➔市

ろくさがり 【六下り】 三味線(しゃみせん)の調弦法。第3弦が三下り*よりもさらに下がるので，〈三三下り〉〈三メリ〉などともよばれる。第1弦をシとすれば，シ・ミ・ファ-シャープで，間隔が完全4度と長2度の組み合わさったものである。あまり使われないが，古くは地歌の《茶音頭(おんど)》，新しくは明治の長唄(ながうた)《新曲浦島》などに用例がみられる。

ろくさんせい 【六・三制】 1947年(昭和22)以来，〈学校教育法〉によって行なわれている小学校を6年，中学校を3年の修業年限とする学校制度。広くは中等教育の後期段階を含む六・三・三制，高等教育の段階までを含む六・三・三・四制を意味することもある。

一本の学校系統で，国民を同一の基礎学校で教育し，それ以上は国民各自の能力と適性に応じて上級学校に進みうるように，第2次世界大戦後の教育の民主化によって，アメリカの学校制度を参考にして制定されたもので，単線型の学校制度である。それは，全国民に用意された単一の学校制度であって，戦後民主教育の根幹をなすものといってよい。したがって，現在，たとえば後期中等教育において能力・適性による教育の多様化という立場で，指導者階層の学校系統と庶民階層の学校系統に分ける複線型の学校制度を再編・強化しようとしている教育政策・教育行政に対して，この六・三制を堅持していくことは今後の国民教育の一つの課題といえる。〔河口道朗〕

ろくしげどう 【六師外道】 原始仏教聖典《沙門果経(しゃもんかきょう)》に紹介されているブッダ時代の6人の思想家。彼らは仏教(内道)以外の思想家であるところから六師外道と称せられる。アジタ-ケーサカンバラは感覚的唯物論を主張し，順世派の先駆とみられる。サンジャヤ-ベーラッティプッタは認識の客観的妥当性を否定する不可知論を唱えた。マッカリ-ゴーサーラは存在するものが業(ごう)によって規定されるという従来の輪廻(りんね)説を否定して，流転するものはすべて運命・環境・天性に支配されるとする一種の無因論を主張した。彼は邪命外道(じゃみょうげどう)の教団に属した。パクダ-カッチャーヤナは人間は地・水・火・風・苦・楽・命我(みょうが)の7要素からなるとし，プーラナ-カッサパは無道徳論を主張している。ニガンタ-ナータプッタはジャイナ教の開祖で，マハービーラともいわれた。彼はパーサの教えを改めて不殺生・不妄語(ふもうご)・不偸盗(ふちゅうとう)・不邪淫(ふじゃいん)・無所得の五大誓を立ててきびしく遵守した。世界観は五原理を実体的に把握(はあく)している。〔塚本啓祥〕

ろくじっしんぽう 【六十進法】 数を表わすのに，60になるごとにまとめて，上の位に繰り上げていく方法。数を六十進法で表わすことは，古代バビロニアで用いられた。今日でも，六十進法のなごりは，時間の単位(秒・分・時)や角の単位(秒・分・度)の間に残されている。

ろくしゃく 【六尺】 江戸時代，武家における駕籠(かご)かき・賄方(まかないかた)・掃除夫など雑人夫一般の呼称。陸尺とも書く。古く乗輿(じょうよ)をかつぐ者を力者とよんだのに由来するという。江戸幕府は，紅葉山御高盛(もみじやまおたかもり)六尺20名，御賄六尺388名，御風呂(ふろ)屋六尺12名など数百名にのぼる六尺を使役し，天領から六尺給米を徴収して彼らに役切米・役扶持(ふち)として支給した。

ろくじゅうりごえ 【六十里越】 福島・新潟県境中央部よりやや南にある峠。標高863m。越後(えちご)山脈を越える峠の一つで，国道252号線がここを越える。かつては北の八十里越(845m)とともに会津と越後を結ぶ重要な街道の峠であったが，1971年(昭和46)に旧峠下をトンネルで通過する只見(ただみ)線が全通した。旧峠からは浅草岳への登山ルートがある。

ろくしょう 【緑青】 銅を空気中に放置したとき，空気中の水分と炭酸ガスの作用によって生じる緑色の銹(さび)。組成は塩基性炭酸銅$CuCO_3 \cdot Cu(OH)_2$で有毒である。また，空気の存在下で銅に酢酸蒸気をくり返し作用させて生成する塩基性酢酸銅$CuO \cdot Cu(C_2H_3O_2)_2 \cdot 6H_2O$も緑青とよばれる。青色顔料となるが水にとけ有毒なため船底塗料・殺虫剤などに用いる。

ろくしょういろ 【緑青色】 緑青のような色。青緑みをおびた緑色。天然顔料としての緑青は，孔雀石(くじゃくいし)を粉砕してつくられ，組成は塩基性炭酸銅$CuCO_3 \cdot Cu(OH)_2$である。わが国では，飛鳥(あすか)時代から建築や絵画に盛んに使用されてきた。緑青の粒をさらに微細にしたものを白緑という。この色を白緑色というが，緑青よりもやや淡い美しい緑色である。なお，花緑青と称するものは，酢酸銅と亜砒酸銅の複塩$Cu(C_2H_3O_2) \cdot 3Cu(AsO_2)_2$からなる人工の緑色顔料である。パリスグリーン・シュワインフルトグリーンなどともよばれ，緑色顔料中，最もあざやかな色を呈するが，有毒であり，堅牢(けんろう)度に欠けるので，使用にあたっては注意が必要である。〔武井邦彦〕

ろくしょうじ 【六勝寺】 〈りくしょうじ〉とも読む。平安末期，京都東山岡崎近辺に建てられた皇室関係の私的な御願寺。白河(しらかわ)天皇の法勝寺，堀河(ほりかわ)天皇の尊勝寺，鳥羽(とば)天皇の最勝寺，待賢門院(鳥羽天皇の中宮)の円勝寺，崇徳(すとく)天皇の成勝寺，近衛(このえ)天皇の延勝寺の6寺がそれで，いずれも〈勝〉の字がつくのでこの名がある。1077年(承暦1)落成供養された法勝寺が最初の建立(こんりゅう)で，その規模も六勝寺中最大であったと伝えられる。仁和(にんな)寺を総検校(そうけんぎょう)にして，各寺に別当または執事を置いた。中世，承久(じょうきゅう)・応仁・文明の乱などでいずれも廃寺となった。〔高崎徳次〕

ろくじょうてんのう 【六条天皇】 (1164〜1176) 在位1165〜1168年。名は順仁(のぶひと)。二条天皇の第2皇子。母は伊岐(いき)氏。二条天皇のあとをうけてわずか2歳で即位したが在位3年で，1168年(仁安3)高倉天皇に譲位し，太上(だじょう)天皇の尊号を受けた。陵墓は京都市東山区の清閑寺陵という。

ろくじんつう 【六神通】 略して〈六通〉ともいう。仏・菩薩(ぼさつ)が修行によって体得する6種のすぐれた能力。神足通・天眼通・天耳通・他心通・宿命通・漏尽通の6種で，前5種は〈五通〉といわれ，仏教以外の仙人(せんにん)なども得られるが，漏尽通は仏教の悟りに通ずるもので，仏教聖者のひいでた徳とされる。

ろくだいがくやきゅう 【六大学野球】 ⇨大学野球

ろくだんのしらべ 【六段の調】 単に《六段》ともいう。箏(そう)の器楽曲。箏独奏曲としては，江戸時代から八橋検校*(けんぎょう)の作曲とされている。江戸時代の楽譜《箏曲大意抄》や《琴曲指譜》に記されたものと現行のものとでは細部が異なるので，伝承の過程でしだいに装飾化されていったと考えられる。他の段物と同じく，冒頭の導入句を除けば各段の長さは同じで，変奏曲とみなしうる。古くから三味線(しゃみせん)(本調子)でもひかれ，また三味線(三下り)の替手もいっしょに合奏される。後者から生まれた雲井調子の箏の替手は，替手の中で最もよくひかれる。今日では，三曲合奏でもひかれる。この曲は古くから有名であったため，箏曲《時鳥(ほととぎす)》《住吉(すみよし)》のほか，長唄(ながうた)でも借用されている。〔徳丸吉彦〕

ろくどう 【六道】 六趣ともいう。日常の行ないの善悪によって生まれ変わり死に変わりしておもむく六つの所。①最も苦しみ多い地獄*，②つねに飢えている餓鬼，③獣や虫などの畜生，④闘争を好む阿修羅*(あしゅら)，⑤人間世界，⑥快楽のある天上世界。①②③を特に三悪道という。仏教では六道はすべて苦しみの世界とされ，仏道の修行によって煩悩(ぼんのう)を断ち切らねば，何度も六道のいずれかに生まれるとされる。なお，平安中期ごろから庶民に信仰された六地蔵は六道の辻(つじ)に立って，生きとし生

けるものに救いの手を差し伸べる6種の地蔵菩薩(ぼさつ)である。平安時代の源信*の《往生要集》には六道の描写が詳しい。➔悪趣
〔小沢憲珠〕

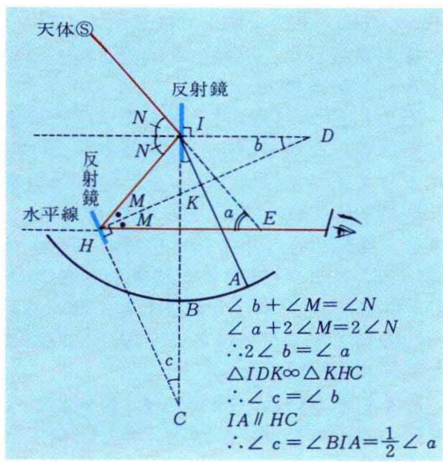
ろくどうえ 【六道絵】 浄土教絵画の一。六道とは地獄・餓鬼・畜生・阿修羅(あしゅら)・人・天の六つの世界のことで，現世での善悪の業によって，来世ではそれぞれのしかるべき道に至るとされている。平安末期から鎌倉期にかけて栄えた六道思想に基づいて，これらを題材とした絵巻が盛んにつくられ，醜い悽惨(せいさん)な光景が好んで描かれている。《地獄草紙》《餓鬼草紙》《病草紙》《十二因縁絵巻》などが遺品として有名である。〔村重　寧〕

ろくにんぐみ 【六人組】 第1次世界大戦後に生まれたフランスの若い作曲家グループ。ロシアの〈五人組*〉になぞらえてつけられたもの。メンバーは，オーリック*・デュレ・オネゲル*・プーランク*・タイユフェール・ミヨー*であり，彼らの音楽的な綱領は，ロマン主義やドビュッシーの印象主義に反対して，新古典的な傾向にもどることであった。作曲家では，古くはラモーやハイドン，新しくはサティーが模範とされ，明瞭(めいりょう)な旋律，対位法，形式の簡潔性などが重視された。オネゲル・プーランク・ミヨーらが個性的な様式をつくっているように，しだいにグループとしての機能は失われたが，コクトー*を代弁者とするグループの意味は，新傾向の必要性を説く点で清新なものがあった。〔徳丸吉彦〕

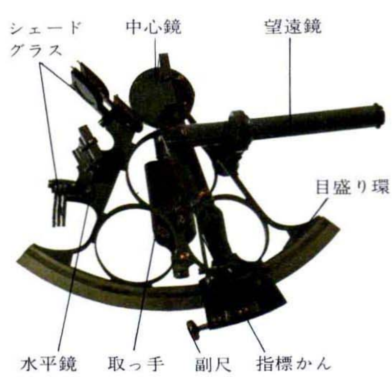
ろくはらたんだい 【六波羅探題】 鎌倉幕府の職名で，京都六波羅に常駐させた出先機関の長官。南北に分かれ，承久(じょうきゅう)の乱*後北条時房(ほうじょうときふさ)・泰時(やすとき)が任命されたのが最初。その職掌は朝廷・公家(くげ)の監督，三河(みかわ)(愛知県)以西(はじめは尾張(愛知県)以西)諸国の政務裁決，京都の警備などで，執権*・連署*に次ぐ重職とされ，執権北条氏の一族が歴代就任した。探題の下には幕府に準じて評定衆・引付衆および犯人の検挙・刑事裁判にあたる検断方が置かれ，御家人の勤める大番*を監督・指揮した。1333年(元弘3・正慶2)足利尊氏*(たかうじ)らに攻撃され，両探題とも滅亡した。〔高崎徳次〕

ろくはらみつ 【六波羅蜜】 菩薩*(ぼさつ)の実践すべき大乗仏教の六つの徳目。波羅蜜とは梵語(ぼんご) pāramita(パーラミタ)の音写で，度・到彼岸と訳され，〈最高の状態〉の意であるが，この場合は修行の徳目をいう。六つの徳目とは，①布施(ほどこし)，②持戒(戒め，戒を守ること)，③忍辱(にんにく)(忍耐)，④精進(努力)，⑤禅定(一心不乱)，⑥智慧*(ちえ)(般若*(はんにゃ)波羅蜜多，最高の智慧)である。最後の智慧波羅蜜が目的であり，総括である。六波羅蜜は特に《般若経*(はんにゃきょう)》で強調されている。
〔真野龍海〕


六　道　絵〈阿修羅道〉聖衆来迎寺蔵



原理図



各部名称
六　分　儀

ろくはらみつじ 【六波羅蜜寺】 京都市東山区轆轤(ろくろ)町にある真言宗智山(ちざん)派の寺。普陀洛山(ふだらくさん)普門院と号し，西国三十三所第17番の札所。951年(天暦5)の悪疫流行の際に，それを静めるために，空也上人(くうやしょうにん)が刻んで洛中(らくちゅう)を引き巡った十一面観音を祭った堂宇がはじまりと伝えられる。この地は，平安時代末には平家一門の邸が建ち並び，鎌倉時代には六波羅探題が置かれた。幾度も兵火にあい，創建当初の建物は失われたが，近世になって復興された。〈鬘掛(かずらかけ)の地蔵〉とよばれる地蔵菩薩(ぼさつ)，十一面観音，薬師如来，四天王は平安後期の作である。なお，本堂は室町初期の代の建造とされる。
〔永井信一〕

ろくぶんぎ 【六分儀】 天体の高度角などを測定する光学的航海計器。円を6分した目盛り環に，二つの反射鏡と望遠鏡を取り付けたもので，手持ちの比較的精確な角度測定器として，特に海上の船舶のように足場が不安定なところで用いるのに便利である。船舶が大洋を航海するときは天文航法*が用いられるが，この測定(天測)のために，古代には円板の外周に角度を刻み，円の中心に定規をつけたアストロラーベが使われた。その後種々の改良が加えられて4分円のコードラントとなり，やがて六分儀(セクスタント)に発展した。名称は，その弧が円周の1/6(60°)であることに由来し，別に八分儀(オクタント)・五分儀(クインタント)などもあったが，現在ではすべて六分儀とよばれる。〔飯島幸人〕

ろくまく 【肋膜】 漿膜*(しょうまく)の一種で胸膜ともいう。➔胸膜

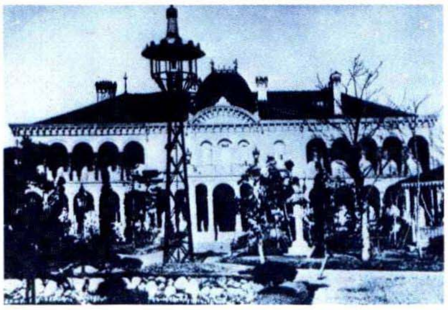
ろくまくえん 【肋膜炎】 肺を二重に包んでいる胸膜*(肋膜)の炎症。胸膜炎ともいう。臨床的には胸膜の間にある胸膜腔(きょうまくこう)に，液体の貯留を認めないものを乾性肋膜炎，液体の貯留を認めるものを湿性肋膜炎というが，これらは一つの病態を現わすにすぎず，独立した疾患としての意義はもたない。乾性肋膜炎は，各種の湿性肋膜炎の前駆症状として認められるが，このほか気管支拡張症・珪肺(けいはい)・肺栓塞(はいせんそく)・心筋梗塞(こうそく)・鬱血(うっけつ)肺・外傷などに際してみられることがある。湿性肋膜炎は肋膜腔に液の貯留を認めるもので，その原因として最も多いのが結核性のものであり(結核性肋膜炎)，そのほかに急性リウマチの合併症として認められるリウマチ性肋膜炎，肺炎に伴う肋膜炎(細菌性およびウィルス性)，肺膿瘍(のうよう)・肺壊疽(えそ)・気管支拡張症など肺の炎症に伴う肋膜炎，さらには肺癌(はいがん)に伴う癌性肋膜炎などがある。一方，胸膜腔に貯留した液の性状から，それが白血球を多量に含有して混濁している場合を化膿性肋膜炎または膿胸といい，さらにそれは結核性と非結核性(肺炎双球菌・肺炎桿菌(かんきん)・連鎖球菌・大腸菌・

インフルエンザ菌あるいはこれらの混合感染)に分けられている。また外傷により血管が損傷されたり，敗血症や出血性素因などにみられる血液が胸膜腔に貯留したりした場合，これを出血性肋膜炎または血胸という。症状は胸痛・発熱・咳嗽(がいそう)・悪感などで，急速に始まり，特に体動や体位の変換により刺激性の咳(せき)の出ることが多い。液の貯留が大量になると，呼吸困難・頻脈(ひんみゃく)などの心循環器の症状が出現する。その原因により経過は種々であるが，疾患の最盛期を過ぎると一般状態は急速に改善される。しかし化膿性肋膜炎では，その経過は数年に及ぶことがある。重症肺炎に伴う肋膜炎では，心臓衰弱をきたし，急速に死の転帰をとることがあるので注意を要する。また癌性肋膜炎は予後不良である。治療はそれぞれの原因に対し抗結核剤・副腎(ふくじん)皮質ステロイド剤・抗生物質の投与を行なうが，貯留液による圧迫症状が強ければ排液し，外科的処置も必要な場合がある。〔佐野隆志〕

ろくめいかん【鹿鳴館】 1883年(明治16)東京麴町(こうじまち)内山下町(現在の千代田区内幸町)に建てられたルネサンスふう建築の官設社交場。イギリス人コンドル*の設計によるれんが造りの2階建てで，2年の歳月と18万円の工費をかけて完成した。これよりさき，1879年外務卿(きょう)に就任した井上馨*(かおる)は，条約改正*の交渉にあたって法典編纂(へんさん)，風俗・習慣の欧化を図り，その一環として鹿鳴館の建設を企画した。以来鹿鳴館には内外の政府高官およびその夫人・令嬢が集まり，園遊会・舞踏会を催して，いわゆる鹿鳴館時代を現出した。しかし他方，外面的な欧化と卑屈な外交態度に対する国民の批判，また欧化主義を非難する国粋主義の台頭によって，1887年井上の外務卿辞職とともに鹿鳴館時代は終わった。1890年以降は華族会館となり，1945年(昭和20)焼失。〔杉山三枝〕

ろくやおん【鹿野苑】 梵語(ぼんご)Mṛga-dāva(ムリガダーバ)の訳。インド北部ベナレス近郊にあり，ブッダの初転法輪(→転法輪)の地。詳しくはイシパタナ-ミガダーヤ(天人住処の鹿野苑)という。ブッダはマガダ王国のウルベーラ(→ブダガヤ)で悟りを開くと，その成道*を援助してくれた5人の修行者の住む鹿野苑を訪れ，はじめて法を説いた。誕生・成道・入滅の地と並ぶ仏教の四大聖地の一つである。→サールナート

ろくよう【六曜】 六曜星の略。六輝(るっき)ともいう。先勝・友引・先負・仏滅・大安・赤口(しゃっく)の六つの暦注をいう。これは江戸時代末ごろに改変されたものであり，それ以前は，大安・留連・速喜・赤口・将吉・空亡(くうもう)であった。もとは中国で，六曜は五行説*に付会した時刻の吉凶を示すのに用いられていて，これがわが国に14世紀ごろに伝来したといわれる。



鹿 鳴 館

今日，わが国では時刻の吉凶は問題とされず，もっぱら日の吉凶を示すようになっている。結婚には大安を選んで仏滅を避け，また葬式には友引をきらい，急用・公事・訴訟には先勝を選び先負を避ける。これらは文字の縁起をかついだだけのもので，元来の意味とはおよそ異なる。仏滅は物滅であり，仏には無関係だし，友引は先勝・先負の間の日で，引き分けの日である。一般に旧暦の元日を先勝，2月1日を友引，3月1日を先負としており，暦日に六曜が今日でも欠かせないのは，結婚や葬式などの冠婚葬祭に吉凶の日を意識し，つとめてそれを予知しようとする根強い俗信が残っているからである。〔渡辺欣雄〕

ロケット［rocket］ 宇宙空間を飛翔(ひしょう)するのに必要な推進機関をもった飛翔体，あるいはその推進機関。

〔歴史〕 ロケットは13世紀前半原始的なものが中国で兵器として用いられ，モンゴルを経てヨーロッパに伝わって発達し，唯一の軍用火器として広く用いられた。しかし18世紀に大砲が発達してそれに代わってからは海難救済のため信号や救助ロープの打ち上げなどに用いられるにすぎなかった。ところが19世紀の半ばから宇宙飛行用として注目され，1898年ソ連のK.ツィオルコフスキー*が〈ロケットによる宇宙空間の探検〉と題する論文を発表して宇宙ロケットの基礎原理を確立した。一方アメリカのR.ゴダードは気象観測用として独立にロケットの研究を始め，1926年には液体ロケットを実験，ロケットによる月飛行の可能性を論じた。同じころヨーロッパではドイツのH.オーベルトも同様な研究を行ない，ドイツの青年たちがその指導のもとに宇宙旅行協会を結成してロケットの実験に熱中した。その会員のひとり，W.v.ブラウン*がドイツ陸軍に招かれ，ペーネミュンデの陸軍ロケット研究所で研究を続け，1943年V-2号を開発してロケットは一躍宇宙飛行用として有望視されるようになった。現在の大形液体ロケットはすべてV-2号を原形として発達したものである。

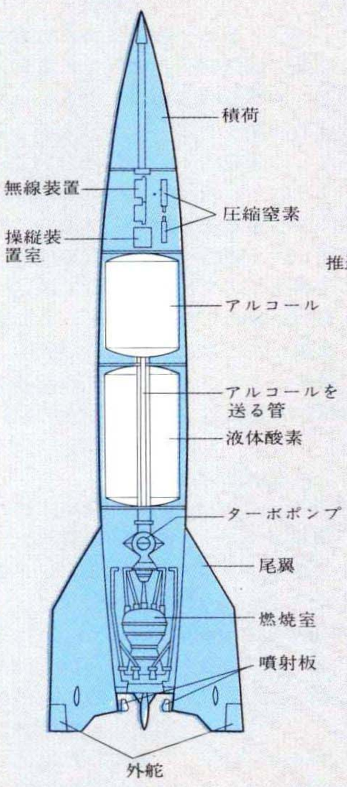
〔原理と特性〕 ロケットは，推進剤の燃焼などによって生ずる高温・高圧ガスを後方に噴出して，その反作用で前進する。したがってロケットの前進する力，すなわち推力はガスの噴射速度が大きいほど，また単位時間の噴出量(推進剤の消費速度)が大きいほど大きい。また，ガスを噴出しつづける間，その速度・量は一般にはあまり変化しないため推力はほぼ一定に保たれるが，一方推進剤の消費量はきわめて大きいため加速度は急激に増大する。推力の大きさは重量で表わし，単位にトンまたはポンドを用いる。すなわち，質量1tのロケットに重力加速度を与える推力は1tである。ロケットの達し得る速度すなわち到達速度は推進剤が全重量の中で占める割合で決定される。推進剤を積んだときのロケットの質量と，推進剤を使い果たしたのちの質量との比を質量比というが，ロケットの到達速度は，質量比の対数とガス噴出速度の積に比例する。したがって質量比が大きいほどロケットの到達速度は大きくなる。ロケットの到達速度が，噴射ガスの速さに等しいときの質量比は2.72(推進剤の重量比率63.2%)，2倍のときは7.39(86.5%)，3倍なら20.09(94.7%)となる。一般的ロケットでは，質量比は2.0前後であるが，特に高性能のものは5～10にも及ぶ。しかしいろいろな関係から7以下に制限することが多い。なおロケットの到達速度は，地球の重力や大気の抵抗をまったく無視した場合で，現実には地球からずっと離れた宇宙空間中でしかこの速度に達することはできないわけで，その意味では到達速度を理想速度ともいう。

〔多段ロケット〕 ロケットの到達速度は，単一ロケットでは現在のところ7kmが限度であるが，これを突破するために多段ロケットが考えられた。これは燃焼の終わるごとにその部分を切り捨て，実質的に質量比を高めて増速しようというものである。反面段数を増すにつれて切り離し機構など余分なものもふえるためふつう4段ぐらいより多くはしない。

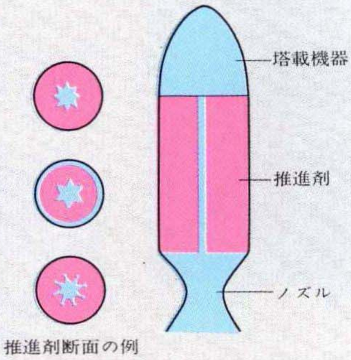
〔比推力〕 推力は噴射ガスの速さ，単位時間の噴出量に比例するが，推進剤の量したがってガスの噴出量には限りがあるため，推力の大きさは噴射の速さが決め手になる。すなわち推進剤の同一消費量に対する推力の割合は噴射の速いものほど大きいため，この割合で推進剤の優劣が決まる。この割合を比推力といい，推力を毎秒消費される燃料の重量で割った数で表わす。たとえば推力500t，1秒間の消費量が2tならば比推力は250であり，同時にこれは推力と同じ量の推進剤を消費する秒数であるから比推力は秒をつけて表わす。現在のロケットでは比推力は固体推進剤の場合210～260秒，液体推進剤の場合250～350秒程度である。

〔効率〕 推進剤の出し得る熱に対する利用し得る熱の割合を熱効率というが，ロケットエンジンのそれは46～80%である。この

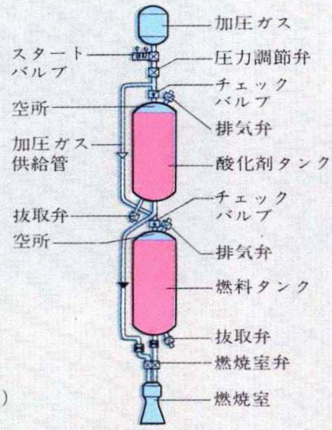
ロ ケ ッ ト



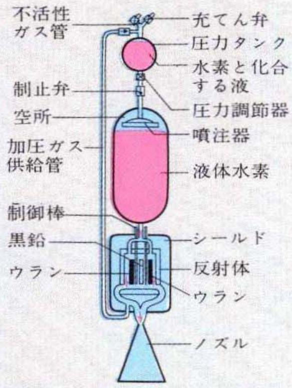
V-2号の構造



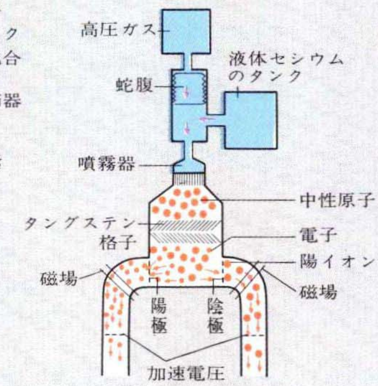
固体ロケットの構造(内面燃焼型)



加圧式液体ロケットエンジンの構造

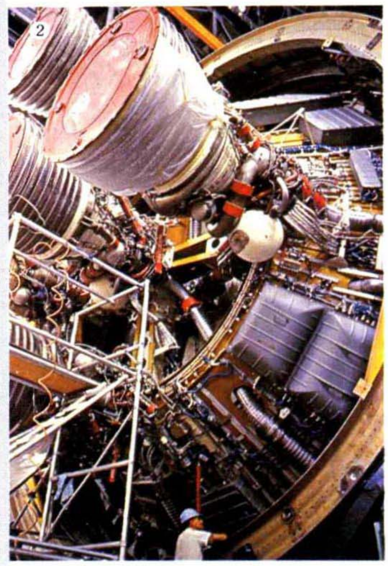


原子力エンジンの構造



イオンロケットの構造





ロ ケ ッ ト　①ボストーク打ち上げに用いられたロケット　②サターン5型，第1段エンジン部

熱エネルギーはガスの噴射とロケットの推進に用いられる。さて噴射ガスの速度はロケットに対するものであり，ロケットの速さは外部座標に対するものであるからガスの速度を毎秒2kmとするとき，①ロケットの速度が1kmならば，ガスは外部座標に対して毎秒1kmの後進，②2kmならば静止，③3kmならば毎秒1kmの前進となり，①③の場合エネルギー的には浪費となる。利用できるエネルギーに対し，実際に利用されるエネルギーの割合を推進効率というが，推進効率は計算によると①では80%，②では100%，③では92%となる。推進効率はロケットの速度が噴射ガスの2倍までは80%以上となるが，それ以上でも悪く，また低速の場合もきわめて悪い。ロケットの効率は熱効率に推進効率を掛けて与えられるが，噴射ガスに近い速さで飛行しているとき熱機関中効率は最高となる。

〔推進剤〕ロケットの燃料と酸化剤を合わせて推進剤とよぶ。推進剤としての条件は①発熱量が大きい，②燃焼ガスの分子量が小さい，③燃焼が安定である，④密度が高い，⑤大量生産が可能で価格が安いなどである。推進剤には固体推進剤と液体推進剤がある。固体推進剤は均質型とコンポジット型(非均質型)に大別される。前者はダブルベース型ともいわれ，一つの分子中に酸化剤と燃料の両機能を含むもので，ニトログリセリンとニトロセルロースなどがよく用いられる。後者は燃料と酸化剤が別物質で，両者を混合してつくる。酸化剤としては過塩素酸アンモニウム・過塩素酸カリウムなど，また燃料は結合剤を兼ねたものが多く，一般にはポリエステル・ポリウレタン・ポリブタジエンなどの合成樹脂が用いられる。これらは，その中心軸に沿って星形など各種断面の空洞(くうどう)があり，燃焼の進行中燃焼面積が一定に保たれ，したがって推力も変化しないようになっている。液体推進剤は，一般には酸化剤と燃料が別になっており，酸化剤としては液体酸素・硝酸・四塩化窒素などが，燃料としてはアルコール・ケロシン・ヒドラジン・水素などが用いられる。最も一般的なのは液体酸素とケロシンの組み合わせで，これは比推力300秒程度であるが，分子量の最も小さい水素と酸素の組み合わせでは360秒に達する。またより高性能のホウ素と水素の化合物ボランを燃料に用いるものや，フッ素を酸化剤に使用するものもあるが，使用上の欠点があり，目下研究が進んでいる。なおこのような二液式推進剤のほかに，1種類だけの液体を用いる一液式推進剤もあり，代表的なものは過酸化水素で，姿勢制御ロケットなどに用いられる。

〔固体ロケットと液体ロケット〕推進剤として固体を用いるものを固体ロケット，液体を用いるものを液体ロケットとよぶ。前者は推進剤タンクや特別な燃焼室の必要がなく，全体の構造が簡単なことが特徴である。したがってエンジン重量も軽くでき，故障も少ない。また取り扱いも容易なため観測用や軍用ミサイルに広く利用されている。反面液体推進剤に比較して比推力が劣り，再点火などの操作は困難である。液体ロケットでは，推進剤はタンクに貯蔵され，ポンプあるいはガス圧によって燃焼室に送り込まれる。この際推進剤流量の調節は自由であるから，推力の調節も可能である。したがってエンジンの停止・再起動その他の制御も容易であり，精密な誘導を必要とする宇宙ロケットなどには液体ロケットが使用される。なお固体燃料と液体酸化剤あるいはその逆の組み合わせで両者の特徴をうまく利用しようとするハイブリットロケットもあるがその評価はまだ不明である。

〔非化学ロケット〕固体ロケットや液体ロケットなど推進剤の化学反応によって得る高温・高圧ガスを噴射して推力を得るものを化学ロケットと総称するが，このような方式によらないものを非化学ロケットとよぶ。これには原子力ロケット・イオンロケット・プラズマロケット・太陽熱ロケット・光子ロケットなどがあり，化学ロケットに比しいずれも推力がきわめて大きいことから超エネルギーロケットともいう。原子力

ロケットは原子炉の発達によって高温・高圧ガスを得ようとするもので，各種の形式のものが研究されている。推進剤には液体水素を用いる。イオンロケットはセシウム・ナトリウムなどのイオン化されやすい物質を用い，これを静電的に加速して噴出させ，推力を得る。この場合比推力は非常に大きくなるが，推力はきわめて小さいため，大形ロケットの上段用などにしか使えないが，長時間運転に耐え，細かい操縦が可能なため宇宙空間などでは大きな偉力を発揮する。この二者は現在比較的研究が進んでいるとはいえ，その開発は今後の問題であり，他のものの実用化も遠いと思われる。

【日本のロケット】第2次世界大戦末期に陸海軍による研究がなされたが，実質的な開発は東京大学生産技術研究所による観測ロケットの研究（現在は宇宙航空研究所）に始まるといってよい。これは1955年（昭和30）のペンシルロケットに始まり，カッパ-ロケット*・ラムダ-ロケット*を経て現在のミュー-ロケット*に至る。この間1970年2月にはラムダ4Sを用いて初の国産人工衛星〈おおすみ〉を，翌年9月にはミュー4S3型を用いて初の国産科学衛星〈しんせい〉を軌道に乗せるのに成功した。これらはほとんど固体ロケットであるが，これとは別に科学技術庁が計画，宇宙開発事業団に引き継がれている人工衛星打ち上げ用の4段ロケットは，3段に液体，ほかは固体の推進剤を用いる予定である。〔原田三夫〕

ロケットほう【ロケット砲】ロケット弾を打ち出す砲状の発射器。ロケット弾は発射と同時にガスを噴出して自動推進するため，反動はないが命中精度は劣る。しかし，砲が通常プラスチックまたは金属製で軽量なため，人力による運搬が可能であり，短時間での連続集中射撃には適する。射程距離は10km，第一線兵器である。第2次世界大戦でドイツのRS132，ソ連のカチューシャなどが出現，アメリカのバズーカ砲もこの一種である。

ろこう【露光】写真感光材料に潜像をつくる目的で光を与えること。露出ともいう。本来はすべての感光材料*についてのことばだが一般にはフィルム*などのネガ用感光材料について使われる。露光不足は現像後の画像が濃度不足となるが，露光過度の場合も画像の鮮鋭度や調子の再現が低下する。そのため十分な性能を引き出すために適正露光が必要となる。適正露光量は〈画像をつくるのに必要最小限の露光〉である。実際にはフィルムのラチチュード（寛容度）に助けられて〈適正〉にはある程度の幅がある。露光量を決める因子は，①被写体の輝度，②感光材料の感光度，③レンズの絞り，④シャッター速度（露光時間）である。現在は露光量の単位にEV（エクスポージュアーバリュー）を使う。絞りF1，シャッター1秒をそれぞれ0とし，1段階変わるごとに1ずつ増減する。EVは絞り，シャッターの数字の合計である（図参照）。たとえば

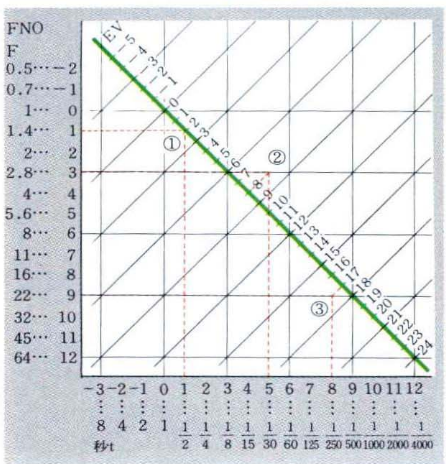
F1.4 1/2秒→1＋1→EV2…図の①

F2.8 1/30秒→3＋5→EV8…図の②

F22 1/250秒→9＋8→EV17…図の③

絞り・シャッターは等比級数だがEVは等差級数で，1増減すると2倍または1/2倍となり計算しやすい利点がある。また露光量をEVと一元的にとらえることは，プログラム-シャッターの基礎となっている。普通のシャッターでは同じEVとなる一連の絞り・シャッターの組み合わせから一つを選択する。

EVの前身LV（ライトバリュー）も内容は同じだが，絞りまたはシャッターの一方を動かすと，片方も運動して同一EVを維持するLVシャッターがつくられ，現在のEEカメラに発展した。また絞り・シャッターだけでなく，露光量の4因子を全部等差級数とするAPEXユニットを提唱する人もいる。〔新川幸信〕



露　光　絞りシャッター速度とEVの関係グラフ

ろこうきょう【蘆溝橋】リュイコウ橋　中国，北京（ペキン）南郊の橋。北京広安門の南西13km，太行山脈東麓（とうろく）に沿って北上する幹線道路が永定河を渡るところにある。全長235m，幅8m。大理石でつくられ，美しいアーチ形の橋で，両側280の欄干には，それぞれ姿態の異なる獅子（しし）が彫刻されている。金代に架橋され（1189），現在の橋は1698年に修復されたものである。マルコ-ポーロの旅行記にも記されていることから，ヨーロッパやアメリカではマルコ-ポーロ橋とよばれる。またこの勝景は〈蘆溝名月〉として北京八景の一つとされ，いまも橋畔に乾隆帝（けんりゅうてい）筆の〈蘆溝暁月〉の碑がある。1937年7月7日夜，付近で日本軍が作戦行動を起こした蘆溝橋事件*は日中戦争の発端となった。〔船越昭生〕

ろこうきょうじけん【蘆溝橋事件】日中戦争*のきっかけになった日本・中国軍の衝突事件。1937年（昭和12）7月7日夜，北京（ペキン）郊外豊台駐屯（ちゅうとん）の日本軍は蘆溝橋駐屯の中国軍に実弾をうちこまれたとしてこれを攻撃。中国側の妥協により，同月11日現地軍の間で停戦協定が成立したが，日本政府と陸軍はこれを無視して関東軍*および内地3個師団を送り，28日総攻撃を開始したため，ここに日中戦争が始まった。

ロココけんちく【ロココ建築】18世紀フランスを中心に栄えた装飾的な建築および室内装飾などの総称。優雅・艶麗（えんれい）な王朝ふうを特徴とし，曲線や曲面をとり入れてその表現効果をねらった。花・貝殻（かいがら）・鳥・樹木・唐草（からくさ）のアラベスクなど，動植物の自然形体がフォルムや文様に登用され，左右不相称の文様を形成し，あるいは鏡を用いるなど宮廷人の情緒・異



ロココ建築　ポンパドゥール夫人の住居であった シャトー-ド-シャン の グラン-サロン



ロココ美術　ナティエ《ヘベの装いをした侯爵夫人》(部分)　ストックホルム国立美術館蔵

国趣味を満たした。シノワズリー(中国趣味)・サンジュリー(野猿(やえん)趣味)もその一つの表われであった。建築家には代表的人物は現われず，むしろ装飾家が中心となって活躍したが，オップノール・メソニエ・トーロ・バッセラらが代表的である。邸宅ではクールトンヌの設計になるオテル-ド-マテニヨン，ロココ室内建築の代表的な例としては，ボフランとドラメールの設計によるオテル-ド-スービーズ(パリ)の楕円(だえん)形サロンなどがあげられる。〔吉田玲子〕

ロココびじゅつ　【ロココ美術】　およそ1715年ごろから1770年ごろにかけてのヨーロッパ美術，およびその様式をいう。ロココという語はフランス語のロカイユ(小石・砂利(じゃり)の意。転じて美術上は貝殻(かいがら)状の曲線をもつ装飾モチーフをさす)から出たもので，元来工芸品および装飾様式についていわれたのであるが，やがて美術全般に及ぶ様式概念として使われるようになった。それは，17世紀のバロックから18世紀末の新古典主義への転換期で，原理的にはバロックの延長ないし変形と考えられるが，バロックの横溢(おういつ)する生気，荘重な重圧感はロココでは洗練された挙措，みやびやかな遊戯的情調に移りゆき，雅宴の名にふさわしい艶麗(えんれい)繊弱な王朝ふう，女性的な性格のものとなる。この時代，まず絵画においてはフランドル系のワトー・パテールらに始まり，ランクレ・ブーシェ・フラゴナールらへと幽艶典雅なものからコケットリー・エロチシズムにまで進む。また，柔らかくほのぼのとした色調感触をもつパステルが愛好され，専門作家としてもラトゥール・ナティエらが輩出，パステル画は当時はじめて独立の絵画となって，多くのすぐれた肖像画を残した。一方，室内装飾，家具類においてはすべて細みの曲線が愛好され，ロカイユのモチーフが頻繁(ひんぱん)に用いられる。陶磁器においては前代以来のシノワズリー(中国趣味)とあいま



絽刺し　(上)がま口の部分　(下)和装用ハンドバッグ

って，人物・植物の自然形態が文様にも形体にもそのまま用いられ，幾何学的形体が破れて左右非相称の形が出現した。フランスのセーブル，ドイツのマイセン磁器などはその代表である。ロココふうは貴族社会の洗練された感性に適合する様式として，フランスのみならず広くヨーロッパ各国に普及し，特にドイツではドレスデン・ミュンヘン・ポツダムなどに多くのロココふう宮殿を生み出した。また，軽快な趣味性と優雅で流動的な表現を通じて，イタリアのティエポロやスペインのゴヤの作品などにも，ロココ的一面は認められる。〔富山秀男〕

ロゴス　［logos］　ギリシア語のレゲイン(言う・語るの意)という動詞とつながりをもつことばで，ギリシア思想ではきわめて多くの意味に用いられている。言表に関しては，ことば・命題・理論・理由・論議・推理・定義などを意味し，言表の内面的な働きの点から，理性・知性なども意味する。たとえば〈人間はロゴス的動物〉〈ロゴスをもつ動物〉という場合，理性やことばの能力を意味する。数学的な意味では，比や割合をさす。存在論的な意味に用いられる場合，ヘラクレイトスやストア派のように，万物や世界を支配し秩序づける存在としての〈理性〉や〈理法〉を意味する。ヘレニズム時代のアレキサンドリアのフィロンなどでは，〈神的知恵〉〈神の言(ことば)〉のような宗教的な意味にも用いられ，その後キリスト教においては〈子なる神〉を意味するようになった。〔本橋正義〕

ローサ　［Paul Rotha］　(1907～　)　イギリスの映画理論家・記録映画作家。はじめ画家・美術評論家として出発したが，1932年J.グリアースン*らの記録映画運動に参加，その理論的指導者となった。《ドキュメンタリー映画》《映画序論》をはじめとする膨大な著作は，多くの記録映画作家に影響を与えた。作品には《コンタクト》《英国の顔》《富める世界》などがある。

ろざし　【絽刺し】　絽*の織り目を拾って模様を刺す日本古来のししゅう。土台とする絽は，生絽(きろ)(織り上がったままのかたい生地)の三本絽に二撚(よ)りの絹糸を用いる。刺し方には，たて糸の線に向かって一目ずつ巻くように並べて刺す一目刺しや二目刺し・三目刺しがあり，絽のもつ横縞(よこじま)の目を規則的に刺せば幾何学的模様になり，また不規則な目数によって変化をつけて刺す乱れ刺し(やたら刺し)では，下絵どおりの細かな絵模様を表現することができる。古い絽刺しの仏画も残されているが，特に盛んであったのは江戸時代，京都の公家(くげ)たちの間においてで，このため〈公家絽刺し〉とも称せられた。その後しだいに上流の女性の間に広がり，紙入れ・たばこ入れなどがつくられた。明治中期以後は一般の婦人の間にも普及し，がま口・帯締め・着物などに盛んに行なわれた。〔山村あい子〕

ロサリオ　［Rosario］　アルゼンチン中部，パラナ川に臨む港市。人口75万1,000(1966)。この国第2の都市で，パラナ川流域平野を後背地として物資の集散をなし，中流地域最大の工業都市でもある。市内には製粉・冷凍肉・皮革などの農畜産加工のほか，金属・化学工業などがある。

ロザリオ　［rosario］　カトリック教会で用いる数珠*(じゅず)の一種。鎖と珠(じゅ)でつくられる。全体は5連よりなり，1連は大珠1と小珠10で構成される。他に大珠2，小珠3および十字架がつく。各連はイエス-キリストと聖母マリアの〈喜びの玄義五端〉〈苦しみの玄義五端〉〈栄えの玄義五端〉，す

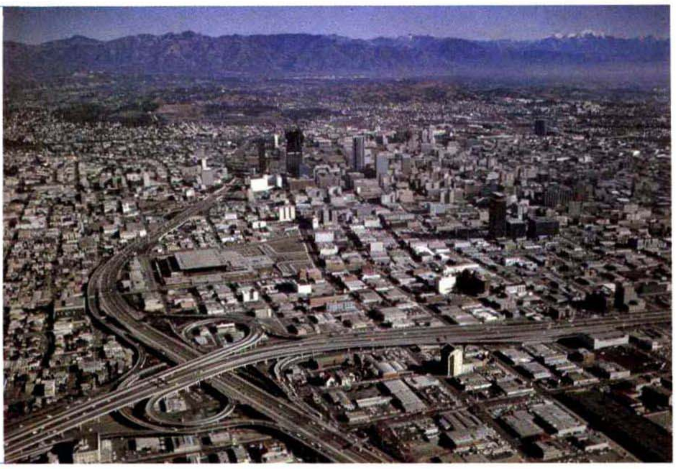
なわち〈ロザリオの十五玄義〉と関係する。ロザリオの信心は聖ドミニクスがアルビ派異端と戦っている最中に聖母から啓示されたことに起因するといわれる。〔石井忠厚〕

ろざん【廬山】 ルー山　中国，江西省北部，鄱陽湖(はようこ)の西北岸にそびえる名山。標高1,426m。古生代の褶曲(しゅうきょく)山脈が侵食を受けた山で，周囲は絶壁をなし，最高点を漢陽峰という。古くから南方の聖山として知られ，4世紀末に高僧慧遠(えおん)が山麓(さんろく)に住んでから仏教の霊地となった。山の内外には名勝旧跡が多く，山上の牯嶺(クーリン)は，19世紀末，ヨーロッパ人の避暑地として開かれたが，今日では労働者の保養地となっている。〔日比野丈夫〕

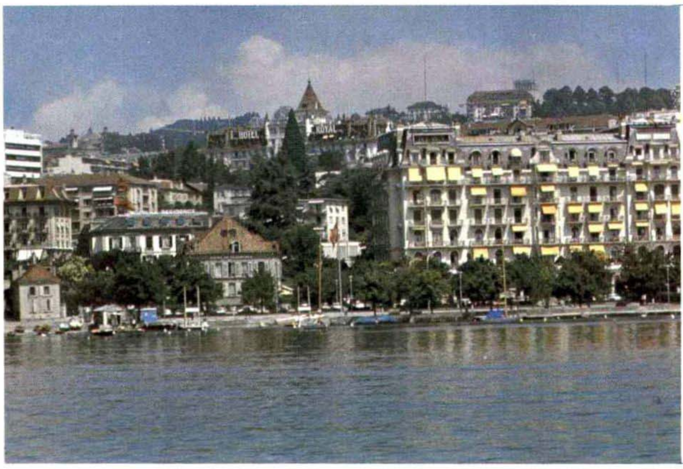
ロサンゼルス［Los Angeles］アメリカ合衆国，カリフォルニア州南部の商工業都市。人口282万，大ロサンゼルス708万7,000(1972)。ニューヨーク・シカゴに次ぐ合衆国第3の都市である。市街は都市計画によって整備された自動車道路が縦横に走り，樹木が多く清潔である。官庁街では32階建ての市庁舎がひときわ目だち，同市唯一の目抜き通りであるブロードウエーではデパート・映画館・商店・レストランが軒を並べ，日本の品物ならすべてそろうといわれるリトル-トウキョウは，市庁舎の東の一画にある。チャイナタウンはサンフランシスコの規模よりは小さいが夜はにぎわう。オルベラ通りはメキシコ人街で，映画産業のメッカといわれるハリウッドは市の北西部の地区を占めている。市南部にはサンペドロ港があり，その東の対岸にあるロングビーチは保養地として名高い。人口の増加の割合は，合衆国の都市地域中では最も高く，鉄道の開通，柑橘(かんきつ)類の栽培，映画産業の勃興(ぼっこう)，石油の採掘，港湾の建設，航空工業の発達という過程に伴って発展した。最近は航空機工業に代わり，電子工業の進出が著しい。1781年スペインの植民地として創建され，1846年からアメリカ合衆国領となった。〔相村大彬〕

ローザンヌ［Lausanne］スイス西部，レマン湖北岸の都市。人口13万9,000(1968)。ジュラ山脈の南麓(なんろく)にあり，観光保養地として知られ，チョコレート・たばこ・皮革・ぶどう酒の取引が多い。13～15世紀の城や教会が残っている。スイス最高裁判所・国際オリンピック委員会事務局があり，国際会議がよく開かれる。1890年創立の大学があり，ローザンヌ学派を生んだことで知られる。

ローザンヌかいぎ【ローザンヌ会議】
1 1923年7月，トルコ共和国と連合国の間に締結された条約。第1次世界大戦の講和条約として成立したセーブル条約はトルコに対して過酷であったため，ケマル-アタチュルクはアンカラに民族主義的政権を樹立，小アジアからギリシア軍を放逐し，連合国に条約改訂を申し入れた。改訂会議は



ロサンゼルス　パサデナ高速道路(左)とサンタモニカ高速道路の立体交差上空から見た市街の一部。遠景の山はサンガブリエル山脈



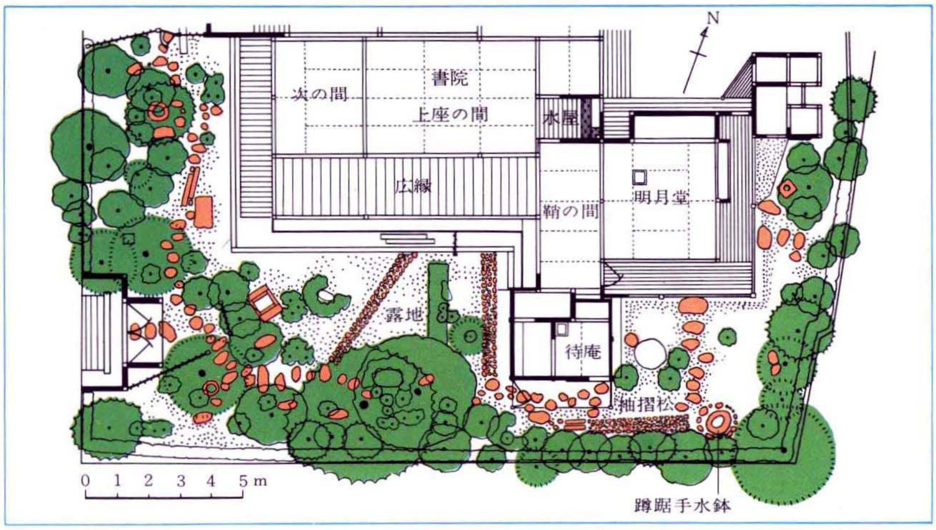
ローザンヌ　レマン湖北岸から背後の丘陵地に広がるローザンヌの市街。湖岸の斜面には瀟洒なホテルが建ち並ぶ

1922年11月からスイスのローザンヌで開催され，1923年7月24日本条約が調印された。この結果，トルコは1914年当時の領土を回復，ボスポラス・ダーダネルス海峡の主権を承認され，また，陸海軍の軍備制限や治外法権を撤廃され，トルコは連合国の保護国的地位から脱した。
2 1932年6～7月，ローザンヌで開かれたドイツの賠償問題および戦債問題に関する会議。ドイツの賠償問題についてはすでにヤング案が成立していたが，世界恐慌の深刻化に伴い同案さえ実行不可能となり，ドイツは賠償支払いの不能を強く主張した。そこでイギリスの提案によって債権国を中心に会議が開かれたが，諸国の利害が対立したうえ，アメリカが参加しなかったことから，会議は円滑に進まず，結局ドイツの賠償総額を30億マルクに引き下げることで結着し，賠償・戦債問題はこの会議によって終結した。〔松　俊夫〕

ローザンヌがくは【ローザンヌ学派】 スイスのローザンヌ大学教授のワルラス・パレートを中心とするローザンヌ大学の経済学者をいう。数理経済学派ともいう。ワルラスは社会的富の交換価値の研究に努め，そこから一般均衡理論を体系化し，発展させた。また彼の業績を受け継ぎ，一般均衡理論を完成させたのがパレートであり，通常，近代経済理論の基礎はこのローザンヌ学派によって築かれたといわれる。➔均衡理論〔藤枝省人〕

ろじ【露地】 草庵(そうあん)の茶室に付属する小庭のこと。茶庭の一種。千利休時代に完成された露地は，外露地と内露地に区分され，これを二重露地というが，さらに外露地の中間に跳(は)ね木戸を設けたものを三重露地という。外露地にはあまり景色を盛らず，清浄感を漂わせるだけで，内露地にはいって，侘(わ)び・さびの風趣をやや強めるのを常則とする。見どころは，中潜(なかくぐり)・石燈籠(いしどうろう)・蹲踞(つくばい)など。樹木は常磐木(ときわぎ)を主とし，花樹を避ける。飛び石も自然石を選び，樹木には下木・下草をあしらう。➔庭園　➔次ページ(図)〔桑田忠親〕

ロシア［Rossiya］ロシア民族，すなわち大ロシア人を中心としてウクライナ人，白ロシア人を含む民族が居住している地域および国家の名称。9～10世紀にできたキエフ公国は〈ルシ〉といっていた。この名は今日でも古いロシアをいう場合に用いられることがある。15世紀末からモスクワ大公国の名として〈ロシア〉が使われはじめ，17世紀の初めには公式文書に〈全ロシア国〉と書かれ，18世紀の初めピョートル1世(大帝)の時代から〈ロシア帝国〉と名のった。



露　地　妙喜庵露地

1917年の革命後〈ソビエト〉というようになった。

【キエフ公国の成立】紀元前6世紀～紀元前5世紀，黒海沿岸北部に植民したギリシア人は，南ロシアの平原から黒海へかけて遊牧していた民族をスキタイ人とよんでいた。スキタイはギリシア人との交易で大いに栄え，紀元前4世紀には国家を形成したが，紀元前2世紀サルマート人に滅ぼされた。さらに紀元前1世紀，黒海沿岸地方はローマ帝国の支配するところとなった。その後ゴート人が，次いでフン族がこの地方を占領した(3～5世紀)。

そのころスラブ民族は東・南・西の諸民族に分化し，オカ・ボルガ・ドニエプル各川沿岸で主として農耕を営んでいた。ヨーロッパ-ロシアの平原を貫くこれらの川は古代ロシアの歴史に大きな役割を演じた。それらは交通と通商の動脈であり，川に沿って商業・政治・文化の拠点が形成されていった。その中で最も重要なのは，〈ウァリャギからグレキへの道〉，つまりノルマンのギリシアとの交通路であるドニエプル水路であった。9世紀のころノルマンは東スラブの土地に現われ，次々と水路の要地を占領し，やがて種族の首長に代わって周辺の農民を支配するようになった。そのうちの最も有力なノブゴロドの支配者オレグがついにこの水路上のすべての市とスラブ人を支配し，882年ごろキエフをおさえ，ここにキエフ公国が誕生した。

東スラブ民族を主体としたキエフ公国はウラジーミル1世*(在位980ごろ～1015年ごろ)の時代にほぼ国家的統一を終え，しばしばブルガリア・コンスタンチノープルに遠征して，ビザンチン帝国との交易を盛んにしたが，それに伴ってビザンチンの文化とキリスト教がもたらされ，10世紀末にはキリスト教を国教とした。キエフ公国が強大になるにつれて，国内の封建諸公の勢力も増大し，1130年代ごろには国家の統一は破れ，内乱紛争がしきりに起こった。

【ウラジーミル-スズダリ公国】12～13世紀ロシアの政治的中心は，北東部のウラジーミル-スズダリ公国とノブゴロド共和国に移った。しかし，モンゴル・タタールの大軍がロシアに侵入して，1223年ロシアの諸公はそれをカルカ川に迎え撃ったが大敗し，国土は征服され，キプチャク汗国の属領となった。この〈タタールのくびき〉はロシアの経済・文化の発展を著しく阻害した。この間に小公国モスクワが領地の統一と君主権の強化を図って台頭し，1380年クリコボの戦いでタタール軍を撃破した。こうして，モスクワは東ロシアの統一とキプチャク汗国からの独立を実現した。

【モスクワ大公国】モスクワを中心とするロシアの統一，封建的中央集権的国家の形成の道を歩んだのはイワン3世*(在位1462～1505年)とワシリー3世(在位1505～1533年)である。1478年にはノブゴロド，1485年トベリ，1510年プスコフ，1521年リャザンといったぐあいに，領土を併合し，また1497年には全国的な法典(スデーブニク)を編み，また国家の最高機関として貴族会(ボヤルスカヤ-ドゥマ)，官庁として〈プリカーズ〉を設けた。この法典において大領主(クニャジ)や貴族(ボヤリン)に仕える軍人であった士族(ドボリャニン)を貴族と並んで法制化し，その地位の強化を図った。

2人のツァーリのあとを継いで，イワン4世*(雷帝)(在位1533～1584年)は君主権の絶対化をめざし，新法典を編集して士族をさらに強化し，身分代表制の国民会議(ゼムスキー-ソボル)を召集し，大貴族の土地を制限するため天領(オプリチニナ)を置くなどの施策を行なった。こうした支配体制の強化は農民の身分を圧迫し，彼らは事実上移住を禁じられ，地主の搾取は激しくなっていった。それに対して農民は集団逃亡をもって答えた。次のボリス-ゴドゥノフの時代に，飢饉(ききん)と頻発(ひんぱつ)する農民暴動の中で，1604年ツァーリの位を要求するドミトリーと名のる青年がポーランド人とともに，モスクワ領に侵入すると，勢力挽回(ばんかい)の機をうかがっていた貴族たちがそれに呼応し，ロシアは動乱の渦(うず)に巻き込まれた。それは1612年まで続いたが，モスクワ国家の体制は著しく弱体化した。翌1613年ゼムスキー-ソボルは新ツァーリにミハイルを選出したが，これがロマノフ王家(→ロマノフ朝)のはじまりである。

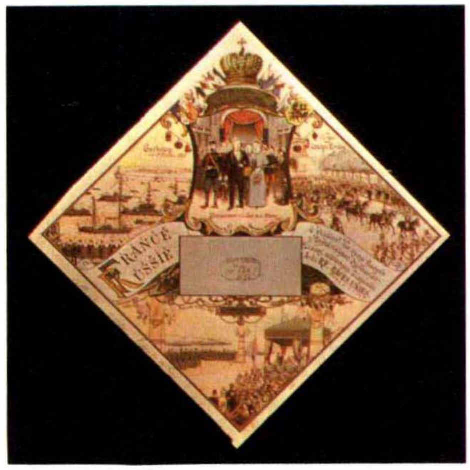
17世紀にはいると，農村における商品生産と家内工業の発達に伴い，国内市場が成立し，商人が進出してきた。こうした経済社会の成長に対応してアレクセイ(在位1645～1676年)の政府は税制の強化と市民や農民の身分の固定化，官僚制の拡大，教権の政権への従属などの政策を行ない，絶対主義へとさらに近づいていった。17世紀中ごろの総主教ニコンの教会改革はいわゆる分離派教徒(ラスコリニキ)を生み出したが，その後教会の優位を主張したニコンは失脚し，教会はツァーリの権力のもとに置かれることになった。一方正教会から離反したラスコリニキの異端の狂信は農民運動と結び，反体制的性格をおびていく。

なお，17世紀にはヨーロッパとの交渉が頻繁になり，モスクワにやって来る西ヨーロッパの技術者・医者・軍人などによってヨーロッパの文明がもたらされるようになった。

【ロシア帝国の形成】封建的農奴制国家であるロシアは，資本主義的段階にはいったヨーロッパの諸国から見ればたちおくれていた。17世紀は経済的発展を進める施策に手を染めたが，その仕事を異常なテンポで推し進め，ロシアを近代的な帝国に改造したのがピョートル1世(在位1682～1725年)であった。しかし，その帝国の基礎は農奴制と官僚制と国家に従属する正教会であって，19世紀を通じて資本主義的経済は発展していくけれども，ロシア帝国のこの性格は，1917年の十月革命*まで変わらない。

ロシアは海への出口をもっていなかった。黒海はトルコに，バルト海はスウェーデンにおさえられていた。陸上のヨーロッパへの通路にはポーランドが介在していた。ヨーロッパとの交通を盛んにするためには，どうしてもそこへ通じる港がほしかった。ピョートルの政治は，この点を核として展開した。20年にわたるスウェーデンとの北方戦争*(1700～1721)遂行の必要から，彼は国家体制のあらゆる改革を断行した。陸海正規軍をつくり，ウラルの鉱山を開発，金属工業を興し，中央に元老院と各省を，地方に県知事を置き行政を整備し，フィンランド湾に注ぐネバ河口に都市をつくり，サンクト-ペテルブルグと名づけて，1712年首都をそこへ移し，さらに新聞を発行し，アカデミーを創設，総主教をやめて宗務院を置いた。こうして，彼はバルト海への通路を





ロシア (左)ロシアは黒海やその沿岸地方の支配をめぐって，約1世紀間，トルコと戦ってきた。トルコのスルタンに果たし状を書くコサックたち　レーピン《ザポロジェ-コサック》 1880～1891　ロシア国立美術館蔵　(右)ドイツ・イタリア・オーストリア間の三国同盟に対抗して，1891～1894年，ロシア-フランス同盟が結ばれ，ヨーロッパの新たな勢力関係が生まれた。この同盟成立を記念するポスター　パリ国立図書館蔵

確保したが，黒海を制圧することはできず，トルコとの戦いは以後もしばしば行なわれた。

独裁者ピョートルなきあと，皇帝の権力に対抗して宮廷貴族は近衛連隊を背後にもって寡頭支配を行なおうとした。ロシア帝国の政治は，しばらくこの皇帝の官僚と貴族の勢力との相克，その均衡のうちに行なわれていく。ピョートル以後，皇帝は宮廷内の陰謀によって次々と代わっていったが，その中でエカテリナ2世*(在位1762～1796年)の時代が注目される。このドイツ人の女帝は教会領を没収し，新法典制定をめざした委員会を召集したが，それはなんらの成果もあげずに終わった。そこへプガチョフを首領とする大規模な農民の反乱が起こった(→プガチョフの反乱)。この反乱の鎮圧に手を焼いたエカテリナは地方行政支配を強化し，地主貴族に大幅な権限を与えたので，農奴制はいっそう拡大強化される結果となった。

〔19世紀〕 19世紀にはいると，資本主義的生産の増大に伴い自由雇用の要求が高まり，農奴制の存在が癌(がん)になってきた。アレクサンドル1世*(在位1801～1825年)は立憲君主国を夢見，国家改造案をスペランスキーにつくらせ，三権分立と第三階級の形成，農奴の自由化をめざしたが，1812年のナポレオン1世との戦争で実現しなかった。

ロシアは1805年および1806年ナポレオンと戦ったが，ティルジット条約*を結んでフランスと同盟，大陸封鎖に参加し，これが貿易に打撃を与え，結局ナポレオンとの戦争を再開した。それは地主貴族の圧力のもとに行なわれた。ナポレオン軍は一時モスクワを占領したが，ロシア国民の抵抗と冬の厳寒にあって，みじめな撤退を余儀なくされた。しかし，この戦争の結果国土は荒廃し，財政は破綻(はたん)した。その建てなおしとナポレオン後のヨーロッパの状況の中で，アレクサンドルの政策は反動に転じ，それに抗して戦争によって鼓舞された愛国的感情と市民精神に燃えた青年将校の間に国家改造を期する秘密結社が組織され，それが1825年12月，アレクサンドル没後の帝位継承の混乱に乗じて蜂起(ほうき)した。これがいわゆるデカブリスト*の乱である。

この反乱の鎮圧をもって治政を始めたニコライ1世*(在位1825～1855年)は官僚制度の確立をもって，行政・裁判・財政・教育などの改革に答えた。この絶対主義的官僚体制への抵抗の中で，ロシアのインテリゲンチア*は育っていったのである。

トルコと同盟したイギリス・フランス軍と戦ったクリミア戦争*(1853～1856)で，ロシアは農奴制とツァーリズムのたちおくれを自覚し，パリ条約*締結をもって出発したアレクサンドル2世*(在位1855～1881年)は農奴解放(1861)をはじめとして，地方自治の拡大，裁判・検閲・教育などにわたる自由化政策を行なった。改革は不徹底なもので，依然として農奴制的構造は残ったとはいえ，それは資本主義の発展を促進した。しかし，それが進行するにつれて，ますますロシア社会の矛盾は露骨になっていき，その過程で成長したいわゆる雑階級インテリゲンチアの中から，1870年代の初め〈人民の中へ〉の運動が広がった。このナロードニキ*の一分派は個人テロに向かい，アレクサンドルはその凶弾に倒れた。

〔帝制の崩壊〕 19世紀の終わり，急速に工業が発展し，労働者は都市へ流入したが，ロシアは依然として農業国であり，市場は狭隘(きょうあい)で，たちまち恐慌が起こり，日露戦争後には深刻な不況がやってきた。こうした状況の中で，1905年1月の〈血の日曜日*〉の事件が起こり，革命の波は各地に広がった。この動きにロシア最後の皇帝ニコライ2世(在位1894～1917年)は譲歩し，同年10月立憲政治を認める宣言を発布した。翌1906年はじめて国会が召集されたが，政府はただちに左傾している議会を解散し，首相に保守的自由主義者ストルイピン*を任命した。彼は農民を共同体(オプシチナ)から解放して，自作農を育成することを図った。1907年7月第2国会解散後，政府は非民主的な新選挙法を施行し，国会を右寄りに軌道修正し，曲がりなりにも立憲政治を行なおうとしたが，1911年ストルイピンは社会革命党員(エスエル)に暗殺された。1914年バルカンの紛争を契機として起こった第1次世界大戦にロシアも参加，ドイツと戦った。軍事活動の不成功と国民生活の窮迫，政府の失政から国内不安が高まるうちに，宮廷・政府・国会の対立は救いようのないほど深まり，ついに1917年2月国会解散を機に臨時政府がつくられ，この政府に皇帝はいっさいの権限を移譲，ここにロマノフ朝は終わりを告げ，ロシア帝国は倒れた。

➔ロシア革命　〔新谷敬三郎〕

ロシア(連邦共和国)　[Rossijskaya S. F. S. R.]　ソビエト連邦を構成する最大の共和国。ヨーロッパ東部から，北カフカズ・シベリア・極東にかけての広大な地域にわたり，16の自治共和国をはじめ，5自治州・10民族管区を含んでいる。面積1,707万5,400km²で，ソ連全体の約4分の3を占め，人口は1億2,791万1,000(1968)で，約54％に及ぶ。主都モスクワ。

〈自然・住民〉 ウラル山脈以西はヨーロッパ-ロシアとよばれ，ゆるやかな丘陵をもつ東ヨーロッパ平原が広がるが，北西部の地形は氷河の影響を受けている。また，ヨーロッパ第一の大河ボルガ川をはじめ，ドン川・北ドビナ川など多くの水量豊かな川がある。ウラル山脈以東は，低湿な西シベリア低地から中央シベリア高原，東部の山岳地帯へと続き，太平洋岸に至る。この間にオビ・エニセイ・レナ・アムールなどの大河が流れている。気候は全般に寒冷で，西部では比較的湿潤であるが，東へ向かうほど乾燥し大陸性に変わる。しかし，極東はモンスーンの影響から降水量は多くなり，

700～1,000mm程度ある。住民はロシア人が80％余を占め，ほかにタタール人・ウクライナ人など38の民族が住んでいる。人口密度は，ウラル以西では1km²あたり55人の地域があるのに対し，東シベリアや極東には1km²あたり1人未満の地域が広がっている。

〈産業・経済〉 産業では，ソ連全体の鉱工業および農業生産額の4分の3を占める。特に東ヨーロッパ平原の中央工業地区にある機械・繊維工業，ウラルの重工業，南ロシアからシベリア南部にかけての小麦を主とする農業などは重要である。このほか，ヨーロッパ-ロシア北西部とシベリアでは経済建設が進んでいる。交通では，モスクワを中心とする鉄道・道路・空路網，ボルガ川をはじめとする大河川とそれらの相互間を結ぶ運河による水運が発達している。

〈政治・歴史〉 かつてのモスクワ公国から，東方あるいは南方へロシア人が進出して，帝政時代にはすでに現在のソ連全域にほぼ該当するロシア帝国ができた。1917年のロシア革命後，ヨーロッパ-ロシア北西部・シベリア・極東を除く地域でソビエト連邦を構成する諸共和国が独立し，ロシアはそれらの共和国と政治的には対等の一共和国となった。〔斎藤晨二〕

ロシアえんせい 【ロシア遠征】 ナポレオン戦争中の1812年，ロシアのアレクサンドル1世が，1806年〈ベルリン勅令〉以来の大陸封鎖政策に反抗したのに対し，ナポレオン1世が強行した遠征で，モスクワ遠征ともいわれる。70万の〈大陸軍〉を率いて同年5月9日パリを出発，9月14日にはモスクワを占領したが，ロシア側の焦土作戦による大火で市の大半は焼失し，糧食の欠乏と寒気のため1か月ののちナポレオン軍は敗走し，途中コサックと農民ゲリラの襲撃で多くの兵士を失った。12月18日20,000の兵がようやくパリに帰着したが，これをきっかけに解放戦争が起こり，ナポレオンは没落した。〔喜多迅鷹〕

ロシアかくめい 【ロシア革命】 ⇨188ページ

ロシアご 【ロシア語】 ロシア民族(大ロシア人)の言語で，ソビエト社会主義共和国連邦の公用語。ソ連の総人口の約55％を占め，主としてロシア・ソビエト連邦共和国に住んでいる大ロシア人，および外国に住む者を合わせて，約1億4千万人以上がロシア語を母語としている。ソ連の各共和国(15)における公用語・学術語であると同時に非ロシア人・非スラブ人の民族相互間の疎通のための言語でもある。国連規約によれば，イギリス・ドイツ・フランス・スペイン語とともに国際語となっている。

ロシア語は，ウクライナ語やベロルシア語(白ロシア語)とともに，インド-ヨーロッパ語族のスラブ語派，東スラブ語群に属し，南スラブ語群(ブルガリア語・マケドニア語・セルボ-クロアチア語など)・西スラブ語群(ポーランド語・チェック語・スロバキア語・ソルブ語・カシューブ語など)に対立する。

8世紀ごろ古代スラブ人に共通の言語があったと推定されるが，文献としては，9～11世紀の福音書の翻訳や写本などに用いられた古代教会スラブ語(古代スラブ文語または古代ブルガリア語)で，980年代のキリスト教導入がロシア文語の発達に大きな役割を果たした。ロシアの土地に移植された古代スラブ語は，9～10世紀の古代ロシア国家(キエフ-ルシ)時代以前の東スラブ人に共通の言語で，10～11世紀には方言的な差はあったが一定の統一性を保っていた。しかし，12世紀キエフ-ルシの衰退や13世紀のモンゴル来襲などの政治的情勢によって，東スラブ語の分化が起こった。東北ロシアの言語は南北の方言に分かれ，両地域がモスクワ公国の版図となり，文化的発達を共にしたので言語も分離することなく統一ある一大方言となった。これがいわゆる大ロシア語であり，現代のロシア語の基礎である。15～17世紀のモスクワ時代には行政文書の文体が生まれ，それは民衆の話しことばと融合しながら言文一致の方向をたどった。

1708年ピョートル大帝の文字改革は，キリール文字を合理的に整理し，近代的な印刷字母をつくり，正字法を制定した。1770～1790年代ロモノーソフによる国語文法ができ，18世紀のロシア文豪らの活躍が大きな力となり，国語の形をとってきた。革命初期の正字法改正をくり返して，今日の現代ロシア文語(標準語)が完成された。

現代ロシア語の特徴は，西欧諸語にあるような冠詞はなく，文中の語順は非常に自由で，接頭辞・接尾辞が多く用いられ，語彙(ごい)形成が派生的・生産的で，外来語の同化能力に富む。名詞は，男・女・中性の別があり，形容詞・動詞などともに，複雑な語形変化をもつ屈折語である。特に動詞は，完了と不完了の二つの基本的な体(アスペクト)をもち，動作の行なわれ方により詳細な区別がある。動詞組織は柔軟で，非人称文・無主語文も盛んに使われる。語彙は現代ロシア語の基礎をなした南スラブ起源の教会スラブ語からはいった語が多いが，ピョートル以来，科学・技術・軍事・政治用語には多くのドイツ・フランス・オランダ・英語からの借用語がある。1917年の十月社会主義革命以来，社会主義社会の諸条件下における新しい社会関係・科学技術・芸術を反映した新語が多くつくられ，世界語となった単語も多い。〔片岡 孝〕

ロシア語の文例

あるとき，北風と太陽が，どちらが強いか言い争っていました。《イソップ物語》から

アドナージュドィ	セーベルヌィ	ベーティエル
Однажды	Северный	ветер
あるとき	北	風

イ	ソーンツェ	パソーリリシ
и	Солнце	поссорились
と	太陽(が)	口論していた

ドゥルック	ズ	ドゥルーゴム	クトー	イズ
друг	с	другом,	кто	из
お	互	いに	だれが	うちで

ニフ	シリネェエ
них	сильнее
彼らの	より強い(か)

ロシアじん 【ロシア人】 ⇨スラブ族

ロシアせいきょうかい 【ロシア正教会】 東方正教会中最大の自立教会。10世紀末コンスタンチノープル総大主教の任命した首都大主教がキエフに置かれたのが始まりである。1328年首都大主教はモスクワに移り，このころから国民精神の統一に大きく寄与した。1453年，オスマン-トルコによるコンスタンチノープル陥落後，モスクワ総主教はコンスタンチノープルの管下から独立し，以後モスクワを〈第三のローマ〉とするロシア独特のメシアニズムを形成していった。17世紀中ごろ，総主教ニコンの典礼改革があり，これをめぐって教会は分裂して教権は弱まり，国権への従属性を強めていった。ピョートル1世は総主教制を廃止し，宗務院を設立して国家の監督下に置き，さらに1764年には教会財産を没収して，教会の経済的独立をも奪った。ここに皇帝が聖俗両界の第一人者として君臨するというロシア正教会独自の形態が成立した。1917年，十月革命後，教会は総主教制を復活したが，ソビエト政権の反宗教政策によって国教としての地位も特権も認められず，反革命勢力の温床として存立そのものを脅かされた。この間多くの分派を生じた。しかし第2次世界大戦が始まり，政府は国民戦線統一の必要から反教会政策を緩和し，1936年には聖職者の参政権も認められ，さらに1945年には教会に国家からの物的援助まで与えられることになった。現在モスクワに総主教座があり，推定信徒約4,000万。なお，〈日本ハリストス正教会〉はロシア正教会を母体とする教派である。〔石井忠厚〕

ロシア-ソビエトえんげき 【ロシア-ソビエト演劇】 1917年の十月革命以前の演劇をロシア演劇，それ以後の社会主義ソビエト時代の演劇をソビエト演劇とよんでいる。

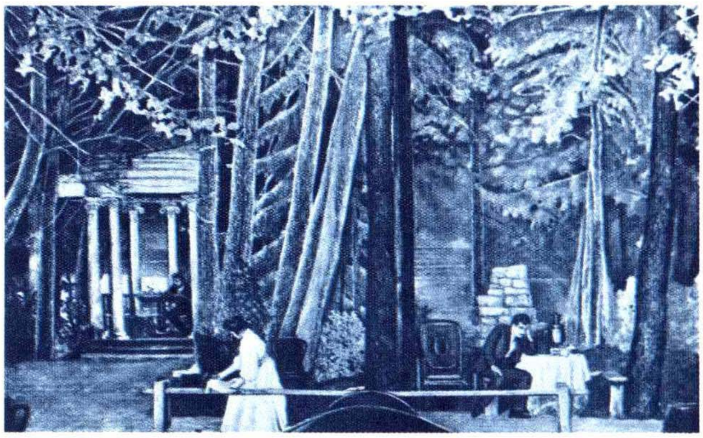
ロシア演劇も他の国々と同様に，古代の民衆の遊戯・儀式・祝祭が起源となって生まれた。遊戯から演劇行動への変質をもたらしたのはロシア最初の職業俳優の誕生であった。元来は彼らも遊戯の参加者であったが，しだいにそれとは別個に村や町の広場などで滑稽(こっけい)な対話，歌・踊り・楽器演奏・手品・人形芝居，動物の芸当などを見せ，民衆＝観客を楽しませるようになり，スコモローフとよばれるようになった。ロシアが統一国家の形態をとりだした16世紀から17世紀にかけては，スコモローフは

〈道化〉として宮廷にも出入りするほど，高度の職業技能を身につけた専門家になっていた。しかし彼らの芸のあまりにも民衆的な性格はしだいに支配者にうとんじられるようになり，皇帝は1648年にスコモローフ禁止令を出した。芸能におけるスコモローフ精神はロシア俳優芸術に継承され，のちの時代の演劇人の中にもスコモローフ芸を舞台芸術の原点とみて利用する者が少なくない。宮廷・教会・神学校などでは，その後も娯楽や教化・宗教・道徳の普及を旨とする演劇的行事はしばしばもたれていた。

17世紀から18世紀にかけてロシアの近代化という大改革を成し遂げたピョートル大帝は人民教化に果たす演劇の役割の大きさに目をつけ，積極的に演劇普及政策を推し進めた。しかし彼はそれを外国人の俳優による外国戯曲上演で実現しようとしたため，望ましい結果は得られなかった。18世紀半ばはヨーロッパ文化が広範囲にわたってロシアにはいってきた時代だが，それが刺激となってロシア人自身の手になるロシア劇団結成の気運が宮廷・貴族の間に広まり，1756年最初の常設職業劇団が創設された。劇作家*スマローコフがこの劇団の指導者となり，ロシアに古典主義劇文学の時代が始まった。19世紀初めの*ナポレオン戦争(→ロシア遠征)における勝利はロシア人の民族的自覚を高め，それは文芸にも自由の追求と人間の個性解放を主張するロマン主義的傾向を打ち出させた。ロシアの劇場の舞台に*シェークスピア・*シラーらの作品が盛んに登場しはじめたのもこの時期であった。

しかし劇作家*グリボエードフ・*プーシキン，演劇理論家*ベリンスキーらの出現とともに劇文学も俳優芸術も徐々にリアリズム(→写実主義)の確立に向かい，ついに19世紀ロシアの輝かしいリアリズム演劇の誕生となった。時代の最大の問題を取り上げ，人民の運命を語り，生活の真実を多面的に描き出そうというリアリズム演劇は，当然，帝政ロシアの現実暴露・批判の芸術となり，支配階級がほしいままにする弾圧・検閲との激しい闘いの中でしだいに成長していくことになった。

19世紀末になると，帝室劇場をしばるきびしいわくと営利追求の興行師の手からロシア演劇を救いたいというインテリ階層の志向とヨーロッパの近代劇運動(→近代劇)の影響が相まっていくつもの新しい劇団を生むが，中でも最も確実な成果をあげたのが*スタニスラフスキーと*ネミロビチ-ダンチェンコ指導の*モスクワ芸術座であった。芸術座はよりよき未来への思慕をうたった*チェーホフ劇，社会の新しい主人公プロレタリアートの登場を予告した*ゴーリキー劇などの新鮮な上演で，当時のロシアの文化生活の進歩的中心となったばかりでなく，同時に世界の演劇文化の発展に大きく貢献したのである。


(上)チェーホフ作《かもめ》(1898年公演)


(下)イワーノフ作《装甲列車14-69》(1927年公演)

ロシア-ソビエト演劇　モスクワ芸術座によるロシア革命以前・以後の代表的舞台

1905年の第1次革命後のロシアをおおった暗黒の反動時代には，各劇団ともに混迷にあえぎ，現実逃避，デカダンに走る傾向が随所に見られた。1917年10月の革命の勝利で，帝政ロシアを社会主義社会に変革したレーニンを先頭とするボリシェビキたちは，革命の2週間後に演劇事業をいちおう新政府の人民教育委員部の管轄下に置き，①革命前のリアリズム芸術の進歩的遺産を正当に受け継ぎ，②革命によってはじめて劇場文化に接する可能性をもった勤労大衆観客に劇的感動を与える演劇の創造，③しかも彼らの共産主義的教育・教化に役だつ革命的演劇の創造を促進するという演劇政策を一貫して貫いた。新政府が革命直後にロシア各地で行なわれた大衆参加の大規模な野外革命劇の上演や，職場・農村の自立劇団の活動，〈青服劇団〉に代表されるアジープロ劇の普及を奨励しながら，同時に閉鎖的なセクト主義に陥ったプロレタリア文化論を容赦なく批判し続けたこと，また革命前から存在したモスクワ芸術座・マールイ劇場・アレクサンドリーンスキイ劇場その他大劇団の思想的転換をしんぼう強く待ちながら，革命後およそ2年のちに劇団の国有化を実現したことなどは，その巧みな文化政策の実証といえよう。それがその後のソビエト演劇の社会主義的内容への有機的接近を可能にしたのであり，また革命後数年の間にバフターンゴフ劇場・革命劇場・ボリショイ-ドラマ劇場その他真に人民的な劇場や，数多くの児童劇団の誕生をもたらした。職業演劇人の中で革命後いちはやく〈演劇の十月〉のスローガンを掲げてソビエト演劇の建設に乗り出したのは演出家*メイエルホリドである。続いてバフターンゴフ・タイーロフらの斬新(ざんしん)な舞台創造の前衛的探求は，世界の進歩的演劇人に強烈な影響を与えた。

1920年代半ばからはなばなしい展開を見せ始めたソビエト劇文学は，一連のアカデミックな劇団にも社会主義演劇創造の可能性を与え，ソビエト演劇は1920年代・1930年代を通じて社会主義ヒューマニズム，ヒロイズム，建設のエネルギーにあふれた力強い作品をつくりあげた。しかしそれに続くいわゆる〈スターリンの個人崇拝〉の時代には，演劇は，あまりふるわなくなり，リアリズムの教条主義的解釈，表現手段の均等化，無葛藤(むかっとう)理論といった否定的現象がその内容をしだいに貧しいものにしていった。

1956年の第20回党大会でのスターリン批判前後から，ソビエト演劇は再びにぎやかな創造活動を展開しはじめた。共産主義的倫理・道徳の諸問題を提起した一連の戯曲の登場を先頭に，スタイル・個性の多様な劇文学が，新旧世代の劇作家たちによって書かれ，それを今日，同じく新旧世代の演出家たちが，各自独創的な手法を探求しな

→189ページ

ロシア革命

1917年2月ロシアに起こったブルジョア民主主義革命から10月労働者・農民のソビエト*が権力を奪取した革命を経て，ソビエト権力がロシアを支配するに至る過程をいう。それは世界最初の社会主義革命である。

〔二月革命〕1914年第1次世界大戦に参加したロシアでは，農産物の減産，交通網の麻痺(まひ)，物価騰貴と食糧不足などのために，しだいに社会不安が増大していった。開戦当初一致して戦争を支持した民衆も，生活不安とあいつぐロシア軍の敗北にようやく戦争に倦(う)み，また宮廷・政界も怪僧ラスプーチン*およびそれに影響された皇后を先頭とした大地主貴族の単独講和派と，ブルジョア資本家を中心とした主戦派とに分裂抗争を始めた。1916年末ラスプーチンは主戦派の陰謀によって暗殺され，講和派は打撃を受けた。ところが，ニコライ2世*はこの暗殺によってかえって講和派に傾き，講和派はドイツとの単独講和のみがツァーリズム*を国内の混乱と革命から救いうると信じ，ドイツとの交渉に狂奔しはじめた。そこで主戦派のブルジョアジーは，戦争を完遂するためには自由主義的な内政改革を断行するほかはないと企図し始めた。その間にも国民の生活事情は刻々と悪化し，戦況は日々に不利となり，戦意を喪失した軍隊は解体しつつあった。1917年1月宮廷内ではラスプーチンの残党を除こうとする陰謀が進行していたが，すでに首都ペトログラードの街頭では民衆の騒擾(そうじょう)が革命的様相を呈しはじめていた。2月末には全都の工場がストライキにはいり，それを弾圧するために派遣された軍隊は反乱を起こして，続々と労働者の側に立つようになった。こうした状況をみて議会の自由主義的ブルジョアジーは，労働者のソビエト(1905年の革命運動の中で形成された労働者代表のいわば執行委員会で，その経験が生かされてつくられていた)の中の社会革命党*(エスエル)やメンシェビキ*の指導者と話し合い，臨時委員会を結成しロシア暦の2月23日(3月2日)，ニコライの退位を要求した。ニコライはやむなくそれを承諾し帝位をミハイル大公に譲ったが，大公は辞退し，ここにロマノフ朝は終わりを告げた。

直ちに議会とソビエトとの妥協によって，リボフ公を首班とする臨時政府が組織され，外相に立憲民主党*(カデット)からミリューコフ*が，また内相にはソビエトを代表してケレンスキー*がそれぞれ就任した。臨時政府は4月18日同盟国に対して戦争遂行を誓約したが，これは労働者・兵士に失望を与え，また臨時政府ができたとはいえ，一方には労働者・兵士のソビエトが存在していて，いわゆる二重権力が生じた。このころソビエトを支配していたのは，農民出身の兵士によって支持されていた社会革命党と労働者によって支持されていたメンシェビキとであって，ボリシェビキ*の勢力はまだ微弱であった。

1898年ミンスクで，マルクス主義運動諸派を集めて創立したロシア社会民主労働党は，1903年ロンドンで開いた第2回大会で，労働者・農民の同盟による政治闘争を主張するレーニン*のボリシェビキ(多数派)と，資本家に対する経済闘争に専念すべきだとするプレハーノフ*のメンシェビキ(少数派)が対立し，すでに1912年の第4回大会で両派は決定的に袂(たもと)をわかっていた。帝国主義戦争に首尾一貫して反対してきたボリシェビキは，開戦と同時に決定的な打撃を受け，幹部の多くは流刑にされたり亡命しており，党組織は壊滅状態であった。二月革命後はようやく活動の自由を与えられていたが，それでも十分影響力をもつに至らなかった。そこへ4月3日，レーニンが亡命先のスイスからいわゆる封印列車でドイツを通ってペトログラードに帰ってきた。彼がまずしなければならなかったことは，党の再建とそれに指導理念を与えることであった。彼は10か条のテーゼを発表し，戦争反対，労働者・農民のソビエト権力の樹立，地主の土地の没収，銀行の国有化，第三インターナショナルの創設などを提唱した。このテーゼによって4月24日社会民主労働党は協議会を開き，〈戦争反対〉〈いっさいの権力をソビエトへ〉〈土地を農民へ〉などのスローガンを採択した。5月にはトロツキー*がアメリカから帰り，レーニンと提携した。カーメネフ*・ジノビエフ*ら古参党員が流動する情勢に適応できないでいるとき，それは大きな力となった。

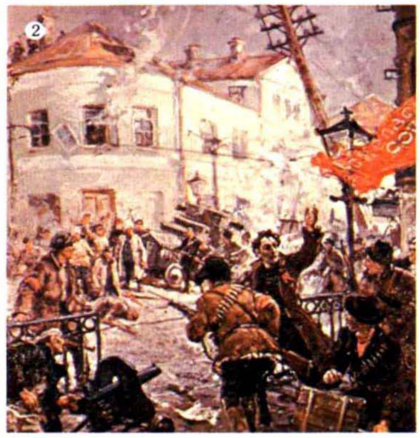
臨時政府は政権獲得後わずか50日で命数が尽きた。ロシアのブルジョアジーもまた現実に即応して，事態を解決する能力を所持していなかった。彼らは内閣を改造し，戦争遂行を確認したが，結局は戦局打開に失敗し，大衆の不満はさらに増大した。7月首都で大規模な大衆行動が発生し，ボリシェビキはこの民衆の行動に引きずられてこれを支持した。しかし，デモは軍隊によって鎮圧され，そのためボリシェビキは地下へと追い込まれ，レーニンはフィンランドに亡命しなければならなくなった。このときケレンスキー内閣がソビエトの支持のもとに誕生した。一方ボリシェビキは非合法に党大会を開いて，平和革命の機会が失われたことを認め，武装蜂起(ほうき)の準備に専念すべきことを確認した。そこへコルニーロフ*の反乱が起こった。8月コルニーロフ将軍は前線で反革命軍を組織し，ペトログラードに向かったが，武装労働者と部下の兵士の反乱のために失敗に終わった。だがこの反乱は武力革命の条件を成熟せしめることになった。このころからソビエトの指導権はしだいにボリシェビキ側に移り，特にペトログラードとモスクワでは多数を制した。

〔十月革命〕ペトログラード-ソビエトは9月21日の会議で，第2回全ロシア-ソビエト大会(第1回は6月)を1か月後に召集することを決議した。その大会が開かれればボリシェビキ化した首都のソビエトが〈いっさいの権力をソビエトへ〉の実現を図ることは確実であったから，ケレンスキーは首都の軍事支配を確保して，それに対抗しようと図った。しかし首都の部隊そのものもすでにボリシェビキ化していたのである。10月9日ペトログラード-ソビエトは軍事革命委員会をつくり，軍の統帥権を委員会に一任することを決定し，その長にはトロツキーが就任した。その2日前の10月7日レーニンはフィンランドからひそかにペトログラードに帰り，10日党中央委員会を開いて武装蜂起の一刻も猶予ならぬことを説き，これを決定したが，カーメネフ・ジノビエフが反対し，党内の形勢は武力革命をめぐって動揺していた。それにもかかわらず，軍事革命委員会は蜂起の準備を着々と進めていった。それをかぎつけた臨時政府はネワ川に停泊中の巡洋艦オーロラ号にクロンシュタット軍港へもどることを命じたが，オーロラ号は軍事革命委の指令に従い，政府の命令を拒否した。こうして10月蜂起は始まった。25日午前2時までにペトロパブロフスク要塞(ようさい)・電信電話局・停車場・発電所・水道・国立銀行などが次々と占領され，さらに正午には議会も占拠された。冬宮に少数の守備隊とたてこもっていた政府に最後通牒(つうちょう)が出され，これが拒否されると，オーロラ号の砲撃を合い図に攻撃が始まり，26日午前2時すぎ臨時政府はついに降伏し，閣僚は逮捕された。一方25日午後11時から第2回全ロシア-ソビエト大会が開かれていた。議員約650名中，ボリシェビキは380名，メンシェビキは80名，社会革命党は190名をそれぞれ占めたが，途中でメンシェビキと社会革命党右派は大会を退場した。残ったボリシェビキと社会革命党左派は議事を進め，ボリシェビキ65名，社会革命党29名の中央執行委員を選出し，その委任を受けて人民委員会議(内閣)がつくられて，議長レーニン，外務トロツキー，民族問題スターリン*らが決定された。大会は，全交戦国に3か月間の休戦を提案し，その間に講和を議することおよび大地主から土地を無償で没収することという決議を採択した。

〔十月革命以後〕冬宮を脱出したケレンスキーとクラスノフ将軍の反革命活動もやが

て壊滅し，ほぼ3か月の間にロシア全土はソビエト政権の支配下にはいった。しかし新政権の前途にはきわめて困難な問題が横たわっていた。それは，①憲法制定会議，②ドイツとの講和，③同盟国との関係である。ソビエト政権は，ケレンスキーが決定していた憲法制定会議の選挙を行なうかどうか迷ったが，結局予定どおり11月12日に行なうこととした。その結果，農村を地盤とする社会革命党が圧倒的多数をもって第一党となり，次いでボリシェビキ，さらに少数のメンシェビキの順となった。カーメネフ・ジノビエフ一派はこの結果を危惧(きぐ)し，レーニン・トロツキーの方針に反対し，15日の党中央委員会でレーニンの方針が確認されると，彼らは中央委員や人民委員をやめた。こうして1918年1月18日，憲法制定会議が開かれた。会議は社会革命党右派の首領チェルノフを議長に選び，ソビエト政権を否認して，この会議に基づいて新しい合法政権をつくろうとした。しかし，ソビエト政権は武力を用いてこの会議を解散させ，同時に第3回ソビエト大会を召集して，いっさいの権力はソビエトにあり，ソビエト政権こそ唯一の合法的政府であることを再び確認した。これがプロレタリアート独裁*のはじまりである。ドイツとの休戦交渉は1917年12月3日からブレスト-リトウスクで始められた。その全権委員はトロツキーである。ドイツ帝国は西部戦線で大攻撃を計画中で，東部戦線から解放されたいと願い，また自国の革命を恐れ，共産主義政権を目のかたきにしていた。トロツキーはドイツの革命に期待し，交渉を長引かせていたが，ついに1918年2月戦闘再開をもって脅かすドイツの提案を拒否して彼は帰国した。これに対してドイツ軍はウクライナへ侵入し，ソビエト政権は屈伏して講和すべきか否かの局面に立たされた。ここで永久革命論*者トロツキーと現実家レーニンの意見が分かれ，レーニンは講和を選んだ。ソビエト政権はその意見を採用してドイツと講和を結び，バルト2国やフィンランドなどを失い，ウクライナの独立を承認させられた。これに対してウクライナのボリシェビキは抵抗を始め，またドン-コサックは自治政府を樹立しようと試み，これに反革命の将軍たちが荷担してロシア国内は混沌(こんとん)としてきた。それに外国の武力干渉が加わって反革命派を援助することになり，ここに血で血を洗う内戦状態が1920年まで続くこととなった。内乱と外国干渉によって危機に直面したソビエト政権は外国,特にドイツの革命に望みを託した。1918年10月ドイツの敗北が決定的になったとき，革命の条件は成熟したかにみえたが，ドイツは革命政党を欠いていた。ローザ-ルクセンブルク*・リープクネヒト*らのスパルタクス団*は大衆的基盤をもたない極左集団にすぎず，1919年1月の蜂起は惨憺(さんたん)たる失敗に終わり，数日後の総選挙はドイツ国民が資本主義を選ぶことを示した。







①ロシア革命への展望を開いた1905年の市街戦。空前の規模の全国ゼネストが巻き起こり，各地にソビエトが誕生し，12月にはモスクワで労働者と軍隊との戦闘が10日間も続いた　②1917年の二月革命。〈パンと土地と平和〉とを求めて始まった革命は，ロマノフ朝300年の支配を崩壊させ，いわゆる〈二重権力〉を生みだした　③1917年，十月革命のさなか招集された〈第2回全ロシア-ソビエト大会〉で演説するレーニン。この大会で，メンシェビキと社会革命党右派は革命勢力から決定的に脱落し，〈全ロシア中央執行委員会〉が選出された

ヨーロッパでは革命は退潮していた。そこでレーニンは，1919年3月，第三インターナショナル(コミンテルン)の結成をめざして，モスクワに世界各国35の左翼政党の代表を集め，世界革命への期待をこめて，外国の党にボリシェビキの組織と戦術を与えようとした。このボリシェビズムの輸出は西ヨーロッパの資本主義先進国では受け入れられなかった。それがなんらかの役割を果たしたのはアジアの後進国，特に中国においてである。また革命が終息し，ロシアが正常な国家活動を取りもどしていくにつれて，コミンテルンはソ連の国家的要求の道具に変貌(へんぼう)し，その理念であるマルクス-レーニン主義も国家権力のイデオロギーと化して，ロシア革命はしだいに現実的なエネルギーを失っていった。

〔新谷敬三郎〕

がら舞台化している。また，1950年代半ばから諸外国の進歩的な現代劇作家の作品が，ソビエトの劇場の舞台に盛んに登場しはじめたこともみのがせない。広大な領土をもつソビエトでは，そこに住む諸民族がそれぞれの言語で演劇活動を行ない，今日，国内で500近い数の劇団が39種類の言語で芝居を上演している。なお，国立の演劇教育養成機関が完備していることも，ソビエト演劇が誇る長所の一つとなっている。

〔佐藤恭子〕

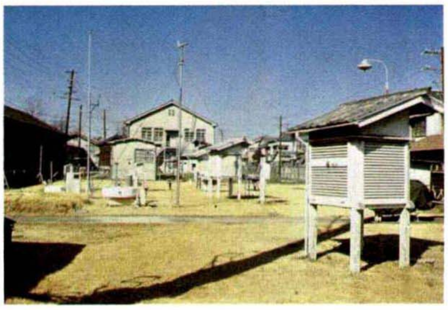
ロシア-ソビエトおんがく　【ロシア-ソビエト音楽】　ロシアは，宗教音楽としてはギリシア正教の音楽をもっており，その内容はビザンチン音楽を受け継いだものである。民俗音楽と教会音楽のほかに，西ヨーロッパふうの芸術音楽が加わったのは，18世紀のピョートル1世(大帝)以後で，特に18世紀には首府ペテルブルグの音楽はイタリア人によって管理されており，ロシア人もイタリア-オペラの模倣を行なった。《赤いサラファン》で知られるワルラーモフ(1801～1848)もこの種のオペラを残している。ロシアの独自性を主張した最初の作曲家はグリンカ*で，彼はロシア民族音楽のもつ特徴を活用したが，これが次の時代の五人組*，特にムソルグスキー*に受け継がれて

いる。たとえば，下降の４度音程・教会旋法・リズム-パターンの反復と変拍子や拍子の交替などがその具体的な現われである。19世紀では，西欧派ともいうべきルビンシュテイン兄弟*やチャイコフスキー*の活躍もあり，これらの世代から，逆に西欧へ影響を与えることが始まり，スクリャービン*・ストラビンスキー*・プロコフィエフ*らの現代音楽の個性的作曲家が生まれている。ロシア革命後は社会主義リアリズムの標語のもとに，他の国よりも保守的な様式にとどまる傾向がある。なお，ソビエト連邦に含まれる諸共和国では民俗的な弦楽器（バンドゥラやバラライカ）や管楽による合奏や舞踊が盛んである。〔徳丸吉彦〕

ロシア-ソビエトぶんがく 【ロシア-ソビエト文学】 ⇨192ページ

ロシア-トルコせんそう 【ロシア-トルコ戦争】 18～19世紀にわたって起こったロシアの南下政策とオスマン-トルコとの衝突。①1768～1774年，ロシアの拡大政策とフランスの支持を得たトルコとの紛争。トルコはクチュク-カイナルジ条約を余儀なくされた。②1787～1791年，トルコが失地回復を図ったが，さらに領土を失った。③1806～1812年，ナポレオンの支持を得たトルコとロシアとの戦争。ロシアはブカレスト条約によってベッサラビアを得た。④1828～1829年，ギリシア独立戦争*に引き続く戦争で，ロシアは多くの利権を得たほか，モルダビアなど民族地域の自治を認めさせた。⑤1853～1856年，クリミア戦争に発展してロシアは多くの既得権を失った。⑥1877～1878年，資本主義発展を背景とするロシアの東方進出。サン-ステファノ条約*の結果ロシアはザカフカズを得たほか，ルーマニア・セルビア・モンテネグロの独立を認めさせたが1878年，ビスマルクの仲介によるベルリン会議で列強はロシアの特権を制限した。ロシア-トルコ戦争はロシアの帝国主義的進出，列強の利害抗争の場となっただけでなく，トルコ領内の民族運動を活発化させる役割をも果たした。〔山県弘志〕

ロシア-フランスどうめい 【ロシア-フランス同盟】 1891年から1894年にかけて三国同盟*に対抗してロシア・フランス間に成立した軍事同盟。1890年ドイツはロシアとの再保障条約の更新を拒否し，バルカンでロシアと対立するオーストリアに接近したため，孤立化したロシアはビスマルク外交により国際的に孤立していたフランスに接近，1891年８月ロシア-フランス政治協定が成立した。両国間の平和維持と脅威に対する協議を約した同協定は1893年末から1894年初めに両国が承認した軍事協定により補強され，ここにロシア-フランス同盟が完成した。この軍事協定は三国同盟の存続するかぎり継続するものとし，ビスマルクのなしたフランス孤立政策の終焉（しゅうえん）を意味するとともに，当時のヨーロッパの勢力関係を大きく変化させ，1904年以降は三国協商*の一環として対独包囲網を形成するなど，国際政治史上重要な意味をもつ。〔折井一彦〕



露　場　百葉箱・雨量計・風向風速計，その他の観測器械が点在する　気象庁気象研究所

ロジウム ［rhodium］ 周期律表第Ⅷ族白金族元素の一。記号Rh，原子番号45，原子量102.9055。1804年にW.H.ウォラストンによって発見された。白金鉱・イリドスミン中に産する。銀白色の等軸晶系結晶，粉末は黒色。展延性に富み，融点1,966℃，沸点約2,500℃，比重12.41，酸とは作用せず，王水にも不溶。白金の硬化金属として使用され，白金-ロジウム合金は熱電対・抵抗体などに使用される。

ロジャース ［Jimmie Rodgers］ （1897～1933） アメリカのカントリー-アンド-ウェスタンの歌手・作詞家・作曲家。鉄道関係の仕事に14年間従事したのち，モダンで都会的な歌を独特の節回しで歌う歌手として登場。代表曲は13曲の〈ブルー-ヨーデル〉をはじめ《スリープ-ベービー-スリープ》《ウェイティング-フォア-ア-トレイン》。H.スノー*・アーネスト-タブらの歌手に影響を与えた。

ロジャース ［Richard Rodgers］ （1902～79） アメリカの作曲家・作詞家・ミュージカルの台本作家およびプロデューサー。ニューヨークの生まれ。オペラ-ファンの両親のもとに育ち，幼少からミュージカルの魅力にとりつかれて作曲し始める。コロンビア大学時代に作詞家ロレンツ-ハートと知り合ってから本格的な活躍期にはいり，多くのヒット作を残し，ハート没後はハマースタイン２世*と組んで《オクラホマ》《南太平洋》《サウンド-オブ-ミュージック》はじめミュージカル史上に残る名作を発表して，黄金コンビとうたわれた。1960年ハマースタインが他界してからは自分で作詞もやり，斬新（ざんしん）な《ノー-ストリングス》ほかを発表している。伸びやかな美しい旋律で，彼の音楽はスタンダード-ナンバーが多い。〔鈴木道子〕

ろしゅつ 【露出】 ⇨露光

ろしゅつけい 【露出計】 写真撮影の適正露光量を決定するための装置。露光計ともいう。平均的な条件を表にした露出表，それを計算尺にした露出計算尺，光学くさびを使った視覚式露出計，光によって変色する感光紙による化学式露出計などもあるが，現在では光電式露出計（いわゆる電気露出計）だけとなった。

電気露出計はセレン光電池，またはCdS（硫化カドミウム）やシリコン光電素子などの光電導体に光を受け，それによって受光量に比例した電流を回路内に発生させ，マイクロ電流計でその大きさを測定する。露光量の読み取りは付属の計算ダイヤルを回転して電流計の指針に合わせると，目盛り板に適正露光の絞りとシャッター速度の組み合わせが表示される。露出計は反射光式と入射光式の二つの測定方式がある。反射光式（輝度法）は被写体の表面で反射してカメラ側に達する光量を測定するもので使用法は簡便だが被写体の表面反射率や受光角の影響を受けやすい。入射光式（照度法）は被写体にあたっている光量を測定するもので，測定は正確だがいちいち被写体に近寄らねばならないのが難点となる。一般に露出計はこの二つの方式を併用できるようになっている。

電気露出計が小形化された結果，カメラに内蔵され，初期の単純な組み込みから，絞り・シャッターによって指針が動く運動の時代を経て，現在のEEカメラに発展している。内蔵露出計の傑作としてTTL方式がある。これはThrough the lensの名のようにカメラのレンズの内側に受光体を置き，撮影とは無関係な光の影響をカットした。それまでの内蔵露出計が専用の受光窓をもち，外光式といわれたのに対してTTLを内光式とよぶこともある。このTTLによってどんな撮影条件にも信頼できる露出計が生まれたといえる。TTLは一眼レフに最適の構造であるが，連動距離計式カメラにもTTL組み込みが誕生している（ライカＭ５）。

EEカメラ，TTLなどの内蔵露出計の発展で，単体の露出計はプロ写真家用の高級型だけとなり測定精度も向上している。新しい傾向としてはファインダーを組み込んで測定箇所を明確にしたビューファインダー，受光角を１～10°と狭くしたスポットメーター，計算ダイヤルの回転を自動化したオートメーターなどがある。〔新川幸信〕

ロシュミットすう 【ロシュミット数】 ０℃，１気圧，１cm^3に含まれる気体の分子数，2.6874×10^{19}。オーストリアの物理学者J.ロシュミット（1821～1895）がはじめて測定したのでこの名がある。その後モル分子数*もこの名まえでよばれたことがあったが，現在ではアボガドロ数のほうが一般的である（→アボガドロ数）。

ろじょう 【露場】 観測器機が設置されている野外の場所。付近の気象状態を代表できるような場所を選び，シバを植えて常に刈り込んでおき観測器機・百葉箱*を置く。

百葉箱内には温度計・湿度計およびその自記装置が収められ，地中温度計・雨量計・蒸発計などが設置される。

ローションざい【ローション剤】 水と混和しない医薬品を水性の液中に微細均等に分散した製剤で，皮膚の保護・収斂(しゅうれん)・防腐を目的として，はだあれ・日焼け止め・皮膚病などに皮膚に塗布して用いる液状の外用剤である。分散には，エタノール・グリセリン・界面活性剤・懸濁化剤などが用いられ，ふつう香料・着色剤・保存剤などが加えてある。化粧品にもこの剤形のものが多く，アルコール・グリセリン・プロピレン・グリコールなどを主原料とし，次の種類がある。①フェイスローション：おもに顔面につけるもので，アストリンゼントローション*，皮膚に柔軟性を与えるアルカリ性ローション，皮膚に栄養を与える化粧水*・乳液*，皮膚を清浄にするクレンジングローションがある。②ボディーローション：ハンドローションなど。なお広義には，頭髪用ローションも含まれる。
〔メイ-ウシヤマ〕

ローシルク［rawsilk］ 生糸の意味。カイコのつくる繭から製糸したままの絹糸またはその織物のことで，平織や綾(あや)織にする。生糸は，２本のフィブロイン(絹繊維)の並列した周囲にセリシン(絹膠(きぬにかわ))がおおわれていて，精練すると，セリシンが除かれて練り糸となる。織物は厚地で，婦人服などにする。➔生糸 ➔絹

ロジン［rosin］ コロフォニウムともいう。生松脂(まつやに)を蒸留してテレビン油を除いたあと残渣として得られる樹脂で，主成分はアビエチン酸・ピマル酸などの樹脂酸。淡黄ないしかっ色の，もろい塊状物質で，軟化点70～80℃，融点100～135℃，水には不溶であるが，アルコール・エーテル・ベンゼンなどにはよくとける。紙のサイズ剤，せっけんの添加剤，塗料・乾燥剤などに用いられる。

ろじん【魯迅】 ルーシュン（1881～1936） 中国現代の文学者。本名は周樹人。弟の周作人*もエッセイストとして有名。浙江(せっこう)省紹興の出身。日露戦争前後，日本に留学，仙台(せんだい)医学専門学校中退。日露戦争で中国人同胞が日本軍にスパイとして逮捕・処刑される幻燈写真を見せられたことがきっかけで医学をやめて文学に志した。東ヨーロッパ弱小民族の文学作品を翻訳，特異な評論を発表したが，当時はほとんど反響を呼ばなかった。辛亥(しんがい)革命*前夜に帰国，郷里で教職に従事し，革命後は北京(ペキン)に移り，役人生活にはいった。金石文の研究に没頭していたが，1918年《狂人日記*》を発表，五・四運動前後に名作《阿Q(あキュー)正伝*》をはじめ短編を発表して文学革命の主張を実作によって具体化し，中国近代文学の礎石を置いた。その後，革命運動の高まりの中に北京を脱出して広東(カントン)へ行き，さらに上海(シャンハイ)に移り，死ぬまで同地にとどまった。もっぱら社会評論の筆をとり，かたわら東西の文学の翻訳に努め，木版画運動に尽力，多くの若い文学者を育成した。中国の進歩的な文学者グループの中心として活躍，中国のゴーリキーといわれた。1936年10月病死し，その死は広く中国民衆に哀悼された。《魯迅全集》がある。
〔今村与志雄〕

魯　迅



ロス(海)［Ross］ 太平洋南部に続く南極大陸の大きな湾入部。ビクトリアランドとマリーバードランドにはさまれている。77° S付近まで大氷棚(だいひょうだな)が押し出し，そこから大陸中央に向かって大氷原が展開している。氷棚の端に近くロス島があり，エレブス火山(3,795 m)がそびえる。1841年J.C.ロスによって発見された。ニュージーランド・オーストラリアから近く，南極点に最も近くまで湾入していることから，かつての南極探検隊の大部分は，ここに上陸地点を求めた。アムンゼン・スコット・シャクルトン・バード・白瀬矗(のぶ)もこの一角より上陸している。現在，アメリカのリトルアメリカ基地がある。〔長津一郎〕

ロス［Philip Roth］（1933～　） アメリカの小説家。ニュージャージー州出身。1959年短編集《さようなら，コロンバス*》の好評によってアメリカ文壇のスターとなった。ロス自身ユダヤ系であるが，アメリカのユダヤ人の生涯を風刺と哀感をこめて描き，その洗練された文章と《ニューヨーカー》誌仕込みの短編構成力は定評がある。長編に《自由を求めて》《彼女が純であった頃(ころ)》《ポートノイの告白》がある。現代アメリカにおける嘱望される作家のひとり。
〔浜本武雄〕

ロース［roast］ 肉の部分の名称で，牛肉や豚肉*の背部の肉。肩ロースと背ロースとがある。肩ロースは，店頭で上肉とよばれるもので，焼き豚・ソテー・煮込み料理に適する。背ロースは，外ロースと内ロース(ヒレ肉*)に区別され，外ロースは外側が厚い脂肪に囲まれ，柔らかく最上の味をもつ霜降り肉でステーキ・すき焼き・網焼き・ローストに最適である。➔牛肉

ローズ ⇨ルージ

ローズ［Cecil John Rhodes］（1853～1902） イギリスの政治家。17歳のとき南アフリカに渡り，ダイヤモンド-ラッシュでたちまち巨富を築いた。帰国してオックスフォード大学で学んだのち，再度アフリカへ渡り，1887年に南アフリカ会社を創立してケープ植民地の財政を掌握した。1890年植民地の首相となる。トランスバールに金鉱が発見されると侵略を開始し，ボーア戦争をひき起こした。彼はイギリスの帝国主義的植民政策の強力な推進者であり，３Ｃ政策*は彼の構想を土台にしていた。
〔板橋重夫〕

ロスアラモス［Los Alamos］ アメリカ合衆国，ニューメキシコ州北部にある都市。人口13,000(1960)。1942年原子核の秘密研究所が建設され，世界最初の原子爆弾が製作されたところとして知られる。現在も原子核委員会の研究所がある。

ロスケリヌス［Roscelinus］（1050ごろ～1123ごろ） スコラ哲学者。北フランスのコンピエーニュの生まれ。中世哲学を通じて最大の問題であった普遍論争*において，実念論に対して，彼ははじめて明確な形で唯名論を唱えた。すなわち，個物のみが実在し，普遍は単に名目であり，〈声〉にすぎないとした。彼はまたこの主張を三位一体の教説にも応用し，三神論を唱えたが，ソアソン会議において非難を受け撤回した。

ロースター［roaster］ 魚や肉用の焼き物器。一般にテーブルこんろやレンジに組み込まれている。開放式をグリル，密閉式をブロイラーとよび，単独につくられて密閉されているものをロースターとよんでいるが，この区別は必ずしも厳密なものではない。電気式とガス式とがあり，炎が直接油に触れないように設計され，煙がほとんど出ない。単に魚焼きだけでなく，いろいろの料理に利用できる器種もある。

ロスチャイルドけ【ロスチャイルド家】 ユダヤ系の国際的な大金融財閥。フランクフルト-アム-マインの両替商マイヤー-アムシェル-ロスチャイルド(1743～1812)に始まり，彼の５人の子は，長男はフランクフルト，次男はウィーン，三男はロンドン，四男はナポリ，末弟はパリにとそれぞれ定住して，ナポレオン戦争*後の各国公債引き受け・発行を取り扱い，５都市を結ぶ巧みな金融市場操作によって巨富を築き世界最大の大金融業者になった。特に三男のナサーン-メイヤー-ロスチャイルド(1777～1835)は，イギリス政府の代理商としてナポレオンに敵対する諸国への送金を一手に引き受け，ナポレオンの敗北を知るやいちはやく株式投機をもくろみ巨利を得た。さらに保険・鉄道業などにも積極的に進出して，国際金融業者として名声を高めた。その後ナポリとフランクフルトは活動を中止したが，残る３家は引き続きヨーロッパ国際金融市場を牛耳っていた。第２次世界大戦でユダヤ人迫害によってウィーン家も崩壊したが，パリとロンドンの２家は今日も存続し，特にロンドン家はビッカーズ社を支配

ロシア-ソビエト文学

〔ロシア文学〕ロシアの記述文学の発生は，10世紀の末にキエフ大公ウラジーミルがキリスト教(ギリシア正教)を国教に取り入れてからである。用語は古代マケドニア-ブルガリア語を母体とする教会スラブ語(古代スラブ語)，文学の享受者ははじめ教会人・聖職者に限られ，その目的は布教と教会における勤行であった。最初の書物はすべてビザンチンのキリスト教文献，聖書・説教書・聖者伝などの翻訳である。ロシア人の手になる最古の世俗的記述文学は年代記で，最初ノブゴロドとキエフで書き始められ，その後は他の都市でも書かれるようになった。それを集大成したのがキエフ洞窟(どうくつ)修道院の僧ネストルで，〈原初年代記〉とよばれ，古い時代の歴史的記述であると同時に芸術的価値も高い。12世紀以降にも，分裂した各公国で多くの年代記が書かれた。年代記以外に説教集があり，キエフ大司教イラリオーンの《法と恵みについて》がすぐれ，また聖者伝として《ボリースとグレープの物語》《キエフ洞窟修道院教父列伝》，さらに自伝文学としてウラジーミル-モノマクの《子らへの教え》がある。しかし，モンゴル侵入以前の最大の作品はなんといっても《イーゴリ軍記*》であろう。遊牧民ポーロベツ征討のいきさつが，叙情的詠歎と慷慨(こうがい)を交えて雄渾(ゆうこん)な叙事詩にまとめあげられているこの作品は，ロシア古代文学中の白眉(はくび)といってよい。その後2世紀余にわたってロシアを支配する〈タタールのくびき〉のもとで，この国の文化は荒廃するが，文学では軍記物の流行がみられ，リャザンにおける対タタール攻防戦を扱った《抜都(バツー)のリャザン攻撃の物語》，スウェーデン軍とドイツ軍を迎え撃った戦いを叙述した《アレクサンドル-ネフスキー伝》，モスクワ公ドミートリー-ドンスコーイがクリコーボ戦でタタール軍を撃破した戦いを描いた《ザドンシチナ》などが生まれた。15世紀後半から始まるモスクワ国家の統一に伴って，文学にも新しい変化がみられる。イワン雷帝の政策を支持して国家の強化を希求する気持ちから書かれたペレスベートフの《マグメト-サルタン物語》，作者不明の《カザン王国物語》，雷帝の大貴族圧迫政策に抵抗したクルプスキー公とイワン雷帝との《往復書簡》などがそれである。16～17世紀には，文学の世俗化が著しくなり，《ピョートルとフェベローニャの物語》《フロール-スコベーエフ物語》《不幸物語》など，風俗小説・教訓小説が現われる。この時期の傑作は，ニコンの宗教改革に反対した受難者アワクーム*の《自伝》である。17世紀後半から音節詩なる叙情詩が現われ，シメオン-ポーロツキーが名高い。18世紀ピョートル大帝の改革と同時にロシア文学の新時代が始まる。まず風刺詩で旧ロシアを嘲笑(ちょうしょう)したカンテミール*が現われ，次いで詩形式の韻律詩への改革者トレジアコフスキー*とその完成者ロモノーソフ*が出現する。後者はオードでピョートル大帝とエリザベータ女帝の啓蒙(けいもう)活動をたたえた。この古典主義時代には演劇もふるい，悲劇作者スマローコフ*と18世紀最大の喜劇作者フォンビージン*が登場する。この時代にはまずエカテリーナ2世がフランス啓蒙主義の思想を取り入れ，その精神のもとにノービコフ・クルイローフ*らによって雑誌が刊行され，喜劇の面ではフォンビージン・カプニストが活躍し，この時期最大の叙情詩人のデルジャービン*やクニャジニーン・ヘラスーコフらの活動によって古典主義はにぎわった。18世紀末のノービコフとラジーンチェフ*の啓蒙活動は最も注目され，後者は《ペテルブルグからモスクワへの旅》で農奴制攻撃の火ぶたを切った。18世紀末から19世紀初めにかけて主情主義(センチメンタリズム)が起こる。《ロシア旅行者の手紙》や《哀れなリーザ》を書いたカラムジーン*，寓話(ぐうわ)詩作家ドミートリエフ，劇作家オーゼロフらがその代表者である。この古典主義と主情主義の交替の時期に起こったカラムジーン派とシシコーフ派との新旧文体の論争は，結局革新派の勝利に帰する(→アルザマス)。1810年代にはジュコーフスキーによって代表される前期ロマン主義が出現する。これと肩を並べて登場するバーチュシコフは古典から栄養を摂取して，ふたりで次のロシア近代文学の祖プーシキンの出現の道ならしをする。同時にロシアの文学語を民衆のことばに近づけた人として忘れてならないのは，寓話詩作家クルイローフ*である。1820年代から，温和でメランコリックなジュコーフスキーらのロマン派に代わって，政治色の強い荒々しいロマン派の若い詩人たちの歌声が響き始める。それはルイレーエフ・ベストゥージェフ・オドーエフスキー・ビャーゼムスキー・プーシキン*ら，現実の理想世界と独自の国民文学の樹立を目ざす詩人たちの声である。しかしこの青年詩人たちの夢は，1825年12月の反乱の失敗で消え失せる。ひとりこの事件に巻き込まれずにすんだプーシキンは彼らの遺志を実現して，叙情詩・叙事詩・戯曲・小説と，あらゆるジャンルにわたって新境地を開き，戯曲《ボリス-ゴドゥノーフ》，詩《エブゲーニー-オネーギン*》，小説《大尉の娘*》などを書き上げて，国民文学の礎を築いた。これと並んでグリボエードフ*は一大風刺劇《知恵の悲しみ》を完成し，散文ではゴーゴリ*が，詩ではレールモントフ*がその衣鉢(いはつ)を継いで，ロマン主義からリアリズムへの転換を遂げていく。しかしこれら先覚者は別として，1830年代はまだロマン主義の力は衰えていない。マルリンスキー・ベリトマン・ポレボーイらの小説やベネジークトフらの詩が勢力をなしていた。だが，そうしたロマン主義の勢いも，レールモントフの《現代の英雄*》とゴーゴリの《死せる魂*》の出現後，急激な衰退をみせる。そして1840年代にはリアリズムは決定的勢力となり，ベリンスキー*の育成指導もあって，ゴーゴリを始祖とする，グリゴロービチ*・ツルゲーネフ*・ネクラーソフ*・ドストエフスキー*・ゲルツェン*・ゴンチャローフ*・サルトゥイコーフ-シチェドリーン*・L.トルストイ*らの自然派の作家や詩人が続出する。ここに，ロシア文学は社会の否定面を暴露し批判し，農村および都会の下層民や下級官吏や雑階級に関心と同情を示し，社会的タイプの創造と深い心理分析を特色とする，世界に類のない文学を生み出した。劇作のほうではゴーゴリの《検察官*》以後みるべきものもなく，長い間低級なメロドラマの流行が続いたが，1850年代に至って大劇作家アレクサンドル-オストロフスキー*の出現をみる。

クリミア戦役以後農奴制改革の前後の1860年代はロシア文学の黄金時代である。1840年代に出そろった上記の作家たちや続いて登場したピーセムスキー・レスコーフ*らが競い合って続々と名作を発表し，1870年代にはドストエフスキーの《カラマーゾフの兄弟*》，トルストイの《戦争と平和*》《アンナ-カレーニナ*》などの巨編が生み出されるに及んで，ロシア文学は最盛期に達する。この時期にはこれまでみられなかった現象として雑階級出身の作家・詩人・批評家の登場が目につく。ポミャローフスキー・レシェートニコフ・スレプツォーフ*・ニコライ-ウスペンスキー*・グレープ-ウスペンスキー*らが，農村や僻地(へきち)の住民の悲惨な生活を描いて紹介し始めたのである。評論でもチェルヌイシェフスキー*・ドブロリューボフ*ら雑階級出身の批評家が活躍して

し，国際金相場を操作するなど，大きな力をもっている。〔片岡一郎〕

ロースト［roast］西洋料理の調理法の一つで，肉の蒸し焼き料理。古くは獣を焼いて串(くし)に刺し，炉の横火で焼き串を回転させながら焼いたが，現在は切った肉をオーブンや特殊なかまで蒸し焼きにする。肉は牛肉・子牛肉・豚肉・羊肉やシチメンチョウ・野禽(やきん)類の肉を用いる。オーブンで焼く方法は，網を敷いた天板に肉を載せ，サラダ油を注ぎかけてオーブンに入れ，表面が色づいてきたら裏返して全面を

いる。この時期の詩壇はネクラーソフ・プレシチェーエフ・ニキーチンら，いわゆる市民派とチュッチェフ・A.K.トルストイ・フェート・A.マイコフら純粋芸術派が覇(は)を競う。しかし1870年代の人民派の革命の挫折(ざせつ)と退潮は社会を絶望と沈滞に導き，大作家たちの他界とあいまって文学の衰退を招いた。短編作家のナートソンやガルシンは社会の絶望的気分を作品に反映させ，彼らが世を去ったあとは，チェーホフ・コロレンコら若手の短編作家の活躍をみるにすぎない。しかし，1890年代にはガーリン・シビリャーク・ゴーリキーらと，荒々しい力に満ちた新人が登場して文壇に新風を吹き込み始める。そしてその流れは20世紀にはいって，ゴーリキーを中心に形成されるズナーニエ派へと引き継がれていく。この新たに興ったリアリズムはいくぶんロマン主義的傾向をおびていて，それは世紀末から1905年の第1次革命までの高揚した社会的ふんい気を反映している。この派に属する作家としては，チーリコフ・テレショーフ・ユンケービチ・スキターレツ・ベレサーエフ・セラフィモービチ・ブーニン・クプリーン・アンドレーエフ・A.N.トルストイ・セルゲーエフ-ツェンスキーらをあげることができる。こうした動きと呼応して，1890年代から起こる文学運動に象徴主義がある。これは19世紀後半のロシア文学があまりにも直接的に社会改造を追求した反動であると同時に，フランス象徴主義からの刺激によるものであった。ロシアの象徴派は前期と後期とに分けることができ，前期を代表する者にメレジコフスキー・ギッピウス・ブリューソフ・バリモント・ソログープらがおり，後期を代表する者にベールイ・バーチェスラフ-イワーノフ・アンネンスキー・ブロークらがいる。〔北垣信行〕

【ソビエト文学】1917年の十月革命によって新しい社会主義体制がつくられ，それに応じた新しい文学が期待されることとなる。知名作家の多くは国外に亡命した。しかし革命初期には内戦や外国軍の干渉があって，ソビエト政府は差し迫った問題に忙殺されて文学に強い圧力をかけず，革命前の文学潮流と新興のプロレタリア文学派が共存する時代が続いた。そして，革命の混乱の中からまず詩の復興が始まった。旧時代のブロークやベールイ，すでに名をなしてはいたが革命後目ざましい活躍をしたマヤコフスキー・エセーニン・ベードヌイ，プロレタリア文学系のクーズニツァ派などさまざまな傾向・流派が互いに競った。

内戦の終結，新経済政策(ネップ)の採用によって安定的な建設期にはいると，散文の時代が始まり，革命と内戦の記憶をもとにして続々とすぐれた作品が生まれた(フールマノフ《チャパーエフ物語》，セラフィモービチ《鉄の流れ》，バーベリ《騎兵隊》，ファデーエフ《壊滅》など)。この時代には文学の急速なプロレタリア化という方針と見合わせて，文学団体の結成も認められ，ピリニャーク・バーベリや〈セラピオン兄弟〉グループの作家など，非共産主義的な〈同伴者作家〉たちも自由に作品を世に問うことができた。詩についても，パステルナークのように純粋詩の血統を保った人の活躍がみられ，バグリツキー・チーホノフ・アセーエフらが新風を吹き込んだ。演劇の面ではタイーロフやメイエルホリドの自由な実験が行なわれ，劇作でも《装甲列車14-69》(Vs.イワーノフ作品の劇化)，ブルガーコフ《トゥルビン家の日々》，トレニョフ《リュボーフィ-ヤロワーヤ》，キルション《鉄路はうなる》などが生まれた。

1920年代来，5か年計画の時代が始まると社会主義建設をテーマにしたリアリズム作品が同伴者作家たちによっても書かれるようになった。カターエフ《時よ，進め！》，ピリニャーク《ボルガはカスピ海に注ぐ》，シャギニャーン《中央水力発電所》，エレンブルグ《第二の日》などで，《開かれた処女地》を書いたショーロホフ，《セメント》のグラトユーフ，《ブルスキ》を書いたパンヒョーロフなどのプロレタリア文学系の作家たちと接近することとなった。旧知識人たちのソビエト体制支持が強まり，他方で〈ラップ〉系の極左的偏向が目だち始めたので，共産党によっていっさいの文学団体の解散，社会主義建設に参加するすべての作家を統合する〈ソビエト作家同盟〉の設立が決定され，ソビエト文壇の大御所ゴーリキーがその議長に推された。この同盟の指導原理として採択されたのが社会主義リアリズムであるが，のちにスターリン時代の文学官僚によって悪用され，1936年に始まる大粛清の際の武器となった。前衛的・現代的な作品が〈社会主義リアリズムと無縁なもの〉ときめつけられ，排撃されるなどして，1930年代半ばから文学活動の停滞がみられることとなった。この時代の注目すべき作家はショーロホフ(《静かなドン》)とA.N.トルストイ(《苦悩の中を行く》)である。社会主義リアリズムの典型的作品として推奨されたのはマカーレンコの《教育詩》，A.N.オストロフスキーの《鋼鉄はいかに鍛えられたか》というような作品であった。第2次世界大戦に先だつ数年間は，比較的自由に創作できる歴史小説が盛んに書かれた。

1941年独ソ戦が始まり，作家たちもこの祖国の命運をかけた戦いに加わった。祖国の勝利の大義に自発的な創作意欲が発揮され，活気に満ちた多くの作品が生まれた。最初に生まれたのはまず詩で，チーホノフ《キーロフ，われらとともにあり》，トワルドフスキー《ワショーリー-チョールキン》，アリゲール《ゾーヤ》などが出た。また，オーチェルクとよばれる記録文学・時事評論などが大量に求められ，ショーロホフ・A.N.トルストイ・エレンブルグらの大家も健筆をふるった。特にめざましい働きぶりを示したのはシーモノフで，ジャーナリスチックな才に恵まれた彼は，詩・戯曲・小説などあらゆるものを手がけた。この時期の小説は芸術性よりも，その記録性，時代の証言という面で貴重である。ゴルバートフの《征服されざる民》，ワシレーフスカヤの《虹(にじ)》，シーモノフの《夜となく昼となく》などをあげることができよう。

戦争の勝利は，戦時中の比較的自由な創作活動に終止符を打った。冷戦の結果，愛国主義と孤立主義が強まり，〈ジュダーノフ批判〉にみられるように，文学の強い締め付けが始まった。戦争中のソビエト民族の英雄的行為や，社会主義国建設の英雄たちを描くことが強く要請された。この傾向は現実美化という非リアリズムに落ち込み，ついには無葛藤(むかっとう)理論というものを生むに至った。パノーワ・カザケービチ・V.P.ネクラーソフらの新人が出たが，この時期の最大の収穫は，大家フェージンの《最初の喜び》《異常な夏》であろう。

1953年のスターリンの死は一つの転機となった。エレンブルグの中編小説《雪どけ》とその積極的な発言は新時代の開幕を告げた。そして，文学統制の元締めの側にいたファデーエフの自殺は象徴的だった。新しい文学世代が次々と生まれ，ナビーギン・カザコーフ・テンドリャコーフ・ドゥジンツェフ・ボンダレフ・アクショーノフ，それにソルジェニツィンらの作家が登場し，詩人でもエフトゥシェンコ・ボズネセンスキーらが出た。雪どけの進行は一進一退をくり返し，パステルナークの《ドクトル-ジバゴ》事件，シニャフスキー・ダニエルの文学裁判，1968年のチェコ事件を契機とする新たな締め付け(クズネッツォーフの亡命その他)などにみられる文学と政治の緊張関係がいまも続いている。〔川端香男里〕

焼き上げる。特殊なかまで焼く方法は材料を金串に糸でくくりつけ，上下に熱源を置いて絶えず回転させながら焼く。いずれも途中肉から出る油を3～4回塗りつける。後者は昔の原始的な方法を応用したもので，オーブンを用いるより肉の味はよい。ロースト料理はふつうアントレの次に，原則として熱いうちに供する。焼きじるに少量のブイヨンを加えて調味したソースと，クレソンや揚げじゃがいもを添える。なお，ヨーロッパ北部の国々では，砂糖をほとんど入れないリンゴのマーマレードや，オウト

ウまたはアンズのコンポート(シロップ煮)を必ず添える。　〔泉　敬子〕

ロストウ [Walt Whiteman Rostow] (1916～　) アメリカの経済学者・経済史学者。エール大学・オックスフォード大学に学び，18～19世紀のイギリス・アメリカ・ロシア・中国などの経済史の研究に従事した。1950年にマサチューセッツ工科大学の経済史教授に就任した。また政府の特別経済顧問など，実際面でも活躍している。1958年にケンブリッジ大学で行なった一連の講義に基づいて《経済成長の諸段階》(1960)を公刊した。これは経済史と経済理論の結合の新しい試みであり，マルクス主義の唯物史観に代わる歴史観を呈示したものとして多くの人々の注目を受けている。　〔林　達〕

ロスト-ジェネレーション ⇨失われた世代

ロストック [Rostock] 東ドイツの北部，メクレンブルク地方の都市。人口19万5,000(1969)。バルト海に注ぐワルノー川河口近くにあり，農産物の集散と漁業が盛ん。造船・機械・化学などの工業も行なわれる。東部はハンザ同盟時代の古い市街であり，中央から西部は新市街である。1419年創立の大学がある。

ロストフ [Rostov] ソ連，ロシア連邦共和国南部，ドン川下流にあるロストフ州の州都。正式名称はロストフ-ナ-ドヌ。人口77万3,000(1968)。アゾフ海に近く，河川交通・鉄道・道路交通などの要衝をなす。農業機械製造工場をはじめ船舶修理・建設資材・化学・繊維・食品などの工業が盛ん。1761年トルコに対するロシアの要塞(ようさい)としてつくられ，のち穀物輸出港として栄えた。ロシア革命直後，一時反革命軍とドイツ軍に占領された。第2次世界大戦中も2回にわたってドイツ軍に占領された。　〔斎藤晨二〕

ロスビー [Carl-Gustaf Rossby] (1898～1957) アメリカの気象学者・海洋学者。ストックホルムの生まれ。ストックホルム大学を卒業後，ベルゲンの地球物理学研究所，ライプチヒ大学などに学んだ。1926年前線論普及のためアメリカに渡り，帰化。マサチューセッツ大学に気象学教室を創設し，主任教授，のちシカゴ大学気象学教授となった。彼の業績の重要なものとしてロスビー図による気団分析，等温位面解析，側面混合の発見，絶対渦度(かど)保存則と渦位の提唱，長波(ロスビー波)の発見などがある。また，偏西風波動の研究を行ない，ジェット気流は彼を中心としたシカゴ学派によって確認された。第2次世界大戦後スウェーデンに帰り，1947年ストックホルム大学気象学教授。またストックホルムに国際的な地球物理の研究所を創立し，機関誌《テラス》を創刊。すぐれた指導者として後進の育成にも努めた。　〔根本順吉〕



ロセッティ《佳人》テート-ギャラリー蔵

ローズピンク [rose pink] バラの花のような色。赤紫みをおびた，薄い赤色。日本工業規格(JIS)慣用色名(ローズピンク)は，色相10.0RP，明度7.0，彩度8.0の色と規定されている。

ローズベルト ⇨ルーズベルト

ロゼッタ-ストーン [Rosetta Stone] シャンポリオン*によるヒエログリフ解読(1822)の鍵(かぎ)となった黒色玄武岩製石碑。高さ124cm，幅72cm，厚さ28cm，左右の上隅(すみ)および右下隅を欠く。1799年エジプト遠征中のナポレオン軍の一隊が，アレキサンドリア近郊のラシード(ロゼッタ)で塹壕(ざんごう)工事中に発見。碑文は古代エジプト語およびギリシア語で記され，古代エジプト語は聖刻文字(いわゆるヒエログリフ)および民衆文字(デモティック)の2書体からなる。ギリシア語碑文により，内容は，BC196年プトレマイオス5世の第1回即位記念祭に際し，メンフィスで開催された神官会議が起草した王に対する頌徳(しょうとく)の布告の写しであることが判明，シャンポリオンは，聖刻文字碑文中の王名をギリシア語碑文の王名と比較することにより解読の手がかりを得た。1801年エジプト遠征軍の降伏によりイギリス軍に引き渡され，現在は大英博物館に所蔵されている。 ➔エジプト文字(図)　〔屋形禎亮〕

ロセッティ [Dante Gabriel Rossetti] (1828～1882) イギリスの画家。短期間フォード-マドックス-ブラウンに師事し，その後H.ハントと仕事場をともにし，ハント・ミレースらとラファエル前派を結成。1848年には最初の大作《聖母マリアの少女時代》，次いで翌年には《聖告》の制作にかかった。これらキリスト教的主題のほか，古代神話・中世伝説やダンテの詩編などにテーマをとることが多く，画風は叙情的なエキゾチシズムを特徴とする。しかし，美術的知識と訓練の欠如から，作画の技巧面でロセッティ自身も悩み，問題を残した。文学的には1850年より発行されたラファエル前派の機関誌《起源》に発表した詩編で認められ，妻の自殺，不眠などの精神的危機をのりこえて《詩集》《歌謡とソネット》の2詩集を発表した。　〔吉田玲子〕

ロセッティ [Christina Georgina Rossetti] (1830～1894) イギリスの女流詩人。D.G.ロセッティの妹で，早くから詩作を始め，兄の主導するラファエル前派の機関誌《起源》に寄稿，しだいに名を高めた。初期作品は童謡ふうの叙情詩だが，後期には内省的な信仰詩を多く書いた。詩集に《妖精(ようせい)の市場》《王子の旅》《行列》などがある。

ロゼット [rosette] 地表面に放射状に開いた根生葉で，栄養生長期間を送る植物の生育型をいう。ラウケアの生活型*では半地中植物に属す。一般には，冬季を根生葉で過ごし，温度・日長などに影響されて春季から夏季にかけて茎および花芽を形成する。根生葉は，きわめて短い節間をもった茎から水平に出た葉で，冬季においても光合成能力をもっている。また，地上部の急速な生長とともに枯死するため，物質の貯蔵の役割を果たしているとも考えられている。ロゼットをもつ植物には，タンポポ・ハルジョオン・ヒメジョオン・セイタカアワダチソウ・ハルノノゲシ・オオバコ・マツヨイグサなどがある。　〔増沢武弘〕

ローゼンクィスト [James Rosenquist] (1933～　) アメリカの画家・彫刻家。ミネソタ州立大学でキャメロン・ブースに師事し，のちニューヨークに出てアート-スチューデント-リーグに学ぶ。1962年以来，リキテンシュタイン・ウォホール・インディアナ*らと並んでポップ-アートの旗手のひとりとして活躍。巨大な野立て看板を模した作品(ビルボード-アート)などで現代アメリカとその巨大化した都市のイメージを強調している。

ローゼンバーグじけん 【ローゼンバーグ事件】 1950年に起こったアメリカの原子力スパイ事件。ロスアラモスの原爆製造工場の最高機密をグリーンバーグ夫妻から受け取りソ連側に渡した容疑で，同年7月ジュリアス-ローゼンバーグが，8月その妻エセルが逮捕され，死刑の判決が下された。しかし，有罪の唯一の証拠がグリーンバーグ夫妻の自白であったこと，しかもグリーンバーグ自身それを否認していること，また容疑の対象とされるものは機密ではないことなどから，判決撤回・助命運動がローマ教皇ピウス12世，元フランス大統領エリオ，アインシュタイン・オッペンハイマー・サルトル・エレンブルグをはじめとして世界的に広まったが，1953年6月19日刑が執行された。この事件は，アメリカの原爆所有の独占の終結や中華人民共和国の成立など合衆国の国際地位の後退，朝鮮戦争における韓国(かんこく)およびアメリカ軍の軍事的

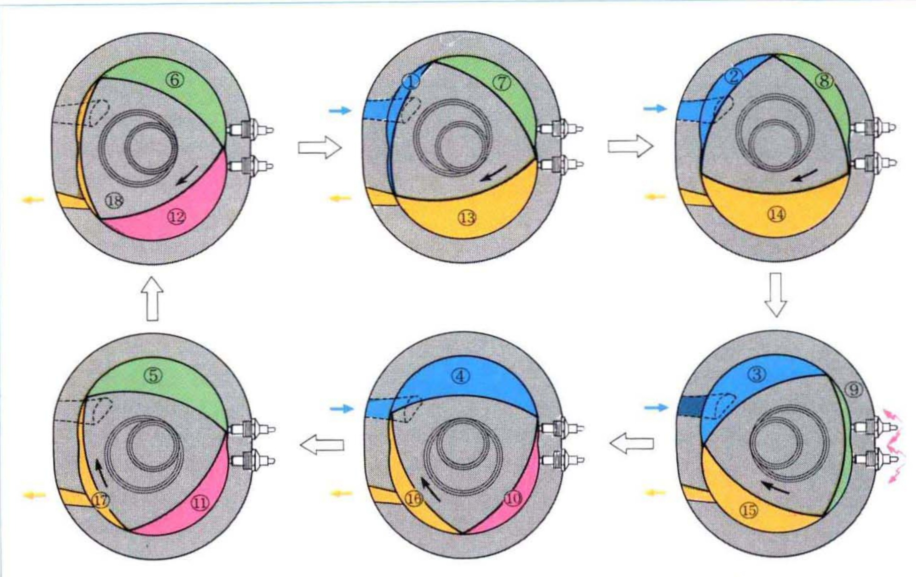
後退を背景にした政治的でっちあげと考えられ，合衆国の国際的信用を著しく落とした。〔折井一彦〕

ローダー［loader］積み込み機。地面に堆積(たいせき)している岩石塊や土砂などを持ち上げて車両やコンベヤーに積み込む機械のことをいうが，主としてトンネル工事や坑道掘進で用いられるものをさすことが多い。ショベルですくい上げて積み込むショベルローダー，アームを前後左右に動かしてかきこむかきこみ式ローダーなどがある。

ロータリーきかん［ロータリー機関］回転形の内燃機関*。シリンダーに相当する特殊形状の内面をもつハウジングの中を，ピストンに相当するローターが回転してガスの圧縮・膨張を行なう内燃機関で，1954年西ドイツのワンケルがはじめてその実用化の道を開いた。ワンケルエンジン・回転ピストン機関などともよばれる。図は火花点火機関の一例で，吸気・圧縮・膨張・排気の四つの過程で1サイクルを行なうところは往復動機関と同じである。ローターには三つの面があり，ローターの1回転で3回燃焼が行なわれる。動力取り出し軸はローターの3倍の回転数で回転するので，出力軸1回転で1回の燃焼となる。往復動機関よりも高速で回転でき，同じ出力ならば小形・軽量にできるのが特徴である。トルク*変動や振動は少ない。熱効率は対応する往復動機関*と大差ない。ローターとハウジング内面の接点およびローター側面からのガス漏れや，シール材の摩耗が問題とされている。自動車機関や船外機・ポータブル機関などに使用。〔斎藤　孟〕

ロータリーキルン［rotary kiln］回転窯(がま)ともいう。水平に対して多少傾斜（3～5％）した細長い回転円筒で，直径3～5m，長さ60～200m。上部から原料を投入し，キルンの回転により混合しながら流下させ，下方のバーナーにより加熱する。セメントクリンカーの焼成に広く用いられているが，石灰などの焼成，鉄鉱石の焼結その他塊状・粒状・粉状物体の焼成・均熱などにも広く用いられる。

ロタール（1世）［Lothar］（795ごろ～855）フランク王国カロリング朝の王。在位840～855年。ルードウィヒ1世（敬虔王(けいけんおう)）の長子。817年に父王の共同統治者となったが，父王が異母弟カール2世（禿頭王(とくとうおう)）にも国土を分けようとしたので，弟のピピンやルードウィヒ2世（ドイツ人王）らと反乱を起こした（829～833）。父王が840年に死ぬと兄弟の間で内乱が起こり，弟のルードウィヒとカールは連合して，841年ロタールをオーセールのフォントノアの戦いで破った。845年ベルダン条約によりロタールは帝位とともに北イタリアからブルグントを経て北海に至る中央の細長い地域を受けた。〔兼岩正夫〕



〈吸入〉おむすび形のローターが右に回転すると吸入口①が開き，混合ガスを吸い込む①②③④

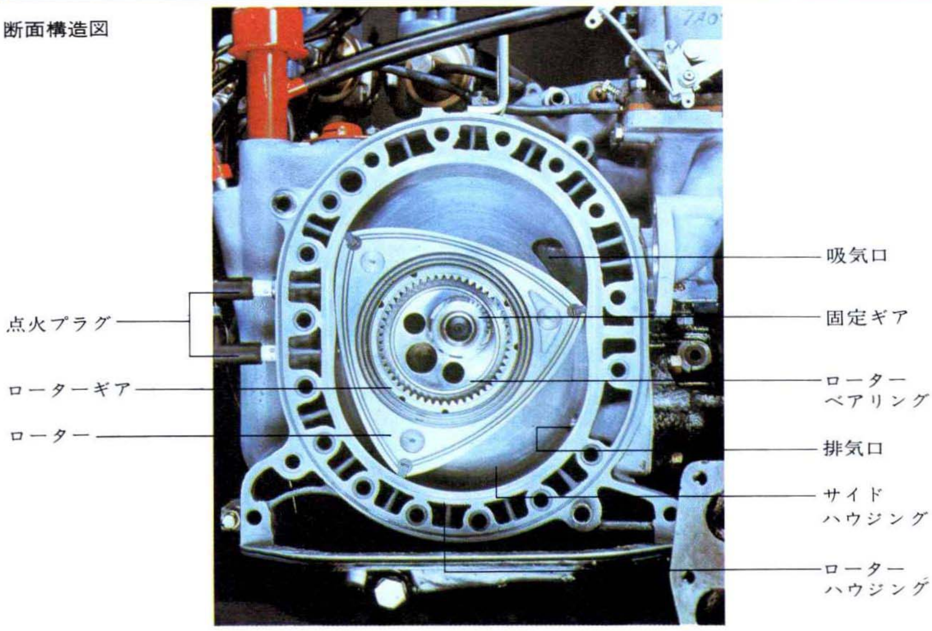
〈圧縮〉作動室が最大④になると，ローターはさらに回転，⑤⑥⑦⑧⑨と混合ガスを圧縮する

〈爆発〉⑨の終わりでスパークプラグに火花がとび，混合ガスが爆発。爆発力によってローターが回転する⑩⑪⑫

〈排気〉ローターがさらに回転すると，排気口が開いて排気ガスがはき出される⑬⑭⑮⑯⑰⑱

ロータリー機関の作動説明図

断面構造図



ロータリー機関

ロダン［Auguste Rodin］（1840～1917）フランスの彫刻家。パリの生まれ。工芸技術学校に入学し，カルポーの影響やバリーの示唆を受ける。1864年パリのサロンに《鼻のかけた男》を出品。この時代の作品の根底には古代ローマのフォルムと技法・精神がうかがえる。1870年ブリュッセルに渡り，建築に付属した彫刻の仕事を行なった。この間その新しい傾向を示した《青銅の時代》の構想を練り，パリにもどってから展示したが，不評をこうむり，イタリアへの旅に向かう。再びベルギーにもどって，《歩く人》ほかブロンズを盛んに制作。しかし，従来の写真的，アカデミックなスタイルでは満足しきれず，内面的な表現へ，やがては象徴的な表現へと変化していった。1880年に，委嘱されて，装飾美術館のための《地獄の門》の制作を開始。この作品では人間の内面の弱さ・苦悩を誇張された筋肉の動き・ねじりで表現している。この時期から次々と《考える人》《アダムとイブ》《カレーの市民》《接吻(せっぷん)》などの名作を制作し，一方では《ビクトル-ユゴー》《ボードレール》《バルザック》らの肖像彫刻を通して，内面への追究を深めていった。→次ページ（写真）〔吉田玲子〕

ロチ ［Pierre Roti］ (1850～1923) フランスの小説家。海軍士官として世界各地を巡り，その体験から異国情緒あふれた小説を書いた。おもな作品は，イスタンブールを舞台とした《アジャデ》，明治中期の日本を描いた《お菊さん*》のほか，フランスの若者の純愛をうたった《氷島の漁夫》など。素朴(そぼく)で哀愁をおびたその作風は，機械文明からの逃避の傾向もあり，19世紀末のロマン主義的側面を代表する。

ロチェスター ［Rochester］ アメリカ合衆国，ニューヨーク州北西部，エリー運河に臨む工業都市。人口29万5,000(1967)。イーストマン-コダック社の世界一の規模を誇るフィルム・カメラ工場がある。その他，光学機械・医療機械工業が盛ん。医学研究センターとして有名なロチェスター大学がある。美しい公園と花の豊富な静かな町で，〈花の都市〉といわれる。

ろちさいばい 【露地栽培】 特別な施設，たとえば温室とかビニルハウスあるいは穴倉などを使わず，直接畑で作物を栽培すること。ただし，トンネルをかける程度の場合は露地栽培の一種とされている。特に野菜においては，近年ハウス栽培などが盛んになったため，施設園芸に対し露地園芸といっている。単価の安い野菜などの場合は露地栽培のほうが有利なことが多いため，ニンジン・キャベツなどはほとんど露地栽培によっている。

ローツェ(山) ［Lhotse］ ヒマラヤ山脈中のネパール-ヒマラヤにある高峰。エベレスト山群の南部にあり，エベレスト山の南方約3kmの地点にある。3峰からなり，北西端のローツェ第1峰が最高峰で8,501m，第2峰8,400m，第3峰8,383mで，いずれも8,000mをこえる。1956年5月スイス隊が初登頂した。

ろっかくがわ 【六角川】 佐賀県西部の山地に発し，東流して筑紫(つくし)平野西部を流れ，同県中部で有明海に注ぐ川。流程49km。川口近くに，かつては米の積み出し港として栄えた住ノ江港がある。

ろっかくしきもく 【六角氏式目】 戦国時代の分国法*。義治(よしはる)式目ともいう。1567年近江(おうみ)(滋賀県)の戦国大名六角義治と父義賢(よしかた)が制定。67か条から成る。進藤・蒲生(がもう)らの有力被官と大名双方が順守する旨を起請する特異な形式をとっている。民事規定が多く，特に神社・年貢(ねんぐ)・売買貸借について詳細に規定している。

ろっかくよしかた 【六角義賢】 (1521～1598) 戦国大名。定頼(さだより)の子。出家して承禎(しょうてい)と号した。六角氏は佐々木一族の嫡流家で，代々近江(おうみ)(滋賀県)の守護として近江南部の5郡を領したが，京都の六角堂に屋敷があったので佐々木六角と称し，義賢は佐々木義賢ともいった。三好(みよし)・松永(まつなが)氏に追われた12代将軍足利義晴(あしかがよしはる)・13代将軍義輝(よしてる)を奉じて三好長慶(ながよし)と戦い，1558年(永禄1)和議がなって義輝を入京させた。1568年15代将軍義昭(よしあきら)を奉じて入京を企てた織田信長(のぶなが)に抗して敗れ，のち三好・浅井氏らと結んで信長と戦ったが，1570年(元亀1)義賢の子義弼(よしひろ)のときついに降伏した。 〔村尾元忠〕

ろっかせん 【六歌仙】 平安初期の6人の歌人，僧正遍昭・文屋康秀*(やすひで)・在原業平*(ありわらのなりひら)・喜撰(きせん)法師・大友黒主*・小野小町*をいう。紀貫之*(つらゆき)が《古今和歌集*》序で，この6人の名をあげたのが始まりとされる。〈歌仙〉とはすぐれた歌人の意で，以後，各時代に新しい6人が選ばれた。➔三十六歌仙

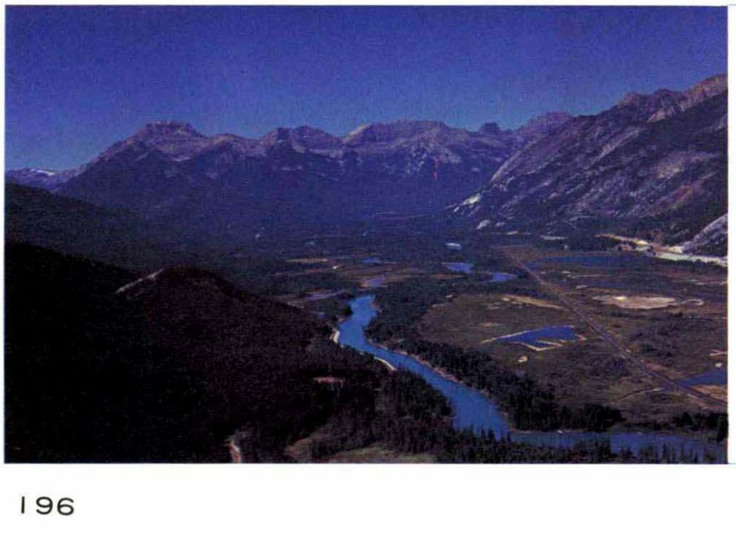
ろっかせんすがたのいろどり 【六歌仙容彩】 日本舞踊。現在は長唄(ながうた)・義太夫節(ぎだゆうぶし)・清元節による。1831年(天保2)初演。六歌仙*を主題にした作品。小野小町(喜撰の場合は茶くみ女)を除く5人をひとりで踊りわける変化舞踊*であり，今日，その全曲が残っているのが珍しい。なお，《文屋》(清元。官女を相手にしゃれ気たっぷりの江戸情緒の踊り)，《喜撰》(清元・長唄の掛け合い。茶くみ女とのおどけたやりとりやチョボクレ・悪身(わるみ)のくだりなどが見どころ)は，単独の演目としてしばしば上演されている。 〔如月青子〕

ろっかんしんけいつう 【肋間神経痛】 肋骨*の間を走る脊髄(せきずい)神経である肋間神経に生じる神経痛*。肋骨・脊柱・脊髄の変化によって起こり，ときにはウイルスによる神経炎，あるいはリウマチ*などが原因となる。肋間神経幹を指で圧迫すると，著明な圧痛を感ずることがあり，疼痛(とうつう)は肋骨に沿って後ろから前に放散し，しばしば心臓疼痛と誤診されることがある。治療は原因療法のほか，鎮痛薬・鎮静薬を投与する。

ロッキー(山脈) ［Rocky］ 北アメリカの西部を南北に縦走する山脈。北アメリカコルジエラ山地の北端部から東側を形成し，アメリカ合衆国ニューメキシコ州のサンタフェ付近から，カナダを経てアラスカ州の北端部にまで及ぶ。全長約4,800km。多くの支脈をもち，地質構造は複雑で，環太平洋造山帯の一部をなしている。第三紀に隆起が始まり，その後数度にわたって隆起・沈降がくり返され，最後の隆起で現在の山頂面を連ねた高さが形成された。カコウ岩をはじめ古期結晶質の岩石からなるが，古生代から中生代の堆積岩(たいせきがん)が露出している部分もある。一部は火山性物質におおわれているところもあるが，全体として火山活動は限られた範囲にしかみられない。また氷河は高峰にみられ，カナディアン-ロッキーやアラスカにかけての山脈には壮大なものが多い。南部でも，第四紀の氷河作用による氷食地形が発達し，多くの国立公園にその自然景観をとどめている。山脈は，極地方・北部・中部・南部の四つに区分される。極地方ロッキーはアラスカ北部からカナダ北西部まで約2,100km。北部ロッキーはカナダのブリチッシュコロンビア州東部からアルバータ州の南西部を経てアメリカ合衆国のワシントン州東北部・アイダホ州北部および東部からモンタナ州西部に達する約1,600km。中部ロッキーは約700kmの長さで，ワイオミング州の西端からアイダホ州南東部・ユタ州北部～中央部を経て，モ



ロダン《V.ユゴー》1886



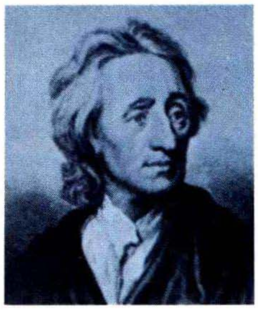
ロッキー山脈 アメリカ合衆国との国境に近いバンフ国立公園のカナディアン-ロッキー。蛇行するボー川と散在する湖沼の水の色が美しい

ンタナ州中南部に達する。南部ロッキーはワイオミング州南東部・コロラド州西部～中部・ニューメキシコ州北中部まで南北に約840kmあり，ワイオミング盆地によって中部ロッキーと分けられる。南部ロッキーには，最高峰のエルバート山(4,399m)をはじめ4,000mをこえる高峰が多い。山脈はまた，金・銀・銅・鉛・スズなどの鉱産資源や木材資源に恵まれるが，とりわけ重要なのは観光面で，バンフ・ジャスパー(カナダ)，グレーシャー・エローストン・ロッキー山岳・グランドチトン(アメリカ合衆国)など多くの国立公園があり，世界から観光客を集めている。〔大石堪山〕

ロッキード-エアクラフト [Lockheed Aircraft Corp.] アメリカの大手航空機メーカー。主製品は輸送機や戦闘機などの軍用機で，そのほか特殊車両・特殊艦艇・電子機器などを製造している。1954年にロッキード-ミサイル-アンド-スペース社を設立，ミサイル・ポラリスの生産や宇宙計画に参画している。旅客機部門では250～300人乗りのエアバスL-1011を開発した。わが国では当社のF104ジェット戦闘機の技術を三菱(みつびし)重工業が導入，川崎航空機工業がP2V-7対潜哨戒(しょうかい)機やT33Aジェット練習機の技術を導入している。本社カリフォルニア州バーバンク。年間売上高28億5,000万ドル，従業員数75,000(1971)。

ロッキヤー [Joseph Norman Lockyer] (1836～1920) イギリスの天文学者。ラグビの生まれ。はじめ陸軍省秘書官として余暇に天文学を研究し，1879年サウスケンシントンに太陽物理研究所を創設，同所長，さらに1881年王立科学大学の天体物理学教授となった。8回以上にわたり日食の観測を行ない，1868年フランスのジャンサンとは独立に，平時でも太陽の紅炎を撮影することのできる器械を発明した。また太陽スペクトル中の特殊な吸収線の同定から，ヘリウムを発見。このほか流星の存在を重視した特殊な宇宙進化論を唱えるなど，太陽物理学・恒星物理学の発展に先駆的業績を残した。1869年に週刊科学雑誌《ネイチャア》を創刊，50年間その編集にあたった。彼の子W.J.S.ロッキヤーも父のあとを継いで天文学者となり，太陽物理学や恒星のスペクトルについて研究した。〔根本順吉〕

ロック [rock] アメリカの黒人音楽から端を発したロックは，今や世界的なものとなり，単なる音楽上の演奏スタイルやリズムパターンの範囲をこえて社会にまで影響を与えている。音楽形式としてのロックは，黒人のブルースから発達したリズム-アンド-ブルース*と，白人の民謡から発達したカントリー-アンド-ウェスタン*とが一体化して生まれたもので，初期にはロックン-ロールとかロカビリーなどとよばれた。基本形は2拍めと4拍めを強調するロックビート，または1小節が八つの均等な拍節であるエイトビートをもち，リズム楽器に電気ギターと歌が活躍する場合が多かったが，現在ではいっさいの常識を自由にとびこして前衛音楽などと区別がつけにくいものも少なくない。ロックの形成は，急増する黒人の都市労働者とともに発達したリズム-アンド-ブルースがさらにポピュラー性を増し，白人の手によって演奏され歌われるようになったことから始まる。そしてビル-ヘイリーと彼のコメッツの《シェイク-ラットル-アンド-ロール》《ロック-アラウンド-ザ-クロック》(1955)がこの流行のさきがけとなり，翌年《ハート-ブレーク-ホテル》の大ヒットで爆発的人気を得たプレスリー*の登場で一気にロック時代へと突入した。最初は踊るためや若者の楽しみのためのヒット曲だったロックは，1960年前後からムード-ミュージックや大人の音楽にも取り入れられるようになり，1960年代半ばからはビートルズ*の出現などにより，さらに音楽的・内容的な進展をみせて，ついには現代をリードする存在となった。ジャズやクラシック音楽，世界の民俗音楽などあらゆるジャンルの音楽を，ロックは貪欲(どんよく)に吸収し，各種電気楽器やモーグ-シンセサイザーはじめ新しい電子楽器の開発，斬新(ざんしん)なスタイルや奏法など，実験的な色彩も強め，ジャズをはじめ他のジャンルの音楽や芸術へも大きな影響を与えている。また内容的には，反戦・平和・人類愛・社会的な問題提起から，意識下の心の自由な探索など，従来のポピュラー音楽にはみられなかったような歌詞や，その重要性を持ち込んだことの意義も大きい。これらは激動する世界の危機感やLSDはじめ催眠薬の流行などとも関係があり，若者の風俗や生き方にまで，ロックは大きな役割を果たしている。なお，ツイスト・サーフィン・ゴーゴー・フォーク-ロック・アート-ロックなどの他，踊りの形式や演奏スタイルの特徴などから，時代によりロックの流行にも変遷がみられ，さまざまな名称が与えられている。〔鈴木道子〕


ロック

ロック [John Locke] (1632～1704) イギリスの哲学者・政治思想家。サマーセット州リントンの生まれ。オックスフォード大学で哲学・医学などを学んだが，卒業後は主として文筆活動に従事し，哲学・政治・教育・宗教などの幅広い分野に関する著作や論文を発表した。彼の哲学の特徴は，認識論の分野で大陸の合理論とは反対に，生得観念を否定し，われわれの認識の源泉をもっぱら感覚経験に求めた点にある。彼によれば，生まれたばかりの人間の心はなにも書かれていない白紙のようなもの(タブラ-ラサ)であり，のちに人間の心に生じてくる知識はすべて感覚と内省にその源泉をもつ。しかし彼は知識を厳格に考え，人間の自己存在と神の存在についての知識は真の意味での知識とみなしたが，外的対象についての知識は，きわめて蓋然(がいぜん)性が高いにもかかわらず，真の意味での知識ではないと主張した。ヒュームの懐疑論がロックに始まるといわれるのはこの2点においてである。また，ロックの政治論の特徴は，近代の個人的な自由を基本的人権として擁護する立場から，社会契約的な民主主義思想を主張した点にある。彼によれば，自然状態において人々は自然法のもとで自由平等に暮らしていたが，経済的な理由その他のためにその状態が破れたので，平和を回復するために人々は合意によって国家をつくり，権力を統治者に信託したのである。しかし，統治者が権力を乱用した場合には，国家の主権者たる国民が統治者をやめさせることができると主張する。主著に，《人間悟性論》《人間知性論》《統治論》《寛容についての書簡》などがある。〔米沢克夫〕

ロック [roc] アラビアンナイト(千夜一夜物語*)に出てくる架空の鳥で，インド洋の島にすみ，ゾウをつめにかけて運び去るほどの巨鳥。この鳥はヒゲワシ*かと推察され，また，島がマダガスカル島であるとすれば，体重500kgにも達して，大きな卵を産んだ絶滅種のエピオルニス類*でないかともいわれている。しかし，エピオルニスは飛行力のない走鳥類であり，そのままあてはまるような鳥は鳥学上知られていない。

ロックアウト [lockout] 労働者側の争議行為*に対して労働者を工場から締め出し，そのことによって賃金の支払義務を免れようとする使用者の対抗手段。〈作業所閉鎖〉〈工場閉鎖〉と訳される。経済的に優位な立場にある使用者には積極的な争議権の保障がないため防衛的・対抗的な行為として容認されているにすぎない。労働者側が争議行為にはいるまえに先手を打って行なわれるロックアウトは，いわゆる〈攻撃的〉もしくは〈先制的〉ロックアウトとして違法であり，使用者は賃金の支払いを免れることができない。さらに，それが組合切りくずしなどの目的で行なわれるときは，不当労働行為*と認定されることもある。また，ロックアウトの開始には，ロックアウト宣言だけでなく，具体的な閉鎖行為を必要とするとする考え方が一般的である。〔河合研一〕

ロック-クライミング ⇨岩登り

ロックフィルダム [rockfill dam] 容

積1〜2m³の岩塊を台形に積み上げてつくったダム。水密性を保つために遮水壁(しゃすいへき)が設けられる。遮水壁として，①上流面にコンクリートまたはアスファルトを張ったもの，②内部に粘土の壁をはさんだものがある。1954年(昭和29)わが国で最初につくられた北上川の石淵(いしぶち)ダム(高さ53m)は前者に属し，世界的な高ダムである庄(しょう)川の御母衣(みぼろ)ダム(高さ131m)は後者に属する。

ロックフェラーざいばつ 【ロックフェラー財閥】 石油業を中心とするアメリカの巨大財閥。J.D.ロックフェラー(1839〜1937)が石油業の将来性に着目して1870年オハイオ-スタンダード石油を創設したのがはじまりで，その後石油が燃料として時代の寵児(ちょうじ)になったのに加えて，製油工場の立地条件に恵まれて輸送上有利だったこと，差別運賃や運賃割りもどし契約などの巧みな経営手段などによってたちまちアメリカ最大の製油業者となった。そしてこれを基にピッツバーグやニューヨークの石油業者や中小製油業者を次々に買収・合併し，1879年ついに世界はじめてのトラスト協定による企業連合体であるスタンダード-オイル-トラストを結成,全アメリカの製油能力の90%以上を独占した。その後このトラストはシャーマン法違反として裁判所によって解散させられたが,スタンダード石油*(ニュージャージー)社を持株会社としてその支配を実質的に継続させ，石油以外にも銀行・保険・炭鉱・製鋼・鉄道・公益事業の各社を傘下(さんか)に収めて,世界一の財閥を形成した。現在アメリカ三大銀行の一つチェース-マンハッタン銀行を中心に，世界第2位の大企業スタンダード石油，同7位のソコニー-モービル-オイルなどをもち，アメリカ諸産業に絶大なる支配力を及ぼしている。 〔片岡一郎〕

ロックフェラー-センター [Rockefeller Center] ニューヨーク市の中心にそびえる一群の高層建築。1931〜1936年に，アメリカ近代建築の推進者であり，摩天楼建築の第一人者であったウォーレス-ハリスンを中心とする建築家によって設計施工され，ロックフェラー財団が資金を提供した。個別の建築物ではなく，摩天楼群をなすものであって，1930年代以前の古い様式的なスタイルを排して，シンプルで機能主義的という近代主義的なデザインを取り入れている。

ロックーン [rockoon] 気球によって観測用ロケットを高度20km程度まで運び，そこから自動的にロケットを発射させ高層大気の観測を行なう方法。ロケットrocketとバルーンballoonの合成語。東京大学生産技術研究所で開発し，1956(昭和31)〜1961年の間に19回打ち上げられた。

ろっこうさんち 【六甲山地】 神戸(こうべ)市市街地の背後に連なる山地。カコウ岩からなる断層山地で，もと準平原であったものが，第三紀のころ瀬戸内海の陥没に際して大阪湾側に衝上断層面を向けて隆起した山地である。東西に長く約30km,南北約10km。


ロックフェラー-センター　五番街のビルからRCAビルを望む

西から鉢伏(はちぶせ)山(245m)・鉄拐(てっかい)山(237m)・高倉山(291m)・横尾山(310m)・高取山(320m)・石楠花(しゃくなげ)山(652m)・摩耶(まや)山(698m)・西六甲山(804m)・東六甲山(932m)(主峰)が並ぶ。ふつう六甲山といえば東六甲山をさす。山頂付近は平坦地で，高山植物園・ゴルフ場・キャンプ場・スキー場などがある。道路は発達し，芦屋(あしや)〜有馬(ありま)温泉間，六甲道路・表六甲道路などの有料道路のほか，山地を縦走するドライブウエーがある。南麓(なんろく)からケーブルカー・ロープウエーの設備もあって訪れる観光客も多く，ホテル・ロッジ・ユースホステルなども完備。全域が瀬戸内海国立公園に含まれる。 〔高野　繁〕

ろっこうさんトンネル 【六甲山トンネル】 六甲山地*を南北に貫いて北神地区を神戸(こうべ)市中心部と短絡するためにつくられた道路トンネル。神戸市の建設・運営する有料トンネルで，両端で表六甲道路・裏六甲道路と接続する。1967年(昭和42)開通，神戸市灘(なだ)区石山〜兵庫県有野町唐櫃(からびつ)吉寺山間，長さ2,843m，幅員6.5m。

ろっこうトンネル 【六甲トンネル】 新幹線新大阪〜新神戸(こうべ)間にある複線形鉄道トンネル。鉄道の市街地通過を避けるため，六甲山地*の山腹につくられたもので，日本最長の鉄道トンネル。1972年(昭和47)開業，長さ16,250m。ヨーロッパのシンプロン・アペニン両トンネルに次ぐ世界第3位の長大鉄道トンネルでもある。続く新神戸〜西明石(にしあかし)間にも複線形の神戸トンネルがある。1972年開業で，長さ7,970m。

ろっこつ 【肋骨】 脊椎(せきつい)動物の脊椎骨の左右から出て，前胸部の正中線にある胸骨に連絡する弓状になった12対の長骨。胸骨・脊椎骨とともに胸郭*を構成する。胸椎から出て湾曲して胸骨に連結する上位の7対の肋骨を真肋とよぶこともある。8・9・10番めの肋骨は，胸椎を出て胸骨に至るまえにそれぞれ上位の肋骨に連結して胸骨に連絡する。下位の11・12番めの肋骨は，胸椎から出て体壁に沿って前方に向かっているが，どこにも連絡せずに遊離して終わっている。この下位のものと，8・9・10番めの肋骨を合して仮肋とよぶ。肋骨と胸椎との間および胸骨の間に関節を形成している。これらの関節は可動性には乏しいが，呼吸運動の際に胸郭の容積を変化させる。肋骨と胸椎の間の関節は肋椎関節，肋骨と胸骨との間の関節は胸肋関節という。

魚類や両生類の肋骨は左右両側に延び，腹側の部分で結合はしていない。カエルでは椎骨に癒着(ゆちゃく)していて肋骨を欠いているようにみえる。肋骨の数は胸椎の数と同じだけあり，ウマ18対，ウシ13対，ブタ14対となっている。➔骨格(図) 〔高野一雄〕

ろっこん 【六根】 仏教で対象を認識する際，その対象を感じとる6種の感官能力。

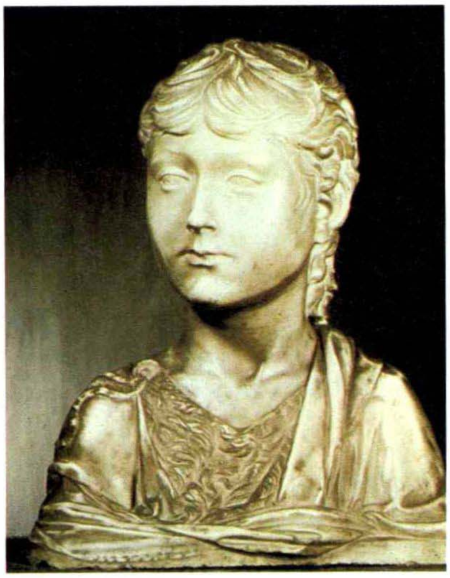

六甲山地　空から見た六甲山地の南部(神戸市須磨区付近)。大規模な宅地造成によってけづられた山上の山肌がいたいたしい

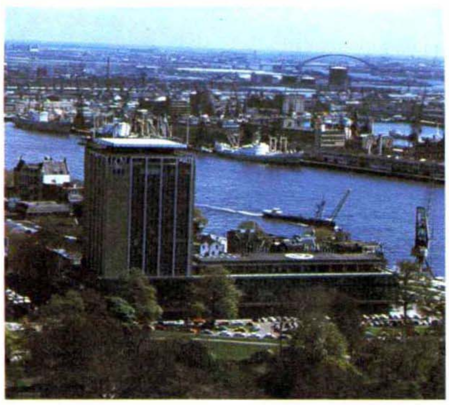
感覚の根本をなすと考えられ，眼根(視覚)・耳根(聴覚)・鼻根(嗅覚)・舌根(味覚)・身根(触覚)・意根(思惟(しい)能力)の六で，このうち，前五根は物質的対象を感ずる感覚機能で〈色根〉〈色法〉といい，意根は心作用をいい，〈無色根〉〈心法〉という。また六根清浄とは，《法華経(ほけきょう)》の書写・読誦(どくじゅ)によって六根が清らかになり，心身に種々の功徳が満ちることをいう。

ロッシェルえん【ロッシェル塩】 $C_4H_4O_6KNa \cdot 4H_2O$ 酒石酸カリウムナトリウムのこと。セニエット塩ともいう。フランスのロッシェルの薬剤師セニエットがはじめてつくり，利尿剤・緩下剤として用いたのでこの名がある。無色，斜方晶系の結晶。比重1.773，融点70〜80℃，100gの水には0℃で26g，26℃で66gとける。酒石酸水素カリウムを炭酸ナトリウムまたは水酸化ナトリウムで中和すると得られる。圧電率がきわめて大きく，また強誘電体である。フェーリング液の製造に用いられるほか，水溶液から容易に大きい結晶が得られるため，圧電素子としてピックアップ・マイクロホン・受話器などに利用される。
〔石戸良治・荒木洋之助〕

ロッシーニ [Gioacchino Antonio Rossini] (1792〜1868) イタリアの作曲家。ペサロの街のトランペット奏者とソプラノ歌手の間に生まれた。早くから音楽の才能を現わし，14歳のときすでにオペラ《デメトゥリオとポリビオ》を作曲した。1807年ボローニャ音楽学校に入学し，チェロ・ピアノ・対位法・和声学を学び，在学中から多くの作品を作曲した。1810年に同校を卒業し，同年ベネチアでオペラ《婚約手形》を発表して，本格的なオペラ作曲家として登場した。以後1814年まではベネチアとミラノ，1815年から1822年まではナポリとローマを中心に活躍し，有名な《セビリアの理髪師*》(1816)をはじめとする非常に多くのオペラ作品を発表した。《シンデレラ》(1817)，《泥棒(どろぼう)かささぎ》(1817)，《エジプトのモーゼ》(1818)などのオペラの成功は，ロッシーニの名まえをヨーロッパ全土にひろめ，彼はその後イタリアを離れて，ウィーン・パリ・ロンドンで自作を発表することになる。1824年末パリに居を構えて，パリのイタリア劇場の音楽監督になり，そこで《オリー伯爵》(1828)や《ウィリアム-テル》(1829)を完成した。1836年にはこの音楽監督の地位を去り，イタリアに帰ったが，1855年再びパリにもどって死の年までここにとどまった。ロッシーニの音楽の特質は，豊かな旋律と明確な楽句法と鋭い舞台感覚にあり，その作品は，イタリア-オペラの一つの頂点を築いている。〔船山　隆〕

ロッシャー [Wilhelm Georg Friedrich Roscher] (1817〜1894) ドイツ歴史学派*の創始者。ハノーバーに法律家の子として生まれ，ゲッチンゲン大学とベル


ロッセリーノ《若きセント-ジョン》


ロッテルダム　ゆるやかに蛇行するライン川やマース川は大小の運河で結ばれ，河畔の埠頭には内外の船舶が接岸し，港は活況を呈している

リン大学で歴史学と政治学を学んだ。はじめゲッチンゲン大学で教えたが，1848年にライプチヒ大学に移り，その死に至るまで46年間経済学教授として同大学で活躍した。初期の研究対象は古代文化史であったが，しだいに経済学および経済学説史に向かい，歴史的方法による体系的な経済学の建設に進んだ。主著は《歴史的方法による国家経済学講義綱要》(1843)，《経済学原論》(1854)，《17世紀イギリス経済学史》(1851〜1852)。
〔林　達〕

ロッセリーニ [Roberto Rossellini] (1906〜77) イタリアの映画監督。早くから記録映画とニュース映画を手がけ，長編記録映画《白い船》で認められた。第2次世界大戦下，ドイツ軍占領からイタリア解放に至るまでを困難な制作条件下で記録し続け，戦後そのフィルムをもとに《無防備都市》を発表。次作《戦火のかなた》でさらにその手法を方法論にまで高め，いわゆるネオレアリスモ*の中核として世界の戦後映画に大きな影響を与えた。その後《ドイツ零年》《ロベレ将軍》などをつくり，作品はしだいにフィクション性を強めた。〔波多野哲朗〕

ロッセリーノ [Antonio Rossellino] (1427〜1479) 15世紀イタリアの彫刻家。5人の兄弟はいずれも彫刻家であった。建築家としてもすぐれていたベルナルド(1409〜1464)の弟。兄たちに学んだり，協同で仕事をしながら，フィレンツェおよびその周辺の町の寺院にある多くの墓碑・祭壇・説教壇に優雅でかつ力に満ちた美しい彫刻を施した。

ロッソ [Rosso de Fiorentino] (1494〜1540) イタリアの画家。1517年ごろフィレンツェの画家ギルドにはいり，サン-スピリト大聖堂・サン-アヌンツィアタ大聖堂などの建築に従事した。その後，ローマ・アレッツォ・ベネチアを経てフランスに渡り，フランシス1世の宮廷画家となり，サント-シャペル・フォンテンブロー宮の装飾などに携わった。

ロッツェ [Rudolph Hermann Lotze] (1817〜1881) ドイツの哲学者。ライプチヒ大学ではじめ医学を，次いで生理学・物理学・哲学を学ぶ。1842年以来ライプチヒ・ゲッチンゲン・ベルリン各大学の哲学教授。自然科学的機械論の優勢のうちにあって，彼はドイツ観念論の伝統を厳密な自然科学と結合させようと試みた。妥当性の論理的根拠の固有のあり方，および倫理学における価値の概念の導入などは後代の人々，特に新カント派などに影響を及ぼした。主著《形而上学(けいじじょうがく)》《論理学》。
〔豊福英利〕

ロッテルダム [Rotterdam] オランダ西部の都市。人口67万5,000(1972)。ライン川河口にあり，首都アムステルダムに次ぐ都市で，同国最大の貿易港。石油精製や造船工業が盛ん。19世紀後半に北海への新水路が開通して以来，アムステルダム・アンベルスの繁栄を奪って急速に発展した。国内各地とは河川・運河で結ばれ，また西ドイツのルール工業地帯を後背地としている。15世紀のゴシック建築セントローレンス寺院やボイマン博物館が名高い。西方の新マース川河口に1958年からEECのユーロプルト港が建設されてEECの表玄関の役割を果たし，また石油基地・石油化学工業地帯としても発展しつつある。〔梶川勇作〕

ロット [Lorrenzo Lotto] (1480〜1556) イタリアの画家。ベネチア派のルネサンス盛期の巨匠のひとり，A.ビバリーニに師事し，主としてベネチア周辺，ベルガモ・トレビソなどで活躍した。ラファエロ・ジョルジョーネ・パルマベッキョらの影響を受けながらも，ベネチア派の特徴をもちつづけた。代表作には《聖母と諸聖》《聖家族》などがある。➔次ページ(写真)

ロッビア [Luca della Robbia] (1399〜1482) イタリア，ルネサンス彫刻における特異な存在で，最も純粋なキリスト教

的作家であるとされ，釉薬(ゆうやく)を施したテラコッタ彫刻に特色を示した。この種の彫像は彼の４人のむすこによって，16世紀半ばまで制作された。代表作としては，大理石浮彫の《合唱隊》《聖母子と天使》などがある。

ろっぴゃくばんうたあわせ　【六百番歌合】　藤原良経*(よしつね)が,1193年(建久４)秋，12人の歌人に百首歌を詠進させて結番し，藤原俊成*(としなり)が判と判詞をつけた空前の大歌合。〈左大将家百首歌合〉ともいう。この歌合から34首が《新古今和歌集*》にとられ，詠進歌人たちもほとんどのちの後鳥羽院(ことばいん)歌壇の中核をなし，《新古今和歌集》形成の母体になった観がある。また，俊成の判詞は委曲を尽くし，歌論史上に得がたい資料である。

ろっぴゃくろくごう　【606号】　⇨サルバルサン

ろっぽう　【六方】　歌舞伎(かぶき)の演技のうち，手足と体を大きく振り，誇張した動作であるく技法。〈六法〉とも書く。古来の民俗芸能の足芸や歩き芸の変形といわれるが，正確な語源は未詳。種類は多いが，２系統に大別される。《鞘当(さやあて)》などに見られる〈丹前六方〉は，江戸初期の武士が丹前風呂(ぶろ)へ通ったときの歩き方を模したもの。〈飛(とび)六方〉は，荒事*の役が花道の引っ込みに見せるもので，《勧進帳*》の弁慶などが有名。

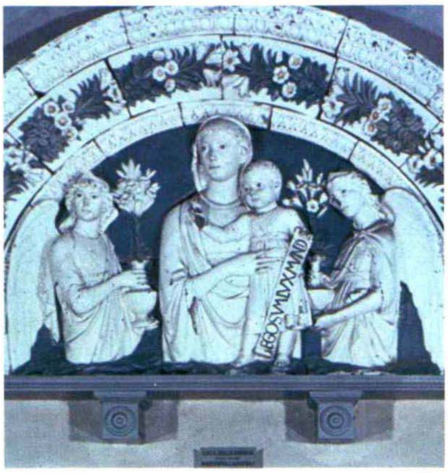
ろっぽうしょうけい　【六方晶系】　⇨結晶

ろっぽんぎ　【六本木】　東京都港区北西部の町。六本木１～７丁目がある。江戸時代には大名屋敷が集まり，地名は当時ここに中屋敷があった上杉(うえすぎ)らの６大名の名がすべて木に関係していたことにちなむといわれる。明治以後は東に麻布(あざぶ)十番の商店街を控えて住宅街が発達し，また，周辺に通称赤坂１連隊・麻布３連隊などの陸軍の部隊が置かれて〈軍人の町〉となった。第２次世界大戦後は，これらの兵舎にアメリカ軍がはいり，外人向けのバーなどがふえ，また劇団俳優座の小劇場やTBS・NETなどのテレビ局が集まって山手(やまのて)の新しい盛り場となり，〈六本木族〉の名が知られている。帝都高速度交通営団の地下鉄日比谷(ひびや)線・首都高速道路３号線が通ずる。　〔浅井得一〕

ロデオ　[rodeo]　荒くれ馬や牛をうまく乗りこなすことなどを競い合うショー。ロデオの語源はスペイン語の〈見回り〉で，本来は飼い主が放し飼いの家畜を見回ったり，蹄(ひづめ)に持ち主の名を烙印(らくいん)したりすることをさしたが，19世紀初期アメリカのカウボーイが，くらのない暴(あば)れ馬や暴れ牛を乗りこなすなど，ショーとしてみせるようになってから，これをロデオという名称でよぶようになった。

ローデシア　[Rhodesia]　アフリカ南部，

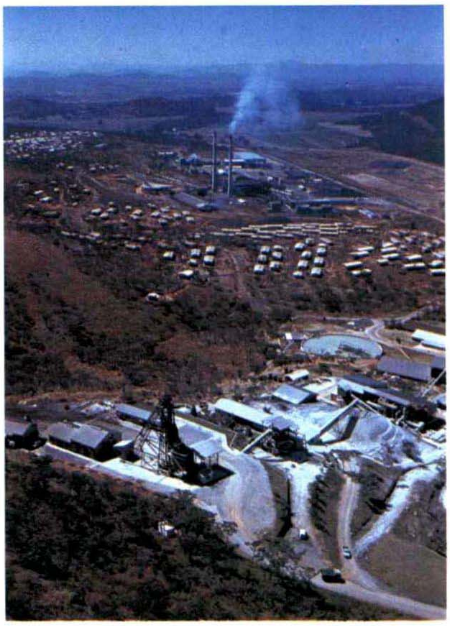

ロット《肖像》


L. d. ロッビア《聖母子と天使》


ロデオ　荒馬を乗りこなすカウボーイ　ワイオミング州シャイアン

南アフリカ共和国・ボツワナ・ザンビア・モザンビークに囲まれる旧イギリス連邦内の自治植民地。1965年にローデシア共和国として一方的な独立を宣言したが，国際的には認められず，ジンバブエ共和国として正式に独立したのは1980年であった。面積39万km²。人口736万(1978年推)。首都ソールズベリ。

〔自然・住民〕国土は全般に標高1,000～1,500ｍ前後のなだらかな高原をなし，北部国境をザンベジ川が，南部国境をリンポポ川がそれぞれ流れ，流域にわずかな平野部が見られるにすぎない。気候は，緯度的に


ローデシア　主都ソールズベリ北東方数10キロにあるニッケル鉱山。周囲には従業員住宅や付属施設の建物が並ぶ

熱帯にあっても高地であるためしのぎやすい。雨量は東部国境地域では1,000mmを越すところもあるが，全体としては800mm以下で，南部および西部にかけては乾燥地域になっている。住民の約94％はバンツー系の黒人で，焼き畑・半農半牧・遊牧などで生活をし，都市や鉱山では労働者として働いている。ヨーロッパ人の大部分はイギリス人で，ほかにインド人もいる。

〔産業・経済〕国土全体が乾燥しており，土地もそれほど肥沃(ひよく)ではないため灌漑(かんがい)の可能な地域だけが農耕地として開拓されている。主産物はタバコで，柑橘(かんきつ)類・サトウキビがこれに次ぎ，主としてヨーロッパ系移民の農園で栽培され重要な輸出農産物となっている。ほかに綿作も発展しつつあり，また自給用の小麦・蔬菜(そさい)の栽培，酪製品用の乳牛飼育もしだいに普及しており，多角化の傾向を示している。鉱産物では，国土中央部に豊富な埋蔵量をもつ鉱脈があり，金・アスベスト・クロムはこの国の三大鉱産物となっている。このほか，銅・鉄・石炭にも恵まれている。工業は第２次世界大戦後急速に発展し，ソールズベリとブラワヨを中心に，金属工業・食品加工・繊維・化学・製紙などの工業が興っている。

〔歴史・政治〕かつてはアラブ人による奴隷貿易の地として知られていたが，19世紀後半からイギリス人による開拓が始まり，1889年セシル-ローズがイギリス南アフリカ会社を設立して，ここの行政・商業を一手に収めた。地名は，このローズにちなんでローデシアと命名された。のち1911年，南・北ローデシアに分離し，この地は南ローデシアとして1923年イギリスの自治領になっ

た。第2次世界大戦後の1953年，南・北ローデシアとニアサランドを合わせたローデシア-ニアサランド連邦を結成，その中核となったが，1963年連邦は解体，翌1964年北ローデシアはザンビアとして，またニアサランドはマラウィとして独立したため，南ローデシアは単にローデシアを自称するようになった。その後，この地にも白人による独立運動が高まり，1965年一方的にイギリスからの独立を宣言し，1969年には国民投票によって新憲法を採択，1970年3月共和政を施行した。しかし，白人による絶対優位の政策と黒人への人種差別が強いために国際的な非難を受け，またイギリスも，この独立を認めていない。〔小栗　宏〕

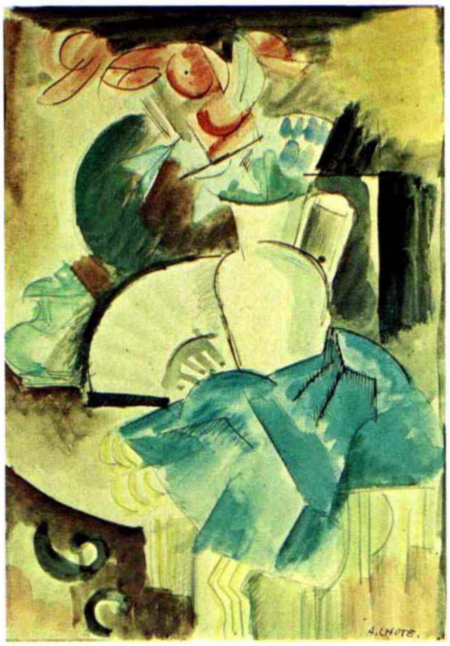
ろてん　**【露点】**　大気中で物体を冷却していき，表面に水滴すなわち露ができはじめるときの表面の温度。この現象は一定圧力のもとで，水蒸気が冷却されると過飽和の不安定な状態になり，物体の表面やちりやほこりのまわりに凝縮し露となるために起こる。

ろてんけい　**【露点計】**　露点*をはかって湿度*を求める装置。露点湿度計ともいう。揮発性物質(エーテル・ドライアイスなど)の気化熱*を利用して，金属面を冷却し，金属面の光沢の変化を観測して，露のできる温度を調べる。このとき，金属面に接している空気は飽和状態にあるので，その水蒸気の分圧は露点の飽和水蒸気圧に等しい。金属の表面は熱の伝導をよくし，露のできぐあいを見やすくするために銀めっきなどを施し，光沢をよくしてある。

ろてんぼり　**【露天掘り】**　鉱床が地表近くに存在し，表土を除去する作業が容易な場合に広く行なわれる採掘法。作業の形態はきわめて簡単で，表土を除いたのちは，階段(ベンチ)状に採掘する階段採掘法，鉱石の抜き出し立て坑を中心に漏斗状に採掘を行なうグローリー-ホール法などが行なわれる。大規模なものが多く，大形の掘削機械，ダンプ-トラックを駆使して大量生産方式が行なわれ，採掘経費も比較的安価に行なわれる。わが国では，石灰石鉱山などを除くと露天掘りを行なっている鉱山はそれほど多くないが，世界の大鉱山には有名なものが数多くある。〔西松裕一〕

ロート　[André Lhote] (1885～1962)　フランスの画家。はじめ彫刻を学んだが，1905年ごろ絵画に転じた。セザンヌやピカソの影響を受け，やがてキュービスムの運動に参加した。1922年には美術研究所を設立。数多くの若い画家を育て，影響を与えた。また，美術評論家としても活躍し，《絵画─魂と精神》などを著わしている。

ロードアイランド(州)　[Rhode Island]　アメリカ合衆国北東部，大西洋岸の州。面積3,144km^2，人口91万3,000(1968)。州都プロビデンス。独立宣言当時の13州の一。州名は赤い島の意で，この地域の土が赤色であったことに由来する。面積は合衆国中最も小さいが，人口密度はニュージャージー州に次いで第2番めに高い。繊維工業は近年衰えてはいるが，いまも州第1の産業で，次いで伝統的な宝石・銀製品工業がある。農業は酪農と家禽(かきん)飼育が中心。主要都市プロビデンス。〔相村大彬〕


ロ ー ト《円卓の静物》

ロードアイランドレッド　[rhode island red]　アメリカのロードアイランド州原産の卵肉兼用のニワトリ。かっ色で，体重は雄3.7kg，雌3.2kg。初産日齢は200日。産卵数は年間180～200個。近年ロードアイランドホワイトとよばれる白色内種が普及してきた。ニューハンプシャー種は発育の早い卵肉兼用種で，ロードアイランドレッドから改良されたといわれている。

ろとう　**【露頭】**　表土・土壌(どじょう)の下の岩石基盤が露出している場所。海岸・河岸・山頂・崖(がけ)・切り割りなどに多くみられる。

ロード-ジム　コンラッド*の長編小説(1900)。船員ジムは，船が浸水したとき乗客を捨てて逃げたため，船員免状を奪われ，マレー奥地の土人部落で勇敢に働いて過去の罪を償おうとするが，またも信頼を裏切る結果になり，死ぬという物語。精緻(せいち)で複雑な技法で，人間の内にひそむ悪の可能性を鋭く多角的にえぐり出し，理想主義の悲劇的なむなしさを主題にした傑作である。

ロードス(島)　[Ródhos]　地中海東部，エーゲ海の小アジア半島南西岸にあるギリシア領の島。面積1,408km^2，人口約62,000。気候がよく，景観にもすぐれ，島の3分の1は耕地で，麦類・タバコ・ブドウ・オレンジ・イチジク・オリーブなどを産する。北東端にあるロードス市は商港で，ブランデー・せっけん・造船などの工業もある。紀元前10世紀すでにドリス人が植民し，紀元前5世紀には三つの都市国家があり，アレクサンドロス大王の没後最も栄えたが，ローマ帝国時代になってから衰えた。1522～1912年トルコ領，以後1943年までイタリア領であった。〔大崎　晃〕

ろとせんそう　**【露土戦争】**　⇨ロシア-トルコ戦争

ロドプシン　[rhodopsin]　視紅ともいい，脊椎(せきつい)動物の網膜の視細胞にある桿状体(かんじょうたい)に含まれる感光物質。視細胞がよく光を感じるためには，光に対する増感物質の存在が必要であり，ロドプシンがその物質であるとされる。これはビタミンA_1とタンパク質とが結合したカロチノイド系の色素で，光にあたると分解し，視橙(しとう)・視黄を経て終末産物である視白になる。視白に含まれるビタミンA_1は，網膜の色素上皮に吸収されて再びロドプシンに合成され，また視黄からもロドプシンが合成される。ビタミンAが欠乏するとロドプシンの蓄積が遅れて弱い光に対する感受性が低下するために，夜盲症のような症状を現わす。〔平野修助〕

ロートベルトゥス　[Johann Karl Rodbertus] (1805～1875)　ドイツの社会主義的経済学者・政治家。プロイセンの生まれ。ゲッチンゲン・ベルリン両大学で法律を学び，ブレスラウで司法官試補となった。しかしまもなく辞職し，外遊して1837年に帰国し，農業経営を行なうかたわら，歴史学・経済学などの研究に従事した。また，政治にも関係し，1848年の三月革命*の際には，プロイセン国民議会に選出され，左派中央党の指導者として活躍し，自由主義的三月内閣が成立したとき入閣して文部大臣となった。しかし，その進歩的な主張はいれられず，以後政界への望みを捨て，社会科学の研究に没頭した。主著《国家経済の現状認識のために》(1842)，《キルヒマンへの社会書簡》(1851)。〔林　達〕

ロドリゲス(島)　[Rodrigues]　インド洋西部のさんご礁島。モーリシャスの北東方約560kmにあり，モーリシャスに属する。面積103km^2。人口22,000(1967)。住民は農業と漁業を営んでいる。ポートマザリン港からモーリシャスへ定期船が通う。1645年ポルトガル人によって発見された。

ロドリゲス　[João Rodrigues]　(1561～1634)　ポルトガルのイエズス会宣教師。1577年(天正5)来日，1614年(慶長19)マカオに追放されるまで宣教師・通訳として活躍した。長崎で刊行された《日本文典》3巻(1604～1608)は，当時の日本語の語彙(ごい)・語法・発音・文体などを詳細に記述・説明し，また方言にまで言及しているため，国語史の研究資料として重要。この文典は，のちにマカオで縮小版(1620)がつくられ，このほうは〈小文典〉という。〔崎山　理〕

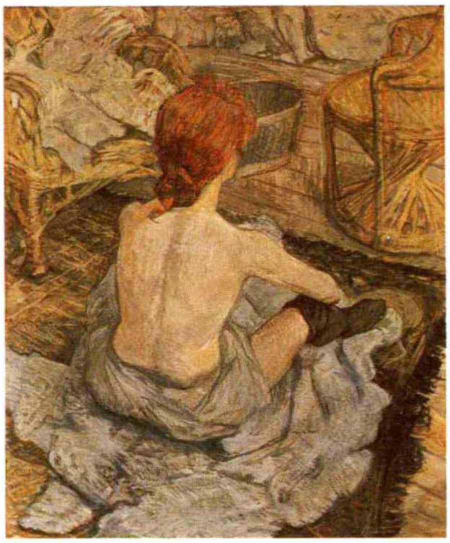
ロドリゴ　[Don Rodrigo de Vivero

y Velasca] (?～1636) スペインの植民地行政官。メキシコに渡り，1599年フィリピンのヌエバ-ビスカヤ州総督兼司令官，1608年フィリピン臨時総督を歴任。1609年帰任の途中遭難，上総(かずさ)(千葉県)に漂着し，大多喜城主本多氏，ついで徳川家康(いえやす)・秀忠(ひでただ)に謁見。家康の希望により日本とメキシコ間の貿易に尽力した。滞日中の見聞を書いた《日本見聞録》がある。

ロートリンゲン ⇨アルザス-ロレーヌ

ロートレアモン [Comte de Lautréamont](1846～1870) フランスの詩人。本名イジドール-デュカス。南アメリカのモンテビデオで生まれ，14歳でフランスの中学校にはいり，のち文壇とは無縁なままにパリを転々としたが，詳細は不明。20世紀初頭にシュルレアリスム*の先駆者としてランボーとともに神格化されるまで，まったく世に知られなかった。散文詩集《マルドロールの歌》は，神をも含めた全宇宙・全存在を徹底的に呪詛(じゅそ)し否定する作者の悪意の化身マルドロールを中心に，残忍な挿話(そうわ)と幻想怪奇なイメージに満ちた世界が展開するもので，悪の賛歌の書といえる。 〔山口佳巳〕

ロートレック [Henri de Toulouse-Lautrec](1864～1901) フランスの画家。南仏アルビの名門貴族の出身。幼少時両足を骨折し，侏儒(しゅじゅ)となる。1881年パリに移住，官学派のボンナやコルモンのアトリエに通う。そこで知り合ったドガから著しい影響を受けた。両者の辛辣(しんらつ)な描写にはきびしい写実の精神が脈動している。モンマルトルのキャバレー・娼家(しょうか)・サーカスなど，作品には退廃的な題材が多いが，卓越した素描力によって風刺的な鋭さを示している。1891年ムーラン-ルージュのために描いたポスターを手始めに，30点ほどのポスターを制作，1897年からは石版画を始めた。晩年はアルコール中毒にかかり，37歳で没した。1922年，故郷アルビ市にツールーズ-ロートレック美術館が開設された。 〔島田紀夫〕



ロートレック 《化粧》 1896 ルーブル美術館蔵

ロードローラー [road roller] 車輪の代わりに鉄製のローラーを備え，道路建設などに砕石やアスファルト路面を締め固める特殊自動車。ローラーが前後に1個ずつのものをタンデムローラー(舗装仕上げ用)，後ろのローラーが左右2分割された3輪のものをマカダムローラー(路盤転圧用)という。また路盤転圧と仕上げに，7～11本のタイヤを装着したタイヤローラーもある。





ロードローラー (上)マカダム形 (下)タイヤローラー

ローヌ(川) [Rhône] スイス南西部からフランス南東部を流れる川。全長812km。スイス中央部アルプス山脈中のローヌ氷河に発して西流し，レポンチン・ペニン両アルプス間に深い峡谷をつくってジュネーブ(レマン)湖にはいり，湖尻(こじり)のジュネーブ付近から再び流出してフランス領にはいり，ジュラ山脈を横断してリヨンに達する。ここで北からのソーヌ川を合して南流し，河口部にデルタを形成しながら地中海のリヨン湾に注ぐ。水量の変動が大きいために舟運の便を欠いていたが，最近リヨンから下流に一連のダムが建設されて水量調節が進められ，河川交通も便利になった。沿岸，特にリヨンから下流はブドウ畑が多く，世界的なぶどう酒生産地となっている。 〔大石堪山〕

ローヌ-プーラン [Rhône-Poulenc S. A.] フランス最大の化学工業メーカー。持株会社で，100%子会社のローヌ-プーラン化学など60の会社を総括している。おもな製品は化学合成繊維・合成樹脂・医薬品・化学品(染料・工業薬品・農薬)などである。特に化繊部門は国内市場に独占的な地位を占めている。また医薬品の研究も盛んで，プリスチナマイシン・ルビドマイシンなどの抗生物質が好評である。本社パリ。年間売上高21億8,000万ドル，従業員数12万(1971)。

ろば 【驢馬】 哺乳(ほにゅう)類・奇蹄(きてい)目・ウマ科。野生種はアジアノロバ・アフリカノロバの2種が知られる。家畜のロバの先祖はアフリカノロバである。肩の高さ97cmぐらいで，耳が長く尾は先半分に長毛があり，ウシの尾に似る。体は赤色をおびた淡かっ色で，背の正中線と肩から前足に黒線がある。家畜のものはアフリカ・アラビア・インド・中国などで飼育され，多くの品種があり，役用とされることが多い。なお，クーラン・オナガー・キャンなどはアジアノロバの亜種である。 〔今泉吉典〕



ロ バ 頑健でおとなしく，粗食に耐えるロバは，農耕・運搬などに広く利用される

ろはき 【濾波器】 いろいろの周波数の振動電流が加えられたとき，特定の周波数範囲のものだけを容易に通し，ほかのものは通過しにくいようにした回路のこと。フィルターともいう。ある周波数以下を通す低域フィルター，ある周波数以上を通す高域フィルター，二つの周波数の間だけを通す帯域フィルターなどがある。またある周波数だけを通さないような回路もフィルターとよばれる。これらはコイルとコンデンサーの組み合わせによってつくられるが，それぞれのインダクタンス*あるいはキャパシタンス*を変化させることによって，通過させる周波数を任意に選べるようにしたものもある。 〔田村康男〕

ロバチェフスキー [Nikolai Ivanovich Lobachevskii](1793～1856) ロシアの数学者。ニジニ-ノブゴロド(現ゴーリキー)の貧農の家に生まれ，カザン大学に学んだ。卒業後，1814年21歳の若さで同大学教授，のち学長となった。1826年カザンの物理学・数学協会の講演会で非ユークリッド幾何学を発表。これは発表当時冷遇されたが，その後《カザンの使者》(1829)，《カザン大学報》(1836～1838)などに公表された。彼がボヤイとは独立に創始した非ユークリッド幾何

学はロバチェフスキー幾何学*として知られる。

ロバチェフスキーきかがく【ロバチェフスキー幾何学】 ロシアの数学者ロバチェフスキー*らが，19世紀初めに発表した幾何学の一体系。ロバチェフスキーの非ユークリッド幾何学，または双曲幾何学ともいう。ユークリッドの平行線公理の代わりに，〈平面上で，直線外の1点を通って，これに交わらない直線が少なくとも2本存在する〉という公理を用いても幾何学が建設できることが発見されたわけで，この幾何学では，三角形の内角の和は2直角より小さい。 〔小西勇雄〕

ローバック ［John Roebuck］ (1718～1794) イギリスの発明家。金属マニュファクチュア経営主の子として生まれ，エジンバラ大学などで医学を学ぶ。1746年硫酸を鉛室内で製造する方法を発明し，硫酸の価格を4分の1に引き下げた。のち鉄工業に移り，ダービ*の石炭製鉄法に種々の改良を加えた。スクーリングシャーのカロンに彼が設立した製鉄所は，イギリス本国最大のものとなった。このほかワット*の蒸気機関製作に援助を与えた。

ロバートソン ［Dennis Holme Robertson］ (1890～1963) 新古典学派*の経済学者。ケンブリッジ大学で経済学を学び，1930年同大学の講師となり，1939年ロンドン大学教授となる。1943年ケンブリッジ大学にもどり，ピグーの後継者として経済学教授となる。この間一時，大蔵省の顧問をつとめた。主著は《産業変動の研究》(1915)，《銀行政策と価格水準》(1926)，《貨幣》(1922)など。その研究は主として経済変動および経済の期間分析に向けられており，理論分析を歴史的統計的資料に基づいて行なっている点が特徴的である。景気対策としては，信用創造による物価水準の上昇と強制貯蓄を主張している。当時のイギリスにおける最も活動的な新古典学派経済学者のひとり。 〔林　達〕

ロビン ［robin］ 英名でロビンといわれる鳥は，広くヨーロッパに分布する暖色系の赤かっ色の胸をしたヒタキ科の小鳥である。この鳥を研究し，《ロビンの生活》を著わした現在第一級の生態学者であるラックによると，〈この鳥の英名は，本来レッドブレストであったが，いつのまにかロビンというニックネームをつけてロビン-レッドブレストと愛称されるようになり，そのうちニックネームのロビンだけが残ってよばれるようになった〉という。イギリス人が世界各地の鳥を調査し，また移住定着してそこにいる鳥を見て，胸が赤かっ色の小鳥に，何々ロビンと名をつけてよび親しんだことにより，ロビンとつく英名の鳥は分類学上のグループとは関係なくいろいろあり，それをあげれば数十種にもなる。たとえば日本のコマドリの英名はジャパニーズ-ロビンであり，ソウシチョウはペキン-ロビン，アメリカの *Turdus migratorius* はアメリカン-ロビンなどとよばれる。 〔安部直哉〕



ロープウエー (上)洞爺湖ロープウエー(4線交送完全自動式，定員106人) (下)浜名湖の大草山ロープウエー(3線交送式，定員61人)

ロビンス ［Jerome Robbins］ (1918～　) アメリカの舞踏家・振り付け師。ニューヨークの生まれ。ニューヨーク大学中退。チューダー・ローリングにバレエを学ぶ。1940年バレエ-シアターに入団。1948年にはニューヨーク-シチー-バレエ団*専属振り付け師となり，バランチン*の後継者として活躍。バレエの代表作として《牧神の午後》《檻(おり)》などの作品があるが，《王様と私》《パジャマゲーム》《ウェストサイド物語》などブロードウエー-ミュージカルの振り付けも担当し，その活躍は多方面にわたっている。 〔高橋孝一〕

ロビンソン ［Robert Robinson］ (1886～1975) イギリスの有機化学者。マンチェスター・ロンドンなど諸大学教授を経て1930年オックスフォード大学教授。有機化学反応において電子説を提出，この方面での進歩を促した。また植物色素・フェナントレン誘導体など，生物学的に重要な植物成分について多くの研究があり，特にアルカロイドの研究によって，1947年ノーベル化学賞を受賞した。

ロビンソン ［Joan Violet Robinson］ (1903～　) イギリスのケインズ学派の女流経済学者。ケンブリッジ大学を卒業，1926年にE.A.G.ロビンソンと結婚。彼は産業構造論の研究家で，《競争産業の構造》や《独占》の著作があり，1950年以後はケンブリッジ大学教授である。ロビンソン夫人は，1931年にケンブリッジ大学の助講師となり，1937年に講師，1949年準教授，1965年に経済学教授となった。主著は《不完全競争の経済学》(1935)，《利子率その他の試論》(1952)，《資本蓄積論》(1956)など。彼女が特にケインズ左派といわれているのは，ケインズ経済学とマルクス経済学の結合を試みていることによる。 〔林　達〕

ロビンソン-クルーソー デフォー*の小説(1719)。家出して船乗りになったクルーソーが，アメリカへ向けて航海中に遭難，無人島にただひとり漂着して，28年間の孤島生活を送るという物語。住居をつくり，畑を耕し，ヤギを飼い，つぼを焼き，衣服をつくって，食人種と闘い，やがて忠僕(ちゅうぼく)フライデイを得たクルーソーは，不安と孤独を聖書で慰める。最初の近代リアリズム小説として文学史上重視されるとともに，冷酷な自然環境にいどんで変革していくクルーソーの姿には，自由競争時代の初期資本主義社会をささえる生活倫理が読み取れ，当時のイギリス市民階級の姿を写しだしている。 〔沢村　灌〕

ロビンソンふうそくけい【ロビンソン風速計】 平均風速の測定に最も広く使用されている風速計で，4個の風杯が風によって回転し，その回転数が風速に比例することから測定する。風杯の回転をある割合で減速させて歯車を1回転させ，同時にこれを1回電接させる。この電接回数は電気盤に記録される。ふつう10分間の電接回数を6で割ると，この間の平均風速が計算されるようになっている。自記電接回数器によって記録することもできる。〔相原正彦〕

ロビン-フッド ［Robin Hood］ イギリスの伝説上の人物。1160～1247年ごろ生存したといわれる。古来イギリス国民に最も愛された義賊で，シャーウッドの森に本拠をもち手下とともに神出鬼没の活躍をしたという。イギリス文学では中世のラングランド*の《農夫ピアスの夢》にその名があり，その他多くの詩・小説・戯曲で扱われている。スコット*の小説《アイバンホー*》で重要な役割を演じていることは有名。

ロープ ［rope］ 綿・麻・鋼線などをより合わせてつくった綱。最近は合成繊維によるものも用いられるようになった。鋼製のロープをワイヤロープという。これらは糸あるいは針金を数本より合わせて子なわ(ストランド)をつくり，それをさらに数本より合わせてロープとする。用途としては引っ張り，荷上げ，動力伝達，漁業用などがある。動力伝達用のものは巻き掛け伝動*に使用される。

ロープウエー ［ropeway］ 空中ケーブルカー・架空索道ともいう。空中に懸けたワイヤロープに，ゴンドラとよぶ扉(とびら)を

有する箱型の運搬器(車両)をつるし，原動機の力または運搬器の自重を利用して人や物を運送する施設。山麓(さんろく)と山頂を谷を越えて結ぶ輸送などに利用される。法令による民営鉄道の分類では索道に属し，特殊索道(リフト)に対しての普通索道である。最大乗員120人以上の大形搬器もあり，その事業および技術には保安上の見地から，索条・支柱・搬器その他の設備の構造・性能などについての詳細な基準が定められている。２個の搬器が交互に上下する交送式と，スキーリフトのように搬器が連続して循環進行する循環式(連続式)とがあり，いずれも支持索のほかに引き索(づな)を搬器につないで，これを動力で巻いて運行するものが多い。　〔宍塚正幸〕

ロフォーテン(諸島)　［Lofoten］ノルウェー北西岸，北東～南西に180kmにわたって連なる島群で，タラ漁業で名高い。面積約1,400km²。人口約30,000。岩がちの島島からなり，近海は２月から４月にかけてタラ漁でにぎわい，ノルウェー本土から25,000人の出かせぎ漁民が来島する。中心集落のスボルベルにはフィッシュミルの工場や冷凍施設があり，生産物は本土のナルビクやトロンヘイムに送られる。

ロブ-グリエ　［Alain Robbe-Grillet］(1922～　)　フランスの小説家。はじめ農業技師として熱帯地方に滞在したが，《消しゴム》《覗(のぞ)く人》《嫉妬(しっと)》などで作家としての地位を確立。ビュトール*などとともに〈アンチ-ロマン*〉の代表作家・理論家であり，事物を事物のままに表現するという理論を小説として実践している。映画への関心も強く，レネ*の《去年マリエンバートで》の台本を書いたほか，みずから《不滅の女》を監督。ほかに評論集《新しい小説のために》など。　〔池田公麿〕

ロブソン(山)　［Robson］北アメリカ，カナディアンロッキー山脈中の最高峰。標高3,954m。ブリチッシュコロンビア州の東端に位置する。付近一帯はロブソン山州立公園に指定されている。

ろふつどうめい　【露仏同盟】　⇨ロシア-フランス同盟

ローブ-デコルテ　［robe décolletée］英語のネックラインにあたるフランス語で，一般にローカットでえりあきの大きい，胸を広く出した服をさし，夜会用ドレスの総称。イブニングドレスはローブ-デコルテが主であり，宮中では中礼服にあたる。そでがなく，すそが床まで届くものかまたは長く引くもので，絹織物の華麗な生地でつくられる優雅なドレスである。➜イブニングドレス

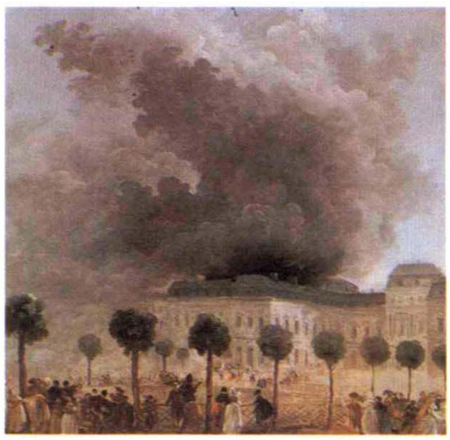
ロブノール(湖)　［Lob Nor］中国，新疆(しんきょう)ウイグル自治区南東部，タリム盆地の東端にある湖。面積約3,000km²，湖面標高780m。タリム川が注入するが，流出河川のない完全な内陸湖で，浅い。現



ロベスピエール　カルナバレ美術館蔵



ロベリア　ロベリア-エルヌス



ロベール《オペラ座炎上》1781　ルーブル美術館蔵

在は塩湖であるが，淡水湖であったこともあり，また面積や形がしばしば変化し，ときには位置が移動することもある。これは砂漠(さばく)を流れるタリム川が流路を変えるためであると考えられ，1929年この付近を探検したS.ヘディン*はこの湖を〈さまよえる湖〉とよんだ。また一帯は古くから中国とヨーロッパとの交易路にあたり，シルクロードとよばれて絹が中国からヨーロッパへ運ばれた時代もあった。湖の西岸には，古代の都城楼蘭(ろうらん)をはじめ多くの遺跡がある。中国の核実験はこの湖の近くで行なわれる。　〔長津一郎〕

ロベスピエール　［Maximilien de Robespierre］(1758～1794)　フランス革命期の政治家。弁護士出身。1789年三部会議員から立憲国民議会議員となり，一方ジャコバン-クラブの指導者としてその組織強化に尽くした。1792年国民公会議員となり。山岳派の中心として急進的民衆勢力と結び，1793年６月ジロンド派を公会から追放して山岳派独裁を打ち立て，同年７月公安委員会にはいり，内外からの革命の危機に対処するため恐怖政治を行なった。この間山岳派に分派争いが生じ，ロベスピエール派は左右のエベール派・ダントン派を倒して実権を握った。しかし情勢の好転によって恐怖政治はその基盤を失い，民心も離れ，反対派の策謀によって1794年７月27日(共和国第２年テルミドール９日)に捕われ，翌日処刑された。彼はルソーの思想的影響の強い共和主義者で，特に金銭上淡白で〈清廉の士〉とよばれるような人がらであり，徳を重んじ，小生産者の平等な社会を理想としたといわれる。　〔山上正太郎〕

ロベリア　［*Lobelia*］双子葉植物・キキョウ科の一属であるが，園芸ではふつうロベリア-エルヌス(和名はルリミゾカクシ・ルリチョウチョウ)をさす。これは南アフリカ原産の一年草で，茎は多く分かれて茂り，高さ10～20cm。葉は互生し，へら形ないし細線形で，小さな鋸歯(きょし)がある。５～７月，葉腋(ようえき)から花柄を出して花をつけ，上唇２枚は小さくて立ち，下唇３枚は大きい。花色はふつう濃青色であるが，白・青・紅色などいろいろな品種がある。はち植えや花壇の縁に植えられる。なお，ロベリア属にはサワギキョウやミゾカクシなどが含まれる。また，北アメリカ原産のロベリア-インフラタは，全草にアルカロイドのロベリンを含み，呼吸興奮剤として用いられる塩酸ロベリンの原料となる。

ロベール　［Hubert Robert］(1733～1808)　フランスの画家。当初イタリアに留学し，好んで古代ローマの廃墟を描いたことから〈廃墟の画家〉と称された。1765年帰国，1767年アカデミーに加えられた。パリに起こった諸事件を描いたことで知られる。

ろほう　【濾胞】　⇨卵巣

ろぼうのいし　【路傍の石】　山本有三*(ゆうぞう)の長編小説。第１編は1937年(昭和12)１～６月《朝日新聞》連載。1938年11月より第１編を改訂しつつ続編を《主婦之友》に連載したが，1940年７月までで中断。極貧の家庭に育った少年愛川吾一(ごいち)が，社会の矛盾と苦しみに耐えながら一人まえの文選工に成長していく姿を，愛情と誠意をもって描いたもの。社会制度批判の書とされて圧迫を受けた作者は，以後1949年まで作家として沈黙した。　〔金子　博〕

ろほうホルモン　【濾胞ホルモン】　⇨卵胞ホルモン

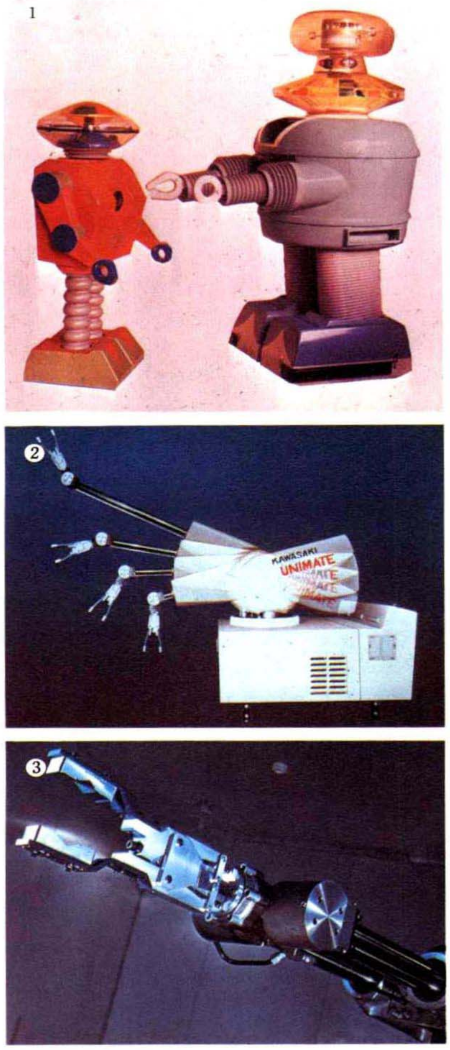
ろぼく　【蘆木】　古生代石炭紀から二畳紀にかけて栄えたシダ植物で，有節類に属する化石植物。カラミテスともいう。茎幹は細長で，高さは10mに達するものもある。茎には明瞭(めいりょう)な節があり，節から葉が輪生する。現生のトクサ類に似ている。

ロボット ［robot］ 広義には無人化された自動装置，たとえば無人気象観測装置のことを気象用ロボット，あるいは入院患者用の自動検温装置のことをロボートナースなどとよぶ。狭義には，従来の人造人間としてのロボット，工業用ロボットおよび知能ロボットなどに分けられる。ロボットということばはチェック語のロボタ(働く)に由来し，チェコスロバキアの作家チャペック*が戯曲《人造人間(ロボット)》で用いたのが最初である。人造人間としてのロボットは，子どものおもちゃとして親しまれてきたもので，ほぼ人間の形状をしており，足の下に車がついていて，モーターによってリモートコントロール方式で平面上を移動できるようになっている。さらに，口に相当するスピーカーをもち，内蔵されたテープレコーダーからの声を出したり，無線で操縦者の声を発したりする。また，中には目に相当するテレビカメラおよび耳にあたるマイクロホンを備えて周囲の状況をモニターすることが可能なものもある。

次に工業用ロボットは，製造工程の省力化において，たとえばテレビ受像機のブラウン管にコイルを取り付ける作業や自動車の組み立てにおける塗装作業など，今までの方法では自動化しにくかった分野を目的としている。したがって，ロボット自身は手および腕のみのものが大部分である。構成は，手・腕・制御装置および制御用コンピューターなどであり，一般に目・耳および足はもっていない。手の動きはあらかじめ教え込まれて記憶させてあり，作業においては記憶どおりの動作を行なう。なお，最近は手に触感覚をもつものもあり，つかんだ物を握りつぶさないように配慮してある。

知能ロボットは，現在各国で研究が進められていて，目に相当するテレビカメラを備え，立方体や円柱の大小などの判断をし，同じ大きさの立方体を積み上げたり，異なる大きさの直方体や立方体を箱詰めするなどの作業を行なうことができる。さらに，作業内容を音声で命令することも可能で，階段を上るものも研究されている。

将来は，各種のロボットが省力化された工場や，生命に危険な場所で大いに活躍するものと思われる。たとえば，掃除用ロボット・消防用ロボット・海底探索用ロボットなどがあげられる。なお，これらのロボットは機能本位で考えられているので，必ずしも人間の形になるとは限らない。 〔内山明彦〕



ロボット ①親ロボットα68(身長1.68m，重量95kg)(右)と子ロボットβ43(1.2m，40kg) 東京都児童会館 ②③工業用ロボット(川崎ユニメート) 外部装置との十分な情報交換ができ，コンベアライン・工作機械など生産システムの一員としての作業が進められる。③は同機の腕とフィンガー部分で，腕の伸縮・上下運動左右旋回，手首の曲げと旋回，指の開閉が自由自在に行なわれる。

ロボトミー ［Lobotomy］ 精神外科療法の一。前頭葉白質を切断して視床経路を断つ手術で，1935年モーニスにより創始され，その後フリーマン・ワットらによって改良実用化された。主として精神分裂病・鬱病(うつびょう)・爆発性精神病質などの，激しい興奮，不安，妄想(もうそう)や幻覚症状，あるいは癌(がん)などによる激痛などの場合に適用される。しかし，人間の脳を直接傷つけるものであるため，人道上問題が残る。

ローマ ［Roma］ イタリアの首都。人口280万(1972)。イタリア半島中央西部，チレニア海岸から約25kmにあり，テベレ川に沿う。古代ローマ帝国の首都でもあり，生産活動よりも政治・文化都市としての性格が強く，多くの遺跡が観光資源となっている。市内にあるバチカン市国は，全世界のカトリック教の総本山である。緯度上は東京より北にあるが温暖であり，夏は東京より2℃ほど低く，1月は4℃ほど高い。雨は夏以外は平均してみられるが，年降水量は650mmにすぎない。テベレ川左岸に高さ16m，周囲16kmの城壁で囲まれた古代ローマ地区があり，現在も都心となっている。ここにはカラカラ浴場跡をはじめとする古代の遺跡が多く，ローマ終着駅からベネチア広場にかけての繁華街もあり，ローマの観光・政治・商業・宗教・文化の中心をなしている。市街はこの外側に広がっており，新市街は13の城門から延びる道路を中心に，緑地帯を含む放射状形態をもつ美しい住宅地になっている。市内の工業は手工業的な奢侈品(しゃしひん)が中心であり，産業としての重要性は少ない。遺跡や有名な建造物は多数あるが，中でも中世以前のモンテパラチノ・コロセウム・コンスタンチヌス凱旋門(がいせんもん)などやルネサンス以降のサン-ピエトロ大聖堂・バチカン宮殿・サン-パウロ寺院などが代表的である。 〔梶川勇作〕



ローマ スペイン広場と石段。市民の憩いの場，観光客の訪れる場所として有名。正面はトリニターデーモンテー教会

ローマきょうかい 【ローマ教会】 ⇨カトリック教会

ローマ-クラブ ［Club of Rome］ 現在深刻な問題となっている天然資源の枯渇化，公害による環境汚染の進行，発展途上国における爆発的な人口の増加，軍事技術の進歩による大規模な破壊力の脅威などによる人類の危機の接近について科学的な予測を行ない，人類として可能な回避の道を探求することを目的として結成された民間の国際組織。1970年3月，スイス法人として設立されたもので，世界各国の科学者・経済学者・プランナー・教育者・経営者などで構成されている。1968年4月，ローマで最初の会合を開催したので，ローマ-クラブとよばれている。 〔深海博明〕

ローマじ 【ローマ字】 ラテン文字。ローマ帝国でいったん完成し，ヨーロッパの文字として世界に普及した字母文字。その字母(アルファベット26字)，また俗にそれによる日本語表記法。子音と母音(音素)を分離する，少なく限られた字母で，諸民族語の表記法に柔軟に適応できる。古代の地中海沿岸に流布した西ギリシア文字が中部イタリア北西部のエトルリアの文字となってからラテン語に用いられ，ローマ字になった。その過程でギリシア字母のガンマ(Γ)は，Cになった。はじめ19字が，のちギリ

シア本国からKXYZの4字を補い，12世紀までにIからJ，VからU，13世紀にはチュートン語のためにUからWが生まれ，合わせて26字になった。その間に大文字・小文字の組み合わせ，わかち書き法も完成し，やがてローマン体の復活とイタリック体の創案などがあった。現在，学術・技術・交通・通商などに通用する最も国際的な文字体系。諸国語の転写案・文字改革案にも採用されている。〔日下部文夫〕

【日本におけるローマ字】ローマ字は世界の多くの言語の文字であるが，言語によってその読み方・表記法が異なっている。国際電報などには日本語もローマ字を使うことになっている。

ローマ字で日本語を書き表わすことは，いまから400余年前，室町時代にキリスト教を伝え，布教した宣教師や江戸時代の蘭学者(らんがくしゃ)らによっても行なわれてきた。明治になって国語問題としてローマ字国字論も出たが，対外関係などにローマ字で書くことが多くなったために，つづり方が論議されるようになった。代表的なものは，1885年(明治18)にローマ字運動の団体羅馬(ローマ)字会が発表した羅馬字会式つづり方と，1900年ごろ田中館愛橘(たなかだてあいきつ)らが日本語に即したつづり方として提唱した日本式つづり方である。羅馬字会式はヘボン*の《和英語林集成》に採用されたので，ヘボン式ともよばれ，のちにローマ字ひろめ会がこれを補正したのでひろめ会式ともよばれ，英語教育などにも採用されて広く普及したため，英語式あるいは標準式ともいわれるが，日本式は日本ローマ字会などによって普及され，つづり方論争が盛んに行なわれた。そのため，官庁・教育・学術・一般社会などにおけるローマ字つづりが不統一・混乱をみるに至り，1936年(昭和11)，内閣訓令によって，標準式と日本式を折衷したつづり方が制定・公布されたものが，訓令式である。その後もつづり方がこれにまとまらないため，1954年，再び内閣訓令によって，訓令式を第1表として一般に国語を書き表わす場合に用い，国際的関係その他従来の慣例をにわかに改めがたい事情ある場合は第2表(標準式・日本式)によってさしつかえないことになった。〔石黒　修〕

ロマしょ　【ロマ書】《新約聖書》の第6番めの書。〈ローマ人への手紙〉ともいう。使徒パウロが第3次伝道旅行中，コリントでローマの信徒たちにあてて書いた書簡。したがって，56年末から57年初めごろに執筆されたと思われる。キリスト教史上最初の本格的神学論文と評価され，後世への影響は大きい。ルターが本書の〈信仰のみによって人は義とされる〉を宗教改革の根本思想としたことは有名。

ローマしんぐん　【ローマ進軍】1922年10月28日，ナポリに集結したファシスタ党*の黒シャツ隊40,000はローマに向け進軍を開始した。政府は戒厳令を敷こうとしたが，国王はこれを拒否して29日ムッソリーニに組閣を命じた。これをローマ進軍といい，ムッソリーニ内閣成立の契機とされるが，すでに政権獲得の体制を整えたファシスタ党の世論操縦のための演出にすぎなかった。

ローマていこく　【ローマ帝国】古代の都市国家ローマが，数百年の間にイタリアのみならず地中海世界全体を支配下に入れてつくりあげた大帝国。

【建国】ローマ人はもと，BC1000年前後に北方からイタリア半島に移動して来たインド-ヨーロッパ語族に属するイタリキ(イタリア)人の一派ラテン人で，そのうちテベレ川の下流流域に定住していたグループが，近隣にいたイタリキ人の他の一派サビニ人と合体して，七つの丘を中心に集まって一小都市国家をつくった。伝承ではこの建国はBC753年とされるが，今日ではBC600年前後であったと考えられている。初期のローマは，北方の強国エトルリア*と，半島南部のギリシア人植民市から，文化的な影響を受けたが，中でも前者の影響は決定的で，内臓占いや鳥占い，剣奴の真剣勝負など，多くの重要な習俗を受け継いだ。伝えによるとローマははじめ王政で，初代の王ロムルス(→ロムルス・レムス)のあと6人の王がいたが，そのうち第5，第6，第7代めの王はタルクィニウスというエトルリア貴族の名をもっており，当時おそらくエトルリアの支配下にはいっていたと思われる。この最後の王が暴政を行なったため，紀元前6世紀末，貴族は反抗して王を追放し，自分たちの手による共和政を樹立した。

【共和政の成立】共和政は王の代わりに，任期1年,定員2名の貴族出身の執政官*(コンスル)を設置したが，貴族の元老院*や全市民の集会である民会*などは，王政時代からそのまま受け継いだ。共和政時代にはいるとまもなく貴族(パトリキ)と平民(プレブス)の対立が激化した。貴族とは王政時代以来の富裕な有力者で，建国以前の各小共同体の首長クラスの家がらであり，建国後も小共同体がローマ国家に参加し移住してくると，その首長クラスはローマの貴族として受け入れられた。ところが共和政時代にはいるころから，貴族はその門を閉ざして身分として固定化したため，平民と事ごとに対立するようになっていた。BC495年この対立は爆発し，貧民の借財問題をきっかけに平民はいっせいに市外退去(セケッシオ)を行ない，独立する気配をみせた。翌年，貴族は，これまでの全市民の民会(兵員会)のほかに平民だけの民会(平民会)を設置し，護民官職を置くという譲歩をして，事態は解決した。護民官とは，執政官など国家役人の命令や，兵員会・元老院の決議を拒否あるいは妨害して平民の利益を守る職であり，また平民会は，正式の民会ではないがその開催や決議が許されたため，その権限を使って平民の意思表示を行ない，貴族に対して政治的圧力をかけることとなった。これ以後も貴族と平民の対立は続いたが，BC450年の，最初の成文法としての十二表法*の制定は，両身分の妥協を示すものであった。こうして，貴族の政治的指導下に，平民とくにその富裕者が重装歩兵と

第1表　〔(　)は重出を示す〕

a	i	u	e	o			
ka	ki	ku	ke	ko	kya	kyu	kyo
sa	si	su	se	so	sya	syu	syo
ta	ti	tu	te	to	tya	tyu	tyo
na	ni	nu	ne	no	nya	nyu	nyo
ha	hi	hu	he	ho	hya	hyu	hyo
ma	mi	mu	me	mo	mya	myu	myo
ya	(i)	yu	(e)	yo			
ra	ri	ru	re	ro	rya	ryu	ryo
wa	(i)	(u)	(e)	(o)			
ga	gi	gu	ge	go	gya	gyu	gyo
za	zi	zu	ze	zo	zya	zyu	zyo
da	(zi)	(zu)	de	do	(zya)	(zyu)	(zyo)
ba	bi	bu	be	bo	bya	byu	byo
pa	pi	pu	pe	po	pya	pyu	pyo

第2表

sha	shi	shu	sho
		tsu	
cha	chi	chu	cho
		fu	
ja	ji	ju	jo
di　du	dya	dyu	dyo
kwa			
gwa			
			wo

〔そえがき〕

前表に定めたもののほか，おおむね次の各項による。

1　はねる音〈ン〉はすべてnと書く。例：sinbun

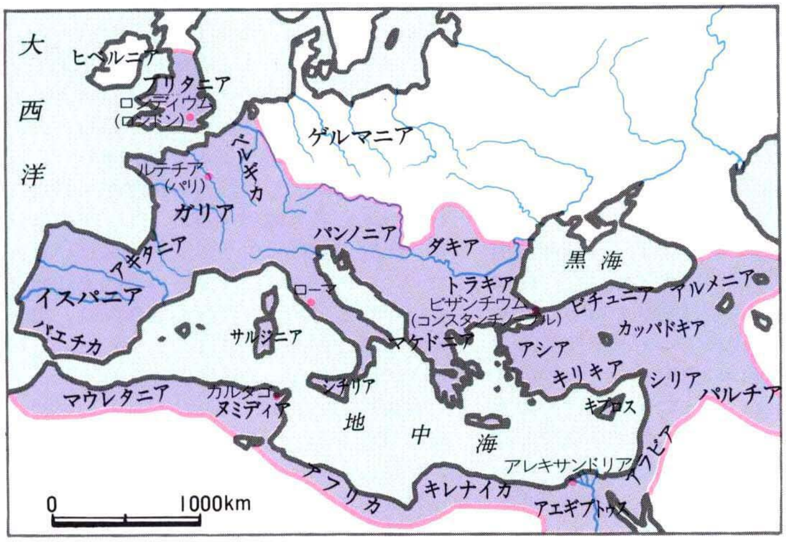
2　はねる音を表わすnと次にくる母音字またはyとを切り離す必要がある場合には，nの次に’を入れる。例：kin’yôbi

3　つまる音は，最初の子音字を重ねて表わす。例：kitte

4　長音は母音字の上に^をつけて表わす。なお，大文字の場合は母音字を並べてもよい。例：ôkii，Oosaka

5　特殊音の書き表わし方は自由とする。例：otottsan

6　文の書きはじめ，および固有名詞は語頭を大文字で書く。なお，固有名詞以外の名詞の語頭を大文字で書いてもよい。







ローマ帝国

(上左)トラヤヌス帝(在位98～117年)時代のローマ帝国の領域
(上右)ローマのパラティヌス丘。初代の王ロムルスはこの丘に新しい都市ローマを建設，ローマ帝国発祥の地と伝えられる
(下)ヌミディアのタムガディ。2世紀初頭に建設された都市で，広場・神殿・バシリカ・劇場・コロセウム・浴場など，ローマ帝国の典型的な都市の遺構を示す

して従軍したローマ国軍は，南方ではアエクィ人やウォルスキ人を破り，北方ではエトルリアの強大な都市ウェイイを10年の苦戦ののち，BC396年陥落させ，しだいに領土を広げていった。

〔イタリア半島の覇権(はけん)〕 BC387年，突如ケルト人が南下して半島に侵入し，ローマ市を占領して放火略奪する事件が起こった。困難な戦後の復興の中で貴族と平民の争いは再び激化し，長く政情は混乱した。これを収拾したのがBC367年に成立したリキニウス法*で，これは一方では借財に苦しんだ貧民を救済し，他方では大土地所有の形成をおさえて，貧富の差の拡大による国家内の分裂をとどめようとするものであった。またこの法案によって，これまでの平民は執政官になれないという差別規定が撤廃され，貴族と平民との政治的平等が実現した。しかし現実に執政官になれた平民は富裕な最有力者だけで，彼らと有力貴族の政治的同盟からノビレスとよばれる新たな貴族が生まれ，共和政の終わりまで彼らの〈ノビレス支配〉が続いた。BC367年の政治的妥協によって態勢を整えたローマは，再び周囲の都市を征服していった。まず，対ローマ同盟を結んだラテン諸都市をBC338年に制圧し，3次にわたる戦争でBC290年サムニテス人を屈服させた。これらの戦争のため，BC287年，再び貴族と平民の抗争が激化し，平民の市外退去が再び行なわれたが，平民会の決議をそのまま全国家の正式の法として認めるという貴族側の譲歩(→ホルテンシウス法)によって事態は解決した。これで貴族と平民の身分闘争は終わった。やがてローマは南イタリアのタレントゥムを攻め，タレントゥムの救援要請にこたえて遠征してきたエペイロス王ピュロスをも退けて，BC272年タレントゥムを占領してイタリア半島を統一し，BC270年には完全に南イタリアにも覇権を確立した。

〔地中海への進出〕 それまでローマは，西地中海の最強の海上勢力である商業都市カルタゴ*と数次の条約で平和を保っていたが，ついにこれと衝突し，3次にわたるポエニ戦争*に突入した。このときローマははじめて艦隊を建造して戦い，第2次に際しては敵の名将ハンニバル*のイタリア侵入を受けるなど長年の苦戦を重ねたが，ついにこれに勝ち，BC201年シチリア・コルシカ・スペインのカルタゴ領などを海外領として獲得した。この間にローマは，ポー川以北の北イタリア，アドリア海沿岸，ガリア地方に軍を進め，平定した地方にはいくつもの植民市を建設して，全イタリアを完全におさえるに至った。他方，ポエニ戦争中に敵に味方したとか，同盟関係が原因となって，紀元前3世紀末からマケドニア・シリアなど東部地中海の諸勢力とたびたび戦った。マケドニア王ペルセウスを破ったピュドナの戦い(BC168)以後，ローマの戦後処理は加速度的に過酷となり，領土併合や人質と大量の捕虜の奴隷化があいついだ。BC146年の貿易上の対抗都市コリントとカルタゴの徹底的破壊はこの武力支配の極点であり，BC133年にはスペインの反乱も鎮圧され，敵の本城ヌマンティアは焼き払われた。同じ年，これまでローマの友邦だったペルガモン王国のアッタロス3世が死に，その遺言によって王国はローマに遺贈され，ここに早くも地中海はローマの内海のようになった。こうした驚異的な海外征服の半面では，ローマ市民の貧富の差がはなはだしくなり，重装歩兵として出陣した農民層が多く没落するとともに，ノビレスや大商人は私腹を肥やして大土地所有者となり，奴隷制大農場を経営してますます富む者も多かった。こうした国内社会の危機を救うために，BC133年グラックス兄弟*が改革運動を起こしたが，兄弟とも反対派貴族の手にかかって殺され，大土地所有者と貧民の増大は再び進行した。

〔内乱の時代〕 グラックス兄弟の横死があたかも警鐘となって，1世紀にわたる内乱が始まった。この内乱は，国内の貧富の差によって生まれた危機を解決する方策をめぐって，貴族層が2派に分かれて抗争したものであって，マリウス・キンナ・スラ・

ポンペイウス・クラッスス・カエサル・アントニウスらの将軍・政治家が相次いで覇権を握った。この内乱とからんで，多くのイタリア同盟市が，ローマと対等の地位を要求し，ローマ市民権の付与を求めてイタリア同盟市戦争（ＢＣ91～ＢＣ88）が戦われ，またイタリア半島で過酷な生活をしいられていた奴隷が剣奴スパルタクス*を首領として蜂起(ほうき)した大奴隷反乱（ＢＣ73～ＢＣ71）が起こった。これらはいずれも，共和政体をもった一都市国家であるローマが巨大な海外領を支配する大帝国となっていたことに由来する支配構造の矛盾，ローマ都市国家内部の分裂と矛盾の現われであったから，抜本的解決なしに平定しうるものではなかった。その解決は一人支配の方向への構造転換でなければならなかったが，ＢＣ44年，カエサルがその方向への模索を試みて失敗し暗殺されたのち，養子オクタビアヌスがカエサルの軍事力と財力・勢力を受け継ぎ，最後に残った敵対武将アントニウスをアクチウムの戦い*（ＢＣ31）に破って，ついに地中海世界を平定することになった。この内乱の間，アルメニア・シリア・アラビア・エジプトなどがローマの支配下に入れられていった。

【元首政】ＢＣ27年の元老院会議の決定で新しい国制が出発した。オクタビアヌスはアウグストゥス*という尊称を与えられ，全帝国支配領を元老院と分掌統治することとなった。彼の地位は共和政時代の官職と異ならず，ただ単に市民の第一人者という意味でプリンケプス*とだけよばれたので，この政体をプリンキパトゥス（元首政）とよぶが，事実上は帝政であった。新政府は属州統治と，行政・財政などの帝国官僚組織の整備を進め，ユーフラテス川・ドナウ川・ライン川を国境とする帝国防衛体制を固めた。この間，ネロ帝*の暴政を倒すための四帝並立の内乱（69）があり，ユダヤ人の大反乱は70年エルサレムの完全破壊とユダヤ人の祖国追放によって鎮圧された。帝権はドミチアヌス帝に至って再び専制化したが，その暗殺（96）のあと，ネルバ・トラヤヌス・ハドリアヌス・アントニヌス-ピウス，マルクス-アウレリウスの５人のすぐれた皇帝があいついで位につき，帝国は最盛期を迎えた。古くから五賢帝*時代とよばれているこの時期に，帝国領土は拡大し，国内平和は比較的保たれた。特にトラヤヌス帝は東方のナバテア王国を合併し，パルチアの首都クテシフォンにまで攻め入り，ダキア・アラビア・アルメニア・メソポタミア・アッシリアの新属州を追加し，アフリカではサハラ砂漠(さばく)の北端にまで進出し，タムガディなどの都市を建てた。次のハドリアヌス帝は国境守備を固める政策に転じ，ブリタニアでは〈ハドリアヌスの城壁〉を建設し，ゲルマニアでも長城（リメス）を強化した。国内各地ではローマ化と都市化が進み，この〈ローマの平和*〉の中で商業活動も栄え，帝国各地の特産品の交換のほか，ゲルマニア・インド・中国との貿易も盛んに行なわれた。こうした繁栄も，マルクス-アウレリウス帝の時代に至るとパルチア軍の侵入，伝染病の流行，ゲルマン人の侵入などのあいつぐ危機によって，にわかに暗い影がさしはじめた。

【危機の時代】こうして始まった危機の根源は国内体制の矛盾の激化にあった。奴隷制経営を主体とした生産様式の行きづまり，消費市場の変質に由来する帝国経済構造の変化，私的資本形成の萎縮(いしゅく)などの経済的要因のほかに，いまだに都市国家による他の都市国家や共同体に対する支配という擬制を捨てきれない支配構造の矛盾があった。セプティミウス-セウェルスから始まるセウェルス朝の危機乗り切り策は，212年ローマ市民権を帝国内全自由民に与えることによって都市国家的擬制を捨てるとともに，軍制を根本的に改革し，軍隊と官僚に多くの特権を与え，これを背景に帝権の強化を図り，また経済についてはその構造の病弊を除くのではなく強権的な統制経済とインフレ政策にたよるということであった。帝権強化策の一環としてシリアの太陽神をローマの最高国家神とし，帝権の宗教的支柱としようともした。しかし，226年パルチアが滅び，ササン朝ペルシアが興るとローマ国境に対して攻勢に転じ，また，北方でもドナウ国境で強力な侵入を受けるなど，混乱のうちにセウェルス朝が倒れ（235），これ以後約50年間は，26人の皇帝が乱立する軍人皇帝時代*とよばれる内乱時代となった。それらの皇帝の中には，ペルシアの捕虜となったウァレリアヌスもあったが，ガリエヌス・アウレリアヌスらのすぐれた皇帝も現われ，しだいに各種の改革と国境防衛に成果をあげていった。しかし50年間の内乱を平定し帝国を新たな軌道に乗せたのはディオクレチアヌス*で，国内治安と辺境の安定に大いに治績をあげ，帝国を４人の皇帝で分治する四分治制を開いた。しかしインフレの進行を止めようとして301年に発布した最高公定価格令や，絶対主義的な皇帝権力の宗教的イデオロギーとして古ローマ宗教を復興するために303年に始められたキリスト教徒大迫害は，いずれも失敗した。

【キリスト教的ローマ帝国】これらの改革を受け継いだ次の皇帝コンスタンチヌス１世*（大帝）は，帝国内の全人民・全職業人・全身分を強力な統制下に国家的需要に結びつけ，帝国の防衛と治安を維持しようとする強制国家を完成した。この国家を元首政と対比してドミナトゥス（専制君主政）とよぶ。そして数百年の迫害に負けず，ますます強力となっていたキリスト教を公認して，帝権を正当化する宗教的イデオロギーとして利用した。こうして帝国は，市民の自由のひとかけらもない専制的なキリスト教帝国として再生し，その首都として新都コンスタンチノープルが330年に開都式を祝った。コンスタンチヌスの体制は４世紀を通じて強化され，テオドシウス１世*に至って一つの帰結に達する。キリスト教は正式に国教とされ，異教や異端は弾圧された。コロヌス*（小作人）は農地からの移動を禁じられ，職人もその職場を離れることを許されず，国家の強制は生活のすみずみにいきわたった。しかし，375年フン族の西進に始まるいわゆるゲルマン民族の大移動は，以後の帝国の命運を決するものとなった。このときは西ゴート族の帝国内安住許可によって解決がついたが，これはむしろ他の諸種族に対する誘い水となった。テオドシウスの死後，帝国が東西に分治されるようになったころから西ゴートは再び移動と略奪を始め，410年にはアラリック王に率いられて永遠の都とうたわれたローマ市を占領し，３日間の略奪を働いたが，それより少しまえからガリア地方にはアラン・スエビ・バンダル・ブルグントなどの諸種族が侵入して，その多くはスペインにまで達した。これ以後５世紀末までに，西ゴートは南西ガリアに，バンダルは長駆していまのチュニジアに，ブルグントは東ガリアにそれぞれ定着した。これに対して帝国の西部（西ローマ帝国）を統治した政府は懸命に建てなおしを図り，将軍アエチウスは451年，ガリア中部にまで進出したアッチラ*王の率いるフンの大軍をカタラウヌムの戦い*で退けるなど奮戦したが，蛮族定着地の増加による財政収入激減で政府の維持は困難となり，476年には皇帝が部下のゲルマン人出身の傭兵(ようへい)隊長オドアケル*によって廃位され，西ローマの皇帝はいなくなった。帝国の東部はゲルマン人の侵入と定着が西のようにはなはだしくなく，財政的にも比較的良好であり，コンスタンチノープルが難攻不落の要塞としてたえず補強されたことも幸いして，この激動の時代を切り抜け，西の皇帝の消滅後も西部に対する宗主権をもちつづけ，６世紀にはいるとユスチニアヌス*の時代を迎えた。

【歴史的意義】ローマの文化は独創的ではなかったと一般に説かれるが，ローマ帝国の歴史的意義はその生み出した個々の文化的遺産によりも，帝国の存在そのものにあった。ローマ帝国がその版図に収めた地域は，帝国以前はもとより，以後今日に至るまで一つの支配権のもとに統合されることは二度と再びなかった。この巨大な帝国の中で，オリエントの文明もギリシア人の思想・芸術・文化も，またヘブライ人の思想とキリスト教も，すべて一つのものに融合されて，東はビザンチンの世界に，西は西ヨーロッパの世界に伝えられた。特にローマ帝国理念とキリスト教という異質の歴史的形成物が地中海世界の中において敵対的関係から一つの思想体系へと融合し，また

キリスト教思想の地盤において〈ゲルマン人＝蛮族〉観が克服されて歴史のにない手としてのゲルマン人観が確立されたことは，古典古代と地中海世界の完結性を破って新たな西ヨーロッパ世界の形式を可能ならしめた不可欠の歴史的前提であった。➔ビザンチン帝国　〔弓削　達〕

ロマネスクびじゅつ　【ロマネスク美術】ゴシック美術*に先行するヨーロッパ中世美術の様式。もと建築様式の用語であったが，今日では10世紀半ばから12世紀末までの美術全体をさして用いられる。中央集権的カロリング朝が解体したあと，ヨーロッパ各地に新しい王侯の勢力が強まり，各地方の独自性を発揮した新しい美術が興ってきた。カロリング朝の伝統の強いドイツ・北フランスを中心とする北方圏と，東方の影響を受けた北イタリア・カタロニア・南フランスを中心とする南方圏とに分けられるが，これらの要素を融合し，フランスを中心に完成された。



ロマネスク美術　聖ニコラ教会堂内陣支柱上部に描かれた〈キリストによるアダムとイブの地下界からの救出〉

〔建築〕カロリング朝の木造天井(てんじょう)に代わって截石(せっせき)による半円筒ボールト・交差ボールトによって天井をおおった。ボールトの荷重や横圧に耐える必要から壁は厚く，扶壁(ふへき)を設け，窓面積は小さく外観は塊量的で重厚である。北イタリアのロンバルジア・カタロニアにおいて9～10世紀ごろ〈初期ロマネスク建築〉が興った。プランは単純な三廊式バシリカで，小割石を用いて築き，外壁をロンバルド帯とよばれる小アーチ列をもって装飾する。この〈初期ロマネスク〉はドイツにも波及し，ドイツでは東西に内陣を設ける二重内陣式形式を完成した。フランスではブルゴーニュ派オーベルニュ派・ポワトー派などの諸流派に分類されるが，10世紀末から11世紀にかけて，ツールネー・クリュニー・ベズレー・クレルモン・ポワチエなどの地に次次に大規模な聖堂を建造し，ロマネスク美術の中心となった。北フランスは建築の発達が遅れたが，イル-ド-フランス地方はオジーブ穹窿(きゅうりゅう)を発達させ，ゴシック美術を準備することになった。イギリスは矩形(くけい)の長大な形態を好むが，ノルマンジーの影響のもとで12世紀には独自の直線的な大建築を完成している。

〔彫刻〕中世初期に大彫刻は衰退したが，工芸としてカロリング朝時代から受け継いだ技術が，はじめは青銅扉(ひ)・聖遺物箱の浮彫としてドイツを中心に発達をみせた。ロマネスク彫刻は11世紀から西ヨーロッパの南地方で建築の装飾として出現し，正面，アプスの外壁，柱頭，扉口(とびらぐち)や窓のアーチ，タンパンなどに，人物・怪獣・植物などをモチーフとして施されている。ロマネスク彫刻は，独立した作品として建築の中に置かれているのではなく，建築の構成要素に従属しており，また波形唐草(からくさ)文，忍冬文といった文様の線にも服従してその形態が変形され，その配置・姿態が決定されている。12世紀には最も円熟した段階に達した。

〔絵画〕教会内部は色彩でおおわれ，装飾と同時に教化のためにも壁面は壁画で埋められていた。壁画はビザンチンの影響を受けているが，平面的な単純な様式化によって超絶的な神を表現している。写本装飾の芸術は遺例も多くロマネスクの絵画の重要な部門である。　〔末吉雄二〕

ロマノフちょう　【ロマノフ朝】　ロシアの王朝。モスクワの貴族アンドレイ-コブィラが文献上始祖として知られている。ロマン-ユリエビチのとき，その名をとってロマノフ家を称した。その娘アナスタシアがイワン4世の皇后となり，リューリック朝が断絶したのちの動乱を経て，彼女の甥(おい)フョードル(のちの総司教フィラレート)の子ミハイル-ロマノフが，1613年即位してロマノフ朝が始まった。以後約300年にわたって基本的に農奴制・貴族制を保持し帝政が存続した。1917年二月革命*によってツァーリ政府ロマノフ朝は打倒された。　〔山県弘志〕

ローマのへいわ　【ローマの平和】　古代ローマ帝政初期。オクタビアヌスがアウグストゥス*の称号を得て事実上の帝政が始まったBC29年から，約200年間の古代ローマの黄金時代。内に治安が確立し，外に領域拡大と辺境防備が強化され，ラテン文学も栄え，土木建築も盛んに行なわれ，ローマの永遠性が確保された。五賢帝が現われたのもこの時代であったが，マルクス-アウレリウス*帝のとき，この平和も終わり，混乱の軍人皇帝時代となる。

ローマほう　【ローマ法】　ローマの最初の立法は，BC450年ごろの十二表法*で，貴族と平民の身分闘争の調停と妥協のための立法であったと思われるが，宗教的・民族的色彩も濃厚な古代法であった。ローマがやがて海外領をもつようになると，それまでの古代的都市法では不十分となり，ローマ市民にだけ適用される市民法と，ローマ市民・外人双方に適用される万民法の体系が形成された。ローマ法はもともと伝統主義的形式主義の法律であったが，法務官が職権によって自由な法創造を行なった法務官法や，勅許解答権をもった法曹家(ほうそうか)の発した解答や学説を規範として認めた法曹法は，ローマ法の固定化を防ぎ，自由な発展の道を開いた。共和政期には重要であった民会立法や元老院議決は帝政期にはいるとしだいに用いられなくなり，これに代わってさまざまな形式と名称をもつ勅法が法創造としては重要となった。これらの膨大な法律は6世紀半ばにユスチニアヌス1世の命によって，学説集・法学提要・法典(勅令集)の3部からなる《ローマ法大全*》として編纂(へんさん)された。中世西ヨーロッパにおいてはゲルマン法系が一般に行なわれていたが，中世社会の発展に伴って世界法的取引法としてのローマ法の復興が興り，まず13世紀のフランスで，次いで15～16世紀に最も大きな規模でドイツにおいて〈ローマ法の継受〉といわれる現象が起こった。イギリス・アメリカ法に対してはローマ法の一体的継受はなかったが，思考法や用語の継受は明らかであり，明治以来の日本法に対してもドイツ民法草案を通じて継受は顕著に行なわれた。このようにローマ法は，古代ローマ人の法であるにとどまらず，現行法にまで強い影響を与えている人類最高の法文化である。　〔弓削　達〕

ローマほうおう　【ローマ法王】　⇨教皇

ローマほうたいぜん　【ローマ法大全】　東ローマ皇帝ユスチニアヌス1世*が，トリ

ボニアヌスらに命じてローマ法を集大成させた法典。528年から534年までを要したという。学説集・法学提要・法典(勅令集)からなり，17世紀に〈教会法大全〉に対し，〈ローマ法大全〉とよばれるようになった。ナポレオン法典に多くの影響を与えた。

ローマれき【ローマ暦】 ローマ帝国においてユリウス暦が採用されるまで用いられていた太陰太陽暦の一種。現在世界で広く使われているグレゴリオ暦はローマ暦に起源をもっている。原則としてうるう月を1年おきにつくり，平年を355日，うるう年を377日または378日とする不完全な太陰太陽暦で，月名と各月の日数は次のとおりである。

①Martius	31日	⑦September	29日
②Aprilis	29日	⑧October	31日
③Maius	31日	⑨November	29日
④Junius	29日	⑩December	29日
⑤Quintilis	31日	⑪Januarius	29日
⑥Sextilis	29日	⑫Februarius	28日

〔木下　宙〕

ロマン [Jules Romains] (1885～1972) フランスの小説家。いわゆるユナニミスム(一体主義)で知られ，個人・集団・社会などを昇華した超個人的存在を想定する思想を小説・詩などに定着させようとした。若くしてアルコス・デュアメル・ビルドラックらの文学的共同体〈アベイ〉に参加，その後哲学教師などを経て作家となった。大作《善意の人々》や三部作《プシシェ》など小説のほか，詩集《一体生活》，劇作《クノック》などがある。〔池田公麿〕

ロマンしゅぎ【ロマン主義】 17世紀半ばから18世紀のヨーロッパで合理主義的・古典主義的傾向に対して生まれた思潮。その語ロマンチシズムは中世の愛と冒険の物語ロマンスに由来し，狭義には文学・美術において写実主義・古典主義に対立する立場をさす。すなわち，写実主義が経験と実生活を尊重するのに対し，ロマン主義は想像力のつくりだす世界を重視し，また古典主義が理性的均整を美の理想とし，美の普遍的規準を信ずるのに対して，ロマン主義は感情的解放の動的な生命力に美を見いだし，美の普遍的規準を拒否して個性美を主張する。このようにロマン主義ははじめは芸術上の一思潮であったが，たとえばルソーにおいては，彼の文明批判，自然へ帰れの主張は社会体制の矛盾と抑圧された人間の現実の指摘をも同時に意味し，政治思想・社会思想とロマン主義の結合として開花する。しかしこれは異例で，ロマン主義は一般に現実を軽視し，既成権威への批判の際，感情的にはきわめてラジカルであるが，現実的には感情的なナショナリズムと結合して，しばしば既成権威を強化することになる。また，そうでない場合には現実逃避となって現われたりする。この現実逃避は既成権力の桎梏(しっこく)の強いドイツではいっそう顕著で，感情・想像力の尊重は神秘主義の傾向，個性の重視は内面的反省への傾向と結びつき，無限定・無形への憧憬(どうけい)を内に秘めた独特なドイツ観念論となって結実した。この際にもロマン主義と政治との結合がみられ，フィヒテの強烈なナショナリズム，ヘーゲルの国家主義的政治哲学となっている。ロマン主義は一つの人間解放の主張に裏づけられた思潮を形成したが，その反合理主義的傾向のために，また意識生活の解放すなわち人間の解放とした限界のために内面的人間の解放にとどまり，民主主義的傾向や英雄崇拝的傾向と結びついてファシズムの精神的土壌(どじょう)ともなった。〔石井忠厚〕

ヨーロッパの文学史では，規範的・理性的な古典主義に対する文学概念・文学現象をロマン主義といい，特にその空想性の一面を取り上げて，写実的なリアリズム文学と対置することもある。18世紀以降に成立した市民社会における個性と自我の発現に基礎を置き，感情表現と自我意識の強調を特徴とする。18世紀後半イギリス・ドイツに勃興(ぼっこう)し，のちフランスその他に広がって，19世紀半ばに衰えた。イギリスではワーズワースとコールリッジの共著《叙情歌謡集》が先駆となり，ほかにブレイク・シェリー・バイロンらがおもな詩人である。ドイツでは青年ゲーテやシラー，シュレーゲル兄弟，ノバーリスらを前期，ホフマン・ハイネを後期として，イギリス同様1830年代までロマン主義文学は栄えた。フランスではラマルチーヌ・ユゴー・ミュッセが名高い。ロマン主義文学には新興市民階級の進歩性とともに，情熱の過多による幻想感溺(わくでき)や怪奇趣味・過去回帰などの消極面もある。日本の場合，1890年代から20世紀初頭まで(明治20～30年代)〈浪漫主義〉として思想・芸術上の有力な傾向となった。雑誌《文学界》《明星》《しがらみ草紙》《スバル》などが中心的存在となり，中産階級の知識層が，半封建的な官僚制や権威主義，因襲的道徳に反発して，自我の自由な伸張を求めた。ただし，思想的性格は多様で，自由民権運動・反欧化精神・キリスト教・ニーチェ哲学など，数多くの要素がロマン主義文学として結実したといえる。詩歌では島崎藤村・与謝野晶子(よさのあきこ)・蒲原有明(かんばらありあけ)，小説では森鷗外(おうがい)・幸田露伴・泉鏡花・国木田独歩・樋口(ひぐち)一葉らが代表的で，思想・文学者として北村透谷・高山樗牛(ちょぎゅう)が著名である。日本の場合，ロマン主義は自然主義の登場によって十分な開花はみられなかった。➜ロマン派音楽〔長崎勇一〕

ロマンス [romance] ヨーロッパ中世の民衆語であるロマン語で書かれた物語をいう。英雄の戦闘ぶりや宮廷女性の恋愛をうたったものが多く，吟遊詩人によって，スペイン・フランス・イタリアなどに流行した。これらの物語は近代小説の起源となるが，英米文学では，近代リアリズム小説を〈ノベル〉とよび，それ以前の小説を〈ロマンス〉という。なお音楽において，叙情的な歌曲や器楽小品をよぶ用語として用いられる。〔田島　修〕

ロマンスしょご【ロマンス諸語】 ロマンス語群ともいう。ラテン語から分かれたイタリア・イスパニア・ポルトガル・フランス・ルーマニア・カタラン・プロバンス・レト-ロマンなど各語の総称。インド-ヨーロッパ語族イタリック語派に属する。ローマ帝国の領土内で8世紀ごろから原住諸語を駆逐して俗ラテン語が行なわれるようになり，原住語の影響を受けながら，それぞれの土地に定着して独自の言語となり発展して今日に至った。ルーマニア語のように歴史地理的事情でかなり特殊な成長を遂げた言語もあるが，互いに姉妹語として，音韻・形態・語彙(ごい)の各面にわたって大きい類似性を示す。豊富な文献・資料を残しており，ロマン(ス)語比較言語学はインド-ヨーロッパ比較言語学の中で最も進んだ分野である。〔黒木義典〕

ロマンはおんがく【ロマン派音楽】 ヨーロッパの19世紀の音楽を代表する呼び方で，それを単に19世紀音楽とよぶより，ロマン派と形容するのは，音楽も同時代のロマン的なヨーロッパ文化の全般的なあり方に結びつけられているからである。音楽様式的には，古典派音楽の様式が後期のベートーベンによって変容を受け，その方向が初期ロマン派とよばれるウェーバー・シューベルト・ベルリオーズ・メンデルスゾーン・シューマン・ショパンらによって継承されたことによって成立した。次に続く，リスト・ワーグナー・フランク・ブラームス・ブルックナーらが中期ロマン派として成立され，さらにその後のプッチーニ・マーラー・R.シュトラウスらが後期ロマン派として整理される。また，時代的には中期でも，ロシアのムソルグスキー，チェコスロバキアのスメタナやドボルザーク，あるいは後期のフィンランドのシベリウスらは，国民楽派として整理されることも多い。

ロマン派は，古典派の機能和声を受け継ぎながら，それらを完全にはくずさない範囲で，新しい和音や転調法を導入することによって拡大した。古典派の音楽形式と異なり，性格的な小品やそれをまとめたもの，あるいは交響詩が生まれたのもロマン派の特徴であり，音楽の組み立て方では，主題や動機で全体をまとめる循環の方法が高度に開発された。また，リストやパガニーニに代表されるビルトゥオーソ(名人)が輩出したのもこの時代の特徴である。ロマン派は形式のために形式を変形するよりも，むしろ，人間の情動への働きかけや，文芸的なプランにしたがって新しい形式をつくっていった。民俗的な素材と結びついたり，

自国の民族的なものの強調も，この時代の特徴であるが，これも抽象的な国際語法よりも，個別的な語法を求めるロマン派の考え方に一致するものである。〔徳丸吉彦〕

ロミオとジュリエット シェークスピア*の悲劇。1595年ごろの作と推定される。ベローナの名家，モンタギューとキャピレットの両家の反目のため，両家の子どもたちであるロミオとジュリエットの恋は許されず，ついに2人は死に至るという青春悲劇で，イタリアのロマンス*に取材したものとされている。物語はわずか4日間のうちに，恋愛の発端，結婚，そして死までを描き，若い2人の悲劇はいっそうその生命力の燃焼を感じさせる。当時勃興(ぼっこう)しつつあったイギリス市民階級のエネルギーを反映しているとはいえ，一種の明るさをたたえた悲劇である。〔五十嵐一〕

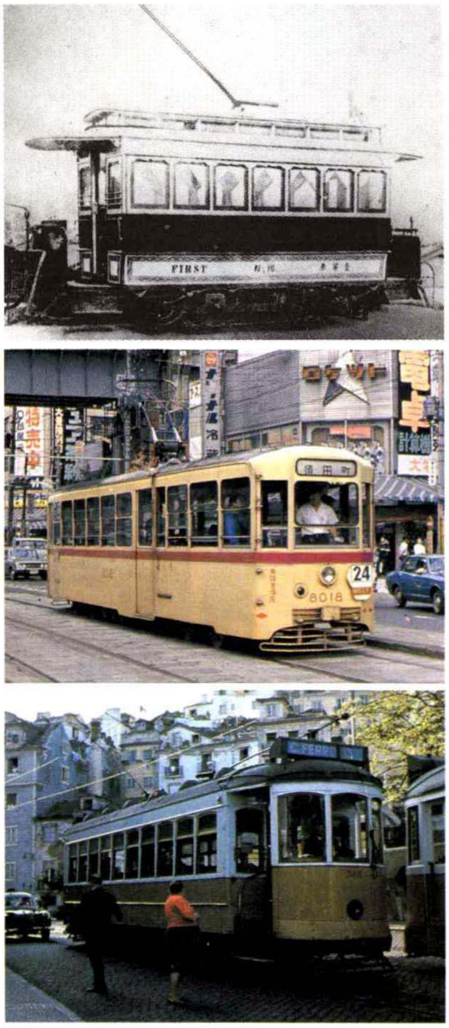
ローム ［loam］ 砂と粘土がほぼ等分に混じり合った土壌(どじょう)や風化堆積物(たいせきぶつ)。厳密な定義や用語法は，国により，また学問分野により，いくぶん異なる。日本農学会では，粘土(粒径0.01mm以下の粒子)を25～37.5%含むものをロームとよんでいる。関東地方に広く分布する関東ローム*はこの例である。土壌学では，可塑性が高く，粘稠(ねんちゅう)度が高く，孔隙(こうげき)に乏しい土壌物質をさすこともある。

ロムルス・レムス ［Romulus, Remus］ 伝説上のローマの建設者。アエネアスの子孫でアルバ-ロンガの王ヌミトルの娘レアー-シルウィアが，マルス神から得た双生児の兄弟。成長した2人はアルバ-ロンガを離れ，今日のローマのある土地へ来て建設を始めた。そのとき，ふとしたことでロムルスはレムスを殺した。ロムルスがローマの建国者(BC753年，異説が多い)で最初の王となった。市民をふやすため，サビニ族の娘たちを略奪する事件もあったが，以後永年の間ローマを統治した。〔松田 治〕

ロメ ［Lomé］ アフリカ西部，トーゴ共和国の首都で，ギニア湾に臨む港市。人口193,000(1972)。付近で産するラッカセイ・コーヒー・やし油・カカオなどを積み出す。また内陸へ通ずる鉄道の起点であり，ガーナからナイジェリアに通ずる海岸鉄道の要点をなす。1965年創立の単科大学があり，空港もある。

ろめんでんしゃ 【路面電車】 道路面上に敷設された軌条を走行する電車。軌道法では併用軌道とよび，市街電車として利用される。経営主体が地方公共団体によるものが多いが，私企業によるものもある。本来道路交通の補助的交通機関であり，最近の自動車交通の渋滞から，廃止される傾向にある。一般に車体を低くし，ボギー台車を使用し，ビューゲル*またはトロリーポールで集電する。

ロモノーソフ ［Mikhail Vasilievich Lomonosov］ (1711～1765) ロシアの自然科学者・文学者。白海沿岸のアルハンゲリスク県のミシャニンスカヤ村に農民の子として生まれた。1735年ペテルブルグ大学へはいり，翌年ドイツに留学して諸科学を学ぶ。帰国後，1745年にペテルブルグ大学教授。モスクワ大学創設に尽力，1755年同学長。百科全書的な才能の持ち主で，ロシア科学の発達に寄与した。化学の領域では，定量的実験により，燃焼に際して重さを増すのは空気中の物質が加わるからであると説明し，ラボアジエ*に先だって物質不滅の法則を立て，フロギストン説に反対した。また，化学変化を原子説で説明し，気体分子運動論から，熱を粒子の運動とした。技術家としても，冶金(やきん)などロシア産業に貢献した。また，当時ロシアの文化を支配していたドイツに抗し，ロシア学界の独立のために尽力。文学の面では多くの頌歌*(しょうか)を書くとともに，修辞学や文章語の研究の上に立ってロシア語の文体についての明確な基準を示し，古典主義の範となった。〔山下愛子・灰谷慶三〕



路面電車 (上)京都電気鉄道(日本最初の路面電車，1895) (中)東京から姿を消しつつある都電 (下)ポルトガルの路面電車


ロモノーソフ モスクワ，国立歴史博物館蔵


ローラースケート 老若男女の間に，気軽に行なわれるスポーツとして人気がある

ロヨラ ⇨イグナチウス-デ-ロヨラ

ローラー ⇨ロードローラー

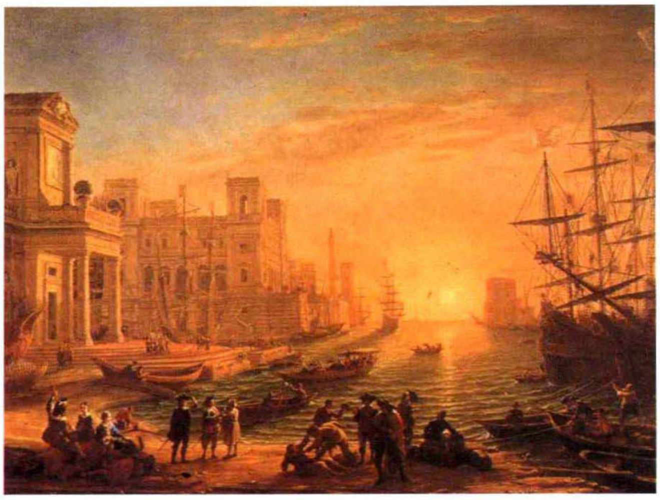
ローラーコンベヤー ⇨コンベヤー

ローラースケート ［roller skate］ 靴(くつ)底に4個の小さな車輪をとりつけた滑走用具で，平らなコンクリート道路や床板の上を滑走するスポーツ。また，その用具。起源は明らかでないが，スケート*が盛んだったイギリスやオランダで，18世紀のはじめに考案されたものらしい。スケートのように氷を必要とせず，四季を通じて気軽に楽しめることから，一気にヨーロッパ各国へ普及した。最近はスケートと同じようにスピード・フィギュア・ホッケー競技が行なわれており，この国際的統轄団体として，1924年に国際ローラースケート連盟(FIRS)が創立され，現在本部をバルセロナ(スペイン)に置いている。

日本には1877年(明治10)平岡熙(ひらおかひろし)がアメリカからローラースケートを持ち帰ったのがはじまりといわれるが，本格的には1895年東京・横浜の同好者が東京神田小川町に体育養生館を建てて，ローラースケートを行なったのが初めてである。国内の統轄団体としては日本ローラースケート連盟があり，後楽園スタジアム内に事務所を置いている。〔矢野博一〕

ローラットほう 【ローラット法】 第1次世界大戦後のインドの独立・民族運動を弾圧する目的で，1919年イギリスが発布した法令。インド人を無審理で逮捕・投獄できるとした。これに対してガンジー*が民衆に不服従運動を呼びかけ，また，アムリツァルで抗議集会を開いた民衆をイギリス軍が虐殺する事件が起こり，反イギリス感情は頂点に達した。

ロラン ［LORAN］ long range navigation の略で，船や航空機の位置を求める

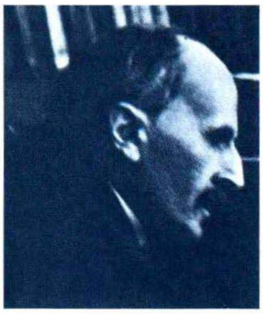


C.ロラン 《日没の港》 ルーブル美術館蔵

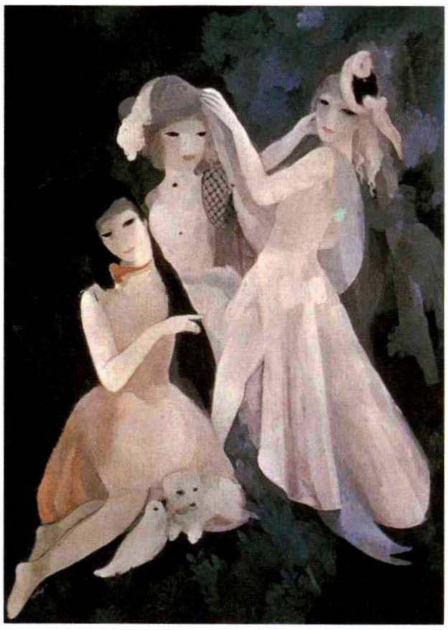
ための長距離電波航行援助方式の一種で，双曲線航法の代表的な一。地球上の2地点A，B2局から同時に電波を発射するとき，この受信の時間差が一定となる点を結ぶ軌跡は，A，Bを焦点とする双曲線となる。この双曲線はロランチャートに記入されているから，2局からの時間差を求めれば，船がどの双曲線上にいるかがわかる。同様に他のもう一組みのロラン局からの時間差によって自船のいる双曲線が求められるから，船の位置はこの2本の双曲線の交点として求められる。1,750～1,950kHzのパルス*電波を用いるものをロランA(標準ロラン)，100kHzを用いるものをロランCという。ロランAは，有効距離が昼間700海里，夜間1,400海里ぐらいあるのに対し，ロランCでは精度も高く，距離も2,800海里に及ぶ。➔双曲線航法(図)　〔飯島幸人〕

ロラン　[Claude Lorrain]　(1600～1682)　フランスの画家。風景画を最もよくし，きわめて多くのデッサンも残した。しかし，彼の生涯(しょうがい)の伝記的事実はほとんど残されていない。若年にしてローマにおもむき，古代建築の美に強い影響を受けたらしい。光線の微妙な効果と大気の繊細な表現にすぐれ，日の出・日没などの風景画を多く残した。代表作に《クレオパトラの船出》《暁の港》などがある。

ロラン　[Romain Rolland]　(1866～1944)　フランスの小説家・思想家。はじめ教員生活のかたわら劇作家として出発し，《信仰の悲劇》三部作・《革命劇》連作などの戯曲や評論《民衆演劇論》を発表。つづいて偉大な芸術家の伝記作品を書き，文名を高めた。《ベートーベンの生涯(しょうがい)》《ミケランジェロ伝》《トルストイ伝》などがそれで，対象を崇高視するほどの人間賛美がうたわれている。さらに長編小説《ジャン-クリストフ*》によってその真価は発揮された。その思想の根底にはフランス合理主義精神に基づく正義感とヒューマニズムとがあり，熱烈な平和主義者として第1次世界大戦中には反戦運動に従事し，ロシア革命の成功とその後に深い関心を示した。その後も長編《魅せられたる魂*》の発表，反ファシズム運動への参加など多彩な活動を行なうが，晩年にはインドの神秘思想に接近した。音楽研究者としてもすぐれ，《ヘンデル》などの音楽書があり，また社会主義の精神に基づく評論集《戦いを越えて》などもある。ほかに，20世紀の精神的記録ともいうべき日記・書簡がある。1915年ノーベル文学賞を受賞。　〔池田公麿〕



R.ロラン



ローランサン 《公園にて》 ワシントン-ナショナル-ギャラリー蔵

ローラン　[Auguste Laurent]　(1807～1853)　フランスの化学者。1838年ボルドー大学化学教授となるが，その後パリに出て造幣局貨幣検査官となった。1832年アントラセンを発見，フェノールとその誘導体の研究から，ジェラール*とともに有機化合物の分類について独自の核の理論を構成・発表したが，認められずに不遇のうちに没した。

ローランサン　[Marie Laurencin]　(1885～1956)　フランスの女流画家。パリの美術学校に学ぶ。やがてピカソ・ブラック・アポリネールらと知り合い，これらの友人の間にあって，キュービスム運動の創設に出会う。ローランサン自身はこの運動には参加しなかったが，強い影響を受けた。淡く柔らかい色調で繊細な女性像を数多く描いたが，単純化された装飾的画面を特色としている。舞台装置や石版画も手がけた。

ローランス　[Henri Laurens]　(1885～1954)　フランスの彫刻家・画家。はじめ石工となったが，その後独学で彫塑や絵画を学ぶ。ロダンの影響を受け，テラコッタなどを制作していたが，ブラックに出会ってから，1911年にはキュービスムに身を投じ，アーキペンコ・ザッキンらとともに厳格で硬質な作風でキュービスムの彫刻家の代表的存在となった。

ローランのうた　**【ローランの歌】**　フランス最古の叙事詩。シャンソン-ド-ジェスト*(武勲詩)中，最も古くまた最高の作品で，12世紀前半に成立したとされる。作者未詳。8世紀ごろの歴史的事件を題材に，4,000行にわたって，フランス王シャルルマーニュ(カール1世)の甥(おい)ローランがサラセン軍と戦う英雄的行為をうたい，キリスト教の信仰，封建的主従関係の理想を示し，構成力のみごとな点でもきわだっている。

ローリー　[Walter Raleigh]　(1552ごろ～1618)　イギリスの詩人・歴史家・探検家・軍人。多才な宮廷人。エリザベス1世の寵(ちょう)を受け，1583～1589年に6度北アメリカを探検し，ジャガイモ・タバコなどをヨーロッパに導入した。1595年幻の黄金の都エル-ドラドを求めて南アメリカを探検して失敗。女王の死後，陰謀事件荷担の容疑でジェームズ1世により1603年から1616年までロンドン塔に投獄された。この間《世界史》を執筆。1617年エル-ドラド発見を条件に釈放され，再度探検を試みたが失敗し，処刑された。　〔板橋重夫〕

ローリエ　[laurier]　ベーリーフともいう。ゲッケイジュの葉を乾燥したもの。原産地は地中海周辺であるが，各地に栽培されている。乾燥した葉はなめらかで表面はやや光沢があり，砕くと芳香を生じる。粉末として用いるよりも，葉のまま調理液に入れてかおりを出すことが多い。スープ・シチューなど，肉類や魚類の料理に不可欠

のもので，ウスターソース(→ソース)などには，かおりの利用とともに他の香辛料の保香的効果ももつといわれる。 〔佐藤友太郎〕

ロリス ［loris］ 哺乳(ほにゅう)類・霊長目・ロリス科。東南アジア・インドにすむ原猿(げんえん)で，ドウケザル・ノロマザルともいう。頭胴長20～25cmで，体は灰色ないし黒かっ色。1頭で生活し，群れをつくらない。昼は木の洞穴(ほらあな)に寝て，夜間に活動し，こん虫と動物を食べる。動作は鈍く，音声も少ない。スローロリスとホソロリス(スレンダーロリス)とがある。

ロリンズ ［Sonny Rollins］ (1929～) アメリカのジャズ-テナーサックス奏者。ニューヨークの生まれ。1950年代にはいって頭角を現わし，1950年代中期には人気・実力の点でモダン-テナーの第一人者となった。豪放で力強い男性的なスタイルの持ち主で，ユーモアのセンスももち，《モリタート》の演奏は日本でも大ヒットした。しかし，彼は精神的に悩むことが多く，何回もジャズ界から身を隠したが，そのつどみごとにカムバックを果たし，以前にもまさる人気を得てきた。1972年にもあざやかにカムバック，円熟味のある淡々とした演奏で評判になっている。 〔岩浪洋三〕

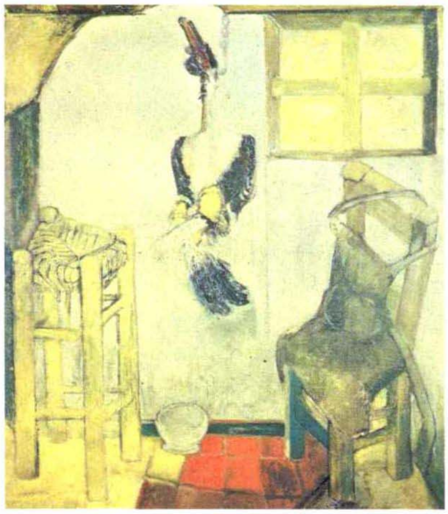
ローリンソン ［Henry Creswicke Rowlinson］ (1810～1895) イギリスのアッシリア学者，古代ペルシア語の解読者。オックスフォードシャーのチャドリントンの生まれ。はじめ軍人となる。東インド会社に勤務し，のち東インド会社総裁・下院議員・ペルシア公使などをつとめた。学者としての正規の教育は受けていない。ビヒストゥンのダレイオス1世*の楔形(くさびがた)文字碑文(→ダレイオス碑文)を写しとり，古代ペルシア語の解読に成功し，その研究報告を1847年に《王立アジア学会誌》(第10巻)に発表し，楔形文字研究史上の金字塔とされた。またヒンクス*らとアッカド語の解読にも成功している。 〔兼岩正夫〕

ロールシャッハ ［Hermann Rorschach］ (1884～1922) スイスの精神病学者。ロールシャッハ-テスト*の創案者。無名画家を父にもち，チューリヒに生まれた。州立学校のころ，インクのしみ遊びに凝ってKlex(インクのしみ)とあだ名された。1904年精神医学を志して，チューリヒ大学のブロイラー教授の弟子(でし)となった。1912年ごろからインク-ブロットから発想したテストの実験を始め，途中中断したが，後年再び研究を続け，主著である《精神診断学》を出版，翌年，37歳の若さで世を去った。 〔岩井 寛〕

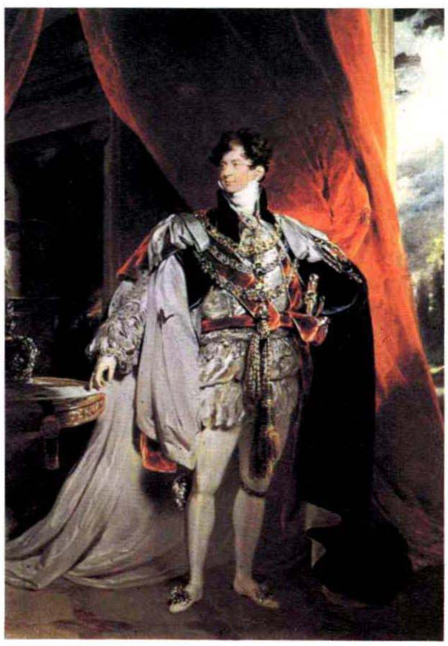
ロールシャッハ-テスト ［Rorschach test］ スイスの精神科医ロールシャッハ*が考案した人格診断テスト。紙にインクをたらし二つ折りにしたとき，偶然できる左右対称のインク-ブロット(しみ)の図版10枚(5枚が黒一色，2枚が黒と赤，3枚が多彩色)を順番に被験者に見せ，そのあいまいな図形がなにに見えるかを自由に答えさせ，その反応の内容を詳細に記号化・分析することによって被験者の知能・情緒・欲求やその表現のしかた，適応能力などをとらえようとするもの。今日，児童相談所・鑑別所・家庭裁判所などで最も広く利用されている。 〔深津千賀子〕



ロリス スローロリス



ロルジュ 《吊された野鴨》 パリ国立近代美術館蔵



T.ロレンス 《ジョージ4世》 バチカン美術館蔵

ロルジュ ［Bernard Lorjou］ (1908～) フランスの画家。パリに出て独学し，スペイン旅行で，グレコ・ゴヤに感動，第2次世界大戦後に頭角を現わした。新古典的作風をとり，写実的傾向の中にあって，社会批判の正確な目で描写する。《原子時代》などの大ぶりな作品もある。

ロールス-ロイス ［Rolls Royce Ltd.］ イギリスの航空エンジン製造会社。1906年設立。当初高級乗用車を専門に，シルバー-ゴースト・ファントムⅠ・Ⅱ・Ⅲを生産，各国王室関係の車として愛用されてきた。第2次世界大戦の開始によって航空エンジンの生産に取り組むようになり，以後民間航空機エンジン部門に本格的に進出するようになった。ターボジェット〈エーボン〉はコメット・カラベル機に，〈ダート〉はバイカウント・YS-11*に，次いで〈コンウェイ〉はボーイング707・ダグラスDC8に搭載(とうさい)された。最近ではロッキード社のエアバス1011にエンジンを供給している。本社ダーバー。年間売上高6億4,500万ドル，従業員数84,000(1970)。

ロレーヌ ⇨アルザス-ロレーヌ

ローレンシア(台地) ［Laurentia］ カナダ楯状地(たてじょうち)ともいう。北アメリカ，カナダ北部のグレートベア湖と南部のウィニペグ湖を結ぶ線から東のほぼ全域，バフィン島・グリーンランドを含む地域に広がる台地で，地質的に安定している。面積約518万km²。約6億年前の先カンブリア末期以降比較的安定し，造山運動などの起こっていない地域である。洪積(こうせき)期の氷食作用により，起伏はゆるやかである。北部はツンドラであるが，南部には針葉樹林が広がる。鉄・金・ニッケル・ウラニウムなどの鉱産資源に富む。 〔大石堪山〕

ローレンシウム ［lawrencium］ 周期律表第Ⅲ族アクチニド元素の一。記号Lr，原子番号103。現在知られている元素中最も原子番号が大きいもの。1961年カリフォルニア大学ローレンス研究所で発見された。カリホルニウムの同位体混合物に，線型加速装置で加速したホウ素イオンを衝撃させて新しいα放射体として得た。半減期は8±2秒。

ロレンス ［Sir Thomas Lawrence］ (1769～1830) イギリスの画家。1787年以後ロンドンに出て，アカデミーで絵画を学ぶ。宮廷画家であったレイノルズ*の跡を継いで，23歳で宮廷画家となり，功績においてもアカデミーにおける役割においても，その後継者となり，肖像画を描いて名声を獲得した。

ロレンス ［David Herbert Lawrence］

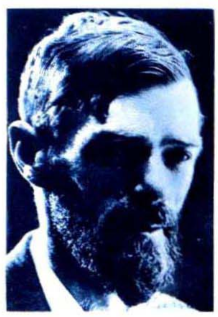
(1885～1930)　イギリスの小説家。炭坑夫を父に，中産階級出身の教養ある技師の娘を母に，ノッティンガムの炭鉱町に生まれた。高校卒業後，一時会社員となり，ノッティンガム大学の教員養成科を出て，ロンドンの小学校で教鞭(きょうべん)をとった。このころから作家活動にはいり，1911年処女作《白孔雀(しろくじゃく)》を発表。翌年，恩師の妻フリーダとドイツに駆け落ちし，1914年には正式に結婚してイギリスに住んだが，第1次世界大戦中にはスパイの容疑を受けたり，《虹(にじ)》が猥褻(わいせつ)の理由で発禁になったりした。この間《息子(むすこ)と恋人》によって文名を確立。1920年《恋する女たち》刊行後，放浪生活にはいり，カプリ島・シシリー・イタリア・ドイツ・セイロン・オーストラリア・メキシコなどを巡りつつ創作を続け，《カンガルー》《翼ある蛇(へび)》など多数の作品を書いた。1926年イタリアに住み，1928年には《チャタレイ夫人の恋人*》を発表。作家活動は衰えなかったが，結核の病状が悪化，フランスのバンスで他界した。生涯(しょうがい)を通じての課題は，愛の問題，それも単なる男女関係でなく，ヨーロッパ文明の本質に関わる人間関係の問題であり，そこに階級の問題もからまっていた。そのことは小説作品のみならず，《アポカリプス》などの評論や詩集にもみられ，また終生キリスト教に関心をいだいていたことにも示されている。　〔橋本槇矩〕

ロレンス [Thomas Edward Lawrence] (1888～1935)　イギリスの冒険家・考古学者・小説家。〈アラビアのロレンス〉の名で知られる。オックスフォード大学卒業後，メソポタミア調査団の一員としてアラビアに生活。第1次世界大戦中，アラビア民族独立に力を貸し，ゲリラ戦でトルコ軍と戦った。その後，外交官生活ののち，一兵卒として空軍や戦車隊に従軍したり，その他もろもろの行動は世人を驚かすような乱脈ぶりで，オートバイ事故で死んだ。主著《知恵の7柱》はアラビア反乱に加わった体験に基づく自伝的小説で，その波乱に富む生涯(しょうがい)に潜む近代人の苦悩を記録している。　〔田島　修〕

ロレンス [Ernest Orlando Lawrence] (1901～1958)　アメリカの物理学者。ミネソタ・シカゴ各大学に学び，1930年以降カリフォルニア大学教授。さらに同大学放射研究所を創立し，所長をつとめた。サイクロトロンの基礎理論を提出し，1932年この装置をはじめて完成，原子核実験進展の基礎を築いた。第2次世界大戦中は原子爆弾研究グループに加わり，ウラン235の工業的分離に成功した。1939年ノーベル物理学賞を受賞。

ロレンソマルケス [Lourenço Marques]　アフリカ南東部，モザンビーク(ポルトガル領)の主都。人口18万(1972)。インド洋岸のデラゴア湾に臨む港市であるとともに，南アフリカ共和国トランスバール州やスワジランドと鉄道で結び，内陸地域の交通・貿易の要衝として栄え，ヒツジ・ウシ・綿・砂糖・サイザル麻・コプラ・木材などを輸出している。鉄工業・綿工業も行なう。1502年にポルトガル人に発見され，奴隷・象牙(ぞうげ)などの貿易基地になったが，その後アラブ・オランダなどの勢力に脅かされ，18世紀中ごろには一時放棄されたこともある。1781年に再びポルトガル領になった。　〔小栗　宏〕

ローレンツ [Hendrik Antoon Lorentz] (1853～1928)　オランダの理論物理学者。ライデン大学に学び，1878年同大学教授。19世紀末からの物理学の変革期にその中心的な役割を果たした。電子論を電磁気学に導入して，ゼーマン効果の理論，金属の電気伝導・熱伝導の理論などを展開，また物質中の電磁気学から運動物体の電気力学を開拓した。さらに運動体の電磁気的・光学的現象を論じ，ローレンツ収縮および局所時の考えを提唱，相対性理論*の先駆をなした。1902年ゼーマンとともにノーベル物理学賞を受賞。



D.H.ロレンス

ローレンツ [Konrad Lorenz] (1903～　)　オーストリアの動物学者。ウィーンの生まれ。同地およびニューヨークで医学を学ぶ。ケーニヒスベルク・ミュンスター大学教授を経て，現在マックス-プランク行動生理研究所教授。比較動物行動学(ethology)の開拓者であり，特に〈刷り込み〉(自己の種族を認知する短期間のやりなおしがきかない学習過程)の概念を確立した功績は大きい。

ロレンツェッティ [Lorenzetti]

1 ピエトロ-ロレンツェッティ　Pietro Lorenzetti　(1280ごろ～1348)　イタリアの画家。シエナ派の重要な画家のひとりである。1305年以前のことについては不明で，日付のある最初の作品は1320年に制作されている。はじめドゥッチョおよびマルティーニから影響を受けた。彼の芸術の特色は深みのある感情表現と動きに満ちて劇的な画面構成にある。全盛期の作品はアッシジの二つの壁画《聖母と二人の聖者》《十字架降下》である。晩年の作品は明晰(めいせき)な空間描写にひいでている。

2 アンブロッジオ-ロレンツェッティ　Ambrogio Lorenzetti　(？～1348ごろ)　イタリアの画家。ピエトロの弟。シエナで活躍。兄とともにジョットの影響を受ける。主要作に善政と悪政を政治的・寓意(ぐうい)的に扱った一連の壁画がある。そこには，いきいきとした人物表現だけではなく，遠近法を用いた従来にない巧みで正確な町や風景の描写が見られる。　〔松本芳夫〕



A.ロレンツェッティ《善政と悪政》部分，善政の〈農耕図〉

ローレンツへんかん 【ローレンツ変換】
⇨相対性理論

ロロ [Rollo] (860ごろ～931ごろ)　ノルマン人の首長で，ノルマンジー公国*の建設者。ロルフともいい，〈歩く人〉〈職人頭〉などともよばれる。ノルウェーの貴族の子として生まれ，890年からノルマン人を率いて西北フランス地方を荒らし，911年フランス王シャルル3世(単純王)とサン-クレール-シュル-エプトの和を結んだ。ロロがキリスト教を信じ王の封建臣下になるという条件で，ルーアンを中心とする西北フランス地方を与えられた。ここにノルマンジー公国が成立。ロロは初代ノルマンジー公ロベール1世として統治の才を発揮。国土を開発し都市をつくり，教会や修道院を建てた。　〔兼岩正夫〕

ロロぞく 【ロロ族】　中国西南部の少数民族。言語はシナ-チベット語族のチベッ

ト-ビルマ語群で，中国では彝族(いぞく)と称する。約320万を数え，四川省の涼山地区を中心に雲南省に広がる。山地に居住し農耕を営むが，ヒツジなどの牧畜も重要である。涼山では貴族・奴隷階級が存在した。宗教はアニミズム・シャーマニズムの要素が認められる。

ろん【論】 ⇨三蔵

ローン ［lawn］ 本来薄地の麻織物であったが，近来は綿織物が多く利用されている。細糸でややあらく平織りに織り，白地・無地・プリント・縞(しま)などにして，夏の婦人服・子ども服・ハンカチーフ・カーテンなどに用いられる。近来は化学繊維の製品もつくられている。

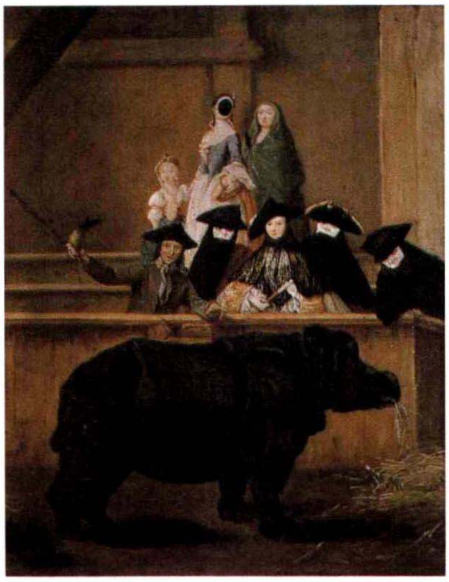
ロンギ ［Pietro Longhi］（1702～1785） イタリアの画家。同時代のフランス画家，特にシャルダンの影響を受けながら，ベネチアの市民生活を機知とユーモアに満ちた表現で描き，風俗画に一つの転機をもたらした。子のアレッサンドロも肖像画家として名をなした。

ロンギノス ［Longinos］ 生没年不詳。1世紀ごろのギリシアの文学評論家。《崇高について》の作者であるという以外になにも知られていない。《崇高について》は最もすぐれた文学評論の一つで，透徹した批評眼と文学評価の確かさは抜群である。独自の観点から古典的精神の神髄に迫り，その健全なものの見方，新鮮な感動を通じて文学の本質をついている。

ロングアイランド(島) ［Long Island］ アメリカ合衆国，ニューヨーク市内を流れるハドソン川の河口から東方に延びる島で，ニューヨーク市特別区の一つになっている。面積3,629km^2。氷河堆積物(たいせきぶつ)からなる砂質の島で，かつては農業地域であったが，ニューヨーク市域の拡大によって同市の郊外を形成する。橋・ハイウエー・フェリーボートでニューヨーク市中心部と結ばれ，遊園地や海水浴場で名高いコニーアイランドがある。

ロングビーチ ［Long Beach］ アメリカ合衆国カリフォルニア州，ロサンゼルス市の南，サンペドロ湾に臨む保養・港湾・工業都市。人口34万4,000(1960)。海水浴場として栄えたが，1921年に隣接のシグナルヒルに豊富な石油が発見されてから発展した。合衆国海軍基地が設置され，造船・魚かんづめ工業も盛ん。毎年7月にミスユニバースの美人コンテストが開かれる。

ロングフェロー ［Henry Wadsworth Longfellow］（1807～1882） アメリカの詩人。メイン州ポートランドの生まれ。多年ハーバード大学教授をつとめ，重なるヨーロッパ留学と語学の才能を生かし，アメリカの民話をヨーロッパに，ヨーロッパの民謡を自国に紹介，ダンテ*の《神曲*》の名訳者としても知られる。詩作は1839年の処女詩集以来多数の作品を書いたが，代表作に



ロンギ《ベネチアの犀の見せ物》 ロンドン-ナショナル-ギャラリー蔵

哀詩《エバンジェリン》，インディアンの英雄物語《ハイアワサ》《マイルズ-スタンディッシュの求婚》などがある。

ろんご【論語】 中国，儒教の経典。20編。儒家の祖の孔子*が当時の実力者に遊説した語や弟子(でし)との問答，また平生の動作やことばの記録集の形をとっている。〈論〉とは整理，〈語〉とは教戒の意味で，論語とは儒家の祖訓を教科書ふうに編集した書物のことである。この中には孔子のことばを伝えた部分もあろうが，孔子の教えであると弟子たちが信じたことばもある。そして，その弟子たちの間にすでにのちの孟子*(もうし)と荀子*(じゅんし)に象徴される分派があったが，《論語》はこの異なった孔子の像を合わせて収録しているといえる。

現在の《論語》は漢代の初めに編定された。これが儒教の中心的経典として拝読され，その注釈もきわめて多い。魏(ぎ)の何晏*(かあん)の《論語集解(しっかい)》は古注の集成である。宋(そう)の朱子学*では特に尊重されて〈四書*〉の筆頭に置かれ，その後は朱子*の《論語集注》によって読まれた。なお，《論語》は日本でも儒教の伝来とともに尊敬されたが，その研究の面では荻生徂徠*(おぎゅうそらい)や伊藤(いとう)仁斎*が貢献した。 〔西 順蔵〕

ろんこう【論衡】 ⇨王充

ろんこく【論告】 刑事裁判において，証人尋問などの証拠調べが終わったのち，検察官が行なう犯罪事実および法律適用についての意見の陳述(刑事訴訟法293条)。一般に，証拠からどのような事実が認められるか，その事実はどの刑に該当するか，その刑はどのくらいが適当かなどが述べられる。論告は，裁判官の参考にはなるが，単に検察官の意見にすぎない。なお，論告のうち，刑罰の種類および程度についての意見は特に求刑という。 〔井上公耳〕

ロンゴス ［Longos］ 生没年不詳。3世紀ごろのギリシアの小説家。レスボス島生まれのソフィストのひとりと推定される。牧歌的恋愛小説《ダフニスとクロエ》の作者。この小説は田園風景を背景に，ギリシア恋愛小説にお定まりの捨て子・陰謀・恋がたきなどがはいっているが，筋そのものは波乱は少なく，むしろ単純で素朴(そぼく)。美しい自然描写と無垢(むく)の少年少女の幼さが，洗練された文体とあいまって魅力にあふれた世界を現出している。後世の小説に影響を与えた。 〔久保正彰〕

ロンサール ［Pierre de Ronsard］（1524～1585） フランスの詩人。16世紀にフランス詩の改革を推し進めたプレイアード派の中心人物。《オード四部集》は，ギリシア・ローマの詩人ピンダロス・ホラチウスの作品を模倣したもので，古代人の模倣による叙情性によって詩の改革をめざした。また《恋愛詩集》《続恋愛詩集》では，甘美な恋愛をうたい，19世紀ロマン派に影響を与えた。

ロンド ［rondo］ 楽曲形式の一。ごく一般的にはA～B～A～C～Aの形をとる。18世紀中ごろのフランスのクラブサン曲でよく用いられたロンドーから発展したといわれる。古典派のソナタや協奏曲の終楽章は，ほとんどこの形式を用いた。

ロンドレ ［Guillaume Rondelet］（1507～1566） フランスの博物学者。モンペリエの生まれ。モンペリエ大学に学び，のち同大学教授。同じくフランスの博物学者であるブロン(1517～1564)とともに，比較解剖学の創始者とされる。その著《海産魚類の研究》(1554)において，魚類の内臓・歯の比較を行なったほか，イルカを解剖してブタやヒトの構造と比較し，イルカが魚類よりも哺乳(ほにゅう)類に近いことを明らかにした。

ロンドン ［London］ イギリスの首都。イングランド南東部，テムズ川下流の両岸にまたがる港市で，同国最大の都市。人口741万8,000(1972)。テムズ川河口から約100km上流にあり，潮汐(ちょうせき)の干満作用はここまで及び，テムズ川の川幅は市内で200～300mとなる。粘土質の沖積(ちゅうせき)層の上に立地するので，ニューヨークのような高層ビルは見られない。緯度上は東京より北に位置し，平均気温は4℃ほど低いが，1月の気温はほぼ同じである。降水量は東京の3分の1の590mmで，夏と秋にやや集中している。降水量は少ないが曇天・雨天の日が多く，湿度は高く，冬の濃霧は名高い。紀元前からロンジニウムの名でローマに知られ，古代ローマ軍はテムズ川河畔の洪水(こうずい)から安全な一対の丘に城壁を築いて，ここから軍用道路を四方に延ばし，商業の中心地とした。セントポール大聖堂のある丘やイングランド銀行のある丘がこれで，のちエセックス王国の首都となり，



ロンドン　テムズ川にかかるタワー-ブリッジはロンドン名物の一つである。二つの塔をつなぐ歩道は水面上約40mある。1894年建造

9～11世紀にはデーン人の侵略を受けたが，イギリスを征服したノルマンジー公ウィリアムが1066年ウェストミンスターで即位して以来，イギリス王の居住地となった。12世紀末イングランド最初の自治都市となり，羊毛工業が発達した。イギリスが世界に飛躍した17世紀からは商業・金融の世界的中心となった。ロンドンはシチー・ロンドンカウンチー・大ロンドンの三つの地区から構成される。中心をなすシチーはロンドンブリッジの北岸2.7km²の狭い地区であるが，ロンドン発祥の地であり，商業・金融業が集中している。居住者は10,000ぐらいであるが，昼間は100万人近くが集まる。ロンドンカウンチーは1888年に定められた行政上のいわゆるロンドン市で，28区からなり，面積約300km²で人口は約300万である。大ロンドンは郊外都市を含めた地域で警視庁管区にあたり，面積は1,870km²である。大ロンドンの人口は最近10年間に60万ほど減っている。シチーの西はウェストエンドとよばれ，商店街やホテル・劇場・レストランが多く，ピカデリーサーカスは有名であり，その南のウェストミンスター付近に国会議事堂をはじめ諸官庁が集まっている。東はイーストエンドとよばれ，工場が多い。ロンドンブリッジから下流沿岸は長い港をなし，干満差が大きいので，多くのドックが並んでいる。市内交通には2階建てのバスと地下鉄があり，空港は西郊にある。古い歴史を物語る多くの建造物が残るが，中でもバッキンガム宮殿・ウェストミンスター寺院・大英博物館・ロンドン塔・国会議事堂・ロイヤルオペラハウスなどは代表的である。ほかにトラファルガー広場や郊外のハイドパーク・リージェントパークなどの公園も有名。　〔梶川勇作〕

ロンドン　［London］　カナダ，オンタリオ州南部の工業都市。人口19万4,400(1967)。製革・醸造・製鉄工業が盛ん。テムズ川に臨み，同流域の農村地域の中心地で，ウェスターン-オンタリオ大学がある。街路や橋などイギリスのロンドンにちなんで名づけられている名称が多い。

ロンドン　［Jack London］（1876～1916）　アメリカの小説家。私生児としてサンフランシスコに生まれ，幼時から苦しい体験を重ねた。そのためか名声と富へのあこがれは強く，放浪のうちにさまざまな職業に従事し，のちしだいに社会主義に共鳴するようになった。1890年代の末期から創作に精励し，1900年最初の短編集《狼(おおかみ)の子》を出してのち，《野性の呼び声*》《白い牙(きば)》などすぐれた作品を刊行，文名を得たが，現実の富裕な生活と自己の思想との矛盾に悩んで自殺した。〔酒本雅之〕

ロンドンぐんしゅくかいぎ　【ロンドン軍縮会議】　1930年，ロンドンで開催されたアメリカ・イギリス・フランス・イタリア・日本の5か国による国際会議。1921年のワシントン会議*によって各国海軍主力艦の所有比率が決定されたが，この条約を延長するとともに，巡洋艦・潜水艦などの補助艦についても，その所有制限を討議し，第1次世界大戦の原因となった軍拡運動をおさえて新たな戦争の勃発(ぼっぱつ)を未然に防ごうとした。条約の締結をみたものの，その後世界情勢は急転して有名無実に終わり，いっさいの努力は水泡(すいほう)に帰した。〔板橋重夫〕

ロンドンこうきょうがくだん　【ロンドン交響楽団】　イギリスのオーケストラ。1904年にクイーンズ-ホール管弦楽団のメンバーによって創立され，初代指揮者はハンス-リヒター。以後ニキシュ*・クーセビツキー*・メンゲルベルク*・ダムロッシュ・フルトベングラー*・コーツ・グーセンス・ビーチャム・ベイヌム・クリップス・モントー*・ケルテスらが指揮者となり，現在はアンドレ-プレビンがあたっている。1963(昭和38)・1964・1971年に来日。　〔向坂正久〕

ロンドンじょうやく　【ロンドン条約】　19世紀以降，ロンドンで締結された条約。主要なものとしては次のものがある。

①1814年，ナポレオン戦争後のイギリス・オランダ間の条約。イギリスはジャワ島など東インド諸国をオランダに返還，ケープ植民地・セイロン島などの領有確保。②1830～1831年，ベルギーの独立問題について好意的なイギリスのパーマストン*の提議で列国(イギリス・フランス・ロシア・オーストリア・プロイセン)会議が開かれ，立憲君主国として独立を承認，オランダ・ベルギー国境は1790年当時として決定した条約。③1840年，トルコとエジプト間の紛争に関して，イギリス・ロシア・オーストリア・プロイセン4国とオスマン-トルコ帝国間に結ばれた条約。エジプトおよび南シリアをメフメット-アリ(エジプト)に与えることをトルコが承認。④1871年，イギリス・フランス・ドイツ・オーストリア・オスマン-トルコ間に結ばれたもので，ロシアの黒海中立条項破棄宣言を承認。⑤1913年，第1次バルカン戦争後バルカン同盟4国(ブルガリア・セルビア・モンテネグロ・ギリシア)とトルコ間に結ばれた講和条約。トルコはマケドニア・トラキアなどヨーロッパの領土の大半を失う。⑥1915年，第1次世界大戦中，イギリス・フランス・ロシア・イタリアが結んだ秘密条約。イタリアが三国同盟を離脱し，連合国側に参戦の代償として南チロル・トリエステなどを得る約束をした。1か月後にイタリアは宣戦を布告した。　〔喜多迅鷹〕

ロンドンだいがく　【ロンドン大学】　イギリスのロンドンにある公的な高等教育機関の連合体。1827年，ホイッグ党*の支援により，中流階級の子弟に宗派と関係なく近代的な教育を授けることを目的として設立された。当時，オックスフォードやケンブリッジのような古い大学が，上流階級，しかも国教会に属する子弟にかぎり，伝統的なカリキュラムで教育していたのと対照的である。母体は古い医学校のほか，ユニバーシティー-カレッジ，キングズ-カレッジなどで，これらを統合してユニバーシティー-カレッジとしてはじめられたことによる。1858年以降，試験による学位の授与を制定し，1878年からは女子にも学位が与えられるようになった。その後1926年，ロンドン大学として法制化され，ロンドンおよび近郊にある約10の研究所と，30余のカレッジ，高等研究機関による連合体となった。現在，神・医・哲・法・音楽・理・行政・経済・工の9学部があり，通学制の校内生のほか通信教育による校外生の制度が設け





ロンドン塔　ロンドン塔の本丸にあたるホワイト-タワー(左)。創建当時のおもかげをいまにとどめる。塔内は現在，軍事博物館として解放され，数多くの武具・甲冑が展覧されている

られ，公開講座やアジア・アフリカ研究などでも知られている。

ロンドン-タイムズ　⇨タイムズ-ニュースペーパーズ

ロンドンデリー　［Londonderry］　イギリス，北アイルランドの北西端にある都市。製粉・造船・麻織物の工場があり，漁港としても知られる。6世紀に聖コロンバが建てた僧院を中心に起こった町で，いまも市街を囲む城壁が残っている。しかし，産業が発達したのは17世紀以降で，17世紀創立の教会や単科大学がある。アイルランドでは単にデリーとよぶ。住民は新教徒と旧教徒が相半ばしている。人口56,000(1966)。

ロンドンとう　【ロンドン塔】　イギリスの城塞(じょうさい)。1078年ごろからウィリアム1世(征服王)によって建設され，その後しばしば改築・増築が行なわれた。テムズ川の北岸，ロンドン橋の下流にあり，中央部にあるホワイト-タワーのみが創建当時のものである。本来，ロンドン防衛の城，王の居城であったが，ときに国事犯の牢獄や武器庫として利用され，エドワード5世兄弟・アン-ブーリン・モア・ローリーらも幽閉された。現在は軍事博物館としてロンドンの名所の一。　〔板橋重夫〕

ロンパース　［rompers］　上衣とブルマーが続いた子ども用の遊び着。男女児とも生後5か月から3歳ごろまで着るもの。ブルマーが落ちておむつがはずれたり，腹部が出たりせず，運動の激しい幼児に最適で，夏はこれのみ用い，冬はセーター・ブラウスなどと組み合わせる。布地は夏用にはは だざわりのよいパイル，その他の綿地，冬用にはジャージー，その他の薄手のウール地などがよい。

ロンバード(街)　［Lombard］　イギリス，ロンドン市内のイングランド銀行からグレースチャーチ街までの街路。銀行や保険会社など金融業の集中したところで，19世紀半ばから第1次世界大戦まで世界最大の金融市場として繁栄したが，いまはその地位をアメリカのウォール街に奪われている。地名は，12世紀にイタリア北部のロンバルジア*の商人がここで金融取引を始めたことによる。

ロンバルジア　［Lombardia］　イタリア北部の州。面積24,000km²，人口739万(1961)。州都はミラノ。気候は大陸的で冬は寒く，夏が暑い。南半はポー川とその支流の平野で，農業・工業ともに盛んで，イタリア経済の中心をなす。北半はアルプスの山地と丘陵で，多くの湖水があり，同国第1の電源地帯である。平野部では，第2次世界大戦後天然ガスが大量に発見され，関連産業が起こっている。

ロンバルジアどうめい　【ロンバルジア同盟】　北イタリアのロンバルジア諸都市が結んだ都市同盟。神聖ローマ皇帝フリードリヒ1世のイタリア政策に対抗し,1167年結成。1176年同盟軍は皇帝軍をレニャノの戦いで破り，1183年コンスタンツの和で自治制を承認させた。次のフリードリヒ2世に対しても再び同盟を結び対抗したが，13世紀にはいるとゲルフ・ギベリンの両党の争いで自滅した。

ロンブローゾ　［Cesare Lombroso］(1836～1909)　イタリアの精神医学者で，犯罪人類学の創始者。ベロナの生まれ。ダーウィニズムの信奉者で，パビア大学教授を経て1876年トリノ大学教授となり，そこで犯罪の人類学的研究に没頭した。犯罪者の頭蓋(とうがい)や体格の調査による犯罪者類型を基礎として〈生来的犯罪者〉の学説を唱え，犯罪者総数の約3分の1は生来的に犯罪を犯す素因をもっているとした。このような実証主義的犯罪観は，特にイタリアにおいて発展し，刑事学におけるイタリア学派が樹立された。主著に有名な《犯罪人論》(1876)がある。

ローン-ボウリング　⇨ボウリング

ロンボク(島)　［Lombok］　インドネシア中部，小スンダ列島に属し，バリ島の東隣にある島。面積4,692km²，人口約90万。山地は熱帯の森林におおわれ，平地には耕地が広がっている。コーヒー・トウモロコシ・サトウキビ・タバコを産する。バリ島との間のロンボク海峡はアジア大陸とオーストラリア大陸との生物分布の境界をなすとされ，生物学上名高い。原住民のササク族はイスラム教徒でジャワ人に近く，ヒンズー教徒であるバリ人と異なるのも興味深い。主都はマタラム。　〔大崎　晃〕

ロンメル　［Erwin Rommel］　(1891～1944)　ドイツの軍人。ナチス台頭とともに1933年ナチス党に入党，1938年親衛隊長となった。第2次世界大戦では戦車師団長として北アフリカ戦線で活躍し，元帥となった。1944年連合軍のノルマンジー上陸作戦にあたり，ドイツ防衛軍総司令官に任命されたが，連合軍の上陸を阻止できず，みずからも重傷を負った。同年，ヒトラー暗殺未遂事件が起こり，その計画に加わったとしてヒトラーの圧迫を受け，自殺した。　〔松　俊夫〕

ろんりかいろ　【論理回路】　論理数学の演算を遂行する電子回路。論理数学はブール代数ともよばれ，G.ブール*が1854年に論理的推論を一つの計算規則として構成した代数学で，ディジタル-コンピューターの構造の基礎となっている。

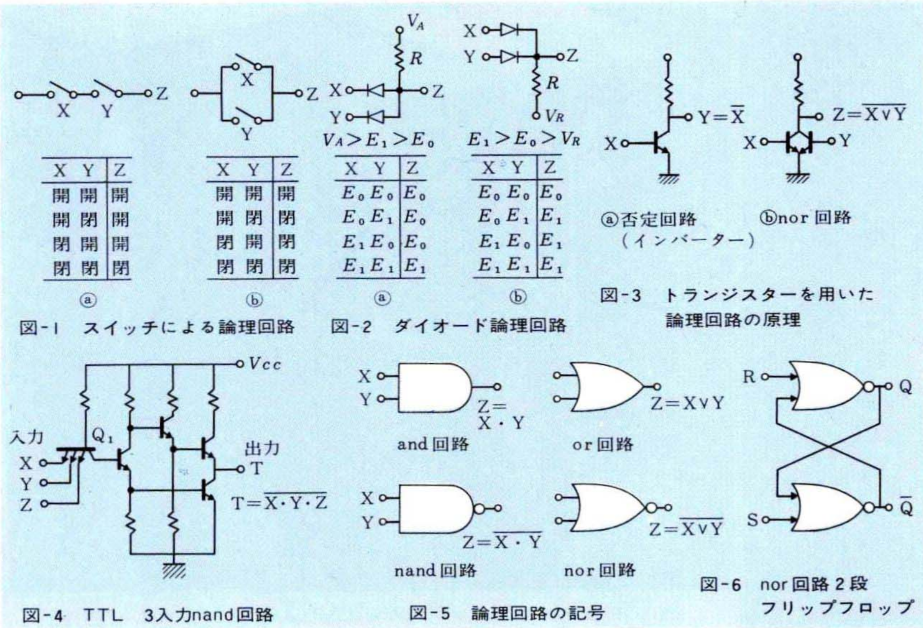


図-1 スイッチによる論理回路
図-2 ダイオード論理回路
図-3 トランジスターを用いた論理回路の原理
図-4 TTL 3入力nand回路
図-5 論理回路の記号
図-6 nor回路2段フリップフロップ

論理回路

論理数学の演算の対象は真理値の真(1)と偽(0)とであって，論理演算の代表例を表-1，2に示す。図-1ⓐのように二つのスイッチX，Yを直列に接続した場合，少なくとも一方のスイッチが開いていれば通路全体Zも開いている。スイッチ開の状態を真理値の1に，閉を0に対応させればZはXとYの論理積になるので，この回路はand回路とよばれる。またⓑに示す二つのスイッチの並列接続は論理和すなわちor回路になる。このように論理回路は入力・出力ともに真理値の0と1に対応する二つの状態をもつ。

図-2に示すダイオード論理回路では，真理値の1と0は電圧の高低で示される。入力端子X，Yに$E_1>E_0$なる電圧のいずれかが与えられるとき，ダイオードの順方向電圧降下を無視すれば出力端子Zの電圧もE_1またはE_0となり，E_1を真理値の1に，E_0を0に対応させればⓐの回路はand回路，ⓑはor回路になる。ここで真理値と電圧との対応を反対にすると，ⓐがor回路，ⓑがand回路になる。

トランジスターのような増幅作用のある素子では，図-3ⓐに示すように入力端子(ベース)Xと出力端子(コレクター)Yの電圧の高低は互いに反転しているので否定回路をつくる。andまたはorのいずれかと否定とを組み合わせることにより，どのような論理回路でも構成することができる。トランジスターを一つのスイッチと考えれば，図-3ⓑの回路は並列スイッチなのでorとなるが，トランジスター増幅器の位相反転作用により否定がとられZ＝X∨Yとなり，これをnor回路という。また，トランジスターを直列に接続した回路はZ＝$\overline{X\cdot Y}$の演算を行ない nand 回路とよぶ。nor回路やnand回路はそれ一種類だけで任意の論理回路を構成できる。

近ごろの論理回路は集積回路化されており，図-4は代表的なTTLとよばれる3入力nand回路を示す。トランジスターQ_1は互いに分離された3個のエミッターをもち，and回路の作用をし，他のトランジスターは増幅器である。

図-5に論理回路の記号表示を示す。フリップフロップ(➡マルチバイブレーター)は論理回路として考察すれば図-6のように2段nor回路に帰還を施した回路となる。Rはリセット，Sはセット入力である。

論理回路素子はこのほかにEETや磁気回路がある。MOSFETは特に高密度集積回路(LSI)用にすぐれており，メモリーなどに用いられる。論理回路は電子回路を使わずにつくることができ，昔鉄道信号では機械式の論理回路を用い，流体を取り扱う装置では流体力学の原理を利用した流体論理素子を使用する。〔小原啓義〕

表-1　1変数論理演算
否定：Z＝$\overline{X}$

X	0 1
Z	1 0

表-2　2変数論理演算
Z＝f（X，Y）

X	0 0 1 1	演算の名称	演算記号*
Y	0 1 0 1		
Z	0 0 0 1	論理積，and	X ・Y
	0 1 1 1	論理和，or	X ∨Y
	0 1 1 0	排他的論理和	X ⊕Y
	1 0 0 1	一致・対等	X ↔Y
	1 0 0 0	nor	X ↓Y
	1 1 1 0	nand	X ｜Y
	0 0 1 0	抑止	X −Y
	0 1 0 0	抑止	Y −X
	1 0 1 1	含意	Y →X
	1 1 0 1	含意	Y →Y

＊論理演算の記号はこのほかにもある

ろんりがく【論理学】 思考を正しく導くための一般的な条件を研究する学問。思考の内容を捨象し，命題*の構造や推理*の妥当性をもっぱら形式の上からのみ取り扱うことを特徴とする。ただし，思考そのものの形式や法則についてだけでなく，思考とその対象との関係を問題とする認識論的な研究や，思考の展開を実在の運動，発展の一つの相とみる弁証法理論，あるいは思考を行為的連関においてとらえるプラグマチックな方法などもまた広い意味で論理学といえる。

論理学的な研究の起こりは古代の中国・インド・ギリシアの学問のうちにみられるが，これをはじめて体系化したのはアリストテレス*である。そこには演繹*(えんえき)論理を中心に帰納*論理や認識論も含まれている。これらはいかなる学問にも先だって学ばれるべき，すべてに共通の予備学あるいは基礎学であり，真理の探求に欠くことのできない道具であって，ここから，後世編纂(へんさん)された彼の論理学上の諸著作は〈オルガノン*(機関)〉とよばれている。このことは論理学という学問が本来的に形式的な体系であり，すべての学問に対して個々の実質的な主題をこえて普遍的に妥当すべきものであることを意味する。彼の論理学はその核心である演繹論理が中世のスコラ学者たちによってほとんどそのまま受け継がれ，背後にあったギリシアの存在論から分離され純化されて，いわゆる形式論理学*としていちおうの完成をみた。しかしながら，近世になって自然科学が勃興(ぼっこう)してくると，演繹推理は新しい知識を生み出すことのできない無用の長物とされるようになった。新しい学問研究の方法が求められる中でF.ベーコン*は《ノーブム-オルガヌム*》を著わし，実験と結びついた帰納法をもって近代科学の精神に道をつけるものとした。帰納論理学はのちにJ.S.ミル*によって体系化が進められた。やがて19世紀の数学の発達に伴い本来の形式論理学が評価し直され，数学的な方法を導入，論理的な関係を記号化し，推理を計算に転換することによって，高度に厳密化された記号論理学*あるいは数学的論理学として再構成された。これはライプニッツ*の普遍的記号法の発想に基づくもので，ブール*によって体系化され，部分的な修正を経て，シュレーダーの《論理の代数についての講義》において整理された。またフレーゲ*とペアノ*は数学の論理的な基礎づけを試み，その展開はホワイトヘッド*とラッセル*の共著《数学原理*》に結実した。その後，命題に真偽の二値のみを認める従来の立場をこえて，必然性・可能性などの様相の概念や確率の概念を引き入れた様相

論理学・多値論理学の種々の体系化が試みられるようになり，これとともに諸科学の命題の論理的な分析をもって哲学の唯一の仕事とする論理実証主義の運動が現われて，記号論理学は科学的な認識全般を組織すべき方法として，さらには人間の思考活動そのものを拡大・変革するものとして発展することになった。

伝統的な古典論理学と現代の記号論理学とは多くの点で性格をことにするが，その根本は，前者における形成化が概念や判断を形式的な関係においてのみとらえることにとどまるのに対して，後者は関係そのものの構造までも問題とするというところにある。伝統的論理学は思考を概念・判断・推理の作用としてとらえる。しかし根底となるのは概念である。概念には内包と外延の2面があり，これに基づいてすべての概念が類種の階層的な系統に組み入れられる。したがって定義は概念を体系内に位置づけることであり，その属する類と種差とを述べることによって与えられる。こうした体系的な関係において，二つの概念の結合を肯定あるいは否定するのが判断（定言的判断）である。肯定判断は主語の外延が述語の外延に含まれ，述語の内包が主語の内包に含まれることを肯定し，否定判断はこれを否定する。また全称判断は主語の外延すべてについて包摂関係を述べ，特称判断はその一部について述べる。ここから四つの判断形式が見出され，これら相互の形式的な関係に従って命題の変形が可能となるが，その場合にも主語と述語の位置を交換したり，概念の質を変えたりする規則が必要である。次に，代表的な推理であり，二つの判断を前提として導かれる定言的三段論法（→三段論法）についていえば，これには，二つの前提は一つの概念を他と共有し，もう一つの概念を結論と共有しなければならないという成立条件がある。このことは，この推理が，結論に現われる二つの概念を前提に共通の第3の概念の媒介によって関係づけるものであることを示している。推理もまた概念の体系を基礎として，個々の包摂関係を確定する手続きにほかならないのである。しかるにこの概念の体系は，内包と外延の両方を構成原理とする形式的に不完全なものであり，ここに古典論理学における形式化が制限される原因がある。これに対して記号論理学は，命題を思考の最小単位としてその形式的な結合関係を明らかにする命題論理学を基礎とし，その上に，主語と述語を記号化し，命題の形式的な構造を取り出す述語論理学を組織する。まず命題論理学では，命題や推理をそれらを構成する要素命題の結合したものとしてとらえる。ここから命題の結合形式が，任意の要素命題を代入例とする命題変項と，これを結合する論理記号を導入することにより，論理式として与えられる。この論理式は論理記号の操作のみによって変形することができるのであり，これは命題の結合関係そのものが変えられることを意味する。こうした論理的な操作の方法を確定することによって，普遍妥当的な論理式すなわち推論形式が体系化される。述語論理学は命題を個体と述語の関係とみて，これを個体変項をもった命題関数として形式化する。述語が関係を表わす場合は，個体変項が二つ以上になる。これに全称・特称を示す量化記号を付加することによって，命題は完全に記号化され精密化される。〔石倉恒之〕

ろんりじっしょうしゅぎ 【論理実証主義】 分析哲学の一。〈論理的経験論〉ともいわれ，ウィーン学団に始まる現代の科学的経験論の哲学をいう。しかし一つの学派をさすのではなく，ある哲学的態度のもとに集まった人々に外から与えられた名である。したがって，そこに必ずしも学派というような形での統一した見解がみられるわけではないが，形而上学（けいじじょうがく）を否定し，言語分析の方法によって哲学の問題を解こうとするところに，その一般的な特徴があるといえる。ウィーン学団とは，1924年シュリックによって私的に創設されたもので，カルナップ・ノイラートらの哲学者，ハンス-ハーン・ゲーデルらの数学者など，多方面の学者が加わっていた。この学団は思想的には，マッハの実証主義，ラッセル・ウィトゲンシュタインの論理的原子論の哲学および記号論理学の成果が基盤となって成立したものであるが，そこから経験的に検証できる命題のみ有意味な命題として認める〈意味の検証理論〉，および言語分析における〈記号論理学（形式言語）〉の採用ということがこの学団の主張となって現われた。ウィーン学団は1929年には〈ウィーン学団—科学的世界把握（はあく）〉という宣言でその存在を公にし，また雑誌《エアケントニス（認識）》を刊行し，その思想の普及に努め，イギリスのエイヤーらの国際的同調者を得て発展した。そして，ノイラートによる物理言語ですべての科学を統一しようとする〈物理主義〉および〈統一科学〉の思想，カルナップの哲学を〈科学論理学〉とする思想などが現われ，この学団をリードした。しかし1938年シュリックの死により同学団は解体し，またカルナップらの主力メンバーがその後ナチスの弾圧によりアメリカなどに移ったことから，今日では論理実証主義という運動そのものは消滅したが，アメリカのプラグマチズムの思想と結びついてその基本思想は残っているといえる。〔寺中平治〕

ろんりてきげんしろん 【論理的原子論】 ラッセル自身により彼およびウィトゲンシュタインの哲学的立場を示すためにつけられた名。それによれば，この世界はそれ以上分けられない原子的事実（原子的命題）より構成され，そのような原子的事実を論理的に結合したところに複雑な認識（分子的命題）が成立するとされる。この考えは，概念ではなく判断（命題）を基礎に置く記号論理学と結びついて発展し，のちの論理実証主義の母体となった。〔寺中平治〕

ろんり・てつがくろん 【論理・哲学論】 ウィトゲンシュタインの主著。1922年刊。論理実証主義のバイブルともいわれ，現代のイギリス・アメリカ哲学に決定的な影響を与えた。全体は大きく七つに分かれ，それぞれ難解なアフォリズムからなっている。そこには彼の論理的原子論といわれる思想が述べられているが，記号論理学における真理表の完成，論理学の命題は実在に関してはなにも述べていない分析命題の体系であるとしたこと，また言語は実在の写像であり，言語の限界は認識の限界であると主張し，哲学の仕事を言語批判とするなど，きわめて鋭い考えが打ち出されている。〔寺中平治〕

わ

わ【倭】 古代，中国・朝鮮で用いられた日本の呼称。《漢書》の〈地理志〉に，〈楽浪海中に倭人あり〉と記されているが，ここでいう倭は一般に紀元前後の北九州地方とされている。そののち《後漢書》《魏志(ぎし)倭人伝》《宋書(そうしょ)》など中国の史書は，いずれも日本を倭と称して中国王朝と日本との交渉について記している。また，1784年(天明4)筑前(ちくぜん)(福岡県)志賀島(しかのしま)で発見された漢委奴国王印*(かんのわのなのこくおうのいん)は，後漢の光武帝が57年に奴王に授けた印綬(いんじゅ)と一般に推定されている。国土を統一した大和(やまと)国家*も中国王朝からは倭国とよばれ，南朝に遣使した5人の天皇は〈倭の五王*〉の名称で知られている。また七支刀*や広開土王碑*の金石文などから，古代朝鮮諸国も日本を倭とよんでいたことが知られる。7世紀，聖徳太子は対外的自覚から日本の国名を用いはじめたが，中国で日本と記すようになったのは10世紀の《旧唐書(くとうじょ)》以後である。中国が日本を倭と称した由来については，倭の字義には柔順の意味があり，東夷(とうい)のうち日本が朝貢して柔順であったことから出たとする説をはじめ諸説があるが，いずれも定説となっていない。〔高崎徳次〕

ワイアット [John Wyatt] (1700～1766) イギリスの紡績技術者。スタッフォードのリッチフィールド近郊に生まれ，はじめ大工をしていたが，発明の才には恵まれていた。旋盤を考案してその権利を譲ったことから，1732年に小工場主ポールと知り合い，援助を受けた。1733年ローラーによって繊維を引き伸ばす紡績機械を発明し，ポールの名で特許を得た。この発明は1760年代以降のイギリス産業革命における綿紡績機発達の技術的出発点となった。しかし，両人が創業した工場は1742年に破産した。このため，ワイアットは1744年ボールトン-ワット商会のソホ工場に雇われた。〔山崎俊雄〕

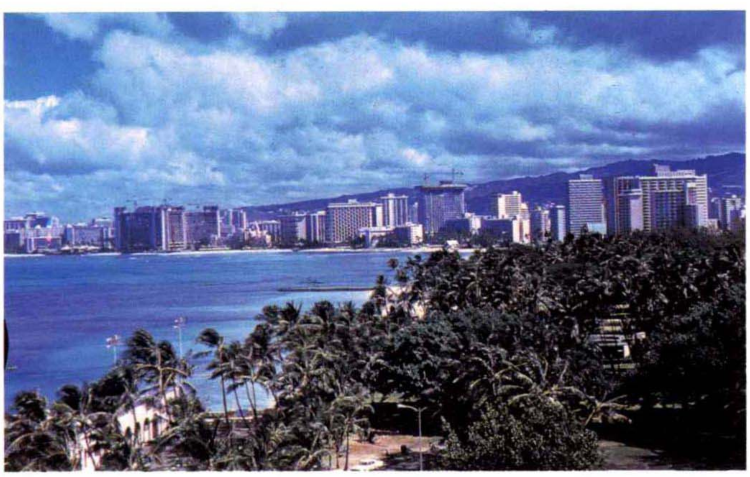
わいいん【淮陰】 ⇨清江

ワイエスじゅういち [YS-11] わが国で開発された最初の本格的な旅客機。わが国航空工業の再建のために，1956年(昭和31)ごろから通産省のきもいりで研究が開始され，はじめ輸送機設計協会(YSの頭文字の起こり)，のちに半官半民で設立した日本航空機製造によって開発された。エンジンはイギリスのロールス-ロイス*社製ターボプロップのダート10型2基，大直径のプロペラも同じくロールス-ロイス社製であるが，機体は国産である。1962年初飛行後，日本およびアメリカ政府機関の型式承認を受け，1964年から就航。座席数60と手ごろな大きさのうえ，離着陸距離が短く操縦性がすぐれているので，日本の国内線のほかアメリカや南アメリカの各国などへも輸出されている。➔旅客機 ➔飛行機(図)〔中口 博〕

ワイエムシーエー [ＹＭＣＡ] Young Men's Christian Associationの略称。キリスト教青年会。1844年ロンドンで青年実業家ジョージ-ウィリアムズ(1821～1905)ら12人の青年によって創立された。急速にヨーロッパ・北アメリカ諸国に拡大し，1855年にはパリで8か国代表が会議を開き，世界ＹＭＣＡ同盟(本部はジュネーブにある)を結成，今日に至っている。日本では1880年(明治13)東京に設立された。現在世界の50余国で青少年の人格・身体の向上と社会的奉仕への献身など，各種事業が活発に行なわれている。〔石井忠厚〕

ワイオミング(州) [Wyoming] アメリカ合衆国西部の州。面積25万4,000km²，人口31万5,000(1968)。州都シャイエンヌ。1890年7月合衆国44番めの州となる。州名はインディアン語で大平原の意。西部はロッキー山脈で，州面積の3分の2を占め，大部分が山地と乾燥地であり，ヒツジやウシの放牧が行なわれている雄大な景観が見られる。産業は鉱業が最も盛んで，これに農業が次ぎ，第3位に観光産業があり，工業は第4位である。石炭・石油・天然ガス・ウラニウムの豊かな埋蔵があり，ウラニウム生産は全国第2位。1869年合衆国で最初に婦人の参政権を認めた。主要都市，シャイエンヌ。〔相村大彬〕

ワイキキ [Waikiki] アメリカ合衆国，ハワイ州ホノルル市南東方にあり，海水浴場として世界的に有名な海岸。オアフ島南東部にある三日月形の海岸で，さほど広くはないが，ダイアモンドヘッドを望む景勝の地に位置し，浜辺には遊歩道路に沿って高級ホテルが林立している。常夏(とこなつ)の気候のため，年じゅう水泳と波乗りを楽しむことができる。浜にはカピオラニ公園・ホノルル動物園などがある。カピオラニ公園には熱帯魚を集めた水族館や音楽堂があり，定期的に毎週，ヤシの木陰でフラダンスのショーが開かれる。また毎年8月には日曜ごとにフラ祭りが盛大に行なわれる。〔相村大彬〕



ワイキキ 豪華なホテルが立ち並ぶワイキキ海岸。最近は日本の投資もふえ，ホテルの新増築が著しく，観光保養施設はその規模を広げている

ワイシャツ　正しくはホワイトシャツ(white shirt)といい，ワイシャツとはそれのなまったことばで，元来は白無地のシャツ*をさしたが，現在ではそのほか，色物や縞(しま)・格子(こうし)・プリント模様などのがら物シャツも含めた総称。わが国では，シャツというとメリヤスのはだ着をさすので，特にワイシャツとよんで区別している。形は前あきでボタン留めになったものがほとんどで，まれにファスナーあきのものもある。すそは両わきがカットされ，そではそで山の低いものがつけられ，そで口にはシングルまたはダブルのカフスがつく。えりはとりはずしできるものとできないものとがあり，前者はほとんどが礼服用に用いられる。後者はかつてはカッターシャツとよばれたが，近年は区別がなくなりつつある。えりは多くのデザインがあり，流行によっても変化が激しい。生地は綿・麻・絹・ウール・ナイロン・ポリエステルやそれらの混紡が使用され，色・がら・形などにより，各種用途に着用されるが，一般にネクタイを締めて着用できないものはスポーツシャツといって除外している。着用の際はカフス・カラーが，上着よりも出るのが普通で，上着のよごれを防ぐことにもなっている。　〔小室正雄〕

わいしょうじょうちゅう【矮小条虫】　扁形(へんけい)動物・条虫綱の寄生虫で，小形条虫ともいう。体長20mm内外で，条虫としては小形。ネズミ類の小腸に寄生するが，しばしばヒトにも寄生する。中間宿主は実験ではゴミムシダマシなど種々のこん虫が知られているが，必ずしも中間宿主を必要とせず，宿主が経口的に卵を取り込むと，腸壁内で孵化(ふか)して成虫となる。小児に多く感染し，多数寄生すると腹痛・下痢・神経症状などがみられる。治療にはアテブリン・ビチオノールなどが用いられる。　〔山本　久〕

ワイス　［Peter Weiss］(1916～　)　ドイツの劇作家・小説家。ナチス治下のドイツから亡命し，スウェーデンに在住。長い題名をもつ戯曲《マラーの迫害と暗殺》(略称)で世界的名声を得たのち，社会主義勢力との連帯を表明し，ブレヒト劇などの実験をふまえた〈記録演劇〉の手法で《追求》《ベトナム討論》(略称)などの問題作を発表。ほかに，スターリン主義を批判した《亡命のトロツキー》がある。

ワイスマン　［August Weismann］(1834～1914)　ドイツの生物学者。フランクフルト-アム-マインの生まれ。ゲッチンゲン・ギーセン両大学に学ぶ。1866年フライブルク大学の助教授，のちに教授。19世紀末の生物学，特に進化論・遺伝学・発生学・細胞学などにおいて大きな影響を与えた。彼の学説によれば，〈決定因子とよばれる遺伝的実体が，生殖細胞だけに完全な状態で存在し，それは体細胞や外部環境の影響はほとんど受けない。受精卵に存在している決定因子は，卵割のたびに各細胞に不均質に配分され，こうして細胞分化が進む。また，決定因子の間に生存競争が起こり，使用されない器官を構成する細胞の決定因子は消滅し，次代には出現しなくなることがある〉とした。　〔中村禎里〕

わいせい【矮星】　主系列星*で，大きさが太陽程度より小さい恒星。わい星の表面重力は巨星*よりも大きく，したがってわい星の大気の密度は巨星より大きい。これがわい星のスペクトルに特徴を与えている。一般に原子の電離は，温度が高いほど，また電子密度が小さいほど進む。したがって，温度が同一ならば電子密度の小さな巨星のほうが電離が進んでいる。また，電離が同じようなスペクトルを示すためには，つまり同じスペクトル型*であるためには，わい星のほうが巨星よりも温度が高くなる。実際には500～1,000°K高い。電子密度の変化に特に敏感な中性のカルシウムやストロンチウムのイオンなどの吸収線において，わい星では中性の金属線が強く，イオンの線が弱く現われる。このことは，スペクトル線の見かけからわい星であるか巨星であるかを区別するのに使われる。　〔日江井栄二郎〕

ワイゼッカー　［Carl Friedrich von Weizsäcker］(1912～　)　ドイツの理論物理学者。キールの生まれ。ベルリン・ゲッチンゲン・ライプチヒ各大学に学ぶ。ボーア・ハイゼンベルクの指導を受け，理論物理学，特に原子核物理学を研究した。1942年シュトラスブルク大学教授となり，その後ゲッチンゲン・ハンブルク各大学教授。1938年恒星のエネルギー源を熱核反応によって説明し，さらに1947年には乱流の理論に基づいて宇宙の進化を論じた。なお科学思想家としても知られている。　〔藤村　淳〕

わいせつざい【猥褻罪】　社会の性秩序ないしは健全な性的風俗を保護法益とする公然猥褻罪・猥褻文書等頒布罪・強制猥褻罪のこと(刑法174～176条)。淫行(いんこう)勧誘(刑法182条)を含める説もある。〈猥褻〉とは，いたずらに性欲を興奮または刺激させ，しかも普通人の正常な性的羞恥心(しゅうちしん)を害し，善良な性的道徳観念に反するものとされるが(判例)，最近の性的解放・性風俗の変化により，その標準をめぐって論争があり，今後判例の観念は変化するものと思われる。①公然猥褻罪：不特定または多数の者が覚知できる状態の中で，猥褻行為を行なった者の罪。刑は6月以下の懲役または25,000円以下の罰金。②猥褻文書等頒布罪：猥褻の文書・図画その他の物を頒布・販売し，または公然とこれを陳列した者の罪。刑は2年以下の懲役または25万円以下の罰金。〈頒布〉とは不特定または多数の人に対する無償の交付，〈販売〉とは有償の譲渡，〈公然陳列〉とは不特定または多数の人が観覧することができる状態に置くことである(映画の映写も含まれる)。③強制猥褻罪：13歳以上の男女に対し，暴行・脅迫をもって猥褻の行為をした者の罪，および13歳未満の男女に対して猥褻の行為をした者の罪。刑は6月以上7年以下の懲役。④準強制猥褻罪：人の心神喪失もしくは抗拒不能に乗じ，または人の心神を喪失させもしくは人を抗拒不能にして，猥褻行為をした者の罪。刑は強制猥褻罪と同じである。なお，強制・準強制猥褻罪の行為には姦淫(かんいん)を含まない(→強姦罪)。以上の未遂罪はすべて罰せられ，原則として親告罪*である(ただし2人以上共同して犯行したときは除く)。　〔井上公耳〕

わいせんしょくたい【Y染色体】　性染色体が雄でヘテロ接合，雌でホモ接合の生物の場合，雄だけに1本あって雌にない性染色体をいい，性の決定に重要な役割をもつ。ヒト・メダカ・ショウジョウバエなど多くの動物はこの型に属し，雄をXY，雌をXXで表わす。Y染色体には，雄の妊性を支配する遺伝子があるのが普通であるが，対になるX染色体と比較すると，遺伝子の数はずっと少ないと考えられている。

ワイダ　［Andrzey Wayda］(1926～　)　ポーランドの映画監督。ウッジ国立映画大学でフォルドの下に学び，卒業後《世代》で監督となる。スターリン批判後《地下水道》《灰とダイヤモンド》を発表して，従来のレジスタンス映画の常識を破り，みずからの主体的意識に根ざして第2次世界大戦と戦後の体験の意味を描きあげた。この2作は，ムンク・カワレロウィッチの作品とともにいわゆるポーランド-リアリズムの中核をにない，1950年代後半の世界の映画に大きな影響を与えた。また《夜の終わりに》《二十歳の恋，ポーランド篇》では世代論に取り組みつつ，戦後社会への批判を描いた。　〔波多野哲朗〕

ワイダブリューシーエー　［YWCA］　Young Women's Christian Associationの略称。キリスト教女子青年会。1855年ロンドンで設立されたロバーツ女史の祈禱(きとう)団と，キナード夫人の婦人訓練会が1877年に合体して結成された。1894年に世界YWCA(本部はジュネーブにある)が組織され，現在加盟国は70余国。日本では1905年に創立された。会員相互の人格向上，奉仕の精神の涵養(かんよう)，キリスト教的理想社会の建設を目的として各種活動が行なわれている。　〔石井忠厚〕

ワイツ　［Georg Waitz］(1813～1886)　ドイツの歴史家。ゲッチンゲン大学教授。ベルリン大学でランケ*に学び，その影響を受けた。厳密な史料批判に基づいて，中世の制度に関する研究を行ない，学問としての中世史研究を確立した。中世史料集として最も重要な《モヌメンタ-ゲルマニアエ-

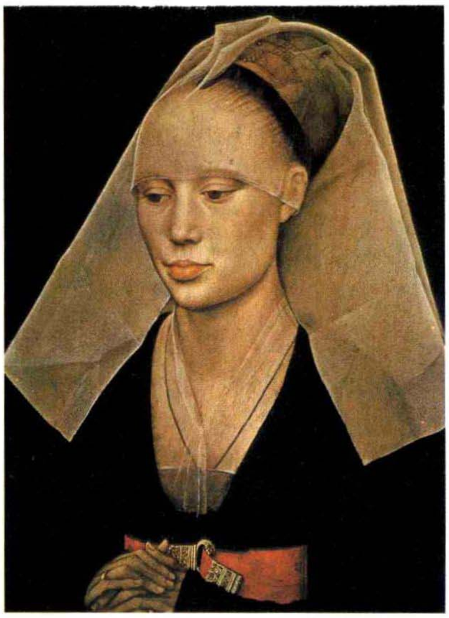
ヒストリカ(ドイツ歴史記念物)》の編集に加わり，生涯(しょうがい)この仕事に努力した。主著《ドイツ法制史》8巻は中世史に関する古典的名著として，今日でも重要な意義をもっている。〔兼岩正夫〕

ワイデン [Rogier van der Weyden] (1400ごろ〜1464) ネーデルラントの画家。1436年ブリュッセル市の画家に任ぜられ，多くの祭壇画を残している。特に《十字架降下》《最後の審判》が著名である。彼は，バン-アイクの静に対し，彫塑的な人物描写によって内的激情を表現したとされる。ほかに肖像画や聖母像を描いた。なお，《聖母を描く聖ルカ》にはバン-アイクの影響がみられる。

ワイド-スクリーン [wide screen] 映写幕(スクリーン)のうち，スタンダードとよばれる通常のスクリーン(縦横の比が1：1.33)より横の比が大きいスクリーンの総称。シネラマ・シネマスコープ・ビスタビジョンなど多くの種類がある。シネラマに代表される第1のタイプは，1952年にニューヨークではじめて公開されたもので歴史的に最も古い。これは3本のフィルムに分けて撮影された画像を，スクリーン上で横につなげたものである。シネマスコープに代表される第2のタイプは，アナモフィックレンズ*によって左右が2分の1に圧縮されて撮影された35ミリのフィルム画像を，映写のときに同様のレンズで拡大して，スタンダードの約2倍の横幅をもつ画像に写しだすものである。またビスタビジョンに代表される第3のタイプは，55ミリ・65ミリ・70ミリなどの幅の広いフィルムを使い，特殊の大形カメラで撮影したもので，もともとフィルム上の画像の横幅が広い。これらはいずれも，1950年代のテレビの急激な普及に対抗して，映画の娯楽性，ことにスペクタクル性を強めるために開発された防衛策であった。しかし，客席を包みこむような形の湾曲したワイド-スクリーンは，観客を劇中に巻き込む迫力をもち，今日では観客にも親しまれて一般化し，むしろスタンダードよりも数多くつくられている。〔波多野哲朗〕

わいないさだゆき 【和井内貞行】 (1858〜1922) 養魚事業家。秋田県鹿角(かづの)郡毛馬内(けまない)(現十和田町)の出身。イモリのほかは魚のまったくいなかった十和田湖に魚類の養殖を志し，1884年(明治17)コイ・フナ・イワナなどの稚魚の放流を試みたが失敗。1903〜1905年にかけて，北海道支笏湖(しこつこ)産のヒメマスの孵化(ふか)した稚魚を放流し成功した。以後養魚事業に専念。のち和井内マスの名称を得て各地に養殖を盛んにさせた。また十和田の観光開発にも貢献した。〔安達利夫〕

わいなん 【淮南】 ホワイナン 中国，安徽(あんき)省中部の都市。人口約60万。旧名田家庵(あん)。淮河南岸に臨み，淮南鉄道の終



ワイデン 《婦人像》 ワシントン-ナショナル-ギャラリー蔵



ワイマール ワイマール市のマルクト広場。ゲーテやシラーの住んだこの町はドイツ文学のメッカで，多くの文化遺産が残されている

点にあたる水陸交通の要地をなす。市西方の八方山・舜耕(しゅんこう)山一帯に年間出炭量1,000万tを越える淮南炭鉱があり，近年これを中心に製紙・機械・化学肥料・合成繊維・合成石油などの大工場が建設され，新興鉱工業都市となっている。淮南の名称は，淮河以南，揚子江(ようすこう)以北の地域を広く総称するもので，漢代には淮南国が置かれ，以後淮南郡(三国〜隋(ずい))・淮南道(唐)・淮南路(宋(そう))などが建置された。〔船越昭生〕

わいはんないかく 【隈板内閣】 第1次大隈重信(おおくましげのぶ)内閣の通称で，日本最初の政党内閣。1898年(明治31)6〜9月。日清(にっしん)戦争後，藩閥政府攻撃が高まり，さらに自由党と進歩党が合同して憲政党*が組織されるに及んで，首相伊藤博文(いとうひろぶみ)は第3次内閣を投げ出して，後継内閣の首班に大隈重信・板垣(いたがき)退助を推挙。ここに1898年6月30日政党内閣が成立した。首相兼外相に大隈，内相に板垣が就任。しかし憲政党内に旧両党系の対立，さらに同内閣の成立に反対していた山県有朋(やまがたありとも)・桂(かつら)太郎の倒閣陰謀が進められ，ついに憲政党は分裂，このためわずか4か月で同内閣はなすところなく倒閣し，第2次山県内閣に代わった。〔杉山三枝〕

ワイマール [Weimar] 東ドイツ南西部，チューリンゲン地方の中心都市。人口64,000(1968)。いまはエルフルト州に属する。19世紀にドイツ自由主義の中心地となり，ゲーテ・シラーなど芸術家の集まっていたことで有名。第1次世界大戦後の1919年ドイツ共和国議会が開催され，民主的憲法(→ワイマール憲法)が制定されたことでも知られる。市街は中世のなごりをとどめ，皮革・鋳物などの手工業がある。

ワイマールきょうわこく 【ワイマール共和国】 ドイツ革命*によって成立した共和国で，憲法制定国民議会が開かれたワイマールの地名にちなんでこの名でよばれる。1919年1月の総選挙で第1党となったドイツ社会民主党*が中央党・ドイツ民主党といわゆるワイマール連合を形成して政権を担当し，ベルサイユ条約*の承認，ワイマール憲法*の制定などを行ない，エーベルト*を初代大統領に選んで戦後の再建にあたった。しかし共和国の前途は多難でカップ一揆*(いっき)など反政府運動のほか，特に過酷な賠償問題に悩まされた。その結果，1923年にはルール占領*が行なわれ，ドイツは天文学的インフレに直面して破局の寸前に立たされたが，この危機はレンテンマルクの発行とドーズ案*の成立によって回避することができた。この間外相となったシュトレーゼマン*の履行政策によってまもなくドイツは戦前をしのぐ経済力を回復し，対外的にもロカルノ条約*の成立に伴う国際連盟への加入など国際的地位もしだいに回復した。しかし，それとともに国内では保守派が勢力を回復し，1925年の大統領選挙では右派のヒンデンブルク*が当選するなど，民主主義的勢力はしだいに色あせる結果となった。1929年アメリカに始まった世界恐慌は，アメリカ資本の支持のもとに経済の再建を行なってきたドイツに深刻な影響をもたらし，社会不安が日ましに増大すると，この機を利用したナチス*は大資本の支持を受けて勢力を急激に伸ばし，1932年の総選挙ではついに第1党に躍進し，1933年ヒトラー内閣を成立させた。ヒトラーは事実上ワイマール憲法を廃止し，翌年ヒンデンブルクが死去すると名実ともにドイツの独裁者となり，共和国は短命で崩壊した。〔松 俊夫〕

ワイマールけんぽう 【ワイマール憲法】 ドイツ革命*後成立したドイツ共和国の憲法。憲法制定国民議会の開かれたワイマールにちなんでこの名でよばれる。憲法の草案はフーゴー-プロイス(1860〜1925)によって作成され，社会学者マックス-ウェーバーも相

談に加わったといわれる。草案は1919年7月31日議会を通過，8月14日に公布，直ちに施行された。憲法は前文および本文181条よりなり，革命後の情勢を反映して民主主義・自由主義を基調としているが，同時に生存権的基本権を認めているなど社会主義的色彩をもっており，当時としては画期的な憲法と考えられていた。しかし一方，大統領の非常独裁権を認めていたことは，ひいてはナチス独裁へ道を開く一因となったともいえよう。1933年3月ナチスが授権法に基づく一連の立法を行なったことによって，この憲法は事実上死滅した。
〔松　俊夫〕

ワイヤシュトラス［Karl Theodor Weierstrass］（1815～1897）ドイツの数学者。ミュンスターに税関吏の長男として生まれた。ボン大学で数学を学び，のち体操の教師を長くつとめながら数学を研究。1855年〈アーベル関数について〉の論文により認められ，ベルリン大学に招かれ，1864年教授となる。関数論について多くの研究があり，特に冪(べき)級数で複素関数の理論を立てたことは重要。このほかある区間のどの点でも微分不可能な連続関数を見いだすなど，解析関数の基礎を確立した。
〔下平和夫〕

ワイヤレスマイク［wireless mike］マイクロホンと無線送信装置を一体に組み込んだもの。無線式マイクロホンともいう。小形軽量で，しかも1mぐらいの細い電線のアンテナがついているだけでマイクケーブルが不要なので，舞台やインタビュアーらが用いるのに便利である。ワイヤレスマイクからは変調された超短波の電波が発射され，受信側では検波増幅してスピーカーから流す。変調方式はFM方式が用いられる。室内でも屋外でも使用できるが，使用する電波の送信電力は微弱なものに限定されているし，また使用できる周波数帯にも制限があるので室内とか近距離(障害物のないところでも200m程度)の屋外でしか使用できない。また，同時に数多くのワイヤレスマイクを使用すると混信する場合もある。
〔伊藤　毅〕

ワイラー［William Wyler］（1902～1981）アメリカの映画監督。フランスに生まれ，1920年アメリカに渡る。ユニバーサル社に入社して，1926年監督になった。第2次世界大戦中は記録映画をてがけ，戦後，キャプラ・スティーブンスらと独立プロを結成。みごとな職人芸の娯楽作品を正統的な演出法で数多くつくった。代表作は，《我等(われら)の生涯(しょうがい)の最良の年》《探偵(たんてい)物語》《ローマの休日》《必死の逃亡者》《大いなる西部》など。
〔高沢瑛一〕

ワイル［Kurt Weil］（1900～1950）ドイツに生まれ，のちにアメリカで活躍した作曲家。デッサウの生まれ。ブゾーニに


ワイルド

師事したのち，指揮者としてオペラについて深く知り，1926年《立役者》という革新的なオペラで注目を集めた。1927年に《宮殿》，翌1928年に《三文オペラ》を発表して大成功を収め，この台本を書いたブレヒトと協力して多くの舞台作品を産んだ。1933年ユダヤ系のために亡命し，1935年アメリカに定住，ミュージカルや映画音楽の面でも足跡を残している。
〔向坂正久〕

ワイルダー［Thornton Wilder］（1897～1975）アメリカの小説家・劇作家。ウィスコンシン州の生まれ。風刺的・象徴的な手法によって人間存在の本質的な問題を追求する姿勢を示しているが，その肯定的な態度はアメリカ文学の中では珍しい。小説《サン-ルイス-レイ橋》，戯曲《わが町》などが代表作。

ワイルド［Oscar Fingal O'Flahertie Wills Wilde］（1854～1900）イギリスの詩人・小説家・劇作家。アイルランドのダブリンに生まれ，同地の大学とオックスフォード大学に学んだ。在学中から文才を注目され，また奇行でも話題となった。1895年には，男色事件に関係して有罪となり，2年間の重労働を課され，出獄後，失意の中にパリで死んだ。1890年代のいわゆる世紀末思潮の象徴的人物であり，唯美主義・芸術至上主義を文学と行動に実践。その思想は，ラファエル前派の詩やペイターの芸術理念を足がかりに生まれたもので，ロマン主義の19世紀的変形といえ，フランスの象徴主義との関連においても重要である。代表作に世紀末的唯美主義の小説《ドリアン-グレーの肖像》があるが，本領は《サロメ》などの劇作にあり，ほかに童話集《幸福な王子》，書簡形式の告白録《獄中記》が名高い。
〔吉田由紀子〕

ワイルびょう【ワイル病】レプトスピラの経口的または経皮的感染によって起こる急性伝染病。黄疸(おうだん)出血性レプトスピラ病ともいわれる。1886年ドイツの医師A.ワイル(1848～1916)によってはじめて記載され，1915年(大正4)稲田龍吉(りゅうきち)・井戸泰(やすし)によって病原体が発見された。患者の尿，罹患(りかん)した家畜やノネズミの尿，流行地の水田やどぶの水によって感染し，感染後4～10日で悪寒(おかん)・発熱・頭痛・嘔吐(おうと)・下痢・筋肉痛を発し，続いて眼球結膜の充血，強度の黄疸，皮膚および粘膜の出血，無尿，肝水腫(かんすいしゅ)，出血性腎炎(じんえん)などを生じる。農夫・炭坑(たんこう)夫・下水工事夫・漁師などに多い。治療は早期にはワイル病血清が有効だが，近年はストレプトマイシン・カナマイシンなどの抗生物質がよく用いられ奏功している。
〔橋本信也〕

ワインガルトナー［Felix Weingartner］（1863～1942）オーストリアの指揮者。グラーツで作曲を学んだのちに，ライプチヒ大学で哲学を修め，1883年ワイマール音楽院にはいって，同地でリストにも師事した。翌1884年にケーニヒスベルクで指揮者としてデビューし，1891～1898年はベルリン国立歌劇場，1908～1911年はウィーン国立歌劇場，1919～1927年はウィーン-フィルハーモニー管弦楽団など指揮者としてヨーロッパ最高の地位を歴任した。1927年にバーゼル音楽院院長，1935年にはウィーン国立歌劇場の総監督となった。作曲家・著述家としての足跡もある。1937年(昭和12)に来日。
〔向坂正久〕

わおきつねざる【輪尾狐猿】⇨キツネザル

わおん【和音】二つ以上の音が同時に重なり合うことによって生ずる音をいう。和音には協和音と不協和音とがある。機能和声では，長三和音と短三和音は協和音となり，その他の減・増三和音などはすべて不協和音となる。また和音はその位置によって別の名称でよばれる。すなわち根本が低音部にあるものを基本位置，低音部以外にあるものを転回形という。

わか【和歌】⇨次ページ

わかい【和解】広義には敵対関係にある当事者間になんらかの方法・理由で友交関係の成立すること。しかしキリスト教では，特に神と人間との和解をさす。アダム以来人間は罪を背負っている(→原罪)。そして罪とは神にそむくことにほかならないから，罪の中に人間がいる以上，神と人間とは敵対しているわけである。むろん，全能にして義なる神はかかる被造物人間を一挙に滅ぼして，この敵対関係を除去することも可能であった。しかし神はその愛のゆえにこの道を選ばず，御子(みこ)キリストをつかわし，彼の血によるあがないを通して，人間と和解する道を選ばれた。したがって神と人間との和解はまったく神の愛に基づく意志によってのみ可能であること，具体的には神人イエス-キリストの十字架のみが和解の唯一の手段方法であることなどの認識が，キリスト教の本質的教義であることになる。この意味で，贖罪(しょくざい)，救済・恩寵(おんちょう)などは和解と同義であるといってよい。
〔石井忠厚〕

わかい【和解】一般に仲なおりのことをいうが，法的には〈私法上の和解〉と〈裁判上の和解〉とがある。

【私法上の和解】当事者が互いに譲歩して

和歌

漢詩を〈からうた(唐歌)〉と称したのに対して，日本固有の詩を〈やまとうた(大和歌)〉と称したのに基づき，長歌*・短歌・旋頭歌*(せどうか)・片歌*・仏足石歌*体の歌などの総称。《万葉集*》には，〈倭歌〉と書き，〈和歌〉は和する歌の意であったが，平安時代から〈和歌〉を〈倭歌〉と同義に用いるようになり，それが一般化した。

和歌の起源はいわゆる記紀歌謡*にあり，はじめ，音数も句数も定まらない，いわゆる不定形の歌謡として発生したが，しだいに音数では5音と7音とが基本をなすようになり，句数では2句または3句からなる片歌形式，4句からなる混本歌形式，5句からなる短歌形式，6句からなる旋頭歌形式，さらに多い句からなる長歌形式といった定形がみられるようになった。そういう記紀歌謡期を受けて，和歌が定形詩として確立したのは《万葉集》の時代である。

奈良時代に成立した《万葉集》には，5・7・5・7……5・7・7の音数律による長歌，5・7・5・7・7の音数律による短歌，5・7・7・5・7・7の音数律による旋頭歌，5・7・5・7・7・7の音数律による仏足石歌体の歌が収められている。そのうち，長歌・短歌が歌謡性を離れた叙情詩形として，中心歌風を形成しているが，特に短歌は圧倒的に多い。

《万葉集》以後，奈良末期から平安初頭にかけて一時衰えた和歌は再び隆盛となり，勅撰(ちょくせん)和歌集としての《古今和歌集*》を出現させたが，長歌はほとんど影を潜め，和歌といえば短歌を意味するような状況を迎えた。そういう短歌中心の和歌は，私的交情の場のほか，公的にもますます重んじられるようになり，歌合*(うたあわせ)その他各種の和歌の会の盛行を背景として，歌風を進展させるとともに，歌論をも進展させた。公的にいかに重んじられたかは，平安時代から鎌倉・室町時代にわたって，21の勅撰和歌集が成立していることによっても証される。また和歌は，それを母体とした連歌*や，連歌を母体とした俳諧(はいかい)(→俳句)を派生させたが，現代に至るまでたえずつくり続けられ，近代以後はもっぱら〈短歌〉と称されて，各種短歌結社による作者の数はおびただしいものがある。

古典和歌を歌風の上からみると，《万葉集》《古今和歌集》《新古今和歌集*》の3集がきわだった特色を示している。《万葉集》の和歌は主として大和に生活した人々の作で，文字のなかった時代の民衆の自由にうたう声として口から口にうたい継がれた非個性的な民謡の性格をもつものを含むとともに，いわゆる〈万葉がな〉による文字表記がくふうされた時期の個性的なものにわたって多様であるが，素朴(そぼく)で雄渾(ゆうこん)な心情の鮮烈な表白を特色としている。《古今和歌集》の和歌は，主として山城の平安京に生活した人々の作で，平安初頭の漢詩文全盛期の影響もあり，知的に洗練された優雅さを発想と叙情とに示して特色としている。《新古今和歌集》の和歌は，鎌倉初期に成立したが，社会的大変動を背景として，《古今和歌集》からの伝統を受けながら，幽玄な叙情と香気ある余情の豊かさを求め，高度な芸術的発達を示している。その後の鎌倉・室町時代の和歌は，中に《万葉集》から深く学んで雄渾な傑作を示した源実朝*(さねとも)のような異色の歌人の出現もみたが，主として《新古今和歌集》の歌風を受け継いでいる。

近世の和歌は，国学者を主導力とした古典精神復興運動を背景とし，《万葉集》《古今和歌集》《新古今和歌集》のいずれかの歌風を範としてつくる傾向が著しかった。賀茂真淵*(まぶち)・良寛*・橘曙覧*(たちばなあけみ)らは，《万葉集》の歌風を範として，万葉調でつくった。小沢蘆庵*(ろあん)・香川景樹*(かげき)・大隈言道*(おおくまことみち)らは，《古今和歌集》の歌風を範として古今調でつくった。荷田在満*(かだありまろ)・本居宣長*(もとおりのりなが)らは，《新古今和歌集》の歌風を範として，新古今調でつくった。しかし，和歌に志した者の多くは古今調を範とした。文化の知的進展の流れからみて，万葉調は鮮烈な生命感や雄渾な声調を求める者にとっては範とされ，また叙情の源泉が見失われるときに常に帰るべき原点でもあるが，一面では素朴・単純にすぎるきらいがあり，新古今調は短詩形としての和歌の発展進路の必然性を重んじたり複雑な叙情を愛好したりする者にとっては範とされるが，巧緻(こうち)にすぎるきらいがあるからであろう。知的で，しかも平明な古今調を範とした香川景樹およびその門流の形成した桂園*(けいえん)派が栄えたのである。

明治時代にはいり，いわゆる文明開化期を経て，詩歌の方面では新しい思想・感情に即した詩形が求められて新体詩*推進運動が起こり，それに刺激されて和歌・俳句の近代化への革新運動も活発に展開した。和歌では，小説方面の写実主義運動を背景とした落合直文*らの浅香社*の運動が大きないとぐちとなり，近代に生きる叙情の詩としての短歌の世界を積極的に求めた歌人たちが次々に出現した。そのうち歌風の特色のきわだった運動をあげると，浪漫主義運動を背景として，美的想像力の高揚を求めて浪漫主義(→ロマン主義)を主張し，新古今調を範として，明星*派を推進した与謝野(よさの)鉄幹*・晶子*(あきこ)夫妻ら新詩社*の歌人たちの運動がある。それとほぼ並行して，写生を主張し，万葉調を範として，のちのアララギ*派全盛期を導く基点をすえた正岡子規*ら根岸短歌会*の歌人たちの運動が短歌の近代化に果たした役割は特筆に価する。明治末期から大正時代にかけては，自然主義運動を背景とした尾上柴舟*(おのえさいしゅう)・金子薫園*・石川啄木*(たくぼく)・若山牧水*ら生活派歌人たちの活動がみられたほか，西洋の生命の哲学の導入，人道主義による白樺*(しらかば)派の運動，東洋哲学の再認識，象徴詩の出現などを背景として，たとえば斎藤茂吉*によるアララギ派の写生の〈生〉による新しい意味づけ，太田(おおた)水穂*・北原白秋*らの新古今調や蕉風(しょうふう)俳諧*の詩境を範とした象徴短歌の主張による新しい叙情の開発などもみられる。尾上柴舟・金子薫園・石川啄木・若山牧水らの歌風は，万葉ふう・古今ふう・新古今ふうの3風のいずれにも通じていないようにみえるが，知的で平明な歌風という点からみて，古今調の近代化といっても過言ではないであろう。

第2次世界大戦後，短歌は俳句とともにさらに新しい叙情の世界を開発しつつ栄えている。その歩みを概観していうと，内容・表現ともに，感覚・感情・思想・生活の急速，かつ複雑な展開・進行に対応して，その表現機能を発揮しているのである。

〔峯村文人〕

その間に存する争いをやめる義務を負う契約(民法695条)。民法上の和解は当事者が互いに譲歩して争いをやめることであるから，裁判所や他人が加わってなされる調停*や仲裁*とは異なる。また，示談*と称されるものは多くこの和解の性質を有するが，相手の主張のみを全面的に認め，一方だけが譲歩するのであれば和解ではなく，認諾または放棄である。争いのある法律関係の種類について制限はないが，当事者が自由に処分することのできない権利関係については和解の目的とすることができない。たとえば，扶養の請求について争いがある場合，一時的に相当の財産を与えることを交換条件として，扶養請求権を放棄することを認めさせることを内容とする和解は，扶養請求権の処分の禁止規定(民法881条)に触れるため成立させることができない。和解の効力は，争いのあった法律関係が確定することであるから，のちになって反対の確証が得られても，それをもって和解の効力を変更させることはできない(民法696条)。ただし，債権が存在するものと信じ，その額について和解したものの債権が消滅して存在していなかったというように，争いの前提または基礎となっている事項に関して錯誤があった場合には，その和解は無効である(民

法95条)。

【裁判上の和解】民事訴訟法上，和解が裁判所の関与のもとになされる場合をいい，これには〈訴訟上の和解〉と〈起訴前の和解(即決和解)〉とがある。前者は訴訟中に裁判所によって勧められた紛争当事者が結ぶ和解をいい，後者は起訴以前に紛争当事者が簡易裁判所に申し立てて成立する和解をいう。いずれもその旨が調書に記載されると確定判決と同一の効力を有することになる(民事訴訟法203条)。〔黒木三郎〕

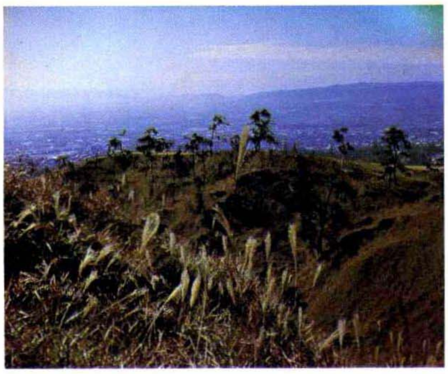
わかい【和解】志賀直哉*(なおや)の中編小説。1917年(大正6)10月《黒潮》に発表。かつて《大津順吉》などの作品で描いた長年の父との不和が，ついに和解に至った過程を感動的に描いたもの。主人公順吉は，父とかたくなな対立を続けていたが，周囲の人人の善意に包まれて人生の調和を信じるようになり，父と和解する。作者独特の感覚の鋭いリアリズムで描かれ，名声を高めた。

わかいひと【若い人】石坂洋次郎*の長編小説。1933年(昭和8)《三田文学》に連載。北海道のミッション-スクールを舞台に，美貌(びぼう)の女生徒江波恵子，新任の国語教師間崎慎太郎，恵子とは正反対の性格をもつ女教師橋本スミらの交渉を中心とする青春小説。恵子の奔放な感情と行動が，発表当時の暗い世相下の人々の共感をよんだ。

わかきウェルテルのなやみ【若きウェルテルの悩み】ゲーテ*の恋愛小説(1774)。感情の解放と旧社会への反抗をうたいあげた〈シュトルム-ウント-ドラング*〉の代表的作品で，発表と同時に全ヨーロッパに衝撃を与えたといわれる。全編は2部に分かれ，大部分は主人公ウェルテルから友人にあてた手紙からなり，それに〈編者から読者へ〉という実録的物語が加わる。天才はだの青年ウェルテルが，ある村の舞踏会でロッテと知り合い，たちまち恋のとりこになるが，ロッテにはすでに婚約者があって，ウェルテルは失望するとともに，上流社会の俗物主義とも激突し，ついに自殺するという物語。〔井上正蔵〕

わかきパルク【若きパルク】バレリー*の長詩(1917)。作者の4年間にわたる刻苦によってなった作品。記憶・情動・感覚・知覚の交錯する意識の内部に分け入って純粋意識に至ろうとする詩人の内的ドラマを，官能に逆らう処女パルクの独白の形で表現する。高度に知的な詩であるとともに，イメージと音楽性に富んだ傑作。

わがく【和学】江戸時代，古典を通じて日本の古代文化を研究した学問。中世の有職(ゆうそく)故実や歌学・歌論にその源流があるが，中世の古典研究がまったく形式化し，古今(こきん)伝授*にみられるように封鎖的であるのを打破して，文献的または純文学的に研究を進めた。17世紀後半に興り，その背後には都市の発展に伴って発達した町人文化の精神があり，古典や和歌を庶民のものとするのに貢献した。国学*とは同義語に用いられ，国学の一部としても説かれるが，国学が復古主義・尚古(しょうこ)主義の立場によって古道を究明することを目的とするのとはその学風をことにする。元禄(げんろく)時代の戸田茂睡*・下河辺長流*(しもこうべながる)らを先駆として，江戸後期には塙保己一*(はなわほきのいち)・小沢蘆庵*(ろあん)・香川景樹*(かげき)・大隈言道*(おおくまことみち)らが出た。〔高崎徳次〕



若 草 山　秋の若草山。山頂からは奈良市街が見下ろされ，さらに奈良盆地の北部からはるかに生駒山地の山々が見渡される



ワ カ サ ギ

わかくさものがたり【若草物語】オルコット*の小説(1868)。マーチ家のそれぞれ個性的な4人姉妹，メグ・ジョー・ベス・エーミーが，日常のさまざまなできごとを通じてたくましく成長していく姿をいきいきと新鮮にとらえた家庭小説。作者の自伝的要素が強く，発刊以来世界じゅうの国々で人気を集めている。アメリカ児童文学にリアリズムを導入した最初の作品。

わかくさやま【若草山】奈良市東郊，春日(かすが)山の西，御蓋(みかさ)山の北に位置する標高342mの丘。嫩草山とも書く。三つの峰からなるため，通称三笠(みかさ)山ともよばれている。成因は古い火山で，一面の芝生(しばふ)でおおわれている。西麓(せいろく)に二月堂・三月堂・手向山八幡宮(たむけやまはちまんぐう)がある。毎年1月15日の夜，〈若草山焼き〉の行事がある。山頂部には鶯塚(うぐいすづか)と称する前方後円墳がある。

わかさ【若狭(国)】福井県の南西部を占める旧国名。若州(じゃくしゅう)。北陸道に属する。古くは若狭国造(くにのみやつこ)の治下にあったが，大化改新後一国とし，律令(りつりょう)時代には三方・遠敷(おにゅう)・大飯(おおい)の3郡となる。国府・国分寺はともに遠敷郡(現在の小浜市)に置かれた。鎌倉時代には津々見忠季(ただすえ)が守護となり，次いで北条(ほうじょう)氏が守護を世襲した。南北朝時代には斯波(しば)・桃井・大高・山名・石橋・一色の諸氏が相次いで守護となり，室町時代以降は一色氏,次いで武田(たけだ)氏が守護を世襲したが，戦国時代には越前(えちぜん)(福井県)の朝倉氏*が勢力を伸ばし，次いで織田・豊臣(とよとみ)両氏の支配を経て，江戸時代には京極・酒井氏が小浜に封ぜられ，酒井氏の統治230余年を経て明治維新に至った。明治維新後敦賀(つるが)の支藩と合わせて小浜県となり，その後敦賀県・滋賀県を経て，1881年(明治14)福井県に編入，以後今日に至る。〔黛　弘道〕

わかさぎ【若鷺・公魚・鰙】硬骨魚類・キュウリウオ科。体長18cmに達する淡水魚。山陰地方ではアマサギという。背びれ9軟条，臀(しり)びれ13軟条で，脂(あぶら)びれがある。日本各地の湖沼，朝鮮に分布し，元来は北日本産のものであるから，南日本に見られるものは移殖されたものである。湖に張った氷を割り，そこからつり糸をたれるワカサギの穴づりは有名である。塩焼き・揚げものなどにして食用とされる。

わかさぬり【若狭塗】福井県小浜市に産する漆器。下塗して，卵殻(らんかく)の粉末や籾殻(もみがら)などを蒔(ま)いて文様をつくり，色漆を塗り，金銀箔(はく)をはり，透漆(すきうるし)を塗り，乾燥後研(と)ぎ表わしたもの。この工程が表面に現われ，多彩な文様を示すことで知られている。慶長年間(1596～1614)に松浦三十郎が創始したと伝えられ，若狭塗の名称は藩主酒井侯が命名したもの。

わかさわん【若狭湾】福井県越前岬(えちぜんみさき)から京都府経ケ岬に至る大湾。湾口72km，湾入45km。湾域は一大陥没地帯で，湾奥には立石半島・常神半島・内外海(うちとみ)(松ケ崎)半島・大島半島・内浦半島・成生岬(なりゅうみさき)・栗田(くんだ)半島などの半島や岬が発達し，それらの間に敦賀(つるが)湾・小浜湾・高浜湾・内浦湾・舞鶴(まいづる)湾・栗田湾・島陰湾・宮津湾などの支湾が数多く分布する。対馬(つしま)暖流の派流が湾内にも環流し，これにのる魚族も多く，アジ・サバ・ブリなどの漁獲がある。敦賀半島から天ノ橋立に至るまで全湾奥部海岸が若狭湾国定公園となり，蠑螺ケ岳(さざえがたけ)・三方五湖*・久須夜ケ岳(くすよがたけ)・蘇洞門(そとも)・青葉山・天ノ橋立などの景勝地がある。湾口西部の離れ島の冠島・沓(くつ)島はオオミズナギドリの繁殖地として知られ，1924年(大正13)天然記念物に指定されている。福井県側の敦賀半島の浦底，小浜市田烏，高浜町内浦に原子力発電所が建設中である。

〔山口恵一郎〕

わかさわんこくていこうえん【若狭湾国定公園】福井県・京都府にまたがり，敦賀(つるが)湾西岸，若狭湾岸・奥丹後半島岸を



若狭湾国定公園 三方五湖の一つ久々子湖(右手前)と若狭湾。湖は狭い水路で海と連結している。遠景右手の弧状の砂浜は久々子海岸

含む国定公園。面積219km²の地域で，1955年(昭和30)に指定された。カコウ岩による海食崖(かいしょくがい)の蘇洞門(そとも)，高さ260mにも及ぶ断崖の音海(おとみ)，気比(けひ)の松原などがある。また，長大な砂嘴(さし)の天ノ橋立*は日本三景の一つで股(また)のぞきで有名である。三方五湖*の梅丈岳からの眺望(ちょうぼう)が美しい。青葉山(699m)は若狭富士ともよばれ，山頂からのながめは雄大である。冠島はオオミズナギドリの繁殖地で，天然記念物に指定されている。海岸線を小浜線が通じている。〔木村東一郎〕

わがし 【和菓子】 ⇨菓子

わがシードのうた 【わがシードの歌】 1140年ごろに書かれた作者不詳のスペイン最古の文学作品。スペインの国土回復時代に実在した国民的英雄，エル-シード-カンペアドールの武勲をたたえた叙事詩。3部からなり簡潔な写実によって，主君への忠誠・国民感情・騎士道精神などが力強く描かれている。

わかちがき 【わかち書き】 文を一続きに書かないで，ある単位によって，くぎって書くこと。また，その書き方。〈分別書き方〉〈分け書き〉などともいう。ローマ字などの欧文は語と語の間が離して書かれているが，漢字とかなで書く日本文はふつう分けないで書かれている。しかし，わかち書きをすると，読みやすく，意味がわかりやすくなるので，小学校低学年の教科書や読み物とか，国語改良論者の文などに行なわれている。たとえば，かなばかりの〈シンダイシヤタノム〉(寝台車頼む，死んだ医者頼む)や，〈大きい女の子〉(大きい　女の子，大きい女の　子)の区別ができる。わかち書きをするかわりに読点〈、〉を打つことも行なわれている。〔石黒　修〕

わかつきれいじろう 【若槻礼次郎】 (1866～1949) 政治家。島根県の生まれ。東京帝国大学卒業後大蔵省にはいり，1912年(大正1)第3次桂(かつら)内閣の蔵相に就任。1914年第2次大隈(おおくま)内閣の蔵相となったが，対華二十一か条要求*を機に辞任。1916年加藤高明*とともに憲政会*にはいり，第2次憲政擁護運動に参加。1924年加藤内閣の内相，1926年加藤の死後総裁となり，第1次内閣を組閣したが，1927年(昭和2)金融恐慌*の措置をめぐって総辞職。1930年ロンドン軍縮会議*の首席全権として軍縮協定に調印した。1931年浜口雄幸(おさち)の死後民政党総裁に就任し，第2次内閣を組織。緊縮財政・金本位制維持に努めたが，満州事変は政府の不拡大方針にもかかわらず拡大の一途をたどった。また陸軍の一部が十月事件*を計画，さらに政党・官僚・軍部一本化の協力内閣運動を起こしたため，閣内不一致となり総辞職した。以後重臣に列せられ，1934年民政党総裁を辞任。第2次世界大戦末期には東条内閣打倒と終戦工作に努めた。〔安達利夫〕

わかとおおはし 【若戸大橋】 北九州市若松区と戸畑区の間の洞海(どうかい)湾の入り口にかけられた国道199号線の有料のつり橋。日本道路公団によって1962年(昭和37)に完成した。全長2,068m，うちつり橋部は680m，中央径間(鉄塔間の距離)367mである。使用した鉄鋼の重量は3,868tに達した。幅は両側の各3mの歩道を含めて15m，海面からの高さは満潮時で43mで，大形船でも楽に通り抜けができる。洞海湾の海上交通の混雑を防ぐのに役だつばかりでなく，北九州市の一体化のためにはなくてはならない存在で，若松区側に高塔山(126m)の公園，戸畑区側に大橋公園があって観光上の価値も大きい。年間約500万台の車が通り，その収入は5億5,000万円に達し，工費51億をすでに償おうとしている。〔浅井得一〕

ワガドーグー [Ouagadougou] アフリカ西部，オートボルタ共和国の首都。人口7万8,000(1972)。国土のほぼ中央に位置し，農産物特に綿花・ラッカセイと，畜産物を集散する。南に接するコートジボアールの首都で港市のアビジャンとは鉄道で結ばれている。

わかどころ 【和歌所】 和歌撰集(せんじゅう)の際，宮中に設けられた役所。《古今和歌集》撰集の際にも，このような役所が設けられたが，正式には951年(天暦5)《万葉集》の訓読と《後撰和歌集》撰集のために宮中昭陽舎(梨壺(なしつぼ))に設けられたのがはじまりである。1201年(建仁1)後鳥羽(ことば)上皇が《新古今和歌集》撰集のため再興。1439年(永享11)以後中絶。1888年(明治21)宮内省に御歌所として常置されたが，第2次世界大戦後廃止された。

わかどしより 【若年寄】 江戸幕府の職名。老中*に次ぐ職。老中・留守居*(るすい)・三奉行(さんぶぎょう)などの管轄以外の諸役士・諸士を統轄した政務総管。特に旗本(はたもと)・御家人の統轄を主務とした。1633年(寛永10)松平信綱(のぶつな)らの六人衆の裁決に起源をもち，翌年創置されたといわれる。その規定に，旗本・諸職人・医師，通常の普請と作事，京都・大阪・駿府(すんぷ)(静岡市)その他の番衆の諸役人，一万石以下の組はずれの者を統轄すると定められ，老中との職掌が区別された。1638年以降若年寄衆とよばれ，1649年老中に吸収されて一時中絶したが，1662年(寛文2)復活して幕末に至った。定員は3～5名，月番制で勤務した。譜代大名*が任ぜられるが，城主でない小禄(しょうろく)の大名が多かった。〔岡山泰四〕

わかな 【若菜】 地歌の曲名。作詞は前田某としか知られていないが，初春における乙女の若菜摘みの模様を歌った品のよい歌詞である。作曲は京都地歌界の一人者松浦検校(けんぎょう)(？～1822)で，これに八重崎検校*が箏(そう)の手を加えたもの。中間に手事を含み，箏は平調子，三味線(しゃみせん)は二上りで通してある。

わかなしゅう 【若菜集】 島崎藤村*の第1詩集(1897)。伝統的な韻律をふまえて近代的な感情の解放をうたいあげ，明治のロマンチシズムの最初の芸術的達成として高く評価された。特に庶民的な伝統の世界に材をとった恋愛詩は，清新な恋愛感情の描写の中に，因習的な道徳感情に対する積極的な挑戦の意図を秘めている。

わかなびょう 【若菜病】 7～10月ごろ，新鮮なダイコン・ハクサイなどの若菜・間引き菜を加熱せずに食べた際起こる急性の病気。若菜を食べて数分ないし数時間内に悪心(おしん)・嘔吐(おうと)・下痢・口内炎・鼻耳孔瘙痒感(そうようかん)，さらに咽頭部(いんとうぶ)瘙痒感・喘息(ぜんそく)様のがんこな咳(せき)が現われる。感染後1か月もすると貧血も現われ，このころに糞便(ふんべん)に鉤虫*(こうちゅう)の卵がみられる。これらの症状の発生機序は，鉤虫そのものと鉤虫によるアレルギーとが関与している。治療は対症療法。〔大橋辰哉〕

わかのうら 【和歌浦】 和歌山市西部，和歌浦湾に面し，背後は古生層の和歌浦丘陵をなす海浜に東から旧和歌浦・新和歌浦・奥和歌浦と続く景勝地。旧和歌浦は和歌川河口に形成された片男波(かたおなみ)の砂嘴(さし)

に囲まれた入り江で,《万葉集》に〈潟(かた)を無み〉とうたわれ,付近には玉津島神社・塩竈(しおがま)神社・観海閣などがある。現在は住宅地化し,漁村ではノリ養殖とかまぼこ製造が行なわれている。新和歌浦は丘陵が海に迫り海食崖(かいしょくがい)をなし,付近一帯は1912年(大正1)観光地として開発された。海岸に沿って旅館が建ち並び,水族館や背後の山にはロープウエー・展望台もでき,観光施設が完備している。さらにこの北西の雑賀崎(さいがさき)一帯に奥和歌浦が続き,観光化が進められ,阪神(はんしん)の保養地となっており,この付近一帯は瀬戸内海国立公園の一部をなしている。〔味沢成吉〕

わがはいはねこである【吾輩は猫である】夏目漱石*(そうせき)の長編小説で処女作。1905(明治38)～1906年《ホトトギス*》に連載。〈吾輩〉なるネコの目から苦沙弥(くしゃみ)先生の家庭と,出入りする寒月・迷亭(めいてい)ら明治知識人の談論を観察・批評する小説で文明批評性が濃い。漱石は,それまで積み重ねてきた思索・教養を江戸落語の文体に載せ,自己の暗い内面からの解放を試み,文学へその一歩を記した。

わかばいろ【若葉色】若葉のような色。緑みをおびた薄い黄緑色。現在,日本工業規格(JIS)慣用色名〈若葉色〉は,色相7.0GY,明度7.5,彩度4.5の色と規定されている。

わかまつ【若松(区)】福岡県,北九州市北西部の区。人口89,000。江戸時代には黒田藩の米倉が置かれ,1830年(天保1)には石炭取引のために焚石会所(たきいしかいしょ)が設けられた。明治中期に近代的築港が行なわれ,さらに筑豊(ちくほう)炭田に通じる筑豊本線の起点となり,わが国第1の石炭積出港に発展した。1901年(明治34)八幡(やはた)製鉄所の創業以来,機械器具・金属・化学・ガラスなどの諸工業が興り,北九州工業地帯の一部となった。1914年(大正3)単独で市制を施行したが,1963年(昭和38)隣接する小倉・門司・八幡・戸畑の4市と合体して北九州市を形成した。区域は九州北端にあたる若松半島上に位置し,東半はカコウ岩,中生層の石峰地塁で,市街地は東端の高塔山の山麓(さんろく)と洞海(どうかい)湾口の砂嘴(さし),および埋め立て地に発達し,若戸大橋*で対岸の戸畑区と結ばれる。西半はゆるやかに起伏する古第三紀層の低い丘陵地で,島郷地区とよばれ,松林と畑地が多い。近年石炭産業の斜陽化のため,石炭依存から脱皮した新都市の建設をめざし,若戸大橋が建設され,さらに北東部には埋め立て工業用地が造成され,西部には住宅地開発が進んでいる。若戸大橋や洞海工業地域をはじめ,北九州市や関門海峡を眼下に一望する高塔山にはドライブウエー・遊園地・仏舎利塔・展望台などの施設も整い,玄海国定公園の東端をなす遠見ノ鼻や脇田(わいた)海水浴場などの行楽地がある。〔浅井得一〕

わかまつしずこ【若松賤子】(1864～1896)小説家・翻訳家。福島県の生まれ。横浜フェリス女学校卒。母校の英語教師となったが,教育家・評論家の巌本善治(いわもとよしはる)と結婚後,翻訳小説《忘れ形見》《イナック-アーデン物語》《小公子*》を《女学雑誌》に発表して知られる。中でも《小公子》は名訳で,多くの少年・少女に親しまれた。ほかにキリスト者精神に徹したエッセーも多い。

わかまつじま【若松島】長崎県,五島列島*中央部の島。中通島*の南西部および日ノ島・漁生浦(りょうせがうら)島・有福島とともに長崎県南松浦郡若松町を構成する。古第三紀層の山地が沈水してできた島で,海岸はリアス式海岸をなしている。アジ・サバの漁獲が多く,フグもとれ,ハマチを養殖し,また傾斜地にサツマイモをつくっている。カトリック教徒が多い。中心集落は東岸の若松港。北部および東海岸一帯は西海国立公園*に含まれる。〔浅井得一〕

わかみず【若水】元旦*早朝にくむ水。初水・若水迎えともいう。まだ暗いうちに,もちや米を携えて水神・井戸神に供え,水をくんでくる。途中で他人に会っても口をきかぬものとされ,またくむときに〈黄金(こがね)の水をくみます〉などと,めでたい唱えごとをするふうが一般的である。この若水で年神の供物や家族の食物をたき,また茶をたてて飲む習慣が全国的である。東日本では,若水迎えを年男*の役目とする土地が多い。水道の普及に伴って,若水迎えの行事はすたれつつあるが,元来は年の初めにあたって,水神・井戸神を祭る重要な行事であった。〔直江広治〕

わかむし【若虫】不完全変態をするこん虫の幼虫。ニンフ(nymph)ともいう。完全変態の幼虫はふつう成虫と形態が非常に異なり,翅芽(しが)は外部から認められないが,若虫では翅芽が外部に現われており,成長にしたがって,中・後胸背面のそれぞれ後縁の両側が後方に伸び,脱皮ごとに大きくなる。最後の脱皮でさなぎを経ないで成虫となる。

わかめ【若布・和布】褐藻(かっそう)植物・コンブ科・ワカメ属。コンブ属にごく近縁で,ワカメ・ヒロメ・アオワカメの3種がある。そのうちふつう食用としている種類はワカメだけで,他の2種は分布が限られているため,地方的に食用とされているにすぎない。ワカメはわが国および朝鮮半島東南岸特産の海藻で,親潮と黒潮の影響を直接強く受ける地域を除く暖流水域に広く分布する。親潮流域では宗谷(そうや)海峡以北と室蘭(むろらん)以東の海域,黒潮流域では伊豆(いず)七島および紀伊半島・四国・九州の南部の海域には自然状態ではまったく生育しない。上に述べた分布範囲では,外海の岩礁地帯の低潮線付近から水深15mぐらいまで生育するが,北方水域では浅く,南方水域では深い。内湾湾口部や海峡部などの海水の流動の激しいところにもよく生育し,そのようなところは,ワカメの好漁場となっている。体は葉状部・茎状部・付着器の3部分からなる。葉状部には,中肋(ちゅうろく)とよばれる肥厚した組織が中央に通り,その左右両側から羽状に分裂した葉片が出ており,葉状部の全輪郭は卵円形あるいは披針(ひしん)形を呈する。葉面には毛巣とよばれる付属物が存在し,黒点となって散在する。茎状部は扁圧(へんあつ)し,葉状部の中肋に続いている。十分に生長すると,茎状部の左右両側に肉質のひだが生じ,この部分にかぎって遊走子嚢(ゆうそうしのう)が形成される。このひだを成実葉といい,俗に耳とか布株(めかぶ)などとよばれている。茎状部の下端は,付着器となり,樹枝状の枝を出して岩盤などに固着する。全体の高さは通常1～2m。幼芽は,冬から春にかけて肉眼的に認められはじめ,春から初夏にかけて急速に生長し,同時にその間に成熟して遊走子を放出する。遊走子を放出するころから生長が衰え,しだいに岩盤から離れて流失するので,ワカメはコンブ属と異なり,一年生の海藻である。遊走子は,基物に付着すると直ちに発芽して,雌雄異株の顕微鏡的な糸状体となる。雄性体には精虫が,雌性体には卵がつくられて,それらの有性生殖の結果再び葉状のワカメが生ずる。ワカメは,乾製品として年間約10,000tばかり生産消費されているが,その大部分は,北海道渡島(おしま)半島,青森・岩手・宮城県などの三陸地方で生産され,そのほか島根・長崎県などが主要な生産地である。従来は生産量のほとんどが天然生産であったが,近年特に北海道・三陸沿岸では養殖による生産が急増し,自然状態では分布生育しない根室湾などでも養殖が行なわれるようになり,生産量の大部分が養殖ものに変わりつつある。採取の盛期は天然産を対象とする場合には,4～5月ごろであるが,養殖の場合には,冬から春にわたって行なわれる。収穫されたワカメは,徳島県の鳴門(なると)わかめ(木灰をまぶして干したのち,水洗いして灰を落とし,中肋などを除いたのち,再び乾燥する)や,長崎県のもみわかめ(中肋を除いて細く裂くなどの整形を施し,台などの上でよくもんで生干しし,これを再びもみ,この操作を4～5回くり返して乾燥する)などのようにそれぞれ地方独特の製法で,長期の保存に耐え,わかめ特有の調理時の鮮緑色が保持されるように加工される。最近では,包装材料の発達に伴って,貯蔵方法もくふうされて生売りが多くなった。わかめはカルシウム含量が多く100g中1,300mgにも達し,食品としては,カルシウムの給源として高く評価されている。〔三浦昭雄〕

わかものぐみ【若者組】村落内の青年男子によって組織されていた年齢集団。地方により若衆組・若者連中・若連・若組・若者契約・若中・若衆・若勢・若勢団・二

才(ニセ)組・二才衆・若手組などと称したり，積善社・博愛社などと名づけている地方もあるが，概して若者組の村落における役割は変わらない。現在日本各地に青年団・青年会と称する新しい青年男女の組織があるが，これは明治以後の文教政策や，戦後の県令などによる村落組織の国家的再編成であり，規約，組織内容，活動の性格など旧来の若者組のそれとはまったく異なったようにみえるが，青年団・青年会の村落における役割や実質的な組織内部の慣行・慣習・人間関係および意識などは，旧来の若者組のものを多分に継承している。

若者組への加入年齢は15～18歳ぐらいであり，古くは13歳の地方もあった。あるいは結婚*をもって若者組加入の条件とする地方もあるが，それは異例である。一方，脱退年齢は以下のごとく大別できよう。①結婚するもの，あるいは25歳前後のもの，②35歳・42歳など結婚にかかわりなく，高年齢層まで組員に含み入れるもの。①は西日本に，②は東日本に多いといわれる。脱退年齢の相違は，各村落の青年人口・村落規模との相関，家族・親族組織や村落構成諸集団・諸階層(たとえば戸主会の存否・祭祀(さいし)組織の大小など)との相関の中で考えることができよう。地方によっては長男だけが加入できるもの，中流以下の網子階層の子弟に限るもの，長男と次男以下の者との加入・脱退年齢を区別するものなど，若干の偏差が認められる。

若者組の加入儀礼は，しばしば成年式*の諸儀礼と深くかかわりあっており，若者組への加入は，一人まえの村人として社会的承認をうける行為が伴っていた。春秋の農閑期・正月の初寄合のとき，盆や村の祭礼のときなど当該年齢の若者たちが，宿・社寺・若者頭の家などに保証人あるいは紹介者に伴われ酒肴(しゅこう)あるいは金銭など携えてあいさつする。そして若者仲間の紹介とあいさつののち，若者頭や小頭から仲間の規約(若者条目・掟書(おきてがき))を教え込まれる。新加入者は宣誓し，そののち酒宴となる。それが普通であるが，その席上新加入者に対して若者仲間が，種々の試練を与えるところもあった。それは若者組加入が同時に成年式の意味をもつためであり，それを経れば，村で一人まえの資格(村普請・結婚・祭礼行事参加など)が与えられた。

若者組結束の重要な場所であったのが寝宿である。寝宿は若者が一定期間仲間とともに合宿する場所である。寝宿の期間，寝宿の場所，娘宿*との関係などに関しては以下のように類別できる。期間は①結婚まで，②一定年限あるいは一定年齢までで，場所は，①公共施設(村宿・社寺など)によるもの，②個人住宅(有力者の家，気楽に出入りできる家，若者頭や若者仲間の家など)によるものがあり，娘宿との関連では，㋑若者宿(男子)・娘宿との村落内併存，㋺男女合同の宿，㋩若者(男子)のみの宿という区別ができる。また若者宿が常設されているものや，生業や祭礼に応じて設置される仕事宿・祭り宿・詰所宿・遊び宿などの臨時の合宿所のある地方などがある。このような若者宿は，組員の規律や社会生活に必要な知識・道徳・体力などの養成訓育の場であり，親の干渉のない自由な異性との交際を行なう場でもあり，また仕事や祭礼の場，準備の場でもあった。

このような若者組は，村落に対して以下のような種々の役割をもっていた。①村内諸祭礼行事の執行：これは若者最大の役割であり，若者組の仲間が神輿(みこし)・神楽(かぐら)・山車(だし)などの踊り手・にない手である一方，それらの催し物の準備・製作・執行・整理万般をにない，その他村芝居・諸芸能・宮角力(ずもう)・宮花火など祭礼に必要ないっさいのにない手であった。②婚姻の調整・行為：祭事執行と同様，若者組の重要な役割の一つである。若者組が配偶者選択の重要な機関であることはまえにもふれたが，仲間の結婚に際して嫁盗みをするとか，婿まぎらかし・嫁まぎらかしをして式に参与するとか，あるいは仲人*(なこうど)役を頼みに行ったり，嫁迎えに参与したり，披露宴(ひろうえん)に酒のふるまいをするなど，仲間の援助をする。また一方では，他部落の者との通婚を取り締まるなど，婚姻統制の役割も果たした。③仲間の集団的訓練・学習活動：合宿中の活動でおもなものはこれである。共同生活の規律の習得，生産技術の習得，体力養成，芸能の習得，社会生活上必要な知識の習得・性教育などにわたる学習活動が行なわれた。④村の警防・消防・救助・雑役の担当：村落内の日常生活維持のために，村人や農作物・共有地の管理・監視，家屋・施設の管理，消防・難破船救助やはしけ作業，急病人の世話，祝儀・不祝儀の使い走り，村普請・共同作業の下請けなどを行なった。

このような若者組の結束には，確固とした組織・規律が必要であり，年輩の順にしたがって階層組織と役割分担があった。たとえば静岡県賀茂郡三浜村では，走り使い(17～19歳)―使い上り(20～24歳)―小中老(25～26歳)―中老(27～29歳)―頭脇(30～31歳)―親方(32～34歳)―宿老(35～39歳)―中宿老(40～49歳)―大宿老(50～59歳)―年寄衆(60歳～)といった諸階層があった。若者組にかかわるのは宿老までだが，こうした階層と役割分担のもとに，前述した諸機能が果たされたわけである。もちろんこのような詳細な区分がなされている若者組ばかりではないが，多かれ少なかれ新参者・小若衆・若衆頭の区別はあり，その組織運営にあたっての条目が仲間に徹底されていた。

青年団・青年会の全国的組織が完成し，青年育成の親睦組織としてその性格を変えつつあるが，若者組の従来の役割の重要性は依然として変わりはない。〔渡辺欣雄〕

わかやぎりゅう　【若柳流】　日本舞踊の流派の一。初世花柳寿輔(じゅすけ)に師事した若柳寿慶が，1893年(明治26)に独立したのに始まる。はでな芸風をもち，花柳界・一般家庭に進出して多くの門弟を育成した。3世吉蔵のときに分裂し，この流で最も盛んな正派若柳流，若柳西家元の分派がある。

わかやなぎ　【若柳(町)】　宮城県北部，栗原(くりはら)郡の町。人口17,000。中心集落は迫(はざま)川に沿って発達し，周辺一帯は古くからの米産地である。1650年(慶安3)ごろに始められた蚊帳(かや)は現在も生産されている。

わかやま　【和歌山(県)】　近畿(きんき)地方南西部の県。南は太平洋，西は紀伊(きい)水道に面し，北は大阪府，東は奈良・三重の両県と接する。紀伊国の大半を占め，面積4,717.75km²，人口109万7,000。1km²あたりの人口密度は233人。県花はウメ，県木はウバメガシ，県鳥はメジロ。県庁のある和歌山以下7市と7郡(36町・7村)に分かれる。

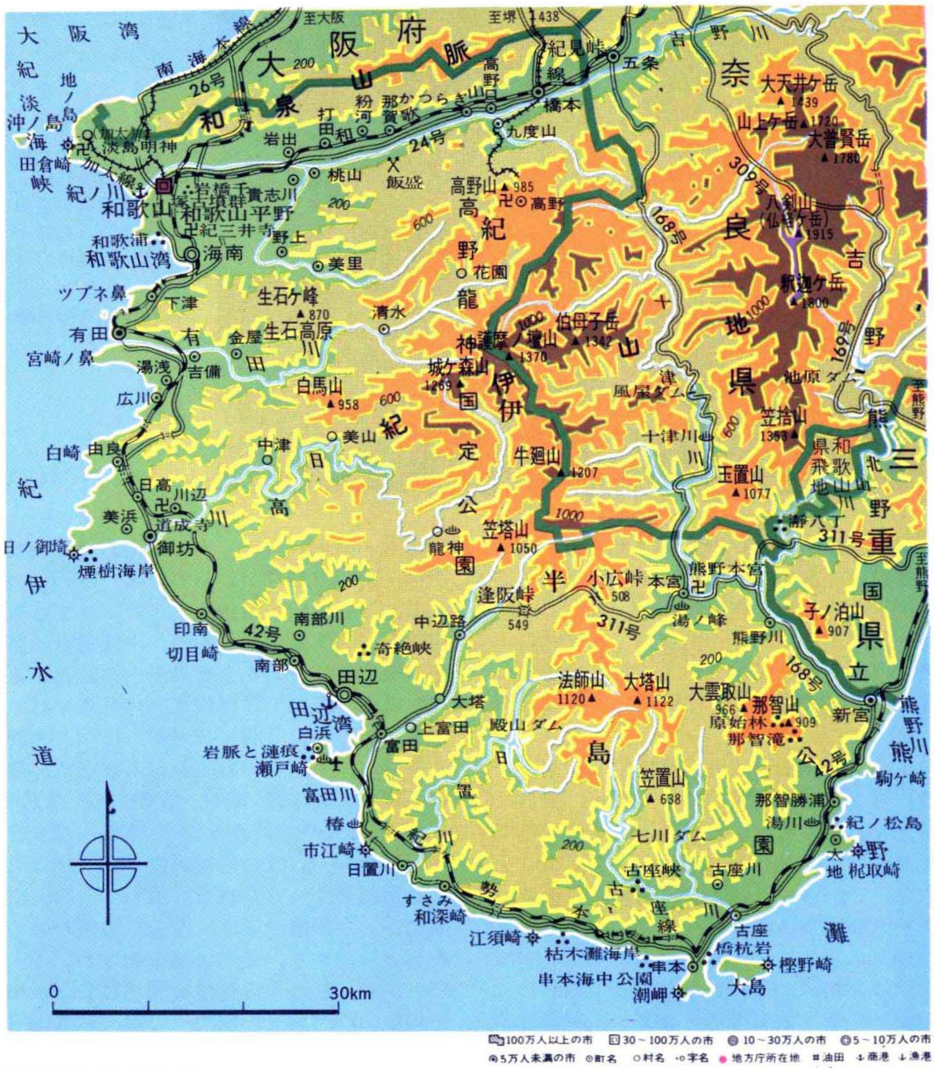
〔自然〕本州最南端の紀伊半島西部を占め，大半が山地で，古くから〈木(紀)の国〉とよばれるように林野面積が広い。北から和泉(いずみ)山脈，紀ノ川の流域平野，紀伊山地，南西部の海岸平野の4地域に大別される。和泉山脈は大阪府との境を東西に走り，南側は急斜面をなし，山麓(さんろく)に多くの複合扇状地がある。紀ノ川流域は中央構造線上に沿う地溝(ちこう)平野で，上流部には堆積(たいせき)段丘が発達し，下流部には段丘状の扇状地があって，外側に氾濫原(はんらんげん)が広がり，和歌山平野を形成する。紀伊山地には北から龍門(りゅうもん)・梨木(なしのき)・長峰・白馬(しらま)・果無(はてなし)など，東西に走る山なみがあり，その南方の日置(ひき)川・富田(とんだ)川・古座川などの上流部と大塔山塊を含む広大な山地である。山地の平均高度は1,000m前後であまり高くはないが，山が深く，気候と降水量の関係で大森林地帯を形成する。奈良県境にそびえる護摩壇山(1,370m)が県内最高峰で，周辺一帯は高野龍神国定公園の区域に編入されている。県内の諸河川は紀伊山地から発して上流部に深い谷をつくり，西へ流れる紀ノ川・有田川・日高川と，南西へ流れる富田川・日置川はいずれも紀伊水道へ注ぐ。十津(とつ)川と北山川が合流する熊野(くまの)川や，太田(おおた)川・古座川などは南東流して熊野灘(くまのなだ)へ注ぐ。平地は和歌山平野を除いては，各河川の河口付近や海岸部に点在するにすぎない。紀伊水道に面する西部海岸はリアス式海岸で，海南・下津などの良港があり，岬(みさき)や島が多い。日ノ御埼(ひのみさき)から南は隆起海岸で，海岸段丘や海食崖(かいしょくがい)が発達し，潮岬(しおのみさき)半島を東へ回ると海岸段丘がとぎれて，串本(くしもと)・那智

勝浦(なちかつうら)などには陸繋島(りくけいとう)が多い。

気候は太平洋を北東流する黒潮の影響で海洋性気候を呈し，海岸部は気温が高く，年較差は少ない。年間の平均気温は北の和歌山で15.8℃，南の潮岬で16.8℃，田辺(たなべ)湾以南には無霜地域があり，亜熱帯植物が自生する。内陸山地にはいると気温はしだいに低くなり，高野山では8月の平均気温は20℃に達するが，1月には－2℃に下がる。降水量は和歌山で年間約1,455mm,潮岬で2,785mm，南東部は夏季に季節風の影響を受けて降水量が特に多く，新宮付近では3,000mm以上，熊野山地では4,000mm以上を記録する。

〔産業・経済〕 産業三大別人口比は17:29:54。主産業は農林漁業で,県民1人あたりの年間所得は113万2,000円(1977)で，全国では30位を占める。**〈農林水産業〉** 農家総数は65,590戸，兼業農家率は80.3％で，耕地は48,600ヘクタール，総面積の10％強を占めるにすぎない。水田率は47％，和歌山平野をはじめ，有田・御坊などの海岸小平野に水田が分布するが，米の平年収量は70,900t(1970)で，全国でも東京・神奈川・山梨・大阪に次ぐ低位で県民の需要を満たすに足りない。そのため，この地方には古くから海外移民が多く，中でも日高郡美浜(みはま)町にある三尾のアメリカ村は特に名高い。ムギ類の平年収量は607tで，その半ばはハダカムギであるが，いずれにしても量は少ない。そのほか，水田の裏作としてジョチュウギク・ケシなどの特産があり，促成野菜類の栽培も行なわれる。くだものはミカン・ナツミカン・ネーブルなどの柑橘(かんきつ)類やウメ・カキ・モモなどがつくられる。中でもミカンは年間28万700t(1970)を産し，愛媛・静岡の両県に次ぎわが国三大産地の一つである。畜産業では古くは熊野牛とよばれる和牛が飼育されていたが，最近は京阪神(けいはんしん)の大消費地の需要に応じて，乳牛・役肉牛・ブタ・ニワトリなどの飼育がふえている。

林野面積は36万3,000ヘクタールで県域の77％強を占め，その86％は民有林で，樹種はアカマツ・クロマツ・スギ・ヒノキなどが多い。江戸時代に紀州藩が紀州六本(マツ・スギ・ヒノキ・ツキ・クス・カシワ)を留め木に指定して保護したために，いまでも自然林が繁茂する。林業の中心地は南部の東牟婁(ひがしむろ)・西牟婁の両郡で，素材生産量は年間59万3,000m³に及び，製材をはじめパルプ・木炭などの用木にあてられる。これらの木材を集散する和歌山・新宮・御坊などの各都市では製材・製紙などの工業が行なわれ，製品は東京・大阪・名古屋方面へ移出される。特産物としては海南市の北東方貴志川上流で栽培されるシュロがあり，船舶用・漁業用のロープ，家庭用たわし・ほうきなどにつくられて全国に移出





和歌山県 白い貯油タンクの並ぶ下津町の精油所と港湾。山の斜面にはミカン畑が広がっている。遠景は黒江湾(海南湾)と海南市

される。

水産業は那智勝浦・串本をはじめ，和歌浦・田辺・周参見(すさみ)・大島・三輪崎などの漁港を中心に，近海でマグロ・カツオ・イワシ・サンマ・ブリなどを漁獲する。熊野地方の太地・古座の両港を中心として捕鯨が古くから行なわれてきたが，最近はあまりふるわない。串本をはじめ，熊野灘に面する各漁港からは第2次世界大戦前にはシロチョウガイ*採取のために毎年多くの船団がアラフラ海*へ出漁していたが，戦後はオーストラリアから制限され，また貝ボタンが人工品に置き換えられる傾向にあるので，いまは出漁しなくなっている。田辺を中心に真珠の養殖も行なわれ，また串本と大島との間の海面に，1972年(昭和47)から大規模な浅海養殖場を造成中である。**〈鉱工業〉** 金属資源では北部の飯盛(いいもり)鉱山



和歌山市 空から見た市の中心部。中央の緑地は和歌山公園と城址，その手前の黄色い建物が県庁。紀ノ川にかかる左の鉄橋は南海電鉄

で銅・鉄，南部の紀州鉱山で金・銀・銅，妙法鉱山で銅の産出があるが，いずれも産量が少ない。非金属資源では，日高川上流域や紀伊水道に面する由良(ゆら)付近で石灰石，白倉(しらくら)鉱山で白ケイ石，十津川と北山川の合流点付近で石炭，白浜で砥石(といし)が採掘される。

工業は県北部の臨海工業地帯を除き，一般に近代工業は未発達であったが，最近は重化学工業の伸展が目だち，工業製品年間出荷額は7,552億円(1969)で全国第20位を占め，その71％は重化学工業製品である。北部臨海工業地帯は阪神工業地帯の南の延長線上にあり，北から和歌山・海南・有田下津の3地区に分かれる。和歌山地区には製鉄・化学・電気機器・繊維・木材などの諸工業が発達し，紀ノ川河口の埋め立て地にある製鉄所は鉱石専用船の桟橋(さんばし)がある。海南地区には1961年以来沿岸の埋め立て工事が進み，30,000～50,000トン級の船舶が出入りできる海南港を中心に重化学工業地帯が形成されている。有田下津地区は1965年に沿岸の埋め立て工事が完成し，石油コンビナートを中心とする化学工業地帯が造成されている。下津と初島には石油精製所があり，下津は大形タンカーが出入りできる良港である。和歌山を中心として繊維・染色関係のメリヤス・ネル・捺染(なっせん)などの在来産業が発達し，メリヤスはジャージーの合織はだ着が盛んにつくられている。北部の橋本付近はシール・モケットなどの特殊織物の産地として知られる。また，和歌山・新宮・御坊などの各都市では製材・建具・家具などの木工業も伝統的に名高く，シュロ製品やジョチュウギク製品も全国に広まっている。そのほか，海南の黒江塗や和がさ，湯浅のしょうゆ，由良のセメント，新宮のパルプ，田辺のかつお節，有田のミカンのかんづめ，高野口の高野豆腐・高野紙などの特産がある。

〔交通・都市〕陸上交通では，古くから海岸沿いの熊野街道と紀ノ川沿いの大和街道が主要交通路で，いまは熊野街道沿いに紀勢本線・国道42号線，大和街道沿いに和歌山線・国道24号線が走っている。その他の鉄道としては，和歌山から大阪へ通ずる阪和線・私鉄南海電鉄があり，南海電鉄始発駅の難波(大阪市)からは高野山に直通する特急電車が走って参拝観光客に利用されている。国道は24号線・42号線のほか，大阪湾岸沿いに大阪と和歌山を結ぶ26号線，南海高野線に沿う170号線，五条(奈良県)から紀伊山地の山間部を経て新宮に達する168号線があり，168号線の沿道各地には有料林道が多くつくられる。高野山道路・白浜道路・白浜観光道路・南白浜道路などの有料道路があり，観光の便を助けている。バス路線はこれらの道路を利用して，京都～和歌山，大阪～和歌山～白浜，和歌山～印南浜(いなみはま)間に京阪バス・南海電鉄バス・白浜急行バスがそれぞれ長距離バスを通じている。海上交通では，県内の各港から大阪・神戸(こうべ)・名古屋を結ぶ航路や四国・淡路島への航路などがあり，神戸から大阪・和歌山を経て白浜へ至る南海汽船が日に1回就航する。南海汽船のフェリーボートが和歌山～小松島(徳島県)間に就航するほか，和歌浦や那智勝浦に遊覧船の航路があり，白浜海底観光船や，新宮から瀞峡(どろきょう)や湯ノ峰温泉へ熊野川をさかのぼるジェット船などの特殊な観光船がある。航空路は白浜に空港があり，東亜国内航空が大阪～白浜間，白浜～東京間の定期便を開いている。

人口は平野部に集中して山間部との密度差が大きく，山間奥地には近代生活から取り残された村落も散在する。都市は，紀ノ川流域に河口の和歌山，中流部の橋本があり，紀伊水道に面しては北から海南・有田・御坊・田辺，熊野川河口に新宮の計7市がある。このうち和歌山・田辺・新宮の3市はいずれも紀州藩の旧城下町で，黒江塗の産地である海南とともに古い歴史をもっている。有田・御坊・橋本は1953年の町村合併促進法施行以後の新しい市である。

〔歴史〕海岸部は古くから畿内との交流が多く，海上交通が発達していた。一方，山間部の発達は遅れたが，6世紀初期の仏教伝来以後は，紀伊山地の奥深い険しい山々は僧徒や修行者たちに特異な霊地としてあがめられ，熊野三山の信仰は平安時代から鎌倉時代へかけて全国に広まっていった。また，平安初期には真言宗の開祖空海が816年(弘仁7)に嵯峨(さが)天皇から高野山を賜わり，総本山金剛峯(こんごうぶ)寺を開いた。中世以後は，中央勢力が弱まるにつれて，熊野三山をはじめとする寺社の権力が強くなり，僧侶(そうりょ)や神徒の武装化も行なわれた。室町時代から戦国時代にかけては数十に及ぶ小さな領主が各地を分割統治して勢力を競っていたが，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の全国統一後，その弟秀長がいまの和歌山に若山城を築いて以来，ようやく戦乱が平定した。江戸時代にはいると，徳川家康の第10子頼宣(よりのぶ)が徳川御三家の一つとして紀州藩五十五万五千石を領し，田辺・新宮に二つの支藩を置いて紀州全域を統治した。1871年(明治4)の廃藩置県に際して和歌山・田辺・新宮の3藩がそれぞれ県として独立し，高野山領は五条県に属したが，1878年に和歌山県に統合され，このとき南北牟婁郡は三重県に移されて，現在の県域が確定した。なお，かつて行なわれたいかだ流しの関係で新宮とのつながりの深かった東牟婁郡北山村と同じく熊野川町玉置口が，三重県と奈良県にはさまれて和歌山県の飛び地として残っており，県の飛び地としては全国唯一の例である。〔浅井得一〕

わかやま【和歌山(市)】和歌山県北西部，県庁のある市。人口40万1,000。古くは若山とよばれる小漁村で，1585年(天正13)豊臣秀吉(とよとみひでよし)の弟秀長が吹上ノ峰に若山城を築き，その城下町として発展した。1619年(元和5)に徳川頼宣(よりのぶ)が入城してからは徳川御三家の一つ，紀州藩五十五万五千石の大城下町となって栄えた。明治以後は，水陸交通の便や豊富な労働力などに恵まれて近代都市として発達した。1889年(明治22)市制を施行。市域は紀伊(きい)水道に臨む和歌山平野一帯に東西へ広がり，北は和泉(いずみ)山脈で大阪府と接し，南は小丘陵を隔てて海南市と接する。中心市街は紀ノ川河口付近に発達する。産業三大別人口比は5：37：58。従来は紡織・捺染(なっせん)などの工業が中心であったが，最近は重化学工業に重点が移り，阪神(はんしん)工業地帯の延長をなす臨海工業地帯が完成し，住友金属和歌山製鉄所をはじめ，鉄鋼・化学・紡績・木材などの大工場が進出している。そのほか，伝統的な皮革製品・シュロ製品・ジョチュウギク製品などの生産もあり，紀ノ川流木による製材木工業も特色がある。和歌山線・紀勢本線・阪和線・南海電鉄線が通じ，国道24号線・26号線・42号線が集まる。古くから紀ノ川水運が盛んで，河口には和歌山港がある。将来は近畿(きんき)・

紀南の両自動車道の接点となる予定である。県庁をはじめとする行政機関，和歌山大学などがあり，県の政治・文化の中心をなしている。名所史跡に富み，市域内に瀬戸内海国立公園に属する和歌浦(わかのうら)・友ケ島などの景勝地や和歌山城，西国33か所中第２番の札所である紀三井寺，鳴神の貝塚(かいづか)遺跡などがあり，北郊には豊臣秀吉の水攻めで知られる太田城跡もある。年中行事に雛(ひな)流し祭。特産は，かまぼこ・のりなど。〔浅井得一〕

わかやません【和歌山線】 関西本線の王寺と和歌山市間および貨物支線２本よりなる国鉄路線。営業キロ数89.3(ほかに支線6.1km)。1891(明治24)～1903年開業。奈良盆地と紀ノ川流域を結ぶ鉄道で，沿線には大和高田(やまとたかだ)・五条・橋本などの都市がある。

わかやまぼくすい【若山牧水】 (1885～1928) 歌人。本名繁(しげる)。宮崎県の生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科卒。在学中，尾上柴舟(おのえさいしゅう)に師事して前田夕暮らと車前草社を結成。1908年(明治41)第１歌集《海の声》を自費出版。1910年《創作》を発刊・主宰したが，翌年休刊。旅に出ること多く，三浦半島に住み，また沼津にあって1913年(大正２)《創作》を復刊。自然と酒とを愛し，その一生はその歌にあるように，旅と酒との生活であったが，歌風は，青春の哀歓を訴えた叙情歌から退廃的な傾向をおびた暗い時代へ，そして円熟した叙景歌の世界へと変わっていく。歌集《別離》《路上》《死か芸術か》《秋風の歌》などのほか，《みなかみ紀行》などの紀行文がある。夫人の若山喜志子も歌人。〔上田正行〕

わかん【倭館】 朝鮮，李朝(りちょう)時代に，日本からの外交使節の接待と対日貿易管理のために設けられた機関。日本では和館とも書く。15世紀初め，京城(現在のソウル)ほか数か所に設けられ，1592年(文禄１)豊臣秀吉(とよとみひでよし)の出兵で中断したが，講和成立後，1609年(慶長14)京城などの倭館は廃止され，釜山浦(ふざんぽ)の１館のみが存続し，明治維新に及んだ。

わかんこんこうぶん【和漢混交文】 和文(《源氏物語》のような，やまとことば中心の文章)と漢文訓読文(漢文を日本語として読み下した文章)の両方の要素が混じり合って成立した文体。古くは平安時代の《今昔物語》などにも用いられているが，輝かしい成功を収めたのは，鎌倉時代以後の軍記物語においてである。《平家物語》《太平記》などがその代表的作品とされる。この系統の文章は，それ以後，明治になって言文一致の文章が生み出されるまで，最も代表的な文語文として，種々の作品や論著の表現に用いられてきた。〔市川 孝〕

わかんさんさいずえ【和漢三才図会】 図説百科事典。寺島良安著。81巻。1713年(正徳３)刊。明(みん)の王圻(おうき)の《三才図会》にならったもので，和漢古今の種々の事物を天文・地理・動植物・人物・器具などに分類し，画図を掲げ，語の音義や事物の来歴などを漢文で解説したものである。当時の風俗・習慣にも及ぶ多くの語彙(ごい)を収録している点で，江戸時代の各方面の研究には欠くことのできないものである。

若山牧水



わかんろうえいしゅう【和漢朗詠集】 平安中期の歌謡集。藤原公任(きんとう)選。1013年(長和２)ごろの成立。朗詠のための和歌216首と漢詩588首を集録。和歌では紀貫之(つらゆき)・凡河内躬恒(おおしこうちのみつね)・柿本人麿(かきのもとのひとまろ)ら，漢詩では白楽天・菅原(すがわら)文時・菅原道真(みちざね)・源順(したごう)らの作品が多い。本書の詩歌は《源氏物語》をはじめ，軍記物・謡曲・浄瑠璃(じょうるり)などにひかれ，大きな影響を与えた。

わき【脇】 能楽用語。曲中人物としてシテの相手役をいい，必ず現実世界の男性として登場する。面をつけることはけっしてなく，霊にも女にもならず，また超人間的なものとして出現することもほとんどない。演技は，シテのそれに比して，多分にリアルさが要求される。

わぎ【和議】 債務者が破産原因のある状態に陥った場合，破産を回避するために債務の弁済方法，担保の提供などの条件を示して，裁判所に申し立てる手続き。和議法全70条がある。債権者集会が，債権の切り捨て，弁済の猶予などの和議の内容を可決し，裁判所が和議を認可すると和議の効力が発生し，すでになされた破産の申し立ては失効し，債務者は破産を回避することができる。なお，破産宣告後に破産手続き内でなす和議を強制和議といい，破産法が規定している。〔内田剛弘〕

わきおうかん【脇往還】 脇街道ともいう。江戸時代，五街道などの本街道に対してそれ以外の脇道をさす。そのうち伊勢(いせ)(三重県)四日市より山田に至る伊勢路，尾張(おわり)(愛知県)岩塚(いわづか)より佐屋を経て桑名に渡って東海道に合する佐屋路，名古屋より大垣(おおがき)を経て中山道垂井(たるい)に至る美濃(みの)路，大阪より豊前(ぶぜん)(福岡県)小倉に至る中国路，武蔵(むさし)新宿(東京都新宿区)より下野(しもつけ)(栃木県)金崎に至る水戸路(みとじ)などが最も重要な脇往還であった。〔高崎徳次〕

わきが【腋臭・狐臭】 わきの下の汗が悪臭を放つもので，腋臭症ともいう。多汗症を伴うことが多く，発汗によって悪臭が増す。原因はわきの下にある汗腺(かんせん)の一種であるアポクリン腺の数的増加および機能亢進(こうしん)であるが，悪臭の本体はまだはっきりしない。わきがはアポクリン腺の分泌が始まる思春期ごろから発現しはじめ，男女の差はない。しばしば家族的に発生し，優性遺伝する。根本的な治療法としては，皮膚とともにアポクリン腺を切除する方法があるが，殺菌剤を含む軟膏(なんこう)・ローションをわきの下に塗布したり，電気分解によって脱毛するとともに毛囊(もうのう)をふさぐことによって悪臭が和らぐ。

わきかた【脇方】 能でワキ・ワキヅレを演ずる役者。他の役を分担することはけっしてなく，ほとんどつねに現実世界の男性として登場する。ワキの役がワキ方として専門化したのは室町末期らしい。現在は高安流・福王流・下掛(しもがかり)宝生流の３流がある。

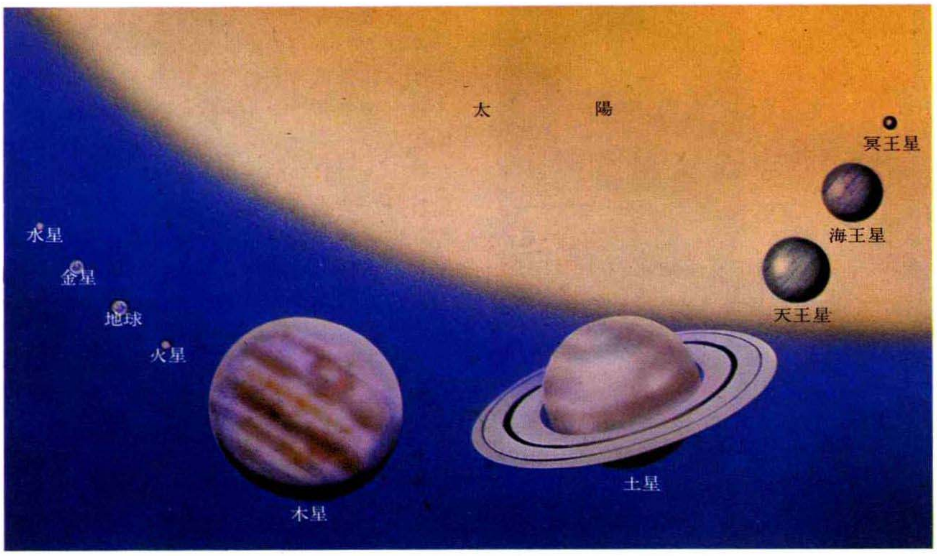
わきざし【脇差】 ⇨刀剣

わきもとらくしけん【脇本楽之軒】 (1883～1963) 美術史家。山口県防府(ほうふ)市の生まれ。藤岡佐太郎に国文学，中川忠順(ただより)に美術史を学び，美術史研究のかたわら《万(よろず)朝報》《東京朝日新聞》に美術評論を執筆。1936年(昭和11)東京美術研究所を設立，機関誌《画説》(のち《美術史学》)を刊行。1947年東京美術学校教授，1949年国立博物館次長。1962年古美術研究の業績により紫綬褒章(しじゅほうしょう)を受く。文化財専門委員。水墨画・文人画・京焼の研究に業績が大きい。〔匠 秀夫〕

わきん【和金】 ⇨キンギョ

わぐされびょう【輪腐れ病】 おもにジャガイモに発生する植物の病気の一。ジャガイモの病いもの切断面は維管束部が輪状に乳白色または黄かっ色となり，強く押すと細菌粘液が膿(うみ)のように漏れ出す。茎葉は開花期後から黄化してしおれ，葉の縁に褐変(かっぺん)などがみられる。茎の地ぎわ部を切断すると，膿汁(のうじゅう)状の細菌が出る。健全な種いもを植えつけ，切断刀を消毒しながら用いて予防する。

ワークショップ［workshop］ 共通の問題意識をもつ人間が，助言者のもとに参加して行なう協同研究。参加者は互いの意見・経験を交換し，専門家の助言を参考にして，当面している問題の解決を見いだす。ワークショップの特徴は参加者が受け身でなく，主体的・積極的であること，民主的に進行されること，グループ活動であることなどである。期間は一定しないが，長期間の場合には会期中に総会・講演・レクリエーションなどが行なわれ，最後には各グループあるいは分科会の発表を行なう場合が多い。この方式はアメリカの進歩主義教育協会(PEA)が〈現職教育〉の方法として開発したもので，わが国では第２次世界大



惑　星　太陽と惑星の相対的な大きさ

戦後，各種の研究集会に採用されている。事前の準備がワークショップを成功させるか否かのかぎになる。また，1回で終わるのではなく，継続的協同研究も普及している。〔福井幸雄〕

わくせい【惑星】 太陽のまわりを公転する9個の天体。太陽に近いほうから水星・金星・地球・火星・木星・土星・天王星・海王星・冥王星(めいおうせい)の順に並ぶ。土星までの天体は古代から知られていた。天王星は1781年にイギリスのハーシェル*が偶然発見した。海王星は天王星の摂動*の計算より，フランスのルベリエ*とイギリスのJ.C.アダムズが予想した軌道をもとにして，1846年にドイツのガレが発見した。冥王星は海王星の摂動よりその存在は予想されたが，なかなか発見できず，1930年になってアメリカのトンボーが発見した。冥王星より外側には惑星は存在していないことが確かめられている。

表-1　惑　星　表

惑　星	軌　道 長半径 (天文単位)	離心率	軌　道 傾斜角	公転周期 (太陽年)	軌　道 平均速度 (km／秒)	会合周期 (太陽日)	自転周期	角運動量 (地球＝1)
水　星	0.387	0.206	7°.004	0.241	46.85	115.9	58日10時	0.035
金　星	0.723	0.007	3.394	0.615	35.02	583.9	−247日 ?	0.70
地　球	1.000	0.017	——	1.000	29.78	——	23時56分	1.00
火　星	1.524	0.093	1.850	1.881	24.02	779.9	24時37分	0.13
木　星	5.203	0.048	1.306	11.863	13.05	398.9	9時50分	725
土　星	9.520	0.053	2.489	29.368	9.64	378.1	10時15分	293
天王星	19.212	0.048	0.773	84.212	6.79	369.6	−10時50分	64
海王星	30.192	0.006	1.772	165.89	5.42	367.5	15時50分	96
冥王星	39.516	0.250	17.179	248.41	4.59	366.7	6時25分 ?	6

表-2　惑星の定数表

惑　星	赤　道 半　径 (km)	扁　率	質　量 (地球＝1)	比　重 (水＝1)	反射能	極　大 光　度 (m)	太陽から受ける放射量 (地球＝1)	観測される分子スペクトル
水　星	2 440	0	0.055	5.41	0.06	−1.9	6.67	——
金　星	6 056	0	0.815	5.24	0.85	−4.4	1.91	CO_2
地　球	6 378	0.0034	1.000	5.52	0.40	——	1.00	N_2，O_2，CO_2，H_2O
火　星	3 390	0.0052	0.107	3.94	0.15	−2.8	0.43	CO_2
木　星	71 400	0.062	317.904	1.33	0.58	−2.5	0.037	CH_4，NH_3
土　星	60 400	0.096	95.09	0.68	0.57	−0.4	0.0110	CH_4，NH_3
天王星	23 700	0.06	14.559	1.7	0.80	＋5.6	0.0027	CH_4，N_2
海王星	25 110	0.02	17.239	1.6	0.71	＋7.9	0.0011	CH_4，H_2
冥王星	3 400	?	0.18	6.7?	0.15	＋14.9	0.0006	——

注　表-1，表-2について
1. 自転周期，角運動量，観測される分子スペクトル以外は，《理科年表》(1972年版)による
2. 自転周期は，公転方向に回転している場合を正(＋)にとってある
3. CO_2：二酸化炭素，N_2：窒素，O_2：酸素，H_2O：水，CH_4：メタン，NH_3：アンモニア

各惑星に関する諸量は表-1，表-2に示してある。惑星の軌道半径については，1772年にドイツのボーデ*が発表した〈ボーデの法則*〉がある。それによると，惑星を太陽に近いほうから水星を0番，金星を1番というように番号をつけていくと，天文単位ではかった軌道半径は$0.4+0.3\times2^{n-1}$（ただし，水星に対しては3×2^{-1}の代わりに0と置く）で与えられる。この値は冥王星を除いて非常によく一致している。また，$n=4$のところに対応する惑星が存在しなかったので，このところに惑星の存在が予言され，1801年に小惑星ケレスが発見された。この法則の力学的意味づけはなされていないが，土星の衛星系に対してもなりたつことが示されている。

惑星は近似的には〈ケプラーの法則*〉に従う円軌道に非常に近い楕円(だえん)運動をしている。しかし，太陽以外の他の惑星による摂動が働いて，少しずつ〈ケプラーの法則〉に従う運動からずれている。また，水星や金星のように太陽に近い惑星には，太陽の重力場による一般相対論的効果が働いて，近日点が移動する。

軌道傾斜角は，冥王星の17°が例外的に大きいのみで他は非常に小さく，同一平面内で同一方向に運動している。また，太陽の角運動量は40であるので，角運動量の大部分は木星と土星によって占められている。これらの事実は，太陽系がどのようにしてできたかという問題に関して重大なかぎを握る。いままで出された太陽系起源説の多くは，角運動量に関して難点の多いものであった。

会合周期は公転周期が地球と近い値をもつ火星が最も大きく2年2か月で，また，火星の離心率が比較的大きく，近日点近くでの接近はまれな現象で大接近とよばれる。自転周期は観測の困難さから，正確に求められているのは地球と火星のみである。金星の自転方向は公転方向と逆である。天王星は自転軸が公転軸と98°傾いていて横倒しになって回転している。

表-2を見て最も特徴的なのは水星・金星・地球・火星の地球型惑星と，木星・土星・天王星・海王星の木星型惑星とで(冥王星は別に取り扱われる)赤道半径・扁率(へんりつ)・質量・比重・スペクトル・自転周期などの性質がはっきり異なっていることである。太陽系の天体はだいたい同じような成分より同じような状態でつくられたが，太陽より受ける放射量が太陽からの距離によって異なるために，惑星大気の温度は内側の惑星ほど高くなり，軽い元素(水素やヘリウムなど)は熱運動速度がその惑星の脱出速度より大きくなって飛散し，水素の化合物が少ない比重の大きな物質からなる惑星になり，外側の惑星は初期の状態をほぼ保っている。

惑星の内部は地球型では岩石のマントル

に鉄を主成分とする核が存在して，木星型では水素・ヘリウムが大部分を占めるガス体の中心部に地球半径程度の固体が存在する。反射能は大気層が厚いほど大きくなっている。水星や火星にはほとんど大気が存在していない。冥王星に関してはまだあまりわかっていないが，その性質がいろいろの点で他の惑星と異なっている。かつて海王星の衛星だったという説があったが現在は否定されている。おそらく太陽系外の天体が捕獲されたのであろう。

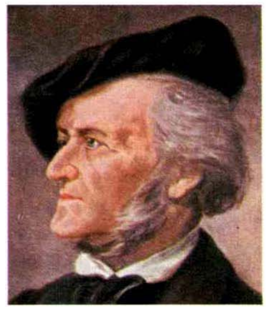
惑星も月と同じように掩蔽(えんぺい)を起こすが，月に比べて視直径が小さいのでまれな現象である。また，内惑星は地球と太陽の位置関係より太陽面上に見えるときがある。これを日面経過という。最近では1957年5月5日に水星，1882年12月6日に金星の日面経過が起こった。

惑星の観測はふつう光・赤外線・電波などを利用して行なわれているが，最近では地球に近い金星・火星には惑星間ゾンデを飛ばして，実際にその表面近くで観測も行なわれるようになってきた。〔磯部琇三〕

わくせいかんくうかん 【惑星間空間】太陽系内の惑星と惑星との間を占める非常に希薄な空間。平均1ccあたり5～10個の原子が存在する。惑星間空間の中には，太陽から10^{-6}～10^{-5}ガウスの磁場を伴った荷電粒子の流れ(これを太陽風という)が吹き出し，その風速・風量は太陽活動に応じて増減する。また黄道光は惑星間空間内に漂う微小な固体粒子が黄道面に沿って集まっている姿である。

わくせいかんステーション 【惑星間ステーション】 ソ連が最初に金星に送ろうとした無人探査体。直径105cm，長さ203.5cm，重さ648.5kg。太陽電池の両翼があり，アンテナを側方に出している。1959年2月12日に打ち上げられ，予定では同年5月ごろ金星から10万km以内を通過するはずであったが，途中で電波が絶え，失敗に終わった。

わくせいじょうせいうん 【惑星状星雲】円板状または環状など比較的規則的な形状をもった銀河系内星雲。小望遠鏡で見ると，惑星のように広がりをもって見えるのでこの名がついた。いままでに見つかっているものは約150個，銀河面の近くに存在するものが多い。直径は0.1～1.0光年，中心にある高温の星からの紫外線を受けてガスが発光し，外に向かって広がっている。膨張速度は星雲によって著しく異なり，毎秒数キロメートル程度の比較的おそいものから，秒速千キロメートルという高速度で飛び散っているものもある。これらは中心の星が爆発して，その際飛び出したガスが広がっているのだと推定され，ガス雲の速度は中心星の爆発の規模や，爆発後経過した時間を表わしているものと考えられている。こと座の環状星雲，こぎつね座の亜鈴状星雲，おうし座のかに星雲は代表的な例である。〔磯部琇三〕


ワーグナー

わくたまいけ 【湧玉池】 静岡県富士宮市，富士本宮の東隅(とうぐう)にある湧泉(ゆうせん)。富士溶岩流の下を伏流して湧出する豊富な水が大きな池をつくっている。御壺(おつぼ)とか玉泉洞(ぎょくせんどう)ともよばれ，古くから禊(みそぎ)を行なう神聖な場所とされ，流出する川は御手洗(みたらし)川とよばれている。

ワクチン ［vaccine］ 病原体を人工的に培養し，これをホルマリンなどで殺菌するかあるいはその毒力を弱めたもので，ヒトあるいは動物の感染症などを予防するために用いられる。ワクチンはふつう一定の間隔で2～3回皮下注射が行なわれるが，接種方法はワクチンの種類によって異なる。たとえば，痘瘡(とうそう)のワクチンである種痘の場合のように皮膚にきずをつけてワクチンを塗布するものや，あるいはポリオの生ワクチンのように口から投与されるものもある。ワクチンは，一度ある病気にかかると次にその病気にかかりにくくなるという経験をもとにして，ジェンナー・パスツールによって考案されたのがはじめで，痘瘡ワクチン(痘苗)・炭疽病(たんそびょう)・豚コレラ・牛疫・黄熱などのワクチンやBCG・ポリオ生ワクチンなど，自然の流行から分離された病原体をいろいろな方法でその毒力を弱めたものを材料としている。しかし，どうしても弱毒化がうまくいかない場合には，これにホルマリンあるいは熱などを加えて殺菌したものが用いられており，腸チフス・パラチフス・コレラ・百日咳(ひゃくにちぜき)・日本脳炎・インフルエンザ・狂犬病ワクチンなどがそれである。またジフテリア・破傷風あるいは毒蛇咬症(どくじゃこうしょう)のように，病気が主として毒素に由来している場合には，それぞれの毒を分離し，ホルマリンなどを加えて無毒にしたものが用いられ，このような抗原性に変化を与えないで無毒化したものはトキソイド(変性毒素)とよばれている。

今日一般に用いられているワクチン類の製造は，薬事法に基づいて品目ごとに許可された製造所でつくられている。製造にあたっては，国で定められた生物学的製剤規準によってつくられ，さらに国立予防衛生研究所で検定が行なわれる。流行病を防ぐことは，必ずしもワクチンの接種のみによって行なわれるものではないが，ジェンナーの発明した種痘によって数限りない人命が守られてきたことは，歴史が示すとおりである。さらに，最近はアメリカを中心とする学者の総力の結晶ともいうべきポリオワクチンの完成のおかげで，わが国でも数年前からポリオはまったく姿を消した。ワクチン接種に伴う副作用は，ふつう注射局所のはれ，痛みと軽い発熱などであるが，特に種痘後脳炎，ジフテリアや破傷風トキソイドにみられるようなアレルギー反応など，激しい症状が現われることがある。このような異状の原因がワクチンそのものによるならば，精製その他の方法でこれをとり除かねばならないが，被接種者のアレルギー体質によるものであれば，あらかじめ医師や保健婦などの注意によって防ぐことができる。〔沢井芳男〕

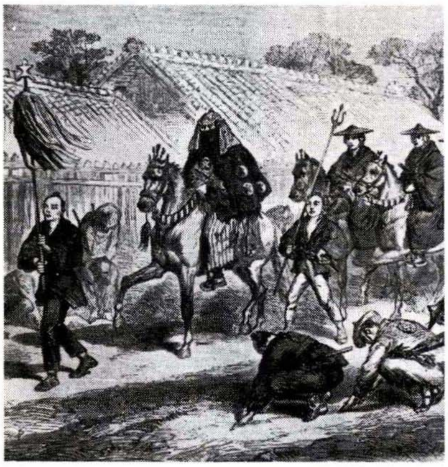
ワーグナー ［Richard Wagner］（1813～1883） ドイツの作曲家。ライプチヒの警察署書記の第9子として生まれたが，父がすぐに死去したため，俳優・画家・脚本作家のガイヤーのもとにひきとられ，ガイヤーを継父として豊かな芸術的な環境の中で育った。9歳でピアノを始め，15歳のときベートーベンの音楽に感動して作曲家になることを決心し，以後ワインリヒに作曲を師事しながらいくつかの習作を作曲した。1832年，19歳のとき試作の《第1交響曲》がゲバントハウスで初演され，翌1833年には第2のオペラ《妖精(ようせい)》が作曲された。そしてこの時期からワーグナーの遍歴時代が始まり，1832年から1842年までの間に，ウィーン・プラハ・ビュルツブルク・アルデブルク・ケーニヒスベルク・リガ・パリとヨーロッパ各地を遍歴した。この間に女優ミンナとの大恋愛があり，また《リエンツィ》(1840)や《さまよえるオランダ人》(1841)をはじめとするいくつかのオペラや論文を書きあげた。1842年，29歳のワーグナーはパリを去りドイツにもどるが，《リエンツィ》と《さまよえるオランダ人》の成功によって，ドレスデンの宮廷劇場指揮者に採用され，1842年から1849年までの間はドレスデンにとどまって，作曲と演奏に専心した。この時期に傑作《タンホイザー》(1845)や《ローエングリン》(1848)が完成された。しかし，1849年ドレスデンの革命騒動に参加したワーグナーは国外に亡命し，1849年から1864年までスイス・フランス・ドイツ・イタリア各国を転々としながら，作曲と演奏と著述という三つの分野で活躍した。オペラ《トリスタンとイゾルデ》や論文《芸術と革命》はこの時期の代表作である。1864年以降の晩年は最も創作活動の充実した時期で，ワーグナーは音楽・文学・演劇・舞踏を総合する芸術，つまり〈楽劇〉という新しいジャンルを確立し，生涯(しょうがい)の大作《ニーベルンゲンの指環》(1874)四部作を完成させた。そして1876年，この大作をバイ

ロイトに竣工(しゅんこう)した祝祭劇場で初演した。これがワーグナーの生涯の頂点で，以後《パルジファル》(1882)の台本を執筆し，作曲を完成させたが健康を害し，狭心症で死去した。ワーグナーは〈楽劇〉によってドイツ-ロマン主義音楽を完成させると同時に，古典的な調性を崩壊させることによって20世紀音楽への発展の基礎をつくった。また多くの著作によって，文学・演劇・政治・倫理といった広い分野に多大な影響を及ぼした。➔バイロイト音楽祭
〔船山 隆〕

ワーグナー ［Gottfried Wagener］(1831～1892) ドイツの科学者。お雇い外国人のひとり。ハノーバーに生まれ，ゲッチンゲン大学で学位を得て，さらにパリに学んだ。友人の外交官の紹介によって，1868年(明治1)長崎にせっけん工場を建てるため来日したが，事業に失敗したのち有田に招かれて陶業を指導した。廃藩により，1871年上京して大学南校のお雇い教師となる。1872年のウィーン万国博覧会，1876年のフィラデルフィア万国博覧会，1877年の第1回内国勧業博覧会，1881年の第2回内国勧業博覧会の出品指導にあたり，1878年京都府の医学校で理化学を教えるとともに，同府の舎密(せいみ)局で陶磁器・七宝・理化学器械などの製造を指導した。1881年東京大学理学部で応用化学を教え，かたわらガラスと陶器釉薬(ゆうやく)の研究を続けた。1884年東京職工学校(のちの東京工業大学)に陶器玻璃(はり)工科が創設されると，その主任教授となり，窯業教育に尽力した。1890年持病のリウマチが悪化して帰国，1892年再び来日したがまもなく没し，遺言により青山墓地に葬られた。京都市岡崎公園・東京工業大学構内に記念碑がある。〔山崎俊雄〕

ワーグナー ［Adolph Heinrich Gotthilf Wagner］(1835～1917) ドイツ新歴史学派の経済学者。エアランゲン大学で法律および国家学を学び，ドイツ各地の大学の講師・教授を歴任したあと，1870年ベルリン大学の教授になり，以後40年間ここで経済学を講じた。また，実際活動にも従事し，ドイツ社会政策学会の創立に指導的役割を演じ，キリスト教社会党に関係し，プロイセン議会の議員にもなった。イギリス流の自由主義経済学を批判し，自由放任主義に反対し，国家の干渉による社会改良によって資本主義社会の弊害を除去するという，彼の〈講壇社会主義〉の主張はビスマルクの社会政策の理論的支柱ともなった。ワーグナーの専門は財政学で，主著は《財政学》(4巻，1877～1901)。ほかに《政治経済学の基礎》《社会政策および講壇・国家社会主義の動向》などがある。〔林 達〕

ワーグナー ［Otto Wagner］(1841～1918) オーストリアの建築家。ウィーン高等工業学校，ベルリンの王立建築学校，ウィーンの美術学校に学び，1863年ウィーン



ワーグマン 《イラストレーテッド-ロンドン-ニュース》への通信の挿絵

市の建築競技設計で1等当選を得た。代表作はウィーン郵便貯金局，シュタインホーフ病院内の教会堂などであり，彼の建築観は主著《現代建築》に示されている〈建築の美しさは過去の様式によるのではなく，それを支配するものは実用ということだ〉というのが彼の思想の根本である。この建築観は後継者によってセセッション*の運動に受け継がれ，世界の建築界に大きな影響を与えた。〔山崎俊雄〕

ワーグナーほう 【ワーグナー法】 1935年に制定されたアメリカの労働立法。正しくは〈全国労働関係法〉。全国産業復興法の違憲判決後，その労働条項(第7条a項)を取り出したもの。労働者に雇用主と平等の交渉力をもたせるため，労働者団結権・団体交渉権を認める一方，差別待遇，団体交渉の拒否，労働組合への支配介入，労働者への干渉・抑圧・強制を〈不当労働行為〉として禁止，準司法権をもつ全国労働関係委員会(NLRB)を設立した。NLRBは労働組合の資格を調査し，御用組合を摘発して，不当労働行為の中止を命令，場合によっては裁判所への提訴も行ないえた。雇用主は同法に強く反対したが，1937年最高裁判所がこれを全面的に支持した。以来，特に産業別労働組合の発展に寄与し，〈ビッグ-ビジネス〉と並ぶ〈ビッグ-レイバー〉を形成したが，第2次世界大戦後〈労働の行きすぎ〉が批判され，1947年タフト-ハートレー法*によって大幅に修正された。〔折井一彦〕

ワクフ ［Waqf］ イスラム世界において，個人の土地を寺院・学校などの慈善目的のために供与し，自己の所有，処分権を捨てること。それによって国家の統制を受けるが，没収を免れて実質的所有を永久に確保できた。

ワーク-ブック ［work book］ 学習帳・練習帳などともよばれる。練習問題・テスト，あるいはそれに指導書的要素を加味した冊子をいう。児童・生徒の自学自習を助けることを目的に使用されるが，正しい教育的配慮なしに乱用すると単なる教師の労力節約の道具になったり，子どもの機械的な作業に終わってしまう危険がある。類型として，教科書に準拠した教科別のものと，〈夏休み帳〉のように教科書と関連なく，子どもに学習課題を提示するものとがある。〔福井幸雄〕

ワーグマン ［Charles Wirgman］(1835～1891) イギリスの画家。幕末の1857年(安政4)来朝した退役軍人で，《イラストレイテッド-ロンドン-ニュース》の絵画記者として活躍。風俗漫画雑誌《ジャパン-パンチ》を15年にわたって刊行した。彼から油絵・水彩の技法を学んだ画家に小林清親(きよちか)・高橋由一・五姓田義松(ごせだよしまつ)らがいる。1891年(明治24)横浜で没し，外人墓地に葬られた。

わくも 【鶏蜱】 蛛形(ちゅけい)類・ダニ目・ワクモ科。鳥類に寄生し，ニワトリを吸血するダニとして知られるが，ヒトをも刺す。雌は体長0.7mmほどで，吸血すると1mmをこえる。雄はやや小さい。形や大きさはイエダニに似るが鋏角(きょうかく)はむち状なので，はさみ状のイエダニと区別できる。世界の温帯地方に広く分布し，昼間はニワトリ小屋のすみや板の間などに潜み，夜間に活動して吸血する。このためニワトリの生育を害し，産卵数も減少する。

わくや 【涌谷(町)】 宮城県中部，遠田郡の町。人口21,000。中心集落は江合川に沿い，かつては伊達安芸(だてあき)の居城地であった。川を境にして城内と城下に分かれ，城郭(じょうかく)の一部や城下町の形態がいまも残っている。本石米の名で知られる米産地帯と山地との境に位置し，付近の農村の商取引の中心として米・木材・シイタケなどを集散し，農産加工業や醸造業も行なわれる。

わくらおんせん 【和倉温泉】 石川県七尾市にある温泉。泉温94～95℃，泉質は含塩化土類食塩泉で，胃腸病・皮膚病・リウマチなどにきくといわれる。能登(のと)半島の七尾湾に突き出た弁天崎の先端にあり，約1,200年前に発見されたと伝えられる。昔は〈湧(わ)く浦〉といった。現在のものは1880年(明治13)に地震で海に吹き出たところを埋め立てて温泉街にした。交通は七尾線和倉駅からバスの便がある。

ワーゲ ［Peter Waage］(1833～1900) ノルウェーの化学者。1862年オスロの王立フレデリック大学教授。義兄グルドベリ*とともに化学平衡について研究し，1867年質量作用の法則を発見した。この化学反応についての基礎的法則は，のちにファントホッフにより発展させられ，不均一系にも適用された。

わけぎ 【分葱】 単子葉植物・ユリ科。シベリア・小アジア原産多年草で，紀元前から栽培され，日本には1,500年前ごろに渡来した。茎葉は長さ20～30cm，淡緑色で

柔らかく，特有の臭気がある。茎部は肥大して，赤かっ色の被膜におおわれた長卵形の鱗茎(りんけい)になる。鱗茎は簡単に分球する。早春に花茎を伸ばすが結実せず，夏には地上部は黄変して枯れ，休眠する。ネギの変種と考えられていたが，鱗茎があることによって別種とされた。4～5月のネギの欠乏期に多く収穫され，ネギと同様に用いられる。

わげき【話劇】 中国の近代劇のこと。中国の旧劇が歌唱や舞踊の要素が強いのに対し，ことばと所作をおもな表現手段として，場面や幕の分け方も近代的で，化粧・服装・装置・照明なども写実的なことが特徴である。清(しん)末の危機状況に政治・社会思想の啓蒙(けいもう)手段として，ヨーロッパや日本の演劇の影響を受けて，留日学生が組織した春柳社が1907年に日本であいついで上演した《椿姫(つばきひめ)》《トム爺(じい)の小屋》がその最初である。春柳社の演劇運動はその後衰え，1919年五・四運動をきっかけに，イプセン・ストリンドベルイ・ショーらが体系的に取り入れられ，本格的な近代劇運動が起こり，上海(シャンハイ)を中心に戯劇協社・南国社・辛酉(しんゆう)劇社・上海芸術劇社などの劇団が活躍した。1930年代にはいり，プロレタリア文学運動の一環として演劇運動は続き，日本との戦争中は抗戦意識高揚のための演劇が各地で行なわれた。〔今村与志雄〕

わけのきよまろ【和気清麻呂】(733～799) 奈良末期・平安初期の公卿(くぎょう)。備前(びぜん)藤野郡(岡山県和気郡)の人。764年(天平宝字8)の藤原仲麻呂(なかまろ)(恵美押勝(えみのおしかつ))の乱に際して戦功を立て，769年(神護景雲3)宇佐神宮に使して道鏡即位の野心を妨害し，道鏡の怒りを買い大隅(おおすみ)(鹿児島県)に流された。770年称徳天皇(女帝)が没し，光仁天皇が即位すると平城京に召還された。しかし次の桓武(かんむ)天皇に重用され，平安遷都を建議し，従三位(じゅさんみ)・民部卿に昇進した。明治になって正一位を贈られ，別格官幣社護王神社に祭られた。〔黛　弘道〕

わけん【和硯】 日本産のすずり。わが国ですずりが用いられたのは推古朝以後で，初期のものは中国・朝鮮から紙・墨とともに渡来したと思われる。奈良朝になると猿面(えんめん)硯と称する和硯が用いられた。猿面硯は陶器の甕(かめ)の破片を利用したもので，甕の内部には高低のあるたたき模様ができるので，それを墨をするのに利用した。形はサルの顔のような長円で，これを装飾を施した容器にはめこんだ。平安時代以後は石硯が用いられたが，わが国には硯材となる良石が乏しいので，装飾のあるすずり箱に収められてきた。硯石は黒色のかたい石を長方形に加工したもので，硯材には京都に近い近江(おうみ)(滋賀県)の高島石や若狭(わかさ)(福井県)の鳳足(ほうそく)石などを用いた。そして，すずりの縁に金彩を施した。江戸時代になると全国各地から硯材が産出され，長州(山口県)の赤間石，甲州(山梨県)の雨端石，三河(みかわ)(愛知県)の金鳳石，豊前(ぶぜん)(福岡・大分県)の田浦石をはじめ，多くの名石が数えられた。中でも有名なのは雨端石と赤間ヶ石であるが，近年は宮城県石巻付近の雄勝石がすずりとして大量に生産されている。〔杉村勇造〕

わご【和語】 日本語の単語のうちで，漢語や外来語でない，日本の本来のことば。やまとことば。和語も漢字で書き表わされることは多いが，つねに訓読みされる(つまり音をもたない語が和語である)。現代日本語では，新聞・雑誌の用語の場合，漢語は単語の種類の半ばに及び，和語をしのいでいる。しかし，助詞・助動詞はみな和語であるのをはじめとして，名詞・動詞・形容詞・副詞などの自立語も，ひんぱんに使われる基本的なものには和語が多い。〔西尾寅弥〕

わこう【倭寇】 鎌倉末期から室町末期にかけて朝鮮半島・中国大陸沿岸を襲った海賊に対する朝鮮・中国(明(みん))側の呼称。彼らは北九州・瀬戸内海の漁民や土豪で構成され，武装して貿易活動をし，しばしば暴力化した。2～3隻から数百隻に及ぶ大船団まであり，ことに南北朝時代にその活動は激化し，朝鮮半島や中国大陸沿岸で官米・奴婢(ぬひ)を略奪した。朝鮮・明はしばしばその禁圧をわが国に求めたので，15世紀初頭足利義満(あしかがよしみつ)は勘合貿易を開始して倭寇を取り締まった。一時その活動は中絶したが，応仁(おうにん)の乱後再び倭寇は活動を開始した。これら後期の倭寇は中国(明)人が大部分を占めたが，ほかに朝鮮人・ポルトガル人も加わった。ことに16世紀中ごろには明人王直を頭目として中国大陸から南部を荒し回った。しかしその後明の海防と豊臣秀吉(とよとみひでよし)の天下統一によりしだいに姿を消した。〔高崎徳次〕

わこう【和光(市)】 埼玉県南東部の市。人口48,000。江戸時代から新田開発によって開けた地域で，1943年(昭和18)北足立(きたあだち)郡白子・新座(にいざ)の2村が合併して大和(やまと)町となり，1970年11月現市名に改称して市制施行。市域は武蔵野(むさしの)台地の東縁部に広がり，北部は新河岸(しんがし)川の流れる荒川西岸の沖積(ちゅうせき)低地である。北東は戸田市，西は朝霞(あさか)市，東は東京都の板橋区，南は練馬(ねりま)区とそれぞれ接する。産業三大別人口比は3：41：56。第2次世界大戦前は純農業地帯であったが，最近は本田技研工業をはじめとする大工場の進出が著しい。東武鉄道東上線・国道254号線(川越街道)が通じ，住宅地化も急速に進んでいる。

わごと【和事】 歌舞伎(かぶき)の演技・演出法の一。優美な色男が主役になって演ずる恋愛描写のこと。実事から分かれた技法で，1690年(元禄3)ごろ初世坂田藤十郎が創始した。勇武を誇張した荒事とは対照的に，柔らかみのある動作・せりふが特色。遊廓で遊女と遊ぶさまを描く〈傾城買(けいせいかい)〉の演技と，放蕩(ほうとう)の結果落ちぶれた姿を見せる〈やつし〉の演技が大きな要素になっている。江戸の荒事に対して上方の伝統芸として後世に残ってきたもので，《廓文章(くるわぶんしょう)》の伊左衛門，《心中天網島》の治兵衛などが代表的な和事の役。なお，この種の役がら，ならびにこれを得意とする俳優を〈和事師〉とよぶ。〔松井俊諭〕

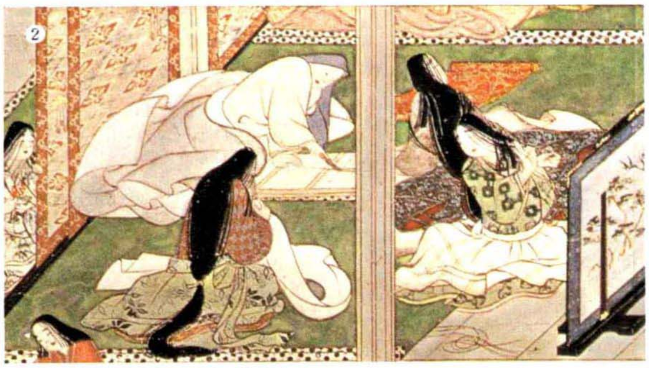
わごん【和琴】 日本の弦楽器。大和琴(やまとごと)ともいい，雅楽の中の神楽(かぐら)や東遊(あずまあそび)などの声楽曲の中で用いられる。箏(そう)の小形のもので，弦は6本で，箏のように音高順には並べられず，その並べ方と結びついた独特のパターンを奏する。ふたまたのカエデを柱として糸を張り，箏爪(ことづめ)をはめず，右手で持った1枚の小さなヘラで弦をはじいたり，弦の上を続けてすべらせるなど，箏よりは視覚的にも聴覚的にも素朴(そぼく)である。〔徳丸吉彦〕

わさい【和裁】 和服裁縫の略。和服仕立てともいう。明治以後広く普及した洋裁に対して起こった語。

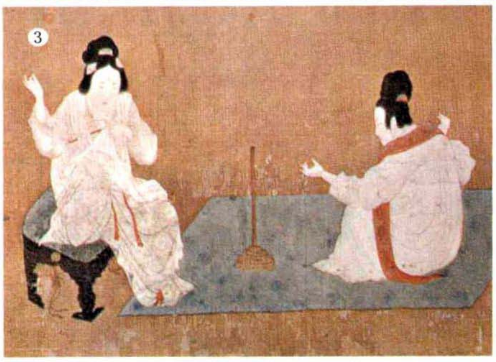
【特徴】①並み幅の布を竹尺ではかって直線で裁ち(フリーハンド-カッティング)，直線で縫い合わせる。②幅にゆとりがあり，からだに密着しないので，ミシンで堅牢(けんろう)に縫わず，手縫いが多い。手縫いは運針で縫い合わせ，布の端は折りぐけ・耳ぐけにする。③そで・身ごろ・おくみ・えりなど，すべて長方形の布であるうえに，布幅をそのまま縫い込んでおくので，いたんだときは繰り回しをして，縫い直すことができる。④手縫いは解きやすく，細い針で縫うので縫い目で布がいたまず，縫い替えに適する。⑤洋裁の湾曲線の裁縫と違い，直線の裁縫であるため，技術は簡単で，特にくけ台を使って布を直線に引っ張って折りをつけたり，くけたり，四つ縫いの糸を引っ張ったりする。⑥標準の仕立て上げ寸法があり，着たけ・ゆき・腰回りを採寸するだけで，他の部分は標準寸法で仕立てて形ができる。また，既製品でも標準寸法1種で，かなり多くの人に着られ，高級品以外はミシン縫いでよい。⑦子ども物の長着・羽織はゆきを長く仕立て，肩上げを縫い上げる。長着は，身たけに腰上げを縫う。それぞれ成長に応じて縫い出す。

【裁縫用具】針・指ぬき(短針のぐし縫いに適する皮革製の指輪形)・針刺し・はさみ(糸切りばさみ・裁ちばさみ)・へら(骨製で長さ約13cm)・チャコ・糸巻き(近年は手縫い用はカード巻き，ミシン糸は管巻き式)・そで型・くけ台(座敷用・机用)・安全かけ針・テープメジャー・毛抜き・針箱(細かい用具が全部はいるように区切りのついたもの)・物差し・へら台(古くは裁刀

和　　裁

和裁の歴史
①平安時代(宮廷の侍女の裁縫)《源氏物語絵巻》早蕨　徳川黎明会蔵
②鎌倉時代(裁ち包丁を使っている)《石山寺縁起絵巻》石山寺蔵
③中国(北宋時代)の裁縫　《搗練図》ボストン美術館蔵
④江戸中期(運針と針箱)　鈴木春信《座舗八景》
⑤江戸後期の針仕事　喜多川歌麿画



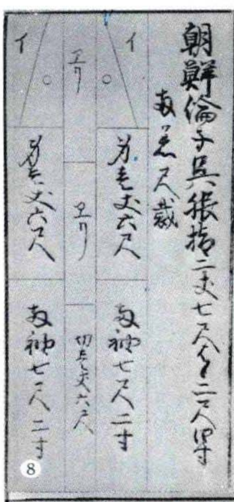
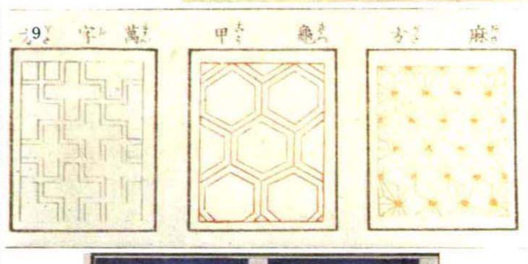


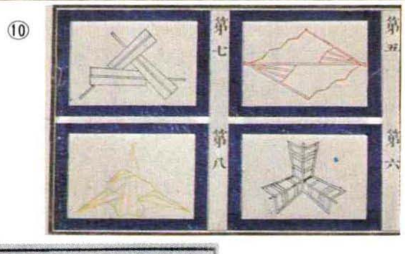
裁縫用具
⑥江戸後期の針職人　《彩画職人部類》
⑦江戸末期の携帯用針刺し袋物　(新居町教育委員会蔵)

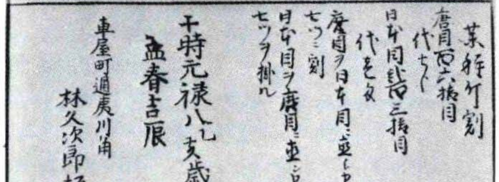
裁縫書
⑧江戸初期　《当流絹布裁様》(1695)　下は奥付
⑨明治初期(ぞうきんの刺し方)　《裁縫手引》(1877)
⑩明治初期(背紋形の縫い方)　《裁縫乃教》(1877)










⑪

⑫

⑬

独創的なデザインの陣羽織
⑪箱ひだのある鳥毛陣羽織(伝織田信長所用)東京国立博物館蔵
⑫違い鎌文様の羅紗陣羽織(伝小早川秀秋所用)東京国立博物館蔵
⑬背に尾状の毛皮をつけた陣羽織(加賀前田家伝来のもの)

(ものたちがたな)で布を裁ったため，裁ち板とへら台共通の厚さ4cm，幅40cm，たけ160cmの木製のものを使った)・霧吹き・巻き棒・こて板・アイロン台・衣紋ざお・スチーム-ドライ兼用アイロン，その他。

【年齢による和服の大きさの名称】①一つ身(小裁ち)：生後1～2歳用。身たけ60cmぐらいの産着(うぶぎ)を最小とし，宮参りのとき着せるそでたけ57cm，身たけ95cm，別おくみ，半幅の共布の付けひも(約65cm)が最大である。②三つ身：3歳用。身たけを三つとる裁ち方。③四つ身(中裁ち)：そでたけ四つ，身たけ四つを裁つので，この名がある。3～10歳用で，一つ身の次にはこれを着せることが多い。四つ身裁ちは幅にむだがなく，年齢によって身たけ・そでたけを加減する。用尺は，5歳前後までは半反四つ身，それ以上は2/3反を用尺とする。④本裁ち(大裁ち)：成人男女用。長着は並み幅たけ1反(約11.4m)を使い，そでたけ4たけ，身たけ4たけ，おくみたけ2たけに裁ち，えり・おくみは半幅とする。

【和裁史】①原始時代：石器時代には，毛皮や樹皮をはいだものなどを衣料としてわずかに身にまとっていた。裁縫用具もはじめは石包丁，次には摩石器を使い，骨・木・石の錐(きり)や糸穴をあけた針もつくられ，糸はじょうぶな植物繊維が使われたらしい。②熱帯性・寒帯性衣服：5世紀ごろ，大陸から紡織の道具と技術とが伝えられて，女性が植物繊維による麻布・楮(こうぞ)布・藤(ふじ)布・葛布(くずふ)・科布(しなふ)などを衣料として織るようになった。鉄器によって布を裁つ刃物ができ，針も穴のある太い鉄針がつくられた。紀元前3世紀ごろの中国の記録によると，当時の日本は熱帯系の衣服で，貫頭衣*と袈裟(けさ)式衣を着ており，裁縫というほどのことは行なわれていなかった。その後大陸から北方系の衣服がはいってきたが，これらの形・裁縫は5世紀ごろの埴輪(はにわ)人物像その他に見られる。埴輪には布製衣服の縫い目は表わされていないが，皮革製品には縫い目が刻まれている。火打ち袋の三方の周囲はあらいぐし縫い，くつの底と甲の部分とは巻きかがり，馬具の皮には突き合わせの巻きかがりが多数みえ，また皮袋を模した土器には緻密(ちみつ)な縫い目が刻まれている。③中国の絹・裁縫の伝来：中国には紀元前数千年前から養蚕が始まり，絹織物が衣服に裁縫されてきて，漢代すでに現代と同じ四の一ぐらいの針で，1～2mmの針目の精巧な短針のぐし縫いの技術がなされ，絹の衣服に，真綿を入れて表布・裏布とともに四つ縫いを縫いしろ3mm，針目2mmでしている。特にぐし縫いが巧みである。わが国にも一部には3世紀ごろからその技術が伝えられていた。6世紀になって，高級な裁縫をする衣縫女(きぬぬいめ)も渡来し，高度の発展となった。朝廷を中心に7世紀には隋(ずい)風の衣服とその裁縫



ワサビ



ユリワサビ

ワ　サ　ビ

も取り入れられ，8世紀の初めには，唐風の衣服にすぐれた裁縫技術が日本に大いに発達し，面目を一新した。当時，衣縫の技術者の集団を衣縫部(きぬぬいべ)といった。正倉院の多くの衣類・縫製品が，その技術を語っている。その縫い目は2mmの半返し縫い，1mmのぐし縫い，3mmのまつりぐけ，2mmの幅の三つ折りまつりぐけやぐし縫い，3mm上がり幅の袋縫い，縫いしろの三つ巻きまつり縫いなど，繊細・精巧な技術があった。これらは四の一ぐらいの短い針を使い，長い針を使わなかったことが知られる。えりの先を止めるには，共布で細く撚(よ)りひもをつくり，とんぼ頭(がしら)と輪奈(わな)で掛け合わせる。また，結びひもをせず，長ひもをつけることも庶民に多かった。後世，袍(ほう)・狩衣(かりぎぬ)はとんぼ頭をつけるが，水干は長ひもで結び合わせるのは，奈良時代の庶民の長ひもの名ごりであろう。また，後世の垂領(たりくび)の直垂(ひたたれ)・素襖(すおう)・大紋が胸ひもをつけ，おくみのない短衣であることも庶民の衣服であったことを語っている。大宝令(りょう)によると，宮中の裁縫所としては中務省(なかつかさしょう)に縫殿寮(ぬいどのりょう)，大蔵省に縫省(ぬいのつかさ)が設けられ，職員が配置されて，宮廷内および官吏の衣服を裁縫した。④国風化の裁縫：平安後期から鎌倉時代にかけて，公家の装束*は国風化し，柔(なえ)装束が強(こわ)装束といってのりを強くつけ，こわばらせるものとなって，縫いの技術は退化し，あらいものとなった。これは江戸時代の武家の狩衣・素襖・大紋・裃(かみしも)や，また女房装束も同様であった。⑤武士・庶民の小袖*(こそで)と南蛮の裁縫：南蛮貿易によって衣服にも南蛮風俗が取り入れられ，胴服*・羽織・陣羽織*・鎧下(よろいした)には湾曲線の裁縫や種々の新しいくふうがなされた。特に陣羽織は変わった南蛮ふうのデザインが創作されて，羽毛・獣毛を縫いつけたり，織り込んだり，綴織(つづれおり)や羅紗(らしゃ)の切りばめ縫い，蛇腹(じゃばら)押えの切りつけ模様，へり取り，パイピング仕立て，折りひだ，縫い縮めのギャザー，ししゅう，錦(にしき)・緞子(どんす)・羅紗などを縦横に使って，形・材料・装飾のうえに，日本のこれまでにない個性的な創作がなされた。また，皮たび・皮袴(かわばかま)・皮羽織などは，特殊な職人によって型紙もつくられ，裁縫されて売られた。たびのすぐれた型紙は南蛮の技術から得たもので，裁付(たっつけ)袴・馬乗り袴・かるさん，合羽*(かっぱ)のえり，引き回し合羽の半円形のつくり方なども同様である。⑥近世後期・近代の小袖・羽織：江戸後期には，陣羽織のデザインも固定化した。羽織の身たけは流行によって激しく変わり，毛抜き・引き返し・無双・あわせ・綿入れ・ひとえ仕立てなどの仕立てがあった。長着は，身幅を著しく狭く仕立てるものとなり，現代に続いているが，縫い込みが多いので，縫い目は比較的あらくなり，縫い込みの始末に手数のかかる仕立てとなった。

【裁縫書の歴史と和裁教育】裁縫書は，元禄(げんろく)年間(1688～1704)から出版された。当時中国その他からの輸入品の布帛(ふはく)は幅・たけが大きく，数枚の衣服を裁ち合わせるので，呉服屋は専門の裁ち方職人が必要であり，それらによって裁ち方書が書かれ，出版された。しかし，宝暦年間(1751～1764)以後は布幅も固定し，1枚の衣服を裁つ図となって家庭用の裁ち方書ともなった。しかし，江戸末期までは縫い方についての記述はわずかにすぎなかった。明治以後，関西・東京に多くのすぐれた裁縫教育者が出て，縫い方も詳述されるようになった。江戸時代には，裁縫教育は家庭・寺小屋・仕立て物業者でなされたらしい。明治時代には，義務教育に女子には裁縫科が設けられ，教育が進むにつれて短針の裁縫技術が大いに広められ，初等・中等教育において，日常の和服を仕立てられない者はないまでに発達した。しかし，第2次世界大戦後は洋服が普及したため，和裁教育はわずかに行なわれるだけとなった。→和服

〔堀越すみ〕

わさび　【山葵】　双子葉植物・アブラナ科。深山の流れの縁に自生する日本特産の多年草。山の谷間や湧水(ゆうすい)を利用して栽培もする。根茎は太く円柱形で，葉の落ちたあとがある。根出葉は長い柄をもつ円形で基部は心形，長さ・幅ともに8～12cm。表面は光沢があり，少ししわがよった感じがする。3～5月，高さ30～50cmの花茎を数本直立させ，総状に径5～8mmの白色4弁花をつける。全草に特別のかおりと辛みがある。特に根茎はすりおろしてさしみ・すし・茶づけなどに用いられ，また，葉柄とともにきざんで酒粕(さけかす)につけたもの

がわさびづけである。粉わさびは本来はワサビの根茎の乾燥粉末であるが，現在はワサビダイコンが用いられている。ユリワサビは本種に似るがずっと小形の別種で，根茎は細い。　〔加藤僖重〕

わさびだいこん【山葵大根】 双子葉植物・アブラナ科。セイヨウワサビともいい，英名はホースラディッシュ。ヨーロッパ原産の多年草。根は円柱状でよく発達する。根出葉は長楕円(ちょうだえん)形で細鋸歯(さいきょし)があり，茎葉は長披針(ちょうひしん)形で羽状に切れ込む。5〜7月，白色4弁花を枝先に総状につける。根に辛みと芳香があり，西洋料理に用いられ，また，乾燥粉末は粉わさびとして利用される。

わさん【和算】 明治以前に日本人が開拓した数学。わが国においては，律令(りつりょう)制の大学寮*において，すでに相当高度な数学が指導されていた。したがって，掛け算は常識となっており，《万葉集》には〈八十一〉と書いて〈くく〉と読ませたり，〈二五〉・〈十六〉をそれぞれ〈とを〉・〈しし〉などと読ませている。鎌倉・室町時代には数学の記事はほとんどなくなるが，数学遊戯に関する記録が残存している。戦国時代には城の構築，輸送・土木・水利に数学が必要とされたであろうが，これもどんな内容かはっきりしない。元和(げんな)年間(1615〜1623)には，現存最古の数学書が現われる。毛利重能(しげよし)の著《割算書》(1622)，百川治兵衛(ももかわじべえ)の著《諸勘分物(しょかんぶもつ)》(1622)であるが，この2書は室町・戦国時代の数学のなごりと思われる。江戸時代の数学は吉田光由*(よしだみつよし)の著《塵劫記*(じんこうき)》から始まる。本書は絵入りで説明されたていねいな入門書で，そのすぐれた編集は江戸時代を通してあらゆる初等教科書の手本となった。《塵劫記》は毎年改版されるほど大衆に受けた算書である。毛利重能の弟子(でし)今村知商(ともあき)は，数学公式集《竪亥録(じゅがいろく)》(1639)を刊行した。毛利の弟子といわれる吉田光由は《竪亥録》に対抗してか，1641年(寛永18)版の《塵劫記》の体裁をすっかり変えて，巻末に世間の数学者に挑戦(ちょうせん)する問題12問を提出した。また，この吉田の挑戦に応じて解答を与える算書が輩出した。その中にはまた各算家のくふうになる問題を提出する算書も現われ，問題提出・解答というリレー式の問答が流行した(遺題継承*)。特に磯村吉徳(いそむらよしのり)(？〜1710)の《算法闕疑抄(けつぎしょう)》(1659)は，名著であるとともに100問の遺題を提出したことで有名である。寛文年間は遺題継承によって，問題は年ごとに難問になり，数学は高度になった。しかもこのころには算額*奉掲も盛んになり，数学研究の機運が盛り上がった時期である。このときが関孝和*(たかかず)の20歳前後という学習時代であった。関孝和は前代までの数学および数学遊戯を研究し，高等数学にまで程度を高めた。関の弟子建部賢弘(たけべかたひろ)(1664〜1739)，孫弟子松永良弼(よしすけ)(？〜1744)，松永の親友久留島義太*(よしひろ)らにより，無限級数・行列式・整数論など数学の各分野について急速な進歩をみた。松永の弟子山路主住(ぬしずみ)(1704〜1772)は多くのりっぱな弟子をもち，これによって関孝和より続く伝統は関流とよばれ他の流派を圧した。山路の弟子の中で，久留米(くるめ)藩主有馬頼徸(ありまよりゆき)(1714〜1783)は立派な数学者であるとともに，多くの数学者を庇護(ひご)した。その中には数学教育者として多くの子弟を養い，名著といわれた《精要算法》(1781)を出版した藤田貞資(ふじたさだすけ)(1734〜1807)がいた。藤田は子とともに算額の問題を集めて，《神壁算法》《続神壁算法》を著わして評判が高かった。有馬の著わした《拾璣(しゅうき)算法》(1769)，藤田の著《精要算法》は数学者となるための教科書として名高い。山路の弟子安島直円*(あじまなおのぶ)により二重積分や座標幾何に近い図形問題が開発された。このように，わずかの期間にヨーロッパよりもある面ではすぐれた数学をもったのであるが，江戸時代に自然科学の発展がなかったために，研究材料に不足してきた。幕末にはヨーロッパの影響により，サイクロイドや重心問題が研究されるようになった。安島直円の孫弟子和田寧*(やすし)は多くの定積分表をつくり，多重積分の方法を開拓した。法道寺善(1820〜1868)はヨーロッパの反転法に匹敵する方法を開拓した。このようにさらに進歩しようとするときに明治維新となり，和算はヨーロッパ数学を吸収するための役目を果たして終わった。明治時代の小中学校の教師が算数・数学教育において困らずにすんだのは，和算という基礎があったからであり，また地租改正のときに活躍したものの多くは和算家であった。遠藤利貞(としさだ)(1843〜1915)は東京数学会社(日本数学会の前身)の発足にあたり，明治以前の日本の数学がいかなるものであったかを知らせるべく，19年間の労苦ののちに《大日本数学史》(1896)を出版した。これにより和算は数学史の一分野としての研究の対象となった。　〔下平和夫〕

わさん【和讃】 仏や祖師をたたえるためにつくられた日本語による仏教音楽。平安時代からつくられたが，鎌倉時代の浄土真宗に多い。たとえば親鸞(しんらん)のつくった《浄土和讃》の一節〈安楽浄土をねがいつつ，他力の信をえぬ人は，仏智(ぶっち)不思議を疑いて，辺地懈慢(へんじけまん)にとまるなり〉のように7・5調を4句まとめて一章とし，それを数章から数十章連ねていく。音楽的には，古い声明*(しょうみょう)に比べてリズムが単純で，旋律も微小音程に依存せず，民謡的におおまかに動いている。〔徳丸吉彦〕

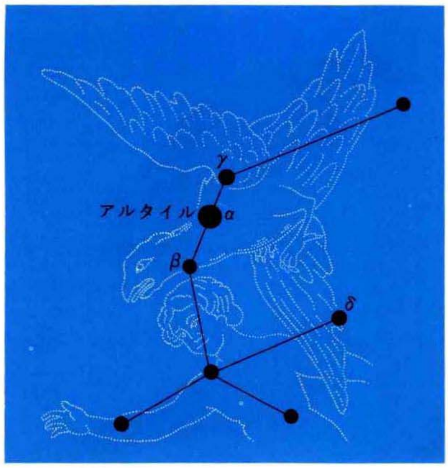
わし【鷲】 ⇨ワシタカ

わし【和紙】 わが国で発達してきた独特の紙。従来は靭皮(じんぴ)繊維を原料とし，練りを使用した手ずき法によったが，近来は機械ずき法にかわりつつある。わが国における製紙の記録は，《日本書紀》に〈推古18年(610)春3月，高麗(こま)の貢僧曇徴が来朝して製紙法を伝えた〉とあるのが最も古い。わが国で紙が使用されたのは，673年(天武2)に勅命によって《一切経》を河原寺で写させたという記録があることから，その前後と推定される。《正倉院古文書》によれば，奈良時代の702年(大宝2)から760年(天平宝字4)の58年間に紙の種類と名称は，約178種に上っている。そのおもなものは，麻紙・斐紙(ひし)(原料ガンピ)・穀紙(原料コウゾ)・紙屋紙(かんやがみ)・梶紙(かじがみ)・檀紙(だんし)(陸奥紙(みちのくがみ))・楡紙(にれがみ)・真弓紙・竹幕紙・紫紙・紺紙(こんし)・黄紙・縹紙(ひょうし)・唐紙などである。写経用紙の産地は美作(みまさか)(岡山県)・播磨(はりま)(兵庫県)・越(こし)(北陸道(ほくりくどう))・美濃(みの)(岐阜県)で，ほかに筑紫(つくし)(福岡県)・尾張(おわり)(愛知県)・常陸(ひたち)(茨城県)・遠江(とおとうみ)(静岡県)・伊賀(いが)(三重県)・上野(こうずけ)(群馬県)でも産した。そして多くは写経用であったが，文書・戸籍・窓張り・障子紙などにも用いられた。平安中期以後は詩歌・書道が盛んになり，料紙として墨流のようなすぐれた加工紙が出現した。延喜ころの製紙の状態は《延喜式》によって知ることができる。それによれば，紙の種類は奈良時代と大差はないが，産地は26か国から44か国に及んでいる。この当時図書寮で1年間20,000枚(寸法：幅2尺2寸〔約66.7cm〕，長さ1尺2寸)の紙がつくられた。鎌倉初期以後には，民間製紙業の勃興(ぼっこう)によって図書寮へ各地から貢進する原料が不足したため，宮中での公用紙は古紙をすき返した宿紙を使用した。鎌倉末期からはようやく漢籍の出版が興り，室町時代には各地方に種々の開版が現われている。戦国時代には製紙量も減少したが，それでも著名な紙に大高・小高などの檀紙がある。1444年(文安1)出版の《下学集》にある紙名は，唐紙・引合(ひきあわせ)・杉原(すぎはら)紙・檀紙・厚紙・薄葉・打曇・色紙・鳥の子紙・懐紙・宿紙・修禅寺紙で，これらはそのころ一般に使用されたものと思われる。1580(天正8)〜1596年(慶長1)には伊予(愛媛県)の泉貨紙，土佐(高知県)成山(なりやま)の七色紙，下野(しもつけ)(栃木県)の桟留紙(さんとめがみ)などを産出した。江戸時代には戦国時代以来一時衰微した学問も復興し，漢学の興隆に伴って刊書が盛んに行なわれた。したがって，大小の諸侯が各領地内で製紙を農民に奨励したので，全国の製紙量も増し，庶民に至るまで自由に紙を使用するようになった。《雍州府志(ようしゅうふし)》(1684)によれば，加賀(石川県)の奉書紙と越前(えちぜん)(福井県)の鳥の子紙とが最上品で，杉原紙をはじめ，雑紙として美濃紙・関東紙(西の内紙・細川紙・程村紙(ほどむらがみ))・修善寺

紙・小杉紙，安芸(あき)(広島県)の諸口(もろぐち)，片口厚紙，五色紙などが京都で売り出されたとあり，また宿紙・檀紙が京都ですかれたと記してある。江戸時代の新製品には駿河(するが)半紙・和唐紙(以上ミツマタ原料)・摂津名塩紙・熱海雁皮紙(あたみがんぴし)・五雲牋(ごうんせん)・薬袋紙(やくたいし)(以上ガンピ原料)などが現われ，コウゾ製の大高・奉書紙・杉原紙・半紙・半切その他は各地で産出するようになった。

1874年(明治7)以後，わが国に洋紙製造が勃興したため，印刷方面はほとんど洋紙の独占するところとなって和紙業を圧迫した。その需要範囲も変化をみるに至った。1879～1880年にはミツマタを煮熟するのに苛性(かせい)ソーダを用い，さらし粉による漂白法が伝えられて純白な改良半紙が生産された。明治20年ごろからミツマタの使用がしだいに増し，局紙*・コピー紙などの時代的要求に伴って新製品が現われた。明治30年ごろからミツマタ・コウゾ原料がしだいに騰貴したため，木材パルプを混用することになり，日本特産の靭皮繊維のみを原料とする紙も減退した。機械ずき和紙は1894年静岡県で円網(まるあみ)ヤンキー抄紙機でナプキン原紙を抄造したのが最初で，明治40年前後から機械ずき和紙の製造が増加した。大正時代にはパルプ半紙，マニラ麻原料の障子紙などが生産され，手ずき和紙との混戦となった。この当時純生(き)ずき和紙としては典具帖(てんぐじょう)・コピー紙・傘紙(かさがみ)・元結い紙・図引用紙・謄写版原紙に限られる状態であった。昭和にはいると機械ずきはますますその地歩を固め，第2次世界大戦中の統制を経て機械ずきの書道半紙・障子紙・鳥の子紙・奉書紙・薄葉・ちり紙などの抄造が盛んになり，現在では上記の手ずき典具帖以下もほとんど機械ずきに変わりつつある状態となった。そして，手ずきは高級ふすま紙・美術紙・画仙紙(がせんし)・民芸紙などに限られるようになった。ただし，同一紙名で機械ずきと競合する場合，手ずき和紙は生(き)ずき高級品として残っている。

和紙原料はアサ・コウゾ・ガンピ(以上奈良時代から。アサは室町時代で終わる)・ミツマタ(江戸初期)・わら(さらし原料，1879年ごろ)・マニラアサ(大正)・木材パルプ(1897年ごろ)・スフ繊維(昭和)などである。その製造工程は古代から今日まで原理としては変化はない。すなわち，その作業は煮熟・漂白・離解・叩解(こうかい)・抄紙(手ずきまたは機械ずき)・仕上げなどである。煮熟作業には苛性ソーダ・ソーダ灰・生石灰などを用い，漂白作業は川ざらし(コウゾ・ミツマタ)または漂白剤による。離解または叩解は古くは手打ち，明治末期以後はビーター(叩解機)で行なう。コウゾは臼搗(うすつき)叩解や楮(こうぞ)打解機で離解し，ビーター叩解を併用する。抄紙には練り液を使用し，明治中期以降は萱簀(かやす)から竹簀を用い，簀の大きさも1枚判から大判ものに改良された。湿紙は数百枚重ねてしぼる。その方式は古くはレバー式，のちにジャッキあるいは油圧・水圧式に改められた。乾燥には日光での板干し(奈良時代以来)と蒸気乾燥(明治末期から)の2方式がある。成紙はこれを選別・裁断・包装して仕上げる。現在のおもな産地は京都府と富山・福井・岐阜・島根・鳥取・愛媛・高知・埼玉・宮城各県である。機械ずき抄紙機には円網式のほか，懸垂式ヤンキー・短網式ヤンキーなどがあり，古来の手ずき紙はほとんどこれらの機械ですくことができる。おもな産地は静岡・岐阜・高知・愛媛・山梨・香川の諸県である。今後の見通しとしては，在来の和紙は機械ずきに任せ，手ずき和紙は美術・工芸方面に力を注ぎ，また海外への進出にその進路を求むべきであろう。〔関　義城〕



わ し 座

ワジ　［wadi］　涸(か)れ川ともいい，砂漠(さばく)で降雨のときだけ水が流れ，通常はかわいて砂礫(されき)だけが残っている水無谷をさす。アラビア語に由来する。砂漠では植物被覆がないため雨のときには激流に洗われるが，数日で河水は涸渇(こかつ)して川原を残すのみとなる。隊商*などの通路に利用され，天候の急変で夜営中の隊商が激流にのまれて全滅した例もある。アラビア半島や北アフリカの砂漠に特に発達している。〔大崎　晃〕

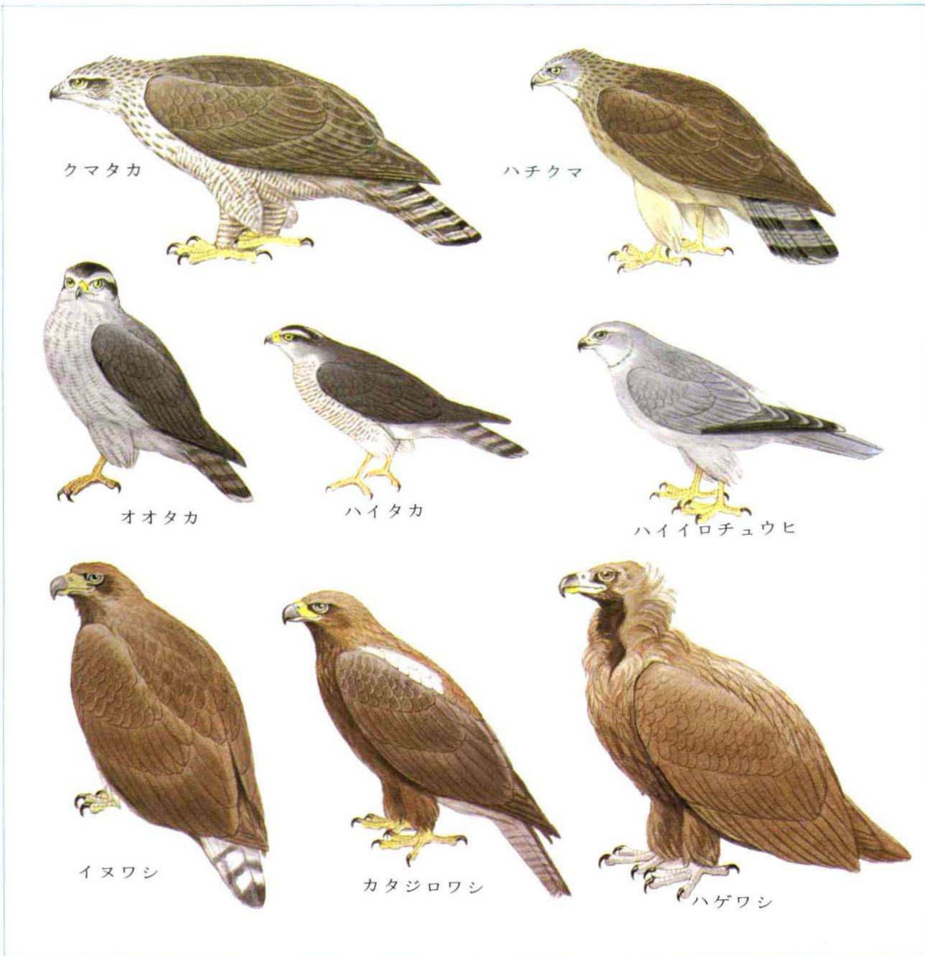
わしうざん　【鷲羽山】　岡山県倉敷市南部の下津井港の東にある瀬戸内海に臨む丘。標高133m。瀬戸内海の展望地点では第一といわれ，山上からは近くに散在する塩飽(しあく)諸島の島々をはじめ，南に屋島・飯ノ山(讃岐(さぬき)富士)などの四国の山々や，東に遠く小豆(しょうど)島が望まれる。瀬戸内海国立公園の一部になっている。

わしざ　【鷲座】　夏の南天に，いて座とはくちょう座にはさまれて銀河の中にかかる星座。α星アルタイルのほかは明るい星はないが，銀河はこの星座付近で特に明るく変化に富んでいて，双眼鏡にも美しくながめられる。アルタイルは七夕(たなばた)の牽牛星(けんぎゅうせい)として有名。

わじしょうらんしょう　【和字正濫抄】　歴史的かなづかい研究書。僧契沖(けいちゅう)著。5巻。1695年(元禄8)刊。上代・中古初期まで文献によって，かなの使い方を精査し，これを後世のかなづかいの規範として立て，正書法的かなづかいの制定を主張している。奈良時代・平安初期の文献では，ア・ヤ・ワ3行とハ行に属するかなで書かれる語のかなの使い方に誤りのないことを発見し，平安中期以後の文献における前述4行のかなの使い方に基づく定家かなづかいが根拠のないことを指摘した。著者の研究方針と実証に基づき帰納的に論定していく研究態度とは，画期的な意味をもち，この著の前後で国語学史は区別される。〔寒河江実〕

わしたか　【鷲鷹】　鳥類・ワシタカ目の鳥の総称およびそのうちの真正ワシタカ類の総称。一般にワシ・タカ・ハヤブサなどとよばれている鳥たちは，すべてワシタカ目に属する鳥で，ワシタカ目は①コンドル亜目：コンドル科*(4～6種)，②ワシタカ亜目：ワシタカ科(約210種)・ハヤブサ科*(約60種)，③ヘビクイワシ亜目：ヘビクイワシ科*(1種)に分類されている。

さらに，ワシタカ科はハゲワシ類*(1亜科)・真正ワシタカ類(8～10亜科)・ミサゴ類*(1亜科)に分類される。日本語でワシ・タカとよばれるものは，分類学上の特定のグループをさすものではなく，一般に大形のものをワシ，小形のものをタカといっている。真正ワシタカ類は約190種を含み，全世界に分布している。全長20cm大のものから，翼開長2.5mもあるワシ類まであり，ウサギ・ネズミ・リスなどの獣類，鳥類，ヘビ・トカゲ・カエルなど爬虫(はちゅう)類や両生類を狩り捕えて食べているグループである。狩る方法は，同じ場所で待ち構えて見張りをして獲物をねらったり，また，飛び回って探索し，地上や樹上にいる獲物をすばやく鋭いつめにかけてさらうように捕ったり，獲物の真上ではばたき，ねらいをつけ急降下して，体重と鋭いつめとくちばしで押え捕える方法，空中で獲物に体当たりして鋭いつめで獲物を弱らせて捕える方法などがある。このようないわゆる狩りをする鳥は，狩りの成功率を高めるため，おのずと単独生活をしている。一方，フロリダと南アメリカに分布するエバグレードトビは，淡水産の巻き貝を主食にしている特異な鳥で，アルゼンチンの例では食物の多い水辺の林で20～100つがいが集団繁殖している。また，ミシシッピートビはバッタ類を主食とし，やはり集団繁殖する。科は異なるが，ハヤブサ科のアカアシチョウゲンボウやチョウゲンボウもこん虫類をかなり食い，やはり集団繁殖する。さらに，日本各地の漁港で魚介類の肉片を食べてい



ワ シ タ カ

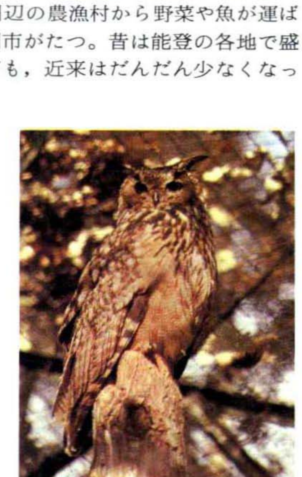
るトビは大群をなし，死肉性のコンドルやハゲワシ類にもみられるように，いわゆる狩りをしないワシタカ類は，採食行動の相違から集団生活をしている。〔安部直哉〕

わじま 【輪島(市)】 石川県，能登(のと)半島北部の市。人口34,000。15世紀ごろ紀伊(きい)(和歌山県)の根来(ねごろ)寺の僧が技術を伝えた輪島塗*の特産で知られ，1954年(昭和29)市制施行。市域は日本海に面して北東から南西にかけて細長く延び，西方に輪島崎が突出する。鳳至(ふげし)・河原田(かわらだ)両川の三角州上に発達する市街地は，東から河井・鳳至・海士(あま)・輪島崎の4町からなる。海士町は舳倉(へぐら)島*へ季節移動する海女(あま)たちの居住地で，やや閉鎖的な地区である。産業三大別人口比は33：28：39。輪島塗は行商販売が特色で，独特の技法をもち，漆器工芸作家も多く出ているが，いまは手不足で後継者養成に悩んでいる。七尾線・国道249号線が通じる。能登半島国定公園の観光基地で，北東の曾々木(そそぎ)海岸は窓岩(天然記念物)などの奇岩怪石に富む。市の東端に近い町野地区には大納言平時忠(ときただ)の子孫が時国姓を名のって定住した時国部落があり，上時国の本家，下時国の分家に分かれるが，下時国の家屋は重要文化財に指定されている。



輪 島 市 周辺の農漁村から野菜や魚が運ばれて，名物の朝市がたつ。昔は能登の各地で盛んであった朝市も，近来はだんだん少なくなっている

ワシミミズク



わじまぬり 【輪島塗】 石川県輪島市に産する漆器。室町中期に紀州(和歌山県)根来(ねごろ)寺の僧が同寺に使用するための家具類を製造したことに始まると伝えられる。現在の技法は江戸前期のもの。同地産の特殊の地粉を下塗に用い，複雑な工程を経るため，堅牢(けんろう)なことで知られる。装飾には江戸末期ごろから沈金*の技法が用いられた。

わしみみずく 【鷲木菟】 鳥類・フクロウ科。旧北区の中高緯度地帯の原生林にすむ巨大なフクロウの一種。全長67～70cmで，全身かっ色を呈し，長い耳状の羽がある。北海道の原生林には少数が繁殖しているが，珍しいので発見されると密猟者にねらわれるため，数はますます減少しているという。

わじゅう 【輪中】 周囲に洪水(こうずい)防止のための堤防を巡らしている地域をいい，また，堤防内にある一個ないし数個の集落形態をいう。濃尾平野西部の木曽(きそ)・長良(ながら)・揖斐(いび)の3河川の下流にあたる低湿地にその典型がみられ，狭義にはここを輪中とよんでいる。かつては，ここに40近くも輪中があったといわれ，大垣(おおがき)輪中もその一つで，大垣という地名も洪水を防ぐために巡らされた垣根のような大堤防からきているという。輪中の内部は低湿なので，家は盛り土をして高くし，また宅地内にさらに盛り土をして水屋という二階家をつくり，洪水の際の避難所とした。耕地は一毛作の水田が多く，ごく一部に盛り土をするか，あるいはうね畑をつくって畑作が行なわれる。濃尾平野の東部すなわち木曽川左岸のかつての尾張(愛知県)は，1609年(慶長14)に築かれた御囲堤(おかこいづつみ)によって水害からほとんど完全に守られたが，右岸の輪中はいわば水害に対する自衛の手段としてつくられたもので，これは，尾張が徳川御三家の一つの大藩に属し，美濃(みの)(岐阜県)は小藩が分立していたことにもよる。このような輪中地帯の水害をなくすために，宝暦年間(1751～1763)に，幕命によって薩摩(さつま)藩(鹿児島県)がこの3河川の分流工事を成し遂げ，明治以後さらに近代的な工事によって改修が行なわれた。また動力揚水機の使用，用排水路の整備や干拓事業も進められて，近年は輪中の特殊な景観はしだいに姿を消し，湿田も乾田化して，裏作も可能になった。〔浅井得一〕

わじゅつ 【話術】 話し方の技術。話術の巧拙は評価の基準によって異なるが，結果からみると話すことの目的がどの程度効果をあげたかによってはかることができる。相手を感動させるのか，笑わせるのか，こわがらせるのか，理解させるのか，などによって話題，表情，ゼスチャー，発声のしかた，間のとり方，用語の並べ方・使い方，例の引き方などが微妙に変わってくる。また，相手の反応を感じ取り，興味をそらさないように話を展開させることも，すぐれ

た話術の主要な要素である。したがって，単によどみなく話すというだけでは，話術がすぐれているとか，話しじょうずとはいえない。話術は型にはまって完成された技術ではなく，場面や聞き手の変化に即応する流動性の強い技術である。Aに対して有効な話術がBにそのまま効果的であるとはかぎらない。話術のかなめは人間の心理の洞察(どうさつ)にあり，機械的に名文句を覚えるといったことは話術にほど遠いものである。〔芳賀　綏〕

ワシレーフスカヤ［Vanda L'vovna Vasilevskaya］（1905～1964）ソ連の女流作家。ポーランド生まれで1939年に帰化。詩作でデビューしたが，第２次世界大戦中に発表した抵抗文学《虹(にじ)》により小説家として世に知られるに至った。劇作家コルネイチューク*の夫人。

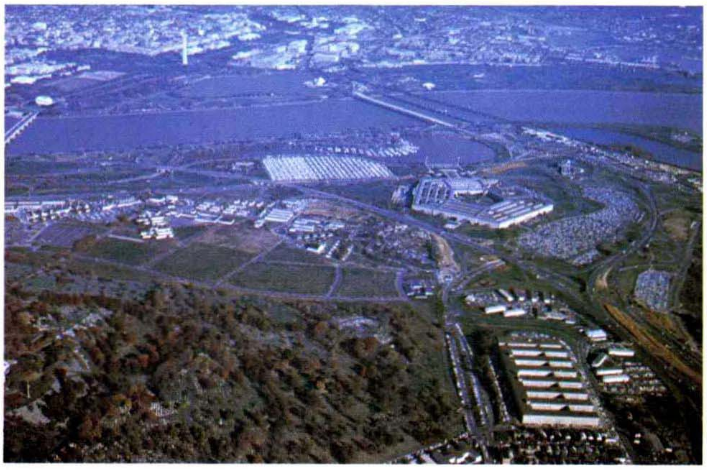
ワシントン(州)［Washington］アメリカ合衆国北西部，カナダと国境を接する太平洋岸の州。面積17万6,670km²，人口320万3,000(1967)。州都オリンピア。1889年11月合衆国42番めの州となる。州名は初代大統領ワシントンにちなむ。レーニア山をはじめとするカスケード山脈が中央部を南北に走り，太平洋岸は雨が多く酪農と林業，中央部は果樹栽培，東部は小麦の栽培が盛んである。ピュージェット湾のシアトル，その他の良港はアラスカや極東への門戸をなす。グランドクーリー－ダムなどコロンビア川に設けられた多くのダムは，アルミニウム工業の動力源となり，さらにコロンビア盆地の灌漑(かんがい)に役だっている。工業では航空機を含む輸送機の製作工業が最も盛んで，製材・食品・製紙・化学・金属工業がこれに次いでいる。主要都市，シアトル・スポーケン・タコマ。〔相村大彬〕

ワシントン［Washington］アメリカ合衆国の首都。人口75万7,000(1972)，大ワシントン260万(1967)。市域はコロンビア特別区と一致する。ポトマック川の北東岸，遡行(そこう)の終点に位置し，連邦政府の所在地である。初代大統領ワシントンが，1790年にこの地を首都として選定し，市街はフランス人技師ランファンが設計した計画都市で，市の中心に国会議事堂があり，ここから放射状に大通りが走り，これに碁盤目状の道路網がさらに重なっている。ペンシルベニア街は国会議事堂から西北西に延びた大通りで，この通りにまたがって３階建ての大統領官邸ホワイトハウスがある。政府諸機関はこの大通りとコンスチチューション街にある。市街は樹木が多く，高層建築が禁じられているため明るく落ち着きがあり，メリジアンヒル・マクミラン・ダンバートンオークス・モントローズなどの大公園，ワシントン・リンカーン・ジェファソンの記念碑，博物館・国会図書館・アーリントン墓地などは著名な観光地になっている。ポトマック川左岸の入り江，タイダルベースン周辺のサクラは，当時東京市長であった尾崎行雄がワシントン市に寄贈したものであり，1912年３月に植えられ，1927年以来，このサクラを中心として６日間の桜祭りが行なわれている。市域の人口増加は著しく，1950～1960年の10年間に35.9%，1960～1967年間に30.9%もふえ，増加人口はコロンビア特別区では収容しきれなくなり，市街は隣接するメリーランド州や，ポトマック川を隔てたバージニア州に向かって拡大しつつある。市内の人口はその大部分が政府またはこれと関係のある機関で働くホワイトカラー族で，そのほかはサービス業に従事するものが多い。合衆国の中で人種差別の最も少ないところの一つであるため，黒人の人口が多く，全人口の50%以上を占める。市の行政は，連邦上院の同意に基づいて大統領の任命する３名の委員によって行なわれ，その法律・予算も連邦議会によって決定される。市民は大統領の選挙権はもつが，国会議員の選挙権はもたない。〔相村大彬〕

ワシントン［George Washington］（1732～1799）アメリカ合衆国の初代大統領。在任1789～1797年。バージニアの富裕な農園主の子に生まれ，独学で測量技師となる。反イギリス闘争には積極的に活躍し，1774年大陸会議代表となり，1775年の第２回大陸会議でアメリカ大陸軍(独立革命軍)の総司令官に任命された。貧弱な装備の大陸軍を率いる彼は敗退を続けたが，1781年ヨークタウンの戦い*に決定的勝利を得て独立革命を成功に導き，1783年パリ条約*成立とともに軍職を辞した。戦争中連合会議の無力に悩んだ彼は強力な中央政府設立に尽力，1787年連邦憲法制定会議では議長をつとめ，1789年選挙人票の全員一致で初代大統領に選出され，４月30日就任した。1792年再選され，国内的には体制の整備に努め，財務



輪　中　名古屋市西方の輪中地帯(岐阜県海津町付近)。右上が木曽川で，堤防を境いにその左が長良川，左手前が揖斐川



ワシントン　手前の林地はアーリントン墓地，五角形の建物は国防総省。ポトマック川対岸の白いワシントン記念塔の後ろが官庁街となる



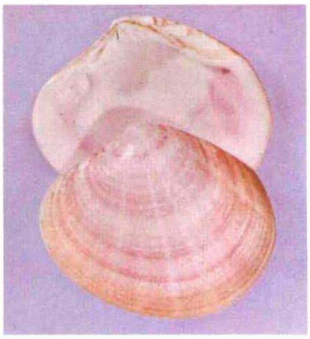
ワシントン
ウードン《ワシントン像》

長官ハミルトン*の政策を採用して経済の発展を図った。対外的にはジェファソン*を国務長官に任命，諸外国との国交回復に努め，特にフランス革命に対しては，1793年中立宣言を発して革命に巻き込まれないよう警告した。民主主義の発展のため1796年三選を辞退，有名な〈告別演説〉で国内統一と国際的孤立の必要を説いて，1797年辞任した。その後対フランス関係の悪化で，1798年アダムズ大統領により再度総司令官に任命されたが，在職のまま病死した。アメリカ独立の基礎を築いた功は大きく，建国の父とたたえられる。〔折井一彦〕

ワシントンかいぎ 【ワシントン会議】 アメリカ合衆国大統領ハーディング*の提唱で1921年11月～1922年2月，ワシントンで開催された国際会議。第1次世界大戦によるドイツの敗北と日本の中国進出，ソビエト政府の成立などの国際情勢を背景に，アメリカ・イギリス・日本・フランス・イタリア・ポルトガル・ベルギー・オランダ・中華民国の9か国が参加。7条約・12決議という多大の成果をあげた。そのおもなものは①イギリス・アメリカ・日本・フランス・イタリアの主力艦保有量を5：5：3：1.75：1.75とし，10年間の建艦停止を定めた海軍軍縮条約，②太平洋の現状維持を約し，日英同盟を廃棄した四か国条約*，③アメリカが主張する門戸開放の原則を法文化した中国に関する九か国条約*，④日本領となった山東半島を中国に返還，対華21か条要求を廃棄した日華条約*などである。この会議でアメリカは日本の中国進出を抑制するため，中国を支持し，山東半島の返還やシベリア出兵の撤退を実現した。しかし，アメリカ・イギリスはソ連に対する脅威から日本の満州における利権には触れていない。この会議で成立したワシントン体制のもとで極東の勢力関係はしばらく固定化した。〔折井一彦〕

ワシントン-ポスト ［Washington Post］ アメリカ合衆国の首都ワシントンで発行されている唯一の日刊紙。1877年創刊。1933年銀行家メーヤーに買収され，以後一流紙となった。新聞としての格は高く，その論調は内外に相当な影響力をもっている。政治的には独立を主張しているが，やや民主党寄りであるといわれる。発行部数約58万部(1980)。

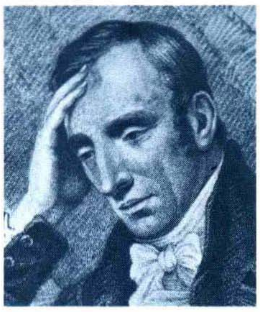
わすれがい 【忘れ貝】 軟体動物・二枚貝類・マルスダレガイ科。殻高(かくこう) 7 cm，殻長 6 cm，殻幅2.5cmほどで，殻(から)は厚く堅固であり，丸みがあるがふくらみは弱い。殻表は平滑で光沢があり，通常紫かっ色であるが黄白色のものもあり，放射帯や細かい網紋がある。殻頂の後ろは深くくぼみ，その中に靭帯(じんたい)がある。内面は紫白色で，縁は細かく刻まれる。房総半島以南，西太平洋に分布し，浅海の細砂底にすむ。詩歌にうたわれる貝は特定の種ではなく，海岸に打ち寄せた貝殻のことである。



ワスレガイ



ワスレナグサ



ワーズワース

わすれぐさ 【忘草】 ⇨カンゾウ

わすれなぐさ 【勿忘草】 双子葉植物・ムラサキ科。ワスルナグサともいい，英名フォゲット-ミー-ノット。ヨーロッパ原産の多年草。高さ20～30cmで，全草に毛がはえる。根出葉は長さ6～7 cmの倒披針(とうひしん)形で柄があるが，茎葉は長さ約3 cmの長楕円(ちょうだえん)形で柄がない。5～8月枝先に多数の瑠璃(るり)色で中心が黄色の花が集まって咲く。花冠は直径約8 mm で5片に分かれる。同属のエゾムラサキは本州の深山や北海道に自生し，本種によく似ているが，全体の毛が立っている。

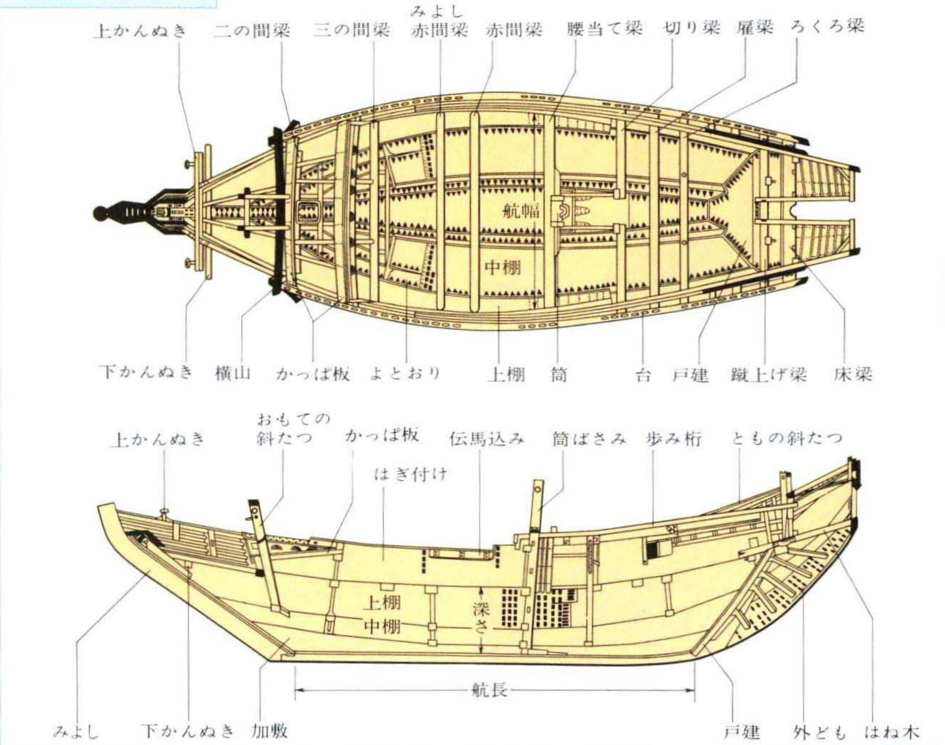
ワーズワース ［William Wordsworth］ (1770～1850) イギリスの詩人。イングランド北部の地に生まれ，故郷の自然に深い影響を受けた。旅を愛し，ケンブリッジ大学在学中ヨーロッパ各地をめぐり，フランス革命を見聞。大学卒業後，フランスに渡り，その地で恋愛，一女をもうけたが，イギリス・フランス国交断絶のため結婚はできず，単身イギリスに帰った。やがて詩人として出発，コールリッジ*と親交を結び，共著《叙情歌謡集》を刊行して，ロマン主義復興の先駆をなした。その第2版序文は詩論として名高く，詩の源は静かに思い起こされた感情にある，という発言は彼の詩の核心を語っている。1805年に完成され死後に出版された自伝的要素の強い長編詩《序曲》が代表作。若年には愛国的情熱を燃やしたが，後年には宗教的静謐(せいひつ)さを求め，《教会ソネット集》などを発表。その汎神論(はんしんろん)的自然観は多くの芸術家に影響を与えた。〔五十嵐一〕

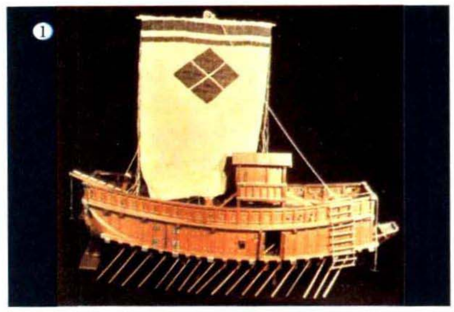
わせい 【和声】 音楽作品の垂直的構造をさす。したがって単一声部のものには和声はないとするのが普通である。このような意味での和声は，ヨーロッパ音楽では，ポリフォニー*の発生と時を同じくしている。平行4度・平行5度の使用に始まり，13世紀にはいると三和音の使用もまれにはみられるが，中心は3度のない空虚三和音であって，この状態がほぼ15世紀半ばまで続く。15世紀後半から経過的不協和音を含む完全な三和音の使用態勢にはいるが，ポリフォニー音楽の範囲では，和声はあくまで横の線的な音の流れの積み重ねの結果として副次的に現われるものであり，それ自体として独立した意味をになうものではない。和声が，音楽表現にとって不可欠の要素とされたのは，ポリフォニーからホモフォニー*へ様式の転換が行なわれてからで，バロック時代以後である。このことはその基盤として旋法*から調性*への転換を含み，また通奏低音*の使用とその発達などに象徴される調性概念の確立と和声の自立への道は，ツァルリーノにはじまり，ラモー・フックスに至る和声理論の歴史に反映している。この調性概念に基づく和声は，18～19世紀を通じて，音楽史の発展の中で重要な役割をになっている。古典派音楽における，和声とソナタ形式などの諸形式との結合から，さらにロマン派音楽における繊細で多彩な和声の使用とその音楽語法とのかかわり合い，すなわち大胆な不協和音の使用，半音階的な転調，またロマン派音楽の当然の帰結であるが，かけはなれた調への転調を経て，やがて，19世紀末から20世紀にはいって多調主義や無調主義(→十二音音楽)を生み出すに至って，和声は音楽作品の構造上の一要素に引き下がり，また同時に従来の和声概念にも大きな変更が加えられつつあるのが現状である。〔吉田泰輔〕

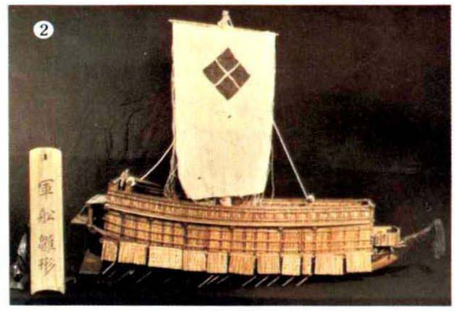
わせだだいがく 【早稲田大学】 私立大学。1882年(明治15)，大隈重信(おおくましげのぶ)が学問の独立を標榜(ひょうぼう)し，小野梓(あずさ)・高田早苗(さなえ)と協力して創立した東京専門学校(政治・法律・理学・英語学の4科)に始まる。1902年早稲田大学と改称，1920年(大正9)大学令による大学として，政治・経済，法，文，商，理工の5学部を

和　　船

大和形船の各部名称









①安宅形軍船(戦国時代，信松院蔵)　堅固な構造，上甲板の楼閣，厚い装甲板などが特徴　②関船(戦国時代，信松院蔵)　早船ともいい，安宅形より小形で，構造は大和形に近似している　③北前船(江戸末期，加賀市教育委員会蔵)　東北・北陸地方から太平洋岸の諸港へ往来した大和形荷船

もつ総合大学となる。1949年(昭和24)新制大学に移行，現在教育・文(第二)・社会を加えた8学部と大学院研究科，付属諸機関をもつ。本部は東京都新宿区戸塚(とつか)1丁目647。

わせだぶんがく　【早稲田文学】　文学雑誌。①第1次：1891年(明治24)10月坪内逍遙*(しょうよう)の主宰で創刊。早稲田大学文科関係の雑誌として，古典の講義録を中心にすえた編集形式をとったが，しだいに文芸誌へと脱皮した。金子筑水(ちくすい)・島村抱月*・後藤宙外*・綱島梁川*(りょうせん)らが活躍，逍遙の史劇《桐一葉(きりひとは)》，逍遙・森鷗外*(おうがい)の〈没理想論争〉などもここに載った。1898年10月休刊。②第2次：1906年1月，外遊から帰った抱月を中心に再刊，明治末期の自然主義運動の有力な拠点となった。片上伸*(かたかみのぼる)・相馬(そうま)御風*・正宗(まさむね)白鳥*・小川未明*らが寄稿。大正期に平林初之輔*(はつのすけ)・青野季吉*(すえきち)・広津和郎*(かずお)・宇野浩二*(こうじ)らを加え，1927年(昭和2)12月まで発行された。その後は断続的に第6次まで続いている。〔三浦　仁〕

ワセリン　[vaseline]　非結晶性固体炭化水素を主成分とする淡黄色のゼリー状物質。石油製品の一つであるが，石油工業ではペトロラタムといい，ワセリンの語は医薬方面に用いる場合が多い。ある種の石油の蒸留残渣を溶剤にとかし，析出固形物を硫酸などで精製する。比重0.82～0.88，融点38～54℃，水・アルコールには不溶，ベンゼン・クロロホルムなどにはとける。医薬用軟膏(なんこう)・化粧品などの原料となるほか減摩剤・さび止め剤などに用いられる。

わせん　【和船】　わが国在来の形式の木船で，西洋形・中国形の船に対するよび名。外国船に比べて，強度・耐航性に乏しく，大形船の建造には適さないため，1892年(明治25)以降五百石積み以上の建造は禁止された。今日実用されている和船は，荷足(にたり)船・猪牙(ちょき)船*・伝馬(てんま)船*・団平船くらいである。

〔大きさと種類〕和船の大きさは石数で表わされ，百石積み・千石積みなどのようによばれた。これは実際に積み込める穀物の量に基づいてはいるが，必ずしも同一ではない。石数は容積を表わすもので，大和(やまと)形船ができてからは，航(かわら)の長さ×幅×深さ÷10で算出したようであるが，これは地方・時代によって一定していない。また五十梃(ちょう)立て・八十梃立てというように，櫓*(ろ)の数で船の大きさを表わす(関船に多い)場合もあるが，櫓の数と石数とは一定の関連がある。

和船の種類は多いが，おもなものは大和形船を代表として，ほかに千石以上の大形船である北国船，戸建(とだて)造りの箱形船のあだて，菱垣(ひがき)船(→菱垣回船)，八百石以下の近海航路の材木運搬に用いられた団平船，旅客用の渡海船，イワシ漁に使う五大力，軍船と荷物船を兼ねた似関(にたり)船などがある。船員の構成は，船頭・楫取(かじとり)・親仁(おやじ)・賄(まかない)・水主(かこ)・炊(かしき)があり，総数は五百石船で6人程度，八百石～千石船で11人，千五百石船で16人，千七百石船で19人という記録があり，だいたいこの程度と推定される。

〔大和形船〕17世紀以降に発達した日本独特の建造法による木船。船底の龍骨(りゅうこつ)に相当するものを航といい，航の船首端から大きな舳(みよし)とよばれる船首材が突出し，船尾には戸建と外艫(そとども)があって，著しい特徴をなしている。単層甲板なので防水が完全でなく，荒天の際は海水によってすぐに水浸しとなった。軍船の場合は，矢倉などが上部に設けられ，いろいろの形をしているが，下部構造は商船と大差はない。安宅(あたけ)船*は軍船の主力で大形であるが，中形船では矢倉のあるものを関船，小形船(櫓が四十梃以下)を小早といった。江戸中期以後，主として軍船や大名の参勤交代などに使われたのは，関船クラスの御座船である。大和形船の帆装は，一本マストに四角の横帆が一般的で，もめん製が多く，その大きさは反数で数え，23反帆などが普通であった。〔飯島幸人〕

わそう　【和装】　⇨和服

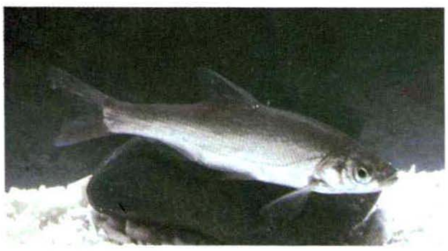
わた【棉・綿】双子葉植物・アオイ科・ワタ属の総称。繊維作物の一。栽培品種は一年生の草本であるが，草勢は灌木(かんぼく)叢生(そうせい)状を示す。原産地は野生種の分布から，①中央アメリカおよび西インド諸島，②南アメリカ，③南部アジア・ヒンドスタン・インドシナ・マライ半島，④熱帯アフリカとされ，①②をアメリカ棉，③④をアジア棉とする２異群に分けることができる。わが国には８世紀中ごろに伝えられたが絶滅。16世紀前半に再び伝えられたが栽培に失敗。各地で経済的に栽培の行なわれたのは1592年（文禄１）以降である。ワタの播種(はしゅ)は気温15～16℃に達したとき行なう。覆土は鎮圧して２～2.5cmくらい。種子は播種前に地毛（種皮に密生する短毛）をとり去り，吸水を促進するため濃硫酸に10～20分浸漬(しんし)・水洗する。施肥は10アールあたり，窒素7.5kg，五酸化リン３kg，酸化カリ５kgを標準とする。管理中摘芯(てきしん)は８月20～25日ごろ，結果枝の１～２段上で行なう。11月上旬までに開絮(かいじょ)したものより順次収穫する。収量10アールあたり，150～200kg。

種子は15～20％の油（半乾性油）を含み，油料資源としても重要。油は食用としての用途のほか工業用にも多く用いられ，種皮は燃料とし，搾油粕(さくゆうかす)は飼料および肥料として効果が大である。ワタの繊維は種子繊維であり，種皮の表皮細胞の一部が発育した単一細胞である。成熟したワタ繊維は円筒形で中央部は空洞(くうどう)，周壁は主として繊維素からなる。繊維の長さは品種，産地により差があるが，アジア棉では13～22mm（平均18mm），海島棉では40～50mm，エジプト棉では30～40mm，陸地棉で20～30mmである。ワタ繊維の特徴は開絮して空気に触れると繊維が撚曲することである。撚曲数は１cm間に27～50で，環境，品種によって差異が大きい。

わた【綿】広義には糸を紡績する原料の綿花のことで，狭義にはふとん*・和服に詰める中綿をいう。わが国では古代から中世にかけては，綿といえば真綿*のことであったが，16世紀末からワタ*が栽培されるようになり，もめん綿と真綿とが区別され，近代では綿は一般にもめん綿をさす。また1957年（昭和32）ごろから合成繊維の綿がつくられ，以後綿はその材料名を冠してよばれている。現在使われている中綿の種類には，真綿・もめん綿・カポック*綿（パンヤ）・レーヨン綿・合成繊維綿がある。合成繊維綿は，合成繊維にバルキー加工をしたもので，ナイロン・ポリエステル・アクリル・塩化ビニルなどがある。軽くて含気性に富み，保温性が大きく洗たくもできるので，掛けぶとんやキルティングの中綿に多く使われる。これらのほか，衛生・医療用の脱脂綿（もめん綿）や工業用の岩綿・石綿・ガラス繊維綿もある。〔堀越すみ〕


ワ　タ


綿　江戸中期の綿繰り（鈴木春信画）


ワ タ カ

わたあかみむし【綿赤実虫】こん虫類・鱗翅(りんし)目・キバガ科。ワタキバガともいう。体長６～８mm，翅(はね)を広げた長さ15～20mm。前翅は黄かっ色ないし暗かっ色で，４個の不明瞭(ふめいりょう)な黒色の斑紋(はんもん)がある。後翅は前翅よりもわずかに幅広く，ほぼ一様に黄灰色ないし暗灰色でやや光沢がある。アジア東部の原産であるが，現在は全世界に広く分布するワタの害虫。年に２～３回発生し，冬は老熟幼虫態で越し，翌年６～７月ごろ第１回めの成虫が出現する。卵はワタの果実や新芽付近に産付される。幼虫は，胴部は黒色で各節に赤色の斑紋があり，種子・つぼみ・花の子房部のほか，茎の髄にも食い入って食害し，老熟すると体長12mm内外に達する。〔鈴木邦雄〕

わたあぶらむし【綿蚜虫】こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・アブラムシ科。無翅胎生雌虫は体長1.5mmほどで，全体淡黄色から濃緑色あるいはほとんど黒色に至るまで変異が著しく，腹部はふくれ，角状管は短くて黒い。有翅胎生雌虫は，体長1.5mmほどで，全体に暗緑色，腹部両側に各４個の暗黒色の小斑紋(はんもん)があり，翅(はね)は透明。幼虫は，無翅胎生雌虫に似ており，小さく，黄緑色ないし緑色。多食性で，寄主植物は65科270種以上が記録されているが，特に農作物としてはウリ類・マメ類・ナス・ワタなどの被害が大きい。全世界に広く分布する農作害虫で，冬はムクゲ・ザクロなどの枝上で卵態で越す。翌春孵化(ふか)した個体はその若芽で繁殖し，５月ごろから有翅胎生雌虫が出現して上記の植物に移動し，秋までに単為生殖によって約30世代をくり返す。若虫・成虫とも，寄生植物の葉裏や花，新芽などに寄生して吸汁(きゅうじゅう)する。本種の加害を受けると生育は阻害され，枯死することもある。〔鈴木邦雄〕

わたいれ【綿入れ】防寒用に表布と裏布との間に綿を入れて仕立てた長着・羽織・胴着などの衣服。11月から３月末まで着ることが多かった。古代早くから綿衣(わたぎぬ)の名がみられ，養蚕によって真綿がつくられて，奈良時代から貴族や富裕な人々にこれを入れた衣・綿袴(わたばかま)が着用されていた。また公家(くげ)では内衣である衵*(あこめ)に綿入れが多く着られ，武家・民衆の小袖(こそで)（長着）は絹布の綿入れであった。16世紀末からワタが栽培されはじめて，江戸末期ごろから綿布に綿を入れたものを民衆が着るようになり，これを布子とよんだ。明治末期まで，綿入れ衣類は盛んに用いられたが，メリヤスの下着類が普及してしだいにすたれた。大正末期からは口綿入れといって長着のそで口とすそのふきだけに綿を入れ，他の部分はあわせ仕立てにするのが多くなった。第２次世界大戦後，1960年（昭和35）ごろまでは男物の丹前*が盛んに着られたが，これもすたれ，洋風のものに変わった。〔堀越すみ〕

わだえいさく【和田英作】（1874～1959）洋画家。鹿児島県の生まれ。はじめ曾山幸彦(そやまゆきひこ)らに師事し，のち黒田清輝らに学んだ。1896年（明治29）白馬会会員となり，東京美術学校助教授にも任ぜられたが，辞して同校西洋画科に入学。卒業後はドイツ・フランスに留学，1903年の帰国後は東京美術学校教授を経て，1932年（昭和７）には同校校長に任ぜられた。穏和な画風で，代表作には《渡頭の夕暮》などがある。

わたえきびょう【綿疫病】植物の病気の一。トマト・ナスの果実にかっ色，円形，同心輪紋の病斑(びょうはん)を生じ，その表面に白色綿状の菌糸を密生する。卵胞子が土中で生存し，降雨で土とともに飛散するので，輪作・敷きわら・ダイセン類の散布で防除する。

わたか【腸香・黄鯝魚】硬骨魚類・コイ科。体長30cmに達する淡水魚。琵琶湖(びわこ)ではワタコ・ウマウオ，小形のものをセ

ムシ・ゴオナイなどとよんでいる。背びれ10軟条，臀(しり)びれ18軟条。日本の特産種で，天然の分布は琵琶湖淀(よど)川水系に限られていたが，近年各地に移殖されて繁殖している。産卵期は6～7月ごろ。雑食性で，藻類(そうるい)のほか冠水した陸草も食べる。食用となるがさほど美味でない。

わたくししょうせつ【私小説】文芸用語。〈私〉という作者自身の生活体験やその心境に取材した小説。明治末期から昭和初頭までの小説の主流をなした。その最大の源流は，田山花袋*の《蒲団*(ふとん)》であり，真摯(しんし)な自己剔抉(てっけつ)の態度は以後の自然主義文学*の私小説的性格を決定した。私小説は，作者の実生活が作品の文学的具現性を保証する構造を有し，その傾向の究極に実生活の演技化としての生活破滅が生ずる。葛西(かさい)善蔵*・嘉村礒多*(かむらいそた)の文学はその極北に位置する。また，私小説の成立には，武者小路実篤*(むしゃのこうじさねあつ)を中心とする白樺(しらかば)派*の率直な内面告白的小説の出現も，大きな影響を与えた。その典型は，志賀直哉*(なおや)の調和的境地をめざす心境小説に見いだされる。昭和10年代以後は，伝統的私小説のパロディ化をなした伊藤(いとう)整*・石川淳*(じゅん)・太宰治*(だざいおさむ)らが登場し，第2次世界大戦後においては中間小説・風俗小説への方法的風化が著しい。〔小泉浩一郎〕

わたすげ【綿菅】単子葉植物・カヤツリグサ科。湿原に自生する多年草で，中部以北の高山および北海道・サハリン(樺太(からふと))・千島・東シベリア・朝鮮に分布する。根茎は短く，よく分枝し，大群落をつくる。葉は根生し，三稜(さんりょう)のある線形で，かたい。7月ごろに高さ20～50cmの花茎を多数叢生(そうせい)して，茎頂に花穂を単生する。花茎は下部は円柱形，上部は三稜柱形で，数個の筒形に退化した葉をつける。花穂は直立し，長さ1.5cmほどの卵状楕円(だえん)形で，小花は狭卵形で長三角形の膜質灰黒色の鱗片(りんぺん)があり，子房下部には白色絹毛状の刺針が多数ある。果実は倒卵形黄白色の痩果(そうか)で，花後に刺針が長く伸びて長さ2～2.5cmの白長毛になるため，果穂は綿をまるめたような径3～4cmの球状になる。〔横井朝子〕

わたせせん【渡瀬線】日本列島の南方の島々における生物地理学的境界線で，旧北亜区と東洋亜区を分けるものとして，1912年渡瀬庄三郎(1862～1929)によって提唱されたもの。奄美(あまみ)大島と九州南岸の諸島の間にその境界が求められ，特に哺乳(ほにゅう)類・鳥類・両生類・爬虫(はちゅう)類・陸産貝類・こん虫類などでは両地域で生物相が大きく異なっている。植物でも，屋久島を分布南限とする種が多数あり，生物地理学上注目されている地域である。〔松本忠夫〕

わたつみじんじゃ【海神社】神戸(こうべ)



ワタスゲ



渡辺崋山《鷹見泉石像》東京国立博物館蔵

市垂水(たるみ)区宮本町にある。祭神は底津綿津見神(そこつわたつみのかみ)・中津綿津見神・上津綿津見神。相殿神として大日孁貴尊(おおひるめむちのみこと)を祭る。神功(じんぐう)皇后が征韓より凱旋(がいせん)の際，海を静めるために3神を祭ったのに始まるという。古来，海上の守護神として信仰されてきた。例祭10月11日。特殊神事に10月12日の海上渡御祭がある。

わたつみじんじゃ【海神神社】長崎県上県(かみあがた)郡峰村にある。祭神は豊玉姫命(とよたまひめのみこと)。創建年代は不詳であるが，〈延喜式〉の名神大社に列せられ，また対馬(つしま)の一宮(いちのみや)として，外敵降伏・皇国守護の神として尊崇を受けてきた。

わだとうげ【和田峠】東京都八王子市と神奈川県相模湖(さがみこ)町との境にある峠。標高688m。陣馬山(857m)の北の鞍部(あんぶ)にあたり，かつては小仏の関所や峠を避けて，八王子から上野原へ抜ける甲州裏街道がここを通っていたが，現在はさびれ，相模湖周辺の山々のハイキングコースの一つとなっている。

わだとうげ【和田峠】長野県中部，筑摩(ちくま)山地*南部の霧ケ峰と美ケ原の間の鞍部(あんぶ)にある峠。標高1,531m。佐久盆地と諏訪(すわ)盆地とを結び，旧中山道(なかせんどう)では最高の峠として知られていた。現在は国道142号線が通り，上田・下諏訪間の国鉄バスが通っている。

わたなべかざん【渡辺崋山】(1793～1841) 江戸後期の画家。名は定静，字(あざな)は伯登あるいは子安，通称を登といい，号ははじめ華山，のち崋山と改めた。三河(みかわ)(愛知県)の小藩田原藩の藩士の家に長男として生まれ，家の貧窮を救うために画家を志した。金子金陵や谷文晁(ぶんちょう)らに学んだ南画ふうや写生画ふうに西洋画の手法も加味して独自の画風を形成，ついに一家をなした。気迫に満ちた鋭い筆致を特色とする山水画や花鳥画のほかに，人物の内面性までも描き出す写実的な肖像画を得意とした。また，おだやかな線描によるスケッチふうの写生画や略画体の風俗描写にもすぐれた作品を残しており，作画の幅は広い。西洋事情にも通じた進歩的な思想が幕府の嫌疑(けんぎ)にあい，逮捕入牢(にゅうろう)を経て，ついに自刃した。《鷹見(たかみ)泉石像》《四州真景図》を代表作とし，弟子(でし)に椿椿山(つばきちんざん)・岡本秋暉(しゅうき)らがいる。〔小林　忠〕

わたなべすいは【渡辺水巴】(1882～1946) 俳人。東京の生まれ。はじめ内藤鳴雪*の門にはいり，のち高浜虚子*に師事。1916年(大正5)《曲水》を創刊・主宰。句風は瀟洒(しょうしゃ)で江戸趣味的な情緒をもちまえの潔癖さでうたう。句集に《水巴句帖(くじょう)》《続水巴句帖》《隅笹(くまざさ)》《白日》などがある。

わたなべまさのすけ【渡辺政之輔】(1899～1928) 日本共産党初期の指導者。千葉県の生まれ。工場労働者として新人会(東京大学学生を中心とする思想運動団体)に接触し，1919年(大正8)新人セルロイド工組合，1922年南葛労働協会などを結成。1923年第1次日本共産党事件に連座して検挙された。1924年日本労働総同盟*(総同盟)に加盟。1925年総同盟分裂後，日本労働組合評議会*(評議会)の指導者として多数の労働争議を指導した。1926年日本共産党再建大会で中央委員となり，モスクワに渡って〈二十七年テーゼ〉起草に参加し，組織部長に就任。1928年上海(シャンハイ)から帰国の途中，台湾の基隆(キールン)で官憲とわたりあい自殺した。〔安達利夫〕

わたふきかいがらむし【綿吹介殻虫】⇨イセリアカイガラムシ

わたむし【綿虫】こん虫類・半翅(はんし)目・ワタアブラムシ科に属するもののうち，リンゴワタムシのように体に多量の白色ろう質の分泌物をつける種類の総称で，このほかナシの害虫であるナシワタムシが有名。これらのこん虫は，晩秋に有翅虫が出現し，よく飛ぶためこの名があるが，また東北地方などでは雪が降りそうな時期にあたって

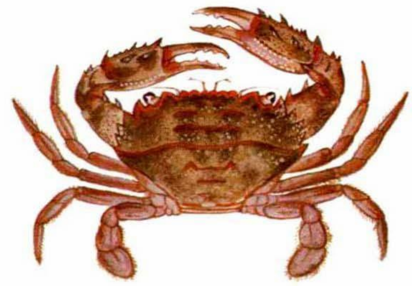
いるため〈雪虫〉ともよばれる。➔ユキムシ ➔リンゴワタムシ

わたむしやどりこばち　【綿虫寄生小蜂】 こん虫類・膜翅（まくし）目・ツヤコバチ科。微小なハチで，リンゴの害虫のリンゴワタムシ*の天敵として知られる。体長1㎜内外。体は黒色で，腹部の基部は黄白色。翅（はね）は透明で，わずかに暗色をおびる。触角は6節からなり，短い。年に約9世代をくり返す。卵は寄主の老熟幼虫あるいは成虫に産付され，冬は寄主の体内で幼虫態で越す。本種は北アメリカ原産で，日本へは1931年（昭和6）に輸入され，好成績をあげた。日本では，現在北海道と本州のリンゴ栽培地に広く分布しているが，日本ばかりでなく世界の各地にも輸出されて定着している。なお，ツヤコバチ科は日本にも多くの種が産するが，近縁のヒメコバチ科に含めて扱う研究者もある。　〔鈴木邦雄〕

わだやすし　【和田寧】（1787～1840） 江戸後期の和算家。通称豊之進（とよのしん），算学・円象と号した。播磨（はりま）（兵庫県）三日月藩士。のち浪人となり，江戸に出て日下誠（くさかまこと）の門にはいり数学を学んだ。その後東京芝増上寺の寺侍，さらに京都土御門（つちみかど）家の算学棟梁（とうりょう）となった。幕末の数学者の中で最も多くの業績を残し，特に多重積分・定積分表を完成したことは有名。

わだゆうじ　【和田雄治】（1859～1918） 気象学者・海洋学者。岩代（いわしろ）（福島県）二本松の生まれ。1879年（明治12）東京大学理学部物理学科卒業，のち中村精男（きよお）とともに気象界にはいり，1885年中央気象台の予報課長となった。日露戦争当時は率先して朝鮮にわたり観測所を創設し，1904年仁川観測所長。朝鮮における気象事業の統轄，古い時代の雨量の記録などについて調べた。また1893年農商務省水産調査所の水産調査委員会委員として海流びんによる日本近海の海流調査を提唱，3か年にわたり親潮・黒潮などを調査した。これは日本近海における最初の科学的な海流調査であった。さらに1913年（大正2）より大阪毎日新聞社の後援を得て大規模な調査を行ない，1917年までに13,357本の海流びんを投入，このうち2,990本（22％）を回収した。この調査記録は《日本環海海流調査業績》として刊行された。　〔根本順吉〕

わだよしもり　【和田義盛】（1147～1213） 鎌倉初期の武将。三浦義明の孫。相模（さがみ）（神奈川県）三浦郡和田に住した。1180年（治承4）源頼朝（よりとも）が挙兵した際に三浦義澄とともに直ちに参加し，侍所が創設されると初代別当に補せられた。その後平氏追討・奥州征伐に戦功を立て，頼朝死後も幕府内で重きをなした。しかし一族が処罰されたことから，1213年（建保1）挙兵して北条（ほうじょう）義時を攻め，鎌倉市中において激しい和田合戦を展開したが敗死，ここに和田氏は滅亡した。　〔高崎徳次〕



ワタリガニ　ベニツケガニ

わたらいいえゆき　【度会家行】（1256～1362）　南北朝時代の神道（しんとう）学者。代代伊勢（いせ）神宮*の豊受（とゆけ）（外宮（げくう））の祠官（しかん）で禰宜*（ねぎ）をつとめ，1340年（興国1・暦応3）には累進して一禰宜に補せられた。また度会氏によって唱えられた度会神道*（伊勢神道）の理論を集大成して《類聚神祇本源（るいじゅうじんぎほんげん）》を著わし，北畠親房（きたばたけちかふさ）に深い影響を与えた。南北朝の争乱に際しては親房を伊勢（三重県）に迎え，この地を南朝*の根拠地とすることに努めた。そのほかの著書に《神道簡要》《瑚璉集（これんしゅう）》などがある。　〔高崎徳次〕

わたらいし　【度会氏】　伊勢（いせ）神宮*の豊受（とゆけ）大神宮（外宮（げくう））祠官（しかん）の家。内宮の荒木田氏*と並んで，古くから神宮に奉仕していた。律令制（りつりょうせい）時代には祭主・宮司の大中臣（おおなかとみ）氏のもとにあったが，鎌倉時代になると神宮祭祀団（さいしだん）の中心となり，その配下の多数の禰宜*（ねぎ）は御師*（おし）として広く全国庶民の間に伊勢信仰*を広めた。また最初の神道理論である度会神道*（しんとう）（伊勢神道）を創始し，鎌倉時代には行忠（ゆきただ）・常昌（つねよし）・家行，江戸時代には延佳*（のぶよし）・常彰（つねあきら）らを出した。　〔高崎徳次〕

わたらいしんとう　【度会神道】　外宮（げくう）神道・伊勢（いせ）神道ともいう。伊勢神宮*の外宮（豊受（とゆけ）大神宮）祠官（しかん）度会氏*が，伊勢神宮の信仰を高めるために唱導した神道説で，学派神道の先駆をなす。度会神道は，鎌倉～室町前期と，江戸後期に大別され，前期に度会行忠（ゆきただ）・度会家行*，後期に度会延佳*（のぶよし）らの学者が輩出した。その神道説は正直・清浄の二徳を重んじ，祭神観・二宮一光（にくういっこう）説に特色がある。代表的教典として，家行の《類聚神祇本源（るいじゅうじんぎほんげん）》，延佳の《陽復記》《太神宮神道或問（わくもん）》などがある。　〔中西正幸〕

わたらいのぶよし　【度会延佳】（1615～1690）　江戸初期の神道家（しんとうか）。伊勢（いせ）神宮外宮祠官（げくうしかん）度会延伊を父とし，はじめ延良と称したが，のちに延佳と改めた。外宮に奉仕して《神宮旧記》を閲読し，のちに同志とともに豊宮崎（とよみやざき）文庫を創設した。後期度会神道*の中心をなす学者で，前期の中世的雑駁（ざっぱく）を排し，儒仏2教を羽翼として神道説を刷新した。門下には度会延経（のぶつね）・山本広足（ひろたり）・中西直方・山崎闇斎*（あんさい）らが輩出した。著書には度会神道の代表的教典《陽復記》をはじめ，《太神宮神道或問（わくもん）》《神宮秘伝問答》などがある。　〔中西正幸〕

わたらせがわ　【渡良瀬川】　利根（とね）川の支流。栃木県北西部，足尾山地に発し，南西に流れて群馬県にはいり，関東平野北西隅（ぐう）に出，栃木・群馬県境の付近を南東に向かい，古河市付近で利根川に合流する。流程110km。上流の山間に足尾鉱山*があり，その鉱毒が付近の山々や下流域の水田に被害を与え，明治中期から末期にかけて足尾銅山鉱毒事件*を起こし，わが国公害問題の先駆となった。沿岸はしばしば洪水（こうずい）の被害もこうむり，下流には赤麻沼をはじめとする遊水池が多い。〔長津一郎〕

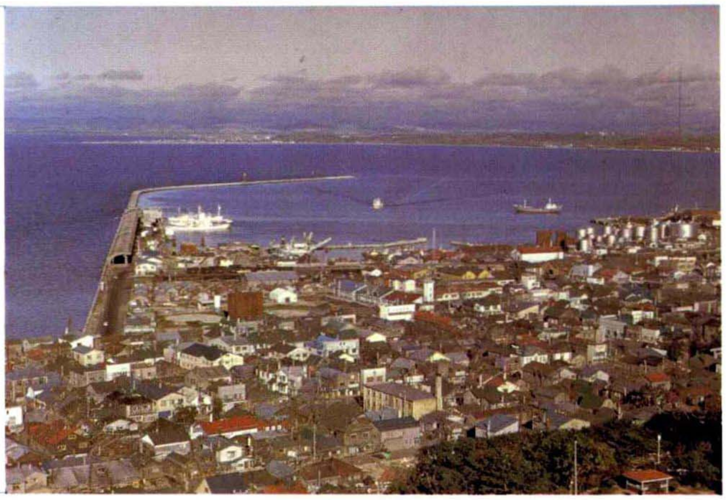
わたり　【亘理（町）】　宮城県南部，亘理郡の町。人口28,000。中心集落は常磐（じょうばん）線亘理駅の西にあって，陸前浜街道から仙台（せんだい）藩領にはいる交通の要地として，また伊達（だて）家の城下町として発達した。明治維新後に藩主が藩士を引き連れて北海道胆振（いぶり）支庁伊達町に移って開拓に従事したので，旧武家屋敷地区はさびれ，街道沿いの町人地区が中心街となって発展し，約2kmにわたって街村形態をなしている。醸造・製材などが行なわれる。

わたりがに　【渡蟹】　甲殻（こうかく）類・十脚目・短尾類・ワタリガニ科のカニの総称。第4歩脚が扁平（へんぺい）葉状になって遊泳脚を形成し，強い遊泳能力をもつために，ワタリガニの名がある。鳥類などにみられる渡りをいうのではない。地方によっては，ガザミまたはタイワンガザミのことをワタリガニともいう。甲殻はやや平たく横長で，多くはひし形を呈し，側方に強大な棘状（きょくじょう）突起をもつ。額と前側縁に多数の鋸歯（きょし）をもつ。暖海および熱帯の海に多く，ガザミ・タイワンガザミ・イシガニなど，食用に供せられるものが多い。わが国の太平洋沿岸の磯（いそ）では，ベニツケガニが普通に見られる。　〔向井　宏〕

わたりどり　【渡り鳥】　①候鳥ともいい，ある地域に見られる鳥のうち，留鳥*と迷鳥*以外の種類をいう。②地域とは関係なく，繁殖地と越冬地が離れていて，毎年その間を往復する鳥をいう。ただし漂鳥*のようにこの間が近いものがあり，ムクドリのように北方の個体は渡りをするが南方の個体は渡りをしないもの，東京付近のムクドリのように一部個体だけ渡りをするものなどがあって，渡り鳥と渡りをしない鳥とは簡単に区別することはできない。〔浦本昌紀〕

わっかない　【稚内（市）】　北海道最北端の市。人口54,000。明治初年からニシンの漁場，サハリン（樺太（からふと））への連絡港として発展し，1949年（昭和24）市制施行。市域は

宗谷(そうや)海峡に面し，宗谷岬(みさき)と野寒布(のしゃっぷ)岬が北方に延び，その間に宗谷湾をいだく。晴れた日には宗谷岬からサハリンを望見できる。天塩(てしお)山地の北部にあたる宗谷丘陵が市域の大半を占め，市街地は宗谷湾西岸の狭い海岸段丘上に南北に細長く延びる。産業三大別人口比は19：26：55。野寒布岬の東岸にある稚内港は，第2次世界大戦以後サハリンとの連絡の機能を失って一時さびれたが，カニ・ニシン・コンブなどの漁業の基地として復活し，水揚げ高は道内有数で，ソ連から輸入されるニシンの買い付け船団の基地となっている。最近では海岸部を埋め立てて港湾施設が整備され，魚市場・石油基地などがつくられ，水産加工業も活発に行なわれる。宗谷炭田の一部をなして，石炭を産出するほか，東郊の声問では少量であるが石油が採掘されている。宗谷本線・天北(てんぽく)線の終点にあたり，国道40号線・232号線・238号線が集まる。かつてサハリン航路の連絡船が通った古い桟橋(さんばし)からは礼文(れぶん)・利尻(りしり)両島へ定期航路が通じ，東方の原野には稚内空港がある。海岸部は利尻礼文国定公園の区域内に含まれる景勝地で，特産に花折コンブ・ホタテガイなどがある。
〔浅井得一〕



稚内市 稚内港と市の中心部。宗谷湾をへだてて遠く見える海岸線は北へ延びて北海道最北端の宗谷岬へとつづく

ワックス ［wax］ ろうのこと。しかしろうを主剤とするつや出しワックス(光沢付与剤)を単にワックスとよぶ場合が多い。これにはカルナバろうを熱溶融し，石油系溶剤で混ぜ合わせた油溶性ワックス，カルナバろう・いぼたろう・パラフィンなどを微粒子状にし，水あるいは水と石油系溶剤とで懸濁・乳化した乳化性ワックスがある。前者は水を含まないため家具のつや出しなどに，また後者のうち水と石油系溶剤で乳化したものは木材内部まで油ろう分を浸透させ，木材に自然な光沢を与えるので白木床のつや出しなどに，水で乳化したものは表面がシールドされた床材，ゴムタイル・アスタイルなど合成樹脂加工された床材に適している。➔ろう 〔鈴木荘司〕

ワックスマン ［Selman Abraham Waksman］（1888～　）ロシア生まれのアメリカの微生物学者。ウクライナのプリルカの生まれ。1910年アメリカに渡り，ラドガース-カレッジで学ぶ。のち同カレッジ微生物研究所教授。土壌(どじょう)生態および微生物代謝を研究し，1941年に放射菌が産生する抗生物質のアクチノマイシンを報告，1943年にストレプトマイシンを発見するなど，抗生物質研究の発達に大いに寄与した。1952年ノーベル医学生理学賞を受賞した。 〔中村禎里〕

ワッサーマン ［Jakob Wassermann］（1873～1934） ドイツの小説家。ユダヤ系ドイツ人としての体験を作品の基盤とし，独特の心理描写によって奇怪なふんい気をかもしだす手法をとった。企業家の娘が売春婦となり，自己の出身階層の不純に対して，彼女の清純を主張しようとする心理小説《若いレナーテ-フックスの物語》，大企業の家の子が隣人愛から貧者の味方になるが，意志を果たすことができなかったという波乱多い大衆小説《クリスティアン-ワーンシャッフェ》が有名。毎年大作を発表し続け，一時は流行作家となった。〔横溝政八郎〕



和辻哲郎

わつじてつろう 【和辻哲郎】（1889～1960） 哲学者。兵庫県の生まれ。東京帝国大学哲学科卒業。東洋大学・法政大学などの教授を経て1925年(大正14)京都帝国大学助教授，さらに1931年(昭和6)教授となり，倫理学を担当。のち東京帝国大学教授(1934～1949)。1950年日本倫理学会創立とともに会長となり，死去するまで在任した。繊細な感受性と豊かな表現力によって哲学・倫理学・宗教・日本芸術など精神文化の広い領域にわたって大きな業績をあげた。はじめニーチェやキルケゴールの人生哲学を研究し，続いて日本古代文芸の評論に向かったが，徐々に文化史の研究に進み，さらに倫理学にはいった。生の哲学に基づいた精神史的研究は高く評価される。その文化史の立場は人間存在の風土性を基礎として各民族文化の類型・特殊性を考え，その倫理学は解釈学の方法によって人間共同態の倫理を体系化した。著書《ニイチェ研究》(1913)，《ゼーレン-キエルケゴール》(1915)，《偶像再興》(1918)，《古寺巡礼》(1919)，《日本古代文化》(1920)，《日本精神史研究》(1926)，《原始基督教の文化史的意義》(1926)，《原始仏教の実践哲学》(1927)，《続日本精神史研究》(1935)，《風土》(1935)，《人間の学としての倫理学》(1934)，《倫理学》(1937・1942・1949)，《人格と人類性》(1938)，《鎖国》(1950)ほか，《和辻哲郎全集》全20巻がある。 〔中川　誠〕

ワッセルマン ［August Paul von Wassermann］（1866～1925） ドイツの微生物学者。バンベルクの生まれ。エルランゲン・ウィーン・ミュンヘン・シュトラスブルクの各大学で医学を学ぶ。1890年コッホ伝染病研究所の助手となり免疫学を研究，1906年同研究所実験治療部長。1913年にはカイザー-ウィルヘルム実験治療所所長に任命された。近代免疫学の発展に貢献し，細菌毒・抗毒素などについて重要な研究を行なった。中でも1906年にナイセルらとともに行なった梅毒の血清診断法は著名で，彼の名を冠してワッセルマン反応*とよばれている。 〔大鳥蘭三郎〕

ワッセルマンはんのう 【ワッセルマン反応】 梅毒の血清学的検査法。1906年ワッセルマンらが補体結合反応を梅毒患者血清に応用して診断に役だてようと試みたもので，当時は梅毒病原体のトレポネーマ-パリズムが発見されたばかりで純培養が成功していなかったため，抗原として先天性梅毒胎児が使われた。現在では抗原として，ウシの心臓から精製分離したカルジオピリン*というリン脂質が使用されている。ワッセルマン反応は，第一期梅毒では約60～80％，第二期では80～100％，第三期では90～100％の者が陽性を示す。わが国では，全人口の約7～8％が陽性であることが推定されている。 〔平野修助〕

ワッツ ［George Frederick Watts］（1817～1904） イギリスの画家・彫刻家。ロイヤル-アカデミーに学ぶ。1843年から1847年にかけてイタリアに滞在。肖像画家として名声を博したが，彼自身は《愛と死》《希望》などのように，ある種の精神的理想主義に基づく詩的寓意(ぐうい)画を好んで描いた。

ワット ［watt］ 仕事率(工率)の単位。



ワーテルローの戦い　この戦いでの敗北はナポレオンに決定的な打撃を与え，数日後に彼は退位して百日天下は終わりをつげた

記号W　1秒間に1ジュール，または10^7エルグの仕事をする割合を1Wとする。電気エネルギーの立場でいえば，1Wは1Vの電位差のある2点間に1Aの電流が流れるとき，1秒間に電流が生ずるエネルギー(すなわち電力)を与える。1Wの仕事率(電力)で，連続1時間になされる仕事量(1時間の電力量)を1ワット時といい，記号Whで表わす。〔田村康男〕

ワット［James Watt］(1736～1819) イギリスの機械発明家。スコットランドの生まれ。1755年ロンドンに出て精密機械工として修業を積み，1757年からグラスゴー大学の専属精密機械工となった。ニューコメン*の蒸気機関を修理する中で，その効率を向上させるために改良を重ね外部凝縮器(コンデンサー)を1765年に発明し，1769年に特許を取得した。その後ボールトン*との協力により，1775年バーミンガムにボールトン-ワット工場を経営してその蒸気機関を広く販売した。さらに1782年には回転運動する蒸気機関をJ.ウィルキンソン(1728～1808)のブラッドレー鍛鉄工場に建設したが，これによって産業革命*に始まる工場生産方式が現実のものとなった。〔加藤邦興〕

ワット-タイラーのらん【ワット-タイラーの乱】1381年，イギリス南東諸州で封建領主の賦役強化・人頭税徴収に反対して起こった農民一揆(いっき)。手工業者・ロラーズ派僧侶(そうりょ)も参加。ワット-タイラー(？～1381)の指導のもとに農民たちは領主の館(やかた)や修道院を襲撃して土地台帳を焼却しながら，ロンドンに進撃。国王リチャード2世に対し農奴制の廃止・貨幣地代の引き下げ・商業の自由などを要求し，承認させた。しかし，王の裏切りによりタイラーは殺害され，指導者を失って一揆は鎮圧されたが，農奴制解体のきっかけとなった。〔板橋重夫〕



ワトー《踊る人》ルーブル美術館蔵

ワット-プラケオ［Wat Phra Kaeo］タイ，バンコク市内にある王宮寺院。壮大な建築で，本尊の仏像が高さ95cmのエメラルドでできていることが有名。一名，エメラルド-ブッダ-テンプルとよばれ，現在タイ国民の深い信仰を集めている。

わっぱそうどう【わっぱ騒動】封建的貢租の廃止を要求して起こった明治初年の農民闘争。山形県明治七年庄内一揆(しょうないいっき)ともいう。明治新政府が地租の石代納(金納)を認め，雑税を廃止したにもかかわらず，酒田県(のち山形県に合併)はこれを県民に布達せずに旧税法を続行した。このため1874年(明治7)県下農民は浮役米(雑税)廃止と石代納を県当局に要求し，一揆を起こした。農民は士族金井質直兄弟と酒田の資本家森藤右衛門(とうえもん)らの指導のもとに石代会社を設立し，これに貢租を納入して自主的に販売し，県庁に全納しようとしたが，県令三島通庸*(みちつね)は徹底的にこれを弾圧した。翌年森の建白で元老院の調査が行なわれ，のち裁判に移されて，1878年14か条の農民要求のうち4か条が認められた。なお，この事件に際し，民権論者沼間守一(ぬまもりかず)が元老院大書記官として現地に出向し，県官の不正を摘発して過納税額63,000円を農民に返還するにあたり，この金をわっぱ(農民の弁当箱)で配分したのでこのようによばれている。〔高崎徳次〕

ワッフル［waffle］小麦粉・卵・牛乳を材料とし，型に入れて焼いた柔らかいせんべい状の軽い菓子。わが国ではジャムやクリームを中身にし，二つ折りにした形につくられている。歴史は長く，12世紀の終わりごろの詩にもよく現われている。当時は宗教的な祝日にワッフル売りが教会の入り口に屋台店を出して公衆の前で焼き，買った人は熱いうちに食べたという。ワッフル型の鉄板は，しばしば宗教的な紋章で飾られているが，一般には四角い浮き彫り模様である。なお，フランスではゴーフル(ハチの巣の意)といい，この名はハチの巣状の格子(こうし)模様のついた鉄板にはさんで焼いたことによる。〔泉　敬子〕

ワッペン［Wappen］ヨーロッパの紋章*のこと。十字軍遠征のころから，兵士の盾(たて)に標識として描かれた動植物その他の図がらが起源といわれる。また特に記章の一種で，第1次世界大戦でアメリカ軍が用いた部隊記章をいう。後者はそでの上部に羅紗(らしゃ)製のものをつけたが，その後世界各国の軍隊で採用され，現在では日本の自衛隊の制服にも用いられている。これらは所属集団や種別を表示すると同時に，着装者自身の所属意識を高めることを目的としてつけられる。なお今日では，子ども服やスポーティーな上着のそで・胸部に，単なる装飾として，ししゅう・アップリケ・プリントなどで，紋章その他の図がらを表わしたものが用いられている。〔小池千枝〕

ワーテルローのたたかい【ワーテルローの戦い】1815年6月，ベルギーのワーテルローでナポレオン1世が敗れた戦い。彼の率いるフランス軍約12万5,000とウェリントン*の率いるイギリス軍約95,000，ブリュッヒャーの率いるプロイセン軍約12万とが対戦，最初はフランス軍がプロイセン軍を破って戦局を優位に展開したが，プロイセン軍がイギリス軍に合流してフランス軍は大敗を喫した。これにより，ナポレオンの百日天下*は終わった。

ワトー［Jean Antoine Watteau］(1684～1721) フランスの画家。装飾画家のジェランに学び，クロード-ジロー・クロー

ド-オードランらの工房にはいり，繊細で優美な技法を身につけた。その間，収集家のクロザを知り，フランドル派やベネチア派の名作にふれて，強い影響を受け，やがて独特の雅宴画へと結実させていった。1719年にはイギリスに行き，ゲーンズボロらに影響を与えた。1720年にはパリにもどって，画商ジェルサンの店の看板を描くが，きわめて写実的で近代絵画につながる作品として重要視されている。彼の画歴は，短いながらも多彩で，風景・肖像画・喜劇画・雅宴画，神話や裸婦を主題とした絵画から写実主義的な絵画へと展開した。代表作には《シテール島への船出》《ジル》《恋の戯れ》などがある。〔吉田玲子〕

わどうかいほう　【和同開珎】　現存する日本最古の貨銭。《続日本紀(しょくにほんぎ)》によれば，708年(和銅１)２月催鋳銭司(さいじゅせんじ)をおき，５月銀銭，８月銅銭を鋳造し，翌年銀銭を廃止している。銅銭はその後たびたび鋳造され，平安中期までに12種類発行された(→皇朝十二銭)。和同開珎の書体は唐の開元通宝にならったといわれ，形は円形で四角の穴をもち，和同開珎の文字は右回りに刻まれ，珎は寳(宝)の冠と貝をとったものとされているが，また珍の異体文字として〈ちん〉と読ませる説もある。山城(京都府)・播磨(はりま)(兵庫県)・大宰府(だざいふ)(福岡県)・長門(ながと)(山口県)ほか数か所に銭鋳司が置かれ，これらの遺跡からは鋳形・ふいご・るつぼなどが出土しており，盛んに鋳造されたことがわかる。全国数十か所，また渤海(ぼっかい)の旧都東京(トンキン)城からも発掘された。なお，711年政府は貨幣の流通を奨励するため蓄銭叙位令*を出した。→貨幣(写真)〔高崎徳次〕

わどけい　【和時計】　自鳴鐘ともいう。江戸時代にヨーロッパから伝来した時計をもとに，わが国でつくられた日本独特の機械時計。

〔種類〕形状や機械の構造によって次のような種類に分けられる。①櫓(やぐら)時計：四角な台上に載せたもの。櫓の名称は，城の櫓の上にすえたからとも，形状が火の見櫓に似ているからともいわれるが，確かではない。同じような時計を台の上に置かずに，柱に掛けるようにした掛け時計や，４本足の台や箱形の台に載せた台時計などもある。駆動力は重錘(鉛製のおもり)で，棒てんぷにはいくつかの刻み目があり，棒てんぷに掛ける分銅の位置を変えて当時の不定時法の時刻に合わせた。２本の棒てんぷをもつものでは，１本は昼間用，１本は夜間用と切り換えて使用する。文字板が固定されていて針が動くものと，針が上向きに固定されていて文字板が回るものとがある。②尺時計：長い箱の中に納められ，柱に掛けて使う。駆動力は重錘で，これをものさし状の目盛りをつけた長い箱の中につるし，重錘が下がるにつれて重錘につけられた指針が時刻の目盛りをさす。③枕(まくら)時計：和時計の中で最も豪華で，たなの上や枕もとに置いて使う。駆動力はぜんまいで，棒てんぷのものもあるが，多くは輪形てんぷや振り子が使われている。棒てんぷのものは文字板が固定され，指針が回り，他は指針が固定されて文字板が回る。月日(十干十二支で表わす)が出るカレンダー装置のついたものもある。

以上の３種のほかに次のようなものがある。㋑卦算(けさん)時計：文鎮の形をし，卓上に置くもの。㋺印籠(いんろう)時計：印籠に時計機械をはめ込んだもので，一種の携帯時計。㋩自重時計：時計自身の重さが駆動力となり，刻みのある柱を下がっていくもの。㊁卓上時計(船時計)：卓上に置いて上から見るもの。㋭懐中時計：現在のものより形が大きく，厚さが厚いもの。㋬回転時計：時計を斜面のいちばん上に置くと，時計自身が回転しながら下っていき，それにつれて指針が回って時刻をさすもの。これらの各種和時計の中には時打ち(報時)装置はもちろん，目ざまし装置付きのものまである。江戸末期には精巧な万年時計*もつくられたが，一般に技術的な発展もなく，明治以後すたれた。→時計〔岩沢　央〕



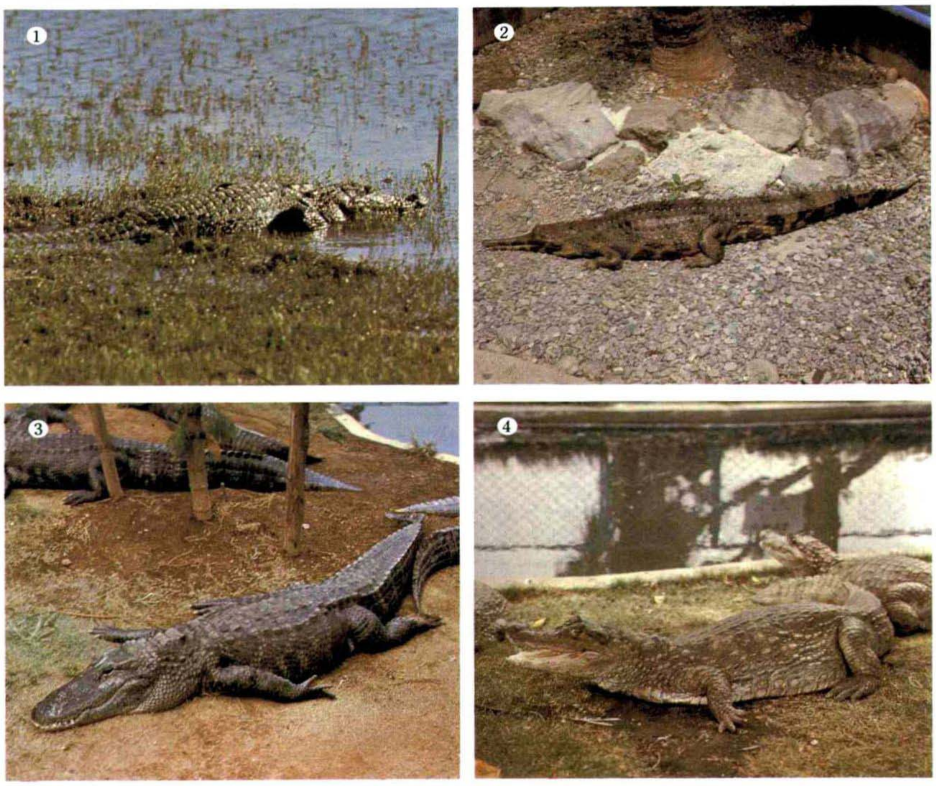
和　時　計（国立科学博物館蔵）

ワトソン　［John Broadus Watson］(1878～1958)　アメリカの心理学者。1908年ジョンズ-ホプキンス大学教授。1920年実業界に転じた。動物心理学の研究から出発し，1913年行動主義*心理学を提唱した。ブント*以来の，内観法による意識を対象とした心理学の非科学性に反発し，心理学が自然科学たるためには，その対象を客観的に観察しうる行動に置かねばならないと主張し，人間の行動は刺激—反応の連鎖および複合によって生ずるという刺激—反応(S—R)心理学を創始した。ワトソンの主張は，その後アメリカ心理学の主流となり，その影響は哲学・社会学・法学などにまで幅広く及んでいる。〔吉田俊郎〕

ワトソン　［James Dewey Watson］(1928～　)　アメリカの分子生物学者。シカゴの生まれ。シカゴ・インディアナ両大学に学ぶ。のちヨーロッパに渡り，ケンブリッジのキャベンディッシュ研究所において，1953年クリックとともにDNA(デオキシリボ核酸)の立体構造を解明し，分子遺伝学発展の基礎をつくった。現在はハーバード大学教授。1962年ノーベル医学生理学賞を受賞。→核酸

ワトソン-ワット　［Robert Alexander Watson-Watt］(1892～1973)　イギリスの物理学者・レーダーの発明者。スコットランドの生まれ。聖アンドルーズ大学に学び，1912～1921年まで母校で教え，その後，国立物理学研究所の無線研究室長をつとめた。1919年すでに短波による電波探知に関する特許をとり，1935年にはこの装置による飛行機の追跡について特許を得た。その後この研究は彼が中心となって組織的に秘密裏に行なわれ，第２次世界大戦中にレーダー*開発に成功した。〔山崎俊雄〕

わに　【鰐】　爬虫(はちゅう)類・ワニ目の総称。ワニの祖先は三畳紀末期の槽歯(そうし)類から分かれたもので，初期のワニである原顎(げんがく)類は，体長1.2mほどの４脚歩行のトカゲ型であったが，頭骨にはすでにワニの特徴が，いくらか備わっていた。その後中生代に至ってワニは栄え，しだいに大形



ワ　ニ　①セイロンイリエワニ(クロコダイル科)　②マライガビアル(クロコダイル科)　③ミシシッピワニ(アリゲーター科)　④メガネカイマン(アリゲーター科)

化して，体長18mに達するものも現われた。現生のワニが含まれる正顎類は，すでに白亜紀に現われて急速に進化し，祖先の有力な系統である中顎類にとって代わった。中顎類のワニでは，内鼻孔は口蓋(こうがい)の後縁に移り，吻(ふん)端にある外鼻孔と通じる鼻道は，骨の結合した長い管に包まれて，口腔(こうこう)とは完全に隔てられている。現生種では，内鼻孔は口蓋のずっと後方に移り，皮膚のひだによって鼻道と口腔とが分けられている。現生のワニは，外形的にも生理的にも祖先型とほとんど変わりがないといえる。クロコダイル科・アリゲーター科・カビアル科の3科28種・亜種に分けられ，世界の熱帯・亜熱帯の淡水・汽水および海水にすみ，大形で性質の荒いものが多い。最大はイリエワニ・アメリカワニの全長7m(例外的に10m)，最小はコンゴコビトワニの1m。哺乳(ほにゅう)類・鳥類・魚類などを捕食し，すべてが卵生である。〔松井孝爾〕

わに　**【王仁】**　〈記紀〉に見える古代の帰化人。応神天皇のときに帰化して《論語》《千字文》を献じ，皇子菟道稚郎子*(うじのわきいらつこ)の師となり，大和(やまと)朝廷の財政にも関与したという。これは東漢氏*(やまとのあやし)と並んで大和朝廷に仕え，財政面で活躍した西文氏(かわちのあやし)がみずからの祖先と称した人物であるが，多分実在の人物ではなかろう。

わにぐち　**【鰐口】**　社寺仏閣の堂前の軒下に懸下し，太紐(ふとひも)でつく打鳴具。金鼓・金口・打金とも称される。金鼓の名称は奈良時代の寺院資財帳などにもみられる



鰐　口　長保三年在銘(裏面)　東京国立博物館蔵

が，梵鐘(ぼんしょう)・鉦鼓(しょうこ)などの呼称にも用いられるので，これが現在の鰐口を示しているかどうかは判然としない。内部を空洞(くうどう)にし，下方に鈴のごとく口を持つ扁平(へんぺい)の円形で，鰐口の名はこの口の部分がちょうどワニの口に似ていることによる。通常，両肩に懸吊(けんきん)用の2個の耳と中央に円形花形の撞座をつくる。最古の紀年銘遺品には，東京国立博物館蔵の〈長保二年銘〉のものがある。〔河田　貞〕

ワニス　[varnish]　透明な塗膜をつくる塗料で，樹脂ワニス・油性ワニス・黒ワニスなどを総称する。樹脂ワニスは各種の樹脂を溶剤にとかしたもので，揮発性ワニス・スピリットワニスともよばれ，また主溶剤としてアルコールを用いたものを酒精ワニスといい，セラックワニスはこれに属する。乾燥が速く，つやのあるかたい塗膜が得られ，家具・建築・車両などの内部木部塗装におもに用いる。油性ワニスは各種の樹脂と乾性油とを溶融混合し，必要に応じて乾燥剤を加えたもので，樹脂と油の比率が1：1以下のものを短油性ワニス，1：1～1.5のものを中油性ワニス，1：2以上のものを長油性ワニスという。油分が少ないほど乾燥が速く塗膜の光沢はよいが，耐久性が劣り，油分が多いほど逆の性質を示す。家具・建築・車両の内外部塗装に用いる。黒ワニスは樹脂の代わりにアスファルトやピッチなどの歴青質を主成分とするワニスで，揮発性ワニスと油性ワニス，常乾形と焼き付け形とがあり，乾燥が速く，比較的耐水・耐薬品性のよい塗膜が得られる。安価であるため工場・建屋・自動車車体・パイプなどの防食塗装に用いる。〔鈴木荘司〕

わにどり　**【鰐鳥】**　鳥類・ツバメチドリ科・スナバシリ亜科の一種。ワニチドリ・ナイルチドリともいう。アフリカに生息し，水辺にすむ。全長22cmほど。翼は灰色で，頭頂や背部・胸部に黒条がある。この鳥はワニの口の内にはいって，寄生しているヒルや歯糞(しふん)などを掃除するということで知られるが，その現場を見たという正確な記録はなく，鳥類学上は信じられていない。

わのごおう　**【倭の五王】**　5世紀から6世紀初めにかけて，中国の南朝(→南北朝時代)に通交した5人の倭国王。《宋書(そうしょ)》の〈倭国伝〉などの南朝歴史書に記載された讃(さん)・珍(弥(み))・済(せい)・興・武の5王で，413～502年にわたり南朝の東晋(とうしん)・宋・斉(せい)・梁(りょう)の4王朝に貢物を献じたという。5王はいずれも大和(やまと)国家*の歴代天皇とされ，そのうち讃は応神または仁徳(にんとく)あるいは履中天皇，珍は仁徳か反正(はんぜい)天皇のいずれかにあたるとされ，済は允恭(いんぎょう)天皇，興は安康天皇，武は雄略天皇に擬せられている。〔高崎徳次〕

わのなのくに　**【倭奴国】**　1世紀ごろ北九州博多(はかた)付近にあった小国家。《後漢書》の〈東夷(とうい)伝〉によると，光武帝の57年倭国王は使者を後漢に派遣したが，その際印綬(いんじゅ)を受けた。これが1784年(天明4)筑前(ちくぜん)(福岡県)志賀島(しかのしま)で発見された〈漢委奴国王印*(かんのわのなのこくおうのいん)〉であると一般にいわれている。また，のちこの地方は儺県(なのあがた)として大和(やまと)国家*に属したことが《日本書紀》にみえる。付近に須玖(すぐ)遺跡*などがある。〔高崎徳次〕

わはがね　**【和鋼】**　日本古来の製鉄法であるたたら*法によってつくられた鋼。リン含有量が低い。真砂小鉄(まさこがね)とよばれる砂鉄(ジテッ鉱)を原料として木炭で還元して得られる。一般に組成は炭素0.9～1.8%，ケイ素0.05%，リン0.005～0.02%であり，マンガン・イオウは痕跡(こんせき)程度しか含

まれていない。ほかの微量不純物の含有量も非常に少なく，優良なヨーロッパ式るつぼ鋼と比較しても著しく純良である。和鋼の製造法を鉧押(けらおし)法とよぶ。主として刀剣類の製作に用いられた。〔草川隆次〕

わびちゃ【侘び茶】 侘びの心境に徹して行なう茶事。侘びの本来の意は，不満不足を感じて心細く思い煩うことであるが，茶道では，その心境を肯定し，かえってその境地に安住することを理想とし，茶道の極致を表わす語となった。また，侘び茶に徹した茶人のことを侘び数寄(すき)者といい，《山上宗二記(やまのうえそうじき)》によれば，〈一物も持たず，胸の覚悟と，作分と，手柄の，三つがととのったのを侘び数寄という〉と定義している。また，〈茶の湯が名人になって後は，道具一種さえあれば，侘び数寄するのが専一である〉と述べている。侘び茶を名人の極致と定めたのは，神仏の恵みのまえに人間の力の限度を自覚し，衆生(しゅじょう)である客人にも奉仕する，つつましい心境を尊んだからである。〔桑田忠親〕

わふく【和服】 和装・着物。明治以後取り入れられた洋服に対する，わが国の従来の衣服の総称。

【特徴】①全体にからだに密着せず，直線の裁縫で幅にゆとりがあり，前は全部あき，左右を重ね合わせる。②直線の折り目で肩下がりがない。また帯を締めて，幅のゆとりを胴で引き締める。③えりの合わせ目の首元やそで口・すそも，女物は振り八つ・身八つ口もあき，両足を分けて包む衣類をはかない。総じてあき口が大きく，通風よくつくられ，防寒に不適当で，活動的でない。④前を重ね合わせるだけで留め具がなく，帯を結ぶだけなので，着くずれしやすい。⑤肩山・そで山は布目がまっすぐな折り山で，折りたたんで平らにして収納する。⑥形が一定していて，個性美は生地・織り方・色・がらなどで表わすため，それらの種類は千差万別につくられる。これにじゅばん・表着(うわぎ)・帯・羽織・コート，その他の小物を取り合わせる。⑦礼装・晴れ着・日常着も男袴(おとこばかま)を除いては，男女ともに形に差が少ない。⑧女物長着は身たけを身長と同じくらいに仕立て，着るときは着たけになるように腰ではしょってひもで留めるので，特に着くずれしやすい。

【変遷の概略】①紀元前3世紀～6世紀(原始衣から唐風化へ)：古くは貫頭衣と袈裟(けさ)式衣の2種があった。やがて大陸から鉄器の伝来などもあり，幅の狭い葛布(くずふ)・麻布が織られた。その後，大和(やまと)朝廷を中心に衣服は唐風化され，地方豪族にも一部取り入れられた。しかし一般には古来からの衣服を着用していた。②10～12世紀(国風化時代)：唐との交通が絶えて以来，公家(くげ)の服装は国風化し，著しく大形のものとなった。すなわち，男子の束帯・直衣(のうし)，女子の唐衣(からきぬ)と裳(も)(十二単(じゅうにひとえ))などで，これらが江戸末期まで変わることなく続いた。そして公家社会は，伝統の上にこれらを着用する際の場所・場合だけを問題にすることだけを続け，服装上なんらの進展もなかった。③13～14世紀(中世)：他方，実力を高めてきた地方領主(守護・地頭)は，公家装束を見習うようになった。しかし一般武士は直垂(ひたたれ)と袴，大紋・素襖(すおう)を着用し，日常には小袖(こそで)の着流しとなり，指股(ゆびまた)のある皮たびをはき，外出には烏帽子(えぼし)をつけた。女性は，外出には袿(うちぎ)の下に小袖と袴，ふだんは小袖の着流し姿となった。④15～16世紀(戦国時代)：キリシタン文化が伝来し，その衣服を取り入れる町衆も出てきた。特に戦国大名は，華麗に飾った胴服・陣羽織を多数所持し，よろいの上や領地巡回のときに着用した。やがて町人がしだいに力を得て，その文化に着目すべきものが現われはじめた。⑤近世(小袖文化)：以前は武士のふだん着であった肩衣が，江戸時代には礼装となり，長袴をはくようになり，より高い礼装として直垂(大紋・素襖)にも長袴をつけた。また一般町人も，礼装には肩衣に平袴をつけた。また町人の財力はますます大きくなり，小袖文化が大いに栄えた。➔和裁

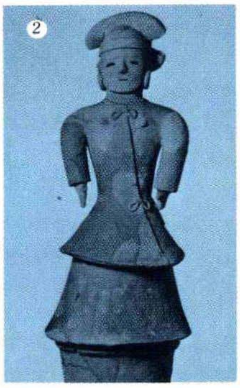
【和服地】和反物ともいう。1反の長さに織って仕上げてある和服材料の総称。男女・年齢・季節，表着や下着・外衣など，からだにつける位置，慶弔その他着る場合や個人の好みなどに応じるために，種々な生地・色・がら・仕上げの加工などがある。特に洋服と違って形が一定なため，材料によって個性を表わすので，千差万別に染織され，時代による変遷も著しい。しかし四季によって美しく変化する自然を愛する民族性の伝統から，特に女性の和服の色・がらは，縞(しま)・絣(かすり)のほかに，四季の花鳥・草木・山水の美を絵画的に取り入れ，季節感を表わすのが特徴で，洋服のような図案化されたがらは少ない。この特徴は，浴衣(ゆかた)(中形)・小紋・友禅・絵羽模様・帯に顕著である。染色・寸法によって次の種類がある。①染色加工：白生地に種々の染色を施した後(あと)染め物と，糸を色で染めて織りがらや無地に織った先染め物とがある。後染めの白生地(縮緬(ちりめん)・紋綸子(もんりんず)・紋緞子(もんどんす)など)は，総じて1反の長さが先染め物よりも長く，12m以上13m近くあるものが多い。また四丈(よじょう)物(16～17m)といって，留めそで無垢(むく)は1反の表用尺にすそ回しを加えた長さと，振りそでの表地がある。ほかに1疋(2反)のもの，羽尺地・中羽織地・長じゅばん地がある。胴裏地は，白・ピンクなどの絹・合繊の8mもの，すそ回し地として長さ3.8mで種々の色無地・額染めがある。羽裏地としては，長さ4.6～5.4mの羽二重・紋綸子を薄色に染めたものがある。また男物そで地として染めたものもある。②裁って仮縫いして売られる長着・羽織：江戸褄(えどづま)模様の留めそで，絵羽模様の振りそで・訪問着は，反物を裁って仮縫いし，絵羽模様の下絵を描いて染めて売られる。絵羽染めの長着の裁ち切り寸法は，大振りそでたけ115cm，中振りそでたけ95～100cm，留めそでたけ60cm，身たけ165～170cm，すそ回しの高さは前後ろすそ55～60cmが標準である。女物絵羽羽織の裁ち切り寸法はそでたけ50～55cm，あわせ羽織は前身たけ120～160cm，後ろ身たけ100～130cm，ひとえ羽織はそでたけ52cm，前身たけ106cm，後ろ身たけ100cmが普通である。

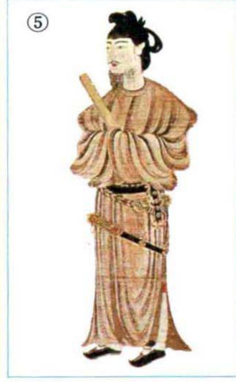
【季節による仕立て方の種類】長着・羽織には，ひとえ・あわせ・綿入れ・口綿入れの4種があり，長じゅばん・コート・男子まちあり袴にはひとえとあわせがある。第2次世界大戦後は，ウールの着尺地が広まり，冬もひとえ仕立てで着るようになり，仕立てによる季節感は薄れた。

【和服の既製品】①寸法：和服は洋服と違って，体型に応じた各種寸法による既製品はない。特に女物は，寸法の一種だけが市販されている。長着・羽織・コート類がおもな既製品で，商品の寸法カードには，身たけ・そでたけ・裄(ゆき)の3か所の寸法だけが記入されている。なお大・小の女性用はない。男物は長着を着たけに仕立てるので，着たけは135・140・145cmの3種につくり，そでたけ・裄・着たけがカードに記入されている。羽織もたけ85・90・95cmの3種である。②既製品の種類：女物は浴衣，化合繊・ウールのひとえ，付け下げ，訪問着，大振りそで・中振りそで，無地紋綸子のあわせ長着，レース・紗(しゃ)・平絽(ひらろ)・絵羽の紗などのひとえ羽織，小紋縮緬・絵羽紋綸子・無地紋綸子・ウール・化合繊などのあわせ羽織がある。また，礼装用としては，夏冬の喪服や黒留めそですそ模様に下着付きの二枚重ね，または比翼仕立て，黒三つ紋付き染め抜き紋綸子あわせ羽織(紋は石持ちで，白く丸く染め抜いてある)がある。そしてあわせ半コート・半幅帯・八寸名古屋帯・結びつけ帯・寝巻きもある。男物は，浴衣，化合繊・ウールのひとえ，ウールのひとえ丹前・ひとえ羽織，寝巻き，綿入れの丹前，冬の五つ紋付きあわせ羽織，夏のひとえ平絽羽織などがある。子ども物は，祝い着(一つ身の二枚重ね，七五三の祝い着など)・産着(うぶぎ)・子守りはんてんなどがある。➔次ページ(写真)〔堀越すみ〕

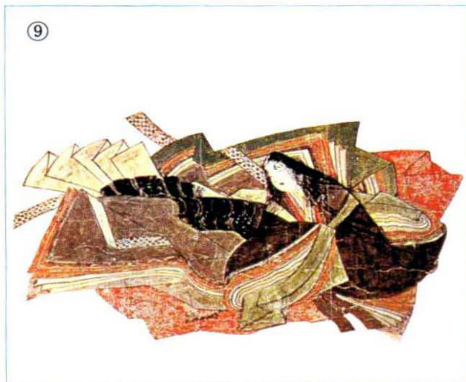
ワフドとう【ワフド党】 1919年パリ講和会議での独立獲得運動から出発し，1924年に政党として組織されたエジプトのブルジョア民族主義政党。〈ワフド〉とはアラビア語で〈代表団〉の意。ザグルール・パシャの指導で，独立と経済的・社会的改革を主張，しだいに広い基盤を獲得，しばしば議会第一党となる。1936年同党内閣のもとでエジ

和　服　　和服の歴史

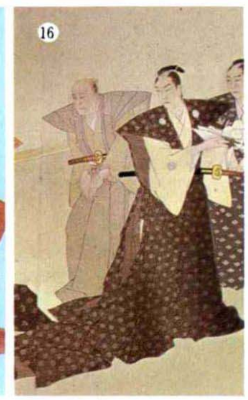





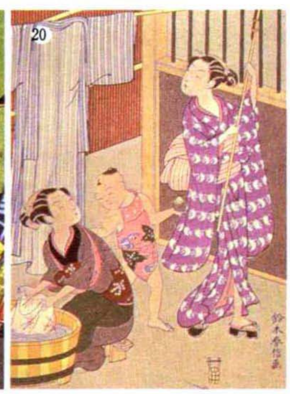











①衣褌の男埴輪(上古)
②衣裳の女埴輪(上古)
③衣・裳(飛鳥)
④礼服(奈良)
⑤武官の朝服―無襴の袍(飛鳥・奈良)
⑥女官の朝服―衣裙・背子(飛鳥・奈良)
⑦庶民の制服―袍・幞頭(飛鳥・奈良)
⑧武官の束帯―闕腋袍(平安)
⑨唐衣・裳―十二単(平安)
⑩冠直衣(平安)
⑪庶民のそでなし衣(平安・鎌倉)
⑫狩衣(鎌倉)
⑬庶民の男女(鎌倉)
⑭庶民の小袖(鎌倉・室町)
⑮直垂(鎌倉～江戸)
⑯長裃(室町～江戸)
⑰打掛(室町～江戸)
⑱南蛮服(江戸初期)
⑲陣羽織(安土桃山～江戸)
⑳町人の親子(江戸)
㉑合羽(江戸末期)

プトの完全主権が認められて保守化し，第2次世界大戦ではイギリスに協力。戦後は党内の分裂が明白となり，1951年対イギリス抗争に踏み切ったが，結局1952年のクーデターとなり，1953年結社禁止となった。〔喜多迅鷹〕

わほん 【話本】 ⇨小説〔中国〕

わみょうるいじゅうしょう 【倭名類聚抄】 漢和辞書。源順*(したごう)著。10巻。934年(承平4)ごろ醍醐(だいご)天皇の皇女勤子内親王の命によって選進。意義によって部類を立て，漢語を標出し，出典をあげ，語義を漢文で記し，原則としてその漢語にあたる和名を万葉がなで注記している。物の名が大部分を占めていることは，編集の目的が事物一般の知識を得るための百科全書的なものにしようとしたことにあるためである。平安中期以前の字音研究，また語彙(ごい)・俗言などを知る上の基本的資料であり，わが国最初の分類体の漢和辞書である。平安末期に20巻に増補された。〔寒河江実〕

わむし 【輪虫】 袋形動物・輪虫綱。輪形動物門として独立させることもある。主として淡水に見られる非常に小形の動物群である。海水中にも知られるが，淡水中に比べて著しく少ない。体は1mmに達しない。体の前端には繊毛環があり，中央に口がある。口は胴部にはいり，口道を通って咀嚼器(そしゃくき)に達する。咀嚼器は種によって特異な形をしているため，輪虫類の分類の重要な決め手になっている。胴部はキチン質の被甲をもつ。足は環節様になって伸縮し，足の先端は多く二叉状になり他物に付着する。野外で普通に見られる輪虫類はほとんど雌で，雄は年間の一時期のみに見られる。繁殖は，ほとんど単為発生で雌を生じる。夏卵と冬卵をつくり，卵は耐熱・耐寒性をもち，また耐乾性にもすぐれるため，汎(はん)世界的に分布する種が多い。陸水プランクトン中にも多く，魚類の餌料(じりょう)としても重要とされている。〔向井　宏〕

わもんちょう 【環紋蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・ワモンチョウ科の総称およびそのうちの一種をいう。翅(はね)を広げた長さ100〜120mmの大形のチョウで，地色は黄かっ色，外縁部に黒かっ色の斑紋(はんもん)が並ぶ。裏面は前後翅とも黒く縁取られた5個の環状紋が並び，名前の由来となっている。成虫は樹林中に生息し，湿地や熟した果実などに集まる。飛び方はゆるやかだが，驚かすと非常な速さで逃げる。北インドから中国西部・中部を経て台湾まで分布している。ワモンチョウ科は新世界のモルフォチョウに近縁の群である。

わよ 【和与】 中世における法律用語で，所領についての裁判の際，訴訟当事者の一方または双方が譲歩して訴訟を終結すること。本来は財産の無償譲渡を意味したが，それから転化したものである。和与が有効に成立するためには，当事者間の和与状(和



ワライカワセミ



ワラビー　ベネットアカクビワラビー

与契約書)の作成と，それを認可する裁判所の下知状*とを必要とした。鎌倉中期以降，荘園(しょうえん)領主と地頭との紛争が頻発(ひんぱつ)したが，幕府の裁決によらず和与によって解決する方法が多くとられた。なお，裁判所の認可を受けない和与を私和与とよび，和与による下地中分*を和与中分といった。〔高崎徳次〕

わよう 【和様】

1書で，平安時代の小野道風*・藤原行成*の書風をいう。

2日本建築における主要な建築様式名。古代に大陸建築様式が仏教建築として伝来し，奈良・平安時代に消化されたのち，第2次の大陸建築の伝来が中世に始まり，大仏様*(天竺(てんじく)様)・禅宗様*(唐(から)様)などの新様式が生まれたが，この新来の様式に対して平安時代以来の旧様式を和様とよぶ。細部では，水平材に貫(ぬき)だけでなく長押(なげし)を打ち，肘木(ひじき)下面をそり上げる弧線が，禅宗様のように円弧にならず，木口を残して折れ線をつくり，組み物*は柱上だけに置き，柱と柱の間は，間斗束(けんとづか)や蟇股(かえるまた)などの中備えで支持する。窓は禅宗様が火燈窓*などの複雑な曲線の繰り形を用いるのに対し，直線的で簡潔な構成の連子窓を原則とし，扉(とびら)は板扉とされ(禅宗様では桟唐戸(さんからど))上下の長押に建て込まれるなど，古代建築の伝統を受け継いで簡明さを尊ぶと同時に，意匠の自由さを保持している。〔渡辺保忠〕

わら 【藁】 イネ・ムギなど禾穀(かこく)類の茎葉。ただわらというときは稲わらをさす。わらは家畜の飼料あるいは敷きわらとするほか，叺(かます)・蓆(むしろ)に織り，また縄(なわ)とする。屋根ふき用に用いられる場合もある。畳床としての利用は大きい。麦わらは麦稈真田(ばっかんさなだ)その他わら工品の原料とする。中国やヨーロッパ・アメリカでは小麦わらがおもに用いられるが，わが国では小麦わらはストロー程度で，加工品には大麦わらがおもに用いられる。わらの飼料的価値は稲わらが高い。〔金木良三〕

わらいかわせみ 【笑翡翠】 鳥類・カワセミ科。オーストラリアに生息する全長40cm大の大形カワセミの一種。灰かっ色で，頭は大きく，くちばしも太い。われるような声で，ヒトの笑い声に似た声を出すためこの名がある。

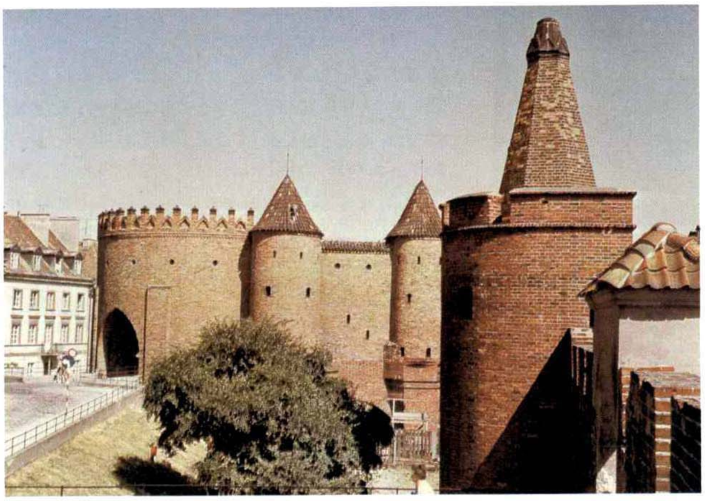
ワラキア ［Walachia］ ルーマニア南部の地方名。北のトランシルバニアアルプス山脈と南のドナウ川の間の豊かな農業地帯で，同国の穀倉であるとともに石油資源にも恵まれる。首都ブカレストをはじめプロエシチ・クラヨバなどの都市がある。面積77,000km²。

わらさ 【稚鰤】 ⇨ブリ

わらしべちょうじゃ 【藁しべ長者】 日本に数多い長者譚(たん)の一類型で，1本の藁しべをもとにしてしだいに立身し長者になるという昔話。東北地方から沖縄に至るまで，ほぼ全国的に伝承されている。話の筋は，貧しい子または勘当された怠け者が藁1本だけを持って旅に出て，これを次々に木の葉・味噌(みそ)・太刀(たち)などと交換し，太刀で大蛇(だいじゃ)を殺して褒美(ほうび)の金をもらう，あるいは最後に金持ちになって長者の娘の婿になるというものである。《今昔物語集》《宇治拾遺物語》などにも同種の話が収録されており，藁しべは長谷(はせ)寺に参籠(さんろう)して観音のお告げによって手に入れたと語られている。〔直江広治〕

わらじむし 【草鞋虫】 甲殻(こうかく)類・等脚目・ワラジムシ科。体長1cm前後で，灰色ないしかっ色の斑紋(はんもん)がある甲殻でおおわれ，頭・胸・腹部に分かれる。頭部は第1触角と第2触角とをそなえるが，第1触角はきわめて小さい。胸部は大きく，7節を数え，各節に1対の胸肢(きょうし)をもつ。各胸肢はほとんど同じ形である。腹部は小さく，末端の尾節は三角形になる。世界共通種で，陸上の落葉下などに普通に見られ，ダンゴムシに似るが体は球状に折り曲げない。

わらび 【蕨】 シダ植物・ウラボシ科。山野・放牧地・土手などに自生する多年生のシダ。根茎が長く張ってまばらに葉を出す。葉は長さ50〜130cm，葉柄は光沢があって太く，葉身は2〜3回羽状に分かれ，いちばん下の羽片が最も大きい。各小羽片の先は尾のように伸び，その先はまるい。胞子囊(ほうしのう)群は葉の縁に沿ってでき，縁



ワルシャワ　旧市街にあるバルバーカン(中世の馬蹄形の防壁)。第2次世界大戦後修復されたもので今日ヨーロッパでは数えるほどしか残っていない

が折れかえってこれをおおう。若葉は握りこぶしのように巻き，かっ色毛をかぶる。若葉は食用とされ，あく出しをして，つけ物にしたり乾燥させたりしてたくわえる。根茎には多量のデンプンが含まれており，わらびもちや団子をつくる。

わらび　【蕨(市)】　埼玉県南東部の市。人口70,000。古くから双子縞(ふたごじま)の特産で知られ，江戸時代は中山道(なかせんどう)の宿場町であった。1959年(昭和34)市制施行。市域は，関東平野の南西部と武蔵野(むさしの)台地の接点付近，荒川中流北岸の沖積(ちゅうせき)低地に位置し，面積は全国の都市の中で最小である。産業三大別人口比は1：41：58。毛織物・麻織物・染色などの繊維工業が盛んで，車両・機械工業なども発達する。国電京浜東北線・国道17号線で東京の都心部と約30分で結ばれるため，住宅地化も活発で，人口増加が著しい。南北朝時代の渋川義行(よしゆき)の蕨城址が残っている。

ワラビー　［wallaby］　哺乳(ほにゅう)類・カンガルー科・ワラビー属の総称。外形はカンガルーに似るが小形で，さらに優美で，色彩もあざやかで美しい。オーストラリア・タスマニア・ニューギニアに分布し，クックワラビー・エレガントワラビー・オグロワラビー・スナイロワラビーなど9種ほどが知られる。➔前ページ(写真)

わらべうた　【わらべ唄】　広くは子どものためにつくられ，もっぱら子どもによって歌われる歌をさすが，おとなが子どものためにつくった歌は日本語では童謡*とよんで，狭義には民謡*としてのわらべ唄だけをさす。これらは，歌詞・旋律とも作者がわからず，また歌われる過程で変形が行なわれる点ではおとなの民謡と共通している。しかし，子どもが子どもから口伝えで学び，また，遊びと結びついている点はわらべ唄に固有の性格である。たとえばドイツで〈キンダー-リート〉とよばれるものは，3音から5音，6音などの簡単な構造のものが多く，自然や年中行事と結びついたものが多い。日本の場合は，特に最近は，絵を描いたり，じゃんけん・悪口などの子どもの日常的な遊びと結びついたものが多く，音楽的な変化が遊びの変化によることもある。また，リズムや音組織も伝統的な要素を強く保っているのが特徴である。〔徳丸吉彦〕

ワラルー　［wallaroo］　哺乳(ほにゅう)類・有袋目・カンガルー科。ケナガワラルーともいう。雄は頭胴長1.2m，尾長87cmほどで，雌はやや小さい。体毛は長くて厚く，紫灰色。オーストラリア東南部に分布する。地上に生活し，山地の石の多い荒れ地に生息して，おもに草・根・木の葉などを食べる。ほかにアカワラルー・ヒメワラルー・クロワラルーがあり，カンガルー*と同属である。なお，体形がいわゆるカンガルー型をしている場合，大形のものを単にカンガルー，中形のものをワラルー，小形のものをワラビーと俗称する。〔今泉吉典〕

わりぐりいし　【割り栗石】　玉石よりも小さく，じゃりより大きい程度の石塊で，建造物の基礎下の地盤を固めるために用いられる。原石はカコウ岩・安山岩・砂岩・凝灰岩などあり破砕してつくる。形は扁平(へんぺい)なものは避けて丸みのものがよく，使用する際は長手を垂直にして用いるが，これを小端建てという。

わりざん　【割り算】　⇨除法

わりだしだい　【割り出し台】　円周を等分に分割したり，角度を出したりするための装置。単独に用いることもあるが，フライス盤*その他の工作機械の付属装置として用いることも多い。普通のものはウォームギアを利用して行なうが，光学的装置を取り付けてきわめて精密な割り出しを行なうものもある。

わりびきせいさく　【割引政策】

①再割引政策，あるいは公定歩合*政策ともいう。中央銀行*が商業手形(および短期国債)を再割引する場合，その割引利率(公定歩合)を変更することによって市中銀行への通貨の供給をコントロールする政策で，金利政策*の代表的なものである。今日では利子率が民間の資金調達コストに与える影響は小さくなってきたので，景気の先行き見通しに警戒信号を与えるシグナル効果や，市中銀行の保有する国債利回りに影響を与えることによって，市中銀行の資金供給能力を統制する一般流動性効果(ローザ効果)などの点で注目されている。〔速水　保〕

②差別価格政策の一。同一製品の販売でも，現金の場合もあれば信用販売もある。あるいは大量に販売されることもあれば，少量ずつ，しかも継続的あるいは1回かぎりの販売もある。このようなことから，購買者に対して価格上の差別をつけることが，むしろ合理的である場合，さらに積極的には販売促進の一手段として，この割引政策が採用される。一般に割引政策は，回収促進，販売量・取引状態および促進的サービスに基づいて行なわれる。いわゆる現金割引・数量割引・営業割引・促進的割引である。〔清水　晶〕

わりびきはっこう　【割引発行】　公社債株式などの証券を額面以下で発行すること。わが国では，株式の割引発行は法律によって禁じられている。割引発行は実質的な利回りをよくして金融市場からの資金吸引力を強めるための方策であるが，形式的には，満期まで定期的に利息を支払い，償還に際しては額面額を返済するものと，利息は支払わず，満期日に額面額を返済するものとがある。前者は長期の公社債にみられ，後者は通常1年未満の，割引債券とよばれるものにみられる。〔山桝忠恕〕

ワルキューレ　⇨ニーベルンゲンの指環(ゆびわ)

ワルザー　［Martin Walser］　(1927～)　ドイツの小説家。カフカ*の影響下に文学活動を始め，《フィリプスブルクの結婚》《ハーフタイム》《一角獣》などの長編小説で，個人の心理や行動に反映する現代市民社会の頽廃を皮肉かつ細密に描写した。ナチスの戦争犯罪と現在の社会機構，そこに生きる個人との関係，ベトナム戦争などにも鋭い関心を示し，《カシの木とアンゴラ兎(うさぎ)》《黒いスワン》などの戯曲でそうした問題をテーマとし，《室内の戦い》などでブレヒト*克服の道を模索している。〔藤本淳雄〕

わるさわだけ　【悪沢岳】　赤石山脈*の中央部，赤石岳のほぼ北にある山。標高3,146m。荒川岳(3,083m)の東に位置するが，この悪沢岳(東岳)と荒川岳(中岳)とその西の前岳(3,060m)をあわせて荒川岳と称することもある。山頂付近にはカール*地形が認められる。

ワルシャワ　［Warszawa］　ポーランドの首都。特定行政区をなし，面積446km²，人口141万(1975)。同国中部，ビスラ川に臨み，運河による内陸水運と鉄道交通の中心をなす。13世紀に起源をもつが，クラクーフから首都が移ったのは16世紀末である。第2次世界大戦では壊滅的な破壊をうけたが，いまはりっぱに復興している。戦前は

地主貴族を中心とした消費的都市であったが，戦後は金属加工や機械生産などの盛んな工場都市に生まれかわった。川の左岸にある中心部の西ボーリャ地区や右岸のタルグベック地区はかつては貧民街であったが，いまは工業地区や住宅地になっている。戦前は東ヨーロッパで最も美しい都市といわれ，18世紀の宮殿や貴族の館，多くの古い寺院などがあったが，大戦中にこれらはすべて破壊された。〔梶川勇作〕

ワルシャワじょうやく 【ワルシャワ条約】 北大西洋条約機構*(NATO)に対抗して，1955年東ヨーロッパ8か国間に成立した集団安全保障条約。正式には〈東ヨーロッパ8か国友好協力相互援助条約〉という。1954年10月のパリ協定は西ドイツの再軍備とNATO参加を承認したが，これに対抗してソ連はポーランド・東ドイツ・ハンガリー・ルーマニア・ブルガリア・アルバニア・チェコスロバキアの東ヨーロッパ7か国の参加を得て，1955年5月ワルシャワで本条約を締結した。これは国連憲章に基づく集団的自衛権を規定，国際紛争の平和的解決を約し，経済・文化・技術的関係の強化を図り，条約の有効年限は20年で，機関としては各国政府代表よりなる政治協議委員会，その補助機関として常設外交委員会と国防相会議，軍事機関として統一軍司令部がある。アルバニアは1961年ころから中華人民共和国に接近，ワルシャワ条約機構から離れているが，ユーゴスラビア(非加盟国)は1964年以降この機構に接近，防衛機構に必要な内部統一が必ずしも維持されていない。〔折井一彦〕

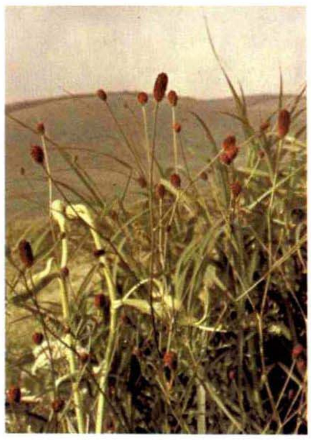
ワールシュタットのたたかい 【ワールシュタットの戦い】 リーグニッツの戦いともいう。1241年ポーランド領(現在は東ドイツ)のシュレジエン地方の都市リーグニッツの南東ワールシュタットで，シュレジエン公ハインリヒ2世の率いるドイツ・ポーランド騎士連合軍が，バトゥ*の率いるモンゴル軍と戦ったが大敗した。そのためモンゴル軍はポーランド・ハンガリーを攻略し，全ヨーロッパが〈黄魔〉来襲と恐れた。

ワルソー ⇨ワルシャワ

ワルター ［Bruno Walter］ (1876～1962) ドイツ生まれのアメリカの指揮者。本名はワルター-シュレジンガー。ベルリンの生まれ。シュテルン音楽院に学び，ビューローの演奏に接して指揮者の道を選ぶ。1894年にケルン市立歌劇場でデビュー，この年ハンブルク歌劇場に移り，マーラー*の知遇を受けた。1901～1912年ウィーン国立歌劇場，1913～1922年ミュンヘン国立歌劇場などを経て，1929年ライプチヒ-ゲバントハウス管弦楽団*の指揮者となった。ナチスの圧迫をのがれて，晩年は主としてアメリカで活躍し，著書もある。〔向坂正久〕

ワルター-フォン-デア-フォーゲルワイデ ［Walther von der Vogelweide］


ワルター


ワレモコウ

(1170ごろ～1228ごろ) ドイツの中世最大の叙情詩人。真情の吐露を詩の本質とみる彼の宮廷騎士恋愛歌は，師ラインマルの貴夫人にささげる愛の歌，すなわち〈高いミンネ〉にあきたらず，その対象を庶民の娘にまで広げた〈対等のミンネ〉に達し，形式・内容に新しい生命を吹き込んだ。また，祖国を熱烈に愛した彼は警世的格言詩を通じて神聖ローマ帝国の皇帝を擁護し，ローマ法王を《悪魔の弟子(でし)》《狼(おおかみ)になった羊飼い》とののしっている。〔吉田　孚〕

ワルツ ［waltz］ 円舞曲ともいう。オーストリアやドイツのバイエルン地方に伝わっていた舞曲レントラーから生まれた舞曲で，19世紀にはいってから一般化し，今日まで踊るためだけでなく，聞くための曲としても広く親しまれている。3拍子系であるが，他の3拍子の舞曲と比べると，第1拍の重さがはっきりしており，テンポが早い場合には，1小節をひとまとまりに感じることができるまでになる。19世紀にウィーンで踊られたウィンナ-ワルツはテンポも踊りも早いが，20世紀にはいってからの舞踊に使われるためのワルツは，一拍一拍がはっきりと聞きとれる程度にゆっくりしている。ベートーベンを先駆として，初期ロマン派のウェーバーやシューベルトからワルツをピアノ小曲に用いることが盛んになり，その系譜はラベルまで続いている。なお，J. シュトラウス*父子の管弦楽作品はいまでも広く愛好されている。〔徳丸吉彦〕

ワルツェミューラー ［Martin Waldseemüller］ (1475ごろ～1521ごろ) ドイツの地理学者。1507年《世界地理入門》を著わしたが，その地図中でアメリゴ-ベスプッチ*にちなむアメリカの地名をはじめて使用し，人々の注目を集めた。しかし1516年に著わした海図では考えを改めて，新大陸発見の業績に関するコロンブス*とベスプッチのつり合いからアメリカの地名の使用を止めたがときすでに遅く，彼は今日のアメリカの名づけ親とされている。〔大崎　晃〕

ワールブルク ［Otto Heinrich Warburg］ (1883～1970) ドイツの生化学者。フライブルクの生まれ。ベルリン・ハイデルベルク両大学で学ぶ。1914年カイザー-ウィルヘルム研究所にはいり，1937年以後同細胞生理研究所所長。彼の研究業績は多方面にわたり，いずれもすぐれているが，中でも細胞呼吸における酸素活性化説(1912)，光合成の量子収量の測定(1922)，六炭糖リン酸側避経路の発見(1932～1935)，補酵素I・IIの構造決定(1935～1936)は特に重要な貢献である。〔中村禎里〕

ワルミング ［Johannes Eugenius Bülow Warming］ (1841～1924) デンマークの植物学者。コペンハーゲン大学教授で，現代植物生態学の創始者のひとり。従来の区系地理学から生態地理学を分離し，群落の分析的な研究を始めた。また，立地条件の役割を重要視し，その反映である相観を規準として群落をとらえ，さらに相観をきめる生活型については，水分要因を主とした分類を提案するなど，植物生態学の発展に寄与した。〔中村禎里〕

わるものしょうせつ 【悪者小説】 ⇨ピカレスク小説

ワルラス ［Marie Esprit Léon Walras］ (1834～1910) ローザンヌ学派*の経済学者。フランスの生まれ。鉱山学校にはいったが中途退学し，新聞記者・銀行員などの職業を遍歴したのち，1870年にスイスのローザンヌ大学に教授の職を得た。まもなく主著《純粋政治経済学要論》を著わした。彼は，ローザンヌ学派の創始者として，この書物において二つの経済学上の貢献をしたとされている。その一つは，主観価値理論の樹立であり，限界効用理論の体系化である。もっとも，この点ではオーストリアのメンガー*，イギリスのジェボンズ*が，ほぼ同時にそれぞれの体系を公表している。もう一つは，ワルラスの独創にかかり，後代への影響という点からも重要な貢献である〈一般均衡理論〉の体系化である。ローザンヌ大学のワルラス記念碑には〈経済均衡の一般的条件をはじめて確立し，ローザンヌ学派を創設した〉と記してある。経済の部分均衡は，これまでの経済学者によっても扱われてきたが，一般均衡の扱いはワルラスに始まる。この理論は，後継者パレート*に

よって完成され，現代経済学に引き継がれている。➔均衡理論　〔林　達〕

われから　【割殻】　甲殻(こうかく)類・端脚目・ワレカラ科。体は著しく細長くなり，頭部・胸部が区別できるが，腹部は退化して痕跡(こんせき)的。頭部は胸部第1節と癒合(ゆごう)しているため，胸部は6節からなる。頭部には長いむち状の第1触角とやや短い第2触角がある。第1・2歩脚は大部分のワレカラ類ではまったく失われ，第3・4・5脚は先端がかぎづめ状となり，他物にしがみつく。第3・4胸節にはえらが1対ずつ存在する。雌は第3・4胸節に保育嚢(はいくのう)をもち，卵が孵化(ふか)するまで育てる。幼生は親と同形で，特別の形態をもたない。沿岸浅海の岩礁上や海藻(かいそう)上には，おびただしい数が見られ，磯(いそ)魚の重要な餌料(じりょう)になっている。　〔向井　宏〕

ワレニウス　［Bernardus Varenius］(1622～1650)　ドイツの地理学者。はじめ医学を学んだが，タスマン*らのオランダ人航海者の地理上の発見にひかれ，以後オランダで地理学者として過ごした。《一般地理》(1650)は，科学的視点に立ったもので，当時の地理学書の最高水準として注目され，広く各国語に翻訳された。

われもこう　【吾木香】　双子葉植物・バラ科。山野に自生する多年草。茎は直立して高さ1.2～1.5mで，全草無毛。葉は長さ3～5cmの長楕円(ちょうだえん)形であらい鋸歯(きょし)のある小葉5～11枚からなる羽状複葉。7～10月，茎の先および葉腋(ようえき)より花柄を出し，先に長さ1～2cmの楕円形の花穂をつけ，紅紫色花を密につける。根を地楡(ちゆ)といい，収斂(しゅうれん)作用があり，口内炎・火傷(やけど)などに用いられる。白色花で花穂の長いものはナガボノシロワレモコウという。カライトソウは白山や立山などの高山に見られるもので，花穂は長さ5～10cmでたれ下がり，紅紫色花で美しい。
➔前ページ(写真)　〔加藤僖重〕

ワレンシュタイン　［Albrecht Eusebius Wallenstein］(1583～1634)　ドイツの将軍。三十年戦争*で活躍。皇帝側に立ってベーメンの反乱を鎮圧し，またデンマーク王クリスチャン4世*の軍を破って功をあげたが，彼の中央集権的国家建設の理想をきらった諸侯の反感を受けて罷免された。その後スウェーデン王グスタフ-アドルフ*がドイツに侵入すると再び起用されたが，リュッツェンの戦い*に敗れ，その上敵と通謀した疑いと，皇帝の部将の裏切りとにあって暗殺された。　〔松　俊夫〕

ワロー　［Marcus Terentius Varro］(BC116～BC26)　古代ローマの学者。サビニ地方のレアテの生まれ。ローマ・アテナイで学んだ。ポンペイウス派だったが，のちアウグストゥスに許され，文筆に専念して長寿を全うした。《農事論》3巻，《ラテン語論》6巻(もとは全25巻)などが現存。



椀　吉野椀(直径13.2cm，江戸時代)　サントリー美術館蔵

後者は現存する総合的ラテン語研究の最古のもの。語源論に奇想天外なものもあるが，すでに比較方法の萌芽(ほうが)がうかがえる。当時の言語状態を知る上で貴重な資料である。　〔松田　治〕

わん　【椀】　飯・汁(しる)その他の飲食物を盛るための深みのある器。一般に椀は木製，碗は陶磁器のものをさし，木製は挽物(ひきもの)に漆を塗ったもので，朱塗り・黒塗りや内側と外側を朱と黒に塗り分けたものなどが多い。ほかに儀式用の銀製や，近年家庭用に普及している合成樹脂製もある。また神前の供物用に土器，大嘗祭*(だいじょうさい)には葉椀が使われた。

わんかしでんせつ　【椀貸し伝説】　頼めば膳(ぜん)・椀を貸してくれたという，淵(ふち)・洞穴(どうけつ)・塚(つか)などに結びついた伝説。心がけの悪い人間が数をごまかして返したため，以後貸してくれなくなったと伝える例が多い。頼む相手としては，水神*・龍宮*(りゅうぐう)・河童*(かっぱ)・狐(きつね)などのほかに，隠れ里とするものもある。この伝説の起こりを無言貿易に求めようとする説があるが疑わしい。中国大陸にも，狐の住む丘から膳・椀を借りるという伝説が広く分布しているが，日本の特色は水神信仰との深い関連にある。　〔直江広治〕

わんそくるい　【腕足類】　触手動物・腕足綱。体の背腹に2枚の不相称のかたい石灰質の殻(から)をもつが，殻は二枚貝類が左右にあるのに対して背腹にある。殻の内側には，動物体を包み込むようにして外套膜(がいとうまく)があって，外套腔(がいとうこう)内側の中央に口が開いており，その両側に大きい腕が突起している。腕は石灰質の突起(腕骨)によってささえられている。雌雄異体。暖海にすみ，一般にサンゴ塊や岩礁，海藻(かいそう)の盤状根などに付着して採集されるが，シャミセンガイ類のように泥底(でいてい)に穴を掘ってすむものもある。非常に起源の古い動物群で，古生代カンブリア紀にはすでに出現し，古生代に最も繁栄していたが，現在は衰退しつつある。古生代のころとほとんど同様な形態をもち，生きている化石*とされるものも多い。現在は苔虫*(こけむし)類とともに触手動物に含められているが，最近まで苔虫類・曲虫類・箒虫(ほうきむし)類などとともに擬軟体動物門とされていた。分類学的位置は不明な点もある。〔向井　宏〕

ワンダーフォーゲル　［Wandervogel］〈渡り鳥〉の意で，第1次世界大戦後ドイツのウォルク-マイネンという少年によって始められた青少年の野外活動の名称。その後各国に波及し，わが国には昭和初期に紹介され，以後〈山野を歩く会〉またはその会員の呼称として広く用いられ，特に大学の課外活動，職域団体のレクリエーション組織として知られている。山岳会とは本来は活動領域が異なっているが，最近の青年層では，登山は自己の鍛練としてよりも，自然の形態を楽しむことに重きを置いているので，その区分は年ごとに不明確になっている。ユースホステル*運動はこの活動から分派したものという説もある。〔奈良茂雄〕

ワンタン　【雲呑】　中国料理の点心*の一種。餛飩(フントン)の転訛(てんか)した語といわれ，わが国では軽食として供される。小麦粉に少量の梘水(かんすい)(➔中華そば)を加えて薄く伸ばし，約8cm角に切った皮で，豚ひき肉と好みによってみじん切りのネギ・ショウガを混ぜたあんを包んだもの。ふつうこれをゆでて，スープに入れて食べる。ほかにワンタンメン・蒸しワンタン・揚げワンタンなどの食べ方もある。

ワンピース　［one-piece］　ワンピースドレスの略称。ツーピース*に対するもので，上下一続きに仕立てた婦人服。礼装から家庭用まであり，流行のシルエットを取り入れやすく，個性的なデザインができ，用布も少なく，軽い仕立てであるなどの特徴がある。中世紀ごろまでは完全な一枚布のドレスであったが，16世紀以後は胴とスカートの間に切り替えのあるものもつくられた。20世紀にはいってスーツが着られるようになってからは，多くの流行の変遷があって今日に至っているが，特に現代では次のような種類がある。①シュミーズドレス：全体のシルエットが単純でシュミーズ*のようなえりあきのドレス。②サックドレス：ウエストに切り替えのない，ずんどうでゆったりしたドレス。③シフトドレス：身ごろが肩からまっすぐに下りた感じのゆったりしたドレス。　〔小池千枝〕

ワンヤンアクダ　【完顔阿骨打】　⇨アクダ

わんりゅう　【湾流】　メキシコ湾流またはガルフ-ストリームともいう。黒潮と並び称せられる世界最大の海流。ふつう，フロリダ海流がアメリカ東岸のハッテラス岬(みさき)から離れて大西洋の中央部のアゾレス諸島付近までの海流をさすが，広義には，アンチル海流および北大西洋海流も含めていうことがある。後者の場合は湾流系とよぶ。近年，湾流の構造や変動のようすが科学的海洋調査によって明らかにされた。

付　　表

目　　次

I. 行事・国民の祝日・記念日

1月1日 **元日** 初もうで 少年法施行の日
2日 書きぞめ 初荷 皇居一般参賀受付
4日 官庁仕事始め
6日 小寒(太陽黄経が285°に達する日) 東京消防出ぞめ式
7日 七草
8日 学校始業
11日 鏡開き・蔵開き
12日 歌会始め
15日 **成人の日** 成人式 お年玉つき年賀はがき抽選
16日 やぶ入り
20日 大寒(太陽黄経が300°に達する日)
26日 文化財防火デー
27日 国旗制定記念日
2月1日 テレビ放送記念日 成人病予防週間(7日まで)
3日 節分祭(立春の前日)
4日 立春(太陽黄経が315°に達する日) 初午
11日 **建国記念日** 文化勲章制定記念日
14日 聖バレンタインデー
19日 雨水 万国郵便連合加盟記念日
28日 春の全国火災予防運動・全国山火事予防運動・車両火災予防運動
3月1日 全国緑化運動 都市美化普及運動
3日 雛祭り 耳の日
6日 啓蟄 皇后誕生日
7日 消防記念日 警察制度改正記念日
8日 国際婦人デー
12日 お水取り
18日 彼岸の入り(春分の日の3日前)
21日 **春分の日**(太陽が春分点に達する日)
22日 NHK放送記念日
23日 世界気象デー
24日 彼岸明け(春分の日の3日後)
25日 電気記念日
31日 学校教育法公布記念日
4月1日 児童福祉法記念日 新財政年度 エープリル-フール
5日 清明
7日 世界保健デー
8日 釈迦誕生日(花祭り)
10日 婦人の日 婦人週間(16日まで)
11日 メートル法公布記念日
16日 科学技術週間
18日 発明の日
20日 穀雨(太陽黄経が30°に達する日) 逓信記念日 郵便週間(26日まで) 切手趣味週間(26日まで)
22日 清掃の日 全国環境衛生週間 靖国神社春の大祭
28日 サンフランシスコ講和条約発効記念日 身体障害者福祉法施行記念日
29日 **天皇誕生日**
5月1日 日本赤十字社創立記念日 メーデー 憲法週間(7日まで) こども読書週間(5月14日まで)
2日 八十八夜(立春の日から88日め) 郵便貯金創業記念日
3日 **憲法記念日**
5日 **子どもの日** 端午の節句 児童福祉週間(11日まで)
6日 立夏(太陽黄経が45°に達する日)
8日 世界赤十字デー
9日 母の日(5月の第2日曜日)
10日 愛鳥週間(16日まで)
12日 海上保安庁開庁記念日
14日 種痘記念日
18日 国際善意デー
20日 ローマ字の日
21日 小満(太陽黄経が60°に達する日)
6月1日 気象記念日 電波の日 写真の日 人権擁護制度記念日 全国水道週間 国際演劇月 アユ漁解禁
4日 虫歯予防デー 歯の衛生週間(10日まで)
5日 世界環境デー
6日 芒種(太陽黄経が75°に達する日)
7日 計量記念日
10日 時の記念日
11日 入梅(太陽黄経が80°に達する日)
20日 父の日(6月の第3日曜日)
22日 夏至(太陽が夏至点に達する日)
23日 オリンピック-デー
25日 救癩の日
26日 国連憲章記念日
28日 貿易記念日
30日 大祓
7月1日 山開き・海開き 国民安全の日 更生保護の日 全国安全週間(7日まで)
2日 半夏生(太陽黄経が100°に達する日) ユネスコ加盟記念日
7日 七夕 小暑(太陽黄経が105°に達する日)
10日 国土建設週間(16日まで)
14日 検疫記念日
15日 盂蘭盆会
16日 やぶ入り
18日 勤労青少年の日
20日 土用(立秋前18日間)の入り 海の記念日 海上安全週間(20日を含む1週間)
23日 大暑(太陽黄経が120°に達する日)
29日 土用丑の日
8月1日 八朔 観光の日
2日 学制発布記念日
5日 食中毒予防週間
6日 広島原爆記念日
7日 鼻の日
8日 立秋(太陽黄経が135°に達する日)
9日 長崎原爆記念日
14日 国民皆泳の日
15日 終戦記念日 全国戦没者追悼式
23日 処暑(太陽黄経が150°に達する日)
29日 文化財保護法施行記念日
9月1日 二百十日(立春の日から210日め) 関東大震災記念日 防災の日 性病予防週間 がん征圧月間 愛の血液助け合い運動 身体障害者雇用促進運動 農業安全月間
8日 白露(太陽黄経が165°に達する日) サンフランシスコ講和条約調印記念日
9日 重陽(菊の節句)
10日 精神薄弱者愛護デー
11日 二百二十日(立春の日から220日め)
13日 司法保護記念日 世界の法の日
15日 **敬老の日** 老人福祉週間(21日まで)
20日 航空の日 動物愛護週間(26日まで)
23日 **秋分の日**(太陽が秋分点に達する日)
24日 結核予防週間(30日まで)
10月1日 法の日 スポーツの日 都民の日 共同募金運動(赤い羽根) 芸術祭 全国労働衛生週間 北海道狩猟解禁
4日 里親デー
9日 寒露(太陽黄経が195°に達する日) 万国郵便連合創立記念日 国際文通デー
10日 **体育の日** 目の愛護デー
中旬 行政相談週間
14日 鉄道記念日
15日 助け合いの日 労働者家族福祉運動(31日まで) 新聞週間(21日まで)
17日 貯蓄の日
18日 靖国神社秋の大祭
20日 新聞広告の日
23日 電信電話記念日
24日 霜降(太陽黄経が210°に達する日) 国連の日
26日 原子力の日
27日 読書週間(2週間)
31日 世界勤倹デー
11月1日 狩猟解禁(本州ほか) 燈台記念日 納税者の声を聞く旬間(10日まで) 教育文化週間 文化財保護強調週間 働く年少者の福祉運動(10日まで)
3日 **文化の日**
上旬 お年玉つき年賀はがき発売
4日 ユネスコ憲章記念日
8日 立冬(太陽黄経が225°に達する日) 世界都市計画の日
9日 太陽暦採用記念日
10日 肢体不自由児愛護の日
11日 世界平和記念日
15日 七・五・三 赤十字デー
19日 農協記念日 鉄道電化の日
21日 寄生虫予防運動(30日まで)
23日 小雪(太陽黄経が240°に達する日) **勤労感謝の日**
26日 秋の全国火災予防運動 ペンの日
28日 税関記念日
12月1日 映画の日 歳末助け合い運動(31日まで) 年末年始の防犯運動(1月31日まで)
4日 人権週間(10日まで)
7日 大雪(太陽黄経が255°に達する日)
8日 こと納め
10日 世界人権宣言記念日
15日 年賀郵便特別取り扱い受付
22日 冬至(太陽革経が270°に達する日)
23日 皇太子誕生日
25日 クリスマス
28日 官庁御用納め
31日 年越し 大祓

注) ① 太字は国民の祝日
② 年によって変動のあるものについては1982年を基礎とした。

2. 特別史跡・名勝・天然記念物一覧

特別史跡　(1981年11月，文化庁調べ)

名　称	所在地	指定年月日
五稜郭跡	北海道函館市五稜郭町 亀田郡亀田町	1952. 3.29
毛越寺跡　付鎮守社跡	岩手県西磐井郡平泉町	1952.11.22
無量光院跡	〃　〃	1955. 3.24
中尊寺境内	〃　〃	1979. 5.22
多賀城跡　付寺跡	宮城県多賀城市	1966. 4.11
大湯環状列石	秋田県鹿角市	1956. 7.19
旧弘道館	茨城県水戸市北	1952. 3.29
常陸国分寺跡	〃　石岡市	1952. 3.29
常陸国分尼寺跡	〃　〃	〃
日光スギ並木街道　付並木寄進碑	栃木県日光市・今市市	〃
大谷磨崖仏	〃　宇都宮市大谷町	1954. 3.20
多胡碑	群馬県多野郡吉井町	〃
山上碑および古墳	〃　高崎市山名町	〃
金井沢碑	〃　〃	〃
小石川後楽園	東京都文京区後楽	1952. 3.29
旧浜離宮庭園	〃　中央区築地	1952.11.22
江戸城跡	〃　千代田区	1963. 5.30
一乗谷朝倉氏遺跡	福井県福井市	1971. 7.29
尖石石器時代遺跡	長野県茅野市豊平	1952. 3.29
新居関跡	静岡県浜名郡新居町	1955. 8.22
遠江国分寺跡	〃　磐田市見付	1952. 3.29
登呂遺跡	〃　静岡市高松	1952.11.22
名古屋城跡	名古屋市中区	1952. 3.29
本居宣長旧宅，同宅跡	三重県松阪市殿町・魚町	1953. 3.31
安土城跡	滋賀県蒲生郡安土町・神崎郡能登川町	1952. 3.29
彦根城跡	〃　彦根市金亀町	1956. 7.19
鹿苑寺(金閣寺)庭園	京都市北区金閣寺町	〃
慈照寺(銀閣寺)庭園	〃　左京区銀閣寺町	1952. 3.29
醍醐寺三宝院庭園	〃　伏見区醍醐東大路町	〃
百済寺跡	大阪府枚方市中宮	〃
大坂城跡	大阪市東区馬場町・杉山町	1955. 6.24
姫路城跡	兵庫県姫路市本町	1956.11.26
平城宮跡	奈良市佐紀町・北新町	1952. 3.29
二坊宮跡庭園	〃　尼ヶ辻	1976.12.10
山田寺跡	奈良県桜井市山田	1952. 3.29
本薬師寺跡	〃　橿原市城殿町	〃
文珠院西古墳	〃　桜井市阿部	〃
巣山古墳	〃　北葛城郡広陵町	〃
石舞台古墳	〃　高市郡明日香村	〃
藤原宮跡	〃　橿原市高殿町・醍醐町	〃
高松塚古墳	〃　高市郡明日香村	1973. 4.23
岩橋千塚古墳群	和歌山県和歌山市岩橋	1952. 3.29
斎尾廃寺跡	鳥取県東伯郡東伯町	〃
旧閑谷学校(付椿山，石門，津田永忠宅跡および黄葉亭)	岡山県備前市	1952.11.22
厳島	広島県佐伯郡宮島町	〃
廉塾ならびに菅茶山旧宅	〃　深安郡神辺町	1953. 3.31
讃岐国分寺跡	香川県綾歌郡国分寺町	1952. 3.29
水城跡	福岡県筑紫郡太宰府町・大野城市・春日市	1953. 3.31
大宰府跡	〃　筑紫郡太宰府町	〃
大野城跡　付四王寺跡	〃　筑紫郡太宰府町・粕屋郡宇美町	〃
王塚古墳	〃　嘉穂郡桂川町	1952. 3.29
名護屋城跡ならびに陣跡	佐賀県東松浦郡鎮西町・呼子町	1955. 8.22
熊本城跡	熊本県熊本市	1955.12.29
臼杵磨崖仏(付日吉塔，嘉応2年在銘五輪塔および承安2年在銘五輪塔)	大分県臼杵市大字前田区・深田区・中尾区	1952. 3.29
西都原古墳群	宮崎県西都市大字三宅	1952. 3.29
〔2都府県以上にわたるもの〕		
基肄(椽)城跡	佐賀県三養基郡基山町・福岡県筑紫野市	1954. 3.20

特別名勝　(1981年11月，文化庁調べ)

名　称	所在地	指定年月日
毛越寺庭園	岩手県西磐井郡平泉町	1959. 5.23
松島	宮城県塩釜市・宮城郡七ヶ浜町・利府町・松島町・桃生郡鳴瀬町	1952.11.22
小石川後楽園	東京都文京区後楽	1952. 3.29
六義園	〃　〃　本駒込	1953. 3.31
旧浜離宮庭園	〃　中央区築地	1952.11.22
黒部峡谷　付猿飛ならびに奥鐘山	富山県中新川郡立山町・下新川郡宇奈月町	1964. 7.10
御岳昇仙峡	山梨県甲府市平瀬町・高成町・猪狩町・中巨摩郡敷島町	1953. 3.31
上高地	長野県南安曇郡安曇村	1952. 3.29
天橋立	京都府宮津市文珠・府中	1952.11.22
西芳寺庭園	京都市右京区松尾神ケ谷町	1952. 3.29
天龍寺庭園	〃　右京区嵯峨天龍寺町	1955. 5.30
大徳寺方丈庭園	〃　北区紫野大徳寺町	1952. 3.29
大仙院書院庭園	〃　〃	〃
龍安寺方丈庭園	〃　右京区龍安寺御陵ノ下町	1954. 3.20
鹿苑寺(金閣寺)庭園	〃　北区金閣寺町	1956. 7.19
慈照寺(銀閣寺)庭園	〃　左京区銀閣寺町	1952. 3.29
醍醐寺三宝院庭園	〃　伏見区醍醐東大路町	〃
本願寺大書院庭園	〃　下京区堀川通七条上ル　本願寺門前町	1955. 3.24
二条城二の丸庭園	〃　中京区二条通堀川西入ル　二条城町	1953. 3.31
金地院庭園	〃　左京区南禅寺福地町	1954. 3.20
岡山後楽園	岡山県岡山市古京町	1952.11.22
厳島	広島県佐伯郡宮島町	〃
三段峡	〃　山県郡戸河内町・芸北町	1953.11.14
栗林公園	香川県高松市栗林町	1953. 3.30
虹の松原	佐賀県唐津市鏡・東唐津，東松浦郡浜玉町	1955. 3.24
温泉岳	長崎県島原市，南高来郡小浜町・千々石町・瑞穂町・国見町・有明町・深江町・有家町・西有家町	1952. 3.29
〔2都府県以上にわたるもの〕		
十和田湖および奥入瀬渓流	青森県上北郡十和田町・秋田県鹿角郡小坂町	1952. 3.29
瀞八丁	和歌山県東牟婁郡熊野川町・三重県南牟婁郡紀和町・奈良県吉野郡十津川村	〃
富士山	山梨県・静岡県	1952.11.22

特別天然記念物

（1981年11月，文化庁調べ）

名　称	所　在　地	指定年月日
阿寒湖のマリモ	北海道阿寒郡阿寒町	1952. 3. 29
野幌原始林	〃　札幌郡広島町	〃
アポイ岳高山植物群落	〃　様似郡様似町	〃
昭和新山	〃　有珠郡壮瞥町	1957. 6. 19
大雪山	〃　上川郡上川町，美瑛町，新得町	1977. 3. 15
小湊のハクチョウおよびその渡来地	青森県東津軽郡平内町	1952. 3. 29
早池峰山高山植物帯	岩手県稗貫郡大迫町	1957. 6. 19
根反の大珪化木	〃　二戸郡一戸町	1952. 3. 29
夏油温泉の石灰華	〃　和賀郡和賀町	1957. 6. 19
焼走り溶岩流	〃　岩手郡西根町	1952. 3. 29
鬼首の雌釜および雄釜間歇温泉	宮城県玉造郡鳴子町	〃
玉川温泉の北投石	秋田県仙北郡田沢湖町	〃
東根の大ケヤキ	山形県東根市東根	1957. 9. 11
羽黒山の杉並木	〃　東田川郡羽黒町	1955. 8. 13
コウシンソウ自生地	栃木県上都賀郡足尾町	1952. 3. 19
日光スギ並木街道　付並木寄進碑	〃　今市市・日光市	1956. 10. 31
浅間山溶岩樹型	群馬県吾妻郡嬬恋村	1952. 3. 29
田島ケ原サクラソウ自生地	埼玉県浦和市西堀	〃
牛島のフジ	〃　春日部市牛島	
野田のサギおよびその繁殖地	〃　浦和市上野田	1956. 7. 19
御岳の鏡岩	〃　児玉郡神川村	1956. 7. 19
鯛の浦タイ生息地	千葉県安房郡天津小湊町	1967. 12. 27
大島のサクラ株	東京都大島大島町	1952. 3. 29
ホタルイカ群遊海面	富山県中新川郡水橋町・魚津市	〃
魚津埋没林	〃　魚津市釈迦堂	1955. 8. 22
薬師岳の圏谷群	〃　上新川郡大山町	1952. 3. 29
黒部峡谷　付猿飛ならびに奥鐘山	〃　中新川郡立山町・下新川郡宇奈月町	1964. 7. 10
岩間の噴泉塔群	石川県石川郡尾口村	1957. 6. 19
鳴沢溶岩樹型	山梨県南都留郡鳴沢村	1952. 3. 29
白骨温泉の噴湯丘と球状石灰石	長野県南安曇郡安曇村	〃
上高地	〃　〃	〃
石徹白のスギ	岐阜県郡上郡白鳥町	1957. 7. 2
根尾谷断層	〃　本巣郡根尾町	1952. 3. 29
根尾谷の菊花石	〃　〃	〃
狩宿の下馬ザクラ	静岡県富士宮市狩宿	〃
湧玉池	〃　〃　大宮	〃
長岡のゲンジボタルおよびその発生地	滋賀県坂田郡山東町	〃
春日山原始林	奈良県奈良市春日野町	1955. 2. 15
大山のダイセンキャラボク純林	鳥取県西伯郡大山町	1952. 3. 29
大根島の溶岩隧道	島根県八束郡八束町	〃
八代のツルおよびその渡来地	山口県熊毛郡熊毛町	1955. 2. 15
秋芳洞	〃　美禰郡秋芳町	1952. 3. 29
秋吉台	山口県美禰郡秋芳町・美東町	1964. 7. 10
加茂の大クス	徳島県三好郡三加茂町	1956. 7. 19
宝生院のシンパク	香川県小豆郡土庄町	1955. 8. 22
八釜の甌穴群	愛媛県上浮穴郡柳谷村	1952. 3. 29
スギの大スギ	高知県長岡郡大豊町	〃
高知市のミカドアゲハおよびその生息地	〃　高知市天神町・筆山町・塩町	〃
古処山ツゲ原始林	福岡県甘木市江川・嘉穂郡穂波町	〃
立花山クスノキ原始林	〃　粕屋郡新宮町・久山町	1955. 8. 22
相良のアイラトビカズラ	熊本県鹿本郡菊鹿村	1952. 3. 29
青島亜熱帯性植物群落	宮崎県宮崎市大字折生迫	〃
都井岬ソテツ自生地	〃　串間市都井	〃
内海のヤッコソウ発生地	〃　宮崎市大字内海	〃
鹿児島県のツルおよびその渡来地	鹿児島県出水市，出水郡高尾野町・野田村	〃
枇榔島亜熱帯性植物群落	〃　曽於郡志布志町	1956. 7. 19
蒲生のクス	〃　姶良郡蒲生町	1952. 3. 29
鹿児島県のソテツ自生地	〃　揖宿郡山川町・川辺郡坊津町・肝属郡佐多町・内之浦町	〃
喜入のリュウキュウコウガイ産地	〃　揖宿郡喜入町	〃
屋久島スギ原始林	〃　熊毛郡上屋久町・屋久町	1954. 3. 20
〔2都府県以上にわたるもの〕		
白馬連山高山植物帯	長野県北安曇郡白馬村・新潟県糸魚川市 富山県下新川郡朝日町・宇奈月町	1952. 3. 29
尾瀬	福島県南会津郡檜枝岐村・群馬県利根郡片品村・新潟県北魚沼郡湯之谷村	1960. 6. 1
〔地域を定めず指定したもの〕	(主な生息地)	
アマミノクロウサギ	鹿児島県	
カモシカ	山形県・栃木県・長崎県・山梨県・長野県・三重県など	1955. 2. 15
トキ	新潟県・石川県	1952. 3. 29
オオサンショウウオ	岡山県・兵庫県・島根県・鳥取県・山口県・三重県・愛知県・大分県	〃
コウノトリ	兵庫県・福井県	1956. 7. 19
ライチョウ	日本アルプス	1955. 2. 15
土佐のオナガドリ	高知県	1952. 3. 29
カワウソ	愛媛県・高知県	1965. 5. 12
アホウドリ	東京都鳥島・沖縄県	1962. 4. 19
タンチョウ	北海道	1952. 3. 29
メグロ	東京都小笠原諸島	1977. 3. 15
ノグチゲラ	沖縄県	〃
イリオモテヤマネコ	沖縄県西表島	〃
カンムリワシ	沖縄県(日本が北限)	〃

3. ノーベル賞受賞者一覧（1940～1942年は各賞とも受賞者なし）

《朝日年鑑》1982年版を基礎とした

平　和　賞

1901年　J.H.デュナン(スイス)・F.パシー(仏)
1902年　E.デュコマン(スイス)・C.A.ゴバ(スイス)
1903年　W.R.クリーマー(英)
1904年　国際法学会(ベ)
1905年　B.V.ズットナー(オ)
1906年　T.ルーズベルト(米)
1907年　E.T.モネタ(伊)・L.ルノー(仏)
1908年　K.P.アーノルドソン(スウェ)・F.バイエル(デ)
1909年　A.ベールナルト(ベ)・P.エスツールネルード-コンスタン(仏)
1910年　国際平和局(スイス)
1911年　T.アセル(蘭)・A.フリート(オ)
1912年　E.ルート(米)
1913年　H.ラフォンテーヌ(ベ)
1914～1916年　受賞者なし
1917年　赤十字国際委員会(スイス)
1918年　受賞者なし
1919年　W.ウィルソン(米)
1920年　L.ブルジョア(仏)
1921年　K.H.ブランチング(スウェ)・C.L.ランゲ(ノ)
1922年　F.ナンセン(ノ)
1923年　受賞者なし
1924年　受賞者なし
1925年　J.A.チェンバレン(英)・C.G.ドーズ(米)
1926年　A.ブリアン(仏)・G.シュトレーゼマン
1927年　F.ビュイソン(仏)・L.クウィッデ(仏)
1928年　受賞者なし
1929年　F.B.ケロッグ(米)
1930年　N.ゼーデルブロム(スウェ)
1931年　N.M.バトラー(米)・J.アダムズ(米)
1932年　受賞者なし
1933年　N.エンジェル(英)
1934年　A.ヘンダーソン(英)
1935年　C.フォン-オシエツキー(独)
1936年　C.サーベドラ-ラーマス(アルゼ)
1937年　R.セシル(英)
1938年　ナンセン国際避難民事務所(スイス)
1939年　受賞者なし
1943年　受賞者なし
1944年　赤十字国際委員会(スイス)
1945年　C.ハル(米)
1946年　J.R.モット(米)・E.G.ボルチ(米)
1947年　クエーカー教徒奉仕委員会(米)・フレンド教徒奉仕団理事会(英)
1948年　受賞者なし
1949年　J.ボイド-オア(英)
1950年　R.J.バンチ(米)
1951年　L.ジュオー(仏)
1952年　A.シュバイツァー(仏)
1953年　G.C.マーシャル(米)
1954年　国連難民救済高等弁務官事務所
1955～1956年　受賞者なし
1957年　L.B.ピアソン(加)
1958年　D.G.ピール(ベ)
1959年　P.J.ノエルベーカー(英)
1960年　A.J.ルツーリ(南ア)
1961年　D.ハマーショルド(スウェ)
1962年　L.C.ポーリング(米)
1963年　赤十字国際委員会(スイス)・赤十字社連盟(各国赤十字社の連合組織)
1964年　M.L.キングJr.(米)
1965年　国連児童基金(ユニセフ)
1966～1967年　受賞者なし
1968年　ルネ-カッサン(仏)
1969年　国際労働機関(ILO)
1970年　N.E.ボーローグ(米)
1971年　W.ブラント(西独)
1972年　受賞者なし
1973年　H.A.キッシンジャー(米)・レードゥクート(北ベトナム)(辞退)
1974年　S.マックブライド(アイル)・佐藤栄作(日)
1975年　A.D.サハロフ(ソ)
1976年　ベティ-ウィリアムズ(アイル)・メアリード-コリガン(アイル)
1977年　国際アムネスティ(本部ロンドン)
1978年　M.A.サーダート(エジプト)・M.ベギン(イスラ)
1979年　テレサ(アルバニア生まれ)
1980年　A.ペレス-エスキベル(アルゼ)
1981年　国連難民高等弁務官事務所（本部ジュネーブ）

文　学　賞

1901年　R.F.A.シュリ-プリュドム(仏)
1902年　T.モムゼン(独)
1903年　B.ビョルンソン(ノ)
1904年　F.ミストラル(仏)・J.エチュガライ(西)
1905年　H.シエンケビッチ(ポラン)
1906年　G.カルドゥッチ(伊)
1907年　R.キップリング(英)
1908年　R.C.オイケン(独)
1909年　S.ラーゲルレーフ(スウェ)
1910年　P.フォン-ハイゼ(独)
1911年　M.メーテルリンク(ベ)
1912年　G.ハウプトマン(独)
1913年　R.タゴール(印)
1914年　受賞者なし
1915年　ロマン-ローン(仏)　　ラン
1916年　V.フォン-ヘイデンスタム(スウェ)
1917年　K.ゲレループ(デ)・H.ポントピダン(デ)
1918年　受賞者なし
1919年　C.シュピッテラー(スイス)
1920年　K.ハムスン(ノ)
1921年　アナトール-フランス(仏)
1922年　J.ベナベンテ(西)
1923年　W.B.イェーツ(アイル)
1924年　L.S.レーモント(ポラン)
1925年　G.B.ショー(英)(辞退)
1926年　G.デレッダ(伊)
1927年　アンリ-ベルグソン(仏)
1928年　S.ウンセット(ノ)
1929年　トーマス-マン(独)
1930年　シンクレア-ルイス(米)
1931年　E.A.カールフェルト(スウェ)
1932年　J.ゴールズワージ(英)
1933年　I.A.ブーニン(ノ)
1934年　L.ピランデッロ(伊)
1935年　受賞者なし
1936年　ユージン-オニール(米)
1937年　R.マルタン-デューガール(仏)
1938年　パール-S.バック(米)
1939年　F.E.シランペー(フ)
1943年　受賞者なし
1944年　J.V.イェンセン(デ)
1945年　G.ミストラル(チリ)
1946年　ヘルマン-ヘッセ(スイス)
1947年　アンドレ-ジイド(仏)
1948年　T.S.エリオット(英)
1949年　W.フォークナー(米)
1950年　バートランド-ラッセル(英)
1951年　P.ラーゲルクビスト(スウェ)
1952年　フランソア-モリアック(仏)
1953年　W.チャーチル(英)
1954年　E.ヘミグウェー(米)
1955年　H.K.ラクスネス(アイス)
1956年　J.R.ヒメネス(西)
1957年　アルベール-カミュ(仏)
1958年　ボリス-パステルナーク(ソ)
1959年　S.クヮジーモド(伊)
1960年　サン-ジョン-ペルス(仏)
1961年　イボ-アンドリチ(ユーゴ)
1962年　J.スタインベック(米)
1963年　G.セフェリス(ギ)
1964年　J.P.サルトル(仏)(辞退)
1965年　ミハイル-ショーロホフ(ソ)
1966年　S.J.アグノン(イスラ)・N.ザクス(スウェ)
1967年　M.A.アスツリアス(グアテ)
1968年　川端康成(日)
1969年　サミュエル-ベケット(仏)
1970年　A.I.ソルジェニーツィン(ソ)
1971年　パブロ-ネルーダ(チリ)
1972年　ハインリヒ-ベル(独)
1973年　P.V.M.ホワイト(豪)
1974年　E.ユーンソン(スウェ)・H.マーティンソン(スウェ)
1975年　E.モンターレ(伊)
1976年　ソール-ベロー(米)
1977年　アレイクサンドレ(西)
1978年　I.B.シンガー(米)
1979年　O.エリティス(ギ)
1980年　C.ミウォシュ(ポラン)
1981年　E.カネッティ(英)

化　学　賞

1901年　J.H.ファント-ホフ(蘭)：化学力学の法則・溶液の浸透圧発見
1902年　E.フィッシャー(独)：糖類およびプリン族化合物の研究
1903年　S.A.アレニウス(スウェ)：電気解離の理論研究
1904年　W.ラムゼー(英)：希ガス元素の発見
1905年　A.フォン-バイヤー(独)：有機色素・ヒドロ芳香族化合物研究
1906年　H.モアサン(仏)：フッ素化合物・クロム化合物・炭化物・電気炉研究
1907年　E.ブフナー(独)：発酵の化学的研究
1908年　E.ラザフォード(英)：放射能に関する貢献
1909年　W.オストワルト(独)：希望律法則の発見，反応速度・化学平衡の研究

(注) アイス：アイスランド　アイル：アイルランド　米：アメリカ　アラビ：アラビア　アルゼ：アルゼンチン　英：イギリス　イスラ：イスラエル　伊：イタリア　印：インド　オ：オーストリア　蘭：オランダ　加：カナダ　ギ：ギリシア　グアテ：グアテマラ　豪：オーストラリア　スイス：スイス　スウェ：スウェーデン　スコット：スコットランド　西：スペイン　ソ：ソ連　チェコ：チェコスロバキア　チリ：チリ　中：中国　デ：デンマーク　独：ドイツ　西独：西ドイツ　日：日本　ニ：ニュージーランド　ネ：ネパール　ノ：ノルウェー　ハ：ハンガリー　フ：フィンランド　ブ：ブラジル　仏：フランス　ベ：ベルギー　ポラン：ポーランド　ポルト：ポルトガル　南ア：南アフリカ　ユーゴ：ユーゴスラビア　露：ロシア

1910年　O.ワルラハ(独)：テルペンおよびカンファーの研究
1911年　M.キュリー(仏)：金属ラジウムの分離研究
1912年　V.グリニャール(仏)：グリニャール反応の発見，P.サバチエ(仏)：有機触媒反応に関する貢献
1913年　A.ウェルナー(スイス)：分子中における原子の結合の研究
1914年　T.W.リチャーズ(米)：原子量の精密測定
1915年　R.ウィルシュテッター(独)：クロロフィル研究
1916〜1917年　受賞者なし
1918年　F.ハーバー(独)：アンモニアの合成研究
1919年　受賞者なし
1920年　W.ネルンスト(独)：化学に対する熱力学理論・応用
1921年　F.ソディ(英)：放射性物質の化学性・同位元素の研究
1922年　F.W.アストン(英)：質量分析器の発明と同位元素の測定
1923年　F.プレーグル(オ)：微量分析法の研究
1924年　受賞者なし
1925年　R.A.ジグモンディー(独)：コロイドの分解における異種性の研究
1926年　T.スベードベリ(スウェ)：超遠心機によるコロイドの研究
1927年　H.O.ウィーラント(独)：胆汁酸の研究
1928年　A.ウィンダウス(独)：ステリン類の研究
1929年　A.ハーデン(英)・H.フォン-オイラー-ケルピン(スウェ)：アルコール発酵の研究
1930年　H.フィッシャー(独)：血液色素の研究
1931年　C.ボッシュ(独)：アンモニア合成の触媒の研究，F.ベルギウス(独)：石炭の液化
1932年　I.ラングミュア(米)：界面化学の研究
1933年　受賞者なし
1934年　H.C.ユーリー(米)：重水素の発見
1935年　ジョリオ-キュリー夫妻(仏)：人工放射能の研究
1936年　P.J.W.デバイ(蘭)：諸気体中におけるX線および電子の屈折に関する研究
1937年　W.N.ハワース(英)：炭水化物・ビタミンCの研究，P.カーラー(スイス)：ビタミンA・Bの研究，Cの組成
1938年　R.クーン(独)：ビタミンB_2の合成(辞退)
1939年　A.ブテナント(独)：性ホルモンの研究(辞退)，L.ルジーチカ(スイス)：ポリメチレン・テルペンの研究
1943年　G.ヘベシ(ハ)：放射性同位元素の利用に関する貢献
1944年　O.ハーン(独)：原子核分裂の研究
1945年　A.I.ビルタネン(フ)：オキザロ酢酸の研究
1946年　J.B.サムナー(米)：酵素の結晶化，J.H.ノースロップ(米)：タンパク質分解酵素研究，W.M.スタンリー(米)：有機化学物質と細胞の関係
1947年　R.ロビンソン(英)：アルカロイドの研究
1948年　A.W.K.ティセリウス(スウェ)：タンパク質の研究
1949年　W.F.ジオーク(米)：絶対0度近くの超低温における原子の運動の研究
1950年　O.ディールス(独)：ステロイド合成の研究，K.アルダー(独)：ジエン合成の研究
1951年　G.T.シーボーグ(米)・E.M.マクミラン(米)：ネプチニウム・プルトニウムの発見
1952年　A.J.P.マーチン(英)・R.L.M.シング(英)：ペーパークロマトグラフによるアミノ酸分析法発見
1953年　H.シュタウディンガー(独)：高分子化学の研究
1954年　L.C.ポーリング(米)：抗体抗原反応理論
1955年　V.ドービニョー(米)：ホルモン合成の過程に関する諸発見
1956年　C.N.ヒンシェルウッド(英)・N.N.セミョーノフ(ソ)：化学反応のメカニズムに関する研究
1957年　A.R.トッド(英)：ヌクレオチドの有機化学的研究
1958年　F.サンガー(英)：インシュリンの構造の決定
1959年　J.ヘイロフスキー(チェコ)：ポーラログラフ分析法の発見
1960年　W.F.リビー(米)：考古学・地球物理学などで年代決定のための炭素14を使用する方法の発見
1961年　M.カルビン(米)：植物中の炭酸ガスの同化作用
1962年　M.F.ペラッツ(英)・J.C.ケンドルー(英)：球状タンパクの構造に関する共同研究
1963年　K.チーグラー(西独)・G.ナッタ(伊)：ポリエチレンを生み出す
1964年　D.C.ホジキン(英)：X線による生化学物質の構造決定
1965年　R.B.ウッドワード(米)：抗生物質オキシテトラサイクリンなどの化合物の構造決定
1966年　R.S.マリケン(米)：分子軌道法による化学結合と分子の電子構造に関する基礎研究
1967年　R.G.W.ノリッシュ(英)・G.ポーター(英)・M.アイゲン(西独)：急激な温度変化による化学反応の平衡状態の変化の研究
1968年　L.オンサーガー(米)：熱力学の〈オンサーガーの相反定理〉理論の発見
1969年　O.ハッセル(ノ)・デレック-バートン(英)：化学構造が立体的であるというアイデアのもとにこれを発展
1970年　ルイ-F.ルロアール(アルゼ)：糖ヌクレオチドの発見と研究
1971年　G.ヘルツベルグ(加)：分子とくに遊離基に関する研究
1972年　C.B.アンフィンゼン(米)・S.ムーア(米)・W.H.スタイン(米)：リボ核酸分解酵素の研究
1973年　E.O.フィッシャー(西独)・G.ウィルキンソン(英)：炭化水素についての理論的業績
1974年　P.J.フローリー(米)：高分子物理化学の理論と実験両面での業績
1975年　J.W.コーンフォース(豪)：酵素触媒反応の立体化学，V.プレローグ(ユーゴ)：有機分子と反応の立体化学における業績
1976年　W.N.リプスコム(米)：ボランの構造の研究
1977年　イリアープリゴジン(ベ)：非平衡の熱力学，とくに散逸構造
1978年　P.D.ミッチェル(英)：生物エネルギー変換に関する業績
1979年　G.ヴィッティヒ(西独)・H.C.ブラウン(米)：有機化学反応の多彩な発展に寄与
1980年　P.バーグ(米)：核酸の生化学的な研究，W.ギルバード(米)・F.サンガー(英)：核酸の塩基配列の研究
1981年　福井謙一(日)・R.ホフマン(米)：原子の構造を説明するのに使われる粒子と波動の量子論を実験化学の分野で発展させる

物理学賞

1901年　W.C.レントゲン(独)：X線の研究
1902年　H.A.ローレンツ(蘭)：電子理論の開拓，P.ゼーマン(蘭)：放射現象の磁気的影響に関する実験
1903年　A.H.ベクレル(仏)・P.キュリー夫妻(仏)：放射能の研究
1904年　J.W.レーリー(英)：アルゴンの発見
1905年　P.E.A.レーナルト(独)：陰極線の研究
1906年　J.J.トムソン(英)：気体内電子運動の理論的実験研究
1907年　A.A.マイケルソン(米)：干渉計による研究
1908年　G.リップマン(仏)：光の干渉を用いた有色写真の研究
1909年　G.マルコーニ(伊)・C.F.ブラウン(独)：無線電信の研究
1910年　J.D.ファン-デル-ワールス(蘭)：状態方程式研究
1911年　W.ビーン(独)：黒体放射の研究
1912年　N.G.ダレーン(スウェ)：燈台用のガス・アキュムレーターに用いる自動調節器の発明
1913年　H.カメルリング-オンネス(蘭)：低温物理学の業績
1914年　M.フォン-ラウエ(独)：結晶によるX線回折の研究
1915年　ブラッグ父子(英)：X線による結晶の構造研究
1916年　受賞者なし
1917年　C.G.バークラ(英)：X線の散乱現象研究
1918年　M.プランク(独)：量子論の研究
1919年　J.シュタルク(独)：シュタルク効果の発見・研究
1920年　C.E.ギヨーム(仏)：ニッケル鋼の研究
1921年　A.アインシュタイン(米)：理論物理学の業績
1922年　N.ボーア(デ)：原子構造の研究
1923年　R.A.ミリカン(米)：電子の荷電量の精密測定
1924年　K.M.ジーグバーン(スウェ)：X線分光学の研究
1925年　J.フランク(独)・G.ヘルツ(独)：電子の衝突研究
1926年　J.B.ペラン(仏)：物質の不連続構造，特に沈降の平衡に関する研究
1927年　A.H.コンプトン(米)：コンプトン効果の発見，C.T.R.ウィルソン(英)：ウィルソン霧箱の発明，気体電離の研究
1928年　O.W.リチャードソン(英)：熱電子現象の研究
1929年　L.V.ド-ブロイ(仏)：波動力学の研究
1930年　C.V.ラーマン(印)：ラーマン効果の発見
1931年　受賞者なし
1932年　W.K.ハイゼンベルク(独)：量子力学の研究
1933年　P.A.M.ディラック(英)・E.シュレーディンガー(オ)：量子力学の研究
1934年　受賞者なし
1935年　J.チャドウィック(英)：中性子の発見
1936年　V.F.ヘス(オ)：宇宙線の発見，C.D.アンダーソン(米)：陽電子の発見
1937年　C.J.デービソン(米)・G.P.トムソン(英)：結晶体による電子の屈折に関する研究
1938年　E.フェルミ(伊)：中性子による人工放射能の研究
1939年　E.O.ローレンス(米)：サイクロトロンの発明
1943年　O.スターン(米)：原子の磁気能率の測定・研究
1944年　I.I.ラビ(米)：原子核磁気能率の測定
1945年　W.パウリ(オ)：パウリの禁制原理の発見
1946年　P.W.ブリジマン(米)：高圧物理学に関する業績
1947年　E.アップルトン(英)：電離層の研究
1948年　P.M.S.ブラケット(英)：宇宙線・原子核研究
1949年　湯川秀樹(日)：中間子論の研究
1950年　C.F.パウエル(英)：新中間子発見・研究
1951年　J.D.コックロフト(英)・E.T.S.ウォルトン(アイル)：高電圧加速装置による元素の変換の研究
1952年　F.ブロッホ(米)・E.M.パーセル(米)：

原子核磁気能率測定
1953年　F.ゼルニケ(蘭)：位相差顕微鏡完成
1954年　M.ボルン(英)：確率波量子力学研究，W.ボーテ(独)：粒子の散乱の実験で原子物理学の発展に貢献
1955年　W.E.ラムJr.(米)：水素スペクトルの構造に関する諸発見，P.クッシュ(米)：電子磁気能率精度測定
1956年　W.ブラッテン(米)・J.バーディン(米)・W.ショックレー(米)：点接合型トランジスターの発明改良によりラジオ・電話の発達に貢献
1957年　李政道(中)・楊振寧(中)：パリティの非保存に関する研究
1958年　P.A.チェレンコフ(ソ)・I.Y.タム(ソ)・I.M.フランク(ソ)：チェレンコフ効果の発見と解釈
1959年　E.セグレ(米)・O.チェンバレン(米)：反陽子の発見
1960年　D.A.グレーザー(米)：泡箱の発見
1961年　R.ホフスタッター(米)：原子核の原子散乱の研究と核子の構造に関する発見，R.L.メスバウアー(西独)：ガンマ線の研究
1962年　L.D.ランダウ(ソ)：極低温における物性論の研究
1963年　E.P.ウィグナー(米)：量子力学の対称性の発見と応用に関する業績，M.G.メイヤー(米)・H.D.イェンセン(西独)：原子核の殻構造理論の研究
1964年　C.H.タウンズ(米)・N.G.バソフ(ソ)・A.M.プロチョーロフ(ソ)：メーザー・レーザーの発明
1965年　朝永振一郎(日)・J.S.シュウィンガー(米)・R.P.ファインマン(米)：量子電気力学の基礎的研究
1966年　A.カストレル(仏)：原子内のヘルツ波共鳴の光学的方法の発明と開発
1967年　H.A.ベーテ(米)：核反応理論に対する貢献と，特に星におけるエネルギー発生に関する発見
1968年　L.W.アルバレス(米)：素粒子物理学に対する貢献，特に水素泡箱を使う技術とそのデータ解析に関する開発
1969年　M.ゲルマン(米)：素粒子の分類と，その相互作用に関する発見と功績
1970年　ルイ-ネール(仏)：反強磁性とフェリ磁性に関する研究と発見，ハンネス-アルベン(スウェ)：電磁流体力学に関する研究と発見
1971年　D.ガボール(英)：三次元写真に関する業績
1972年　J.バーディーン(米)・L.N.クーパー(米)・J.R.ジュリファー(米)：超伝導(超電導)理論の確立
1973年　江崎玲於奈(日)・I.ジェーバー(米)・B.ジョーゼフソン(英)：半導体におけるトンネル効果，超伝導体の実験的発見，ジョーゼフソン効果の理論的予言
1974年　M.ライル(英)・A.ヒューウィッシュ(英)：電波天文学における先駆的な研究
1975年　A.ボーア(デ)・B.R.モッテルソン(デ)・J.レーンウォーター(米)：原子核内の集団運動と粒子運動との結びつきの発見，原子核構造理論の展開
1976年　バートン-リヒター(米)・サミュエル-C.C.チン(米)：重い素粒子の発見
1977年　フィリップ-アンダーソン(米)・ネビル-F.モット(英)・ジョン-H.バンブレック(米)：磁性体および無秩序系の電子構造に関する理論的研究
1978年　P.L.カーピツァ(ソ)：低温物理学の基礎的研究，A.A.ペンジアス(米)・R.W.ウィルソン(米)：宇宙黒体放射の発見
1979年　S.L.グラショー(米)・S.ワインバーグ(米)・A.サラム(パキスタン)：原子核の中で働く「弱い力」と「電磁力」とを統一した理論
1980年　J.W.クローニン(米)・V.L.フィッチ(米)：中性K中間子崩壊における基本的対称性の破れの発見
1981年　K.シーグバーン(スウェ)：高分解能電子分光学の発展，N.ブルームバーゲン(米)・A.ショーロー(米)：レーザー分光学の発展

医学・生理学賞

1901年　E.A.フォン-ベーリング(独)：ジフテリア治療血清の創始
1902年　R.ロス(英)：マラリアカとマラリア発育環の発見
1903年　N.R.フィンセン(デ)：痘痕の光線療法
1904年　I.P.パブロフ(ソ)：消化腺生理学研究
1905年　R.コッホ(独)：細菌学の創始，諸細菌の発見
1906年　C.ゴルジ(伊)・S.ラモン-イ-カハール(西)：神経組織の構造研究
1907年　C.L.A.ラブラン(仏)：マラリア寄生体発見
1908年　P.エールリヒ(独)：免疫に関する貢献，E.メチニコフ(仏)：食菌現象の発見
1909年　E.T.コッヒャー(スイス)：甲状腺の研究
1910年　A.コッセル(独)：タンパク体・核酸研究
1911年　A.グルストランド(スウェ)：眼科光学理論
1912年　A.カレル(仏)：血管縫合・臓器移植
1913年　C.リシェ(仏)：過敏症の研究
1914年　R.バラニー(オ)：三半規管・平衡感覚の研究
1915～1918年　受賞者なし
1919年　J.ボルデ(ベ)：補体結合反応，百日ぜき菌発見
1920年　S.A.クローグ(デ)：毛細管運動調節研究
1921年　受賞者なし
1922年　A.V.ヒル(英)：筋肉中熱産物研究，O.マイエルホフ(独)：筋肉中の酸素の消耗と乳酸の産出の関係研究
1923年　F.G.バンティング(加)・J.J.R.マクラウド(スコット)：インシュリンの研究
1924年　W.アイントホーベン(蘭)：弦線電流計の発明とその医学的応用
1925年　受賞者なし
1926年　J.A.G.フィビガー(デ)：癌治療の研究
1927年　J.ワーグナー-フォン-ヤウレッグ(オ)：麻痺性マラリア療法
1928年　C.J.H.ニコル(仏)：発疹チフスの研究
1929年　C.エイクマン(蘭)：神経炎治療の研究，F.G.ホプキンス(英)：成長促進ビタミン発見
1930年　K.ラントシュタイナー(オ)：血液型の発見・研究
1931年　O.H.ワールブルク(独)：呼吸酵素の研究
1932年　C.S.シェリントン(英)・E.D.エードリアン(英)：神経細胞の機能に関する諸発見
1933年　T.H.モルガン(米)：ショウジョウバエの染色体・遺伝研究
1934年　G.R.マイノット(米)・W.P.マーフィー(米)・G.H.ホイップル(米)：貧血治療の研究
1935年　H.シュペーマン(独)：胎児成長における器管授与効果の研究
1936年　H.H.デール(英)・O.レービ(オ)：神経刺激の化学伝達に関する発見
1937年　A.フォン-セント-ジェルジ(ハ)：生物学的燃焼に関する諸発見
1938年　C.ハイマンス(ベ)：呼吸調節における大動脈の研究
1939年　G.ドマーク(独)：プロントジールの食菌効果の発見(辞退)
1943年　C.P.H.ダム(デ)・E.A.ドイジ(米)：ビタミンKの化学的性質の発見
1944年　J.アーランジャー(米)・H.S.ギャッサー(米)：神経繊維機能の研究
1945年　A.フレミング(英)・E.B.チェーン(英)・H.W.フローリー(英)：ペニシリンの発見
1946年　H.J.マラー(米)：X線による人工変異の研究
1947年　コリ夫妻(米)：デンプン新陳代謝の研究，B.A.ウーセイ(アルゼ)：粘液腺ホルモン研究
1948年　P.ミュラー(スイス)：DDT研究
1949年　W.R.ヘス(スイス)・A.E.モニス(ポルト)：精神分裂症のため前額部大脳神経切断手術に関する研
1950年　E.C.ケンダル(米)・P.S.ヘンチ(米)・T.ライヒシュタイン(スイス)：コーチゾンの発見
1951年　M.セイラー(南ア)：黄熱病ワクチン発見
1952年　S.A.ワックスマン(米)：ストレプトマイシン発見
1953年　F.A.リップマン(米)：人体細胞の働きに関する研究，H.A.クレブス(英)：人体基礎組織の研究
1954年　J.F.エンダース(米)・T.H.ウエーラー(米)・F.C.ロビンス(米)：小児麻痺のウイルス培養の完成
1955年　A.H.テオレル(スウェ)：酸化酵素の研究
1956年　A.F.コーナンド(米)・W.フォルスマン(西独)・D.W.リチャーズ(米)：消息子を挿入して心臓を調べる方法，循環器系の病的変化についての研究
1957年　D.ボベ(伊)：クラーレ作用物質の合成化学・薬理学的研究
1958年　G.W.ビードル(米)・E.L.テイタム(米)・J.レーダーバーグ(米)：遺伝子の組み替えとバクテリア遺伝物質の構造研究
1959年　S.オチョア(米)・A.コンバーグ(米)：リボ核酸およびデオキシリボ核酸の生物学的合成の機構発見
1960年　M.バーネット(豪)・P.B.メダウォア(英)：後天的免疫耐性を発見
1961年　G.フォン-ベケシー(ハ)：内耳の蝸牛殻における刺激の物理的構造研究
1962年　F.H.C.クリック(英)・J.D.ワトソン(米)・M.H.F.ウィルキンス(英)：核酸の分子構造と生物における情報伝達に対するその意義についての業績
1963年　J.C.エックルズ(豪)・A.L.ホジキン(英)・A.F.ハクスリー(英)：神経細胞膜に現われたイオン機構に関する発見
1964年　K.E.ブロッホ(米)・F.リネン(西独)：コレステロールと脂肪酸の生合成の機構と調節に関する発見
1965年　F.ジャコブ(仏)・A.ルウォフ(仏)・J.モノ(仏)：酵素とウイルスの合成の遺伝的制御研究
1966年　F.P.ラウス(米)：癌原性ウイルスの発見，C.B.バギンス(米)：前立腺癌のホルモン療法に関する発見
1967年　R.グラニット(スウェ)・H.K.ハートライン(米)・G.ウォールド(米)：視覚の初期過程における化学的・生理学的発見
1968年　R.ホーリー(米)・H.G.コラーナ(米)・M.W.ニレンバーグ(米)：遺伝情報の解読と，そのタンパク合成の役割
1969年　M.デルブリュック(米)・A.D.ハーシー(米)・S.E.ルリア(米)：ウイルスの増殖機構と遺伝学的な構造に関する発見
1970年　B.カッツ(英)・U.フォン-オイラー(スウェ)・J.アクセルロッド(米)：神経末梢部における伝達物質の発見と研究

1971年　A.W.サザランド(米)：ホルモン作用の機構に関する研究
1972年　J.M.エーデルマン(米)・P.R.ポーター(英)：抗体の化学構造に関する発見
1973年　K.フォン-フリッシュ(オーストリア出身)・K.ローレンツ(オーストリア出身)・N.ティンバーゲン(蘭)：個体的，社会的行動様式の組織と誘発に関する諸発見
1974年　A.クロード(ルクセンブルク出身)・C.R.デデューブ(英)・G.E.パラーディ(米)：細胞の構造と機能に関する発見
1975年　D.バルチモア(米)・H.M.テミン(米)・R.ダルベッコー(伊)：しゅようウイルスと遺伝子の相互作用に関する発見
1976年　バルーク-サミュエル-ブラムバーグ(米)：HB抗原の発見，カールトン-ガイジュセク(米)：クールー病の原因究明
1977年　ロジャー-ギルマン(米)・アンドリュー-シャリー(米)：脳のペプチドホルモンの生成，ロザリン-ヤロー(米)：ペプチドホルモンの同位元素標識免疫定量法
1978年　W.アルバー(スイス)・H.O.スミス(米)・D.ネーサンズ(米)：制限酵素の発見と分子遺伝学への応用
1979年　A.M.コーマック(米)・G.N.ハウンズフィールド(英)：CTスキャナーの開発
1980年　G.D.スネル(米)・J.ドーセ(仏)・B.ベナセラフ(米)：細胞表面の遺伝的に決められた構造についての研究
1981年　R.スペリ(米)：大脳半球の機能分化を解明，D.H.ヒューベル(米)・T.N.ウィーゼル(ウウェ)：目の網膜からくる情報が脳の視覚領の各細胞でいかに処理されるかを研究した業績

経済学賞

1969年　ヤン-チンベルヘン(蘭)・ラグナル-リッシュ(ノ)：経済過程の動態分析を応用・発展させた功績
1970年　P.A.サミュエルソン(米)：静態的・動態的経済理論を展開して経済学の分析水準を高めた
1971年　S.グズネッツ(米)：GNP算出方法の考案
1972年　J.R.ヒックス(英)・K.J.アロー(米)：一般経済の均衡理論と福祉理論の発展に貢献
1973年　W.レオンチェフ(米)：投入産出表の開発とその応用
1974年　G.ミュルダール(スウェ)・F.フォン-ハイエフ(オ)：貨幣と経済変動の先駆的業績と経済，社会制度の相互依存関係の分析
1975年　L.カントロビッチ(ソ)・T.C.クープマンズ(米)：資源の適正配分の理論の発展に貢献
1976年　ミルトン-フリードマン(米)：消費分析，通貨史と通貨理論の分野における業績と経済安定政策の実証
1977年　ベルチル-オリーン(スウェ)・ジェームズ-ミード(英)：国際貿易，国際資本移動についての理論的貢献
1978年　H.A.サイモン(米)：経済組織内における意思決定過程の研究の先覚的業績
1979年　T.W.シュルツ(米)・W.A.ルーイス(英)：経済発展理論とりわけ発展途上国の諸問題についての考察に先駆的な研究
1980年　L.R.クライン(米)：経済変動の分析と経済政策に対する経済モデルをつくりあげた業績
1981年　J.トービン(米)：支出等に関連しての金融市場についての研究

4. 碁・将棋年次成績

(　) は引き分け数

基本因坊戦

期	年次	勝　者	スコア	対局者
1	1942	関山　利一	3－3	加藤　信
(打分け，規定で予選1位の関山優勝)				
2	1944	橋本宇太郎	2－0	関山　利一
(第2局以後，関山病気で橋本不戦勝)				
3	1946	岩本　薫	5－3	橋本宇太郎
4	1947	岩本　薫	3－2	木谷　実
5	1950	橋本宇太郎	4－0	岩本　薫
6	1951	橋本宇太郎	4－3	坂田　栄男
7	1952	高川　格	4－1	橋本宇太郎
8	1953	高川　格	4－2	木谷　実
9	1954	高川　格	4－2	杉内　雅男
10	1955	高川　格	4－0	島村　俊宏
11	1956	高川　格	4－2	島村　俊宏
12	1957	高川　格	4－2	藤沢　明斎
13	1958	高川　格	4－2	杉内　雅男
14	1959	高川　格	4－2	木谷　実
15	1960	高川　格	4－2	藤沢　秀行
16	1961	坂田　栄男	4－1	高川　格
17	1962	坂田　栄男	4－1	半田　道玄
18	1963	坂田　栄男	4－2	高川　格
19	1964	坂田　栄男	4－0	高川　格
20	1965	坂田　栄男	4－0	山部　俊郎
21	1966	坂田　栄男	4－0	藤沢　秀行
22	1967	坂田　栄男	4－1	林　海峯
23	1968	林　海峯	4－3	坂田　栄男
24	1969	林　海峯	4－2	加藤　正夫
25	1970	林　海峯	4－0	坂田　栄男
26	1971	石田　芳夫	4－2	林　海峯
27	1972	石田　芳夫	4－3	林　海峯
28	1973	石田　芳夫	4－0	林　海峯
29	1974	石田　芳夫	4－3	武宮　正樹
30	1975	石田　芳夫	4－3	坂田　栄男
31	1976	武宮　正樹	4－1	石田　芳夫
32	1977	加藤　正夫	4－1	武宮　正樹
33	1978	加藤　正夫	4－3	石田　芳夫
34	1979	加藤　正夫	4－1	林　海峯
35	1980	武宮　正樹	4－1	加藤　正夫
36	1981	趙　治勲	4－2	武宮　正樹

名人戦

期	年次	勝　者	スコア	対局者
1	1962	藤沢　秀行(総当りリーグ)		
2	1963	坂田　栄男	4－3	藤沢　秀行
3	1964	坂田　栄男	4－1	藤沢　秀行
4	1965	林　海峯	4－2	坂田　栄男
5	1966	林　海峯	4－1	坂田　栄男
6	1967	林　海峯	4－1	坂田　栄男
7	1968	高川　格	4－1	林　海峯
8	1969	林　海峯	4－2	高川　格
9	1970	藤沢　秀行	4－2	林　海峯
10	1971	林　海峯	4－2	藤沢　秀行
11	1972	林　海峯	4－2	藤沢　秀行
12	1973	林　海峯	4－3	石田　芳夫
13	1974	石田　芳夫	4－3	林　海峯
14	1975	大竹　英雄	4－3	石田　芳夫
1	1976	大竹　英雄	4－1	石田　芳夫
2	1977	林　海峯	4－0	大竹　英雄
3	1978	大竹　英雄	4－2	林　海峯
4	1979	大竹　英雄	4－1	坂田　栄男
5	1980	趙　治勲	4－1(1)	大竹　英雄
6	1981	趙　治勲	4－0	加藤　正夫

10段戦

期	年次	勝　者	スコア	対局者
1	1962	橋本宇太郎	3－1	半田　道玄
2	1963	半田　道玄	3－1	橋本宇太郎
3	1964	藤沢　明斎	3－2	半田　道玄
4	1965	高川　格	3－1	藤沢　明斎
5	1966	坂田　栄男	3－1	高川　格
6	1967	坂田　栄男	3－2	藤沢　明斎
7	1968	坂田　栄男	3－1	藤沢　秀行
8	1969	大竹　英雄	3－0	坂田　栄男
9	1970	橋本宇太郎	3－2	大竹　英雄
10	1971	坂田　栄男	3－2	橋本宇太郎
11	1972	坂田　栄男	3－0	高木　洋一
12	1973	橋本　昌二	3－1	坂田　栄男
13	1974	林　海峯	3－0	橋本　昌二
14	1976	加藤　正夫	3－2	林　海峯
15	1977	加藤　正夫	3－0	坂田　栄男
16	1978	加藤　正夫	3－1	林　海峯
17	1979	加藤　正夫	3－1	林本　昌二
18	1980	大竹　英雄	3－2	加藤　正夫
19	1981	大竹　英雄	3－0	橋本　昌二

日本棋院選手権戦

期	年次	勝　者	スコア	対局者
1	1953	高川　格	2－0	篠原　正美
2	1954	坂田　栄男	2－1	高川　格
3	1955	坂田　栄男	2－1	杉内　雅男
4	1956	坂田　栄男	2－1	杉内　雅男
5	1957	坂田　栄男	2－0	木谷　実
6	1958	坂田　栄男	2－0	高川　格
7	1959	坂田　栄男	2－0	高川　格
8	1960	坂田　栄男	2－1	藤沢　秀行
9	1961	高川　格	3－0	坂田　栄男
10	1962	高川　格	3－1	山部　俊郎
11	1963	坂田　栄男	3－0	高川　格
12	1964	坂田　栄男	3－1	宮下　秀洋
13	1965	大平　修三	3－1	坂田　栄男
14	1966	大平　修三	3－2	林　海峯
15	1967	大平　修三	3－2	山部　俊郎
16	1968	大平　修三	3－0	宮下　秀洋
17	1969	石田　芳夫	3－1	大平　修三
18	1970	石田　芳夫	3－0	武宮　正樹
19	1971	大平　修三	3－1	石田　芳夫
20	1972	坂田　栄男	3－1	大平　修三
21	1973	坂田　栄男	3－2	加藤　正夫
22	1974	坂田　栄男	3－2	趙　治勲

1975年より天元戦

期	年次	勝　者	スコア	対局者
1	1975	藤沢　秀行	3－1	大平　修三
2	1976	小林　光一	3－1	杉内　雅男
3	1977	島村　俊広	3－1	苑田　勇一
4	1978	加藤　正夫	3－1	藤沢　秀行

5	1979	加藤 正夫	3－0	片岡 聡
6	1980	加藤 正夫	3－0	山部 俊郎
7	1981	加藤 正夫	3－2	小林 光一

将棋名人戦

1	1937	木村 義雄	（8段総当りリーグ）	
2	1940	木村 義雄	4－1	土居市太郎
3	1942	木村 義雄	4－0	神田辰之助
4	1944	木村 義雄	（挑戦資格者なし）	
5	1945	木村 義雄	（　〃　）	
6	1947	塚田 正夫	4－1(1)	木村 義雄
7	1948	塚田 正夫	4－2	大山 康晴
8	1949	木村 義雄	3－2	塚田 正夫
9	1950	木村 義雄	4－2	大山 康晴
10	1951	木村 義雄	4－2	升田 幸三
11	1952	大山 康晴	4－1	木村 義雄
12	1953	大山 康晴	4－1	升田 幸三
13	1954	大山 康晴	4－1	升田 幸三
14	1955	大山 康晴	4－2	高島一岐代
15	1956	大山 康晴	4－0	花村 元司
16	1957	升田 幸三	4－2	大山 康晴
17	1958	升田 幸三	4－2(1)	大山 康晴
18	1959	大山 康晴	4－1	升田 幸三
19	1960	大山 康晴	4－1	加藤一二三
20	1961	大山 康晴	4－1	丸田 祐三
21	1962	大山 康晴	4－0	二上 達也
22	1963	大山 康晴	4－1	升田 幸三
23	1964	大山 康晴	4－2	二上 達也
24	1965	大山 康晴	4－1	山田 道美
25	1966	大山 康晴	4－2	升田 幸三
26	1967	大山 康晴	4－1	二上 達也
27	1968	大山 康晴	4－0	升田 幸三
28	1969	大山 康晴	4－3	有吉 道夫
29	1970	大山 康晴	4－1	灘 蓮照
30	1971	大山 康晴	4－3	升田 幸三
31	1972	中原 誠	4－3	大山 康晴
32	1973	中原 誠	4－0	加藤一二三
33	1974	中原 誠	4－3	大山 康晴
34	1975	中原 誠	4－3(1)	大内 延介
35	1976	中原 誠	4－3	米長 邦雄
36	1978	中原 誠	4－2	森 鶏二
37	1979	中原 誠	4－2	米長 邦雄
38	1980	中原 誠	4－1(1)	米長 邦雄

王将戦

1回	1951	木村 義雄	4－2	丸田 祐三
1期	1952	升田 幸三	4－2	木村 義雄
2	1953	大山 康晴	4－3	丸田 祐三
3	1954	大山 康晴	4－2	升田 幸三
4	1955	大山 康晴	4－1	松田 茂行
5	1956	升田 幸三	4－2	大山 康晴
6	1957	升田 幸三	4－2	大山 康晴
7	1958	大山 康晴	4－3	升田 幸三
8	1959	大山 康晴	3－0	高島一岐代
9	1960	大山 康晴	4－2	二上 達也
10	1961	大山 康晴	4－2	二上 達也
11	1962	大山 康晴	3－0	加藤一二三
12	1963	二上 達也	4－2	大山 康晴
13	1964	大山 康晴	3－0	二上 達也
14	1965	大山 康晴	4－1	加藤 博二
15	1966	大山 康晴	4－3	山田 道美
16	1967	大山 康晴	4－1	加藤一二三
17	1968	大山 康晴	4－2	加藤一二三
18	1969	大山 康晴	4－0	内藤 国雄
19	1970	大山 康晴	4－1	二上 達也
20	1971	大山 康晴	4－3	中原 誠
21	1972	大山 康晴	4－3	有吉 道夫
22	1973	中原 誠	4－0	大山 康晴
23	1974	中原 誠	4－2	米長 邦雄
24	1975	中原 誠	4－3	米長 邦雄
25	1976	中原 誠	4－1	有吉 道夫
26	1977	中原 誠	4－2	大山 康晴
27	1978	中原 誠	4－2	有吉 道夫
28	1979	加藤一二三	4－1	中原 誠
29	1980	大山 康晴	4－2	加藤一二三
30	1981	大山 康晴	4－1	米長 邦雄

10段戦

1	1962	大山 康晴	4－3	升田 幸三
2	1963	大山 康晴	4－3	升田 幸三
3	1964	大山 康晴	4－2	升田 幸三
4	1965	大山 康晴	4－3	二上 達也
5	1966	大山 康晴	4－1	二上 達也
6	1967	大山 康晴	4－1(1)	二上 達也
7	1968	加藤一二三	4－3	大山 康晴
8	1969	大山 康晴	4－2(2)	加藤一二三
9	1970	中原 誠	4－2	大山 康晴
10	1971	中原 誠	4－2	大山 康晴
11	1972	中原 誠	4－1	大山 康晴
12	1973	大山 康晴	4－3	中原 誠
13	1974	中原 誠	4－1	大山 康晴
14	1975	中原 誠	4－0	大山 康晴
15	1976	中原 誠	4－3	加藤一二三
16	1977	中原 誠	4－3	加藤一二三
17	1978	中原 誠	4－3	米長 邦雄
18	1979	中原 誠	4－1	米長 邦雄
19	1980	加藤一二三	4－1	中原 誠
20	1981	加藤一二三	4－2	米長 邦雄

棋聖戦

1	1962	大山 康晴	3－1	塚田 正夫
2	1963	大山 康晴	3－0	二上 達也
3	〃	大山 康晴	3－1	升田 幸三
4	1964	大山 康晴	3－0	関根 茂
5	〃	大山 康晴	3－0	本間 爽悦
6	1965	大山 康晴	3－2	升田 幸三
7	〃	大山 康晴	3－2	二上 達也
8	1966	二上 達也	3－1	大山 康晴
9	〃	大山 康晴	3－0	二上 達也
10	1967	山田 道美	3－1	大山 康晴
11	1968	山田 道美	3－2	中原 誠
12	〃	中原 誠	3－1	山田 道美
13	1969	中原 誠	3－1	大山 康晴
14	〃	中原 誠	3－0	山田 道美
15	1970	内藤 国雄	3－0	中原 誠
16	〃	大山 康晴	3－1	内藤 国雄
17	1971	中原 誠	3－0	大山 康晴
18	〃	中原 誠	3－1	大山 康晴
19	1972	中原 誠	3－1	二上 達也
20	〃	中原 誠	3－1	内藤 国雄
21	1973	有吉 道夫	3－2	中原 誠
22	〃	米長 邦雄	3－1	有吉 道夫
23	1974	内藤 国雄	3－2	米長 邦雄
24	〃	大山 康晴	3－1	内藤 国雄
25	1975	大山 康晴	3－0	米長 邦雄
26	〃	大山 康晴	3－1	二上 達也
27	1976	大山 康晴	3－0	二上 達也
28	〃	大山 康晴	3－1	桐山 清澄
29	1977	大山 康晴	3－2	米長 邦雄
30	〃	大山 康晴	3－1	森 鶏二
31	1978	中原 誠	3－2	大山 康晴
32	〃	中原 誠	3－0	有吉 道夫
33	1979	中原 誠	3－1	二上 達也
34	〃	中原 誠	3－1	加藤一二三
35	1980	中原 誠	3－0	淡路 仁茂
36	〃	米長 邦雄	3－1	中原 誠
37	1981	二上 達也	3－1	米長 邦雄
38	〃	二上 達也	3－0	中原 誠

王位戦

1	1960	大山 康晴	4－1	塚田 正夫
2	1961	大山 康晴	4－1	丸田 祐三
3	1962	大山 康晴	4－0	花村 元司
4	1963	大山 康晴	4－2	加藤一二三
5	1964	大山 康晴	4－2	二上 達也
6	1965	大山 康晴	4－0	佐藤大五郎
7	1966	大山 康晴	4－1	有吉 道夫
8	1967	大山 康晴	4－1	大内 延介
9	1968	大山 康晴	4－2	有吉 道夫
10	1969	大山 康晴	4－2	西村 一義
11	1970	大山 康晴	4－1	米長 邦雄
12	1971	大山 康晴	4－3	中原 誠
13	1972	内藤 国雄	4－1	大山 康晴
14	1973	中原 誠	4－0	内藤 国雄
15	1974	中原 誠	4－2	米長 邦雄
16	1975	中原 誠	4－2	内藤 国雄
17	1976	中原 誠	4－2	勝浦 修
18	1977	中原 誠	4－2	米長 邦雄
19	1978	中原 誠	4－1	大山 康晴
20	1979	米長 邦雄	4－3	中原 誠
21	1980	中原 誠	4－0	米長 邦雄
22	1981	中原 誠	4－3	大山 康晴

5. 文化勲章・文化功労者・学士院恩賜賞・芸術院恩賜賞受賞者一覧

文化勲章

第1回 (1937) 長岡半太郎・本多光太郎・木村栄・佐佐木信綱・幸田露伴・岡田三郎助・藤島武二・竹内栖鳳・横山大観
第2回 (1940) 高木貞治・西田幾太郎・川合玉堂・佐々木隆興
第3回 (1943) 伊東忠太・鈴木梅太郎・朝比奈泰彦・湯川秀樹・徳富蘇峰(1946年返上)・三宅雪嶺・和田英作
第4回 (1944) 田中館愛橘・岡部金治郎・志賀潔・稲田龍吉・狩野直喜・高楠順次郎
第5回 (1946) 中田薫・宮部金吾・俵国一・仁科芳雄・梅若万三郎・岩波茂雄
第6回 (1948) 木原均・長谷川如是閑・安田靫彦・朝倉文夫・上村松園
第7回 (1949) 6代目尾上菊五郎(はじめて故人に追贈)
第8回 (1949) 津田左右吉・鈴木大拙・三浦謹之助・岡田武松・真島利行・谷崎潤一郎・志賀直哉
第9回 (1950) 牧野英一・田辺元・藤井健次郎・三島徳七・小林古径・土井晩翠・正宗白鳥
第10回 (1951) 柳田国男・光田健輔・西川正治・菊池正士・斎藤茂吉・武者小路実篤・初代中村吉右衛門
第11回 (1952) 梅原龍三郎・熊谷岱蔵・佐々木惣一・辻善之助・朝永振一郎・永井荷風・安井曾太郎
第12回 (1953) 板谷波山・宇井伯寿・香取秀真・喜多六平太・羽田亨・矢部長克
第13回 (1954) 勝沼精蔵・鏑木清方・金田一京助・高浜虚子・萩原雄祐
第14回 (1955) 大谷竹次郎・稀音家浄観・平沼亮三・二本謙三・前田青邨・増本量・和辻哲郎
第15回 (1956) 安藤広太郎・古畑種基・村上武次郎・八木秀次・新村出・坂本繁二郎・山田耕筰
第16回 (1957) 牧野富太郎(追贈)
第17回 (1957) 緒方知三郎・久保田万太郎・西山翠嶂・山田孝雄・吉住小三郎・小平邦彦
第18回 (1958) 北村西望・近藤平三郎・野副鉄男・松林桂月
第19回 (1959) 小泉信三・丹羽保次郎・吉田富三・川端龍子・里見弴
第20回 (1960) 田中耕太郎・岡潔・佐藤春夫・吉川英治
第21回 (1961) 鈴木虎雄・水島三一郎・川端康成・堂本印象・福田平八郎・富本憲吉
第22回 (1962) 梅沢浜夫・桑田義備・平櫛田中・奥村土牛・中村岳陵
第23回 (1963) 久野寧・古賀逸策
第24回 (1964) 茅誠司・大仏次郎・藪田貞治郎・吉田五十八・我妻栄
第25回 (1965) 赤堀四郎・小絲源太郎・諸橋轍次・山口蓬春・山本有三
第26回 (1966) 井伏鱒二・徳岡神泉・仁田勇
第27回 (1967) 坂口謹一郎・林武・村野藤吾・山県昌夫・小林秀雄
第28回 (1968) 黒川利雄・鈴木雅次・浜田庄司・堅山南風
第29回 (1969) 獅子文六(岩田豊雄)・落合英二・正田建次郎・東山魁夷・ニール-A-アームストロング・エドウィン-E-オルドリン・マイケル-コリンズ
第30回 (1970) 沖中重雄・棟方志功
第31回 (1971) 赤木正雄・荒川豊蔵・野上弥生子・安井琢磨
第32回 (1972) 内田祥三・小野清一郎・岡鹿之助・早石修
第33回 (1973) 勝木保次・久保亮五・瀬藤象二・谷口吉郎・石原謙
第34回 (1974) 石坂公成・江崎玲於奈・杉山寧・永田武・橋本明治
第35回 (1975) 江橋節郎・小山敬三・田崎広助・中川一政・広中平祐
第36回 (1976) 井上靖・木村資生・森嶋通夫・小野竹喬・松田権六
第37回 (1977) 桜田一郎・田宮博・中村元・丹羽文雄・山本正義
第38回 (1978) 尾崎一雄・楠部弥弌(弥一)・杉村隆・田中美知太郎・南部陽一郎
第39回 (1979) 今西錦司・中村歌右衛門(河村藤雄)・沢田政広(寅吉)・高橋誠一郎・堀口大学
第40回 (1980) 小倉遊亀・小谷正雄・丹下健三・東畑精一・中村勘三郎(波野聖司)
第41回 (1981) 高柳健次郎・永井竜男・松本白鸚・山口華楊・横田喜三郎・福井謙一

文化功労者

第1回 (1951) 田中館愛橘・本多光太郎・鈴木大拙・土井晩翠・志賀潔・俵国一・津田左右吉・藤井健次郎・川合玉堂・岡田武松・真島利行・和田英作・長谷川如是閑・高木貞治・横山大観・中田薫・伊東忠太・牧野英一・佐々木隆興・佐佐木信綱・正宗白鳥・朝比奈泰彦・小林古径・志賀直哉・朝倉文夫・安田靫彦・田辺元・谷崎潤一郎・光田健輔・牧野富太郎・湯川秀樹・岡部金治郎・木原均・三島徳七
第2回 (1952) 柳田国男・菊池正士・斎藤茂吉・武者小路実篤・中村吉右衛門・梅原龍三郎・熊谷岱蔵・佐々木惣一・辻善之助・朝永振一郎・永井荷風・安井曾太郎・宇井伯寿・矢部長克・山崎朝雲
第3回 (1953) 安藤広太郎・板谷波山・香取秀真・神戸正雄・喜多六平太・北島多一・小川未明・中村清二・羽田亨・山田孝雄
第4回 (1954) 山田三良・塩田広重・松村松年・平櫛田中・山田耕筰・金田一京助・萩原雄祐・勝沼精蔵・鏑木清方・高浜虚子
第5回 (1955) 渋沢元治・山下新太郎・喜多村緑郎・和辻哲郎・二木謙三・増本量・前田青邨・稀音家浄観・大谷竹次郎・平沼亮三
第6回 (1956) 槇有恒・小森七郎・新村出・坂本繁二郎・村上武次郎・八木秀次・古畑種基
第7回 (1957) 中沢弘光・加藤与五郎・柳宗悦・塩入松三郎・富崎春昇・小平邦彦・緒方知三郎・久保田万太郎・吉住小三郎・西山翠嶂
第8回 (1958) 和田三造・鈴木虎雄・窪田空穂・高橋里美・安藤こう・亀山直人・北村西望・近藤平三郎・野副鉄男・松林桂月
第9回 (1959) 上野直昭・市河三喜・伊藤誠哉・辻永・吉田文五郎・小泉信三・丹羽保次郎・吉田富三・川端龍子・里見弴
第10回 (1960) 今村荒男・田中寛一・武内義雄・豊竹山城少掾・小野鑑正・坂東三津五郎・田中耕太郎・岡潔・佐藤春夫・吉川英治
第11回 (1961) 天野貞祐・田中芳雄・古武弥四郎・石原忍・三船久蔵・水島三一郎・川端康成・堂本印象・福田平八郎・富本憲吉
第12回 (1962) 内藤多仲・石原謙・高橋誠一郎・辰野隆・柴田雄次・清元寿兵衛・梅沢浜夫・奥村土牛・中村岳陵・桑田義備
第13回 (1963) 梅原末治・小野寺直助・市川寿海・堅山南風・小林秀雄・信時潔・梅原龍三郎・松田権六・久野寧・古賀逸策
第14回 (1964) 尾崎士郎(追贈)
第15回 (1964) 花柳章太郎・有島生馬・藤蔭静樹・高田保馬・山口益・茅誠司・大峯次郎・藪田貞治郎・吉田五十八・我妻栄
第16回 (1965) 高見順(追贈)
第17回 (1965) 市川佐団次・荒川文六・野上弥生子・本庄栄治郎・真嶋正市・赤堀四郎・小絲源太郎・諸橋轍次・山口蓬春・山本有三
第18回 (1966) 東山千栄子・高石真五郎・恒藤恭・久松潜一・堀場信吉・松本信一・山崎覚太郎・井伏鱒二・徳岡神泉・仁田勇
第19回 (1967) 河竹繁俊・高木八尺・鳥養利三郎・中田瑞穂・新関良三・豊道春海(慶中)・坂口謹一郎・林武・村野藤吾・山県昌夫
第20回 (1968) 黒川利雄・鈴木雅次・浜田庄司・小野竹喬・相良守峯・鈴木翠軒・園正造・中山伊知郎・福原麟太郎・山田抄太郎
第21回 (1969) 獅子文六・落合英二・正田建次郎・東山魁夷・桐竹紋十郎・兼重寛九郎・島秀雄・宮沢俊義・山鹿清華・吉川幸次郎
第22回 (1970) 麻生磯次・岩田藤七・岡田要・沖中重雄・小山敬三・東畑精一・堀口大学・棟方志功・矢代幸雄・渡辺寧
第23回 (1971) 赤木正雄・荒川豊蔵・安井琢磨・波野聖司(中村勘三郎)・西脇順三郎・服部四郎・平塚英吉・松野八重子(水谷八重子)・森戸辰男・和達清夫
第24回 (1972) 内田祥三・小野清一郎・岡鹿之助・早石修・今西錦司・河上徹太郎・河村藤雄(中村歌右衛門)・楠部弥弌・坂本太郎・田中美知太郎
第25回 (1973) 勝木保次・久保亮五・瀬藤象二・谷口吉郎・鹿島守之助・川口松太郎・斎藤秀雄・沢田政広・海音寺潮五郎・永井竜男
第26回 (1974) 石坂公成・江崎玲於奈・杉山寧・永田武・橋本明治・石田茂作・石山春子(杉村春子)・高橋亀吉・瀧井孝作・山内得立
第27回 (1975) 田崎広助・中川一政・江橋節郎・広中平祐・大塚久雄・四世井上八千代・斎藤勇・舟橋聖一・横田喜三郎・吉識雅夫
第28回 (1976) 井上靖・木村資生・森嶋通夫・貝塚茂樹・清水六兵衛・黒沢明・坂村徹・芹沢介・沼知福三郎・松本重治
第29回 (1977) 桜田一郎・田宮博・中村元・丹羽文雄・山本丘人・太田黒元雄・岡義武・小谷正雄・中西悟堂・西川寧
第30回 (1978) 東郷青児(追贈)
第31回 (1978) 尾崎一雄・杉村隆・南部陽一郎・小倉遊亀・今日出海・武井武・辻直四郎・坪井誠太郎・福沢一郎・松本幸四郎
第32回 (1979) 今井功・円地文子・桑原武夫・小磯良平・高橋信次・高山辰雄・丹下健三・辻清明・藤間勘十郎(秀雄)・武藤清
第33回 (1980) 安東聖空・清水多嘉示・末永雅雄・田中二郎・高橋秀俊・高柳健次郎・津田恭介・中村汀女・中村鴈治郎・山口華楊

第34回 (1981) 有沢広巳・山本健吉(石橋貞吉)・荻須高徳・奥田元宋(厳三)・田辺尚雄・手塚富雄・名取礼二・森野米三・米川文子・福井謙一

学士院恩賜賞

第1回 (1911)〈地軸変動の研究特にZ項の発見〉木村栄

第2回 (1912)〈仏文日清戦役国際法論および仏文日露陸戦国際法論〉有賀長雄,〈日本医学史〉富士川游,〈公孫樹の精虫の発見〉平瀬作五郎,〈蘇鉄の精虫の発見〉池野成一郎

第3回 (1913)〈続日本後紀纂詁〉村岡長弼,〈脳神経起首の研究〉上坂熊勝

第4回 (1914)〈哺乳動物の心臓における刺激伝導筋系統の研究〉田原淳

第5回 (1915)〈スピーヘータパリーダの研究〉野口英世

第6回 (1916)〈仮名に関する研究〉大矢透,〈周公とその時代〉林泰輔,〈黄疸出血性スピロヘータ病に関する共同研究〉稲田龍吉・井戸泰

第7回 (1917)〈日本歌学史および和歌史の研究〉佐佐木信綱,〈ラウエ映画の実験方法およびその説明に関する研究〉寺田寅彦

第8回 (1918)〈宸記集および皇室御撰解題〉和田英松,〈印度六派哲学〉木村泰賢,〈植物界におけるフラボン体の研究〉柴田桂太

第9回 (1919)〈相対性原理万有引力論および量子論の研究〉石原純

第10回 (1920)〈法制史の研究〉三浦周行,〈脂油の研究〉辻本満丸

第11回 (1921)〈日本仏教史の研究〉辻善之助,〈脳の解剖的研究〉布施現之助

第12回 (1922)〈スタルク効果の共同研究〉高嶺俊夫・吉田卯三郎

第13回 (1923)〈近世日本国民史〉徳富猪一郎,〈本朝文粋註釈〉柿村重松,〈漢薬成分の化学的研究〉朝比奈泰彦,〈放射線に関する研究〉木下季吉

第14回 (1924)〈長慶天皇御即位の研究〉八代国治,〈蛋白質およびこれを構成するアミノ酸の細菌による分解とアミノ酸の合成に関する研究〉佐々木隆興

第15回 (1925)〈三階教の研究〉矢吹慶輝,〈構造物の振動ことにその耐震性の研究〉物部長穂

第16回 (1926)〈日本紋章学〉沼田頼輔,〈中国地方の古生層ならびに中生層の層位学上の研究〉小沢儀明

第17回 (1927)〈唐宋時代における金銀の研究〉(ただしその貨幣的機能を中心として)加藤繁,〈金属錯塩の分光化学的研究〉柴田雄次

第18回 (1928)〈租税研究〉神戸正雄,〈連立積分方程式およびこれに関連せる関数論的研究〉掛谷宗一

第19回 (1929)〈地球および地殻の剛性ならびに地震動に関する研究〉志田順

第20回 (1930)〈日本人の動脈系統〉足立文太郎

第21回 (1931)〈地震波の生成伝播その他に関する理論的研究〉妹沢克雄

第22回 (1932)〈アイヌ叙事詩,ユーカラの研究〉金田一京助,〈深処に発生せる地震に関する研究〉和達清夫

第23回 (1933)〈光弾性の研究〉辻二郎,〈脂肪酸およびこれを含有する生物体成分の研究〉鈴木文助

第24回 (1934)〈唐令拾遺〉仁井田陞,〈火成岩の成因に関する研究〉坪井誠太郎

第25回 (1935)〈郷歌および吏読の研究〉小倉進平,〈聖徳太子御製 法華義疏の研究〉花山信勝

第26回 (1936)〈原語による台湾高砂族伝説集〉小川尚義,〈O-Amidoazotoluol の経口的投与による肝臓癌成生の実験的共同研究〉佐々木隆興・吉田富三

第27回 (1937)〈化学反応速度の熱解析〉堀場信吉,〈写真電送装置に関する研究〉丹羽保次郎

第28回 (1938) 該当者なし

第29回 (1939)〈石門心学史の研究〉石川謙,〈脊髄副交感神経に関する研究〉呉建

第30回 (1940)〈能楽源流考〉能勢朝次,〈素粒子間の相互作用に関する理論的研究ならびに宇宙線中の新粒子メソトロンの存在に対する予言〉湯川秀樹,〈化学反応速度論の理論および実験的研究〉堀内寿郎

第31回 (1941)〈敦煌画の研究,図像編〉松本栄一,〈磁電管に関する研究〉岡部金治郎,〈人体発汗の研究〉久野寧

第32回 (1942)〈マライシアにおける稲米儀礼〉宇野円空

第33回 (1943)〈戦時国際法講義〉信夫淳平,〈血液型の研究〉古畑種基,〈小麦の細胞遺伝学的研究〉木原均

第34回 (1944)〈唾液腺の内分泌に関する研究〉緒方知三郎

第35回 (1945)〈特殊鋼ことにMK磁石鋼の研究〉三島徳七,〈羅馬法〉船田享二,〈皇室御経済史の研究〉奥野高弘

第36回 (1946)〈異常特性を有する鉄合金の研究〉増本量

第37回 (1947)〈神話学原論〉松村武雄

第38回 (1948)〈上代倭絵年表上代倭絵全史〉家永三郎

第39回 (1949)〈シノメニンに関する研究〉後藤格次

第40回 (1950)〈二中間子理論〉坂田昌一

第41回 (1951)〈油脂ことに海産物物油に関する研究〉外山修之

第42回 (1952)〈雲岡石窟(共同研究)〉水野清一・長広敏雄

第43回 (1953)〈吉田肉腫の病理学的研究〉吉田富三

第44回 (1954)〈慶陵(共同研究)〉田村実造・小林行雄

第45回 (1955)〈低温度星の分光学的研究〉藤田良雄

第46回 (1956)〈ポーラログラフィーの研究(共同研究)〉志方益三・舘勇

第47回 (1957)〈初期ベーダーンタ哲学史〉中村元

第48回 (1958)〈ギリシア・ローマ演劇史〉新関良三

第49回 (1959)〈航空力学への寄与〉今井功

第50回 (1960)〈醍醐寺五重塔の壁画(共同研究)〉高田修・伊東卓治・山崎一雄・上野アキ・柳沢孝・宮次男

第51回 (1961)〈自律神経に関する研究〉冲中重雄

第52回 (1962)〈近代日本文学における浪漫主義の研究〉笹淵友一

第53回 (1963)〈反強磁性体の理論的研究〉永宮健夫

第54回 (1964)〈耐震構造に関する研究〉武藤清

第55回 (1965)〈上代日本文学と中国文学〉小島憲之

第56回 (1966)〈原始仏教聖典の成立史研究〉前田恵学

第57回 (1967)〈近代解析の研究〉吉田耕作

第58回 (1968)〈西夏語の研究〉西田龍雄

第59回 (1969)〈非可逆過程の統計力学における線型応答理論〉久保亮五

第60回 (1970)〈日鮮関係史の研究〉中村栄孝,〈放射線重合に関する研究〉岡村誠三

第61回 (1971)〈小野組の研究〉宮本又次,〈核反応と恒星の進化に関する研究〉林忠四郎

第62回 (1972)〈江戸時代の詩風詩論,明清の詩論とその摂取〉松下忠,〈筋の収縮および弛緩の機構に関する研究〉江橋節郎

第63回 (1973)〈営造法式の研究〉竹島卓一,〈極低温における稀薄磁性合金の電気抵抗の極小に関する研究〉近藤淳

第64回 (1974)〈金史研究〉三上次男,〈免疫グロブリンEの発見とレアギン型アレルギーの機序研究〉石坂公成

第65回 (1975)〈如来蔵思想の形成〉高崎直道,〈すだれコリメータの発明とX線天文学への寄与〉小田稔

第66回 (1976)〈胃がん発生に関する実験的研究〉杉村隆

第67回 (1977)〈X線による生体病理解剖の研究〉高橋信次

第68回 (1978)〈確率微分方程式の研究〉伊藤清

第69回 (1979)〈土星衛星,人工衛星及び小惑星の運動の研究〉古在由秀

第70回 (1980)〈細胞融合現象の解析と細胞工学的応用〉岡田善雄

第71回 (1981)〈インターフェロンの研究〉長野泰一

芸術院恩賜賞

(恩賜賞は第6回から設けられた)

第6回 (1949) 小場恒吉
第7回 (1950) 三宅克己
第8回 (1951) 白滝幾之助
第9回 (1952) 石川寅治
第10回 (1953) 沼田一雅
第11回 (1954) 杉浦非水
第12回 (1955) 竜村平蔵
第13回 (1956) 折口信夫
第14回 (1957) 菅楯彦
第15回 (1958) 木村荘八
第16回 (1959) 田中親美
第17回 (1960) 川崎小虎
第18回 (1961) 榊原紫峰
第19回 (1962) 河村蜻山
第20回 (1963) 中川紀元
第21回 (1964) 柳兼子
第22回 (1965) 池部鈞
第23回 (1966) 三宅周太郎(追贈)
第24回 (1967) 藤島亥治郎
第25回 (1968) 黒田重太郎
第26回 (1969) 寺島紫明
第27回 (1970) なし
第28回 (1971) 平林たい子
第29回 (1972) 野村守夫
第30回 (1973) 猪原大華
第31回 (1974) 片岡球子・中里恒子
第32回 (1975) 川本末雄・司馬遼太郎
第33回 (1976) 伊藤清永・平野謙
第34回 (1977) なし
第35回 (1978) 阿川弘之
第36回 (1979) 田中千禾夫
第37回 (1980) 小坂奇石・飯田龍太

6. 各国主要為政者一覧

イギリス首相

1721～1742	ウォルポール
1742～1743	カータレット
1743～1754	ペラム
1754～1756	ニューカッスル
1756～1757	デボンシャー
1757～1761	ニューカッスル
1761～1763	ビュート
1763～1765	グレンビ
1765～1766	ロッキンガム
1766～1770	グラフトン
1770～1782	ノース
1782	ロッキンガム
1782～1783	シェルバーン
1783	ポートランド
1783～1801	ピット(小)
1801～1804	アディントン
1804～1806	ピット(小)
1806～1807	グレンビ
1807～1809	ポートランド
1809～1812	パーシバル
1812～1827	リバプール
1827	カニング
1827～1828	ゴドリッチ
1828～1830	ウェリントン
1830～1834	グレー
1834	メルバーン
1834～1835	ピール
1835～1841	メルバーン
1841～1846	ピール
1846～1852	ラッセル
1852	ダービー
1852～1855	アバディーン
1855～1858	パーマストン
1858～1859	ダービー
1859～1865	パーマストン
1865～1866	ラッセル
1866～1868	ダービー
1868	ディズレーリ
1868～1874	グラッドストン
1874～1880	ディズレーリ
1880～1885	グラッドストン
1885～1886	ソールズベリ
1886	グラッドストン
1886～1892	ソールズベリ
1892～1894	グラッドストン
1894～1895	ローズベリ
1895～1902	ソールズベリ
1902～1905	バルフォア
1905～1908	キャンベル-バナマン
1908～1916	アスキス
1916～1922	ロイド-ジョージ
1922～1923	ロー
1923～1924	ボールドウィン
1924	マクドナルド
1924～1929	ボールドウィン
1929～1935	マクドナルド
1935～1937	ボールドウィン
1937～1940	チェンバレン
1940～1945	チャーチル
1945～1951	アトリー
1951～1955	チャーチル
1955～1957	イーデン
1957～1963	マクミラン
1963～1964	ヒューム
1964～1970	ウィルソン
1970～1974	ヒース
1974～1976	ウィルソン
1976～1979	キャラバン
1979～	サッチャー

フランス共和国首相

第三共和政

1871～1873	デュフォール
1873～1874	ブロイ
1874～1875	シセー
1875～1876	ビュフェー
1876	デュフォール
1876～1877	シモン
1877	ブロイ
1877	ロシュブエ
1877～1879	デュフォール
1879	バダントン
1879～1880	フレーシネ
1880～1881	フェリー
1881～1882	ガンベッタ
1882	フレーシネ
1882～1883	デュクレルク
1883	ファリエール
1883～1885	フェリー
1885～1886	ブリッソン
1886	フレーシネ
1886～1887	ゴブレ
1887	ルービエ
1887～1888	ティラール
1888～1889	フロケ
1889～1890	ティラール
1890～1892	フレーシネ
1892	ルーベ
1892～1893	リボー
1893	デュピュイ
1893～1894	カジミル-ペリエ
1894～1895	デュピュイ
1895	リボー
1895～1896	ブルジョア
1896～1898	メリーヌ
1898	ブリッソン
1898～1899	デュピュイ
1899～1902	バルデック-ルソー
1902～1905	コンブ
1905～1906	ルービエ
1906	サリアン
1906～1909	クレマンソー
1909～1911	ブリアン
1911	モニ
1911～1912	カイヨー
1912～1913	ポアンカレ
1913	ブリアン
1913	バルトゥー
1913～1914	ドゥメルグ
1914	リボー
1914～1915	ビビアニ
1915～1917	ブリアン
1917	リボー
1917	パンルベ
1917～1920	クレマンソー
1920	ミルラン
1920～1921	レーグ
1921～1922	ブリアン
1922～1924	ポアンカレ
1924	フランソア-マルサル
1924～1925	エリオ
1925	パンルベ
1925～1926	ブリアン
1926	エリオ
1926～1929	ポアンカレ
1929	ブリアン
1929～1930	タルデュー
1930	ショータン
1930	タルデュー
1930～1931	ステーグ
1931～1932	ラバル
1932	タルデュー
1932	エリオ
1932～1933	ポール-ボンクール
1933	ダラディエ
1933	サロー
1933～1934	ショータン
1934	ダラディエ
1934	ドゥメルグ
1934～1935	フランダン
1935	ブイッソン
1935～1936	ラバル
1936	サロー
1936～1937	ブルム
1937～1938	ショータン
1938	ブルム
1938～1940	ダラディエ
1940	レイノー
1940	ペタン

ビシー政府

1940～1944	ペタン

臨時政府

1945～1946	ド-ゴール
1946	グアン
1946	ビドー
1946～1947	ブルム

第四共和政

1947	ラマディエ
1947～1948	シューマン
1948	マリー
1948	シューマン
1948～1949	クイユ
1949～1950	ビドー
1950	クイユ
1950～1951	プレバン
1951	クイユ
1951～1952	プレバン
1952	フォール
1952～1953	ピネ
1953	マイエル
1953～1954	ラニエル
1954～1955	マンデス-フランス
1955～1956	フォール
1956～1957	モレ
1957	ブルジェス-モヌリ
1957～1958	ガイヤール
1958	フリームラン
1958～1959	ド-ゴール

第五共和政

1959～1962	ドブレ
1962～1968	ポンピドー
1968～1969	クーブ-ド-ミュルビル

1969～1972	シャバンデルマス
1972～1974	メスメル
1974～1976	シラク
1976～1981	バール
1981～	モーロワ

ドイツ首相

第二帝政宰相	
1871～1890	ビスマルク
1890～1894	カプリビ
1894～1900	ホーエンローエ
1900～1909	ビューロー
1909～1917	ベートマン-ホルベーク
1917	ミハエリス
1917～1918	ヘルトリンク
1918	マクシミリアン
ドイツ共和国	
1918～1919	エーベルト
1919	シャイデマン
1919～1920	バウアー
1920	ミュラー
1920～1921	フェーレンバッハ
1921～1922	ウィルト
1922～1923	クーノー
1923	シュトレーゼマン
1923～1924	マルクス
1925～1926	ルター
1926～1928	マルクス
1928～1930	ミュラー
1930～1932	ブリューニンク
1932	パーペン
1932～1933	シュライヒャー
1933～1945	ヒトラー
ドイツ連邦共和国(西ドイツ)	
1949～1963	アデナウワー
1963～1966	エアハルト
1966～1969	キージンガー
1969～1974	ブラント
1974～	シュミット
ドイツ民主共和国(東ドイツ)	
1949～1964	グローテウォール
1964～1973	シュトフ
1973～1976	ジンダーマン
1976～	シュトフ

オーストリア共和国大統領

1919～1920	ザイツ
1920～1928	ハイニシュ
1928～1938	ミクラス
1938～1945	(ドイツに併合)
1945～1950	レンナー
1951～1957	ケルナー
1957～1965	シェルフ
1965～1974	ヨナス
1974～	キルヒシュレーガー

イタリア首相

1860～1861	カブール
1861～1862	リカソリ
1862	ラタッツィ
1862～1864	ミンゲッティ
1864～1866	ラ-マルモラ
1866～1867	ルカソリ
1867	ラタッツィ
1867～1869	メナブレア
1869～1873	ランツァ
1873～1876	ミンゲッティ
1876～1878	デプレチス
1878	カイロリ
1878～1879	デプレチス
1879～1881	カイロリ
1881～1887	デプレチス
1887～1891	クリスピ
1891～1892	ルディニ
1892～1893	ジョリッティ
1893～1896	クリスピ
1896～1898	ルディニ
1898～1900	ペルー
1900～1901	サラッコ
1901～1903	ザナルデリ
1903～1906	ジョリッティ
1906	ソンニーノ
1906～1909	ジョリッティ
1909～1910	ソンニーノ
1910～1911	ルツァッティ
1911～1914	ジョリッティ
1914～1916	サランドラ
1916～1917	ボセリ
1917～1919	オルランド
1919～1920	ニッティ
1920～1921	ジョリッティ
1921～1922	ボノミ
1922	ファクタ
1922～1943	ムッソリーニ
1943～1944	バドリオ
1944～1945	ボノミ
1945	パリ
1945～1947	デ-ガスペリ
共　和　国	
1947～1953	デ-ガスペリ
1953～1954	ペラ
1954	ファンファーニ
1954～1955	シェルバ
1955～1957	セニ
1957～1958	ツォリ
1958～1959	ファンファーニ
1959～1960	セニ
1960	タンブロニ
1960～1963	ファンファーニ
1963	レオネ
1963～1968	モロ
1968～1970	ルモール
1970～1972	コロンボ
1972～1973	アンドレオッチ
1973～1974	ルモール
1974～1976	モロ
1976～1979	アンドレオッチ
1979～1980	コシガ
1980～1981	フォルラーニ
1981～	スパドリーニ

ソビエト社会主義共和国連邦首相

1917～1924	レーニン
1924～1930	ルイコフ
1930～1941	モロトフ
1941～1953	スターリン
1953～1955	マレンコフ
1955～1958	ブルガーニン
1958～1964	フルシチョフ
1964～1980	コスイギン
1980～	チーホノフ

(1917～1945年人民委員会議議長，1949年以後，閣僚会議議長)

アメリカ合衆国大統領

1	1789～1797	ワシントン
2	1797～1801	J. アダムス
3	1801～1809	ジェファソン
4	1809～1817	マディソン
5	1817～1825	モンロー
6	1825～1829	J. Q. アダムス
7	1829～1837	ジャクソン
8	1837～1841	バン-ビューレン
9	1841	ハリソン
10	1841～1845	タイラー
11	1845～1849	ポーク
12	1849～1850	テーラー
13	1850～1853	フィルモア
14	1853～1857	ピアース
15	1857～1861	ブカナン
16	1861～1865	リンカーン
17	1865～1869	A. ジョンソン
18	1869～1877	グラント
19	1877～1881	ヘーズ
20	1881	ガーフィールド
21	1881～1885	アーサー
22	1885～1889	クリーブランド
23	1889～1893	ハリソン
24	1893～1897	クリーブランド
25	1897～1901	マッキンリー
26	1901～1909	T. ルーズベルト
27	1909～1913	タフト
28	1913～1921	ウィルソン
29	1921～1923	ハーディング
30	1923～1929	クーリッジ
31	1929～1933	フーバー
32	1933～1945	F. D. ルーズベルト
33	1945～1953	トルーマン
34	1953～1961	アイゼンハワー
35	1961～1963	ケネディ
36	1963～1969	L. B. ジョンソン
37	1969～1974	ニクソン
38	1974～1977	フォード
39	1977～1981	カーター
40	1981～	レーガン

中華民国総統

1913～1916	袁世凱
1916～1917	黎元洪
1917～1918	馮国璋(代行)
1918～1922	徐世昌
1922～1923	黎元洪
1923～1924	曹錕
1924～1928	(空位)
1928～1931	蔣介石(国府主席)
1931～1943	林森(国府主席)
1943～1946	(空位)
1946～1948	蔣介石(国府主席)
1948～1949	蔣介石(総統)
1949～1950	李宗仁(総統代理)
1950～1975	蔣介石(総統)
1975～	厳家淦

中華人民共和国主席

1949～1959	毛沢東
1959～1968	劉少奇
1969～1976	毛沢東(党主席)
1976～1981	華国鋒(党主席)
1981～	胡耀邦(総書記)

朝鮮民主主義人民共和国元首

1948～1957	金枓奉(人)
1948～	金日成(首)
1957～	崔庸健(人)

人：人民会議常任委員長　首：首相

大韓民国元首

1948～1960	李承晩(大)
1960～1962	尹潽善(大)
1961	張都暎(国)
1961～1964	朴正煕(国)
1963～1979	朴正煕(大)
1980～	全斗煥(大)

大：大統領　国：国家再建最高会議議長

インド共和国元首

〔大統領〕

1950～1962	プラサド
1962～1967	ラダクリシュナン
1967～1969	ザキル-フセイン
1969～1974	ベンカタ-ギリ
1974～1977	アフマッド
1977～	レッディ

〔首　相〕

1950～1964	ネルー
1964～1966	シャストリ
1966～1977	インディラ-ガンジー
1977～1979	デサイ
1979	チャラン-シンフ(暫定)
1980～	インディラ-ガンジー(再任)

ローマ教皇

*印は対立教皇

～67ごろ	ペトルス(ペテロ)
67～ 79	リヌス
79～ 90	アナクレトゥス
90～ 99	クレメンス1世
99～ 107	エバリストゥス
107～ 116	アレクサンデル1世
116～ 125	シクストゥス1世
125～ 136	テレスフォルス
136～ 140	ヒギヌス
140～ 154	ピウス1世
154～ 165	アニケトゥス
165～ 174	ソテル
174～ 189	エレウテルス
189～ 198	ウィクトル1世
198～ 217	ゼフィリヌス
217～ 222	カリストゥス(カリクストゥス)1世
222～ 230	ウルバヌス1世
230～ 235	ポンチアヌス
235～ 236	アンテルス
236～ 250	ファビアヌス
251～ 253	コルネリウス
251～ 253	*ノバチアヌス
253～ 254	ルキウス1世
254～ 257	ステファヌス1世
257～ 258	シクストゥス2世
259～ 268	ディオニシウス
269～ 274	フェリックス1世
275～ 283	エウチキアヌス
283～ 296	カイウス
296～ 304	マルケリヌス
308～ 309	マルケルス1世
310	エウセビウス
311～ 314	ミルチアデス(メルキアデス)
314～ 335	シルベステル1世
336	マルクス
337～ 352	ユリウス1世
352～ 366	リベリウス
355～ 365	*フェリックス2世
366～ 384	ダマスス1世
366～ 367	*ウルシヌス
384～ 398	シリキウス
398～ 402	アナスタシウス1世
402～ 417	インノケンチウス1世
417～ 418	ゾシムス
418～ 422	ボニファチウス1世
418～ 419	*エウラリウス
422～ 432	ケレスチヌス1世
432～ 440	シクストゥス3世
440～ 461	レオ1世
461～ 468	ヒラリウス
468～ 483	シンプリキウス
483～ 492	フェリックス3世
492～ 496	ゲラシウス1世
496～ 498	アナスタシウス2世
498～ 514	シンマクス
498～ 505	*ラウレンチウス
514～ 523	ホルミスダス
523～ 526	ヨハネス1世
526～ 530	フェリックス4世
530～ 532	ボニファチウス2世
530	*ディオスクルス
533～ 535	ヨハネス2世
535～ 536	アガペトゥス1世
536～ 538	シルベリウス
538～ 555	ウィギリウス
556～ 561	ペラギウス1世
561～ 574	ヨハネス3世
575～ 579	ベネディクトゥス1世
579～ 590	ペラギウス2世
590～ 604	グレゴリウス1世
604～ 606	サビニアヌス
607	ボニファチウス3世
608～ 615	ボニファチウス4世
615～ 618	デウスデディトゥス
619～ 625	ボニファチウス5世
625～ 638	ホノリウス1世
638～ 640	セウェリヌス
640～ 642	ヨハネス4世
642～ 649	テオドルス1世
649～ 655	マルチヌス1世
655～ 657	エウゲニウス1世
657～ 672	ウィタリアヌス
672～ 676	アデオダトゥス
676～ 678	ドヌス
678～ 681	アガト
682～ 683	レオ2世
684～ 685	ベネディクトゥス2世
685～ 686	ヨハネス5世
686～ 687	コノン
687	*テオドルス
687～ 692	*パスカリス
687～ 701	セルギウス1世
701～ 705	ヨハネス6世
705～ 707	ヨハネス7世
708	シシンニウス
708～ 715	コンスタンチヌス1世
715～ 731	グレゴリウス2世
731～ 741	グレゴリウス3世
741～ 752	ザカリアス
752～ 757	ステファヌス2世
757～ 767	パウルス1世
767～ 768	*コンスタンチヌス2世
768	*フィリップス
768～ 772	ステファヌス3世
772～ 795	ハドリアヌス1世
795～ 816	レオ3世
816～ 817	ステファヌス4世
817～ 824	パスカリス1世
824～ 827	エウゲニウス2世
827	ウァレンチヌス
827～ 844	グレゴリウス4世
844	*ヨハネス8世
844～ 847	セルギウス2世
847～ 855	レオ4世
855～ 858	ベネディクトゥス3世
855	*アナスタシウス3世
858～ 867	ニコラウス1世
867～ 872	ハドリアヌス2世
872～ 882	ヨハネス8世
882～ 884	マリヌス1世
884～ 885	ハドリアヌス3世
885～ 891	ステファヌス5世
891～ 896	フォルモスス
896	ボニファチウス6世
896～ 897	ステファヌス6世
897	ロマヌス
897	テオドルス2世
898～ 900	ヨハネス9世
900～ 903	ベネディクトゥス4世
903	レオ5世
903～ 904	クリストフォルス
904～ 911	セルギウス3世
911～ 913	アナスタシウス3世
913～ 914	ランド
914～ 928	ヨハネス10世
928	レオ6世
928～ 931	ステファヌス7世
931～ 936	ヨハネス11世
936～ 939	レオ7世
939～ 942	ステファヌス8世
942～ 946	マリヌス2世
946～ 955	アガペトゥス2世
955～ 963	ヨハネス12世
963～ 965	レオ8世
965	ベネディクトゥス5世
965～ 972	ヨハネス13世
973～ 974	ベネディクトゥス6世
974	*ボニファチウス7世
974～ 983	ベネディクトゥス7世
983～ 984	ヨハネス14世
984～ 985	ボニファチウス7世
985～ 996	ヨハネス15世
996～ 999	グレゴリウス5世
997～ 998	*ヨハネス16世
999～1003	シルベステル2世
1003	ヨハネス17世
1003～1009	ヨハネス18世
1009～1012	セルギウス4世
1012～1024	ベネディクトゥス8世
1012	*グレゴリウス6世
1024～1032	ヨハネス19世
1032～1045	ベネディクトゥス9世
1045	*シルベステル3世
1045～1046	グレゴリウス6世
1046～1047	クレメンス2世
1047～1048	*ベネディクトゥス9世
1048	ダマスス2世

1049～1054	レオ９世
1055～1057	ウィクトル２世
1057～1058	ステファヌス10世
1058～1059	ベネディクトゥス10世
1059～1061	ニコラウス２世
1061～1073	アレクサンデル２世
1061～1064	*ホノリウス２世
1073～1085	グレゴリウス７世
1084～1100	*クレメンス３世
1086～1087	ウィクトル３世
1088～1099	ウルバヌス２世
1099～1118	パスカリス２世
1100～1102	*テオドリクス
1102	*アルベルトゥス
1105～1111	*シルベステル４世
1118～1119	ゲラシウス２世
1118～1121	*グレゴリウス８世
1119～1124	カリストゥス(カリクストゥス)２世
1124～1130	ホノリウス２世
1124	*ケレスチヌス２世
1130～1143	インノケンチウス２世
1130～1138	*アナクレトゥス２世
1138	*ウィクトル４世
1143～1144	ケレスチヌス２世
1144～1145	ルキウス２世
1145～1153	エウゲニウス３世
1153～1154	アナスタシウス４世
1154～1159	ハドリアヌス４世
1159～1181	アレクサンデル３世
1159～1164	*ウィクトル４世
1164～1168	*パスカリス３世
1168～1178	*カリストゥス(カリクストゥス)３世
1179～1180	*インノケンチウス３世
1181～1185	ルキウス３世
1185～1187	ウルバヌス３世
1187	グレゴリウス８世
1187～1191	クレメンス３世
1191～1198	ケレスチヌス３世
1198～1216	インノケンチウス３世
1216～1227	ホノリウス３世
1227～1241	グレゴリウス９世
1241	ケレスチヌス４世
1243～1254	インノケンチウス４世
1254～1261	アレクサンデル４世
1261～1264	ウルバヌス４世
1265～1268	クレメンス４世
1271～1276	グレゴリウス10世
1276	インノケンチウス５世
1276	ハドリアヌス５世
1276～1277	ヨハネス21世
1277～1280	ニコラウス３世
1281～1285	マルチヌス４世
1285～1287	ホノリウス４世
1288～1292	ニコラウス４世
1294	ケレスチヌス５世
1294～1303	ボニファチウス８世
1303～1304	ベネディクトゥス11世
1305～1314	クレメンス５世
1316～1334	ヨハネス22世
1328～1330	*ニコラウス５世
1334～1342	ベネディクトゥス12世
1342～1352	クレメンス６世
1352～1362	インノケンチウス６世
1362～1370	ウルバヌス５世
1370～1378	グレゴリウス11世
1378～1417	(教会分裂)
1378～1389	ウルバヌス６世
1378～1394	*クレメンス７世
1389～1404	ボニファチウス９世
1394～1424	*ベネディクトゥス13世
1404～1406	インノケンチウス７世
1406～1415	グレゴリウス12世
1409～1410	アレクサンデル５世
1410～1415	*ヨハネス23世
1417～1431	マルチヌス５世
1424～1429	*クレメンス８世
1424	*ベネディクトゥス14世
1431～1447	エウゲニウス４世
1439～1449	*フェリックス５世
1447～1455	ニコラウス５世
1455～1458	カリストゥス(カリクストゥス)３世
1458～1464	ピウス２世
1464～1471	パウルス２世
1471～1484	シクストゥス４世
1484～1492	インノケンチウス８世
1492～1503	アレクサンデル６世
1503	ピウス３世
1503～1513	ユリウス２世
1513～1521	レオ10世
1522～1523	ハドリアヌス６世
1523～1534	クレメンス７世
1534～1549	パウルス３世
1550～1555	ユリウス３世
1555	マルケルス２世
1555～1559	パウルス４世
1559～1565	ピウス４世
1566～1572	ピウス５世
1572～1585	グレゴリウス13世
1585～1590	シクストゥス５世
1590	ウルバヌス７世
1590～1591	グレゴリウス14世
1591	インノケンチウス９世
1592～1605	クレメンス８世
1605	レオ11世
1605～1621	パウルス５世
1621～1623	グレゴリウス15世
1623～1644	ウルバヌス８世
1644～1655	インノケンチウス10世
1655～1667	アレクサンデル７世
1667～1669	クレメンス９世
1670～1676	クレメンス10世
1676～1689	インノケンチウス11世
1689～1691	アレクサンデル８世
1691～1700	インノケンチウス12世
1700～1721	クレメンス11世
1721～1724	インノケンチウス13世
1724～1730	ベネディクトゥス13世
1730～1740	クレメンス12世
1740～1758	ベネディクトゥス14世
1758～1769	クレメンス13世
1769～1774	クレメンス14世
1775～1799	ピウス６世
1800～1823	ピウス７世
1823～1829	レオ12世
1829～1830	ピウス８世
1831～1846	グレゴリウス16世
1846～1878	ピウス９世
1878～1903	レオ13世
1903～1914	ピウス10世
1914～1922	ベネディクトゥス15世
1922～1939	ピウス11世
1939～1958	ピウス12世
1958～1963	ヨハネス23世
1963～1978	パウルス６世
1978	ヨハネス・パウルス１世
1978～	ヨハネス・パウルス２世

7. 西洋主要人名対照表

英語	ドイツ語	フランス語	その他
アレグザンダー	アレクサンダー	アレクサンドル	アレクサンドロス(ギリシア)・アレッサンドロ(イタリア)
ウィリアム	ウィルヘルム	ギョーム	ウィレム(オランダ)・グリェルモ(イタリア)
シーザー	カイザー・シェーザル	セザール	カエサル(ラテン)
ジョージ	ゲオルク	ジョルジュ	ジョルジョ(イタリア)・ゲオルギー(ロシア)
ジョン	ハンス・ヨハン	ジャン	ヨハネス(ラテン)・イワン(ロシア)・フアン(スペイン)
チャールズ	カール	シャルル	カルロ(イタリア)・カルロス(スペイン)
ピーター	ペーター	ピエール	ペトルス(ラテン)・ピョートル(ロシア)
フランシス	フランツ	フランソア	フランシスコ(スペイン)
フレデリック	フリードリヒ	フレデリク	フェデリコ(イタリア)
ヘンリー	ハインリヒ	アンリ	エンリケ(スペイン)・エンリコ(イタリア)
リチャード	リヒャルト	リシャール	リカルド(スペイン)

8. 日本元号・西暦年対照表

あ

安和	968～969
安元	1175～1176
安貞	1227～1228
安永	1772～1780
安政	1854～1859

え

永観	983～984
永延	987～988
永祚	989
永承	1046～1052
永保	1081～1083
永長	1096
永久	1113～1117
永治	1141
永暦	1160
永万	1165
永仁	1293～1298
〔永和〕	1375～1378
〔永徳〕	1381～1383
永享	1429～1440
永正	1504～1520
永禄	1558～1569
延暦	782～805
延喜	901～922
延長	923～930
延久	1069～1073
延応	1239
延慶	1308～1310
延元	1336～1339
〔延文〕	1356～1360
延徳	1489～1491
延宝	1673～1680
延享	1744～1747

お

応和	961～963
応徳	1084～1086
応保	1161～1162
応長	1311
〔応安〕	1368～1374
応永	1394～1427
応仁	1467～1468

か

嘉祥	848～850
嘉保	1094～1095
嘉承	1106～1107
嘉応	1169～1170
嘉禄	1225～1226
嘉禎	1235～1237
嘉元	1303～1305
嘉暦	1326～1328
〔嘉慶〕	1387～1388
嘉吉	1441～1443
嘉永	1848～1853
寛平	889～897
寛和	985～986
寛弘	1004～1011
寛仁	1017～1020
寛徳	1044～1045
寛治	1087～1093
寛喜	1229～1231
寛元	1243～1246
寛正	1460～1465
寛永	1624～1643
寛文	1661～1672
寛保	1741～1743
寛延	1748～1750
寛政	1789～1800
〔観応〕	1350～1351

き

享徳	1452～1454
享禄	1528～1531
享保	1716～1735
享和	1801～1803
久安	1145～1150
久寿	1154～1155

け

慶雲	704～707
慶長	1596～1614
慶安	1648～1651
慶応	1865～1867
建久	1190～1198
建仁	1201～1203
建永	1206
建暦	1211～1212
建保	1213～1218
建長	1249～1255
建治	1275～1277
建武	1334～1335
〔建武〕	1336～1337
建徳	1370～1371
乾元	1302
元慶	877～884
元永	1118～1119
元暦	1184～1185
元久	1204～1205
元仁	1224
元応	1319～1320
元亨	1321～1323
元徳	1329～1331
元弘	1331～1333
元中	1384～1392
元亀	1570～1572
元和	1615～1623
元禄	1688～1703
元文	1736～1740
元治	1864

こ

弘仁	810～823
弘長	1261～1263
弘安	1278～1287
弘和	1381～1383
弘治	1555～1557
弘化	1844～1847
康保	964～967
康平	1058～1064
康和	1099～1103
康治	1142～1143
康元	1256
〔康永〕1	1342～1344
〔康安〕	1361
〔康暦〕	1379～1380
〔康応〕	1389
康正	1455～1456
興国	1340～1345

さ

斉衡	854～857

し

治安	1021～1023
治暦	1065～1068
治承	1177～1180
〔至徳〕	1384～1386
朱鳥	686
寿永	1182～1184
正暦	990～994
正治	1199～1200
正嘉	1257～1258
正元	1259
正応	1288～1292
正安	1299～1301
正和	1312～1316
正中	1324～1325
〔正慶〕	1332～1333
正平	1346～1369
正長	1428
正保	1644～1647
正徳	1711～1715
承和	834～847
承平	931～937
承保	1074～1076
承暦	1077～1080
承徳	1097～1098
承安	1171～1174
承元	1207～1210
承久	1219～1221
承応	1652～1654
昌泰	898～900
昭和	1926～
貞観	859～876
貞元	976～977
貞応	1222～1223
貞永	1232
〔貞和〕	1345～1349
〔貞治〕	1362～1367
貞享	1684～1687
神亀	724～728
神護景雲	767～769

た

大化	645～649
大宝	701～703
大同	806～809
大治	1126～1130
大永	1521～1527
大正	1912～1925

ち

長徳	995～998
長保	999～1003
長和	1012～1016
長元	1028～1036
長暦	1037～1039
長久	1040～1043
長治	1104～1105
長承	1132～1134
長寛	1163～1164
長禄	1457～1459
長享	1487～1488

て

天平	729～748
天平感宝	749
天平勝宝	749～756
天平宝字	757～764
天平神護	765～766
天応	781
天長	824～833
天安	857～858
天慶	938～946
天暦	947～956
天徳	957～960
天禄	970～972
天延	973～975
天元	978～982
天喜	1053～1057
天仁	1108～1109
天永	1110～1112
天治	1124～1125
天承	1131
天養	1144
天福	1233
天授	1375～1380
天文	1532～1554
天正	1573～1591
天和	1681～1683
天明	1781～1788
天保	1830～1843

と

徳治	1306～1307

に

仁寿	851～853
仁和	885～888
仁平	1151～1153
仁安	1166～1168
仁治	1240～1242

は

白雉	650～654

ふ

文治	1185～1189
文暦	1234
文応	1260
文永	1264～1274
文保	1317～1318
〔文和〕	1352～1355
文中	1372～1374
文安	1444～1448
文正	1466
文明	1469～1486
文亀	1501～1503
文禄	1592～1595
文化	1804～1817
文政	1818～1829
文久	1861～1863

へ

平治	1159

ほ

保安	1120～1123
保延	1135～1140
保元	1156～1158
宝亀	770～780
宝治	1247～1248
宝徳	1449～1451
宝永	1704～1710
宝暦	1751～1763

ま

万寿	1024～1027
万治	1658～1660
万延	1860

め

〔明徳〕	1390～1393
明応	1492～1500
明暦	1655～1657
明和	1764～1771
明治	1868～1911

よ

養老	717～723
養和	1181

れ

霊亀	715～716
暦仁	1238
〔暦応〕	1338～1341

わ

和銅	708～714

〔　〕内は南北朝時代の北朝の元号

9. 食品標準成分表

食品群	食品名	カロリー (Cal)	水分 (g)	タンパク質 (g)	脂質 (g)	炭水化物		灰分 (g)	無機質				ビタミン						廃棄率 (%)	備考
						糖質 (g)	繊維 (g)		カルシウム (mg)	ナトリウム (mg)	リン (mg)	鉄 (mg)	A (IU)	D (IU)	B_1 (mg)	B_2 (mg)	ニコチン酸 (mg)	C (mg)		
穀類	小麦(内地普通)	328	13.5	10.5	2.0	70.3	2.1	1.6	35	4	350	3.1	0	—	0.32	0.10	4.5	0	0	
	小麦粉(1等，中力)	354	14.5	8.5	1.0	75.3	0.3	0.4	10	2	95	1.0	0	—	0.15	0.05	1.0	0	0	歩どまり65～75％
	食パン	270	35.0	8.0	1.5	54.3	0.3	0.9	11	480	68	1.0	0	—	0.10	0.03	0.7	0	0	食塩1.2％
	乾パン	391	5.5	10.5	2.0	80.2	0.3	1.5	25	900	140	2.0	0	—	0.15	0.04	1.0	0	0	食塩2.3％
	うどん	116	72.0	2.6	0.3	24.8	0.1	0.2	5	120	25	0.3	0	—	0.04	0.01	0.2	0	0	食塩0.3％
	中華そば	274	33.0	6.7	0.9	57.9	0.2	1.3	21	300	85	1.2	0	—	0.03	0.03	0.7	0	0	食塩0.8％
	マカロニ・スパゲッティ	366	11.5	11.5	1.4	74.5	0.3	0.8	15	5	95	1.2	0	—	0.12	0.04	1.0	0	0	
	大麦(押し麦)	337	14.0	8.8	0.9	74.7	0.7	0.9	24	3	140	1.5	0	—	0.18	0.07	2.5	0	0	歩どまり55～65％
	大麦(切断麦)	337	14.0	8.0	0.7	76.2	0.4	0.7	22	3	140	1.5	0	—	0.18	0.07	2.5	0	0	歩どまり50～60％
	オートミール	369	11.5	13.5	4.8	67.3	1.1	1.8	30	5	360	3.4	0	—	0.20	0.08	1.1	0	0	歩どまり50～60％
	ふ	365	11.3	28.5	0.9	58.3	0	0.5	33	30	130	3.3	0	—	0.15	0.05	1.0	0	0	
	玄　米	337	15.5	7.4	2.3	72.5	1.0	1.3	10	3	300	1.1	0	—	0.36	0.10	4.5	0	0	
	精白米	351	15.5	6.2	0.8	76.6	0.3	0.6	6	2	150	0.4	0	—	0.09	0.03	1.4	0	0	歩どまり90～92％
	飯(精白米)	145	65.0	2.1	0.2	32.5	0.1	0.1	3	2	35	0.2	0	—	0.02	0.01	0.5	0	0	
	精白米もち	351	15.5	6.5	0.8	76.2	0.4	0.6	6	2	150	0.4	0	—	0.10	0.04	1.5	0	0	歩どまり90～92％
	も　ち	249	40.0	4.5	0.4	54.5	0.3	0.3	4	2	60	0.3	0	—	0.04	0.02	1.0	0	0	
	ゆでそば	117	72.0	3.3	0.7	23.5	0.2	0.3	10	70	80	1.0	0	—	0.06	0.03	0.4	0	0	そば粉3，うどん粉7
	ヒエ(精白)	368	12.0	9.8	3.1	73.0	0.8	1.3	12	—	270	1.7	0	—	0.05	0.03	2.0	0	0	歩どまり55～60％
	キビ(精白)	354	14.0	10.6	1.6	71.8	0.8	1.2	11	—	240	1.8	0	—	0.15	0.05	2.0	0	0	歩どまり70～80％
	トウモロコシ(乾)	353	13.5	8.2	4.6	70.4	2.0	1.3	5	5	290	2.3	3	—	0.30	0.10	2.0	0	0	
いも類	サツマイモ	120	69.3	1.3	0.2	27.7	0.8	0.7	24	15	40	0.7	3	—	0.15	0.04	0.8	30	10	
	サトイモ(子いも)	91	76.0	2.4	0.2	19.6	0.9	0.9	14	15	43	0.5	0	—	0.09	0.04	1.0	10	20	
	ジャガイモ	77	79.5	1.9	0.1	17.3	0.4	0.8	5	12	42	0.5	0	—	0.10	0.03	1.0	15	10	
	ヤマノイモ	121	68.0	3.5	0.1	26.6	0.9	0.9	21	7	46	0.7	0	—	0.08	0.02	1.0	5	15	
	こんにゃく	—	97.4	0.1	0	2.2	0.1	0.2	43	10	5	0.4	0	—	0	0	0	0	0	
砂糖類	グラニュー糖	387	0	0	0	100.0	0	0	1	0	1	0.1	0	—	0	0	0	0	0	
	中　白	378	2.1	0.4	0	97.4	0	0.1	15	1	2	0.5	0	—	0	0	0	0	0	
	水あめ	321	17.0	0	0	83.0	0	0	2	1	1	0.1	0	—	0	0	0	0	0	
菓子類	甘納豆	303	23.3	7.0	0.6	67.2	1.2	0.7	39	—	(100)	2.6	0	—	0.02	0.03	0.4	0	0	
	あんパン	263	34.0	6.7	0.2	58.5	0.3	0.3	25	—	65	2.5	0	—	0.06	0.06	1.2	0	0	
	カステラ	325	22.7	6.7	3.7	66.2	0.1	0.6	32	—	92	1.2	5	—	0.05	0.03	1.7	0	0	
	かりん糖	489	8.0	4.1	25.8	60.0	0.9	1.2	450	—	120	8.0	0	—	0.02	0.03	3.2	0	0	
	シュークリーム	234	51.6	4.4	8.6	34.7	0.1	0.6	(79)	—	110	1.2	0	—	0.03	0.04	0.9	0	0	
	いそべせんべい	373	7.5	3.5	0.8	85.0	0.6	2.6	22	460	68	4.0	0	—	0.03	0.02	0.5	0	0	食塩1.2％
	大福もち	224	43.0	5.8	0.1	50.2	0.6	0.3	18	—	47	1.1	0	—	0	0.02	0.7	0	0	
	くしだんご(あん)	184	53.3	4.3	0.2	41.8	0.1	0.3	50	—	54	1.1	0	—	0.02	0.02	1.6	0	0	
	チョコレート(ミルク)	512	1.3	6.8	30.8	59.3	0.5	1.3	200	—	200	2.5	75	—	0.02	0.03	1.1	0	0	
	ビスケット(ソフト)	451	4.8	5.6	17.0	71.6	0.2	0.8	39	—	70	1.4	—	—	0.03	0.04	2.0	0	0	
	蒸しまんじゅう	251	36.5	5.2	0.2	57.3	0.4	0.4	16	—	46	1.7	0	—	0.02	0.02	0.1	0	0	
	キャラメル	411	8.0	4.3	9.3	77.5	0	0.9	140	—	100	0.9	0	—	0.03	0.04	0.5	0	0	ビタミンB_1・B_2強化品あり
	もなか	280	28.6	7.6	0.1	62.2	1.1	0.4	14	—	21	1.8	0	—	0	0.03	1.7	0	0	
	練りようかん	295	25.6	3.5	0.1	70.4	0.2	0.2	12	—	10	1.1	0	—	0.03	0.03	0.1	0	0	
油脂類	植物油	884	ø	0	100	0	0	ø	ø	ø	0	ø	0	0	0	0	0	0	0	てんぷら油・サラダ油
	ショートニング	884	ø	0	100	0	0	ø	ø	ø	0	ø	0	0	0	0	0	0	0	
	バター	721	15.5	0.6	81.6	0.2	0	2.1	10	780	20	0.1	2,400	—	0.01	0.03	0	0	0	食塩2％
	マーガリン	719	15.5	0.2	81.1	0.2	0	3.0	3	950	10	0.2	ø	ø	0	0	0	0	0	ビタミンA・D強化品あり
	ラード	901	ø	0.2	99.8	0	0	ø	1	2	3	0.1	0	—	0.02	0.02	0	0	0	自家製豚脂

注）① 科学技術庁資源調査会編《三訂日本食品標準成分表》(1963)による。

② 廃棄率とは，通常の食習慣において廃棄される部分(重量)の全食品重量に対する比率をいい，廃棄部分を除いたものを可食部という。本表の成分値はすべて可食部100gあたりの数値を示す。

③ 各成分値のうち，0は成分表の記載限度に達しないほど微量か，またはまったく含まれないことを示す。ただし栄養上の意義とは別に，食品加工や品質管理の面などから微量成分の大小が問題となるなどの理由で，単純に0と表示することが望ましくない場合は，øと表示する。一の符号は，未測定または不明を表わす。(　)内の数値は，類似の食品からの推定値，あるいはなお検討を要する数値である。

④ ビタミンAおよびDは，それぞれIU(国際単位)で表わす。ビタミンAの数値は，ビタミンAとカロチン(その効力をビタミンAの3分の1とする)の加算によるビタミンA効力の数値である。

食品群	食品名	カロリー (Cal)	水分 (g)	タンパク質 (g)	脂質 (g)	炭水化物 糖質 (g)	炭水化物 繊維 (g)	灰分 (g)	無機質 カルシウム (mg)	無機質 ナトリウム (mg)	無機質 リン (mg)	無機質 鉄 (mg)	ビタミン A (IU)	ビタミン D (IU)	ビタミン B_1 (mg)	ビタミン B_2 (mg)	ビタミン ニコチン酸 (mg)	ビタミン C (mg)	廃棄率 (%)	備考
種実類	クリ(甘ぐり)	245	40.2	3.6	2.0	50.2	2.9	1.1	29	—	95	1.1	0	—	0.15	0.09	1.5	5	25	
	ゴマ	564	7.0	19.7	50.9	14.2	2.9	5.3	630	4	850	16.0	0	—	0.50	0.10	8.0	0	0	
	クルミ	626	4.1	23.1	60.3	8.4	1.8	2.3	93	3	290	2.4	0	—	0.50	0.08	3.0	5	50	
	いり落花生	571	4.5	26.3	48.2	17.0	1.8	2.2	57	3	380	1.9	0	—	0.20	0.08	12.0	0	0	
豆類	ダイズ(乾)	392	12.0	34.3	17.5	26.7	4.5	5.0	190	3	470	7.0	6	—	0.50	0.20	2.0	0	0	
	みそ(淡色，辛)	158	50.0	12.6	3.4	19.4	1.8	12.8	90	4,100	160	4.0	0	—	0.03	0.10	1.5	0	0	江戸みそ・信州みそ
	豆腐(普通)	58	88.0	6.0	3.5	1.9	0	0.6	120	5	86	1.4	0	—	0.02	0.02	0.4	0	0	
	うのはな	65	84.5	3.5	1.9	6.9	2.3	0.9	76	4	43	1.4	0	—	0.05	0.02	0.3	0	0	
	油揚げ	346	44.0	18.6	31.4	4.5	0.1	1.4	300	20	230	4.2	0	—	0.02	0.02	0.5	0	0	
	湯　葉	432	8.7	52.3	24.1	11.9	0	3.0	270	80	590	11.0	20	—	0.20	0.08	2.0	0	0	
	納　豆	191	58.5	16.5	10.0	10.1	2.3	2.6	92	—	190	3.3	0	—	0.07	0.56	1.1	0	0	
	アズキ(乾)	326	15.5	21.5	1.6	54.1	4.3	3.0	75	7	350	4.8	6	—	0.50	0.10	2.5	0	0	
	エンドウ(乾)	335	13.4	21.7	1.0	55.7	6.0	2.2	58	4	360	5.0	33	—	0.72	0.15	2.5	0	0	
	ソラマメ	331	13.3	26.0	1.2	50.9	5.8	2.8	100	8	440	5.7	50	—	0.50	0.20	2.5	0	0	
魚介類	アジ	118	75.0	20.0	3.5	0.3	0	1.2	12	90	200	0.7	40	0	0.15	0.20	6.5	1	35	
	アユ	101	78.3	17.0	3.0	0.3	0	1.4	50	80	190	2	120	20	0.04	0.10	3.0	0	25	
	イカ	84	80.3	17.0	1.0	0.5	0	1.2	12	120	290	0.4	5	0	0.03	0.12	3.0	0	20	コウイカ・ヤリイカなど
	イワシ(マイワシ，目刺し)	187	57.7	29.6	6.5	0.5	0	5.7	855	1,300	692	8	160	140	0.03	0.25	12.0	0	25	食塩 3.3%
	ウナギ(かば焼き)	297	49.1	21.4	20.0	6.6	0	2.9	140	620	280	1	3,000	170	0.07	0.02	3.5	0	0	食塩1.6%
	シラウオ	68	84.0	13.3	1.1	0.3	0	1.3	180	120	280	3	50	0	0.14	0.14	—	0	0	
	カツオ	137	70.0	25.4	3.0	0.3	0	1.3	8	100	220	4	40	420	0.03	0.15	18.0	2	35	血合い肉は鉄12mg
	カニ(ズワイガニ)	74	80.0	16.1	0.3	0.6	0	3.0	47	—	180	2.7	—	0	0	0.03	—	—	70	ゆでたもの
	焼きかまぼこ	84	77.0	13.0	0.8	6.2	0	3.0	25	1,000	60	1	20	0	0	0.01	0.5	0	0	食塩2.5%
	ちくわ	85	77.0	13.0	0.8	6.4	0	2.8	25	950	60	1	100	10	0	0.01	0.5	0	0	食塩2.3%
	カレイ類	115	74.0	22.5	2.0	0.3	0	1.2	30	130	150	0.6	100	60	0.10	0.10	3.5	3	45	
	コイ	178	67.0	22.4	9.0	0.3	0	1.3	72	—	180	2	20	0	0.40	0.08	2.0	0	45	ビタミンB_1分解酵素を含む
	サケ(新巻き)	142	64.4	21.8	5.3	0.3	0	8.2	50	2,500	250	1	20	270	0.10	0.15	6.0	0	30	食塩6.5%
	サバ	114	76.0	18.0	4.0	0.3	0	1.7	7	80	190	1.5	50	330	0.15	0.20	8.0	3	45	マサバ・ゴマサバ
	塩サンマ	175	61.4	20.1	9.8	0.2	0	8.5	30	1,800	220	4	0	100	0.04	0.11	7.0	0	20	食塩4.6%
	タイ(マダイ)	101	77.8	18.0	2.5	0.3	0	1.4	15	86	150	0.4	100	0	0.20	0.20	2.0	2	55	
	タコ(マダコ)	69	82.9	14.6	0.6	0.3	0	1.6	13	—	140	0.3	10	0	0.02	0.12	2.5	0	20	
	エビ(クルマエビ)	77	81.0	16.6	0.6	0.1	0	1.7	15	180	160	0.4	60	30	0.15	0.10	2.5	0	60	
	タラ	84	80.0	16.6	1.1	1.5	0	1.4	50	—	260	5	100	0	0.04	0.05	2.5	2	55	
	ドジョウ	101	76.0	19.3	1.9	0.3	0	2.5	640	—	890	8	100	110	0.03	0.44	—	0	40	ビタミンB_1分解酵素を含む
	ニシン	155	72.0	18.0	8.5	0.3	0	1.2	34	160	250	1.5	100	40	0.01	0.20	5.0	0	35	
	干しかずのこ	368	18.0	67.5	10.7	0.4	0	3.4	40	—	60	1	2	0	0.17	0.06	2.3	20	0	
	たらこ	117	64.0	26.0	1.0	1.0	0	8.0	20	2,600	200	1.5	200	0	0.50	0.40	0.9	0	0	
	フグ	88	78.6	20.0	0.1	0.3	0	1.0	13	—	140	0.8	10	0	—	—	—	0	35	トラフグ・マフグ
	フナ	103	78.0	17.0	3.0	0.7	0	1.3	150	—	150	2	50	140	0.38	0.10	2.4	0	55	
	ホンマグロ(赤身)	114	73.2	24.3	1.0	0.3	0	1.2	5	100	280	2	20	20	0.10	0.09	10.0	—	0	
	マス	143	71.0	22.0	5.3	0.3	0	1.4	13	110	230	1.1	100	210	0.22	0.07	7.0	0	40	
	アサリ	63	85.4	10.6	1.3	1.5	0	1.2	80	200	180	7	180	0	0.04	0.15	1.5	10	85	ビタミンB_1分解酵素を含む
	ホタテガイ(生貝柱)	106	74.2	20.8	0.8	2.4	0	1.8	11	—	76	0.4	8	0	0.04	0.10	1.4	3	0	貝柱は貝全体の35%
	カキ	96	79.6	10.0	3.6	5.1	0	1.7	40	380	140	8	100	0	0.30	0.20	1.2	5	75	
	シジミ	103	76.0	15.0	1.8	5.6	0	1.6	170	140	120	12	10	0	0.04	0.15	—	10	87	ビタミンB_1分解酵素を含む
	ハマグリ	64	84.8	10.0	1.2	2.5	0	1.5	70	200	150	8	50	0	0.05	0.15	1.5	5	75	
獣鳥鯨肉類	牛肉(霜降り)	424	45.6	12.4	41.0	0.2	0	0.8	5	70	120	1.6	15	—	0.06	0.13	6.0	Ø	0	
	豚肉(ロース)	354	52.5	14.1	32.5	0.1	0	0.8	7	—	130	1.2	Ø	(0)	0.46	0.10	4.5	0	0	
	鶏　肉	135	72.8	21.0	5.0	Ø	0	1.2	4	—	280	—	40	(0)	0.14	0.37	6.0	Ø	0	
	ロースハム	280	56.7	18.6	22.2	Ø	0	2.5	8	900	130	0.9	Ø	(0)	0.48	0.05	(20.0)	0	0	食塩2.3%
	ベーコン	648	22.6	5.5	69.2	Ø	0	2.7	5	990	140	—	0	(0)	0.10	1.13	4.0	0	0	食塩2.5%
	もつ(ニワトリ)	216	65.4	17.6	15.6	Ø	0	1.4	14	—	200	4.2	*Ø	(0)	0.29	0.16	6.0	Ø	0	*肝臓はA13,000IU
	ソーセージ(ウインナー)	288	56.8	16.7	24.0	Ø	0	2.5	15	850	140	1.9	15	(0)	0.17	0.09	6.0	0	0	食塩2.2%
	鯨肉(冷凍赤肉)	127	72.7	23.0	3.0	0.3	0	1.0	11	30	190	5	120	(0)	0.10	0.08	5.0	0	0	
卵類	鶏　卵	156	75.0	12.7	11.2	Ø	0	1.1	65	90	230	2.6	800	10	0.10	0.30	0.1	0	11	
	ウズラ卵	158	74.6	13.1	11.2	Ø	0	1.1	59	—	220	3.8	300	—	0.12	0.85	0.1	0	11	
乳類	牛乳(市乳)	59	88.6	2.0	3.3	4.5	0	0.7	100	36	90	0.1	100	—	0.03	0.15	0.1	Ø	0	
	脱脂粉乳	359	4.2	34.8	1.0	52.2	0	7.8	1,200	470	980	1.0	20	—	0.30	1.60	1.1	5	0	
	練乳(全脂加糖)	325	25.5	7.9	8.4	56.3	0	1.9	300	150	240	0.3	220	—	0.08	0.40	0.2	2	0	乳糖12.3g，ショ糖44.0g

食品群	食品名	カロリー (Cal)	水分 (g)	タンパク質 (g)	脂質 (g)	炭水化物 糖質 (g)	炭水化物 繊維 (g)	灰分 (g)	無機質 カルシウム (mg)	無機質 ナトリウム (mg)	無機質 リン (mg)	無機質 鉄 (mg)	ビタミン A (IU)	ビタミン D (IU)	ビタミン B_1 (mg)	ビタミン B_2 (mg)	ビタミン ニコチン酸 (mg)	ビタミン C (mg)	廃棄率 (%)	備考
乳類	チーズ(プロセス)	361	39.8	25.2	27.2	3.6	0	4.2	630	1,600	800	0.2	500	—	0.03	0.45	0.2	0	0	
	ヨーグルト(含脂)	91	77.0	3.6	0.8	17.6	0	1.0	140	40	130	0.1	30	—	0.03	0.15	0.1	0	0	
	アイスクリーム(高脂肪)	176	65.0	4.0	8.5	21.8	0	0.7	120	50	110	0.1	240	—	0.05	0.20	0.1	0	0	
	人　乳	61	88.2	1.4	3.1	7.1	0	0.2	35	15	25	0.2	*120	—	0.02	0.03	0.2	5	0	*初乳は280IU
野菜類	カボチャ	54	85.3	1.1	0.2	11.9	0.8	0.7	44	15	56	0.5	330	—	0.03	0.03	0.6	20	15	ビタミンC酸化酵素を含む
	キャベツ	24	92.3	1.6	0.2	4.4	0.8	0.7	45	15	22	0.4	*33	—	0.08	0.05	0.5	50	15	*白色部はカロチン0
	キュウリ	9	96.7	0.7	0.1	1.4	0.4	0.7	19	15	27	0.3	33	—	0.02	0.02	0.2	15	2	ビタミンC酸化酵素を含む
	コマツナ	20	92.7	2.3	0.3	2.6	0.8	1.3	170	45	63	3.3	2,000	—	0.10	0.15	1.0	90	5	
	シュンギク	22	92.2	1.3	0.3	3.6	0.9	1.7	74	80	28	3.5	2,000	—	0.10	0.25	1.0	50	15	
	サヤインゲン	36	88.7	2.0	0.2	6.9	1.3	0.9	57	10	53	0.9	100	—	0.10	0.05	1.0	20	5	
	サヤエンドウ	45	85.7	3.6	0.2	8.6	1.2	0.7	46	8	56	1.0	160	—	0.18	0.13	1.0	20	10	
	紅しょうが	31	81.6	1.4	0.6	4.3	1.5	10.6	15	3,800	24	0.5	0	—	0.01	0.03	0.5	0	0	食塩9.7%
	スイカ	21	94.0	0.4	0.1	5.2	0.1	0.2	14	8	11	0.2	26	—	0.02	0.02	0	5	40	
	セリ(軟白)	18	93.3	1.8	0.2	2.6	0.8	1.3	86	—	53	1.7	330	—	0.10	0.07	0.5	10	20	
	セロリ	20	93.0	0.7	0.1	4.0	1.0	1.2	37	28	45	1.4	6	—	1.03	1.02	0.4	10	40	
	ソラマメ	89	76.8	7.0	0.3	13.6	1.6	0.7	27	2	128	1.9	33	—	0.15	0.07	1.5	25	5	
	ダイコン	25	92.7	1.1	0.1	4.7	0.8	0.6	38	85	18	0.3	0	—	0.03	0.04	0.2	30	5	
	たくあんづけ	33	78.1	1.7	0.3	5.7	0.9	13.3	60	4,000	110	1.0	0	—	0.03	0.04	1.8	0	0	食塩 9.5%
	ゴボウ	75	78.8	4.1	0.1	14.8	1.5	0.7	47	45	71	0.8	0	—	0.30	0.05	0	2	20	
	たけのこ	22	92.5	2.5	0.2	2.9	1.2	0.7	4	2	51	0.4	0	—	0.10	0.08	0.8	10	30	
	タマネギ	40	89.1	1.2	0.2	8.3	0.7	0.5	40	10	26	0.5	6	—	0.03	0.02	0.2	10	10	
	トマト	33	90.5	1.3	0.3	6.9	0.4	0.6	3	3	18	0.2	130	—	0.08	0.03	0.8	20	5	
	ナ　ス	20	93.8	1.0	0.2	3.7	0.8	0.5	16	20	26	0.4	6	—	0.05	0.03	0.3	5	10	
	ニンジン	51	85.8	1.3	0.2	10.9	1.1	0.7	35	57	35	0.5	1,300	—	0.06	0.04	0.6	7	5	ビタミンC酸化酵素を含む
	ニンニク	84	77.0	2.4	0.1	19.3	0.7	0.5	18	—	67	1.7	16	—	0.22	0.08	0.4	20	25	
	ネギ(根深)	26	91.8	1.5	0.1	5.4	0.7	0.5	50	6	51	1.0	*130	—	0.05	0.10	0.5	25	15	*白色部はカロチン0
	ハクサイ	15	94.7	1.4	0.1	2.5	0.5	0.8	33	20	40	0.6	33	—	0.05	0.05	0.5	40	5	
	ピーマン	28	91.9	1.3	0.4	4.0	2.0	0.4	10	2	28	0.5	330	—	0.10	0.07	1.5	100	15	
	フ　キ	9	96.4	0.7	0.1	1.2	0.7	0.9	43	26	20	0.1	16	—	0.02	0.02	0.2	2	5	
	ホウレンソウ	28	90.2	3.0	0.4	3.9	0.9	1.6	98	25	52	3.3	2,600	—	0.12	0.30	1.0	100	0	
	ミツバ(軟白)	11	96.0	1.2	0.1	1.2	0.7	0.8	19	40	52	0.9	66	—	0.05	0.05	0.3	10	10	
	アスパラガス(水煮かんづめ)	19	93.2	2.0	0.1	3.1	0.5	1.1	17	—	34	0.8	3	—	0.06	0.05	1.0	20	0	
	カ　ブ	25	92.1	1.5	0.1	4.3	1.0	1.0	25	44	30	0.3	0	—	0.03	0.03	0.6	20	10	
	ミョウガ	17	94.2	1.2	0.1	2.1	1.7	0.7	33	—	16	0.6	23	—	0.07	0.06	0.5	5	0	
	もやし(ダイズ)	18	93.8	3.0	0.1	2.2	0.6	0.3	15	—	36	2.0	1	—	0.15	0.06	0.8	25	0	
	ラッキョウ(酢づけ)	36	89.2	1.0	0.1	8.0	0.5	1.2	18	—	18	1.4	0	—	0.04	0.03	0.7	2	0	
	れんこん	62	82.6	2.4	0.1	13.4	0.9	0.6	20	30	80	0.5	0	—	0.05	0.03	0.5	20	20	
果実類	マーマレード	262	32.2	0.3	0.2	66.3	0.6	0.4	35	—	10	2.3	33	—	0.03	0.01	0.3	2	0	
	ナツミカン	39	88.9	0.8	0.3	9.1	0.3	0.6	22	3	17	0.2	40	—	0.08	0.03	0.5	30	40	
	ウンシュウミカン	40	88.9	0.8	0.3	9.3	0.3	0.4	14	4	12	0.2	40	—	0.09	0.02	1.0	50	30	
	レモン	32	88.9	0.7	0.6	8.5	0.6	0.7	40	6	24	0.2	0	—	0.04	0.02	0.2	50	35	
	干しアンズ	248	30.0	3.0	1.8	56.8	5.1	3.3	52	—	94	3.5	360	—	0.03	0.03	1.8	0	0	
	イチゴ	38	89.1	0.8	0.4	7.1	1.9	0.7	14	2	17	0.5	16	—	0.04	0.02	0.3	80	3	
	イチジク	65	81.7	1.2	0.4	14.7	1.4	0.6	29	7	49	0.4	10	—	0.02	0.02	0.5	5	3	
	梅干し	17	69.8	0.3	0.8	3.1	0.3	25.7	61	9,400	26	2.0	0	—	0.06	0.09	0.6	0	40	食塩23.9%
	サクランボ	52	85.5	1.1	0.5	11.9	0.4	0.6	10	3	21	0.3	33	—	0.03	0.02	0.2	10	12	
	カキ(甘がき)	63	82.2	0.6	0.1	15.7	1.0	0.4	10	—	26	0.1	330	—	0.03	0.03	0.5	30	13	
	ナ　シ	39	89.1	0.3	0.2	9.4	0.7	0.3	2	9	11	0.3	0	—	0.06	0.04	0.1	4	22	
	パイナップル	47	86.7	0.5	0.2	11.5	0.7	0.4	15	40	4	0.3	33	—	0.01	0.02	0.7	60	50	
	バナナ	87	75.5	1.3	0.4	21.4	0.5	0.9	5	8	23	0.4	66	—	0.03	0.05	0.5	10	33	
	ビ　ワ	39	89.0	0.3	0.1	9.9	0.3	0.4	16	—	9	0.1	230	—	0.02	0.02	0.1	5	35	
	ブドウ	65	81.5	0.5	0.1	17.1	0.3	0.5	5	7	14	0.3	5	—	0.06	0.02	0.2	5	23	マスカットでは廃棄率10%
	モ　モ	37	89.4	0.6	0.1	8.9	0.5	0.5	3	2	13	0.3	33	—	0.03	0.04	0.5	10	12	
	リンゴ	45	87.9	0.4	0.5	10.4	0.6	0.2	3	2	7	0.2	15	—	0.01	0.01	0.1	5	18	
きのこ類	干しシイタケ	—	15.8	12.5	1.6	60.0	5.5	4.6	16	—	240	3.9	0	0	0.32	0.74	10.0	0	10	
	マツタケ	—	88.3	2.0	0.3	6.7	1.8	0.9	6	2	40	1.3	0	0	0.05	0.50	8.0	5	25	
	マッシュルーム	—	91.5	3.7	0.2	3.0	0.8	0.8	9	9	110	0.6	0	0	0.10	0.35	5.0	3	25	
	ナメコ	—	95.2	1.4	0.2	2.5	0.3	0.4	2	—	37	1.1	0	0	0.09	0.07	3.5	0	30	
海草類	アサクサノリ(中級)	—	11.1	34.2	0.7	40.5	4.8	8.7	470	—	380	23	10,000	0	0.21	1.00	3.0	20	0	
	コンブ(マコンブ)	—	14.7	7.3	1.1	51.9	3.0	22.0	800	2,500	150	—	430	0	0.08	0.32	1.8	11	0	

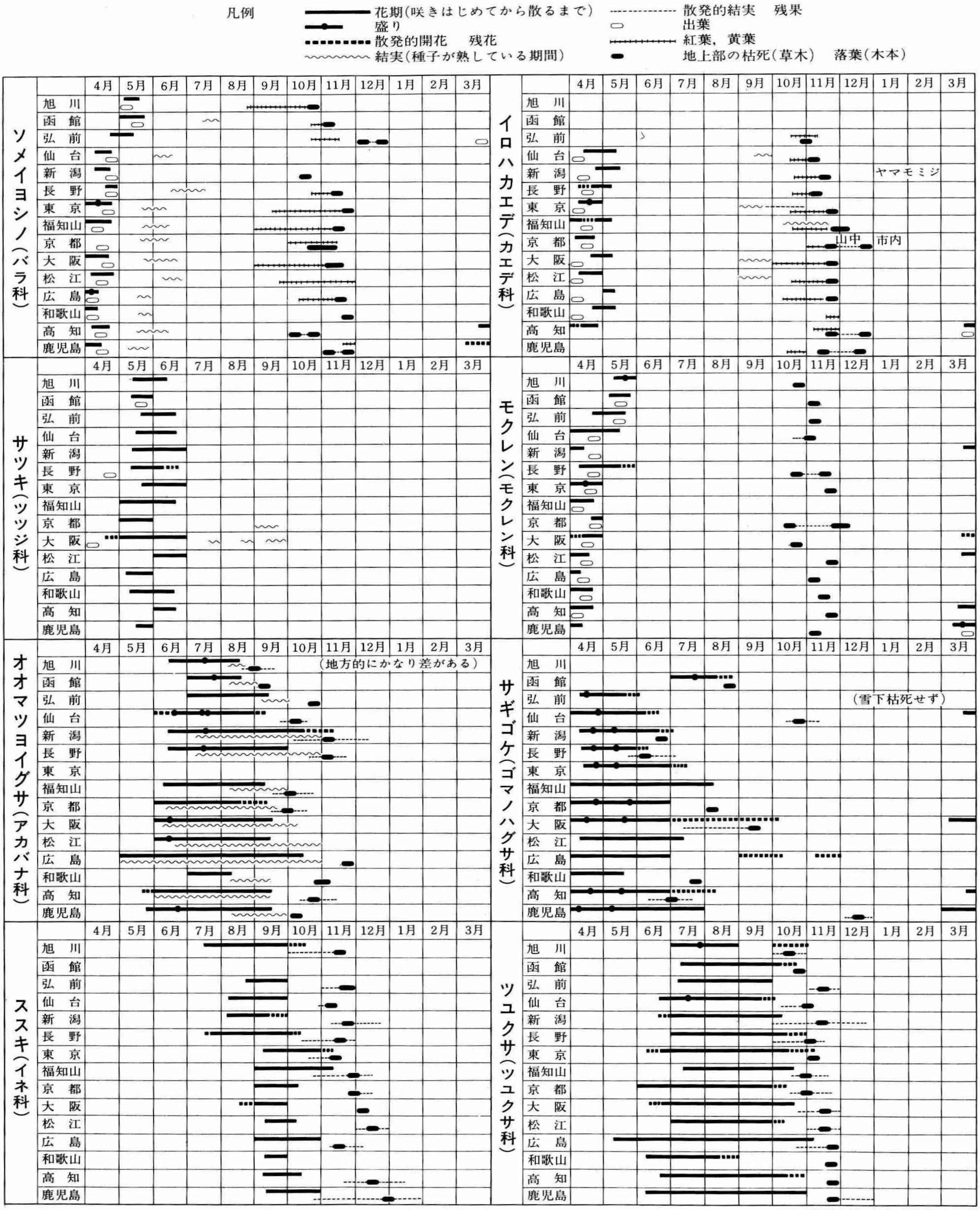
食品群	食品名	カロリー (Cal)	水分 (g)	タンパク質 (g)	脂質 (g)	炭水化物		灰分 (g)	無機質				ビタミン						廃棄率 (%)	備考
						糖質 (g)	繊維 (g)		カルシウム (mg)	ナトリウム (mg)	リン (mg)	鉄 (mg)	A (IU)	D (IU)	B_1 (mg)	B_2 (mg)	ニコチン酸 (mg)	C (mg)		
海草類	ワカメ	—	16.0	12.7	1.5	47.8	3.6	18.4	1,300	2,500	260	13	140	0	0.11	0.14	10.0	15	0	
	ヒジキ	—	16.8	5.6	0.8	29.8	13.0	34.0	1,400	—	56	29	150	0	0.01	0.20	4.0	0	0	
嗜好飲料類	コーヒー(浸出液)	—	98.7	0.7	0.3	—	0	0.1	5	1	8	0.2	0	0	0	0	1.2	0	0	12gの粉末を180ccの湯に浸出
	煎茶(浸出液)	—	99.6	0.1	0	0.2	0	0.1	2	—	1	0.1	0	0	0	0	0	2	0	3gの葉を180ccの湯に浸出
	紅茶(浸出液)	—	99.7	0.1	0	0.1	0	0.1	2	—	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1.5gの葉を100ccの湯に浸出
	ビール(びんづめ)	37	—	0.5	∅	3.1	0	0.1	2	—	16	0.1	0	0	0	0.02	∅	0	0	アルコール4.2%
	ぶどう酒(赤)	76	—	0.3	∅	0.7	0	0.2	15	—	4	0.8	0	0	0	0	∅	0	0	アルコール13%
	清酒(1級)	104	—	0.5	0	4.0	∅	0	5	—	6	0.1	0	0	0	0	0	0	0	アルコール15.6%
	しょうちゅう(25度)	142	—	0.	0	0	0	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	アルコール25%
	ウイスキー(1級)	231	—	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	アルコール40%
	白 酒	231	—	3.0	—	45.0	—	0.2	3	—	14	1.4	0	0	0	0	0.5	0	0	アルコール 8.5%
調味品類	カレー粉	—	6.8	10.2	14.8	52.4	9.8	6.0	90	180	340	45.0	0	0	0	0	5.5	0	0	
	しょうゆ	41	72.2	6.9	0.6	2.0	0	18.3	50	7,100	170	4.8	0	0	0.2	0.6	1.2	0	0	食塩18%
	ソース(ウスター)	70	73.0	1.5	0.3	14.5	0	9.2	33	3,000	10	4.2	0	0	0	0.08	0.6	0	0	酢酸1.5%, 食塩7.6%
	マヨネーズ	644	23.0	3.4	70.0	0.2	0	3.4	5	1,000	15	(0)	(330)	0	0.02	0.06	0.3	0	0	食塩2.5%
	トマトケチャップ	91	72.2	1.2	0.2	20.0	1.0	3.7	17	1,200	34	2.3	100	0	0.03	0.02	0.8	0	0	酢酸1.7%, 食塩3%
	酢	12	95.3	0.2	0	0.3	0	0.1	—	5	—	—	0	0	0	0.01	0	0	0	酢酸4.1%

10. 日本人の性・年齢別体位の平均値

1971年現在, 厚生省調べ

男 子	身 長(cm)	体 重(kg)	胸 囲(cm)	座 高(cm)	女 子	身 長(cm)	体 重(kg)	胸 囲(cm)	座 高(cm)
0歳	67.7	8.2	44.3	44.5	0歳	66.2	8.1	44.2	43.5
1	79.8	10.7	48.1	48.8	1	79.2	10.3	47.1	48.4
2	88.6	12.7	50.8	52.7	2	87.1	12.9	49.7	51.8
3	95.7	14.4	52.4	55.2	3	95.0	14.1	51.7	54.8
4	101.6	16.3	53.9	57.9	4	102.3	15.9	52.8	57.9
5	108.7	18.4	56.1	61.7	5	108.2	17.8	54.5	60.4
6	113.9	20.0	57.2	63.7	6	113.1	19.7	56.5	63.0
7	120.2	22.4	59.2	66.6	7	118.1	21.6	57.8	65.9
8	123.4	25.0	61.5	68.5	8	124.4	24.6	59.9	67.9
9	130.5	27.6	63.7	71.1	9	131.3	27.8	62.7	71.4
10	135.7	31.2	65.8	73.6	10	135.4	30.6	65.2	73.7
11	139.8	34.3	68.5	75.3	11	142.0	35.6	68.9	77.3
12	147.0	39.1	71.6	79.3	12	148.1	40.9	73.5	79.9
13	152.9	43.4	73.9	81.8	13	150.5	44.0	75.7	81.9
14	158.7	49.6	78.5	85.1	14	152.6	46.8	77.6	83.4
15	163.6	53.8	81.6	88.1	15	153.1	50.7	80.0	84.5
16	166.6	55.7	82.4	89.4	16	155.3	50.8	80.3	84.7
17	167.6	56.9	84.0	90.1	17	154.4	51.5	80.2	84.9
18	167.5	57.8	86.0	90.0	18	152.7	50.9	81.2	84.3
19	166.1	57.2	85.5	89.6	19	154.0	51.9	82.0	84.7
20	165.9	57.6	85.9	90.3	20	154.5	51.5	81.4	84.7
21	165.4	58.2	87.0	90.3	21	152.5	49.7	81.0	83.9
22	166.7	58.6	86.9	90.1	22	153.6	50.1	81.0	84.5
23	166.8	59.1	87.2	90.5	23	153.4	51.3	82.4	84.6
24	166.8	59.5	88.1	90.9	24	154.4	51.1	82.5	84.6
25	164.6	58.9	86.8	90.0	25	153.2	49.9	81.3	84.4
26〜29	164.4	59.5	88.2	89.5	26〜29	152.5	50.4	82.2	84.2
30〜39	163.2	59.8	88.3	89.3	30〜39	151.4	51.9	83.8	84.1
40〜49	161.7	58.9	88.0	88.8	40〜49	150.0	52.1	84.0	83.6
50〜59	160.1	56.6	87.2	87.3	50〜59	148.1	50.6	83.7	82.0
60〜69	157.0	54.7	86.8	85.7	60〜69	145.0	47.8	82.7	79.6
70歳以上	155.7	50.7	85.0	83.7	70歳以上	141.6	44.3	81.3	76.6

11. 日本各地における植物の季節的変化



資料提供　東京書籍株式会社

12. 自然科学上のおもな発明・発見

《理科年表》(1982年度版)による

年　代	事　項	発明または発見者(生国)
BC 400ごろ	原子論	デモクリトス(古ギ)
BC 400ごろ	医学を集大成	ヒッポクラテス(古ギ)
BC 300ごろ	古代科学を体系づける	アリストテレス(古ギ)
BC 300ごろ	光の直進，反射の法則	ユークリッド(古ギ)
BC 300ごろ	ユークリッド幾何学の完成	ユークリッド(古ギ)
BC 250ごろ	アルキメデスの原理	アルキメデス(古ギ)
BC 230ごろ	地球半径の測定	エラトステネス(古ギ)
BC 46ごろ	ユリウス暦を完成	カエサル(ローマ)
AD 100ごろ	《博物誌》	プリニウス(ローマ)
130ごろ	天動説を提唱，《アルマゲスト》の完成	プトレマイオス(古ギ)
200ごろ	医学・解剖学の書物を著わす	ガレノス(ローマ)
702～765	王水・硝酸銀・昇汞・蒸留法・灰吹き法・濾過法	ゲーベル(アラビ)
1020ごろ	アラビア医学大成	アビケンナ(アラビ)
1269	磁石の極の記述	ペレグリヌス(仏)
1543	地動説を提唱	コペルニクス(ポラン)
1543	《人体の構造》	ベザリウス(ベ)
1572	炭酸ガス	ヘルモント(ベ)
1586	斜面上のつりあい	ステビン(蘭)
1590	複式顕微鏡の発明	ヤンセン父子(蘭)
1600	磁石の諸性質	ギルバート(英)
1604	落体の法則	ガリレイ(伊)
1608	望遠鏡の創製	リッペルスハイ(蘭)
1609	ケプラーの第1・第2法則	ケプラー(独)
1619	ケプラーの第3法則	ケプラー(独)
1620ごろ	光の屈折の法則	スネル(蘭)
1620ごろ	慣性の法則，運動量の保存	デカルト(仏)
1628	血液循環の原理発見	ハーベー(英)
1643	トリチェリの真空	トリチェリ(伊)
1648ごろ	大気圧の証明	パスカル(仏)
1660ごろ	光の回折現象	グリマルディ(伊)
1660	フックの法則	フック(英)
1660	元素を定義，分析法に秩序を与える	ボイル(英)
1661	カエルの肺胞の毛細血管で血液循環を観察	マルピーギ(伊)
1661	フェルマーの原理	フェルマー(仏)
1962	ボイルの法則	ボイル(英)
1665	コルク切片による細胞の発見	フック(英)
1666	光の分散	ニュートン(英)
1668	反射望遠鏡	ニュートン(英)
1669	リン	ブランド(独)
1669	方解石の複屈折	バールトリン(デ)
1670	フロギストン説	ベッヒャー(独)・スタール(独)
1673	赤血球を発見	レーウェンフック(蘭)
1673	振り子および遠心力の理論	ホイヘンス(蘭)
1675	ニュートン環	ニュートン(英)
1675	光の速度	レーマー(デ)
1678	光の波動説	ホイヘンス(蘭)
1683	原生動物・バクテリアなどを発見	レーウェンフック(蘭)
1686	顕花植物を双子葉・単子葉類に分類	レー(英)
1686	活力の保存	ライプニッツ(独)
1687	運動の法則	ニュートン(英)
1687	万有引力	ニュートン(英)

年　代	事　項	発明または発見者(生国)
1694	植物の受精現象を発見	カメラリウス(独)
1729	光量測定の基礎	ブゲー(仏)
1729	電気の伝導	グレイ(英)
1733	2種の電気	デュフェイ(仏)
1738	ベルヌーイの定理	D. ベルヌーイ(スイス)
1742	温度計の度盛り(セ氏)	セルシウス(スウェ)
1743	ダランベールの原理	ダランベール(仏)
1744	最小作用の原理	モーペルチュイ(仏)・オイラー(スイス)
1745	ライデンびん	クライスト(独)
1747	電気流体説	フランクリン(米)
1748	白金	ウロア(西)
1749	《博物誌》	ビュフォン(仏)
1751	ニッケル	クロンステット(スウェ)
1753	静電感応	カントン(英)
1753	近代分類学を創始	リンネ(スウェ)
1755	流体力学の方程式	オイラー(スイス)
1760	剛体の運動方程式	オイラー(スイス)
1761	潜熱・熱容量の発見	ブラック(英)
1764	火浣布(石綿布)の製造	平賀源内(日)
1766	水素	キャベンディッシュ(英)
1772	窒素	ラザフォード(英)
1772	酸素	シェーレ(スウェ)
1772	焼燃を説明し質量不変の定律を提唱	ラボアジエ(仏)
1774	塩素	シェーレ(スウェ)
1774	酸素・亜硫酸ガス・アンモニアガス	プリーストリ(英)
1774	《解体新書》翻訳	杉田玄白(日)
1776	一酸化炭素	ラソーヌ(仏)
1779	光合成を発見	インゲンハウス(蘭)
1780	動物電気	ガルバーニ(伊)
1781	天王星を発見	ハーシェル(英)
1785	ぬじりばかり，摩擦の法則	クーロン(仏)
1785～1789	磁気・電気のクーロンの法則	クーロン(仏)
1788	《解析力学》	ラグランジェ(仏)
1796	星雲説を唱える	ラプラス(仏)
1796	種痘法を創始	ジェンナー(英)
1798	摩擦による熱の発生	ランフォード(英)
1798	万有引力定数の測定	キャベンディッシュ(英)
1799	ボルタ電池	ボルタ(伊)
1799	定比例の定律，ブドウ糖	プルースト(仏)
1800	赤外線	W. ハーシェル(英)
1800	水の電気分解	カーライル(英)・ニコルソン(英)
1801	紫外線	リッター(独)
1801	光の干渉，3原色の説	ヤング(英)
1802	気体の熱膨張の法則	ゲイ-リュサック(仏)
1803	分圧の法則，倍数比例の法則，原子説	ドルトン(英)
1803	ヘンリーの法則	ヘンリー(英)
1805	モルフィン(最初のアルカロイド)	ゼルチュルネル(独)
1807	ナトリウム・カリウム	デービー(英)
1808	気体反応の定律	ゲイ-リュサック(仏)
1808	マグネシウム	デービー(英)
1808	反射による偏光	マリュス(仏)

注）アイル：アイルランド　米：アメリカ合衆国　アラビ：アラビア　英：イギリス　伊：イタリア　印：インド　オ：オーストリア　蘭：オランダ　加：カナダ　ギ：ギリシア　スウェ：スウェーデン　西：スペイン　ソ：ソ連　チェエ：チェコスロバキア　中：中国　デ：デンマーク　独：ドイツ　日：日本　ニ：ニュージーランド　ネ：ネパール　ノ：ノルウェー　ハ：ハンガリー　フ：フィンランド　ブ：ブラジル　仏：フランス　ベ：ベルギー　ポラン：ポーランド　ポルト：ポルトガル　露：ロシア

年 代	事 項	発明または発見者(生国)
1809	《動物哲学》を著わす。系統樹を作成……	ラマルク(仏)
1811	分子説……	アボガドロ(伊)
1815	太陽スペクトルの黒線……	フラウンホーファー(独)
1815	偏光角の法則……	ブルースター(英)
1816～1819	光の回折，偏光の波動論……	フレネル(仏)
1816	気体の2種の比熱を区別……	ラプラス(仏)
1818	過酸化水素……	テナール(仏)
1819	キニーネ……	ペルチエ(仏)・カベントー(仏)
1819	デュロン-プチの法則 ……	デュロン(仏)・プチ(仏)
1820	電流の磁気作用……	エルステッド(デ)
1820	電流計……	シュワイゲル(独)
1820	電磁石……	アラゴ(仏)
1820	アンペールの法則……	アンペール(仏)
1820	ビオ-サバールの法則 ……	ビオ(仏)・サバール(仏)
1821	弾性体理論の基礎方程式……	ナビエ(仏)
1821	回折格子による光の波長測定	フラウンホーファー(独)
1822	熱解析論……	フーリエ(仏)
1823	塩素の液化……	ファラデー(英)
1824	カルノーの原理……	カルノー(仏)
1825	ベンゼン……	ファラデー(英)
1826	アニリン(インジゴより)……	ウンフェルドルベン(独)
1826	オームの法則……	オーム(独)
1827	ブラウン運動……	ブラウン(英)
1827	アルミニウム……	ウェーラー(独)
1828	尿素の合成……	ウェーラー(独)
1830	〈地質学原理〉を提唱……	ライエル(英)
1831	分子熱の法則……	ノイマン(独)
1831	クロロホルム……	リービヒ(独)
1831	電磁誘導……	ファラデー(英)
1832	自己誘導……	ヘンリー(米)
1832	気体拡散の法則……	グレアム(英)
1833	ファラデーの法則(電気分解)	ファラデー(英)
1833～1841	地磁気の絶対測定……	ガウス(独)・ベーバー(独)
1834	電気分解の法則……	ファラデー(英)
1834	アニリンおよび石炭酸……	ルンゲ(仏)
1834	ハミルトンの原理……	ハミルトン(アイル)
1834	ペルチエ効果……	ペルチエ(仏)
1834	レンツの法則……	レンツ(露)
1835	コリオリの力……	コリオリ(仏)
1836	電気めっき法……	ヤコビー(独)
1836	アセチレン……	デービー(英)
1836	定常電池の製作……	ダニエル(英)
1837	電気の近接作用論……	ファラデー(英)
1838	植物で細胞説を唱える……	シュライデン(独)
1839	一般細胞説を唱える……	シュワン(独)
1839	潜像の発見，写真術の発明…	ダゲール(仏)・タルボット(英)
1839	《舎密開宗》の出版……	宇田川榕菴(日)
1840	ヘスの法則……	ヘス(露)
1840	オゾン……	シェーンバイン(独)
1840	農業科学を創立。微生物と病気・発酵との関係を研究……	リービヒ(独)
1842	ドップラーの原理……	ドップラー(オ)
1842	エネルギーの保存，熱の仕事当量……	マイヤー(独)
1842	有機化合物の分類……	ゼラール(仏)
1843	熱の仕事当量……	ジュール(英)
1845	ファラデー効果，反磁性……	ファラデー(英)
1845	螢光……	J.ハーシェル(英)
1845	赤リン……	シュレッテル(オ)
1847	エネルギー保存の法則……	ヘルムホルツ(独)
1848	熱力学的温度目盛り……	ケルビン(英)
1849	地上での光速度測定……	フィゾー(仏)
1850	熱力学の第2法則……	クラウジウス(独)
1850	光速度測定による波動説の証明	フーコー(仏)
1851	熱力学の第2法則……	ケルビン(英)
1851	地球回転の証明……	フーコー(仏)
1854	ジュール-トムソン効果 ……	ジュール(英)・トムソン(英)
1855	渦電流……	フーコー(仏)
1856	モーベイン……	パーキン(英)
1856	レンズの5収差……	ザイデル(独)
1857	アルコール発酵の研究。生理化学発展の基礎をつくる……	パスツール(仏)
1858	陰極線の螢光作用，磁気偏曲	プリュッカー(独)
1858	炭素4原子価説……	ケクレ(独)
1858	《細胞病理学》を著わす……	フイルヒョウ(独)
1859	《種の起源》を出版。進化論を集大成……	ダーウィン(英)
1859	アセチレンの合成……	ベルトロ(仏)
1859	蓄電池……	プランテ(仏)
1859	気体分子運動論の基礎……	マクスウェル(英)
1860	キルヒホフの法則(放射)……	キルヒホフ(独)
1861	電磁場の方程式……	マクスウェル(英)
1861	光の電磁波説……	マクスウェル(英)
1861	コロイド……	グレアム(英)
1861	自然発生説を完全に否定……	パスツール(仏)
1862	アンモニア-ソーダ法 ……	ソルベー(ベ)
1863～1869	炭酸ガスの液化，臨界温度…	アンドルーズ(英)
1864	質量作用の法則……	グルドベルク(ノ)・ワーゲ(ノ)
1865	エンドウを用い遺伝法則を発見	メンデル(オ)
1865	ベンゼンの構造式……	ケクレ(独)
1865	エントロピー増大の原理……	クラウディウス(独)
1867	ダイナマイト……	ノーベル(スウェ)
1867	ホルマリン……	ホフマン(独)
1868	ヘリウム……	ロッキャー(英)・フランクランド(英)
1869	元素の周期律……	メンデレーエフ(露)
1869	セルロイド……	ハイアット(米)
1870	炭酸同化作用説……	バイエル(独)
1873	液体と気体の状態方程式……	ファン-デル-ワールス(蘭)
1874	不斉炭素原子説……	ファント-ホフ(蘭)・ルーベル(仏)
1875	カー効果……	カー(英)
1876	相律……	ギブス(米)
1877	酸素の液化……	カイユテ(仏)・ピクテ(スイス)
1877	熱力学第2法則の統計的基礎 …	ホルツマン(オ)
1878	《昆虫記》を刊行……	ファーブル(仏)
1879	流体運動の相似法則……	レイノルズ(英)
1879	シュテファンの法則(放射)…	シュテファン(オ)
1880	インジゴの合成……	バイエル(独)
1881	結核菌を発見。細菌学を確立	コッホ(独)
1881	狂犬病ワクチンを完成……	パスツール(仏)
1881	磁気のヒステリシス……	バールブルク(独)
1882	自由エネルギーの概念……	ヘルムホルツ(独)
1883	蒸気圧降下の法則……	ラウール(仏)
1884	水素の液化……	ロブレウスキー(ポラン)・オテチエウスキー(ポラン)
1884	糖類の合成……	フィッシャー(独)
1884	エジソン効果(熱電子)……	エジソン(米)
1884	シュテファンの法則の理論…	ボルツマン(オ)
1885	水素スペクトル系列の公式…	バルマー(スイス)
1886	陽極線……	ゴルトシュタイン(独)
1886	フッ素……	モアッサン(仏)
1887	希薄溶液の理論……	ファント-ホフ(蘭)
1887	人造絹糸……	シャルドンネ(仏)
1887	電解質溶液の理論……	アレニウス(スウェ)
1887	光電効果……	ヘルツ(独)
1887	マイケルソン-モーリーの実験…	マイケルソン(米)・モーリー(米)
1887	衝撃波の写真撮影……	マッハ(オ)
1888	電磁波の実験的証明……	ヘルツ(独)
1888	オストワルド希釈律……	オストワルド(独)

年　代	事　項	発明または発見者(生国)
1888	反抗律	ルシャトリエ(仏)・ブラウン(独)
1889	電離溶圧	ネルンスト(独)
1890	スペクトル公式	リュードベリ(スウェ)
1890	放射圧の実証	レベジェフ(露)
1890	重力質量と慣性質量の同等	エトベシュ(ハ)
1890	ツベルクリンを創製	コッホ(独)
1890	北里柴三郎とともに破傷風・ジフテリアの血清療法を完成	ベーリング(独)
1891	直立猿人の化石発見	デュボア(蘭)
1892	指示薬理論	オストワルド(独)
1892	エフェドリン	長井長義(日)
1892	短縮仮説	ローレンツ(蘭)
1893	ウイーンの変位法則	ウイーン(独)
1893	タバコモザイク病病原体の発見	イワノフスキー(露)
1893	配位説	ウェルナー(スイス)
1894	アルゴン	レーリー(英)・ラムゼー(英)
1894	空気の液化装置	リンデ(独)
1895	運動物体の電磁光学理論	ローレンツ(蘭)
1895	X線	レントゲン(独)
1895	陰極線が負電荷を運ぶことの証明	ペラン(仏)
1895	キュリーの法則(磁性)	キュリー(仏)
1896	ウランの放射能	ベクレル(仏)
1896	ゼーマン効果	ゼーマン(蘭)・ローレンツ(蘭)
1896	ソテツの精子を発見	池野成一郎(日)
1896	イチョウの精子を発見	平瀬作五郎(日)
1896	ワルデン転位	ワルデン(独)
1897	赤痢菌を発見	志賀潔(日)
1897	電子の存在確認	J.J.トムソン(英)
1897	無線電信	マルコーニ(伊)
1898	ラジウム・ポロニウム	キュリー夫妻(仏)
1900	放射論・作用量子	プランク(独)
1900	金属電子論	ドルーデ(独)
1900	クリプトン・ネオン・キセノン	ラムゼー(英)・トレバース(英)
1900	条件反射の研究	パブロフ(露)
1901	ABO式血液型(3種)を発見	ラントシュタイナー(オ)
1901	グリニアル試薬	グリニアル(仏)
1901	結晶状アドレナリン	高峰譲吉(日)
1901	樟脳の合成	コンパ(フ)
1901	熱電子	リチャードソン(英)
1902	統計力学の確立	ギブス(米)
1902	緯度変化のZ項を発見	木村栄(日)
1903	放射性原子の崩壊説	ラザフォード(英)・ソディ(英)
1903	電子の質量の速度による変化	カウフマン(独)
1905	特殊相対性理論	アインシュタイン(独)
1905	光量子仮説	アインシュタイン(独)
1905	常磁性の理論	ランジュバン(仏)
1905	空中窒素固定法	ビルケランド(ノ)・アイデ(独)
1905	ニッケル触媒による水素添加	サバチェ(仏)
1906	熱力学第3法則	ネルンスト(独)
1906	固体比熱の理論	アインシュタイン(独)
1907	陽極線分析	J.J.トムソン(英)
1907	分子磁場・磁区の概念	バイス(仏)
1907	漆の研究	真島利行(日)
1908	ヘリウムの液化	オンネス(蘭)
1908	計数管の製作	ラザフォード(英)・ガイガー(独)
1908	α粒子＝ヘリウム原子核を実証	ラザフォード(英)・ロイズ(英)
1909	油滴法による電子電荷の測定	ミリカン(米)
1909	ベークライト	ベークランド(米)
1909	サルバルサン	エールリッヒ(独)・秦佐八郎(日)
1910	ショウジョウバエの遺伝を研究，染色体上の遺伝子の配列を示す	モーガン(米)
1910	オリザニン(ビタミンB)	鈴木梅太郎(日)
1910	地球の形状を決定	ヘイフォード(米)
1910	同位体の概念	ソディ(英)
1911	霧箱の発明	C.T.R.ウイルソン(英)
1911	超伝導	オンネス(蘭)
1911	原子核の存在	ラザフォード(英)
1911～1912	宇宙線の発見	ヘス(オ)
1912	結晶によるX線の回折	ラウエ(独)
1912	光化学当量の法則	アインシュタイン(独)
1912	分子の双極子モーメント	デバイ(蘭)
1913	放射性元素の変移則	ソディ(英)・ファヤンス(ポラン)
1913	H-R図を発表	ラッセル(米)
1913	原子構造の量子論	ボーア(デ)
1913	シュタルク効果	シュタルク(独)
1913	原子番号と元素の固有X線の関係	モーズリ(英)
1914	原子のエネルギー準位	フランク(独)・ヘルツ(独)
1915	一般相対性理論	アインシュタイン(独)
1915	水素スペクトルの微細構造理論	ゾンマーフェルト(独)
1915	結晶状チロキシン(甲状腺ホルモン)	ケンドール(米)
1916	有機微量分析法	プレーブル(チェコ)
1916	粉末結晶によるX線の分析法	デバイ(蘭)・シェラー(スイス)
1918	対応原理	ボーア(デ)
1918	吸着等温式	ラングミュア(米)
1919	癌の人工的発生に成功	山極勝三郎(日)
1919	質量分析器による同位体研究	アストン(英)
1919	α粒子による原子核破壊	ラザフォード(英)
1919	バルクハウゼン効果	バルクハウゼン(独)
1921	原子の磁気能率	シュテルン(独)・ゲルラッハ(独)
1922	コンプトン効果	コンプトン(米)
1922	インシュリン(膵臓ホルモン)	バンチング(加)
1923	強電解質理論	デバイ(蘭)・ヒュッケル(独)
1923	物質波概念	ド-ブローイ(仏)
1924	ボース-アインシュタイン統計	ボース(印)・アインシュタイン(独)
1924	BCG接種法を発見。結核予防法として提唱	カルメット(仏)・ゲラン(仏)
1925	電子スピン	ハウトシュミット(蘭)・ユーレンベック(蘭)
1925	排他原理	パウリ(オ)
1925	行列力学	ハイゼンベルク(独)
1926	ウレアーゼの結晶化に成功	サムナー(米)
1926	波動力学	シュレーディンガー(独)
1926	フェルミ統計	フェルミ(伊)
1927	不確定性原理	ハイゼンベルク(独)
1927	電子線の回折	デービソン(米)ら
1927	ヘリウムII	ケーソム(蘭)
1927	相補性原理	ボーア(デ)
1927	ビタミンE	エバンス(英)
1927	共有結合の量子論	ハイトラー(独)・ロンドン(米)
1928	ジエン合成	ディールス(独)・アルダー(独)
1928	共鳴理論	ポーリング(米)
1928	ペニシリンを発見	フレミング(英)
1928	強磁性体の理論	ハイゼンベルク(独)
1928	金属電子の量子論	ブロッホ(スイス)
1928	相対論的電子方程式	ディラック(英)
1928	α崩壊の理論，トンネル効果	ガモフ(ソ)
1928	ラーマン効果	ラーマン(印)
1929	相対論的場の量子論	ハイゼンベルク(独)・パウリ(オ)
1929	宇宙線シャワー	スコベルチン(ソ)
1929	ヘミンの合成	フィッシャー(独)

年代	事項	発明または発見者(生国)
1929	酸素の同位体	ジョーク(仏)・ジョンストン(英)
1929	濾胞ホルモン(女性ホルモン)の構造式	ブテナント(独)・ドアシー(米)
1930	サイクロトロン	ローレンス(米)・リビングストン(米)
1931	半導体の理論	A.H.ウィルソン(英)
1931	ニュートリノ仮説	パウリ(オ)
1931	ビタミンD	ウインダウス(独)ら
1931	合成ゴム	カロザース(米)・ウイリアムス(米)
1932	分子軌道法	ハント(独)・マリケン(米)
1932	中性子	チャドウィック(英)
1932	陽電子	アンダーソン(英)
1932	重水素の分離	ユーリー(米)
1932	高電圧加速装置で原子核人工変換	コッククロフト(英)・ウォルトン(アイル)
1933	β崩壊の理論	フェルミ(伊)
1933	ビタミンAの構造式	カラー(スイス)
1934	アンドロステロン(最初の男性ホルモン)の合成	ブテナント(独)
1934	黄体ホルモン(女性ホルモン)の構造式	ブテナント(独)・スロッタ(独)
1934	共有結合半径	ポーリング(米)
1934	人工放射能	ジョリオ-キュリー夫妻(仏)
1934	位相差顕微鏡	ゼルニケ(蘭)
1934	チェレンコフ効果	チェレンコフ(ソ)
1935	中間子論	湯川秀樹(日)
1935	ビタミンD_2の構造式	ウインダウス(独)
1935	ビタミンB_2の構造式	カラー(スイス)・クーン(独)
1935	タバコモザイク病ウイルスを結晶化	スタンリー(米)
1935	サルファ剤の創製	ドマーク(独)
1936	ビタミンB_1の構造決定，合成	ウイリアムス(米)・ウインダウス(独)ら
1937	電動泳動法による血清タンパク成分の分離	ティセリウス(スウェ)
1937	《生命の起原》を著わす	オパーリン(ソ)
1937	ビタミンAの合成	クーン(独)
1937	宇宙線中間子	アンダーソン(米)・ネッダーマイヤー(米)
1938	反強磁性	ビゼット(仏)ら
1938	電子顕微鏡	クルノ(独)・ルスカ(独)
1938	合成繊維ナイロン	カロザース(米)
1938	ウラン原子核分裂	ハーン(独)・ストラスマン(独)
1939	ビタミンKの構造決定，合成	カラー(スイス)ら
1939	87番元素(1947年フランシウムと命名)	ペレイ(仏)
1939	核反応による星の熱源の説明	ベーテ(独)
1939	磁気共鳴法	ラビ(米)
1940	超ウラン元素(Np)の創製	マクミラン(米)・アベルソン(米)
1940	85番元素(1947年アスタチンと命名)	セグレ(伊)・コーソン(米)
1940	93番元素ネプツニウム	マクミラン(米)
1940	94番元素プルトニウム	シーボーグ(米)ら
1940	抗原抗体反応の理論発表	ポーリング(米)
1941	ベータートロン製作	カースト(米)
1941	量子流体力学	ランダウ(ソ)
1942	核分裂連鎖反応の持続	フェルミ(伊)ら
1943	ストレプトマイシン	ワックスマン(米)
1944	95番元素アメリシウム	シーボーグ(米)ら
1944	96番元素キュリウム	シーボーグ(米)ら
1945	電子スピン共鳴法	ザボイスキー(ソ)
1945	シンクロトロン	マクミラン(米)・ベクスラー(ソ)
1946	核磁気共鳴法で核の磁気能率測定	ブロッホ(スイス)・パーセル(米)
1947	2種の中間子の存在	パウエル(英)
1947	V粒子発見	ローチェスター(英)・バトラー(英)
1948	くりこみ理論	朝永振一郎(日)・シュウインガー(米)
1948	核の殻構造論(マジック数)	M.G.メイヤー(米)
1948	トランジスター	ブラッティン(米)ら
1948	フェリ磁性	ネール(仏)
1948	ATPの合成	トッド(英)
1949	レッペ反応	レッペ(独)
1949	97番元素バークリウム	シーボーグ(米)ら
1949〜1959	新粒子(Λ，Σ，Ξ，K)発見	パウエル(英)・アンダーソン(米)ら
1950	98番元素カリフォルニウム	シーボーグ(米)ら
1951	コレステリンの全合成	ウッドワード(米)・ロビンソン(英)
1951	インシュリンのアミノ酸順位決定	サンガー(米)
1952	細胞内物質交代の研究	レダーバーグ(米)
1952	99番元素アインスタイニウム	ジョルソ(米)ら
1953	細胞の形質導入の研究	クレブス(英)
1953	核酸の二重らせん構造説を発表	ワトソン(米)・クリック(米)
1953	100番元素フェルミウム	ジョルソ(米)ら
1953	チーグラー法	チーグラー(独)
1953	あわ箱	グレイサー(米)
1954	メーザーの発明	タウンズ(米)
1955	反陽子の創造	セグレ(伊)
1955	ビタミンB_{12}の構造決定	ホジキン(英)
1955	インシュリンの構造解明	サンガー(英)
1955	101番元素メンデレビウム	ジョルソ(米)ら
1955	核酸(DNA)を試験管内で酵素的に合成	オチョア(西)
1956	反中性子の確認	ピッチオーニ(伊)ら
1957	パリティの非保存	リー(中)・ヤン(中)・ウ(中)
1957	超伝導の理論	バーディーン(米)
1957	メスバウアー効果	メスバウアー(独)
1957	102番元素ノーベリウム	アルゴンヌ研究所(米)・ハーウェル研究所(英)・ノーベル研究所(スウェ)
1960	レーザーの製作	マイマン(米)
1961	103番元素ローレンシウム	ローレンス研究所(米)
1962	不活性元素化合物の合成	バートレット(加)
1962	2種のニュートリノ	ブルックヘブン研究所
1964	フォーク理論	ゲルマン(米)ら
1967	パルサー	ヒュイッシュ(英)
1969〜1973	非晶質の電子論	モット(英)
1972	ビタミンB_{12}の全合成	ウッドワード(米)・エッシェンモーゼル(スイス)
1974	新粒子(J/ψ)の発見	リヒター(米)・ティン(米)

13. 地理学上のおもな探検および発見

《理科年表》(1982年度版)による

年　代	発見または探検区域	発見または探検者(生国)
BC334~BC324	ペルシア・インド遠征	アレクサンドロス大王(ギ)
BC230	エジプトで地球の球形の大きさを測定	エラトステネス(ギ)
AD819	アラビアで地球の球形の大きさを測定させる	回教主アルマムン
1000ごろ	グリーンランドからニューファンドランドを経て北アメリカ大陸に渡り，ビンランドと命名	リエフ(スカン)
1271~1295	中央アジア・中国・インド旅行	マルコ-ポーロ(伊)
1322	地球が球形であることを説く	マンドビル(英)
1486	アフリカ西海岸を伝わって喜望峰を回る	バーソロミュー-ジアス(ポルト)
1492	西インド諸島中のサンサルバドル発見	コロンブス(伊)第1航海
1492	大西洋にスペイン・ポルトガルの境界線をつくる	ローマ教皇アレクサンデル6世(伊)
1493~1504	ジャマイカ・キューバ・オリノコ河口・ホンジュラス・トリニダード島などを発見	コロンブス(伊)第2・第3・第4航海
1497~1498	アフリカ喜望峰を回りインドに達す	バスコ-ダ-ガマ(ポルト)
1497	ニューファンドランドに至る	ジョン・カボット(西)
1499	南アメリカ海岸ベネズエラを探検	アメリゴ-ベスプッチ(伊)
1499~1500	アマゾン河口に至る	ピンゾン(ポルト)
1500	インドへの途中ブラジルを発見	アルバレス-カブラル(ポルト)
1501	南アメリカ海岸を南下してそれが大陸であることを認める	アメリゴ-ベスプッチ(伊)
1513	パナマ地峡を経て太平洋岸に出る	バルボア(西)
1517	南アメリカ，ラプラタ川を発見	ファン-ジュ-ソリス(西)
1519~1521	南アメリカを回り太平洋横断，マリアナ諸島発見，フィリピンで殺される	マゼラン(ポルト)
1522	マゼランの乗船ビクトリア号世界一周を完成	カノ(西)
1522	パリ～アミアン間で地球の球形の大きさを測定	フエルネル(仏)
1542	フィリピン・パラウ諸島などを発見，フィリピンをスペイン領とする	ビリャロボス(西)
1569	メルカトール投影法を発明	メルカトール(ベ)
1577~1579	世界を周航し北アメリカ西岸を探検	ドレーク(英)
1579	シベリアに侵入しイルチシュ河畔シビルを占領	イエルマック(露)
1606	トーレス海峡を発見	トーレス(西)
1606	カーペンタリア湾を発見	トィフケン号(蘭)
1622	オーストラリア南西角を発見	レーウイン(蘭)
1630	カナリア諸島フェロー島を通る子午線を本初子午線とする	
1639	シベリアを横断し東海岸に至る	クビロフ(露)
1642	タスマニア・ニュージーランドを発見	タスマン(蘭)
1642	アムール川流域を探検し河口に達する	ボヤルコフ(露)
1648	ベーリング海峡を経てアナジリ河口に達し，ロシア人としてアジアの東北端を最初に認識する	デジュネフ(露)
1675	徳川幕府の命により小笠原諸島を探検	嶋谷市左衛門(日)
1682	ミシシッピ川を下る	ラ-サール(仏)
1685	日本，南方諸島を探検させる	徳川光圀(日)
1687	《プリンキピア》において地球が短軸回転楕円体であることを主唱	ニュートン(英)
1687~1688	快風丸に日本東北方諸島・石狩川・ダッタン地方などを探検させる	徳川光圀(日)
1696	ロシア人カムチャッカに至る	
1718	ジェスイット教徒，清の康熙帝のために清図をつくる	
1735~1741	ラプランドおよびペルーでのフランスの測量により地球が短軸回転楕円体であることを確認	
1741	ベーリング海峡を通過	ベーリング(デ)
1768~1771	ニュージーランドに達しクック海峡通過，オーストラリア東岸を発見	クック(英)第1航海
1776~1779	北アメリカの西岸およびハワイを発見	クック(英)第3航海
1785~1788	北東アジア・日本および樺太(現サハリン)沿岸を調査	ラ-ペルーズ(仏)
1786	千島・樺太探検	最上徳内(日)
1798	択捉(えとろふ)島探検	近藤重蔵(日)
1799~1804	中央アメリカ・南アメリカ探検	アレクサンドル-フォン-フンボルト(独)
1800~1818	《大日本沿海輿地図》の測量ならびに製図	伊能忠敬(日)
1808	樺太・シベリアを探検し樺太が島であることを発見	間宮林蔵(日)

年　代	発見または探検区域	発見または探検者(生国)
1821	《大日本沿海輿地全図》および《輿地実測録》を完成	伊能忠敬(日)
1828~1831	オーストラリアのダーリング川・マーレー川を探検	スタート(英)
1840~1842	南緯78°10′に達しビクトリア州およびエレブス・ロテル火山を発見	ジェームス-ロス(英)
1849~1873	ザンベジ川を探り南アフリカを横断	リビングストン(英)
1860	オーストラリアを南北に横断	バーク(英)
1868~1872	中国探検ならびに調査	リヒトホーフェン(独)
1871~1888	中部アジアを探検すること4回	ブルジェワルスキー(露)
1872~1876	チャレンジャー号世界一周海洋調査	マレー(英)
1876~1889	アフリカ探検	スタンリー(英)
1878~1879	東北航路を解決しスカンジナビアから日本に至る	ノルデンショルド(スウェ)
1878~1880	秦嶺・南山・四川・雲南探検	チェヒエニ・ロッチー(オ)
1893~1897	トルキスタン・チベット・新疆調査	スブェン・ヘディン(スウェ)
1895	北緯86°4′に達する	ナンセン(ノ)
1903	南緯82°17′に達する	スコット(英)
1903~1904	中部および北部中国探検	ウイリス(米)カーネギー探検隊
1904~1915	カスピ海調査	クニボビッチ(露)
1908	南緯88°23′に達する	シヤクルトン(英)
1909	北極に達する	ピアリー(米)
1910~1912	南極探検におもむきフェールス湾より上陸し南緯80°5′に達する	白瀬矗(日)
1911	南極に達する	アムンゼン(ノ)
1921~1923	エベレスト山探検	英国王立地学協会探検隊
1926	飛行機でスピッツベルゲンより北極に達する	バード(米)
1926	飛行船でスピッツベルゲンから北極・アラスカを横断する	アムンゼン(ノ)
1928~1930	世界周航。ダナ号	シュミット(デ)
1929	ツエッペリン伯飛行船の世界一周	エッケナー(独)
1929~1930	飛行機でリトルアメリカより南極へ	バード(米)
1929~1931	東南アジア海域調査。スネリウス号	ファンリール(蘭)
1931~1935	シリンゴル・ウランチャップ調査	東亜考古学会(日)
1932	北極洋航路調査。シビリアコフ号	シュミット(ソ)
1933	熱河調査	徳永重康(日)
1933~	太平洋いっせい海洋調査	水産調査船(日)
1933	エベレスト山航空探検	ヒューストン探検隊，プラッカー(英)
1935	自由気球エクスプローラII号22,066mに達する	アンダーソン・スチーブンス(米)
1937	ナンガパルバット山調査・写真測量	トロール・フィンステルワルダー・ウィーン(独)
1937~1938	北極洋調査	パパーニン(ソ)
1947	南極大陸探検	バード(米)
1947~1948	世界周航深海探検。アルバトロス号	ペッターソン(スウェ)
1949~	西太平洋精密観測。ビチアス号	ゼンコビィッチら(ソ)
1950~1952	世界周航深海調査。ガラテア号	ブルーン(デ)
1950	アンナプルナ登頂成功	フランス隊(隊長エルゾーク)
1953	エベレスト登頂成功	ヒラリー(ニ)・テンシン(ネ)・隊長ハント(英)
1953	ナンガパルバット登頂成功	ドイツ・オーストリア隊
1954	K_2登頂成功	イタリア隊
1954	バチスカーフ号4,050mの深さに潜水	ウオー(仏)
1955	カンチェンジュンガ登頂成功	バンド・ブラウン(隊長エバンス)(英)
1955	マカルー登頂成功	フランス隊(隊長ジャン-フランコ)
1956	マナスル登頂成功	日本隊(隊長槇有恒)
1956~1958	国際地球観測年事業南極探検	日本隊ほか各国
1957	人工衛星スプートニク1号成功	(ソ)
1959	月の裏面撮影。惑星間ステーション	(ソ)
1961	有人衛星ボストーク1号	ガガーリン(ソ)
1964	月面の大縮尺写真撮影。レンジャー7号	(米)
1965	宇宙遊泳	アレクセイ-レオノフ(ソ)
1965	火星の写真撮影。マリーナ4号	(米)
1966	観測器材の月面着陸に成功。ルナ9号	(ソ)
1969	人類はじめて月面に着陸，岩石標本採取，地震計など測定機器を設置。アポロ11号	アームストロング・オルドリン(およびコリンズ)(米)
1976	観測器材の火星着陸・写真撮影・資料分析等に成功。バイキング1，2号	(米)

注　米：アメリカ　英：イギリス　伊：イタリア　オ：オーストリア　蘭：オランダ　ギ：ギリシア　スウェ：スウェーデン　スカン：スカンジナビア　西：スペイン　ソ：ソ連　デ：デンマーク　独：ドイツ　日：日本　ニ：ニュージーランド　ネ：ネパール　ノ：ノルウェー　仏：フランス　ベ：ベルギー　ポルト：ポルトガル　露：ロシア

14. 日本主要都市の月別平年気温(℃)

(1951～1980年の平均)　　《理科年表》(1982年度版)による

地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
稚内	-5.7	-5.6	-1.6	4.3	8.7	12.4	16.8	18.9	16.4	10.6	3.2	-2.3	6.3
留萌	-5.2	-4.8	-1.0	5.1	10.6	14.6	19.0	20.3	16.3	10.3	3.8	-1.7	7.3
旭川	-8.5	-7.7	-2.8	4.7	11.5	16.2	20.3	20.4	15.2	8.5	1.5	-4.4	6.3
網走	-6.6	-7.2	-2.8	4.0	9.4	12.7	17.1	18.6	15.7	10.0	3.0	-2.6	5.9
札幌	-4.9	-4.2	-0.4	6.2	12.0	15.9	20.2	21.3	16.9	10.6	4.0	-1.6	8.0
帯広	-8.5	-7.4	-2.2	5.1	10.9	14.5	18.4	19.6	15.5	9.1	2.2	-4.4	6.1
釧路	-6.4	-6.1	-1.8	3.4	7.8	11.4	15.5	17.6	15.2	9.8	3.4	-2.1	5.6
根室	-4.7	-5.4	-2.1	3.1	7.3	10.3	14.3	16.9	15.3	10.8	4.7	-0.7	5.8
寿都	-2.8	-2.6	0.5	5.9	10.7	14.3	18.7	20.8	17.4	11.7	5.2	-0.2	8.3
浦河	-3.1	-3.0	-0.1	4.8	9.4	13.1	17.3	19.7	16.9	11.7	5.4	0.0	7.7
函館	-3.6	-3.2	0.4	6.4	11.4	15.1	19.3	21.2	17.2	11.3	4.9	-0.6	8.3
青森	-1.8	-1.7	1.3	7.5	12.9	16.8	20.9	22.5	18.1	11.9	6.2	0.8	9.6
秋田	-0.5	-0.3	2.7	8.8	14.1	18.5	22.6	24.0	19.4	13.1	7.3	2.3	11.0
盛岡	-2.5	-1.8	1.6	8.3	13.9	17.9	21.8	22.8	18.0	11.6	5.6	0.4	9.8
宮古	0.0	0.2	2.8	8.7	13.3	16.3	20.1	22.1	18.5	12.9	7.7	2.9	10.5
酒田*	1.4	1.0	3.7	9.3	14.5	19.4	23.0	24.0	19.8	14.2	8.7	3.9	11.9
山形	-0.9	-0.5	2.7	9.5	15.3	19.3	23.2	24.2	19.4	12.8	6.9	2.0	11.2
仙台	0.9	1.3	4.2	10.0	14.9	18.4	22.2	23.9	20.0	14.3	8.7	3.7	11.9
福島	1.0	1.5	4.7	11.1	16.4	19.9	23.6	24.9	20.4	14.2	8.6	3.7	12.5
小名浜	3.2	3.5	6.0	11.0	15.2	18.5	21.8	23.8	20.8	15.6	10.4	5.8	13.0
輪島	2.7	2.7	5.1	10.5	15.2	19.2	23.6	24.9	20.9	15.3	10.2	5.6	13.0
相川	3.0	2.8	5.2	10.4	14.9	18.8	23.1	24.8	21.1	15.7	10.7	6.1	13.1
新潟	2.0	2.2	4.9	10.7	15.9	20.0	24.2	25.7	21.4	15.5	9.9	4.9	13.1
金沢	2.9	3.1	6.0	11.9	16.8	20.7	25.0	26.2	22.0	16.1	10.8	6.0	14.0
富山	2.1	2.4	5.5	11.5	16.5	20.4	24.6	25.8	21.5	15.6	10.3	5.3	13.5
長野	-1.2	-0.4	3.1	10.2	15.5	19.4	23.6	24.5	19.9	13.3	7.2	1.9	11.4
高田	1.9	1.9	4.5	11.1	16.1	20.2	24.5	25.7	21.4	15.3	9.8	4.9	13.1
宇都宮	1.4	2.4	5.7	11.6	16.4	20.0	23.6	24.9	20.9	15.1	9.3	3.9	12.9
福井	2.5	2.9	6.1	12.3	17.2	21.0	25.3	26.3	22.0	15.8	10.4	5.5	13.9
高山	-2.3	-1.7	2.0	9.1	14.4	18.6	22.5	23.2	18.7	12.0	6.0	0.9	10.3
松本	-1.0	-0.4	3.2	10.2	15.3	19.1	23.2	23.9	19.2	12.5	6.8	1.8	11.1
軽井沢*	-3.8	-3.4	-0.5	6.3	11.5	15.5	19.3	20.1	15.6	9.4	4.3	-1.1	7.8
前橋	2.8	3.5	6.5	12.4	17.1	20.8	24.4	25.5	21.3	15.6	10.3	5.5	13.8
熊谷	3.1	3.9	7.0	12.7	17.4	21.0	24.6	25.9	21.7	15.9	10.5	5.5	14.1
水戸	2.5	3.1	6.2	11.7	16.2	19.6	23.3	24.8	21.0	15.4	10.0	4.9	13.2
敦賀	4.0	4.2	7.0	12.7	17.3	21.0	25.4	26.6	22.5	16.7	11.7	6.9	14.7
岐阜	3.6	4.4	7.6	13.5	18.1	21.9	25.9	27.0	22.9	17.1	11.5	6.3	15.0
名古屋	3.6	4.3	7.5	13.5	18.0	21.7	25.6	26.8	22.8	16.9	11.4	6.2	14.9
飯田	0.6	1.6	5.1	11.5	16.0	19.7	23.6	24.3	20.2	13.8	8.0	3.0	12.3
甲府	1.8	3.3	7.1	13.0	17.3	21.1	24.8	25.7	21.6	15.4	9.7	4.0	13.7

地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
銚子	5.8	6.3	8.9	13.4	17.0	19.7	22.8	24.8	22.8	18.2	13.7	8.7	15.2
津	4.5	4.9	7.5	13.1	17.7	21.6	25.5	26.7	22.8	17.1	11.8	6.9	15.0
浜松	5.4	6.0	8.9	14.1	18.1	21.5	25.0	26.4	23.3	18.0	13.1	8.0	15.6
静岡	6.0	6.8	9.6	14.4	18.3	21.7	25.2	26.5	23.4	18.2	13.5	8.4	16.0
東京	4.7	5.4	8.4	13.9	18.4	21.5	25.2	26.7	22.9	17.3	12.3	7.4	15.3
尾鷲	5.7	6.3	9.0	14.0	17.7	21.1	24.8	25.9	22.8	17.6	12.7	8.0	15.5
横浜	4.9	5.3	8.2	13.6	17.9	21.0	24.6	26.2	22.6	17.0	12.2	7.5	15.1
大島	6.2	6.4	8.6	13.0	16.8	19.7	23.0	24.5	21.7	17.0	13.1	9.0	14.9
八丈島	10.3	10.4	12.4	16.3	19.2	22.0	25.2	26.6	24.8	20.8	17.2	13.0	18.2
西郷	3.9	4.0	6.3	11.4	15.9	19.6	24.1	25.6	21.5	16.1	11.2	6.8	13.9
松江	3.8	4.2	7.0	12.5	17.0	20.8	25.2	26.4	22.0	16.2	11.1	6.5	14.4
鳥取	3.9	4.1	7.0	12.5	16.9	20.5	25.2	26.3	21.9	16.1	11.2	6.7	14.3
浜田	5.6	5.8	8.1	12.9	16.9	20.5	25.1	26.2	22.2	16.8	12.4	8.3	15.1
京都	3.9	4.6	7.6	13.7	18.4	22.1	26.3	27.5	23.2	17.0	11.4	6.4	15.2
彦根	3.2	3.5	6.2	11.7	16.6	20.8	25.1	26.4	22.3	16.4	10.8	5.9	14.1
下関	5.5	6.0	8.6	13.4	17.5	20.8	25.3	26.7	23.1	18.0	13.1	8.3	15.5
広島	4.3	4.9	7.8	13.3	17.6	21.2	25.6	26.8	22.8	17.0	11.5	6.6	15.0
岡山	3.4	4.1	7.1	13.1	17.6	21.6	25.9	26.9	22.7	16.3	10.7	5.7	14.6
神戸	4.8	5.2	8.1	13.9	18.3	21.8	25.9	27.2	23.5	17.8	12.6	7.6	15.6
大阪	5.6	5.8	8.3	14.5	19.2	22.8	27.0	28.0	24.1	18.3	12.7	7.8	16.2
和歌山	5.5	5.9	8.9	14.5	18.7	22.3	26.5	27.5	23.8	18.0	12.7	8.1	16.0
潮岬	7.5	8.1	10.7	15.3	18.7	21.7	25.2	26.5	23.9	19.3	14.9	10.2	16.9
奈良	3.4	3.9	6.7	13.0	17.5	21.3	25.5	26.3	22.2	15.9	10.5	5.8	14.3
厳原	4.9	5.7	8.7	13.3	17.3	20.4	24.8	26.1	22.5	17.7	12.4	7.3	15.1
福岡	5.7	6.4	9.3	14.2	18.4	22.0	26.7	27.3	23.4	17.8	12.7	8.1	16.0
佐賀	5.0	6.0	9.3	14.6	19.0	22.5	26.7	27.4	23.6	17.8	12.4	7.3	16.0
大分	5.5	6.0	8.7	13.8	17.9	21.5	26.0	26.6	23.0	17.6	12.6	7.8	15.6
長崎	6.4	7.1	10.1	15.0	18.8	22.1	26.5	27.5	24.2	18.9	13.7	8.8	16.6
熊本	4.9	6.1	9.5	15.1	19.2	22.6	26.8	27.5	23.8	17.9	12.3	7.0	16.1
鹿児島	7.0	8.2	11.2	16.1	19.8	23.0	27.2	27.7	24.9	19.6	14.3	9.2	17.3
宮崎	6.8	8.1	11.0	15.8	19.3	22.6	26.7	27.0	24.0	18.6	13.7	8.8	16.9
福江*	6.9	7.1	9.8	14.4	18.0	21.2	25.6	26.6	23.2	18.5	13.7	9.0	16.2
松山	5.3	5.7	8.6	13.9	18.0	21.7	26.2	27.0	23.3	17.7	12.5	7.7	15.6
高松	4.7	5.1	7.8	13.2	17.7	21.8	26.1	26.8	22.8	16.9	11.9	7.1	15.2
高知	5.6	6.8	10.1	15.4	19.1	22.3	26.2	27.1	24.0	18.4	13.1	7.9	16.3
徳島	5.4	5.8	8.7	14.1	18.4	21.9	25.9	27.0	23.5	18.0	12.8	8.0	15.8
足摺	8.2	9.0	11.9	16.5	19.8	22.5	26.1	27.3	25.0	20.4	15.9	10.9	17.8
室戸岬	7.1	7.7	10.2	14.7	18.3	21.1	24.8	26.0	23.5	18.9	14.5	9.9	16.4
名瀬	14.2	14.7	16.6	20.0	22.5	25.6	28.3	28.0	26.5	23.2	19.9	16.2	21.3
那覇	16.0	16.4	18.0	21.0	23.7	26.1	28.1	27.8	27.1	24.3	21.3	18.1	22.4

*：準平年値

15. 日本主要都市の月別平年降水量(mm)

(1951～1980年の平均)　　《理科年表》(1982年度版)による

地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
稚内	108	71	64	59	76	76	112	111	136	126	125	123	1187
留萌	120	86	67	63	68	76	112	144	149	138	137	148	1307
旭川	80	64	62	65	74	78	119	168	134	104	116	95	1158
網走	68	37	58	49	67	80	78	105	98	82	63	53	839
札幌	114	92	78	65	59	76	80	131	142	115	104	101	1158
帯広	48	45	58	58	81	102	97	128	126	99	67	44	952
釧路	53	47	65	85	118	120	108	126	141	122	70	50	1104
根室	52	41	68	83	104	105	95	114	140	132	81	56	1072
寿都	102	83	67	77	68	67	102	142	147	137	136	126	1253
浦河	50	41	57	96	107	129	135	150	135	121	92	70	1182
函館	71	62	70	83	80	92	107	153	166	106	91	78	1157
青森	181	122	89	72	66	91	102	147	145	98	130	164	1407
秋田	135	99	107	139	117	128	188	186	180	161	176	171	1787
盛岡	65	57	88	97	91	121	170	165	155	108	91	75	1282
宮古	70	73	96	74	100	124	115	148	191	138	87	62	1278
酒田*	149	113	108	105	98	131	172	209	212	164	214	208	1883
山形	94	76	68	62	71	101	167	138	119	85	80	102	1163
仙台	46	48	72	82	109	141	160	153	175	116	69	49	1219
福島	55	50	69	72	82	123	153	125	158	105	61	56	1108
小名浜	47	59	102	118	152	160	124	127	183	171	88	51	1381
輪島	259	166	145	140	127	161	220	192	254	182	230	308	2383
相川	150	108	98	109	100	118	188	152	152	128	153	186	1640
新潟	197	129	109	96	91	118	195	155	153	151	189	241	1822
金沢	308	199	166	157	146	203	256	196	150	200	235	329	2645
富山	279	182	152	134	124	190	241	196	229	166	184	270	2346
長野	57	47	55	67	79	140	149	102	126	77	46	43	987
高田	443	286	203	103	99	144	216	199	231	220	323	481	2948
宇都宮	32	44	78	106	144	195	165	191	202	131	67	38	1392
福井	325	203	154	150	145	211	232	160	224	162	187	323	2475
高山	108	95	120	147	134	241	256	181	239	129	96	88	1832
松本	36	46	66	95	96	161	140	104	145	98	51	31	1067
軽井沢	37	40	64	95	118	192	185	158	178	121	53	28	1269
前橋	25	30	51	77	101	172	173	172	177	108	45	22	1155
熊谷	30	39	60	84	118	175	143	151	186	137	54	30	1207
水戸	47	55	96	112	149	174	128	126	172	155	78	51	1341
敦賀	321	216	171	146	150	214	244	157	236	162	188	329	2533
岐阜	68	81	118	206	202	284	300	193	258	131	87	57	1985
名古屋	50	61	98	153	162	210	218	170	209	121	74	48	1575
飯田	62	75	121	159	154	240	236	177	192	126	79	60	1681
甲府	40	46	71	89	97	147	133	127	147	112	51	33	1093

地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
銚子	92	104	138	134	164	173	115	112	192	241	143	86	1692
津	53	62	100	154	168	243	208	185	251	157	79	49	1708
浜松	58	78	132	190	213	262	229	209	215	171	103	69	1928
静岡	80	101	190	260	241	312	277	277	256	171	116	80	2361
東京	54	63	102	128	148	181	125	137	193	181	93	56	1460
尾鷲	106	140	206	412	352	458	420	563	684	440	222	115	4118
横浜	61	72	119	143	164	216	141	132	199	187	104	59	1596
大島	129	148	242	261	308	362	227	221	332	399	198	127	2953
八丈島	206	200	242	251	280	336	184	226	374	467	314	183	3262
西郷	194	127	117	127	126	171	216	144	196	121	139	163	1840
松江	166	150	128	129	128	187	282	159	209	138	137	144	1957
鳥取	213	179	131	118	117	167	240	132	247	139	154	181	2018
浜田	113	97	111	137	135	189	267	139	206	121	114	113	1740
京都	57	67	108	163	156	247	250	176	206	118	75	45	1669
彦根	110	106	119	154	149	224	235	150	206	117	85	86	1741
下関	82	79	93	174	162	275	295	130	192	93	82	62	1718
広島	53	63	101	174	161	254	269	124	188	104	72	40	1603
岡山	39	48	72	120	124	188	188	100	163	94	56	30	1223
神戸	48	56	89	145	141	216	190	108	177	106	69	41	1385
大阪	51	60	100	145	141	213	192	103	165	114	73	42	1400
和歌山	56	59	93	138	137	216	174	123	204	123	80	51	1454
潮岬	111	115	166	269	288	390	287	285	306	252	191	109	2766
奈良	56	59	95	137	131	208	184	132	155	116	69	47	1390
厳原	73	101	127	224	219	285	346	263	250	117	109	65	2178
福岡	80	74	94	145	144	273	273	177	186	100	79	65	1690
佐賀	61	75	104	205	196	319	348	187	182	92	69	52	1890
大分	49	72	87	143	160	288	240	184	249	135	67	36	1708
長崎	82	87	104	202	204	334	314	196	217	103	84	76	2002
熊本	60	78	105	189	197	412	375	188	172	86	71	55	1989
鹿児島	95	106	147	256	275	475	323	209	211	108	92	80	2375
宮崎	71	93	133	224	293	424	288	275	303	205	123	59	2490
福江*	120	126	146	259	245	355	311	232	204	107	139	120	2362
松山	52	58	85	136	130	228	181	101	156	97	69	44	1337
高松	48	52	68	104	107	164	153	101	196	105	65	37	1199
高知	67	96	153	305	277	382	304	326	385	177	134	61	2666
徳島	52	59	84	149	146	233	197	183	343	155	93	50	1743
足摺	91	124	148	247	279	365	235	239	295	232	131	87	2473
室戸岬	89	113	138	254	296	395	244	240	319	220	129	87	2523
名瀬	186	166	186	220	364	417	205	330	360	255	208	154	3051
那覇	120	118	144	168	249	293	193	260	166	186	142	117	2128

*：準平年値

16. 度量衡換算表

長　さ

ミリメートル	センチメートル	メートル	キロメートル	インチ	フィート	ヤード	マイル	分	寸	尺	間	町	里
1	0.1	0.001	………	0.03937	0.00328	0.00109	………	0.33	0.033	0.0033	0.00055	………	………
10	1	0.01	0.00001	0.39370	0.03281	0.01094	0.00001	3.3	0.33	0.033	0.0055	………	………
1 000	100	1	0.001	39.3701	3.28084	1.09361	0.00062	330	33	3.3	0.55	0.00917	0.00025
………	100 000	1000	1	39 370.1	3 280.84	1 093.61	0.62137	330 000	33 000	3 330	550	9.16667	0.25463
25.4	2.54	0.0254	0.00003	1	0.08333	0.02778	0.00002	8.38200	0.83820	0.08382	0.01397	0.00023	0.00001
304.8	30.48	0.3048	0.00030	12	1	0.33333	0.00019	100.584	10.0584	1.00584	0.16764	0.00279	0.00008
914	91.44	0.9144	0.00091	36	3	1	0.00057	301.752	30.1752	3.01752	0.50292	0.00838	0.00023
………	160 934	1 609.34	1.60934	63 360	5 280	1 760	1	531 084	53 108.4	5 310.84	885.139	14.7523	0.40979
3.03030	0.30303	0.00303	………	0.11930	0.00994	0.00331	………	1	0.1	0.01	0.00167	0.00003	………
30.3030	3.03030	0.03030	0.00003	1.19303	0.09942	0.03314	0.00002	10	1	0.1	0.01667	0.00028	0.00001
303.030	30.3030	0.30303	0.00030	11.9303	0.99419	0.33140	0.00019	100	10	1	0.16667	0.00278	0.00008
1 818.18	181.818	1.81818	0.00182	71.5820	5.96516	1.98839	0.00113	600	60	6	1	0.01667	0.00046
109 091	10 909.1	109.091	0.10909	4 294.92	357.910	119.303	0.06779	36 000	3 600	360	60	1	0.02778
………	392 727	3 927.27	3.92727	154 617	12 884.8	4 294.92	2.44029	………	129 600	12 960	2 160	36	1

面　積

平方センチメートル	平方メートル	平方キロメートル	アール	平方インチ	平方フィート	平方ヤード	平方マイル	エーカー	平方尺	坪	畝	反	町
1	0.001	………	………	0.15500	0.00108	0.00012	………	………	0.00109	0.00003	………	………	………
10 000	1	0.000001	0.01	1 550.00	10.7639	1.19599	………	0.00025	10.8900	0.30250	0.01008	0.00101	0.00010
………	1 000 000	1	10 000	………	………	………	0.38610	247.106	………	302 500	10 083.3	1 008.33	100.833
………	100	0.0001	1	155 000	1 076.39	119.599	0.00004	0.02471	1 089.00	30.2500	1.00833	0.10083	0.01008
6.4516	0.00065	………	………	1	0.00694	0.00077	………	………	0.00703	0.00020	0.00001	………	………
929.030	0.09290	………	0.00093	144	1	0.11111	………	0.00002	1.01171	0.02810	0.00094	0.00009	0.00001
8 361.27	0.83613	………	0.00836	1 296	9	1	………	0.00021	9.10543	0.25293	0.00843	0.00084	0.00008
………	………	2.58999	25 899.9	………	………	………	1	640	………	783 471	26 115.7	2 611.57	261.157
………	4 046.85	0.00405	40.4685	………	43 560	4 840	0.00156	1	44 070.2	1 224.17	40.8058	4.08058	0.40806
918.274	0.09183	………	0.00092	142.333	0.98842	0.10982	………	0.00002	1	0.02778	0.00093	0.00009	0.00001
33 057.9	3.30579	………	0.03306	1 123.98	35.5832	3.95370	………	0.00082	36	1	0.03333	0.00333	0.00033
991 736	99.1736	0.00010	0.99174	153 719	1 067.50	118.611	………	0.02451	1 080	30	1	0.1	0.01
………	991.736	0.00099	9.91736	………	10 675.0	1 186.11	0.00038	0.24506	10 800	300	10	1	0.1
………	9 917.36	0.00992	99.1736	………	106 750	11 861.1	0.00383	2.45063	108 000	3 000	100	10	1

重　さ

カラット	ミリグラム	グラム	キログラム	トン	グレーン	オンス	ポンド	英トン	米トン	分	匁	貫	斤
1	200	0.2	0.0002	………	3.08647	0.00705	0.00044	………	………	0.53333	0.05333	0.00005	0.00033
0.005	1	0.001	………	………	0.01543	0.00004	………	………	………	0.00267	0.00027	………	………
5	1 000	1	0.001	………	15.4324	0.03527	0.00220	………	………	2.66667	0.26667	0.00027	0.00167
5 000	………	1000	1	0.001	15 432.4	35.2740	2.20462	0.00098	0.00110	2 666.67	266.667	0.26667	1.66667
………	………	………	1000	1	………	35 274.0	2 204.62	0.98421	1.10231	………	266.667	266.667	1666.67
0.32399	64.8	0.06480	0.00006	………	1	0.00229	0.00014	………	………	0.17280	0.01728	0.00002	0.00011
141.748	28 349.5	28.3495	0.02835	0.00003	437.5	1	0.0625	0.00003	0.00003	75.5987	7.55987	0.00756	0.04725
2267.96	453 592	453.592	0.45359	0.00045	7 000	16	1	0.00045	0.0005	1 209.58	120.958	0.12096	0.75599
………	………	………	1 016.05	1.01605	………	35 840	2 240	1	1.12	………	270 946	270.946	1 693.41
………	………	………	907.185	0.90718	………	32 000	2 000	0.89286	1	………	241 916	241.916	1 511.97
1.875	375	0.375	0.00038	………	5.78713	0.01323	0.00083	………	………	1	0.1	0.0001	0.00063
18.75	3 750	3.75	0.00375	………	57.8713	0.13228	0.00827	………	………	10	1	0.001	0.00625
18 750	………	3 750	3.75	0.00375	57 871.3	132.277	8.26733	0.00369	0.00413	10 000	1 000	1	6.25
3 000	600 000	600	0.6	0.0006	9 259.41	21.1644	1.32277	0.00059	0.00066	1 600	160	0.16	1

体　　積

立方センチメートル	立方メートル	リットル	ガロン	立方インチ	立方フィート	立方ヤード	英ガロン	立方寸	立方尺	合	升	斗	石
1	0.000001	0.001	0.00026	0.06102	0.00004	………	0.00022	0.03594	0.00004	0.00554	0.00055	0.00006	0.00001
1 000 000	1	1 000	264.171	61 023.7	35.3147	1.30795	219.976	35 937.0	35.9370	5 543.52	554.352	55.4352	5.54352
1000	0.001	1	0.26417	61.0237	0.03532	0.00131	0.21998	35.9370	0.03594	5.54368	0.55437	0.05544	0.00554
3 785.43	0.00379	3.78532	1	231.001	0.13368	0.00495	0.83270	136.037	0.13604	20.9846	2.09846	0.20985	0.02098
16.3871	0.00002	0.01639	0.00433	1	0.00058	0.00002	0.00360	0.58890	0.00059	0.09084	0.00908	0.00091	0.00009
28 316.8	0.02832	28.3161	7.48048	1 728	1	0.03704	6.22883	1 017.62	1.01762	156.975	15.6975	1.56975	0.15698
764 555	0.76455	764.533	201.973	46 656	27	1	168.179	27 475.8	27.4758	4 238.33	423.833	42.3833	4.23833
4 546.09	0.00455	4.54596	1.20095	277.42	0.16054	0.00590	1	163.373	0.16337	25.2014	2.52014	0.25201	0.02520
27.8265	0.00003	0.02783	0.00735	1.69808	0.00098	0.00004	0.00612	1	0.001	0.15426	0.01543	0.00154	0.00015
27 826.5	0.02783	27.8257	7.35094	1 698.08	0.98268	0.03640	6.12112	1000	1	154.257	15.4257	1.54257	0.15426
180.391	0.00018	0.18039	0.04765	11.0081	0.00637	0.00024	0.03968	6.48270	0.00648	1	0.1	0.01	0.001
1 803.91	0.00180	1.80386	0.47654	110.081	0.06370	0.00236	0.39680	64.8270	0.06483	10	1	0.1	0.01
18 039.1	0.01804	18.0386	4.76539	1 100.81	0.63704	0.02359	3.96804	648.270	0.64827	100	10	1	0.1
180 391	0.18039	180.386	47.6539	11 008.1	6.37044	0.23594	39.6804	6 482.70	6.48270	1000	100	10	1

圧力単位の換算

bar/cm²	kg/cm²	lb/in²	atm	水銀柱（℃）		水　柱（15℃）	
				m	in	m	in
1	1.0197	14.50	0.9869	0.7500	29.53	10.21	401.8
0.980665	1	14.223	0.9678	0.7355	28.96	10.01	394.0
0.06895	0.07031	1	0.06804	0.05171	2.0355	0.7037	27.70
1.0133	1.0333	14.70	1	0.760	29.92	10.34	407.2
1.3333	1.3596	19.34	0.316	1	39.37	13.61	535.67
0.03386	0.03453	0.4912	0.03342	0.02540	1	0.3456	13.61
0.09798	0.09991	1.421	0.09670	0.07349	2.893	1	39.37
0.002489	0.002538	0.03609	0.002456	0.001867	0.07349	0.0254	1

単位の接頭語

10^{12}	T	テラ
10^{9}	G	ギガ
10^{6}	M	メガ
10^{3}	k	キロ
10^{2}	h	ヘクト
10^{1}	da	デカ
10^{-1}	d	デシ
10^{-2}	c	センチ
10^{-3}	m	ミリ
10^{-6}	μ	ミクロ
10^{-9}	n	ナノ
10^{-12}	p	ピコ

速度単位の換算

m/秒	m/分	m/時	km/時	ft/秒	ft/分	mile/時
1	60	3 600	3.6	3.281	196.85	2.2370
0.01667	1	60	0.06	0.0547	3.281	0.03728
0.0002778	0.01667	1	0.001	0.0009114	0.05468	0.0006214
0.2778	16.67	1 000	1	0.9114	54.682	0.6214
0.3048	18.287	1 097.25	1.0973	1	60	0.68182
0.005080	0.3048	18.287	0.018287	0.01667	1	0.01136
0.4470	26.821	1 609.3	1.6093	1.4667	88	1

分子のエネルギー単位の換算

erg/分子	J/mol	国際J/mol	cal/mol	eV/分子	国際eV/分子	cm^{-1}
1	6.02252×10^{16}	6.02153×10^{16}	1.439417×10^{16}	6.24181×10^{11}	6.23975×10^{11}	5.03447×10^{15}
1.66043×10^{-17}	1	0.999835	0.239006	1.03641×10^{-5}	1.03607×10^{-5}	8.35939×10^{-2}
1.66071×10^{-17}	1.000165	1	0.239045	1.03658×10^{-5}	1.03624×10^{-5}	8.36077×10^{-2}
6.94726×10^{-17}	4.1840	4.18331	1	4.33633×10^{-5}	4.33490×10^{-5}	0.349757
1.60210×10^{-12}	9.64868×10^{4}	9.64709×10^{4}	2.30609×10^{4}	1	0.999670	8.06573×10^{3}
1.60263×10^{-12}	9.65186×10^{4}	9.65027×10^{4}	2.30685×10^{4}	1.000330	1	8.06839×10^{3}
1.98630×10^{-16}	1.19626×10^{1}	1.19606×10^{1}	2.85912	1.23981×10^{-4}	1.23940×10^{-4}	1

注）in：インチ　　ft：フィート
mile：マイル　　lb：重量ポンド
bar：バール　　atm：気圧
mol：モル　　erg：エルグ
J：ジュール
eV：エレクトロンボルト

17. 数　表（2乗・3乗・平方根・立方根・逆数・4桁対数・三角関数）

2乗・3乗・平方根・立方根・逆数

n	n^2	n^3	$\sqrt{n}$	$\sqrt[3]{n}$	$1/n$	n	n^2	n^3	$\sqrt{n}$	$\sqrt[3]{n}$	$1/n$
10	100	1 000	3.1623	2.1544	0.1000000	55	3 025	166 375	7.4162	3.8030	0.0181818
11	121	1 331	3.3166	2.2240	0.0909091	56	3 136	175 616	7.4833	3.8259	0.0178571
12	144	1 728	3.4641	2.2894	0.0833333	57	3 249	185 193	7.5498	3.8485	0.0175439
13	169	2 197	3.6056	2.3513	0.0769231	58	3 364	195 112	7.6158	3.8709	0.0172414
14	196	2 744	3.7417	2.4101	0.0714286	59	3 481	205 379	7.6811	3.8930	0.0169492
15	225	3 375	3.8730	2.4662	0.0666667	60	3 600	216 000	7.7460	3.9149	0.0166667
16	256	4 096	4.0000	2.5198	0.0625000	61	3 721	226 981	7.8102	3.9365	0.0163934
17	289	4 913	4.1231	2.5713	0.0588235	62	3 844	238 328	7.8740	3.9579	0.0161290
18	324	5 832	4.2426	2.6207	0.0555556	63	3 969	250 047	7.9373	3.9791	0.0158730
19	361	6 859	4.3589	2.6684	0.0526316	64	4 096	262 144	8.0000	4.0000	0.0156250
20	400	8 000	4.4721	2.7144	0.0500000	65	4 225	274 625	8.0623	4.0207	0.0153846
21	441	9 261	4.5826	2.7589	0.0476190	66	4 356	287 496	8.1240	4.0412	0:0151515
22	484	10 648	4.6904	2.8020	0.0454545	67	4 489	300 763	8.1854	4.0615	0.0149254
23	529	12 167	4.7958	2.8439	0.0434783	68	4 624	314 432	8.2462	4.0817	0.0147059
24	576	13 824	4.8990	2.8845	0.0416667	69	4 761	328 509	8.3066	4.1016	0.0144928
25	625	15 625	5.0000	2.9240	0.0400000	70	4 900	343 000	8.3666	4.1213	0.0142857
26	676	17 576	5.0990	2.9625	0.0384615	71	5 041	357 911	8.4261	4.1408	0.0140845
27	729	19 683	5.1962	3.0000	0.0370370	72	5 184	373 248	8.4853	4.1602	0.0138889
28	784	21 952	5.2915	3.0366	0.0357143	73	5 329	389 017	8.5440	4.1793	0.0136986
29	841	24 389	5.3852	3.0723	0.0344828	74	5 476	405 224	8.6023	4.1983	0.0135135
30	900	27 000	5.4772	3.1072	0.0333333	75	5 625	421 875	8.6603	4.2172	0.0133333
31	961	29 791	5.5678	3.1414	0.0322581	76	5 776	438 976	8.7178	4.2358	0.0131579
32	1 024	32 768	5.6569	3.1748	0.0312500	77	5 929	456 533	8.7750	4.2543	0.0129870
33	1 089	35 937	5.7446	3.2075	0.0303030	78	6 084	474 552	8.8318	4.2727	0.0128205
34	1 156	39 304	5.8310	3.2396	0.0294118	79	6 241	493 039	8.8882	4.2908	0.0126582
35	1 225	42 875	5.9161	3.2711	0.0285714	80	6 400	512 000	8.9443	4.3089	0.0125000
36	1 296	46 656	6.0000	3.3019	0.0277778	81	6 561	531 441	9.0000	4.3267	0.0123457
37	1 369	50 653	6.0828	3.3322	0.0270270	82	6 724	551 368	9.0554	4.3445	0.0121951
38	1 444	54 872	6.1644	3.3620	0.0263158	83	6 889	571 787	9.1104	4.3621	0.0120482
39	1 521	59 319	6.2450	3.3912	0.0256410	84	7 056	592 704	9.1652	4.3795	0.0119048
40	1 600	64 000	6.3246	3.4200	0.0250000	85	7 225	614 125	9.2195	4.3968	0.0117647
41	1 681	68 921	6.4031	3.4482	0.0243902	86	7 396	636 056	9.2736	4.4140	0.0116279
42	1 764	74 088	6.4807	3.4760	0.0238095	87	7 569	658 503	9.3274	4.4310	0.0114943
43	1 849	79 507	6.5574	3.5034	0.0232558	88	7 744	681 472	9.3808	4.4480	0.0113636
44	1 936	85 184	6.6332	3.5303	0.0227273	89	7 921	704 969	9.4340	4.4647	0.0112360
45	2 025	91 125	6.7082	3.5569	0.0222222	90	8 100	729 000	9.4868	4.4814	0.0111111
46	2 116	97 336	6.7823	3.5830	0.0217391	91	8 281	753 571	9.5394	4.4979	0.0109890
47	2 209	103 823	6.8557	3.6088	0.0212766	92	8 464	778 688	9.5917	4.5144	0.0108696
48	2 304	110 592	6.9282	3.6342	0.0208333	93	8 649	804 357	9.6437	4.5307	0.0107527
49	2 401	117 649	7.0000	3.6593	0.0204082	94	8 836	830 584	9.6954	4.5468	0.0106383
50	2 500	125 000	7.0711	3.6840	0.0200000	95	9 025	857 375	9.7468	4.5629	0.0105263
51	2 601	132 651	7.1414	3.7084	0.0196078	96	9 216	884 736	9.7980	4.5789	0.0104167
52	2 704	140 608	7.2111	3.7325	0.0192308	97	9 409	912 673	9.8489	4.5947	0.0103093
53	2 809	148 877	7.2801	3.7563	0.0188679	98	9 604	941 192	9.8995	4.6104	0.0102041
54	2 916	157 464	7.3485	3.7798	0.0185185	99	9 801	970 299	9.9499	4.6261	0.0101010
55	3 025	166 375	7.4162	3.8030	0.0181818	100	10 000	1 000 000	10.0000	4.6416	0.0100000

三角関数真数表

	sin	cosec	tan	cot	sec	cos			sin	cosec	tan	cot	sec	cos	
0°	0.000	∞	0.000	∞	1.000	1.000	90°	23°	0.391	2.559	0.424	2.356	1.086	0.921	67°
1	0.017	57.299	0.017	57.290	1.000	1.000	89	24	0.407	2.459	0.445	2.246	1.095	0.914	66
2	0.035	28.654	0.035	28.636	1.001	0.999	88	25	0.423	2.366	0.466	2.145	1.103	0.906	65
3	0.052	19.107	0.052	19.081	1.001	0.999	87	26	0.438	2.281	0.488	2.050	1.113	0.899	64
4	0.070	14.336	0.070	14.301	1.002	0.998	86	27	0.454	2.203	0.510	1.963	1.122	0.891	63
5	0.087	11.474	0.087	11.430	1.004	0.996	85	28	0.469	2.130	0.532	1.881	1.133	0.883	62
6	0.105	9.567	0.105	9.514	1.006	0.995	84	29	0.485	2.063	0.554	1.804	1.143	0.875	61
7	0.122	8.206	0.123	8.144	1.008	0.993	83	30	0.500	2.000	0.577	1.732	1.155	0.866	60
8	0.139	7.185	0.141	7.115	1.010	0.990	82	31	0.515	1.942	0.601	1.664	1.167	0.857	59
9	0.156	6.392	0.158	6.314	1.012	0.988	81	32	0.530	1.887	0.625	1.600	1.179	0.848	58
10	0.174	5.759	0.176	5.671	1.015	0.985	80	33	0.545	1.836	0.649	1.540	1.192	0.839	57
11	0.191	5.241	0.194	5.145	1.019	0.982	79	34	0.559	1.788	0.675	1.483	1.206	0.829	56
12	0.208	4.810	0.213	4.705	1.022	0.978	78	35	0.574	1.743	0.700	1.428	1.221	0.819	55
13	0.225	4.445	0.231	4.331	1.026	0.974	77	36	0.588	1.701	0.727	1.376	1.236	0.809	54
14	0.242	4.134	0.249	4.011	1.031	0.970	76	37	0.602	1.662	0.754	1.327	1.252	0.799	53
15	0.259	3.864	0.268	3.732	1.035	0.966	75	38	0.616	1.624	0.781	1.280	1.269	0.788	52
16	0.276	3.628	0.287	3.487	1.040	0.961	74	39	0.629	1.589	0.810	1.235	1.287	0.777	51
17	0.292	3.420	0.306	3.271	1.046	0.956	73	40	0.643	1.556	0.839	1.192	1.305	0.766	50
18	0.309	3.236	0.325	3.078	1.051	0.951	72	41	0.656	1.524	0.869	1.150	1.325	0.755	49
19	0.326	3.072	0.344	2.904	1.058	0.946	71	42	0.669	1.494	0.900	1.111	1.346	0.743	48
20	0.342	2.924	0.364	2.747	1.064	0.940	70	43	0.682	1.466	0.933	1.072	1.367	0.731	47
21	0.358	2.790	0.384	2.605	1.071	0.934	69	44	0.695	1.440	0.966	1.036	1.390	0.719	46
22	0.375	2.669	0.404	2.475	1.079	0.927	68	45	0.707	1.414	1.000	1.000	1.414	0.707	45
	cos	sec	cot	tan	cosec	sin			cos	sec	cot	tan	cosec	sin	

4 桁の対数表

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	差
10	0000	0043	0086	0128	0170	0212	0253	0294	0334	0374	41
11	0414	0453	0492	0531	0569	0607	0645	0682	0719	0755	38
12	0792	0828	0864	0899	0934	0969	1004	1038	1072	1106	35
13	1139	1173	1206	1239	1271	1303	1335	1367	1399	1430	32
14	1461	1492	1523	1553	1584	1614	1644	1673	1703	1732	30
15	1761	1790	1818	1847	1875	1903	1931	1959	1987	2014	28
16	2041	2068	2095	2122	2148	2175	2201	2227	2253	2279	26
17	2304	2330	2355	2380	2405	2430	2455	2480	2504	2529	25
18	2553	2577	2601	2625	2648	2672	2695	2718	2742	2765	24
19	2788	2810	2833	2856	2878	2900	2923	2945	2967	2989	22
20	3010	3032	3054	3075	3096	3118	3139	3160	3181	3201	21
21	3222	3243	3263	3284	3304	3324	3345	3365	3385	3404	20
22	3424	3444	3464	3483	3502	3522	3541	3560	3579	3598	19
23	3617	3636	3655	3674	3692	3711	3729	3747	3766	3784	18
24	3802	3820	3838	3856	3874	3892	3909	3927	3945	3962	18
25	3979	3997	4014	4031	4048	4065	4082	4099	4116	4133	17
26	4150	4166	4183	4200	4216	4232	4249	4265	4281	4298	16
27	4314	4330	4346	4362	4378	4393	4409	4425	4440	4456	16
28	4472	4487	4502	4518	4533	4548	4564	4579	4594	4609	15
29	4624	4639	4654	4669	4683	4698	4713	4728	4742	4757	15
30	4771	4786	4800	4814	4829	4843	4857	4871	4886	4900	14
31	4914	4928	4942	4955	4969	4983	4997	5011	5024	5038	14
32	5051	5065	5079	5092	5105	5119	5132	5145	5159	5172	13
33	5185	5198	5211	5224	5237	5250	5263	5276	5289	5302	13
34	5315	5328	5340	5353	5366	5378	5391	5403	5416	5428	13
35	5441	5453	5465	5478	5490	5502	5514	5527	5539	5551	12
36	5563	5575	5587	5599	5611	5623	5635	5647	5658	5670	12
37	5682	5694	5705	5717	5729	5740	5752	5763	5775	5786	12
38	5798	5809	5821	5832	5843	5855	5866	5877	5888	5899	11
39	5911	5922	5933	5944	5955	5966	5977	5988	5999	6010	11
40	6021	6031	6042	6053	6064	6075	6085	6096	6107	6117	11
41	6128	6138	6149	6160	6170	6180	6191	6201	6212	6222	10
42	6232	6243	6253	6263	6274	6284	6294	6304	6314	6325	10
43	6335	6345	6355	6365	6375	6385	6395	6405	6415	6425	10
44	6435	6444	6454	6464	6474	6484	6493	6503	6513	6522	10
45	6532	6542	6551	6561	6571	6580	6590	6599	6609	6618	10
46	6628	6637	6646	6656	6665	6675	6684	6693	6702	6712	9
47	6721	6730	6739	6749	6758	6767	6776	6785	6794	6803	9
48	6812	6821	6830	6839	6848	6857	6866	6875	6884	6893	9
49	6902	6911	6920	6928	6937	6946	6955	6964	6972	6981	9
50	6990	6998	7007	7016	7024	7033	7042	7050	7059	7067	9
51	7076	7084	7093	7101	7110	7118	7126	7135	7143	7152	8
52	7160	7168	7177	7185	7193	7202	7210	7218	7226	7235	8
53	7243	7251	7259	7267	7275	7284	7292	7300	7308	7316	8
54	7324	7332	7340	7348	7356	7364	7372	7380	7388	7396	8
55	7404	7412	7419	7427	7435	7443	7451	7459	7466	7474	8

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	差
55	7404	7412	7419	7427	7435	7443	7451	7459	7466	7474	8
56	7482	7490	7497	7505	7513	7520	7528	7536	7543	7551	8
57	7559	7566	7574	7582	7589	7597	7604	7612	7619	7627	8
58	7634	7642	7649	7657	7664	7672	7679	7686	7694	7701	7
59	7709	7716	7723	7731	7738	7745	7752	7760	7767	7774	7
60	7782	7789	7796	7803	7810	7818	7825	7832	7839	7846	7
61	7853	7860	7868	7875	7882	7889	7896	7903	7910	7917	7
62	7924	7931	7938	7945	7952	7959	7966	7973	7980	7987	7
63	7993	8000	8007	8014	8021	8028	8035	8041	8048	8055	7
64	8062	8069	8075	8082	8089	8096	8102	8109	8116	8122	7
65	8129	8136	8142	8149	8156	8162	8169	8176	8182	8189	7
66	8195	8202	8209	8215	8222	8228	8235	8241	8248	8254	7
67	8261	8267	8274	8280	8287	8293	8299	8306	8312	8319	6
68	8325	8331	8338	8344	8351	8357	8363	8370	8376	8382	6
69	8388	8395	8401	8407	8414	8420	8426	8432	8439	8445	6
70	8451	8457	8463	8470	8476	8482	8488	8494	8500	8506	6
71	8513	8519	8525	8531	8537	8543	8549	8555	8561	8567	6
72	8573	8579	8585	8591	8597	8603	8609	8615	8621	8627	6
73	8633	8639	8645	8651	8657	8663	8669	8675	8681	8686	6
74	8692	8698	8704	8710	8716	8722	8727	8733	8739	8745	6
75	8751	8756	8762	8768	8774	8779	8785	8791	8797	8802	6
76	8808	8814	8820	8825	8831	8837	8842	8848	8854	8859	6
77	8865	8871	8876	8882	8887	8893	8899	8904	8910	8915	6
78	8921	8927	8932	8938	8943	8949	8954	8960	8965	8971	6
79	8976	8982	8987	8993	8998	9004	9009	9015	9020	9025	5
80	9031	9036	9042	9047	9053	9058	9063	9069	9074	9079	5
81	9085	9090	9096	9101	9106	9112	9117	9122	9128	9133	5
82	9138	9143	9149	9154	9159	9165	9170	9175	9180	9186	5
83	9191	9196	9201	9206	9212	9217	9222	9227	9232	9238	5
84	9243	9248	9253	9258	9263	9269	9274	9279	9284	9289	5
85	9294	9299	9304	9309	9315	9320	9325	9330	9335	9340	5
86	9345	9350	9355	9360	9365	9370	9375	9380	9385	9390	5
87	9395	9400	9405	9410	9415	9420	9425	9430	9435	9440	5
88	9445	9450	9455	9460	9465	9469	9474	9479	9484	9489	5
89	9494	9499	9504	9509	9513	9518	9523	9528	9533	9538	5
90	9542	9547	9552	9557	9562	9566	9571	9576	9581	9586	5
91	9590	9595	9600	9605	9609	9614	9619	9624	9628	9633	5
92	9638	9643	9647	9652	9657	9661	9666	9671	9675	9680	5
93	9685	9689	9694	9699	9703	9708	9713	9717	9722	9727	5
94	9731	9736	9741	9745	9750	9754	9759	9763	9768	9773	5
95	9777	9782	9786	9791	9795	9800	9805	9809	9814	9818	5
96	9823	9827	9832	9836	9841	9845	9850	9854	9859	9863	5
97	9868	9872	9877	9881	9886	9890	9894	9899	9903	9908	4
98	9912	9917	9921	9926	9930	9934	9939	9943	9948	9952	4
99	9956	9961	9965	9969	9974	9978	9983	9987	9991	9996	4
100	0000	0004	0009	0013	0017	0022	0026	0030	0035	0039	4

18. 世界の標準時

国または属領	都市(または地方)	日本標準時との差
〈アジア〉		時間
ソ連	アナジリ	+4
	(カムチャツカ)	+3
	(サハリン)	+2
	ウラジオストク	+1
	ナホトカ	〃
	ハバロフスク	〃
	ヤクーツク・チタ	0
	イルクーツク	−1
	ノボシビルスク	−2
	タシケント	−3
日本	東京	0
	那覇	〃
北朝鮮	平壌	〃
韓国	ソウル	〃
中国	(新疆ウイグル自治区を除く)	−1
	(新疆ウイグル自治区)	−3
台湾	台北	−1
香港	香港	−1
フィリピン	ケソンシチー	〃
	マニラ	〃
ベトナム	ハノイ	−2
	ホーチミン	−1
インドネシア	ジャカルタ	−2
	(スマトラ)	〃
	カリマンタン	−1
マレーシア	(北ボルネオ)	−1
	クアラルンプール	−1.30
シンガポール	シンガポール	−1.30
ラオス	ビエンチャン	−2
カンボジア	プノンペン	〃
タイ	バンコク	〃
ビルマ	ラングーン	−2.30
バングラデシュ	チッタゴン	−3
	ダッカ	〃
パキスタン	ラワルピンジ	−4
	カラチ	〃
インド	ニューデリー	−3.30
	カルカッタ・ボンベイ	〃
スリランカ	コロンボ	〃
ネパール	カトマンズ	〃
アフガニスタン	カブール	−4.30
イラン	テヘラン	−5.30
イラク	バグダット	−6
トルコ	アンカラ	−7
シリア	ダマスカス	〃
レバノン	ベイルート	〃
イスラエル	エルサレム	〃
キプロス	ニコシア	〃
〈オセアニア〉(日付け変更線以西)		
ニュージーランド	ウェリントン	+3
	オークランド	〃
パプア・ニューギニア	ポートモレスビー	+1
	(西イリアン)	0
オーストラリア	キャンベラ	+1
	シドニー	〃
	メルボルン	〃
	アラレード	+0.30
	パース	−1
〈ヨーロッパ〉		時間
ソ連	ボルゴグラード	−5
	モスクワ・キエフ	−6
	レニングラード	〃
フィンランド	ヘルシンキ	−7
ルーマニア	ブカレスト	〃
ブルガリア	ソフィア	〃
ギリシア	アテネ	〃
スウェーデン	ストックホルム	−8
ノルウェー	オスロ	〃
デンマーク	コペンハーゲン	〃
ポーランド	ワルシャワ	〃
東ドイツ	ベルリン	〃
西ドイツ	ボン・ベルリン	〃
オーストリア	ウィーン	〃
ハンガリー	ブダペスト	〃
チェコスロバキア	プラハ	〃
ユーゴスラビア	ベオグラード	〃
アルバニア	チラナ	〃
スイス	ベルン・ジュネーブ	〃
イタリア	ローマ	〃
オランダ	アムステルダム	〃
	ハーグ	〃
ベルギー	ブリュッセル	〃
フランス	パリ	〃
スペイン	マドリード	〃
ポルトガル	リスボン	〃
イギリス	ロンドン	−9
アイスランド	レイキャビク	−10
〈アフリカ〉		
エチオピア	アジスアベバ	−6
ケニア	ナイロビ	〃
ウガンダ	カンパラ	〃
タンザニア	ダルエスサラーム	〃
マダガスカル	ダナナリブ	〃
エジプト・アラブ	カイロ	−7
リビア	トリポリ	〃
スーダン	ハルツーム	〃
南西アフリカ	ウィントフック	〃
南アフリカ	プレトリア	〃
	ケープタウン	〃
コンゴ(民主共和国)	キサンガニ	−7
	キンシャサ	−8
チュニジア	チュニス	〃
アルジェリア	アルジェ	〃
中央アフリカ	バンギ	〃
ナイジェリア	ラゴス	〃
ベニン	ポルトノボ	〃
アンゴラ	ルアンダ	〃
モロッコ	ラバト	−9
モーリタニア	ヌアクショット	〃
セネガル	ダカール	〃
ギニア	コナクリ	〃
シエラレオネ	フリータウン	〃
コートジボアール	アビジャン	〃
ガーナ	アクラ	〃
オートボルタ	ワガドーグー	〃
リベリア	モンロビア	−9.45
〈北アメリカ〉		時間
カナダ	(ニューファンドランド島)	−12.30
	(ニューブランスウィック)	−13
	オタワ	−14
	トロント	〃
	モントリオール	〃
	ウィニペグ	−15
	エドモントン	−16
	バンクーバー	−17
	ドーソン	−18
アメリカ	(東部標準時)	
	ワシントン	−14
	ニューヨーク	〃
	マイアミ	〃
	デトロイト	〃
	ピッツバーグ	〃
	(中央標準時)	
	シカゴ	−15
	ニューオーリンズ	〃
	(山岳標準時)	
	デンバー	−16
	(太平洋標準時)	
	シアトル	−17
	サンフランシスコ	〃
	ロサンゼルス	〃
	アンカレジ	−19
	(アリューシャン列島)	−20
(イギリス領)	(バミューダ島)	−13
トリニダード-トバゴ	ポートオブスペイン	〃
プエルトリコ	サンファン	〃
ドミニカ	サントドミンゴ	−14
キューバ	ハバナ	〃
パナマ	パナマ	〃
メキシコ	メキシコシチー	−15
グアテマラ	グアテマラ	〃
ホンジュラス	テグシガルパ	〃
ニカラグア	マナグア	〃
コスタリカ	サンホセ	〃
〈南アメリカ〉		
ブラジル	(東部)	
	ブラジリア	−12
	リオデジャネイロ	〃
	(西部)	
	マナオス	−13
ウルグアイ	モンテビデオ	−12
ベネズエラ	カラカス	−13
ボリビア	ラパス	〃
チリ	サンチアゴ	〃
パラグアイ	アスンシオン	〃
アルゼンチン	ブエノスアイレス	〃
コロンビア	ボゴタ	−14
エクアドル	キト	〃
ペルー	リマ	〃
〈オセアニア〉(日付け変更線以東)		
アメリカ	(ハワイ諸島)	−19
	ホノルル	〃
(フランス領)	(タヒチ島)	〃
(アメリカ領)	(ミッドウェー島)	−20
西サモア	アピア	〃

索　　引

凡　　例

この索引は，《世界文化大百科事典 ジュピター》(全11巻)に所載の本項目と，解説文中から選出した項目とによって編成されたものである。

1．本項目は太字(ゴシック体)で示し，解説文中から選出した項目は細字(明朝体)で示した。

2．項名の次の太数字は，その項目が掲載されている巻数を示し，細数字はページ数を示す。ページ数のあとのローマ字は，ａは左段，ｂは中段，ｃは右段，ｓは写真・さし絵・表などを示す。

3．項目の配列の順序は本巻に準じた。

(1) 現代かなづかいによる五十音(アイウエオ)順。

(2) 清音・濁音・半濁音の順とし，促音・拗音などの小字は直音より前に配列した。

(3) 長音の〈ー〉は音順からは除外したが，同格の場合は長音のあるほうをあとに配列した。

4．項目の表記法は本巻に準じた。

5．表記法が同じ項目については，適宜かっこ(　)の中にその内容を示した。

例・・**熱海温泉**(福島県)　**1**-116a

熱海温泉(静岡県)　**1**-116a

6．書名・曲名・作品名などは《　》の中に示した。

あ

い

う

え

お

か

き

く

け

こ

さ

し

す

せ

そ

た

ち

て

と

な

に

ぬ

ね

の

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

み

む

め

も

や

ゆ

よ

ら

り

る

れ

ろ

わ

執筆者一覧

五十音順

相生啓子 生物学
逢沢達人 植物学
会田由 スペイン文学
相原正彦 気象学
相原林司 国語学
青木栄一 日本地理
青木国夫 物理学
青木茂 家政学
青木淳一 動物学
青木利彦 医学
青木勝 化学
青木淑子 家政学
青柳雅計 数学
赤井弘 蚕学
赤尾憲一 アメリカ文学
赤垣昭 スポーツ
赤木進 機械
赤木攻 外国語
赤沢寛 イタリア文学
赤司政雄 教育
赤塔政夫 法律
秋枝哲児 金属
秋野美樹 生理学
秋山隆 電気
浅井得一 日本地理
朝倉了 法医学
浅沼圭司 映画
味沢成吉 日本地理
麻生健二 経済学
麻生誠 教育
愛宕元 東洋史
安達利夫 日本史
安達淑子 日本史
吾妻雄次郎 ドイツ文学
穴沢一夫 西洋美術
阿部猛夫 育種学
安部直哉 鳥類
天野重夫 経済学
荒井伸一 外国語
荒川泰二 物理学
荒川浩和 日本美術
荒木洋之助 化学
荒牧正也 物理学
新谷敬三郎 ロシア文学
荒谷次郎 外国語
有賀亮 化学工業
有山兼孝 物理学
有山正孝 物理学
有賀弘 西洋史
安西迪夫 日本文学
安沢龍徳 医学
安津素彦 神道
安藤太郎 日本文学
飯島幸人 船舶工学
飯田悠紀子 日本史
飯田良明 マスコミ
飯塚勝久 哲学
井内雄四郎 イギリス文学
井形昭弘 医学
五十嵐敏夫 ドイツ文学
五十嵐一 イギリス文学
五十嵐誠 キリスト教
井口信洋 金属
池内輝雄 日本文学
池内得二 経済学
池谷和夫 物理学
池口康雄 スポーツ
池田修 外国語
池田一之 マスコミ
池田公麿 フランス文学
池田朗次 化学工業
池田貞夫 社会思想
池田貞夫 教育
池田雅雄 スポーツ
池田洋司 遺伝学
井坂三郎 生理学
伊沢凡人 東洋医学
石井修道 仏教
石井忠厚 哲学
石井哲夫 医学
石岡久雄 スポーツ
石上善応 仏教
石川彬 ウイルス
石川延男 化学
石川松太郎 教育
石倉恒之 哲学
石黒修 国語学
石子順造 漫画
石島芳郎 鳥類
石田尚志 医学
伊地智善継 外国語
石塚彰 スポーツ
石塚正孝 鉄道
石戸良治 化学
石埜敬子 日本文学
石野誠 水産
石原啓 事務機器
石原静子 教育
泉邦寿 フランス文学
泉敬子 西洋料理
泉靖一 文化人類学
井関正昭 西洋美術
磯貝芳郎 教育
磯部琇三 天文学
板橋重夫 西洋史
井田三夫 フランス文学
市川清 西洋美術
市川孝 国語学
市川比良久 遺伝学
一条信幸 スポーツ
一戸健司 家禽
市村仁 ドイツ文学
井出純二郎 鉄道
伊藤耀 化学工業
伊藤逸平 漫画
伊藤幸作 デザイン
伊藤剛平 経済学
伊藤昭一郎 政治学
伊藤善市 経済学
伊藤隆子 医学
伊東孝 電気
伊藤卓 化学工業
伊藤毅 電気
伊藤糾次 電気
伊東春雄 スポーツ
伊藤博 日本文学
伊藤道治 東洋史
伊藤力雄 農芸化学
伊藤隆太 薬理学
稲垣史生 風俗
稲垣泰一 日本文学
稲田重男 機械
稲田正作 化学工業
乾吉佑 精神医学
井上宇市 建築
井上謙治 アメリカ文学
井上公耳 法律
井上正蔵 ドイツ文学
井上輝夫 フランス文学
井上外志雄 資源工学
井之口章次 民俗学
猪爪範子 観光
今泉吉典 哺乳類
今井留吉 外国地理
今井秀喜 資源工学
今川八東 医学
今堀和友 農芸化学
今村与志雄 中国文学
井本英一 外国語
入村精一 動物学
岩井寛 医学
岩垣駛夫 果樹園芸
岩切千之 鉄道
岩崎稠 医学
岩沢央 時計
岩浪洋三 音楽
岩淵達治 ドイツ文学
岩村霽郎 金属
印東太郎 心理学
上坂章次 動物学

植田啓子 日本文学
上田早苗 東洋史
上田重明 金属
上田正行 日本文学
上野修 ドイツ文学
上野俊一 動物学
植村慶一 生理学
上村幸雄 国語学
鵜飼信成 法律
宇賀神勝 手芸
浮田裕之 スポーツ
氏家尚 経済学
牛島巌 文化人類学
牛島信明 スペイン-中南米文学
氏原弘 医学
宇田川璋仁 経済学
内尾高保 資源工学
内田吟風 東洋史
内田茂男 物理学
内田剛弘 法律
内田信邦 金属
内山明彦 電気
内山滋 スポーツ
内山鶉 中国演劇
内山鉄男 建築
宇野俊彦 自動車
梅根悟 教育
梅原郁 東洋史
宇山裕 化学
浦田賢二 法律
浦野春樹 ドイツ文学
浦本昌紀 鳥類
浦山政雄 演劇
宇留野勝正 小児医学
江上生子 科学史
江川和彦 デザイン
江川元偉 栄養
江種満子 日本文学
江口日東証券調査部 経済学
榎本重男 ドイツ文学
海老沢功 免疫学
海老原治善 教育
江本龍雄 薬学
江本弘 精神医学
遠藤寛 植物学
老松信一 スポーツ
応和邦昭 日本史
大井数雄 演劇
大石貞男 茶
大井次三郎 植物学
大石堪山 外国地理
大礒敏雄 食品化学
大井ミノブ 花道
大岩碩 文化人類学
大岡忠一 生理学
大木靖衛 地学
大久保広行 日本文学
大熊一郎 経済学
大河内康憲 外国語
大坂顕一 万年筆
大崎晃 外国地理
大沢浩 自動車
大沢正男 法律
大島武 工業
大島勉 演劇
大島正光 人間工学
大島幸夫 スポーツ
大須賀明 法律
大須賀望 窯業
太田垣瑞一郎 心理学
太田勝人 自動車
大田邦昌 遺伝学
大田黒和生 医学
大谷宗司 (超)心理学
大谷旭雄 仏教
大谷敏夫 東洋史
大谷裕子 映画
大田正義 畜産
大鳥蘭三郎 医学史
大西一博 植物学
大貫義郎 物理学
大幹史子 日本文学
大野淳一 動物学
大野慎一郎 西洋史
大橋吉之輔 アメリカ文学
大橋辰哉 医学
大庭脩 東洋史
大畑末吉 ドイツ文学
大林太良 文化人類学
大藤幹夫 児童文学
大南龍昇 仏教
大三輪龍彦 日本史
大森和子 生理学
大森昌衛 古生物学
雄谷重夫 金属
岡倉古志郎 政治学
岡崎信和 金属
岡崎光雄 化学工業
岡崎涼子 演劇
小笠原信夫 日本美術
小笠原春夫 日本思想
岡田一次 昆虫学
岡田純也 児童文学
尾形仂 日本文学
岡田十九郎 獣医学
岡田宏明 文化人類学
岡田令子 外国語
岡部和雄 仏教
岡部紘三 西洋美術
岡部徳三 西洋美術
岡部利雄 動物学
岡部平八郎 化学工業
岡村志郎 金属
岡本治良 栄養
岡保生 日本文学
岡山泰四 日本史
岡山超 心理学
小川安朗 被服材料
興津要 落語・講談
荻野幹夫 医学
奥谷松治 農業経済
小口偉一 宗教
奥野純一 日本文学
奥山康治 イギリス文学
小栗宏 外国地理
小黒重雄 鉄道
小此木啓吾 精神医学
尾崎秀樹 日本文学
小沢憲珠 仏教
小沢奨 生物学
小沢靖一 日本舞踊
小沢正 気象学
小沢博 電気
小沢有作 教育
押田良輝 産業機械
小瀬村幸子 イタリア文学
小田垣雅也 キリスト教
小谷仲男 東洋史
小田博 日本思想
越智道雄 アメリカ文学
小野和子 東洋史
小野和輝 神道
小野堅 外国語
小野信夸 家政学
小野記彦 遺伝学
小原啓義 電気
折井一彦 西洋史
恩田利章 鉄道
海津洋行 化学
飼沼芳郎 物理学
寒河江実 国語学
陰里鉄郎 日本美術
影山利郎 囲碁
影山日出哉 法律
加崎英男 植物学
加治明 文化人類学
梶川勇作 外国地理
梶正彦 鉄道
綷川羔 アメリカ文学
片岡一郎 経済学
片岡孝 外国語
片岡寛純 林学
片桐登 能楽
片山信夫 鉱物学
片山義郎 精神医学
勝木辰男 畜産学
勝村哲也 東洋史
桂敬 化学
加藤晃 日本史
加藤邦興 科学史
加藤定雄 物理学
加藤竹夫 産業機械
加藤敏郎 鉱物学
加藤敏郎 物理学
加藤僖重 植物学
加藤宏夫 産業機械
加藤寛 経済学
加藤弘 運輸

加藤文子　日本史
加藤　厳　免疫学
加藤　康　化学
加藤善徳　点字
香取忠彦　工芸
金岡秀友　仏教
兼岩正夫　西洋史
金木良三　農学
金子秀彬　心理学
金子　博　日本文学
金子義徳　医学
金子良太　仏教
加納重文　日本文学
鎌田啓二　経済学
鎌田茂雄　仏教
上　笙一郎　日本文学
紙谷威廣　民俗学
神山　一　土木
神山幸弘　建築
神谷美保子　文化人類学
鴨田　稔　食品工業
香山　彊　化学工業
加山延太郎　金属
唐木圀和　経済学
河合研一　労働
河合雅雄　動物学
河合正朝　東洋美術
川合幸晴　金属
河合玲二　写真
河内三郎　電気
川勝義雄　東洋史
川上伸二　精神医学
川口　毅　図学
河口道朗　教育
川久保正一郎　窯業
川崎直一　外国語
川崎　博　電気
河島英昭　イタリア文学
川添雄司　鉄道
河竹登志夫　演劇
河田　貞　東洋美術
川田伸紘　西洋建築
川名　明　林学
川中　洋　時計
川端香男里　ロシア－ソビエト文学

河鰭実英　有職故実
河原　昭　鉱物学
河原純之　考古学
川村明義　免疫学
川村次良　薬学
神崎　厳　ドイツ文学
樺　俊雄　社会学
蒲原春一　動物学
神戸信和　地質学
木川源則　医学
菊地　藍　心理学
菊地浅次郎　漫画
菊池万雄　日本地理
菊池　進　医学
菊池兵一　数学
菊池礼子　日本史
木越　隆　日本文学
如月青子　日本舞踊
岸田晩節　ドイツ文学
岸野悦子　西洋美術
岸野淳子　日本史
北垣信行　ロシア文学
北川　修　遺伝学
北島武彦　図書館学
北田穣之介　精神医学
北西憲二　医学
北原静夫　医学
北見俊夫　民俗学
北村杏子　日本文学
北村哲郎　日本美術
北村　甫　言語学
喜多迅鷹　西洋史
衣川　強　東洋史
木下　宙　天文学
木村禧代二　医学
木村建一　建築
木村重信　西洋美術
木村辰男　外国地理
木村　力　鉄道
木村東一郎　日本地理
木村東作　科学
木村幸雄　日本文学
木元錦哉　労働
木本　力　教育
木元美代子　労働

京戸慈光　仏教
金田一春彦　国語学
陸井三郎　政治学
日下部文夫　言語学
草川隆次　金属
百済弘胤　生態学
工藤　隆　演劇
国井乙彦　医学
国近浩一　社会学
久保輝一郎　化学
久保木哲夫　日本文学
久保圭之助　スポーツ
久保田　穣　水産加工
久保正彰　ギリシア－ラテン文学
熊谷保孝　日本思想
倉茂貞助　競輪
栗原行雄　イギリス文学
呉　政男　スポーツ
黒岩菊郎　林学
黒川治男　動物学
黒木三郎　法律
黒木義典　外国語
黒瀬信子　労働
黒田杏子　ギリシア神話
桑田忠親　茶道
桑原章吾　医学
桑原博史　日本文学
桑原正見　自然地理
剣持　勇　デザイン
小池千枝　服飾
小池正胤　日本文学
小泉　明　経済学
小泉浩一郎　日本文学
小泉睦男　機械
小出知子　イタリア文学
上坂西三　経済学
神品芳夫　ドイツ文学
合田　濤　民俗学
香内三郎　社会学
肥沼恵一　鉄道
郡　一　環境衛生
古賀勝郎　外国語
古賀信夫　西洋美術
小暮正義　政治学

小坂井　守　医学
古崎　敬　心理学
小清水　忠　鉄道
小清水義隆　植物学
小杉　清　園芸
小杉　恵　観光
小菅茂雄　教育
児玉幸多　日本史
後藤昭次　アメリカ文学
五島忠久　外国語
五島徳雄　スポーツ
後藤義隆　医学
後藤瑠美子　日本舞踊
小西勇雄　数学
小林亥助　民俗学
小林敬子　日本文学
小林宏一　社会学
小林　喬　スポーツ
小林　忠　日本美術
小林純子　植物学
小林　貢　能楽
小松英輔　フランス文学
小南一郎　東洋史
小室栄一　西洋史
小室正雄　服飾
子安三喜男　西洋美術
小谷津孝明　心理学
今　淳治郎　物理学
近藤正樹　動物学
今野圓助　民俗学
今野敏徳　水産
斎藤秋男　中国教育
斎藤幸一郎　心理学
斎藤晨二　外国地理
斎藤　進　飲料
斎藤　孟　機械
斎藤　浩　医学
斎藤昌男　社会学
斎藤淑子　東洋史
佐伯喜和子　心理学
酒井　府　ドイツ文学
酒井忠康　西洋美術
酒井登代　帽子
境野照雄　化学工業
榊原住枝　家政学

坂口允彦 将棋
坂本和子 日本思想
坂本 清 経済学
坂本 通 詩吟
酒本雅之 アメリカ文学
坂本侑三 鉄道
向坂正久 音楽
崎山 理 外国語
桜井譲爾 建築
桜井俊男 化学工業
桜木 庚 西洋史
佐々木忠義 海洋学
佐々木宏幹 文化人類学
笠原行喜 医学
佐島秀夫 土木
左中庸博 ギリシア‐ラテン文学
佐藤昭夫 東洋美術
佐藤英一郎 教育
佐藤 薫 民俗学
佐藤恭子 演劇
佐藤 朔 フランス文学
佐藤正一 細胞学
佐藤甚次郎 日本地理
佐藤 進 西洋史
佐藤 進 電気
佐藤成順 仏教
佐藤忠男 映画
佐藤 保 経済学
佐藤恒雄 日本文学
佐藤恒久 医学
佐藤智雄 マスコミ
佐藤友太郎 食品
佐藤豊子 教育
佐藤方哉 心理学
佐藤慶幸 社会学
佐藤良純 仏教
佐野隆志 医学
佐野竜馬 神道
佐分利義和 電気
沢井芳男 免疫学
沢内隆志 経済学
沢田正子 日本文学
沢村 灌 イギリス文学
サンエッチ くつクリーム
三条西公正 香道
サントリー広報室 洋酒
塩川ふみ 日本料理
滋賀秀三 法律
鹿野賀代子 日本史
信貴辰喜 ドイツ文学
重森完途 庭園
宍塚正幸 鉄道
宍戸 直 西洋美術
信太 周 日本文学
志田正二 化学
品田 登 化学工業
篠原拓雄 日本文学
柴内俊次 生物学
島尾 勝 林学
島田紀夫 西洋美術
島田 寛 印刷
清水 晶 経済学
清水 功 消防
清水喜八郎 医学
清水直容 医学
清水英明 消防
清水不二雄 免疫学
清水正幸 化学
清水游谷 釣り
清水淑郎 医学
志村 博 ドイツ文学
下平和夫 科学史
下村吉郎 産業機械
宿谷幸治郎 医学
庄司浅水 書誌学
白井 厚 政治学
白井邦彦 狩猟
白井浩司 フランス文学
白石 孝 経済学
白石 透 医学
白井哲之 日本地理
白井伝平 経済学
白川宣力 演劇
白土志郎 農芸化学
代谷 康 生理学
新川幸信 写真
神出高吉 事務機器
新藤協三 日本文学
神保 剛 フランス文学
新明正道 社会学
新羅一郎 宇宙工学
末高 信 社会保障
末吉雄二 西洋美術
菅野 徹 動物学
杉浦靖夫 動物学
杉岡司馬 数学
杉坂靖子 日本史
椙村大彬 外国地理
杉村章三郎 法律
杉村勇造 書道
杉本昌穂 電気
杉山三枝 日本史
杉山元一 校正
杉山康彦 教育
勝呂小枝 日本美術
助広 剛 ドイツ文学
祐宗省三 心理学
鈴木晃佳 眼鏡
鈴木郁生 薬学
鈴木一雄 日本文学
鈴木和子 ドイツ文学
鈴木邦雄 昆虫学
鈴木貞男 植物学
鈴木二郎 文化人類学
鈴木誠司 西洋美術
鈴木荘司 化学工業
鈴木孝人 化学
鈴木 篁 化学
鈴木 猛 衛生昆虫
鈴木徹郎 北欧文学
鈴木敏生 精神医学
鈴木久男 科学史
鈴木 尚 人類学
鈴木寿治 精神医学
鈴木英雄 日本史
鈴木 太 医学
鈴木正男 自然人類学
鈴木道子 音楽
鈴木安蔵 法律
鈴木良徳 スポーツ
鈴木美嶺 スポーツ
鈴木諒一 経済学
須藤健一 民俗学
須藤彰司 林学
須藤泰秀 マスコミ
須藤隆一 微生物学
住谷光圀 化学
住江金之 酒
角 祐一郎 化学工業
須山計一 日本美術
須山静夫 アメリカ文学
関 義城 和紙
関 忠夫 民俗学
関 徹雄 ドイツ文学
関根良平 東洋史
関野英夫 軍事
節田重節 観光
瀬良垣宏明 日本文学
芹沢勝助 東洋医学
千田 稔 外国地理
十代田三知男 生産管理学
曽根喜和子 中国料理
曽根田正己 植物学
大道寺純子 被服管理
平 光波 花道
高木証作 政治学
高木楽山 遊戯
高窪貞人 法律
高倉新一郎 文化人類学
高崎徳次 日本史
高沢瑛一 映画
高島藤順 林学
高島文三 植物学
高田孝雄 スポーツ
高野一雄 解剖学
高野 繁 日本地理
高橋 彰 経済学
高橋悦二郎 医学
高橋健二 ドイツ文学
高橋孝一 舞踊
高橋譲二 郵政
高橋統一 文化人類学
高橋俊夫 鉄道
高橋彦博 政治学
高橋秀雄 日本舞踊
高林武彦 物理学
高原二郎 日本文学
田上太秀 仏教

高嶺　浩 獣医学
高村　宏 ドイツ文学
高山高雄 西洋史
高山鉄男 フランス文学
高山隆三 経済学
滝野賢一 医学
滝　誠 電気
匠　秀夫 東洋美術
武井邦彦 西洋美術
竹内淳彦 日本地理
竹内直子 医学
竹内泰夫 都市計画
竹下三吉 化学
竹島　茂 速記
武田登作 水道
武田良三 社会学
竹鼻　績 日本文学
竹村健二 交通
竹村卓二 文化人類学
武　基雄 建築
田島　修 日本文学
田嶋公子 医学
田島清灝 機械
田島　学 西洋美術
田隅本生 生物学
多々内　修 昆虫学
館　古都子 家具
橘　武彦 免疫学
舘内富男 電気
田中章夫 国語学
田中於菟弥 中近東文学
田中克彦 文化人類学
田中啓策 地質学
田中彰一 資源工学
田中　実 教育
田中良昭 仏教
田辺照子 労働
谷内　透 魚類
谷口規矩雄 東洋史
谷口正彦 民俗学
谷　資信 建築
谷中静子 日本文学
谷村顕雄 薬学
谷本たかし 農業経済
谷　洋五 航空工学

田上光治 日本思想
田原虎次 農業機械
玉井　治 哲学
玉城　巌 医学
玉野秀樹 化学
玉山成元 仏教
田丸睦雄 観光
田村彰三 手芸
田村すゞ子 外国語
田村　剛 海中公園
田村康男 電気
近森　正 文化人類学
遅塚忠躬 西洋史
千野栄一 東欧文学
千野境子 日本史
趙　重玉 朝鮮料理
長曽我部木人 印章
塚本　勲 外国語
塚本啓祥 仏教
塚本良則 林学
辻　惟雄 美術
辻本恵子 医学
土屋喜一 機械
土屋松男 電気
堤　一馬 猫
角田一郎 演劇
角田和一郎 物理学
椿　輝男 社会保障
坪井清足 考古学
鶴見紀文 社会学
寺内定夫 玩具
寺内礼治郎 教育
寺尾方孝 政治学
寺沢誠司 化学工業
寺沢　一 法律
寺田兼文 音楽
寺中平治 哲学
土井洋一郎 鉄道
藤堂明保 漢字
東野芳明 西洋美術
戸川行男 心理学
土岐昌訓 神道
常盤政治 経済学
徳永康元 東欧文学
徳丸吉彦 音楽

戸田孝昭 船舶工学
礪波　護 東洋史
鳥羽幸一 音楽
戸部銀作 日本舞踊
富田重夫 経済学
富田博之 演劇
富田善治 医学
富田芳秀 数学
富永英義 電気
富山秀男 西洋美術
豊川　洋 観光
豊福英利 哲学
鳥越　信 児童文学
内藤浩市 建築
内藤春雄 精神医学
内藤頼博 法律
直江広治 民俗学
直野　敦 東欧文学
永井憲一 法律
永井成男 哲学
永井信一 日本美術
中井　弘 金属
永井　博 教育
長尾一雄 能楽
長尾高明 日本文学
中川　誠 哲学
中口　博 航空工学
長崎勇一 イギリス文学
中島河太郎 日本文学
中島純司 西洋美術
中島　尚 日本文学
中島政子 手芸
中島道郎 林学
中島良郎 薬学
中舘正弘 薬学
永田英世 東洋史
永田文夫 音楽
中田勇次郎 書道
長津一郎 日本地理
中出水　勲 スポーツ
中西啓二郎 演劇
中西正幸 日本思想
中西義郎 音楽
中野幸次 哲学
中野　光 教育

仲野　浩 考古学
中野藤生 物理学
長野昌隆 印刷
中野八十二 スポーツ
中原義行 法医学
永藤　武 日本思想
中村克哉 林学
仲村計美 哲学
中村健之介 ロシア文学
中村浩三 ドイツ文学
中村禎里 科学史
中村英雄 ドイツ文学
中村守保 建築
中屋健一 西洋史
中山和芳 民俗学
中山忠巳 物理学
那須宗一 社会保障
夏目　正 林学
難波蓮太郎 建築
浪江　虔 農学
奈良茂雄 観光
奈良博順 仏教
奈良康明 仏教
成田武男 自動車
成田令博 歯学
新飯田　宏 経済学
西岡泰三 遺伝学
西岡康宏 インド美術
西尾邦夫 演劇
西尾孝司 政治学
西尾寅弥 国語学
西垣　勤 日本文学
西ケ谷恭弘 日本史
西　三郎 医学
西　順蔵 中国思想
西田秀穂 西洋美術
西野入尚一 医学
西野義彦 経済学
西　勝 ドイツ文学
西松裕一 資源工学
庭田範秋 経済学
根本順吉 科学史
根本英美 社会学
納富教雄 医学
野口恵三 法律

野口晴彦 林学
野沢秀樹 外国地理
野島正城 ドイツ文学
野々村豊 林学
野間三郎 外国地理
野宮健司 化学
野元菊雄 国語学
灰谷慶三 ロシア文学
芳賀綏 国語学
萩原卓也 西洋美術
萩原昌好 日本文学
狭間直樹 東洋史
橋川時雄 中国文学
橋本信也 医学
橋本澄子 髪形
橋本長 解剖学
橋本槙矩 イギリス文学
蓮尾諭吉 機械
蓮実重彦 映画
長谷川正義 金属
幡井勉 解剖学
波多江健郎 建築
波多野哲朗 映画
服部真澄 物理学
服部幸雄 演劇
馬場謙一 精神医学
馬場礼子 心理学
波部忠重 動物学
浜岡政好 社会学
浜口乃二雄 ポルトガル文学
浜野サトル 音楽
浜野吉生 スポーツ
浜田陽太郎 教育
浜田竜之介 土壌学
浜本武雄 アメリカ文学
早川幸男 物理学
林栄一 外国語
林茂樹 マスコミ
林達 経済学
林屋晴三 日本美術
早瀬達郎 化学
早津敏彦 音楽
葉山房夫 金属
速水保 経済学
原重一 観光
原田俊治 競馬
原田正春 外国語
原田政洸 政治学
原田三夫 宇宙工学
原野彰子 心理学
原野友之 生理学
原伸宜 化学工業
原秀男 法律
原ひろ子 文化人類学
原実 インド文学
原豊 経済学
針生誠吉 法律
春名好重 書道
坂東性純 仏教
日江井栄二郎 天文学
東秀彦 規格
久武綾子 家政学
飛高隆夫 日本文学
日高敏隆 動物学
日高八郎 イギリス文学
飛田良文 国語学
秀村欣二 西洋史
日野康一 音楽
ヒノデワシ
ゴム工業 消しゴム
日野原正 医学
日比野丈夫 東洋史
平井宥慶 仏教
平田澄子 日本文学
平田喜信 日本文学
平野修助 医学
平野孝子 日本文学
平野久 写真
平林義章 鉄道
平山健 地質学
広川堯敏 仏教
広川洋一 哲学
広重徹 科学
広部和也 法律
深津千賀子 心理学
深海博明 経済学
深谷昌次 生理学
吹浦忠正 政治学
福井崇時 物理学
福井幸雄 教育
福沢啓司 化学工業
福島健 生理学
福島義久 経済学
福田生雄 外国文学
福永吉太郎 カーボン紙
藤家壮一 ロシア－ソビエト文学
藤井和明 医学
藤井康次 金属
藤井久栄 西洋美術
藤井冬木 軍事
藤井正雄 仏教
藤枝省人 経済学
藤岡端 スポーツ
藤沢典明 教育
藤島建樹 東洋史
藤瀬直正 金属
藤田昭三 消防
藤田稔 民俗学
藤田実 鉄道
藤見純子 社会学
藤村淳 科学史
藤本淳雄 ドイツ文学
藤本昌子 日本史
藤善真澄 東洋史
布施政郎 スポーツ
船石清香 家政学
船越昭生 外国地理
船越真樹 生態学
船山隆 音楽
古川俊英 西洋美術
古屋健三 フランス文学
古屋弘 化学
分銅惇作 日本文学
別技篤彦 外国地理
北条賢三 仏教
北条元一 ドイツ文学
保坂栄一 西洋史
星野恒彦 イギリス文学
星野具子 日本史
星野安三郎 政治学
細谷正勝 スポーツ
穂藤英樹 自動車
堀井謙一 日本文学
堀井健一郎 土木
堀内和夫 電気
堀岡邦典 林学
堀川直顕 物理学
堀越すみ 日本服飾
堀越知巳 キリスト教
堀浩 スポーツ
堀福太郎 岩石学
本間長世 西洋史
前嶋信次 アラビア文学
前田一枝 家政学
前田史朗 化学
前田慎一 演劇
前田専学 仏教
前野巍 西洋美術
前納弘武 マスコミ
曲田光夫 気象学
牧野玩太郎 郷土玩具
牧野信司 動物学
牧野信也 イスラム思想
牧野美津子 美容
真木三三子 東欧文学
孫野長治 気象学
正木ひろし 法律
増井敏郎 物理学
増沢武弘 植物学
増田正造 能楽
増田武弘 医学
増谷文雄 宗教
増田靖弘 スポーツ
松井孝爾 動物学
松井敏明 演劇
松浦保 経済学
松尾幸子 ドイツ文学
松尾涼 日本史
松尾拾 国語学
松沢勝 マスコミ
松下京子 西洋史
松下洋 西洋史
松島栄一 日本史
松島浄 社会保障
松田治 ギリシア－ラテン文学
松田壮時 物理学
松田健身 精神医学
松谷敏雄 文化人類学

松　俊夫　西洋史
松橋　直　医学
松久勝利　西洋美術
松本忠夫　生態学
松本治雄　法律
松本正雄　園芸
松本芳夫　西洋美術
真鍋元之　日本文学
間野知子　日本文学
真野龍海　仏教
黛　弘道　日本史
丸山一彦　日本文学
丸山　晋　医学
丸山昌朗　東洋医学
丸山正和　林学
三浦昭雄　水産
三浦三郎　東洋医学
三浦　仁　日本文学
三木多聞　西洋美術
身崎　寿　日本文学
三島好雄　医学
水野俊彦　化学
溝口　潔　政治学
美土路達夫　農業経済
南川隆雄　生理学
源　五郎　日本文学
峰島旭雄　仏教
峯村文人　日本文学
美ノ谷和雄　マスコミ
美浜和広　物理学
宮井義雄　日本神話
宮川寿夫　物理学
宮川　実　人口
宮　清　測量機械
三宅　良　鉄道
宮下千恵子　神道
宮　次男　日本美術
宮村了三　園芸
宮本昭正　大気汚染
宮本袈裟雄　民俗学
宮本忠雄　精神医学
宮脇晴夫　医学
名生尚志　マスコミ
三好和夫　医学
三輪福松　西洋美術

三輪　誠　化学
向井　宏　動物学
向　正夫　化学工業
向川幹雄　児童文学
武藤輝彦　化学
武藤暢夫　医学
村岡　正　庭園
村尾元忠　日本史
村上博智　土木
村木幸生　西洋美術
村重　寧　日本美術
村治能就　哲学
村田圭司　盆栽
村田忠兵衛　外国語
村山　喬　物理学
メイ・ウシヤマ　美容
毛利　登　東洋美術
毛利三弥　演劇
茂在寅男　船舶
望月利一　鉄道
本川弘一　医学
本島三郎　鉄道
本橋正義　哲学
元持邦之　時計
森　麟　土木
森川俊夫　ドイツ文学
森川八洲男　経済学
森成　元　医学
森田侑男　哲学
守田志郎　農業経済
森田宗一　法律
森田琢磨　畜産学
森田　哲　軍事
森田　鈞　機械
森長英三郎　法律
森野　章　鉄道
森　英樹　フランス文学
森部　一　文化人類学
森村武雄　建築
森安達也　東欧文学
守山史生　天文学
茂呂百合子　手芸
屋形禎亮　西洋史
柳下　登　生物学
八木誠一　キリスト教

八木沼健夫　動物学
八木　浩　外国語
矢沢庸代　精神医学
矢島保男　経済学
安井孝治　経済学
八杉龍一　生物学
安国宗直　医学
安武正秀　経済学
安田二郎　東洋史
安田富士郎　魚類
安野　愈　物理学
柳川成男　ドイツ文学
柳　雄太郎　日本史
柳下尚範　易学
矢野博一　スポーツ
矢筈野義郎　消防
矢部章彦　繊維科学
矢部良明　東洋美術
山内公義　たばこ
山岡謹七　製本
山折哲雄　仏教
山鹿誠次　都市
山県弘志　西洋史
山川邦夫　育種学
山川道雄　化学
山口梅太郎　資源工学
山口　修　音楽
山口恵一郎　日本地理
山口佳己　フランス文学
山崎昌甫　教育
山崎恒夫　心理学
山崎俊雄　科学史
山崎博子　生理学
山崎　弘　建築
山崎賀子　被服
山路勝彦　民俗学
山下愛子　科学史
山下興家　デザイン
山下　肇　ドイツ文学
山田　巌　電気
山田慶治　物理学
山中秀雄　医学
山根雅己　機械
山上正太郎　西洋史
山野清二郎　日本文学

山桝忠恕　経済学
山村あい子　手芸
山本　晶　アメリカ文学
山本克典　自動車
山本　久　寄生虫学
山本泰夫　建築
山本喜男　家政学
矢守一彦　外国地理
弥吉沙恵　日本文学
油井正一　音楽
弓削　達　西洋史
楊　名時　スポーツ
横井朝子　植物学
横塚祥隆　ドイツ文学
横溝政八郎　ドイツ文学
吉池邦人　ウイルス
吉川利治　外国語
吉崎三男　麻薬
吉田　彰　医学
吉田精一　日本文学
吉田精一　生理学
吉田泰輔　音楽
吉田俊郎　心理学
吉田富夫　東洋史
吉田直子　心理学
吉田秀太郎　外国語
吉田　孚　ドイツ文学
吉田由紀子　イギリス文学
吉田善明　法律
吉田玲子　西洋美術
吉津宜英　仏教
善積美恵子　日本史
吉利　和　医学
吉羽和夫　科学史
吉原邦夫　物理学
吉原利政　自転車
依田千百子　文化人類学
米川和夫　東欧文学
米川五郎　栄養
米川良夫　イタリア文学
米沢克夫　哲学
米沢保正　化学工業
米田賢次郎　東洋史
米元卓介　土木
米本亮一　鉄道

米屋秀三 土木	若林 修 医学	渡辺兼庸 東洋史	渡辺みよ子 家政学
米山偉瑳男 産業機械	若松 寛 東洋史	渡辺 貞 免疫学	渡辺守邦 日本文学
米山美久 社会学	和気 朗 微生物学	渡辺 健 鉄道	渡辺保忠 建築
立仙順郎 フランス文学	和田 完 文化人類学	渡部福太郎 経済学	渡辺泰徳 動物学
竜胆寺 雄 植物学	和田誠司 音楽	渡辺 実 植物病理学	渡辺欣雄 民俗学

図版作成・写真撮影・資料提供者一覧

五十音順

会田 民雄
会津 藍
青島熱帯植物園
青森県りんご試験場
アオヤマ-フォト-アート
朝倉書店
朝倉彫塑館
浅野 喜市
旭硝子
旭工芸社
朝日新聞社
アサヒペンタックス・ギャラリー
〔第3巻p. 128，カラー写真〕
アジア航測
芦川孝三郎
熱川バナナワニ園
アダチ龍光
熱海美術館
アトリエ-アルプ
阿部モータース
アメリカ大使館
アメリカ文化センター
新居町教育委員会
荒川 紀一
飯島志津夫
家の光協会フォトサービス
イギリス大使館
池貝鉄工
池田 正弘
池田 陽子
伊佐敷豊夫
石川県美術館
石川島播磨重工業
石島 佑浩
石橋 晴美
石山寺
石渡 幸二
いすゞ自動車
井関農機
板硝子協会

市川 正温
出光興産
出光美術館
伊藤音楽事務所
伊藤忠オート
伊藤ミシン刺繍研究所
伊藤 洋三
井上 浩
井上フォト・プロダクション
井の頭自然公園
茨城県繊維工業指導所
今島 実
今永 清士
今畠中親雄
入江 泰吉
岩井 隆志
岩合 徳光
岩瀬 徹
インドネシア大使館
ウィングス・フォト・エンタープライズ
上杉神社
上田 亜樹
上田 三郎
宇佐美義治
氏家 宏
内田 洋行
内山 晟
内山 洋子
梅村 豊
裏千家今日庵
エアー・フォト・サービス
A & M 社
江尻 光一
N C R
演劇出版社
遠藤 博
遠藤 博之
大江 善匡
大蔵生物研究所

大倉文化財団
大阪商船三井船舶
大阪市立博物館
大阪大学
太田 洋愛
大塚巧芸社
大塚製靴
大辻 清司
大野 忠男
大原美術館
大房 剛
大森 良雄
緒方 一喜
岡山県経済連
岡 義雄
小川信太郎
小川 浩
荻野恒之助
奥田 家山
小口 一郎
小黒企画
小田桂三郎
小田 幸子
小野田セメント
小野 智保
オリオンプレス
海上電機
海中開発技術協会
海中公園センター
花王石鹼
加賀市教育委員会
各務クリスタル
加賀谷晃三
香川県農業試験場
柿岡 時弘
楽譜工房
梶本音楽事務所
片岡 千治
桂 典子
加藤 敏

角川書店
神奈川県立近代美術館
神奈川県立博物館
金子　弘
加納六郎
カメラ東京サービス
硝子繊維協会
川崎敬一
川崎重工業
カワセ楽器店
歓喜光寺
神崎連子
酣燈社
神之田常盛
菊一文字
菊地貞夫
岸田　功
北上　健
北沢右三
北出篤夫
北野天満宮
北村新一路
北村正利
木下陽一
木村伊兵衛
木村勝久
木村憲司
木村コーヒー
木村図芸社
求龍堂
行田哲夫
共同通信社
共同通信フォトサービス
京都国立近代美術館
京都国立博物館
京都市美術館
京都大学
共立出版
極　洋
清棲幸保
麒麟麦酒
近畿日本鉄道
茎田佳寿子
工藤和彦
工藤徳二
久能山東照宮
熊田ちかぼ
倉本勝重
栗林　慧
ぐるーぷ・ぱあめ
榑沼光長
黒川　逍
黒木数恵
黒羽英次
グローブフォト
クワダ
Ｋ＆Ｕ写真企画
ＫＬＭオランダ航空
高台寺
講談社
交通写真工芸社
交通博物館
神戸市立南蛮美術館
神戸製鋼
光楽堂
粉河寺
国際インテリア
国際電信電話
国内事業航空
国立衛生研究所
国立科学博物館
国立劇場資料室
国立西洋美術館
国立予防衛生研究所
五常写植印刷
後藤　富
後藤昌弘
小橋　靖
小橋良夫
小林　勇
小林新一
小林徳夫
小林　弘
小林　宏
小林理学研究所
小檜山賢二
孤蓬庵
小松製作所
小山　洋
近藤誠宏
興福院
斎藤悦雄
斎藤政秋
座右宝プレス
酒井忠博
酒井藤吉
坂口電熱
坂田種苗
坂部護郎
坂本写真研究所
桜井欽一
桜井精密機械製作所
佐々木商店
笹倉機械
佐竹製作所
佐藤勝郎
三機工業
三彩社
蚕糸試験場
サンテレフォト
サントリー
サントリー美術館
J.ウォルター・トンプソン・カンパニー・ジャパン
ジェムデザイン
塩坪弘一郎
塩野直茂
シチズン商事
実森地図製図所
信濃国分寺
シノ・イサム
柴田ソニー硝子
斯文会
至文堂
島添　敏
島津理化器械
清水　清
清水三郎
清水　勝
ジャスコア-フォト-プラン
蛇の目ミシン工業
ジャパン・プレス・サービス
舟艇協会出版部
樹石社
春浦院

商船三井客船
小豆島バス
昭 和 鋼 機
昭和女子大学
白尾 三男
信　松　院
神　照　寺
新日本製鉄
榛葉 蕙子
シンロイヒ
水 産 航 空
水中造形センター
スウェーデン大使館
須貝　稔
杉 浦　宏
スズキフロリスト
鈴木 保二
スズヤ図工社
須田 一政
スタジオエムジー
スタジオ・村井
須田 孫一
スポット商会
スポーツ日本新聞社
住友金属工業
住友金属鉱山
住友重機械工業
相撲博物館
静　嘉　堂
清　雅　堂
西部自動車販売
西 武 鉄 道
世界文化フォト
関口 晃一
石油開発公団
瀬戸内海汽船
全国建築石材工業会
全　生　庵
仙台博物館
善竹 十郎
千藤辰五郎
全日本空輸
装道きもの学院
倉　美　社
ソ　ニ　ー

園田 幸朗
大聖寺　慶
大 成 建 設
大東急記念文庫
大 同 毛 織
太平洋文化研究所
タ イ ム 社
〔第5巻p. 533，ディストーション〕
大 門 精 機
ダイヤモンド・インフォメーション・センター
大 洋 漁 業
田枝 幹宏
高　島　屋
高瀬 紘一
高瀬 武徳
高野 伸二
高野 凱夫
高 橋　照
田口 俊和
竹中工務店
立川 周二
立石 鉄臣
田中 光常
田中 親美
田中 伸子
田中 雅夫
谷村 明美
種村ひろし
田淵 清雄
田 村　仁
千波 俊彦
知 味 飯 店
中央アート
中央ペイント
中国通信社
中　尊　寺
中日写真サービス
朝護孫子寺
千代田区立図書館
辻　征夫
土屋 公幸
鶴 見 精 機
逓信総合博物館
帝都高速度交通営団

電 源 開 発
天理教本月分教会
東　淵　寺
東急プレハブ
東 京 瓦 斯
東京がす資料館
東 京 球 場
東京芸術大学芸術資料館
東京光学機械
東京国際空港
東京国立近代美術館
東京国立博物館
東京芝浦電気
東京消防庁
東 京 書 籍
東京フォト・エージェンシー
東京ブラウス
東京大学宇宙航空研究所
東京大学史料編纂所
東京大学物性研究所
東 京 電 力
東京動物園協会
東京都児童会館
東京都水道局
東京都立アイソトープ総合研究所
東京都立工業技術センター
東京ボウリングセンター
東京理工研究所
道　　明
東 洋 工 研
東 洋 文 庫
東　　レ
同 和 鉱 業
渡嘉敷　裕
徳川黎明会
豊　島　園
殿界 太郎
外 村　晶
戸 村　忠
トヨタ自動車工業
トヨタ自動車販売
内藤 正敏
内藤 靖彦
ナ ガ オ カ
長岡現代美術館

長崎県果樹試験場
中島 将行
長瀬産業
中野 万年
長野県農業試験場
中堀 勝夫
中村 猛男
中谷 吉隆
名古屋大学
名古屋大学プラズマ研究所
夏梅 陸夫
並河 万里
奈良国立博物館
成田 友明
南映スタジオ
西崎 敏男
西沢童宝玩具研究所
西園 礼三
西本願寺
西村 文雄
日米通信社
日刊スポーツ新聞社
日産自動車
日新製糖
ニッタ・フォト・プレス
仁田 三夫
日本アイドルアーチス
日本アスコ
日本板硝子
日本オリベッティ
日本カート協会
日本硝子製品工業会
日本罐詰協会
日本近代文学館
日本原子力研究所
日本原子力船開発事業団
日本原子力発電
日本光学工業
日本鋼管
日本航空
日本航空協会
日本交通公社出版事業部
日本工房
日本国有鉄道
日本色彩研究所
日本写真新聞社
日本新聞社協会
日本水産
日本ゼネラル・アーツ
日本体育協会
日本大学
日本通運
日本鉄鋼連盟
日本電子
日本電信電話公社
日本特殊鋼
日本ビクター
日本フィルハーモニー交響楽団
日本武道館
日本放送協会
日本モンキーセンター
仁和寺
根津美術館
根本 陽子
農林省農業技術研究所
野口プロモーション
野毛山動物園
野田 裕
ノーボスチ通信社
パイオニア
芳賀 孝郎
芳賀日出男
萩原 一好
萩原秀三郎
箱根美術館
橋爪 雅彦
橋本 歓
長谷川 周
畠山記念館
PANA通信
浜田 光一
浜谷 了一
浜野 栄次
林 武彦
林 文雄
林 弥栄
速水 育三
原沢伊世夫
半村 隆嗣
BOAC英国航空
久野光芸社
菱山忠三郎
美術出版社
美創社
日高 醇
日立製作所
日立造船
日向美智子
平田佐奈子
平田 重明
平手 敏夫
広瀬 保吉
広田 尚敬
ファイン・フォト・エイジェンシー
フィルム・ライブラリー協議会
フォト-インターナショナル-エージェンシー
フォト・キシモト
フォト・パック
福島 義一
藤井 旭
藤井有鄰館
富士工芸
富士スピードウエー
富士通
藤本 四八
布施他人夫
二川 幸夫
二口 善雄
ブラザー工業
フランス大使館
ブリヂストンタイヤ
ブリヂストン美術館
古河電気工業
古河電池
ブルースタジオ
文学座文芸部
文化女子大学
文芸春秋
ベトナム大使館
辺見 泰子
便利堂
北辰電機製作所
堀内カラー現像所
堀 栄太郎

堀 商 店
本田技研工業
本間 昭一
毎日新聞社
牧　直視
牧野 晩成
牧野四子吉
増田 彰久
増田 鉦幸
増田恭次郎
益田　一
松井 考爾
松本 征司
マリン・ブックス
丸石自転車
三上 四郎
三木 慶介
御木本真珠店
水野 克彦
三井 造船
三井 物産
三井不動産
三井三池製作所
美 津 濃
三菱機械販売
三菱重工業
三菱 電機
三戸 梅代
緑 書 房
嚢口 正男
三宅　修
宮野 商会
宮本 雅弘
ミ　ワ
武蔵野音楽大学楽器博物館

武藤　昭
村上 久司
明治 神宮
明治 大学
明治大学刑事博物館
メトロポリタン美術館
（ハリスブリスバン　ディック　ファンド　1936）〔第5巻p. 533，フォトグラム〕
森　茂次郎
森　清一
森田拾史郎
森田　勝
諸田 森二
諸星 和夫
野球体育博物館
矢沢 国暎
矢沢 邑一
矢田チエ子
谷津遊園
ヤ ナ セ
矢野　勇
矢萩 和巳
藪内 正幸
藪本宗四郎
山形県園芸試験場
山川ラタン
山路　勇
山下新日本汽船
山階鳥類研究所
山種美術館
山と溪谷社
大和文華館
山本 三郎
雪印 乳業

ユニック
ユニ・フォトス
窯業 協会
横井 洋司
横内　清
横河橋梁製作所
横浜市立大学寄生虫研究室
与呉日出夫
吉岡　勇
吉岡 新一
吉越 立雄
吉沢　章
吉田 千秋
吉田 六郎
米田太三郎
米田 満樹
米道 裕弥
読売映画社
リ オ ン
李　剛
立正佼成会
ルフトハンザドイツ航空
レトリア
礫山美術館
六波羅蜜寺
若葉 商会
ワシントン靴店
早稲田大学演劇博物館
渡辺 昌希
渡辺 義雄
渡辺 可久
ワールド・フォト・サービス

各関係諸官庁

レイアウト　藤田　喬

{
"filename": "NDA0MzkxMDEuemlw",
"filename_decoded": "40439101.zip",
"filesize": 342126633,
"md5": "fb6c07a7457c786f4f4cb5f1933521ea",
"header_md5": "84e4dccc2a81035bb82357b8f92a3a00",
"sha1": "58c1e4cc9babc4054c29012e9602c50f78b80fbf",
"sha256": "48a21701c4a3906d613dfccd5b5d65702af42d2aa26e96cca617d1707e6fdfc6",
"crc32": 3204755278,
"zip_password": "",
"uncompressed_size": 347622974,
"pdg_dir_name": "",
"pdg_main_pages_found": 567,
"pdg_main_pages_max": 567,
"total_pages": 571,
"total_pixels": 3035039730,
"pdg_status_json": {
"id": 491,
"action": "convert",
"params": {},
"result_code": 200,
"result_value": {
"image_stats": "03: 8\r\naa: 108\r\n",
"result_text": "\u8f6c\u6362\u5b8c\u6bd5\u3002",
"conversion_time": "00:00:01",
"image_count": "116/116",
"dpi": "300 / 432 / 305"
},
"status": 2,
"created": 1714693734,
"updated": 1714693749
},
"filenames_to_pdgconvert": [
"000007.pdg",
"000013.pdg",
"000014.pdg",
"000021.pdg",
"000022.pdg",
"000027.pdg",
"000031.pdg",
"000039.pdg",
"000041.pdg",
"000046.pdg",
"000058.pdg",
"000060.pdg",
"000063.pdg",
"000070.pdg",
"000071.pdg",
"000087.pdg",
"000088.pdg",
"000095.pdg",
"000096.pdg",
"000099.pdg",
"000102.pdg",
"000109.pdg",
"000116.pdg",
"000126.pdg",
"000129.pdg",
"000135.pdg",
"000136.pdg",
"000143.pdg",
"000144.pdg",
"000145.pdg",